

千歳市

キウス4遺跡(8)

F・G地区

- 北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 -

第1分冊

- I 調査の概要
- II 後期後葉の遺構と遺物
- III 後期前葉の遺構と遺物
- IV その他の時期の遺構と遺物
- V まとめ
- VI 別表・別図
- VII 自然科学的分析

平成12年度

財団法人 北海道埋蔵文財センター

千歳市

キウス4遺跡(8)

F・G地区

- 北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 -

第1分冊

- I 調査の概要
- II 後期後葉の遺構と遺物
- III 後期前葉の遺構と遺物
- IV その他の時期の遺構と遺物
- V まとめ
- VI 別表・別図
- VII 自然科学的分析

平成12年度

財団法人 北海道埋蔵文財センター



口絵 1 柱穴群全景



口絵 2 - 1 腰をおろした土偶



口絵 2 - 2 赤彩土器

例 言

1. 本書は、平成7・9・10年度に北海道横断自動車道（千歳～夕張）建設工事用地内において、財団法人北海道埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、千歳市キウス4遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本書には、平成7・9年度に調査したF地区計3,984m²、平成10年度に調査したうちのG地区計3,690m²についての調査結果を掲載する。
3. 発掘調査および報告書の作成は、第2調査部第1調査課（平成11年度より第2調査部第2調査課）が行った。
4. 各章・節・項の執筆担当者は、文末の記名によって示した。遺構の図版作成、執筆等は、原則的に、現地で遺構を担当した調査員がそれぞれ分担した。なお、記名は省略したが、各遺構出土遺物の記述は遺物整理担当者が分担した。
5. 整理作業の担当は下記のとおり。
土器：土肥研晶 石器：新家水奈 データ整理：石井淳平 写真：中山昭大
自然遺物：高橋和樹
6. 諸科学的な鑑定・分析・同定等については、下記の方々、機関に依頼し、報告や執筆をお願いした。ご尽力いただいた関係各位に深く感謝申し上げます（順不同・敬称略）。なお、漆製品・赤色顔料分析は『キウス遺跡⁽⁹⁾』に掲載予定である。
石製品原産地同定：藁科哲夫（京都大学原子炉研究所）
漆製品・赤色顔料分析：小林幸雄（北海道開拓記念館）
ツノ貝化石の鑑定：赤松守雄（北海道開拓記念館）
アスファルト分析：小笠原正明（北海道大学）
¹⁴C年代測定：(株)地球科学研究所
動物遺存体：高橋 理（千歳サケのふるさと館）・太子夕佳（札幌国際大学）
炭化植物種子：吉崎昌一（札幌国際大学）・椿坂恭代（北海道大学埋蔵文化財調査室）
7. 石材鑑定は、資料調査課花岡正光の鑑定、指導を得て、新家水奈がとりまとめた。
8. 地形や遺構、遺物の出土地点等の測量は、平成7年度は(株)シン技術コンサルに、平成9・10年度は(株)アジア航測に委託、協力を得て、各調査員がそれぞれ素図を整理、図面を作成した。
9. 遺物・記録類は整理及び報告書作成後、北海道教育委員会が保管する。
10. 調査にあたっては、下記の機関および方々の指導ならびに協力を得た（順不同、敬称略）。
文化庁 岡村道雄・岸本直文、奈良国立文化財研究所 埋蔵文化財センター、北海道教育委員会 大沼忠春・千葉英一・田才雅彦・工藤研治・西脇対名夫・宗像公司、北海道海開拓の村 野村 崇、北海道開拓記念館 赤松守雄・平川善祥・山田悟朗・小林幸雄・右代啓視、北海道大学 林 謙作・菊池俊彦・小杉 康・天野哲也・椿坂恭代・小笠原正明、札幌国際大学 吉崎昌一、札幌医科大学 乗安整而、琉球大学 石田 肇、国立科学博物館 松村博文、国立歴史民俗学博物館 阿部義平・春成秀爾・西本豊弘・設楽博己・辻 誠一郎、札幌大学 木村英明、東京都立大学 山田昌久、東京大学 宇田川 洋・安斎正人・佐藤宏之・熊木俊郎、明治大学 石川日出志・矢島國雄、千歳市埋蔵文化財センター 大谷敏三・田村俊之・豊田宏良・松田淳子・久原直利・遠藤昭浩、千歳サケのふるさと館 高橋 理、恵庭市教育委員会 上屋真一・松谷純一・森 秀之・佐藤幾子・長町章弘、北広島市教育委員会 遠藤龍畝、標津町教育委員会 梶田光明、斜里町 金盛典夫、斜里町教育委員会 松田 功、芦別市星の降る里百

年記念館 長谷山隆博、旭川市教育委員会 斎藤 傑・瀬川拓郎・友田哲弘、深川市教育委員会 葛西智義、小樽市教育委員会 石川直章・青木 誠、余市町教育委員会 乾 芳宏、仁木町教育委員会 嶋井康夫、伊達市教育委員会 大島直行・青野友哉・小島朋夏、名寄市教育委員会 氏家敏文・鈴木邦輝、札幌市埋蔵文化財センター 加藤邦雄・上野秀一・羽賀憲二・仙庭伸久・秋山洋司、江別市教育委員会 直井孝一・園部真幸・野中一宏・稲垣和幸、石狩市教育委員会 石橋孝夫・工藤義衛、苫小牧市教育委員会 佐藤一夫・宮夫靖夫・工藤 肇・赤石慎三、富良野市教育委員会 杉浦重信・澤田 健、帯広百年記念館 北沢 実・山原敏朗、虻田町教育委員会 角田隆志、平取町教育委員会 森岡健治・長田佳宏、八雲町教育委員会 三浦孝一・柴田信一・横山英介、今金町教育委員会 寺崎康史、函館市教育委員会 田原良信・佐藤智雄、七飯町教育委員会 石本省三、南茅部町教育委員会 阿部千春・福田裕二・山口敦・小林 貢、松前町教育委員会 久保 泰、上ノ国町教育委員会 松崎水穂、稚内市教育委員会 内山真澄、オホーツクミュージアムえさし 高島孝宗、紋別市教育委員会 佐藤和利、常呂町教育委員会 武田 修、羅臼町教育委員会 浦坂周一、浦幌町教育委員会 後藤秀彦、奥尻町教育委員会 木村哲郎、釧路市埋蔵文化財調査センター 西 幸隆・松田 猛・石川朗、青森県立郷土館 鈴木克彦、青森県埋蔵文化財調査センター 福田友之、東北町教育委員会 古屋敷則雄、八戸市教育委員会 村木 淳、八戸市博物館 小笠原善範、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 中川重紀・星 雅之、宮古市教育委員会 竹下将男・鎌田祐二、道立アイヌ民族文化研究センター 古原敏弘、東北歴史資料館 小井川和夫・須田良平、東北学院大学 佐川正敏、東北福祉大学 芹澤長介、同志社大学 森 浩一、青山学院大学 田村晃一、市川考古博物館 堀越正行・領塚正浩、日野市教育委員会 藤井和夫、道都短大 鈴木正章、秋田県埋蔵文化財センター 牧野覽美・五十嵐一治、鷹巣町教育委員会 奥山一絵、福島県文化センター 鈴鹿良一・山岸英生、鹿児島県歴史資料センター黎明館 牛ノ濱 修、国学院大学 中村 大、仙台市富沢遺跡保存館 斎野裕彦、宮崎県埋蔵文化財センター 松本茂、甲府市教育委員会 山崎雅恵、中村五郎、浦辻栄治、高橋正勝、宮 宏明、小柳リラコ、乾 哲也

記号等の説明

1. 遺構の表記には、以下の記号を用いた。

P：墓墳・土壇・土坑・柱穴・フラスコ状ピット F：焼土

2. 掲載した実測図等の縮尺は、原則的に以下の通り。

遺構 1：40 基本土層断面 1：40 遺構配置図 1：1000 付図 1：100

土器実測図 復元個体 1：4 土器拓影図 1：4 土製品実測図 1：2

遺構出土の土器拓影図 1：2

石器実測図 剥片石器・石製品 1：2 礫石器 1：3

3. 土層の色調は『新版標準土色帖』（小山・竹原1967）を使用し、カラーチャートの番号を付したものがあある。

4. 土層の記述には、下記の記号・略称を用いた場合がある。

Ta - a：樽前 a 降下軽石堆積物

Ta - c：樽前 c 降下軽石堆積物

En - a：恵庭 a 降下軽石堆積物

軽石・パミス：特に示していない限り恵庭 a 降下軽石堆積物

目次

口絵	
例言	
記号等の説明	
目次	
挿図目次	
表目次	
別表・別図目次	
付図目録	

I 調査の概要

1 調査要項.....	1
2 調査体制.....	1
3 調査の経緯.....	2
4 位置と周辺の地形.....	7
5 周辺の遺跡.....	10
6 調査区の設定.....	14
7 遺構と遺物の分類.....	15
8 基本層序.....	19
9 調査の方法.....	19
(1) 調査の手順と方法の概要.....	19
(2) 盛土遺構の調査.....	20
(3) 建物・柱穴の調査.....	20
(4) 遺構の記録.....	21
(5) 遺物の出土点記録.....	21
10 遺構と遺物の概要.....	21
(1) 遺構.....	21
(2) 遺物.....	23

II 後期後葉の遺構と遺物

1 盛土遺構・SE層.....	25
2 後期後葉の遺物.....	72
(1) 土器.....	72
(2) 土製品.....	200
(3) 石器.....	210
3 建物・柱穴群.....	238
4 土壌墓.....	299
5 フラスコ状ピット.....	308
6 Vb層焼土.....	315

7 遺構出土の遺物.....	321
----------------	-----

III 後期前葉の遺構と遺物

1 土壌.....	338
2 竪穴遺構.....	340
3 遺構出土の遺物.....	346

IV その他の時期の遺構と遺物

1 時期不明の土壌.....	349
2 遺構出土の遺物.....	351
3 ローム質埋土の土壌.....	357
4 包含層出土の遺物(後期後葉以外の遺物)	365

V まとめ

1 遺構.....	371
2 建物柱穴群.....	372
3 出入口をもつ建物・住居について...	374
4 キウス4遺跡の構造と建物の配列について	381
5 土器.....	385

引用参考文献.....	415
-------------	-----

VI 別表・別図

VII 自然科学的分析

1 放射線炭素年代測定結果.....	449
2 キウス4遺跡F・G地区出土玉類の産地分析	451
3 北海道キウス4遺跡(D・F・G地区)から 出土した縄文時代の炭化植物種子...	465
4 千歳市キウス4遺跡D・F・G地区出土動 物遺存体.....	481
5 北海道キウス4遺跡F地区出土アスファ ルトの成分分析.....	502

第2分冊

写真図版

挿図目次

I 調査の概要

図 1	年度別調査区と周辺の地形	5
図 2	キウス 4 遺跡の集落構造（縄文時代後期後葉）	6
図 3	北海道假製五万分の一図「長都（おさつ）」の一部（1896年発行）	8
図 4	「漁（いざり）」の一部（1910年発行）	9
図 5	周辺の遺跡（国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図「長都」を使用）	12
図 6	調査区グリッドの呼称	15
図 7	キウス 4 遺跡土層模式図	19
図 8	建物計測値	20
図 9	遺物の取り上げの基準に用いた輪	21
図 10	キウス 4 遺跡 F・G 地区遺構配置図	22

II 後期後葉の遺構と遺物

図 11	盛土遺構層位模式図	26
図 12	盛土遺構 SE 層位別遺物密度	26
図 13	後期後葉の遺構配置図	27
図 14	盛土遺構遺物密度図	29
図 15	セクションポイントの位置	31
図 16	A - A(F・G 地区境界セクション) (1)	32
図 17	A - A(F・G 地区境界セクション) (2)	33
図 18	B - B(77ラインセクション) (1)	34
図 19	B - B(77ラインセクション) (2)	35
図 20	C - C(平成 7 年度調査区西壁セクションとその延長) (1)	36
図 21	C - C(平成 7 年度調査区西壁セクションとその延長) (2)	37
図 22	D - D(73 ~ 77ラインセクション)	37
図 23	E - E(77 ~ 80ラインセクション)	38
図 24	F - F(盛土縦断セクション)	39
図 25	G - G(盛土横断セクション)	40
図 26	H - H(F 地区南西壁セクション)	41
図 27	盛土平面図 (盛土34層)	42

図 28	盛土平面図 (盛土35層)	43
図 29	盛土35層詳細図	44
図 30	盛土平面図 (盛土 5 層)	45
図 31	盛土 5 層詳細図	46
図 32	盛土平面図 (盛土26層)	47
図 33	盛土26層詳細図 (1)	48
図 34	盛土26層詳細図 (2)	49
図 35	一括土器 9 (盛土26層)	50
図 36	盛土平面図 (盛土17層、27層)	51
図 37	盛土27層詳細図	52
図 38	盛土平面図 (盛土19層、28層)	53
図 39	盛土平面図 (盛土13層、22層)	54
図 40	盛土13層詳細図 (1)	55
図 41	一括土器 6・10 (盛土13層)	56
図 42	盛土13層詳細図 (2)	57
図 43	盛土平面図 (盛土 1 層、23層、33層、36層)	59
図 44	盛土33層詳細図	60
図 45	盛土36層詳細図	61
図 46	盛土平面図 (盛土 3 層、14層、29層)	62
図 47	盛土14層詳細図	63
図 48	盛土 3 層詳細図	64
図 49	盛土平面図 (盛土 4 層、30層)	65
図 50	盛土30層詳細図	66
図 51	盛土 4 層詳細図	67
図 52	盛土平面図 (盛土31層、32層、37層)	68
図 53	盛土31層詳細図	69
図 54	SE 1 層平面図	70
図 55	SE 2 層平面図	71
図 56	遺物出土状況図	72
図 57	器形分類模式図	74
図 58	文様模式図 (1)	76
図 59	文様模式図 (2)	77
図 60	盛土・包含層出土の土器 (1)	97
図 61	盛土・包含層出土の土器 (2)	98
図 62	盛土・包含層出土の土器 (3)	99
図 63	盛土・包含層出土の土器 (4)	100
図 64	盛土・包含層出土の土器 (5)	101

図65	盛土・包含層出土の土器（6）	102	図105	盛土・包含層出土の土器（46）	...	142
図66	盛土・包含層出土の土器（7）	103	図106	盛土・包含層出土の土器（47）	...	143
図67	盛土・包含層出土の土器（8）	104	図107	盛土・包含層出土の土器（48）	...	144
図68	盛土・包含層出土の土器（9）	105	図108	盛土・包含層出土の土器（49）	...	145
図69	盛土・包含層出土の土器（10）	106	図109	盛土・包含層出土の土器（50）	...	146
図70	盛土・包含層出土の土器（11）	107	図110	盛土・包含層出土の土器（51）	...	147
図71	盛土・包含層出土の土器（12）	108	図111	盛土・包含層出土の土器（52）	...	148
図72	盛土・包含層出土の土器（13）	109	図112	盛土・包含層出土の土器（53）	...	149
図73	盛土・包含層出土の土器（14）	110	図113	盛土・包含層出土の土器（54）	...	150
図74	盛土・包含層出土の土器（15）	111	図114	盛土・包含層出土の土器（55）	...	151
図75	盛土・包含層出土の土器（16）	112	図115	盛土・包含層出土の土器（56）	...	152
図76	盛土・包含層出土の土器（17）	113	図116	盛土・包含層出土の土器（57）	...	153
図77	盛土・包含層出土の土器（18）	114	図117	盛土・包含層出土の土器（58）	...	154
図78	盛土・包含層出土の土器（19）	115	図118	盛土・包含層出土の土器（59）	...	155
図79	盛土・包含層出土の土器（20）	116	図119	盛土・包含層出土の土器（60）	...	156
図80	盛土・包含層出土の土器（21）	117	図120	盛土・包含層出土の土器（61）	...	157
図81	盛土・包含層出土の土器（22）	118	図121	盛土・包含層出土の土器（62）	...	158
図82	盛土・包含層出土の土器（23）	119	図122	盛土・包含層出土の土器（63）	...	159
図83	盛土・包含層出土の土器（24）	120	図123	盛土・包含層出土の土器（64）	...	160
図84	盛土・包含層出土の土器（25）	121	図124	盛土・包含層出土の土器（65）	...	161
図85	盛土・包含層出土の土器（26）	122	図125	盛土・包含層出土の土器（66）	...	162
図86	盛土・包含層出土の土器（27）	123	図126	盛土・包含層出土の土器（67）	...	163
図87	盛土・包含層出土の土器（28）	124	図127	盛土・包含層出土の土器（68）	...	164
図88	盛土・包含層出土の土器（29）	125	図128	盛土・包含層出土の土器（69）	...	165
図89	盛土・包含層出土の土器（30）	126	図129	盛土・包含層出土の土器（70）	...	166
図90	盛土・包含層出土の土器（31）	127	図130	盛土・包含層出土の土器（71）	...	167
図91	盛土・包含層出土の土器（32）	128	図131	盛土・包含層出土の土器（72）	...	168
図92	盛土・包含層出土の土器（33）	129	図132	盛土・包含層出土の土器（73）	...	169
図93	盛土・包含層出土の土器（34）	130	図133	盛土・包含層出土の土器（74）	...	170
図94	盛土・包含層出土の土器（35）	131	図134	盛土・包含層出土の土器（75）	...	171
図95	盛土・包含層出土の土器（36）	132	図135	盛土・包含層出土の土器（76）	...	172
図96	盛土・包含層出土の土器（37）	133	図136	盛土・包含層出土の土器（77）	...	173
図97	盛土・包含層出土の土器（38）	134	図137	盛土・包含層出土の土器（78）	...	174
図98	盛土・包含層出土の土器（39）	135	図138	盛土・包含層出土の土器（79）	...	175
図99	盛土・包含層出土の土器（40）	136	図139	盛土・包含層出土の土器（80）	...	176
図100	盛土・包含層出土の土器（41）	...	137	図140	盛土・包含層出土の土器（81）	...	177
図101	盛土・包含層出土の土器（42）	...	138	図141	盛土・包含層出土の土器（82）	...	178
図102	盛土・包含層出土の土器（43）	...	139	図142	盛土・包含層出土の土器（83）	...	179
図103	盛土・包含層出土の土器（44）	...	140	図143	盛土・包含層出土の土器（84）	...	180
図104	盛土・包含層出土の土器（45）	...	141	図144	盛土・包含層出土の土器（85）	...	181

図145	盛土・包含層出土の土器（86）	...	182	図179	盛土・包含層出土の石器（120）	...	229
図146	盛土・包含層出土の土器（87）	...	183	図180	盛土・包含層出土の石器（121）	...	230
図147	盛土・包含層出土の土器（88）	...	184	図181	盛土・包含層出土の石器（122）	...	231
図148	盛土・包含層出土の土器（89）	...	185	図182	建物新旧関係模式図	238
図149	盛土・包含層出土の土器（90）	...	186	図183	因子負荷量グラフ	240
図150	盛土・包含層出土の土器（91）	...	187	図184	因子得点散布図	240
図151	盛土・包含層出土の土器（92）	...	188	図185	建物配置図	241
図152	盛土・包含層出土の土器（93）	...	189	図186	大型建物密集区	242
図153	盛土・包含層出土の土器（94）	...	190	図187	建物1の主軸方位と主柱穴の規模	244
図154	盛土・包含層出土の土器（95）	...	191				
図155	盛土・包含層出土の土器（96）	...	192	図188	建物1（1）	245
図156	盛土・包含層出土の土器（97）	...	193	図189	建物1（2）	246
図157	盛土・包含層出土の土器（98）	...	194	図190	建物2の主軸方位と主柱穴の規模	247
図158	盛土・包含層出土の土器（99）	...	195				
図159	盛土・包含層出土の土器（100）	...	196	図191	建物2（1）	248
図160	盛土・包含層出土の土器（101）	...	197	図192	建物2（2）	249
図161	盛土・包含層出土の土器（102）	...	198	図193	建物3の主軸方位と主柱穴の規模	249
図162	盛土・包含層出土の土器（103）	...	199				
図163	盛土・包含層出土の土製品（104）	202	図194	建物3（1）	250
図164	盛土・包含層出土の土製品（105）	203	図195	建物3（2）	251
図165	盛土・包含層出土の土製品（106）	204	図196	建物4の主軸方位と主柱穴の規模	252
図166	盛土・包含層出土の土製品（107）	205				
図167	盛土・包含層出土の土製品（108）	206	図197	建物4（1）	253
図168	盛土・包含層出土の土製品（109）	207	図198	建物4（2）	254
図169	盛土・包含層出土の石器（110）	...	219	図199	建物5の主軸方位と主柱穴の規模	254
図170	盛土・包含層出土の石器（111）	...	220				
図171	盛土・包含層出土の石器（112）	...	221	図200	建物5（1）	255
図172	盛土・包含層出土の石器（113）	...	222	図201	建物5（2）	256
図173	盛土・包含層出土の石器（114）	...	223	図202	建物6の主軸方位と主柱穴の規模	257
図174	盛土・包含層出土の石器（115）	...	224				
図175	盛土・包含層出土の石器（116）	...	225	図203	建物6（1）	258
図176	盛土・包含層出土の石器（117）	...	226	図204	建物6（2）	259
図177	盛土・包含層出土の石器（118）	...	227	図205	建物7の主軸方位と主柱穴の規模	260
図178	盛土・包含層出土の石器（119）	...	228				
				図206	建物7	261
				図207	建物8の主軸方位と主柱穴の規模	262
				図208	建物8	263
				図209	建物9の主軸方位と主柱穴の規模	264

図210	建物9(1)	265	図240	土墳墓属性グラフ	299
図211	建物9(2)	266	図241	土墳墓配置図	299
図212	建物10	266	図242	土墳墓(1)	303
図213	建物10の主軸方位と主柱穴の規模	267	図243	土墳墓(2)	304
図214	建物11の主軸方位と主柱穴の規模	267	図244	土墳墓(3)	305
図215	建物11	268	図245	土墳墓(4)	306
図216	建物12の主軸方位と主柱穴の規模	269	図246	土墳墓(5)	307
図217	建物12	269	図247	フラスコ状ピット配置図	308
図218	建物13の主軸方位と主柱穴の規模	270	図248	フラスコ状ピットと掘り上げ土	309
図219	建物13	271	図249	フラスコ状ピット(1)	312
図220	建物14の主軸方位と主柱穴の規模	272	図250	フラスコ状ピット(2)	313
図221	建物14	273	図251	フラスコ状ピット(3)	314
図222	建物15の主軸方位と主柱穴の規模	274	図252	Vb層の焼土配置図	315
図223	建物15	275	図253	Vb層の焼土詳細図(1)	317
図224	建物16の主軸方位と主柱穴の規模	276	図254	Vb層の焼土詳細図(2)	318
図225	建物16	277	図255	Vb層の焼土詳細図(3)	319
図226	建物17の主軸方位と主柱穴の規模	278	図256	Vb層の焼土詳細図(4)	320
図227	建物17	279	図257	遺構出土の遺物(1)	326
図228	建物18の主軸方位と主柱穴の規模	279	図258	遺構出土の遺物(2)	327
図229	建物18	280	図259	遺構出土の遺物(3)	328
図230	建物19の主軸方位と主柱穴の規模	281	図260	遺構出土の遺物(4)	329
図231	建物19(1)	282	図261	遺構出土の遺物(5)	330
図232	建物19(2)	283	図262	遺構出土の遺物(6)	331
図233	建物20	284	図263	遺構出土の遺物(7)	332
図234	建物21	285	図264	遺構出土の遺物(8)	333
図235	柱穴(1)	289	図265	遺構出土の遺物(9)	334
図236	柱穴(2)	290	図266	遺構出土の遺物(10)	335
図237	柱穴(3)	291			
図238	柱穴(4)	292	Ⅲ 後期前葉の遺構と遺物		
図239	柱穴(5)	293	図267	後期前葉の遺構配置図	337
			図268	土墳	339
			図269	竪穴遺構(1)	342
			図270	竪穴遺構(2)	343
			図271	竪穴遺構(3)	344
			図272	竪穴遺構(4)	345
			図273	遺構出土の遺物(1)	347
			図274	遺構出土の遺物(2)	348
			Ⅳ その他の時期の遺構と遺物		
			図275	時期不明の遺構配置図	349

図276	土壌 (1)	352	図310	接合状況図 (6)	399
図277	土壌 (2)	353	図311	接合状況図 (7)	400
図278	土壌 (3)	354	図312	接合状況図 (8)	401
図279	遺構出土の遺物	356	図313	接合状況図 (9)	402
図280	ローム質埋土の遺構配置図	357	図314	接合状況図 (10)	403
図281	ローム質埋土の遺構 (1)	360	図315	接合状況図 (11)	404
図282	ローム質埋土の遺構 (2)	361	図316	接合状況図 (12)	405
図283	ローム質埋土の遺構 (3)	362	図317	接合状況図 (13)	406
図284	ローム質埋土の遺構 (4)	363	図318	後期後葉土器編年図	409
図285	ローム質埋土の遺構 (5)	364	図319	美々4遺跡の土器・文様帯変遷図	411
図286	包含層出土の遺物 (1)	366	図320	動植物遺存体出土状況図	414
図287	包含層出土の遺物 (2)	367			
図288	包含層出土の遺物 (3)	368			

V まとめ

図289	柱穴の上端短径と深さの分布	373
図290	主柱穴と壁柱穴の法量散布図	373
図291	柱間距離と柱穴の規模の法量散布図	373
図292	出入り口付き住居時期別分布図	375
図293	出入り口付き住居 (1)	376
図294	出入り口付き住居 (2)	377
図295	出入り口付き住居 (3)	378
図296	出入り口付き住居 (4)	379
図297	建物の方位ヒストグラム	381
図298	キウス4遺跡集落構造	382
図299	建物の配列	383
図300	南北盛土遺構間接合 (出土) 状況図 (1)	386
図301	F・G地区搬入品土器出土状況図	387
図302	類例遺物実測図	389
図303	南北盛土遺構間接合 (出土) 状況図 (2)	391
図304	F・G地区土 (石) 製品出土状況図	392
図305	接合状況図 (1)	393
図306	接合状況図 (2)	394
図307	接合状況図 (3)	396
図308	接合状況図 (4)	397
図309	接合状況図 (5)	398

VII 自然科学的分析

2 玉類産地同定

図1	ヒスイ原産地およびヒスイ製玉類の原材使用分布圏	451
図2	ヒスイ原石の元素比值 Zr/Sr 対 Sr/Fe の分布および分布圏	457
図3	ヒスイ原石の元素比值 Ca/Si 対 Sr/Fe の分布および分布圏	457
図4	ヒスイ原石の元素比值 Na/Si 対 Mg/Si の分布および分布圏	458
図5	キウス4遺跡 F・G地区出土玉類の元素比值 Zr/Sr 対 Sr/Fe の分布	458
図6	キウス4遺跡 F・G地区出土玉類の元素比值 Ca/Si 対 Sr/Fe の分布	458
図7	糸魚川・青海産ヒスイ原石の ESR スペクトル	459
図8	ヒスイ原石の ESR スペクトル (1)	459
図9	ヒスイ原石の ESR スペクトル (2)	459
図10	キウス4遺跡 F・G地区出土玉類の ESR スペクトル	459
図11	キウス4遺跡 F・G地点出土玉 - 1 (64203) の蛍光 X線スペクトル	460
図12	キウス4遺跡 F・G地点出土玉 - 2 (64204) の蛍光 X線スペクトル	460
図13	キウス4遺跡 F・G地点出土玉 - 3	

	(64205)の蛍光X線スペクトル ...	460		(64225)の蛍光X線スペクトル ...	461
図14	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 4		図34	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 24	
	(64206)の蛍光X線スペクトル ...	460		(64226)の蛍光X線スペクトル ...	461
図15	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 5		図35	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 25	
	(64207)の蛍光X線スペクトル ...	460		(64227)の蛍光X線スペクトル ...	462
図16	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 6		図36	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 26	
	(64208)の蛍光X線スペクトル ...	460		(64228)の蛍光X線スペクトル ...	462
図17	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 7		図37	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 27	
	(64209)の蛍光X線スペクトル ...	460		(64229)の蛍光X線スペクトル ...	462
図18	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 8		図38	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 28	
	(64210)の蛍光X線スペクトル ...	460		(64230)の蛍光X線スペクトル ...	462
図19	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 9		図39	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 29	
	(64211)の蛍光X線スペクトル ...	460		(64231)の蛍光X線スペクトル ...	462
図20	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 10		図40	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 30	
	(64212)の蛍光X線スペクトル ...	460		(64232)の蛍光X線スペクトル ...	462
図21	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 11		図41	キウス4遺跡F・G地区出土分析試料	
	(64213)の蛍光X線スペクトル ...	460		464
図22	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 12				
	(64214)の蛍光X線スペクトル ...	460	3	北海道キウス4遺跡(D・F・G地区)から	
図23	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 13			出土した炭化植物種子	
	(64215)の蛍光X線スペクトル ...	461	図版 1	出土コナラ属子葉.....	476
図24	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 14		図版 2	出土コナラ属子葉.....	477
	(64216)の蛍光X線スペクトル ...	461	図版 3	出土クリ属子葉.....	478
図25	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 15		図版 4	479
	(64217)の蛍光X線スペクトル ...	461	図版 5	480
図26	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 16				
	(64218)の蛍光X線スペクトル ...	461	4	千歳市キウス4遺跡D・F・G地区出土動物	
図27	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 17			遺存体	
	(64219)の蛍光X線スペクトル ...	461	図版 1	キウス4遺跡D・F・G地区出土動物	
図28	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 18			遺存体.....	485
	(64220)の蛍光X線スペクトル ...	461			
図29	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 19		5	北海道キウス4遺跡F地区出土アスファルト	
	(64221)の蛍光X線スペクトル ...	461		の成分分析	
図30	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 20		図 1	キウス4遺跡E19609のFIマススペク	
	(64222)の蛍光X線スペクトル ...	461		トル.....	503
図31	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 21				
	(64223)の蛍光X線スペクトル ...	461	表目次		
図32	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 22		I 調査の概要		
	(64224)の蛍光X線スペクトル ...	461	表 1	周辺の遺跡一覧.....	13
図33	キウス4遺跡F・G地点出土玉 - 23				

表 2	検出遺構一覧.....	22	表35	相関行列.....	239
表 3	出土遺物一覧.....	23	表36	柱穴一覧(1).....	294
II 後期後葉の遺構と遺物			表37	柱穴一覧(2).....	295
表 4	盛土遺構一覧.....	25	表38	柱穴一覧(3).....	296
表 5	後期後葉の掲載土器一覧表(1)...	78	表39	柱穴一覧(4).....	297
表 6	後期後葉の掲載土器一覧表(2)...	79	表40	柱穴一覧(5).....	298
表 7	後期後葉の掲載土器一覧表(3)...	80	表41	土墳墓一覧.....	300
表 8	後期後葉の掲載土器一覧表(4)...	81	表42	フラスコ状ピット一覧.....	308
表 9	後期後葉の掲載土器一覧表(5)...	82	表43	Vb層の焼土一覧.....	315
表10	後期後葉の掲載土器一覧表(6)...	83	表44	遺構出土の掲載石器一覧.....	336
表11	後期後葉の掲載土器一覧表(7)...	84	III 後期前葉の遺構と遺物		
表12	後期後葉の掲載土器一覧表(8)...	85	表45	後期前葉の遺構一覧.....	337
表13	後期後葉の掲載土器一覧表(9)...	86	表46	遺構出土の石器一覧.....	348
表14	後期後葉の掲載土器一覧表(10)...	87	IV その他の時期の遺構と遺物		
表15	後期後葉の掲載土器一覧表(11)...	88	表47	その他の時期の遺構一覧.....	355
表16	後期後葉の掲載土器一覧表(12)...	89	表48	遺構出土の掲載石器一覧.....	355
表17	後期後葉の掲載土器一覧表(13)...	90	表49	包含層出土の掲載土器一覧.....	369
表18	後期後葉の掲載土器一覧表(14)...	91	表50	包含層出土の掲載石器一覧.....	369
表19	後期後葉の掲載土器一覧表(15)...	92	V まとめ		
表20	後期後葉の掲載土器一覧表(16)...	93	表51	出入り口付き住居検出遺跡一覧.....	374
表21	後期後葉の掲載土器一覧表(17)...	94	表52	建物の主軸方位(N-W°).....	381
表22	後期後葉の掲載土器一覧表(18)...	95	表53	周堤墓の墓壇の方位の分布.....	381
表23	後期後葉の掲載土器一覧表(19)...	96	VI 自然科学的分析		
表24	後期後葉の掲載土製品一覧(1)...	208	2	キウス4遺跡F・G地区出土玉類の産地分析	
表25	後期後葉の掲載土製品一覧(2)...	209	表 1	キウス4遺跡F・G地区出土玉・石器類 一覧表.....	462
表26	盛土遺構出土の掲載石器一覧(1)	232	表 2 - 1	ヒスイ製遺物の原石産地の判定基準 (1).....	462
表27	盛土遺構出土の掲載石器一覧(2)	233	表 2 - 2	ヒスイ製遺物の原石産地の判定基準 (2).....	462
表28	盛土遺構出土の掲載石器一覧(3)	234	表 3	キウス4遺跡F・G地区出土のヒスイ製 玉類の元素分析値と比量の結果.....	436
表29	盛土遺構出土の掲載石器一覧(4)	235	表 4	キウス4遺跡F・G地区出土のヒスイ製 玉類の原材産地分析結果.....	463
表30	盛土遺構出土の掲載石器一覧(5)	236	表 5 - 1	キウス4遺跡F・G地区出土玉類の 元素比および比重の分析結果... 463	
表31	包含層出土の掲載石器一覧(1)...	236			
表32	包含層出土の掲載石器一覧(2)...	237			
表33	建物一覧.....	238			
表34	固有値と寄与率.....	239			

表 5 - 2	キウス 4 遺跡 F・G 地区出土玉類の 元素比および比重の分析結果...	463
3	北海道キウス 4 遺跡 (D・F・G 地区) から 出土した縄文時代の炭化植物種子	
表 1	キウス 4 遺跡 (D・F・G 地区) 炭化植 物出土表	469 ~ 473
表 2	コナラ属子葉計測.....	474
表 3	クリ属子葉計測.....	475
4	千歳市キウス 4 遺跡 D・F・G 地区出土動物 遺存体	486 ~ 493
	キウス 4 遺跡 D・F・G 地区出土動物遺存 体 (平成 9 年度調査)	494 ~ 501
5	北海道キウス 4 遺跡 F 地区出土アスファル トの成分分析	
表 1	各試料の元素分析結果.....	503
表 2	各試料及び産地の R 値と相対偏差	503

別表19	出土土器重量一覧 (6)	439
別表20	出土土器重量一覧 (7)	440
別図 1	IV群 c 類土器出土分布図.....	441
別図 2	石槍またはナイフ出土分布図.....	441
別図 3	石鏃出土分布図.....	442
別図 4	石錐出土分布図.....	442
別図 5	つまみ付きナイフ出土分布図.....	443
別図 6	スクレイパー出土分布図.....	443
別図 7	R・U フレイク出土分布図	444
別図 8	フレイク類出土分布図.....	444
別図 9	石斧出土分布図.....	445
別図10	すり石出土分布図.....	445
別図11	たたき石出土分布図.....	446
別図12	石皿・台石出土分布図.....	446

付図目録

F・G 地区遺構配置図

別表・別図目次

別表 1	土器一覧.....	421
別表 2	剥片石器一覧.....	422
別表 3	礫石器一覧.....	423
別表 4	その他の遺物一覧.....	424
別表 5	遺構出土遺物一覧 (1)	425
別表 6	遺構出土遺物一覧 (2)	426
別表 7	遺構出土遺物一覧 (3)	427
別表 8	遺構出土遺物一覧 (4)	428
別表 9	遺構出土遺物一覧 (5)	429
別表10	遺構出土遺物一覧 (6)	430
別表11	遺構出土遺物一覧 (7)	431
別表12	遺構出土遺物一覧 (8)	432
別表13	遺構出土遺物一覧 (9)	433
別表14	出土土器重量一覧 (1)	434
別表15	出土土器重量一覧 (2)	435
別表16	出土土器重量一覧 (3)	436
別表17	出土土器重量一覧 (4)	437
別表18	出土土器重量一覧 (5)	438

I 調査の概要

1 調査要項

事業名 : 北海道横断自動車道(千歳~夕張)埋蔵文化財発掘調査
委託者 : 日本道路公団北海道支社
受託者 : 財団法人北海道埋蔵文化財センター
遺跡名 : キウス4遺跡(北海道教育委員会登録番号A-03-92)
所在地 : 千歳市中央208 2ほか
調査面積 : 平成7年度 F地区 364m²
平成9年度 F地区 3,620m²
平成10年度 G地区 3,690m²
調査期間 : 平成7年9月4日~10月25日
(現地調査) 平成9年5月6日~10月28日
平成10年5月6日~10月28日

2 調査体制(各年次当時)

平成7年度	第2調査部	部 長	鬼柳 彰
	北海道教育庁生涯学習部文化課	主 査	千葉 英一(調査指導現地派遣)
	第2調査部第1調査課	文化財保護主事	藤原 秀樹(発掘担当者)
		文化財保護主事	佐藤 剛(発掘担当者)
平成9年度	第2調査部	部 長	鬼柳 彰
	第2調査部第1調査課	課 長	高橋 和樹(発掘担当者)
		主 査	谷島 由貴(発掘担当者)
		文化財保護主事	中山 昭大(発掘担当者)
		文化財保護主事	新家 水奈
		文化財保護主事	佐藤 剛(発掘担当者)
		文化財保護主事	土肥 研晶
		文化財保護主事	芝田 直人
		文化財保護主事	石井 淳平
平成10年度	第2調査部	部 長	鬼柳 彰
	第2調査部第1調査課	課 長	高橋 和樹(発掘担当者)
		主 任	土肥 研晶(発掘担当者)
		文化財保護主事	中山 昭大(発掘担当者)
		文化財保護主事	新家 水奈
		文化財保護主事	芝田 直人
		文化財保護主事	石井 淳平

3 調査の経緯

北海道横断自動車道（千歳～夕張）建設工事に係る埋蔵文化財の保護については、昭和62年10月23日付で日本道路公団札幌建設局長より北海道教育委員会教育長あてに事前協議書が提出され、国指定史跡キウス周堤墓群付近に千歳東インターチェンジが計画されていることから、北海道教育庁生涯学習部文化課により、急ぎインター予定地付近の埋蔵文化財所在確認調査が実施された。これにより、国指定史跡キウス周堤墓群や周知の埋蔵文化財包蔵地キウス7号周堤墓は路線にかからないことが確認された。一方、予定地付近の林地内に4基の新たな周堤墓（現X-a～d）が発見され、これらについては現状保存する方向で合意が得られた。翌昭和63年4～5月には横断道の全線を対象とする所在確認調査が実施され、範囲確認調査を必要とする包蔵地が19か所に及ぶことが確認された。この時点で、千歳東インター予定地付近には、周知の埋蔵文化財包蔵地キウス4遺跡が広く分布しており、広範囲にわたる範囲確認調査が必要と判断された。

キウス4遺跡の範囲確認調査は、平成3年度から平成8年度まで、地権者の同意を得られた地区から順次行われ、後半は発掘調査に並行して進められた。平成3年度から平成4年度に繰り返し実施された範囲確認調査によって、インター予定地には、周堤墓や土壙墓、盛土遺構が広く分布し、台地西端の低湿地にも遺物の包含を確認、キウス4遺跡が国指定史跡キウス周堤墓群にも類似する重要な遺跡であることが予測された。道路公団は、4基の新たな周堤墓（現X-a～d）の保存を図って、ぎりぎりに配置、線形を変更した路線やインターの設計をこのうえ変更することは極めて困難であるとし、文化課との間で、盛土を橋梁に変えるなど、現実的に可能な工法上の変更について、検討が重ねられた。

平成5年度には、文化庁記念物課の指導を得て、遺構や遺物の分布状況を詳細に把握するために、42,000㎡を対象とする試掘調査が計画され、文化課の指示により、（財）北海道埋蔵文化財センターがトレンチ調査を主体に3,380㎡を掘開する事前発掘調査を実施した。その結果、遺跡の西方には住居跡群が、東方には9基の周堤墓（X-1～9）が群在し、中間には住居跡群を挟んで南北に別れた2条の長大な盛土遺構が存在することが確認された。この事前発掘調査の概報は平成6年3月に、本報告『キウス4遺跡』（道埋文センター1997）は平成9年3月に発行されている。

この事前発掘調査結果に基づいて、文化課と道路公団との協議が継続され、管理ヤードをインターチェンジの外へ移したり、盛土工事の一部を橋梁に変えるなどの設計変更により、可能な限りこれら9基の周堤墓の現状保存を図ることが決定された。

なお、この9基の周堤墓のうちには、『千歳遺跡』（千歳市教委1967）に示された8・9・10号の3基の環状土籬が含まれている可能性が高いが、掲載の略図から正確な対応関係を見極めることは難しい。この3基の環状土籬は、その後の耕作によって土籬が消滅し、地表面からの観察ではその位置を特定できなくなり、登載が抹消されたいきさつがある。また、周堤墓と認知された9基のうちX-8・9の2基は、その後の発掘調査で直線状盛土の一部であることが判明して、欠番となった。

横断道建設工事に伴うキウス地区の発掘調査は、平成5年度以降、キウス7遺跡、キウス5遺跡と主に計画路線の東方から進められてきており、キウス4遺跡の本格的な発掘調査の開始は、平成8年度以降と見込まれていた。ところが、インターの工事進行を急ぐ公団側から、平成7年度途中に、とくに急ぐ本線部分の橋脚・橋台工事地区の調査を先行するよう強い要望が出された。これを受けて9・10月の2か月間、文化課から千葉主査が調査指導のため現地派遣されるとともに、キウス5遺跡を調査中の第2調査部第1調査課から、藤原・佐藤の2名を割いて、キウス4遺跡の調査に対処することが決まった。（藤原は平成8年度に文化課へ転出、佐藤も平成10年度に第1調査部

第4調査課へ異動した。)

平成7年度の調査では、橋脚・橋台にかかるA・B・C・D・E・Fの6地区計2,429m²を発掘した。

F地区では北側盛土遺構、土壌墓、焼土群などを調査した。盛土遺構は、北側盛土遺構の東側部分で、多量の遺物や焼土を検出した。

D地区からは、予想外の新たな周堤墓(X-10)の西側半分が発見され、直線状盛土や道跡の一部も確認された。

平成8年度には、第2調査部第3調査課の半分が入って、本線西側インターボックス部分3,930m²(L地区)を発掘し、旧河道や北側の盛土遺構の一部、住居跡1軒、多数の焼土などを調査、平成9年度に報告書『キウス4遺跡(2)』(道埋文センター1998)を刊行した。

平成9年度には、東方のキウス7遺跡、キウス5遺跡の発掘調査がほぼ順調に進むなか、工事面積の大きなインター建設をかかえるキウス4遺跡には、第2調査部第1調査課と第3調査課の2課が投入された。第1調査課では、大きくは2か所、平成7年度調査のC地区とD地区との中間6,140m²(ここもD地区のうちに含め一括してD地区と呼称する)と、F地区西の隣接地3,620m²(ここもF地区のうちに含め一括してF地区と呼称する)を発掘したほか、E地区の南北2か所、ランプウェイを支える橋脚部分(北側をE1、南側をE2地区と呼称する)各110m²を調査した。調査面積は計9,980m²である。

平成9年度調査のF地区では、縄文時代後期後葉の北側盛土遺構、建物・柱穴群、土壌墓、フラスコ状ピット、焼土群、縄文時代後期前葉の竪穴遺構などを調査した。盛土遺構は北側盛土遺構の東半部南寄りを調査し、多量の遺物や焼土を検出した。建物は巨大な支柱穴をもつ4本柱の掘立柱建物と、小形の支柱穴、出入り口、壁柱穴をもつ、小形の建物が存在する。F地区の南半ではこれらの建物を構成する柱穴を1000基以上検出した。

D地区では、周堤墓X-10の残る東半分や、X-11の工事区内にかかる南半部、直線状盛土や道跡などを調査し、新たにやや小型の周堤墓4基(X-12・13・14・15)を検出した。また、工事の境界線にかかる周堤墓X-5の北端部を地層断面で確認、観察したほか、一部だが、X-11の東に隣接する、やや小型の周堤墓X-16の存在を確認した。周堤墓以外にも、単独の墓壇や焼土が少なからず検出されている。

E2地区からは、D地区から延びる道跡の続きが検出されている。

調査第3課では、平成8年度調査のL地区の西隣り4,750m²や(担当課相互の調整不足のため、平成7年度に調査した東端のA地区と重複するが、ここもA地区と呼称する)、ランプウェイ関連のH地区640m²、K地区200m²、そして管理ヤードのI地区5,400m²を発掘調査した。

平成9年度調査のA地区は、大部分が低湿部で、縄文後期の水場遺構のほか、縄文早期末から前期にかけての集落跡が発見されている。H地区とK地区からは、住居・建物跡を構成する多数の柱穴群などが検出されており、I地区では南側の盛土遺構の一部や2基の大型の貯蔵穴、12基の墓壇などが調査され、旧石器時代の細石刃も得られた。これらの成果は、平成10年度発行の報告書『キウス4遺跡(3)』(道埋文センター1999)にまとめられている。

さらに、発掘調査のタイムリミットを迎えた平成10年度には、第2調査部第1調査課と第3調査課、第4調査課の3課が投入され、残る全ての調査区18,940m²を発掘した。

第1調査課では、F地区西隣りのG地区3,690m²や、料金所から国道337号への接続路、調整池、配水管理設工事区などからなるJ地区のうち、J1・3～5地区3,520m²、計7,210m²の調査を分担した。G地区では、北側の盛土遺構の東半部北寄りを調査、F地区から続く多量の遺物や焼土を検

出したほか、盛土より下位の層位でも多数の焼土や、8基の単独の墓壙、縄文後期初頭の竪穴遺構6基などを検出した。J地区では、古い用水路に真中を切られた周堤墓が1基(X-17)、道路下に埋もれて発見された。幸い内部の墓壙は掘り込みが深く、壙底部は破壊を免れていた。この周堤墓についても、保存が可能か否か、文化課と道路公団の間で協議がもたれたが、すでに計画変更の余地はなく、工事区を外れる部分も含めて一部調査区を拡張し、周堤墓の全域を発掘調査した。

第3調査課は、I地区西隣りのR地区4,240㎡と、J2地区1,340㎡の、計5,580㎡を調査した。R地区では、南側の盛土遺構の主体部を掘り、多量の遺物や焼土を検出した。盛土には微細な各種の遺物が含まれるため、全てを袋詰めにした後、水洗選別作業を実施することになるが、量が龐大で、水洗選別作業の大半は平成11年度に繰越しとなった。盛土遺構の下には低湿部が続き、少なからぬ木製品が良好に遺存していた。R地区の西には、後述するQ地区に連なる建物や柱穴群が検出されている。これらの調査成果のうち、盛土遺構下で検出された、建物、柱穴などは平成11年度発行の報告書、『キウス4遺跡(6)』(道埋文センター1999)にまとめられている。

J2地区では、縄文早期から擦文時代にいたるまでの遺物が散在し、80か所に及ぶ焼土が検出されたほか、近代に属するらしい掘建柱の建物跡があり、付近からは寛永通宝が採集されている。J2地区の発掘は第3調査課が担当したが、その調査結果は、J1・3～5地区ともどもJ地区として一括して第1調査課が編集し、平成11年度発行の『キウス4遺跡(5)』(道埋文センター1999)報告書に掲載した。

第4調査課は、R地区西のQ地区3,920㎡と、G地区西のA2地区2,230㎡の、計6,150㎡を調査した。Q地区では、耕作のため表層土の大部分が失われて柱穴のみの確認だが、30軒以上の住居・建物跡が検出されたほか、土壙墓8基、大型の貯蔵穴6基、多数の土壙や焼土などが調査されている。

A2地区は、平成9年度調査のA地区と一体の低湿地で、上層の旧河道からはアイヌ文化期の木製品などが、下層の低位段丘面にはA地区から続く縄文早期末から前期にかけての集落跡があり、木製品や多量の流木などが見られた。A2地区の成果は、平成10年度発行の報告書『キウス4遺跡(4)』(道埋文センター1999)として刊行されており、Q地区の成果は平成12年度発行の報告書『キウス4遺跡(7)』(道埋文センター2001)。

本報告書には、主に北側盛土遺構、建物・柱穴群の分布域を中心とする地区の調査結果をまとめて掲載する。具体的な対象地区は、平成7年度に第2調査部第1調査課が文化課千葉主査の調査指導を得て実施した、橋脚・橋台工事に係るA～Fの6地区のうちF地区、平成9年度に第1調査課が調査したD・E1・E2・F地区のうちF地区、そして平成10年度に第1調査課が調査したG・J1・J3～5地区のうちF地区である。

(石井淳平)



図1 年度別調査区と周辺の地形

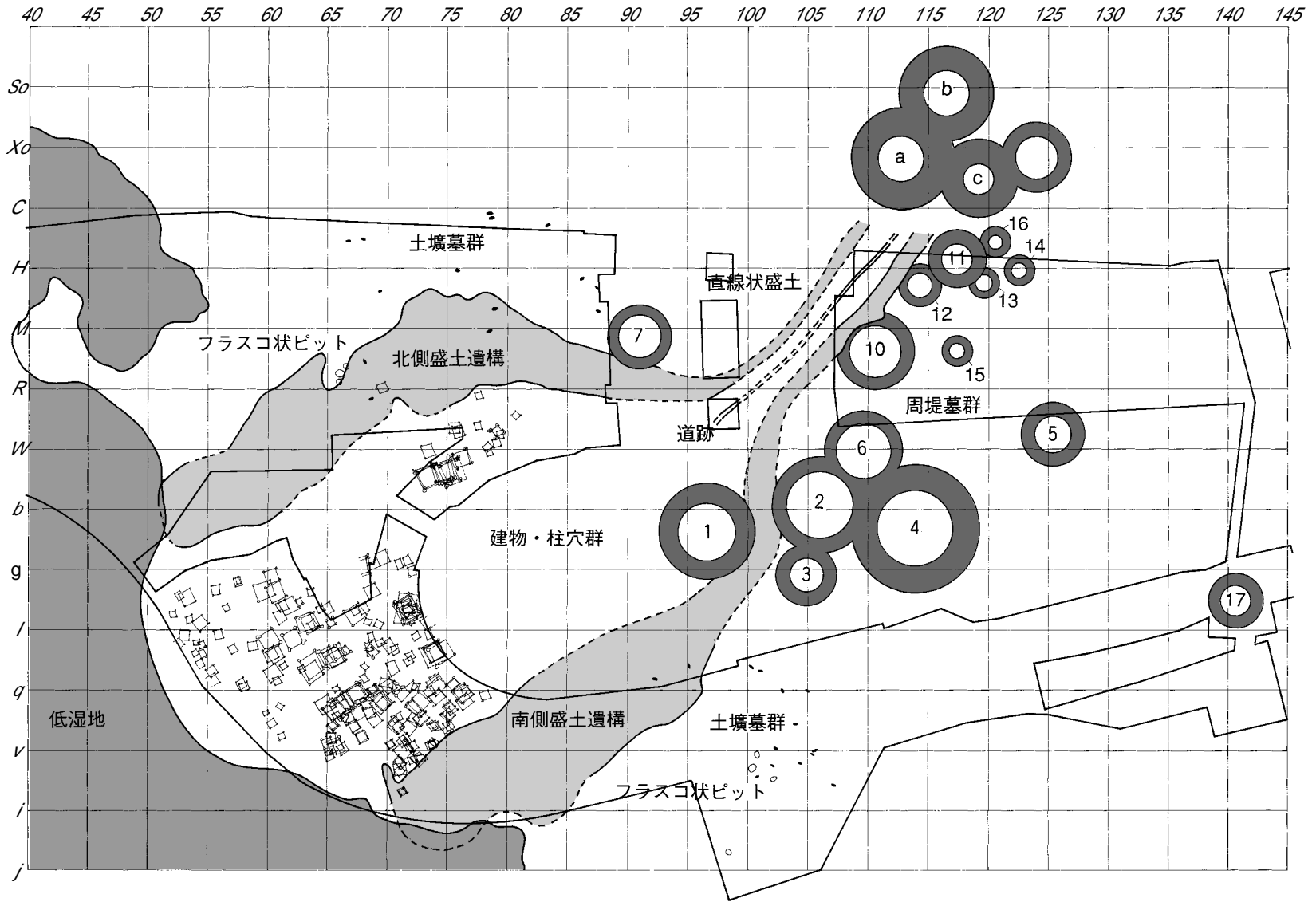


図2 キウス4遺跡の集落構造（縄文時代後期後葉）

4 位置と周辺の地形

北海道の空の玄関である新千歳空港。ここから北へ12kmほど向かうと、真新しい高速道路に行き当たる。千歳市から道東方面へ伸びる北海道横断自動車道である。そこは、千歳市と長沼町を結んで南北に走る国道337号線との交差点で、インターチェンジが設けられている。キウス4遺跡は、このインターチェンジに当たる部分で、国道の西側に南北約300m、東西約400mの範囲で広がる。「千歳市中央」の字名をもつが、千歳市街からは約8km離れている。

北海道の中西部には、日本海と太平洋を結ぶ標高25m以下の低地があり、「石狩低地帯」あるいは「札幌苫小牧低地帯」と呼ばれている。この低地帯の東側には、北海道中部を南北に走る夕張山地があり、西側にはその前山として馬追丘陵がある。この丘陵は千歳市、空知地方の長沼町、由仁町、胆振地方の追分町、早来町の南北にまたがり、標高は150m前後、延長30mにおよぶ。丘陵の最高点は馬追山(273m)である。丘陵西側の斜面と扇状地(標高10~50m)には、縄文時代の多くの遺跡が分布する。丘陵の西斜面を刻む小河川のひとつにキウス川があり、その兩岸の段丘には縄文時代早期から近世アイヌ期にかけての広範な時期のキウス遺跡群が立地する。キウス4遺跡の標高は8~18m、西へ向かって低くなる緩斜面となっている。

馬追丘陵の西側は、現在では大部分が水田や畑地として利用されている。だが、戦前までは長都沼(オサツトー)、馬追沼(マオイトー)をはじめとする大小の沼があり、豊富な水量を湛えていた。また、支笏湖を水源とする千歳川、夕張山地から流れ出る夕張川、嶮淵川などは屢々氾濫したため、溢れ出た水が流入して住民は長い間水害に苦しめられていた。しかし、昭和26~44年の国営灌漑排水事業により長都沼、馬追沼一帯の埋立て、河川の切り替えにより耕地が造成され現在のような姿に成っている。

(石井淳平)

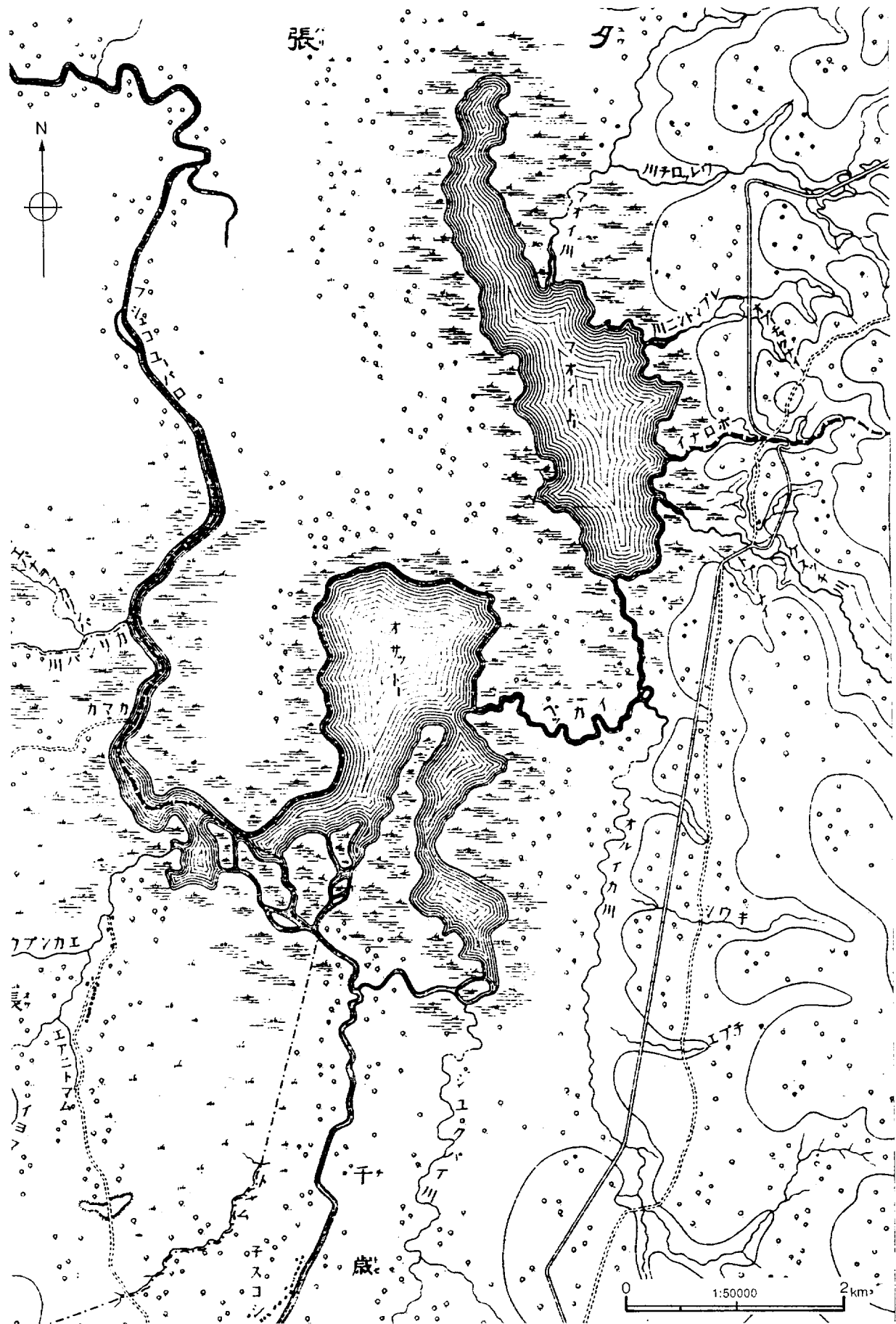


図3 北海道假製五万分の一図「長都（おさつ）」の一部（1896年発行）

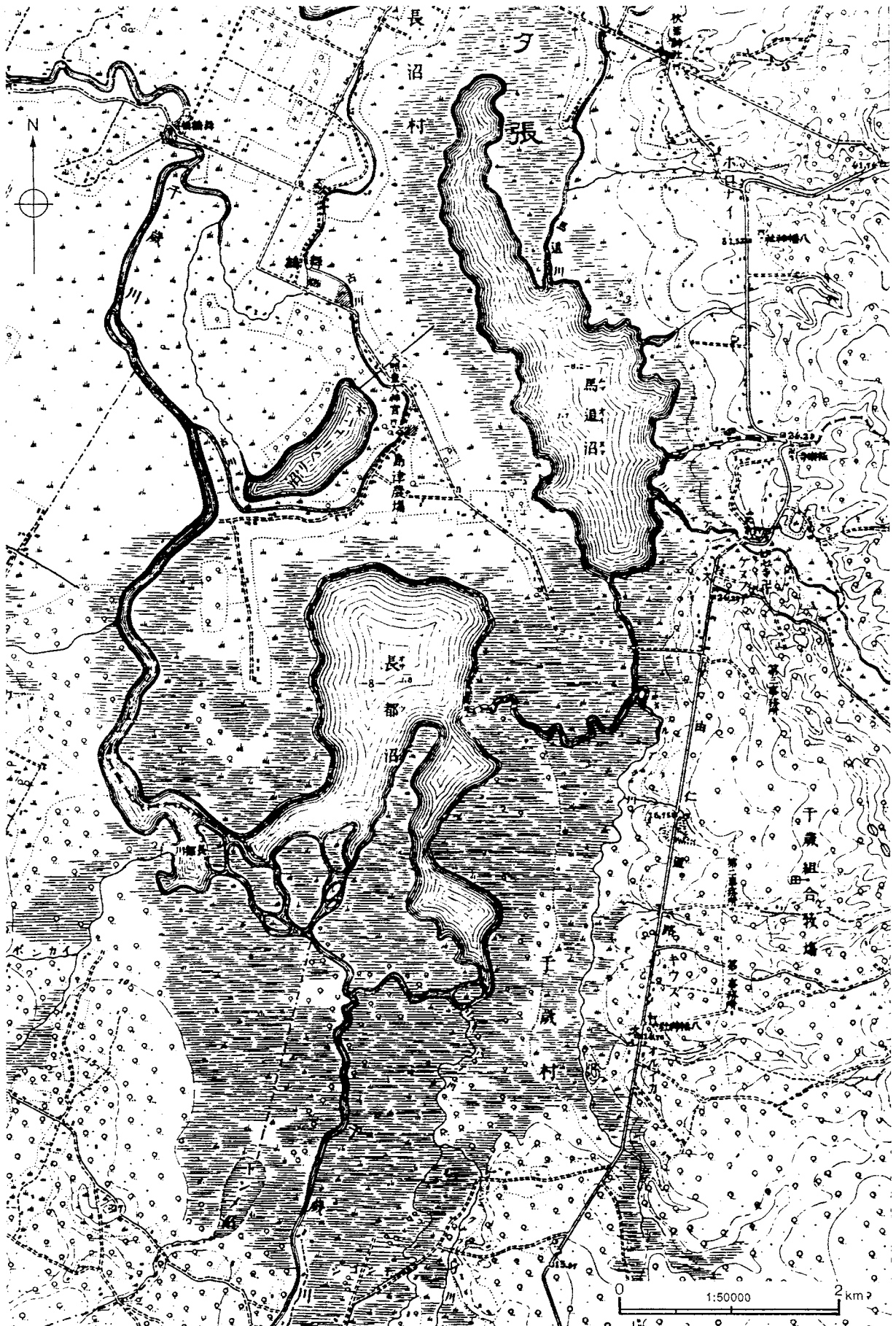


図4 「漁(いざり)」の一部(1910年発行)

5 周辺の遺跡

図5は、北海道教育委員会の埋蔵文化財包蔵地カードと、千歳市教育委員会作成の『千歳市埋蔵文化財包蔵地分布図』(1996)をもとにしたキウス4遺跡周辺の遺跡分布図である。これらの遺跡の時代・時期の特色は、発掘調査等によりその内容が比較的明らかなものをもとに記述すると、次のようになる。

<旧石器時代> 丸子山遺跡で恵庭 a 降下軽石層 (En - a) の上・下から遺物が出土している。下層は約2万年前と推定できる石器群で、黒曜石製のスクレイパーのほかには定形的なものに乏しい。上層は細石刃を伴う石器群で、黒曜石と頁岩を素材とする。また、キウス5遺跡 C 地区・キウス7遺跡でも細石刃期の石器が出土している。

<縄文時代早期> キウス5遺跡 A 地区から遺物が多量に出土している。前葉のものは、暁式土器、貝殻条痕文土器である。後葉のものは、東釧路Ⅲ式土器、コッタロ式土器が多い。住居跡は、暁式期のものがキウス川上流の段丘上で、東釧路Ⅱ式期・コッタロ式期のものが下流の段丘上で検出されている。また、キウス7遺跡でもコッタロ式期の住居跡・土壇墓が見つかった。早期末葉は、キウス4遺跡で中茶路式期・東釧路Ⅳ式期の遺物が出土しており、A地区(平成9年度)とA2地区では住居跡が検出されている。

<縄文時代前期> キウス5遺跡 B 地区には、キウス川旧河道沿いの斜面上に縄文式期の集落跡があり、石鏃・石錐・つまみ付きナイフ・石斧などが副葬された土壇墓も検出された。キウス4遺跡 A 地区(平成9年度)・A2地区でも縄文式期の集落跡が見つかっており、ほかに花積下層式・静内中野式に相当する時期の土器・木製品も出土している。

<縄文時代中期> 丸子山遺跡で、天神山式期あるいは萩ヶ岡2・3式期の環壕が見つかった。また、同遺跡では北筒式期の住居跡が検出された。キウス5遺跡では、B地区に北筒式期の集落、C地区に柏木川式期の集落が確認されている。キウス4遺跡・キウス7遺跡でも柏木川式期の住居跡が検出されている。

<縄文時代後期> 前葉は余市式・タブコブ式の住居跡や土壇が、キウス4遺跡・キウス5遺跡 A 地区・キウス7遺跡・丸子山遺跡で見つかった。キウス4遺跡 Q 地区では、入江式とタブコブ式が共伴して出土する土壇が検出された。中葉の手稲式期・ホッケマ式期は、キウス5遺跡 A 地区やキウス7遺跡で住居跡・埋甕などが確認されている。キウス4遺跡では、手稲式期の壺形土器が埋納された土壇が検出された。後葉の堂林式期には周堤墓が多数構築された。国指定史跡キウス周堤墓群をはじめキウス4遺跡、丸子山遺跡などで計32基が検出されている。未確認ではあるが、キウス2遺跡にも周堤墓が存在する可能性がある。キウス4遺跡では、周堤墓のほか、同時期の住居跡・掘立柱建物跡、南北の盛土遺構、道跡、水場遺構、低湿地などが確認されており、大量の遺物が出土している(図2)。また、キウス1遺跡でも、住居跡や盛土と考えられる遺構が検出されており、キウス周堤墓群に対応する集落の存在が想定される。

<縄文時代晩期>

キウス5遺跡 A 地区・キウス7遺跡で、大洞 A 古期の土壇墓が多数確認されている。キウス5遺跡 A 地区では、石鏃が覆土中に撒かれた土壇墓や、多量の炭化材や割られた矢柄研磨器が出土した火葬墓、大洞 A 式相当の壺が置かれた火葬墓など多様な葬制が見られる。

<続縄文時代> キウス5遺跡 A 地区・キウス7遺跡で、大狩部式期の住居跡や後北 C₂ - D 式期の土壇などが検出されている。キウス4遺跡 A2 地区では、旧河道から恵山式土器と木製品が出土した。また、丸子山遺跡でも恵山系の土器が少量出土している。

< 擦文時代 > 丸子山遺跡では、8世紀頃と推定される住居跡や建物跡、土壌などが確認された。キウス5遺跡A地区では、境外から鍬先の出土した墓壙が検出された。キウス5遺跡C地区には、中央部に炉のある平地住居があり、その南側の山林中には擦文時代の住居跡と考えられる凹みが複数見られ、土器片が散乱している。

< アイヌ文化期 > オサツトー1遺跡では、内耳鉄鍋、斧、刀子、キセルなどの副葬された墓壙が見つっている。キウス5遺跡A地区には太刀の副葬された墓壙がある。キウス7遺跡では沢づたいの道跡と柱跡群が検出され、ガラス玉も出土している。キウス4遺跡A2地区では旧河道より多数の木製品が出土した。トブシナイ1遺跡では釘状の鉄製品が採集されている。ケネフチのチャシは面崖式で一条の堀を有する。

以上のように時期別に概観した遺跡を、人々の生活範囲という平面でとらえてみる。遺跡の分布は、①丸子山古砂丘、②キウス川流域、③ケネフチ川流域に大別できる。このうち、最近の発掘調査により遺跡の状況が比較的明らかなのは、①・②の地域であり、③は不明な部分が多い。

旧石器時代は、①にその中心があったようであるが、②の付近まで活動の範囲が及んでいた形跡が見られる。縄文時代早期は、前半が②のうちキウス川上流に中心があり、後半から末葉にかけて次第に下流（キウス4遺跡側）へ拡大していくようである。前期前半は、②のキウス川右岸の段丘上に2か所集落が確認されており、このころから小規模な集落が何か所かに分かれて存在するようになったらしい。中期中葉から後葉にかけて、①では環壕が掘られた後に集落が営まれ、②でも同時期の集落が見られる。

後期前葉から中葉は、②の各地で集落が成立する。後葉になると、①・②の地域で周堤墓が構築される。特に②では、キウス川下流（キウス4遺跡）から北側のモウシ川の川筋（キウス周堤墓群・キウス1遺跡）へ中心が移動していくようである。晩期前葉から中葉にかけては、キウス付近で人々の活動の痕跡は未だ確認されていない。晩期後葉には、②のキウス川段丘上に墓域が見られるが、集落跡などは確認されていない。

続縄文時代は、②で住居跡・墓壙などが確認されており、この付近が中心であった可能性が高い。擦文時代には、①で8世紀ごろの集落が確認されたほか、②のキウス川段丘上にも集落が存在していたと考えられる。アイヌ文化期になると、ケネフチのチャシが営まれたように、人々の生活範囲は広く①・②・③の各地に及ぶようになる。

（石井淳平）

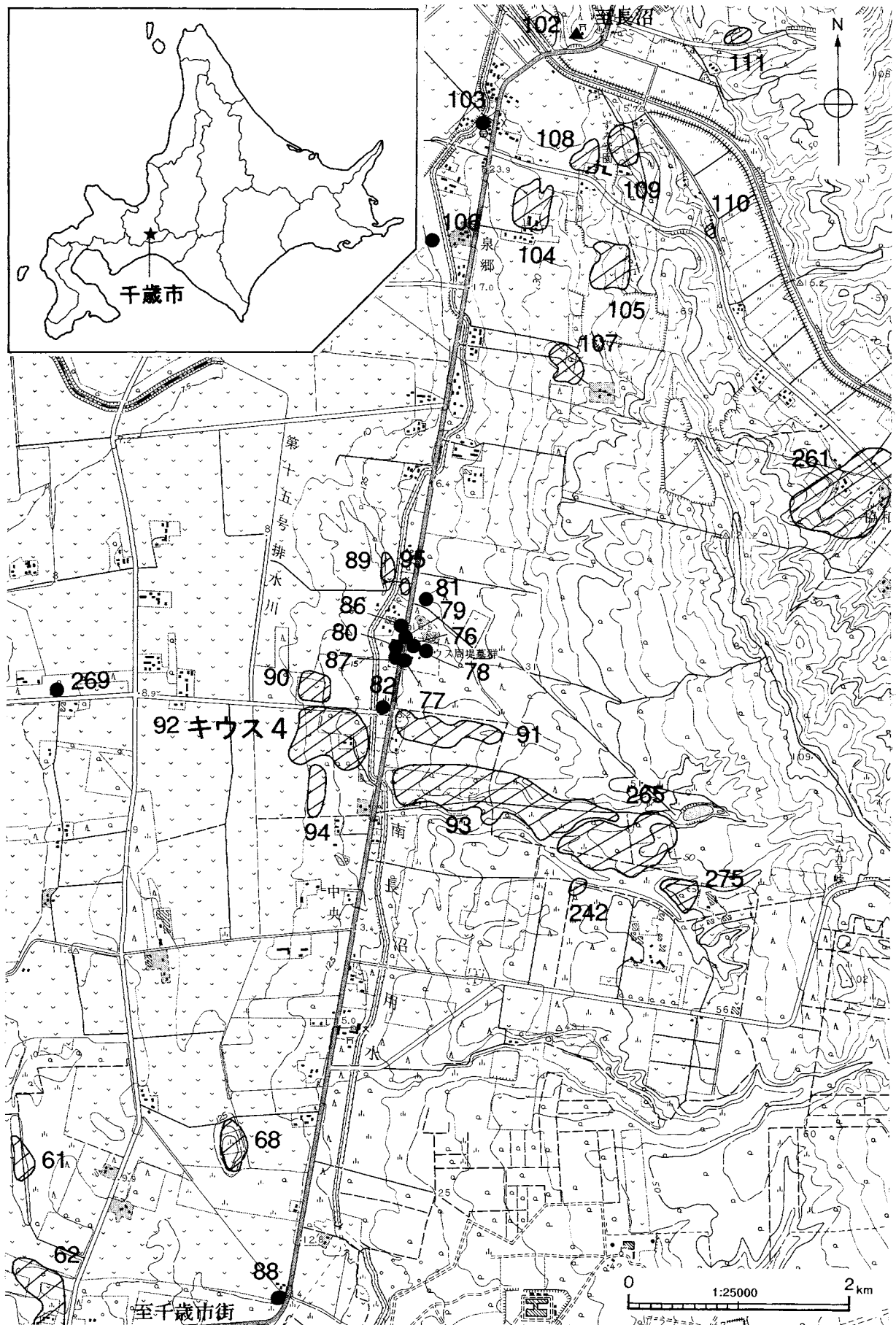


図5 周辺の遺跡（国土地理院発行2万5千分の1地形図「長都」を使用）

表1 周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	種別	時期	発掘調査歴等	文献No.等
61	アンカリトー1	遺物包含地	縄文晩期	削平。	
62	アンカリトー2	集落跡	縄文前・後・晩期、続縄文、擦文	竪穴住居跡が1軒みられた。一部削平。	
68	丸子山	周堤墓2基、集落跡・環壕	縄文後期	1990～1993千歳市教委。消滅。旧称丸子山。	38
76	キウス1号周堤墓	周堤墓	縄文後期	1964大場利夫・石川徹。1978測量調査。1979国指定史跡。	3～5・8・9
77	キウス2号周堤墓	周堤墓	縄文後期	1965大場利夫・石川徹。1978測量調査。1979国指定史跡。	3～5・8・9・129
78	キウス3号周堤墓	周堤墓	縄文後期	1978測量調査。1979国指定史跡。	3～5・8・9
79	キウス4号周堤墓	周堤墓	縄文後期	1965石川徹外縁部。1978測量調査。1979国指定史跡。	1・3～5・8・9
80	キウス5号周堤墓	周堤墓	縄文後期	1978測量調査。1979国指定史跡。	4・5・8・9
81	キウス6号周堤墓	周堤墓	縄文後期	1978測量調査。1979国指定史跡。	4・5・8・9
82	キウス7号周堤墓	周堤墓	縄文後期	1950頃 河野広道。	8・9・12
(83)	キウス8号周堤墓	周堤墓	縄文後期	全壊？1987道教委試掘確認により1988登録抹消。キウス4内に存在か？	3・8
(84)	キウス9号周堤墓	周堤墓	縄文後期	全壊？1987道教委試掘確認により1988登録抹消。キウス4のX-6か？	3・8
(85)	キウス10号周堤墓	周堤墓	縄文後期	全壊？1987道教委試掘確認により1988登録抹消。キウス4のX-4か？	3・8
86	キウス11号周堤墓	周堤墓	縄文後期	1978測量調査。1979国指定史跡。	1・3
87	キウス12号周堤墓	周堤墓	縄文後期	1978測量調査。1979国指定史跡。	1・3
88	キウス13号周堤墓	周堤墓	縄文後期		1・3
89	キウス1	集落跡	縄文後・晩期	1964大場利夫・石川徹。	8
90	キウス2	周堤墓5～6基	縄文後期	航空写真のソイルマークによる推定。	
91	キウス3	遺物包含地	縄文後期		
92	キウス4	周堤墓20基・集落跡・盛土ほか	縄文早・前・後・晩期 擦文、アイヌ	1993・1995～1999(財)道埋文センター(整理中)。1995千歳市教委。	10・18・20・29・31・35・36
93	キウス5	集落跡・墓 低湿地ほか	旧石器、縄文早～晩期、続縄文、擦文、アイヌ	1994～1998(財)道埋文センター。1996～1997千歳市教委。	11・22・24・26・27・32・33・37
94	キウス川	遺物包含地	縄文後期		
95	中央目黒	遺物包含地	縄文後・晩期		
102	ケネフチのチャシ	チャシ跡	アイヌ	1935原田二郎・近藤義雄。	2・129
103	トブシナイ1	遺物包含地	アイヌ		
104	トブシナイ2	遺物包含地	縄文中・後期		
105	トブシナイ3	遺物包含地	縄文後・晩期	1922頃 河野常吉・福元寅太郎 遺物採集か？ 一部削平。	6
106	イカベツ1	遺物包含地	続縄文		
107	イカベツ2	遺物包含地	縄文前・後・晩期、擦文		
108	ケネフチ1	遺物包含地	縄文早期		
109	ケネフチ2	遺物包含地	縄文後期		
110	ケネフチ3	遺物包含地	縄文早・晩期、擦文		
111	ケネフチ4	遺物包含地	縄文中期		
242	キウス6	遺物包含地	縄文晩期		
261	ケネフチ6	集落跡	縄文早期、擦文		
265	キウス7	集落跡・墓ほか	旧石器、縄文早・中～晩期、続縄文、擦文、アイヌ	1993～1998(財)道埋文センター。	21・22・25・28・34・37
269	オサツトー1	遺物包含地・墓	縄文早・中・後・晩期、アイヌ	1993(財)道埋文センター。	21
275	キウス8	遺物包含地	縄文中・晩期	一部開削。	

* 遺跡No. は、北海道教育委員会の埋蔵文化財包蔵地カード掲載番号による。

* 遺跡の位置は、千歳市教育委員会 1996 『千歳市埋蔵文化財包蔵地分布図による』

6 調査区の設定

(1) 調査区の設定

キウス4遺跡の発掘調査区は、平成7年度に、北海道横断自動車道(千歳~夕張)のセンター杭 STA128と STA129とを結ぶほぼ東-西の直線を基軸に、4×4mメッシュの区画として設定された。この基軸をMラインと呼称し、Mラインに平行する4m毎のラインには、北から南へそれぞれ大文字のアルファベットを付して順に表記した。これと直交する北-南の方向には、STA128を100、STA129を125とする4m間隔のラインを設定、西から東へ順にそれぞれアラビア数字を付して表示した。このアラビア数字で示す直線は、真北に対して19°03'20"東偏する。

グリッド名は、北西の交点におけるアルファベットとアラビア数字とによって表記し、さらに4×4mメッシュを細分して2×2メッシュに4分割するときは、北西から反時計回りに小文字のアルファベット a・b・c・d を付加して、小グリッドを表示した。

基準杭の平面直角座標系第 1 系による座標値は、以下のとおりである。

STA128 (M - 100) X = - 124 317 2305 Y = - 43 659 0574

STA129 (M - 125) X = - 124 346 6038 Y = - 43 563 4703

(石井淳平)

(2) 調査地区の区分

各年次の発掘調査の対象地区は、工事の優先順位や投入可能な調査体制によって、そのつど決定されたため、結果的には図1に示すように、大小さまざまな形状に分割された。分割された各調査地区内でも、さらに施工順位や工期等によって、部分的に調査を先行させる地区があったり、また、工事の設計や施工計画そのものにも細かな変更があって、年次途中で調査地区に若干の変更や追加があったりもした。このような制約下で、例えばF地区の調査が1995年と1997年に分割して行われ、低湿地に続く北側盛土遺構西側は1996年には第2調査部第3調査課が調査を行っている。この間、調査員の交替もあるなど、状況がやや錯綜し、必ずしも相互の連絡調整や引継ぎがうまくいかなかったところもある。

本報告書では、F・G地区の調査結果をまとめて報告する。

(石井淳平)

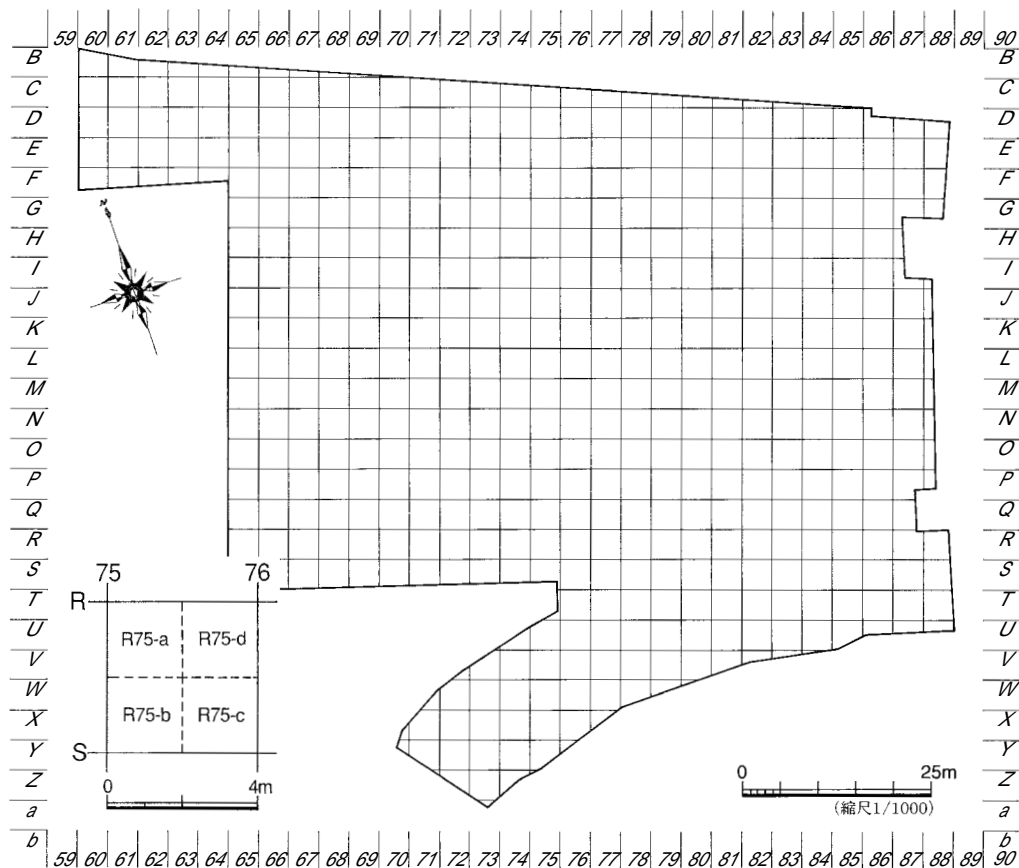


図6 調査区グリッドの呼称

7 遺構と遺物の分類

(1) 遺構

報告書に記載した遺構の略号はP、SP、Fを用いた。P、SPは人為的な掘り込みに対して用いた略号で、直径と深さにより区別した。直径が20cm、深さ50cmを一応の目安とし、それ以上をP、それ以下をSPとした。なお、現場では全てPを用いていたが、他の調査区との名称の統一を図ったため、名称を変更してある。Fは焼土である。また、盛土遺構は平成8年度のL地区で調査されたN盛土の続きという意味から、現場段階では頭にNをつけて「N14層」のように呼称していた。しかし、今回調査したF・G地区では、耕作による攪乱が激しく、層の連続性を確認することが困難であったため、N盛土をブロックとして認識することができなかった。そのため、報告ではNを盛土と呼び替え「盛土14層」のように改めた。

盛土遺構

En - a ローム起源の黄褐色土、VI層土起源の暗褐色土、Vb層起源の黒褐色土を主体とし、焼土や多量の遺物を含む土層を人為的な廃棄行為による堆積層と判断し、このように呼称した。近年全国で調査例の増えている盛土遺構と同様に、廃棄場、祭祀場、場の区画などの機能を持つものと理解している。遺物包含層や後述するSE層とは、上記の機能を満たす場としての意識をどの程度感じるかにより区別した。相対的な区分である。

SE層

南北の盛土遺構に挟まれた空間に分布する、遺物を多量に含む暗褐色土、黒褐色土の堆積層である。人為的な堆積層の可能性があると判断し、通常の遺物包含層とは区別する意味でこのように呼称した。盛土遺構と区別した理由は、盛土遺構は廃棄場というニュアンスで使用されることが多いのに対し、SE層は積極的な廃棄行為ではなく放置、遺棄といった行為の結果、形成された可能性が高いと判断したことによる。盛土遺構との性格の違いを反映させる目的で呼び分けた。平成10年度調査のQ・R地区でも検出されており、同じくSE層と呼称している。

建物

上屋構造の存在を想定した遺構をこのように呼称した。住居という名称を用いなかったのは、今回の調査で検出した一連の建物の中には居住するための施設とは考えにくい大型の建物が含まれているためである。これらの大型の建物と一般的な居住施設との境界を明瞭にすることができなかったため、上屋構造の存在を想定した遺構に全てこの名称を用いた。

柱穴

平面形が円形または楕円形で、埋め戻しの痕跡のある遺構を柱穴と呼称した。墓墳とは抜き取り痕、柱痕の有無、平面形の違いで区別した。平面形は長幅比がおよそ1.5以下のものを柱穴と認定した。

墓墳

平面形が円形または楕円形で、埋め戻しの痕跡のある遺構を墓墳と呼称した。柱穴とは抜き取り痕、柱痕の有無、平面形の違いで区別した。平面形は長幅比がおよそ1.5以上のものを墓墳と認定した。

フラスコ状ピット

平面形が円形で、直径2.0m前後で、下端の直径が上端のそれを上回り、断面形がフラスコ状になる土壌をフラスコ状ピットと呼称した。

焼土

一定の範囲をもつ赤褐色、暗赤褐色などに変色した土壌のうち、変色が被熱に起因すると判断したものをこのように呼称した。その場で焼成されたものも、廃棄されたものも含む。その場で焼成された焼土と、廃棄された焼土との区別は、均質な土質で、上部ほど赤みが強く下部に行くに従い漸移的に周囲の土層の色に同化していくものをその場で焼成された焼土、変色した土壌がブロック状に混ざり合い、周囲の土層との境界が明瞭であるものを廃棄された焼土とした。

竪穴遺構

規模が大きく、浅い掘り込みをこのように呼称した。土壌とは主に規模、深さで区別し、竪穴住居の竪穴部分になりうるものを竪穴遺構とした。

土壌

人為的な掘り込みのうち、用途不明で形態的な特徴のないもの。

ローム質埋土の土壌

Ⅷ層上面で検出した円形の深い穴で、埋土が純粋な En - a ロームであることからこのように呼称した。この穴については、人為的な掘り込みか否かは不明のまま、土壌という名称を用いている。

(石井淳平)

(2) 土器

土器は縄文時代早期に属する資料をⅠ群とし、以下順次前期、中期、後期、晩期をⅡ群、Ⅲ群、Ⅳ群、Ⅴ群とした。続縄文時代のものはⅥ群、擦文時代のものはⅦ群である。

Ⅰ群 縄文時代早期に属する土器。

a類 : 貝殻腹縁圧痕文、条痕文が施された土器群。

a - 1類 : 物見台式、暁式に相当するもの。

a - 2類 : 虎杖浜式、沼尻式に相当するもの。

b類 縄文、撚糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、等が施された土器群。

b - 1類 : 東釧路Ⅲ式に相当するもの。

b - 2類 : コッタ口式に相当するもの。

b - 3類 : 中茶路式に相当するもの。

b - 4類 : 東釧路Ⅳ式に相当するもの。

Ⅱ群 縄文時代前期に属する土器。

a類 : 胎土に繊維を含み、厚手で縄文の施された丸底、尖底の土器群。

a - 1類 : 網文式土器に相当するもの。

a - 2類 : 春日町式、静内中野式に相当するもの。

Ⅲ b類 : 円筒土器下層式、植苗式、大麻Ⅴ式に相当する土器群。

群 縄文時代中期に属する土器。

a類 : 円筒土器上層式、萩ヶ岡1・2式に相当するもの。

b類 : 天神山式、柏木川式、北筒式に相当するもの。

b - 1類 : 天神山式に相当するもの。

b - 2類 : 柏木川式に相当するもの。

b - 3類 : 北筒式、ノダップⅡ式、煉瓦台式に相当するもの。

Ⅳ群 縄文時代後期に属する土器。

a類 : 余市式、入江式、手稲砂山式に相当するもの。

b類 : ウサクマイC式、手稲式、鮎潤式に相当するもの。

c類 : 堂林式、御殿山式に相当するもの(口縁部や頸部に刻みが施される資料は堂林式の古手として扱う)。

Ⅴ群 縄文時代晩期に属する土器。

a類 : 大洞B式、上ノ国式に相当するもの。

b類 : 大洞C1式、大洞C2式に相当するもの。

c類 : 大洞 A 式、大洞 A' 式に相当するもの。

VI群 続縄文時代に属する土器。

VII群 擦文時代に属する土器。

(土肥研晶)

(3) 石器

器種別の大分類にとどめ、細分は行っていない。整理作業で使用した分類の名称及び、報告の際の概ねの掲載順は以下の通り。なお、平成7年度出土分の分類については千葉英一が行った。

黒曜石製の異形石器は剥片の長い方の計測値を長さとした。

剥片石器

石槍またはナイフ

石鏃

石錐

つまみ付きナイフ

スクレイパー

U フレイク (使用痕のある剥片)

R フレイク (加工痕のある剥片)

フレイク・チップ (黒曜石の剥片・細片)

フレイク (黒曜石以外の剥片)

ピース・エス・キーユ (剥片の上下両端に加撃痕と摩滅痕があるくさび形石器)

石核

原石 (黒曜石)

礫石器

石斧

石斧原材

すり石

石鋸

たたき石

台石

石皿

砥石

石錘

礫

石製品

玉

垂飾

異形石器

アスファルトの帯痕付礫と原材

ミニチュア石器

オロシガネ状石製品

石棒

その他（腕輪、ツノガイ化石、岩偶、磨かれた石など）

（新家水奈）

8 基本層序

キウス4遺跡の基本土層は以下の通りである。

I層：表土（Ta - a 軽石混じりの黒色土）・耕作土。層界明瞭。

II層：樽前山起源の降下軽石堆積物（Ta - a）。層界明瞭。

III層：黒色（10YR1.7 / 1）埴壤土。新千歳空港関連遺跡の「第I黒色土」に相当する。縄文時代晩期から中世の遺物包含層。層界明瞭。

IV層：樽前山起源の降下火砕堆積物（Ta - c）。層界明瞭。

V層：黒褐色（10YR2 / 2）埴壤土。「第II黒色土」相当。縄文早～晩期の遺物包含層。層界判然。層中に、盛土遺構（周堤も含む）が確認された。その場合、盛土形成以後（盛土の上）をVa層、盛土形成以前（盛土の下）をVb層とした。盛土のないところはVa・Vb層の区別をしていない。

VI層：暗褐～褐色（10YR3.5 / 4）埴壤土。漸移層、層界漠然。縄文早期の遺物を含む。

VII層：黄褐色（10YR5 / 7）壤土。En - aの風化したもの。層界明瞭。

VIII層：恵庭岳起源の降下軽石堆積物（En - a）。

IX層：支笏カルデラ起源の大規模火砕流堆積物（Spfl）。

（石井淳平）

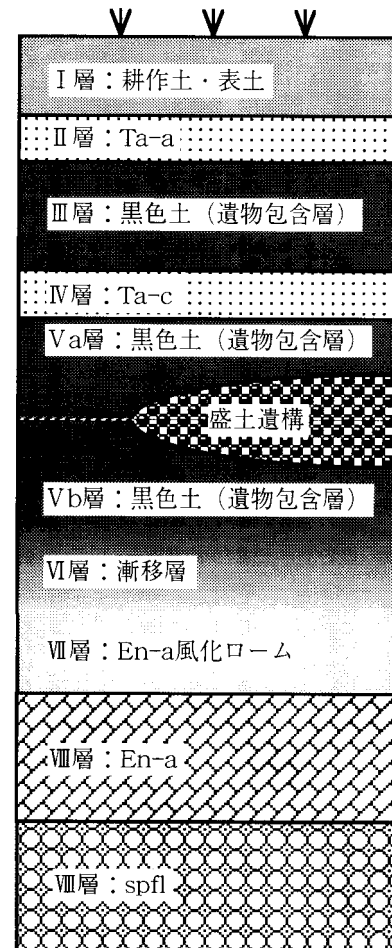


図7 キウス4遺跡土層模式図

9 調査の方法

(1) 調査手順と方法の概要

発掘調査は、耕作や様々な攪乱が及んだI層と、II層のTa - aを可能な限り重機で除去したのち、人力によってIII層上面を検出し、III層の調査から開始した。現実には広い範囲で、耕作による深い攪乱がVII層までおよんでおり、III層はG地区の北側の一部と、F地区の南側の一部にのみ残存していた。III層の遺構・遺物の調査終了後、IV層を除去、V層の上面を検出する。続いて、盛土遺構より上位のVa層を除去し、盛土の上面を検出する。盛土遺構V層（II黒層）の調査が終了次第、VI層の調査へ移行する。III層上面とV層上面、VI層を掘り下げた最終面、さらに盛土遺構は、1層除去するごとにそれぞれ地形面の測量を実施した。

この測量には、平板 CAD を利用するケースが多かった。遺構の平面図やエレベーションの多くも、同様に平板 CAD を利用して、実測図を作成した。盛土遺構の実測には、計測用カメラも利用した。

遺物の取上げに際しては、遺構出土遺物はもとより、包含層出土遺物についても、トータルステーション・システムを利用して、出土位置を記録し、データを一覧表に整理、遺物台帳を作成した。これらの測量や撮影、図化、データ編集などは、主に測量調査業務委託先から派遣された常駐の技術者が従事した。

出土遺物の水洗、注記、一次的な分類作業、遺構土壌のフローテーション、水洗選別作業等は、雨天日なども活用して、可能な限り現地で、調査に並行して実施した。 (石井淳平)

(2) 盛土遺構の調査

本格的な調査の前に R、65、69、73、77、81ラインにトレンチを設定し、基本的な層序、遺物の出土状況を確認した。F 地区の東側では「盛土縦断セクション」「盛土横断セクション」としたラインに沿ってトレンチを設定した。必要に応じて新たにトレンチを設定し、層の新旧関係を確認した。また、1 層ごとに地形測量を行い、盛土の形成過程を等高線で復元した。

盛土遺構の土壌は全て層、グリッド単位に土嚢袋につめて回収した。回収した土壌は 5 mm メッシュのフルイを通して洗浄し、微細な遺物や調査時に見落とした土器片などを回収した。土壌は全て容積を計測した。掲載した盛土遺構の土量はこの数値を集計したものである。

調査区全体の平面図で 1995 年に調査した F 地区東部に等高線が入っていないが、これは 1997、98 年は Vb 層上面と調査終了面である VIII 層上面で地形測量を行っているのに対し、1995 年は Vb 層上面の地形測量を行っていないこと、地形測量を行った調査終了面が VIII 層上面ではなく VII 層上面であることから、等高線をつなげることができなかったことによる。 (石井淳平)

(3) 建物・柱穴の調査

柱穴は原則的に長軸方向で半裁し、断面観察と記録を行った。柱痕を確認するため、水平に掘り下げる調査も行ったが、ほとんどの柱に抜き取りが行われており、柱痕を確認できるものは少ないことが判明したため、断面観察による抜き取り痕の確認にとめた。

柱穴配置から建物を認定する作業は原則的に現場で行った。同一の建物と判断する基準は、配列した柱穴の平面形がより正確な方形になること、柱穴の規模、深さ、埋土の土質に差が少ないこととした。

建物の各計測値は図 8 に従って計測した。掲載した柱間距離は各支柱穴間で計測した柱間距離の平均値で、支柱穴の心芯間の距離を計測した。主軸方位は柱間距離を計測した線分の真北に対する角度の平均値である。真北を 0 とし、時計回りに増加する。平均値を算出する際に、東西軸は 90° を減じてある。 (石井淳平)

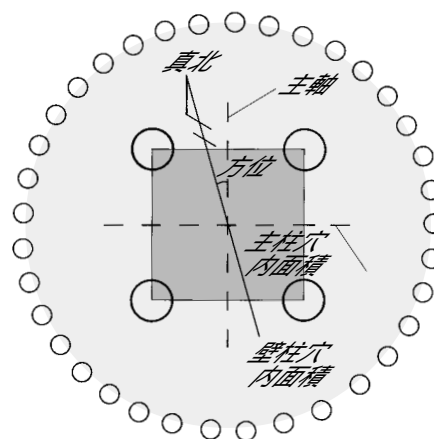


図 8 建物計測値

(4) 遺構の記録

遺構は原則として平面図と断面図を作成した。ただし、SPに分類した小型の掘り込みは断面図を作成していない。またこれらの小型の掘り込みは、下端のラインを実測せず、底面のレベルのみ測量した。平面図の作成には主にトータルステーションを用い、その出力を原図とした。全ての断面図および、微細な構造、遺物出土状況などは手書きで作成した。縮尺は1/20を基本とし、微細な構造や遺物出土状況などは1/10で作図した。なお盛土3層の遺物出土状況は写真測量により作成した。

(石井淳平)

(5) 遺物の出土地点記録

遺物の出土地点記録は盛土遺構から出土した土器の接合関係を重視し、可能な限りトータルステーションによる地点計測を行うこととした。ただし、調査期間の制約から全ての出土遺物に対しトータルステーションによる地点計測を行うことは不可能なため、一定の基準を設けてトータルステーションによる地点計測と4m四方のグリッド単位の出土地点記録を使い分けた。以下にその基準を示す。

トータルステーションによる地点計測をしたもの

- ・長径が4.5cm以上の土器片
- ・定型的な石器、石製品、土製品
- ・その他、特徴的な遺物(文様がはっきりわかる注口土器片や土製品、大型の剥片)
- ・遺構出土の遺物(微細な剥片や土器片を除く)

4m四方のグリッド単位で出土地点を記録したもの

- ・長径が4.5cm以下で特徴のない土器片
- ・非定型的な石器(剥片類、礫など)

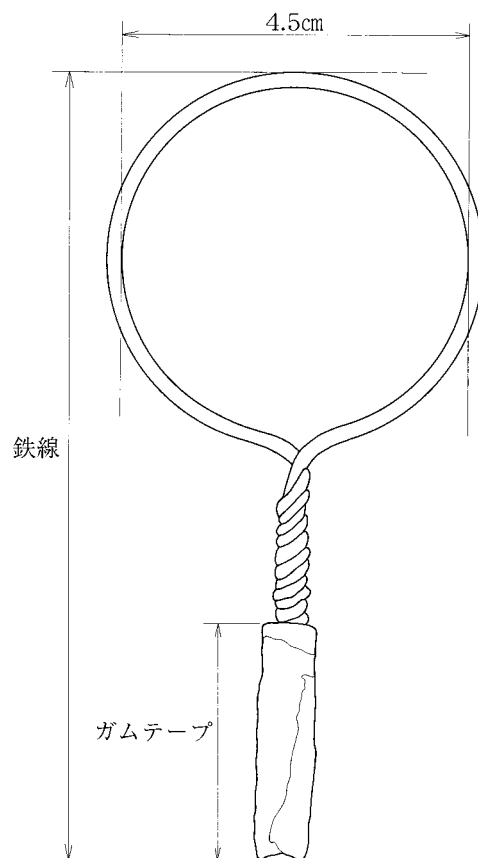


図9 遺物の取り上げの基準に用いた輪

基準とした土器片の大きさは、本格的な調査にはいる前のトレンチ調査で得た土器片の大きさと、トータルステーションによる地点計測に要する時間をもとに調査期間から逆算して、長軸でおよそ5cm以上を目安に地点計測を行うこととした。実際の基準は図9に示した針金の輪を作業員に渡し、この輪を通過できない遺物をトータルステーションによる地点計測の対象とした。なお、輪の内径は4.5cmで、これは輪を作成するときに使った鉄パイプの外径が5cmちょうどではなく、4.5cmだったためである。

(石井淳平)

10. 遺構と遺物の概要

(1) 遺構

盛土遺構・SE層、建物・柱穴群、墓壇、フラスコ状ピット、一括土器・集石、焼土群、竪穴遺



図10 キウス4遺跡F・G地区遺構配置図

構、土壌、ローム質埋土の土壌などを検出した。これらのうち、時期のわかるものは盛土遺構・SE層、建物・柱穴群、墓壇、フラスコ状ピット、一括土器・集石、焼土が縄文時代後期後葉、竪穴遺構、一部の土壌が縄文時代後期前葉である。遺跡の主体は縄文時代後期後葉の堂林式土器の時代である。

盛土遺構は建物・柱穴群が分布するエリアを南北から挟むように位置する。人為的な堆積層で、焼土や炭化材、多量の遺物を含む。盛土遺構の最も大きな役割は廃棄場であったと推測するが、様々な儀礼を執り行う祭祀場としての機能や、建物・柱穴群を外部と区画する境界帯としての機能もあったと推測している。

今回の調査で検出した盛土遺構は北側盛土遺構のほぼ中央付近にあたる。北側盛土遺構は平成8年度調査のL地区、平成9年度調査の・地区で一部調査を行っており、南側盛土遺構も平成9年度のI地区、平成10年度のR地区で調査が行われている。南北の盛土遺構から出土した土器が接合するなど、キウス4遺跡の構造と盛土遺構の形成を明らかにする上で重要な調査成果が得られている。

SE層は南北の盛土遺構に挟まれたエリアに分布する人為堆積層である。SE層の分布範囲には

表2 検出遺構一覧

遺 構	検出数
建物（軒）	21
柱穴（カ所）	1073
土壌墓（基）	14
フラスコ状ピット（基）	3
焼土（カ所）	2227
竪穴遺構（基）	6
その他の土坑（基）	57
計	3406

V～Ⅶ層が存在しないことから、広い範囲で削平された後、2次的に堆積しているようである。削平された土の一部は盛土遺構へ排土されたものと考えられる。SE層の成因は不明であるが、建物・柱穴群の分布範囲とほぼ重なって広がることから、建物の構築に伴う地業の可能性はある。

建物・柱穴群は21軒検出した。4本の主柱穴で構成され、出入り口、壁柱穴をもつものも存在する。建物の規模は大小さまざまで、3つ程度に分化する。大型の建物の中には柱穴の深さが1.5mを越えるものも存在する。小型の建物でも、壁柱穴で囲まれた部分の直径が10m近くあり、規模の大きいものが多い。これらの建物について、キウス4遺跡のこれまでの調査で、竪穴を確認したものはない。耕作による削平で消失した可能性や、竪穴が人為堆積層であるSE層から掘り込まれているため、確認できていない可能性もあるが、平地式の建物である可能性が高いと考えている。

墓壇は細長い楕円形のもので、14基検出した。時期のわかる遺物が出土した墓壇は少ないが、周堤墓で検出した墓壇と形状がよく似ていることから、後期後葉の時期であると判断した。周堤墓の墓壇と異なり、副葬品などは出土していない。墓壇の長軸方向は北西-南東で、人骨が出土した墓壇では、頭位方向は北西であった。

フラスコ状ピットはF地区西端で3基検出した。ほぼ等間隔に並んでおり、規模も一致することから、同時または、きわめて近い時期に使用されていたようである。機能停止後しばらく放置され、盛土遺構の構築に伴い、埋め戻されている。

一括土器・集石は盛土遺構、Vb層上面で検出した。盛土遺構の土器は同一個体が散逸しているのが通常で、集中的に同じ場所に廃棄されたものは少ない。一括土器・集石は盛土遺構の廃棄のバリエーションを示すと思われる。

焼土群はV層や盛土遺構直下のVb層上面で検出したもので、1774カ所で確認した。トレンチなどで検出し、層位が不明なものを含むと、1800カ所を越える。盛土遺構の範囲と、焼土の分布範囲はほぼ一致する。Vb層に形成された焼土群と盛土遺構との間に、何らかの関係があった可能性が高いが、盛土遺構に覆われた部分の焼土が浸食を免れたため残存した可能性も否定できない。

縄文時代後期前葉の遺構は用途不明の土壇と、竪穴遺構と呼称した浅い皿状の掘り込みである。竪穴遺構は6基検出しており、P-140では、床面から土器囲い炉を検出した。

調査終了間際のⅧ層上面で、埋土がほぼ純粋なEn-aロームで、底面がⅨ層に達する円筒状の掘り込みを検出した。埋土に黒色土を全く含まないことから、En-aロームの形成後、腐植土が形成するまでの期間に掘り込まれ、埋没したものである。この掘り込みが、人為的なものであるか、自然の影響により形成されたものであるかは不明であり、今後の課題であるが、このような掘り込みは、キウス4遺跡F・G地区だけでなく、キウス4遺跡I地区、Q地区、キウス7遺跡でも検出されており、キウス周辺に普遍的に存在するようである。(石井淳平)

(2) 遺物

出土遺物の分類別、層位別の集計は表3に示すとおりである。

土器では、縄文時代後期後葉を代表するⅣ群c類土器が、盛土遺構を中心に大量に出土しており、土器全体の出土量の99%以上を占める。ついで、縄文時代後期前葉のタブコブ式土器が多く出土している。

石器では、黒曜石の剥片類が最も多い。定型的な石器では、石鏃が非常に多く、たたき石、砥石、石斧などの比率が高い。

表3 出土遺物一覧

層位	土器	石器	その他	合計
包含層	220,127	32,026	65	252,218
盛土遺構	757,230	123,680	478	881,388
遺構	9,788	8,193	56	18,037
合計	987,145	163,899	599	1,151,643

土製品・石製品は、スタンプ形の土製品や、土玉、ミニチュア土器、貝輪を模して作られたと思われる石製品、翡翠の玉類が出土している。また、土壙から、土器の製作に用いたと思われる、白色粘土が出土しており、実験的に土器を製作したところ、盛土遺構や包含層から出土する堂林式土器と非常に胎土や質感の似た土器ができあがった。

そのほか、A - 2 地区に続く G 地区北西部では、50口径弾のものと思われる、薬侠が出土している。（石井淳平）

Ⅱ 後期後葉の遺構と遺物

1 盛土遺構・SE層

表4 盛土遺構一覧

盛土名	分類	平均層厚 (m)	面積 (m ²)	土量 (m ³)	土器	石器	合計	遺物点数/ 土量(m ³)	Ⅳ群c類土 器重量(g)	重量/土 量(m ³)	ヤキ	ステ	不明
盛土34層	黒褐色土主体	0.05	163.09	7.71	14,623	2,005	16,628	2,156.68	47,244	6,128			
盛土35層	黒褐色土主体	0.09	78.83	7.02	36,557	5,617	42,174	6,007.69	97,872	13,942	3	3	1
盛土5層	黄褐色土主体	0.17	244.82	42.48	95,957	16,635	112,592	2,650.60	268,393	6,318	17	18	5
盛土26層	黄褐色土主体	0.24	436.65	103.44	72,357	9,132	81,489	787.79	271,876	2,628	5	8	3
盛土27層	黄褐色土主体	0.12	50.59	6.30	1,370	359	1,729	274.62	5,320	845		9	
盛土17層	黄褐色土主体	0.07	73.49	5.23	1,748	233	1,981	378.67	6,212	1,187			
盛土28層	黒褐色土主体	0.05	50.30	2.64	822	96	918	348.32	2,646	1,004			
盛土19層	黄褐色土主体	0.13	75.53	9.79	3,243	578	3,821	390.12	14,154	1,445			
盛土22層	黒褐色土主体	0.10	24.12	2.40	632	53	685	285.77	3,210	1,339	1	1	
盛土13層	黄褐色土主体	0.17	545.73	92.57	119,366	23,091	142,457	1,538.92	414,184	4,474	17	34	11
盛土23層	黒褐色土主体	0.06	22.63	1.25	483	48	531	425.82	3,107	2,492			
盛土33層	黄褐色土主体	0.18	110.80	20.42	30,949	4,938	35,887	1,757.87	110,805	5,428	7	13	
盛土36層	黄褐色土主体	0.18	96.19	17.31	46,148	7,623	53,771	3,106.35	161,299	9,318	3	25	4
盛土1層	黒褐色土主体	0.05	120.45	6.42	15,412	2,617	18,029	2,807.29	42,677	6,645			
盛土29層	黒褐色土主体	0.07	30.68	2.23	515	57	572	256.04	1,300	582			
盛土14層	黒褐色土主体	0.11	686.08	77.35	79,094	10,420	89,514	1,157.30	247,513	3,200	8	71	10
盛土3層	黄褐色土主体	0.08	138.84	11.30	31,286	4,351	35,637	3,154.14	115,822	10,251			
盛土30層	黒褐色土主体	0.10	58.26	5.66	1,361	187	1,548	273.67	3,935	696		13	
盛土4層	黒褐色土主体	0.12	665.65	78.86	103,838	14,643	118,481	1,502.46	379,115	4,808	10	2	1
盛土31層	黒褐色土主体	0.17	74.25	12.62	2,617	347	2,964	234.91	10,280	815		74	10
盛土32層	黒褐色土主体	0.08	49.36	4.17	1,322	209	1,531	366.80	5,308	1,272			
盛土37層	黒褐色土主体	0.02	78.83	1.59	404	133	537	337.74	1,335	840			
SE1層	整地層	0.08	485.72	41.08	38,357	8,004	46,361	1,128.69	67,343	1,640			4
SE2層	整地層	0.15	521.68	80.69	36,347	9,498	45,845	568.15	85,517	1,060	8		
合計				640.51	734,808	120,874	855,682		2,366,467		79	271	49

ヤキ = その場で焼かれた焼土
ステ = 廃棄された焼土

概要

今回報告する盛土遺構は平成8年度に一部調査を行った北側盛土遺構の東側の部分である。平成8年度の調査において、N盛土として報告された盛土ブロックの続きにあたる(北埋調報124)。現場ではN盛土の続きという意味で、頭にNを冠して「N盛土」と呼称していた。しかし、盛土の単位として平成8年度調査のN盛土に含まれるものはごく一部であると判断したため、頭にNを付けず「盛土層」という呼称に改めた。また、平成8年度の報告と盛土遺構のラインが異なっているが、これは平成8年度の調査でN盛土とされた盛土遺構の北側部分を、今回の調査で検出したフラスコ状ピットの掘り上げ土であると判断したことによる。

今回の調査では盛土遺構を22層に分層した。またそれらを主に土色の違いにより、

(1) 黒褐色土主体の層

(2) 黄褐色土主体の層

の二種類に大別した。

黒褐色土主体の層はVb層起源の黒褐色土にEn-aローム、パミスが混入したものである。黒褐色土主体だが、自然のV層と比較すると明るい色調をもつ。黄褐色土主体の層はEn-aローム起源の黄褐色土に、黒褐色土、En-aパミスが混入したものである。

盛土遺構の基本的な構造は上層から黒褐色土主体(上層) 黄褐色土主体(中層) 黒褐色土主体(下層)(図11参照)である。それぞれの層から出土する土器は下層: エリモB式~堂林式の古い段階。

刻みをもつ土器。

中層: 突き瘤、沈線文をもつ堂林式の新しい段階の土器。

上層: 堂林式の新しい段階~御殿山式など後期の最終末に位置づけられる土器である。出土する土器のほとんどは堂林式の範疇で捉えられるものであり、盛土遺構

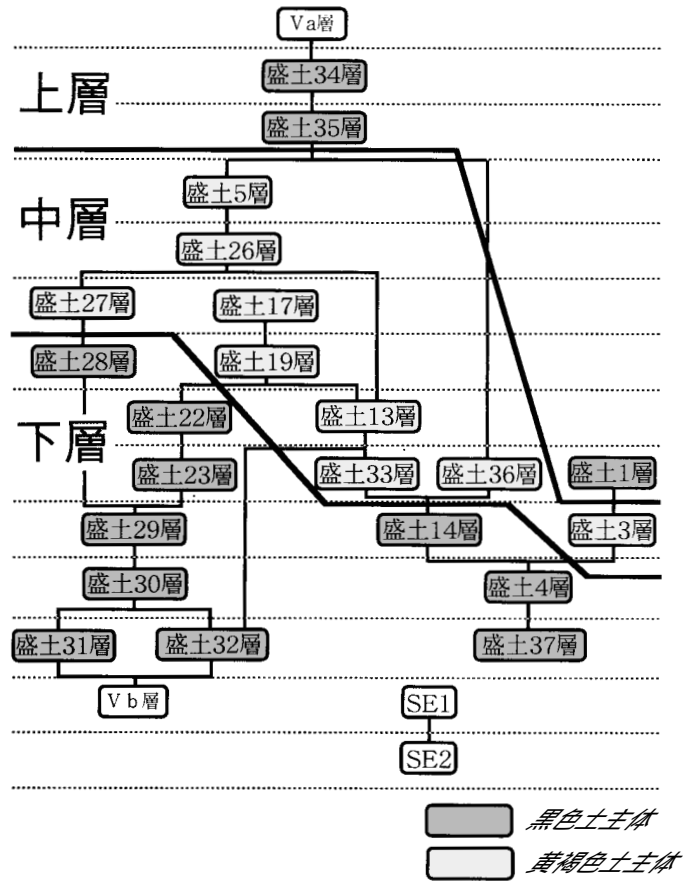


図11 盛土遺構層位模式図

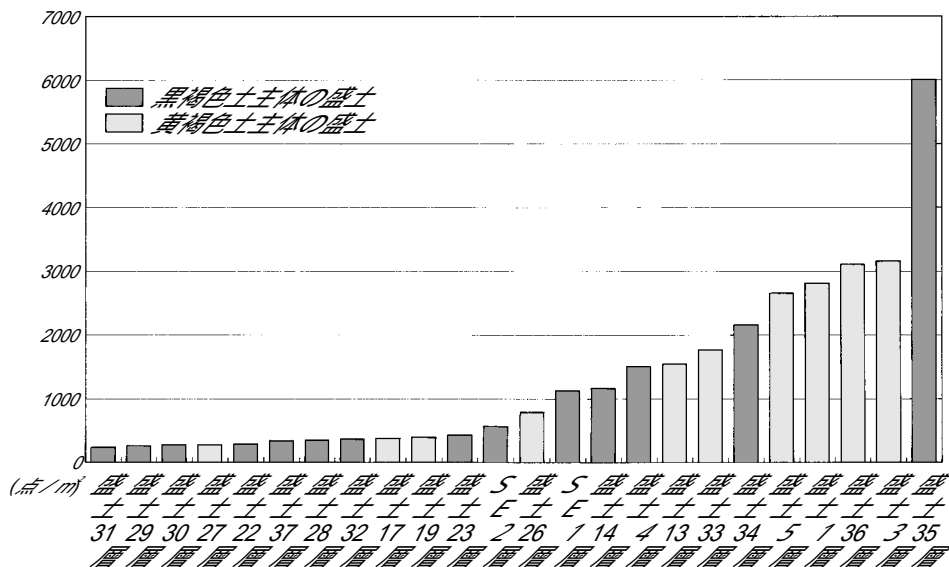


図12 盛土遺構・SE層層位別遺物密度

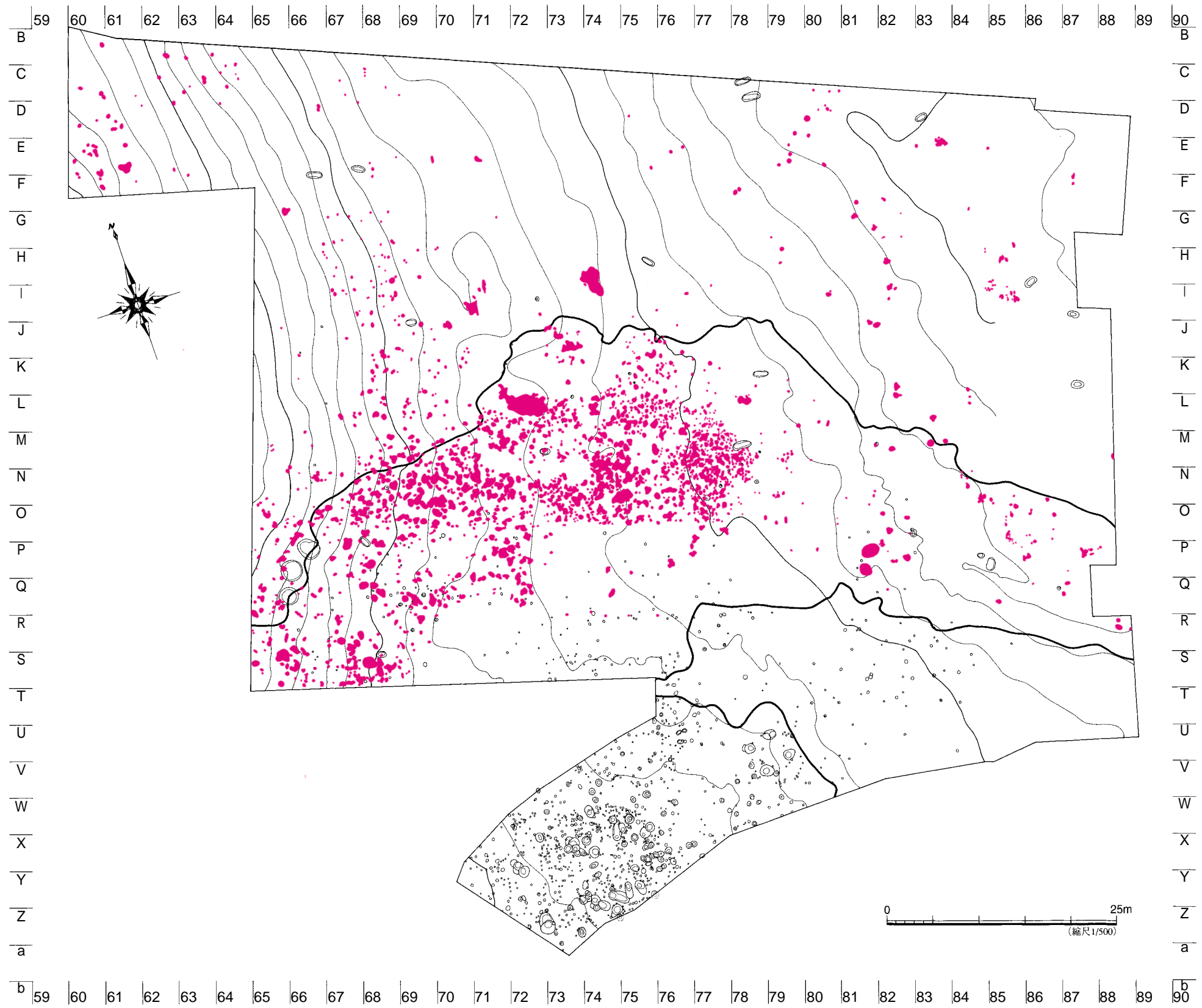


図13 後期後葉の遺構配置図

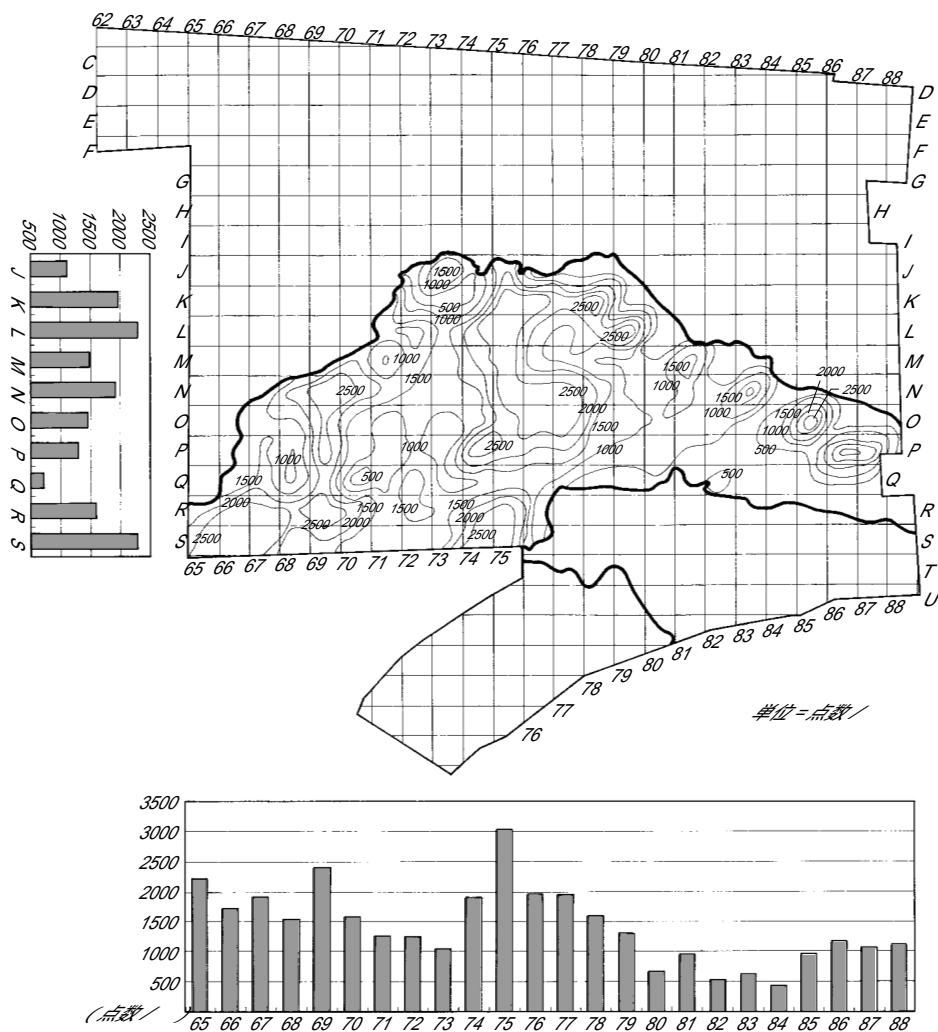


図14 盛土遺構遺物密度図

の造営期間は、ほぼ堂林式の存続期間と一致する。

上層の盛土34層、35層はVa層と盛土遺構との漸移層の可能性もあるが、出土する遺物量が通常の包含層より明らかに多いため、盛土遺構として扱った。黄褐色土主体の盛土は間層に薄い黒色土を挟み、遺物や焼土はこの薄い黒色土中から多く出土した。絶え間なく土砂の廃棄が行われたのではなく、盛土の造成が行われる時期と、主に遺物や焼土が廃棄される時期が交互に繰り返されたようである。盛土遺構で検出した焼土はその場で焼かれたものが79カ所、廃棄されたものが271カ所、不明が、49カ所で、廃棄された焼土が67.9%を占める。V層、Vb層で検出した焼土のうち、廃棄された焼土が占める割合がわずかに6.5%であることと比較して、盛土遺構で検出した焼土は、廃棄された焼土の割合が非常に高い。

盛土遺構から出土する遺物量は層ごとにかなりのばらつきがある(表4)。上層、中層の盛土は高い遺物密度を示す。盛土35層が特に高い遺物密度を示すが、盛土34層、35層などの最上層の盛土は出土する遺物の破片が小さいためにこのような結果になったものとする。全体的な傾向として、

上層の盛土のほうが、出土する遺物の破片が細かく、出土量も多い。調査中にも感じていたことだが、廃棄のパターンが上層の盛土と下層の盛土では変化しているようである。また、盛土遺構の東側に行くにしたがい、遺物密度は減少する傾向がある（図14）。

また、盛土遺構は層ごとの土量の差も大きい。調査者の土層認識の違いや、土層の変化の認識の難易度に依存する部分が大きく、土量の差に考古学的な意味を与えることは難しいと考えられる。

SE層は調査区の南側で検出した En - a パミスを多く含む暗褐色土層を、通常の包含層と区別したものである。堂林期の遺物を多量に含むことから、人為的な堆積層であると判断し、当初は盛土遺構と同じく、Nを頭に冠して、N8、N9、N10と呼称していた。しかし、その後盛土遺構と同様の機能・形成要因をもつとは考えにくいと判断したため、盛土遺構とは別のものとしてあつかった。その際、N8をSE1層、N9とN10を統合してSE2層とした。SE層の分布域には、後述する建物や、それを構成する柱穴が多数存在し、SE層の形成はこれらの建物・柱穴と何らかの関係があると考えられる。

（石井淳平）

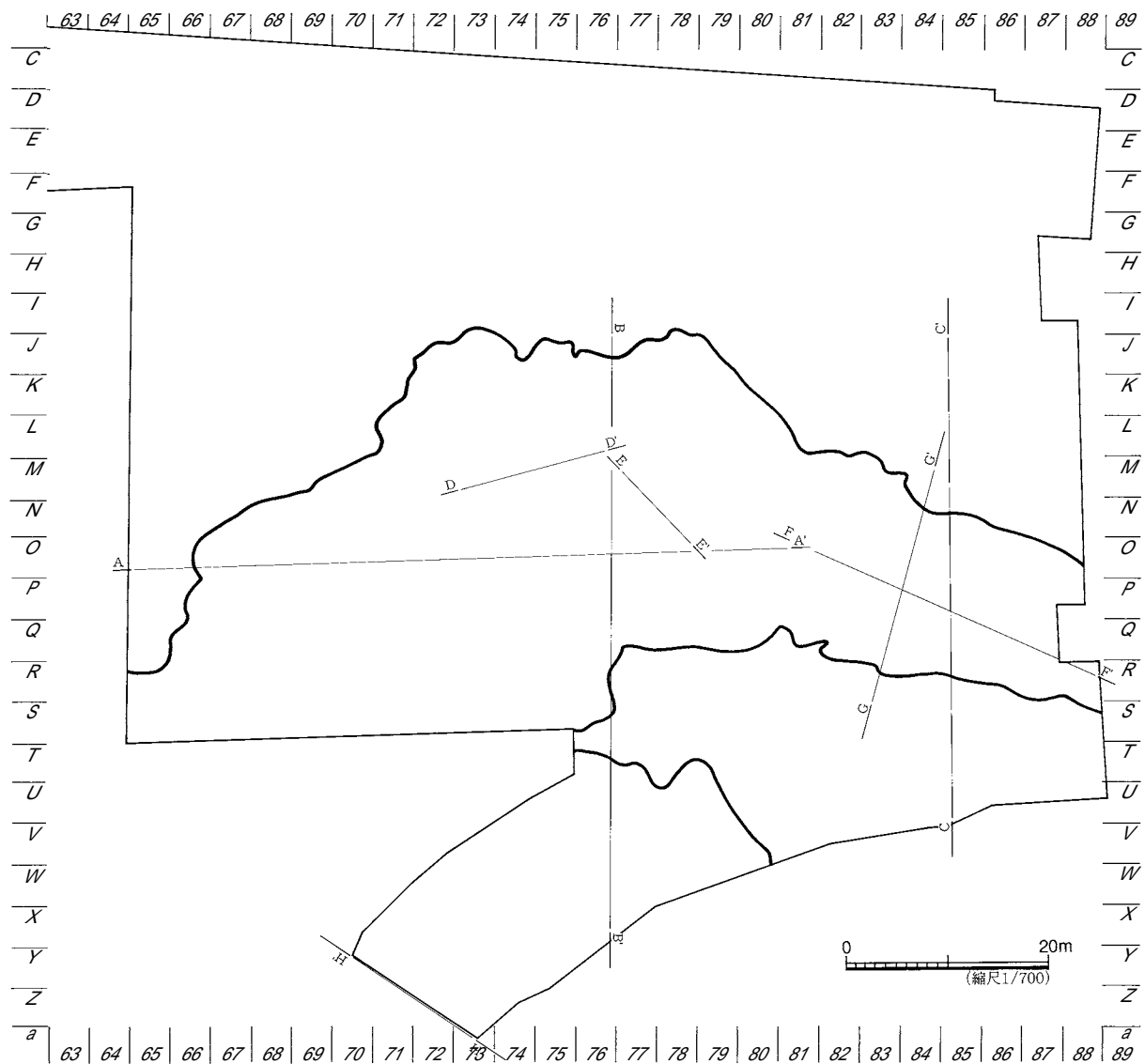


図15 セクションポイントの位置

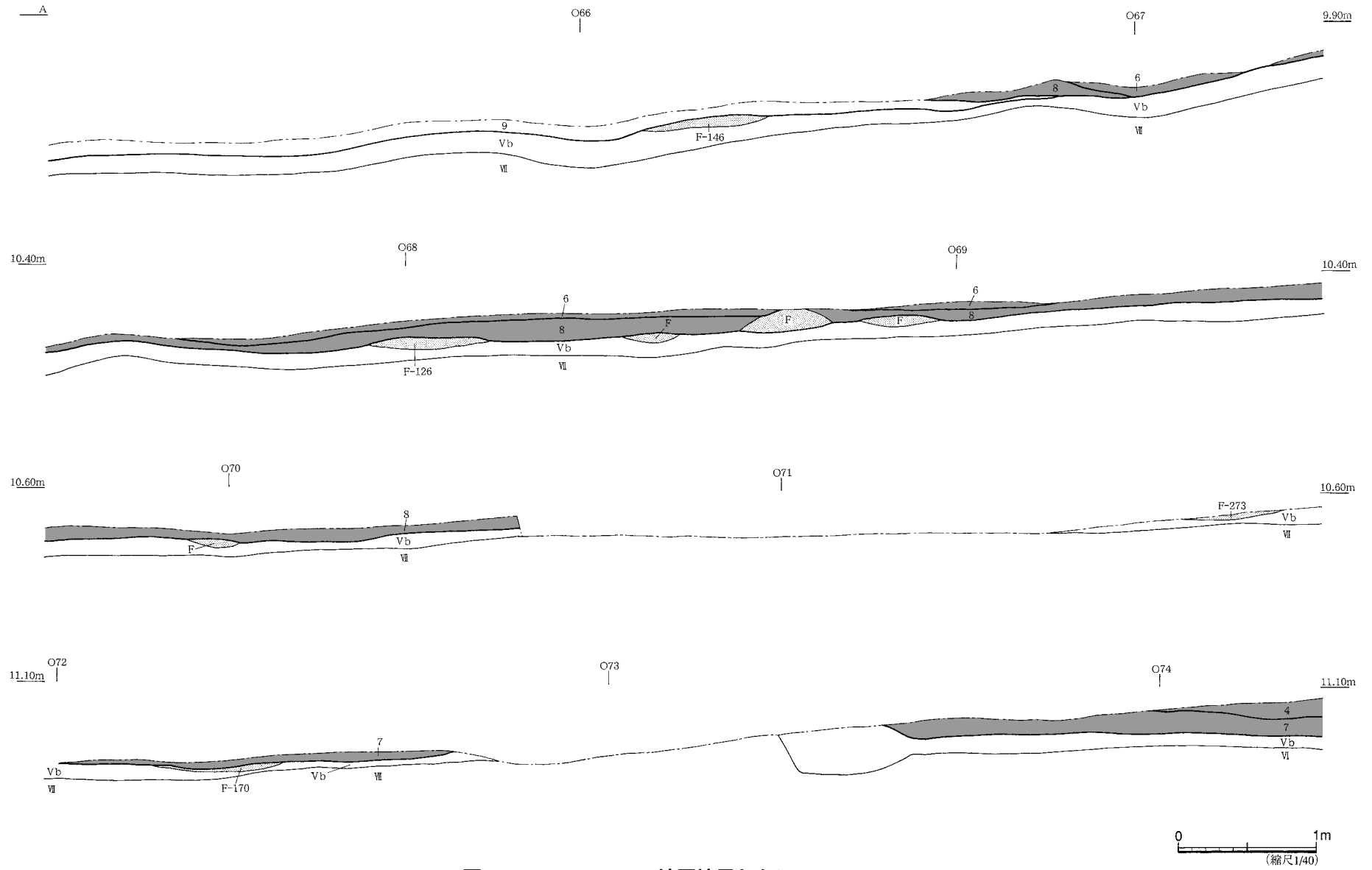
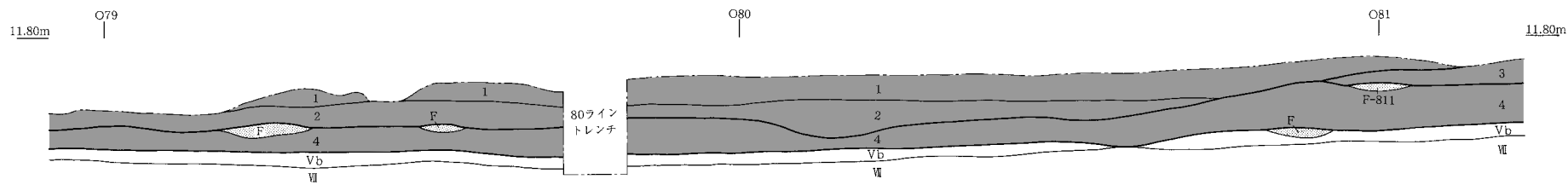
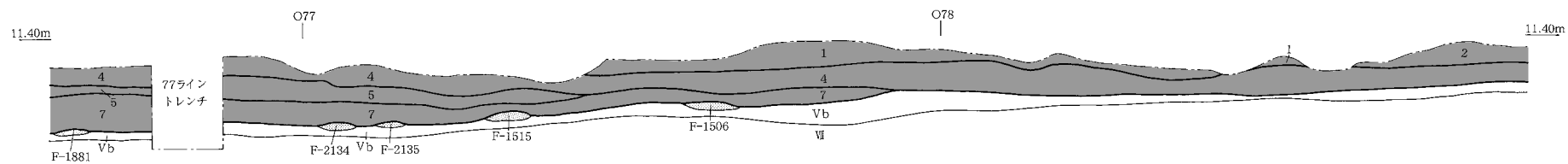
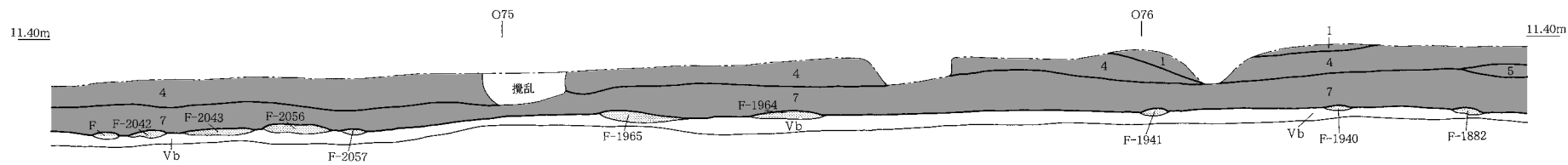


図16 A - A (F・G地区境界セクション)(1)



F・G地区境界ラインの土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR4/4	褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	盛土5層-1
2	10YR3.5/4	暗褐色～褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	盛土5層-2
3	10YR3/4	暗褐色土	ややハード	粘土質シルト En-aロームをブロック状に含む	盛土26層
4	10YR2/1.5	黒色～黒褐色土		En-aバミスを少量含む、炭化物をやや多く含む	盛土13層
5	10YR3/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	盛土33層
6	10YR2/1	黒色土		Ta-a、炭化物、焼土粒を多く含む	盛土1層
7	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む、炭化物を少量含む	盛土14層
8	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む、炭化物土粒を極少量含む	盛土4層
9	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを多量に含む	プラスチック掘り上げ土

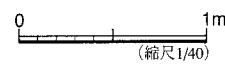
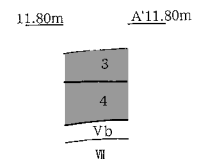


図17 A - A (F・G 地区境界セクション)(2)

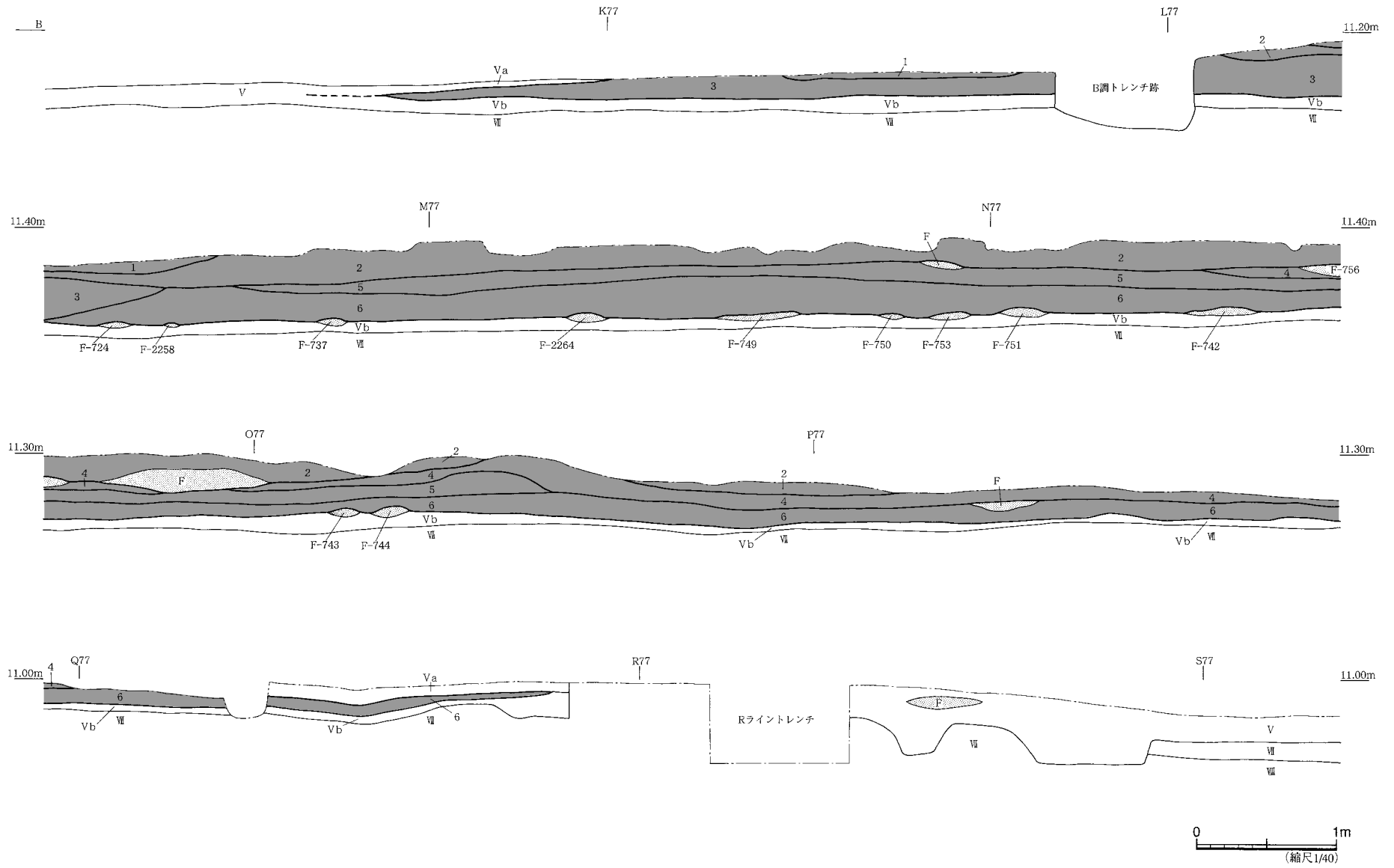
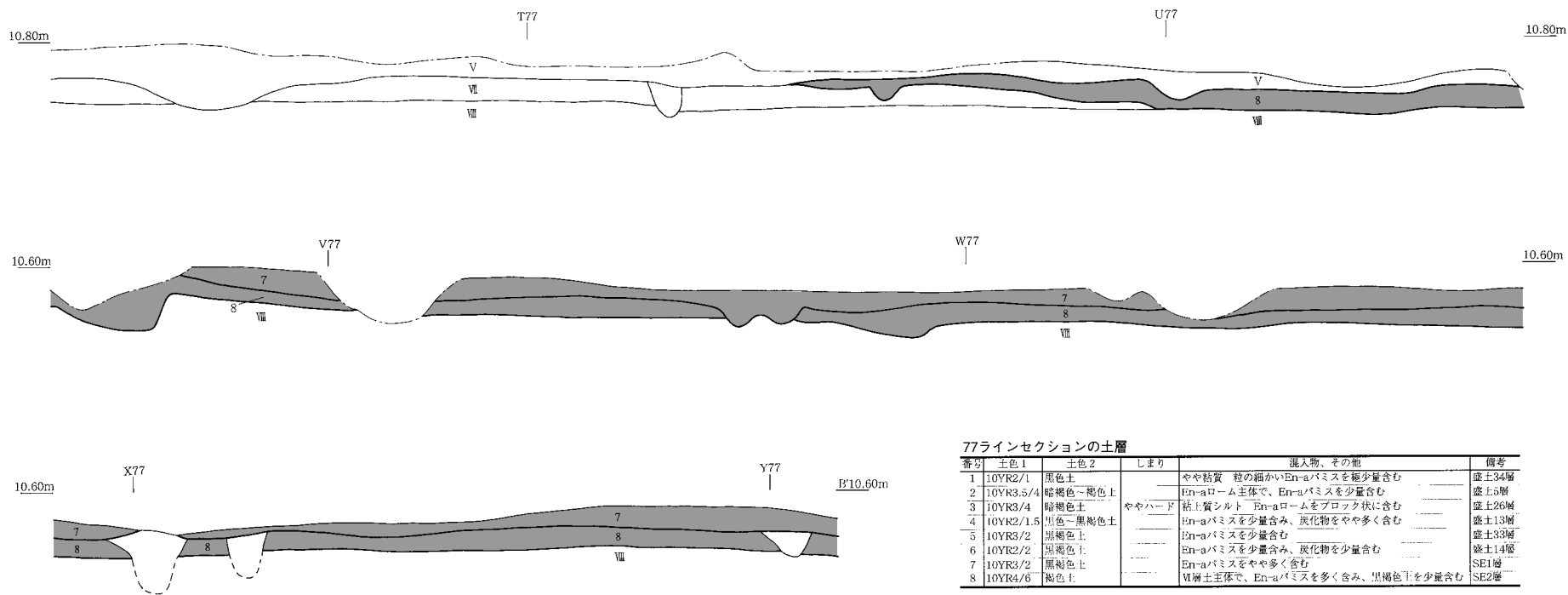


図18 B - B (77ラインセクション)(1)



77ラインセクションの土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/1	黒色土	-----	やや粘質 粒の細かいEn-aバミスを極少量含む	盛土34層
2	10YR3.5/4	暗褐色~褐色土	-----	En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	盛土5層
3	10YR3/4	暗褐色土	ややハード	粘土質シルト En-aロームをブロック状に含む	盛土26層
4	10YR2/1.5	黒色~黒褐色土	-----	En-aバミスを少量含む、炭化物をやや多く含む	盛土13層
5	10YR3/2	黒褐色土	-----	En-aバミスを少量含む	盛土33層
6	10YR2/2	黒褐色土	-----	En-aバミスを少量含む、炭化物を少量含む	盛土14層
7	10YR3/2	黒褐色土	-----	En-aバミスをやや多く含む	SE1層
8	10YR4/6	褐色土	-----	VI層土主体で、En-aバミスを多く含む、黒褐色土を少量含む	SE2層

図19 B-B (77ラインセクション)(2)

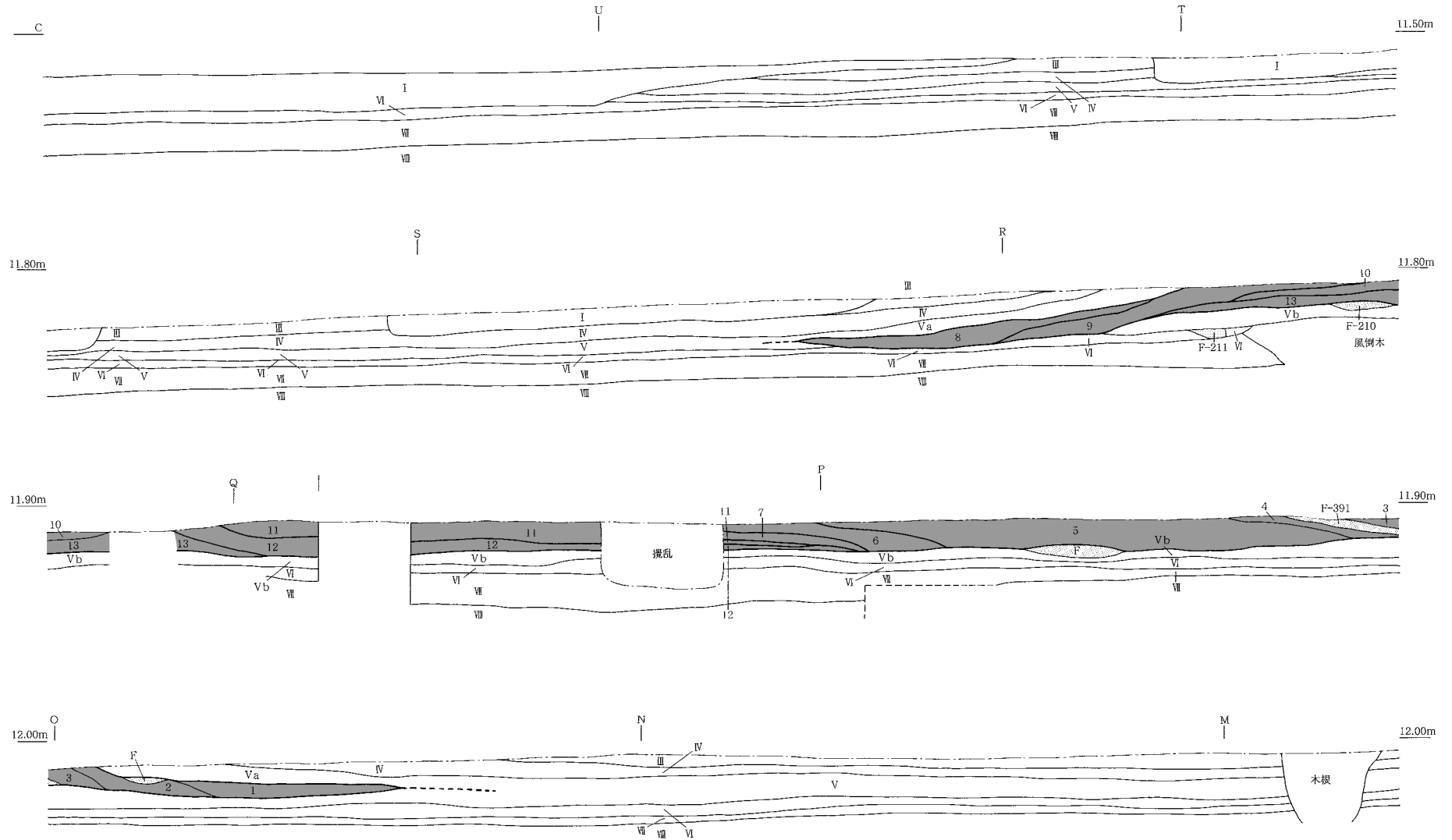
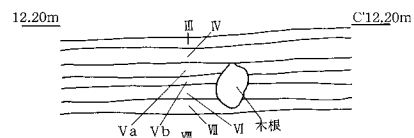
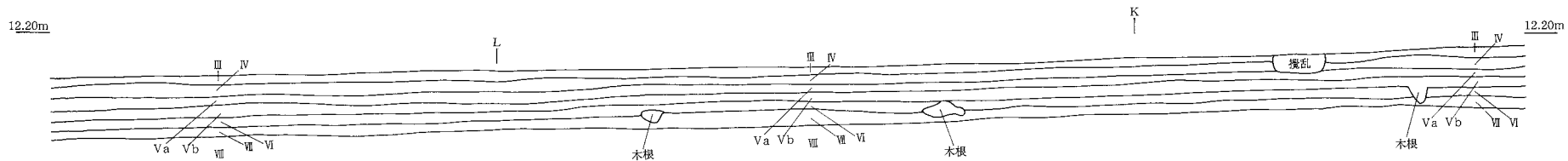


図20 C - C (平成7年度調査区西壁セクションとその延長)(1)

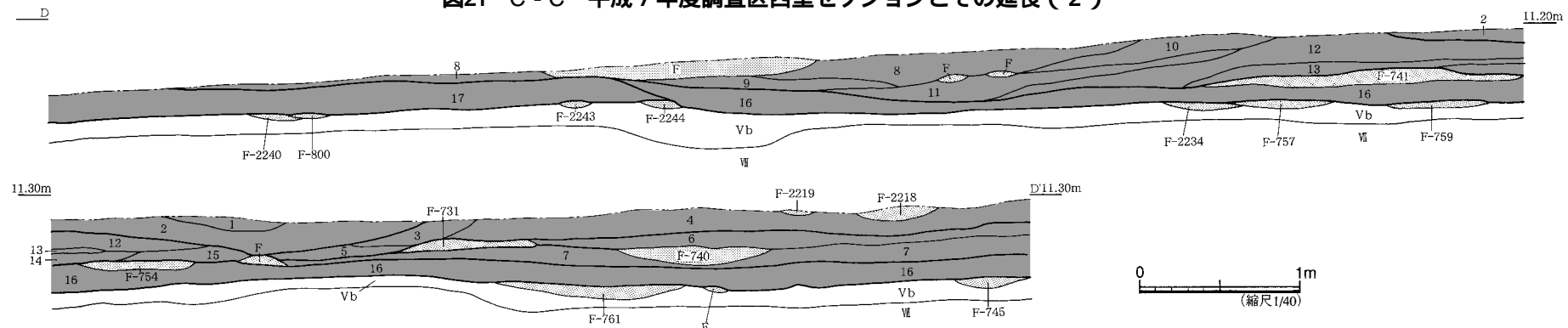
0 1m
(縮尺1/40)



平成7年度調査区西壁セクションとその延長の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む	盛土26層-1
2	10YR3/3	暗褐色土		炭化物を少量含む	盛土26層-2
3	10YR2/2	黒褐色土			盛土26層-3
4	10YR3/3	暗褐色土			盛土26層-4
5	10YR2/2	黒褐色土			盛土26層-5
6	10YR3/4	暗褐色土	ややハード	粘土質シルト	盛土27層
7	10YR2/3	黒褐色土	ややソフト	粘土質シルト 炭化物を少量含む	盛土28層
8	10YR4/3	にぶい黄褐色土		粘土質シルト En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む、黒褐色土を少量含む	盛土17層
9	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ややハード	粘土質シルト En-aローム主体で、En-aバミスを多量に含む、黒褐色土を少量含む	盛土19層
10	10YR3/3	暗褐色土		粘土質シルト VI層七を多量に含む	盛土23層
11	10YR2/3	黒褐色土	ややハード	粘土質シルト En-aバミスを少量含む	盛土29層
12	10YR3/3	暗褐色土	ややハード	粘土質シルト En-aバミスを少量含む	盛土30層
13	10YR2/3	黒褐色土	ややハード	粘土質シルト	盛土31層

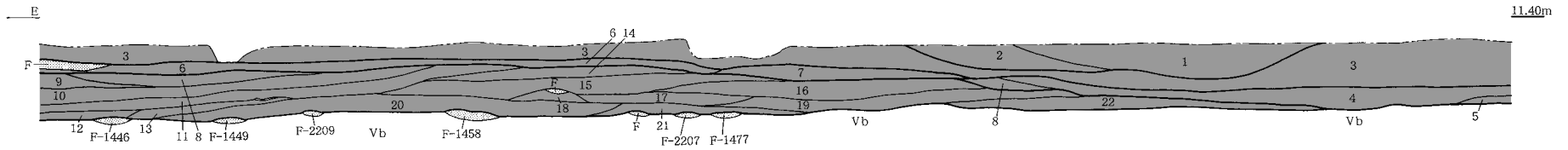
図21 C-C 平成7年度調査区西壁セクションとその延長(2)



73~77ラインセクションの土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミス、炭化物を少量含む	盛土35層-1
2	10YR2/2.5	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む、炭化物を少量含む	盛土35層-2
3	10YR3/3	暗褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミス、炭化物、焼土粒を少量含む	盛土5層-1
4	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミス、炭化物、焼土粒を少量含む	盛土5層-2
5	10YR3/3	暗褐色土		En-aローム主体で、En-aバミス、炭化物、焼土粒を少量含む	盛土5層-3
6	10YR3/3	暗褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む、炭化物を少量含む	盛土33層-1
7	10YR3/3	暗褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む、炭化物を少量含む	盛土33層-2
8	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む、炭化物、焼土粒を多く含む	盛土36層-1
9	10YR3/3	暗褐色土		暗いEn-aローム主体で、En-aバミス、焼土粒、炭化物を多く含む	盛土36層-2
10	10YR4/4	褐色土		En-aバミス、炭化物を少量含む	盛土36層-3
11	10YR2/2.5	黒褐色土	ややソフト	En-aバミス、炭化物を少量含む	盛土36層-4
12	10YR3/3.5	暗褐色土		暗いEn-aローム主体で、En-aバミス、炭化物、焼土粒を少量含む	盛土36層-5
13	10YR2/3	黒褐色土		En-aバミスを少量含む、炭化物を多く含む	盛土36層-6
14	10YR3/3	暗褐色土		暗いEn-aローム主体で、En-aバミスを少量含む 焼土層を間層として伴う	盛土36層-7
15	10YR2/1	黒色土		En-aバミス、炭化物をやや多く含む	盛土36層-8
16	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	盛土14層
17	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む、炭化物焼土粒を極少量含む	盛土4層

図22 D-D (73~77ラインセクション)



11.40m E11.40m



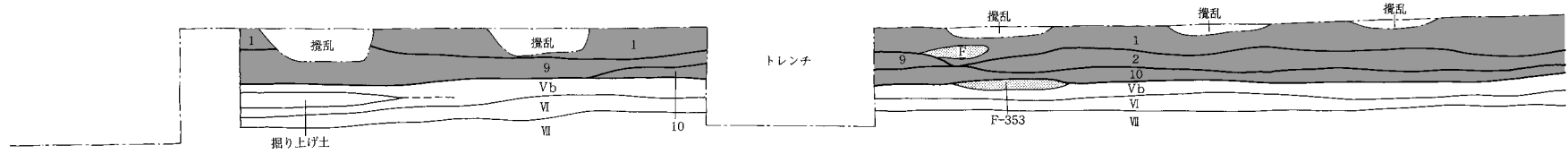
77~80横断セクションの土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/1	黒色土		En-aバミスを少量含む	盛土34層-1
2	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む、炭化物を多く含む	盛土34層-2
3	10YR3.5/4	暗褐色~褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	盛土5層
4	10YR2/1.5	黒色~黒褐色土		En-aバミスを少量含む、炭化物をやや多く含む	盛土13層-1
5	10YR2/1.5	黒色~黒褐色土		En-aバミスをほとんど含まず、炭化物を少量含む	盛土13層-2
6	10YR3/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	盛土33層-1
7	10YR2.5/2	黒褐色土		En-aバミス、炭化物、焼土粒を少量含む	盛土33層-2
8	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミス、炭化物を少量含む	盛土33層-3
9	10YR2/1.5	黒色~黒褐色土		En-aバミスをほとんど含まない	盛土14層-1
10	10YR2.5/1	黒色~黒褐色土		En-aバミスをほとんど含まず、炭化物を少量含む	盛土14層-2
11	10YR2.5/2.5	黒褐色~暗褐色土		En-aバミス、炭化物、焼土粒を少量含む	盛土14層-3
12	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む、炭化物を多く含む	盛土14層-4
13	10YR2/2.5	黒褐色~暗褐色土		En-aバミスを少量含む	盛土14層-5
14	10YR2.5/3	黒褐色~暗褐色土		En-aバミス、炭化物を少量含む	盛土14層-6
15	10YR2/2.5	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む、炭化物を少量含む	盛土14層-7
16	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む、炭化物をやや多く含む	盛土14層-8
17	10YR2/2	黒褐色土		細かいEn-aバミスを少量含む	盛土14層-9
18	10YR2.5/3	黒褐色~暗褐色土		En-aバミス、炭化物、焼土粒を少量含む	盛土14層-10
19	10YR2/2.5	黒褐色土		En-aバミスをほとんど含まず、炭化物、骨片を少量含む	盛土14層-11
20	10YR2/1.5	黒色~黒褐色土		En-aバミスを少量含む、炭化物を多く含む	盛土14層-12
21	10YR2.5/2.5	黒褐色~暗褐色土		細かいEn-aバミス、炭化物を少量含む	盛土14層-13
22	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミス、炭化物、骨片を少量含む	盛土14層-14
23	10YR2/2.5	黒褐色土		En-aバミス、En-aローム、炭化物を少量含む	盛土14層-15

図23 E - E (77~80ラインセクション)

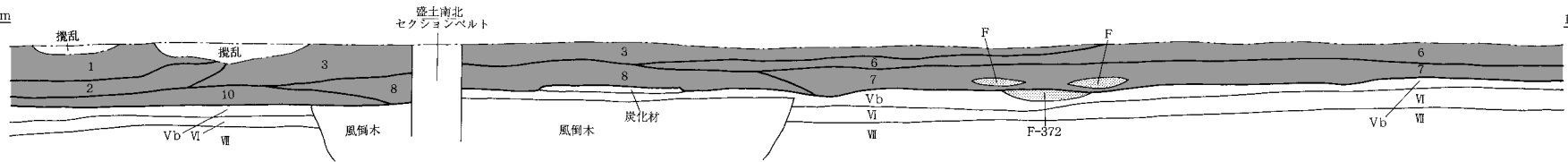
F11.90m

11.90m



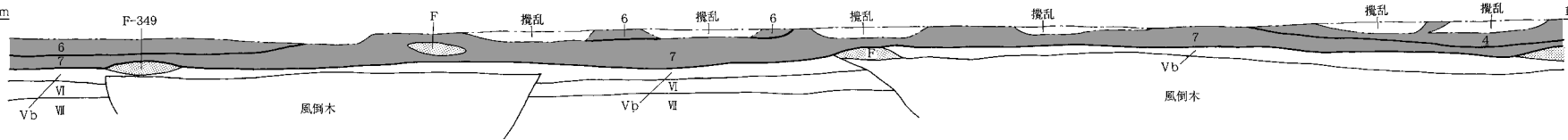
11.90m

11.90m



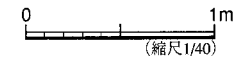
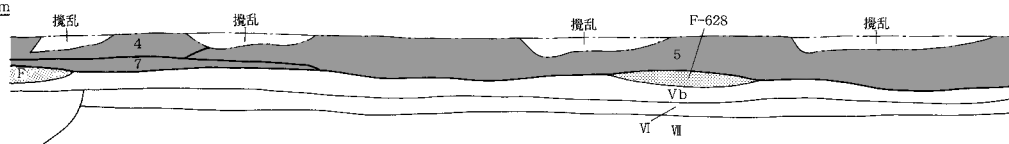
11.90m

11.90m



12.00m

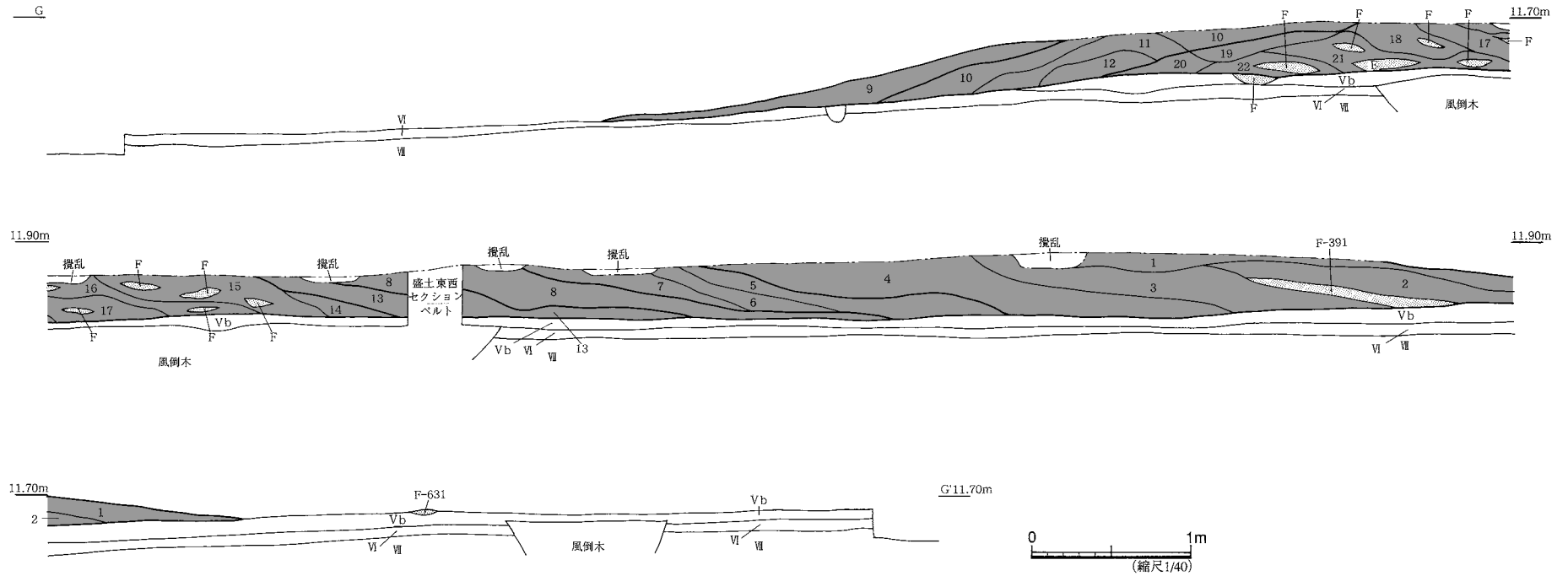
F12.00m



盛土縦断セクションの土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/4	暗褐色土	ややハード	粘土質シルト En-aロームをブロック状に含む	盛土26層
2	10YR3/4	暗褐色土	ややハード	粘土質シルト	盛土27層
3	10YR2/3	黒褐色土	ややソフト	粘土質シルト 炭化物を少量含む	盛土28層
4	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ややハード	粘土質シルト En-aローム主体で、En-aバミスを多量に含み、黒褐色土を少量含む	盛土19層
5	10YR2/3	黒褐色土	粘土質シルト	VI層土を多量に含む	盛土22層
6	10YR2/3	黒褐色土	ややハード	粘土質シルト En-aバミスを少量含む	盛土29層
7	10YR3/3	暗褐色土	ややハード	粘土質シルト En-aバミスを少量含む	盛土30層-1
8	10YR2/3	暗褐色土	粘土質シルト	En-aバミスを少量含む	盛土30層-2
9	10YR2/1.5	黒色-黒褐色土		En-aバミスを少量含み、炭化物をやや多く含む	盛土13層
10	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを極少量含む	盛土32層

図24 F-F (盛土縦断セクション)



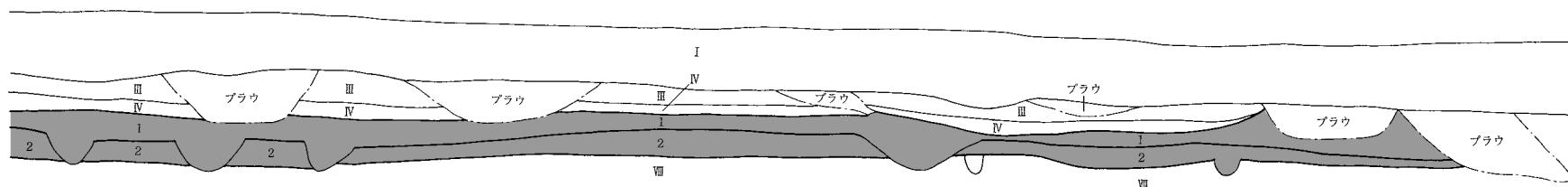
盛土横断セクションの土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR4/6	褐色土			盛土25層-1
2	10YR3/4	暗褐色土		VI層土をブロック状に含む	盛土26層-2
3	10YR2/3	黒褐色土		VI層土をブロック状に含む、En-aバミスをやや多く含む	盛土26層-3
4	10YR3/4	暗褐色土	ややハード	粘土質シルト En-aロームをブロック状に含む	盛土26層-4
5	10YR3/4	暗褐色土	ややハード	粘土質シルト	盛土27層-1
6	10YR2/3-3/3	黒褐色-暗褐色土		炭化物をやや多く含む	盛土27層-2
7	10YR3/4	暗褐色土			盛土27層-3
8	10YR2/3	黒褐色土	ややハード	粘質シルト	盛土28層
9	10YR4/3	にぶい黄褐色土		粘土質シルト En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む、黒褐色土を少量含む	盛土17層
10	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ややハード	粘土質シルト En-aローム主体で、En-aバミスを多量に含む、黒褐色土を少量含む	盛土19層-1
11	10YR2/3	黒褐色土	ややハード	粘土質シルト	盛土19層-2
12	10YR3/3	暗褐色土	ややハード	粘土質シルト En-aバミスを多量に含む	盛土19層-3
13	10YR3/3	暗褐色土		粘質	盛土30層
14	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む	盛土31層-1
15	10YR3/3	暗褐色土			盛土31層-2
16	10YR2/2	黒褐色土		炭化物をやや多く含む	盛土31層-3
17	10YR3/3	暗褐色土			盛土31層-4
18	10YR2/2	黒褐色土			盛土31層-5
19	10YR3/4	暗褐色土			盛土31層-6
20	10YR3/3	暗褐色土			盛土31層-7
21	10YR3/3	暗褐色土			盛土31層-8
22	10YR4/3	にぶい黄褐色土			盛土31層-9

図25 G-G (盛土横断セクション)

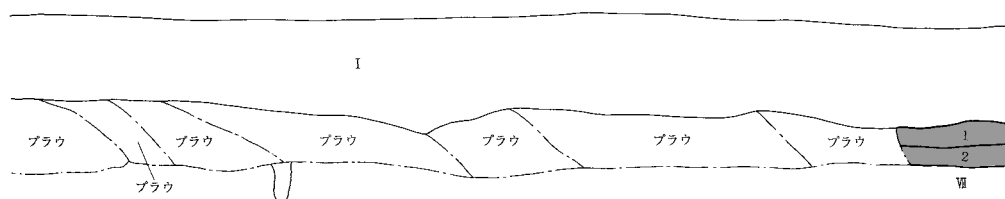
H11.00m

11.00m



10.80m

H10.80m



F地区南西壁セクションの土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/2	黒褐色土		En-aパミスをやや多く含む	SE1
2	10YR4/6	褐色土		VI礫土主体で、En-aパミスを多く含む、黒褐色土を少量含む	SE2

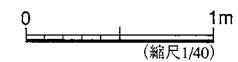


図26 H-H (F地区南西壁セクション)

盛土34層

概要

盛土遺構の北側を薄く覆う黒褐色土主体の層である。今回報告する盛土の層では最も新しい。V a層との区別は、遺物の出土量と、En - aパミスとの混入度合いの違いによる。

焼土

検出していない。

(石井淳平)

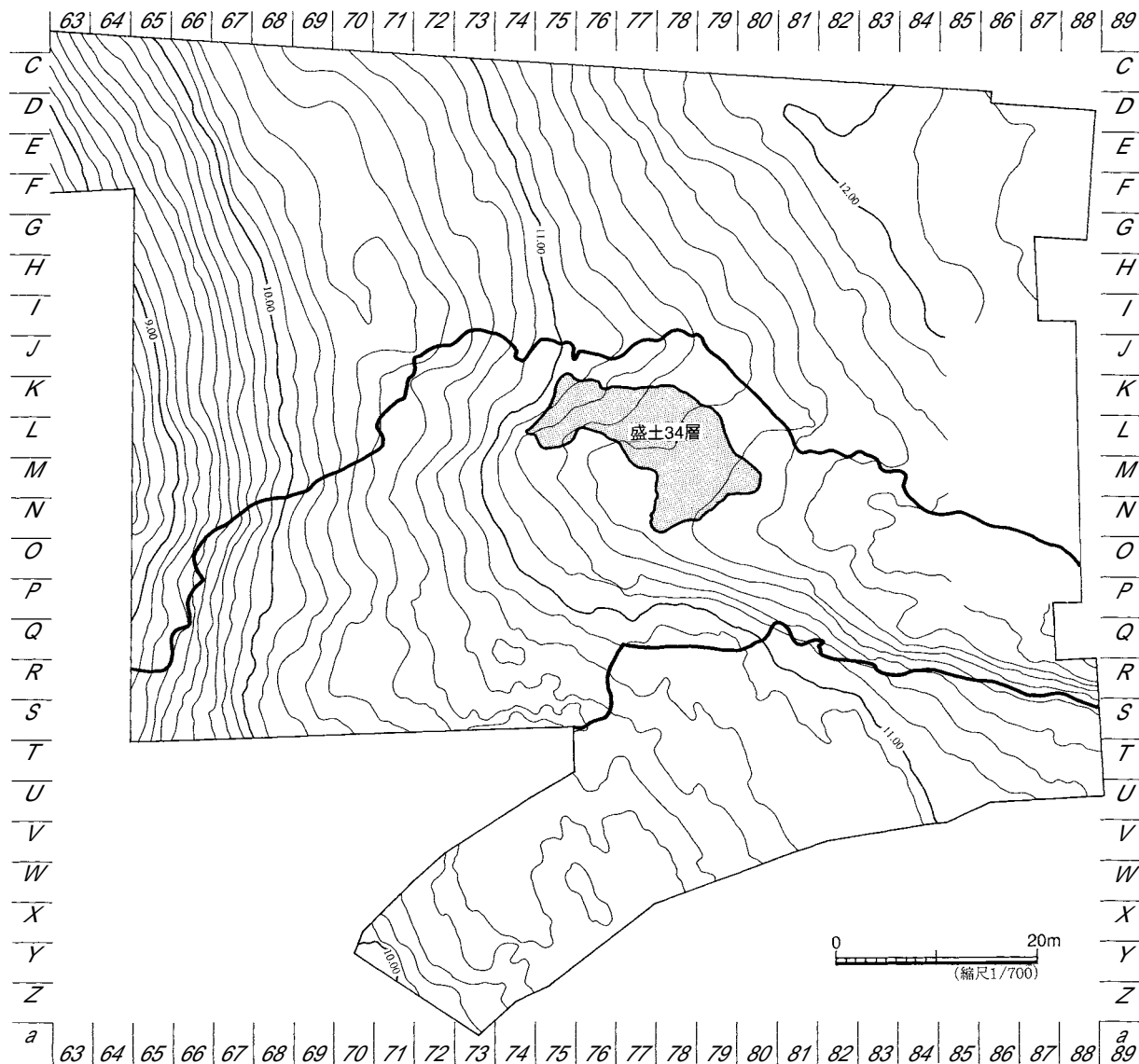


図27 盛土平面図(盛土34層)

盛土35層

概要

盛土5層と36層の高まりの間に埋めるように堆積する、黒褐色土主体の層である。全ての盛土の層の中で、最も遺物の密度が高い。土砂の廃棄量が少なく、盛土5層と36層の間のくぼみに、主に遺物を主体とした廃棄が行われたようである。

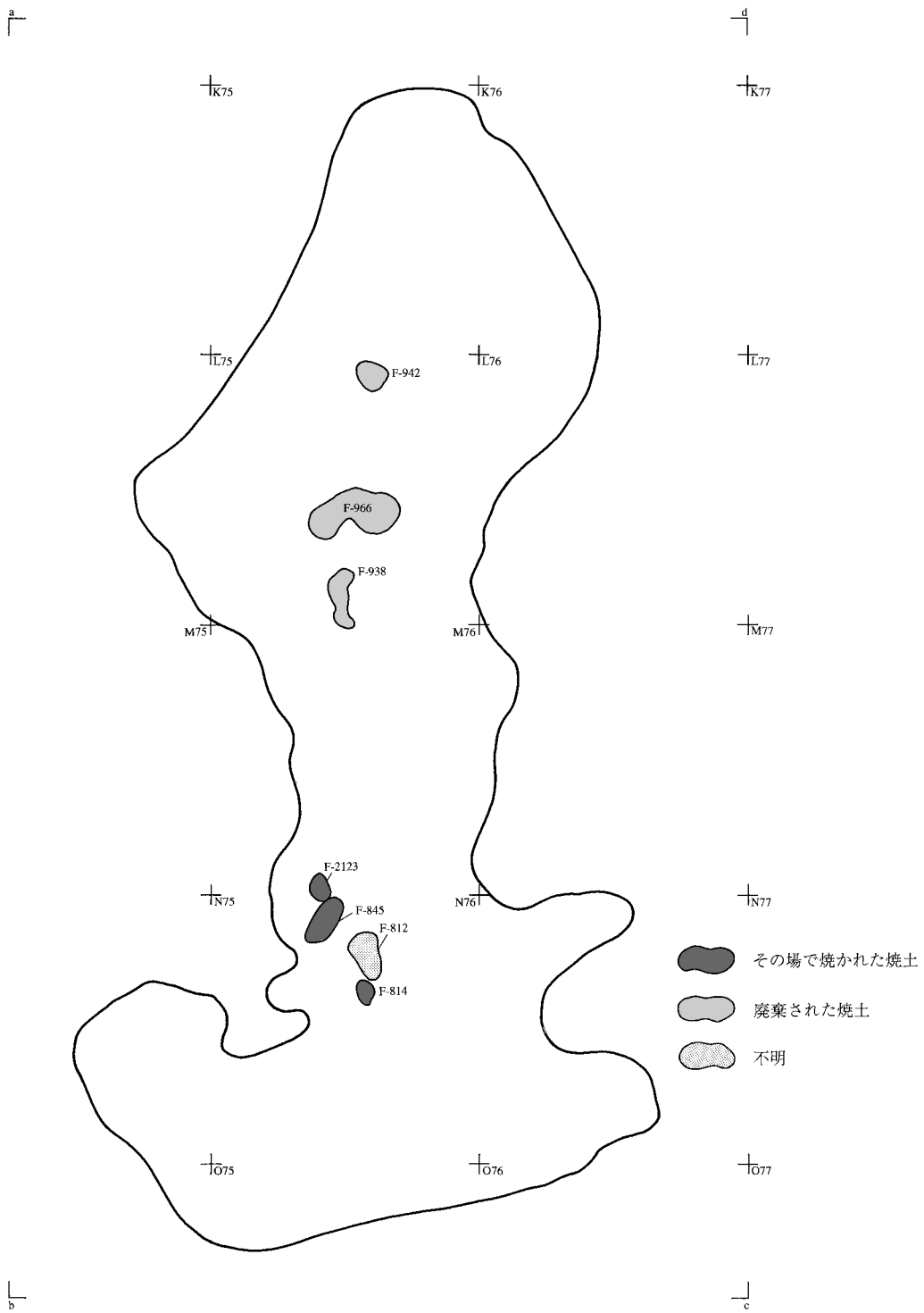
焼土

7カ所で焼土を検出した。その場で焼かれた焼土と、廃棄された焼土の割合は同じである。

(石井淳平)



図28 盛土平面図（盛土35層）



(縮尺1/100)

図29 盛土35層詳細図

盛土5層

概要

盛土遺構の中央付近に厚く堆積する黄褐色土主体の層である。黒褐色土や En - a パミスなどの混入物が少なく、今回報告する盛土遺構の層の中でも最も純粋な En - a ロームに近い。盛土13層との境界面で多くの遺物や焼土が出土した。

焼土

40カ所で焼土を検出した。その場で焼かれた焼土と、廃棄された焼土の割合はほぼ同数で、規模の大きい焼土はその場で焼かれた焼土が多い。

一括土器

一括土器5を検出した。口縁部が下に向いた状態で、一個体分廃棄されていた。（石井淳平）

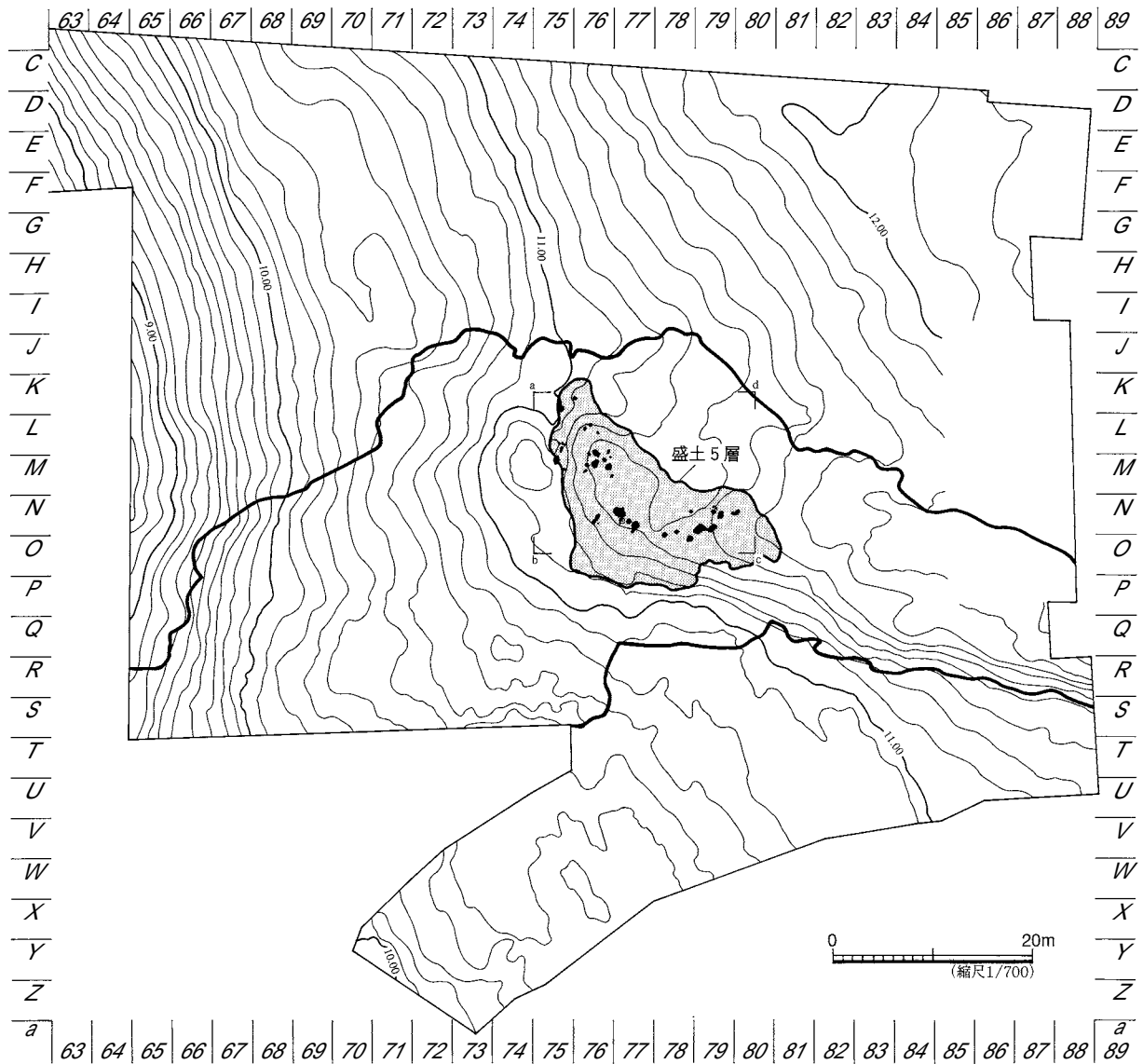


図30 盛土平面図（盛土5層）

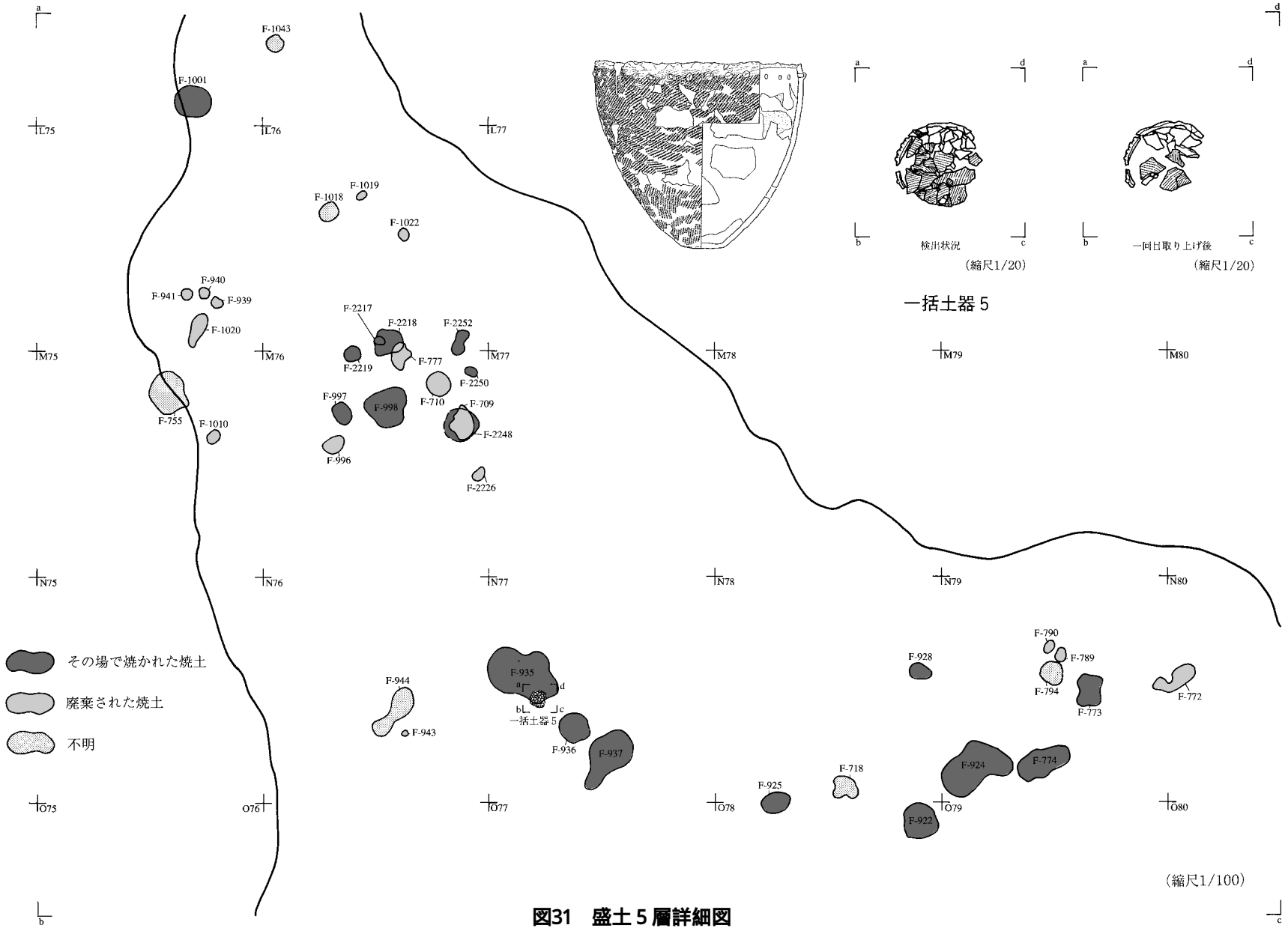


図31 盛土5層詳細図

(縮尺1/100)

盛土26層

概要

盛土遺構の東よりの北縁を東西に長くのびる層である。平成9年度の調査では6層に細分していたが、微妙な土質の違いによる細分であったため、平成10年度の調査時に統一した。黄褐色土主体の層に分類したが、Ⅶ層のEn - a ローム起源ではなくⅥ層の漸移層を起源としているため、暗褐色土が主体である。黄褐色土主体の層の中では遺物密度は低い。

焼土

16カ所で焼土を検出した。廃棄された焼土の割合がその場で焼かれた焼土よりやや多い。盛土26層の東端で検出したF - 391は廃棄された焼土で、非常に広い範囲に広がる。

一括土器

一括土器9を検出した。

(石井淳平)

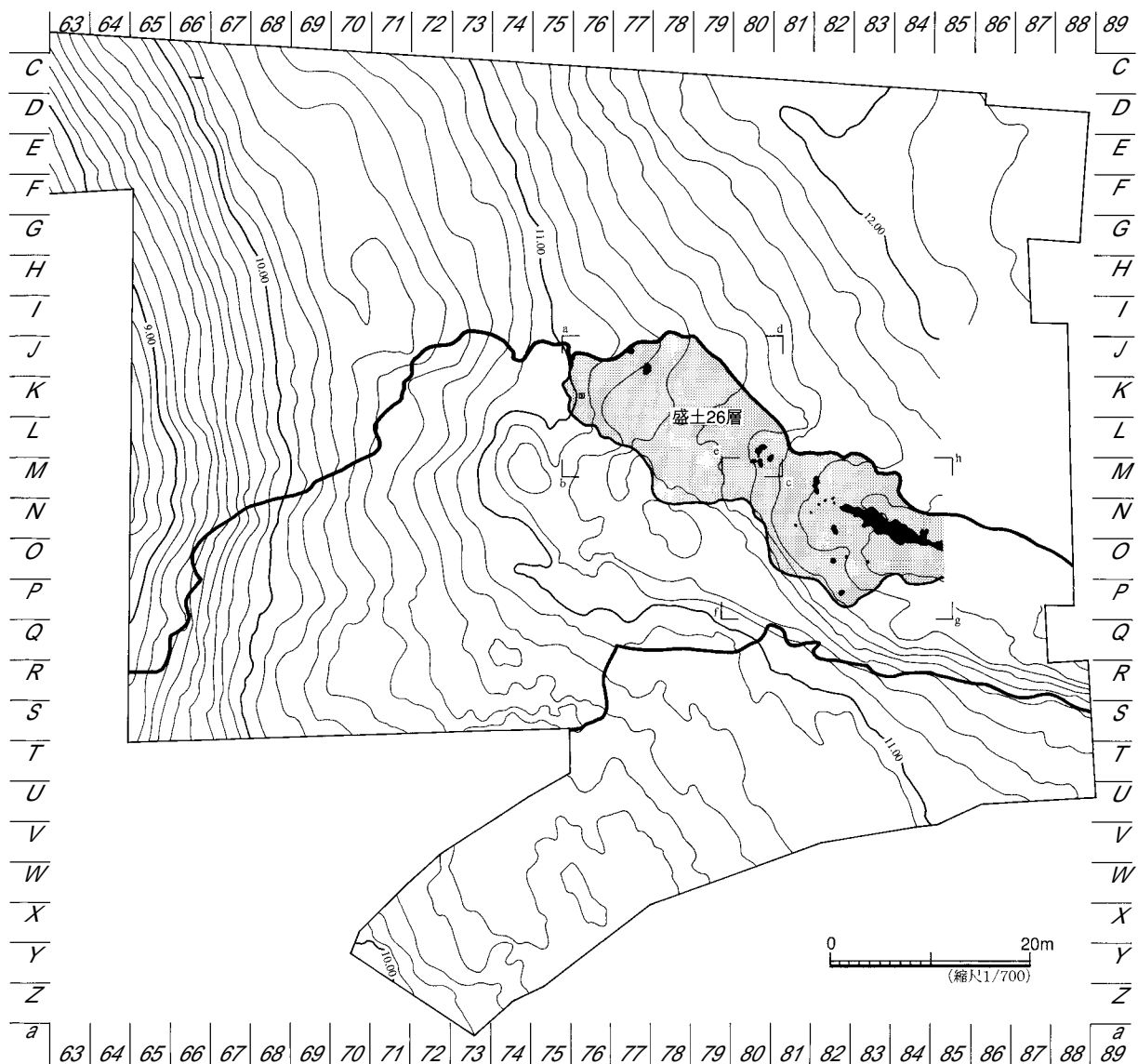


図32 盛土平面図 (盛土26層)

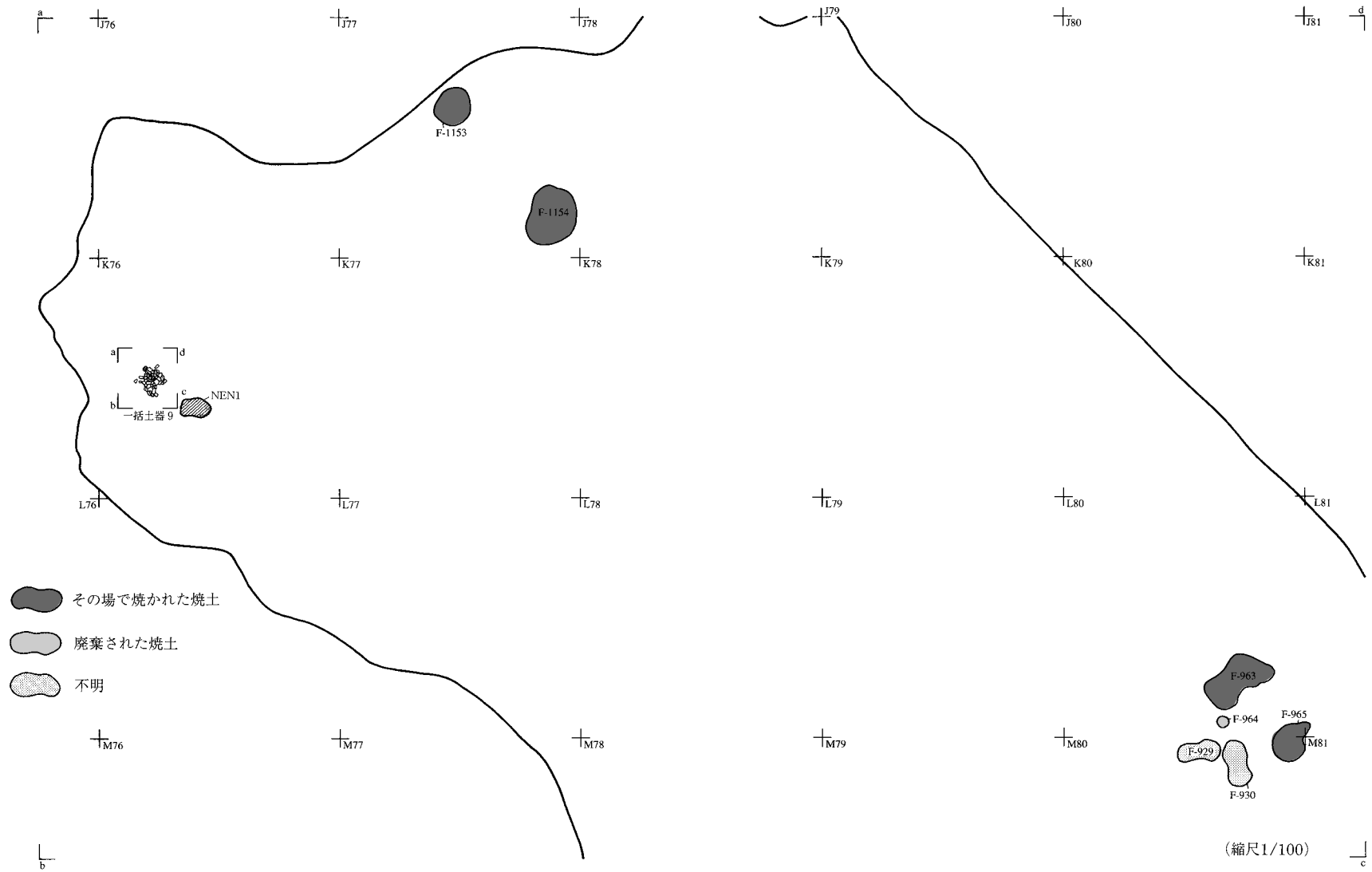


図33 盛土26層詳細図(1)

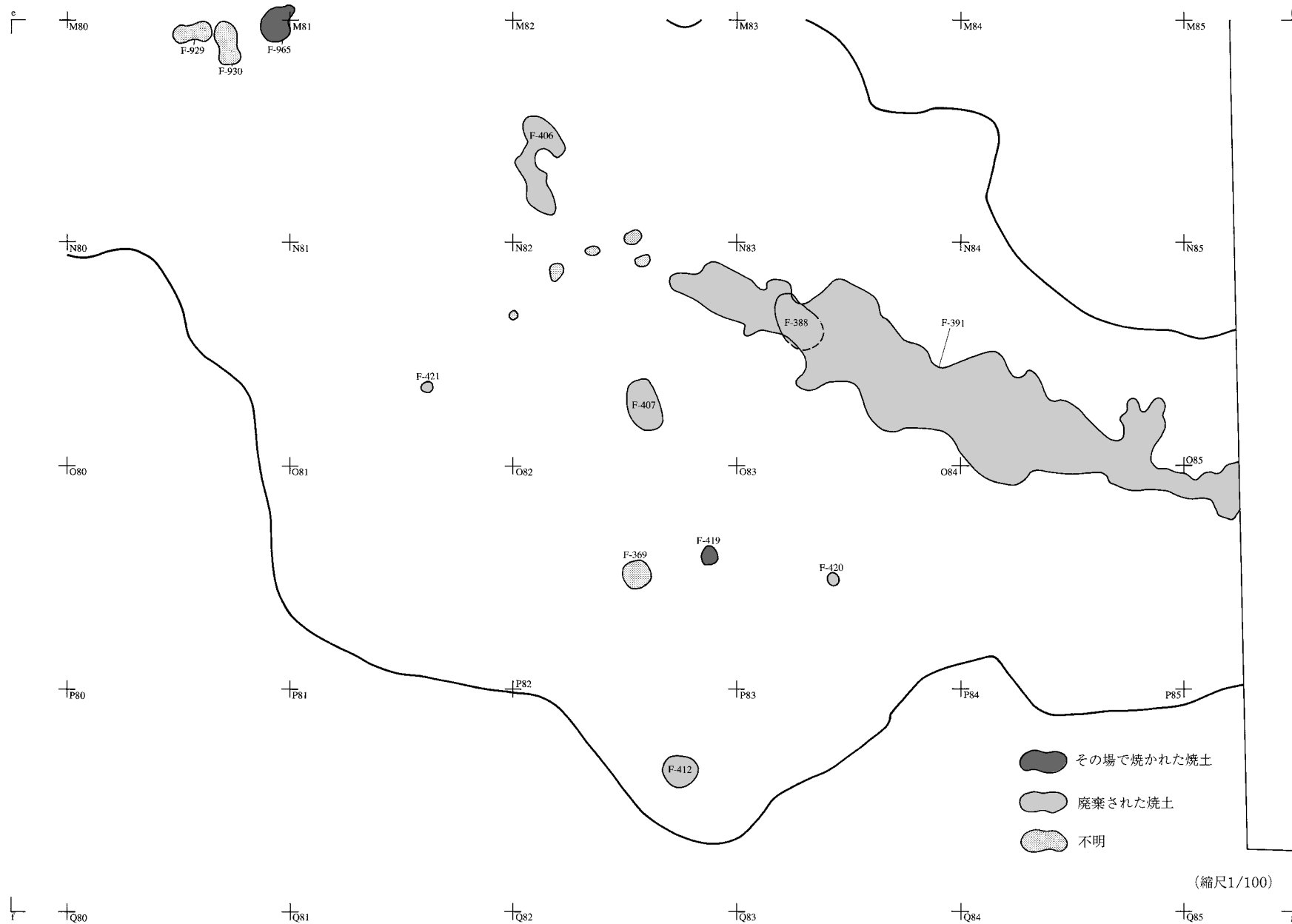


図34 盛土26層詳細図(2)

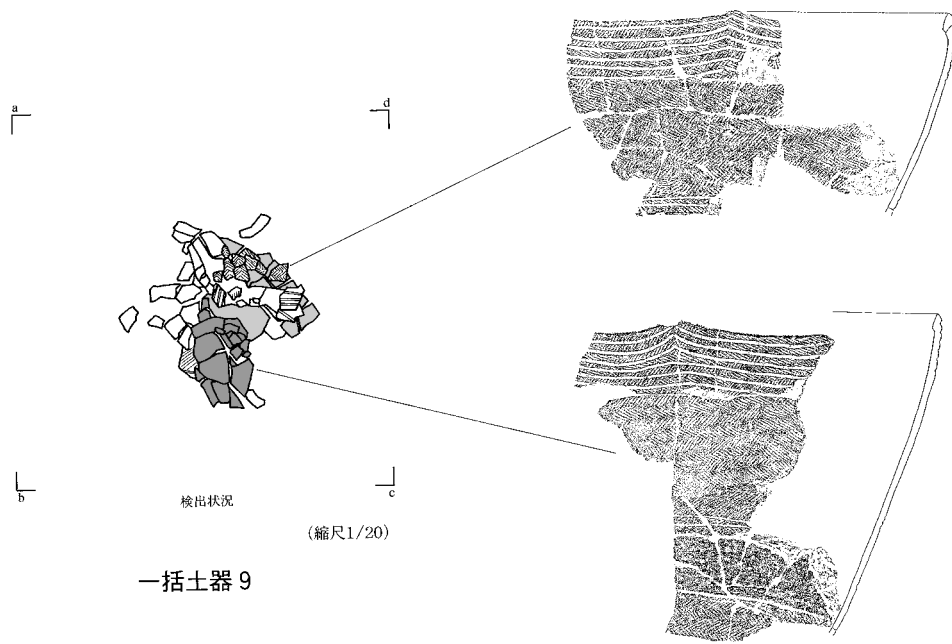


图35 一括土器 9 (盛土26層)

盛土17層

概要

調査区内の東端から盛土遺構南側の縁沿いに、南側に傾斜して細長く堆積する黄褐色土主体の層で、北側の縁は削平を受けている。土色から、盛土5層、36層と同時期である可能性がある。

焼土

検出していない。

(土肥研晶)

盛土27層

概要

盛土26層の下位に北向きに傾斜して堆積する黄褐色土主体の層で、土色が26層よりやや暗い色調であったため分層したもの。26層を堆積方向で細分した層との一つと考えられる。遺物密度は低い。

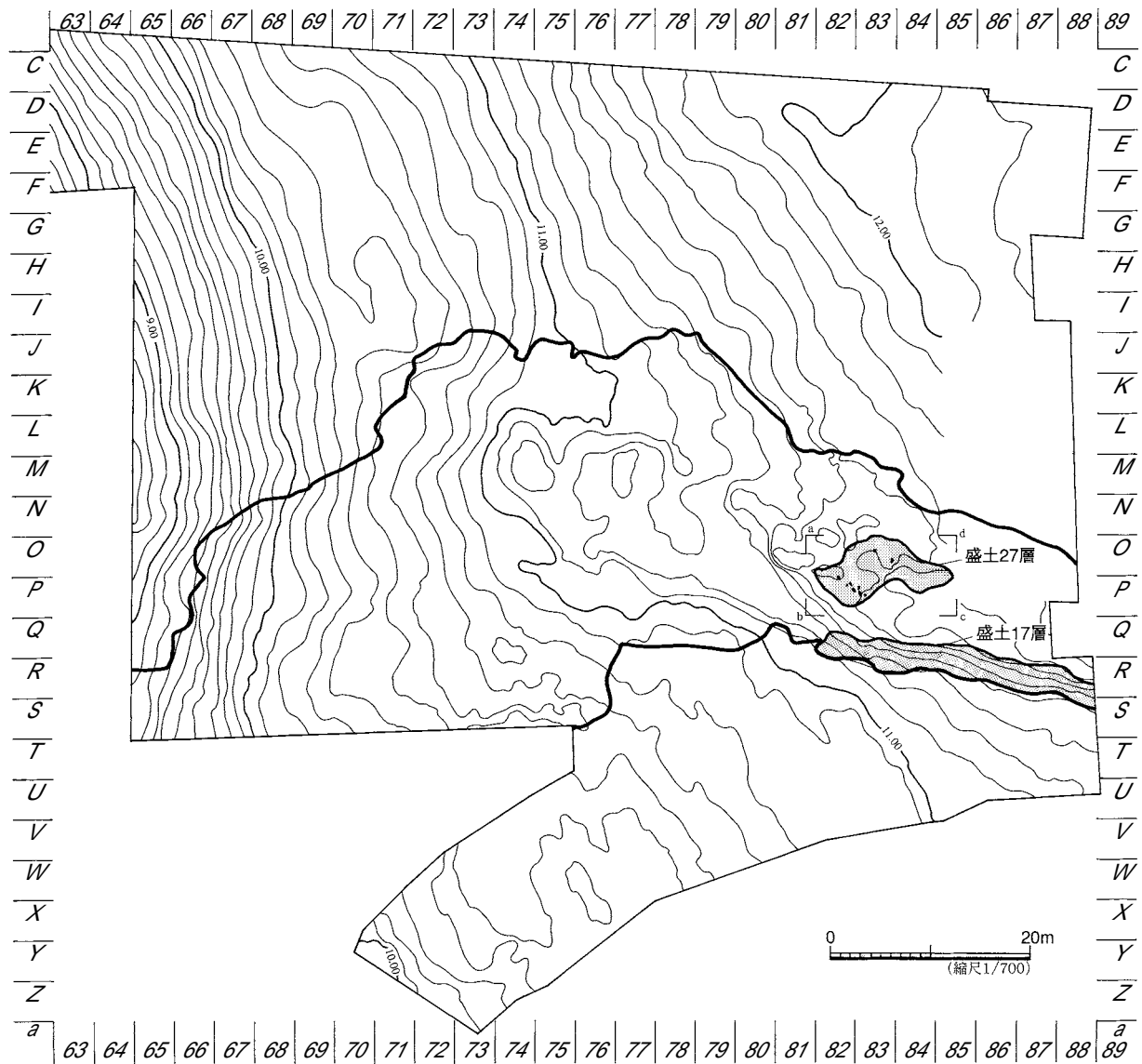


図36 盛土平面図(盛土17層、27層)

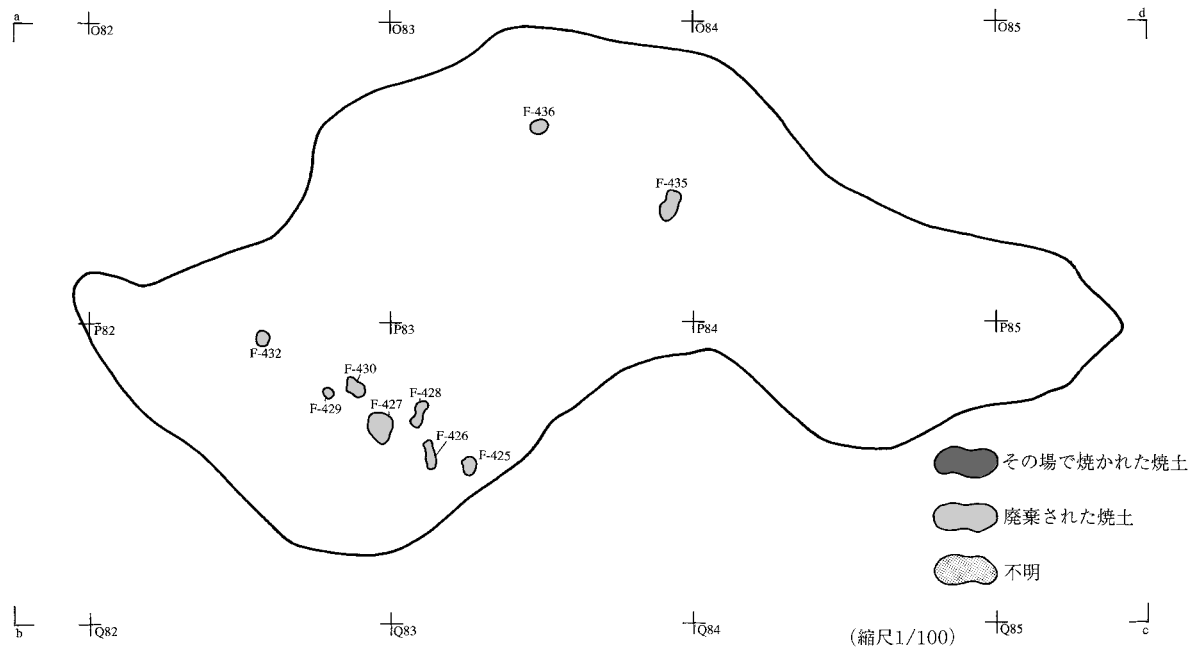


図37 盛土27層詳細図

焼土

9カ所で検出した。全て廃棄された焼土である。

(土肥研晶)

盛土28層

概要

盛土27層の下位に北向きに傾斜して堆積する黒褐色土主体の層。27層と同様に26層を堆積方向で細分した層の一つと考えられる。

焼土

検出していない。

(土肥研晶)

盛土19層

概要

盛土17層の下位に薄い暗褐色土の間層を挟んで堆積する黄褐色土主体の層で、堆積方向と傾きは、ほぼ17層と同じである。調査中に盛土5層を同様の間層を挟んで分層して扱っていたが(後に統合



図38 盛土平面図(盛土19層、28層)

した) 17層と19層の関係もそれに近く、時間差はほとんどないと考える。遺物密度は低い。

焼土 検出していない。

(土肥研晶)

盛土22層

概要

調査区の最東端に堆積する黒褐色土主体の層で、30層の上に重なり南向きに傾斜して堆積する。本層の上には、17層が同じ方向に堆積する。遺物は少ない。

焼土

検出していない。

(土肥研晶)

盛土13層

概要

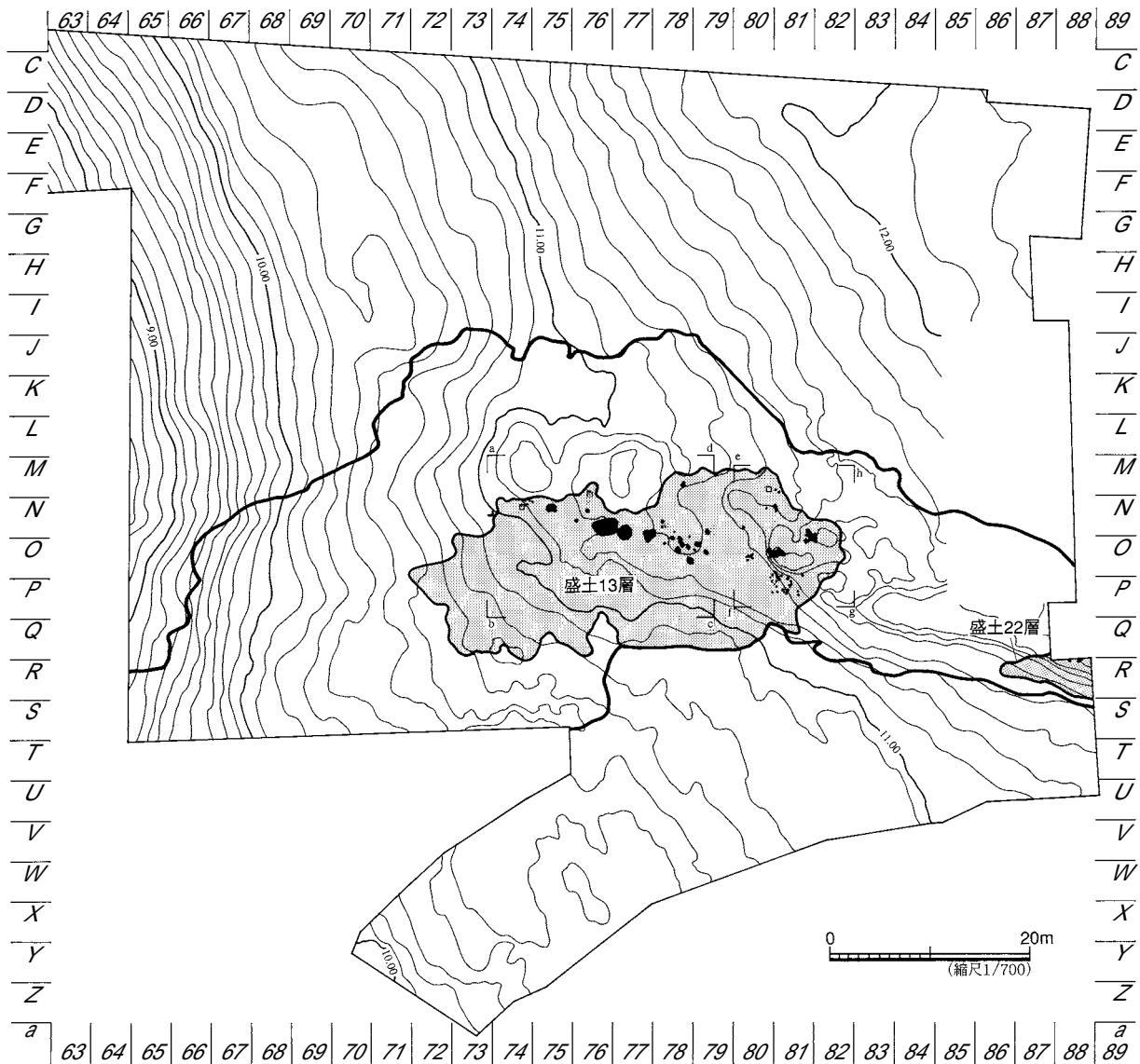


図39 盛土平面図(盛土13層、22層)

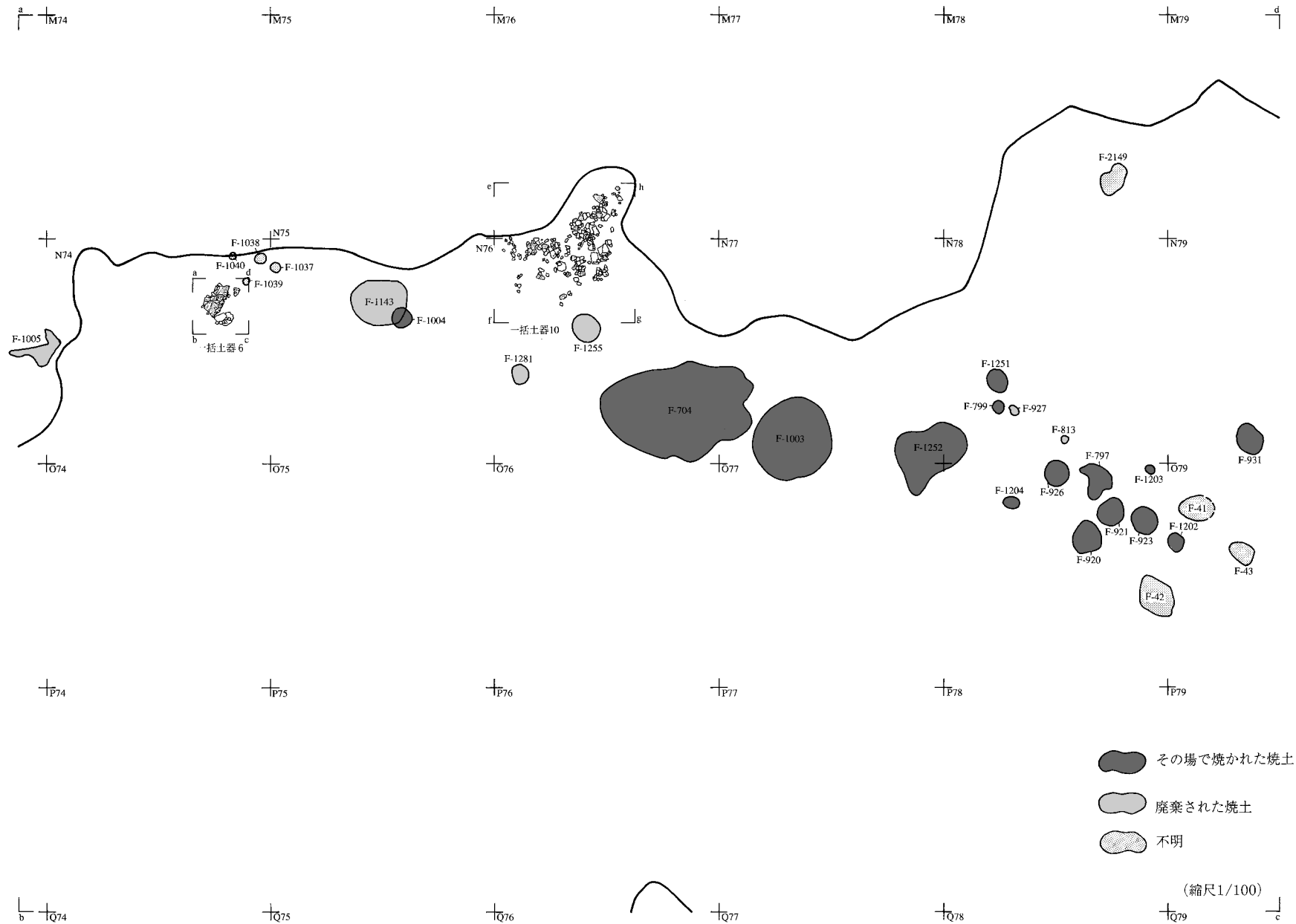


図40 盛土13層詳細図(1)

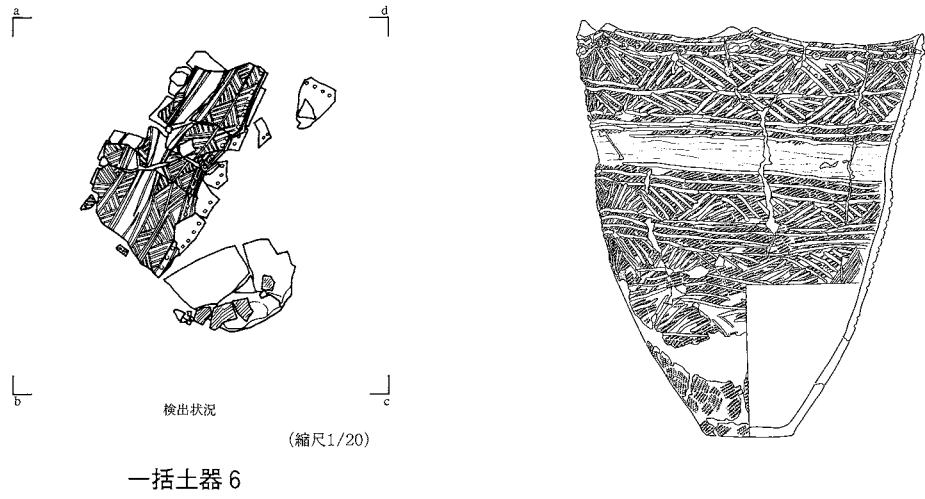


图41 一括土器 6・10 (盛土13層)

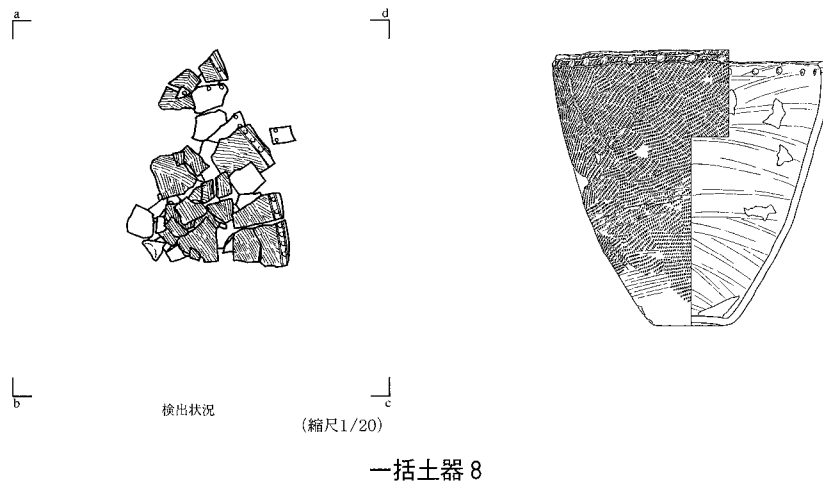
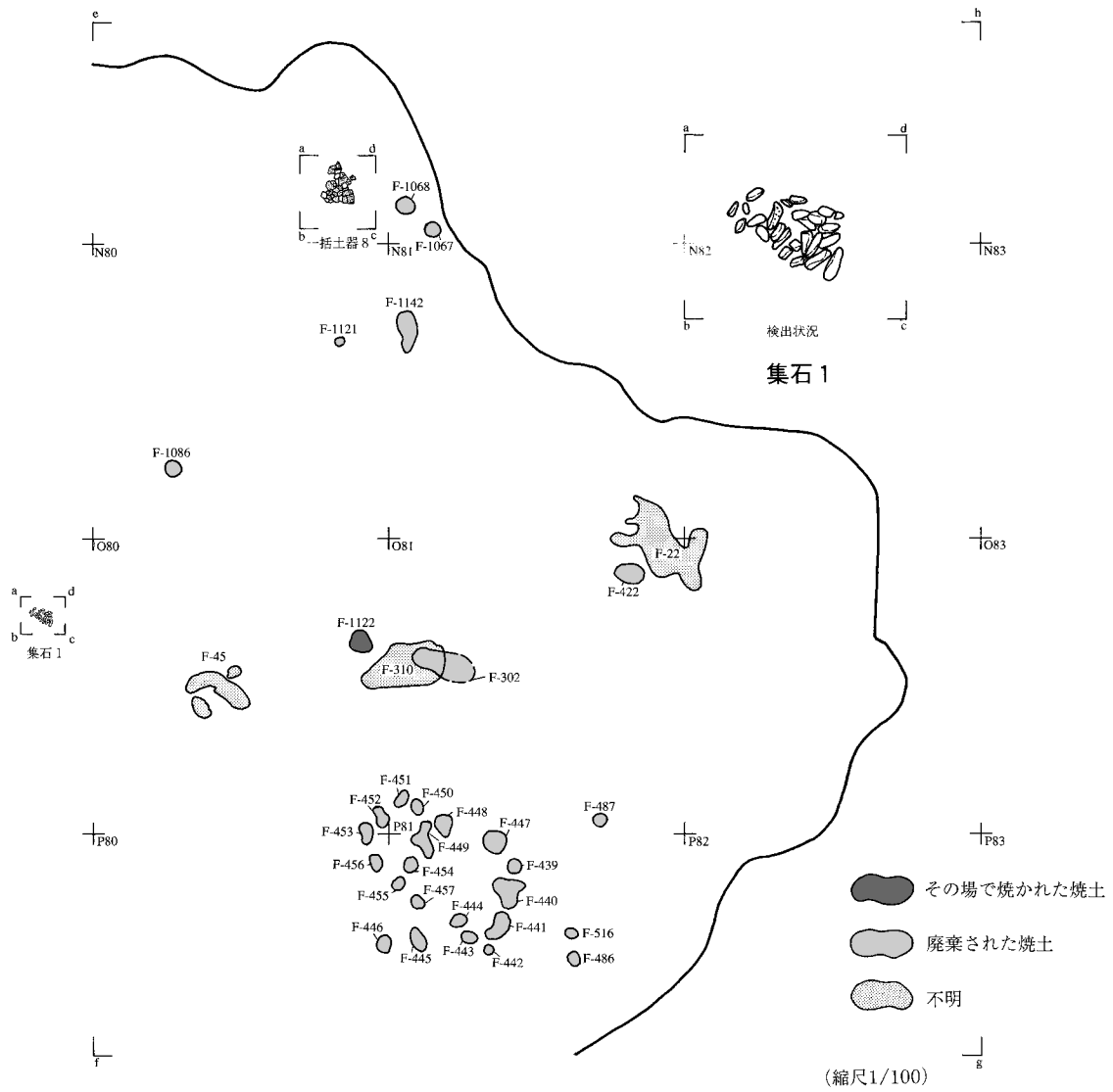


図42 盛土13層詳細図(2)

盛土遺構中央に位置し、広い範囲に広がる。黄褐色土主体の層に分類したが、Ⅶ層の En - a
ロームではなくⅥ層の漸移層起源の暗褐色土が主体である。盛土13層の上面では多くの遺物、焼土
が出土した。盛土13層の上面が一定の期間、盛土遺構の最上面であったようである。上面の遺物出
土状況と比較して層中にはそれほど大量の遺物は含まず、遺物密度は黄褐色土主体の層の中では少
ない部類にはいる。

焼土

62カ所で検出した。数の上では廃棄された焼土が多いが、グリッド P81付近の規模の小さい廃棄
された焼土を全てカウントしているため、それらを除けばその場で焼かれた焼土が多い。

一括土器

一括土器 6、8、10を検出した。一括土器 6、8 はほぼ 1 個体分の土器が廃棄されていたもので
ある。一括土器10は広範囲に遺物が広がっており、複数個体の土器が存在したが、復元できたのは
図示した 1 点のみである。 (石井淳平)

盛土23層

概要

調査区東側22層の下位に堆積する黒褐色土主体の層で、遺物は少ないが、時期は22層と近いと考
えられる。

焼土

検出していない。 (土肥研晶)

盛土33層

概要

盛土遺構の中央付近に位置する黄褐色土主体の層である。盛土36層とわずかに重複しているが、
先後関係は不明である。層中に焼土を伴う黒褐色土の薄い間層を数枚はさんでいることから、短期
間の廃棄行為の結果堆積したのではなく、何度かの廃棄を繰り返して堆積したようである。遺物密
度は黄褐色土主体の盛土としては比較的低い。

焼土

20カ所で焼土を検出した。廃棄された焼土の割合が高い。 (石井淳平)

盛土36層

概要

盛土遺構の中央付近に位置する黄褐色土主体の層である。盛土33層とわずかに重複しているが、
先後関係は不明である。盛土33層と同様、層中に多くの焼土を伴う黒褐色土の薄い間層を数枚は
さんでいる。同じように何度かの廃棄を繰り返して堆積したようである。遺物密度は盛土35層、3層
に次いで高い。

焼土

32カ所で焼土を検出した。ほとんどが廃棄された焼土である。 (石井淳平)



図43 盛土平面図（盛土1層、23層、33層、36層）

盛土1層

概要

盛土遺構の西端に位置する黒褐色土主体の層である。盛土3層と、後述するフラスコ状ピットの掘り上げ土の高まりの間を埋めるように堆積する。盛土遺構西側では最も新しい層で、遺物密度は高い。土砂の廃棄があまり行われず、くぼみに遺物のみの廃棄を行ったようである。

焼土

検出していない。

（石井淳平）

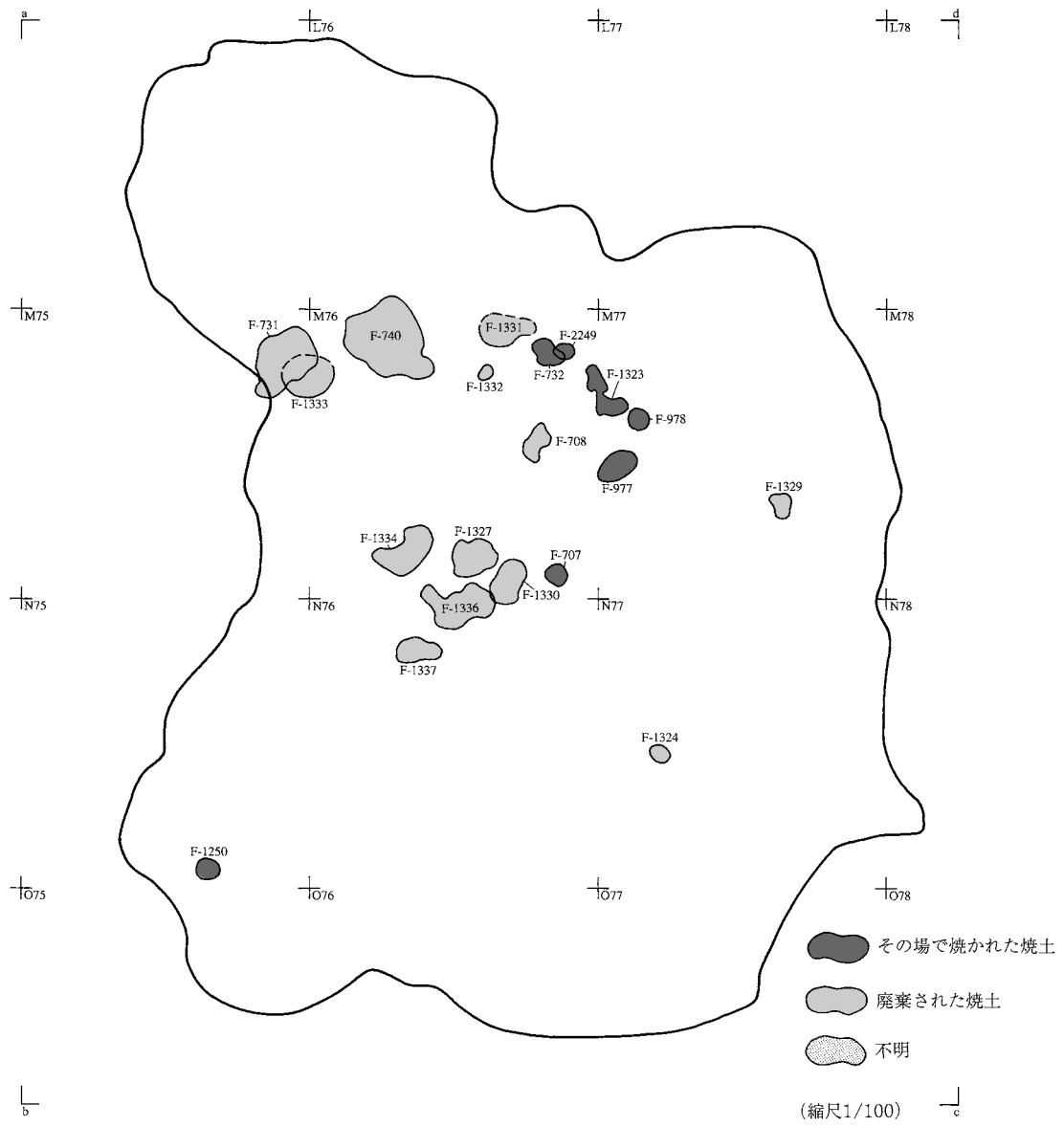


図44 盛土33層詳細図

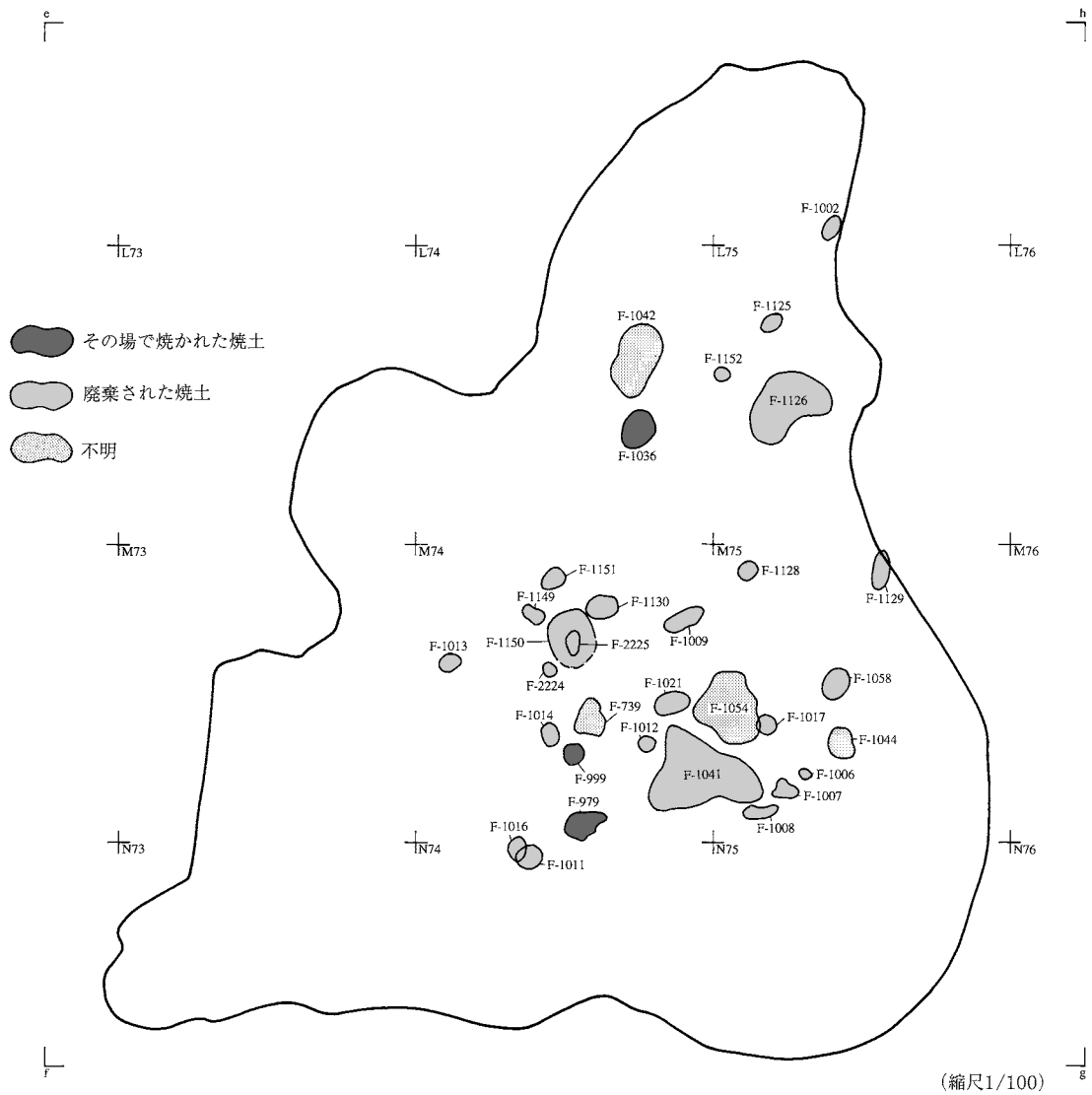


図45 盛土36層詳細図

盛土29層

概要

調査区の東端に位置する黒褐色の主体の層で、盛土30層の上に重なる。遺物密度は低い。

焼土

検出していない。

(土肥研晶)

盛土14層

概要

盛土遺構の南から中央にかけての広い範囲に広がる層である。より細かい廃棄単位に分層することが可能であるが、黒褐色土主体の層は土質や色調の差を認識しにくいこと、耕作による攪乱が著

しく、層の連続性を確認することが困難であることから、大きな単位としてしか捉えることができなかった。西側に広がる盛土4層と遺物密度、土質が似る。遺物密度は下層の黒褐色土主体の盛土の中では最も高い。

焼土

89カ所で焼土を検出した。廃棄された焼土の割合が非常に高い。南半部分は耕作による攪乱が著しく、焼土の多くが消失していた。(石井淳平)

盛土3層

盛土遺構の西端に位置する黄褐色土主体の層である。耕作による攪乱が著しく、盛土遺構は畝の部分に残存していた。遺物密度は盛土35層に次いで高く、特に R66～S68にかけての区域は土器が集中的に出土した。

焼土

検出していないが、付近の耕作土に多くの焼土が混入しており、本来は多数の焼土が存在していたようである。(石井淳平)



図46 盛土平面図(盛土3層、14層、29層)



図47 盛土14層詳細図



图48 盛土3層詳細图

盛土30層

概要

盛土遺構北側の最下層に位置するが、周囲は削平が著しく、周囲の盛土層との関係は判然としない。構成する土壌は暗褐色土で、遺物は少ないが、時期は26層に近いものと考えられる。

焼土

15カ所で焼土を検出した。ほとんどが廃棄された焼土である。 (土肥研晶)

盛土4層

概要

盛土遺構西部分の最下層を広く覆う黒褐色土主体の層である。南西部分は耕作による攪乱が著しい。西側に広がる盛土14層と遺物密度、土層の性質が類似する。遺物密度は下層の黒褐色土主体の盛土の中では盛土14層に次いで高い。

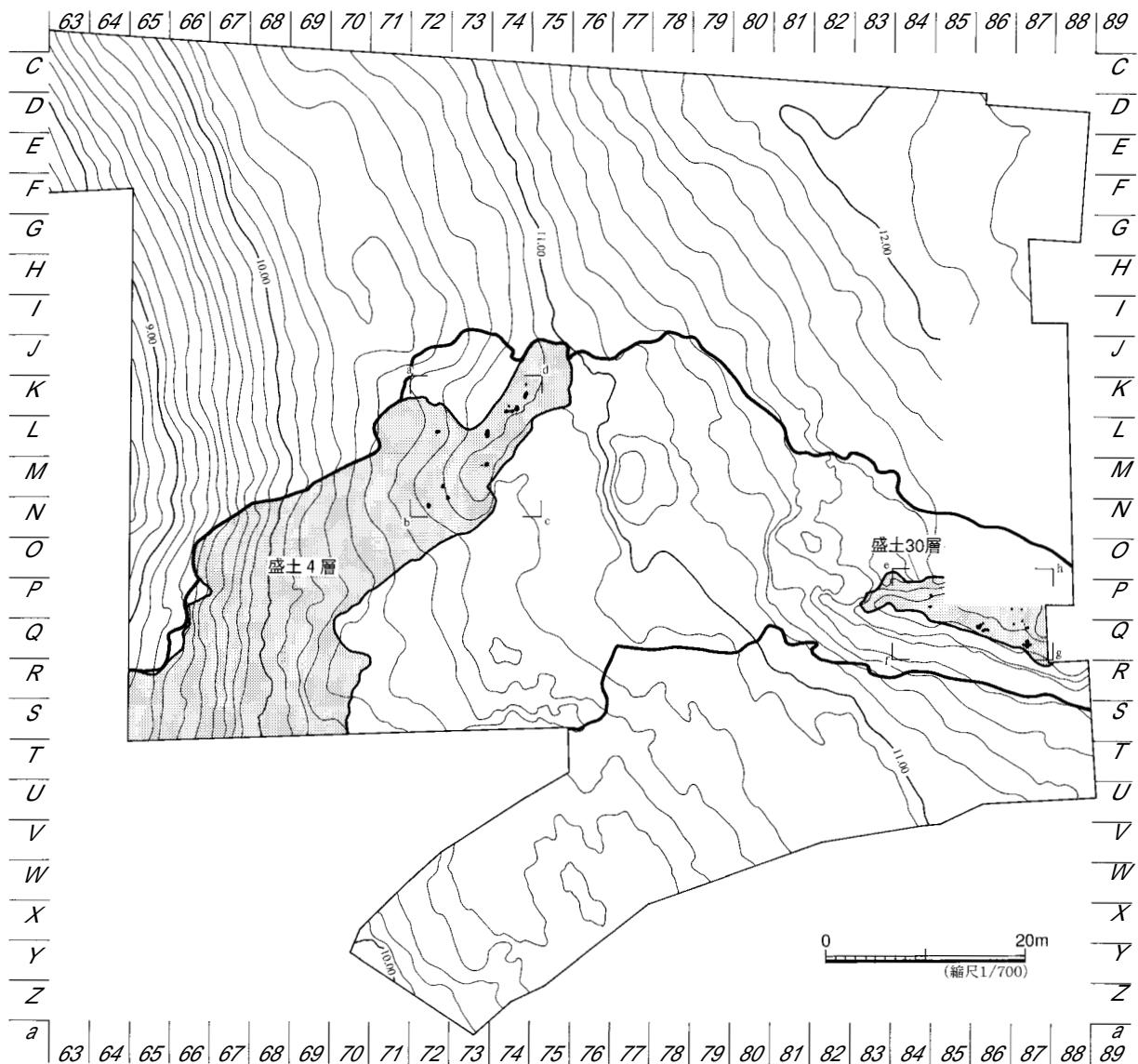


図49 盛土平面図(盛土4層、30層)

焼土

13カ所で焼土を検出した。南西部分は耕作による攪乱が著しく、焼土の多くが消失していた。ほとんどがその場で焼かれた焼土である。
 (石井淳平)

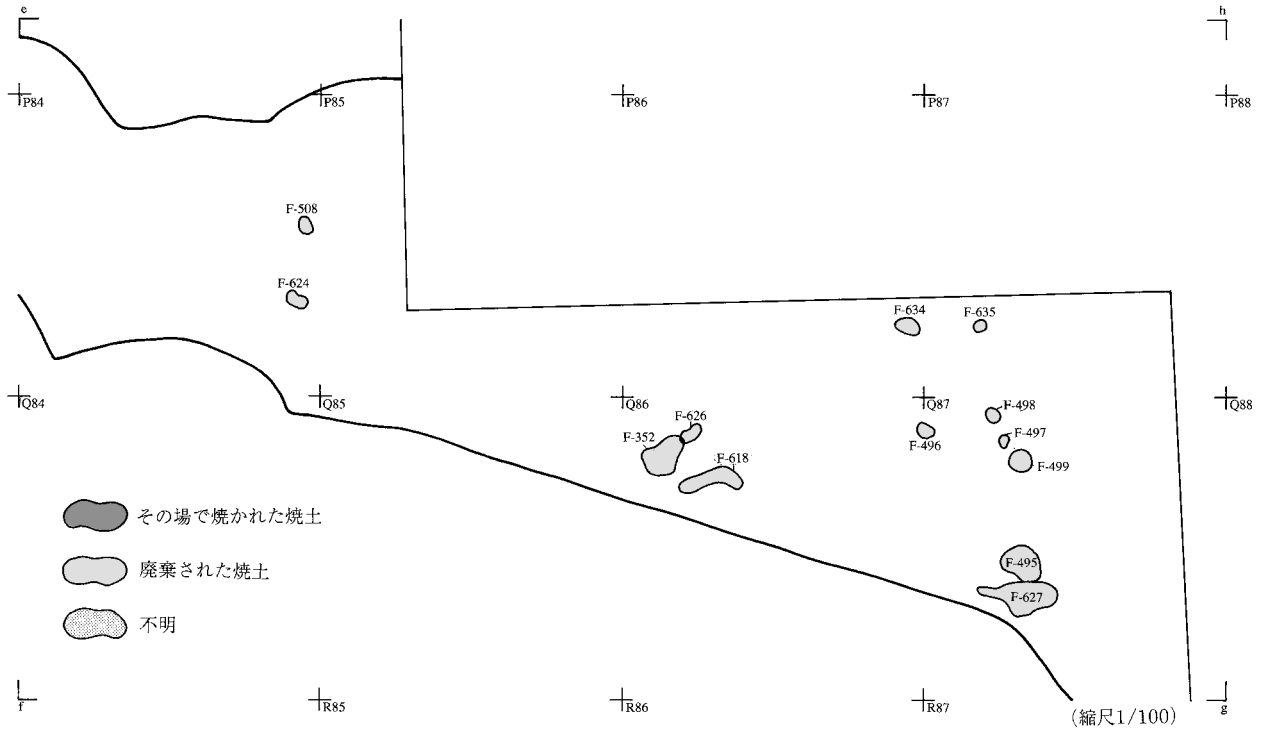


図50 盛土30層詳細図

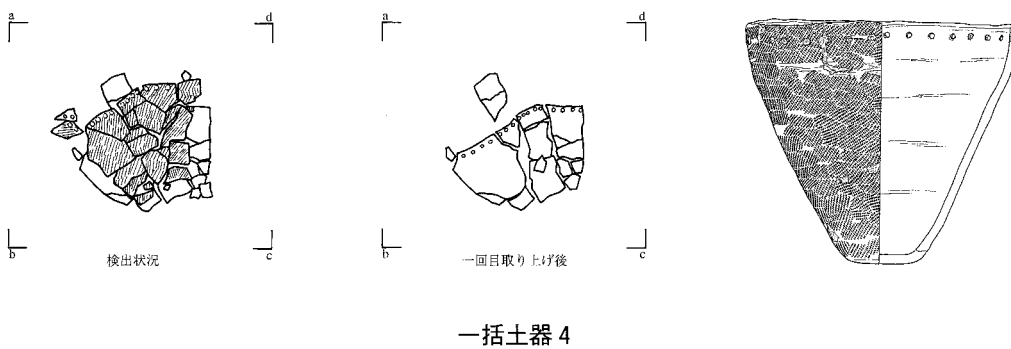
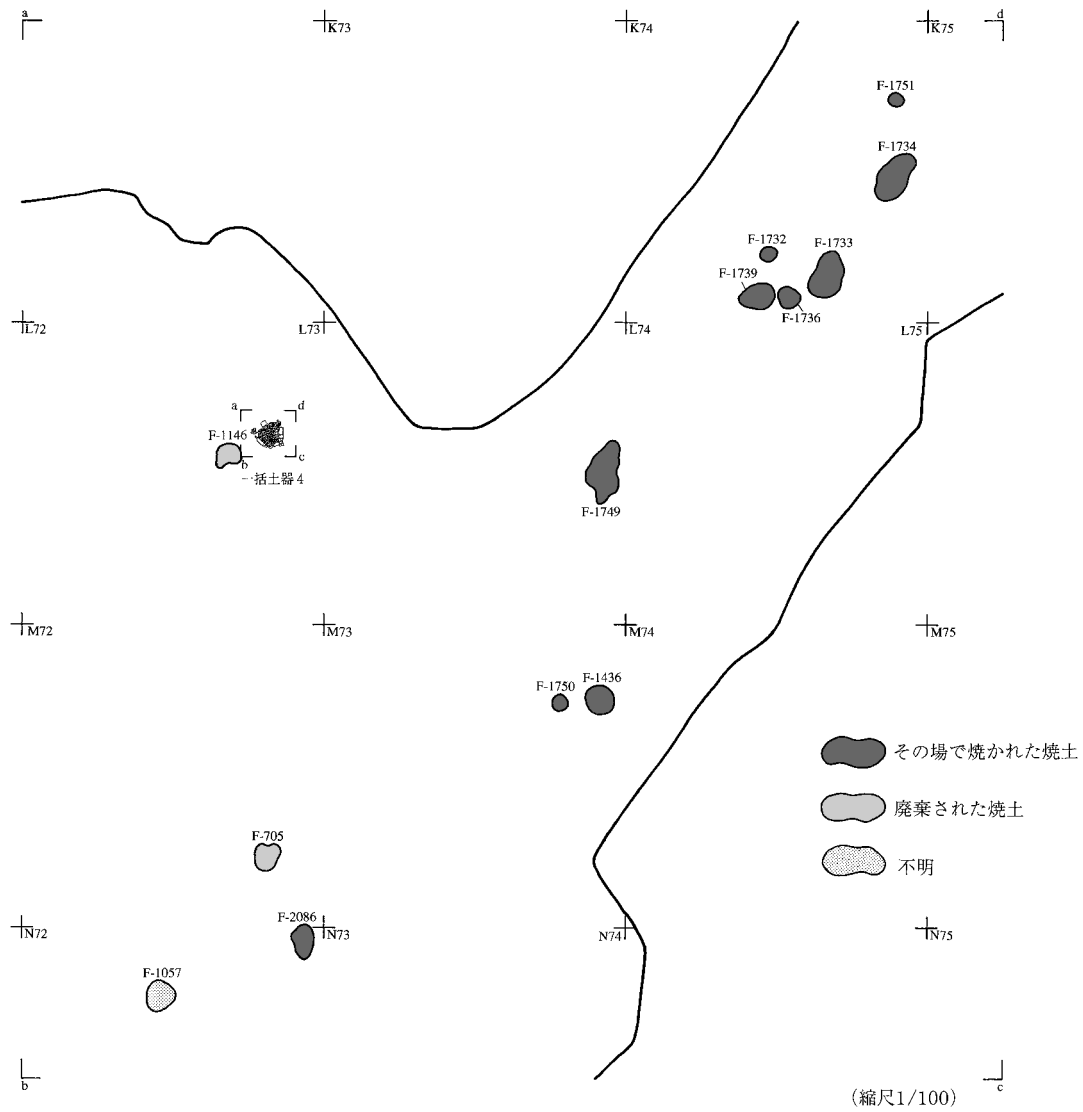


図51 盛土4層詳細図

盛土31層

概要

調査区の東側に位置する盛土遺構の基礎となっている層の一つで、断面は山形に盛り上げた状態で、最上部は削平されている。黒褐色土が主体の層で、この層を境に新しい盛土の堆積方向が南北で異なり、南側には19層、17層が、北側には27層、26層が順番に重なる。遺物密度は全ての層の中で最も低い、小さい規模のはっきりしない焼土が多数重なるように検出された。

焼土

84カ所で焼土を検出した。はっきりしない小さな焼土の多くを廃棄されたものと判断した。

(土肥研晶)



図52 盛土平面図 (盛土31層、32層、37層)

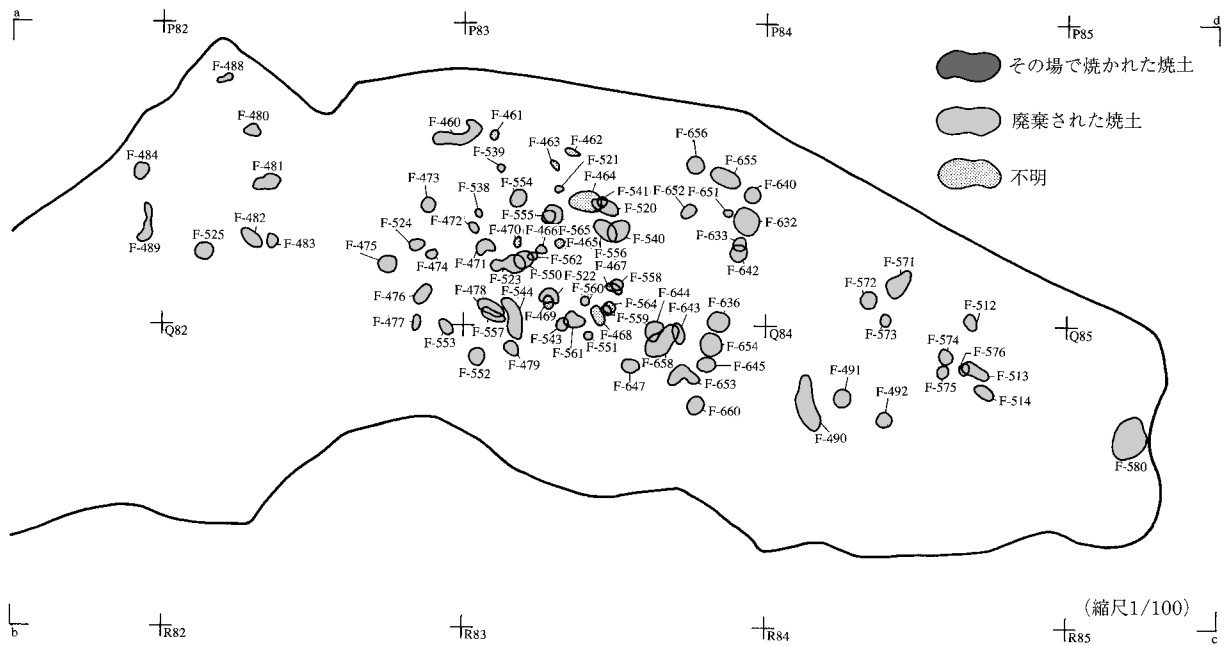


図53 盛土31層詳細図

盛土32層

概要

盛土31層の北側Vb層上面に薄く広がる、En-aパミスを多量に含む黒褐色の層。盛土31層より古い可能性が高い。層中に含まれる細かい土器片からは、図62-15が復元された。

焼土

検出していない。

(土肥研晶)

盛土37層

概要

盛土遺構北側の最下層に位置するが、周囲は削平が著しく、周囲の盛土層との関係は判然としない。構成する土壌は暗褐色土で、遺物は少ないが、時期は26層に近いものと考えられる。

焼土

検出していない。

(土肥研晶)

SE 1、2層

概要

盛土遺構の南側ではⅤ層からⅦ層が存在せず、堂林期の遺物を多量に含む2枚の土層を確認した。上層をSE1層、下層をSE2層とした。SE1層はⅤ層に近い黒褐色土にEn - aパミスが混入した土、SE2層はⅥ層に近い暗褐色土にEn - aパミスが混入した土である。Ⅴ層からⅦ層が何らかの理由で消失し、新たに2枚の層が堆積したものである。SE1層、SE2層は調査区の範囲を超えて南側、西側へ広がる。平成9年度調査のK地区では耕作による攪乱で削平されているため確認されていないが、同じく平成9年度調査のH地区で報告されたHM2がSE1、2層と同じ層である可能性がある。さらに、平成10年度調査のQ・R地区ではパミスを含む黒褐色土と暗褐色土の2層を検出しており、今回の調査で検出したものと同じ土層であることを確認した。呼称も同じくSE1、2層としている。

建物を構成する柱穴のうち、SE2層を切って掘り込まれているものが存在することから、少な

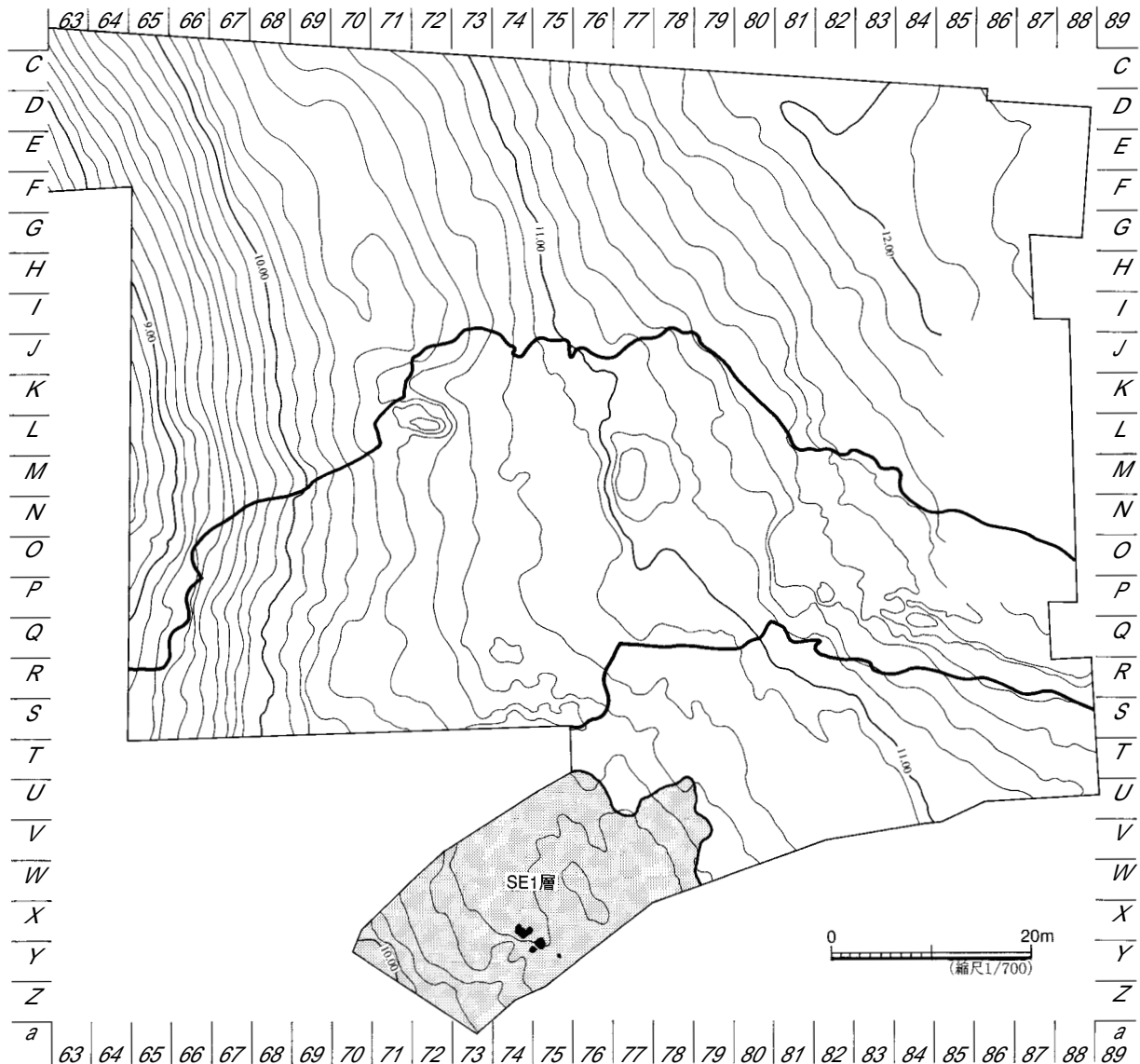


図54 SE1層平面図

くともSE2層はいくつかの建物よりも古い時期に形成されている。出土遺物は中層、上層の盛土遺構から出土する土器と同じ頃の、堂林式の新しい時期のものが多く出土している。さらにSE2層除去後のⅧ層上面に堂林式土器が廃棄されていたことから、SE2層は堂林式期以後に堆積し、一部の建物の構築以前に堆積が終了している。

焼土

SE1層は4カ所、SE2層は8カ所で焼土を検出した。SE2層の焼土は全てその場で焼かれたもので、SE1層の焼土の形成要因は不明となっているが、調査時の印象では、ほとんどがその場で焼かれたものである。SE1、2層の分布範囲は後述する建物の分布範囲と重複し、これらの焼土は建物に伴う炉跡の可能性が高い。 (石井淳平)

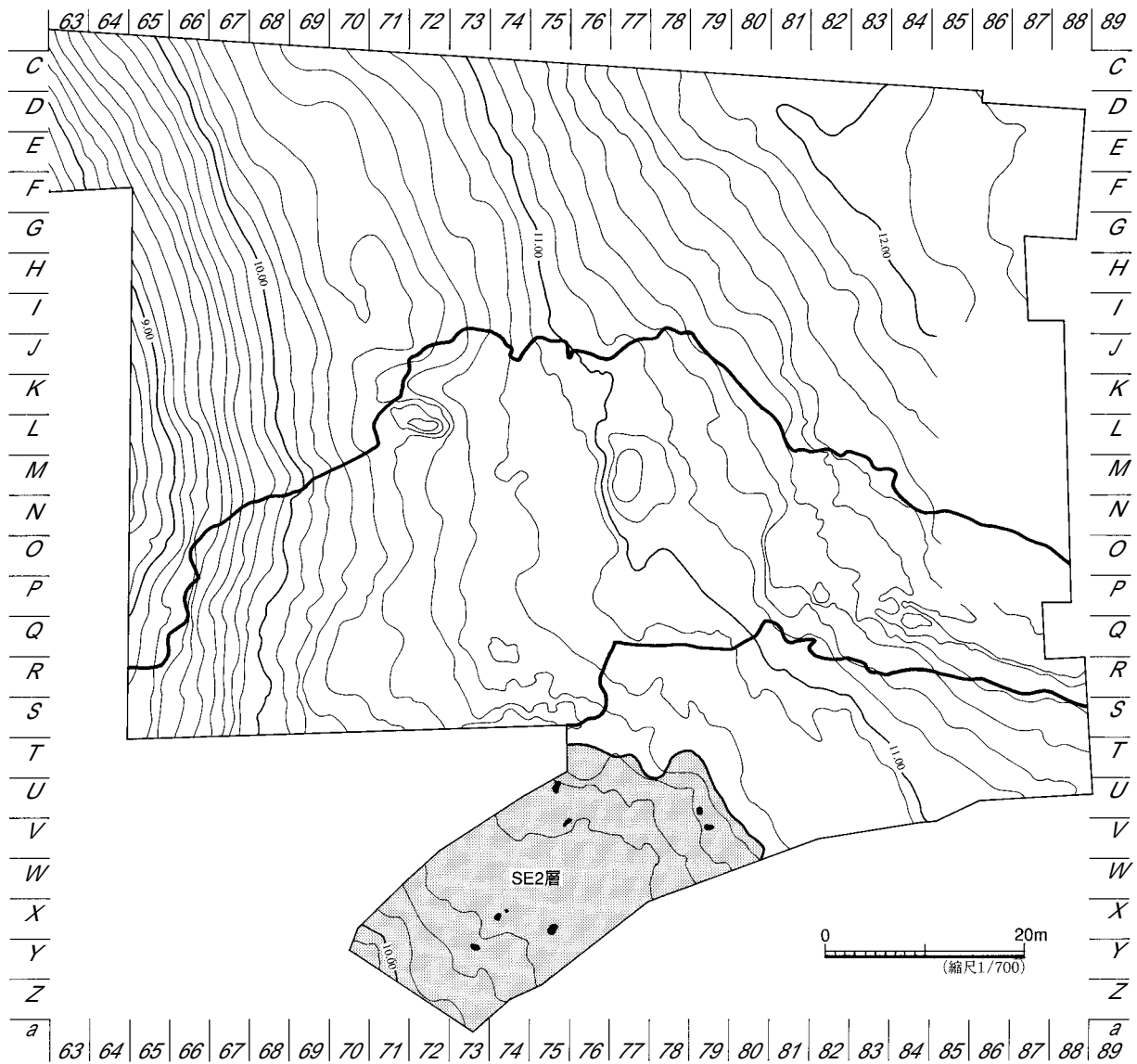


図55 SE2層平面図

2 後期後葉の遺物

(1) 土器

平成7、9、10年度のキウス4遺跡F、G地区からは1,099,536点、総重量にして、約4トンの後期後葉の土器片が出土した。このうち、口縁部や頸部に刻みを有する資料が「エリモB式」に相当するという意見もあるが、特徴的な部位を除くと、「堂林式」との区別が困難なため、まとめて後期後葉の遺物としてあつかった。また、後期末葉～晩期初頭相当と考えられている「御殿山式」相当の遺物もこの数字に含まれている。これらの遺物の大半は、整地層を含む盛土遺構中より出土したものである。図56は、現地調査で、測点した、出土遺物点の全点に、盛土遺構と整地層の線を重ねた図である。本地区は、昭和30年代に行われたプラウによる客土の天地返しの際に著しく受けていた。遺物出土状況図からは、盛土遺構中の南北のN～R列、東西の68～73列にかけて、大きく削平され、盛土中央から、南西の方向に連なる遺物集中域が、分断されていると推測される。

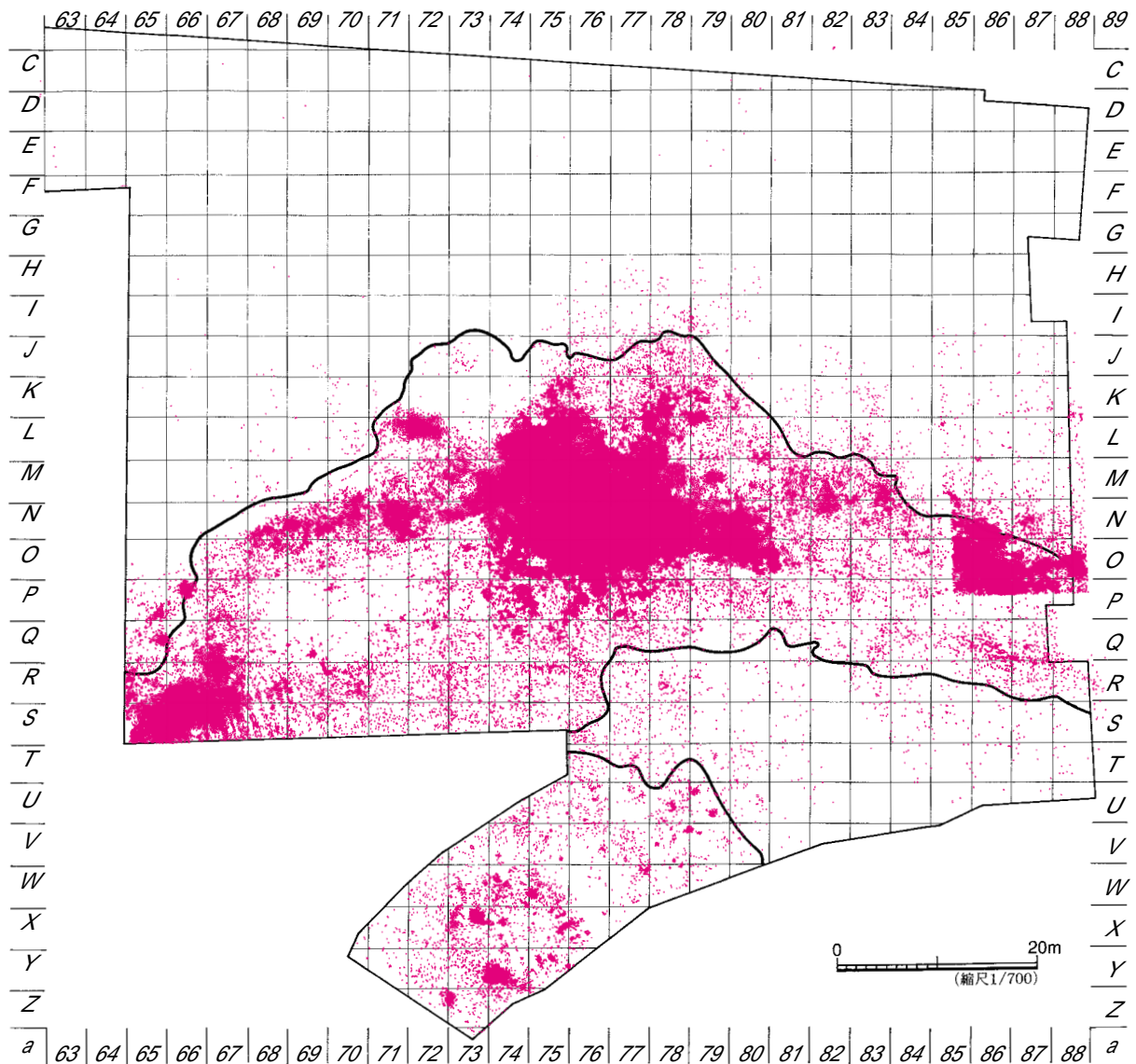


図56 遺物出土状況図

そのためか、削平された地域をまたいだ遺物の接合例もしばしば見られた。また、図には遺物が集中して出土している箇所が散在している。これには、遺構の覆土中に落ち込んだ遺物が含まれている。L72付近の集中は、P - 139の覆土上部に落ち込んだ盛土の遺物で、周りは遺物は、耕作で飛ばされ、やや深い位置のものが、残った状態である。P、Q列の65、66付近の、3か所の遺物集中は、P - 129、130、131の覆土上位に落ち込んだ遺物である。T列より南側に見られる遺物が集中する箇所は、建物群の柱穴の埋土中に混入している遺物の出土状況である。建物3～5付近には、さほど目立った集中ではないが、直径約12mで環状に遺物が分布している。平成7年度に調査したF地区の遺物密度が濃く現われているが、これは、7年度が全点測量したのに対し、平成9、10年度は大型の破片のみ測量した差である。出土した遺物を接合した結果、300個体を越える土器が復元できた。しかし、その接合内容は必ずしも現地調査での盛土の分層を反映するものではなかった。これらの土器を報告するにあたり、盛土遺構の層位の新旧関係や土器の変化の様相を踏まえた上で、遺物の大半を、盛土層位の上中下、の3つに分け、さらに、貼瘤文や爪形文などの、新しい文様要素を持つ土器を最後に2つにまとめ掲載した。なお、本項に掲載した土器の実測図、拓本図のスケールは1：4で統一している。ミニチュア土器などは、土製品であらためて1：2で掲載している。最初に掲載した土器は、北側盛土遺構のなかでは最も古手と考えられ土器で、主に盛土4、14層から出土したと判断された土器が主体である。中には、盛土28～32層の遺物も含まれるが、遺物量が少ないため目立たないものとなった。掲載番号は、図60 - 1～図92 - 453で、口縁部や頸部に刻みを有する土器の大半もこの中に含まれる。2番目は、主に盛土13、26、33層から出土している土器と判断したまとめりで、資料的には口縁部や頸部の刻みが無くなる時期に相当する資料と考えられる。なお、接合の結果、上位から下位の層まで接合し、出土層位の判断に迷った土器もここに含めたため、資料的には、いくぶんまとめりに欠ける内容となった。掲載番号は図93 - 454～図135 - 1074である。3番目は盛土1、3、5、34、35、36層から出土した土器である。盛土遺構の中では上位の層なので、耕作による攪乱を受けているせいか復元された個体は少ない。SE1、2層の遺物もここに合わせて掲載した。掲載番号は、図136 - 1075～図160 - 1549である。4番目は、文様に貼瘤文を有する資料か、あるいはそれに相当する時期と考えた資料である。時期的にこれらの土器が堂林式の範疇から分離出来るかについては、問題が残る。掲載番号は、図161 - 1550～1578で、資料数は少ない。最後に掲載したのは、文様に爪形文や、三叉文、A状の突起などが現われる「御殿山式」相当の土器である。掲載番号は、図162 - 1579～1611で、これも資料数は少ない。掲載した土器の大まかな特徴は一覧表にまとめた。表では、同一個体片と考えられる掲載番号の枠をはずし、1～1611まで連番に載せ、層位には、接合した破片の出土した層をすべて記入した。調査区には出土したグリッドをすべてを、アルファベット順に載せた。ただし、南側盛土遺構と接合したものについては、グリッドではなく南側盛土遺構と記し、遺構の破片については、遺構名を記した。器種は次の四つに分けた。1は頸部を有する鉢、2は頸部のない鉢、3は注口形土器、4はその他の器種とした。器種ごとの各部位の名称は、口縁部、頸部、胴部、底部、台部と便宜的に分け、合わせて図57に記した。注口形には、ドーナツ状の胴部をもつ特殊な器種や、鉢に注口が付いた形も含む。壺形土器は南側盛土遺構で少数が確認されているが、注口形土器との識別は、十分な破片がそろわなければ困難で、ここに含まれている可能性が大きい。また、注口部が付けられる位置に孔が空けられた単孔壺（掲載番号995）もここに掲載した。4には、片口形土器や、香炉形の土器等が含まれる。香炉形については、後期後葉の在地の復元例が今のところ無く、香炉状の構造を口縁部に持つ注口土器片である可能性も強いと考えている。この他に、R地区では、下部単孔土器も確

認められている。器形は、縄文時代後期中葉からの、流れを、受け継ぐ内容だが、口縁が花弁状に開き、胴上部が張り出す中葉独特の深鉢形土器はほとんど姿を消したと考えられる。突起単位には、復元された個体にのみ突起の数を数字で記した。カッコ内の数字は推定数である。このうち、大小の突起が交互に付されるものは、大きい突起の数のみを数え、波状口縁の波頂部の間に小突起が付されるものについては、それを数えていない。突瘤文の有無には、口縁部に突瘤文のある土器に印記した。本地区からは、外側から刺突した土器が出土しなかったため、突瘤文はすべて内側からのものを表す。地文の項目には、施文された縄文の分類を記した。後期後葉で使われる縄文のほとんどがRLかLRまたはそれらを使った羽状縄文で、特に羽状を意識していないと考えられる施文については、RL・LRと記した。その他の地文については具体的に記し、無文の土器については、無文と記した。口縁部の刻み列については、その列の数を、口縁部の沈線については、口縁に併行するものと、口縁にたいし平行に付されたものを合わせた本数を記した。ただし、突起部分にのみ施される沈線文はこれに含めていない。頸部の刻み列については、その列の数を記した。頸部の沈線は、そこに摩り消し帯を有する場合はその上下に施される場合が多いが、ここでは下位の沈線数のみを数で記した。器面に施される文様は、ほとんど沈線文が用いられ、縄の圧痕はまったく見ら

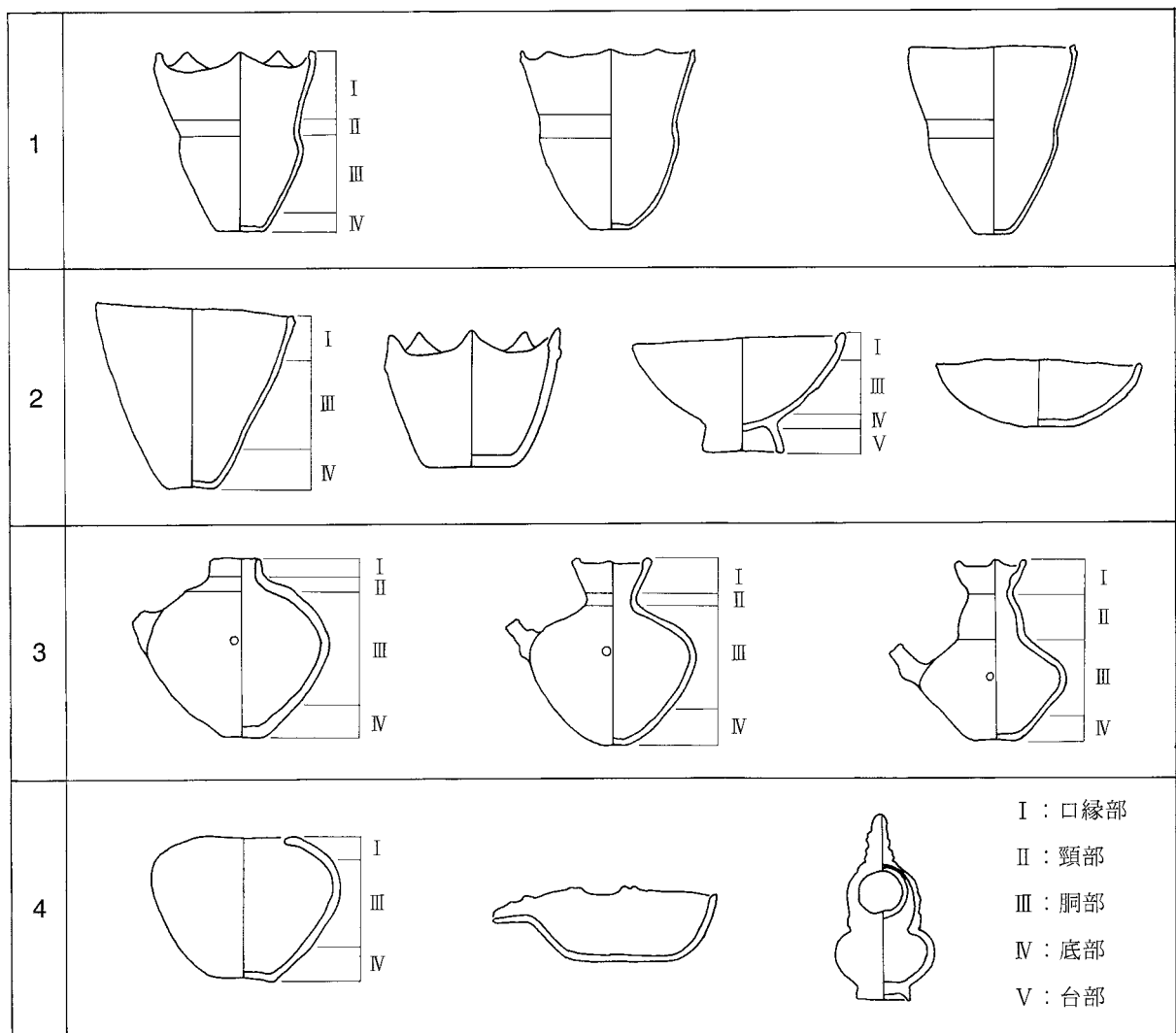


図57 器形分類模式図

れなかった。

ここでは代表的な文様を模試図化し、その番号を表に記した。なお、文様の記号は、縦横の順に表記している。文様は、口縁部、頸部、胴部、底部、台部毎に記入し、0は、口縁部、頸部、底部が無文の場合とした。特に底部では、沈線等で区画した上で無文帯を残した状態のものに限定した。このような施文は、古手の深鉢形土器にしばしば見られる。1は、平行あるいは斜行する沈線文で、1-1では、口縁部、頸部の沈線として数えられたものは、極力省いた。1-3は、数条の沈線が束になった状態の文様である。2は、格子目文で、2-3、数条の沈線で格子目状に施文した文様とした。3は、矢羽状に施された沈線で、3-2は、2条1組の単位のもの、3-3は、曲線的なものとした。4は、鋸歯状の沈線文。後の多重の山形沈線文と重複部分もあるので、主に1~2条の沈線で施文されたものに限定した。例外は、掲載番号931で、これは三重の鋸歯状沈線文と考えられる。4-1・2は横位に、4-3・4は縦位の状態のものである。矢羽状の沈線が左右、鋸歯状の沈線が上下にそれぞれ展開すると、同じ菱形の沈線文様となるが、この場合は、沈線の筆順で区別した。5は、蛇行沈線文で、5-1は、横位、5-2は縦位に施されたものとし、5-3は幅を持たせたものと、沈線化したものを兼ねた。5-4は、多重化した文様とした。6は、弧線文とした。これも、多重の弧線文と重複する部分があるので、1~2条のものに限定した。7は、多重の弧線文である。7-1は、上下の展開、7-2は大小の弧線の組み合わせ、7-3は、弧線が向かい合う状態の上下の展開、7-4は、互い違いに施文された状態のものとした。8は、山形沈線文と弧線文の組み合わせで、8-2は、上下に展開した状態とした。9は、多重の山形沈線文で、9-1は、頂部をそろえた施文や、ハの字状の文様、9-2は互い違いに施文されたもの、9-3は大小の山形沈線を重ねたものとした。10は、木葉文が、1~2単位で展開するもので、10-2は、木葉文が沈線化したもの。11は、木葉文が3単位のものとした。11-2は、その沈線化した状態で、11-3は、さらに変化したものと考えた。12は、木葉文を4~5単位用い構成された文様で、12-3は、沈線化した状態、12-4は、12-2の変化したものとした。13~17は入組帯縄文のモチーフを基調とする文様と考えている。13は、文様の起点と終点が同じ縦線上に並ぶもので、13-2は、それが沈線化した文様、13-3はさらに変化したものとした。14は、左下がり、あるいは右下がりの入組文様で、14-2は、その沈線化したもの、14-3はさらに変化した状況とした。15-1は帯状縄文が入り組んだもの、15-2は、それが沈線化した状態、15-3は、角が付いたもの、15-4は簡略化が進み、数条のクランク状の沈線文となった状態とした。16は、15が変化し、渦巻き状になったものとする。16-2は、その沈線化した状態16-3・4は、渦巻き文様が結合した状態とした。17は、15の文様が横につながった状態の文様で、17-2はその沈線化した状態である。10以降の文様は、古い段階では、充填縄文が施される場合が多く、時期が新しくなるにつれ、文様の沈線化が進み、さらに新しくなると、磨消文様が現われる傾向が見られる。表では、それぞれの文様の変異を推測し、破片資料においては、やや強引に解釈している部分もあるが、それでも、当てはまらない文様や、特筆することがある場合は、備考に記した。

(土肥 研晶)

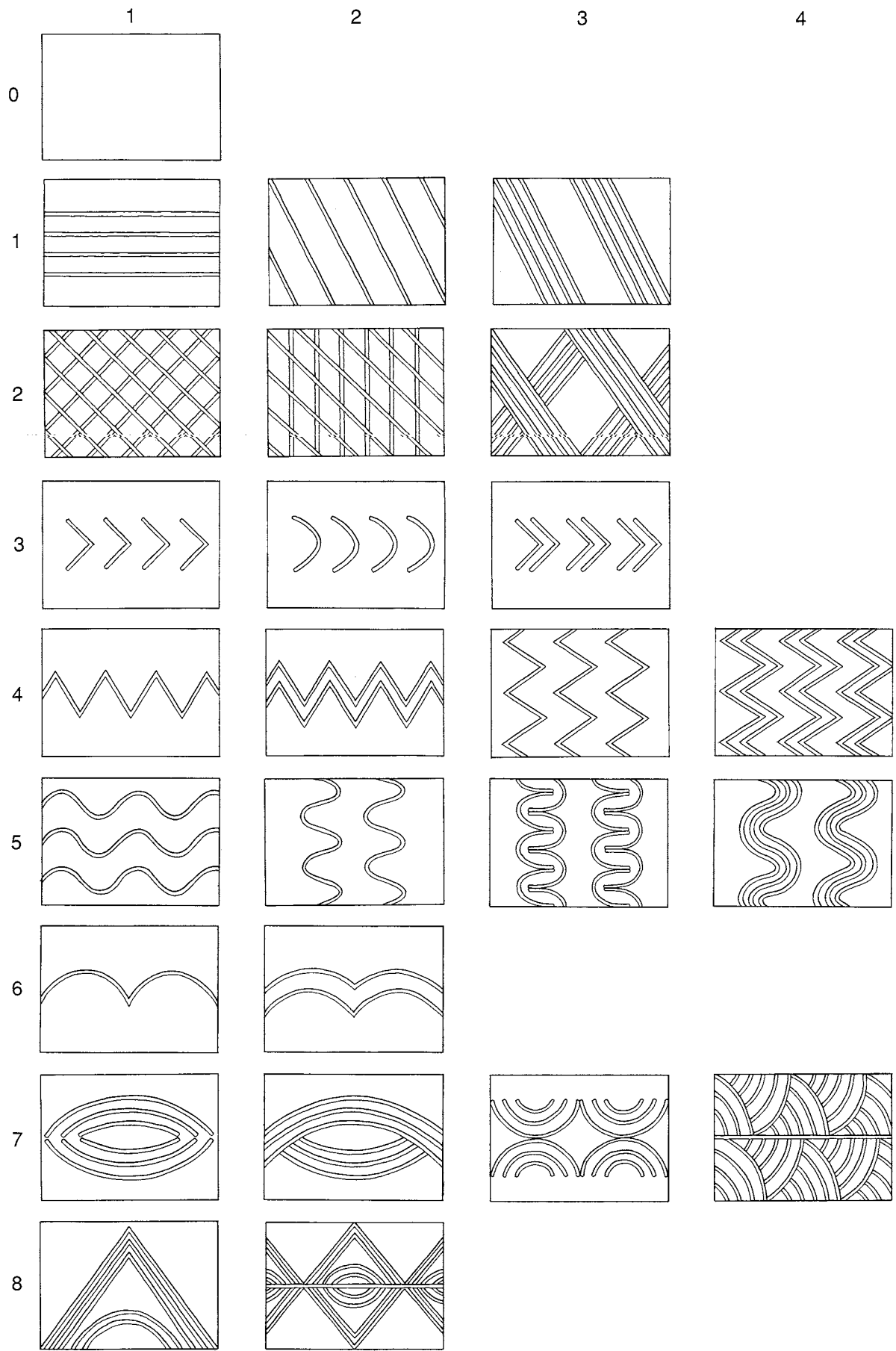


图58 文様模式图(1)

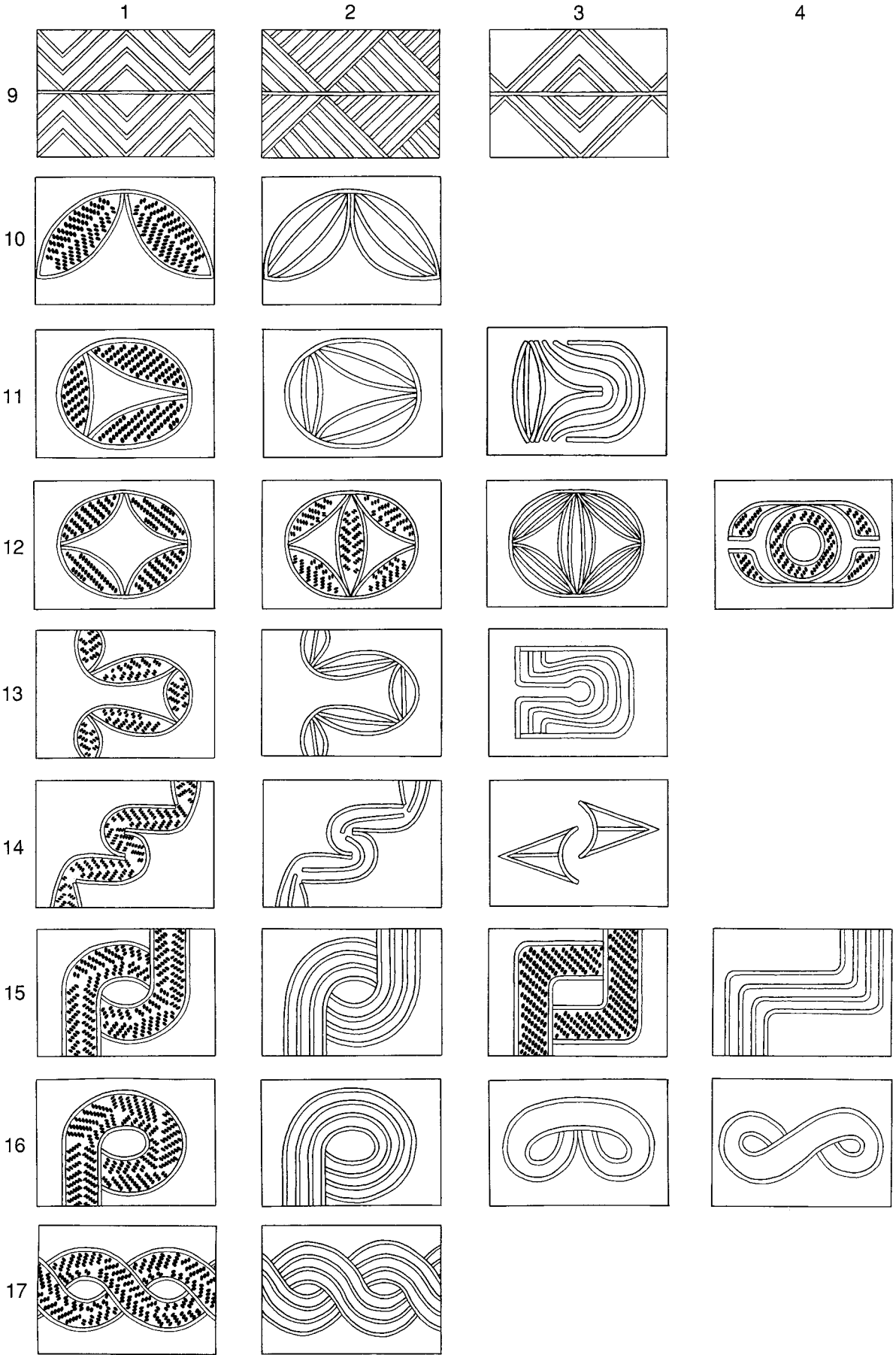


图59 文様模式图(2)

表11 後期後葉の掲載土器一覧表(7)

遺物No	図No	図版No	層位	調査区	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	突起 単位	突瘤 文	地文	口縁 刻み	口縁 沈線	頸部 刻み	頸部 沈線	文様					
																I	II	III	IV	V	
512	図100	86	N13 N33	M 75 O 74	1						○ LR		4		1						
513		86																			
514	図101	87	N13 N14	N 77-79 O 78-80 P 83	1	37.7					○ 羽状	2	2	1	2					0 1	
515	図101	88	N13	M 79 N 77 O 77	1						○ RL	2							1 1	0 1	
516	図101	87	N13 N14 N26	L 78 M 77-78 N 77-80 O 81	1	37.9					○ 羽状	2			4	17.2			17.2		
517	図101	88	N3 N4 N33, I	L 75 M 72 O 69 S 67-68	1						○ LR	3			1	2.1			0 1		
518	図101	88	N33	M 77	1						○ 羽状	2							8 1	0 1	
519	図101	88	N13	N 77	1						○ LR	3			3	7.1			0 1		
520	図101	88	N14 N33	M 77	1						○ LR	2			2	7.3			0 1		
521	図101	88	N33	M 76 N 76							○ 羽状	2							8 1		
522	図101	87	N13 N33	N 77	1						○ LR	4			2	9.2			0 1		
523	図102	87	N26 N34, I, Va	K 77 L 77-79 M 71	1						○ RL	3			4	9.2			0 1	9 2	
524	図102	89	N5 N13	M 76 N 76							○ LR	4							9 1	0 1	9 1
525		89																			
526		89																			
527	図102	90	N4 N33	M 76 R 67	1	43.1					○ LR	3			3	9.2			0 1	9 2	
528		89																			
529	図102	90	トレンチ	R 67							○ LR	4							9 2		
530	図102	90	N13 N33	M 77 O 77							○ LR	3							9 2		
531	図103	90	P 2 N5 N13 N14, N26 N34	L 78-79 M 79-80 N 70-74-75-77-80	1						RL-LR				3					9 2	
532		90																			
533	図103	90	N4 N26, I, Vb	J 73 L 71-72 M 81-83-84 N 83	1						○ 羽状	3							14.2	0 1	
534		91																			
535	図103	91	N26, V	M 82	1	33.9					○ LR	9			9	9.2			0 1	2 2	
536	図103	90	N33 N36, I	L 75 M 75-76 S 66							○ LR	3							12.3		
537		91																			
538	図103	89	N13 N33	N 76							○ LR	3							12.3		
539		91																			
540	図104	91	N4 N26 N33, III, Va	K 78-79 L 76 M 70 N 70	1	30.2					○ LR	4			3	12.2				12.2	
541	図104	91	H 6 P 27 N4 N26, III, Va	K 78-79 L 74-75 M 74, N 74	1	42.8					○ 羽状	3			2	12.2			0 1	12.2	
542		92																			
543		92																			
544	図105	92	N14 N33	N 75-78 O 76	2	13.1	5.9	8.7			○ 羽状										
545	図105	92	N13 N26 N33	M 80 N 76	2	12.0					○ LR										
546	図105	92	N5 N13	N 80	2	16.1	6.7	11.2			○ RL										
547	図105	92	N5 N26 N34, III, Va	K 77 L 80 M 78 N 78-80	2	15.1					○ LR										
548	図105	92	N13, I, II	O 74	2	18.2					○ LR										
549	図105	92	N5 N13 N26	M 79 N 80-81 O 80	2	17.5					○ 羽状										
550	図105	92	N26 N32	N 81-82	2	16.7					○ LR										
551	図105	93	N5 N14 N26 N33	L 78 M 78 N 76-78 O 77	2	21.1					○ LR										
552	図105	93	N5 N26 N33, I, Va	M 77-78 N 78	2	22.3	8.3	15.4			○ 羽状										
553	図105	93	N13 N36, I	M 74-75 N 74-76	2	26.5					○ LR										
554	図105	93	N13	O 73	2	24.0	8.7	17.8			○ 羽状										
555	図105	93	N5 N13 N14	N 75-79-80 O 81	2	22.6	6.9	19.8			○ 羽状										
556	図105	93	N5 N13 N14 N26 N33, Vb	M 79-80 N 76-79-81 O 77-80	2	26.4	9.0	21.7			○ 羽状										
557	図106	94	N4 N13 N26	M 72 N 81	2	27.5					○ LR										
558	図106	94	N5 N13 N26	N 80-81 O 80	2	29.0	7.5	24.2			○ LR										
559	図106	94	N4 N5 N13, I, Vb	N 79-80 O 69-70-80	2	34.2	8.2	30.6			○ LR										
560	図106	94	N5 N13	N 78-80	2	36.2	10.0	34.4			○ RL-LR										
561	図106	92	N14 N33 N36	L 74 M 73-74 N 73-75	2	11.1	6.0	8.7	5		○ LR										
562	図106	94	N14 N33	N 74-77	2	19.1	7.0	14.7	4		○ LR									4 2	
563	図106	94	N14 N33	M 76 N 77 O 77	2	27.2			4		○ 羽状										
564	図107	95	N13	N 80 O 79-80	2	29.6	8.5	24.8			○ RL										
565	図107	95	N3 N13 N14	N 78 O 78 Q 68	2	29.4					○ RL										
566	図107	95	N5 N13 N14 N26 N33, I, III, Va	L 80 M 76-77-79 N 76-77-79	2	38.5					○ LR										
567	図107	95	N13 N26 N34, I, III, Va	L 78-79 M 78-80 N 79	2	41.5	8.5	37.6			○ RL										
568	図108	95	N13	M 80	2	28.5	8.4	29.1			○ LR										
569	図108	96	N5 N13 N26, I	M 79 N 77-81 O 78-80-81	2	36.7	(6.1)	(40.6)			○ 羽状										
570	図108	96	N5 N13 N14	M 76-79 N 78-80 O 79-80-82	2	39.6	12.0	46.1			○ 羽状										
571	図109	95	N13	O 77	2	17.3	4.8	12.7			○ LR										
572	図109	96	N5 N26 N33 N34 N35	K 75-76 L 75	2	19.7	6.0	13.6	6		○ LR										
573	図109	96	N13, I	O 77	2	30.9	5.7	28.8	6		○ LR										
574	図109	97	N14 N26, IV, Va	K 76-78-79 L 80 M 75-79-81	2	23.2	7.2	20.2	5		○ R-LR 羽状										
575	図109	97	N4 N5 N13 N14 N26 N33 N36	M 72-74-76-79 N 73-77-79 O 68-75-80	2	39.0					○ LR										
576	図109	97	N5 N13	O 77	2	18.8	(6.5)	(15.6)	5		○ LR										
577	図109	97	N14 N26 N34, I, III, Va	L 77-78 M 78-79	2	33.22	(7.0)	(29.0)			○ 羽状									9 1	
578	図110	97	N1 N13 N33, I, V	J 70 N 76 O 75 P 67 Q 67	2	15.1	4.4	10.9	6		○ 羽状									4 4	
579	図110	97	N13, I	N 80 O 73-80	2	16.1					○ LR									4 3	
580	図110	97	N13 N14 N26 N33, I, V, Vb	I 80 J 76 L 75-76-79 M 72-76 N 71-76-78 O 75-77-78	2	22.0					○ 無文									9 2	
581	図110	98	N3, I	S 67	2	27.6			(7)		○ LR									4 2	
582	図110	98	N5 N13 N26, V	G 78 K 72 M 80 N 72-78-79 O 82-83	2	26.7			5		○ LR										
583	図110	98	N13 N14	P 80-81	2	16.4	5.7	12.2	5		○ RL									11 2 0 1	
584	図110	98	P 1163 N4 N5 N13, N14 N26	L 77 M 73-77-79 N 78-81 O 79-80	2	43.7			5		○ LR									7 3	
585	図110	98	N5 N13 N26	L 80 M 79 N 79-81 O 80-81	1						○ LR								3	3 3	
586	図111	98	N13	O 75							○ 羽状	2	2								
587	図111	98	N13	O 76							○ LR	2	2								
588	図111	99	N33	N 75							○ 羽状	1	1								

表12 後期後葉の掲載土器一覧表(8)

遺物№	図№	図版№	層位	調査区	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	突起 単位	突文	地文	口縁 刻み	口縁 沈線	頸部 刻み	頸部 沈線	文様				
																I	II	III	IV	V
589	図111	99	N13	O 73-74							○	羽状								
590	図111	99	N26	N 82							○	無文								
591	図111	99	N13 N14	O 77-79	2	10.9	(3.8)	(6.0)										0.1		
592	図111	99	N14 N26	M 77-78 N 79							○	無文							0.1	
593																			0.1	
594	図111	100	N14 N33,Vb	L 76 M 76 N 74 O 77	2	14.8					○	羽状								
595	図111	100	N26	L 78	2	18.5	7.8	11.3			○	LR								
596	図111	100	N26	M 81	2	26.7					○	羽状								
597	図111	100	N26	K 78 L 78	2	26.3					○	羽状								
598	図111	100	N14 N33	M 76 N 76	2	28.8					○	LR								
599	図111	100	トレンチ	N 77-78	2	26.5	(9.0)	(26.0)			○	LR								
600	図112	100	N13 N14	O 81	2	34.7					○	羽状								
601	図112	100	トレンチ	N 76							○	LR								
602	図112	100	N13	O 80	2						○	LR								
603																				
604	図112	102	トレンチ	P 83	2						○	羽状								
605	図112	101	N13	N 76 O 76							○	羽状								
606	図112	101	N13	M 79 N 76-79							○	羽状								
607	図112	101	N13	N 76							○	羽状								
608	図112	102	N13	N 77		41.3					○	LR								
609	図112	102	N13 N14	M 80 N 77 O 77							○	LR								
610	図113	102	N13 N26	M 79 N 78-79 O 80	2						○	羽状								
611	図113	102	N13 N14	O 75	2						○	RL								
612																				
613	図113	102	N5 N13	N 80							○	羽状								
614	図113	102	N33	M 76	2						○	LR								
615	図113	102	トレンチ	O 79							○	RL								
616	図113	103	N3 N4	S 66							○	LR								
617	図113	102	N26	K 77							○	LR								
618	図113	103	N13 N26	N 79							○	LR								
619	図113	103	N13	N 76							○	LR								
620	図113	103	N13 N14,I	O 72-74 P 74							○	羽状								
621	図113	103	N13	P 75							○	羽状								
622	図113	104	N13 N14 N33	N 76 O 76							○	羽状								
623	図113	104	N26	M 78							○	RL								
624	図113	104	N26	O 84							○	LR								
625	図114	104	N26,V	K 70 L 77-79 M 79	2	17.6					○	LR								
626	図114	104	トレンチ	N 77							○	羽状								
627	図114	104	N26	L 77							○	LR								
628	図114	105	N26	K 78	2	34.4					○	LR								
629	図114	104	N26	M 83							○	羽状								
630	図114	105	N33 N35 N36	M 75 N 74 O 75							○	羽状								
631	図114	105	トレンチ	M 81							○	羽状								
632	図114	105	N13	O 77							○	RL								
633	図114	105	N26 N33	M 76-79							○	LR								
634	図114	105	N13,Vb	P 73-74							○	LR								
635																				
636	図114	106	N13 N14 N33 N35	M 75 ~ 77 N 75 O 75							○	LR								
637	図114	106	N5 N13 N14 N26	N 74-78-82 O 74-75-77							○	LR								
638																				
639	図114	106	N26	K 79							○	LR								
640	図114	106	N33	M 76							○	LR								
641	図114	106	N26 N33	L 78 M 77 N 80							○	LR								
642												LR								
643	図114	108	N4 N13 N33	M 76 N 72-74-76	2	41.2					○	RL								
644	図114	107	N5 N33	L 76 M 76							○	LR								
645	図115	107	N26	M 78							○	羽状	1							
646	図115	107	N13	O 77							○	RL	1							
647	図115	107	N13	N 75 O 75	2	15.5	3.9	12.1			○	RL	2							
648	図115	107	N5 N13 N15	N 78-80 O 80							○	羽状	2							
649	図115	107	N26	L 79							○	羽状	2							
650	図115	108	N4 N5 N13 N14,N26	L 76-78 M 76 N 71-78							○	羽状	2							
651																				
652																				
653	図115	108	トレンチ	M 75							○	LR	2							
654	図115	108	N4 N13 N14 N26 N33	L 77 M 77-78 N 70 O 76-82							○	羽状	2							
655	図115	108	N13	O 79							○	羽状	2							
656	図115	108	N3	Q 67							○	LR	2							
657	図115	109	Vb	L 83							○	LR	2							
658	図115	109	N26	M 80							○	LR	2							
659	図115	109	N36	N 75							○	LR	3							
660	図115	109	N13	O 76-77							○	羽状	3							
661	図115	109	N26	K 77							○	RL	3							
662	図115	109	N33	M 75							○	LR	3							
663	図115	109	N13	N 76							○	RL	3							
664	図115	109	N5	K 76							○	LR	3							
665	図115	109	N33	N 76							○	LR	3							
666	図115	110	N33	M 75							○	RL	3							
667	図115	110	N33	N 76							○	LR	3							
668	図115	110	Vb	L 83							○	LR	3							
669	図116	110	N13 N33 N36	M 74-76 N 74	2	27.2					○	LR	3							
670	図116	110	N13	N 75							○	LR	3							
671	図116	111	N33	M 75							○	LR	3							
672	図116	111	N26	O 85							○	LR	3							
673	図116	111	N33	N 75							○	LR	3							
674	図116	111	N13	N 77							○	LR	3							
675	図116	111	N26	L 77							○	LR	3							
676	図116	111	N26	M 82							○	羽状	3							
677	図116	112	N5 N14 N33 N36	M 75	2	28.0					○	LR	4							
678																				
679	図116	111	N13	O 76							○	RL	3							
680	図116	111	N13 N36	L 74-75 N 76							○	RL	3							
681																				
682	図116	112	N33	M 76							○	LR	3							
683	図116	113	N13	N 76							○	LR	3							

表13 後期後葉の掲載土器一覧表(9)

遺物No	図No	図版No	層位	調査区	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	突起 単位	突瘤 文	地文	口縁 刻み	口縁 沈線	頸部 刻み	頸部 沈線	文様				
																I	II	III	IV	V
684	図116	112	N26	M 82							○	LR								
685	図116	113	N26	K 78							○	羽状								
686	図116	112	N14 N26	K 77 L 74							○	LR								
687	図116	113	N13	O 77							○	LR								
688	図117	113	N13 N33	M 74·75 N 76							○	LR								
689	図117	113	N14 Vb	S 74							○	羽状								
690	図117	113	N33	N 76							○	RL								
691	図117	113	N13 N33 N36	N 75·76							○	LR								
692	図117	113	N13	R 67							○	LR								
693	図117	114	N33	L 77	2						○	羽状								
694	図117	114	N33	L 75							○	LR								
695	図117	114	N3	R 67							○	LR								
696	図117	114	トレンチ	N 83							○	LR								
697	図117	114	N26	N 81·82	2						○	羽状								
698	図117	115	N33	O 76							○	羽状								
699	図117	114	N33	M 76							○	羽状								
700	図117	115	トレンチ	O 76	2						○	LR								
701	図117	115	N26	M 82	2						○	LR								
702	図117	115	N36	N 75							○	LR								
703	図117	115	N13	O 76							○	LR								
704	図117	115	N26	L 78 M 81							○	LR								
705	図117	115	N13	N 77 O 77							○	LR								
706	図117	115	N33	M 76							○	羽状								
707	図117	116	N13	N 77 O 77							○	羽状								
708	図117	116	N13	N 77 O 77							○	LR								
709	図117	116	N13	N 77 O 77	2	32.6					○	LR								
710	図118	116	N13	N 76	2	25.7					○	RL								
711	図118	116	N13	N 76							○	RL								
712	図118	117	V	M 83							○	LR								
713	図118	117	N13	N 76 O 77·80							○	羽状							1 1	
714	図118	117	N13	N 76 O 77·80							○	羽状							1 1	
715	図118	117	V Vb	M 83·84							○	LR								
716	図118	117	N5 N13 I	M 76 O 77 P 76							○	LR								
717	図118	117	N4 N13 N14 N33 Vb	M 72~74·77·82 N 75·76							○	LR								
718	図118	117	N13 N14	O 77							○	LR								
719	図118	117	トレンチ	N 79							○	LR								
720	図118	117	N2	P 66							○	羽状								
721	図118	118	N26 Va Vb	K 79	2	38.3					○	羽状							1 1	
722	図118	118	N13	N 77							○	LR								
723	図118	118	N13 N35	N 74 O 75	2						○	LR							1 1 0 1	
724	図118	118	N13 N36 I	N 74·75 O 78	2	15.1					○	LR							5	
725	図118	119	トレンチ	L 76							○	LR							1 1	
726	図118	119	N13	O 76							○	LR							1 1	
727	図118	119	N13 N33 N36	M 75·76 N 75·76							○	LR								
728	図119	119	N4 N5 N26	K 79 M 71·75 N 74·75·78							○	羽状								
729	図119	119	N5 N13	M 75 N 75·77·78							○	LR							1 2	
730	図119	120	N5 N33 I	L 73 M 77	2						○	羽状	2						3 3	
731	図119	121	N1 N13 N14	L 79 M 77 N 74 O 74·75 Q 66	2						○	羽状 羽状	3						5 4	
732	図119	121	N13	N 76							○	LR								
733	図119	121	N26	M 81							○	羽状							6 2	
734	図119	120	N14	L 75							○	LR							6 2	
735	図119	120	N26	M 82							○	LR							7 3	
736	図119	120	N13 N14	M 76 N 74·78 O 77	2	17.6					○	LR							6 2	
737	図119	120	N3	R 67	2	18.6					○	LR							6 1	
738	図119	120	N5 N13	N 76 O 77							○	LR							7 3	
739	図119	120	トレンチ	L 76							○	羽状							3 2	
740	図119	121	N13	N 76							○	LR							8 1	
741	図119	121	V	M 67							○	羽状							10 2	
742	図119	121	N14 N26 IV	K 75·78·79 M 75·76							○	LR							9 2	
743	図119	121	N33	M 75							○	LR							7 3	
744	図119	121	N26	K 78							○	無文								
745	図120	122	N4 N13 N14 N33 Va	南側盛土遺構 L 73·80 M 76·80 N 69·76·77·78	2						○	LR							9 3	
746	図120	122	N13	O 75							○	LR							1 2	
747	図120	122	N26	O 84							○	羽状							9 1	
748	図120	122	N33	L 76							○	LR							9 1	
749	図120	123	N26	南側盛土遺構 N 81							○	LR	2						3 1	
750	図120	123	N13	O 77·78							○	LR							9 1	
751	図120	123	N33	M 76							○	LR							9 2	
752	図120	123	N13	O 75							○	LR							9 2	
753	図120	123	N13	N 75							○	羽状							9 2	
754	図120	123	V	M 83							○	羽状							9 1	
755	図120	123	トレンチ	M 81							○	羽状							9 1	
756	図120	123	N26	N 81							○	LR							9 2	
757	図120	123	N33	O 76							○	LR							9 2	
758	図120	123	N26 N35	K 75·76							○	LR							9 1	
759	図120	123	N13	N 74							○	羽状							12 4	
760	図120	123	N26	M 82							○	LR							12 4	
761	図120	123	N33	M 76							○	羽状							10 1	
762	図120	123	N26	K 78							○	羽状							10 1	
763	図120	124	N14 N36	L 75							○	羽状							7 3	
764	図120	124	N33	M 75							○	LR							14 2	
765	図120	124	N13	O 75							○	LR							12 3	
766	図120	124	N13	N 77							○	LR							9 1	

表14 後期後葉の掲載土器一覧表(10)

遺物No	図No	図版No	層位	調査区	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	突起 単位	突瘤 文	地文	口縁 刻み	口縁 沈線	頸部 刻み	頸部 沈線	文様					
																I	II	III	IV	V	
779	図120	124	N13	N 76						○	LR		3								
780	図120	124	N26	L 77						○	羽状		3						12	1	
781	図120	124	N4	S 65							LR	1									
782	図120	124	N5	O 78						○	LR		2								
783	図120	124	N13	N 76						○	LR								12	4	
784	図121	124	N5,N13	N 79・80, O 79・80	2	19.8	5.8	7.4			無文									0	1
785	図121	124	N13,N14	O 74・76 P 76	2	13.8	6.2	6.5			無文									0	1
786	図121	125	N5,N13,N33	M 76 N 76	2	8.0	3.1	6.5			無文									0	1
787	図121	125	N13,N14,N36	M 75 N 75	2	14.9	5.1	12.6	5											0	1
788	図121	125	N26,N33,N36	N 75・79 O 80	2	10.2	3.1	6.3			単筋 R										
789	図121	125	N13,N14,N26	M 77・78	2	13.4	4.1	7.6			RL・LR										
790	図121	125	N14,N26,N33	K 79 L 77 M 75・77	2	15.8					LR										
791	図121	125	N5,N13,N14,N33,N36	L 75 M 75・76 N 75	2	11.4	5.0	10.3			LR										
792	図121	125	N5,N13,N14	L 77 M 76 N 76・80 O 80	2	13.3	4.9	10.7	5		LR										
793	図121	125	N13,N27	O 82	2	20.6	5.6	12.6			RL										
794	図121	125	N5,N13,N14,N26,N34,III	L 76・78 M 78 N 78・79 O 78	2	21.0	11.1	24.8			LR										
795	図121	126	N26,N34,Vb	L 79 M 79	2	31.5					羽状										
796	図121	125	N33	M 76	2	12.2	3.5	6.5			LR		2								
797	図121	125	N26,IV,V	K 76・77	2	19.8	(5.0)	(13.7)		○	RL		2								
798	図121	126	N13,N14	N 75 O 74・75	2	19.2	6.0	14.2	6		LR		2								
799	図121	126	N14,N36	L 74・75	2	17.0			4		羽状		3								
800	図121	126	N26,N27	M 81 N 81	2	20.8					羽状		4								
801	図121	126	N20,N21,N23,N24,III,IV,V	N 84・85	2	18.2	4.3	13.5	5		LR		4								
802	図121	126	N5,N14,N26,N33	J 76 K 76 L 76	2	20.6	7.3	15.3	4		羽状		3								
803	図122	126	N13	O 76	2	27.9	6.4	9.5	(5)		LR		5								
804	図122	127	N26	J 77 K 76 - 78	2	15.7	5.0	12.8	5		LR		4								
805	図122	127	N13	N 78・79 O 80	2	11.8	4.3	9.1			LR	2	2	1						1	3
806	図122	127	N3,N4,N5,N14,N36,I	L 74・75 M 76 R 67 S 65・66	2	18.8	8.4	24.0			LR	1	4							10	1
807	図122	127	N13,N26,N34,I,III,IV,Va,Vb	J 77 - 80 K 77 - 79 L 77 - 79 O 78	2	22.2	6.9	17.4	5		羽状		3							14	2
808	図122	127	N5,N14,N26,N33	M 77・78	2	9.8	3.6	5.4	5		羽状		2							8	1
809	図122	127	N13,N14,N26,III	H 79 J 78 M 76 N 75・76・78・79 O 79・80 P 79	2	18.3	5.7	10.3	5		羽状									4	3
810	図122	127	N13,I	O 73・74	2	15.4	4.2	13.3			羽状		2							9	1
811	図122	127	N26	M 82・83	2	(17.8)	6.4	13.3	4		LR		2							6	2
812	図122	127	N26	M 82	2	15.7	5.4	12.7	5		LR		3							8	1
813	図122	127	N26,III,IV	K 79	2	17.9	4.6	13.4	5		LR		3							7	3 0 1
814	図122	127	N5,N13	N 76 O 79	2	16.9	5.9	12.2	6		LR		3							8	1 9 1
815	図122	128	N26,IV	K 78 L 81 M 81	2	16.0	4.0	11.4	5		羽状		3							8	2 0 1
816	図122	128	N13,N14,N23,N26,N33,Vb	J 76 K 78 M 76 N 75・76・82	2	16.9	5.3	15.3			羽状		3							9	2
817	図122	128	N4,N5,N29,N28,V	N 68・79 O 68 P 84	2	27.6	7.0	15.9			羽状		6							11	2
818	図122	128	N4,N5,Va	R 69	2	12.8	5.2	10.1	(6)		LR		2							9	1 1 1
819	図122	128	N5,N13,N14,N26,N30	M 79 N 80 O 80	2	39.0			5		LR		3							7	3
820	図123	128	N13,N14,N26,N33,V	L 77 M 77 N 80・81	2	14.0	6.1	9.8			LR		1							8	1 7 1
821	図123	128	P 406 N3,N33,N35	M 75・76・78 S 67	2	17.7	(5.2)	(10.0)			LR		4							8	1
822	図123	128	N14,N26,N33,N34,N36	L 74 - 76 M 76 N 75	2	16.8	4.0	10.8	6		LR		2							7	3
823	図123	128	N13,N14,N36	M 75 N 75・76	2	19.4	6.5	15.9	(4.8)		羽状		2							10	2 9 1
824	図123	128	N13,N14	M 77・78 N 78・80 O 79・80	2	19.9	5.0	10.0			羽状		3							7	3
825	図123	128	P 14,N4,N5,N13,N14,N26,N32,N33,I	K 79 L 76 M 74・78・79 N 77 - 79 O 74・75・77 - 79・82	2	17.7	(4.9)	(10.1)			LR		2							8	1
826	図123	129	N13,N14,N33	M 75 O 76・77	2	9.2	3.1	6.5	5		LR		2							9	1
827	図123	129	N18,N26,N33,Va	L 76・80 M 82	2	8.2	4.1	4.9	6		無文		3							9	1
828	図123	129	N13,N33	M 76 N 75	2	11.6			6		LR		5							9	1
829	図123	129	N5,N14,N33	L 77 M 77	2	15.6					LR		3							9	3
830	図123	129	N26,IVb	K 78 L 78	2	14.0	(3.2)	(6.5)			LR		1							16	2
831	図123	129	N5,N13,N26,I	M 78 O 74	2	19.2		10.4	5		羽状									8	1
832	図123	129	N5,N13,N14	N 75・76・80 O 79・80 P 76	2	18.6			5		LR		2							7	1
833	図123	129	N5,N13,N14	N76・78 O 79・80	2	22.2	8.3	19.2	5		羽状		2							8	1 9 1
834	図123	129	N13,N14,N26,N36,I	L 78・79 N 76・78・81 O 80・81	2	18.1	5.7	11.9	(5 10)		RL		3							2	3 1 1
835	図123	129	N13,I	O 74・75	2	10.7	3.4	4.7	5		LR		1							11	2
836	図123	129	N5,N14,N33	M 77・78	2	11.8			5		無文		1							7	3
837	図123	129	N4,N13,N14,N26	L 73・78 M 78 N 74・76・77・80	2	23.9					LR		2							9	2
838	図124	130	N13,N14,N33,I	M 76・77 N 74 - 76	2	11.6	4.1	7.8	5		LR		2								
839	図124	130	N13	N 75 O 74・75	2	13.3	4.4	10.4	6		LR		2							9	1
840	図124	130	N13,N33	M 75・76 N 75	2	17.0	7.4	10.4	8		羽状		4							14	1 1 1 0 1
841	図124	130	N4,N5,N33	M 74・77 N 69・70 O 66 P 67	2	23.1	8.8	13.0	(5)		羽状		3							15	2 9 1 1 1
842	図124	130	N5,N13,N14,N33	M 77 N 77・79・80	2	21.6	(9.1)	(14.2)	5		RL		1	3							
843	図124	130	N13	O 80			8.2				RL										1 1
844	図124	130	N26	M 82			5.1				羽状										
845	図124	130	N13	N 80			5.3				無文										0 1
846	図124	130	N13	M 80			6.5				無文										0 1
847	図124	130	N33	M 76			4.7				無文										0 1
848	図124	130	N26	O 81			6.6				無文										0 1
849	図124	131	N13	N 80 O 80・81	2	6.3	2.4	6.1	4		LR		1								
850	図124	131	N5,N13	N 80	2	20.3	7.1	6.5			羽状		3							9	2
851	図124	131	トレンチ	R 67	2	4.2	3.0	5.3			無文										
852	図124	131	N3,N13,N14,N33,I	M 74 N 73 - 75 O 74 - 77	4			8.2			LR		3							12	3
853	図124	131	N4,N26,IV,Va	J 76 - 78 K 77・79・80 N 71	4	18.9					羽状		3								

表15 後期後葉の掲載土器一覧表 (11)

遺物No	図No	図版No	層位	調査区	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	突起 単位	突瘤 文	地文	口縁 刻み	口縁 沈線	頸部 刻み	頸部 沈線	文様					
																I	II	III	IV	V	
854	図124	131	N5 ,N13 ,I ,IV ,Vb	O 79 P 78-79	4	11.4 9.4	7.3 4.6	4.6			LR		3						6 1		
855	図124	131	N13	N 79	4	7.7 4.8	4.9 1.3	3.7			LR										
856	図125	131	N26	N 82							RL	2	2								
857	図125	131	N26 ,N27	O 83 P 83							羽状	2	2								
858	図125	131	N33 ,Vb	M 79 N 71-77							羽状	2	2							13 1	
859	図125	131	N26	P 82							羽状	2	3								7 1
860	図125	132	N13	P 75							羽状	2	3								8 1
861	図125	132	N13	O 74 P 73							羽状	2	2								10 2
862	図125	132	N13 ,N30	N 80 P 83							羽状	2	2								
863	図125	132	N13 ,N14 ,Vb	O 72-73	2	16 9					羽状	1	1								
864	図125	132	N13	P 74							無文									0 1	
865	図125	132	N33	L 77							無文									0 1	
866	図125	132	N5 ,N13 ,N14 ,Va	M 76 ,O 77 P 74-75 ,Q 75							無文									0 1	
867	図125	132	N26	M 82	2	9 5					LR										
868	図125	132	N26 ,N34	K 78	2	11 9					LR										
869	図125	132	N33	N 75	2	14 0					LR										
870	図125	132	N14 ,N33	M 76 N 77	2	14 6					羽状										
871	図125	133	N13	N 79	2	18 8	5 0	9 0			LR										
872	図125	133	N14 ,N26 ,IV	J 77-79 ,K 79 ,L 76 ,M 75 , N 83	2	21 2	6 3	12 4			LR										
873	図125	133	N13	N 80							LR										
874	図125	133	トレンチ	N 81							羽状										
875	図125	134	N13	O 74	2						羽状										
876	図125	134	N33	N 75							LR										
877	図125	134	トレンチ	M 74							羽状										
878	図125	134	N33 ,N36	M 75							羽状										
879	図125	134	トレンチ	M 74							LR										
880	図125	134	N5 ,N13 ,N14 ,N26	K 79 N 77-78 ,O 78							LR										
881	図125	133	N13	O 81	2	26 7	(8 0)	(12 0)			LR		2								
882	図126	134	Vb	R 67	2	13 9	3 9	7 4			RL		2								
883	図126	135	N13	L 80 N 74							羽状		2								
884	図126	135	N14 ,N26 ,N34 ,III ,Va	K 79 ,L 77-78 M 72		35 6					LR		3								
885	図126	135	トレンチ	R 66							LR		2								
886	図126	135	N13	O 76							羽状		1								
887	図126	135	N5 ,N13 ,N14	L 75-76 N 77							LR		2								
888	図126	135	N1 ,N3 ,N4 ,I	R 65-66							LR		2								
889	図126	135	N13	N 78 ,O 75	2	12 8	(2 9)	(7 7)			RL		2								
890	図126	135	N33	M 75							LR		3								
891	図126	135	P 65 ,N14 ,N26 , N33 ,I ,Vb	L 69-77 N 77 ,O 72							LR		3								
892	図126	135	N33	O 77							LR		3								
893	図126	135	トレンチ	O 82							LR		3								
894	図126	136	N26	M 82							LR		3								
895	図126	136	N26 ,N35 ,I ,III ,IV , V ,Va ,Vb 攪乱	J 80 ,K 80 ,L 80 ,N 66 ,O 75 , R 69 ,V 76	2						羽状		3								
896	図126	136	N13	N 76							LR		3								
897	図126	136	N13	O 75							LR		4								
898	図126	136	N13	O 79							LR		3								
899	図126	136	トレンチ	M 81							羽状		5								
900	図126	136	N26	L 79							RL		4								
901	図126	136	N26	M 81	2	22 5					LR		4								
902	図127	137	N13 ,I	P 74							LR		4								
903	図127	137	N13	M 79							LR		1								3 3
904	図127	137	N5 ,N13 ,N14 ,N33 ,I	I 75 M 76 N 79 ,O 75 - 77							RL	2	2								7 1
905	図127	137	III ,V	R 65							LR		4								3 3
906	図127	137	N13	N 79							羽状		2								9 1
907	図127	137	N26	O 84							LR		2								8 1
908	図127	137	N13 ,N14	M 78 ,O 81							LR		5								
909	図127	137	N13	N 75							LR										
910	図127	137	N5 ,N13 ,I ,Va	J 78 ,L 75 ,O 76 ,P 74-76 , Q 75-76-81	2						羽状		1								4 3
911	図127	137	N13 ,I	N 76 ,O 76							羽状		2								15 1
912	図127	137	N13	O 80							羽状		2								3 1
913	図127	137	N4 ,N13 ,N14	L 74 M 76 N 77-78 ,O 74-77							羽状		2								9 1
914	図127	137	N3 ,N4 ,I	N 70-71 ,O 70							LR		3								7 3
915	図127	137	N4 ,N13	M 73 ,O 79							LR		2								7 3
916	図127	137	N21	N 83	2						LR		2								7 3
917	図127	138	N13 ,N14	N 74 ,O 74	2	19 0					LR		2								7 3
918	図127	138	トレンチ	N 76	2	10 5	2 7	6 2			LR		2								3 3
919	図127	138	N26	L 78							RL		3								5 4
920	図127	138	トレンチ	L 76							RL		3								7 3
921	図127	138	N13	O 75							LR		5								7 3
922	図127	138	トレンチ	R 67	2						LR		1								7 3
923	図127	138	N14 ,N33	M 77 N 75	2						羽状		2								4 4
924	図127	138	N13	N 75	2						LR		3								9 1
925	図127	138	N5 ,N13 ,N14 ,N26 , I ,Vb	K 77-80 ,L 74 ,O 76-79 , P 76	2						LR		4								13 1
926	図128	139	N26 ,V	M 82	2	15 2					RL		3								9 2
927	図128	139	IV ,Vb	I 85 L 83	2	14 9					LR		1								9 1
928	図128	139	N26	M 83							LR		1								1 2
929	図128	139	N13	O 73	2	13 8	(5 6)	(12 4)			羽状		2								9 1
930	図128	140	N14 ,N33	M 77	2	35 9					LR		1								9 2
931	図128	139	N26	M 82 ,83							羽状		3								9 2

表16 後期後葉の掲載土器一覧表(12)

遺物№	図№	図版№	層位	調査区	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	突起 単位	突瘤 文	地文	口縁 刻み	口縁 沈線	頸部 刻み	頸部 沈線	文様				
																I	II	III	IV	V
941	図128	139	N33	N 77							RL		4						9 1	
942	図128	139	N26	M 83							羽状		1						9 2	
943	図128	140	Vb	N 82							LR		2						9 1	
944 945	図128 140	140	N14,N26	K 79 J. 79 M 74	2						LR		3						9 1	
946	図128	140	N33	L 79	2	11.3					LR		2						12 3	
947	図128	141	N13,N36	N 74-75	2						LR		3						12 3	
948 949	図128 141	140 141	N5,N13	L 76,O 75-76							LR		3						12 3	
950	図128	141	N33	M 76	2						LR		3						12 3	
951	図128	141	N13	N 76	2						LR		3							
952 953	図128 141	141	N13,N36	N 75-76							RL		4						14 2	
954	図128	141	N13	N 77							LR		2						12 3	
955 956 957 958	図128 141 141 141	141 141 141 141	N3,N4,I,Vb	R 68-69,S 66-67	4						LR		2						12 3	
959	図129	141	N13,N14,I	O 73-74,P 73	3	6.8			4		LR	1	1	2	4		0	1	15 1	
960	図129	142	N4,N13,N14,N33,N34,I,Vb	M 77-80,N 74-78,O 69-75	3						羽状			2	3				16 1	
961	図129	142	N13	M 80	3	7.6					羽状	1	1		1				15 1	
962	図129	142	N1,N3,N4,N26,N34,IV,V	L 77-78,O 76,Q 66-67	3	7.1	3.0	17.2	4		羽状		1		1					
963	図129	142	N13	P 74	3						羽状								16 1	
964	図129	142	N13	M 79	3	6.8			4		LR		2	2	2		0	1		
965	図129	142	N17,N19,N22,V	Q 87,R 86-87,S 87	3		3.0				羽状								14 1	
966	図129	142	N13,N14,I,Va,Vb	P 72-74,Q 73-74,R 74	3						単節羽状				1				14 1	
967	図129	142	N1,N5,N13,N26,IV,Vb	K 79,M 81,N 80-81,O 67-80	3		3.9				LR			1	3				16 1	
968	図129	142	N13,I	O 77	3						羽状								13 1	
969	図129	142	N5,N13,N14	M 77,N 75-77-80,O 80	3		5.7				羽状							10	1	
970	図130	143	V,Va	M 85-87,N 85-87-88	3	7.4	1.7	23.0	5		RL	4	2	3					10	
971	図130	142	N4,N33,N36,I	M 75-76,N 75,R 67,S 68	3						LR				3				15	
972	図130	143	N14,N33	M 75-77,N 76	3	6.8	(4.0)	(28.6)	4		LR	3	3						14	
973	図130	143	N26	O 84	3	9.0	4.0	20.9	4		羽状		3		4				15	
974	図131	142	N5,N13,N14,N34,III	L 77,N 79-80,O 79-80,P 76-77-79-87	3						羽状								17	
975	図131	143	N5,N13,N35,N36	L 74-75,N 75-76-78,O 75	3		3.4				LR		2	5					10	
976	図131	143	N33	M 76	3	8.2	3.1	16.1	(5)		LR	6							5	
977	図131	143	N4	O 70	3						LR			8					14	
978	図131	144	N1,N3,N4,V,Vb	Q 67-68	3						LR			1		8	1		10	
979	図131	144	N4,N13,N26,I	J 73,K 78,L 72-73,N 71-76,O 70	3						羽状								6	
980	図131	144	N19,N22,N23	Q 85-87,R 87	3						LR				3				12	
981	図131	144	N13	O 77	3		3.0				LR								12	
982	図131	143	P 1159,N37,I,V,Vb	H 73-74,I 73-74,J 73	3	8.4	3.3	20.6	(18)		羽状	2	4	5		3	1		14	
983	図132	144	N4,N13,N14,N33,N36,I	L 77,M 76,N 73-74-76-77,O 75-77	3		5.8				LR								5	
984	図132	144	N26,I	K 76,M 70	3		2.6				RL			2					12	
985	図132	144	N26	M 83,N 83	3						羽状			7					12	
986	図132	144	N3,N4,Vb	R 67	3						LR			3					7	
987	図132	144	N14,N26,N33,N36,Va	J 77,L 77-78,M 74-77-81,N 74	3		5.2				羽状								12	
988	図132	144	N13,I	M 76	3		3.5				羽状								12	
989	図132	144	F 1143,N13,N14,N33,N35,N36,I,Vb	M 75,N 74-77,O 73-77,R 68	3		5.7				LR								12	
990	図132	144	N3,N4	S 66	3						羽状			2						
991	図132	145	N4,N14,N26,N34,N35,N36,I,III,IV,Va,Vb	J 73-75-78,K 75-80,L 75-77-79-80,N 76,R 73	3						羽状								5	
992	図133	145	N5,N13,I,IV	N 76-78,O 77-78,P 78	3						RL			1					10	
993	図133	145	N13,N15,N26	O 80-82	3	4.7	2.2	7.3			無文	2		2		9	1		7	
994	図133	145	N4,N26,N33,N34,N36,I,III,V	K 79,J 74-78-79,M 73-79,N 72-73-76-84	3						LR									
995	図133	145	N26,N34	K 77-79	3	7.4	(5.2)	(22.4)	2		RL	12							7	
996	図133	145	N14,N26,N33,N34,Va	L 77,M 77-78	3		5.1				羽状								10	
997	図133	145	N36	N 74-75	3						羽状								1	
998	図133	145	SE2,N13,N19,I	M 81,N 75,O 72-74-76,Z 72	3						羽状						9	1	5	
999	図133	145	N3,N5,N13,N33,N36,I,IV,V	L 74-88,M 74-76,O 75-77-79,P 75-77-78-80,Q 66-73	3	1.9			4		無文	1	2		5		7	1	8	
1000	図133	145	N5,N13,N14,I,Vb	P 76-77,Q 72	3						RL								10	
1001	図133	145	N5,N14,N26	K 76-77,L 76-77	3						LR								9	
1002	図133	146	N5,N13,N14,N33,Vb	M 76,N 76,R 73-74	3						羽状									
1003	図133	146	N26	M 78	3						無文									
1004	図133	146	N13	P 74	3						無文									
1005	図134	146	N26,Va	M 80-81,N 80	3	7.7					無文		2						3	
1006	図134	146	Vb	N 81	3						無文								0	
1007	図134	146	N13	O 76	3		3.0				LR								12	
1008	図134	146	N14,N33	L 77,M 77	4	5.6					羽状									
1009	図134	146	N5,N13,V	N 76	3						LR				3					
1010	図134	146	N4,N5,I	L 71,M 72	3	4.2					LR									
1011	図134	146	N5,N33	M 75,N 78	3	3.9					無文							0	1	
1012	図134	146	N13,N14,III,Va	M 77-78,N 74,O 74	3	7.7					羽状	4							1	
1013	図134	146	N33	L 76	3	5.8			(4)		無文								0	
1014	図134	147	N14,N36	M 74,N 75	3	5.1			4		RL	4							1	

表17 後期後葉の掲載土器一覧表(13)

遺物No	図No	図版No	層位	調査区	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	突起 単位	突瘤 文	地文	口縁 刻み	口縁 沈線	頸部 刻み	頸部 沈線	文様				
																I	II	III	IV	V
1015	図134	147	N13,N14,N33	M 75・76 N 76	3	9.5			(18)		羽状									
1016	図134	147	N4	O 80・81 Q 67	3	5.0			(6)		LR							0 1		
1017	図134	147	N5,N13,V,Vb	O 77 P 79・81 Q 80	3	8.2			(5)		LR							0 1		
1018	図134	147	N26	K 78	3	3.1					LR									
1019	図134	147	N13,N33,N35,N36	M 75・76 N 75・76	3	6.9			4		LR				5			4 2		
1020	図134	147	SE2,N5,N13,N33	M 76 N 77 O 77,U 76	3	16.1					羽状							0 1		
1021	図134	147	N13	O 75	3						無文									
1022	図134	147	N13	M 78	3						羽状	2	2	1	1					
1023	図134	147	N13,N33	M 77・79 N 78	3						不明	2	2	2	3			0 1		
1024	図134	147	N26	M 75	3	6.2					LR							0 1		
1025	図134	147	N13	O 81	3						羽状		1							
1026	図134	147	N13	N 76	3						無文		4							
1027	図134	147	N13,I	Q 73 S 73	3						無文									
1028																				
1029	図134	147	N13	N 75・76・78	3	10.1					LR		6				0 1			
1030	図134	149	N3,N5,N13,N35,N36,I	M 75 N 74~76 S 67	3						LR			2	3				13 3	
1031	図134	149	P 1163,N5,N13,N14,N26,N33	M 75・76・79・80 N 80,O 79・80	3						羽状				7					
1032	図134	149	N5,N13	N 77	3						羽状					2			8 1	5 4
1033	図134	147	N13,N22,Vb	O 74・78 P 80 Q 87 S 71	3						LR			2	3					
1034	図134	147	N13,N35,I	N 75・76 O 74	3						LR				2			10 2	10 2	
1035	図134	148	N26,Va	K 77・78 L 78	3						LR				9			1 1	17 2	
1036	図134	148	N13	O 76	3						LR							7 3		
1037	図134	149	N13	L 74・75 M 74~76 N 75・76 O 76・77	3						LR					4				
1038	図134	149	N5,N19,N26,Vb	M 77,O 81 P 81,Q 81・86	3						羽状				2	3				
1039	図134	148	N13,N36	L 74 O 76	3						LR					2				
1040	図134	149	N5,N13	O 76	3						LR				1					
1041	図135	148	N2,N4,N5,I	K 76 N 77 P 65 R 69・70 S 70	3						羽状							14 1	14 1	
1042																				
1043	図135	148	N4,N13,N33,I	南側盛土遺構 N 76,O 72・75・77 P 80	3						LR					4			10 2	
1044																				
1045	図135	148	N5,Va	O 76	3						LR									
1046																				
1047	図135	148	N4,N13	P 77	3						羽状				1	2				
1048	図135	148	N33	M 76	3						LR								10 2	
1049	図135	148	N13	O 75	3						LR									
1050	図135	148	N26	K 78	3						LR								16 3	
1051	図135	148	N4,N13,N14	M 70 O 72 Q 73	3						羽状									
1052	図135	148	N13	O 75	3						無文									
1053	図135	148	I	O 73	3						羽状									
1054	図135	148	N26	J 79	3						LR									
1055	図135	148	N13,N14,N26,N33,N36	K 74 L 77 M 75 N 77・78	3						LR									
1056	図135	148	N33	L 77	3						LR									14 2
1057	図135	148	N33	N 77	3						LR									
1058	図135	149	トレンチ	M 77 N 77	3						LR									
1059	図135	149	N5,N26	L 78 M 78	3						LR									
1060	図135	149	N26	L 79	3						LR									17 2
1061	図135	149	N13	N 74・75 O 74	3						羽状								10 1	
1062	図135	149	N14,N26	L 78 M 77	3						羽状								10 1	
1063	図135	149	N26	K 77	3						LR								6 2	
1064	図135	149	N5,N13,N33	N 76・77	3						LR								7 2	
1065																				
1066	図135	150	N13,N33,Va	N 75・76	3						RL									13 2
1067	図135	150	N30	Q 83・84	3						LR									
1068	図135	150	N33	M 76	3						LR									12 4
1069	図135	150		O 87	3						LR									14 2
1070	図135	150	N13	N 76	3						LR									10 2
1071	図135	150	N3,N4	R 67	3						羽状									10 2
1072	図135	150	V	M 83 N 83	3						LR									12 1
1073	図135	150	N26,I	M 79 N 78	3		6.0				羽状									
1074	図135	150	N33	M 76 N 75・76	3		5.1				羽状									15 4
1075	図136	150	N5	M 76	1	11.9		2.5	7.4	(7)			2				1 1			
1076	図136	151	N5,N13,I	N 76 N 75・78	1	12.3		3.1	10.7		LR		1		1	13 3		0 1	12 3	
1077	図136	151	N26,N34,Va	J 78・79 K 78 L 78	1	13.6		5.8	10.6	4	LR		1		1			0 1		
1078	図136	151	N5	M 76 N 79 O 79	1	16.6				(6)	LR		3		3	12 4		0 1		
1079	図136	151	N5,N14,N36	M 74・75	1	15.2		5.5	13.9	6	LR		4		6				1 1	1 1
1080	図136	151	N5,Va	N 79・80 P 70	1	14.4		3.8	9.9		羽状				1	10 1		0 1		
1081	図136	151	N5,N35,N36	M 74	1	35.5				6	LR		4		3			0 1		
1082	図136	151	N5,N13,N14,N36,V	M 74~76・79,N 74・76・77・84,O 77~79	1	37.0		7.8	48.0	8	LR		4		1			0 1		
1083	図136	151	N4,N36	L 74 M 74	1	14.5					羽状		2		3	3 1		0 1		
1084	図136	152	N5,N35,N36	L 75 M 74・75	1	27.6		7.5	26.4	(7)	LR		5		4			0 1		
1085	図137	152	N5,N13	O 79	1	31.3		7.6	32.8	(10)	LR		3		2			0 1		
1086	図137	152	N5,N13	M 77 N 76・77	1	20.8		5.9	18.7	(16)	LR		2		4			0 1		15 4
1087	図137	152	N5,N34,I	N 78 O 77	2	20.6				(8)	LR		2						6 2	0 1
1088	図137	153	N36	N 73	1	23.5	2.1	27.9			羽状		3		2			0 1		15 4
1089	図137	153	N36,I	L 74・75 M 74 N 78	2	37.4	6.7	45.4			LR		4		5				4 2	0 1
1090	図137	152	N5,N13	N 76	1	21.6				8	LR		5		8			0 1		
1091	図137	152	N35,N36	M 74・75	1		7.2				LR				7					7 3
1092	図138	153	N4,N26,N34,I,III,Va	M 73・77~79 O 78	1	20.6					LR		2				7 1			
1093	図138	153	N5	N 76	1						LR		2				6 2			
1094	図138	153	N35	N 76	1						LR		4				9 1			
1095	図138	153	N3,I	S 67	2						羽状		1		4					
1096	図138	153	N1	R 66	1	16.7					LR		3				15 4			
1097	図138	153	N5,I,IV	O 78	1						LR		1		3	3 2		0 1		15 4
1098																				
1099	図138	154	N3	S 66・67	1	15.8					LR		2		1	9 1		0 1		9 1
1100	図138	154	N5	K 75・76	1						LR		3							
1101	図138	154	N5	N 76	1						羽状		1							
1102	図138	154	N36	M 74	1						羽状									0 1

表19 後期後葉の掲載土器一覧表(15)

遺物No	図No	図版No	層位	調査区	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	突起 単位	突瘤 文	地文	口縁 刻み	口縁 沈線	頸部 刻み	頸部 沈線	文様					
																I	II	III	IV	V	
1192	図145	166	N5	O 78	2						○					LR					
1193	図145	167	N3	S 67	2						○					LR					
1194	図145	167	N3	S 66	2						○					LR					
1195	図145	167	N5	O 79	2						○					RL					
1196	図145	167	N5	N 78	2						○					LR					
1197	図145	167	N5,N36	N 75	2						○					LR					
1198	図145	168	N5	N 79-80	2						○					羽状					
1199	図145	168	N3	R 66	2	21.2					○					LR					
1200	図145	167	N5,N35	N 76	2						○					LR					
1201	図145	168	N5	N 78	2						○					羽状					
1202	図146	168	N5	L 76	2						○	羽状	2	2							
1203	図146	168	N5	O 78	2						○					LR					
1204	図146	168	N5	N 76	2	15.2	4.9	11.5			○					LR					
1205	図146	169	N5	N 79	2						○					羽状					
1206	図146	169	N5	M 77	2						○					羽状					
1207	図146	169	N26	K 77	2						○					LR					
1208	図146	169	N36	L 74	2						○					LR					
1209	図146	169	N5	N 76	2						○					LR					
1210	図146	169	N5	N 79	2	25.6					○					RL					
1211	図146	169	N5,N36	L 76,N 75-78-79	2						○					羽状					
1212		170																			
1213	図146	170	N5	K 76	2						○					羽状					
1214	図146	170	N5,N35	N 76, O 77	2						○					LR					
1215	図146	170	N5	M 76	2						○					LR					
1216	図146	170	N5	N 77	2						○					LR					
1217	図146	170	N26,N34,I	M 80	2						○					羽状					
1218	図146	170	N5	O 79	2						○					羽状					
1219	図146	170	N3	S 66	2						○					LR					
1220	図146	171	N1,N3	R 67,S 67	2						○					LR					
1221	図146	171	N5	N 78	2						○					LR					
1222	図146	171	トレンチ	M 76	2						○					RL					
1223	図147	171	N36	M 75	2						○					LR					
1224	図147	171	N5	O 79	2						○					LR					
1225	図147	171	N36	L 74	2						○					羽状					
1226	図147	171	N5	N 77	2						○					LR					
1227	図147	171	N3	S 67	2						○					LR					
1228	図147	171	N5	N 79	2						○					LR					
1229	図147	172	N14,N36	M 75,N 75	2	21.0					○					LR					
1230	図147	172	N36	M 75	2	23.1	4.1	14.9			○					LR					
1231	図147	172	N3	S 67	2	35.5					○					LR					
1232	図147	172	N5	O 78	2						○					LR					
1233	図147	172	N35,N36	L 74-75	2						○					LR					
1234	図147	172	N5,N13,N33	M 76,N 76	2						○					LR					
1235	図147	172	N5	O 78	2						○					LR					
1236	図148	172	N5,N36	M 75,N 76	2						○					LR					
1237	図148	172	N5	N 76	2						○					LR					
1238	図148	172	N36	M 75	2						○					羽状					
1239	図148	172	N3	S 66	2						○					LR					
1240	図148	173	N3	S 67	2						○					LR					
1241	図148	173	N5	N 76	2						○					羽状					
1242	図148	173	N36	M 74-75	2						○					LR					
1243	図148	173	N5,N33,N36,I	K 75,L 74-75,M 76,N 78	2						○					LR					
1244		173																			
1245	図148	173	N5	N 78	2											LR					
1246	図148	173	N3	S 67	2						○					LR					
1247	図148	173	N5	N 79	2						○					LR					
1248	図148	174	N5	L 76	2	30.5					○					LR					
1249	図148	173	N5	L 76	2						○					LR					
1250	図148	173	N36	M 74,N 74	2						○					LR					
1251	図148	174	N5	N 78	2						○					LR					
1252	図148	174	トレンチ	R 67	2						○					LR					
1253		174																			
1254	図149	175	N3	S 66	2	29.3	7.1	25.5			○					LR					
1255	図149	175	N5,N33	L 76,M 76	2	23.5					○					LR					
1256	図149	175	SE2	X 73	2						○					羽状					
1257	図149	175	N5	N 77	2	31.8					○					LR					
1258	図149	175	N36	M 75	2						○					LR					
1259	図149	175	N5	N 78	2						○					LR					
1260	図149	175	N35	M 75	2						○					LR					
1261	図149	175	N3	R 67	2						○					LR					
1262	図149	176	N5	N 79-80, O 80	2	24.7					○					RL					1 1
1263		175																			
1264	図149	175	N5	N 77	2						○					LR					
1265	図149	176	N36	M 74	2						○					LR					1 1
1266	図149	176	N5,N35,N36	M 75,N 76-78	2						○					LR					
1267	図149	176	N3	R 67	2	19.2					○					LR					6 2
1268	図150	176	N3	S 65	2						○					RL					
1269	図150	176	N36	M 74	2						○					LR					1 1
1270	図150	176	N5	L 77	2						○					RL					
1271	図150	176	N3	S 67	2						○					LR					1 1
1272	図150	176	N5	N 76	2						○					羽状					
1273	図150	176	N5	N 78	2						○					LR					1 1
1274	図150	177	N5	L 76	2						○					LR					
1275	図150	177	N5,N36	L 75, O 77	2						○					LR					15 3
1276		177																			
1277	図150	177	SE1	X 73	2						○					羽状					
1278	図150	177	SE2	Z 74	2						○					羽状					
1279	図150	177	N4	R 70	2						○					羽状					
1280	図150	177	SE1	X 71	2						○					羽状					
1281	図150	177	N5	L 77	2						○					羽状					
1282	図150	177	SE2	W 74	2						○					羽状					
1283	図150	177	SE2	X 73	2						○					羽状					
1284	図150	177	SE1	W 72	2						○					羽状					
1285	図150	177	N33,N36	L 75,M 75,N 75	2	17.3					○					LR					7 1 7 3
1286	図150	177	N5	N 76	2	21.7					○					羽状					4 2

表21 後期後葉の掲載土器一覧表(17)

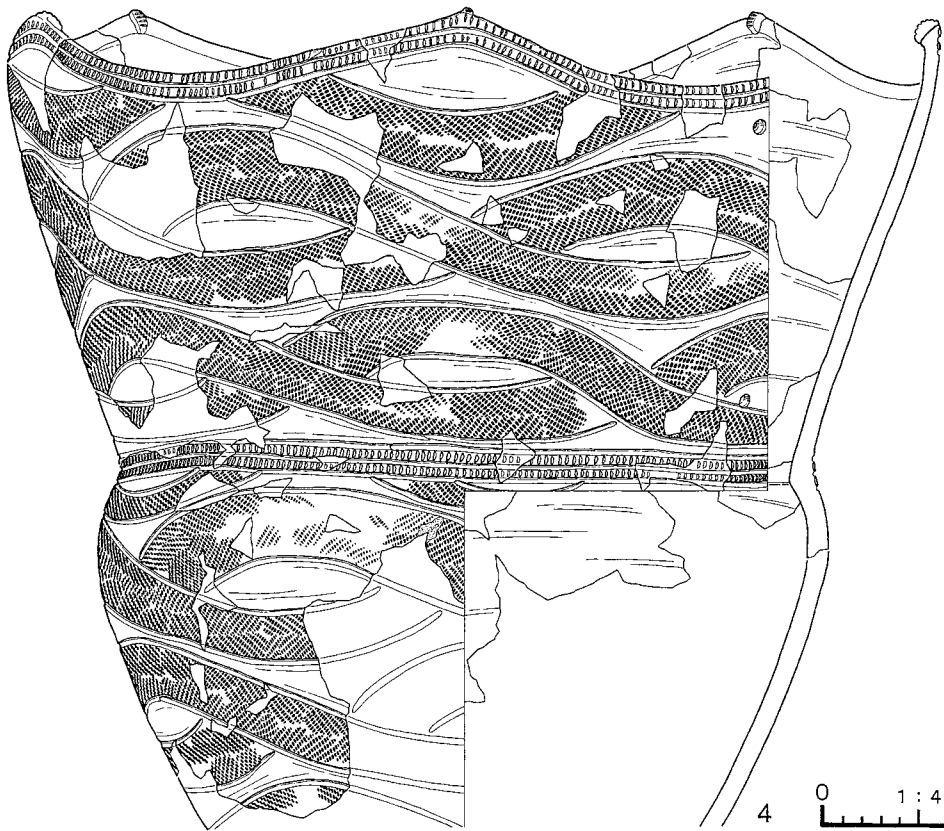
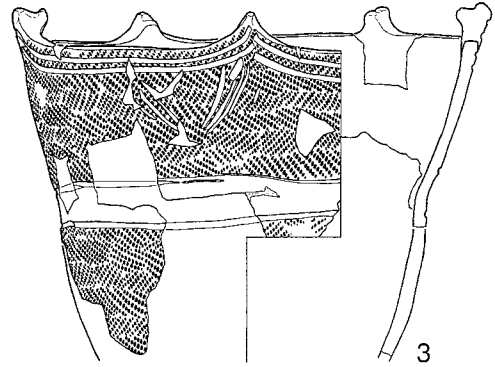
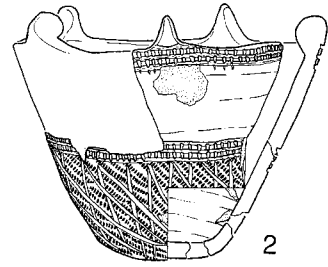
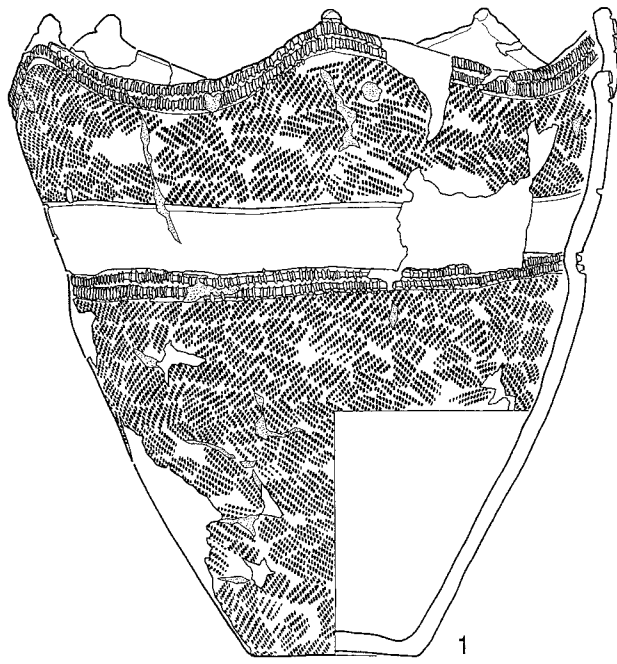
遺物No	図No	図版No	層位	調査区	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	突起 単位	突瘤 文	地文	口縁 刻み	口縁 沈線	頸部 刻み	頸部 沈線	文様					
																I	II	III	IV	V	
1377	図154	186	N1	R 66	2						LR		8								
1378	図154	186	I	N 73	2						LR		5								
1379	図154	186	N36	M 74	2						LR		5								
1380	図154	186	N1_N3	S 66	1	13.1					LR		4								
1381	図155	186	N5	N 78	2						LR		5						15	4	
1382	186																				
1383	図155	186	N5_N33_N36	L 75	2	13.9	(4.7)	(9.7)			LR		2							7	1
1384	図155	186	N36	L 74-75	2						LR		3							12	3
1385	図155	186	N5_N35	L 76	2						RL		6							11	3
1386	図155	187	N3	S 67	2						LR		3							10	2
1387	図155	187	N35	N 75	2	10.0					LR		3							4	3
1388	図155	187	トレンチ	R 67	2	21.7					LR		3							10	2
1389	187																				
1390	図155	183	トレンチ	L 76			5.0				LR									5	4
1391	図155	187	N5	O 78	2						LR		4							1	1
1392	187																			12	3
1393	図155	187	N36	N 75	2	12.1	(3.5)	(7.3)			LR		1							10	2
1394	図155	187	N5,I,Vb	M 76 R 70	2	15.8	3.8	8.7			LR									9	2
1395	図155	188	N3_N4,I	S 66	1	23.2					LR		4			12	2			11	1
1396	188																				
1397	図155	188	N35	M 75	1						LR		3			1	1				
1398	図155	188	N5	N 77	2						RL		2							15	4
1399	188																				
1400	図155	189	N5_N13_N35,I	N 77,O 77	2						羽状		6							15	4
1401	図156	189	N5	O 80							LR		1							15	4
1402	図156	189	N5,I	M 77							羽状		2							1	3
1403	189																				
1404	図156	189	N5	O 76							LR		2							13	1
1405	図156	189	N3_N5	L 75,Q 67							羽状		1							13	1
1406	189																				
1407	図156	189	N5_N13_N33	L 76 M 76 N 76-77 O 78	2						LR		4							5	4
1408	189																				
1409	189																				
1410	図156	189	N5	O 77	2						LR		2							13	3
1411	図156	189	N36	L 74	2						羽状		3							12	3
1412	図156	189	I	J 74	2						羽状		3							12	3
1413	図156	189	N36,I	L 73-75 M 75	2	11.4					LR		2							12	3
1414	図156	189	N36	N 75	2						LR		3							10	2
1415	図156	190	N3	Q 67	2						LR		4							10	2
1416	図156	190	N5	O 78							LR		1							10	2
1417	図156	190	N14_N36	L 74	2						LR		3								
1418	図156	190	N1	S 66							LR		4							9	2
1419	図156	190	N35	N 75	2	10.0					LR		3							9	2
1420	図156	190	N3	N 76	2	12.6					○ LR		3							9	2
1421	図156	190	N3	S 67	2	12.2					無文		2							10	2
1422	図156	190	N26,I	K 77,L 72 M 71	2						LR		2							16	4
1423	図156	190	N3	R 68							LR		3								
1424	図156	190	N3,I	R 67							LR		2							12	3
1425	図156	190	N35	N 76							○ LR		1								
1426	図156	190	N5_N34,I,Va	M 78,N 78 P 72,Q 72	2	7.0					LR		3							12	3
1427	図156	190	N5_N34	M 75-77-79							LR		3							4	1
1428	図156	190	N4_N36	M 73	2	14.2	2.9	6.5			無文		2							12	3
1429	図156	191	N35	N 76							無文									6	2
1430	図156	191	N5_N34_N35,I,IV,Va	L 77 M 75 N 73 P 65							無文										
1431	図156	191	N5	N 78							LR		7							4	1
1432	図156	191	N5_N26_N34	M 78 N 77-78							羽状		1							15	4
1433	191																				
1434	図156	191	N5_N13_N34,I	M 77 N 77-79							羽状		2								
1435	191																				
1436	191																				
1437	図156	191	N3_N36,I	L 74 N 74 R 65 S 66-67							LR									12	3
1438	191																				
1439	図157	191	N35	O 75	3	1.4	3.2	11.3			LR									2	2
1440	図157	191	Va	J 79	3	0.6	1.2	4.4			LR										
1441	図157	192	N4_N13_N14_N33_N35_N36	N 75	3	7.3	5.2	19.7	5		RL		1		2				7	1	
1442	図157	192	N1_N3_N4,I	S 65-66	3		3.0				羽状									14	1
1443	図157	192	N4_N13_N36,IV,V,Vb	G 76 M 75,O 67-76 P 79	3	12.6			(23)		LR		4		4				0	1	
1444	図157	192	N14_N36,I,Va	M 74 S 75-76 排土	3						無文			2	3						
1445	図157	192	N3	R 66	3						LR		2							7	3
1446	図157	192	N5,I	N 77,O 76-78	3		(4.6)				LR									12	3
1447	図157	192	N3_N4,I,Vb	R 67-69 S 67-69	3	6.7	(6.8)	(22.9)	5		LR		5		3				2	1	
1448	図157	192	N5	N 77,O 77-78	3						LR									1	1
1449	図157	192	N5_N33_N36	L 74-75 M 74-75	3						RL									12	1
1450	図158	192	N3_N5_N13,I,V	L 74 M 81 N 78 O 78-80, S 67	3		(3.1)				羽状					1				9	1
1451	図158	192	III,V	K 83	3						RL									10	2
1452	図158	193	N5	N 77	3	4.0					LR									7	1
1453	図158	193	N36	M 73	3	3.0					羽状										
1454	図158	193	N5	L 75 N 79	3	6.1					RL										
1455	図158	193	N4_N5_N13_N14_N33_N35,I	K 72 L 72-74-76 M 73-76-77 N 74-77 O 75-76-78 P 76	3	4.5					LR									7	1
1456	図158	193	N35_N36	M 75 N 75	4						RL										
1457	図158	193	N4_N35	N 71-76	4						LR									8	2
1458	図158	194	SE2_N5_N13_N14_N34_N35_N36,I,Va	L 73-75-76 M 75-76 N 73-75-79 O 75-78-80 P 75-77 Y 73	4	(5.2)	(3.1)	(12.4)			無文										
1459	図158	193	I	S 67							無文										
1460	図158	193	N1	S 65							無文										
1461	図158	193	N3,I	P 71 R 66-67 S 67							無文										
1462	193																				

表22 後期後葉の掲載土器一覽表 (18)

遺物No	図No	図版No	層位	調査区	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	突起 単位	突瘤 文	地文	口縁 刻み	口縁 沈線	頸部 刻み	頸部 沈線	文様				
I	II	III	IV	V																
1463	158	193	N30 ,Vb	南側盛土遺構 P 82 ,Q 87							無文									
1464		193																		
1465	158	193	N3	南側盛土遺構 R 67							無文									
1466		193																		
1467	158	193	N4 ,N21 ,N26 ,IV ,	南側盛土遺構 ,J 77 K 77·							無文									
1468		193	Va	80 L 72 M 82 ,N 83																
1469		193																		
1470		193																		
1471	159	194	N5 ,N13	M 76 N 78 ,O 74·76 P 74	3						LR				2			13 3		
1472	159	195	P 660 ,SE1 ,SE2	U 75 ,V 75 ,W 74	3						LR							13 3		
1473		195																		
1474	159	195	V	R 68 S 67·68	3						羽状									
1475	159	195	N14 ,N33	M 75 N 75	3						LR							12 4		
1476	159	195	N36	M 74	3						LR							14 2		
1477	159	195	トレンヂ	N 77	3						LR									
1478	159	195	N3 ,N4 ,N35 ,N36 ,	M 75 ,O 67~69 P 70 R 67	3						LR				2			12 1		
1479		195	I ,Vb	·88																
1480		195																		
1481	159	194	N5 ,N13	N 77·80 ,O 79	3						LR				2	4				
1482	159	194	N4 ,N36	M 73 N 73	3	7.4					羽状	1								
1483	159	194	N5	N 77	3	8.0			4		LR	2				9 1				
1484	159	194	I	N 75	3	2.8			4		RL			2						
1485	159	194	N5 ,N36	L 76 M 74	3	6.2			4		LR			1						
1486	159	194	N35 ,N36	N 75	3	5.0			4		LR	4								
1487	159	194	N5	O 78	3	10.0					LR				2					
1488	159	194	トレンヂ	R 67	3	6.1			5		LR	2		1						
1489	159	194	N36	L 74	3	5.9			4		RL	2		10			1 1			
1490	159	198	N5 ,N35 ,N36 ,I	M 75 N 74·75·78	3	5.0			6		LR			1						
1491	159	198	N3	R 66	3	5.4					RL			2			13 3			
1492	159	198	N5	N 76	3	7.6			(5)		LR	2		5			1 1			
1493	159	198	N36	M 75	3	5.8			6		LR	3		5			2 2			
1494	159	195	N17 ,V ,Vb	Q 80 R 78·83·87	3	6.8					LR	1								
1495	159	195	N34 ,I	M 78·79	3	9.0					LR	2								
1496	159	195	N1 ,N4	O 67·68	3						LR	1								
1497		195																		
1498	159	196	N5	N 78	3	10.1					LR	4								
1499	159	196	N5 ,N13 ,I ,IV	O 80	3	13.4					羽状				1					
1500	159	196	N5 ,N14 ,N35 ,N36	M 74·75	3	8.0					RL	3		6			1 1			
1501	159	196	I	Q 77	3						無文	2								
1502	159	196	N19	R 87	3						LR	6								
1503	159	196	V	Q 70	3	6.2					LR				2			12 4		
1504	159	196	N36	N 75	3						無文	2								
1505	159	196	N4	M 71 N 71	3						無文	2					0 1			
1506	159	196	N3	S 68	3						LR			1						
1507	159	196	N5 ,N35	L 75	3						LR	4								
1508	159	196	N1 ,N3 ,N4 ,I	R 65·66	3						無文			1	1		0 1			
1509	159	196	N35	L 75 M 75	3						無文	2		1	1	15 3				
1510		196																		
1511	160	196	N5	K 75 L 76	3						無文									
1512	160	196	I	P 74	3						LR									
1513	160	196	N5	N 77	3						LR									
1514	160	196	SE2		3						RL									
1515	160	196	N5	O 78	3						LR									
1516	160	196	N3	R 67	3						LR				3					
1517	160	198	N5	G 78 N 78	3						LR				3			12 4	12 4	
1518	160	196	トレンヂ	M 75	3						LR						10 2			
1519	160	197	SE1	W 74	3						LR				2					
1520	160	197	N5	N 78	3						羽状				5			7 1		
1521	160	197	SE2 ,N13 ,N34	N 78 ,O 78 P 76	3						LR									
1522	160	197	N36	M 73·74	3						RL									
1523	160	197	N3	S 67	3						LR							11 2		
1524	160	197	N26	K 76	3						無文				1			17 1		
1525	160	197	N5	L 76	3						RL				1					
1526	160	197	N5 ,N36 ,III	K 75·76 N 76	3						無文							10 2		
1527		197																		
1528	160	197	N5 ,N13	O 79 P 79	3						羽状				1					
1529	160	197	N5 ,I	P 77·78	3						羽状									
1530	160	197	Va	J 79	3						羽状									
1531	160	197	N5 ,N13	P 78	3						LR				1			12 4		
1532	160	197	N36	L 74 M 75	3						羽状				1			16 4		
1533	160	197	N5	N 76	3						RL							16 2		
1534	160	197	N36	M 75	3						LR									
1535	160	197	N36 ,I	M 75	3						LR							12 3		
1536	160	197	N1	Q 67	3						羽状									
1537	160	197	N34 ,N35 ,I	L 75 M 75	3						無文							15 3		
1538	160	198	N13 ,N14 ,N19 ,I ,	O 75·76 Q 72·82·86 R	3						羽状							12 4		
1539		198	Vb	66·73																
1540	160	198	N5 ,N35 ,N36	L 75·76 M 75·76	3						RL									
1541	160	198	N5 ,I	M 77 N 77 ,O 77 P 72	3						RL									
1542	160	198	N3	S 66	3						LR							12 3		
1543		198																		
1544	160	198	I	J 72·73	3						LR									
1545	160	198	N35 ,I	L 73·75 N 85	3						無文							15 2		
1546	160	199	N5 ,I	N 77 ,O 75	3						LR							11 2		
1547	160	199	N36	M 74	3						LR									
1548	160	199	N36	M 74	3						LR									
1549	160	199	N36	M 74	3						LR							7 3		
1550	161	199	N5 ,N13 ,N35 ,I	M 75 N 74~76	1	17.9			(11)		羽状	1		1						
1551	161	200	N5 ,N13	N 77 ,O 77·78							RL	1						12 4		
1552	161	199	N4	N 72							羽状	3						0 1		
1553	161	199	N13 ,I ,Va ,Vb	Q 74·75	1						RL	3						4 2		
1554		199																		
1555	161	199	N35 ,N36	L 75·76						○	羽状	3								
1556		199																		

表23 後期後葉の掲載土器一覧表 (19)

遺物No	図No	図版No	層位	調査区	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	突起 単位	突瘤 文	地文	口縁 刻み	口縁 沈線	頸部 刻み	頸部 沈線	文様					
																I	II	III	IV	V	
1557 1558	図161	200 200	N13	P 74・75 Q 75						○	羽状		3			6 2					
1559 1560	図161	200 200	N13 ,N14 ,I	P 74	1						RL		2								
1561	図161	200	N14 ,I	Q 74 R 74 S 75						○	LR		2								
1562 1563	図161	200 200	Va ,Vb	P 74 Q 74・75						○	LR		3								
1564 1565	図161	200 200	Vb	S 71 ,T 78						○	羽状		3								
1566 1567	図161	200 200	N36 ,I	K 68 N 74						○	羽状		1								
1568	図161	200	I	N 72						○	羽状		2								
1569	図161	200	N35	L 75						○	羽状		2								
1570	図161	200	III	K 75						○	羽状		3								
1571	図161	200	I	P 78							RL										
1572	図161	200	N5	O 76							羽状										
1573	図161	201	SE1 ,SE2 ,N5 ,N13 ,I	N 79・80 ,O 75・76・79 X 73・75・76	2	18.6	(4.6)	(10.3)			RL	2	2								
1574	図161	201	I ,IV ,V ,VI	R 83・84 S 84 ~ 86・88 ,T 83 ~ 85	3	14.7	5.9	26.9	4		LR		2	2							
1575	図161	201	N35	M 75			5.0				LR										
1576 1577 1578	図161	201 201 201	SE1 ,SE2 ,I ,III ,V	X 73・74 ,Y 73・74	3	10.1					無文		5	7							
1579	図162	201	I ,V ,Va ,Vb	Q 78 R 78・81						○	RL										
1580	図162	201																			
1581	図162	201	N34 ,N35	K 75						○	無文										
1582	図162	201	IV	P 79						○	LR										
1583	図162	201	SE1 ,III ,IV ,V	U 75・76 ,T 76							LR										
1584 1585 1586 1587	図162	201 201 202 203	III ,IV ,V	E 83・84 F 82 ~ 84 Q 82							RL・LR		3								
1588	図162	203	V	E 60							LR										
1589	図162	203	V	E 60							LR										
1590	図162	202	N34	N 78			2.7				LR										
1591 1592	図162	202 203	N5 ,N34 ,I ,Va	M 78・79 ,N 77 ~ 79 ,O 75 ,P 76 ,Q 75・76	2	16.9			(10)				1						14 3		
1593 1594	図162	203 203	N5 ,N13 ,N14 ,I ,Vb	P 74・75									2								
1595	図162	203	N35 ,I	N 76							LR										
1596	図162	202	SE1 ,SE2 ,III ,V ,Vb	U 77 ,T 76・77	2	7.0	3.1	8.1			無文										
1597	図162	202	N5 ,N35 ,N36 ,I	K 75 ,L 75・76 ,N 77	2	9.0	1.3	9.2			無文								7 3		
1598	図162	203	VI	W 80							LR		4								
1599 1600 1601	図162	203 203 203	N13 ,N14 ,I ,Va ,Vb ,VI	P 80 ,Q 78 ~ 80							LR										
1602 1603	図162	203 203	Va ,VI	S 79 ,T 77							無文										
1604 1605 1606 1607	図162	203 203 203 203	N14 ,I ,V ,Va ,Vb	Q 75 R 74 X 72							羽状	1	3								
1608	図162	203	N26	L 77							無文										
1609	図162	202	I ,IV ,Vb	S 70・71		12.2 9.8			ㄨ(4)		LR		1		0 1						
1610	図162	202	N26 ,III ,V ,Va ,Vb	K 80・81・89	3						無文								0 1		
1611	図162	202	N5 ,N26 ,N36	L 74・76 M 76	2	13.3					RL		2								



0 1 : 4 10cm

図60 盛土・包含層出土の土器（1）

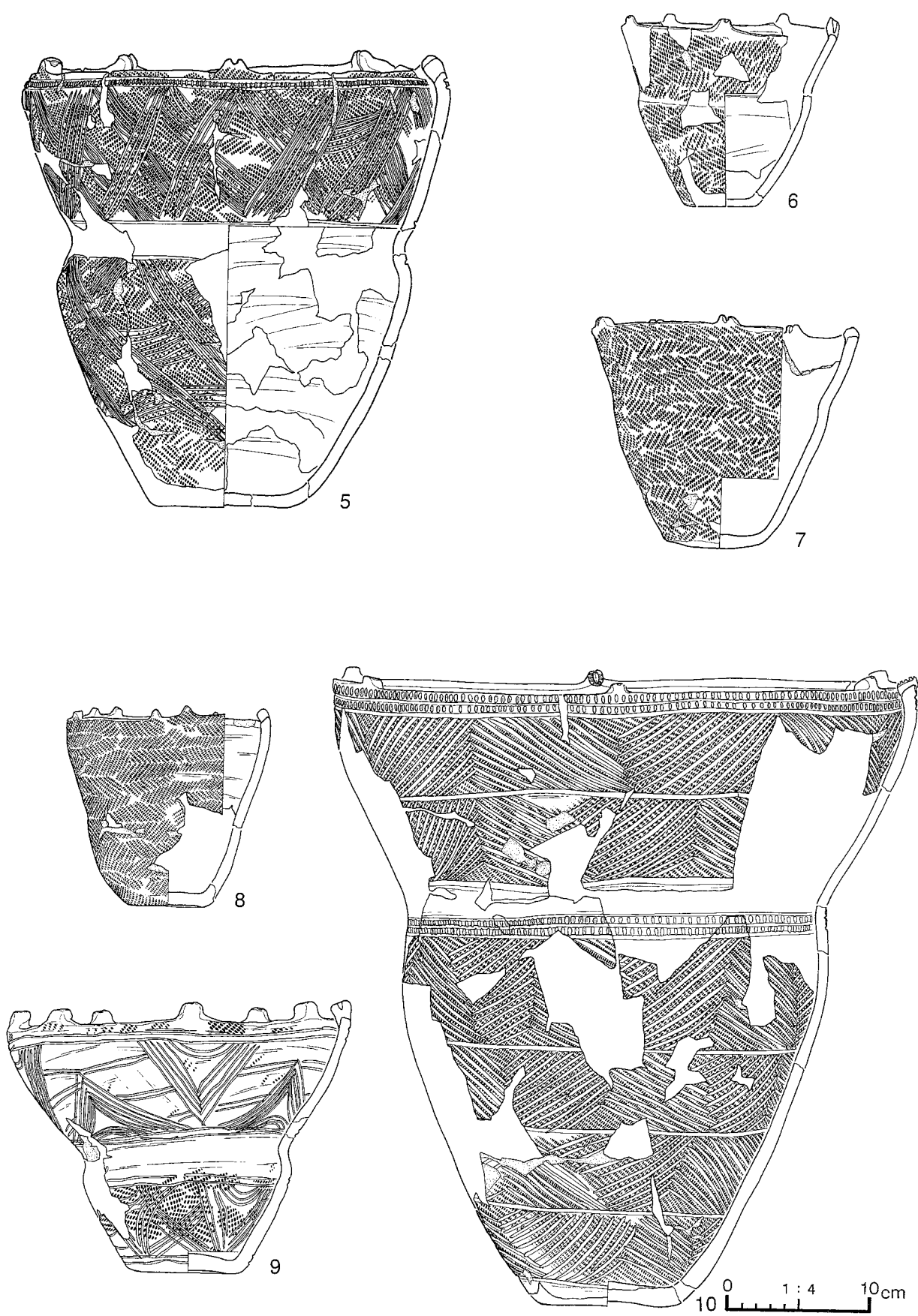


図61 盛土・包含層出土の土器（2）

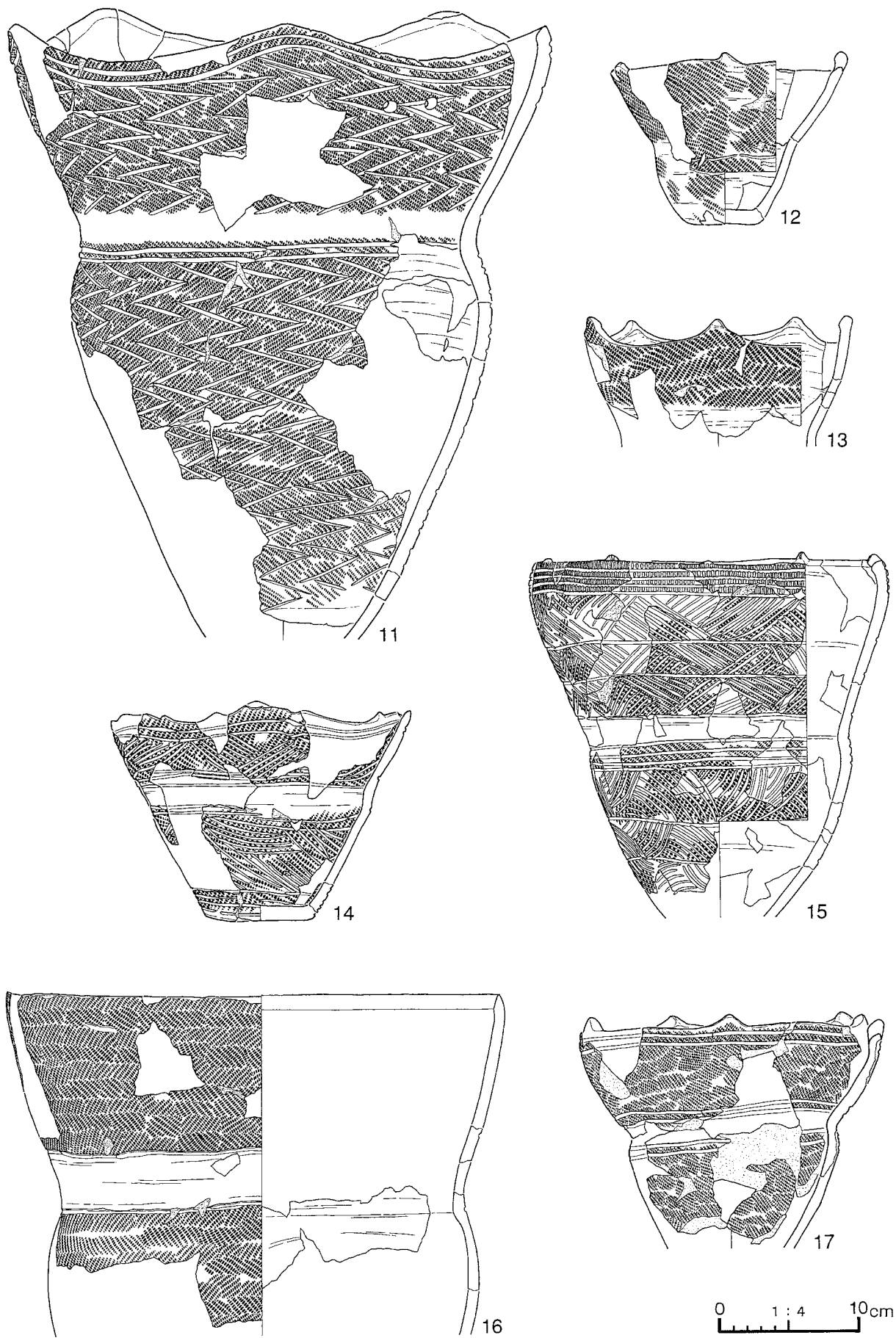


図62 盛土・包含層出土の土器（3）

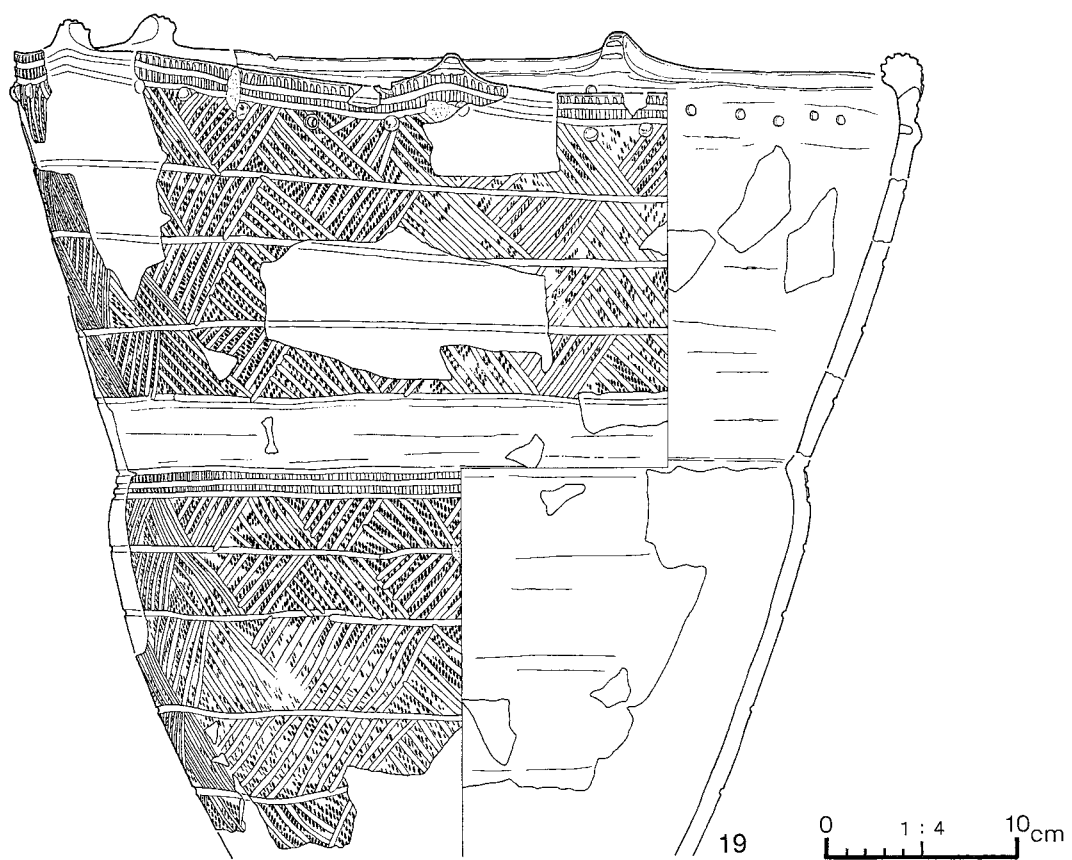
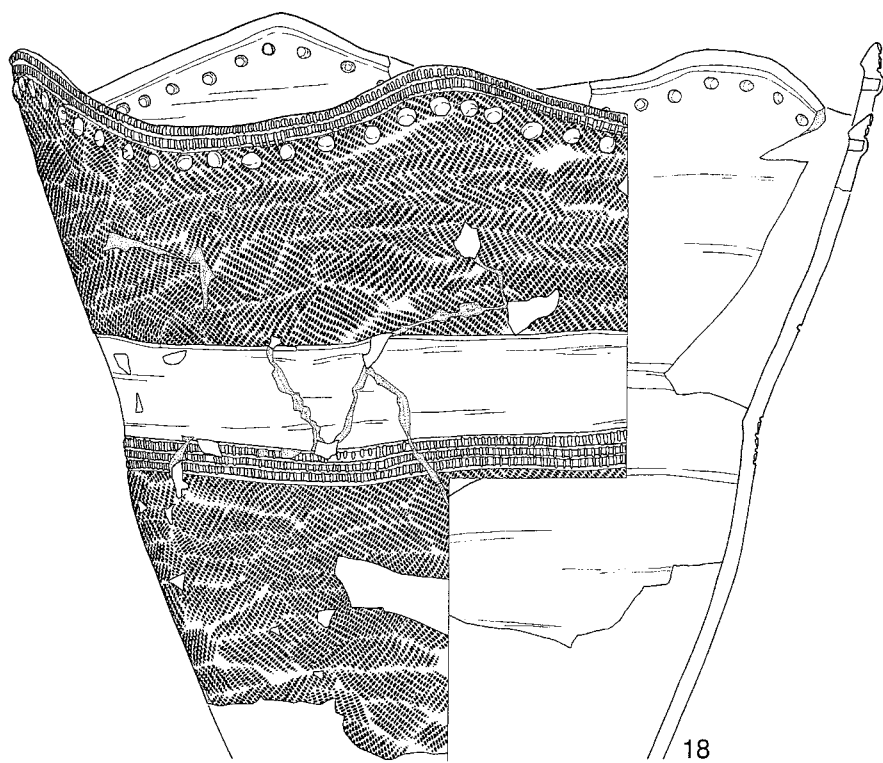


図63 盛土・包含層出土の土器（4）

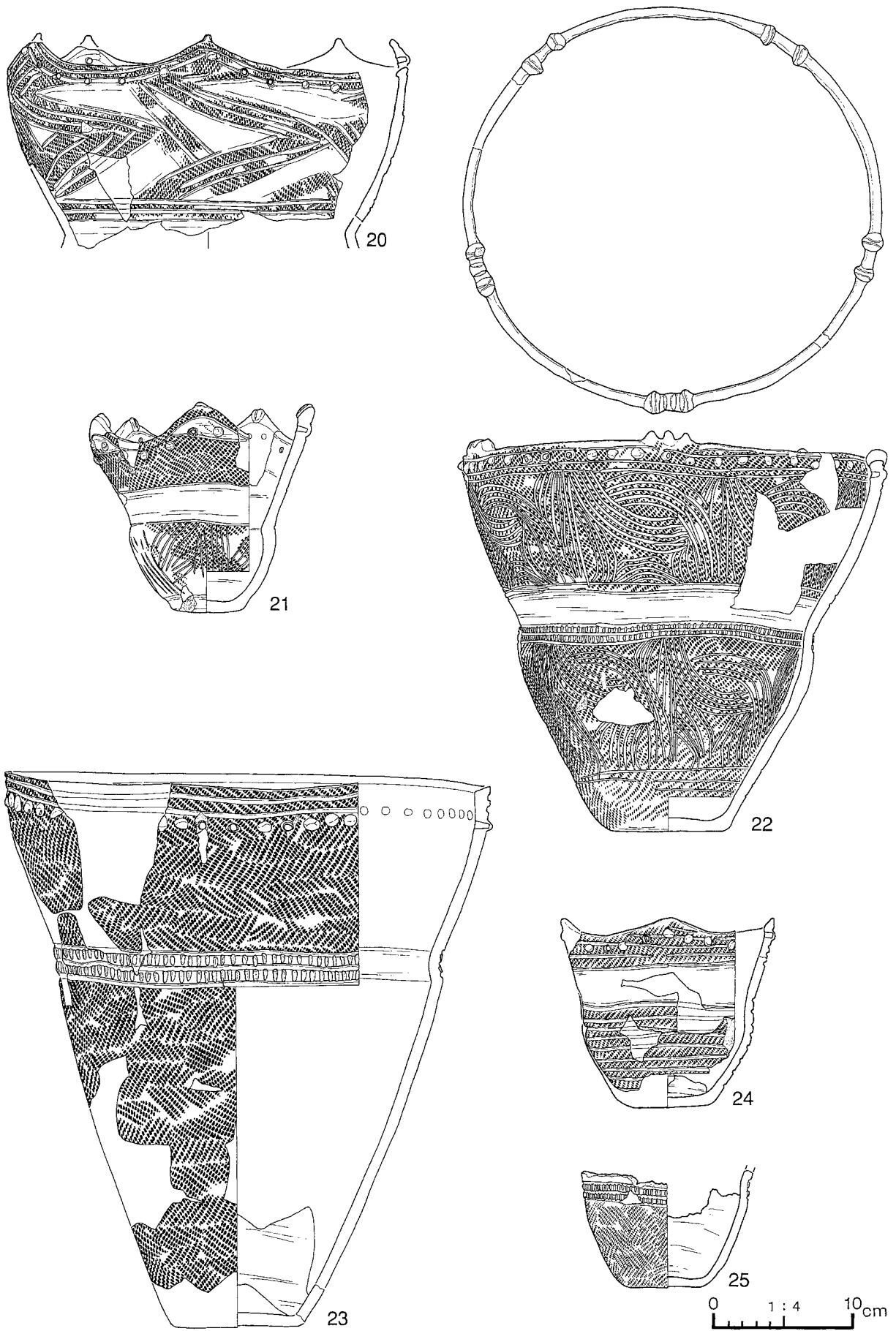


図64 盛土・包含層出土の土器（5）



図65 盛土・包含層出土の土器（6）

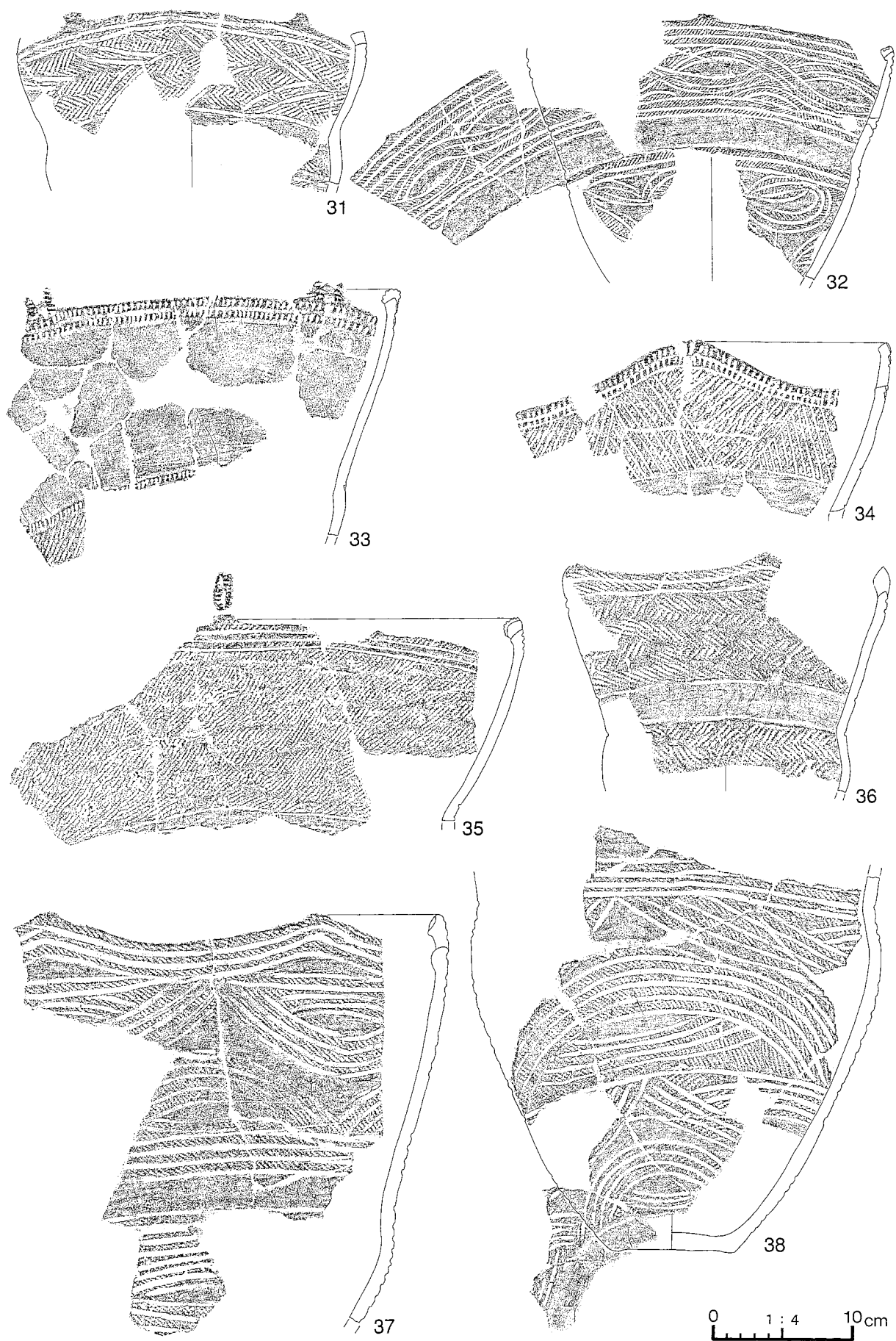


図66 盛土・包含層出土の土器（7）

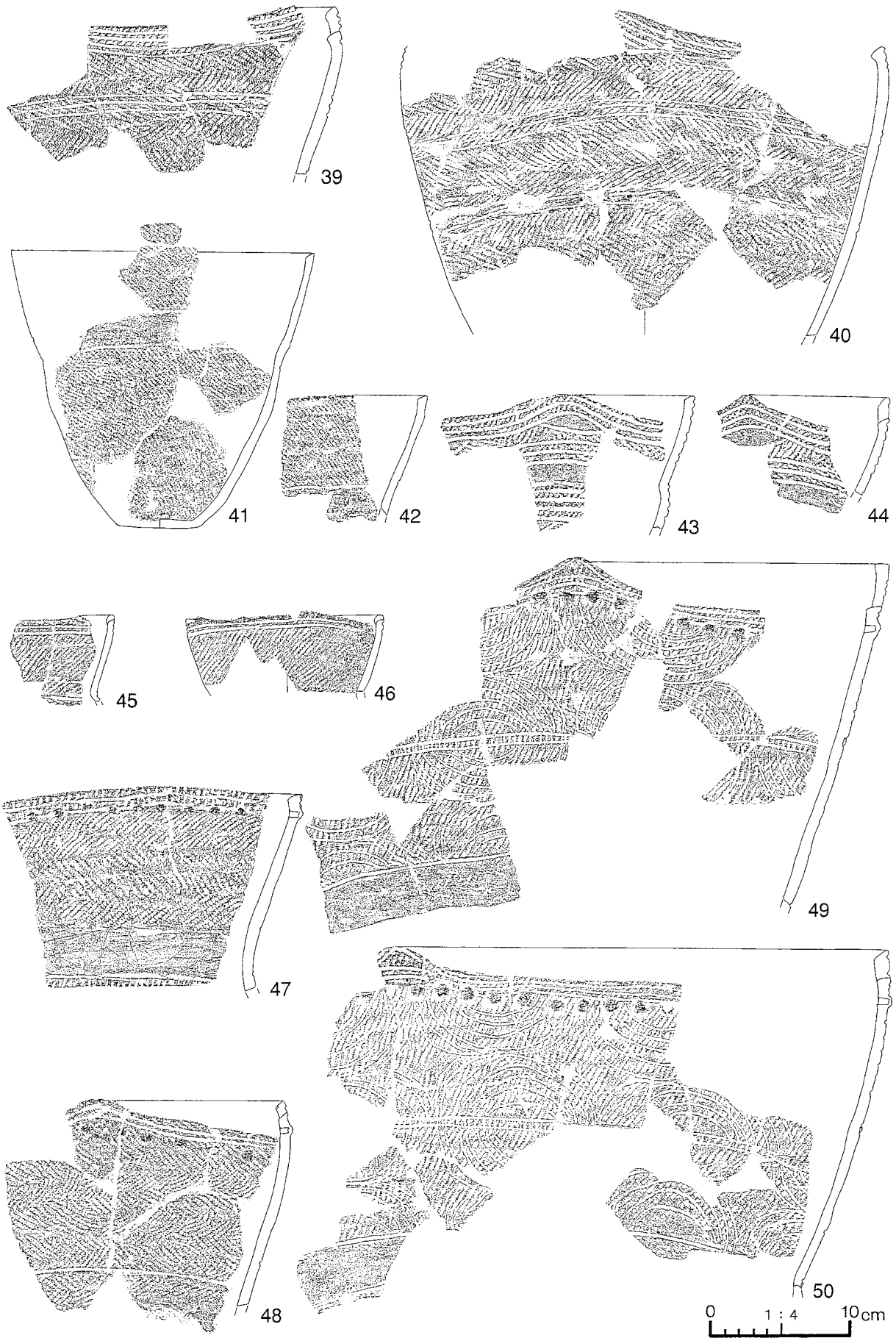


図67 盛土・包含層出土の土器（8）

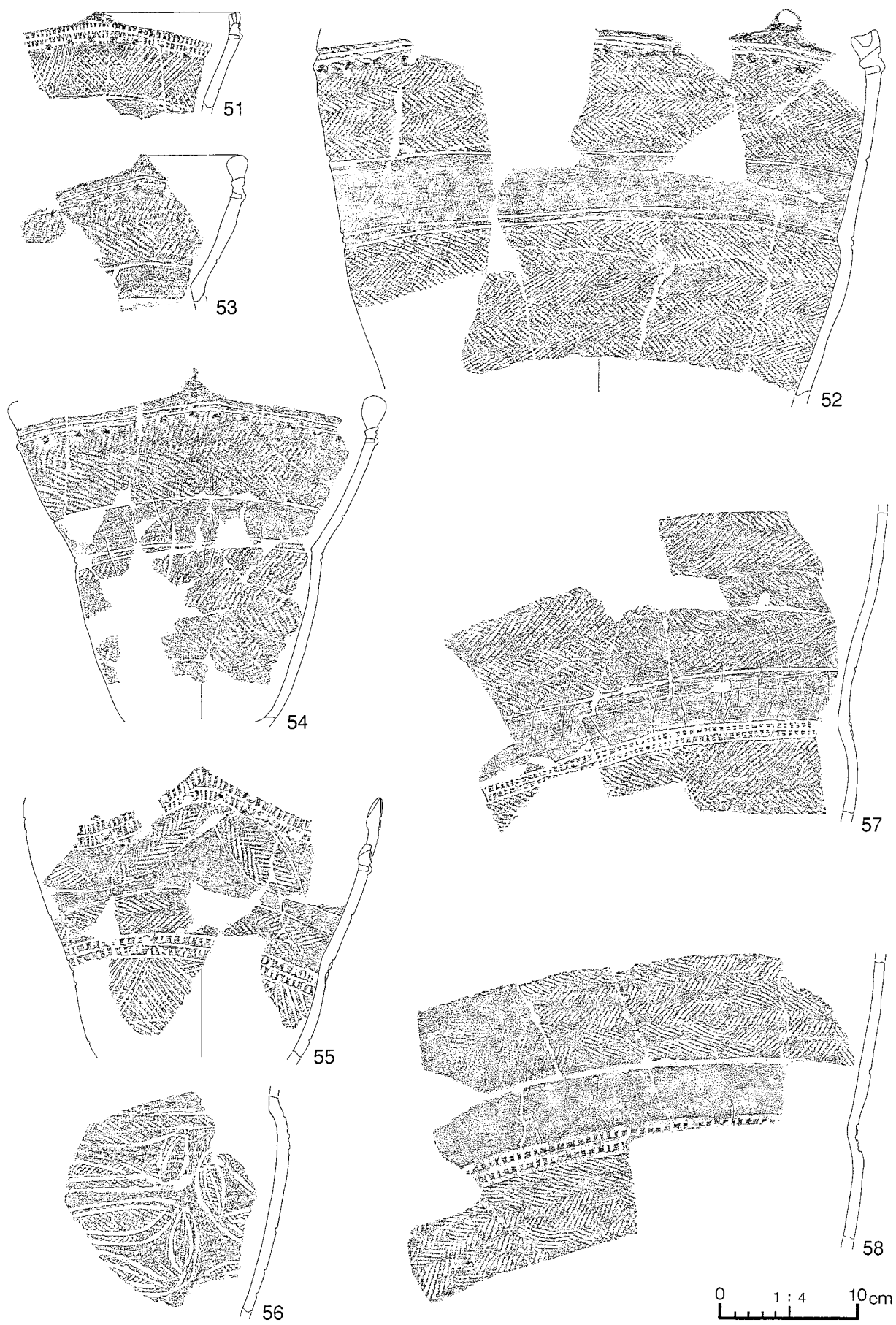


図68 盛土・包含層出土の土器（9）

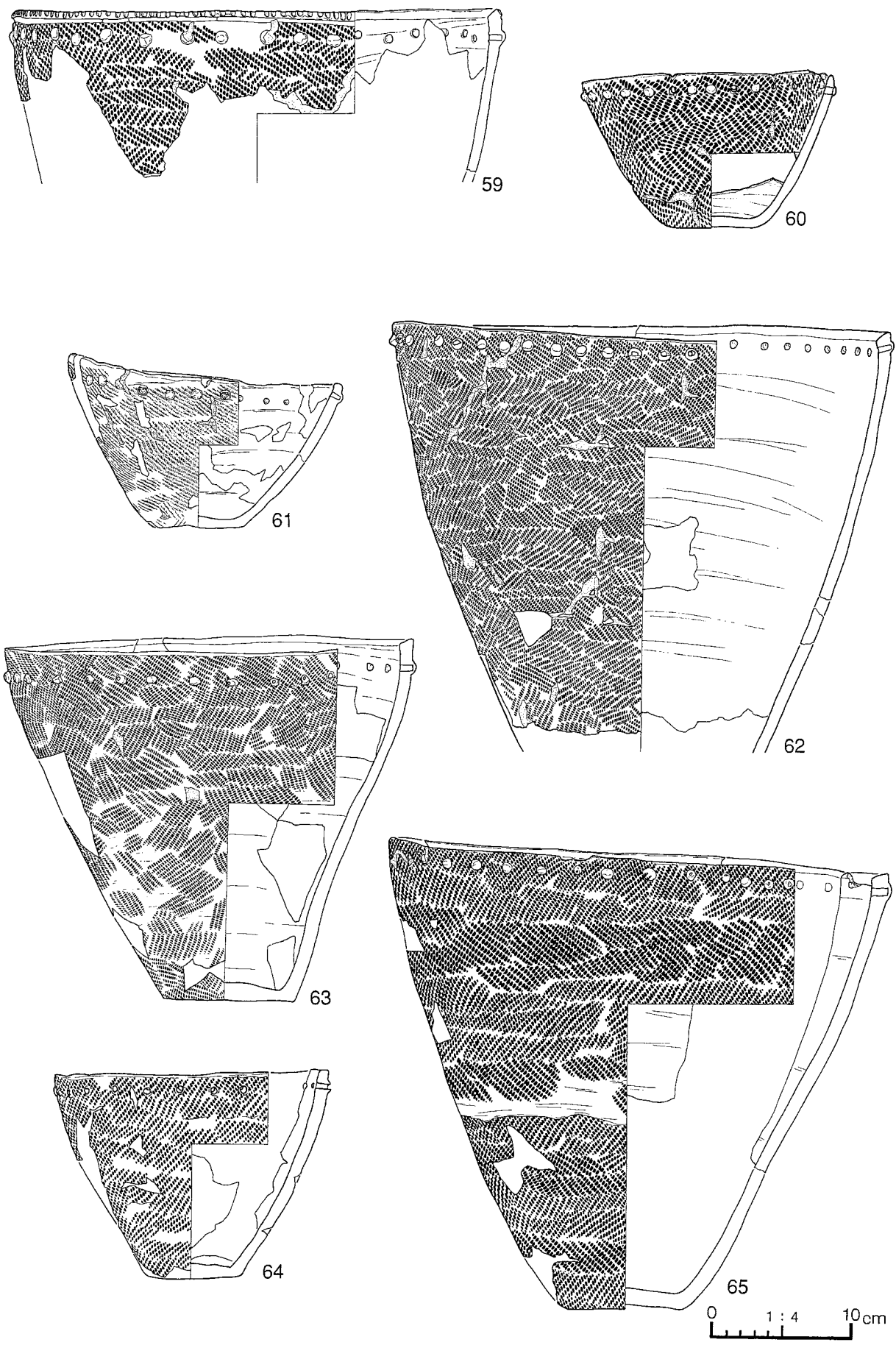


図69 盛土・包含層出土の土器 (10)

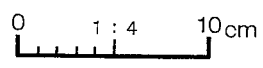
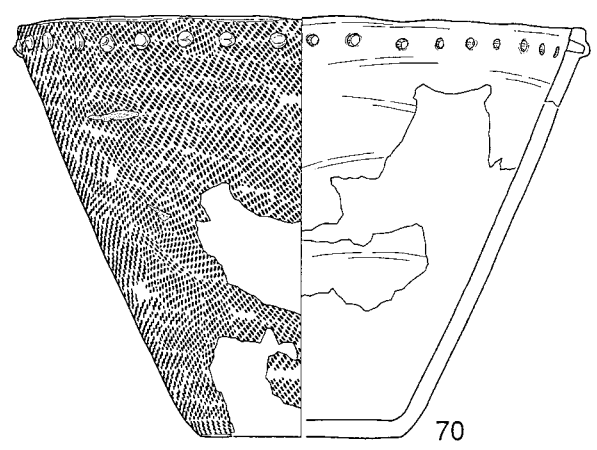
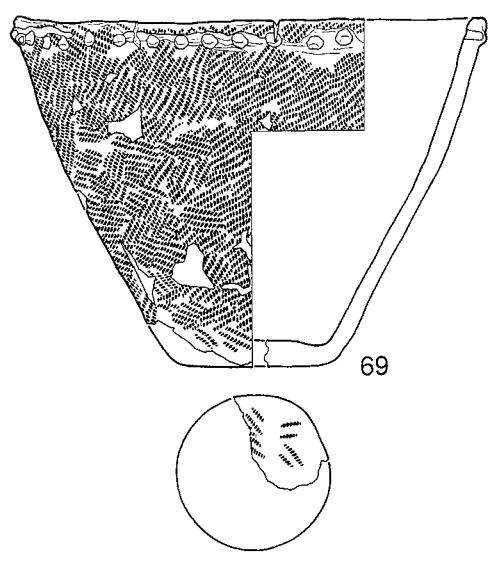
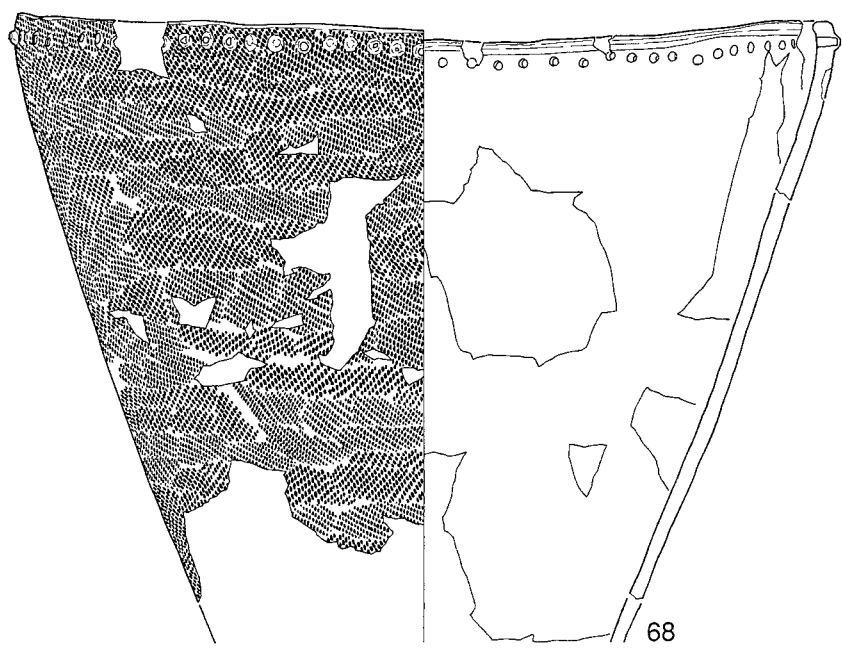
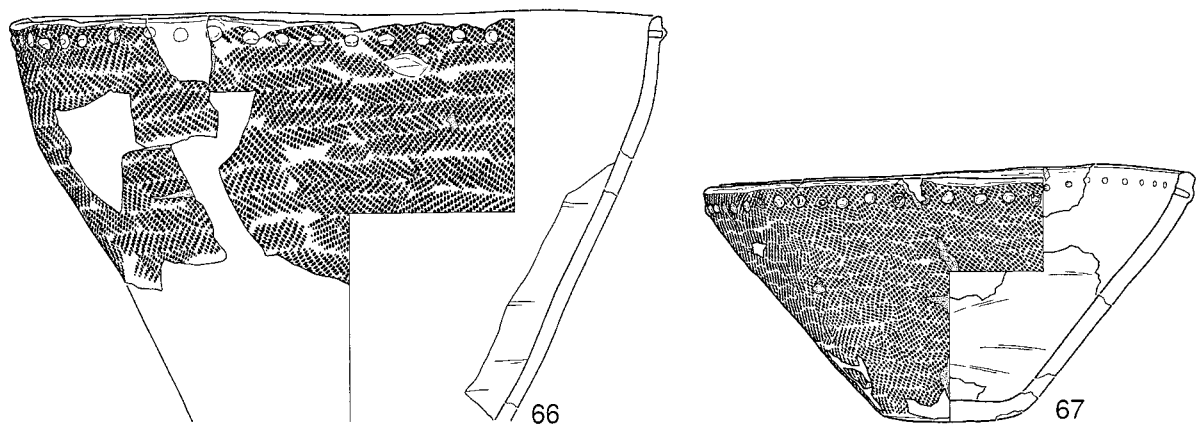
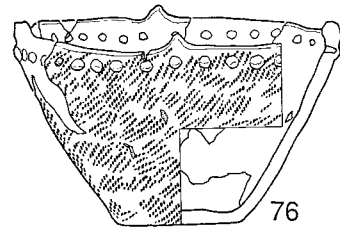
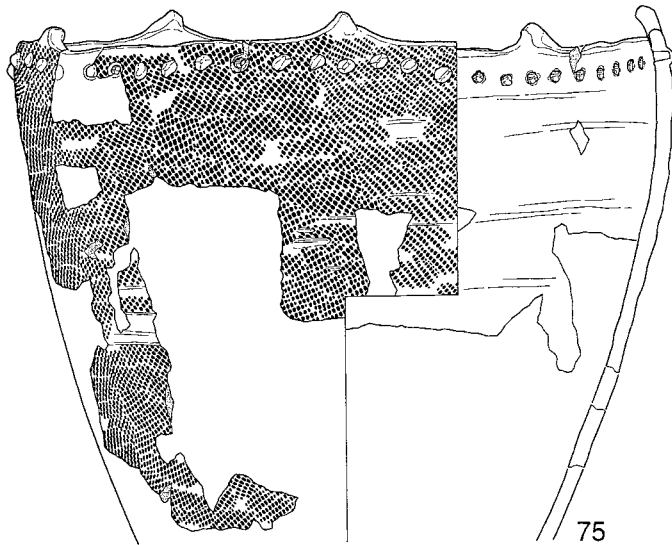
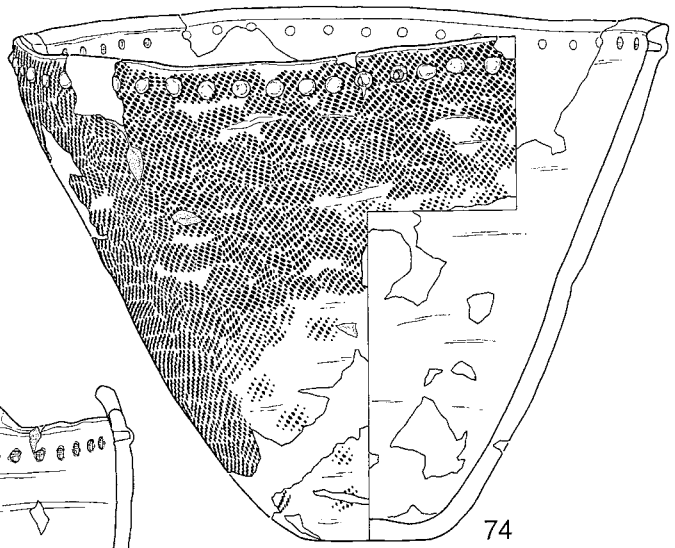
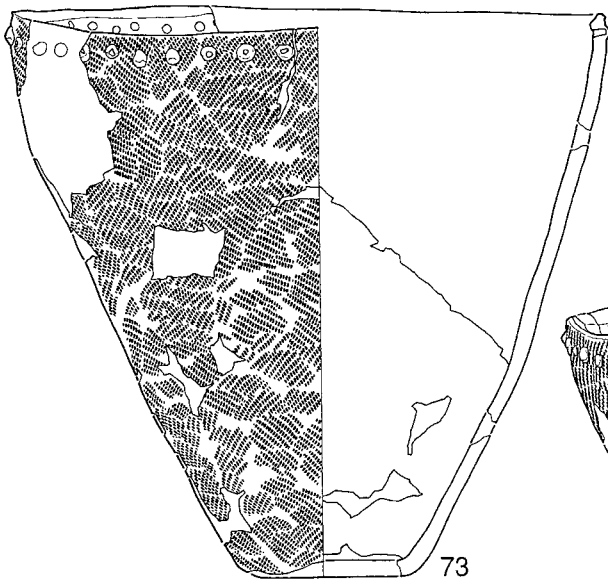
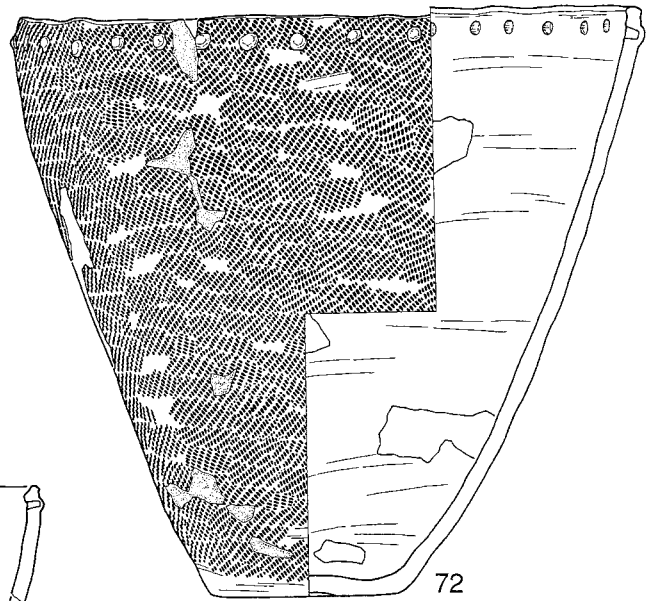
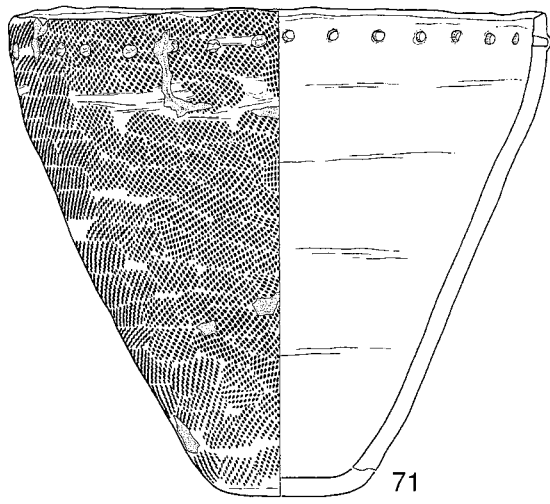


図70 盛土・包含層出土の土器 (11)



0 1 : 4 10cm

図71 盛土・包含層出土の土器 (12)

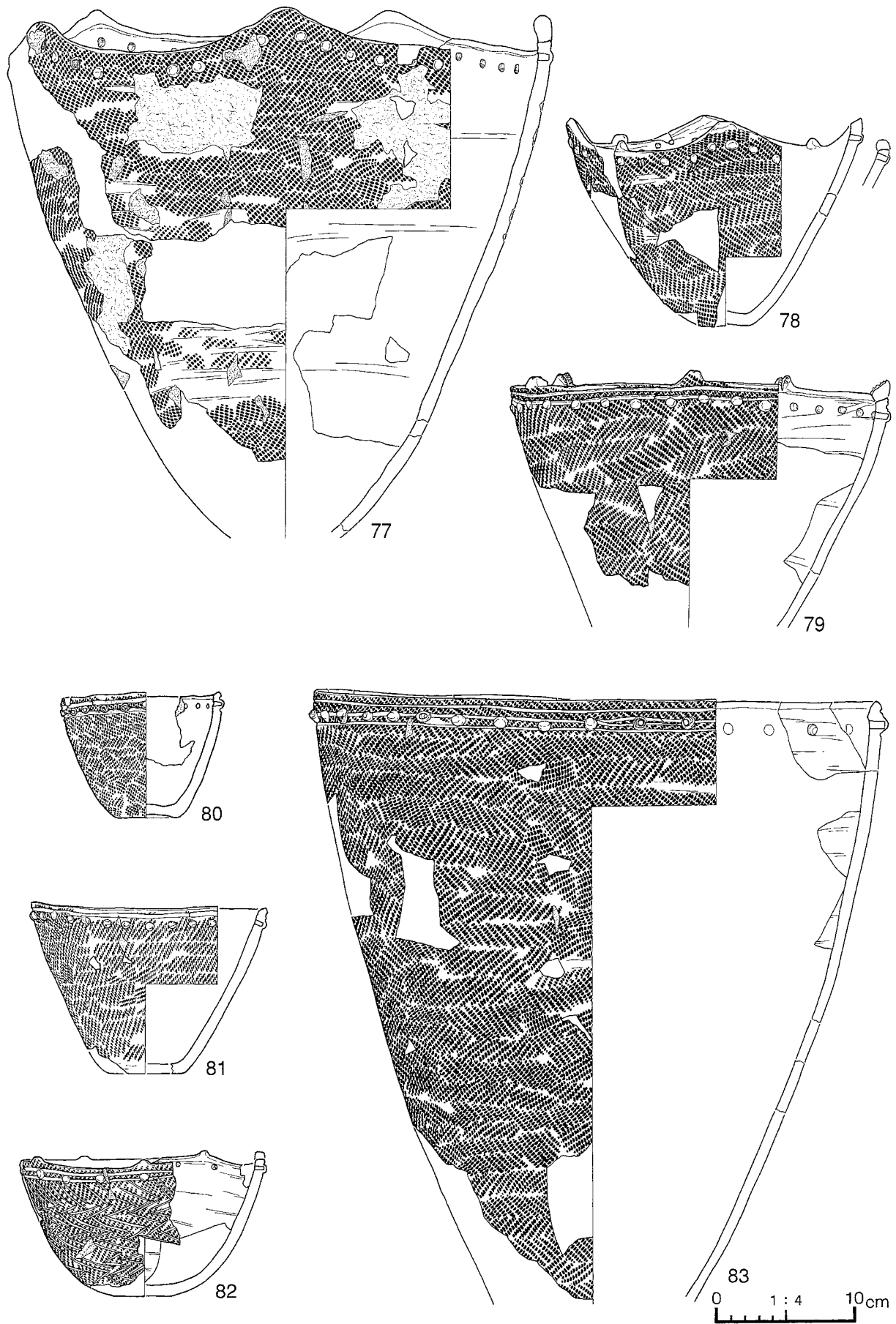


図72 盛土・包含層出土の土器 (13)

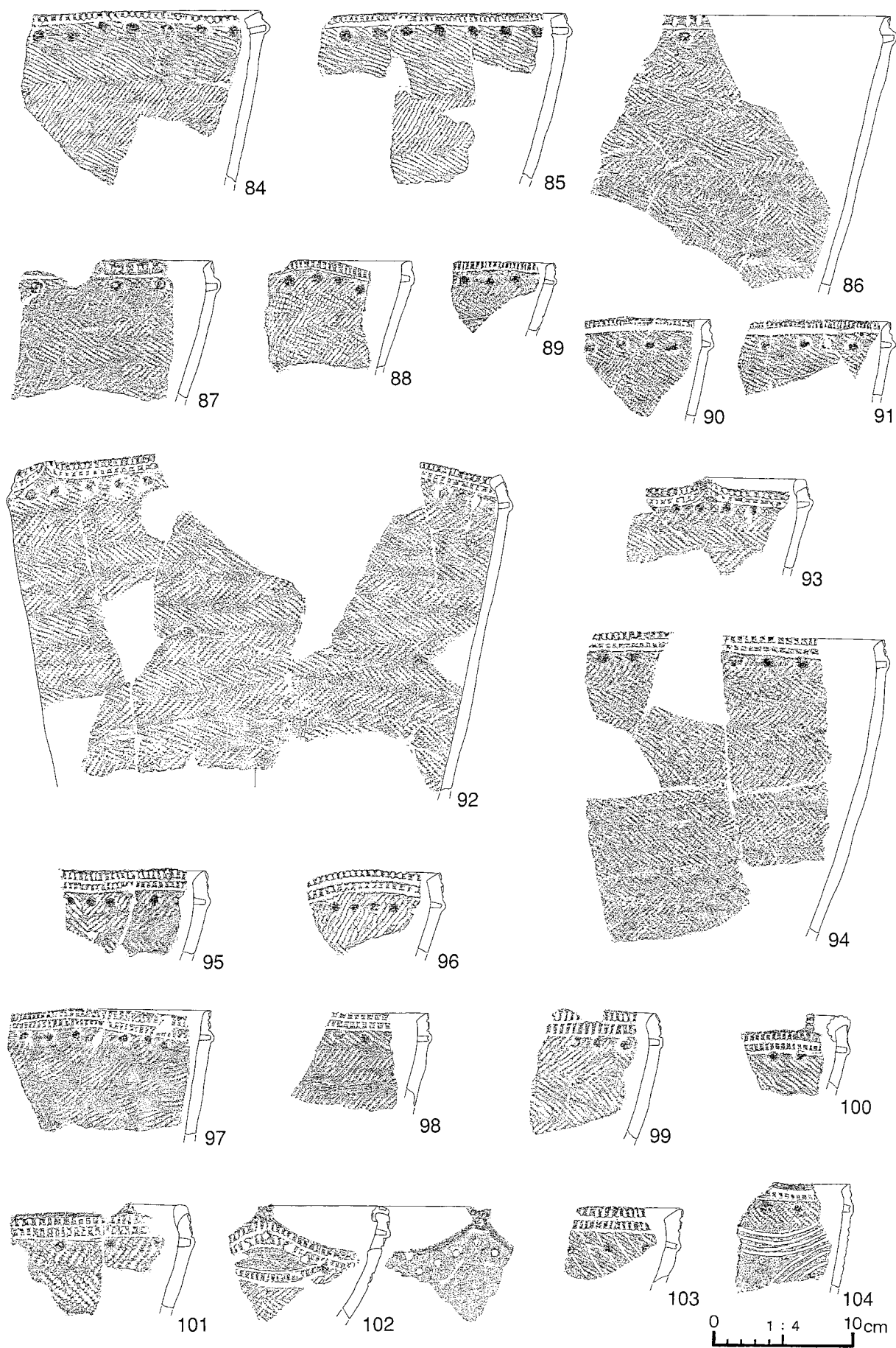


図73 盛土・包含層出土の土器 (14)

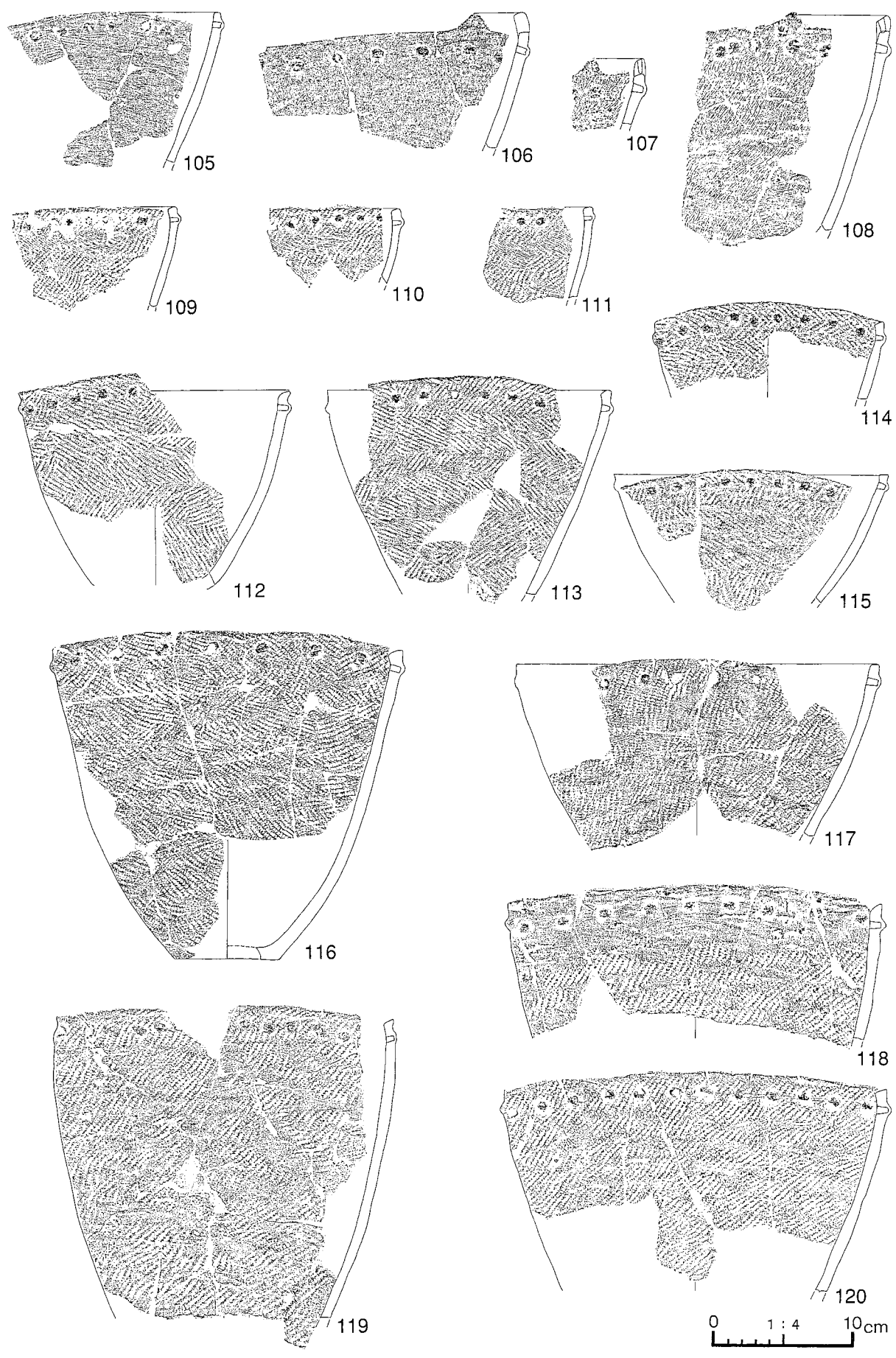


図74 盛土・包含層出土の土器 (15)

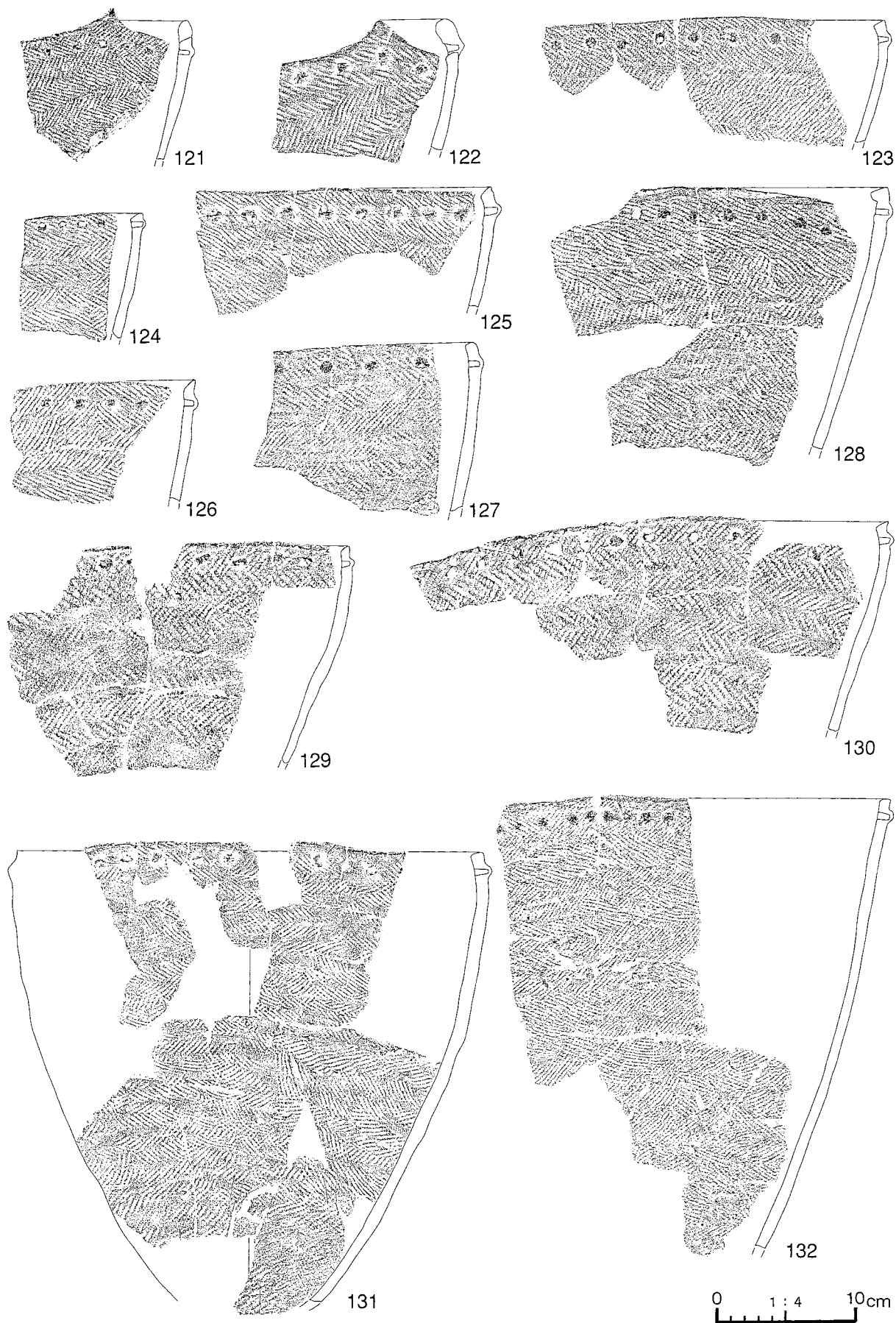


図75 盛土・包含層出土の土器 (16)

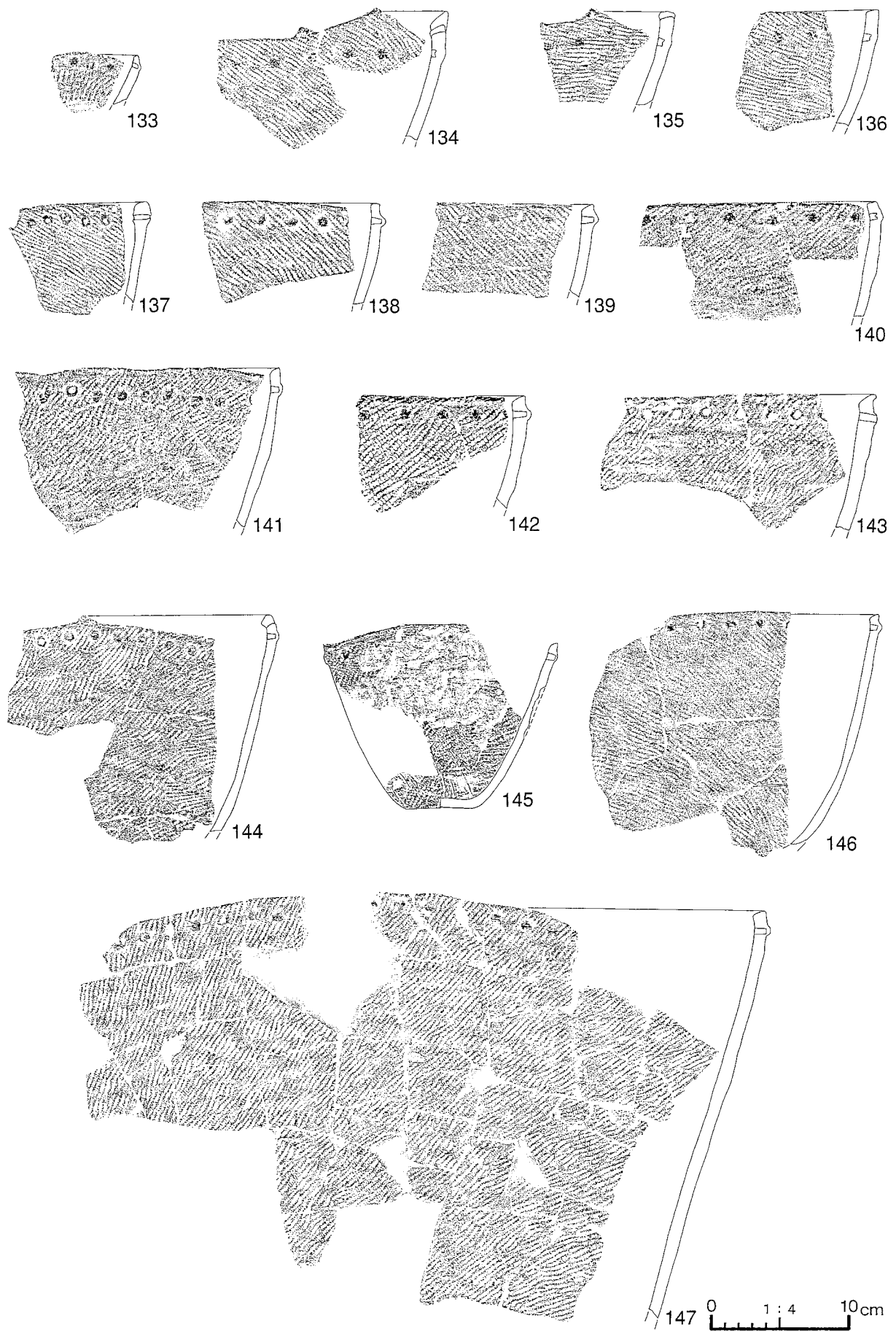


図76 盛土・包含層出土の土器 (17)



図77 盛土・包含層出土の土器 (18)

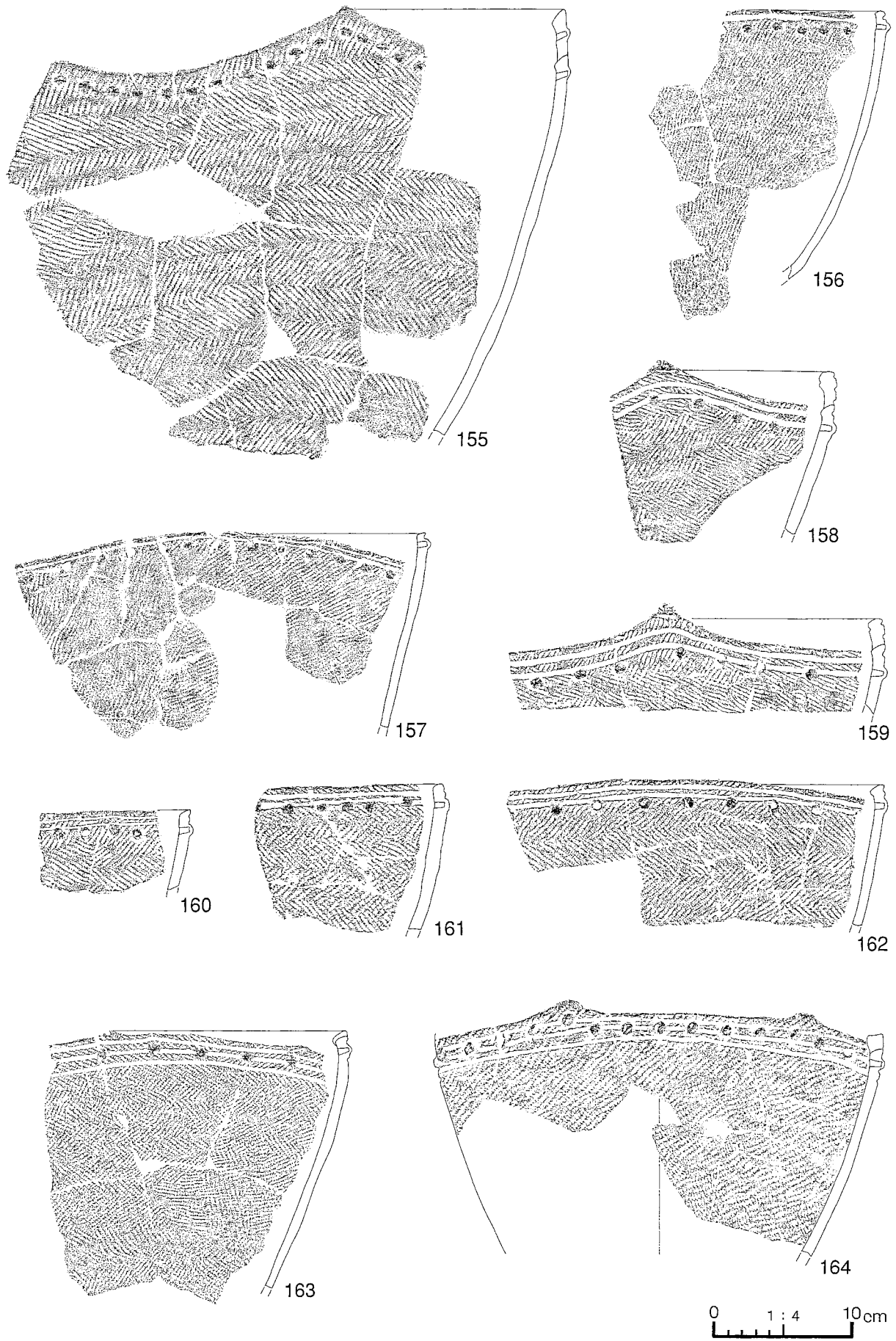


図78 盛土・包含層出土の土器 (19)

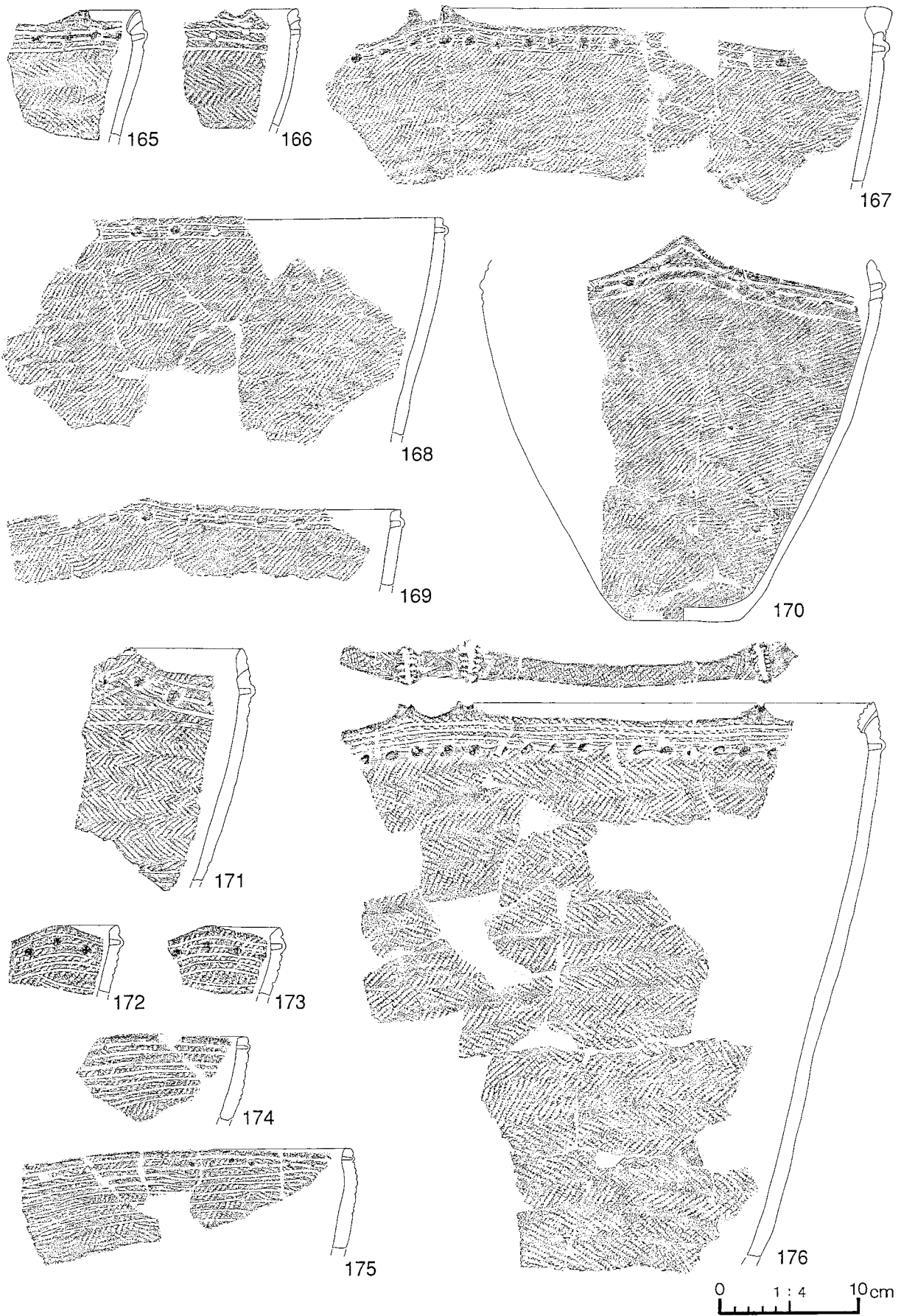


図79 盛土・包含層出土の土器 (20)

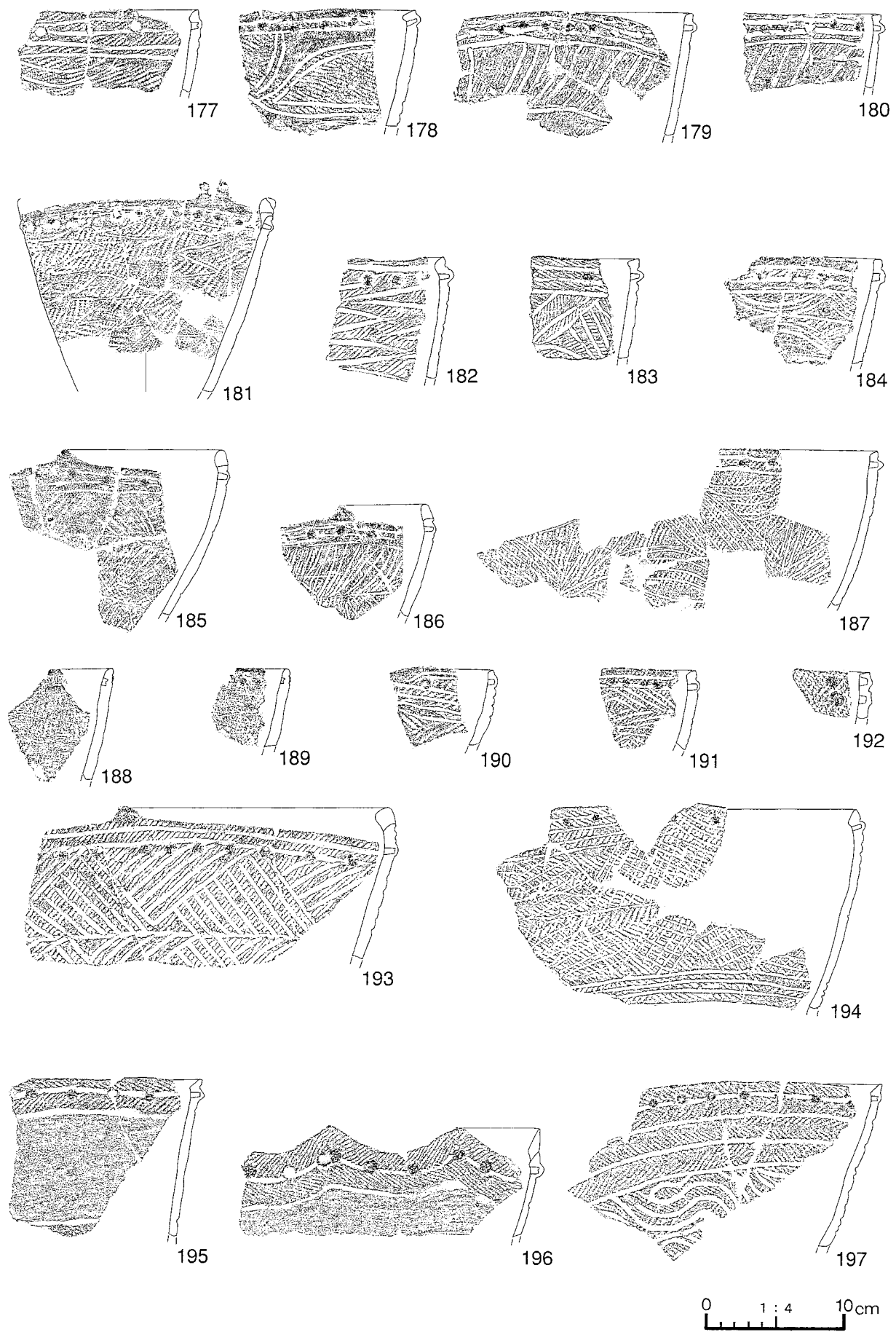
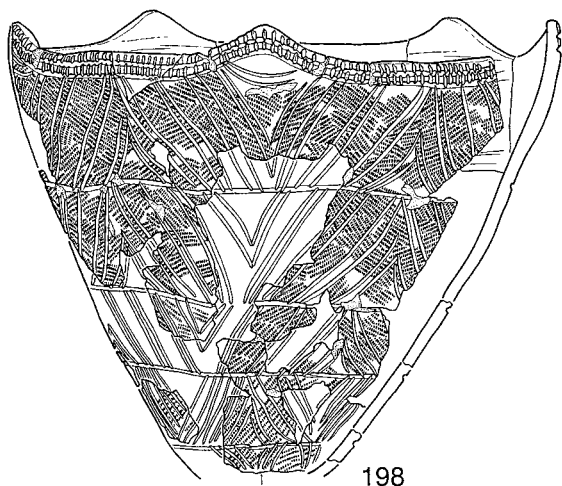
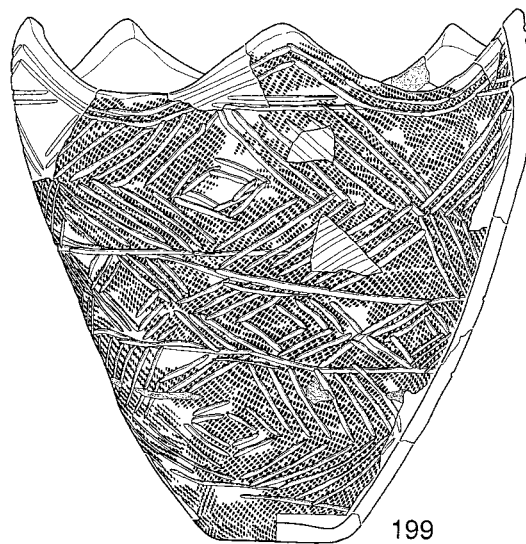


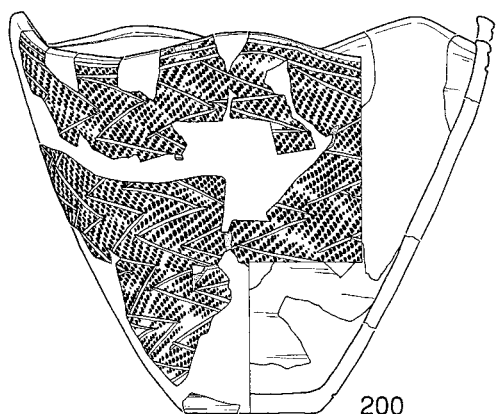
図80 盛土・包含層出土の土器 (21)



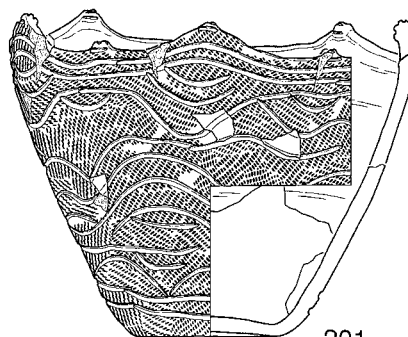
198



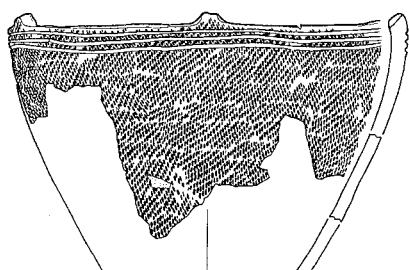
199



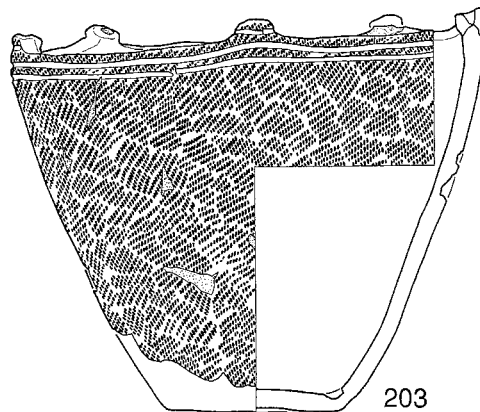
200



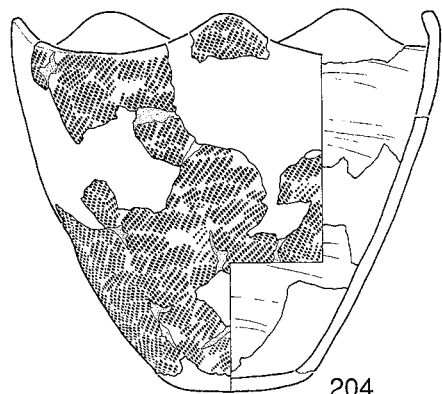
201



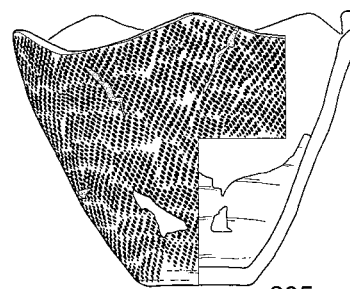
202



203



204



205

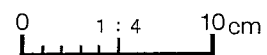


図81 盛土・包含層出土の土器 (22)

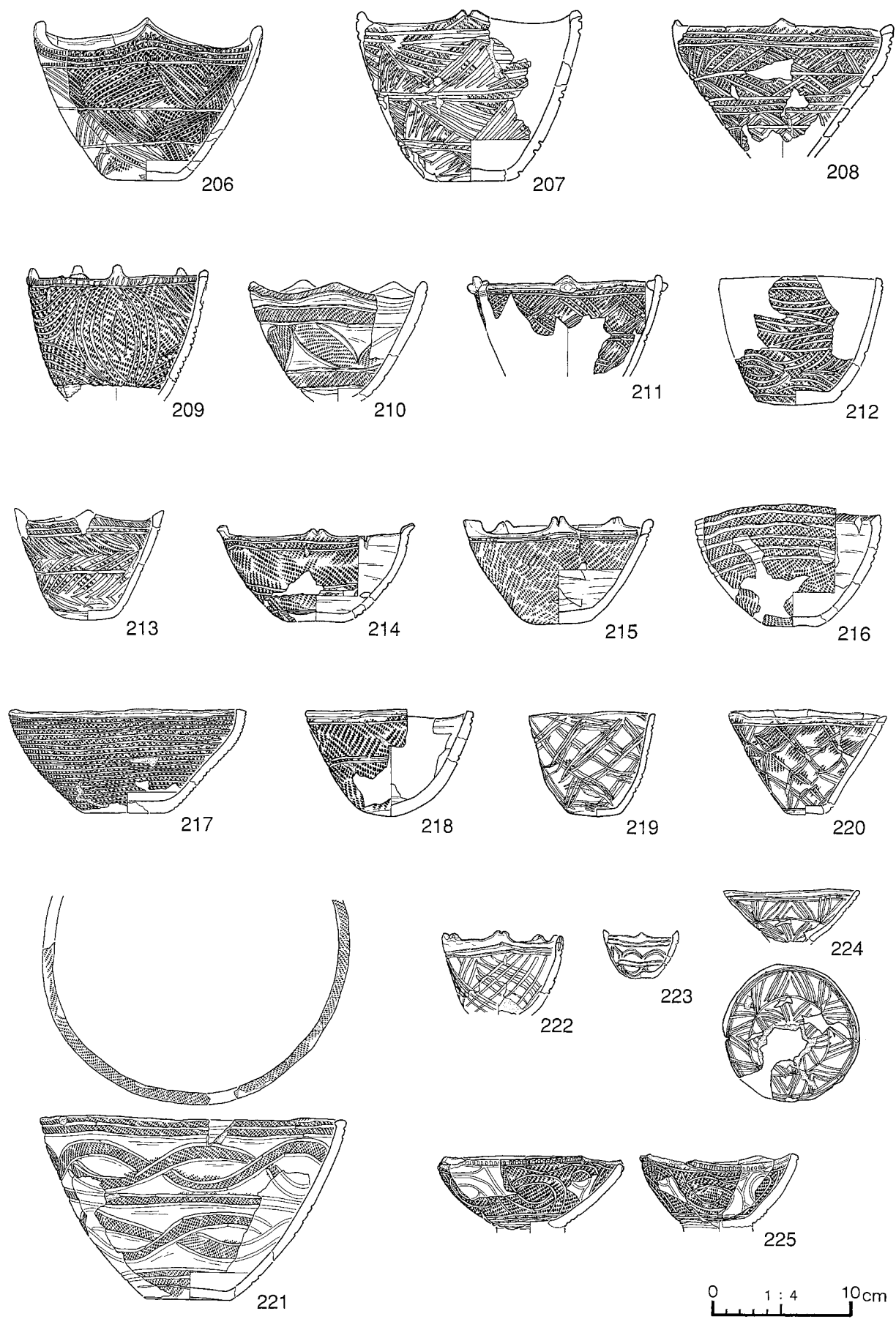


図82 盛土・包含層出土の土器 (23)

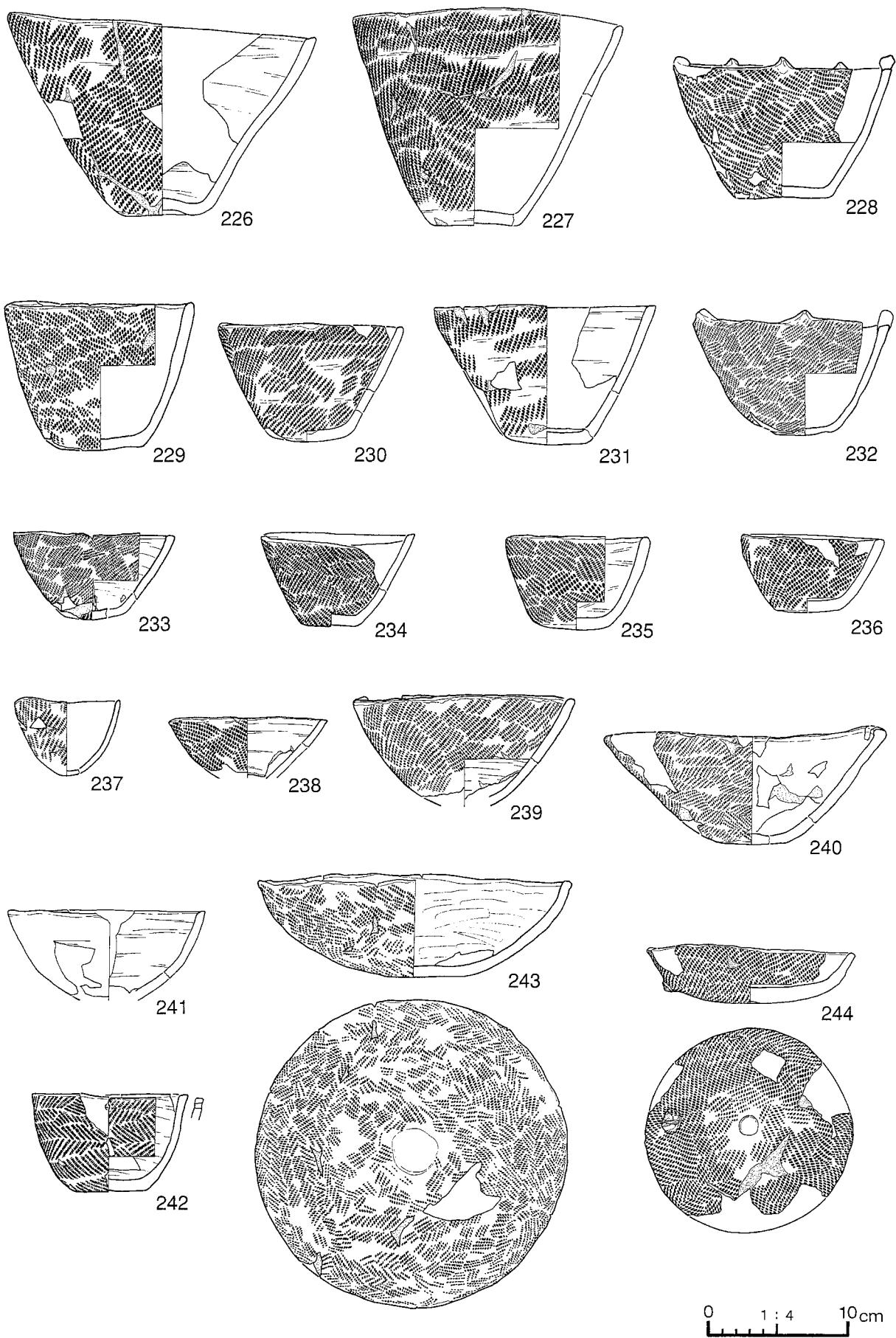


図83 盛土・包含層出土の土器 (24)

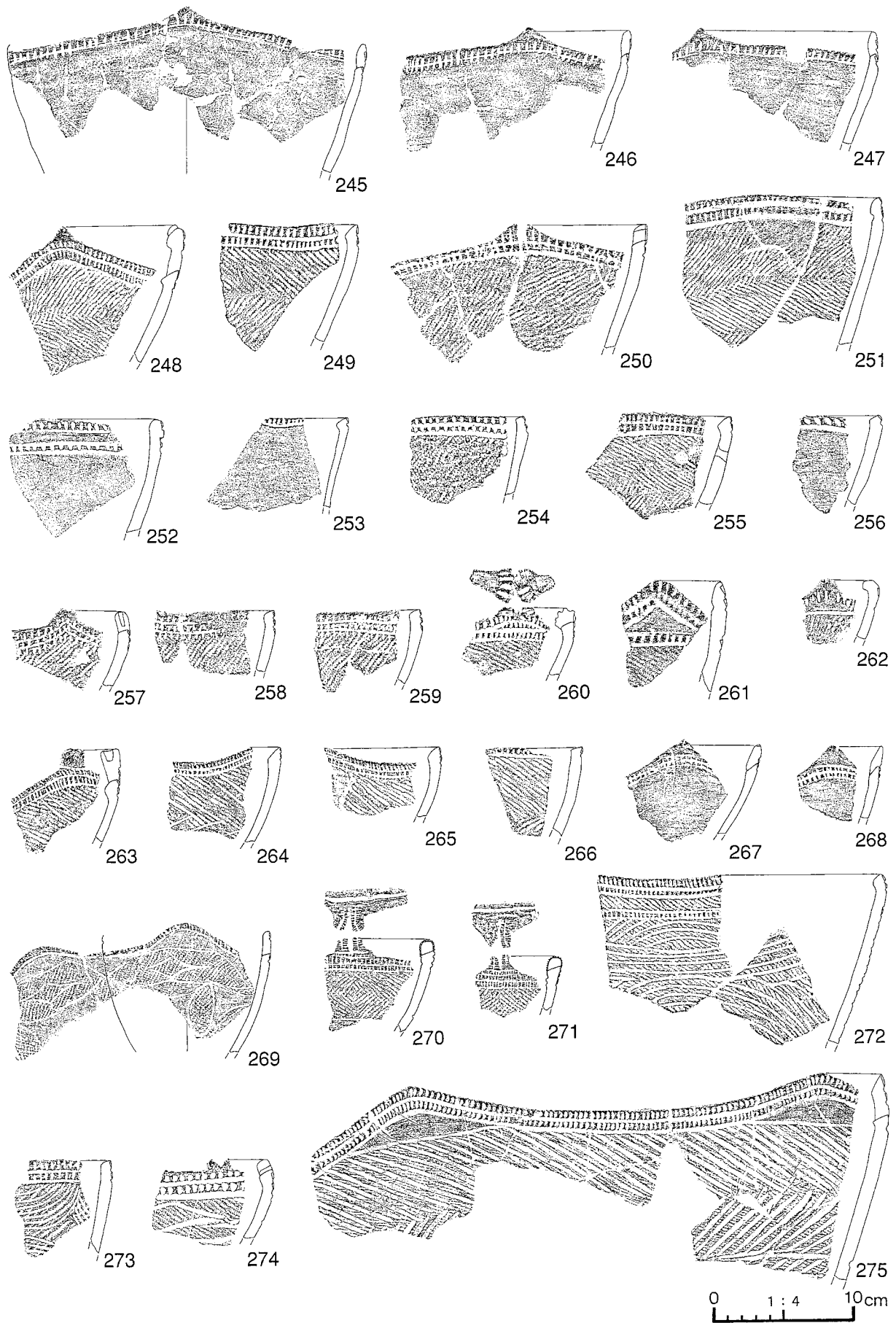


図84 盛土・包含層出土の土器 (25)

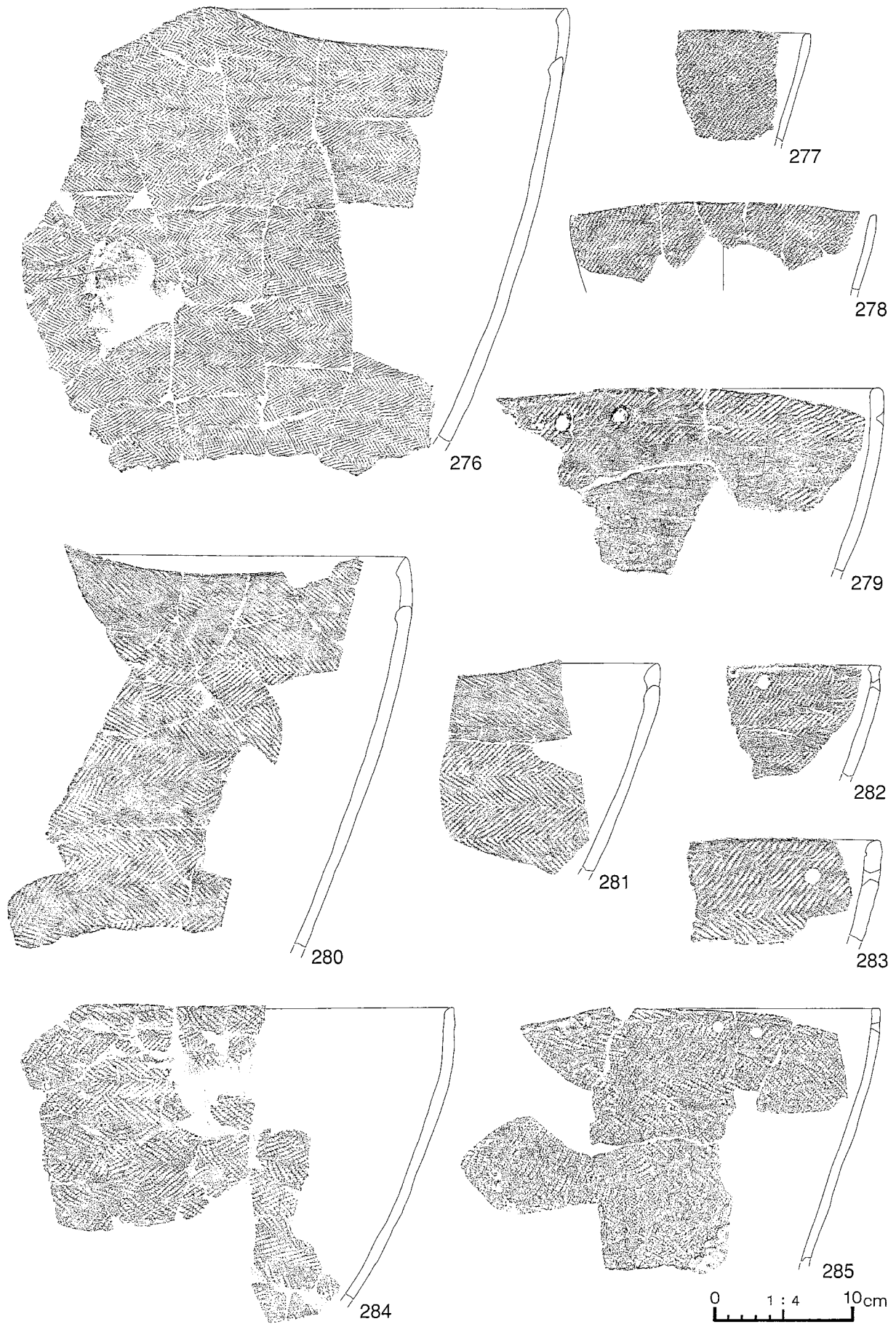


図85 盛土・包含層出土の土器 (26)

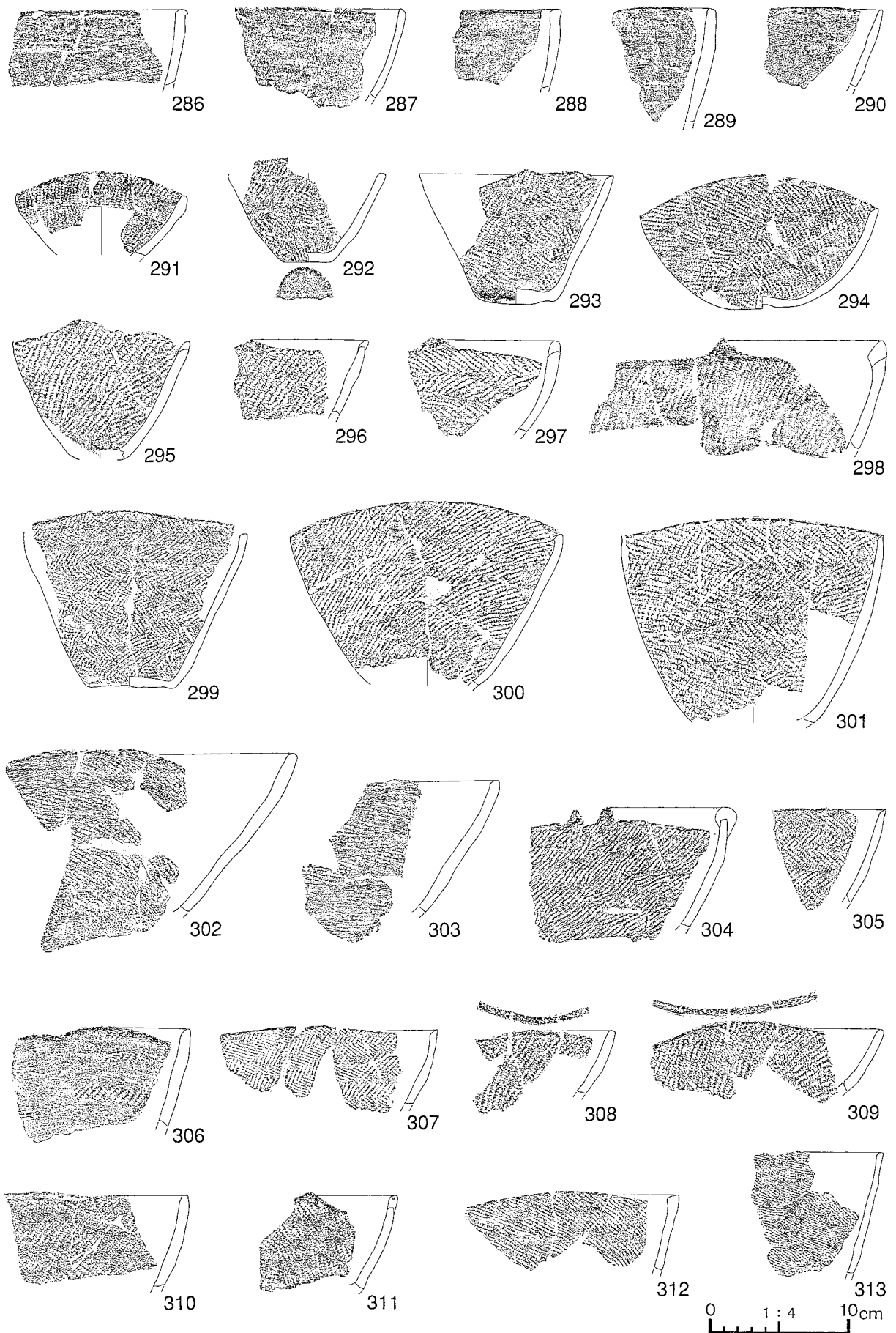


図86 盛土・包含層出土の土器 (27)

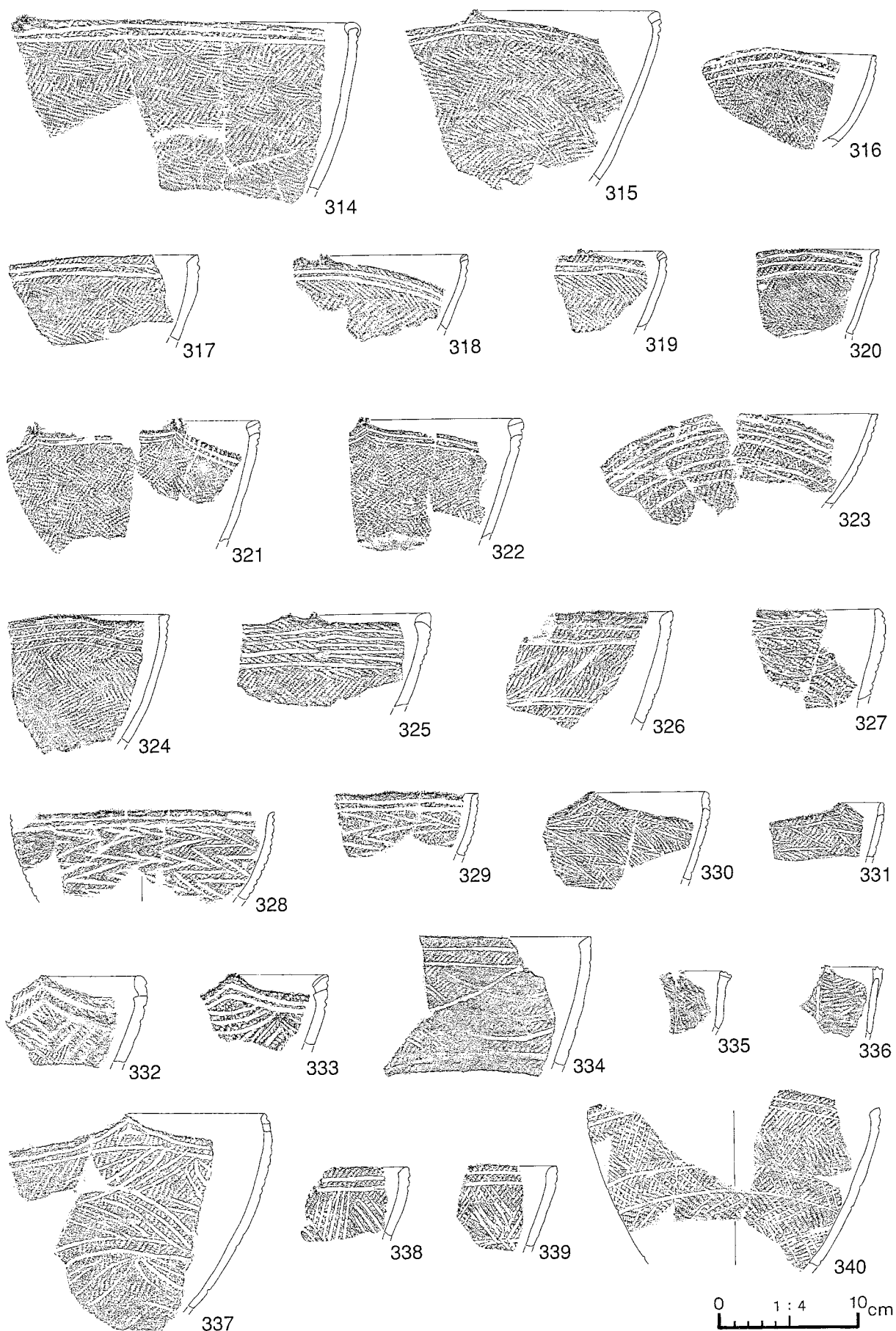


図87 盛土・包含層出土の土器 (28)

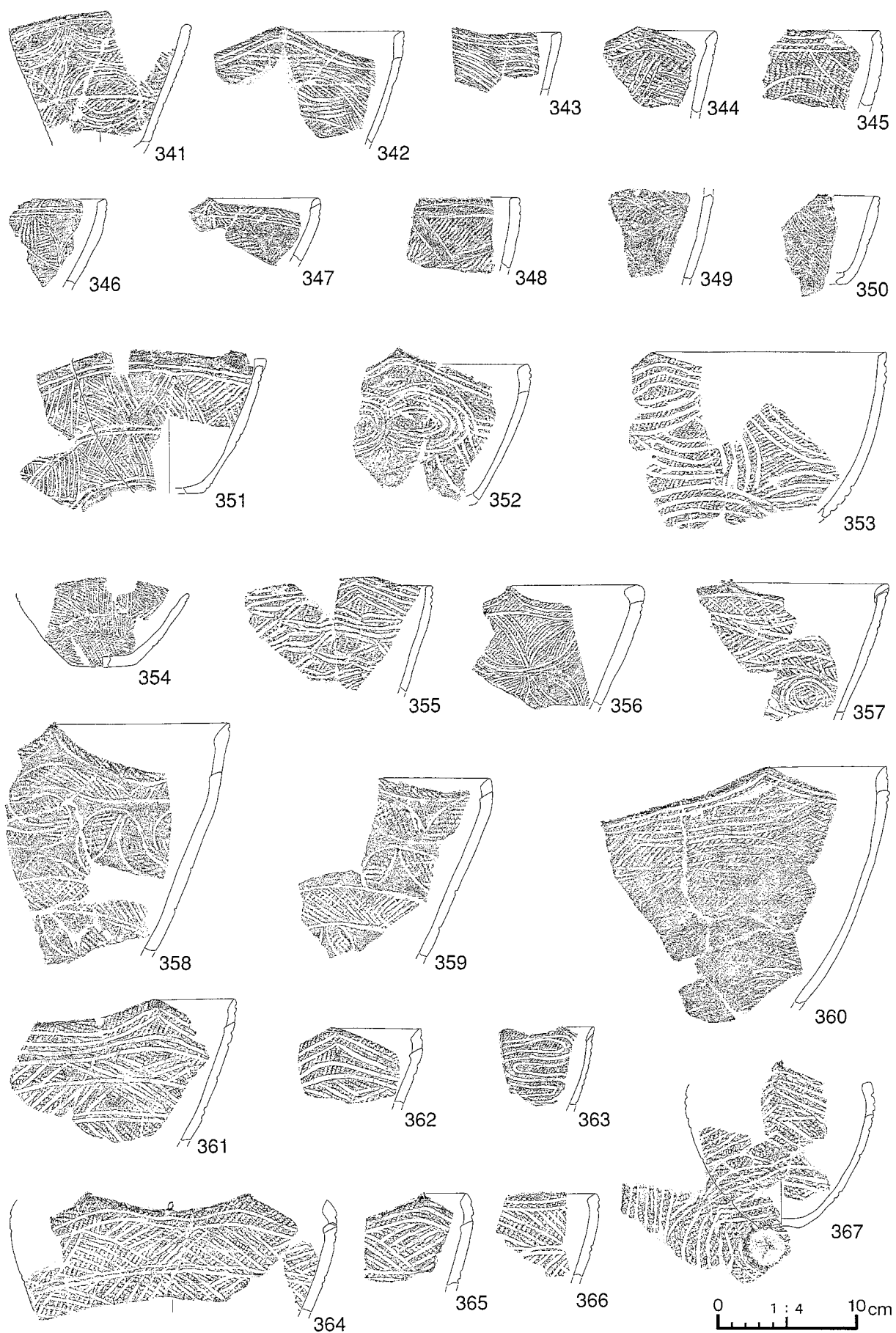


図88 盛土・包含層出土の土器 (29)

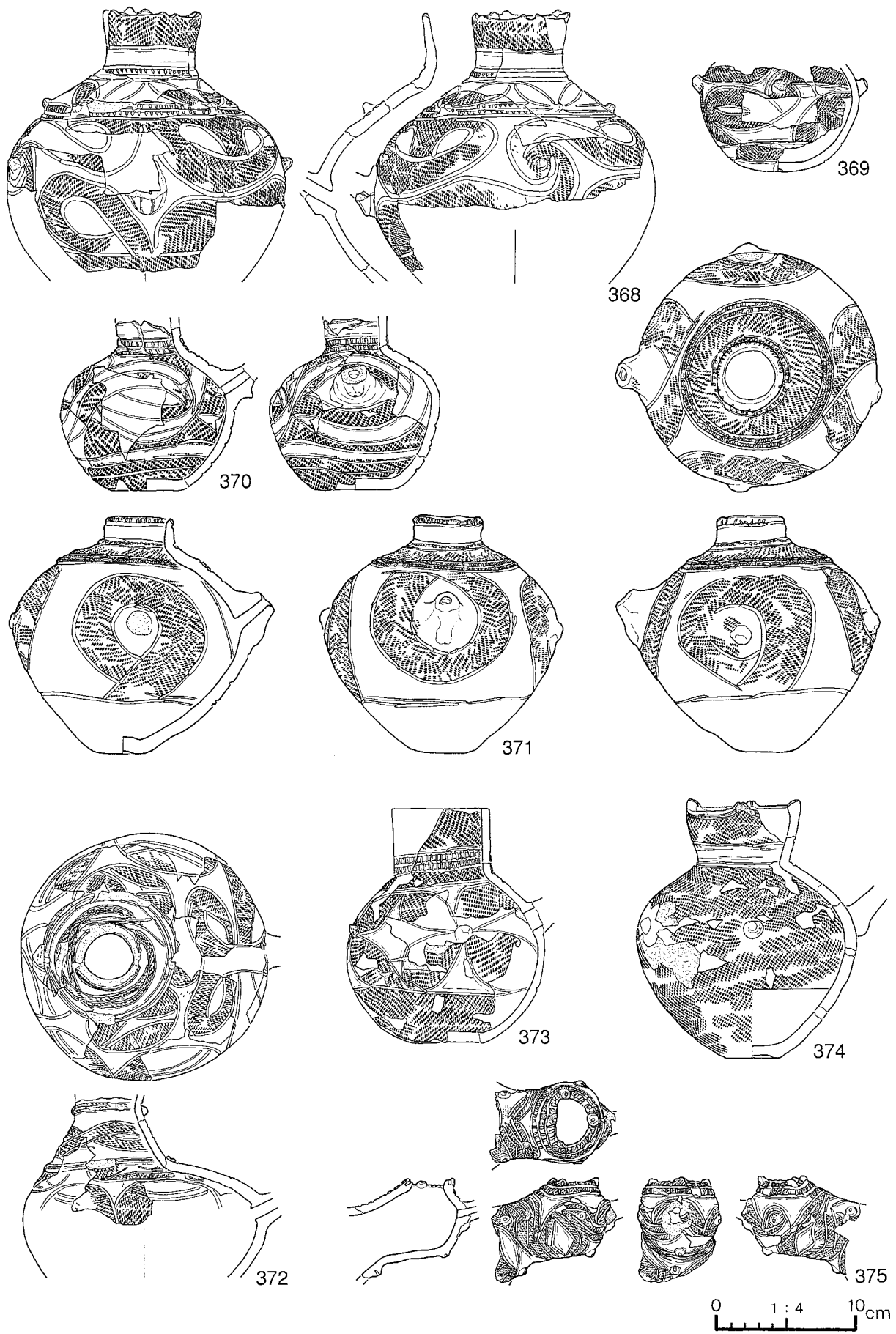


図89 盛土・包含層出土の土器 (30)

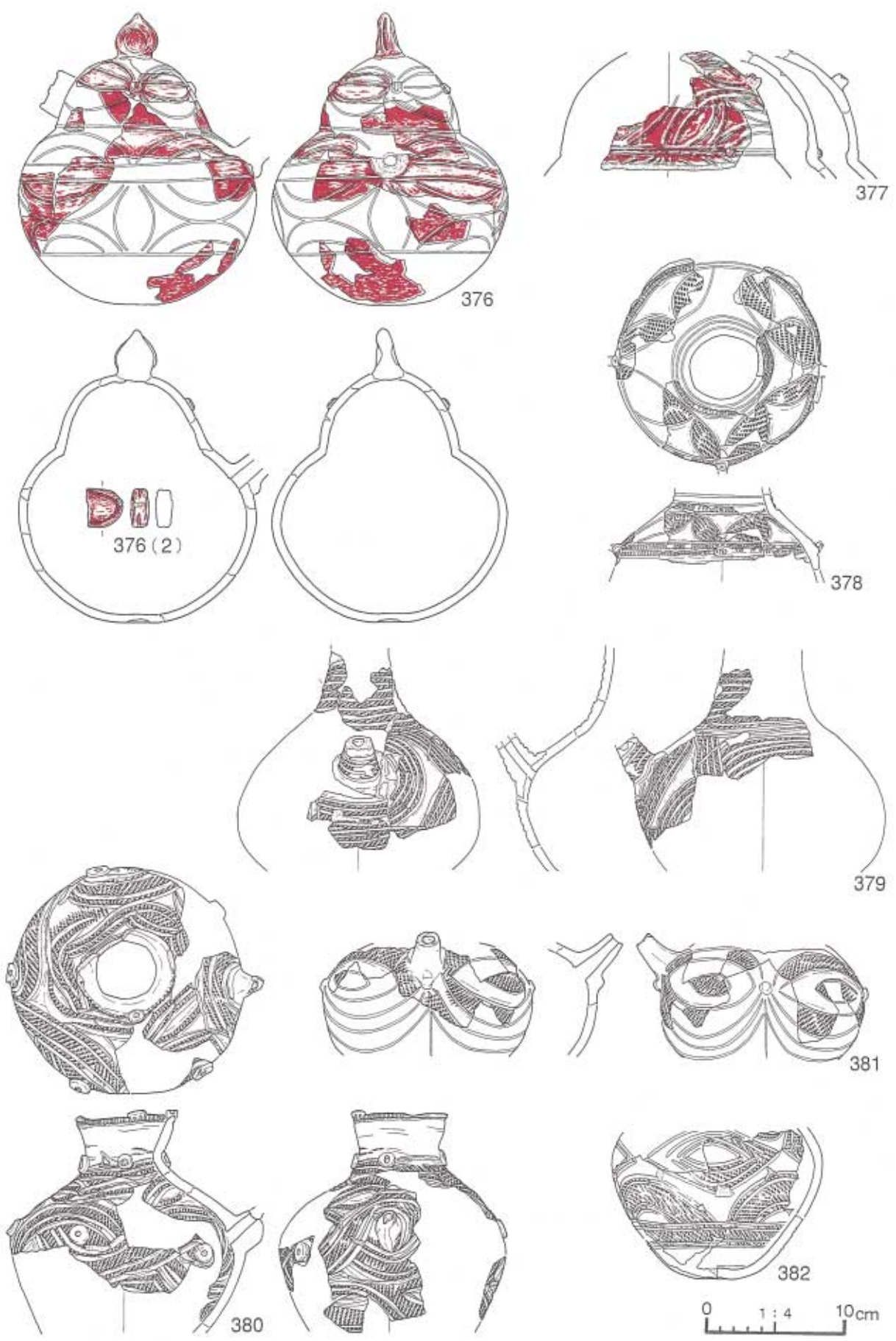


図90 盛土・包含層出土の土器 (31)

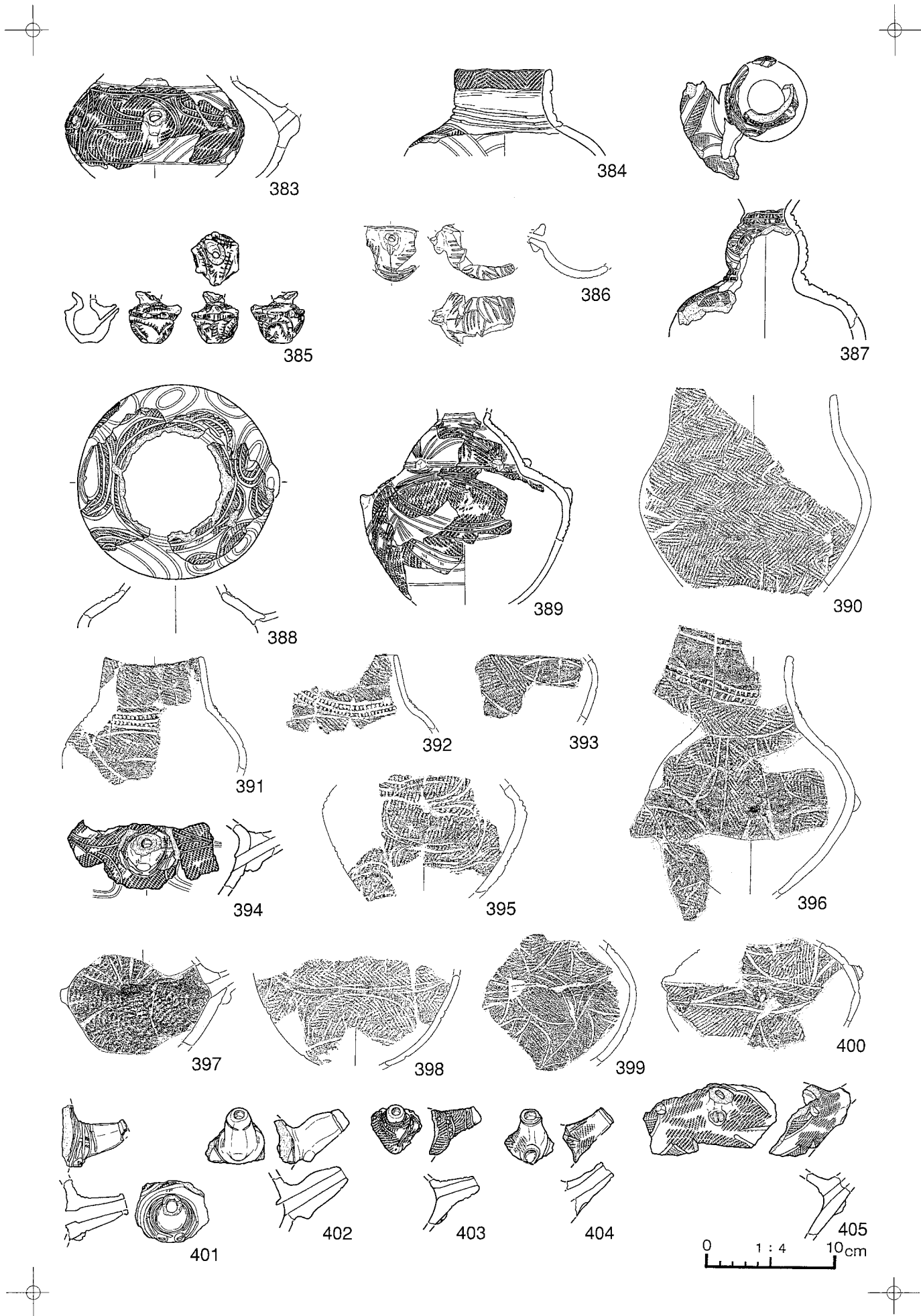


図91 盛土・包含層出土の土器 (32)

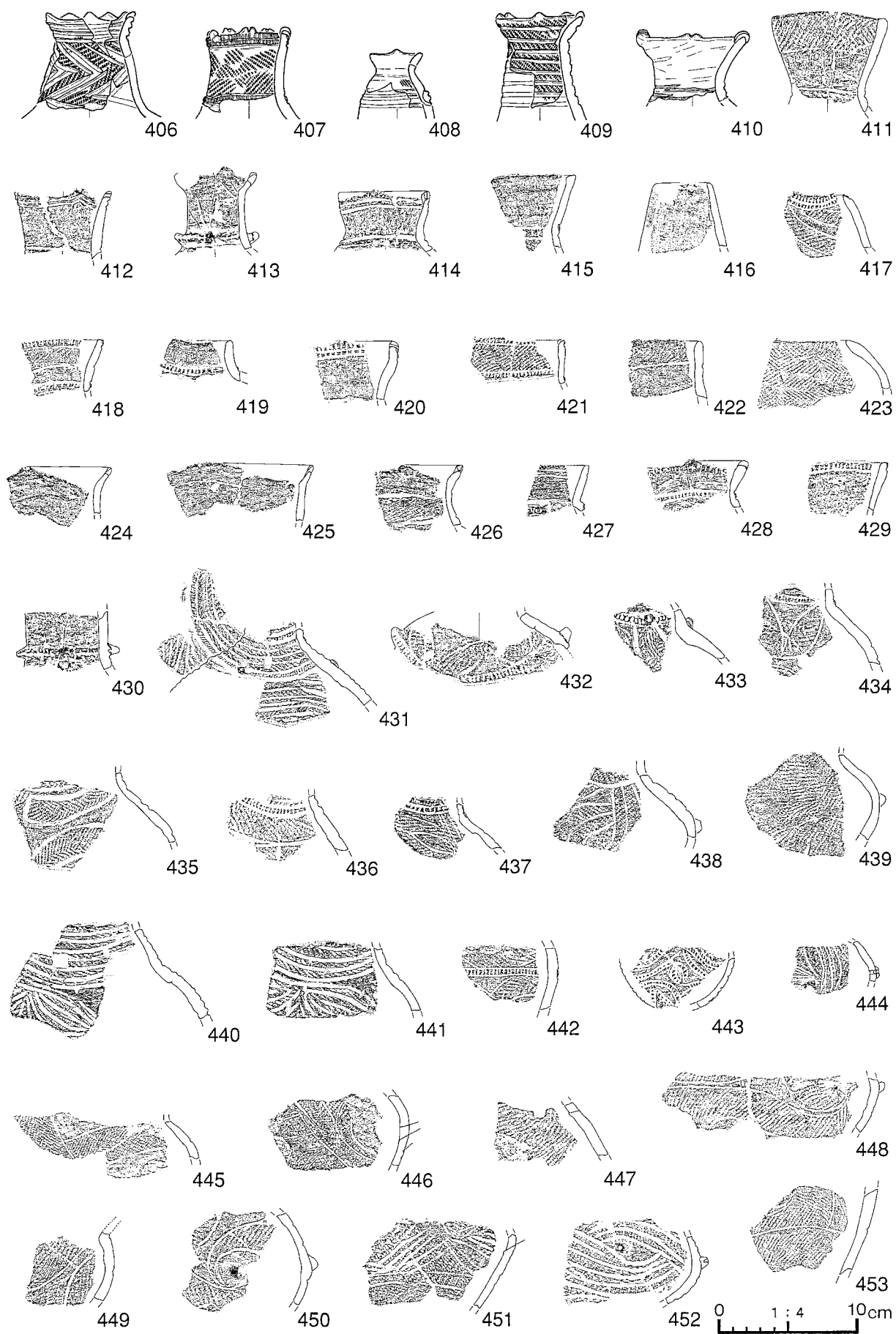
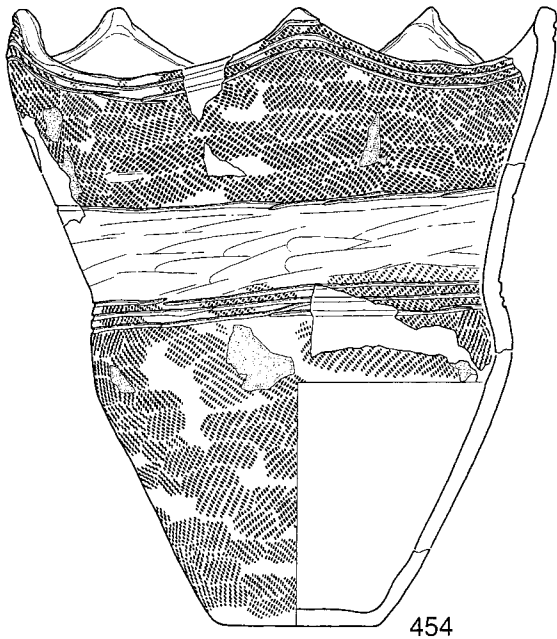
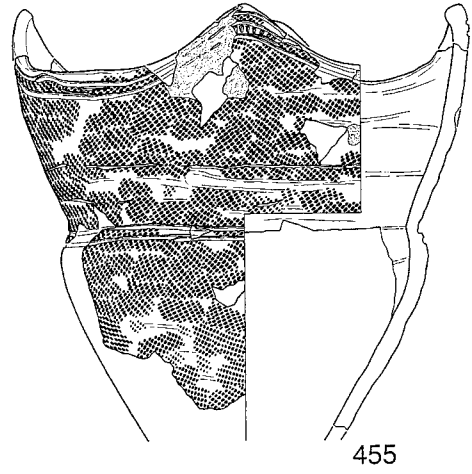


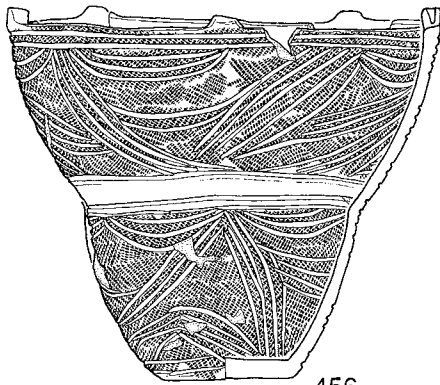
図92 盛土・包含層出土の土器 (33)



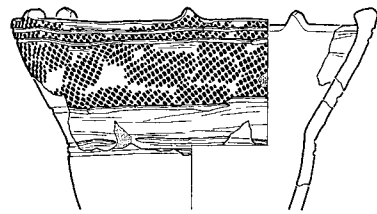
454



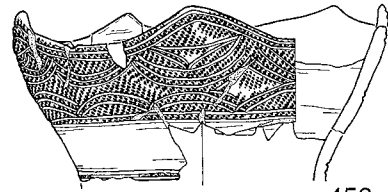
455



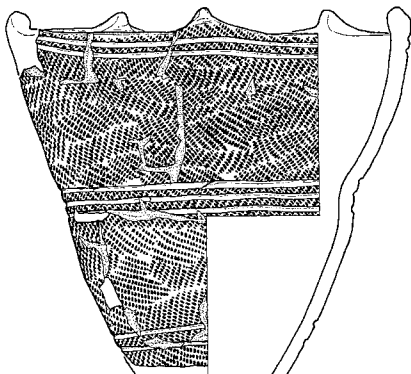
456



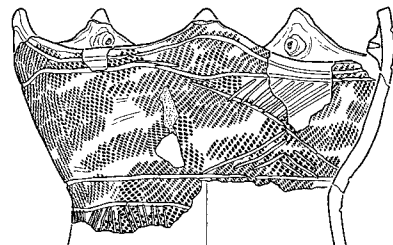
457



458



459



460

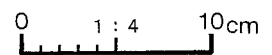
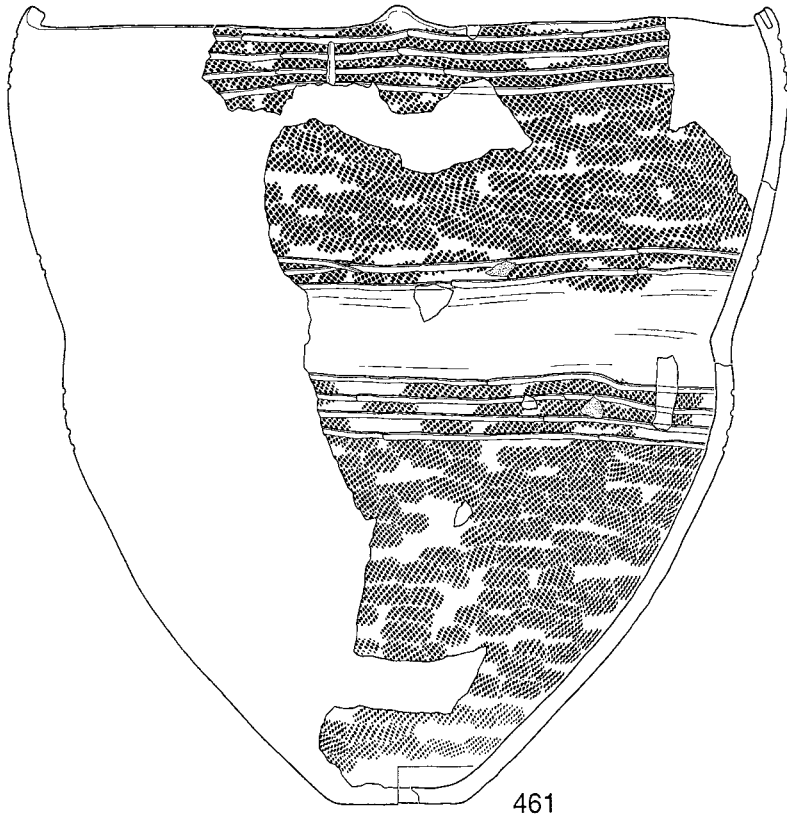
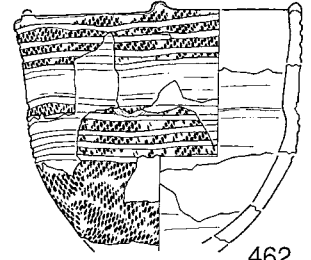


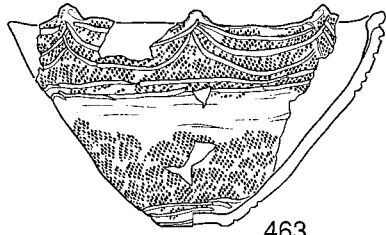
図93 盛土・包含層出土の土器 (34)



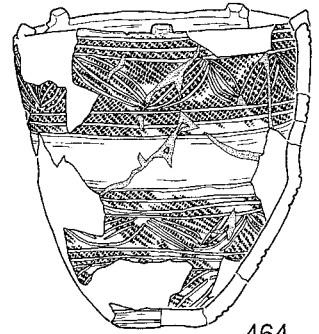
461



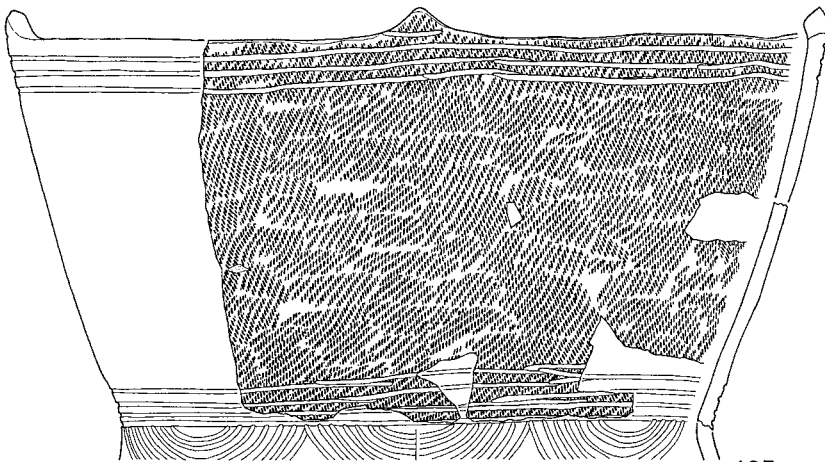
462



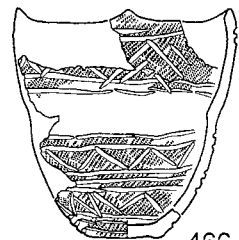
463



464



465



466

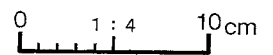


図94 盛土・包含層出土の土器 (35)

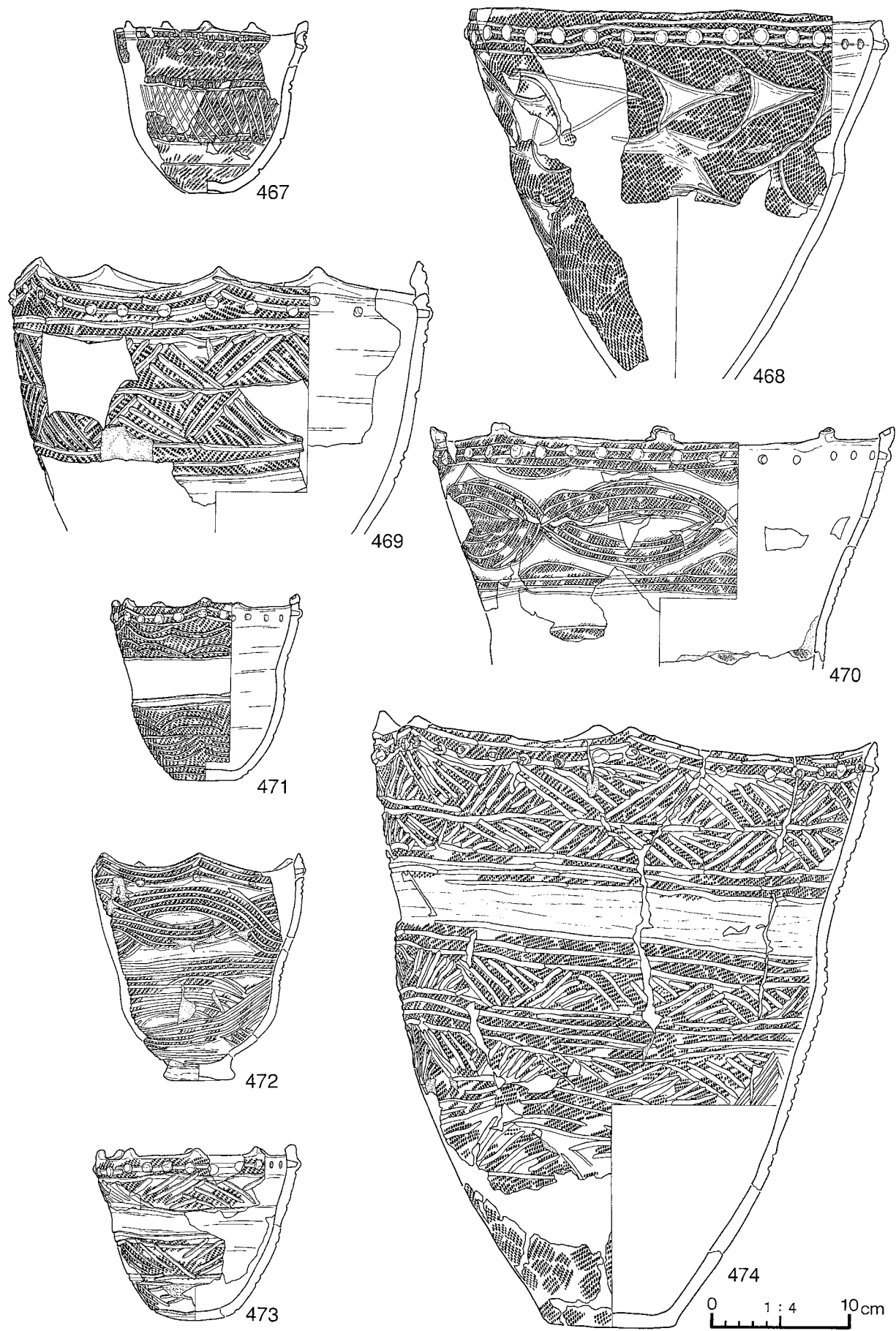


図95 盛土・包含層出土の土器 (36)

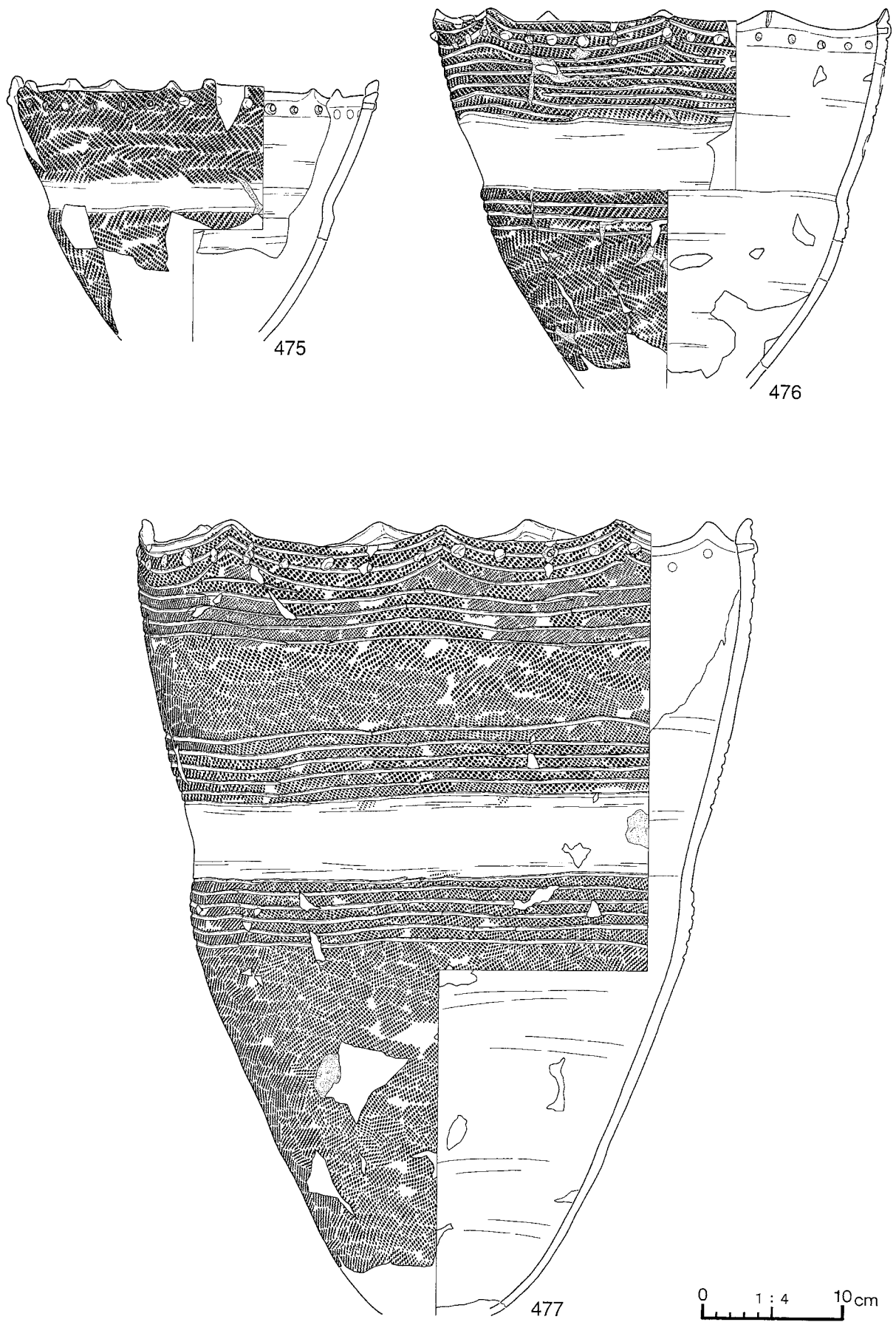
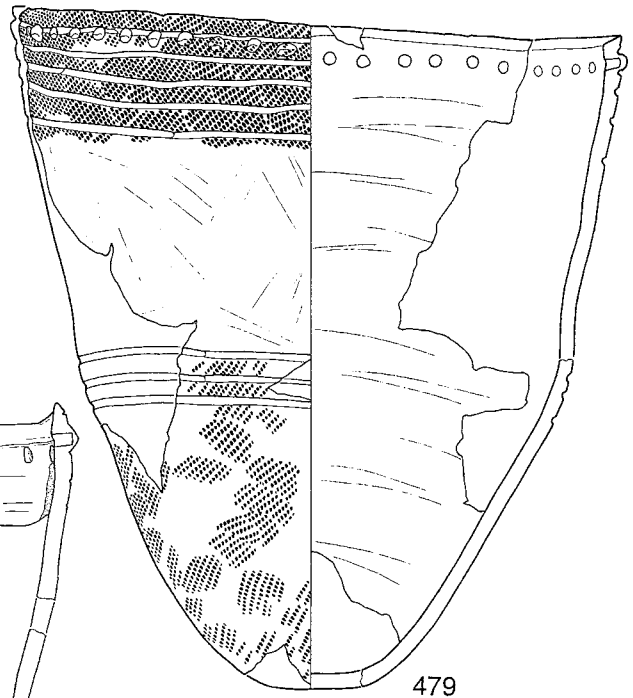


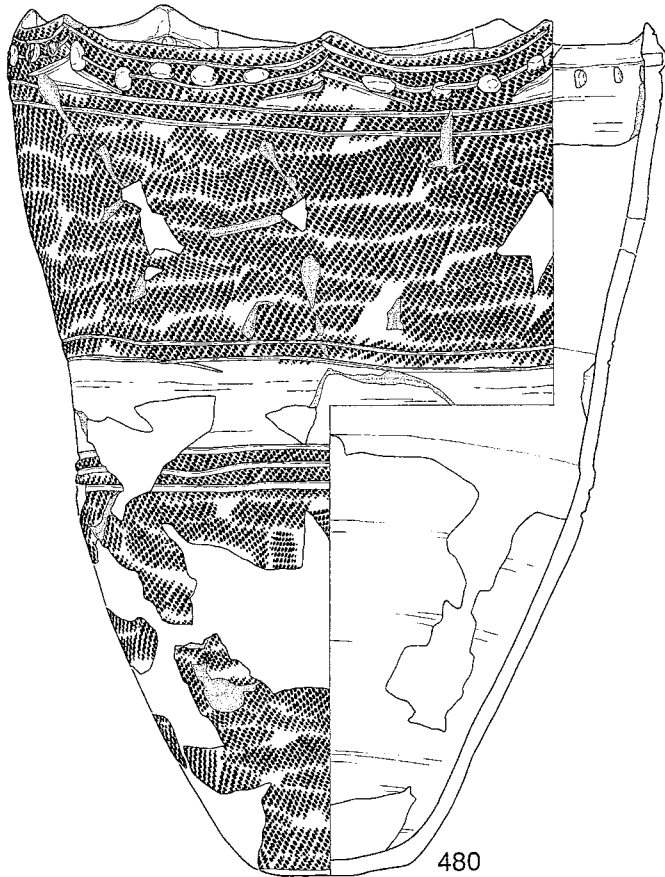
図96 盛土・包含層出土の土器 (37)



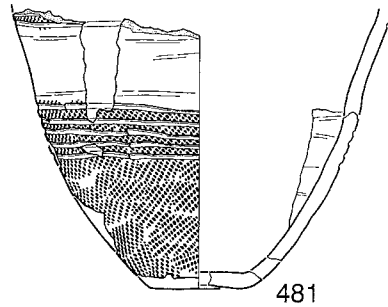
478



479



480



481

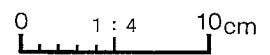


図97 盛土・包含層出土の土器 (38)

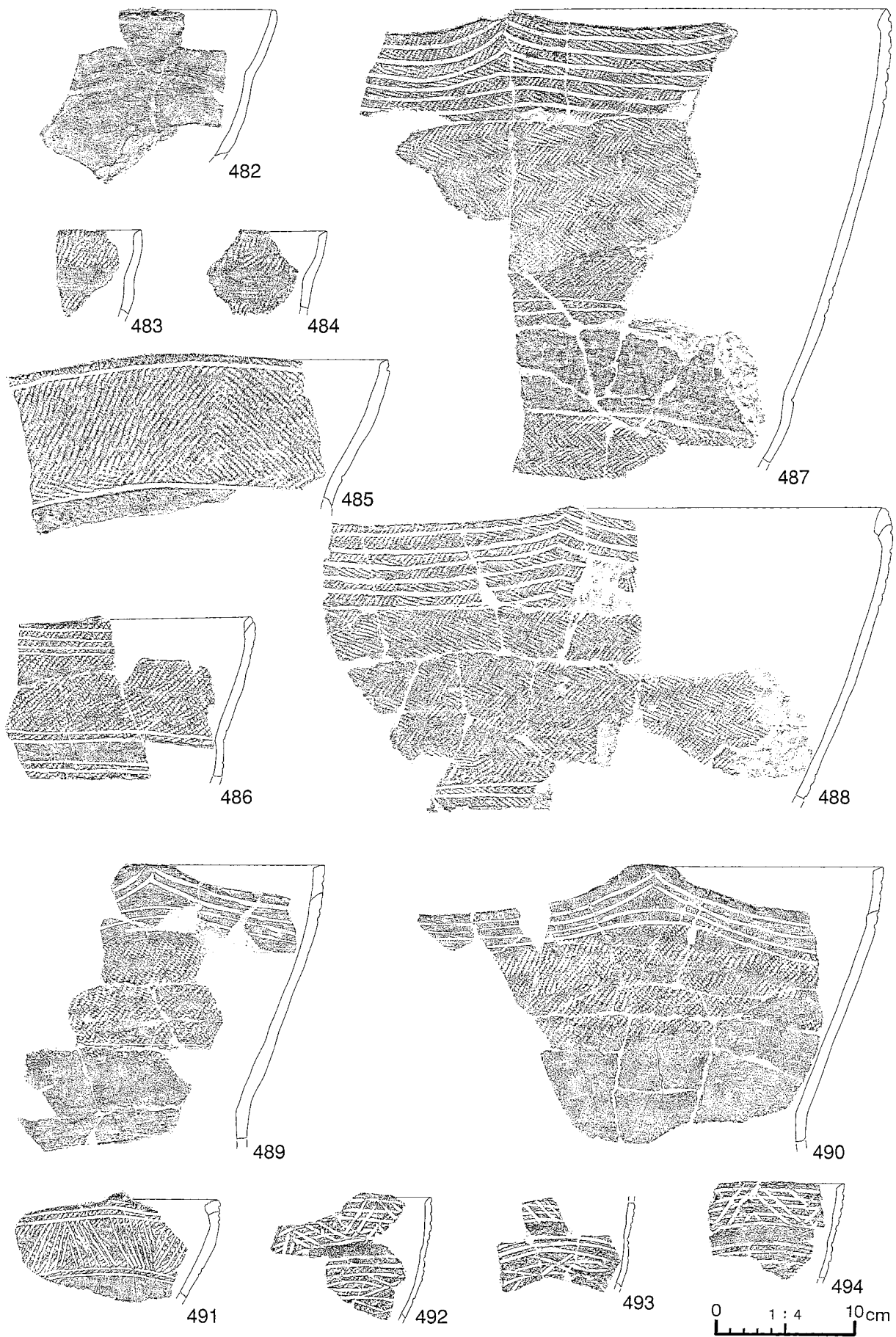


図98 盛土・包含層出土の土器 (39)



図99 盛土・包含層出土の土器 (40)

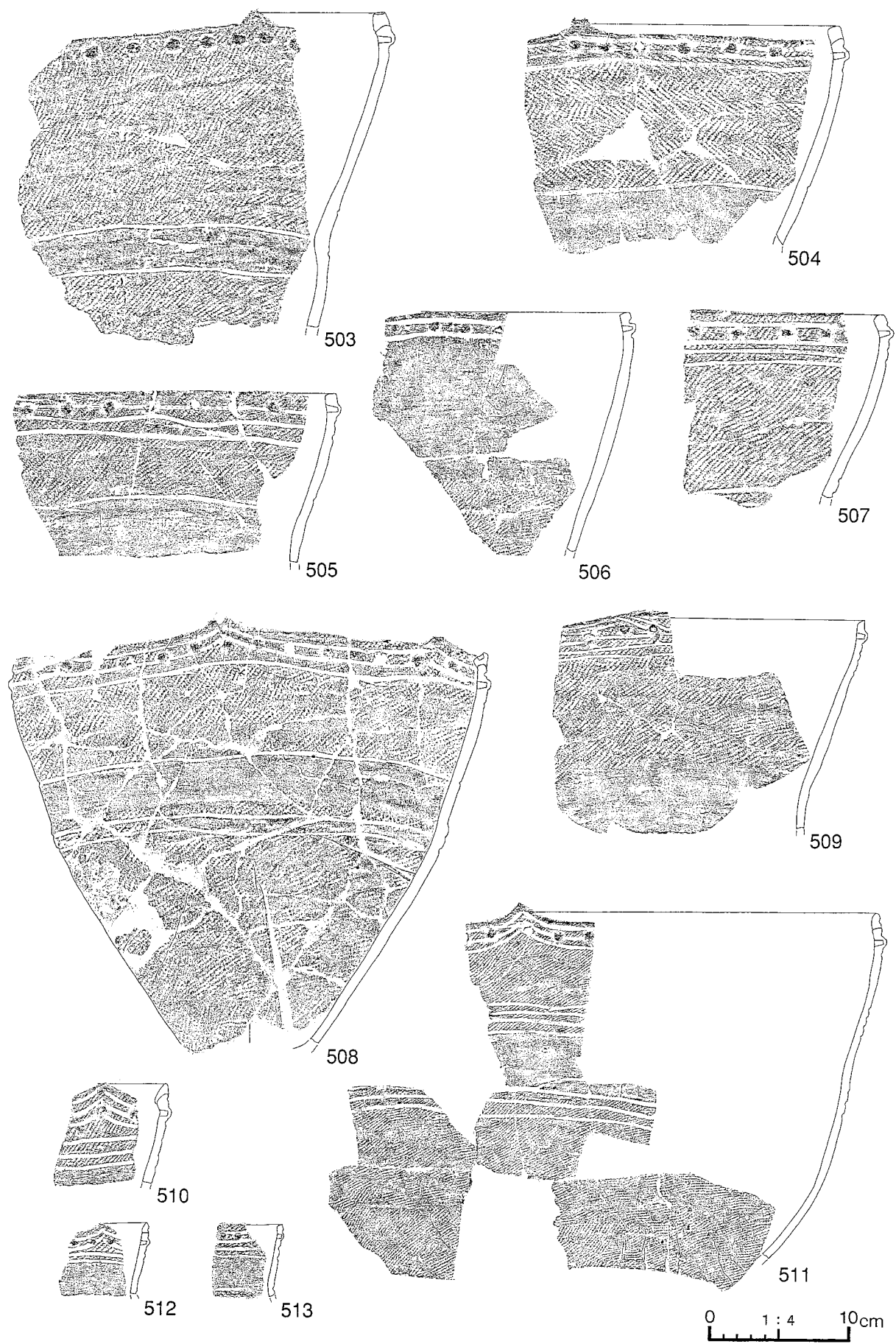


図100 盛土・包含層出土の土器 (41)

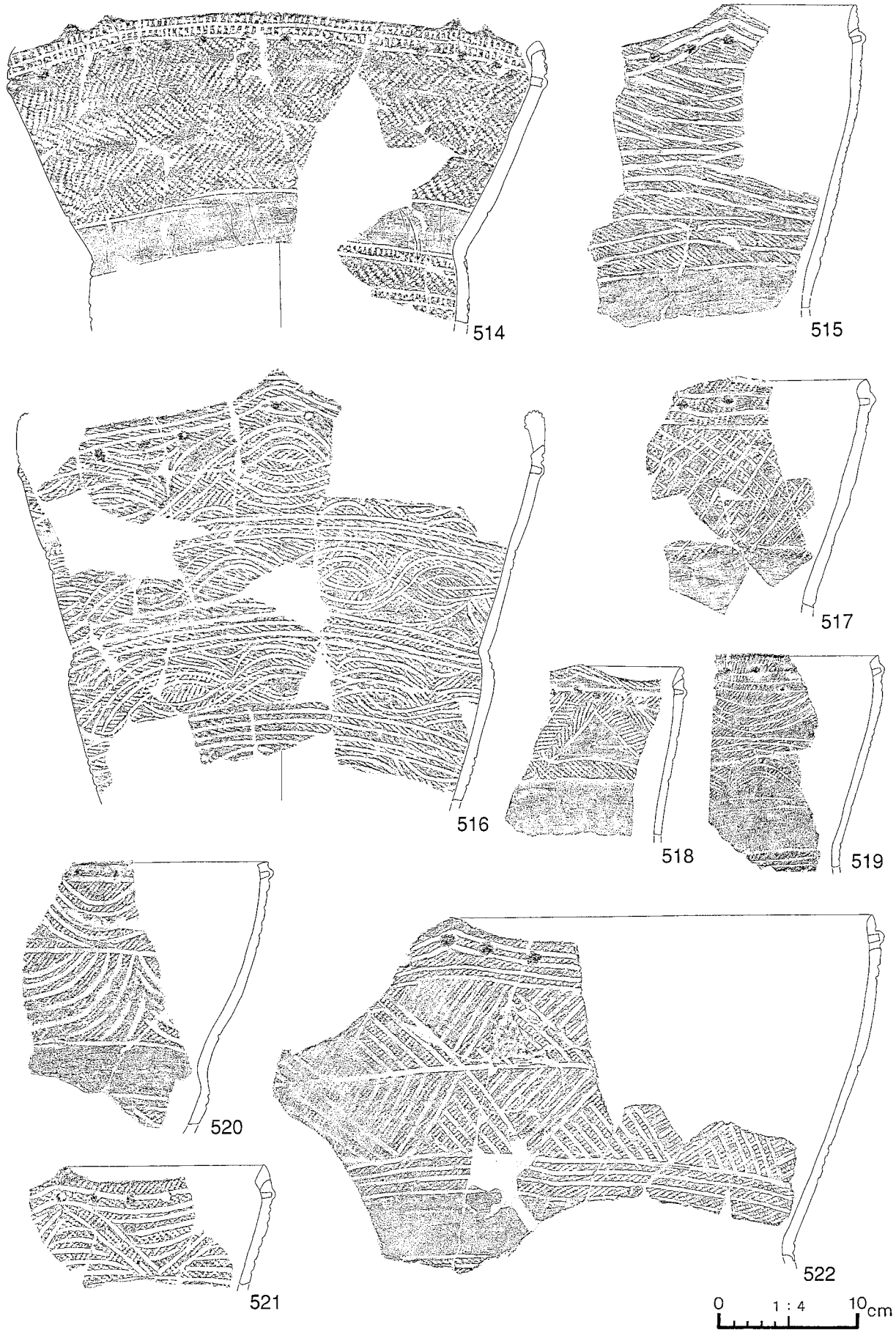


図101 盛土・包含層出土の土器 (42)

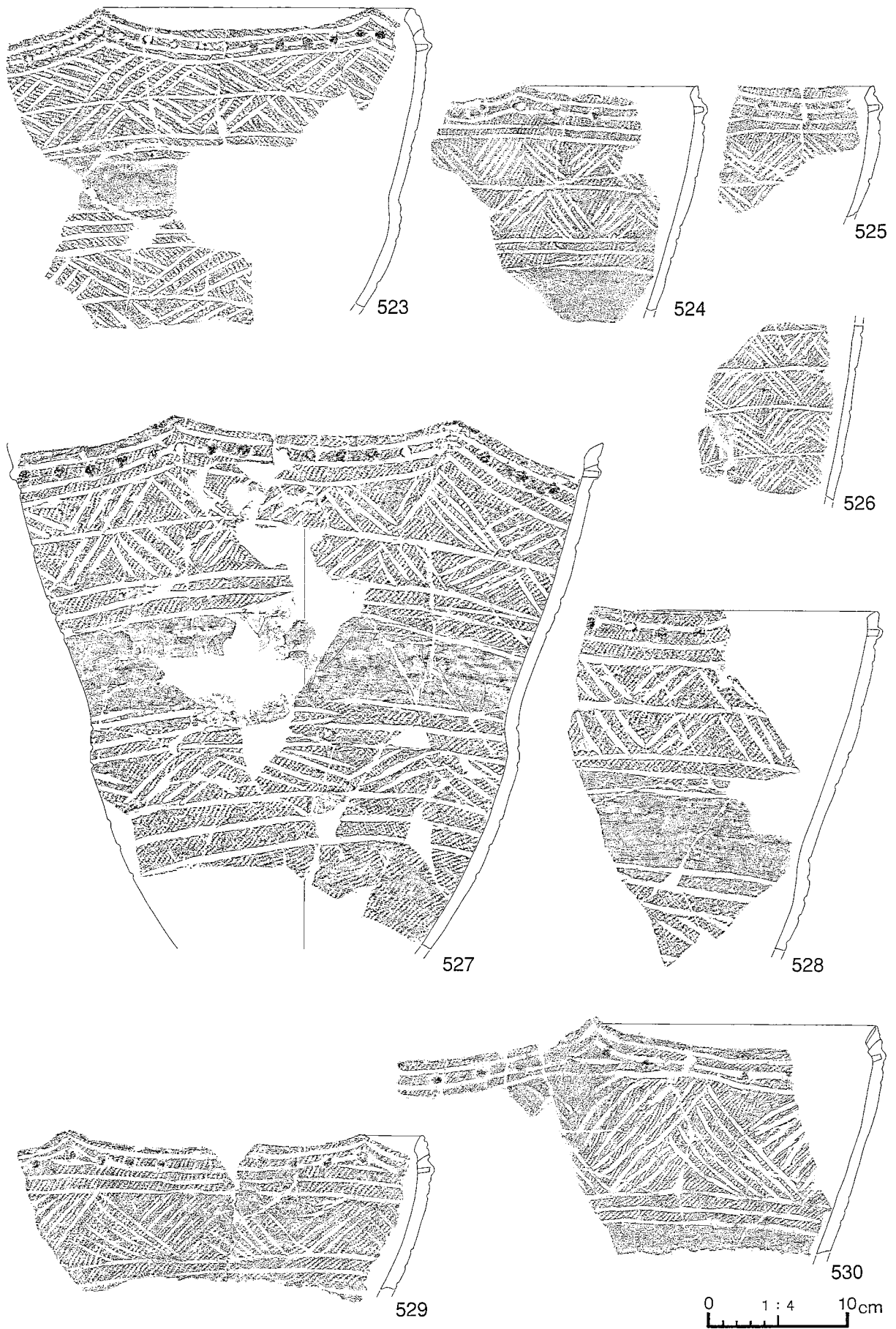


図102 盛土・包含層出土の土器 (43)

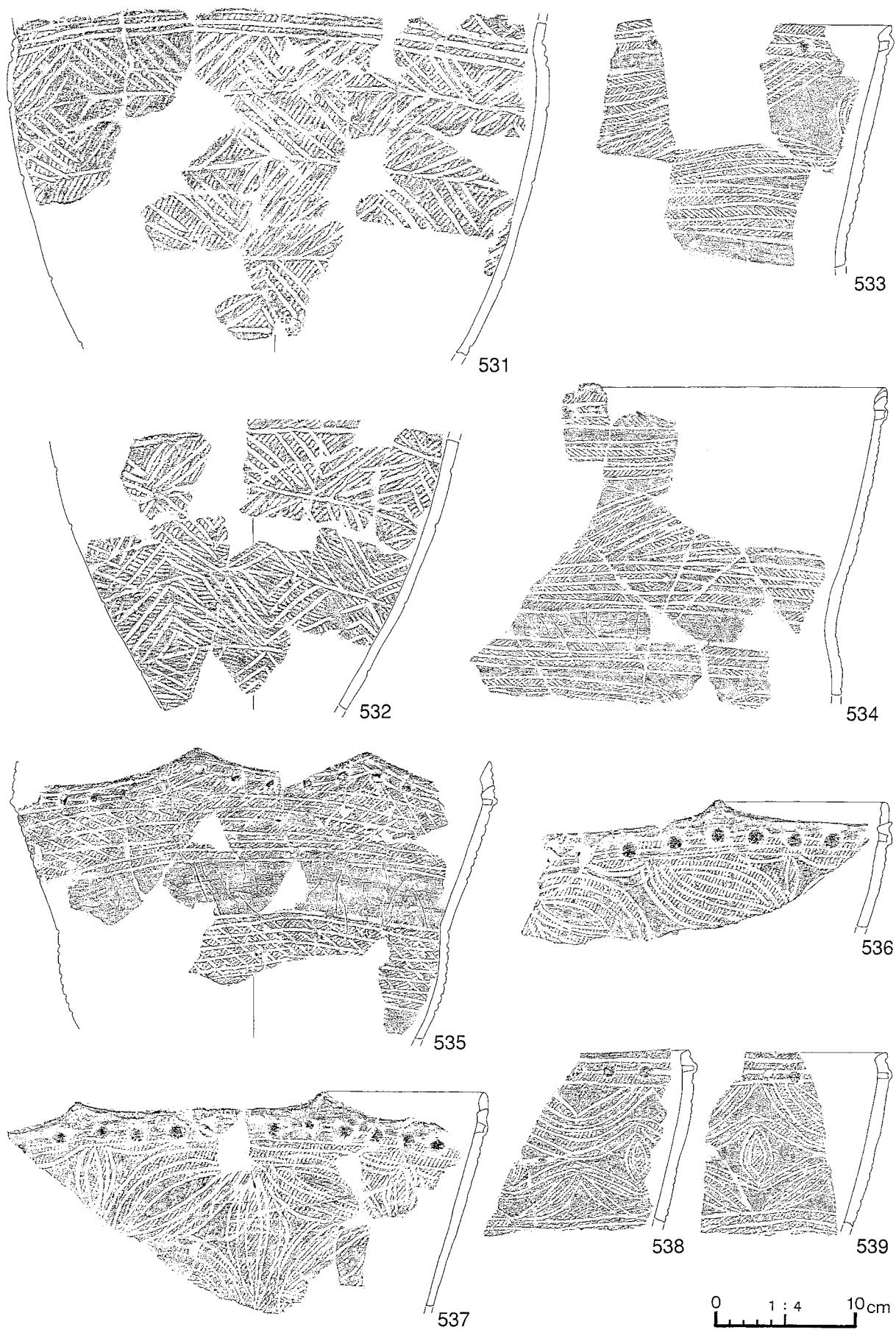
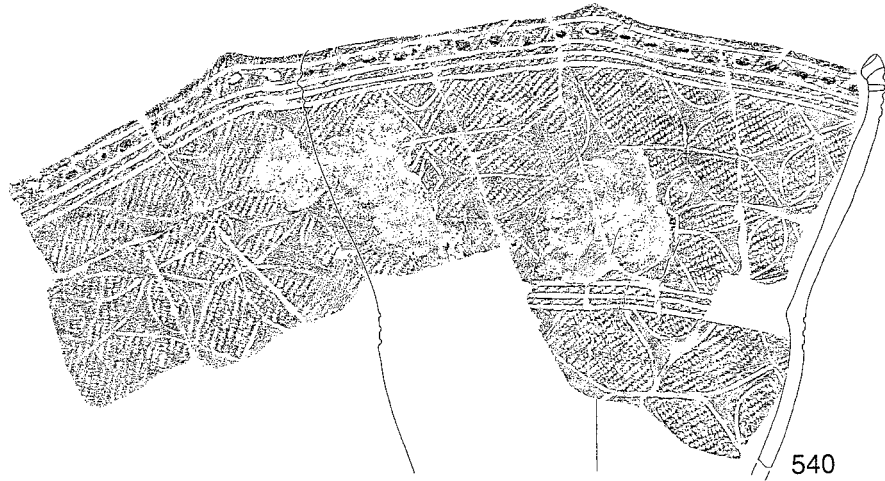
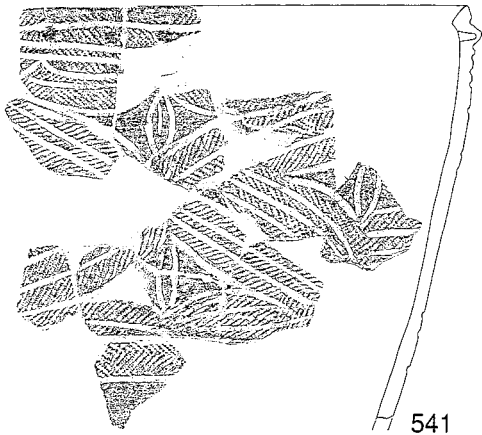


図103 盛土・包含層出土の土器 (44)



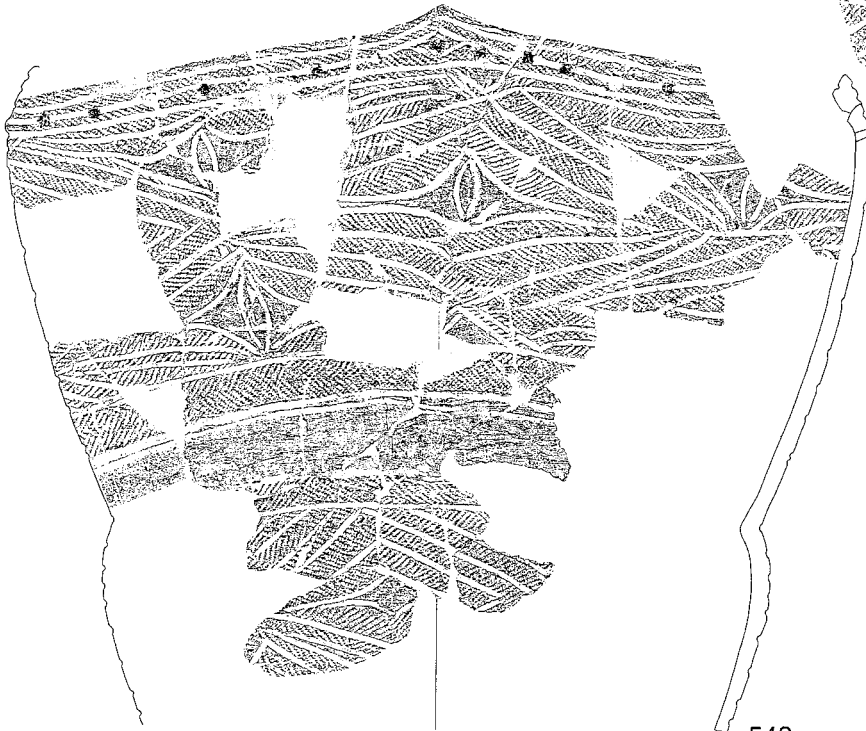
540



541



542



543

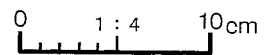


図104 盛土・包含層出土の土器 (45)

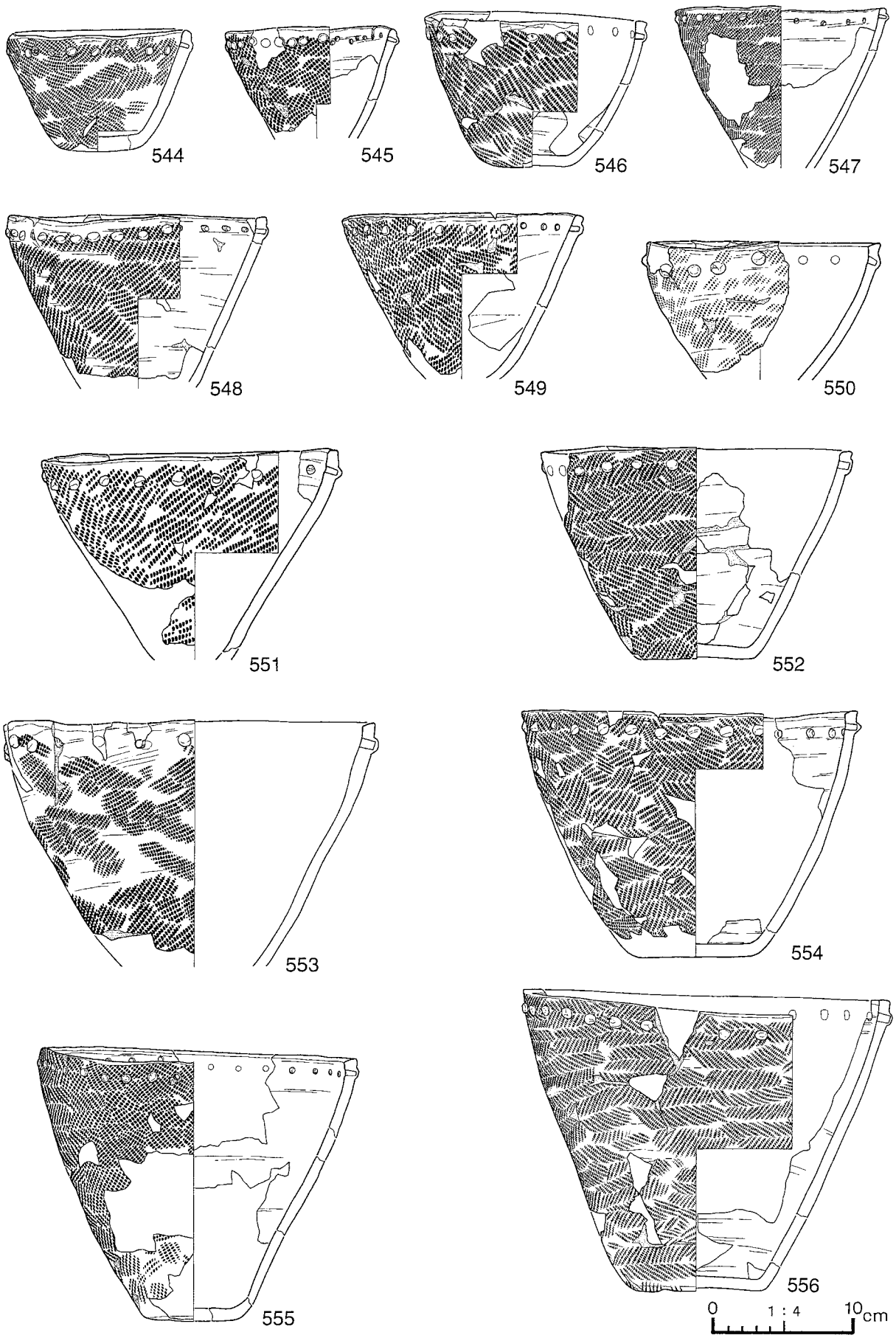


図105 盛土・包含層出土の土器 (46)

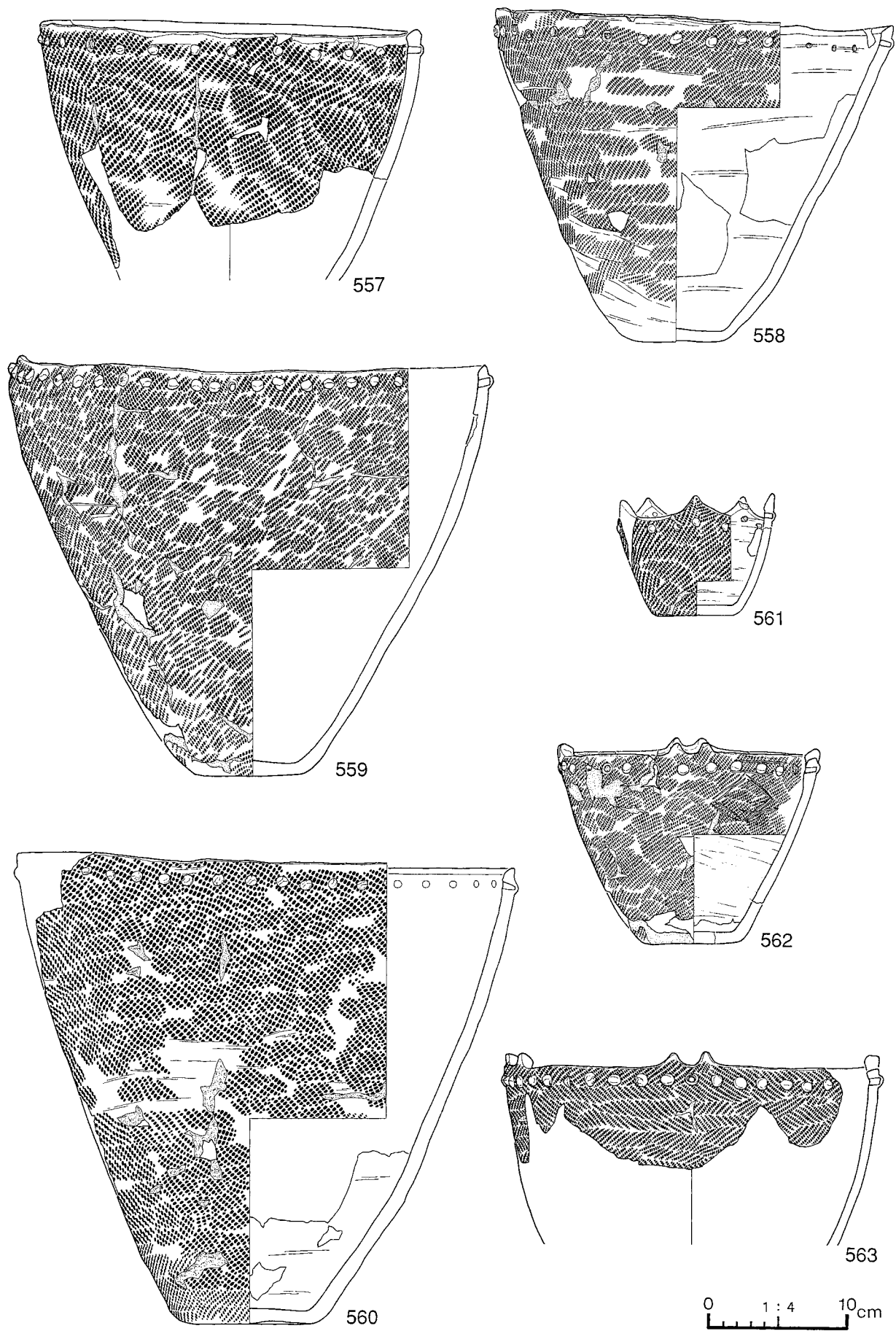
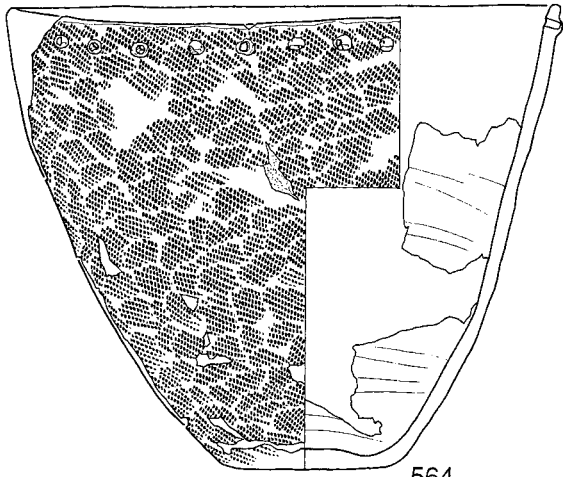
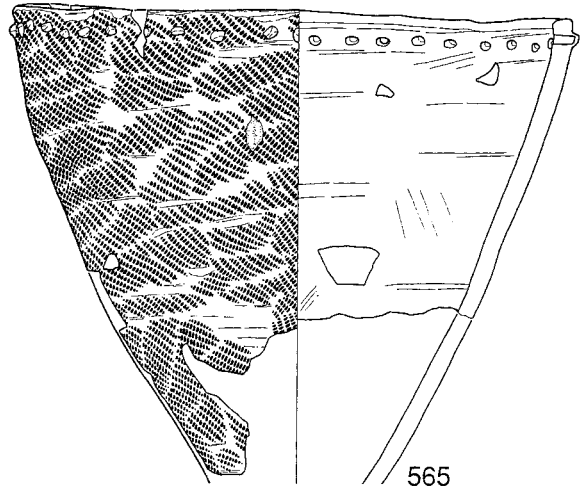


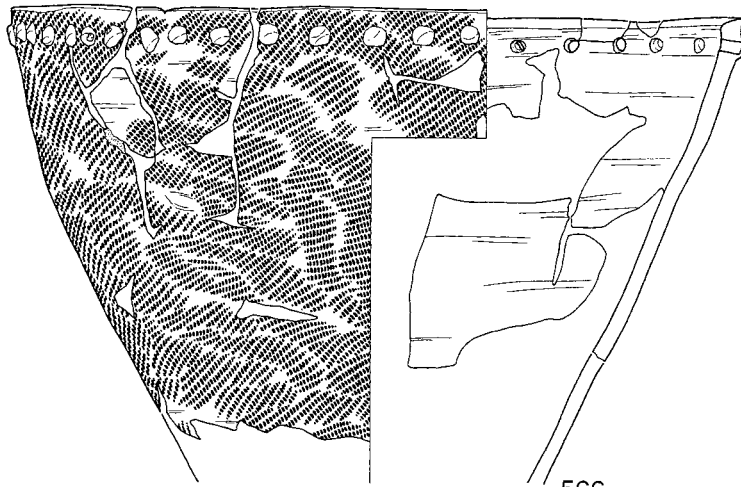
図106 盛土・包含層出土の土器 (47)



564



565



566



567

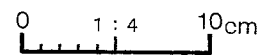


図107 盛土・包含層出土の土器 (48)

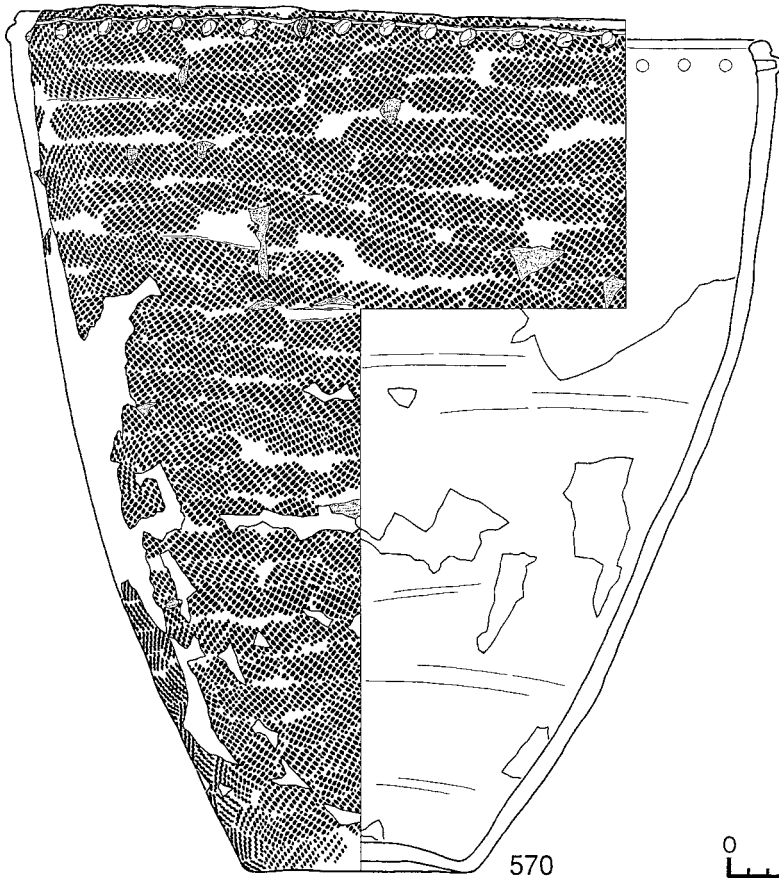
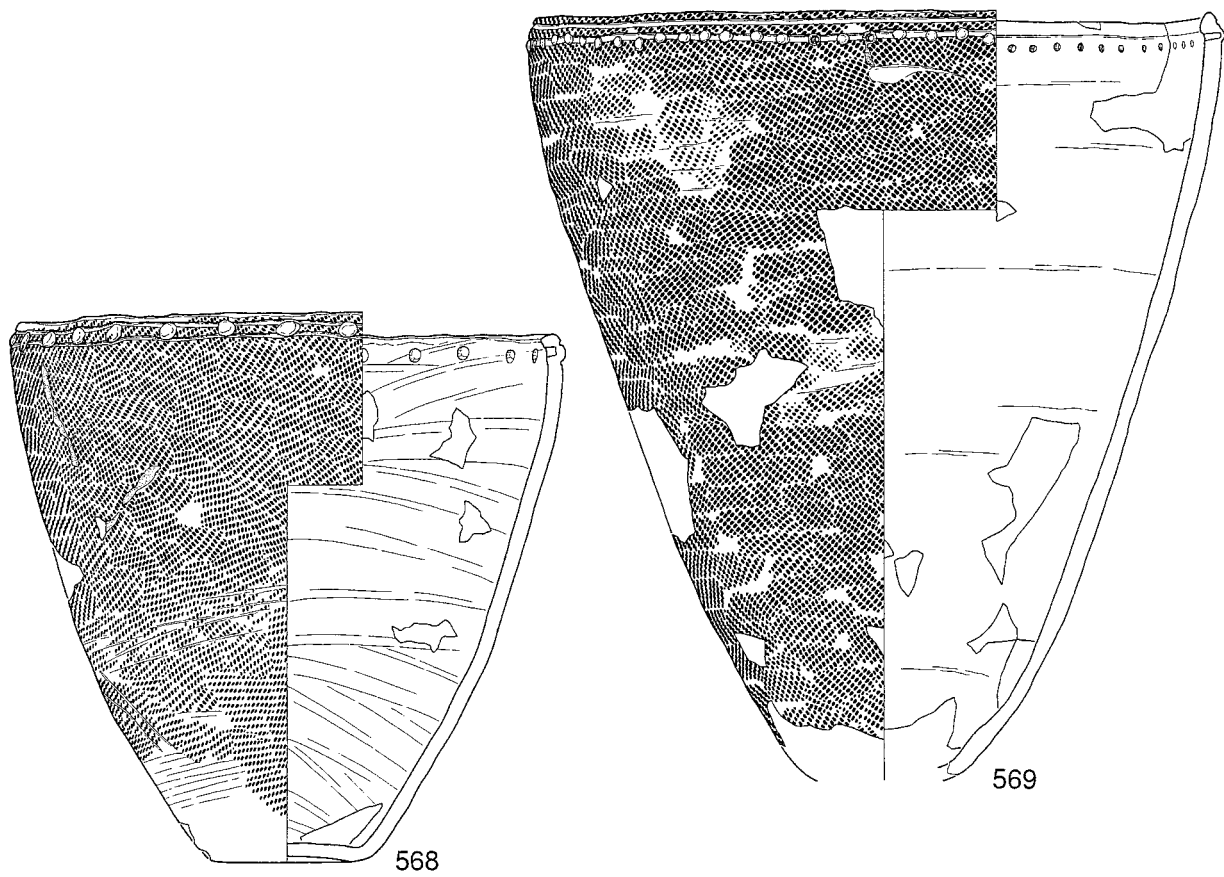


図108 盛土・包含層出土の土器 (49)

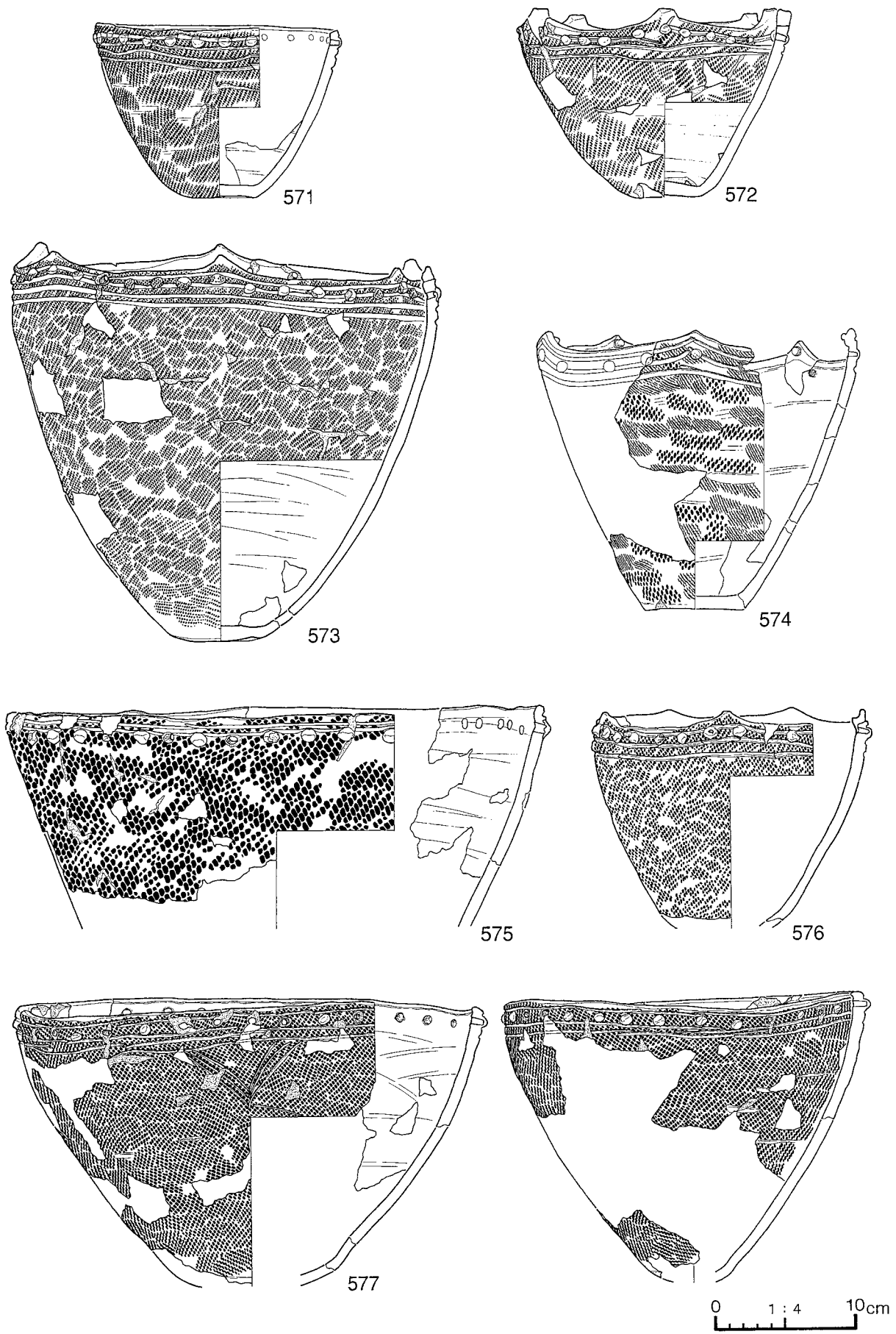


図109 盛土・包含層出土の土器 (50)

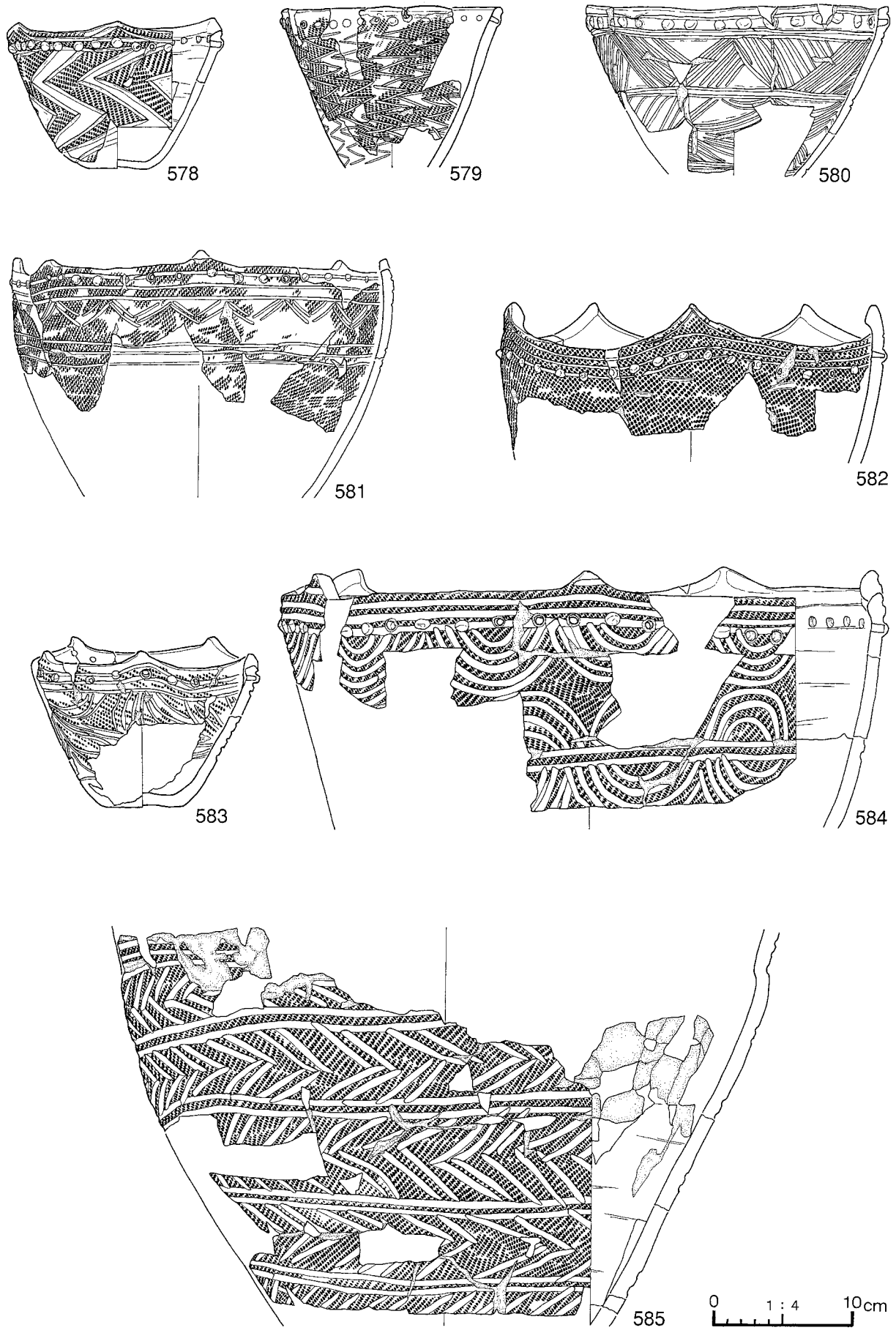


図110 盛土・包含層出土の土器 (51)

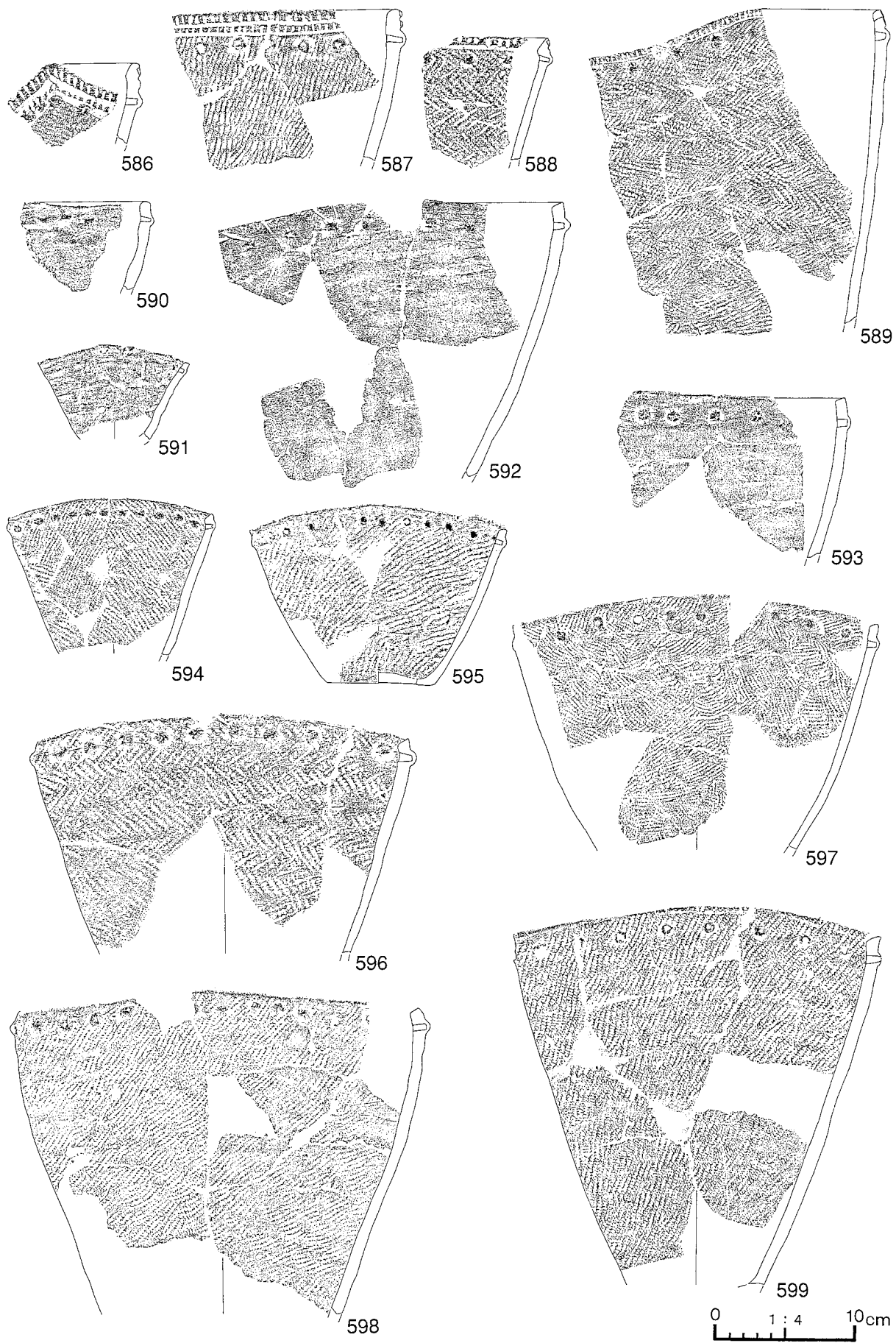


図111 盛土・包含層出土の土器 (52)

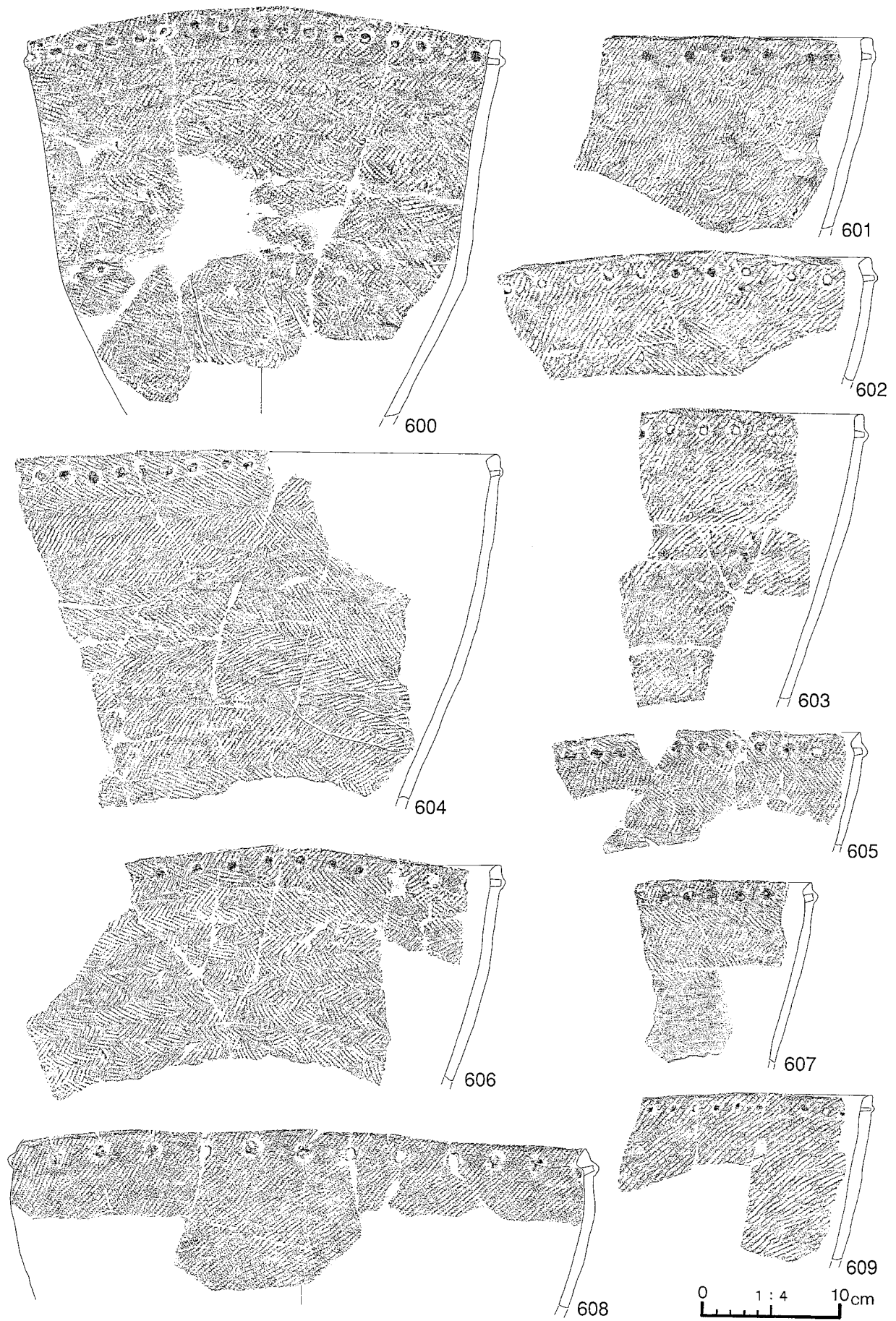


図112 盛土・包含層出土の土器 (53)

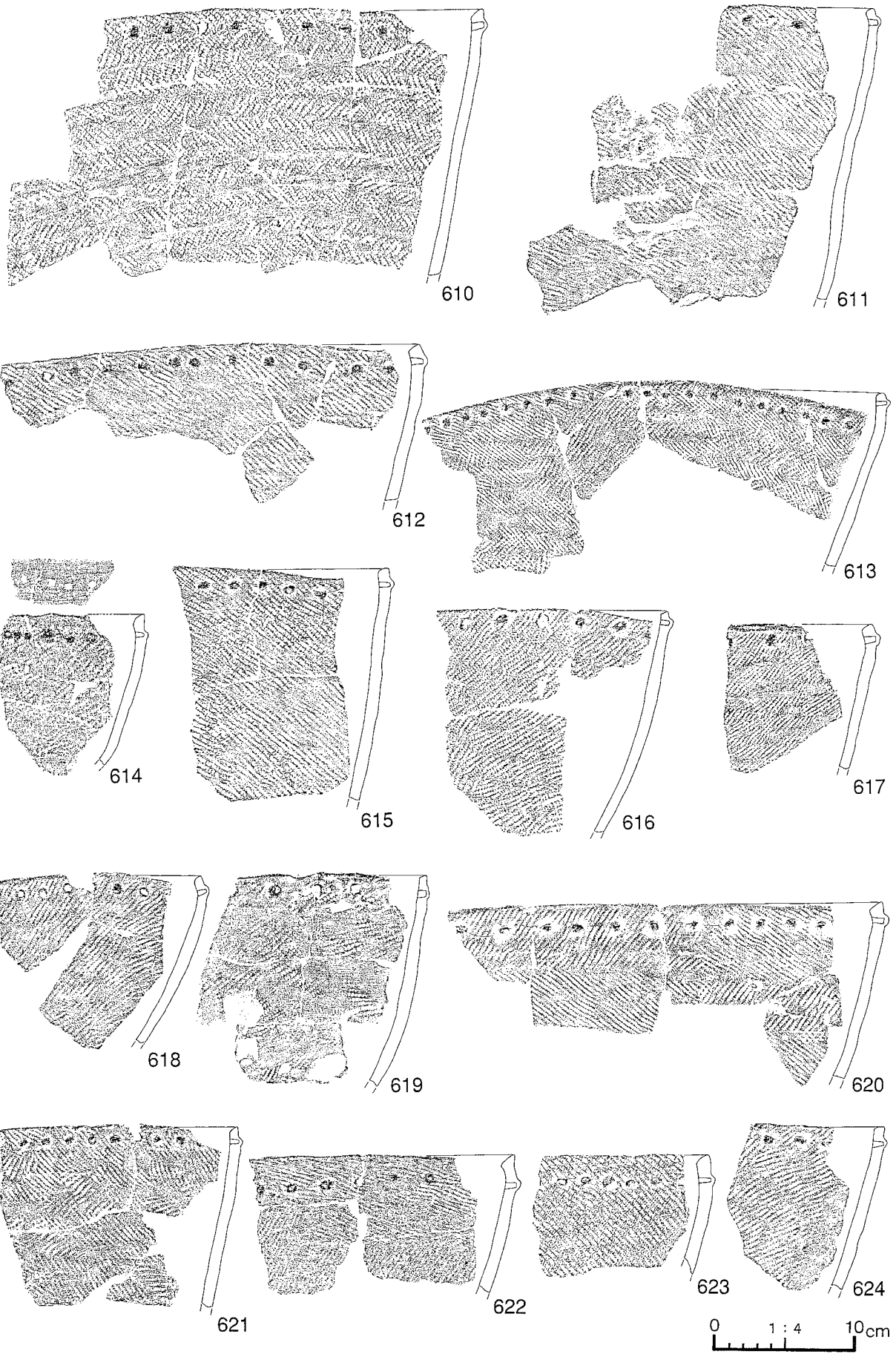


図113 盛土・包含層出土の土器 (54)

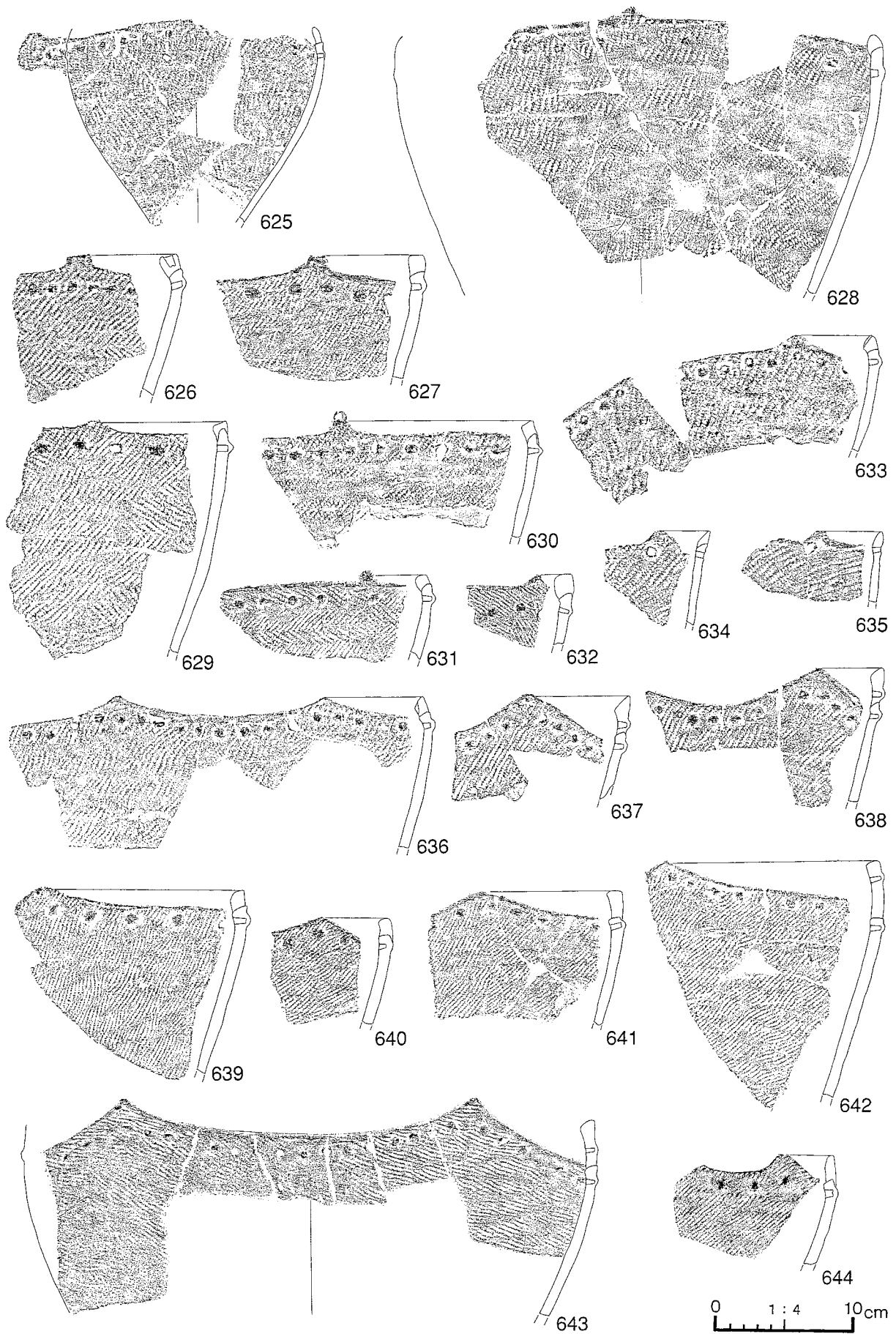


図114 盛土・包含層出土の土器 (55)

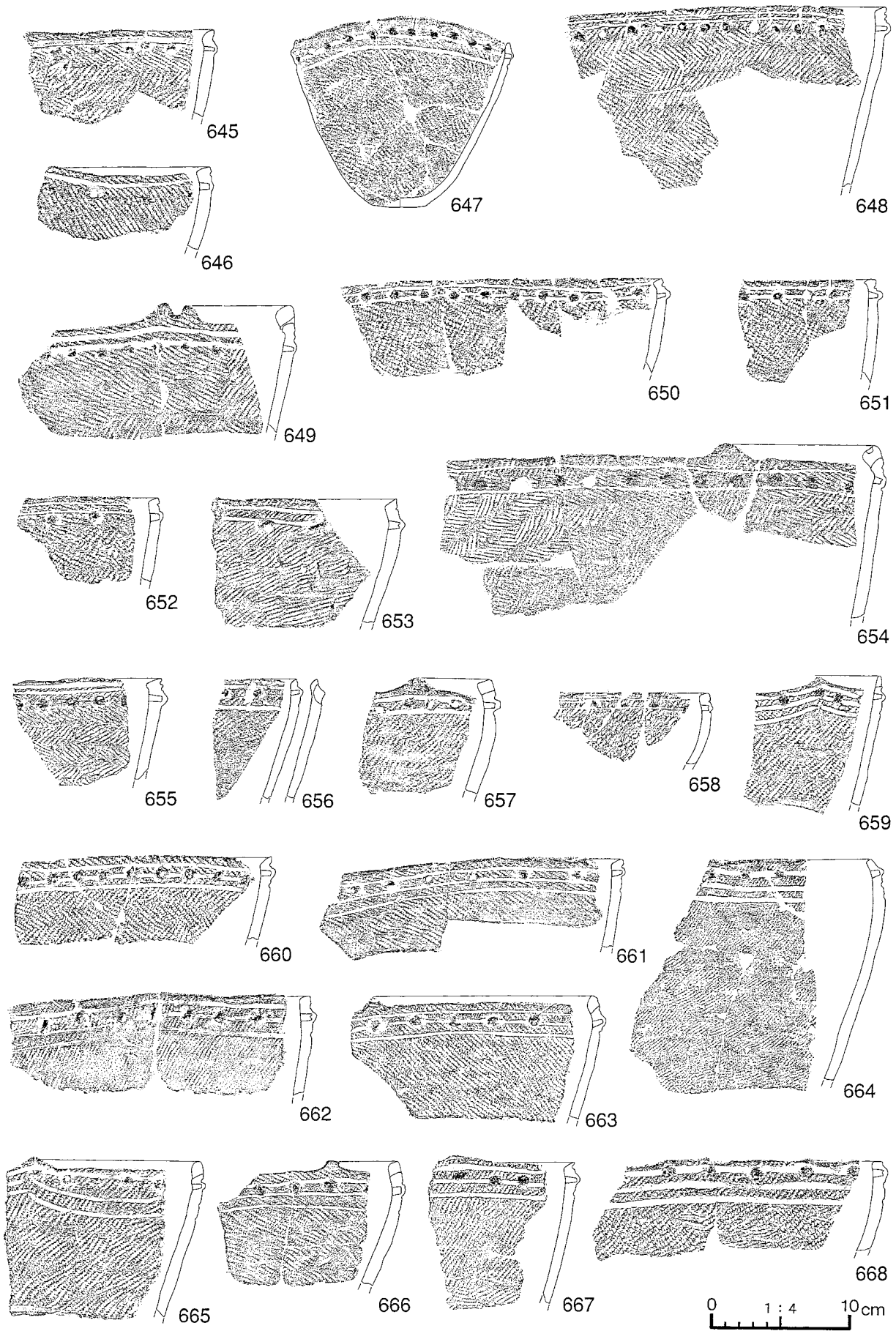


図115 盛土・包含層出土の土器 (56)

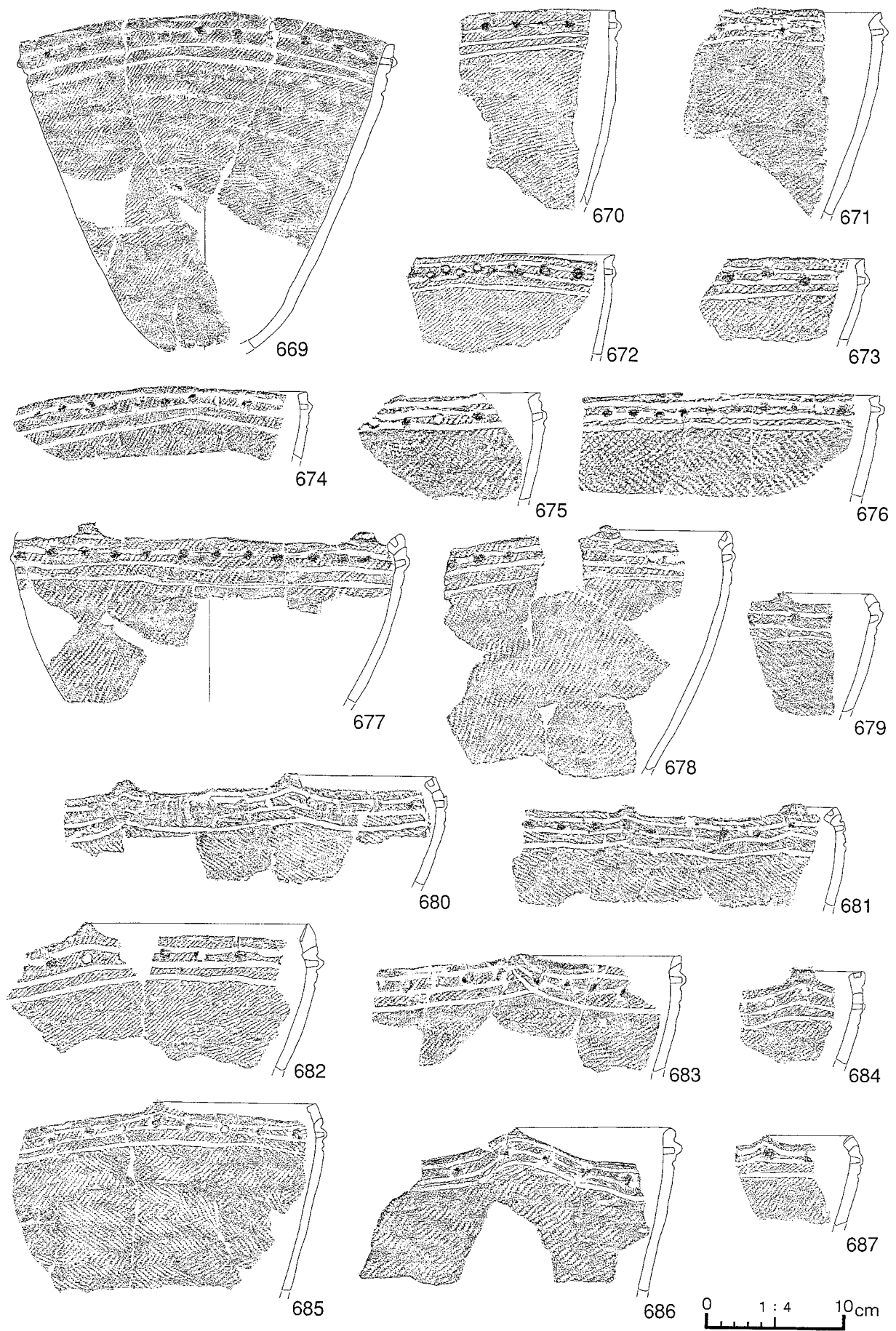


図116 盛土・包含層出土の土器 (57)

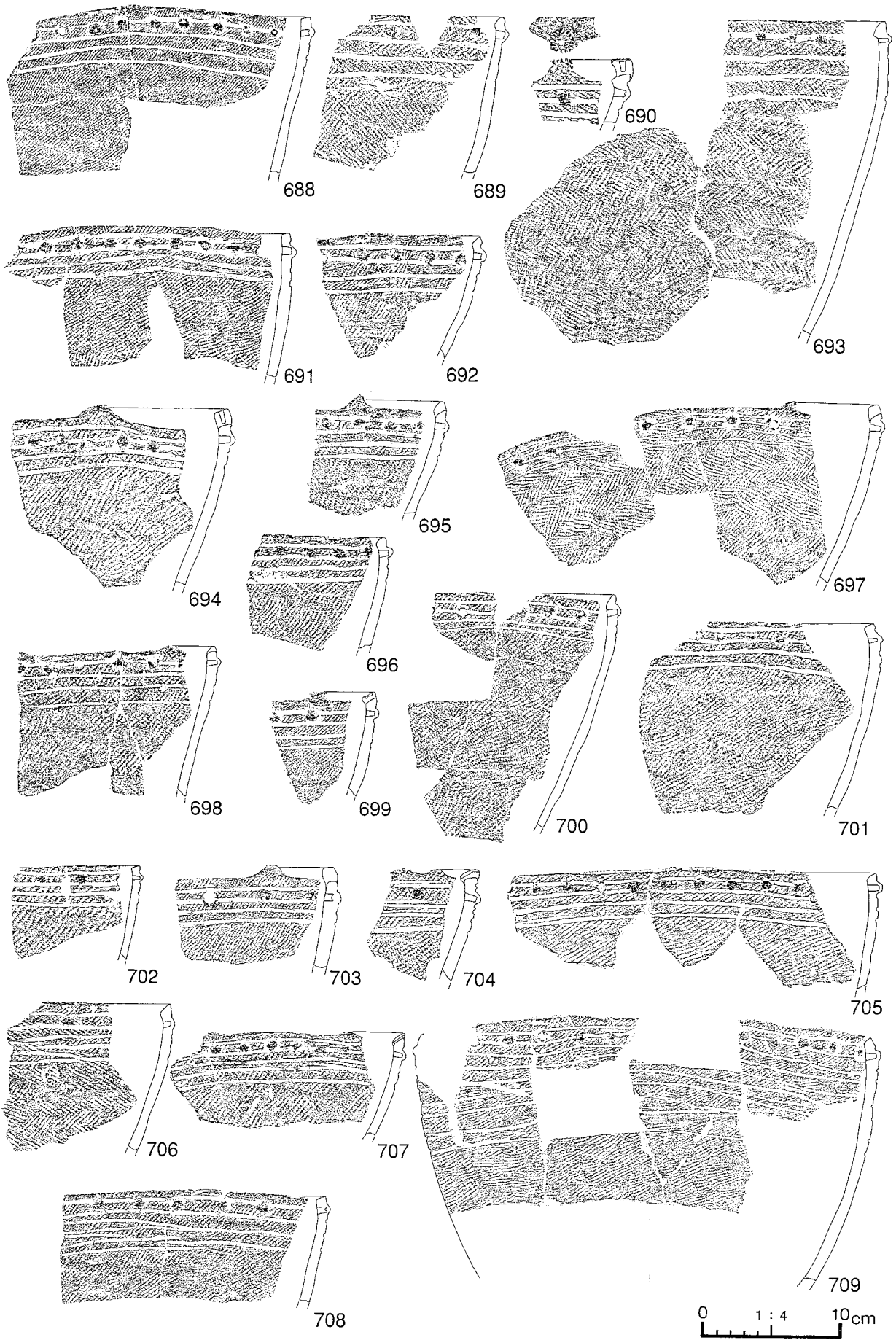


図117 盛土・包含層出土の土器 (58)

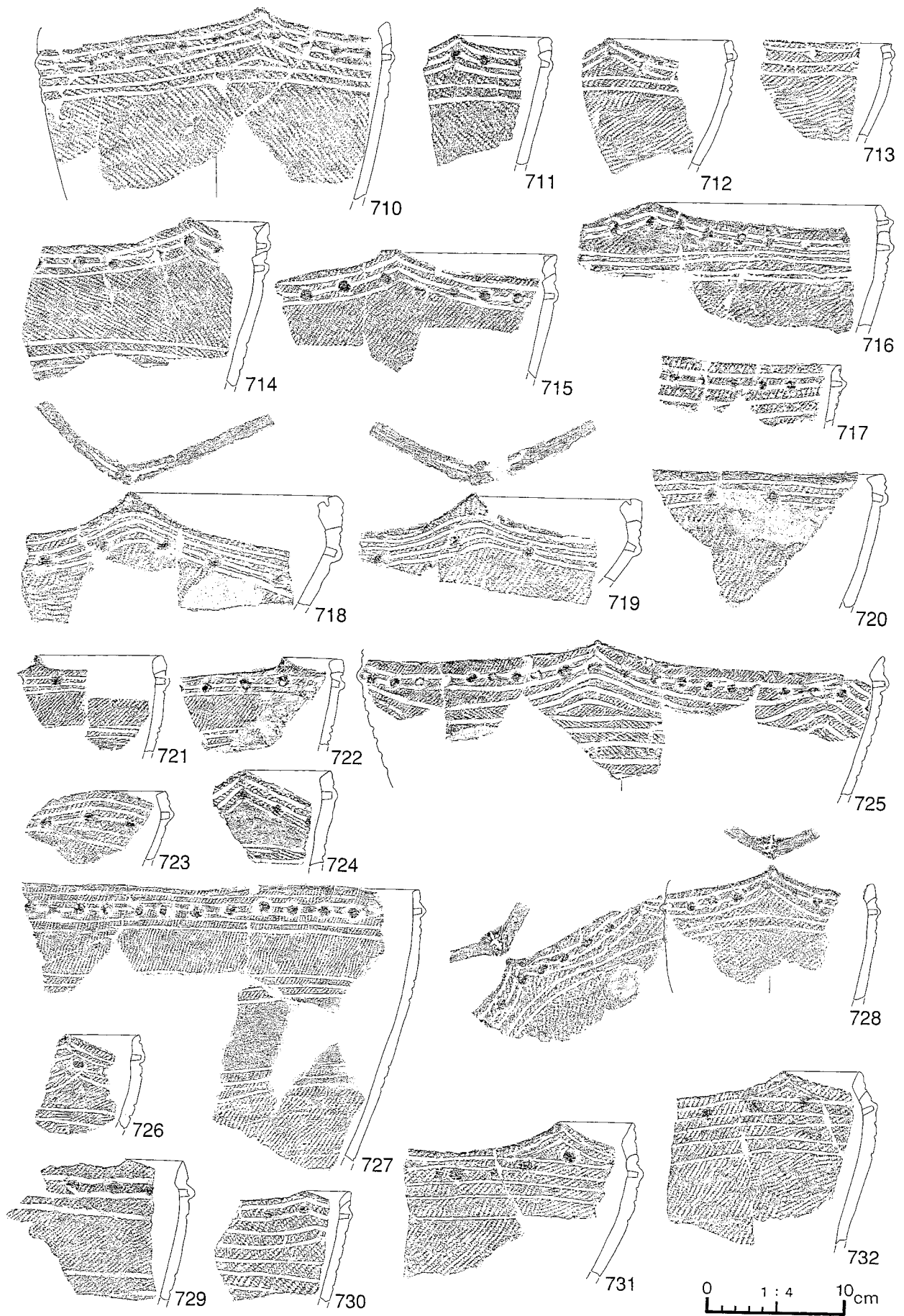


図118 盛土・包含層出土の土器 (59)

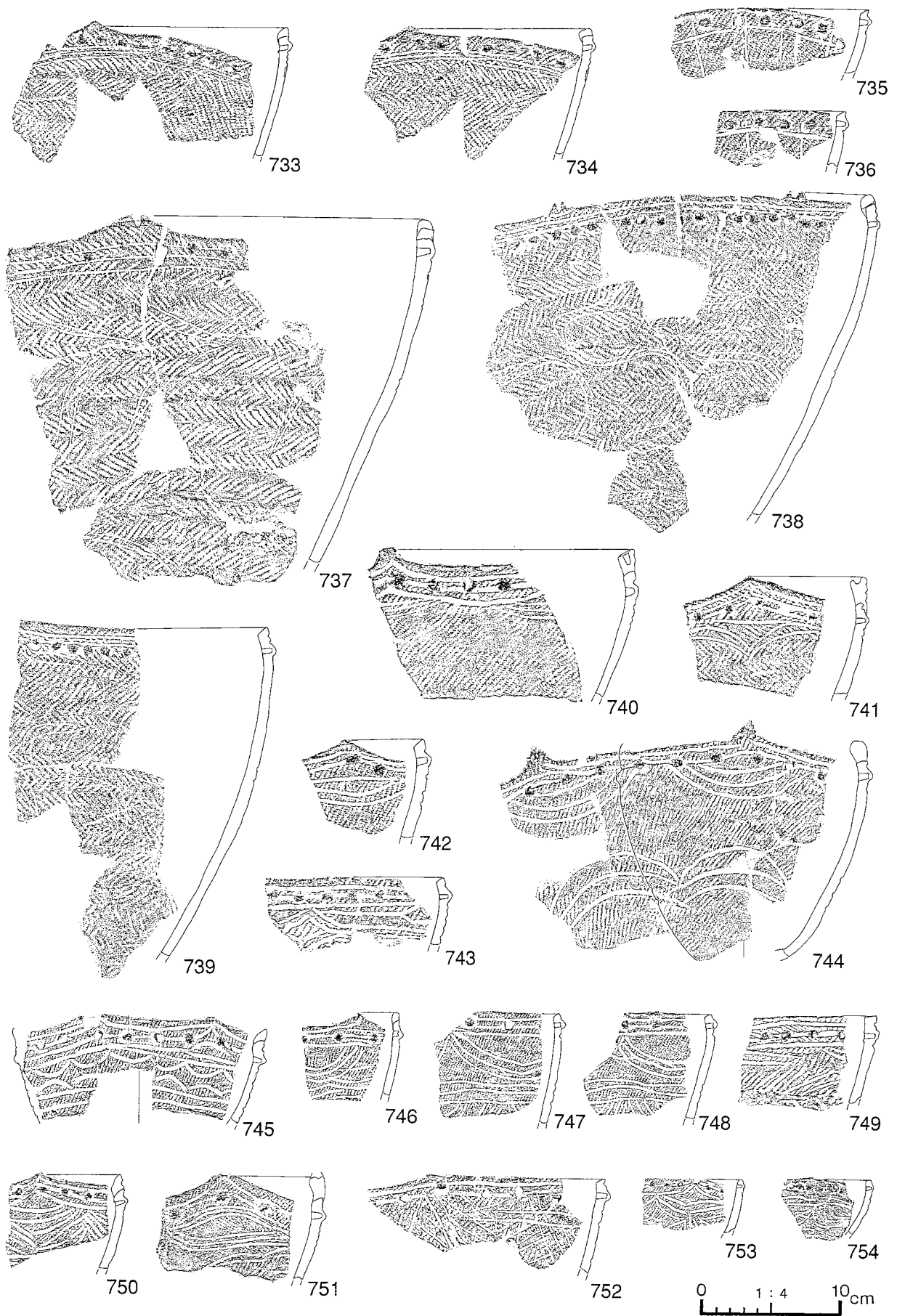


図119 盛土・包含層出土の土器 (60)

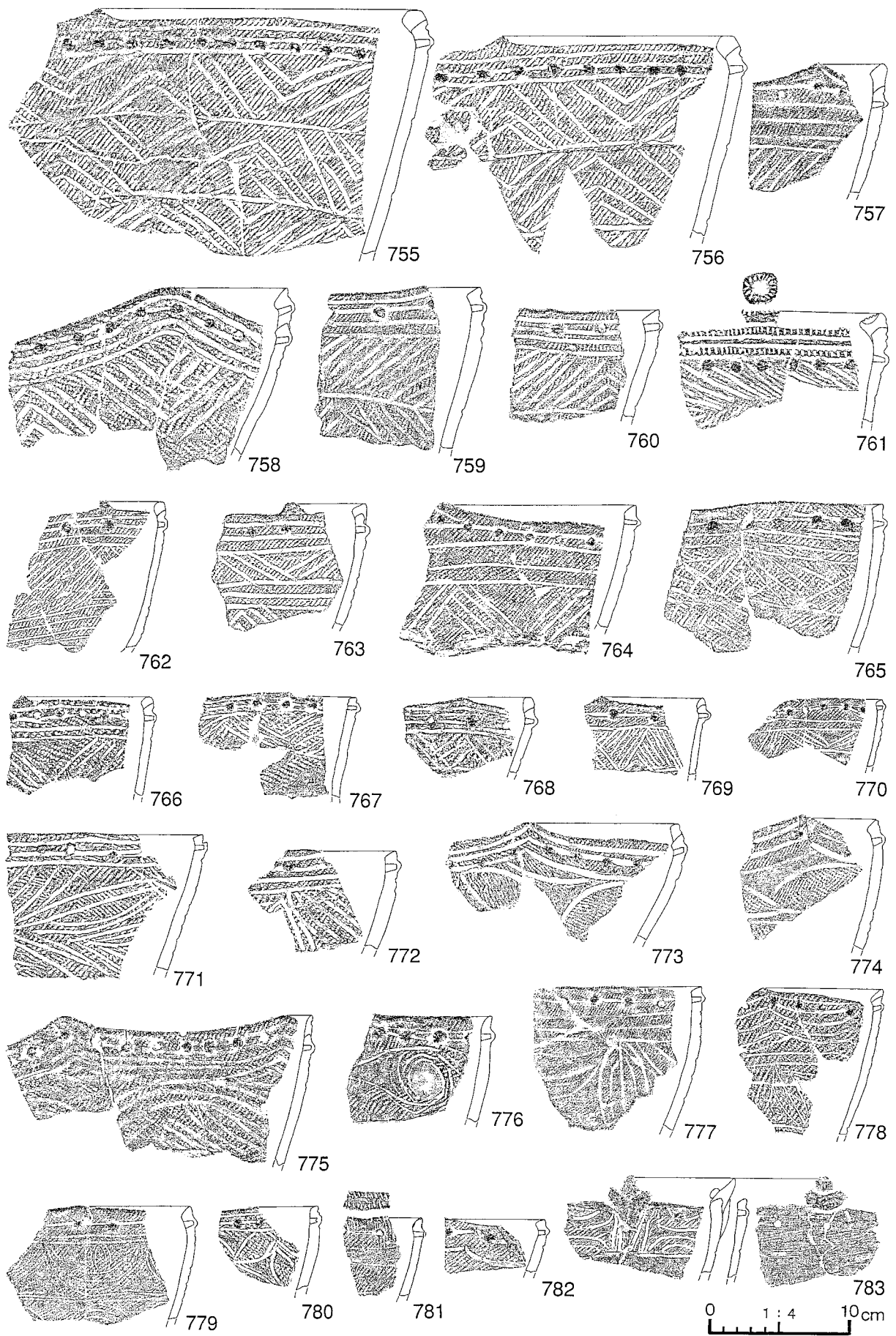


図120 盛土・包含層出土の土器 (61)



図121 盛土・包含層出土の土器 (62)

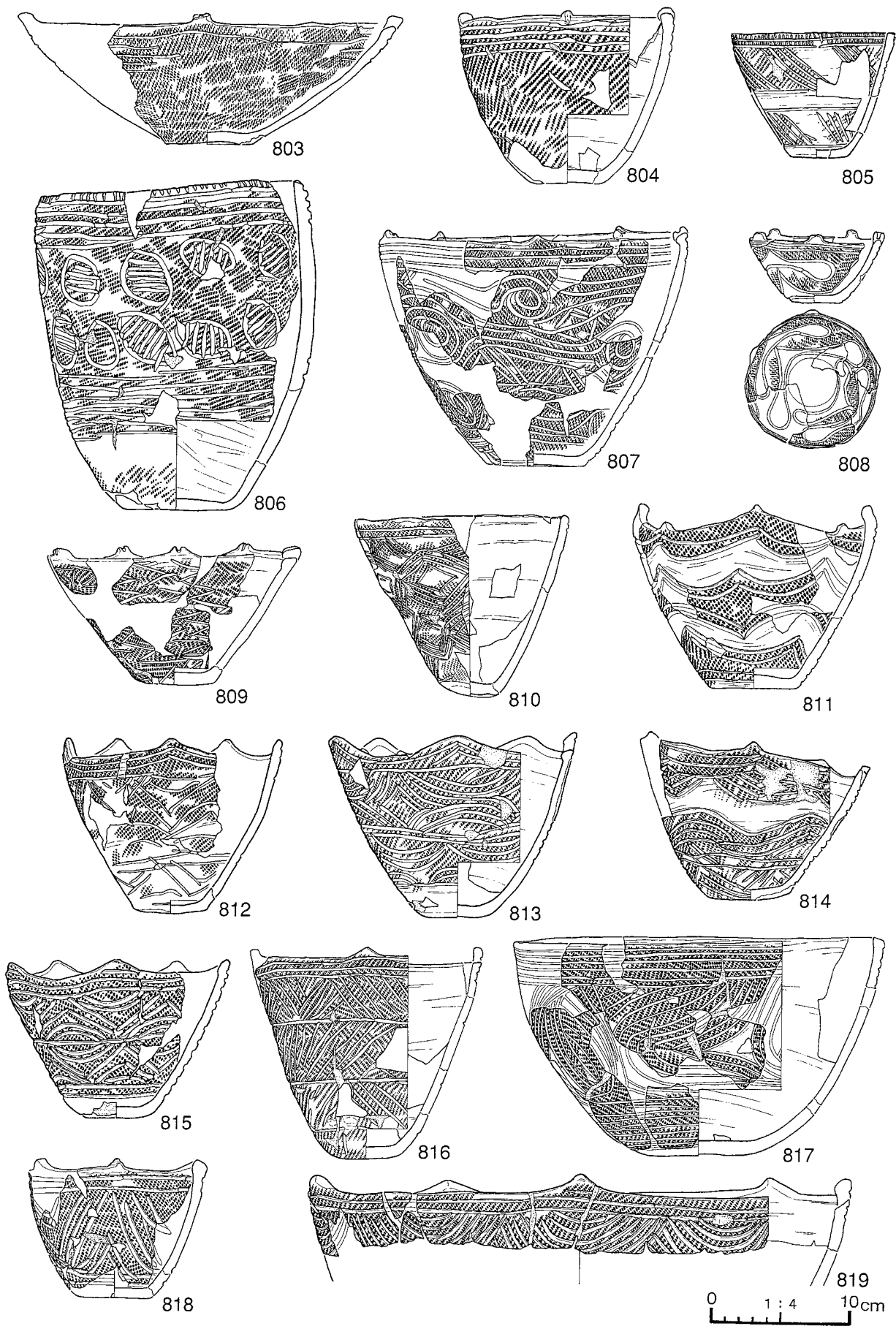


図122 盛土・包含層出土の土器 (63)

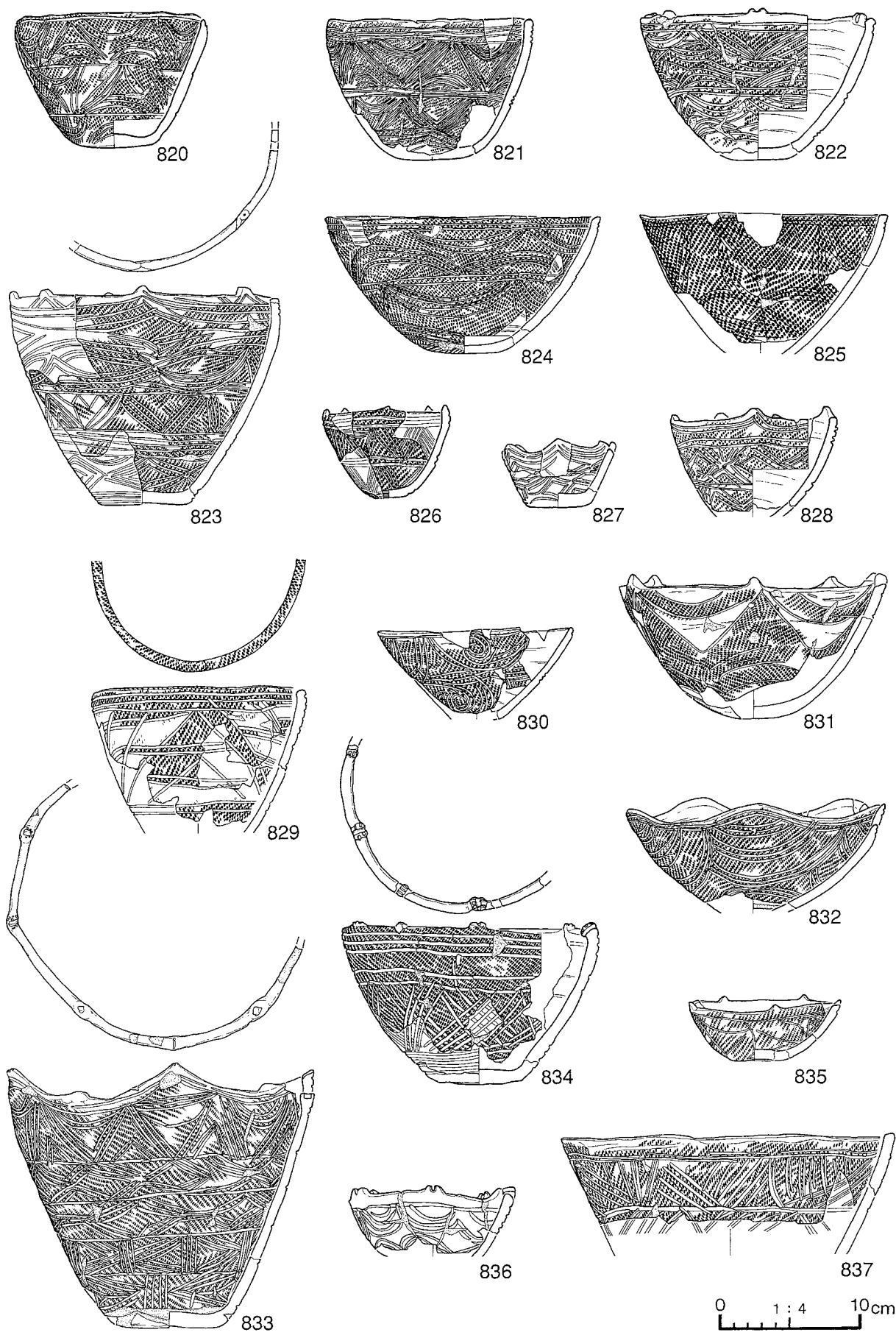


図123 盛土・包含層出土の土器 (64)

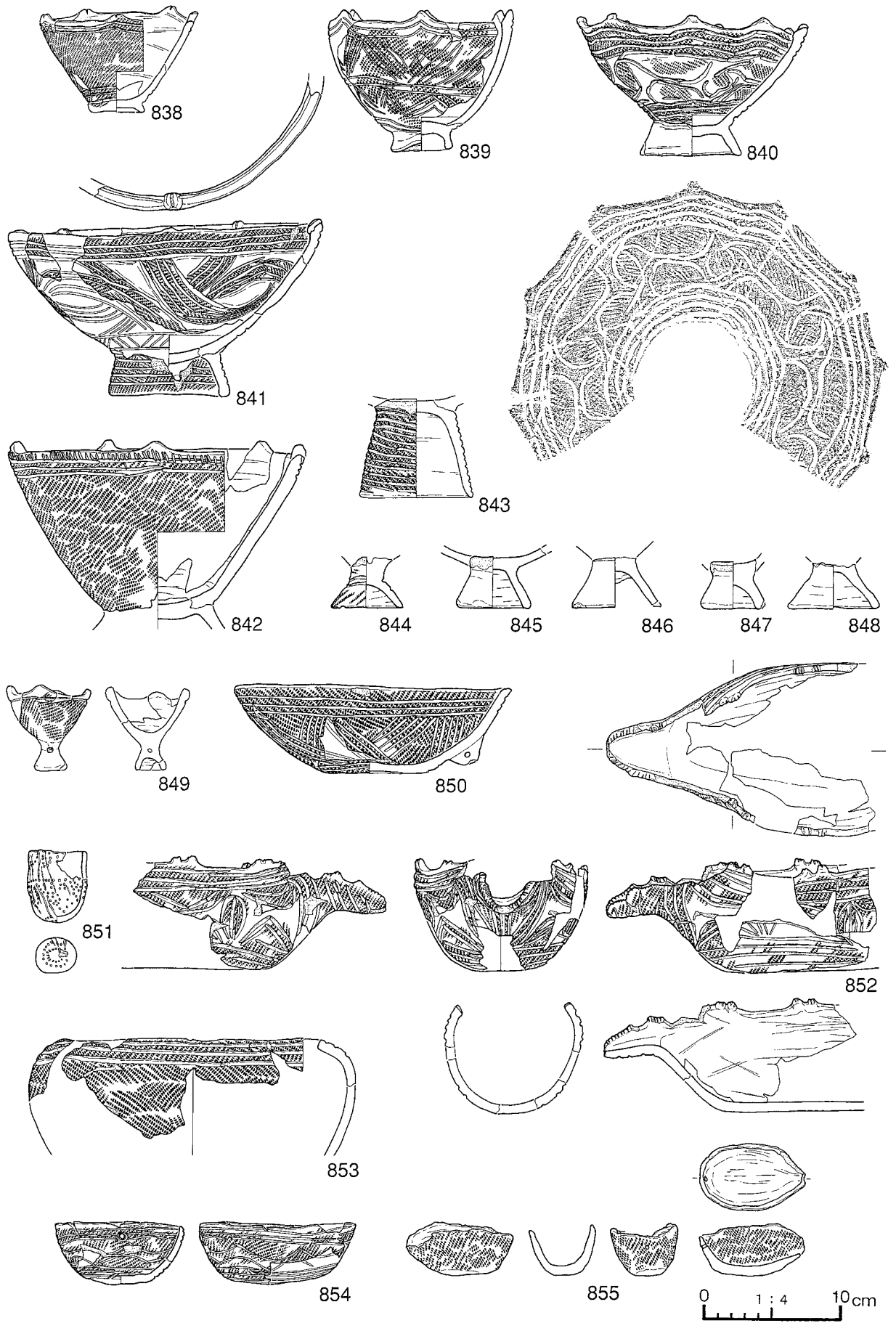


図124 盛土・包含層出土の土器 (65)

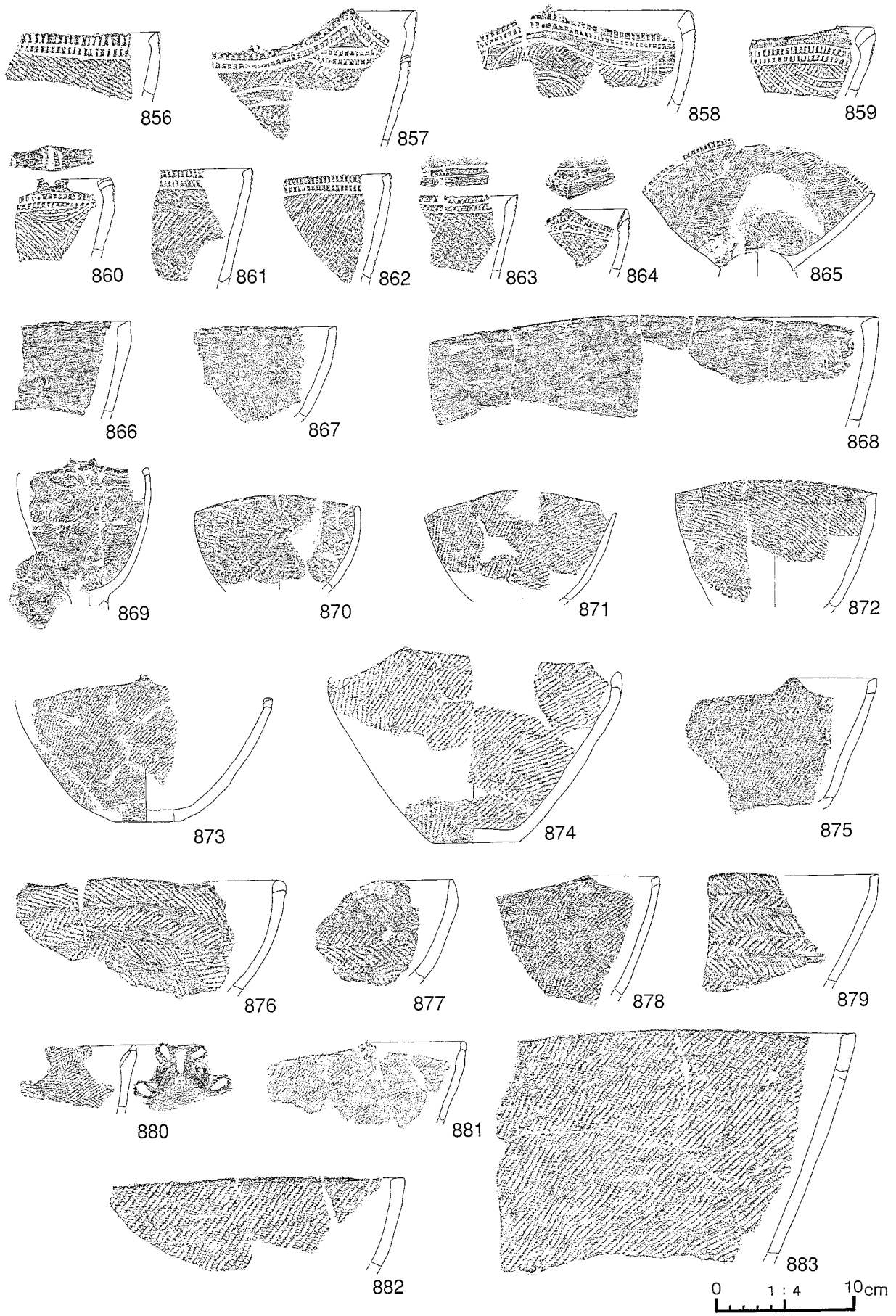


図125 盛土・包含層出土の土器 (66)

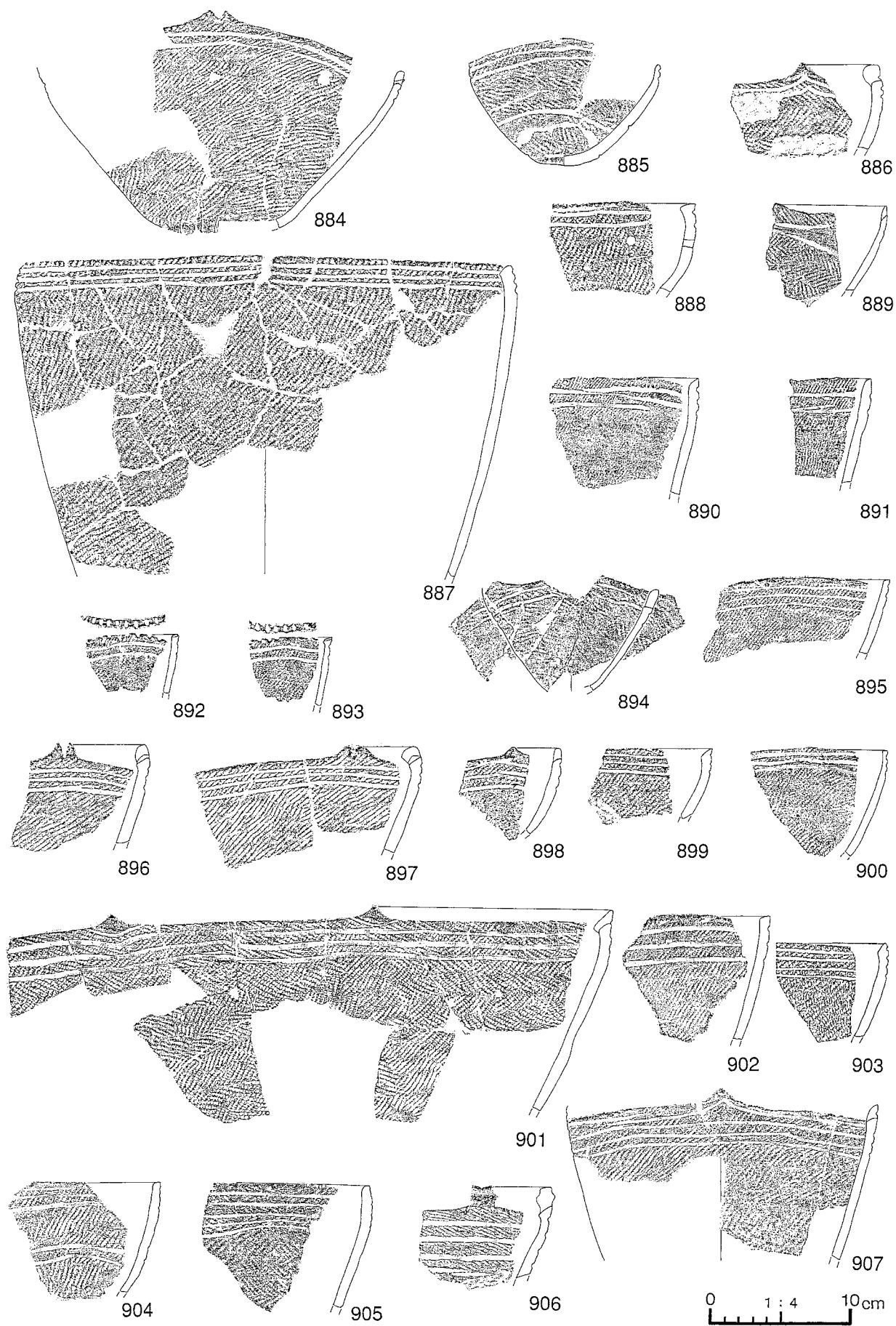


図126 盛土・包含層出土の土器 (67)



図127 盛土・包含層出土の土器 (68)

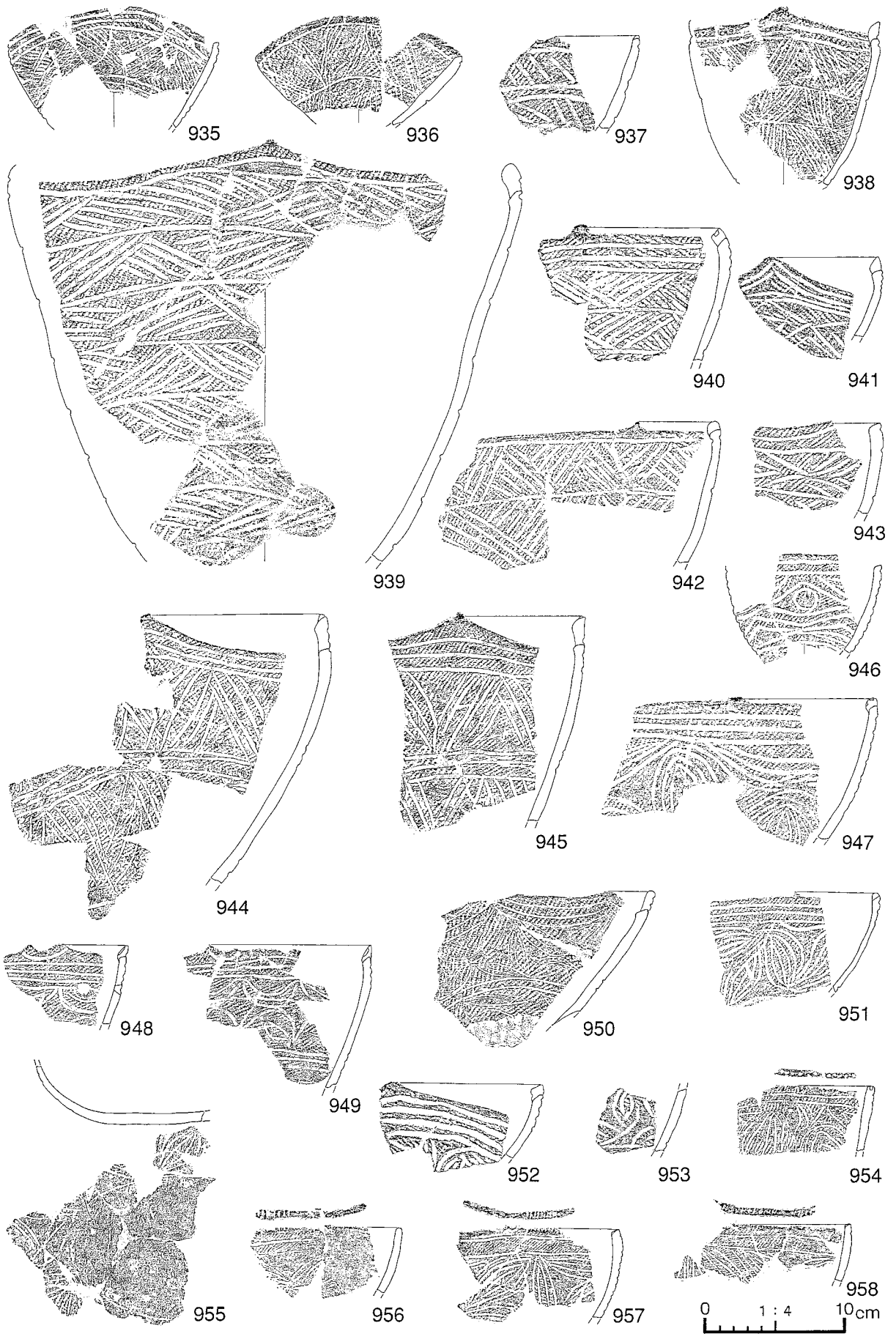


図128 盛土・包含層出土の土器 (69)

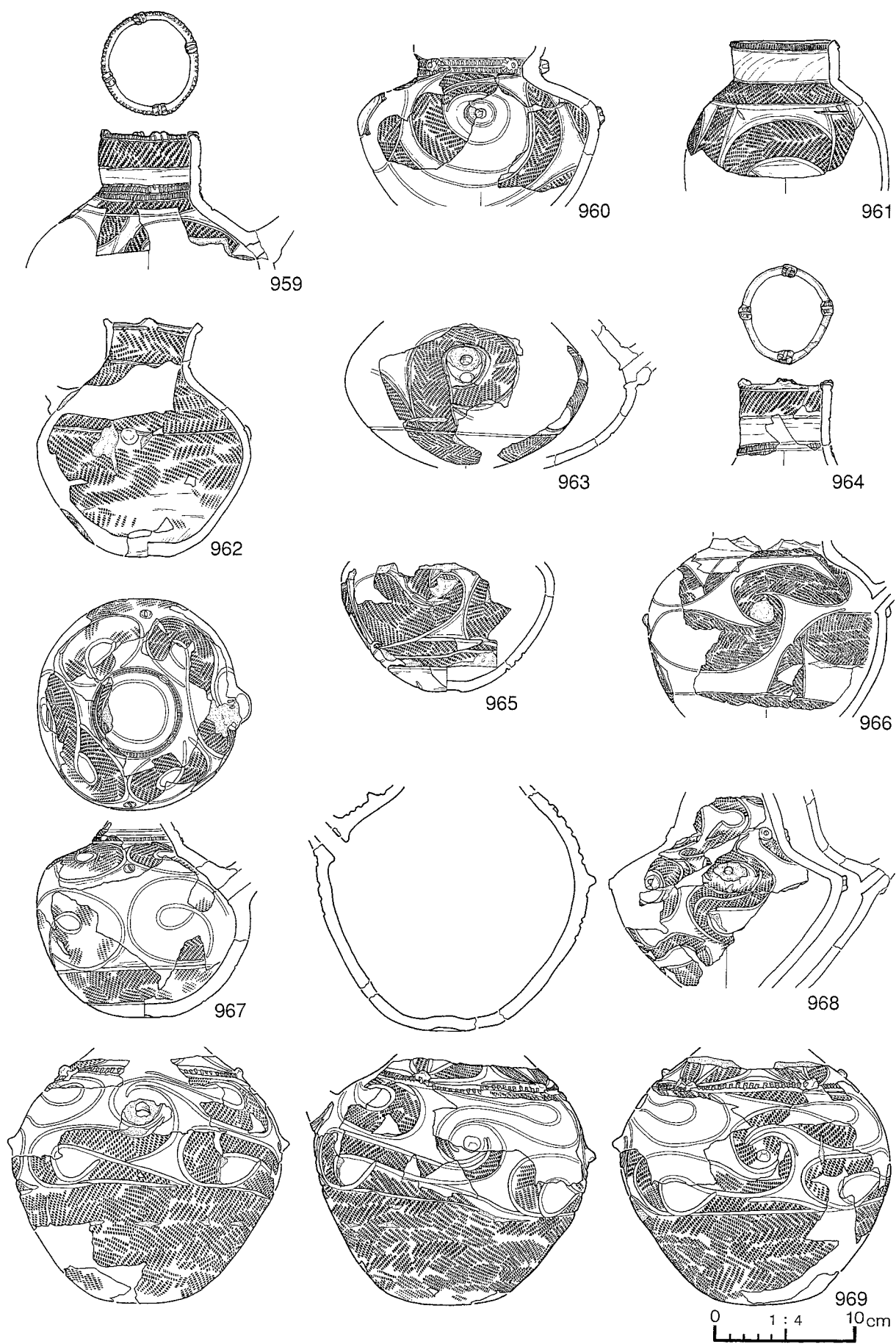


図129 盛土・包含層出土の土器 (70)

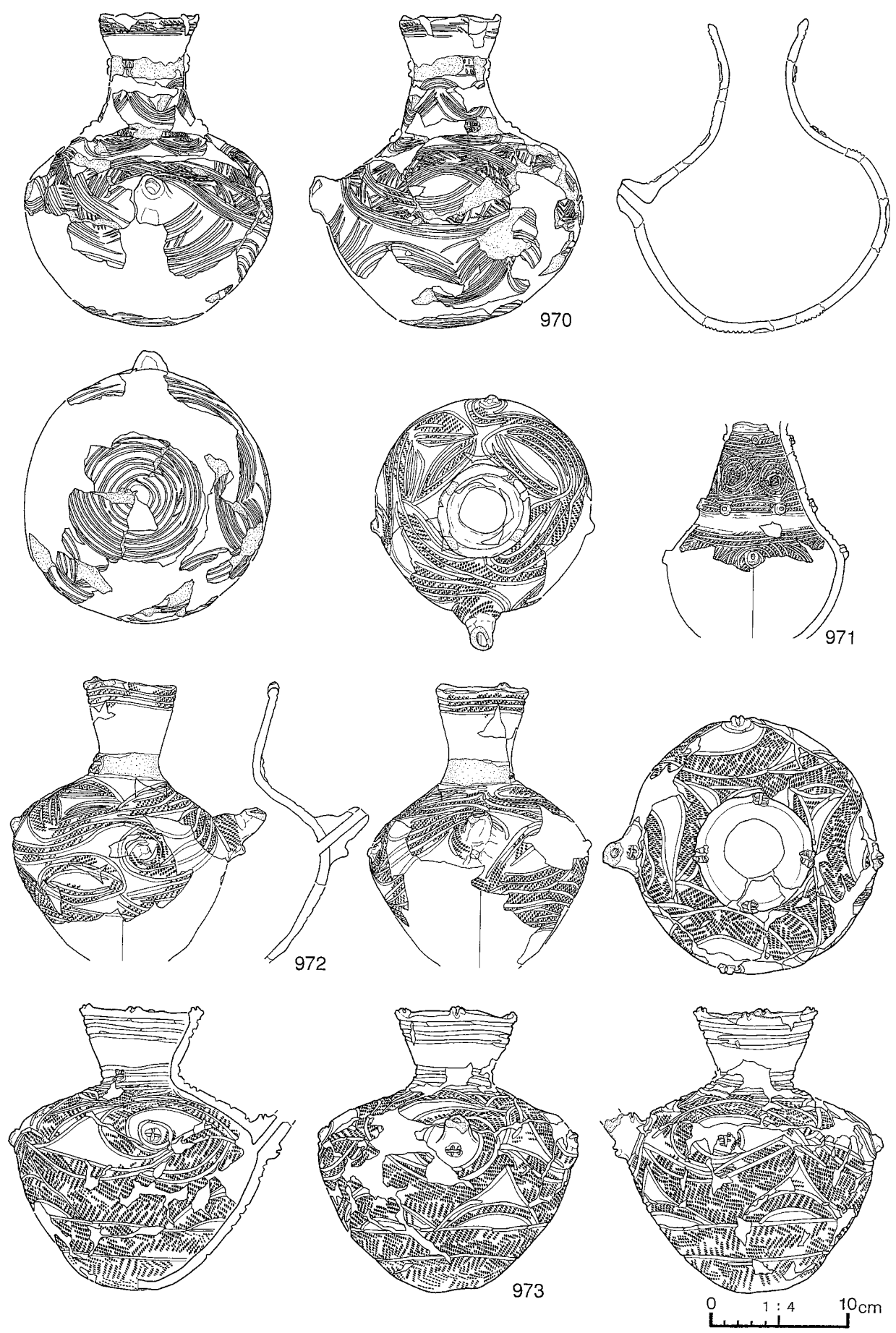


図130 盛土・包含層出土の土器 (71)

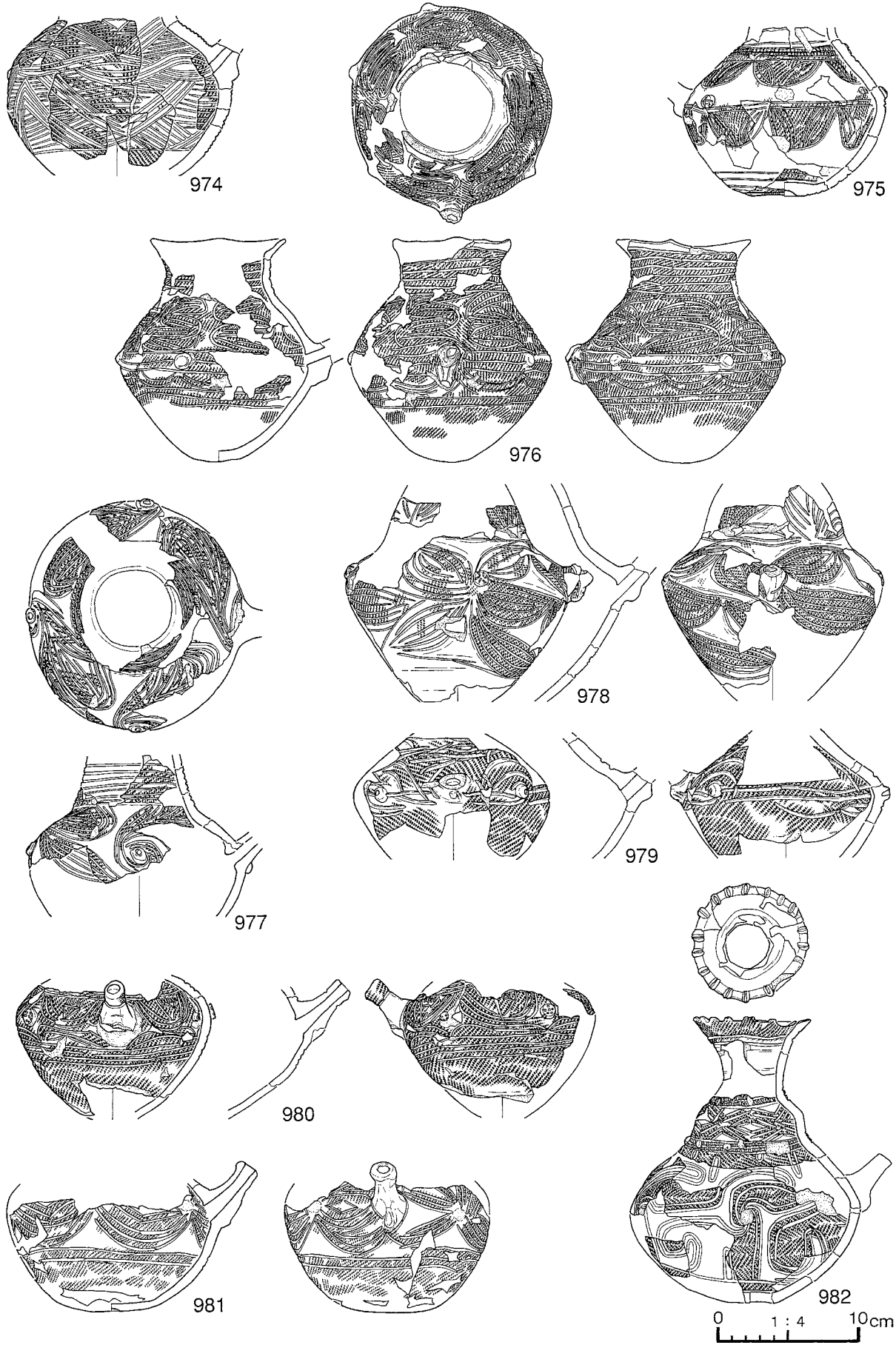


図131 盛土・包含層出土の土器 (72)

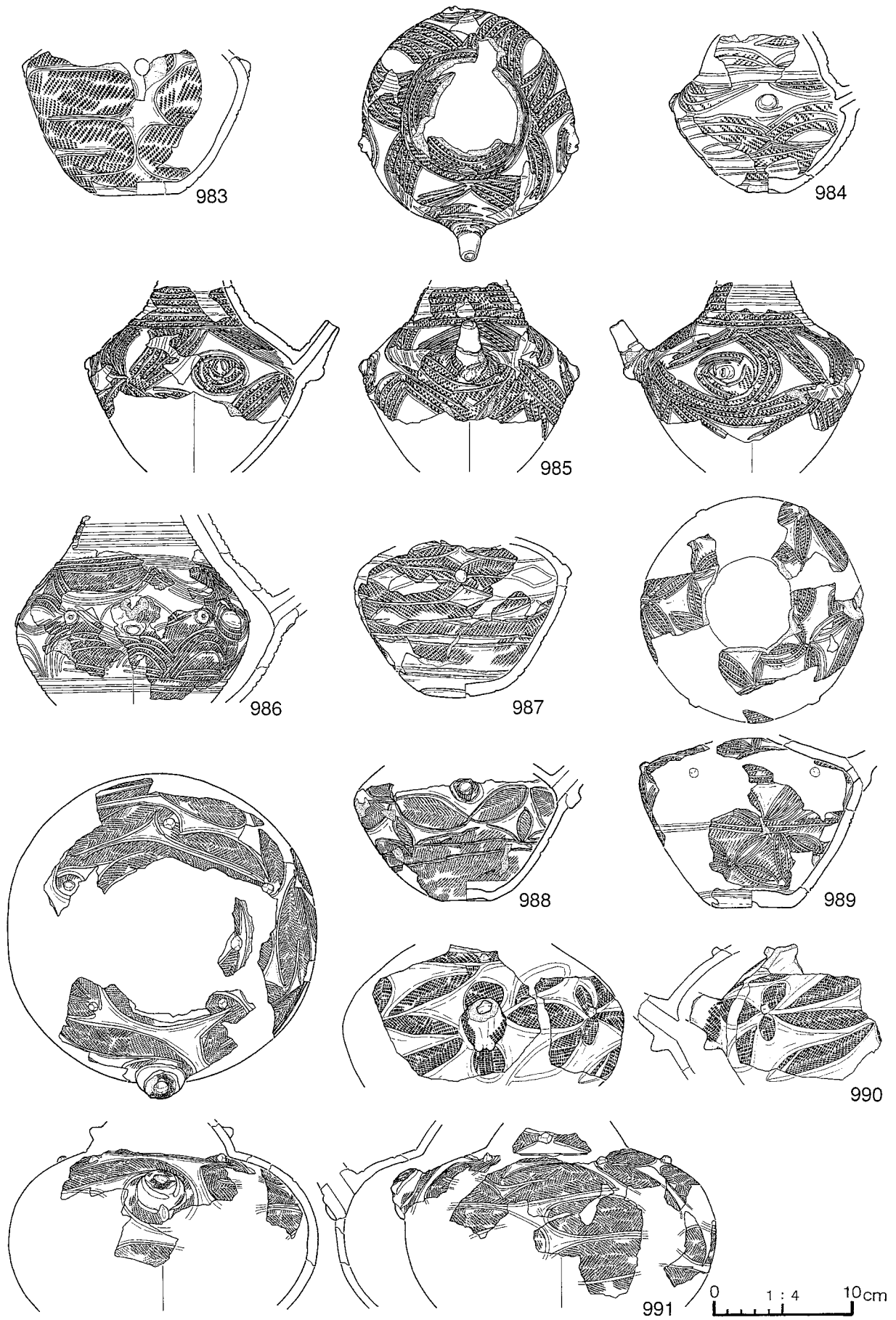


図132 盛土・包含層出土の土器 (73)

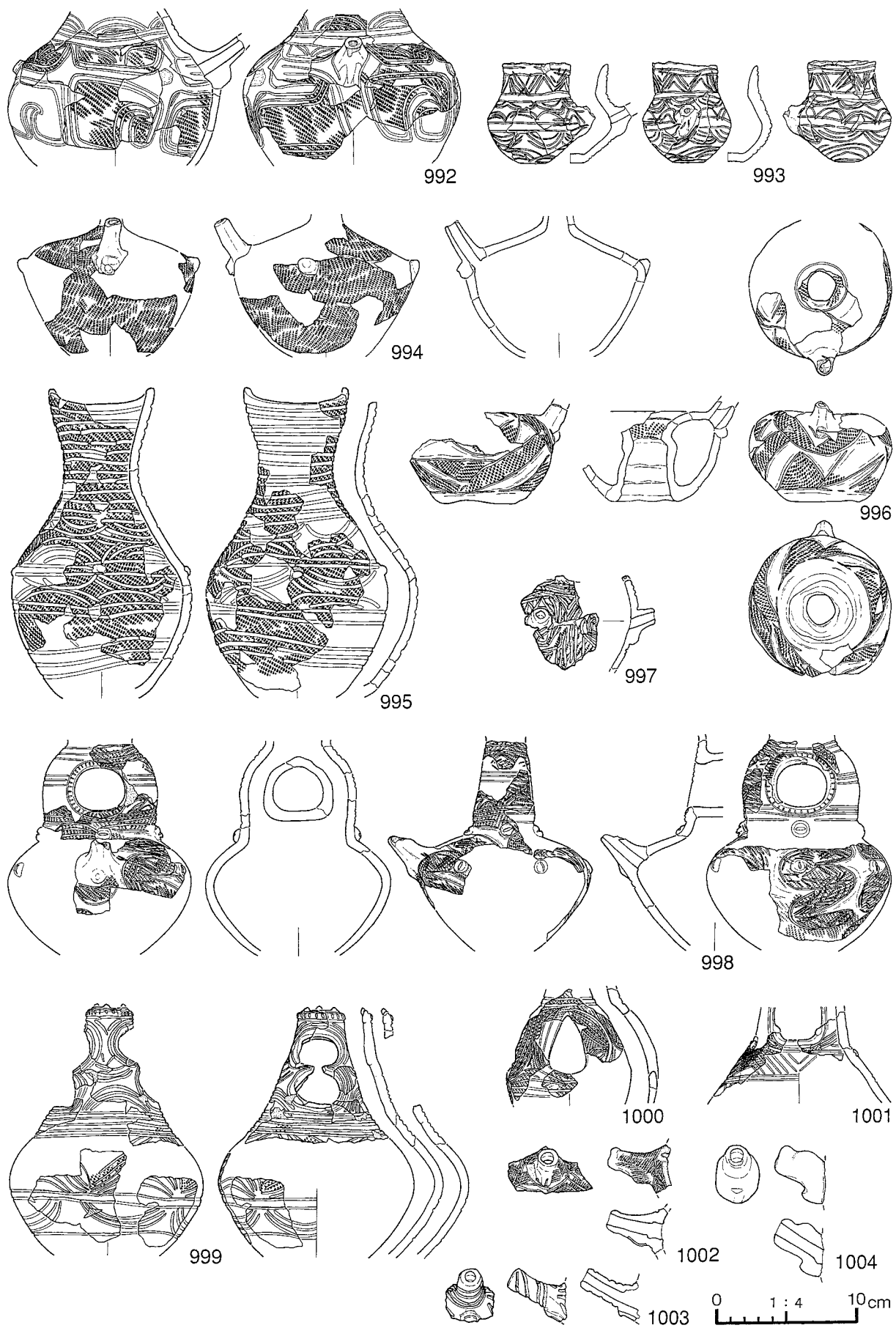


図133 盛土・包含層出土の土器 (74)

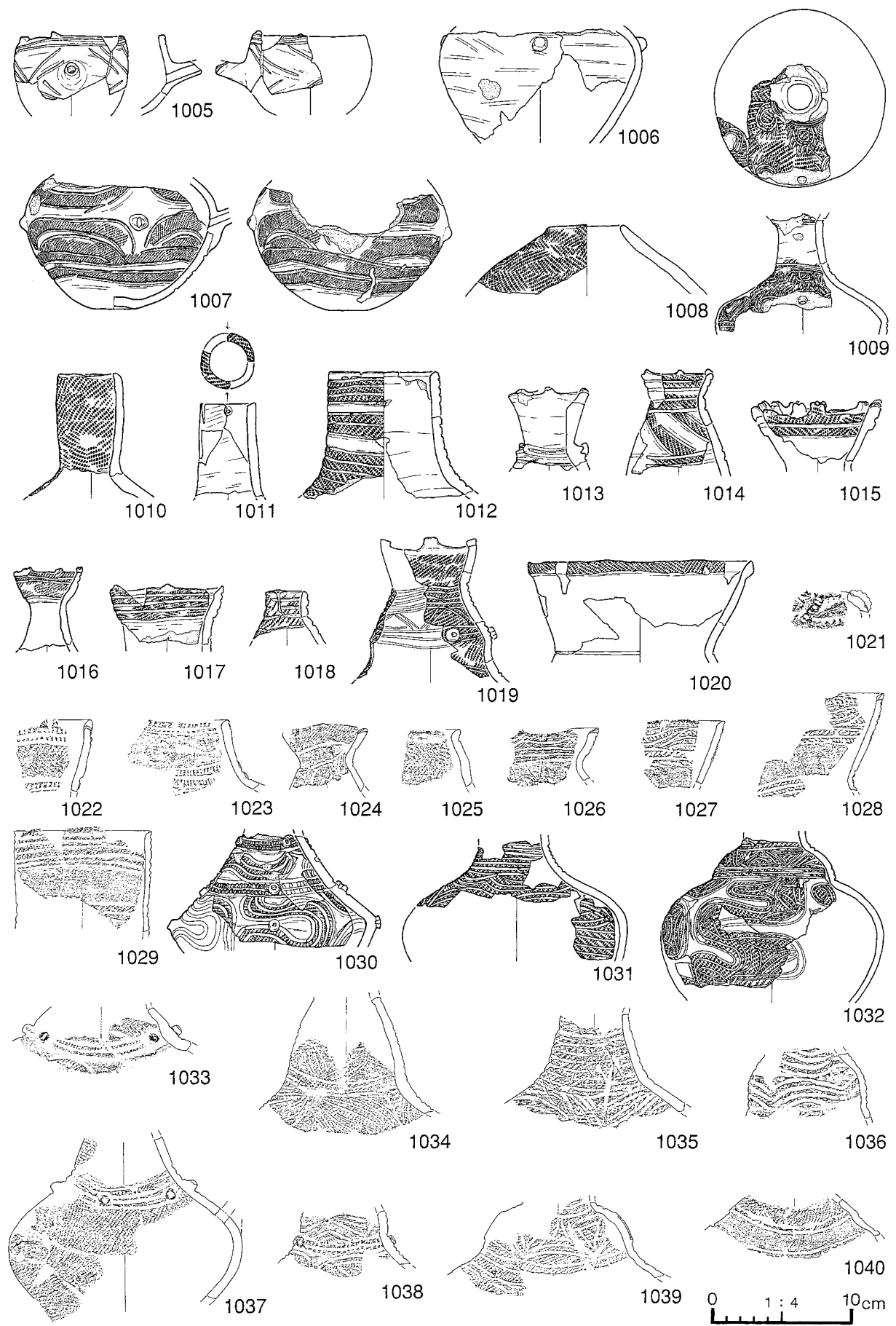


図134 盛土・包含層出土の土器 (75)

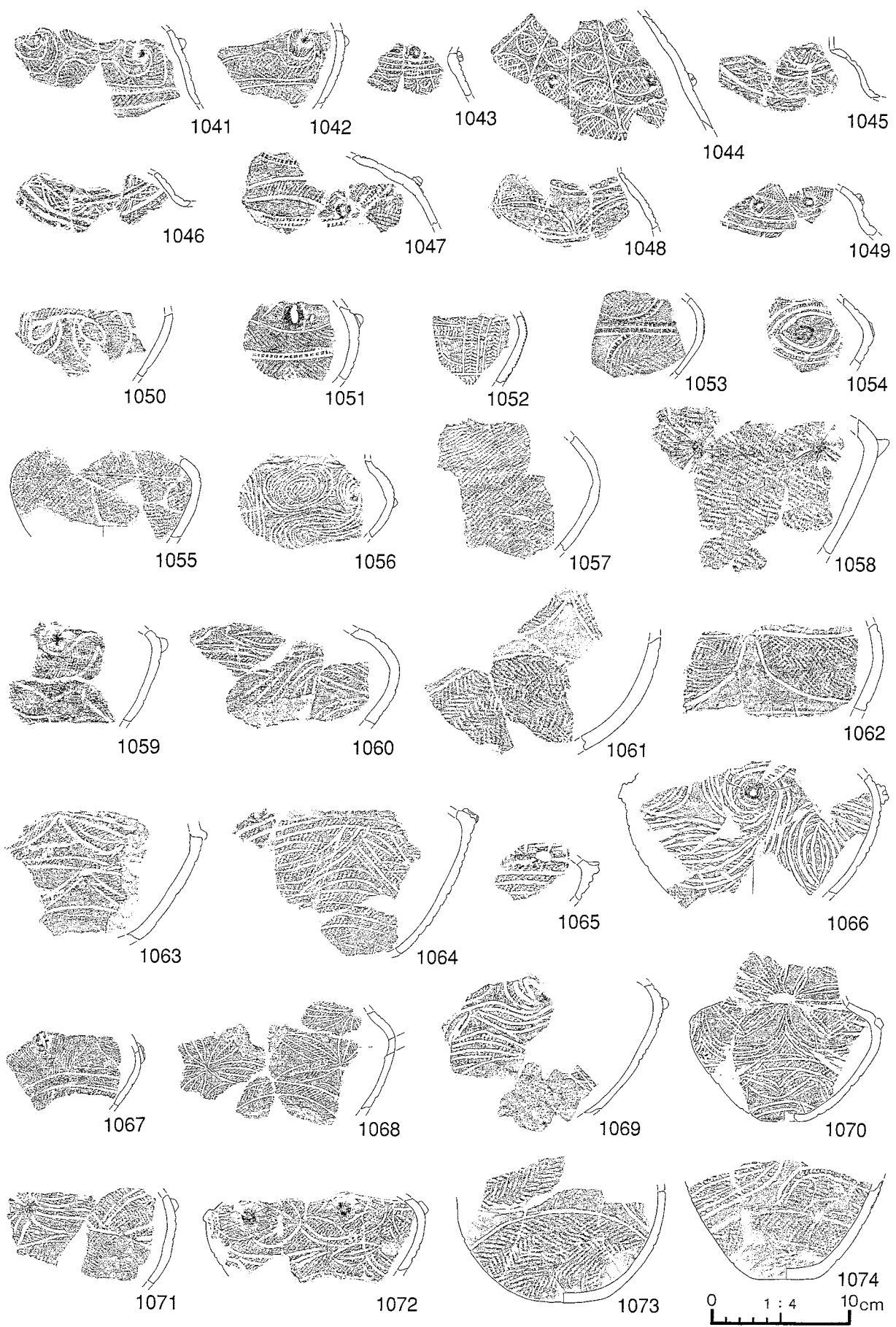


図135 盛土・包含層出土の土器 (76)

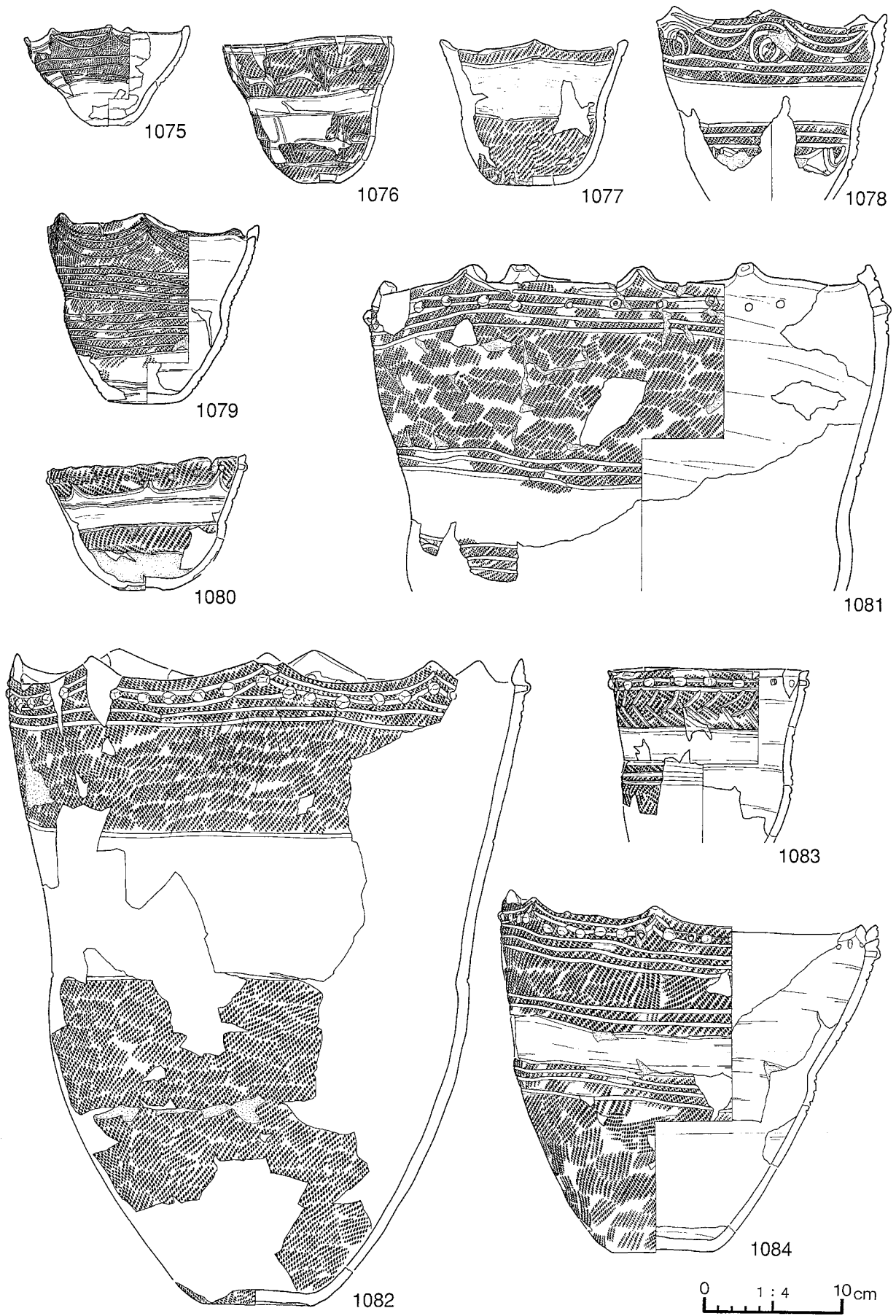


図136 盛土・包含層出土の土器 (77)

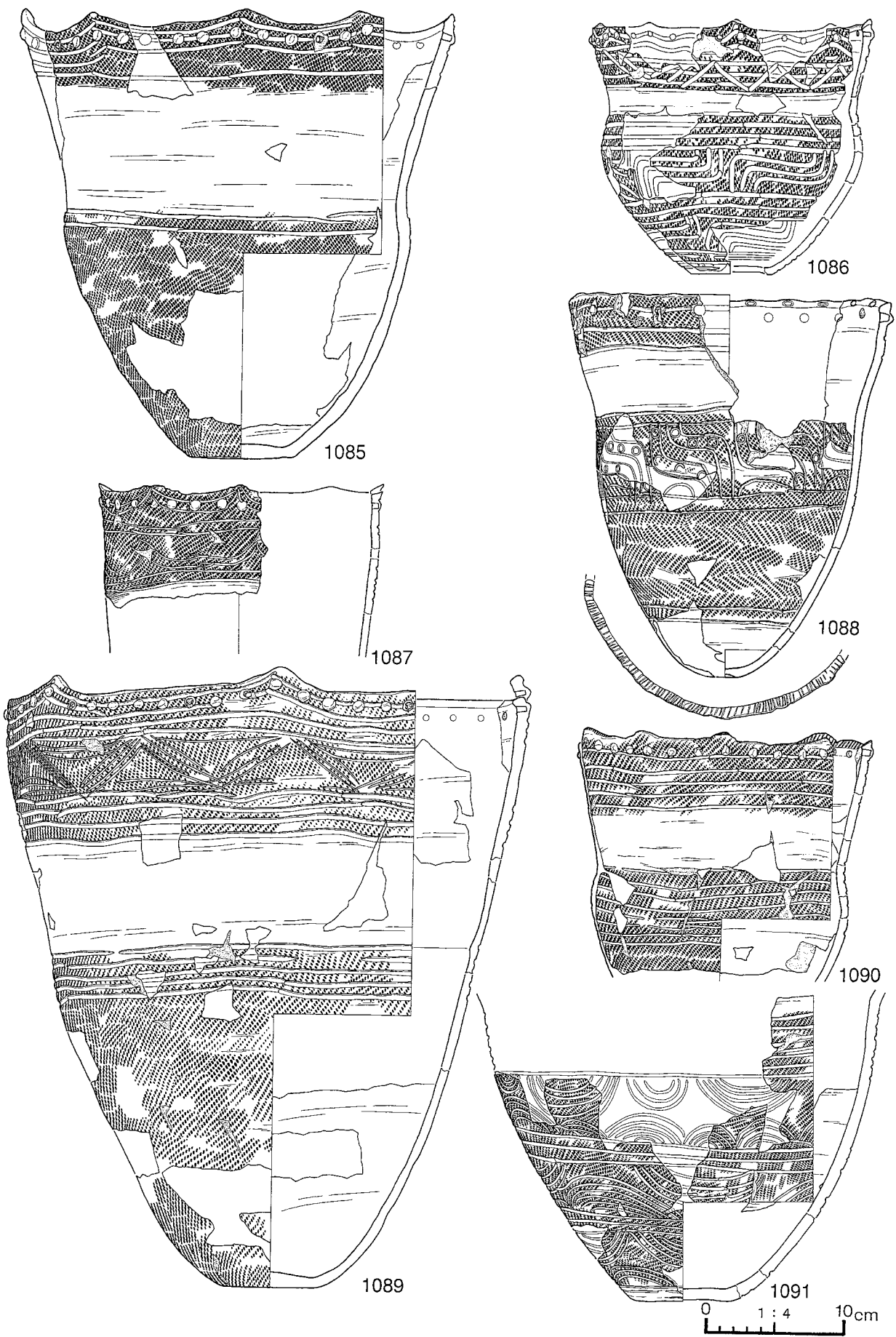


図137 盛土・包含層出土の土器 (78)

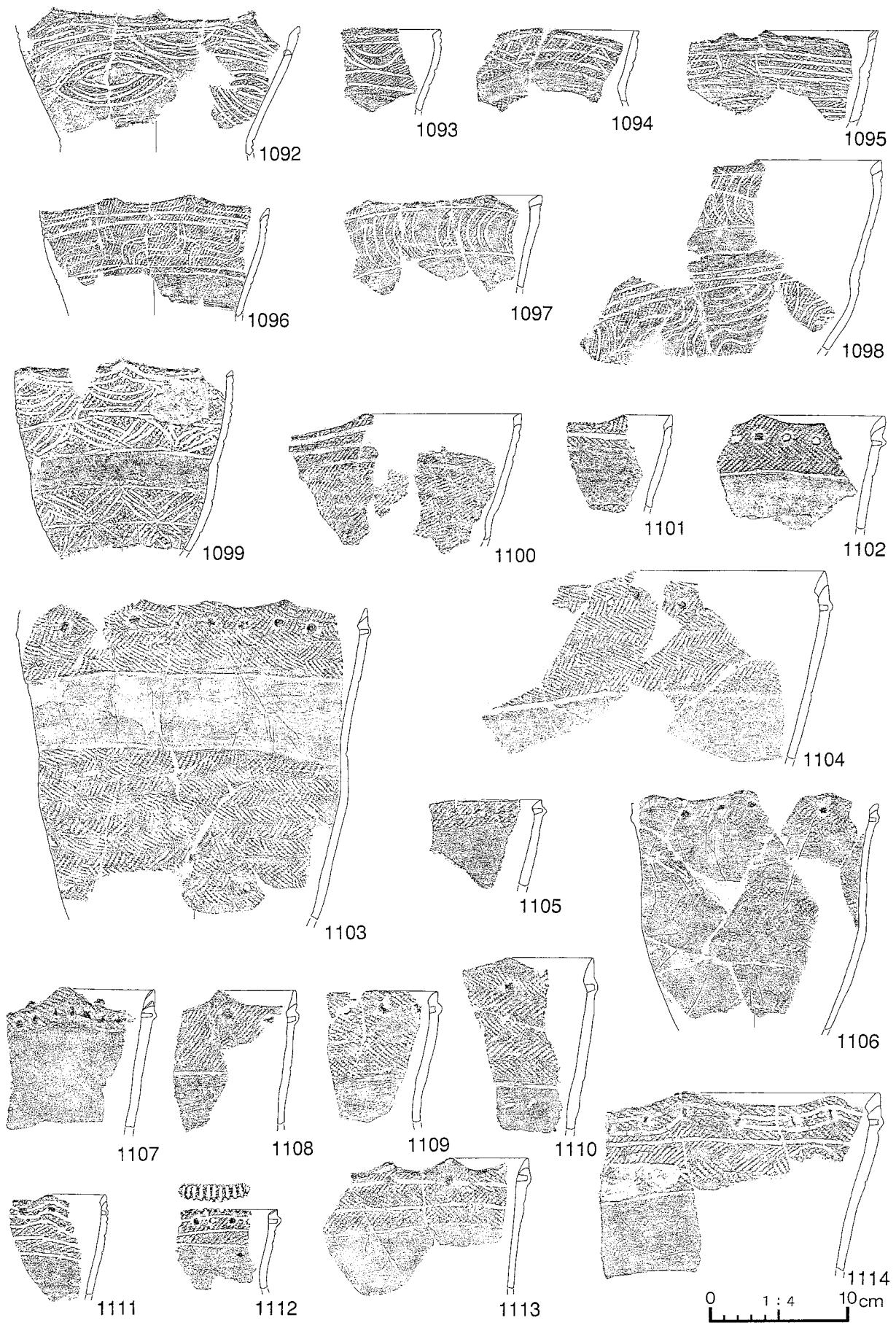


図138 盛土・包含層出土の土器 (79)

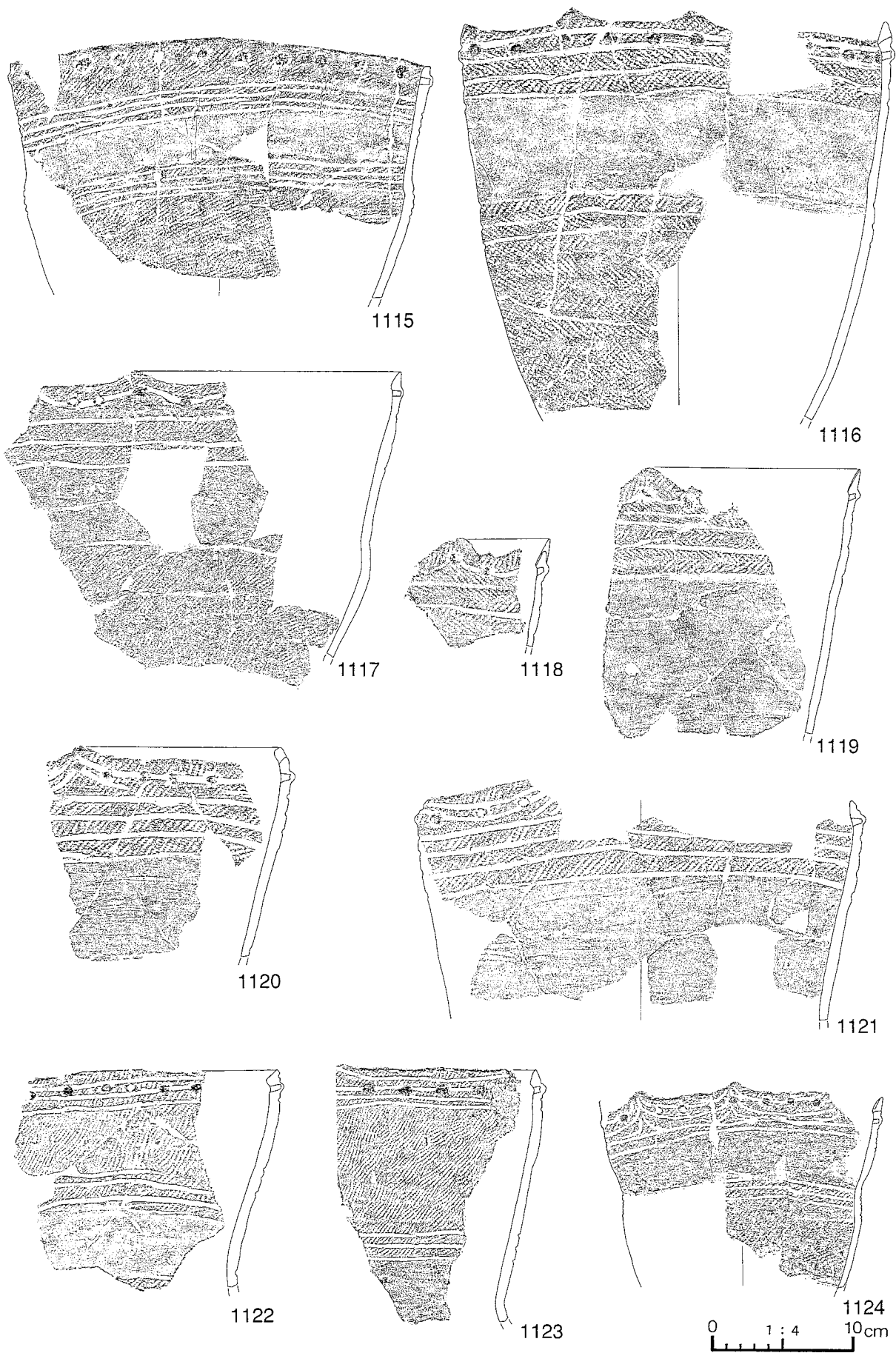


図139 盛土・包含層出土の土器 (80)

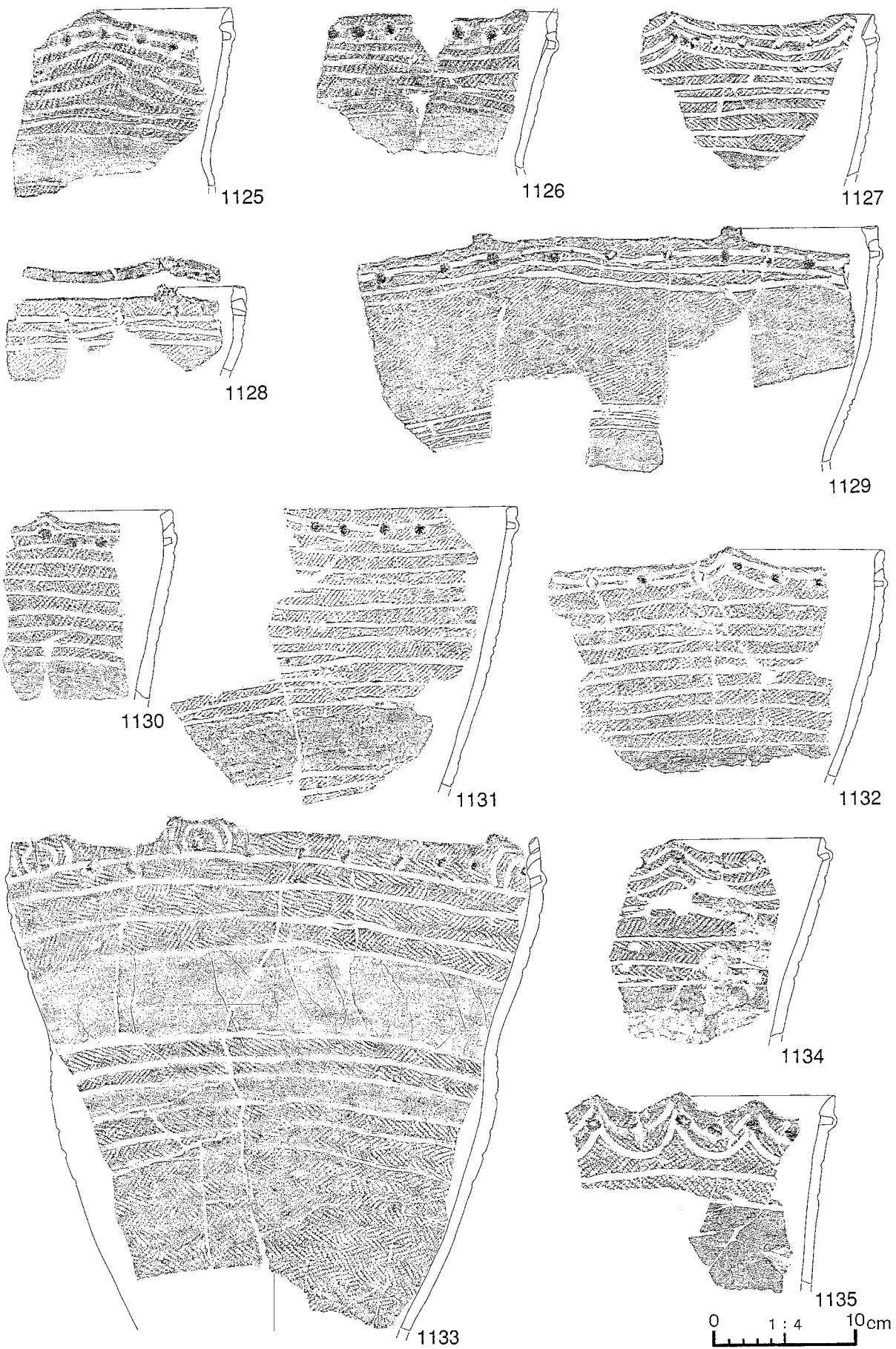


図140 盛土・包含層出土の土器 (81)

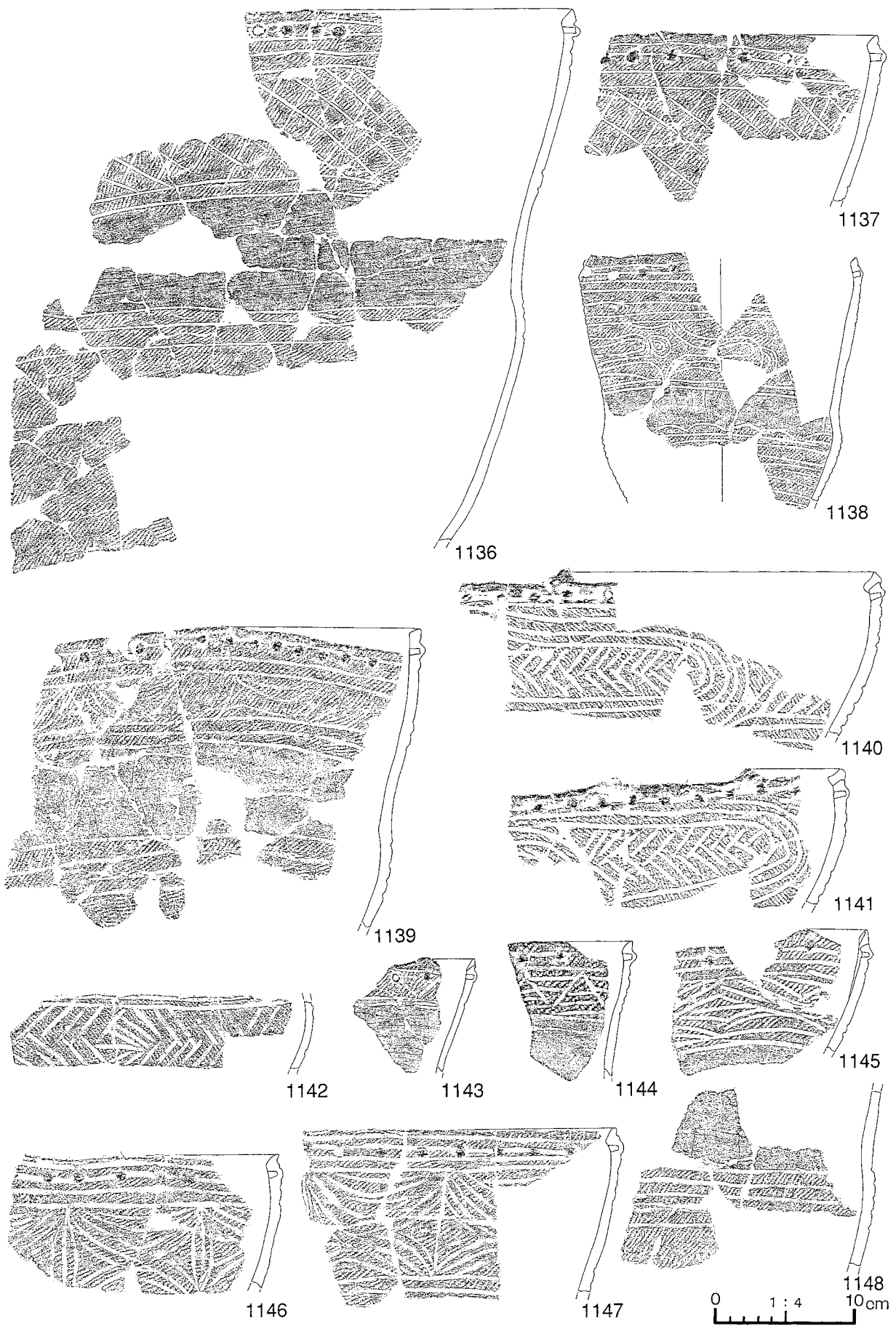


図141 盛土・包含層出土の土器 (82)

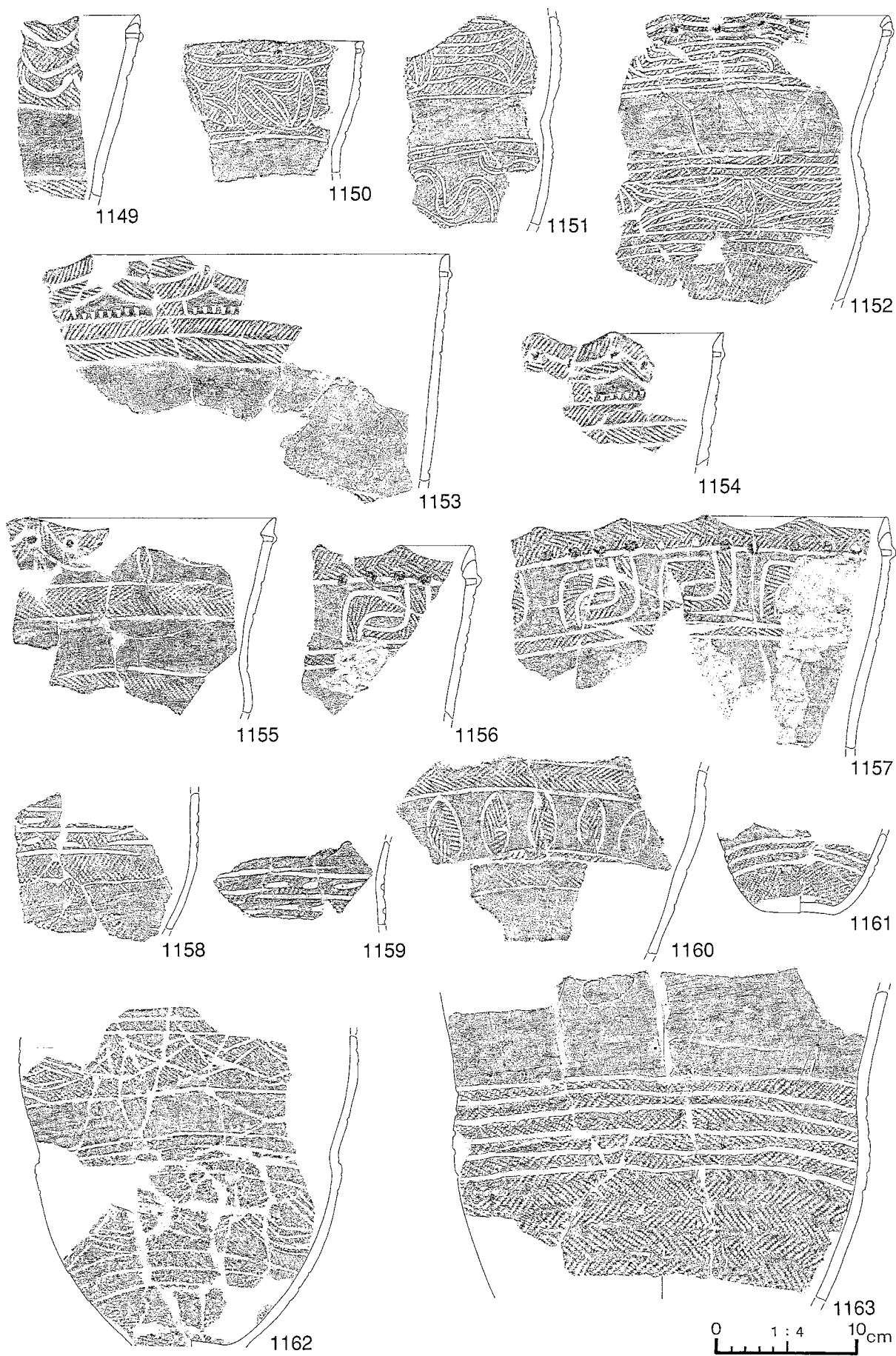


図142 盛土・包含層出土の土器 (83)

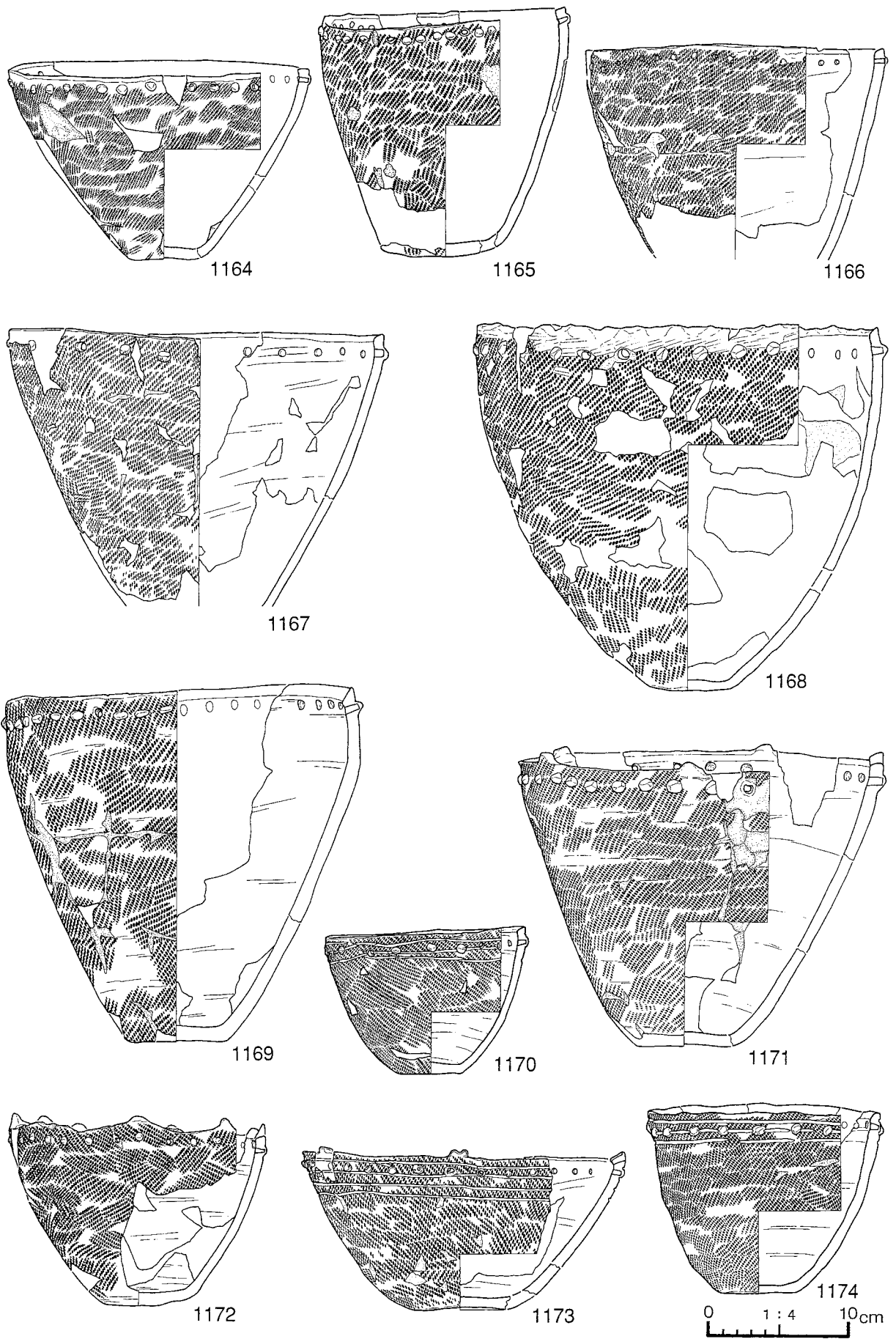


図143 盛土・包含層出土の土器 (84)

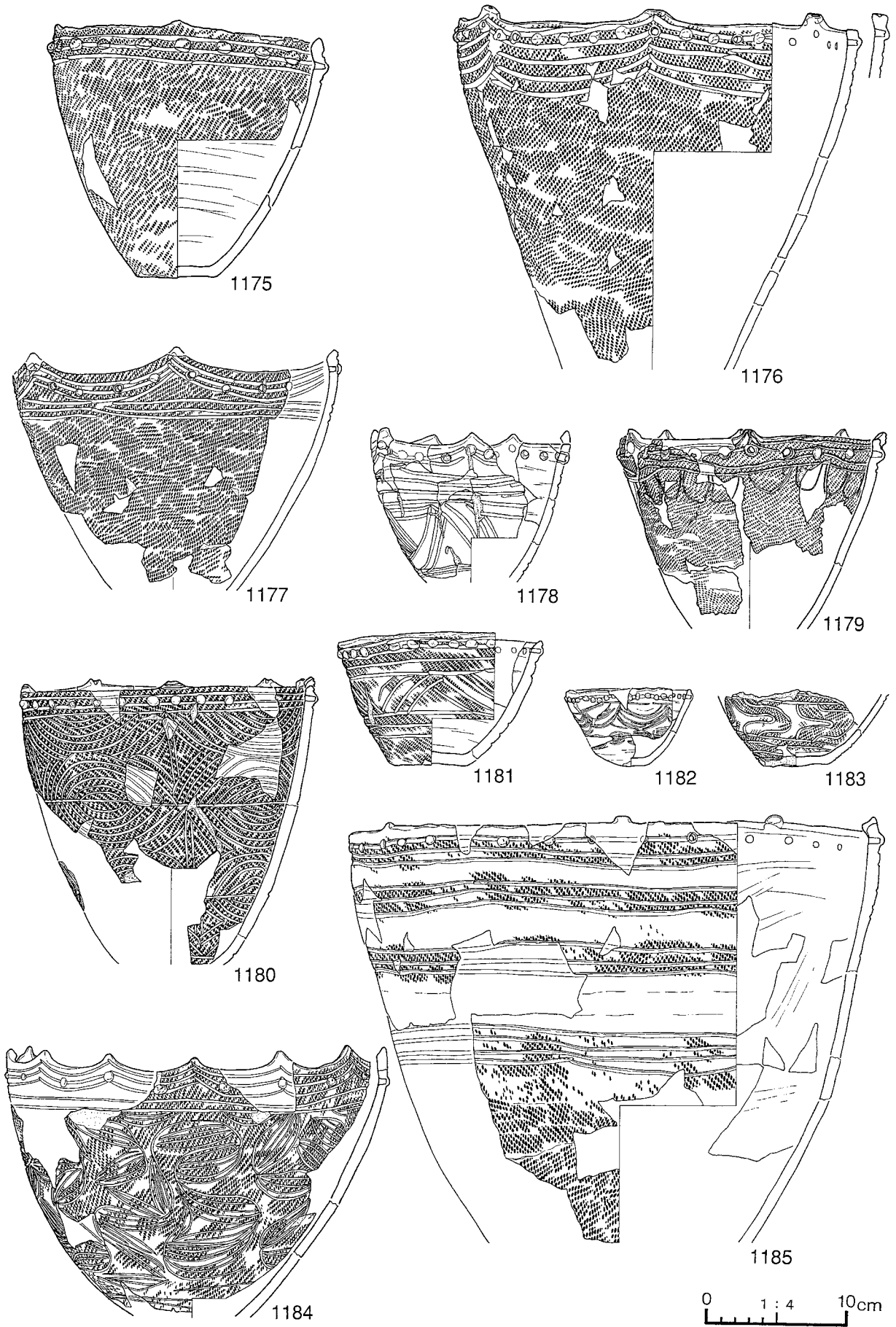


図144 盛土・包含層出土の土器 (85)

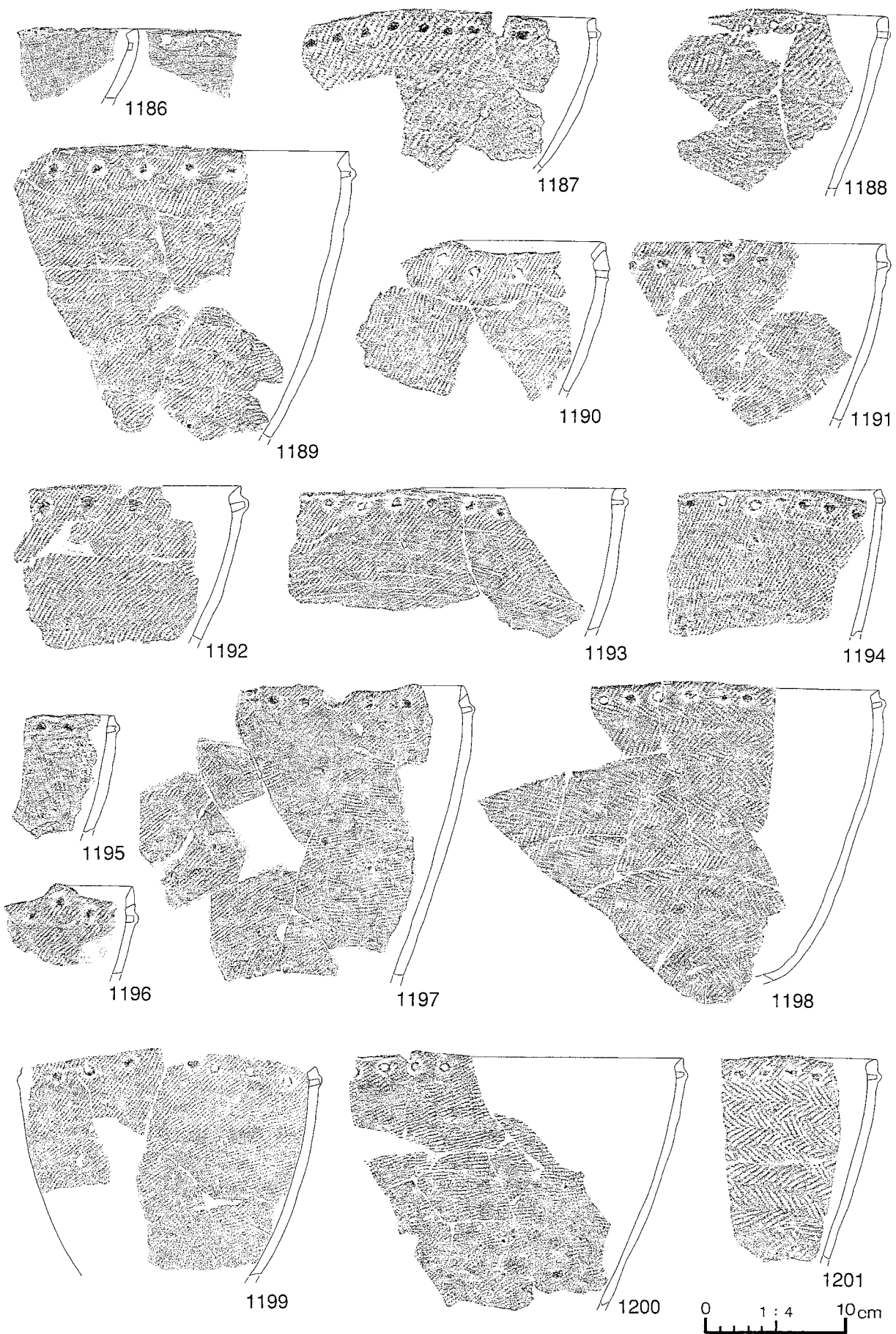


図145 盛土・包含層出土の土器 (86)

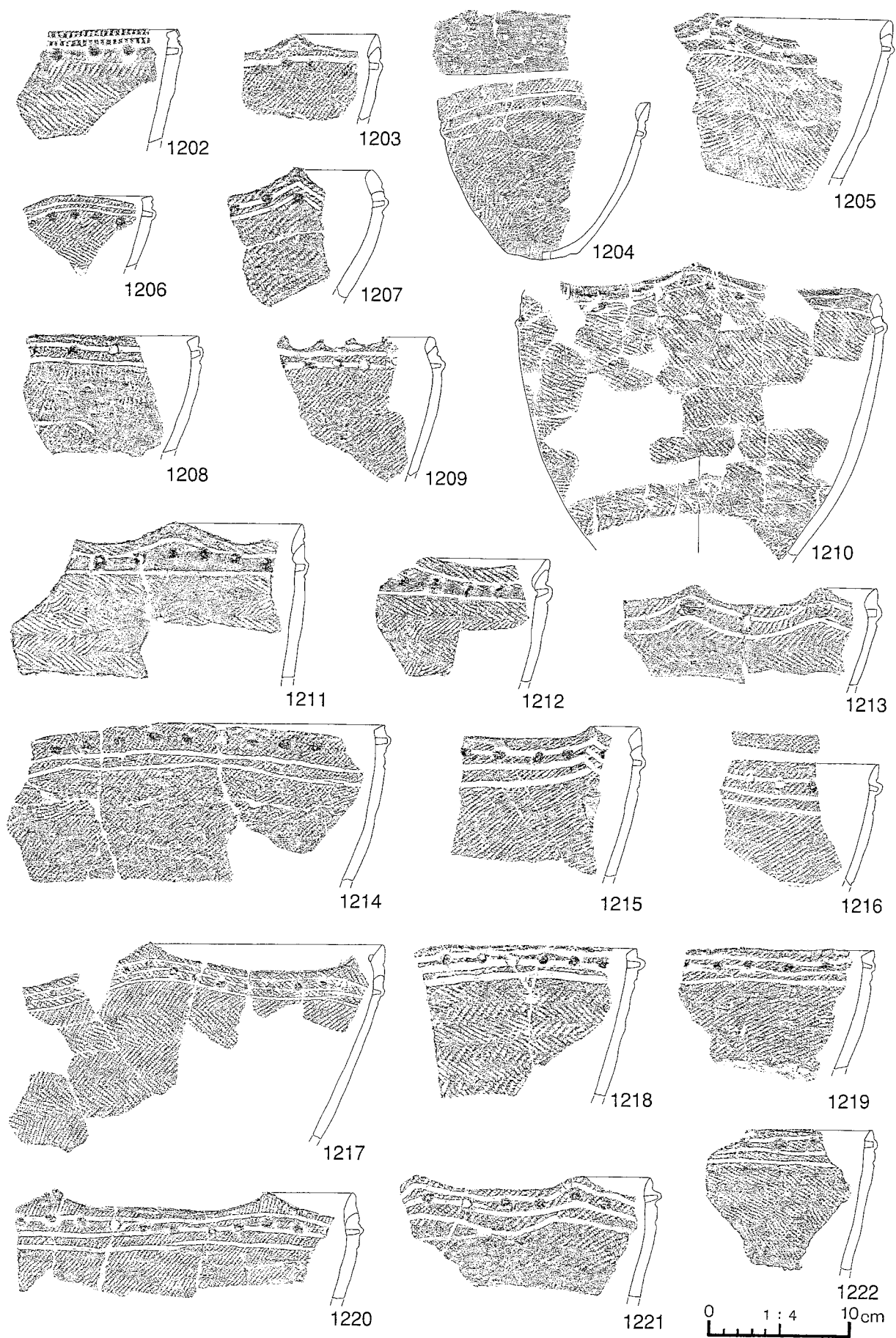


図146 盛土・包含層出土の土器 (87)

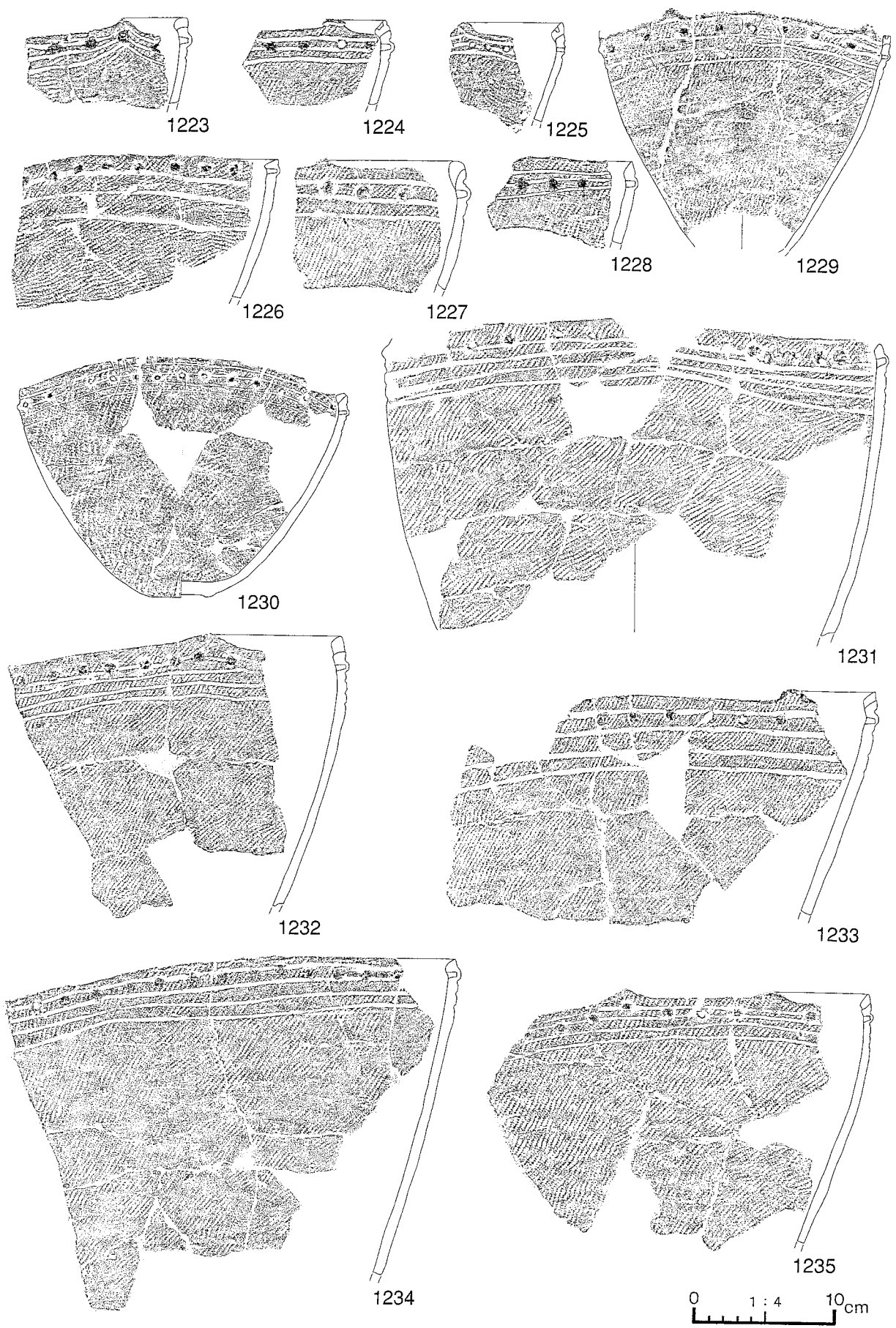


図147 盛土・包含層出土の土器 (88)

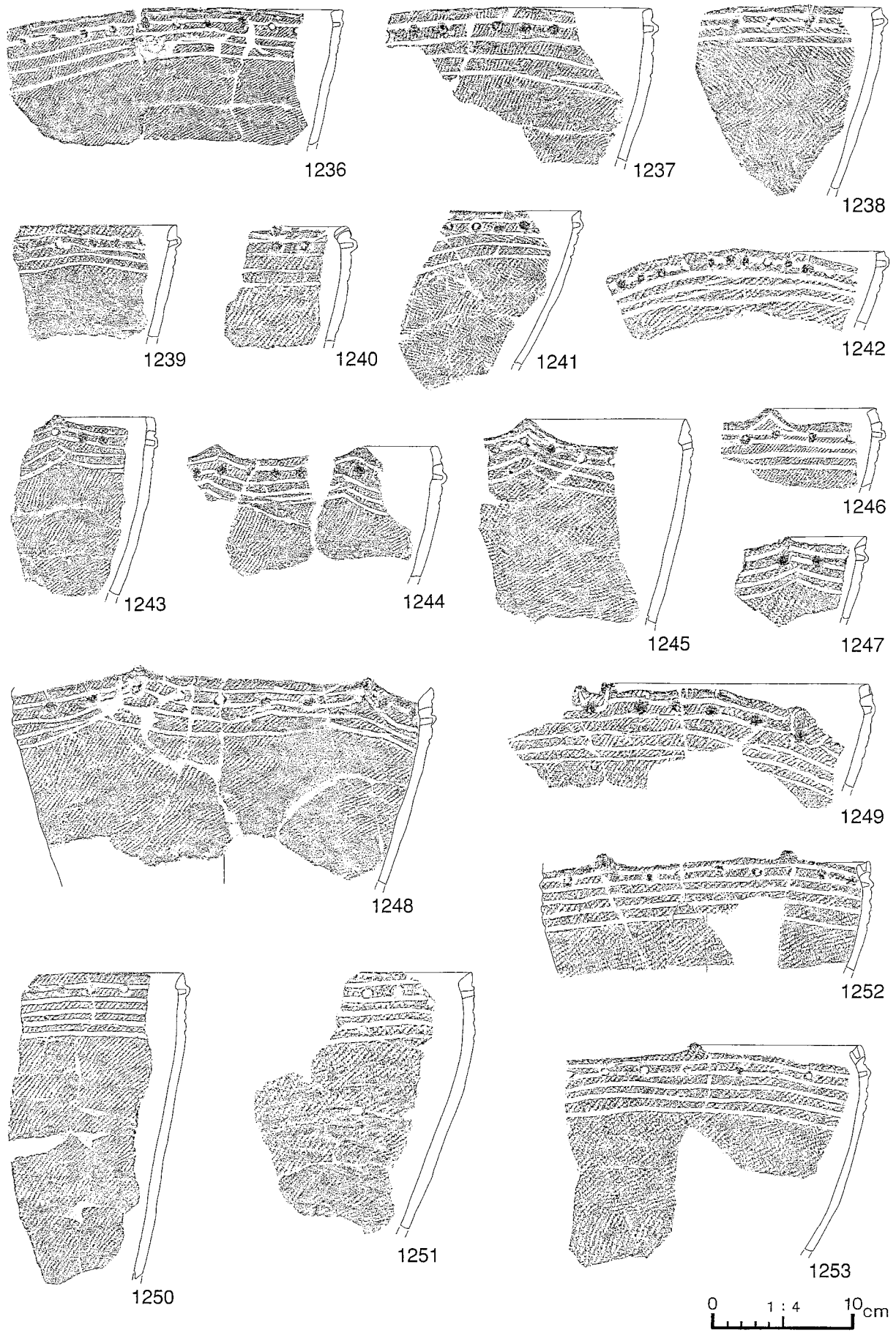


図148 盛土・包含層出土の土器 (89)

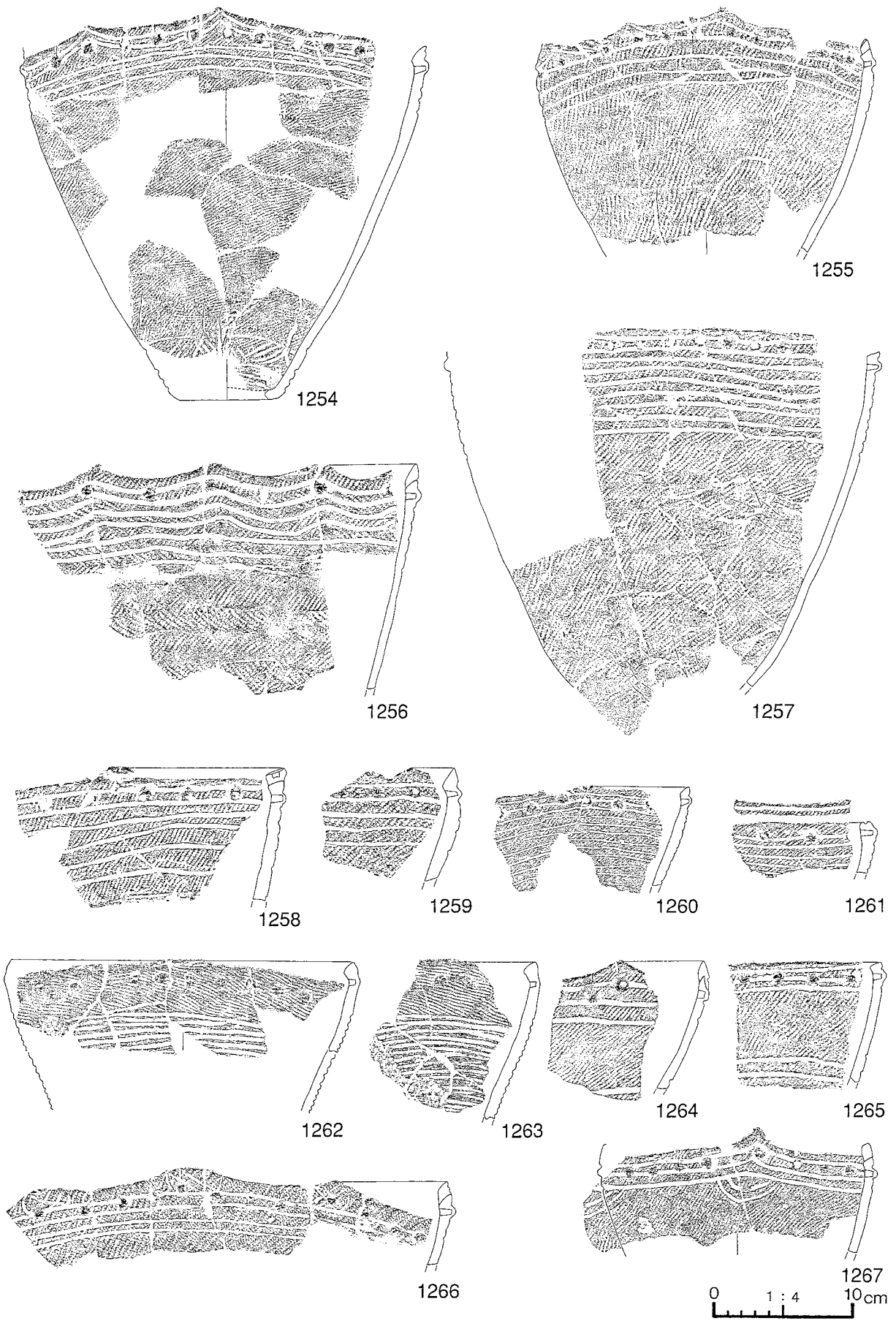


図149 盛土・包含層出土の土器 (90)

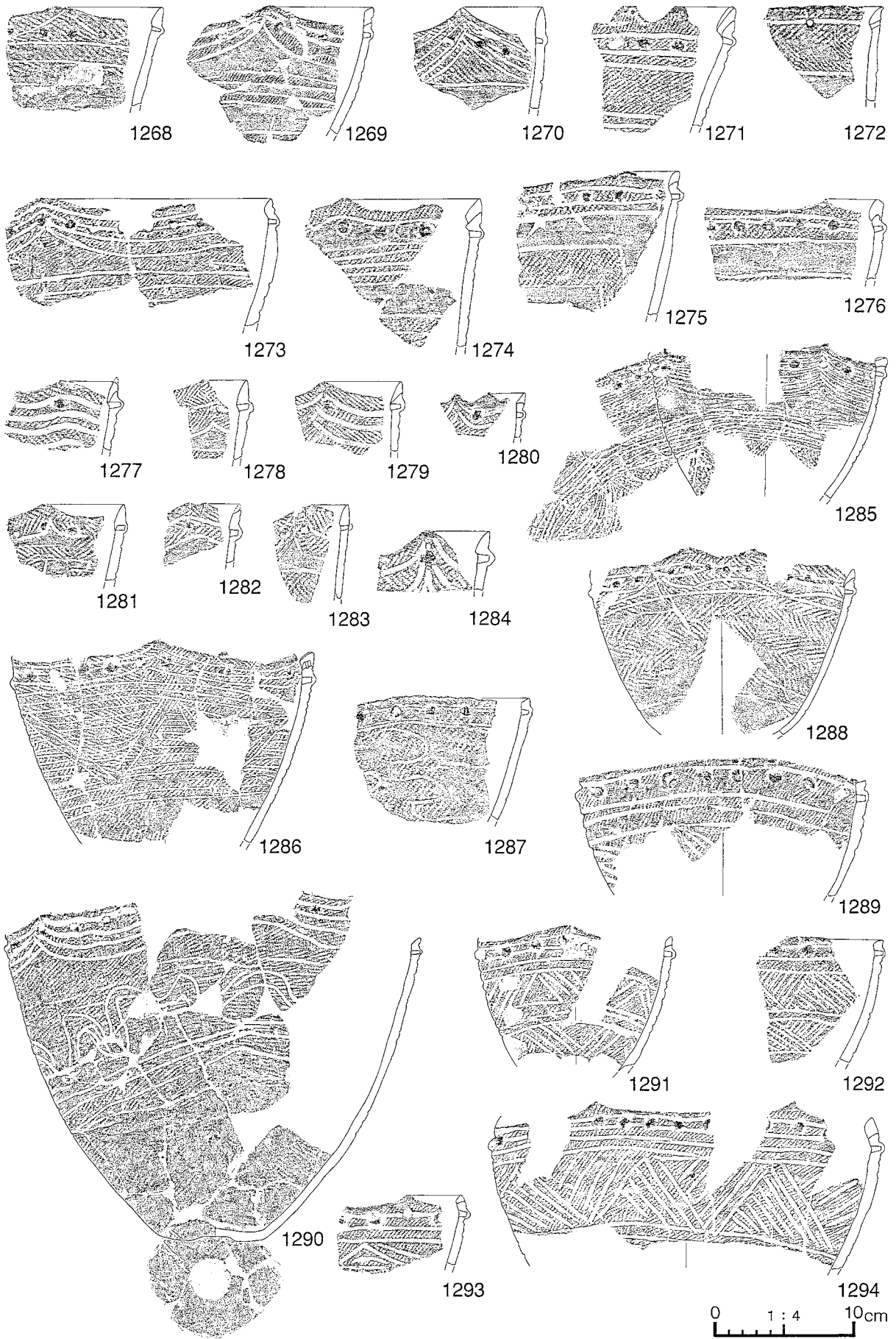


図150 盛土・包含層出土の土器 (91)

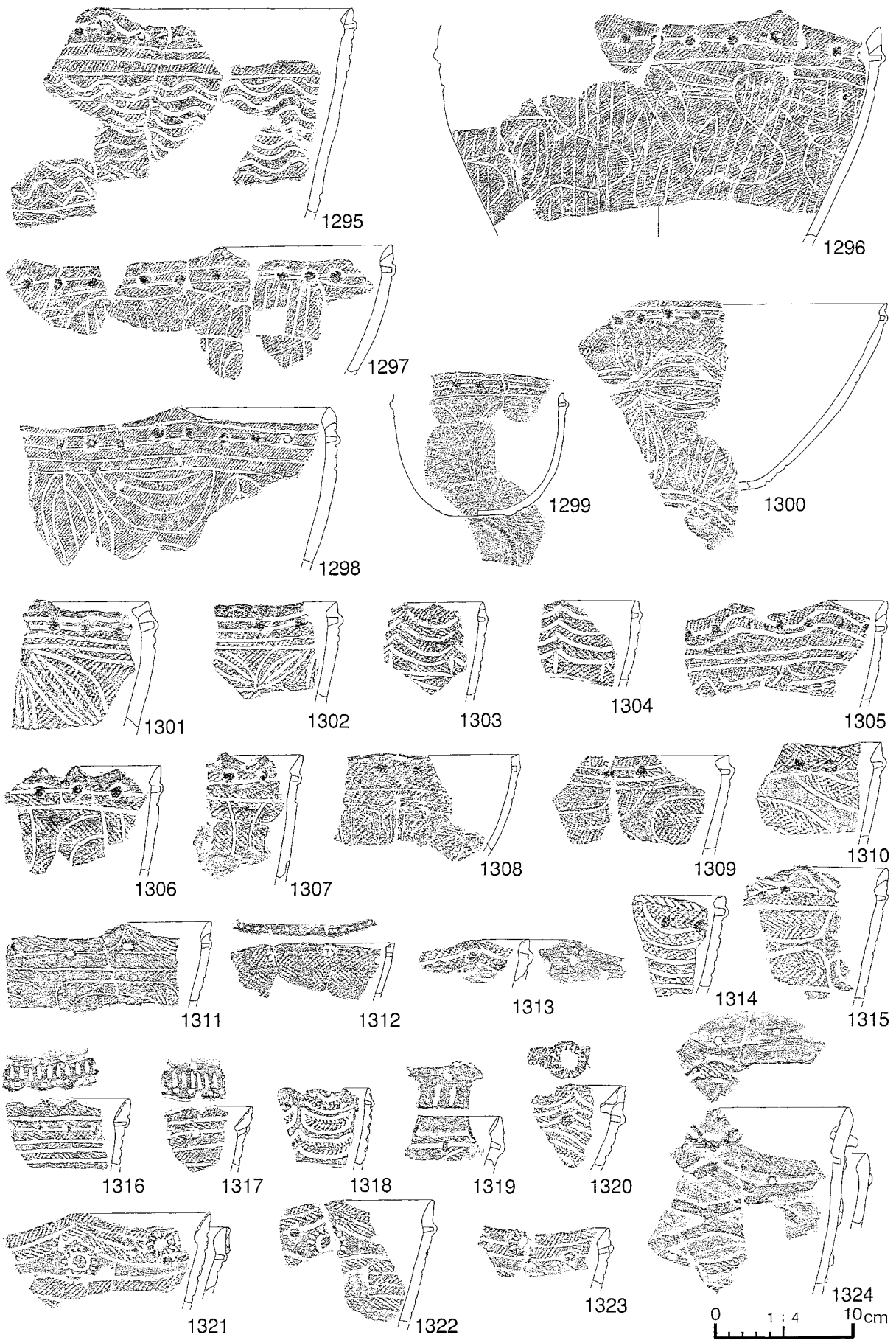


図151 盛土・包含層出土の土器 (92)

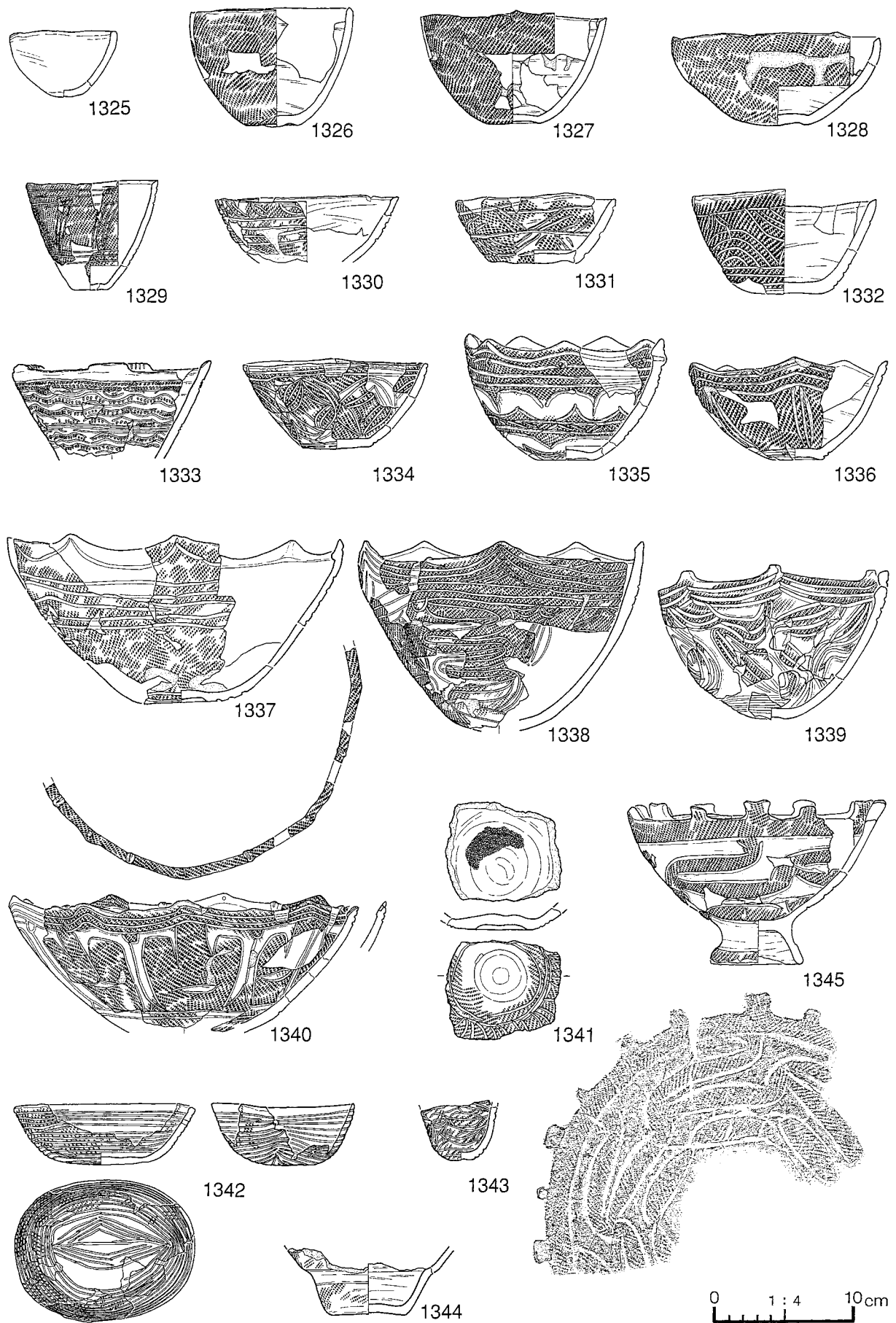


図152 盛土・包含層出土の土器 (93)

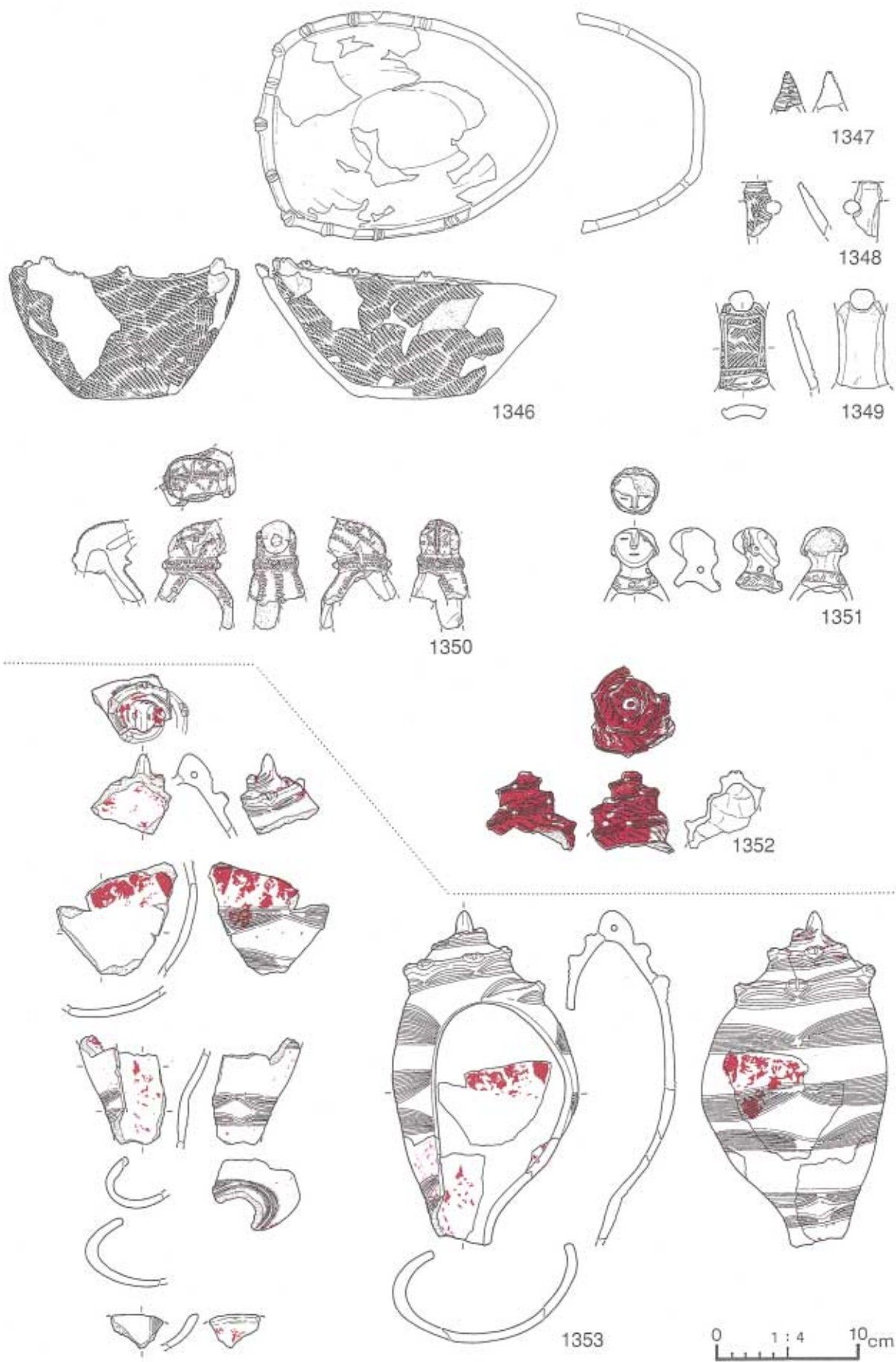


図153 盛土・包含層出土の土器 (94)



図154 盛土・包含層出土の土器 (95)

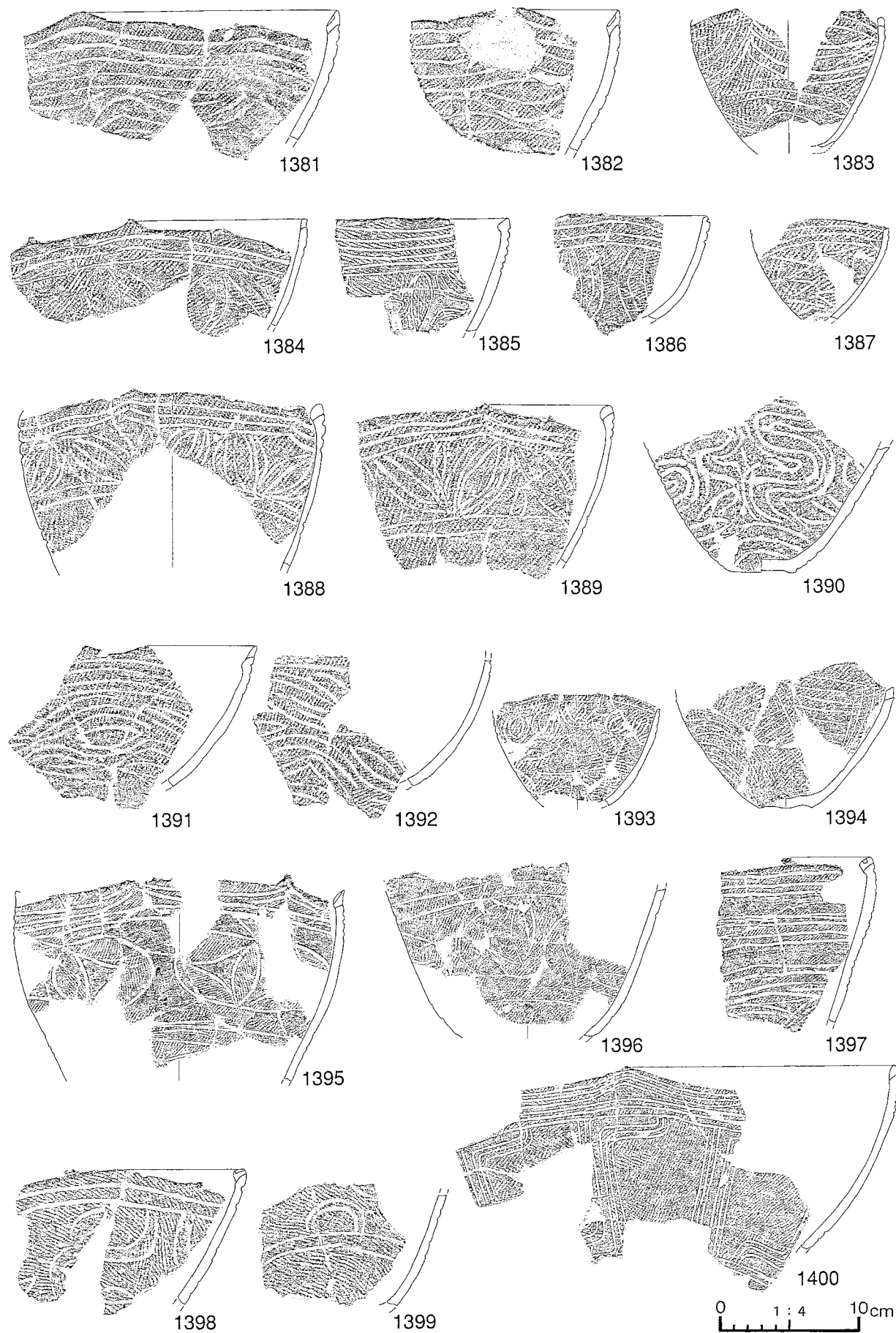


図155 盛土・包含層出土の土器 (96)

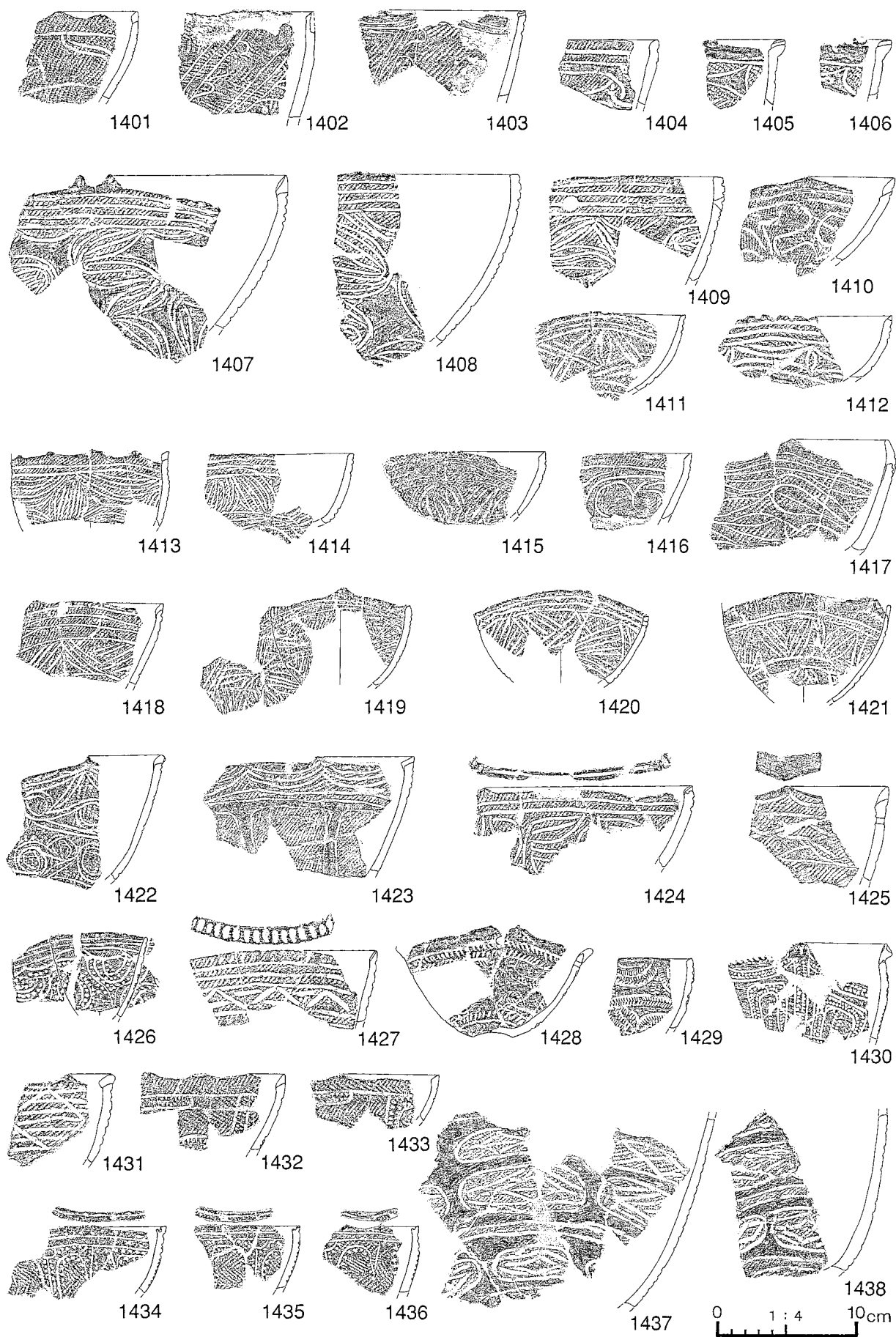


図156 盛土・包含層出土の土器 (97)

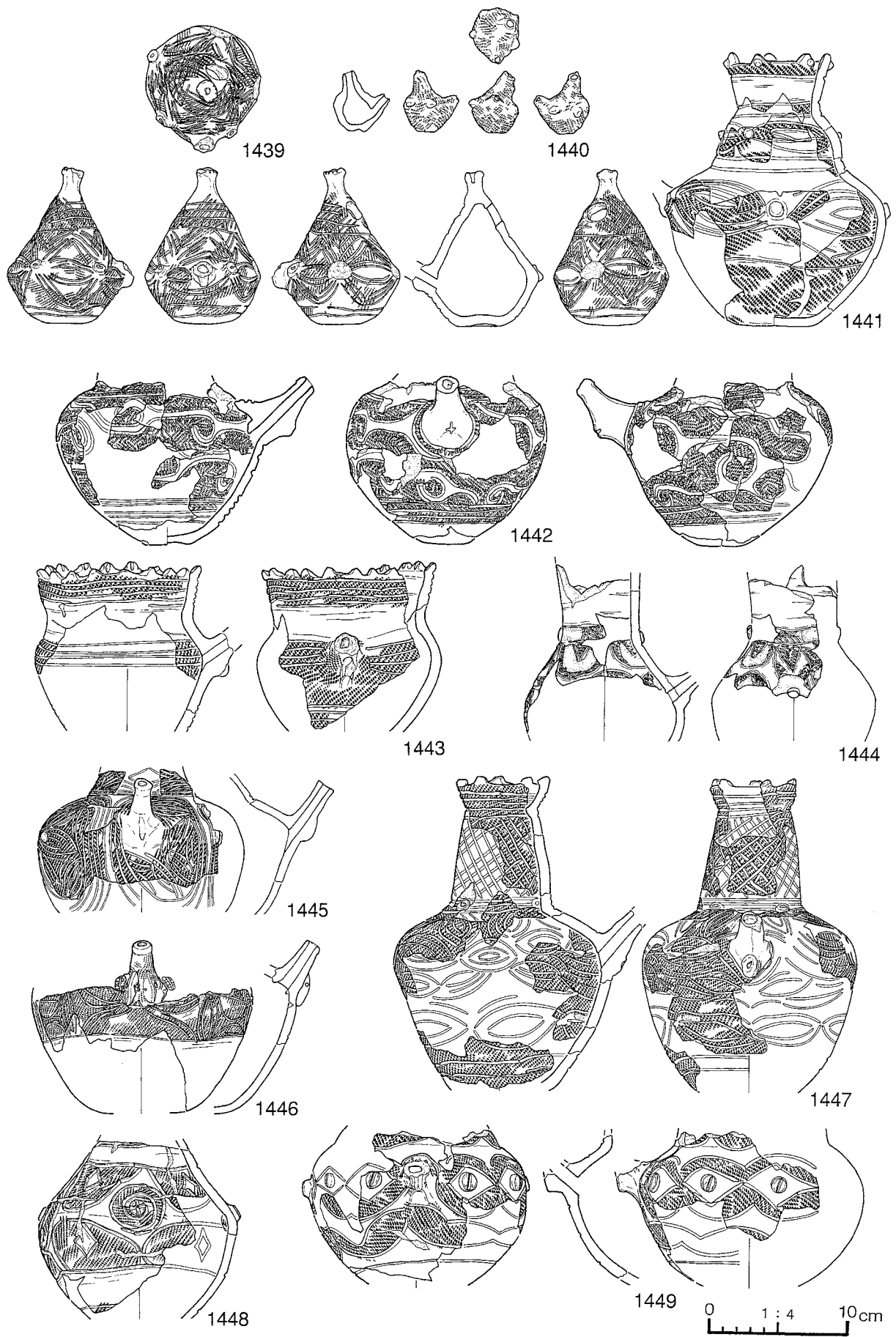


図157 盛土・包含層出土の土器 (98)

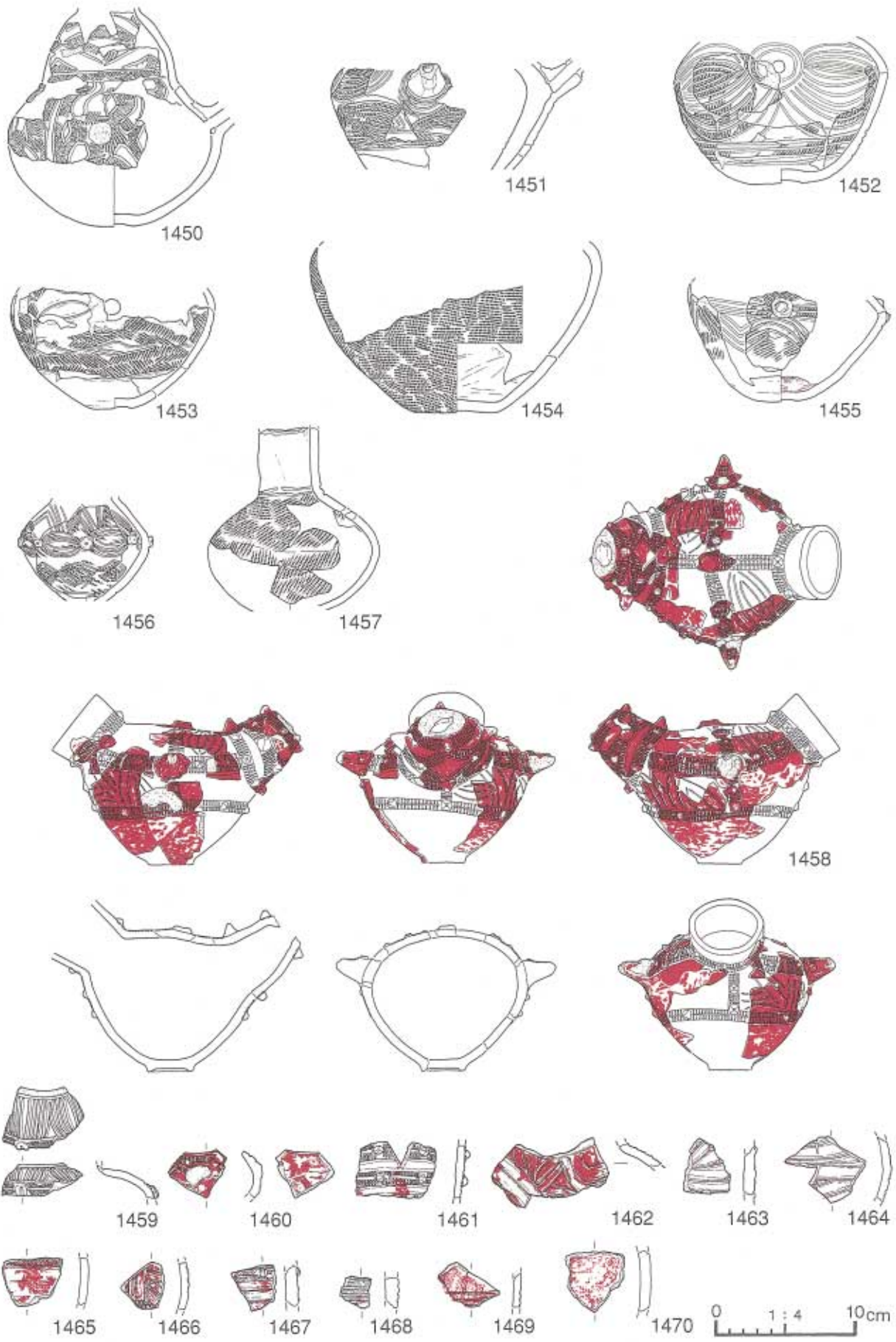


図158 盛土・包含層出土の土器 (99)

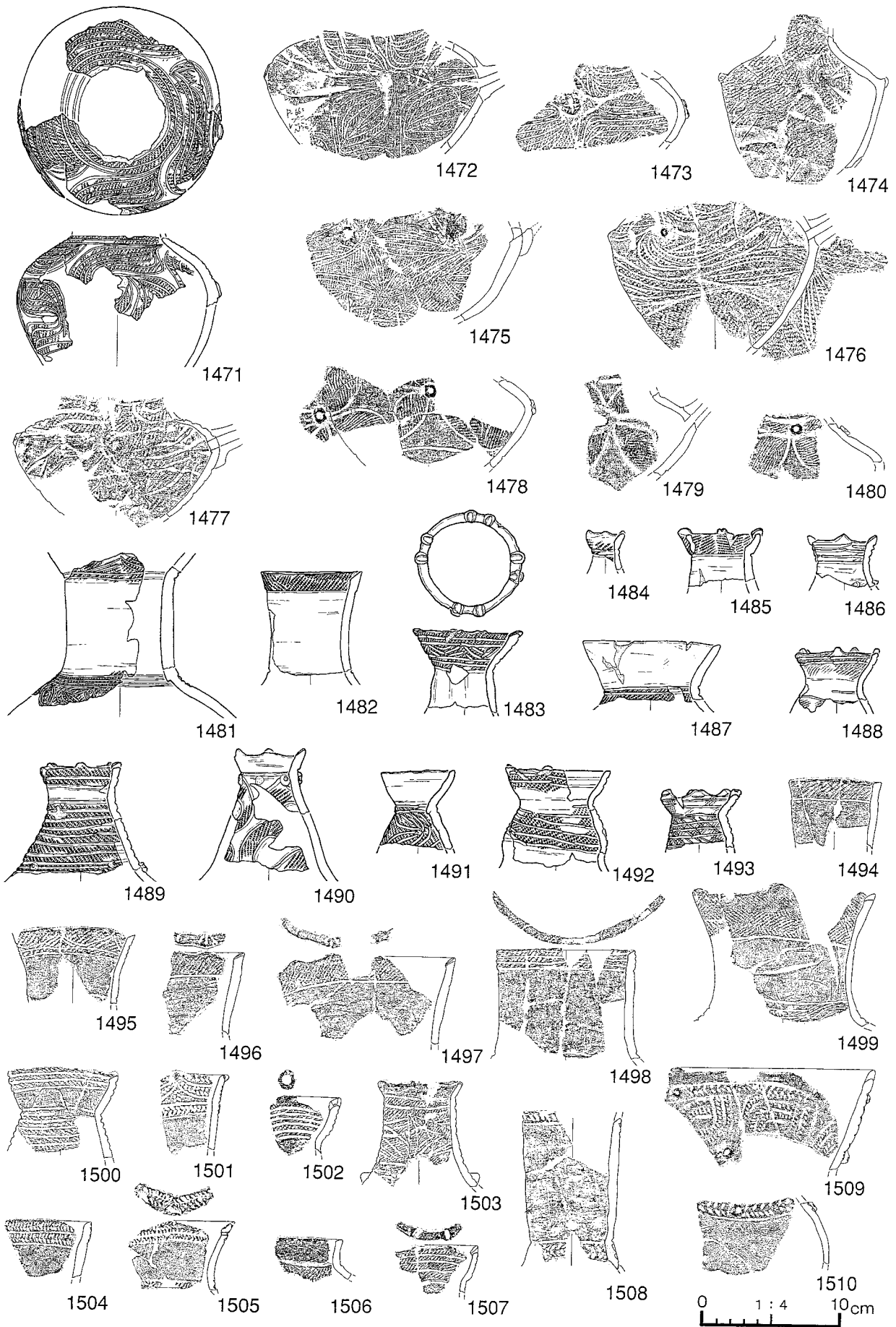


図159 盛土・包含層出土の土器 (100)

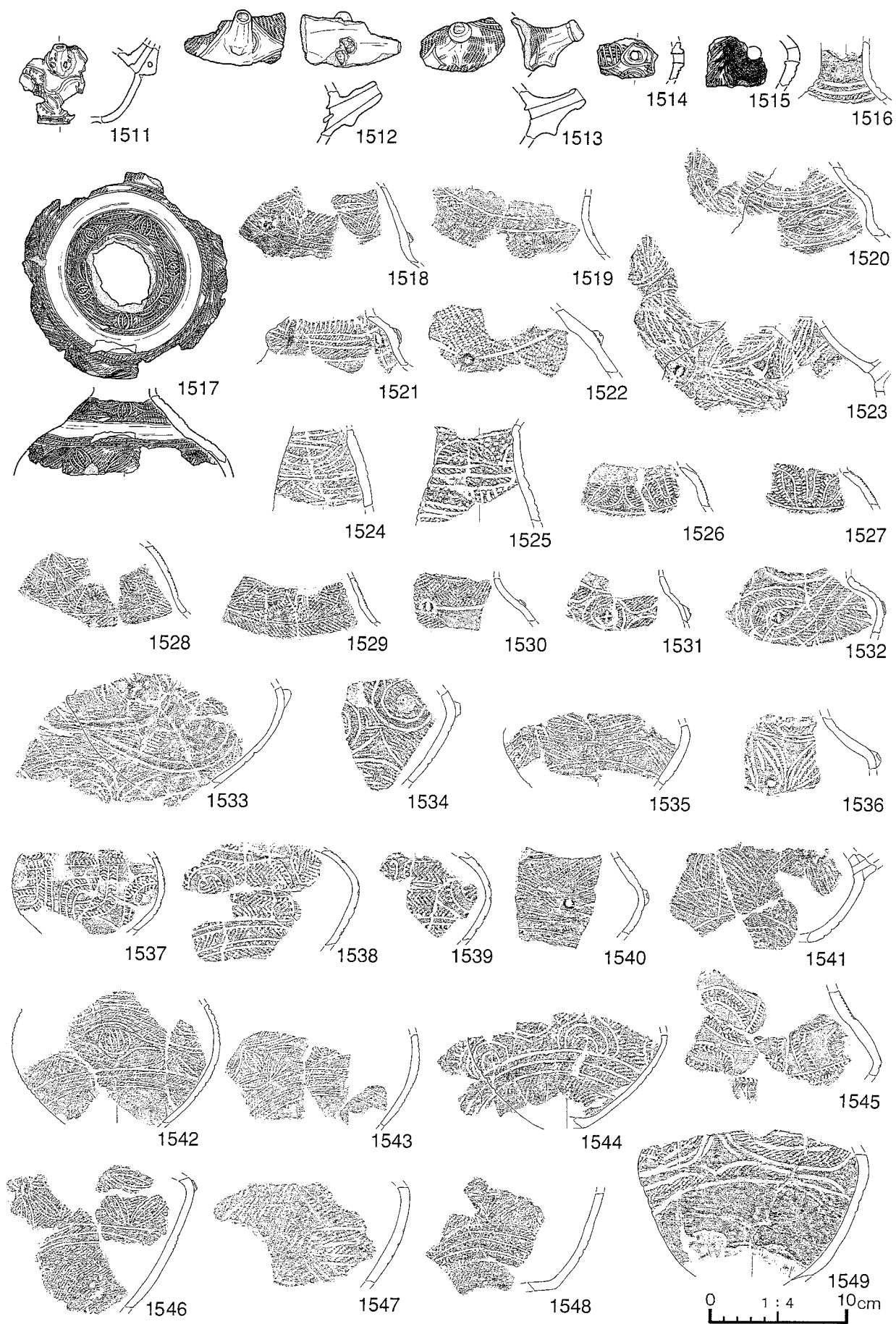


図160 盛土・包含層出土の土器 (101)

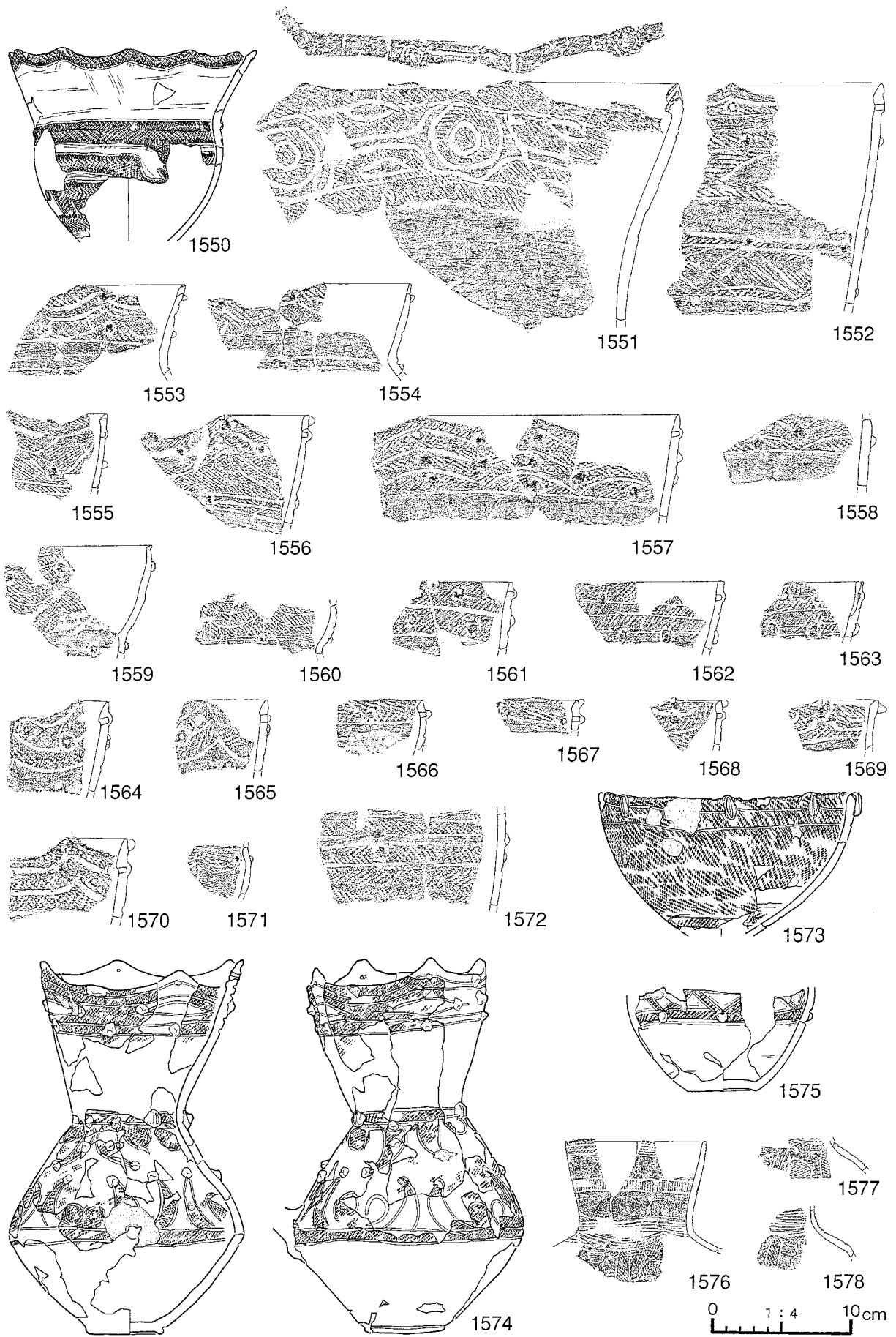


図161 盛土・包含層出土の土器 (102)

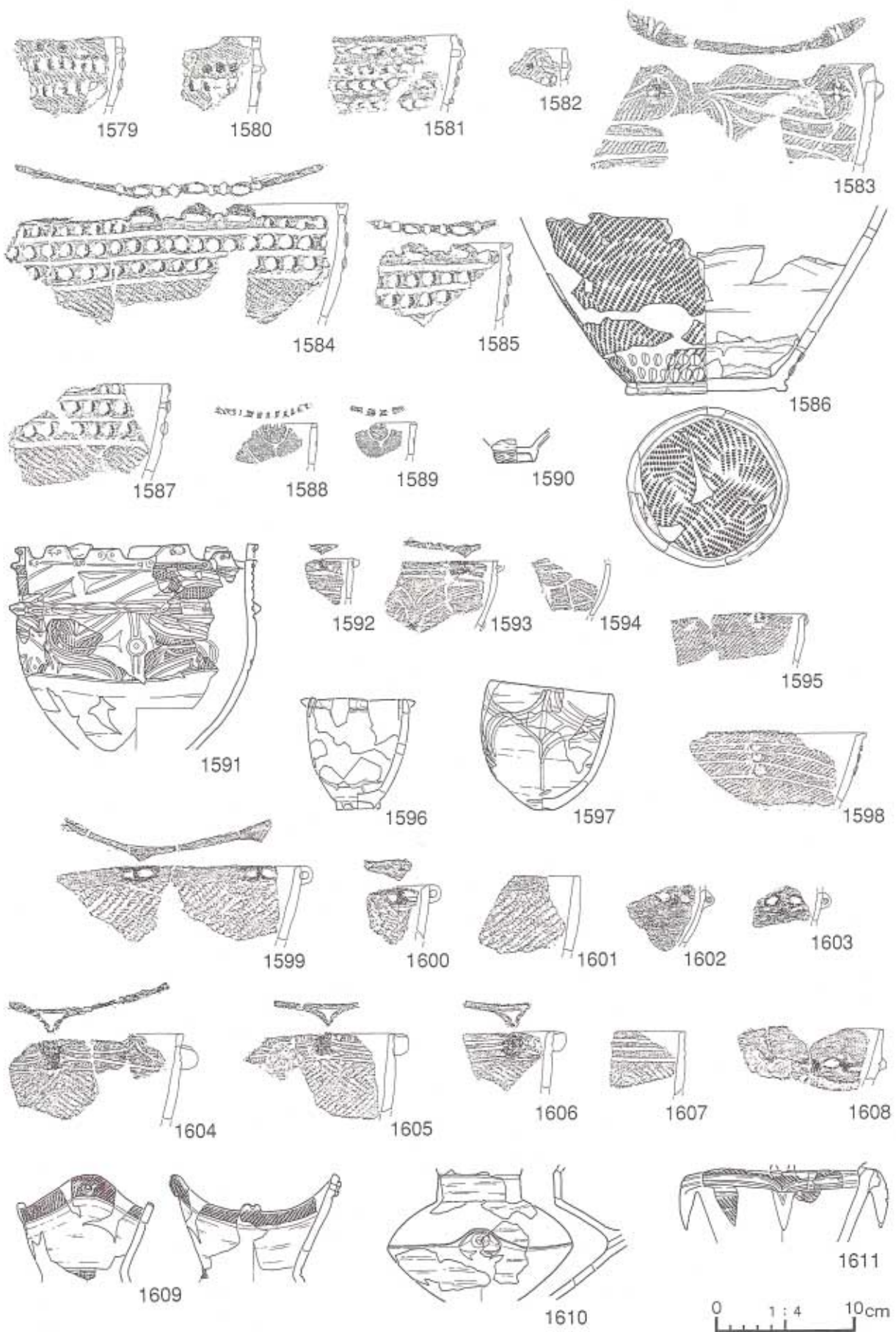


図162 盛土・包含層出土の土器 (103)

(2) 土製品

キウス4遺跡 F、G 地区からは、土玉・垂飾類、耳栓、スタンプ形土製品、土偶、ミニチュア土器等が出土した。平成8年度のA1地区の調査(北埋調報124)では、オロシガネ状土製品が包含層から1点出土しているが、その後の確認例が現時点では無く、後期後葉では極端に減少する可能性がある。また、土製品のほかにも、ここでは動物意匠の施された土器片や、アスファルトが付着する土器片も掲載した。1~56は土玉・垂飾類である。1~10は無文の土玉で、11には縄文12、13には沈線が施される。7、8は同一点から他の土玉片とともに出土したもので、表面にはわずかだが、赤色顔料塗彩の痕跡が残る。12、13は、同じグリッドから出土したもので、沈線にわずかに赤色顔料が残る。15~21は、偏平な土版の長軸方向に孔が空いているもので、細長い棒に粘土を付けて作られたものと考えられる。18は横に貫通する孔が空いているほかは、図の縦方向に孔が空く。なお、19~21は、19と20が横に並んだ状態、21がその下に重なって出土した。22~33は、皿状あるいは半球状に凹みを持たせた粘土に、孔を空けたものである。22~24の裏側は無文で、凹んだ表面に渦巻き状の沈線が施される。いずれも貫通孔の部分で破損した破片で、未掲載の破片も合わせて同一グリッドから5点が出土した。それらは、どれも接合しないことから最低でも3個は存在したと考えられる。25~27は凹んだ面に三条の沈線を段状に巡らせ、それぞれの角を刻んだ文様が施される。裏側は無文で、貫通する孔が空けられる。25、26は同一グリッド、27は隣のグリッドから出土した。29~31は凹んだ面の縁を刻み、裏面には縄文が施され、中央に孔が空けられる。この3点は、いずれもベンガラが塗彩された痕跡がのこり、同じ土玉と考えられるが、出土位置は広く散らばる。32、33は29等と同様な土玉である。両方とも無文で、33には、ベンガラ塗彩の痕跡が残る。34~36は、29等と同様な土玉と推定した。ただし、孔の空いている部分を欠くため、不確定ではある。35、36にはベンガラ塗彩の痕跡が残る。37、38は、両方とも孔の部分で上下を欠損するが、全体は三日月形で、2か所に孔が空けられる垂飾と考えられる。類似する資料には、平成8年度のA1地区(北埋調報124)で報告された「三日月形の垂飾」がある。39には沈線で文様が施される。上部に2か所の孔が空けられているようだが、1か所は欠損する。40は、円形の刺突文が施された垂飾で、41は、その下位の部分と考えられる。42の上部には、横に貫通する孔の痕跡が残る。43~52は、上部は横に孔が空けられ、凹んだ下部の端を3~4つに分ける形の垂飾である。このうち44・46、47~49、50・51はそれぞれ同グリッドから出土しており、複数で利用されていた可能性もある。53、56の様な形は「耳飾り」と報告されることが多いが、作りは43~52の垂飾と同じであるため、同様の遺物と考えた。54はその破損品と考える。55は、大形の垂飾品片と推定した。57~71はスタンプ形土製品と考えた。完形品で出土したものは少なく、この他にも破片は多いが、確実にスタンプ形土製品と確認出来るものは少ない。72はスタンプ形土製品の柄の部分の可能性があると考え、ここに掲載した。73~77は耳栓と考えた。これも破片での出土例がほとんどで、77のみ完形品である。78、79は破片ではあるが、全体は板状の円形であったと考えている。いずれも両面に刺突文が施される。80~83は焼成粘土塊であるが、80~82には、両面や片面に棒状の圧痕が整然と並んで残っており、茅等をもちいた編み物を作る際に、固定材として用いられた粘土が偶然焼けて残ったものとも考えられるため、ここに掲載した。83は両面に葉脈痕の付いた粘土塊である。84~93は土偶あるいはその可能性があるものである。84は両面に縄文が施される。85の両面には沈線や貼瘤文が施されるが、板状の土製品である可能性もある。86~91は同一個体の破片である。人面部は残りがよく、目と口は孔を空けた表現が用いられる。顔の後側にも直径約1.5cmの円形の孔が空いている。他の破片の部位は不明であるが、各所に穿孔が施されているほか、口縁部のような部位も見

られるため、人面意匠の施された香炉形土器である可能性もある。どの破片にも赤色顔料塗彩の痕跡が残る。また、88は南側盛土遺構の破片と接合している。92、93は同一個体で、朱が塗られた中空土偶の搬入品と考えられる。92は胴部片、93は膝を曲げた状態の右足から腰にかけての破片である。92と93の膝から先の部分が本地区から出土で、あとは南側盛土遺構から出土している。膝を曲げていることと、膝に破損した突出部が残っていることから、青森県八戸市風張遺跡出土の「合掌する土偶」のような、座った姿勢で、腕の一部が膝と接するポーズであった可能性が強い。94～115はミニチュア土器や特殊な土器を掲載した。なお、この中には、前章で掲載しているものも多く含まれるが、改めて大きな縮尺で掲載している。94は、器面全体に沈線と刺突文が施される。95、96は沈線で施文される。97～99は拓本が小さく分かりにくい沈線文と突瘤文が施される。100は無文で、4本の足が付く。土器か動物意匠の土製品かは不明である。101、102はミニチュアの注口土器で、ほぼ完璧で出土した。101には沈線と刻み、102は縄文のみが施される。103は外面は無文で、凹んだ内面に縄文と沈線が施される。104は一見すると小形の無文の鉢だが、底部中央が円柱形に突出していた痕跡が残る。105は、図からは解りにくい舟形土器の口縁部片である。106は無文の鉢で、器台が付くと考えられる。口縁部に4か所孔が空けられる。107は、台付き鉢と考えたが、大形の耳栓である可能性もあるかもしれない。108は小形の片口土器で、ほぼ完璧で出土した。底部は丸みを帯び無文である。109、110、112、113は香炉形土器あるいは香炉形の口縁部を持つ注口土器の先端部片と考えられる。112は、平成8年度のA1地区の調査（北埋調報124）で、動物形の土製品として報告されたが、後の整理で、動物意匠の施された香炉形土器の先端部片である可能性が高まった。113は、破片の作りから、土偶ではなく人物意匠の施された香炉形土器の先端部片と考えた。目と口は沈線で表現され、耳には孔が空けられる。衣服を表現したと思われる首から下には縄文とボタン状の貼付文が施される。首には左右に貫通孔が通るが、これは香炉形土器の先端によく見られる作りである。頭髪は破損するが、表情の表現は、美々4遺跡P-373（北埋調報14）出土の土偶と似ている。111、114は土器片と考えられるが、器形と部位は不明である。115は、動物意匠の施された土器片と考えられる。類似する破片が、平成10年度のQ地区（北埋調報152）でも出土している。どちらも同じ部位で、全体の器形は不明であるが、富山県井口村・井口遺跡出土の「イノシシをかたどった注口土器」に類似する土器の破片と考えている。ただし、モチーフとして使われた動物はクマである可能性が高いと考える。最後に掲載した116～129は、アスファルトの付着した破片もしくは、アスファルトによる補修痕が残る破片である。図中のトーン部分が、アスファルトの付着部分を示している。116は、割れた底部片に多量のアスファルトが付いき、つぶれた状態のまま出土したもので、底部片の間にも、アスファルトが挟まっていることから、土器に入った状態で廃棄されたものである可能性がある。117は、注口土器の胴部片に付着した状態。118、119の表面は、ほとんどアスファルトに覆われているが、中に土器片が入っているようである。120～129は、アスファルトで注口土器の注口部を補修したものである。121は、後の整理で剥がれてしまったが、アスファルトで注口部が接着されたままの状態出土した破片である。122～129は注口基部にアスファルトが付着した破片で、127には、一部剥離した胴部片が残る。

（土肥 研晶）

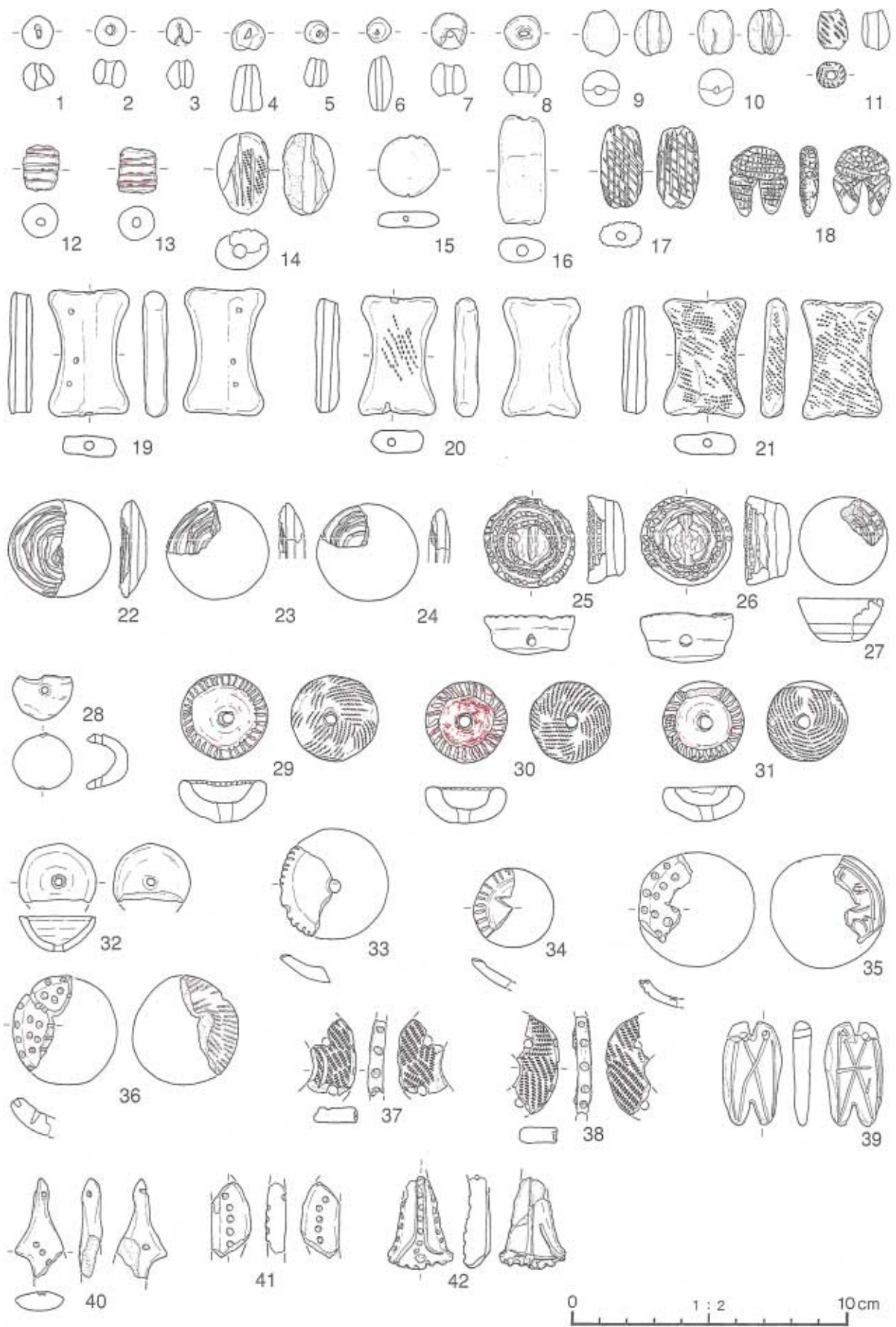


図163 盛土・包含層出土の土製品 (104)

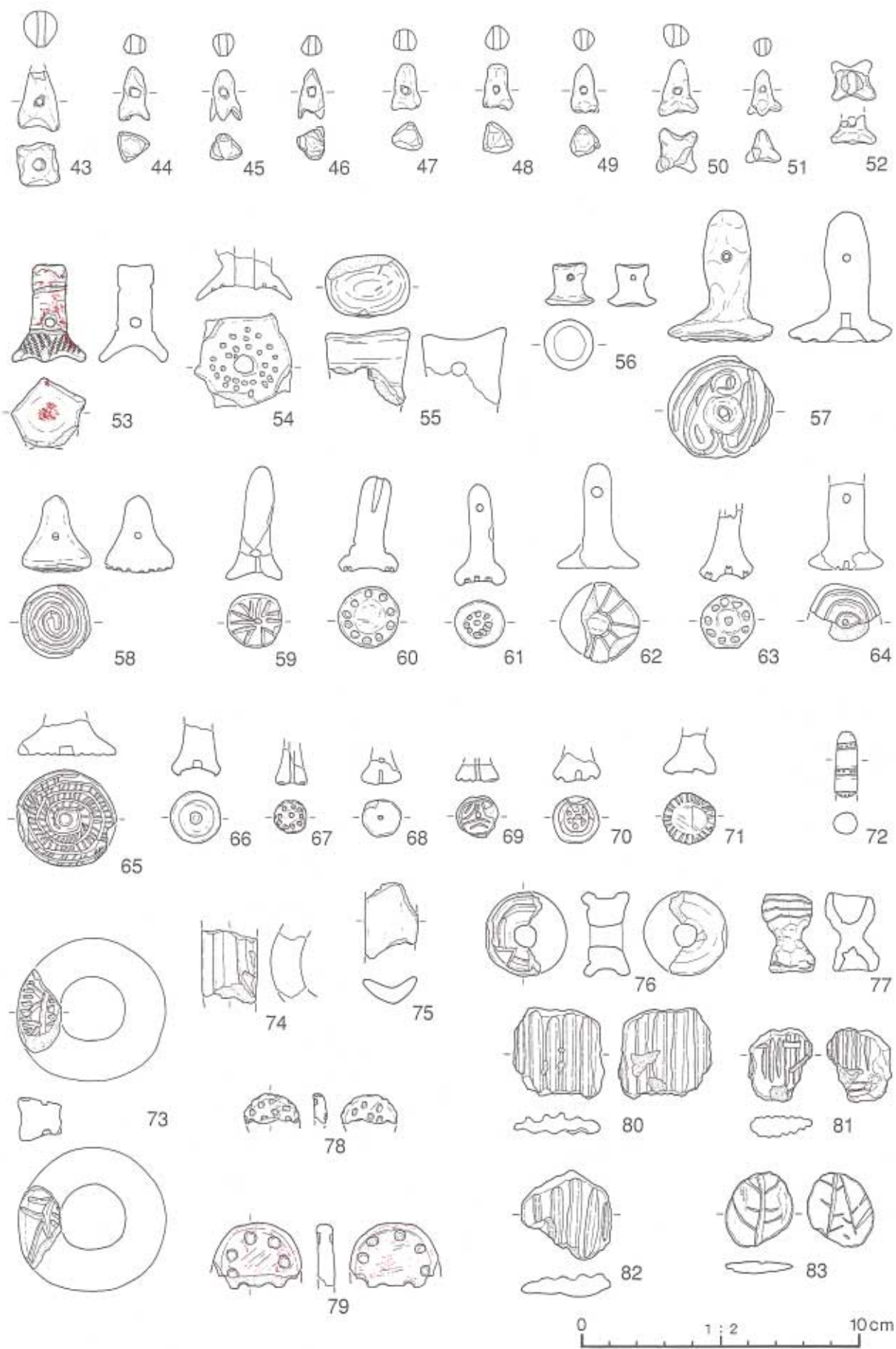


図164 盛土・包含層出土の土製品 (105)

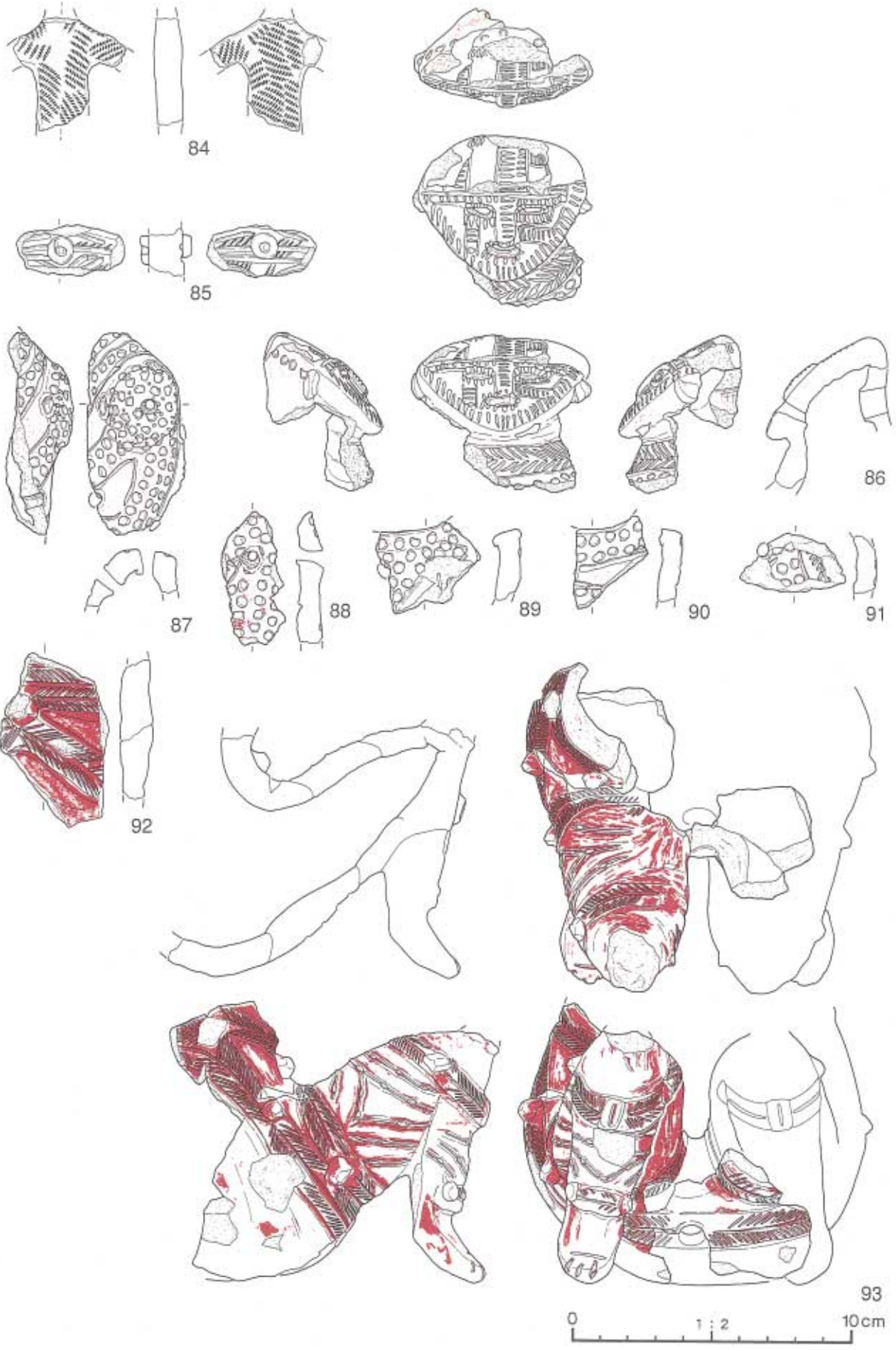


図165 盛土・包含層出土の土製品 (106)

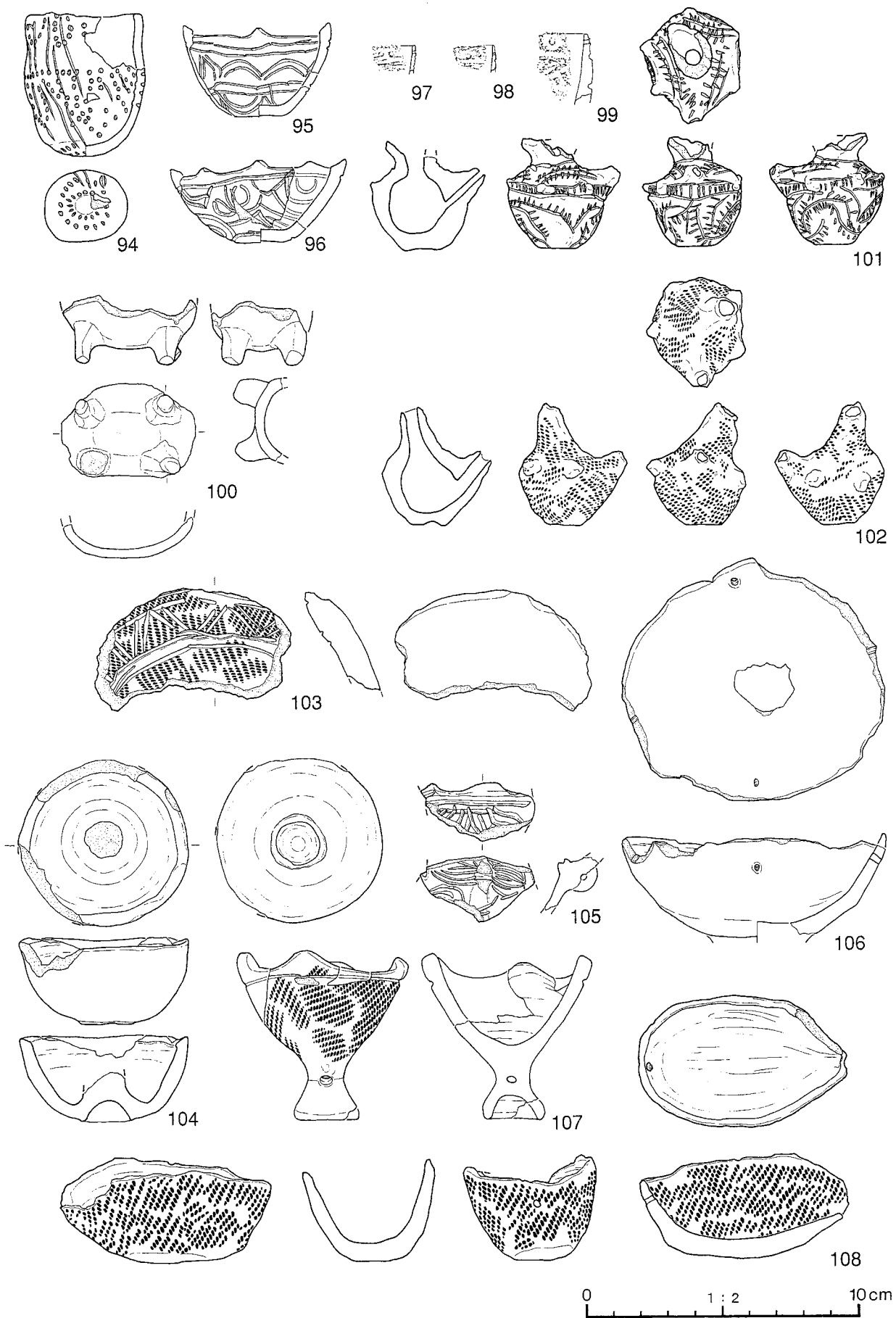


図166 盛土・包含層出土の土製品 (107)

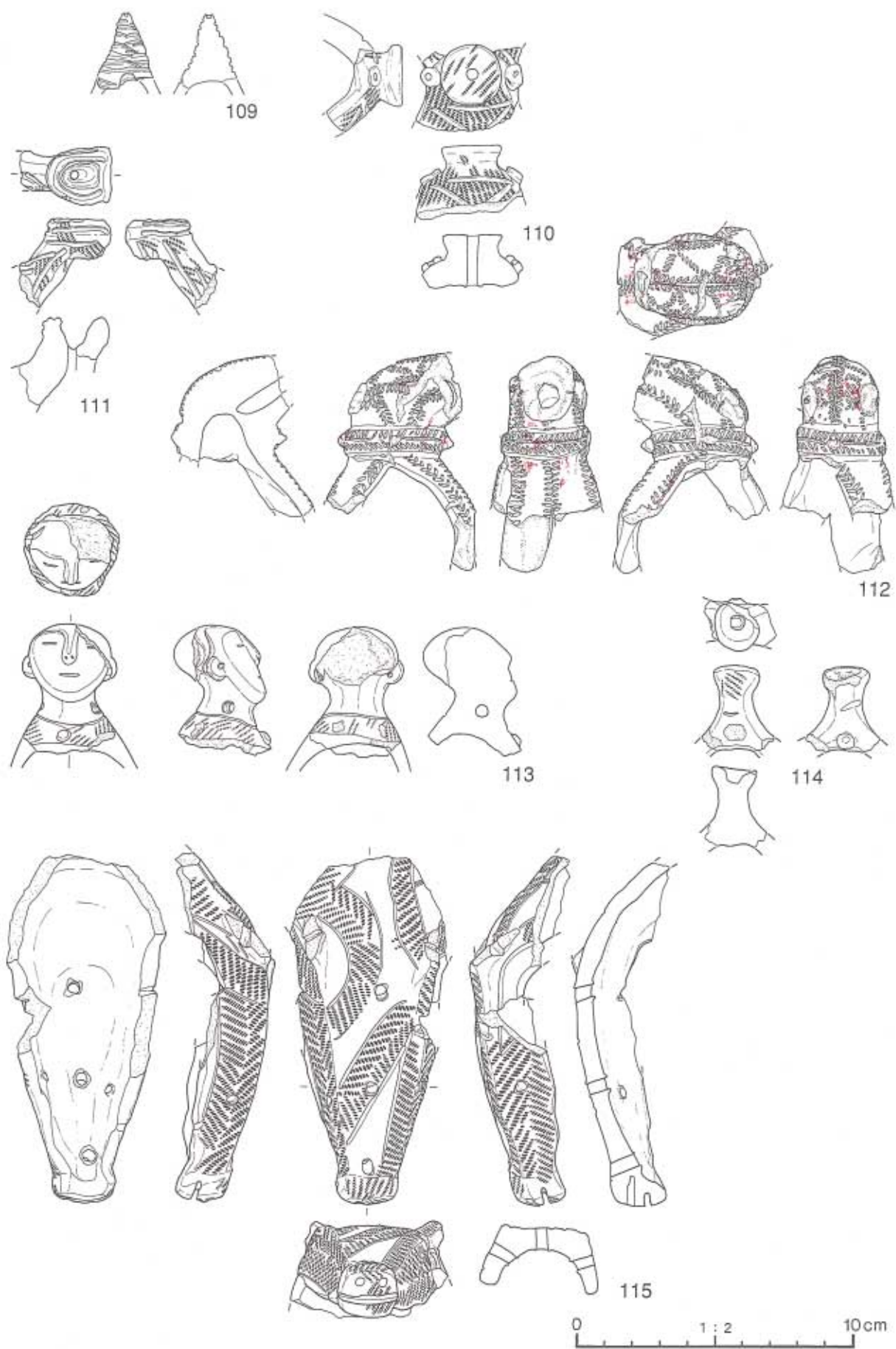


図167 盛土・包含層出土の土製品 (108)

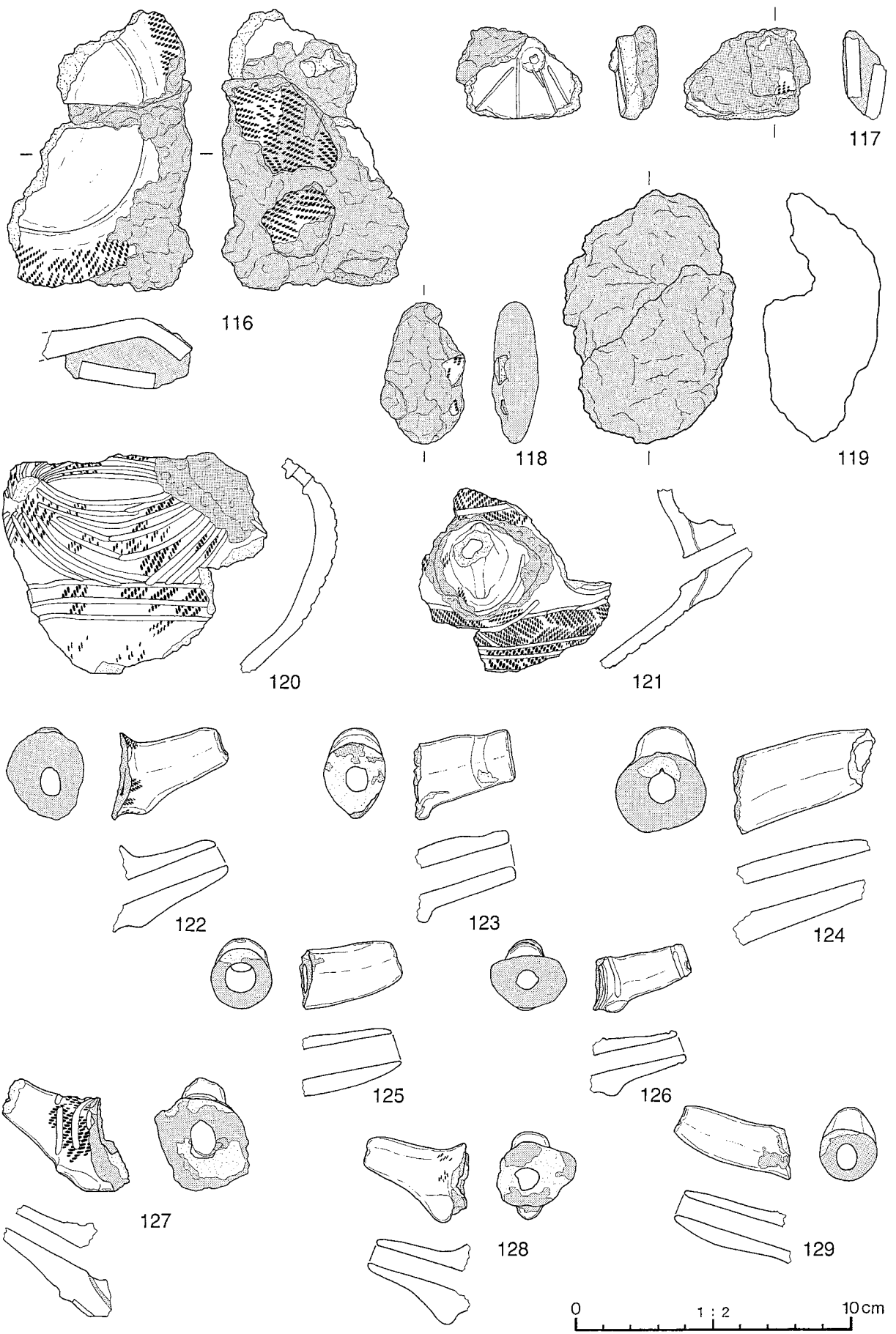


図168 盛土・包含層出土の土製品 (109)

表24 後期後葉の掲載土製品一覧(1)

遺物No	図No	図版No	分類	層位	調査区	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	地文	その他・備考
1	図163	204	土玉・垂飾	Vb	K 78	11.6	11.2	10.0	1.08		
2	図163	204	土玉・垂飾	N36	M 75	10.9	11.3	10.0	1.18		
3	図163	204	土玉・垂飾	N 4	S 66	(10.7)	9.0	10.0	0.83		
4	図163	204	土玉・垂飾	N26	K 78	10.8	12.0	17.2	2.10		
5	図163	204	土玉・垂飾	N 5	O 77	8.1	8.6	10.6	0.63		
6	図163	204	土玉・垂飾	Va	M 76	9.2	9.4	20.0	1.44		
7	図163	204	土玉・垂飾	N 3	S 67	13.4	13.0	12.4	1.52		
8	図163	204	土玉・垂飾	N 3	S 67	12.6	13.3	(11.1)	1.63		
9	図163	204	土玉・垂飾	N33	L 77	17.2	13.9	(13.3)	1.20		
10	図163	204	土玉・垂飾	N 3	Q 67	16.6	13.0	(14.0)	1.39		
11	図163	204	土玉・垂飾	N13	P 78	14.5			1.18		
12	図163	204	土玉・垂飾	N36	M 76	12.3	12.9	16.8	2.75		
13	図163	204	土玉・垂飾	N33	M 75	12.7	13.0	18.0	3.05		
14	図163	204	土玉・垂飾	I	I 73	30.0	(18.9)	15.1	3.00		
15	図163	204	土玉・垂飾		M 75	21.9	22.8	6.0	3.15		
16	図163	204	土玉・垂飾	N 1	S 66	39.4	17.4	9.1	6.45		
17	図163	204	土玉・垂飾	N13	N 75	30.3	15.0	9.2	3.82		
18	図163	204	土玉・垂飾	N4, N14	N 73, O 76	25.7	21.0	6.6	2.40		
19	図163	204	土玉・垂飾	N 5	M 76	46.8	29.7	7.0	11.99		19~21はまとめて出土
20	図163	204	土玉・垂飾	N 5	M 76	44.0	29.7	8.4	10.85		19~21はまとめて出土
21	図163	204	土玉・垂飾	N 5	M 76	44.0	30.0	8.5	10.84		19~21はまとめて出土
22	図163	204	土玉・垂飾	N 5	O 77	(36.1)	(37.9)	(9.8)	6.90		
23	図163	204	土玉・垂飾	N 5	O 77	(36.4)	(37.9)	(9.7)	6.68		
24	図163	204	土玉・垂飾	N13	O 77	(35.8)	(37.9)	(7.9)	6.83		
25	図163	204	土玉・垂飾	N36	M 74	33.2	33.0	14.0	10.23		
26	図163	204	土玉・垂飾	N36	M 74	32.6	33.0	18.2	10.57		
27	図163	204	土玉・垂飾	N36	L 74	(32.6)	(33.0)	(16.1)	1.98		
28	図163	204	土玉・垂飾	N26	N 84	20.1	21.5	14.9	4.48		
29	図163	204	土玉・垂飾	N 3	S 65	31.0	32.2	15.0	10.13		
30	図163	204	土玉・垂飾	N13	O 77	29.4	30.0	13.0	7.63		
31	図163	204	土玉・垂飾	N34	K 75	(29.0)	29.9	13.0	7.23		
32	図163	204	土玉・垂飾	N33	M 76		27.8	11.9	2.92		
33	図163	204	土玉・垂飾	Vb	S 80	(40.6)	(39.8)	10.1	5.52		
34	図163	204	土玉・垂飾	N36	N 75	(29.1)	(29.0)		2.39		
35	図163	204	土玉・垂飾	N26	M 76, N 73	(42.0)	(42.1)		2.13		
36	図163	204	土玉・垂飾	N36	M 75, N 75	(40.2)	(38.1)		5.29		
37	図163	204	土玉・垂飾	I	L 74	(27.8)	15.1	6.6	2.50		
38	図163	204	土玉・垂飾	N36	M 74	(35.9)	13.1	6.3	2.98		
39	図163	204	土玉・垂飾	N13	O 80	37.9	21.5	6.6	5.17		
40	図163	204	土玉・垂飾	N 5	N 76	(35.9)	(18.0)	7.3	2.80		
41	図163	204	土玉・垂飾	N 5	N 76	(27.7)	14.3	7.4	2.92		
42	図163	204	土玉・垂飾	N35	L 75	(33.9)	22.8	9.5	5.56		
43	図164	204	土玉・垂飾	N 4	R 67	15.9	14.9	(22.2)	3.40		
44	図164	204	土玉・垂飾	N 4	M 71	11.0	11.3	19.6	1.11		
45	図164	204	土玉・垂飾	I	N 72	9.9	(11.8)	18.8	0.95		
46	図164	204	土玉・垂飾	N 4	M 71	(12.0)	9.4	17.9	0.91		
47	図164	204	土玉・垂飾	N26	K 78	10.6	10.8	17.0	1.08		
48	図164	204	土玉・垂飾	N26	K 78	11.5	10.9	16.8	1.26		
49	図164	204	土玉・垂飾	N26	K 78	11.3	(11.0)	17.7	1.12		
50	図164	204	土玉・垂飾	N13	N 80	(16.0)	14.0	(20.3)	1.72		
51	図164	204	土玉・垂飾	N13	N 80	12.0	(12.9)	16.6	0.79		
52	図164	204	土玉・垂飾	N13	N 80	(14.2)	16.0	(10.8)	0.96		
53	図164	204	土玉・垂飾	N 5	O 75	24.3	27.0	34.8	9.07		
54	図164	204	土玉・垂飾	N 3	R 69	33.2	35.0	(17.0)	7.83		
55	図164	204	土玉・垂飾		M 72	(22.0)	31.0	(28.1)	13.15		
56	図164	204	土玉・垂飾	N26	J 76	18.0	18.1	15.5	2.41		
57	図164	204	スタンプ形土製品	V	R 79	36.5	37.4	47.0	17.11		
58	図164	204	スタンプ形土製品	N 4	M 71	26.2	25.0	27.1	9.64		
59	図164	204	スタンプ形土製品	N13, I	P 76・77	19.2	19.5	40.5	6.59		
60	図164	204	スタンプ形土製品	I	S 66	21.6	21.5	34.2	8.47		
61	図164	204	スタンプ形土製品	N5, N36	M 75	17.0	17.9	36.0	4.52		
62	図164	204	スタンプ形土製品	N 4	N 68	28.8	(28.6)	37.4	7.66		
63	図164	204	スタンプ形土製品	N13	P 75	19.2	19.2	(25.1)	4.61		
64	図164	204	スタンプ形土製品	N26	M 82	(20.7)	(26.8)	(31.1)	7.47		
65	図164	204	スタンプ形土製品	N14	M 76	34.4	(35.9)	(13.0)	11.56		
66	図164	204	スタンプ形土製品	I	Q 81	18.9	18.0	(18.0)	3.90		
67	図164	204	スタンプ形土製品	N 5	M 76	11.8	(11.3)	(12.5)	0.91		
68	図164	204	スタンプ形土製品	N14	N 77	13.0	14.0	(8.9)	1.08		
69	図164	204	スタンプ形土製品	N 4	L 71	14.9	(15.2)	(6.1)	1.28		
70	図164	204	スタンプ形土製品	N 4	L 72	(17.0)	16.8	(10.1)	1.85		
71	図164	204	スタンプ形土製品	N 5	O 80	18.4	18.2	(14.3)	3.04		
72	図164	204	スタンプ形土製品	N36	M 73	8.0	7.5	23.5	1.80		
73	図164	204	耳栓	N17, N19	R 86	(49.0)	(53.9)	1.6	6.22		
74	図164	204	耳栓	N10	Y 74	(26.1)	20.2	1.7	7.25		
75	図164	204	耳栓	V	L 80	(27.2)	19.1	9.7	2.87		
76	図164	204	耳栓	N16	P 70	30.0	(29.7)	16.8	7.50		
77	図164	204	耳栓	I	L 78		18.2	28.0	5.44		
78	図164	204	不明	N35	M 75	10.6	20.1	4.2	0.83		
79	図164	204	不明	N 5	L 76	23.3	31.5	16.0	4.66		

表25後期後葉の掲載土製品一覧(2)

遺物No	図No	図版No	分類	層位	調査区	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	地文	その他・備考
80	図164	204	焼成粘土塊	N 5	L 76	33.2	33.6	7.9	5.33		
81	図164	204	焼成粘土塊	N34	K 77	26.3	23.0	7.9	3.85		
82	図164	204	焼成粘土塊	N26	K 78	32.2	32.9	8.2	6.25		
83	図164	204	焼成粘土塊	N14	M 76	22.2	24.3	4.8	2.17		
84	図165	205	土偶	N 3	Q 67						
85	図165	205	(土偶)		R 67						
86	図165	203	(土偶)	I, N16, Va, Vb	南側盛土遺構, N 79, O 74, P 69・76 R 70・78						ベンガラ塗彩
87		205									
88		205									
89		205									
90		205									
91		205									
92	図165	205	土偶(右足)	N 5	南側盛土遺構, N 77・78						朱塗り
93		205									
94	図166	131	ミニチュア土器		R 67	46.5	42.9	53.0	27.33		
95	図166	55	ミニチュア土器	N 4	L 74	55.6	55.8	33.0	18.83	無文	
96	図166	203	ミニチュア土器	N5, N13, N26, I, VI	L 78, O 79, P 79, Q 78・80	62.0	64.8	29.5	25.70	無文	
97	図166	205	ミニチュア土器	N13	O 77						
98	図166	205	ミニチュア土器	N13	N 76						
99	図166	205	ミニチュア土器	N14	M 76						
100	図166	203	不明	N26, Va	N 80	(34.8)	(49.3)	(25.0)	16.01		4本の支脚が付く
101	図166	72	ミニチュア土器	N 4	N 71	34.8	40.5	40.0	29.95		注口土器
102	図166	191	ミニチュア土器	Va	J 79	37.3	39.0	44.0	23.28	LR	注口土器
103	図166	205	不明	I	O 70					LR	
104	図166	206	不明	N35	M 75	61.3	62.4	32.0	42.09	LR	
105	図166	205	舟形土器	I	O 77						口縁部片
106	図166	206	無文土器	N13	N 76	88.2	96.4	37.9	71.94		
107	図166	131	台付き土器	N13	N 80	61.4	60.6	61.0	44.73	LR	
108	図166	131	片口土器	N13	N 79	77.0	48.0	37.0	49.26	LR	
109	図167	205	香炉形土器片	N36	N 75						
110	図167	205	香炉形土器片	N13	N 78					RL・LR	
111	図167	205	不明	N13	N 76					RL	
112	図167	182	香炉形土器片	I	S 66, T 64, R 65						ベンガラ塗彩 動物意匠(クマ)
113	図167	182	香炉形土器片	N34	L 77						人間意匠
114	図167	205	不明	Va	K 78					LR	土器の突起の可能性あり
115	図167	206	不明	N 5	N 79					羽状	動物意匠(クマ)
116	図168	206	アスファルト付着土器片	N26	M 82					LR	底部片
117	図168	206	アスファルト付着土器片	N26	N 83						注口の胴部
118	図168	206	アスファルト付着土器片	N26	M 82						
119	図168		アスファルト付着土器片	Vb	P 77						
120	図168	206	アスファルト付着土器片	N 5	N 79					LR	注口土器
121	図168	206	アスファルト付着土器片	N 4	L 72					羽状	注口土器
122	図168	206	アスファルト付着土器片	N13	Q 73					RL	注口土器
123	図168	206	アスファルト付着土器片	N14	N 76					無文	注口土器
124	図168	206	アスファルト付着土器片	N 5	N 77					無文	注口土器
125	図168	206	アスファルト付着土器片	N14	R 65					無文	注口土器
126	図168	206	アスファルト付着土器片	N 1	P 67					無文	注口土器
127	図168	206	アスファルト付着土器片							RL	注口土器
128	図168	206	アスファルト付着土器片	N 4	O 70					無文	注口土器
129	図168	206	アスファルト付着土器片	N10	X 75					無文	注口土器

(3) 石器

盛土遺構からは剥片石器108,930点、礫石器14,750点、石製品・その他192点、計123,872点の石器が出土した。

盛土34層 (図27、図169 - 1 ~ 7、図版207)

盛土34層からは剥片石器1,921点、礫石器84点、石製品・その他5点、計2,010点の石器が出土した。

1は縦長剥片に刃部が直線、あるいはやや内湾気味についている黒曜石製のスクレイパー。周縁がすべて刃部加工されている。2は砂岩製の石鋸。使用面の辺の短い方に赤色物質が付着している。3はヒスイ製、4はカンラン岩製、5・6は蛇紋岩製の玉。3は片側より、すり鉢状に穿孔されている。底に穴のあいた椀のような形になっている。表面は風化して光沢はなく、白い部分の多い素材を使っている。ヒスイの原産地分析により、糸魚川産のものを使用していることがわかった(Ⅵ章参照)。4~6は両側穿孔で、両面が平らに仕上げてある。玉の厚みは不均一。全体に良く磨かれている。7は長さ1cm強の豆状の礫の中期に、アスファルトのひもを帯状に巻き付けたと思われる、黒い痕が残る、用途不明の製品。アスファルトそのものは残っていないため、この黒い部分が本当にアスファルトによる付着痕かは不明。石材は泥岩。

盛土35層 (図28、図169 - 8 ~ 14、図版207)

盛土35層からは剥片石器5,460点、礫石器157点、石製品・その他1点、計5,618点の石器が出土した。

8は黒曜石製の石槍。9・10は頁岩製の石錐。9はT字につまみ部が加工されている。10のつまみ部は棒状で、段をつけて錐部との境を作っている。11は頁岩製のつまみ付きナイフ。12は砂岩製のたたき石。縦長の礫の1面に、2か所の使用痕をもつ“くぼみ石”である。13は砂岩製の砥石。断面三角形の礫の3面とも使用面である。14は泥岩製の石棒の頭部片。刻線と細かい刻みで、格子文様を施している。頭部の断面は楕円である。首の部分の一周する段にも、刻みがつけられ、沈線で2列に分けられている。

盛土5層 (図30、図169 - 15 ~ 31、図170 - 32 ~ 37、図版207・208)

盛土5層からは剥片石器16,036点、礫石器599点、石製品・その他15点、計16,650点の石器が出土した。

15~20は石鋸。15は無茎で、基部の下辺が内湾している。16は無茎三角形の石鋸の基部にえぐりを入れて有茎にしたような製品。先端は平らで、機能性は疑問。17~20は茎部にアスファルトの付着がある石鋸。いずれも有茎。20は基部にえぐりが入り、両側辺中程が張り出している。石材は15・16が黒曜石、18が珪質頁岩、それ以外は頁岩。今回アスファルトが付着した石鋸は10点以上見つかっているが、いずれも器形は有茎で、石材は頁岩あるいは珪質頁岩製であり、黒曜石製のものはなかった。素材によって使用方法が異なった結果か、あるいは黒曜石はアスファルトが残存しづらい石材なのか。また必ず、茎部が破損しているのが特徴である。アスファルトは破損したものを再利用するための処置か。21・22は頁岩製の石錐。装飾性のあるつまみ部をもつ。23~26は今回多く出土したタイプのすり石・たたき石である。23は砂岩製、24・26はカンラン岩製、25は泥岩製。このタイプの製品は多くが、球を上から軽くつぶしたような形をしており、上下に平坦な面を持つも

のが多い。全周縁あるいは全面が敲打された後、個体によっては擦られている。敲打痕のみが残るものをたたき石、すり面をもつものをすり石としたが、結果的に同じ形状をもつ両者の使用目的に差はないと思われ、「すった」、「すらない」の区別は無意味かもしれない。27~30はたたき石。27・28は安山岩製、29は砂岩製、30は泥岩製。27は縦長の礫の両端が主使用部で、他の面にも軽く使用された箇所がある。28は球状の礫の一端が主使用面で、表面にも数か所使用痕がある。29は縦長の礫に4か所の使用痕をもつ“くぼみ石”。30は縦長扁平の礫の周縁が敲打されたもの。石斧未成品の可能性あり。31は砂岩製、32は安山岩製の砥石。ともに砥面は1面のみ。33・34は泥岩製の垂飾。33は一端が欠けている。薄い楕円の礫の中央に両側から穿孔し、側縁に刻線を1本施す。また、残っている側の一端に、3か所刻みが入っている。34は縦長の薄い礫の端に両側から穿孔し、表裏両面に線刻により、格子状の模様をつけられている。片面の方が刻線がより整然と並ぶ。35・36は黒曜石製の異形石器。35は一端を欠失している。37は泥岩製のミニチュア石斧。平たい楕円礫の先だけを研磨し、刃部を作り出している。

盛土26層 (図32、図170 - 38~68、図171 - 69・70、図版208・209)

盛土26層からは剥片石器7,498点、礫石器1,634点、石製品・その他24点、計9,156点の石器が出土した。

38~39は石鏃。38は木の葉形。片面に一次剥離面を残す。39は五角形。40は柳葉形に一端にえぐりをつけたもの。先端が欠けている。41は無茎の三角形の底辺にえぐりが入る。先端部のカーブに角度がついている。42~44は有茎。42は両面に一次剥離面が残る。44は2か所欠損している。茎部にアスファルトが付着する。石材は42がメノウ、44が頁岩、それ以外は黒曜石。45~47は頁岩製の石錐。45・46はつまみ部をもたないタイプ。47はつまみ付きナイフの転用品か。48~50はつまみ付きナイフ。48は頁岩製で、つまみ部分のみという感じ。石錐とも考えられる。49・50は黒曜石製。49は両側辺、50は1側辺に刃部がつく。51~54は黒曜石製のスクレイパー。55・56は泥岩製の石斧。55は薄手の自然礫をそのまま用い、周縁と刃部のみ成形、研磨したもの。56は剥離調整により成形した後、全体を研磨している。57は安山岩製のすり石。楕円の礫の3面を擦っている。58は砂岩製のたたき石。3か所使用している。59はヒスイ製の玉。ヒスイの原産地分析を依頼したが、判明しなかった。60は石質不明。61は蛇紋岩製の玉。59・60は片側からすり鉢状に穿孔されている。表面は風化して光沢がない。61は両側穿孔の平玉。全体に良く磨かれている。62・63は黒曜石製の異形石器。62は三日月形。63は本来石鏃であったものか。波状の加工を施してある。上下2か所に欠損部あり。64~68はアスファルト痕付礫。長さ1~2.5cm程の豆状の礫の中程に、アスファルトのひもを帯状に巻き付けたと思われる、黒い痕が残る、用途不明の製品。帯はいずれも一周せずに、必ず1か所薄い部分や途切れた部分があり、棒や紐などの細いものに接着して使用したことも考えられる。紐につけて、ネックレスにでもしたのかもしれない。ただ、アスファルトそのものが残っている例はなく、この黒い部分が本当にアスファルトによる付着痕かは不明。石材はすべて泥岩。69はミニチュアの石斧。細長い泥岩の小礫の刃部と側辺を研磨している。70はオロシガネ状石製品のミニチュアである。石材は安山岩。

盛土13層 (図39、図171 - 71~97、図172 - 98~123、図版209~211)

盛土13層からは剥片石器20,609点、礫石器2,482点、石製品・その他41点、計23,132点の石器が出土した。

71～75は有茎の石鏃。75は茎部周辺にアスファルトの付着がある。3か所欠損している。石材は71～73は黒曜石、74・75は珪質頁岩である。76～79は石錐。76、78・79はつまみ部と錐部の境が明瞭でないもの。77はつまみ部を意識して作り出しているように見える。石材は79が黒曜石、その他は頁岩。80～82はつまみ付きナイフ。80は頁岩製、その他は黒曜石製。83～89はスクレイパー。83～86は縦長の素材に縦に刃部がついているもの。83は棒状原石を使用している。87・88は横長の素材に横に刃部があるもの。89は不定形な素材を用いているもの。石材は86が頁岩、88が玄武岩、その他は黒曜石。90～94は石斧。90は半円柱形に敲打調整した礫の先端のみを研磨して刃部を施したもの。基端側は欠失している。91は敲打調整による成形の後、全体を研磨して仕上げている。92は刃部側の破片。敲打調整の後、刃部を中心に研磨して仕上げている。93は剥離調整の後、全体を研磨して仕上げている。94は剥離調整の後、片面と刃部のみ研磨している。石材は93が砂岩、その他は泥岩。95～97はすり石。95は軽石の礫を使用し、球状になったもの。96・97は盛土5層の23～と同製品。97は包含層に掲載した石斧原材63・64とほぼ同地点で取り上げたものである。後の調査で、盛土の層を過ぎると、明らかに遺物の出方が激減する傾向があることがわかった。よって、この2つの原材の層位は、盛土13層、あるいは何らかの盛土の層位を誤認した可能性がある。96はカンラン岩製、97は泥岩製。98は砂岩製の石鋸。99～102はたたき石。99は一側辺にたたき痕がある。また、当初は石斧の素材であったのか、一端に擦痕が集中しているのが認められる。100・101は“くぼみ石”。102は96・97や、盛土5層の23～と同製品。4～20mほど離れた地点から出土した破片が5点接合した。盛土1層の126と同様、使用による剥離後も使用し続けた痕が認められる。103～105は砂岩製の砥石。103はたたかれた痕も残る。103・104とも3面の砥面をもつ。105は4点が接合したもの。うち2点は本体より剥がれた後、石鋸として再利用された痕がある。106・107はヒスイ製、108はカンラン岩製、109は蛇紋岩製の玉。106・107は片側穿孔で、すり鉢状に穿孔され、底に孔のあいた椀のような形になっている。106の表面は風化して光沢はない。107はヒスイの質が良く、光沢があり透明度が高い。ともにヒスイの原産地分析により、糸魚川産のヒスイを使用していることが判明した(Ⅵ章参照)。108は平玉。両側穿孔。全体に磨かれる。109はどんぐり形の玉。表面が良く磨かれている。110～116は黒曜石製の異形石器。100～115のような蝶々形の異形石器にほぼ共通してみられる特徴は、真中のくびれた箇所には非摩滅部分が帯状に残っており、その他の表面や周縁は強く摩滅している点である。何かを巻いたり、しばったりした痕か。いかなる目的や使用法によるものであろうか。116は両面加工で、左右非対称の製品。117～121は盛土26層の64～と同類のアスファルト痕付礫である。石材は117がチャート、120が砂岩、その他は泥岩。122は砂岩製の石製品。一部欠損している。岩偶か。123は安山岩製のオロシガネ状石製品。16mほど離れた地点の破片が3点接合したものである。

盛土1層(図43、図172 - 124～127、図版218)

盛土1層からは剥片石器2 217点、礫石器400点、石製品・その他1点、計2 618点の石器が出土した。

124は頁岩製の石錐。装飾性のあるつまみ部をもつものの類。125は片岩製の石斧。表面に破損がある。刃部と周縁のみ研磨してある。ミニチュア製品か。実用的なものであったかは疑問。126はカンラン岩製のたたき石。盛土5層の23～の製品と同類のもの。10～20m離れた地点で出土した4点の破片が接合した。使用により破片が剥離した面にも使用痕があり、その後本体が2つに大きく破損した後も、さらに使用し続けていることがわかる(126 - 1・126 - 2参照)。127は泥岩製装

飾品。刻み、刻線、連続した未貫通の穿孔を組み合わせた精巧な文様がつけられている。両端が失われている。1か所貫通した穿孔部分があり、腕輪であった可能性がある。

盛土23層（図43、図173 - 128・129、図版211）

盛土23層からは剥片石器28点、礫石器20点、石製品・その他1点、計49点の石器が出土した。

128は砂岩のたたき石。いわゆる“くぼみ石”であり、砥石の転用である。使用痕のある面が砥面にもなっている。129は黒曜石製の異形石器で、盛土5層の35、盛土13層の112・113と同類製品。

盛土33層（図43、図173 - 130～154、図174 - 155～157、図版211～213）

盛土33層からは剥片石器4215点、礫石器723点、石製品・その他6点、計4944点の石器が出土した。

130は黒曜石製の石槍。先端が平坦である。破損した後再加工されたものか。131～135は石鏃。131・132、135は木の葉形。133・134は有茎でアスファルトが付いているもの。茎部が破損している。石材は131・132が黒曜石、133が珪質頁岩、その他は頁岩。136～141は頁岩製の石錐。136～139はつまみ部と錐部の区別が明瞭でないもの。140・141はT字形につまみ部分が付けられているもの。特に141のつまみ部は装飾性に富む。142～145はスクレイパー。142は縦長の素材に縦に、143・144は横長の素材に横に刃部が付いている。145は斜めに刃部が付く。石材は145が頁岩、その他は黒曜石。146・147は泥岩製の石斧。いずれも基端部側が失われている。敲打調整による成形の後、刃部を中心に研磨している。148は片麻岩製のすり石。縦長の礫の一端が、4つのすり面により、尖っている。149はヒスイ製の玉。片側穿孔で、椀状になっている。表面は風化して光沢はない。ヒスイの産地分析の結果、糸魚川産のものを使用していることが判明した（Ⅵ章参照）。150・151は黒曜石製の異形石器。150は一度被熱などで表面が曇った剥片の周縁を中央から剥離で加工している。他の類似した製品の真中のくびれた部分が摩滅していないのは、このような加工法によるものか。盛土13層の110～115と同類の製品。151は三日月形に加工されている。盛土5層の36、盛土26層の62と同類製品。152～154は石棒片。152は基部の一部。よく磨いて仕上げられ、断面は整円形に近い。153も基部片と考えられるが、成形が不完全な未成品。154は片方の頭部を有した破片。断面は偏平。若干のくびれをつけて頭部と基部を区別している。基部は加工が粗く、未成品の可能性もある。石材は152が砂岩、他の2つは片岩。155・156は砂岩の台石、157は砂岩の石皿である。いずれも同じような重さと大きさの礫製品で、この3点はほぼ同地点からまとまって出たものである。155は使用面の剥離がひどく、かろうじて擦痕のある部分が残る。156は敲打痕とともに擦痕も認められる。157は使用により、全体がなめらかになっている。

盛土36層（図43、図175 - 158～174、図版213・214）

盛土36層からは剥片石器7242点、礫石器381点、石製品・その他14点、計7637点の石器が出土した。

158は頁岩製の石槍。159、161・162は頁岩製、160は黒曜石製の石錐。いずれもつまみ部が錐部と区別されている。163は頁岩製のつまみ付きナイフ。164はカンラン岩製のすり石。全周縁をたたいた後、擦っている。165～168はたたき石。162は縦長扁平の礫の1側縁を使用。表面に若干の擦痕あり。166は扁平円形の礫の周縁をたたいている。167は球形の礫の中心を通る線上にたたき痕が3か所、擦痕が1か所ある。168は横長の礫の側縁の一部を使用している。石材は165が泥岩、166

がカンラン岩、167・168が安山岩。169はヒスイ製の玉。他のヒスイ製玉類とは異なり、孔の直径が均一なため両側穿孔か。素材の厚みも均一で、両面が平らに磨かれている。ヒスイの原産地分析の結果、糸魚川産のものを使用していることがわかった（Ⅵ章参照）。170はEn - aの降下軽石に穿孔し、周縁に刻みをいれた垂飾。171～173は黒曜石製の異形石器。171・172はほぼ同地点で取り上げたものである。他の同類製品同様、全体に摩滅しているが、くびれた中央部分のみが帯状に光沢を残す。摩滅が先か、剥離が先かをみると、盛土33層の150と同様、中央部の剥離が後にも見える。173は石槍の先端部をとって、丸く加工したような製品。両面とも一次剥離面を残す。174はアスファルト痕付礫。特徴は他の同類製品と同じ（盛土14層 - 26～参照）。

盛土3層（図46、図175 - 175～187、図版214・215）

盛土3層からは剥片石器3,915点、礫石器436点、石製品・その他6点、計4,357点の石器が出土した。

175～177は石鏃。175は有茎、176・177は無茎。石材は175がメノウ、176が黒曜石、177が頁岩。178～180は石錐。いずれも錐部とつまみ部が明瞭に区別された作りである。石材は178・179が頁岩、180が黒曜石。181は泥岩製の石斧。敲打調整の後、全体に磨いている。表面に黒いしみがついており、柄に装着した痕か。図の基端周辺の剥離および基部の白抜きは、使用による破損と考えられる部分である。182は砂岩製の球形のすり石。一部焼けて黒変している。183は砂岩製の石鋸。扁平な三角形の礫の長い2辺を使用。184はカンラン岩製の玉。両側からの穿孔。両面が平らに仕上げている。185は安山岩製の垂飾。片側穿孔。186は黒曜石製の異形石器。盛土13層の110～参照。187は泥岩のアスファルト痕付礫。特徴は後述の盛土14層の214～と同じ。

盛土14層（図46、図176 - 188～225、図版215・216）

盛土14層からは剥片石器8,950点、礫石器1470点、石製品・その他42点、計10,462点の石器が出土した。

188～192は石鏃。191のみ無茎。192は茎部にアスファルトが付着している。茎部は欠損している。193は頁岩製の石錐。つまみ部と錐部の区別がないもの。194・195は黒曜石製のつまみ付きナイフ。194は両面加工。196は黒曜石製のスクレイパー。横長剥片の2辺に刃部が付いている。197・199は泥岩製、198は蛇紋岩製の石斧。197・198は全体を研磨して丁寧に仕上げている。199は敲打調整により成形した後、刃部のみを磨いて作り出している。200・201はすり石。200は泥岩製で、敲打痕とすり面が全体をおおい、球形になっている。前出の盛土5層の24の類例であろう。201は安山岩製。使用面は1面で、横長の楕円礫を長軸方向に使用している。202は砂岩製の、203は安山岩製のたたき石。202はくぼみ石。203は球形の礫の下面が使用され、平らになっている。上部に幅1.5cm程の黒い帯びが廻る。焼け痕か。また剥離も焼けによるものようである。204はヒスイ製、205は石質不明の玉。いずれもすり鉢状に片側穿孔され、底に孔のあいた椀のような形になっている。表面は風化して光沢はない。204はヒスイの原産地分析を依頼したが、判明しなかった（Ⅵ章参照）。206はカンラン岩製の管玉。両側穿孔で、全体に良く磨かれている。207はカンラン岩製の垂飾。縦長扁平の素材の側縁と、一端に、刻みが施される。歯根を表すものか。208・209はEn - aの降下軽石に穿孔した垂飾。210～212は盛土13層の110～と同類の黒曜石製の異形石器。213は頁岩製のサメ歯形（？）石製品。先端が1段くびれて細くなり、ドリル状になっている。214～217は長さ1～2.5cm程の豆状の礫の中程に、アスファルトのひもを帯状に巻き付けたと思われる、黒い痕が残る、

用途不明の製品。帯はいずれも一周せずに、必ず1か所薄い部分や途切れた部分があり、棒や紐などの細いものに接着して使用したことも考えられる。紐につけて、ネックレスにでもしたのかも知れない。ただ、アスファルトそのものが残っている例はなく、この黒い部分が本当にアスファルトによる付着痕かは不明。218～223は、帯の痕はないが、214と同地点あるいは近くで採取されたもので、使用前の材料として持ち込まれたものと考えられる。石材はいずれも泥岩。224は片岩製の石棒の基部片。縦に2つに割れている。他の石棒基部に比べ、断面の径が大きく、完形品は太いものだったと思われる。225は安山岩製のオロシガネ状石製品。2片が接合した。うち大きい方の破片は、南側盛土から出土したもので、今回石器で南北盛土の遺物が接合をみたのはこの製品のみであった。今後南側盛土の整理をすすめていくうちにこのような例も増え、両盛土遺構がより密接にかかわっていることが明らかになるだろう。

盛土29層（図46、図176 - 226、図版216）

盛土29層からは剥片石器28点、礫石器29点、計57点の石器が出土した。

226は泥岩製の石斧。柄のついたヘラのような形をしている。刃部のみ研磨されている。

盛土4層（図49、図176 - 227～234、図177 - 235～264、図版216～218）

盛土4層からは剥片石器13,346点、礫石器1,297点、石製品・その他22点、計14,665点の石器が出土した。

227は頁岩製の石槍またはナイフ。228～233は石鏃。228以外はすべて有茎。石材は228～230が黒曜石、その他は頁岩。234～237は石錐。234・235はつまみ部と錐部の区別のないもの、236・237は区別のあるもの。石材は236が黒曜石、その他は頁岩。238は頁岩製のつまみ付きナイフ。239は頁岩製のスクレイパー。240～242は黒曜石の原石。この3点はほぼ同じ地点より出土した。243は泥岩製の石斧。基端を欠失している。敲打調整の後、刃部のみを研磨して作出している。244は砂岩製の石鋸。長軸と平行な2辺を使用している。使用痕の断面が溝状になった部分もある。245～251はたたき石。245は3点、246は2点の破片が接合した。盛土5層の24～26と同類のもの。247は砥石の転用のくぼみ石。248は上下両端が使用面である。249は球状の礫の数か所に使用痕がある。250は縦長の礫の側面と上下端に敲打痕がある。石斧の未成品か。251はくぼみ石。数本の刻線もある。石材は245・248がカンラン岩、246・250が泥岩、247・249が砂岩、251が安山岩。252～254は砥石。いずれも2面以上砥面をもつ。石材は252・254が砂岩、253が安山岩。255はヒスイ製、256は蛇紋岩製の玉。255は片側穿孔で、椀状になっている。表面は風化している。ヒスイの原産地分析を依頼したが、判明しなかった（Ⅵ章参照）。256は両側穿孔で、全体に良く磨かれ、両面が平らに仕上げられている。257～260は黒曜石製の異形石器。258・259は盛土13層の110～と同類製品。260は剥片の下部分3分の1は二次加工されていない。261～264は前出の盛土14層の214～と同じアスファルト痕付礫製品。石材はいずれも泥岩。

盛土31層（図52、図178 - 265、図版218）

盛土31層からは剥片石器204点、礫石器143点、石製品・その他1点、計348点の石器が出土した。

265は砂岩の石鋸。扁平礫の両側縁の機能面は断面がV字形で、刃部のように加工されている。

盛土37層（図52、図178 - 266、図版218）

盛土37層からは剥片石器121点、礫石器12点、計133点の石器が出土した。

266はカンラン岩製のたたき石。断面が三角形の縦長の礫の両端を使用している。また側面は擦ってなめらかになっており、剥離もみられる。

SE 1層 (図54、図178 - 267 ~ 280、図版218・219)

SE 1層からは剥片石器6,730点、礫石器1,274点、石製品・その他5点、計8,009点の石器が出土した。

267は黒曜石製の有茎の石鏃。268は頁岩製の剥片石器。分類はスクレイパーにしたが、周縁が内湾気味に両面加工されており、石錐の未成品かもしれない。269は頁岩製のスクレイパー。縦長の剥片の両側縁部に刃部が作られている。270~272は黒曜石のピエス・エスキーユ。上下方向の加撃により、270・272は上端が点状に、下端が線状に、271は上下端とも点状に摩滅。273は泥岩製の石斧。基端を欠く。敲打調整により成形後、全体を磨いて仕上げている。刃部も両面から磨いて作られている。274は片麻岩製のすり石。全体を擦って、扁平な円形の礫になっている。275は安山岩製のすり石。横長の礫の長軸方向に、使用面が2面ある。276はカンラン岩製、277は頁岩製、278は安山岩製のたたき石。274、276・277は盛土5層の23~26のすり石、たたき石と同類製品と考えられる。276・277は擦痕が認められず、周縁の敲打痕が明瞭なため、たたき石に分類した。278は扁平な楕円の礫の一辺が主使用面。片面に若干のたたき痕もある。279は砂岩の垂飾。3分の1程欠損している。表面には10数本の刻線により、連続した三角形の模様が施されている。280は片岩製の石棒の基部片。

SE 2層 (図55、図178 - 281 ~ 291、図版219)

SE 2層からは剥片石器7,690点、礫石器1,808点、石製品・その他4点、計9,502点の石器が出土した。

281は黒曜石製の有茎の石鏃。茎部にえぐりが入り、特徴がある。大きさから、石槍の可能性もある。282は頁岩製の石錐。283は黒曜石製のつまみ付きナイフ。つまみ部は剥片の上下に対し、逆についている。284は黒曜石製のピエス・エスキーユ。上下方向の加撃により、上下端とも線状に磨滅している。285・286は泥岩製の石斧。285は敲打調整の後、刃部とその周辺を研磨して仕上げている。刃部が基部に対して斜めについている。286は基部側を欠失している。刃部のみが磨かれて作られている以外は全体に敲打調整痕が残る。287はカンラン岩製のすり石。周縁を敲打したあと、全体に擦っている。288~290は泥岩製のたたき石。288は扁平な長方形の礫の上下端が使用面になっている。側面が擦り切っており、全体が研磨されているので、石斧の転用品。289は扁平な円形の礫の周縁に敲打痕が巡っている。287、289は前出(盛土5層 - 23~26)の扁平な球状のものと同類。290はほとんど原石に近い扁平な礫の表面に若干のたたき痕がある。周縁の一部にも敲打・剥離調整痕がみられる。291は泥岩製の石棒の頭部片。敲打調整の後、全体に研磨してある。頭部には縦方向の細かい刻線の集まりでできた幅1cmの浅い溝があり、横方向には平行した2本の断面V字形の刻みがある。

包含層出土の石器 (図179~181、図版220~223)

石槍またはナイフ (1)

黒曜石製。全長のほぼ半分が茎部。

石鏃（2～12）

2は五角形。3、4は木の葉形。4は基部の厚みから、石鏃の可能性あり。5～7は二等辺三角形。8～12は有茎。8、9の茎部は特徴がある。12は茎部と片刃の刃部加工のみで、未成品。石材は4のみが頁岩、その他は黒曜石。

石錐（13～19）

19は上下両端が錐部。その他はすべてつまみ部と錐部が明瞭に区別されている。石材は17が黒曜石、その他は頁岩。

つまみ付きナイフ（20～23）

20は両面加工。無茎石鏃の先端をつまみに加工したような製品。石材は22が頁岩、その他は黒曜石。

スクレイパー（24～30）

24～26は丸みのある剥片を素材としたもの。27、30は縦長の、28は横長の剥片を使用したもの。29はL字形の剥片に刃部が付いているもの。石材は25、28、30が頁岩、その他は黒曜石。

石斧（31～41）

31、37、40は敲打調整の後、全体を研磨している。32は片面が未加工。33は扁平縦長の自然礫を利用し、研磨による加工は刃部付近にとどまっている。34～36、38、39、41は剥離調整の後、研磨で仕上げている。石材は32、36が片岩、その他は泥岩。

すり石（42～47）

42は断面三角形の礫を輪切りにしたような素材。主な使用面は5面。43、44は盛土遺構の盛土5層の23～と同類製品である。45、46は卵形の礫を使用。47は断面三角形の縦長の礫の上下両端を敲打調整した後、全面を擦っている。石製品か。石材は42、46が安山岩、47が蛇紋岩、その他は泥岩。

たたき石（48～60）

48～50はくぼみ石。49はすり面もあり。50は扁平礫の片側辺を擦っている。51は礫の上下2面を使用。すり石の機能もあり。52～60は包含層すり石の43、44や、盛土5層の23～と同類の製品。石材は48、50、54が砂岩、49が安山岩、51、57が泥岩、その他はカンラン岩。

砥石（61・62）

どちらも砂岩を使用。砥面が凹状になっており、薄い部分では厚さ2～4mm程になるまで使い込まれている。

石斧原材（63・64）

この2点は盛土13層で掲載した97とほぼ同地点で出土している。後の調査で、盛土の層を過ぎると、明らかに出土遺物点数が激減する傾向があることがわかった。よって、この2つの原材の層位は盛土13層、あるいは何らかの盛土の層位を誤認した可能性がある。分類も石斧原材としたが、たたき石やすり石とセットで出土していることを考えると、泥岩製石器の原材というべきか。

玉（65）

蛇紋岩製の平玉。両側穿孔で、よく磨かれている。

垂飾・石製品（66～68）

66はまが玉様に加工されたもの。両側から穿孔され、表面も丁寧に磨かれている。67は3分の1程を欠失していると思われる。両側穿孔で、全体を研磨しているが、いびつである。68は三角形に成形、研磨された製品。石材はすべてカンラン岩。

異形石器 (69～75)

69は両側辺を波状に加工された剥片。70は石鏃の下辺にえぐりを入れ、脚部をつけたもの。71～74は盛土13層の110～と同類製品。73は片方の尖鋭部分欠失後、再加工されている。75は「くの字形」の製品。石材はすべて黒曜石。

アスファルト痕付礫 (76)

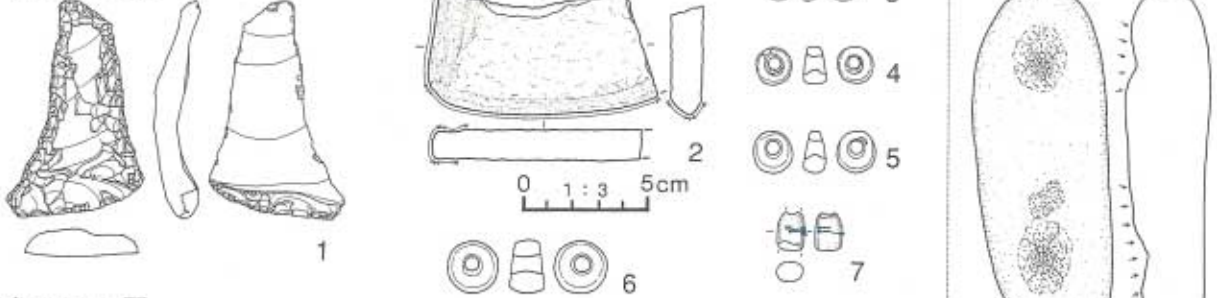
盛土26層の64～と同類製品。石材は泥岩。

石棒 (77～79)

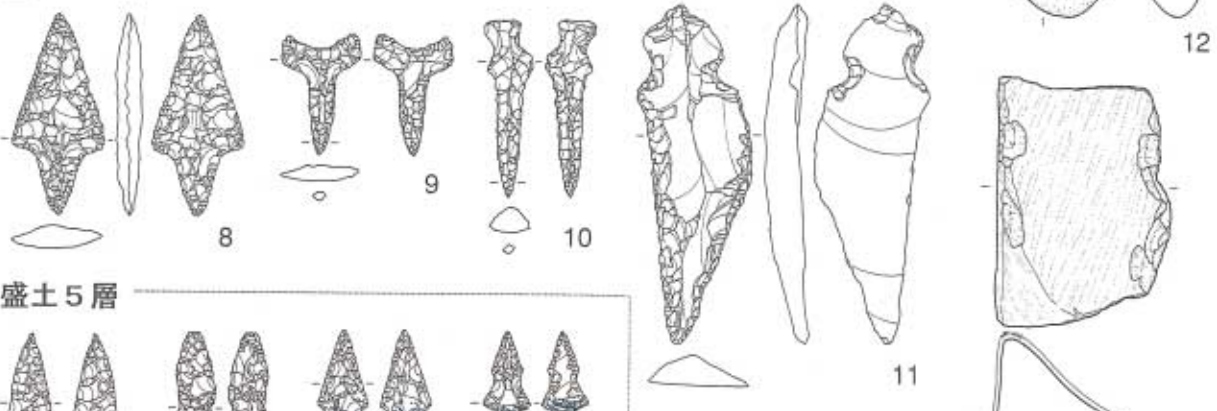
77は石棒の一部が薄く剥がれたもの。帯状の装飾部分にあたり、一周する3本の平行刻線の間には斜めの刻線が施されている。78は基部の一部。3分の1程残った表面に縦方向に磨かれた痕が確認できる。79は頭部破片。断面は楕円形。平行に一周する2本の断面V字形の刻線により茎部と頭部との区別がなされている。頭部にも同様の刻線が2本平行して一周している。石材は78が片岩、その他は泥岩。

盛土遺構出土の石器

盛土34層



盛土35層



盛土5層

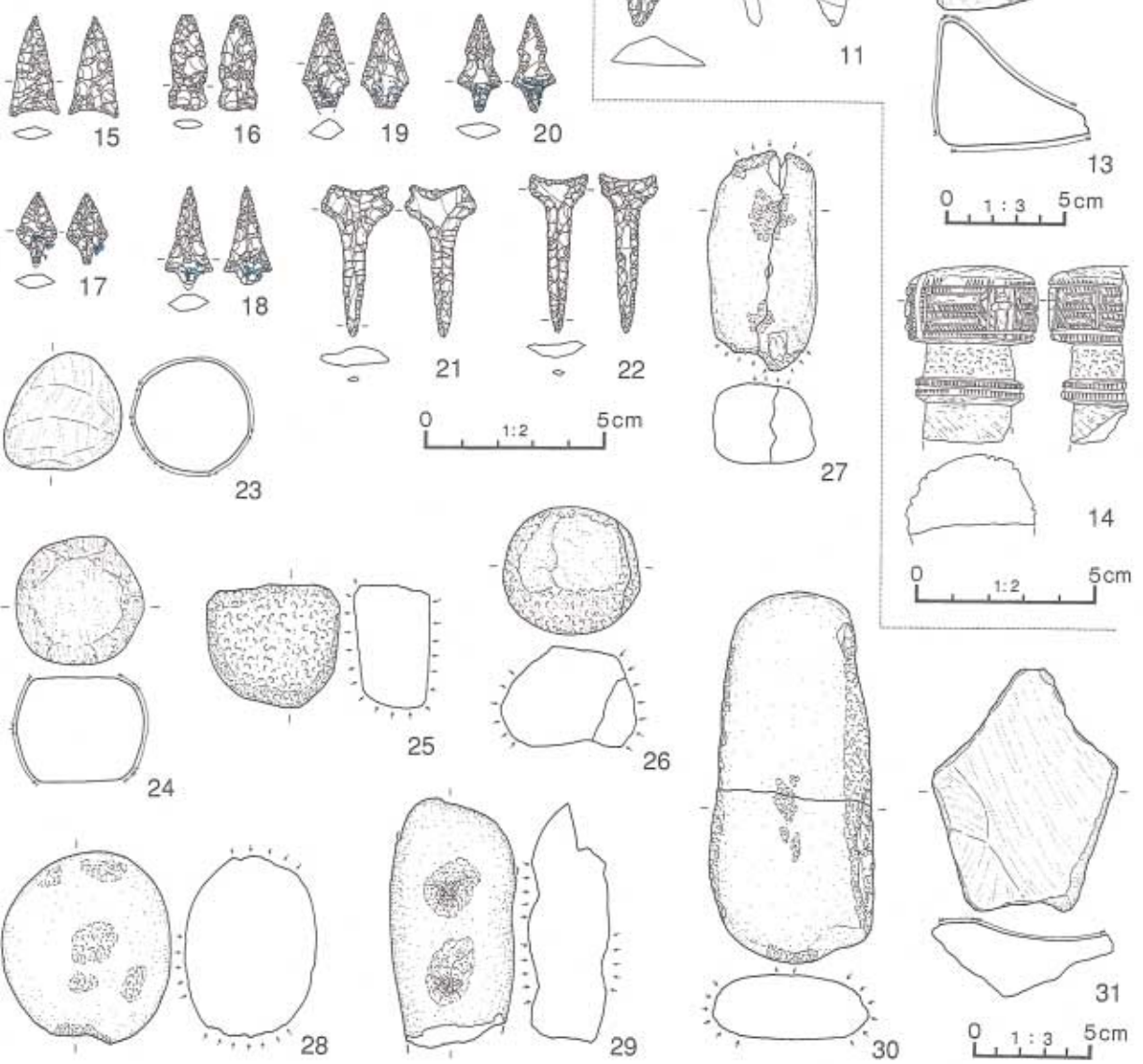
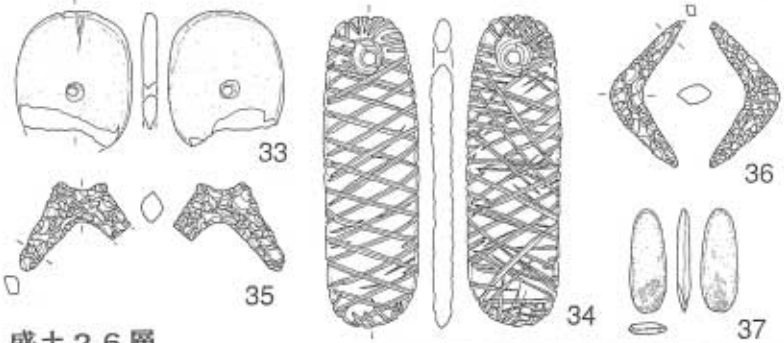
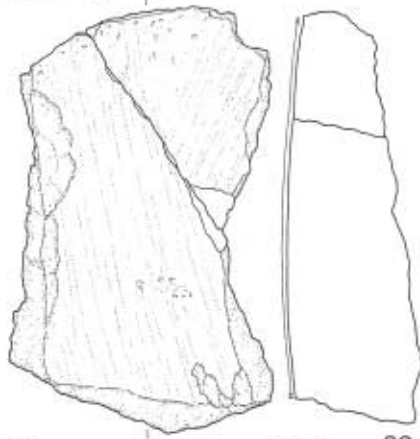


図169 盛土・包含層出土の石器 (110)

盛土5層

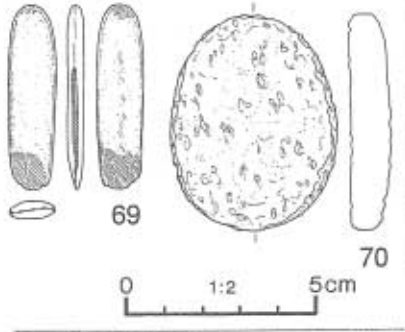


盛土26層



図170 盛土・包含層出土の石器 (111)

盛土26層



盛土13層

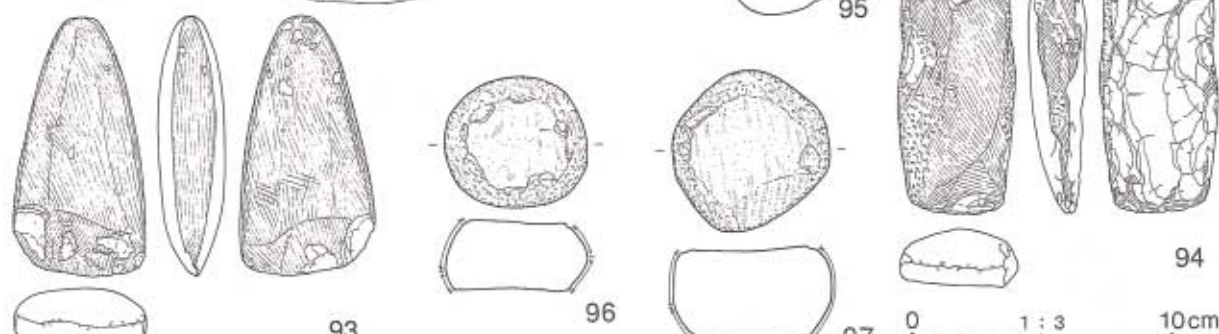
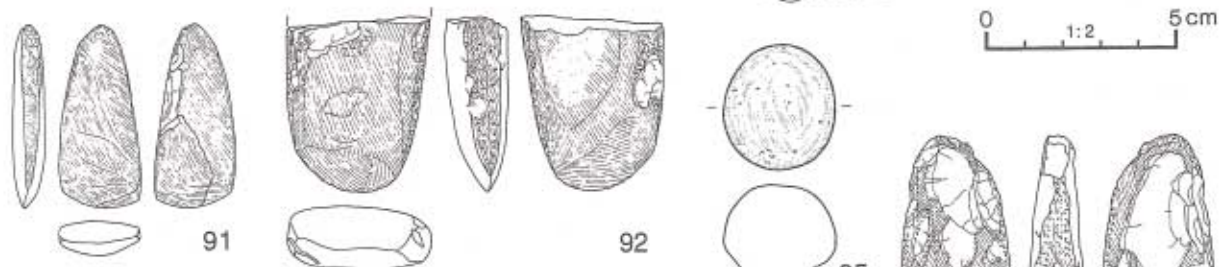
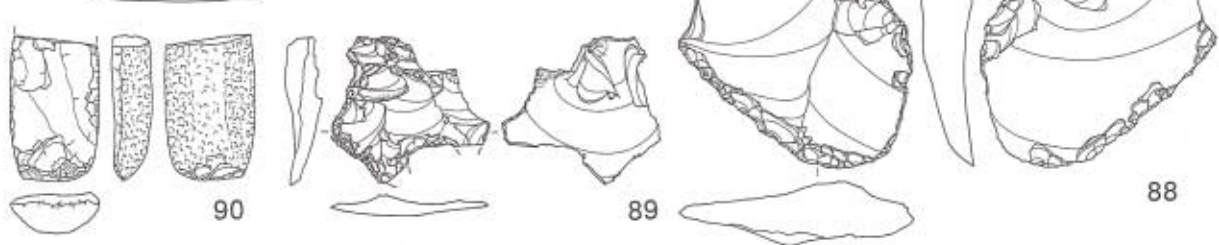
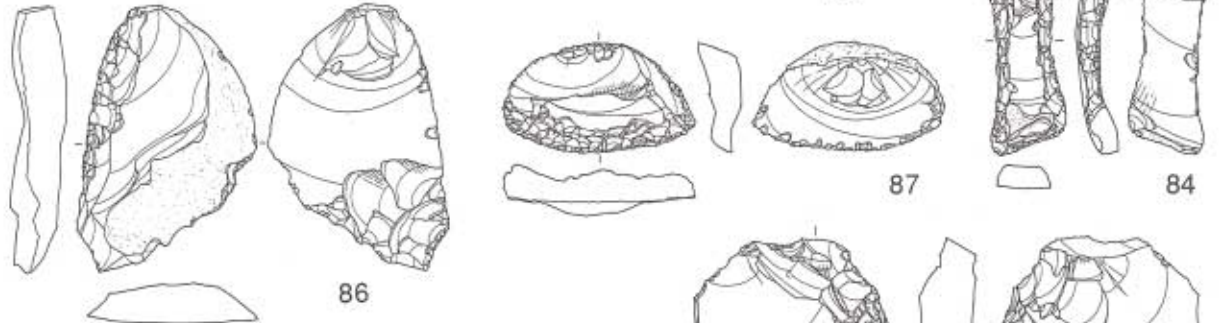
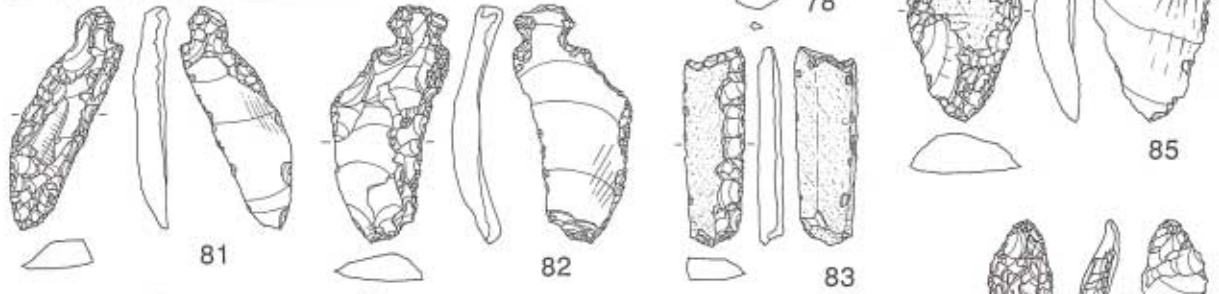
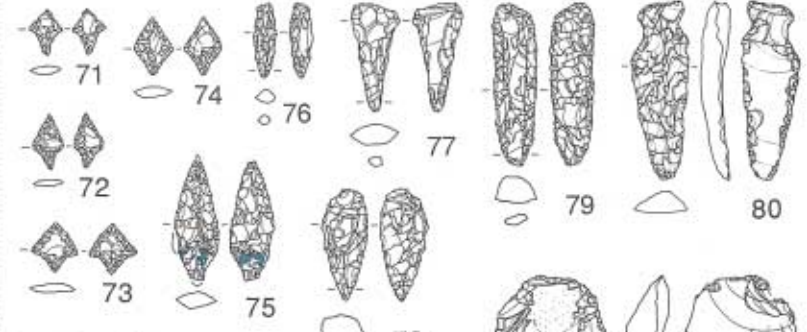
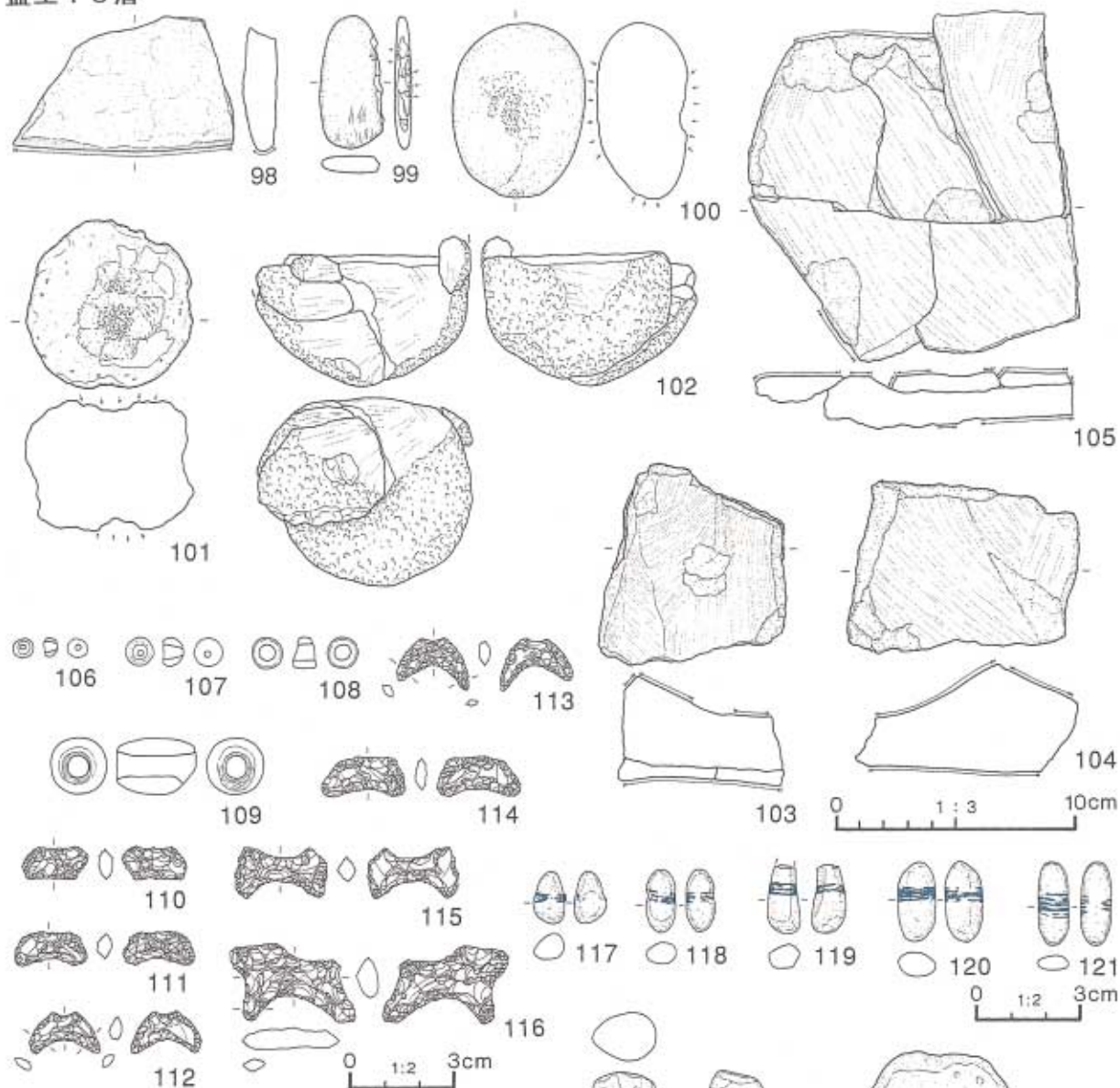


図171 盛土・包含層出土の石器 (112)

盛土13層



盛土1層

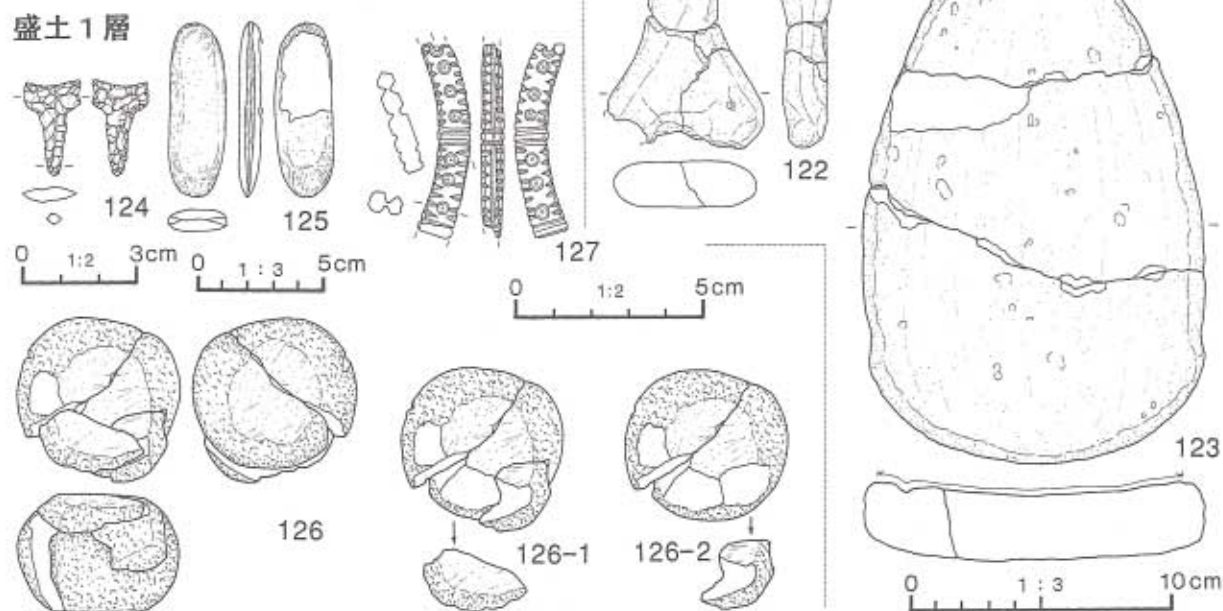


図172 盛土・包含層出土の石器 (113)

盛土23層

盛土33層

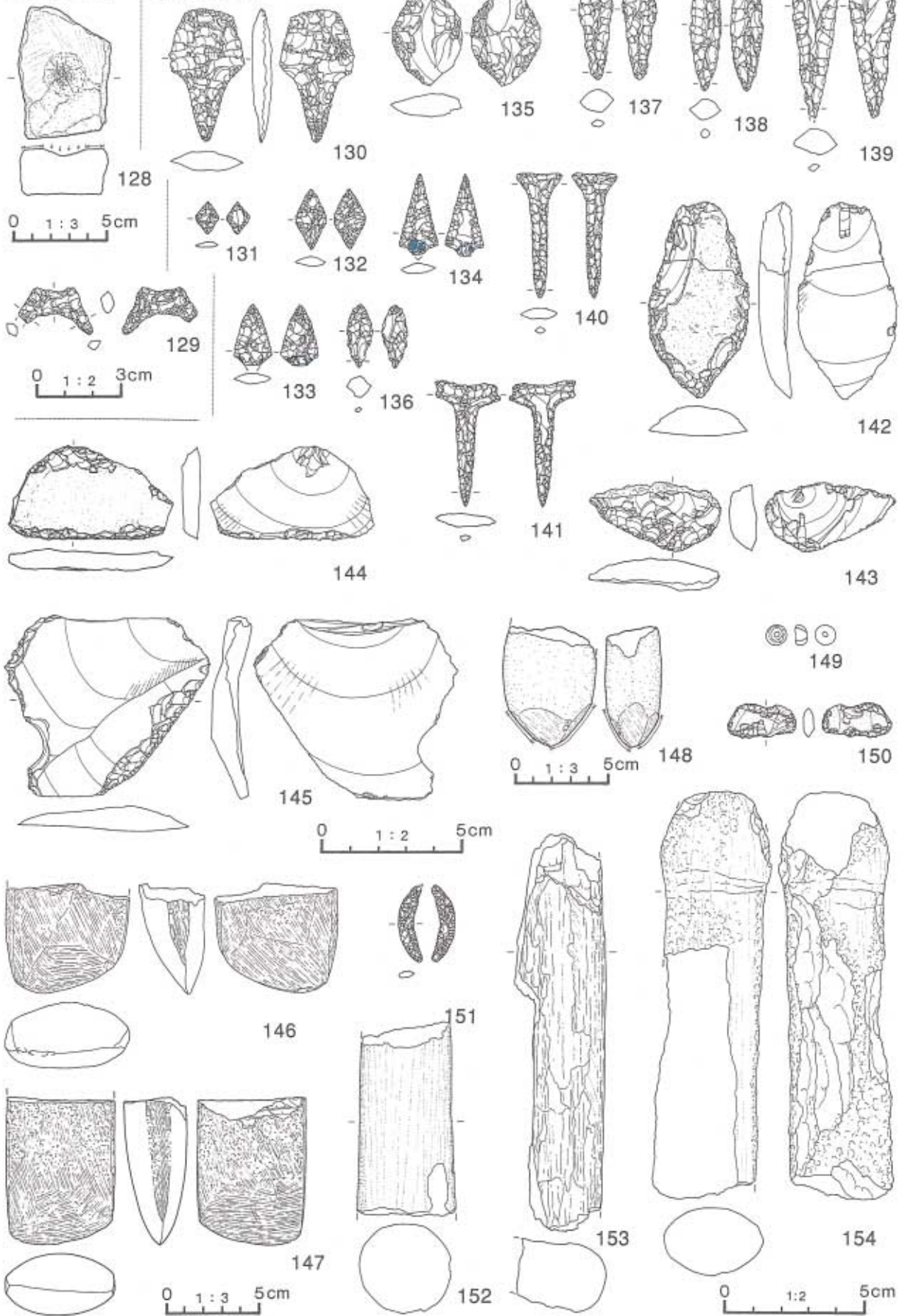


図173 盛土・包含層出土の石器 (114)

盛土33層

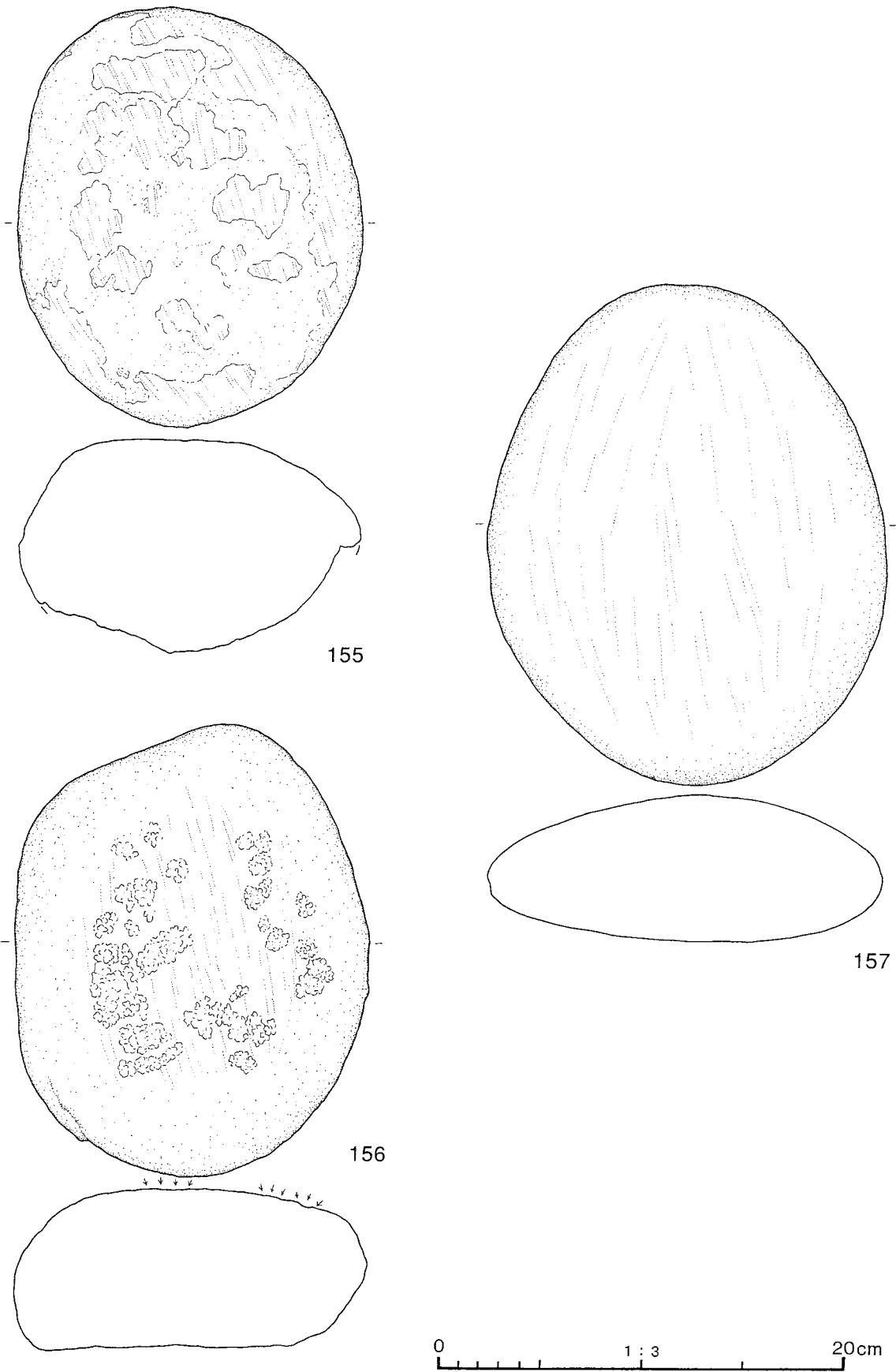
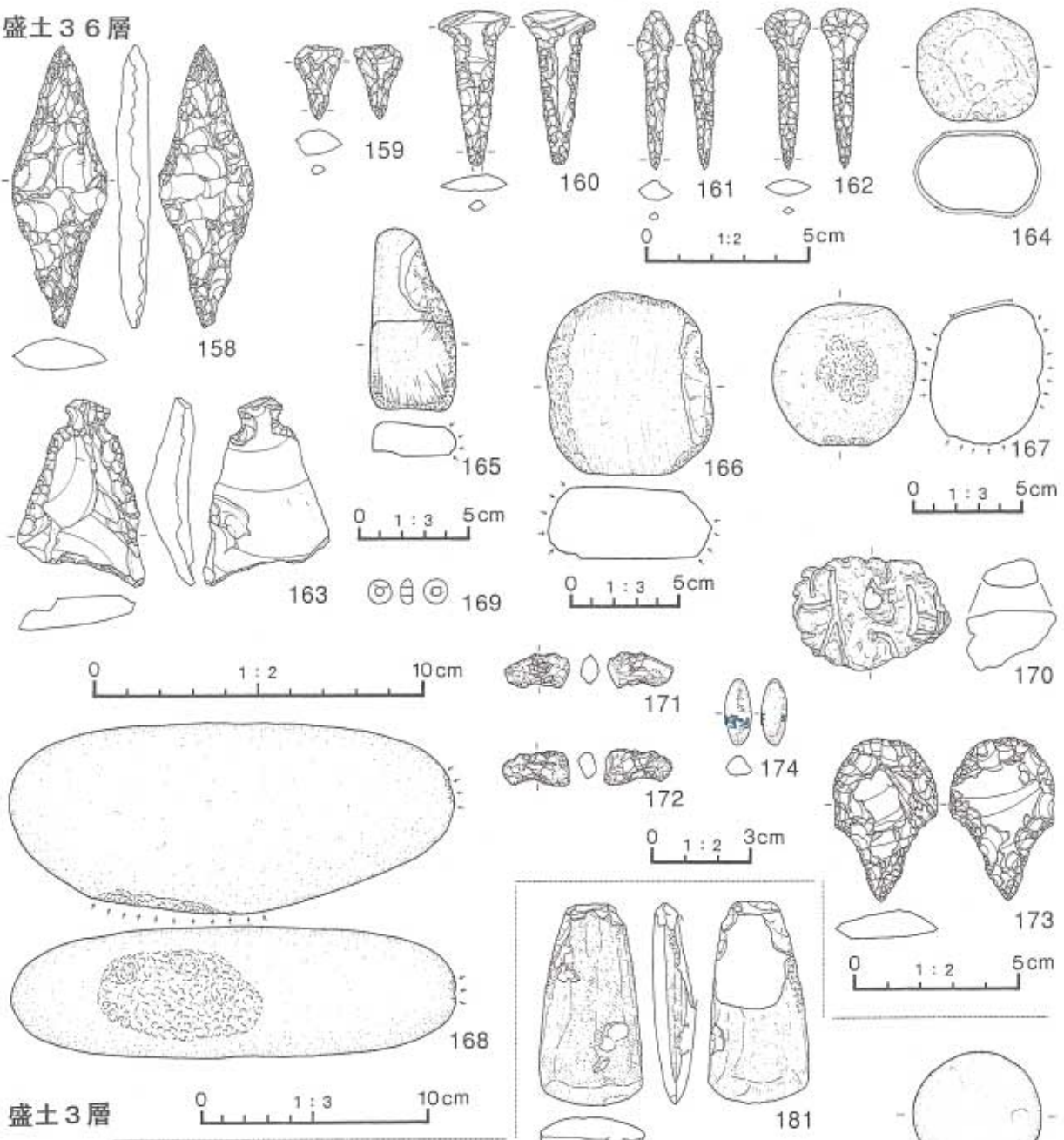


図174 盛土・包含層出土の石器 (115)

盛土36層



盛土3層

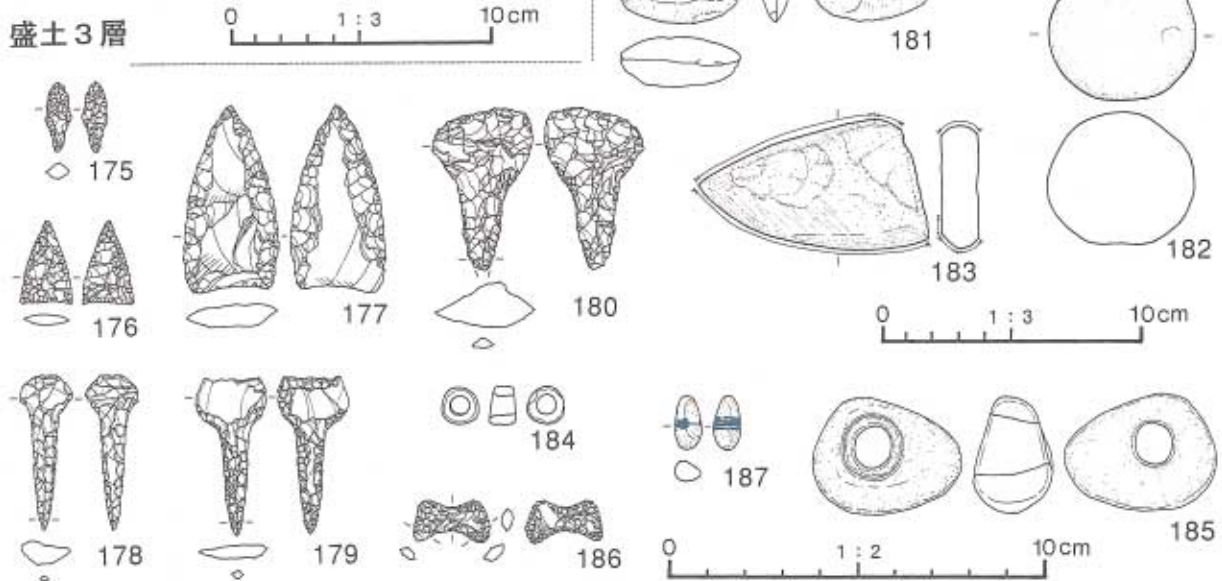
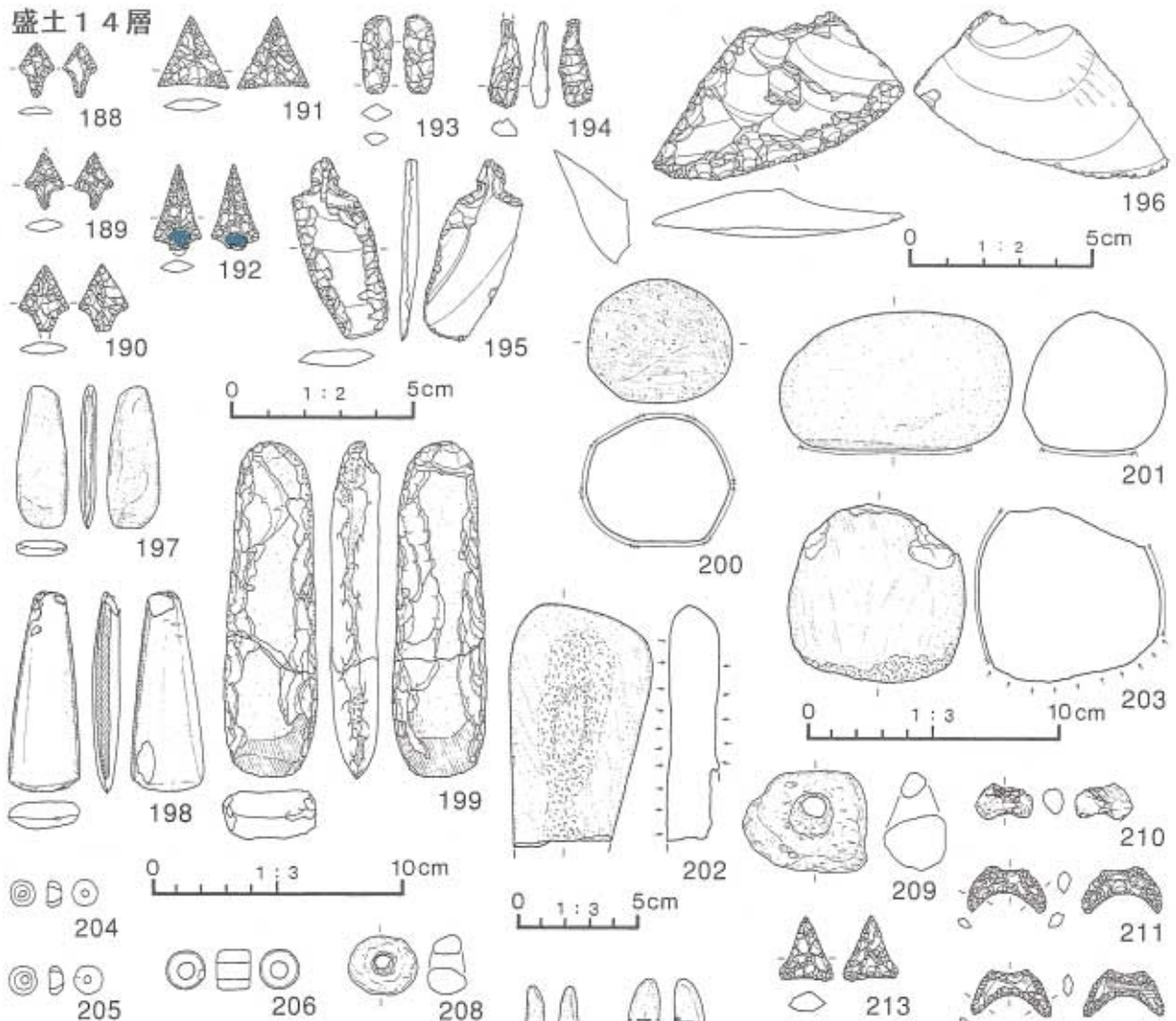


図175 盛土・包含層出土の石器 (116)

盛土14層



盛土4層



盛土29層



図176 盛土・包含層出土の石器 (117)

盛土 4 層

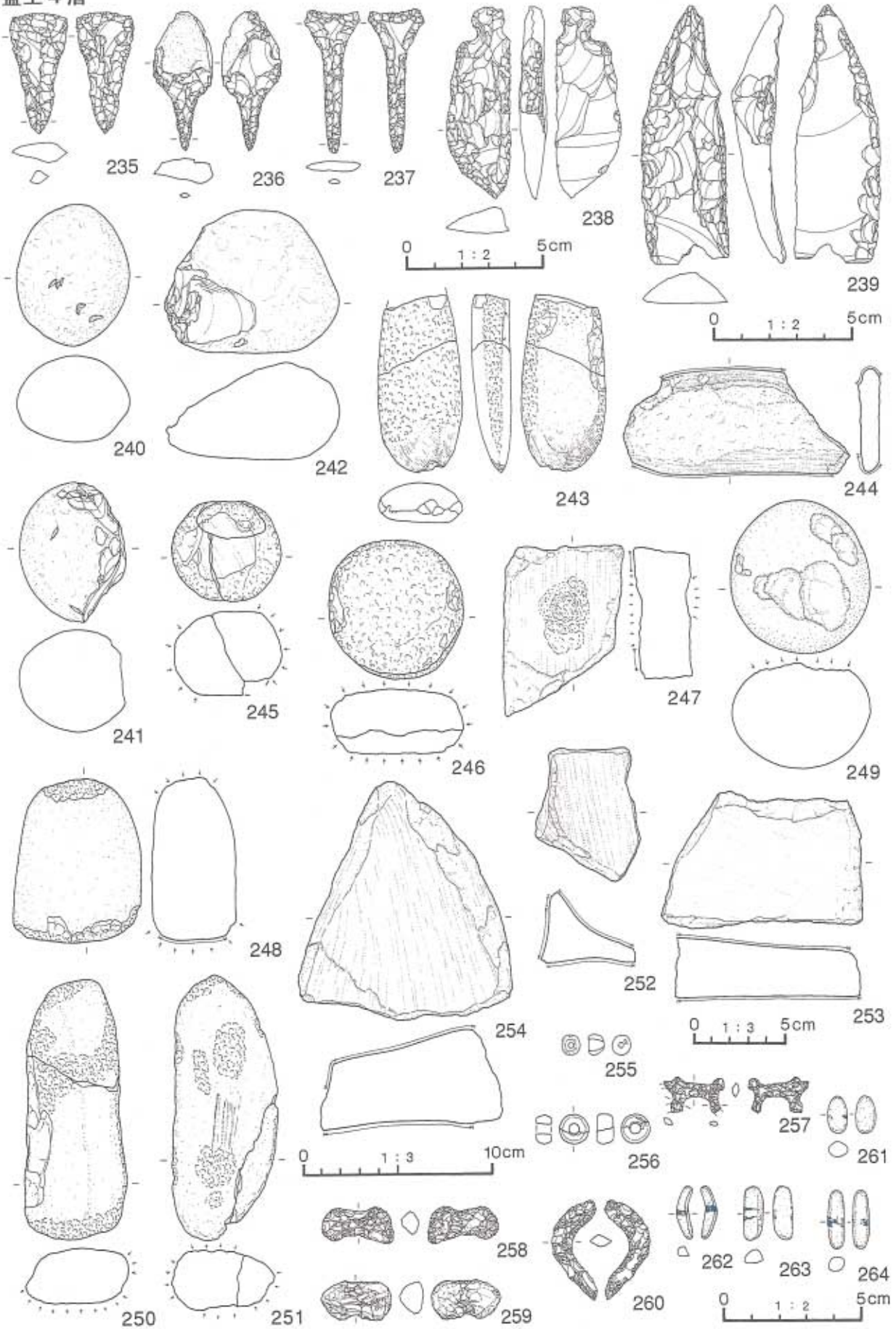


図177 盛土・包含層出土の石器 (118)

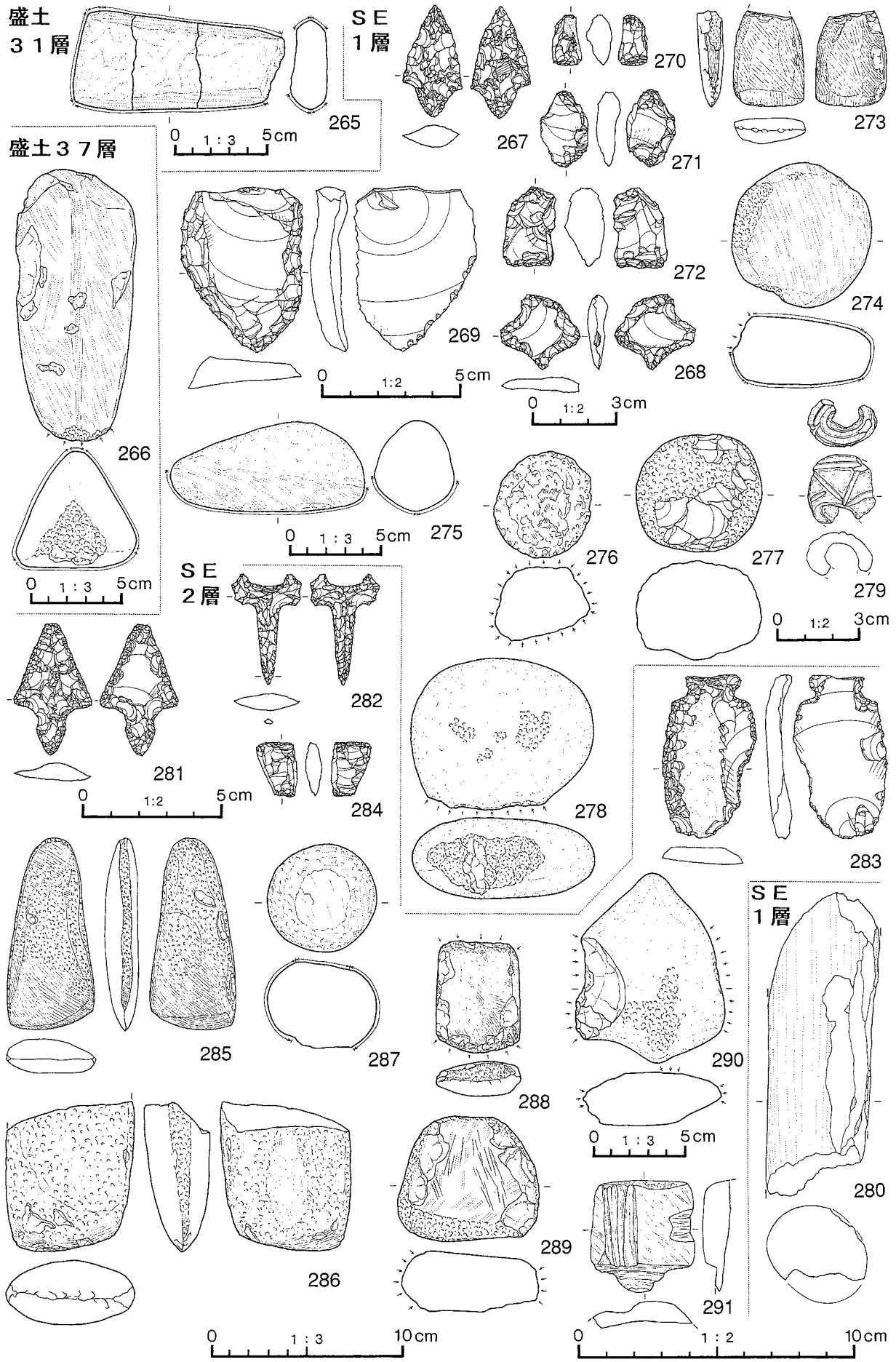
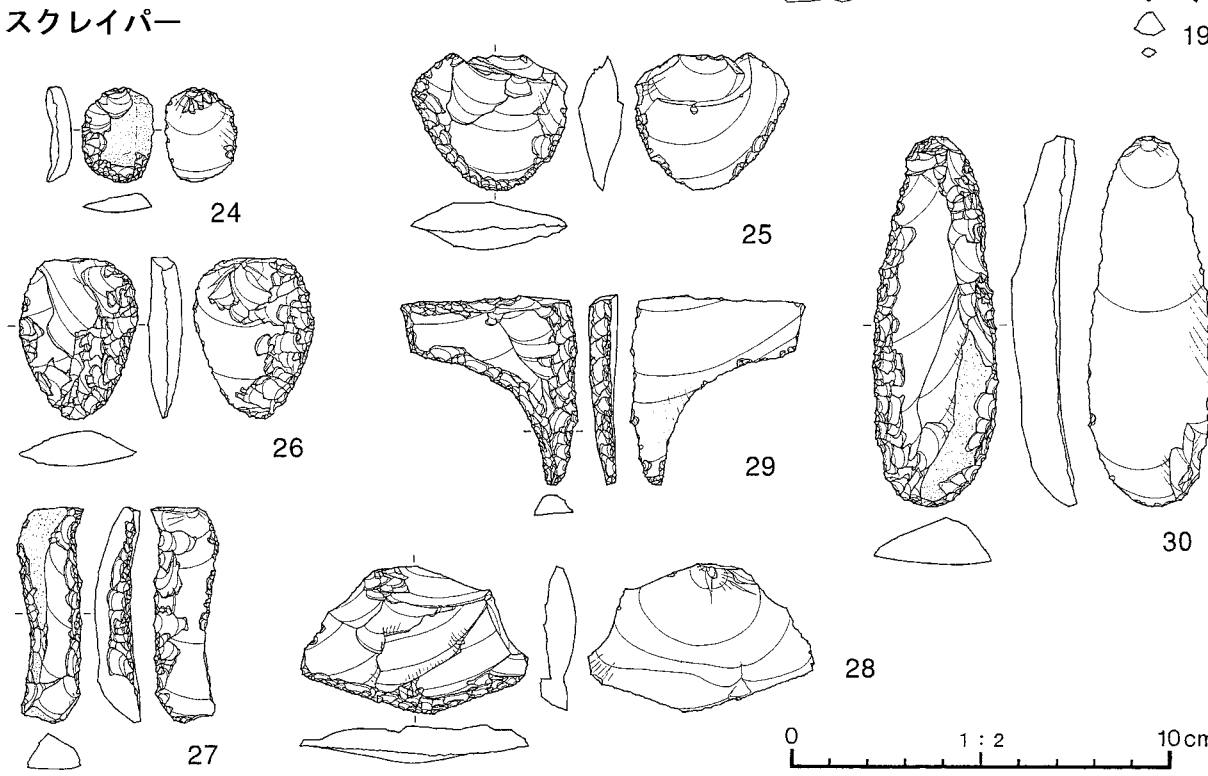
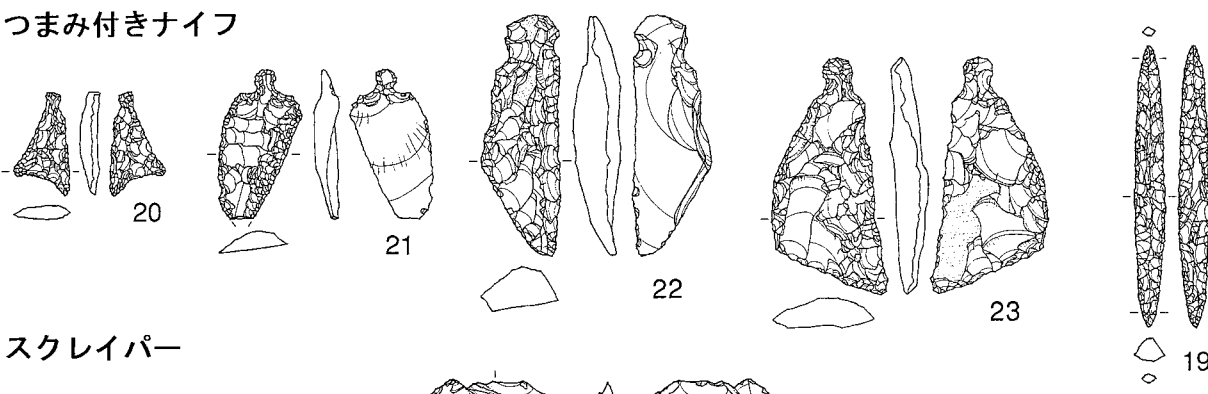
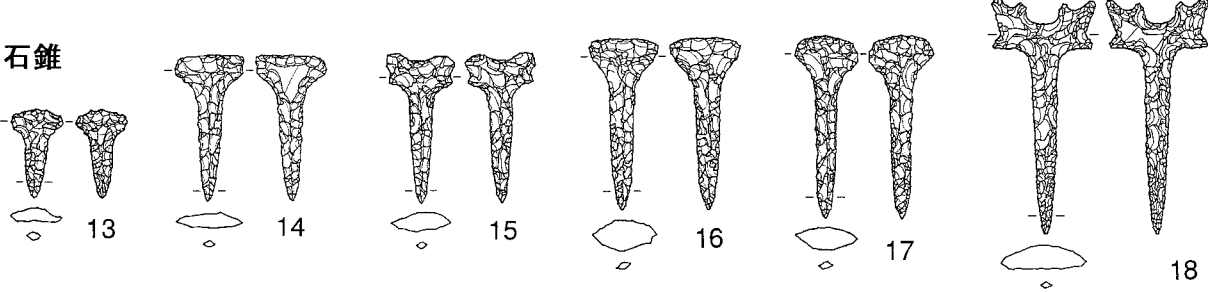
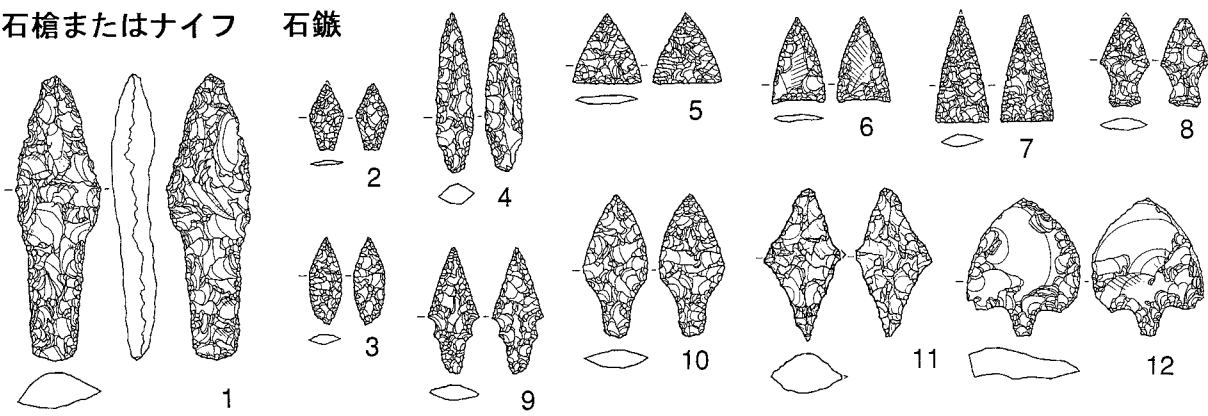


図178 盛土・包含層出土の石器 (119)

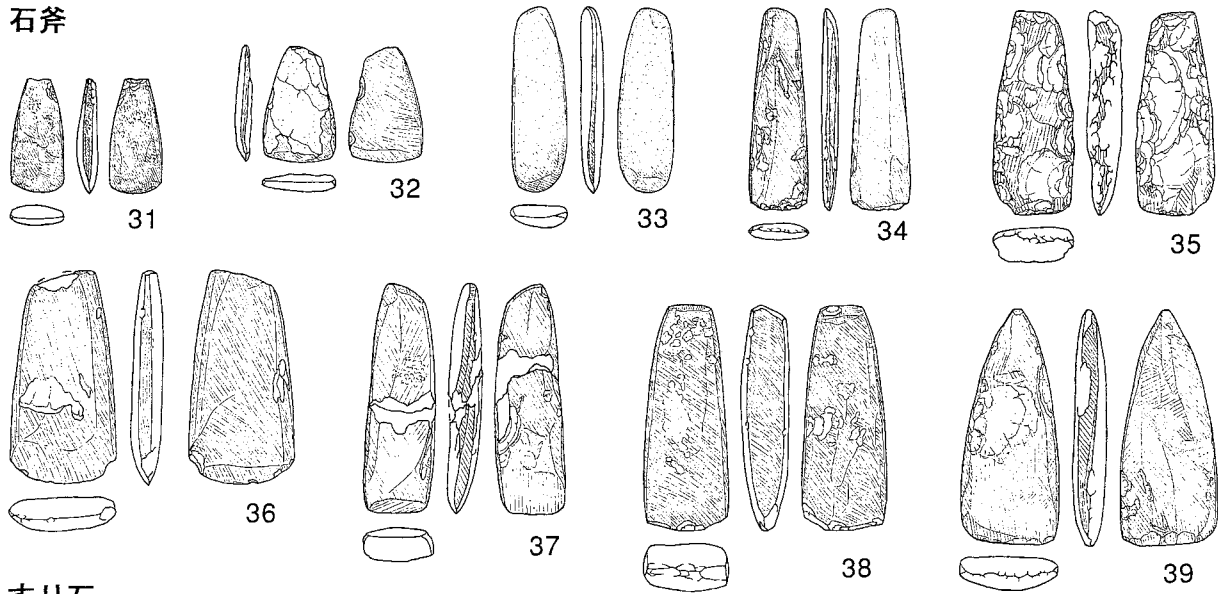
包含層出土の石器
石槍またはナイフ



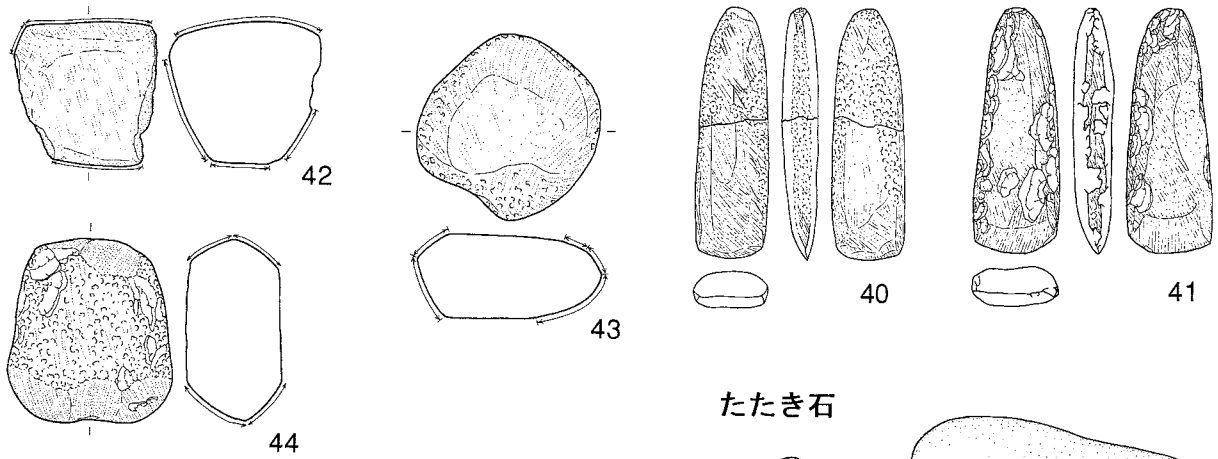
0 1 : 2 10cm

図179 盛土・包含層出土の石器 (120)

石斧



すり石



たたき石

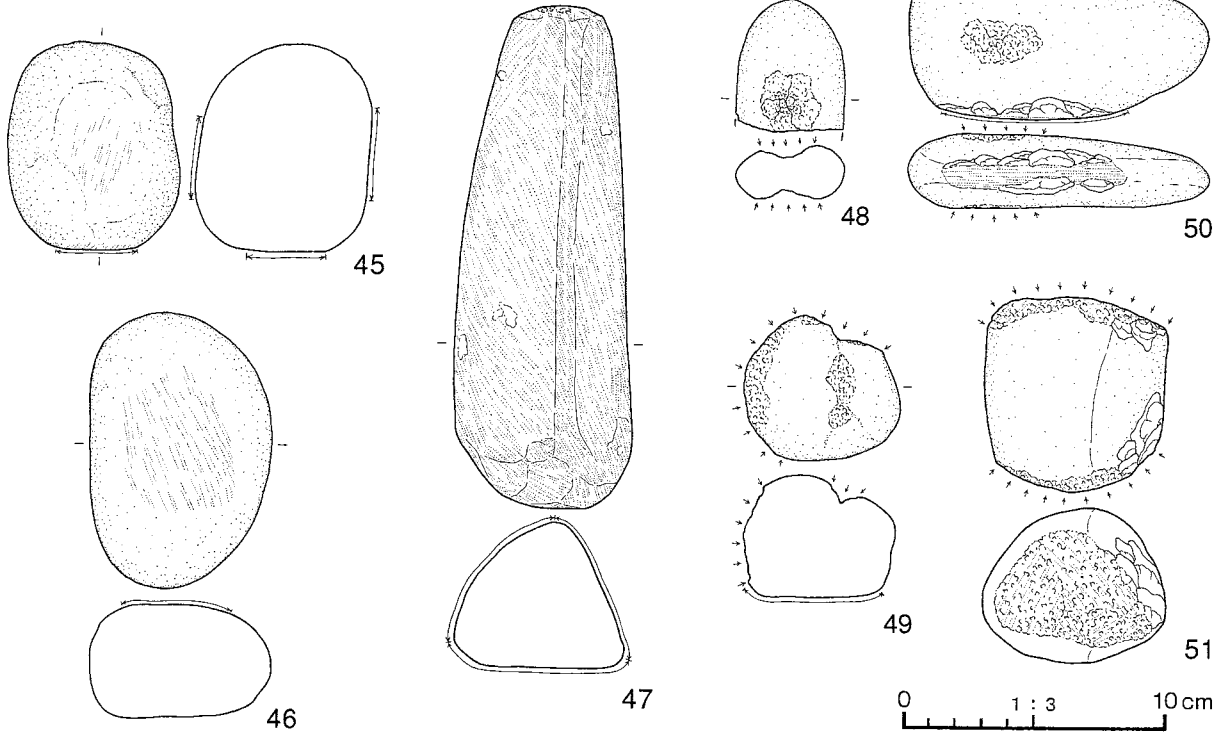
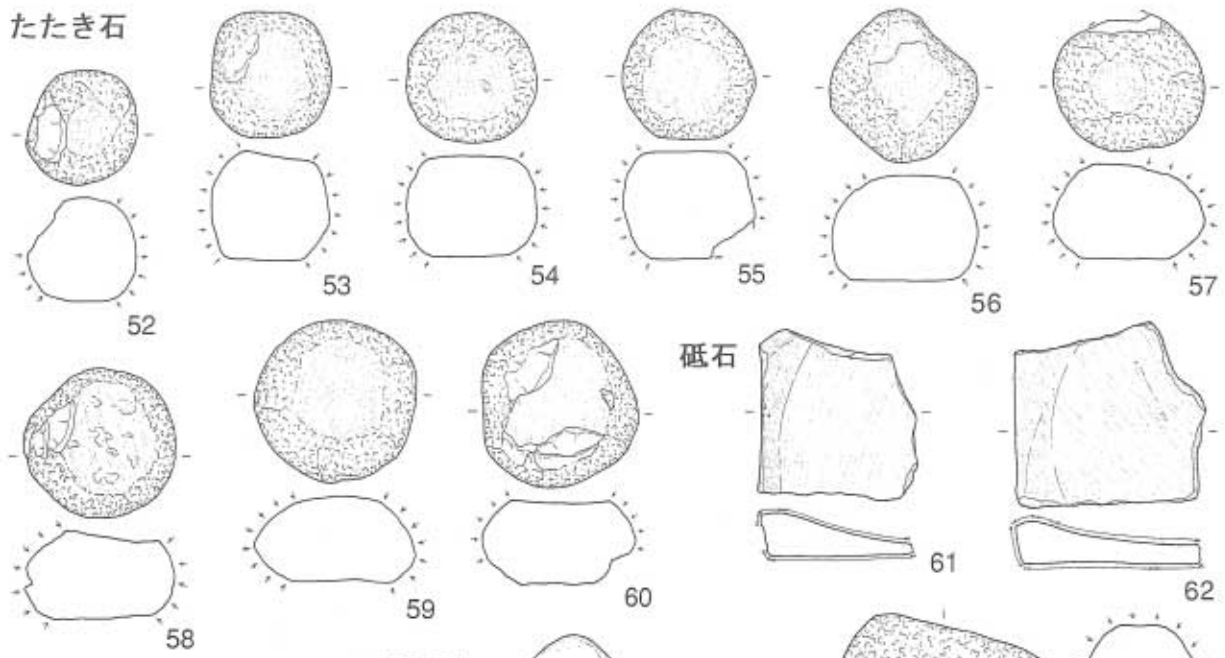
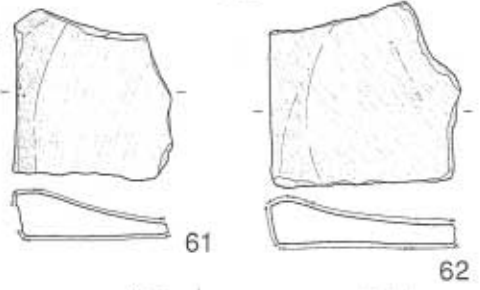


図180 盛土・包含層出土の石器 (121)

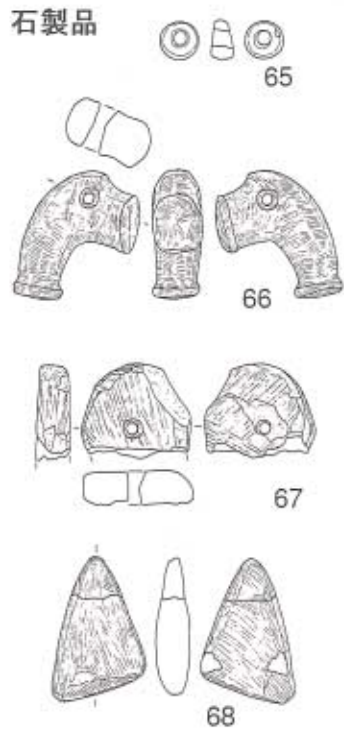
たたき石



砥石



石製品



石斧原材

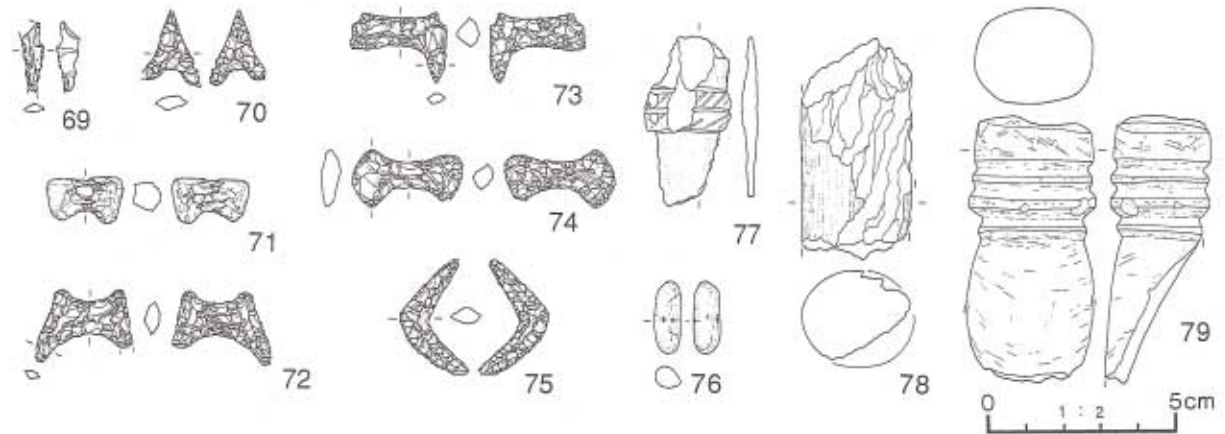
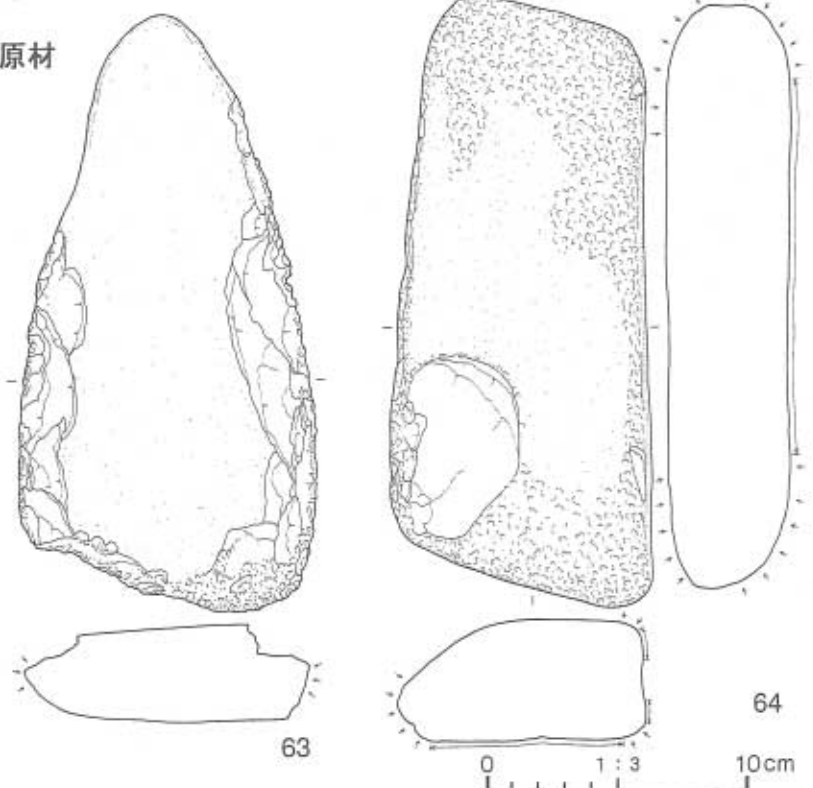


図181 盛土・包含層出土の石器 (122)

表26 盛土遺構出土掲載石器一覧(1)

盛土名	掲載No	図No	図版No	発掘区	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石材	
盛土34層	1	169	207	K 77	スクレイパー	5.8×3.6×0.8	12.53	黒曜石	
	2	169	207	K 77	石 鏃	9.0×5.1×1.3	78.47	砂 岩	
	3	169	207	M 78	石製品(玉)	0.7×0.7×0.4	0.26	ヒスイ	
	4	169	207	L 77	石製品(玉)	1.0×1.0×0.6	0.68	カンラン岩	
	5	169	207	L 77	石製品(玉)	1.1×1.0×0.6	0.86	蛇紋岩	
	6	169	207	L 77	石製品(玉)	1.4×1.4×0.9	2.45	蛇紋岩	
	7	169	207	M 79	石製品(アスファルト痕付礫)	(1.0)×0.7×0.5	0.63	泥 岩	
盛土35層	8	169	207	N 75	石槍またはナイフ	5.4×2.4×0.7	6.06	黒曜石	
	9	169	207	L 75	石錐	3.2×2.1×0.4	1.34	頁 岩	
	10	169	207	K 75	石錐	4.7×1.3×0.7	2.40	頁 岩	
	11	169	207	K 75	つまみ付きナイフ	9.0×3.0×1.0	19.77	頁 岩	
	12	169	207	L 75	たたき石	14.5×5.5×3.4	348.00	砂 岩	
	13	169	207	N 76	砥 石	9.8×6.9×5.4	362.20	砂 岩	
	14	169	207	L 75	石製品(石棒)	(5.0)×(3.2)×(2.3)	50.91	泥 岩	
盛土5層	15	169	207	L 76	石 鏃	2.8×1.4×0.3	0.84	黒曜石	
	16	169	207	N 80	石 鏃	2.7×1.1×0.2	0.81	黒曜石	
	17	169	207	N 77	石 鏃	(2.0)×1.2×0.4	0.60	頁 岩	
	18	169	207	M 77	石 鏃	(2.8)×1.4×0.5	1.05	珪質頁岩	
	19	169	207	N 76	石 鏃	(2.7)×1.3×0.6	1.51	頁 岩	
	20	169	207	N 76	石 鏃	2.8×1.3×0.4	0.79	頁 岩	
	21	169	207	M 77	石 錐	4.3×2.0×0.5	2.08	頁 岩	
	22	169	207	N 78	石 錐	4.5×1.6×0.4	1.39	頁 岩	
	23	169	208	N 77	すり石	5.0×4.9×5.0	154.6	砂 岩	
	24	169	208	L 76	すり石	5.5×5.4×4.5	231.9	カンラン岩	
	25	169	208	N 76	たたき石	5.2×5.6×3.1	163.2	泥 岩	
	26	169	208	L 75 N 79	たたき石	5.9×5.5×4.5	200.1	カンラン岩	
	27	169	208	N 77 O 77	たたき石	9.4×4.6×3.4	238.1	安山岩	
	28	169	208	L 76	たたき石	8.2×7.1×5.7	417.7	安山岩	
	29	169	208	N 78	たたき石	10.6×5.3×3.4	225.0	砂 岩	
	30	169	208	M 77 N 76	たたき石	15.7×7.0×2.7	495.5	泥 岩	
	31	169	208	N 80	砥 石	10.3×7.8×3.2	179.7	砂 岩	
	32	170	208	O 79 M 74	砥 石	16.9×10.4×5.4	1265.2	安山岩	
	(トレンチ)	33	170	207	O 79	石製品(垂飾)	(3.6)×3.1×0.4	7.00	泥 岩
		34	170	207	N 77	石製品(垂飾)	8.3×2.5×0.6	20.06	泥 岩
35		170	207	O 78	石製品(異形石器)	(3.0)×(2.3)×0.5	1.98	黒曜石	
36		170	207	O 77	石製品(異形石器)	(3.9)×(1.9)×0.5	1.54	黒曜石	
37		170	207	N 78	石製品(ミニチュア)	2.7×1.0×0.3	1.23	泥 岩	
38		170	208	N 83	石 鏃	1.8×0.7×0.2	0.12	黒曜石	
39		170	208	K 78	石 鏃	1.6×1.0×0.1	0.17	黒曜石	
盛土26層	40	170	208	L 77 O 83	石 鏃	(2.8)×0.9×0.2	0.51	黒曜石	
	41	170	208	K 78	石 鏃	3.2×1.5×0.3	1.30	黒曜石	
	42	170	208	M 78	石 鏃	1.6×1.2×0.3	0.41	メノウ	
	43	170	208	K 78	石 鏃	1.8×1.3×0.3	0.48	黒曜石	
	44	170	208	K 79	石 鏃	(2.2)×(1.3)×0.4	0.87	頁 岩	
	45	170	208	L 78	石 錐	2.5×1.0×0.7	1.45	頁 岩	
	46	170	208	K 78	石 錐	3.6×1.0×0.5	1.64	頁 岩	
	47	170	208	M 80	石 錐	4.7×2.7×0.7	6.78	頁 岩	
	48	170	208	K 78	つまみ付きナイフ	1.7×0.9×0.4	0.51	頁 岩	
	49	170	208	K 77	つまみ付きナイフ	6.3×2.8×0.9	14.96	黒曜石	
	50	170	208	K 81	つまみ付きナイフ	6.7×5.2×1.1	17.61	黒曜石	
	51	170	208	N 82	スクレイパー	7.0×2.9×1.0	11.35	黒曜石	
	52	170	208	K 78	スクレイパー	9.0×3.8×1.3	40.06	黒曜石	
	53	170	208	K 79	スクレイパー	3.2×5.7×1.2	19.36	黒曜石	
	54	170	208	K 78	スクレイパー	4.7×9.3×1.4	39.66	黒曜石	
	55	170	209	M 79	石 斧	8.2×3.5×1.1	52.79	泥 岩	
	56	170	209	K 78	石 斧	10.0×3.7×1.7	77.34	泥 岩	
	57	170	209	K 78	すり石	7.9×11.6×5.2	696.60	安山岩	
	58	170	209	N 82 K 76	たたき石	8.3×3.2×2.5	80.23	砂 岩	
	(トレンチ)	59	170	209	K 77	石製品(玉)	0.7×0.7×0.4	0.27	ヒスイ
60		170	209	K 78	石製品(玉)	0.9×0.9×0.7	0.38	不 明	
61		170	209	L 77	石製品(玉)	1.3×1.3×0.8	1.73	蛇紋岩	
62		170	209	N 83	石製品(異形石器)	(2.8)×(0.9)×0.3	0.69	黒曜石	
63		170	209	N 83	石製品(異形石器)	(3.2)×(1.2)×0.4	1.18	黒曜石	
64		170	209	L 78	石製品(アスファルト痕付礫)	1.5×1.0×0.9	1.77	泥 岩	
65		170	209	K 79	石製品(アスファルト痕付礫)	1.7×0.6×0.5	0.72	泥 岩	
66		170	209	K 78	石製品(アスファルト痕付礫)	1.8×0.7×0.5	0.84	泥 岩	
67		170	209	K 78	石製品(アスファルト痕付礫)	2.0×0.6×0.5	1.13	泥 岩	
68		170	209	L 78	石製品(アスファルト痕付礫)	2.0×0.7×(0.5)	0.80	泥 岩	

表27 盛土遺構出土掲載石器一覽(2)

盛土名	掲載No	図No	図版No	発掘区	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石材
盛土26層	69	171	209	N 83	石製品(ミニチュア)	4.9×1.2×0.5	4.81	泥岩
	70	171	209	K 78	石製品(ミニチュア)	5.7×4.3×1.1	29.64	安山岩
盛土13層	71	171	209	N 75	石 鏃	1.2×0.9×0.2	0.18	黒曜石
	72	171	209	O 77	石 鏃	1.5×0.8×0.1	0.14	黒曜石
	73	171	209	N 76	石 鏃	1.3×1.2×0.2	0.26	黒曜石
	74	171	209	N 77	石 鏃	1.6×1.0×0.3	0.31	珪質頁岩
	75	171	209	N 75	石 鏃	(3.2)×(1.2)×0.4	1.37	珪質頁岩
	76	171	209	P 76	石 錐	2.0×0.6×0.4	0.45	頁岩
	77	171	209	O 76	石 錐	2.9×1.3×0.5	1.57	頁岩
	78	171	209	O 79	石 錐	3.0×1.2×0.9	3.48	頁岩
	79	171	209	O 76	石 錐	4.3×1.2×0.7	3.67	黒曜石
	80	171	209	O 79	つまみ付きナイフ	4.7×1.5×0.6	4.67	頁岩
	81	171	209	P 74	つまみ付きナイフ	5.9×3.0×0.7	9.16	黒曜石
	82	171	209	O 74	つまみ付きナイフ	6.3×3.2×1.4	12.43	黒曜石
	83	171	209	O 74	スクレイパー	5.2×1.7×0.7	7.25	黒曜石
	84	171	209	O 77	スクレイパー	6.0×2.0×0.8	9.07	黒曜石
	85	171	209	O 79	スクレイパー	4.9×3.1×1.2	14.00	黒曜石
	86	171	209	N 80	スクレイパー	7.0×4.7×1.5	33.98	頁岩
	87	171	209	O 75	スクレイパー	2.9×5.1×1.3	13.80	黒曜石
	88	171	209	N 76	スクレイパー	6.6×6.1×1.6	48.43	玄武岩
	89	171	209	N 76	スクレイパー	3.9×4.2×0.9	7.61	黒曜石
	90	171	210	N 75	石 斧	(5.7)×3.5×1.6	51.76	泥岩
	91	171	210	O 76	石 斧	7.2×3.2×1.4	46.15	泥岩
	92	171	210	N 82	石 斧	(6.9)×5.7×2.6	153.30	泥岩
	93	171	210	O 76	石 斧	10.2×5.3×2.7	217.60	砂岩
	94	171	210	O 76	石 斧	13.6×4.7×2.3	207.60	泥岩
	95	171	210	O 73	すり石	5.0×4.5×3.9	28.56	軽石
	96	171	210	O 80	すり石	5.2×5.6×3.1	162.60	カンラン岩
	97	171	210	P 80	すり石	6.5×6.3×3.7	254.00	泥岩
	98	172	210	O 75	石 鏃	5.8×9.5×1.4	96.10	砂岩
	99	172	210	N 75	たたき石	5.8×2.8×0.7	189.90	泥岩
	100	172	210	P 79	たたき石	7.6×5.8×4.0	208.60	砂岩
	101	172	210	O 80	たたき石	7.3×7.3×5.8	123.80	軽石
	102	172	210	N 76	たたき石	(5.7)×9.3×8.1	592.50	片麻岩
(盛土5層) (I) (I) (Va)				M 76				
				O 74				
				Q 70				
(I) (I)	103	172	210	O 76	砥石	8.7×8.2×4.8	318.80	砂岩
				O 75				
				O 76				
(盛土36層) (I)	104	172	210	O 74	砥石	10.0×7.4×5.9	352.00	砂岩
	105	172	210	O 77	砥石	15.1×14.3×3.1	735.40	砂岩
				L 74				
				O 75				
(盛土5層) (IV)	106	172	211	O 74	石製品(玉)	0.5×0.6×0.4	0.15	ヒスイ
	107	172	211	N 76	石製品(玉)	0.8×0.8×0.6	0.59	ヒスイ
	108	172	211	N 76	石製品(玉)	0.9×0.9×0.7	0.51	カンラン岩
	109	172	211	O 74	石製品(玉)	1.6×1.6×2.3	7.69	蛇紋岩
	110	172	211	O 80	石製品(異形石器)	1.9×1.0×0.4	0.90	黒曜石
	111	172	211	O 80	石製品(異形石器)	2.1×1.0×0.4	1.00	黒曜石
	112	172	211	O 76	石製品(異形石器)	2.0×1.2×0.4	0.72	黒曜石
	113	172	211	N 75	石製品(異形石器)	2.1×1.5×0.3	0.81	黒曜石
	114	172	211	O 80	石製品(異形石器)	2.4×1.1×0.3	1.11	黒曜石
	115	172	211	O 76	石製品(異形石器)	2.6×1.5×0.5	1.84	黒曜石
	116	172	211	O 77	石製品(異形石器)	3.7×2.2×0.6	3.86	黒曜石
	117	172	211	O 74	石製品(アスファルト痕付礫)	1.5×0.9×0.7	1.32	チャート
	118	172	211	Q 73	石製品(アスファルト痕付礫)	1.8×0.9×0.6	1.50	泥岩
	119	172	211	N 76	石製品(アスファルト痕付礫)	(2.0)×1.0×0.7	2.01	泥岩
	120	172	211	N 76	石製品(アスファルト痕付礫)	2.3×1.1×0.7	2.52	砂岩
	121	172	211	O 76	石製品(アスファルト痕付礫)	2.4×0.9×0.4	1.63	泥岩
	122	172	211	N 75	石製品(岩偶?)	5.2×4.1×1.5	26.86	砂岩
	123	172	211	O 76	石製品(オロシガネ)	14.1×9.1×2.1	262.50	安山岩
					N 76			
					P 80			
盛土1層	124	172	218	S 66	石 錐	2.5×1.5×0.4	0.80	頁岩
	125	172	218	Q 67	石 斧	6.9×2.3×0.9	21.17	片岩
(盛土5層)	126	172	218	Q 66	たたき石	6.4×6.5×4.7	279.80	カンラン岩
				L 76				
				L 76				
				O 79				
	127	172	218	S 65	石製品(腕輪?)	(5.2)×(1.4)×0.6	4.67	泥岩
盛土23層	128	173	211	R 86	たたき石	7.1×4.9×2.5	127.30	砂岩
	129	173	211	R 86	石製品(異形石器)	(2.6)×(1.7)×0.5	1.40	黒曜石
盛土33層	130	173	211	N 77	石槍またはナイフ	4.8×2.7×0.7	6.45	黒曜石

表28 盛土遺構出土掲載石器一覽(3)

盛土名	掲載No	図No	図版No	発掘区	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石材
盛土33層	131	173	211	O 76	石 鏃	1.1×0.8×0.2	0.18	黒曜石
	132	173	211	M 77	石 鏃	2.1×1.1×0.3	0.63	黒曜石
	133	173	211	N 76	石 鏃	(2.2)×1.4×0.4	1.01	珪質頁岩
	134	173	211	M 76	石 鏃	(2.9)×1.4×0.4	1.02	頁 岩
	135	173	211	M 75	石 鏃	3.9×2.5×0.8	7.08	頁 岩
	136	173	211	N 76	石 錐	2.3×0.9×0.9	0.77	頁 岩
	137	173	211	M 75	石 錐	3.6×1.3×0.8	2.71	頁 岩
	138	173	211	N 75	石 錐	4.1×1.2×0.8	3.10	頁 岩
	139	173	211	N 77	石 錐	(5.1)×1.7×0.9	6.06	頁 岩
	140	173	211	N 75	石 錐	4.5×1.6×0.4	1.40	頁 岩
	141	173	211	N 75	石 錐	4.5×2.3×0.5	2.02	頁 岩
	142	173	212	M 76	スクレイパー	7.1×3.6×1.2	28.30	黒曜石
	143	173	212	M 76	スクレイパー	2.5×4.7×1.2	10.74	黒曜石
	144	173	212	N 77	スクレイパー	3.4×5.9×0.8	14.25	黒曜石
	145	173	212	M 76	スクレイパー	6.6×7.3×1.4	45.28	頁 岩
	146	173	212	M 76	石 斧	(5.9)×(6.6)×3.5	179.60	泥 岩
	147	173	212	M 76	石 斧	(7.9)×5.8×3.3	259.20	泥 岩
	148	173	212	N 75	すり石	(5.5)×(5.0)×(3.0)	153.80	片麻岩
	149	173	212	M 76	石製品(玉)	0.7×0.7×0.5	0.32	ヒスイ
	150	173	212	M 76	石製品(異形石器)	2.5×1.2×0.4	1.43	黒曜石
151	173	212	M 76	石製品(異形石器)	2.9×0.7×0.3	0.51	黒曜石	
152	173	212	L 75	石製品(石棒)	(7.0)×3.6×3.2	129.80	砂 岩	
153	173	212	M 75	石製品(石棒)	(14.3)×(3.3)×2.6	212.50	片 岩	
154	173	212	N 77	石製品(石棒)	(14.6)×(4.2)×2.5	210.10	片 岩	
155	174	213	M 76	台 石	21.0×17.3×(10.8)	3940.00	砂 岩	
156	174	213	M 76	台 石	22.7×17.7×8.1	4580.00	砂 岩	
157	174	213	M 76	石 皿	25.0×20.0×7.4	4720.00	砂 岩	
盛土36層	158	175	213	K 74	石槍またはナイフ	8.6×2.9×1.0	18.96	頁 岩
	159	175	213	M 75	石 錐	2.3×1.5×0.7	1.94	頁 岩
	160	175	213	M 75	石 錐	(4.7)×2.2×0.5	3.22	黒曜石
	161	175	213	N 74	石 錐	4.8×1.2×0.7	2.05	頁 岩
	162	175	213	L 75	石 錐	4.9×1.4×0.5	1.69	頁 岩
	163	175	213	L 74	つまみ付きナイフ	5.7×3.9×1.2	19.52	頁 岩
	164	175	214	M 74	すり石	5.2×5.5×3.7	188.90	カンラン岩
	165	175	214	L 75	たたき石	8.3×3.9×1.5	82.63	泥 岩
	166	175	214	M 74	たたき石	8.3×7.6×3.2	418.50	カンラン岩
	167	175	214	M 75	たたき石	6.5×6.6×5.3	288.30	安山岩
	168	175	214	N 74	たたき石	20.3×8.6×6.0	1692.10	安山岩
	169	175	214	M 74	石製品(玉)	0.7×0.7×0.3	0.29	ヒスイ
	170	175	214	M 75	石製品(垂飾)	3.4×4.8×2.7	12.84	軽 石
	171	175	214	L 74	石製品(異形石器)	1.9×1.0×0.6	1.14	黒曜石
	172	175	214	L 74	石製品(異形石器)	2.1×1.1×0.7	1.30	黒曜石
	173	175	214	N 75	石製品(異形石器)	5.0×3.2×0.9	11.30	黒曜石
	174	175	214	M 75	石製品(アスファルト痕付礫)	2.0×0.8×0.6	1.38	泥 岩
	盛土3層	175	175	214	M 76	石 鏃	1.8×0.7×0.4	0.39
176		175	214	S 68	石 鏃	2.2×1.3×0.3	0.64	黒曜石
177		175	214	S 67	石 鏃	5.0×2.5×0.6	7.95	頁 岩
178		175	214	S 66	石 錐	4.1×1.4×0.6	1.82	頁 岩
179		175	214	S 68	石 錐	4.1×1.8×0.4	1.99	頁 岩
180		175	214	Q 67	石 錐	(4.3)×(2.7)×1.2	7.69	黒曜石
181		175	215	S 65	石 斧	(9.2)×4.7×2.0	120.40	泥 岩
182		175	215	S 69	すり石	5.5×5.9×5.2	173.30	砂 岩
183		175	215	S 68	石 鋸	5.2×9.2×1.5	93.42	砂 岩
184		175	214	P 68	石製品(玉)	1.0×1.0×0.7	0.70	カンラン岩
185		175	215	S 65	石製品(垂飾)	3.1×4.0×2.1	21.65	安山岩
186		175	214	R 68	石製品(異形石器)	2.1×1.1×0.4	0.86	黒曜石
187		175	214	S 66	石製品(アスファルト痕付礫)	1.5×0.7×0.5	0.68	泥 岩
盛土14層		188	176	215	L 76	石 鏃	1.5×0.9×0.2	0.21
	189	176	215	N 73	石 鏃	(1.6)×1.1×0.3	0.20	頁 岩
	190	176	215	M 77	石 鏃	(1.8)×1.4×0.3	0.46	頁 岩
	191	176	215	O 72	石 鏃	2.0×1.9×0.3	0.75	黒曜石
	192	176	215	N 76	石 鏃	(2.4)×1.3×0.3	0.66	頁 岩
	193	176	215	N 77	石 錐	2.2×0.9×0.5	0.72	頁 岩
	194	176	215	N 78	つまみ付きナイフ	(2.4)×0.9×0.5	0.71	黒曜石
	195	176	215	N 77	つまみ付きナイフ	5.0×2.7×0.4	4.51	黒曜石
	196	176	215	N 74	スクレイパー	4.6×6.9×1.3	25.95	黒曜石
	197	176	215	N 76	石 斧	5.9×2.1×0.7	13.09	泥 岩
	198	176	215	M 76	石 斧	8.3×3.1×1.1	39.59	蛇紋岩
	199	176	215	M 78	石 斧	13.9×3.9×2.0	177.20	泥 岩
	200	176	215	S 74	すり石	5.2×5.9×5.2	272.10	泥 岩
	201	176	215	M 77	すり石	5.8×9.5×5.8	458.30	安山岩
202	176	215	R 73	たたき石	10.0×5.9×2.2	196.40	砂 岩	
203	176	215	N 76	たたき石	7.3×7.3×7.4	559.70	安山岩	
204	176	216	O 74	石製品(玉)	0.7×0.7×0.4	0.28	ヒスイ	

表29 盛土遺構出土掲載石器一覽(4)

盛土名	掲載No	図No	図版No	発掘区	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石材	
盛土14層	205	176	216	O 74	石製品(玉)	0.8×0.8×0.4	0.23	不明	
	206	176	216	M 78	石製品(玉)	1.1×1.1×0.9	1.72	カンラン岩	
	207	176	216	Q 71	石製品(垂飾)	4.9×2.5×1.0	15.57	カンラン岩	
	208	176	216	M 77	石製品(垂飾)	1.6×1.9×1.0	0.89	軽石	
	209	176	216	N 74	石製品(垂飾)	2.8×3.4×1.7	4.84	軽石	
	210	176	216	M 75	石製品(異形石器)	1.6×1.0×0.6	0.77	黒曜石	
	211	176	216	O 75	石製品(異形石器)	2.2×1.2×0.4	0.87	黒曜石	
	212	176	216	O 75	石製品(異形石器)	2.2×1.3×0.3	0.62	黒曜石	
	213	176	216	O 75	石製品(異形石器)	1.8×1.5×0.5	0.85	頁岩	
	214	176	216	L 75	石製品(アスファルト痕付礫)	1.3×0.8×0.5	0.64	泥岩	
	215	176	216	M 75	石製品(アスファルト痕付礫)	1.8×0.8×0.3	0.55	泥岩	
	216	176	216	O 74	石製品(アスファルト痕付礫)	2.4×0.7×0.3	0.57	泥岩	
	217	176	216	M 75	石製品(アスファルト痕付礫)	2.5×0.9×0.5	1.74	泥岩	
	218	176	216	L 75	石製品(礫)	1.7×0.8×0.5	0.95	泥岩	
	219	176	216	L 75	石製品(礫)	1.8×0.9×0.6	1.27	泥岩	
	220	176	216	L 75	石製品(礫)	1.9×0.8×0.7	1.67	泥岩	
	221	176	216	L 75	石製品(礫)	2.0×0.9×0.6	1.39	泥岩	
	222	176	216	L 75	石製品(礫)	2.3×0.8×0.5	1.02	泥岩	
	223	176	216	L 75	石製品(礫)	2.5×0.6×0.5	1.09	泥岩	
	224	176	216	P 75	石製品(石棒)	(6.1)×4.1×(2.0)	77.40	片岩	
	(MT 2層)	225	176	216	O 74 V 85	石製品(オロシガネ)	(10.1)×10.1×2.2	165.80	安山岩
	盛土29層	226	176	216	P 85	石斧	6.0×2.8×0.8	17.38	泥岩
	盛土4層	227	176	216	N 71	石槍またはナイフ	5.9×4.6×1.6	32.38	頁岩
		228	176	216	R 70	石鏃	2.9×1.8×0.3	0.73	黒曜石
		229	176	216	S 66	石鏃	1.9×1.4×0.3	0.43	黒曜石
230		176	216	M 71	石鏃	2.0×1.4×0.4	0.80	頁岩	
231		176	216	L 72	石鏃	2.4×1.6×0.4	1.04	頁岩	
232		176	216	N 70	石鏃	2.8×1.5×0.3	0.56	黒曜石	
233		176	216	O 70	石鏃	3.6×2.2×0.6	2.86	頁岩	
234		176	216	M 69	石錐	2.7×0.9×0.7	1.78	頁岩	
235		177	216	N 70	石錐	4.4×2.1×0.7	5.51	頁岩	
236		177	216	S 65	石錐	5.0×2.1×0.9	6.62	黒曜石	
237		177	216	M 70	石錐	5.2×2.0×0.5	2.49	頁岩	
238		177	216	N 69	つまみ付きナイフ	7.0×2.4×1.0	16.18	頁岩	
239		177	216	K 74	スクレイパー	9.4×3.2×1.6	34.73	頁岩	
240		177	216	N 70	原石	7.7×6.2×4.7	264.50	黒曜石	
241		177	216	N 70	原石	5.8×7.5×5.5	268.60	黒曜石	
242		177	216	N 70	原石	7.8×9.5×5.2	423.00	黒曜石	
(I)		243	177	217	L 71 Q 67	石斧	(9.7)×4.6×2.2	171.60	泥岩
(盛土3層)		244	177	217	S 67	石鏃	5.8×12.3×1.2	108.02	砂岩
(I)		245	177	217	M 71 R 68 O 68	たたき石	5.5×6.0×(4.7)	250.90	カンラン岩
(不明)		246	177	217	O 68 S 68	たたき石	7.8×7.3×3.6	349.90	泥岩
(盛土3層)		247	177	217	N 69	たたき石	9.3×6.6×3.2	276.40	砂岩
		248	177	217	M 72	たたき石	9.0×7.0×4.6	522.50	カンラン岩
		249	177	217	Q 68	たたき石	8.3×7.8×5.9	500.30	砂岩
		250	177	217	M 71 N 70	たたき石	14.1×5.6×3.0	433.70	泥岩
	251	177	217	L 72 M 72	たたき石	14.4×5.7×3.3	368.00	安山岩	
	252	177	217	M 72	砥石	7.2×5.7×3.9	98.46	砂岩	
	253	177	217	M 70	砥石	10.9×7.4×3.2	417.40	安山岩	
	254	177	217	L 73	砥石	12.9×11.8×6.7	792.30	砂岩	
	255	177	218	S 66	石製品(玉)	0.7×0.7×0.6	0.38	ヒスイ	
	256	177	218	S 68 S 68	石製品(玉)	1.1×1.1×0.6	0.88	蛇紋岩	
	257	177	218	R 70	石製品(異形石器)	(2.2)×1.3×3.5	0.57	黒曜石	
258	177	218	L 72	石製品(異形石器)	2.6×1.3×0.6	2.27	黒曜石		
259	177	218	L 72	石製品(異形石器)	2.5×1.4×0.9	3.12	黒曜石		
260	177	218	L 72	石製品(異形石器)	3.6×1.6×0.5	1.70	黒曜石		
261	177	218	S 65	石製品(アスファルト痕付礫)	1.4×0.7×0.5	0.84	泥岩		
262	177	218	J 75	石製品(アスファルト痕付礫)	1.9×0.5×0.4	0.58	泥岩		
263	177	218	N 69	石製品(アスファルト痕付礫)	2.0×0.8×0.5	1.05	泥岩		
264	177	218	O 71	石製品(アスファルト痕付礫)	2.1×0.6×0.5	1.02	泥岩		
盛土31層 (盛土13層) (Vb)	265	178	218	P 83 Q 74 P 82	石鏃	5.4×11.4×2.2	156.20	砂岩	
盛土37層 SE1層	266	178	218	J 74	たたき石	14.7×6.6×6.3	871.50	カンラン岩	
	267	178	218	V 73	石鏃	4.1×2.2×0.8	5.04	黒曜石	
	268	178	218	Y 75	スクレイパー	2.7×2.9×0.7	3.99	頁岩	
	269	178	218	X 74	スクレイパー	5.5×4.5×1.4	32.31	頁岩	
	270	178	218	W 75	ピエス・エスキーユ	1.8×1.0×0.9	1.76	黒曜石	

表30 盛土遺構出土掲載石器一覧(5)

盛土名	掲載No	図No	図版No	発掘区	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石材
SE1層	271	178	218	X-74	ピエス・エスキュー	2.8×1.7×0.9	3.84	黒曜石
	272	178	218	V-78	ピエス・エスキュー	2.9×1.9×1.6	7.87	黒曜石
	273	178	219	V-78	石 斧	(5.2)×3.9×1.5	45.47	泥 岩
	274	178	219	X-75	すり石	7.9×7.6×3.7	365.60	片麻岩
	275	178	219	Y-74	すり石	4.9×10.5×4.4	263.70	安山岩
	276	178	219	V-76	たたき石	5.8×5.3×4.0	187.00	カンラン岩
	277	178	219	Y-76	たたき石	6.4×6.8×5.8	327.90	頁 岩
	278	178	219	X-74	たたき石	10.0×8.7×4.5	557.50	安山岩
	279	178	218	Z-72	石製品(垂飾)	2.5×(2.5)×(1.7)	6.36	砂 岩
	280	178	218	W-75	石製品(石棒)	(11.0)×(4.1)×(2.8)	139.40	泥 岩
	281	178	219	V-75	石 鏃	4.8×2.8×0.7	5.38	黒曜石
	282	178	219	W-74	石 鏃	4.0×2.5×0.7	2.31	頁 岩
	283	178	219	W-74	つまみ付きナイフ	6.0×3.4×1.0	15.58	黒曜石
	SE2層	284	178	219	W-73	ピエス・エスキュー	2.0×1.5×0.6	1.57
285		178	219	X-74	石 斧	10.5×4.8×1.9	139.70	泥 岩
286		178	219	Z-75	石 斧	(8.1)×7.0×3.6	280.40	泥 岩
287		178	219	X-73	すり石	5.9×5.9×4.7	239.50	カンラン岩
288		178	219	V-76	たたき石	6.1×4.5×1.9	91.93	泥 岩
289		178	219	W-74	たたき石	10.3×8.2×2.9	346.40	泥 岩
290		178	219	T-77	たたき石	6.8×7.6×3.3	312.50	泥 岩
291		178	219	X-72	石製品(石棒)	(4.1)×(3.7)×(1.1)	19.52	泥 岩

表31 包含層出土掲載石器一覧(1)

掲載No	層位	図No	図版No	発掘区	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石材
1	I	179	220	I 74	石槍またはナイフ	7.6×2.3×1.2	14.22	黒曜石
2	Va	179	220	M 79	石 鏃	1.8×0.9×0.1	0.17	黒曜石
3	I	179	220	N 74	石 鏃	2.3×0.8×0.2	0.41	黒曜石
4	I	179	220	S 74	石 鏃	4.2×1.0×0.5	1.99	頁 岩
5	V	179	220	G 66	石 鏃	1.9×1.8×0.2	0.54	黒曜石
6	V	179	220	D 69	石 鏃	2.3×1.4×0.2	0.59	黒曜石
7	V	179	220	E 87	石 鏃	(2.8)×1.4×0.3	0.87	黒曜石
8	I	179	220	J 79	石 鏃	(2.3)×1.3×0.3	0.80	黒曜石
9	V	179	220	R 83	石 鏃	3.3×1.3×0.4	1.18	黒曜石
10	Vb	179	220	P 74	石 鏃	3.8×1.7×0.5	1.92	黒曜石
11	I	179	220	N 75	石 鏃	(3.9)×(2.0)×1.0	4.65	黒曜石
12	I	179	220	Y 74	石 鏃	3.7×2.9×0.9	6.21	黒曜石
13	IV	179	220	K 77	石 鏃	2.3×1.4×0.4	0.74	頁 岩
14	I	179	220	O 78	石 鏃	3.9×1.9×0.5	1.62	頁 岩
15	I	179	220	O 73	石 鏃	3.9×1.8×0.5	1.71	頁 岩
16	Va	179	220	O 77	石 鏃	4.5×1.8×0.8	2.66	頁 岩
17	I	179	220	N 76	石 鏃	4.8×1.6×0.6	2.06	黒曜石
18	I	179	220	N 76	石 鏃	6.2×2.7×0.6	3.57	頁 岩
19	I	179	220	Q 70	石 鏃	7.4×0.8×0.6	3.53	頁 岩
20	I	179	220	J 75	つまみ付きナイフ	2.2×1.5×0.5	1.35	黒曜石
21	V	179	220	I 83	つまみ付きナイフ	(4.0)×2.2×0.7	3.26	黒曜石
22	I	179	220	N 67	つまみ付きナイフ	6.3×2.1×1.2	14.37	頁 岩
23	I	179	220	P 67	つまみ付きナイフ	6.2×3.1×0.9	12.80	黒曜石
24	V	179	220	J 72	スクレイパー	2.5×1.9×0.9	2.70	黒曜石
25	V	179	220	H 78	スクレイパー	3.6×4.1×1.3	16.46	頁 岩
26	I	179	220	L 73	スクレイパー	4.3×3.2×1.0	11.03	黒曜石
27	Vb	179	220	S 65	スクレイパー	5.7×1.7×1.0	9.83	黒曜石
28	I	179	220	P 73	スクレイパー	3.9×6.0×1.0	19.50	頁 岩
29	I	179	220	Q 68	スクレイパー	5.0×4.6×0.8	11.40	黒曜石
30	I	179	220	K 71	スクレイパー	9.8×3.3×1.8	41.65	頁 岩
31	Vb	180	221	O 78	石 斧	4.5×2.1×0.8	12.04	泥 岩
32	I	180	221	N 75	石 斧	4.6×2.8×0.7	12.55	片 岩
33	I	180	221	K 73	石 斧	7.4×2.3×0.9	22.45	泥 岩
34	I	180	221	M 72	石 斧	8.0×2.4×0.7	20.64	泥 岩
35	Vb	180	221	P 77	石 斧	8.1×3.2×1.4	47.01	泥 岩
36	Vb	180	221	N 73	石 斧	(8.5)×4.2×1.3	80.39	片 岩
37	I	180	221	Q 77	石 斧	9.1×2.8×1.4	52.28	泥 岩
	Vb			R 69				
38	Vb	180	221	S 68	石 斧	8.9×3.4×1.9	106.10	泥 岩
39	VI	180	221	P 72	石 斧	9.3×3.9×1.5	71.22	泥 岩
40	I	180	221	P 68	石 斧	10.0×3.0×1.5	69.47	泥 岩
	トレンチ			R 68				
41	V	180	221	F 81	石 斧	9.7×3.4×1.6	76.53	泥 岩
42	Va	180	221	L 76	すり石	5.7×5.6×6.0	273.0	安山岩
43	Vb	180	221	S 69	すり石	7.4×7.2×3.4	272.6	泥 岩
44	IV	180	221	Q 65	すり石	7.3×6.5×3.8	307.9	泥 岩
45	I	180	221	L 72	すり石	8.2×6.9×7.0	582.0	砂 岩
46	Va	180	221	M 80	すり石	10.9×7.3×4.5	568.3	安山岩
47	I	180	221	D 70	すり石	20.1×7.0×6.4	1126.1	蛇紋岩
48	I	180	222	Q 70	たたき石	(5.2)×4.4×2.2	62.55	砂 岩
49	III	180	222	K 76	たたき石	5.8×6.2×4.8	235.3	安山岩

表32 包含層出土掲載石器一覧(2)

掲載No	層位	図No	図版No	発掘区	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石材
50	I	180	222	O 75	たたき石	11.9×6.4×2.9	273.1	砂岩
51	I	180	222	R 69	たたき石	7.7×7.3×6.1	563.4	泥岩
52	Va	181	222	S 80	たたき石	4.5×(4.4)×4.1	139.5	カンラン岩
53	Vb	181	222	P 80	たたき石	5.0×4.8×4.3	187.4	カンラン岩
54	I	181	222	S 66	たたき石	5.2×5.1×4.0	174.1	砂岩
55	Vb	181	222	Q 79	たたき石	5.1×(5.3)×4.3	208.6	カンラン岩
56	I	181	222	R 68	たたき石	6.1×5.9×4.2	245.9	カンラン岩
57	Vb	181	222	R 70	たたき石	6.1×(5.5)×3.8	180.6	泥岩
58	Va	181	222	K 79	たたき石	6.1×6.0×3.5	207.9	カンラン岩
59	I	181	222	S 68	たたき石	6.5×6.4×3.4	240.3	カンラン岩
60	I	181	222	S 73	たたき石	6.7×6.3×3.3	242.6	カンラン岩
61	I	181	222	M 75	砥石	6.7×6.2×1.7	83.29	砂岩
62	Vb	181	222	N 73	砥石	7.6×7.3×1.7	83.29	砂岩
63	Vb	181	222	P 80	石斧原材	23.5×11.8×3.8	1524.8	泥岩
64	Vb	181	222	P 80	石斧原材	24.2×10.5×5.0	2346.5	泥岩
65	Va	181	223	K 77	石製品(玉)	1.0×1.0×0.6	0.77	蛇紋岩
66	I	181	223	P 70	石製品(垂飾)	3.4×3.4×1.3	16.06	カンラン岩
67	I	181	223	J 75	石製品(垂飾)	(2.5)×2.9×0.9	10.60	カンラン岩
68	I	181	223	Q 68	石製品	3.9×2.5×0.9	10.11	カンラン岩
69	I	181	223	O 75	石製品(異形石器)	(1.8)×(0.6)×0.2	0.15	黒曜石
70	I	181	223	M 75	石製品(異形石器)	(1.9)×(1.4)×0.4	0.41	黒曜石
71	III	181	223	M 78	石製品(異形石器)	2.0×1.2×0.8	2.12	黒曜石
72	I	181	223	N 76	石製品(異形石器)	(2.6)×(1.9)×0.4	1.53	黒曜石
73	I	181	223	O 71	石製品(異形石器)	2.5×1.9×0.6	1.48	黒曜石
74	I	181	223	O 79	石製品(異形石器)	2.9×1.5×0.5	2.05	黒曜石
75	I	181	223	N 77	石製品(異形石器)	3.0×1.8×0.4	1.04	黒曜石
76	I	181	223	O 73	石製品(アスファルト痕付礫)	1.9×0.7×0.6	1.37	泥岩
77	I	181	223	P 76	石製品(石棒)	(4.5)×(2.3)×(0.5)	3.47	泥岩
78	Vb	181	223	R 76	石製品(石棒)	(5.9)×(3.0)×(2.4)	47.32	片岩
79	V	181	223	V 74	石製品(石棒)	(7.1)×(3.4)×(2.6)	75.70	泥岩

3 建物・柱穴群

表33 建物一覧

建物一覧

建物番号	分類	柱間距離	長幅比	主柱穴内面積	壁柱穴直径	壁柱穴内面積	主軸方位 (N - E)	主柱穴上端短径平均	主柱穴深さ平均
建物 1	大型	6.29	1.11	157.61			- 3.90	1.14	0.72
建物 2	大型	7.11	0.85	200.65			- 6.30	1.18	0.97
建物 3	大型	6.22	0.96	154.70			2.08	0.95	1.06
建物 4	大型	4.99	1.19	98.74			3.53	0.76	1.34
建物 5	大型	6.73	0.93	180.94			4.73	0.80	0.81
建物 6	大型	6.57	0.97	172.61			- 3.10	1.05	0.86
建物 7	中型	5.17	1.00	107.02			- 2.20	0.59	0.84
建物 8	中型	3.88	1.13	59.85	9.00	63.62	1.58	0.42	0.81
建物 9	中型	3.49	1.00	48.79	9.25	67.20	17.73	0.36	0.77
建物10	中型	3.66	1.12	53.27			1.95	0.33	0.76
建物11	小型	2.27	1.11	20.56			9.78	0.22	0.57
建物12	小型	2.19	1.01	19.10			2.45	0.35	0.50
建物13	小型	2.40	1.10	22.99			- 23.60	0.45	0.88
建物14	小型	2.62	1.13	27.31			7.50	0.44	0.93
建物15	大型	2.90	1.02	33.52			- 21.98	1.11	1.27
建物16	小型	2.22	1.02	19.67	5.82	26.60	11.63	0.20	0.54
建物17	小型	2.10	1.06	17.58			- 25.63	0.23	0.55
建物18	小型	2.10	1.09	17.65			3.90	0.26	0.67
建物19	小型	2.92	1.06	34.02			- 5.28	0.33	0.63
建物20	小型				8.24	53.33			
建物21	小型				7.18	40.49			

単位 = m m²

(1) 建物

概要

盛土遺構の南側で縄文時代後期後葉の建物跡を21軒検出した。建物19を除いて盛土遺構の下から検出したものはない。建物・柱穴群の分布はSE 1、SE 2層の分布範囲とほぼ一致する。建物の規模は柱間距離、柱穴規模により大きく3つに分化する。大型は建物1～6、15、中型は建物7～10、それ以外の建物は小型に属する。大型の建物はW72～a77の範囲に集中し、その周囲に小型の建物が分布する。大型の建物1～6は重複しており、主柱穴に抜き取り痕がみられることから、短期間に何度も建て替えを行ったものと考えられる。建物同士の先後関係は主柱穴、出入口を構成する柱穴の切り合い関係で決定した。(図182)

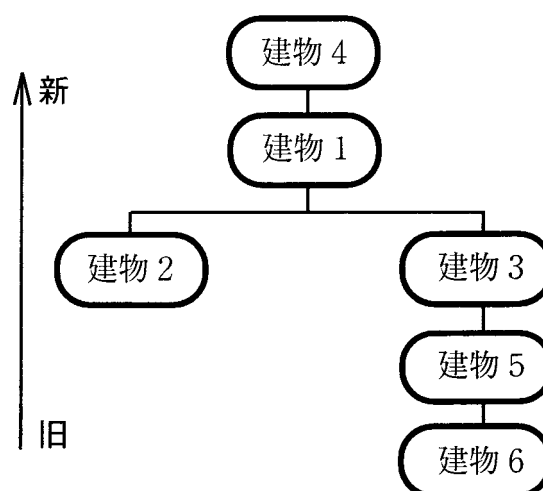


図182 建物新旧関係模式図

建物の方位はおおむね真北 - 南に沿うが、建物13、15、17は22~26°程度、西に振れる。これらの建物は重複せず、ほぼ等間隔で並ぶことから、同時に存在した一連の建物群の可能性が高い。あくまでも後期後葉の時期の範疇ではあるが、他の建物とは時期が異なる可能性が高いと考えている。

建物を構成する支柱穴は直径1m、深さ1.5m程度から直径0.3m、深さ0.2m程度まで幅がある。今回の調査では柱穴は半裁して断面の観察を行ったが柱痕を殆ど見いだすことができなかった。一方、大型の柱穴には後から掘り返した痕跡をもつものが多い。柱痕跡が無いこと、同じ場所で集中して建て替えが行われていることから、柱の抜き取りが行われていたものと推測する。

炉跡としたものはSE1、SE2層中で検出した焼土群である。これらの焼土はその分布域が建物の密集域と重なることから、建物にともなう炉跡と考えた。建物は掘り込みをもたないため、それぞれの焼土が帰属する建物の認定は、焼土と建物との位置関係のみによる。炉の位置は建物の中央より出入り口に近く、東側に片寄る。

出入り口は同じ規模、形状のピットが2つ一組で並ぶもので、形状は円形、楕円形がある。グリッドX75、76には建物3~6の出入り口を構成するピットが集中し、いくつも切り合っている。

建物の時期は全て縄文時代後期後葉と考えている。

最後に建物の属性同士の関係および個々の建物の特徴を、因子分析を用いて概観する。なお、建物20、21は支柱穴を検出していないため、除外してある。因子分析における因子の抽出は主因子法により、バリマックス法による直交変換を行った。抽出する因子数はもとの分散の75%を説明できる因子数とした。

因子分析の結果、二つの因子が抽出された。因子1と2で全ての変動量の76.7%を説明できる(表34)。因子に対する個々の変数の影響力を示す因子負荷量は、因子1では長幅比を除く全ての変数が正の値をとる。特に柱間距離、支柱穴内面積、支柱穴直径が大きな値をとる(図183)。柱間距離、支柱穴内面積は建物規模と呼び変えることができるもので、規模の大きな建物ほど支柱穴の直径が大きいことを示している。これは大きな建物ほど巨大な柱を必要とするので、当然の結果である。一方、支柱穴の深さは因子1の因子負荷量においてさほど大きな値をとらない。このことは、規模の大きい建物に大きな柱を据える場合でも、さほど深く掘り込んではいないことを示す。おそらく、En-aローム、パミスで構成されるⅦ、Ⅷ層が堅くしまっているため、柱穴の深さをある程度確保することにより、太い柱でも安定して据えることができたためと考える。主軸方位の因子負荷量はわずかに正の値をとるが、因子1にはほとんど影響を与えていない。長幅比は因子1において、唯一負の値をとる。これは建物規模と負の相関関係にあることを示している。相関行列からも長幅比が柱間距離、支柱穴内面積、

表34 固有値と寄与率

	固有値	寄与率	累積寄与率
因子1	3.362	0.560	0.560
因子2	1.243	0.207	0.767

表35 相関行列

	柱間距離	長幅比	支柱穴内面積	主軸方位	支柱穴直径	支柱穴深さ
柱間距離	*					
長幅比	-0.505	*				
支柱穴内面積	0.992	-0.563	*			
主軸方位	0.074	0.026	0.051	*		
支柱穴直径	0.809	-0.441	0.812	-0.255	*	
支柱穴深さ	0.421	0.009	0.369	-0.191	0.647	*

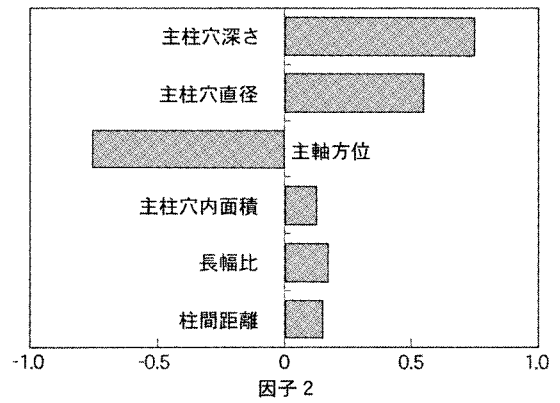
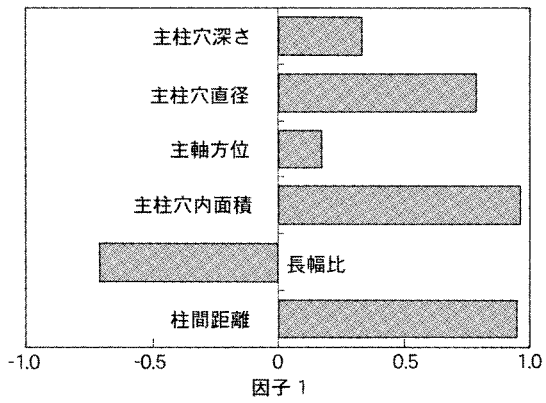


図183 因子負荷量グラフ

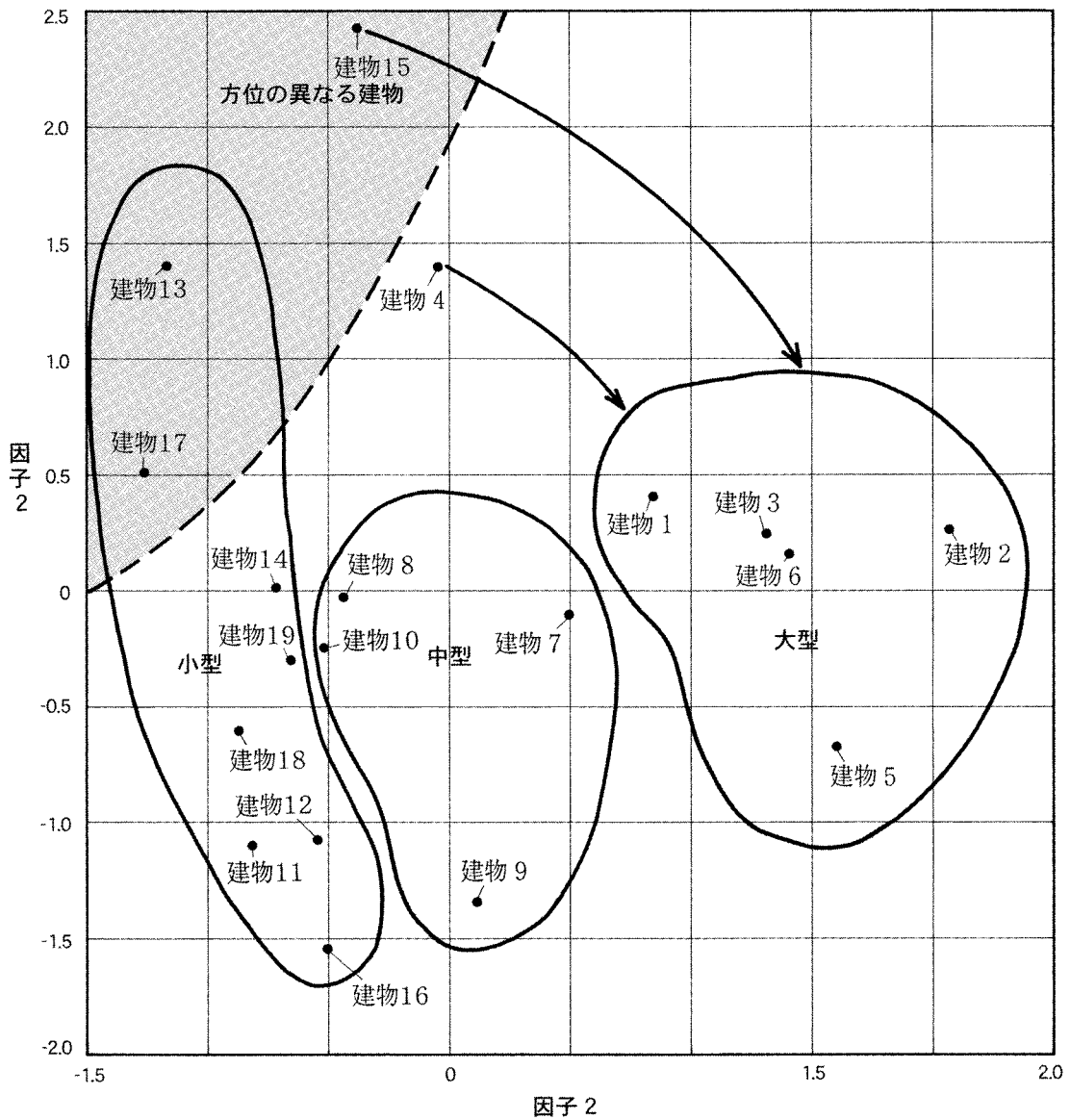


図184 因子得点散布図

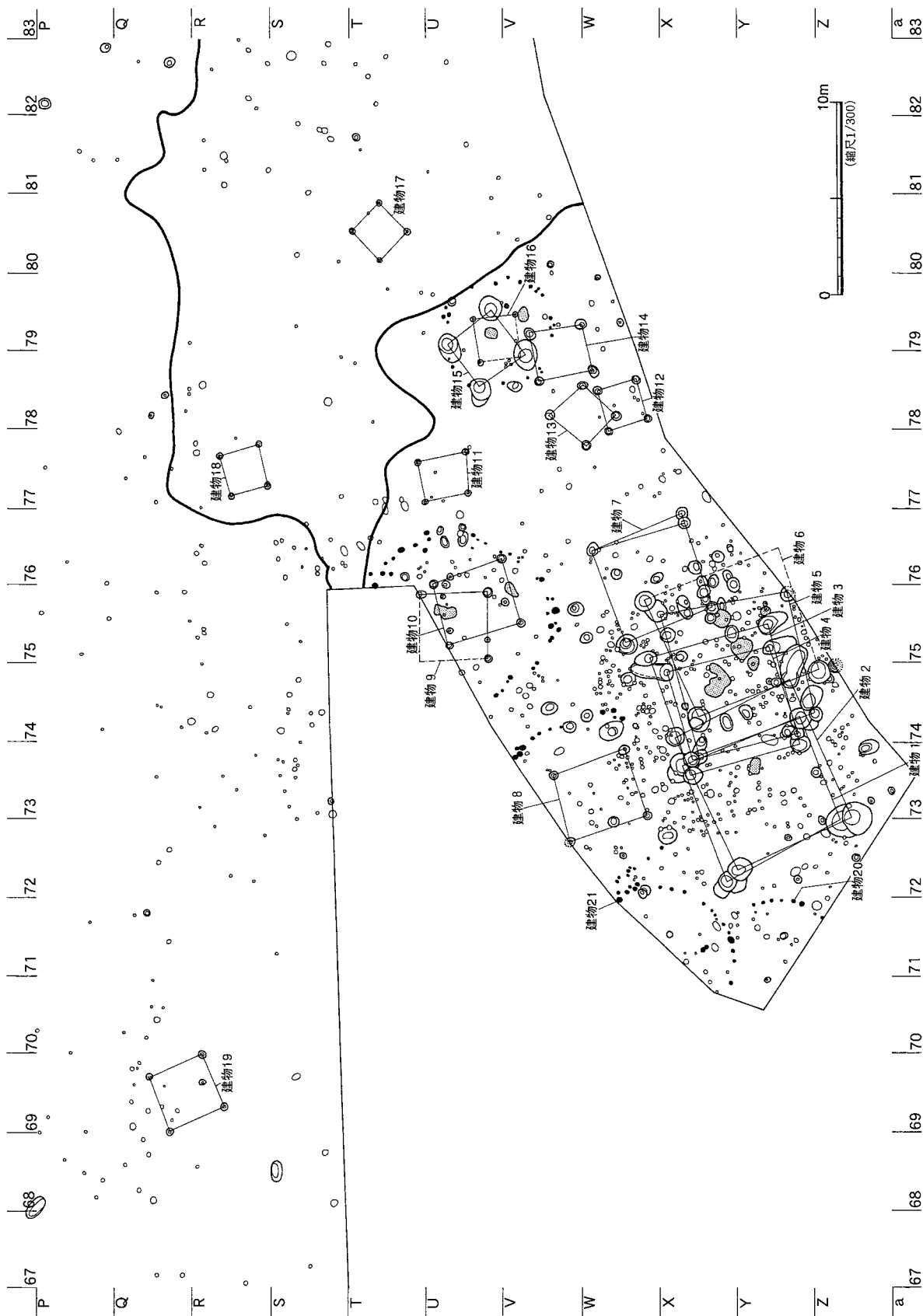


図185 建物配置図

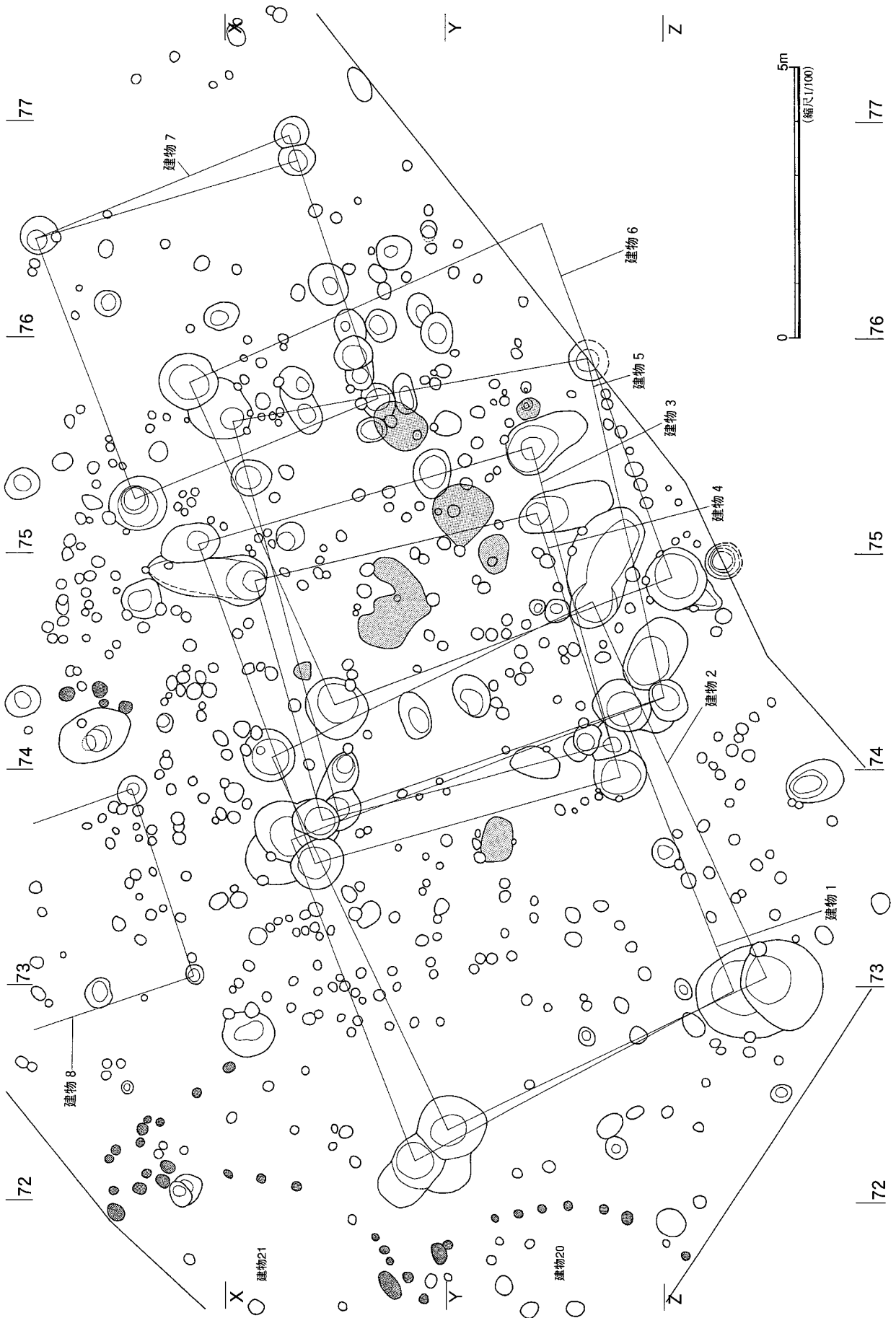


图186 大型建物密集区

主柱穴直径とやや強い負の相関関係にあることがわかる(表35)。このことは主柱を正方形に配列しようとした場合、規模の小さな建物ほど誤差が大きくなるためと理解できる。

因子2では柱穴の深さ、主柱穴直径が正の値をとり、主軸方位が負の値をとる。その他の変数はほとんど影響を及ぼしていない(図183)。因子2では主軸方位が柱穴の深さ、主柱穴直径と負の相関関係にあるように見えるが、相関係数をみると主軸方位と強い相関関係を持つ変数は存在せず、この負の相関関係は見かけのものであることがわかる(表35)。

以上の因子分析をもとに個々の建物の因子得点を算出した(図184)。規模の大きい建物が右側にプロットされ、小さい建物が左側にプロットされる。建物1～6の大型建物は右側にプロットされ、建物7～10の中型の建物は中央、小型の建物は左側にプロットされる。中型の建物と小型の建物の差が目立たないが、大型の建物と中・小型の建物の差が、相対的に大きいためであろう。方位が他の建物と異なっている、建物13、15、17はグラフの左上にプロットされる。(石井淳平)

建物 1

概要

柱間距離6.29m、主柱穴内面積157.61m²の大型の建物である。直径が1m前後、深さが1mをこえる4本の主柱穴が正方形に配列される。柱穴の直径と比べ、深さが比較的浅いことが特徴である。建物の東側

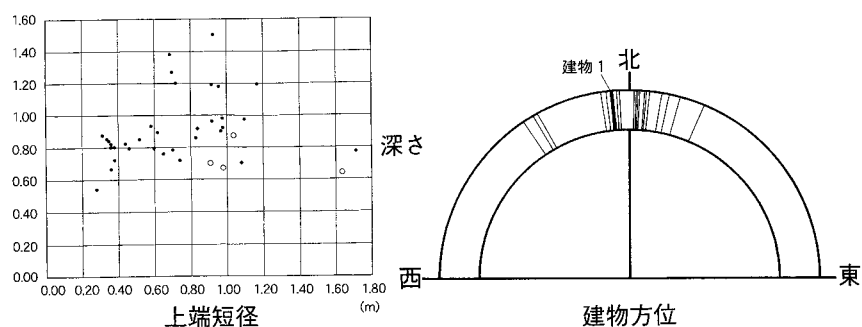


図187 建物1の主軸方位と主柱穴の規模

にあるP-5、6を出入口を構成する柱穴と推定した。建物の中央より1/3ほど東にSE2層中で検出したF-37があり、これ炉跡と推定した。また、建物2がほぼ同位置にあるため、F-37がどちらの建物に帰属するものか判断できなかったため、F-37は両方の図面に炉跡として掲載した。

建物2～6と重複し、主柱穴であるP-2が建物2の主柱穴であるP-8を切って掘り込まれること、同じく主柱穴であるP-4が建物4の主柱穴であるP-17に切られ、建物3の主柱穴であるP-11を切って掘り込まれていることから、建物2、3より新しく、建物4より古い。建物2がほぼ同じ位置にあり、柱穴の規模や柱間距離、主軸方位が似通っていることから、建物1は建物2を建て替えたものであろう。

主柱穴

P-1 平面形は上端が北に広がる楕円形で、下端の平面形は円形である。壙底はほぼ平らでやや開き気味に立ち上がる。P-7と切り合っているが、半裁する方向が適切でなかったため、切り合いは不明である。柱痕、抜き取り痕は確認できないが、上端と下端の平面形が異なっており、これは柱の抜き取りの際の攪乱によるものと考えられる。

P-2 平面形は上端が楕円形、下端が円形である。壙底はほぼ平らでやや開き気味に立ち上がり、断面の半ば付近から壙口にかけて大きく開く。P-8を切る。土層9、10が柱穴掘形、1～7が抜き取り痕である。

P-3 平面形は上端が南西に広がる楕円形で、下端は円形である。壙底はほぼ平らで開き気味に立ち上がる。P-18、22、93と切り合うが、半裁する方向が適切でなかったため、切り合いは不明である。土層7～11が柱穴掘形、1～6が抜き取り痕である。

P-4 平面形は円形で、壙底は平らである。凹形に湾曲しながら立ち上がる。P-17を切って掘り込まれ、P-11に切られる。P-17に大きく切られているため、柱痕、抜き取り痕は確認できない。

出入口

P-5 平面形は楕円形で壙底は丸みをおびる。

P-6 平面形は楕円形で壙底は丸みをおびる。出入口を構成する柱穴とは考えていなかったため、断面図は作成していない。完掘後にP-5とセットで出入口を構成することに気づいた。

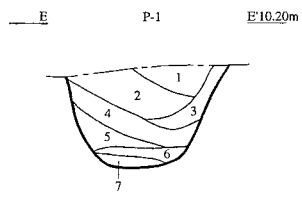
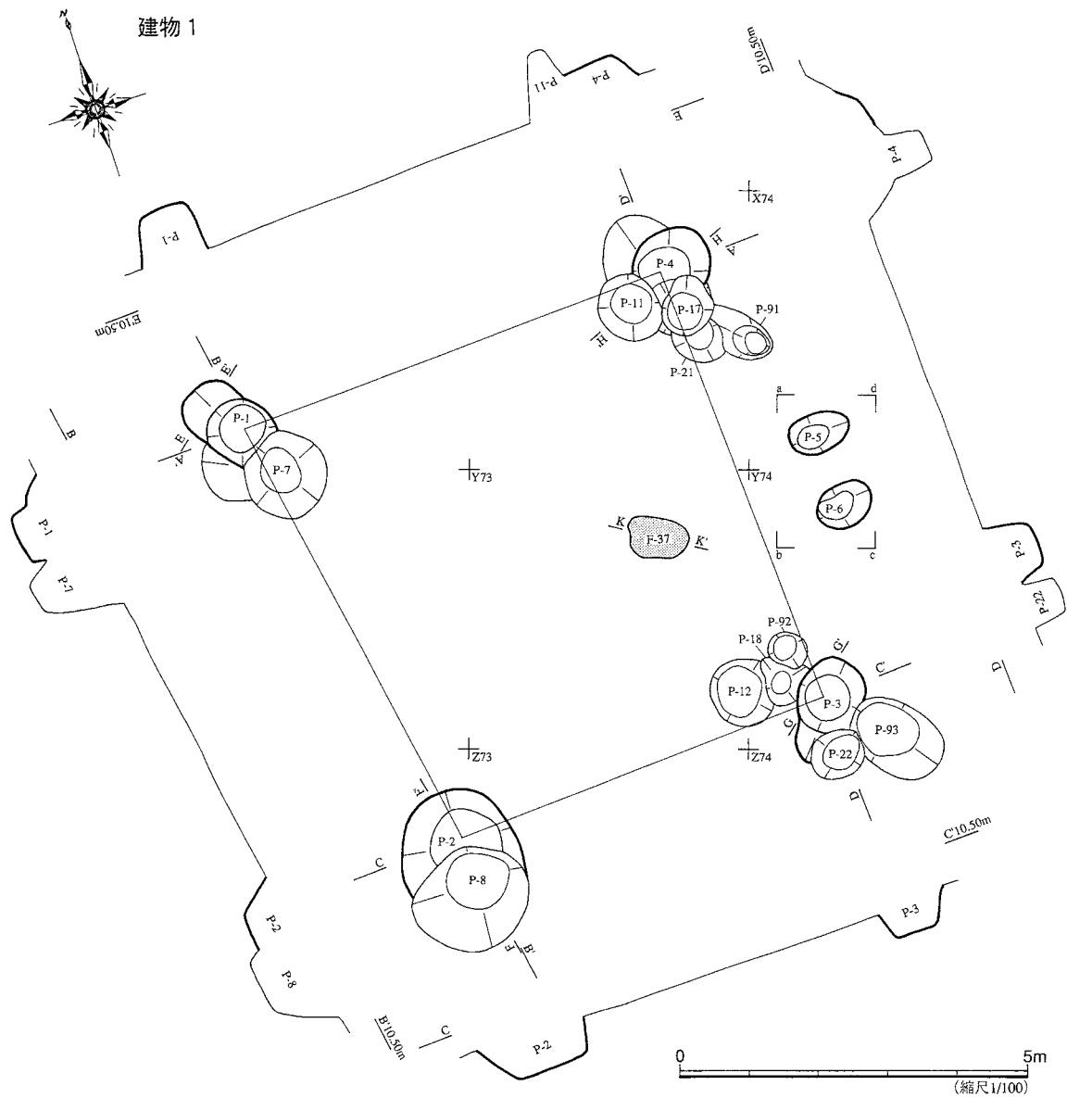
壁柱穴

検出していない。

炉跡

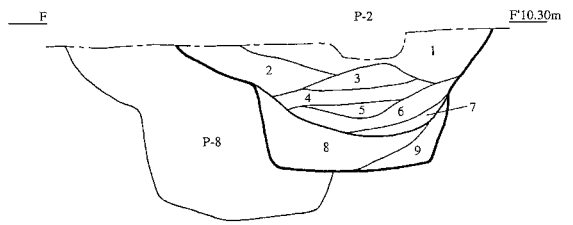
F-37を炉跡と判断した。

(石井淳平)



P1の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/3	暗褐色土			
2	10YR4/4	褐色土	ややソフト		
3	10YR3/3	暗褐色土			
4	10YR4/3	にぶい黄褐色土			
5	10YR3/3	暗褐色土		2がやや黒ずんだもの	
6	10YR3/2	黒褐色土		やや粘性あり	
7	10YR4/4	褐色土		細かいEn-aバミスを多量に含む	



P2の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	7.5YR1.7/1	黒色土		Ta-cを含む	抜き取り
2	7.5YR2/2	黒褐色土		粒の粗いEn-aバミスを含む	抜き取り
3	10YR2/3	黒褐色土		粒の粗いEn-aバミスを含む	抜き取り
4	10YR2/2	黒褐色土		粒の粗いEn-aバミスを少量含む	抜き取り
5	7.5YR3/2	黒褐色土		粒の粗いEn-aバミスを含む	抜き取り
6	10YR2/3	黒褐色土		粒の粗いEn-aバミスを含む	抜き取り
7	7.5YR3/2	黒褐色土		粒の細かいEn-aバミスを含む	抜き取り
8	10YR2/2	黒褐色土		粒の細かいEn-aバミスを少量含む	掘形
9	10YR4/4	褐色土		粒の細かいEn-aバミスを少量含む	掘形

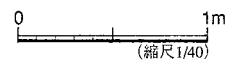
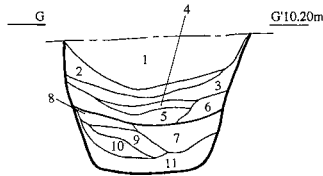
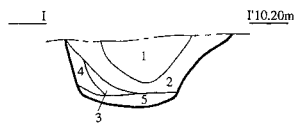
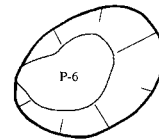
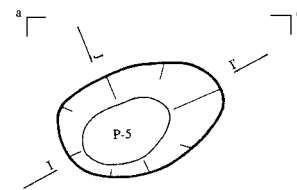


図188 建物1 (1)



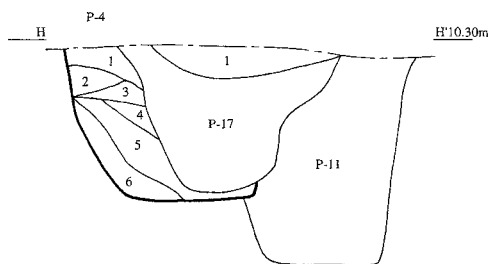
P3の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/4	暗褐色土	ややハード	En-aバミスをやや多く含む	抜き取り
2	10YR3/3.5	暗褐色土		En-aバミスを多く含む	抜き取り
3	10YR4/4	褐色土		細かいEn-aバミスをやや多く含む	抜き取り
4	10YR5/5	黄褐色土		細かいEn-aバミス主体で、En-aロームを少量含む	抜き取り
5	10YR3/2.5	暗褐色土		En-aバミスを少量含む	抜き取り
6	10YR4/4	褐色土		En-aバミスを多く含む	抜き取り
7	10YR5/6	黄褐色土		En-aバミスの純層	掘形
8	10YR4/3.5	褐色土		En-aバミス主体で、En-aロームを多く含む	掘形
9	10YR2.5/3	黒褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、En-aロームを少量含む	掘形
10	10YR2/3	黒褐色土	ややソフト	En-aバミスをやや多く含む	掘形
11	10YR4/6	褐色土	ややハード	En-aバミスをやや多く含む	掘形



P5の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/2	黒褐色土		En-aバミスを多く含む	
2	10Y2/3	黒褐色土		En-aバミスを多く含む。1よりもEn-aバミスの量が多い	
3	10YR4/3	にぶい黄褐色土		M層土とEn-aバミスの混土	
4	10YR3/3	暗褐色土		V層とM層の混土主体で、En-aバミスを少量含む	
5	10YR4/6	褐色土	ハード	V層土とEn-aバミスの混土	



P4の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR4/3	にぶい黄褐色土		En-aバミスを多く含む	
2	10YR3/3.5	暗褐色土		やや粘質、粒子が細かく均質な土主体で、En-aバミスを極少量含む	
3	10YR4/4	褐色土	ややソフト	En-aロームに黒色土とEn-aバミスを少量含む	
4	10YR3.5/4	暗褐色-褐色土		やや粘質、En-aバミスをやや多く含む	
5	10YR3/4	暗褐色土		粒の細かいEn-aバミスを多く含む	
6	10YR3/4	暗褐色土	ややソフト	汚れた粒の細かいEn-aバミス主体で、黒色土とEn-aバミス少量含む	
7	10YR4/6	褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、黒褐色土少量含む	

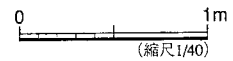
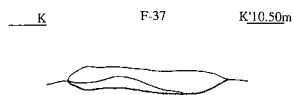


図189 建物1 (2)

建物 2

概要

柱間距離7.11m、主柱穴内面積200.65m²の大型の建物である。直径が1m前後、深さが1mをこえる4本の主柱穴で構成され、東西方向にやや長い正方形に配列される。柱穴の直径に比べ、深さが比較的浅い

ことが特徴である。建物1と規模や主柱穴の規模が似通っているが、建物1より主柱穴が深い傾向がある。建物の中央よりやや東寄りにSE2層で検出したF-37があり、これを炉跡と推定した。また、建物1がほぼ同位置にあり、F-37がどちらの建物に帰属するものか判断できなかったため、F-37は両方の図面に炉跡として掲載した。

建物1、3～6と重複し、主柱穴であるP-8が建物1の主柱穴であるP-2に切られることから、建物1より古い。建物1がほぼ同じ位置にあり、柱穴の規模や柱間距離、主軸方位が似通っていることから、建物2を建て替えたものが建物1であろう。

主柱穴

P-7 平面形は上端が北西に広がるひょうたん形で、下端は円形である。壙底は丸みを持ち、やや開き気味に立ち上がる。P-1と切り合っているが、半裁する方向が適切でなかったため、切り合いは不明である。柱痕、抜き取り痕は確認できないが、上端と下端の平面形が異なり、これは柱の抜き取りの際の攪乱によるものと考えられる。

P-8 平面形は上端がやや南西に広がる楕円形で、壙底はやや丸みをもつ。P-2に切られる。土層4～6が柱穴掘形、1～3が抜き取り痕である。

P-9 平面形は細長い楕円形である。北西端が本来の柱穴で、抜き取りにより、形状が大きく変わっている。壙底はやや丸みをもつ。南東側が緩やかな登り勾配で立ち上がり、その他はやや開き気味に立ち上がる。半裁したラインが遺構の中心を通らないため、断面からは柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P-10 平面形は円形で、壙底は平らである。ほぼ垂直か、やや開き気味に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

出入り口

検出していない。

壁柱穴

検出していない。

炉跡

F-37を炉跡と判断した。

(石井淳平)

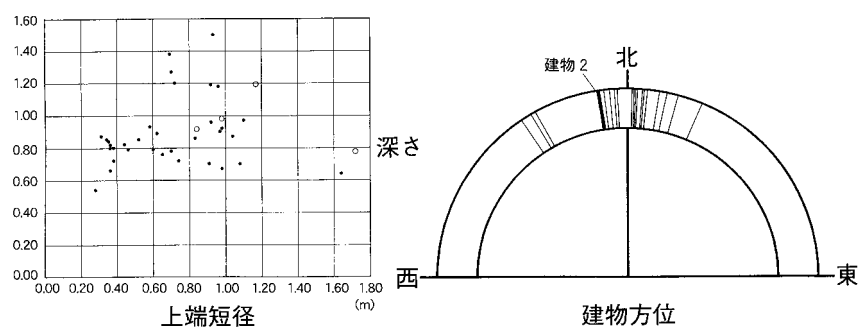
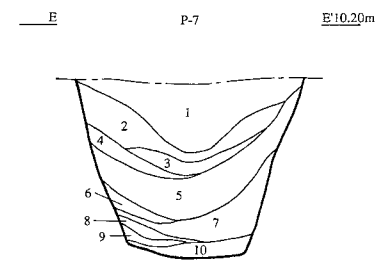
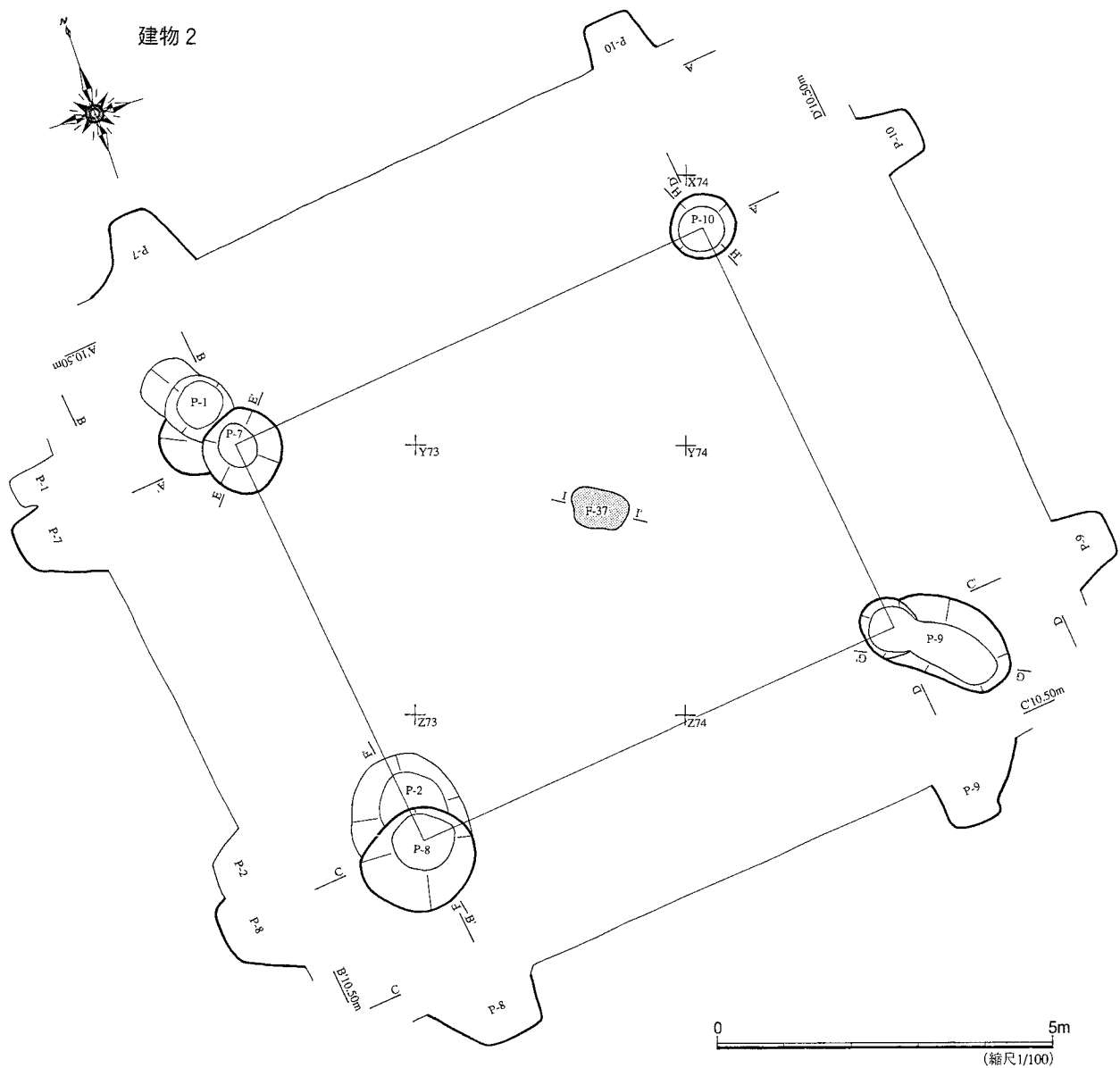
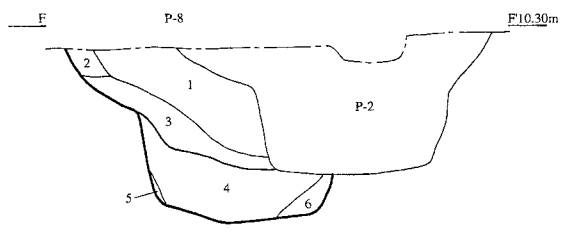


図190 建物2の主軸方位と主柱穴の規模



P7の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/4	暗褐色土		V層とVI層の混土主体で、En-aバミスを多く含む	
2	10YR4/4	褐色土	ソフト	V層とVI層の混土主体で、En-aバミスを多量に含む	
3	10YR3/4	暗褐色土	ややソフト	IV層とV層の混土主体で、IV層の割合が多い En-aロームを多く含む	
4	10YR6/4	にぶい黄褐色土	ソフト	V層とVI層の混土主体で、En-aバミスを多く含む	
5	10YR6/3	にぶい黄褐色土	ハード	ほぼ純粋なEn-aバミス主体	
6	10YR5/6	黄褐色土		細かいEn-aバミスを多く含む	
7	10YR6/3	にぶい黄褐色土	ハード	V層とVI層の混土主体で、En-aバミスを多く含む	
8	10YR3/2	黒褐色土	ソフト	V層とVI層の混土主体	
9	10YR5/6	黄褐色土		細かいEn-aバミスを多く含む	
10	10YR6/3	にぶい黄褐色土	ハード	V層とVI層の混土主体で、En-aバミスを多く含む	



P8の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	5YR3/1	黒褐色土		En-aバミスを多量に含む	抜き取り
2	10YR3/4	暗褐色土			抜き取り
3	10YR2/2	黒褐色土		粒の粗いEn-aバミスを少量含む	抜き取り
4	10YR3/2	黒褐色土		En-aバミスを含む	掃形
5	10YR3/4	暗褐色土			掃形

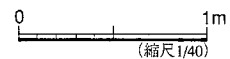


図191 建物2 (1)

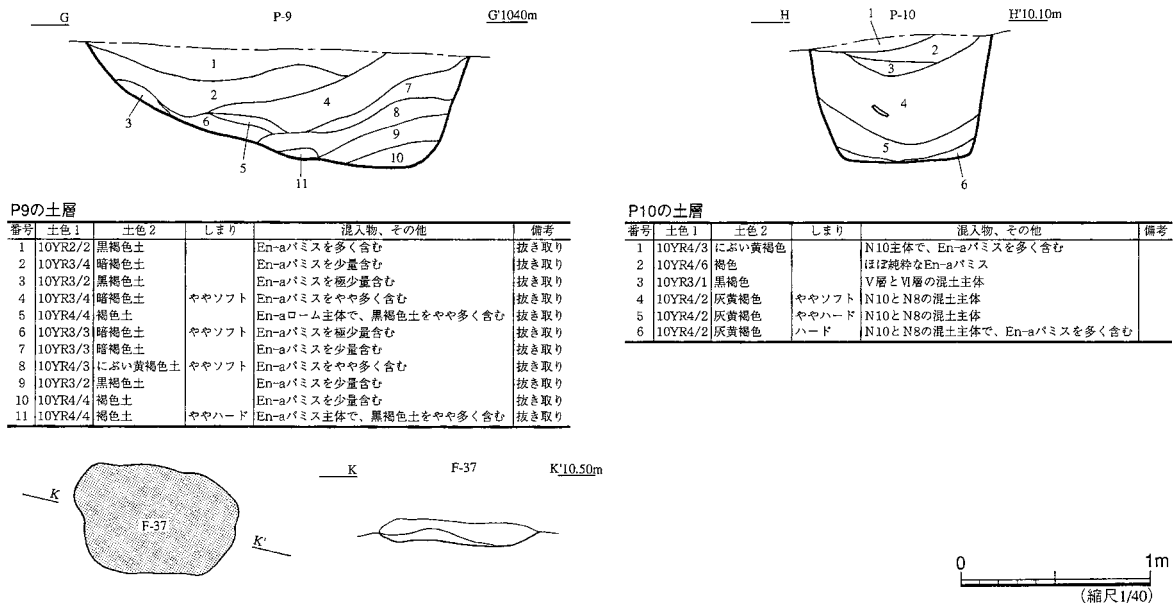


図192 建物2 (2)

建物3

柱間距離6.22m、支柱穴内面積154.70m²の大型の建物である。直径が0.9m前後、深さが1~1.2mの四本の支柱穴が、正方形に配列される。支柱穴は建物1、2と比べ、柱穴の直径に対して深いことが特徴である。

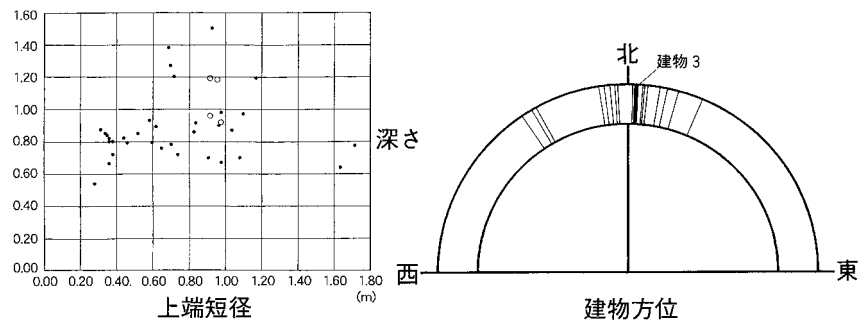


図193 建物3の主軸方位と支柱穴の規模

建物の東側にあるP-15、

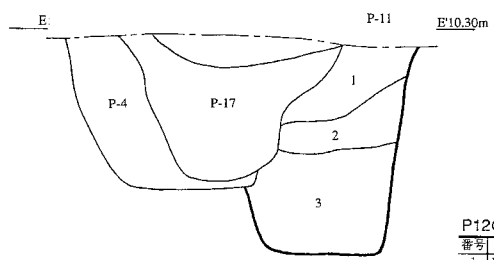
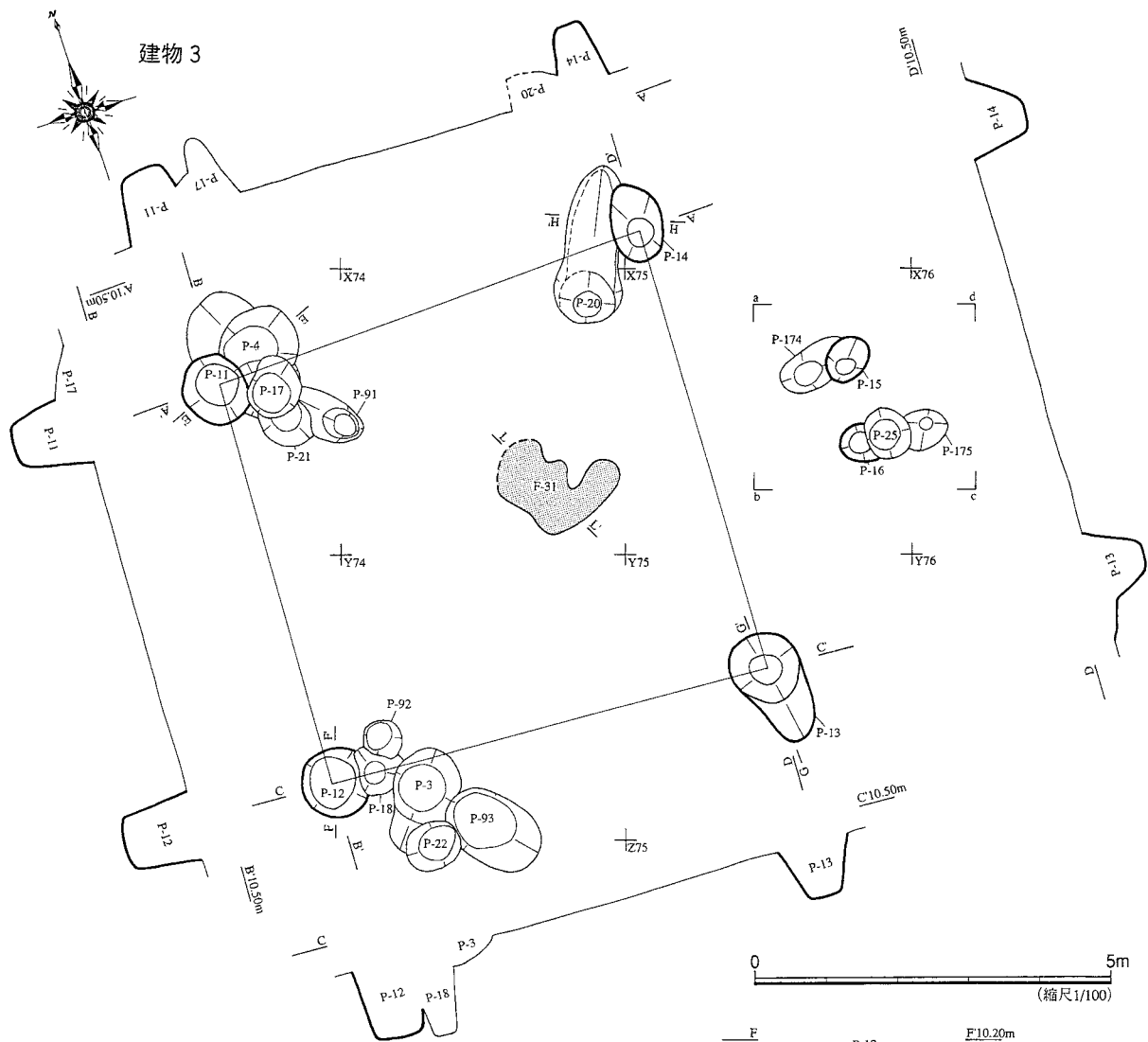
16を出入り口を構成する柱穴と推定した。建物の中央よりやや東寄りにSE1層で検出したF-31があり、これを炉跡と推定した。また、建物4がほぼ同位置にあり、F-31はどちらの建物に帰属するものが判断できなかったため、両方の図面に炉跡として掲載した。

建物1、2、4~7と重複する。支柱穴であるP-11が建物1の支柱穴であるP-4、建物4の支柱穴であるP-17に切られること、同じく支柱穴であるP-12が建物4の支柱穴であるP-18に切られること、出入り口を構成するP-16が建物5の出入り口を構成するP-25を切ることから、建物1、4より古く、建物5より新しい。

支柱穴

P-11 平面形は円形で、底面はほぼ平らである。やや開き気味に立ち上がる。P-4、17に切られる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P-12 平面形は円形で、壙底は丸みをもつ。やや開き気味に立ち上がる。P-18に切られる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。



P12の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/4	暗褐色土		V層とVI層の混土主体で、En-aバミスを多く含む、遺物、炭化物を少量含む	
2	10YR3/2	黒褐色土	ややソフト	V層とVI層の混土主体で、En-aバミスを極少量含む	
3	10YR5/4	にぶい黄褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む	

P11の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/3	暗褐色土		En-aバミス多量に含み、粘土粒を少量含む	
2	10YR3/4	暗褐色土		粗い砂粒主体で、En-aバミス多量に含む	
3	10YR3/4	暗褐色土	ソフト	やや粘質、2-5mmの礫砂と、極少量のEn-aバミスを含む	

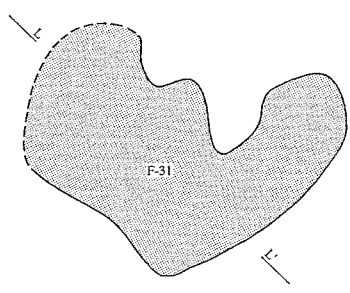


図194 建物3 (1)

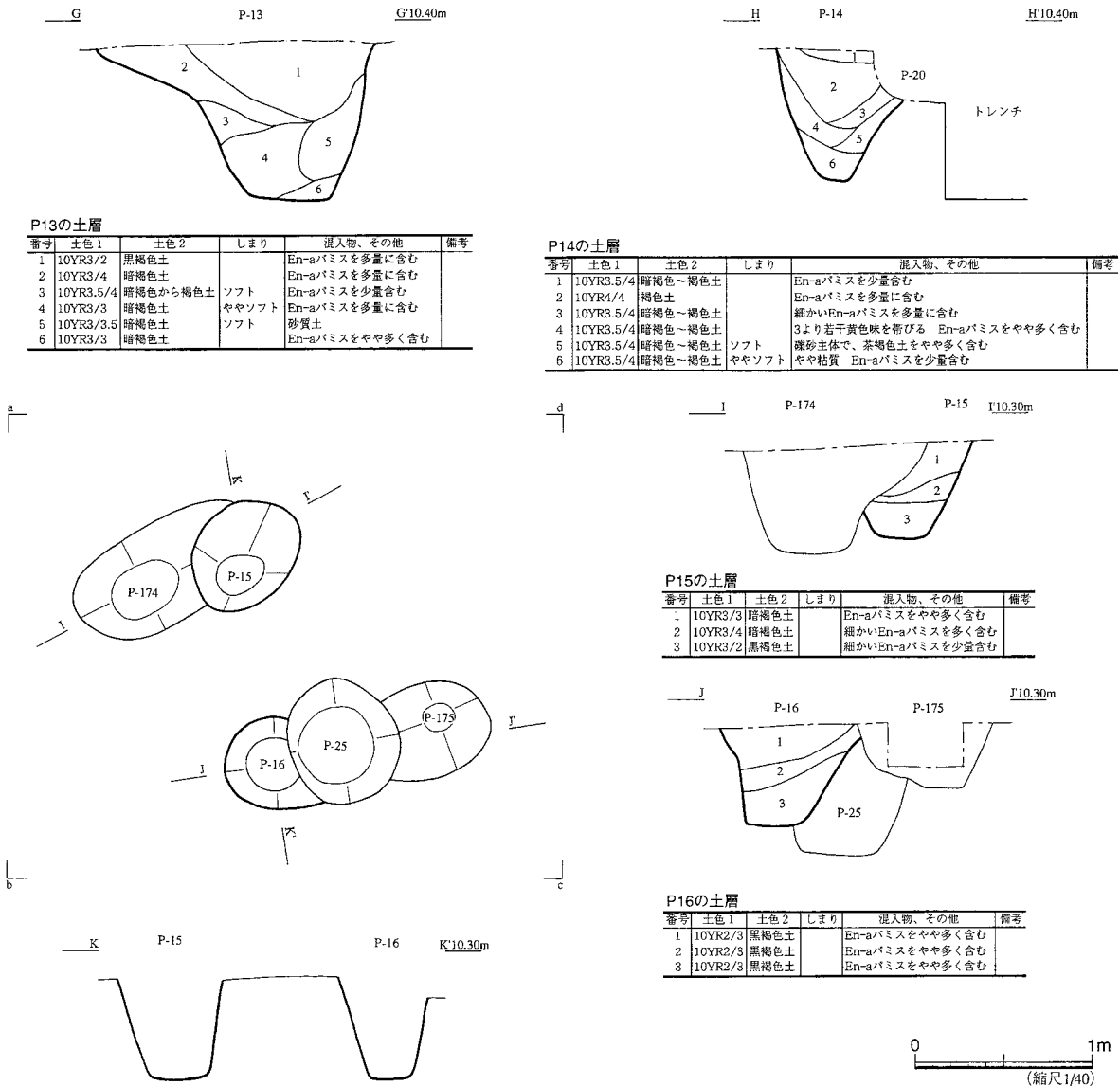


図195 建物3(2)

P - 13 平面形は上端が南に長く広がる楕円形で、下端は円形である。墳底はほぼ平らで、開き気味に立ち上がる。南側は中位に段をもつ。上端と下端の平面形が異なることから抜き取りが行われているものと考えたが、断面の観察では抜き取り痕を確認することができなかった。

P - 14 平面形は上端が北に広がる楕円形で、下端は円形である。墳底はやや丸味をもち、開き気味に立ち上がる。遺構の中心を外して半裁しているため、柱痕、抜き取り痕は確認できないが、上端と下端の平面形が異なることから、抜き取りが行われた可能性が高い。

出入り口

P - 15 平面形はほぼ円形で、上端と下端の中心が若干ずれる。墳底はほぼ平らで、開き気味に立ち上がる。P - 174に切られる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P - 16 平面形は楕円形で、墳底はほぼ平らである。開き気味に立ち上がる。P - 175に切られ、P - 25を切る。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

壁柱穴

検出していない。

炉 跡

F - 31を炉跡と判断した。

(石井淳平)

建物 4

概 要

柱間距離4.99m、主柱穴内面積98.735m²で、柱穴の規模からは大型の建物に分類できるが、建物の規模は大型の建物と中型の建物の間に位置する。直径0.7~0.9m、深さが1.2~1.5

mの四本の主柱穴で構成され、南北方向に長い長方形に配列される。主柱穴P - 17、19、20にみられる大きな抜き取り痕が特徴的である。主柱穴は直径と比べ、深いものが多く、確認した全ての建物の中で最も主柱穴が深い。建物の規模は小さいものの、主柱穴の規模からは大型の建物に分類すべきであろう。建物の中央よりやや東寄りにSE1層で検出したF - 31があり、これを炉跡と推定した。建物3がほぼ同位置にあり、F - 31はどちらの建物に帰属するものか判断できなかったため、両方の図面に炉跡として掲載した。

建物1~3、5、6と重複する。主柱穴であるP - 17が建物1の主柱穴であるP - 4、建物3の主柱穴であるP - 11、建物5の主柱穴であるP - 21を切って掘り込まれること、おなじく主柱穴であるP - 18が建物3の主柱穴であるP - 12を切って掘り込まれることから、建物1、3より新しい。建物4は先後関係の判明している建物1~6の中では最も新しい建物である。

主柱穴

P - 17 平面形は上端が北へ広がる楕円形で、下端が円形である。墳底は丸みもち、ほぼ垂直に立ち上がる。北側は抜き取りのため、大きく開きながら立ち上がる。P - 4、11、21、91を切る。土層4~7が柱穴掘形、1~3が抜き取り痕である。

P - 18 他の柱穴と大きく切り合っているため正確な平面形は不明であるが、おそらく円形であろう。墳底は平らで、ほぼ垂直に立ち上がる。P - 3、12、92と切り合っており、P - 12を切る。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P - 19 平面形は上端が南に大きく広がる細長い楕円形で、下端は円形である。墳底はやや丸味もち、ほぼ垂直に立ち上がる。南側は抜き取りのため、大きく開きながら立ち上がる。土層4~8が柱穴掘形、1~3が抜き取り痕である。

P - 20 平面形は上端が北東に大きく広がる細長い楕円形で、下端は円形である。墳底はほぼ平らで、ほぼ垂直に立ち上がる。北東側は抜き取りのため、大きく開きながら立ち上がる。P - 14と切り合うが、先後関係は不明である。土層9~13が柱穴掘形、1~8が抜き取り痕である。

出入口口

検出していない。

壁柱穴

検出していない。

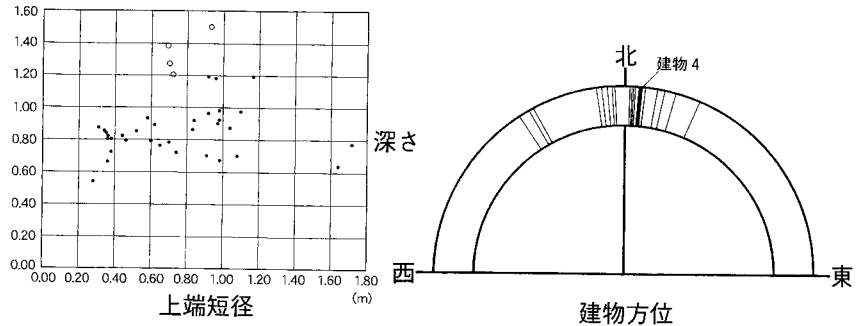
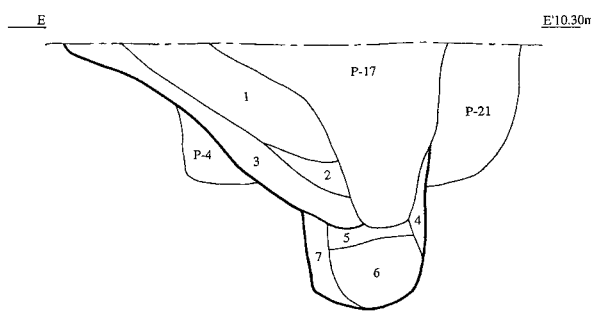
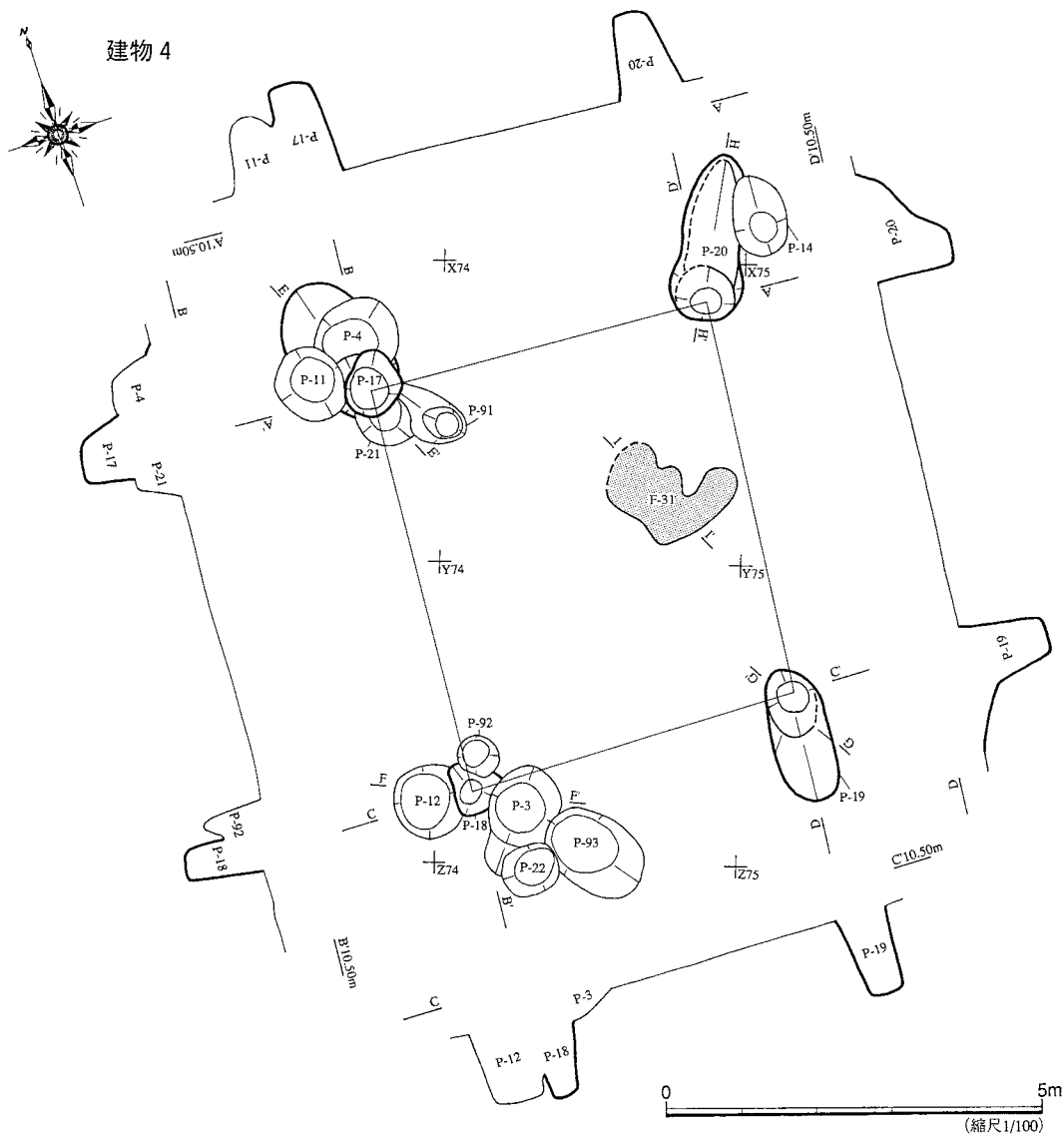
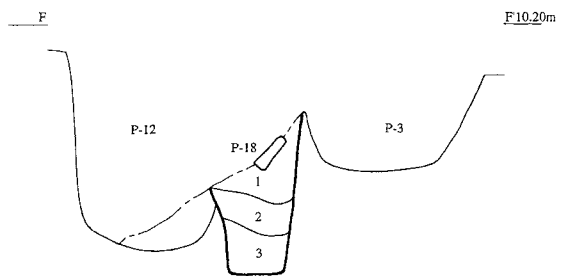


図196 建物4の主軸方位と主柱穴の規模



P17の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/3	暗褐色土	ややソフト	粗い砂粒が主体で、En-aバミスをやや多く含む	抜き取り
2	10YR3/3	暗褐色土	ややハード	粗い砂粒が主体で、En-aバミスを極少量含む	抜き取り
3	10YR3/4	暗褐色土		En-aバミスを多量に含む	抜き取り
4	10YR4/3.5	にぶい黄褐色～褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、黒色土を少量含む	瓶形
5	10YR4/4	褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、炭化物を少量含む	瓶形
6	10YR4/4	褐色土	ややハード	En-aバミス主体で、炭化物を少量含む	瓶形
7	7.5YR4/4	褐色土	ややソフト	炭化物を極少量含む	瓶形



P18の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	7.5YR3/3	暗褐色土	ソフト	En-aバミス、パンガラを少量含む	
2	10YR4/4	褐色土	ややソフト	En-aバミスを多く含む	
3	10YR3/4	暗褐色土		En-aバミスを多く含む	

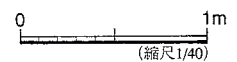


図197 建物4 (1)

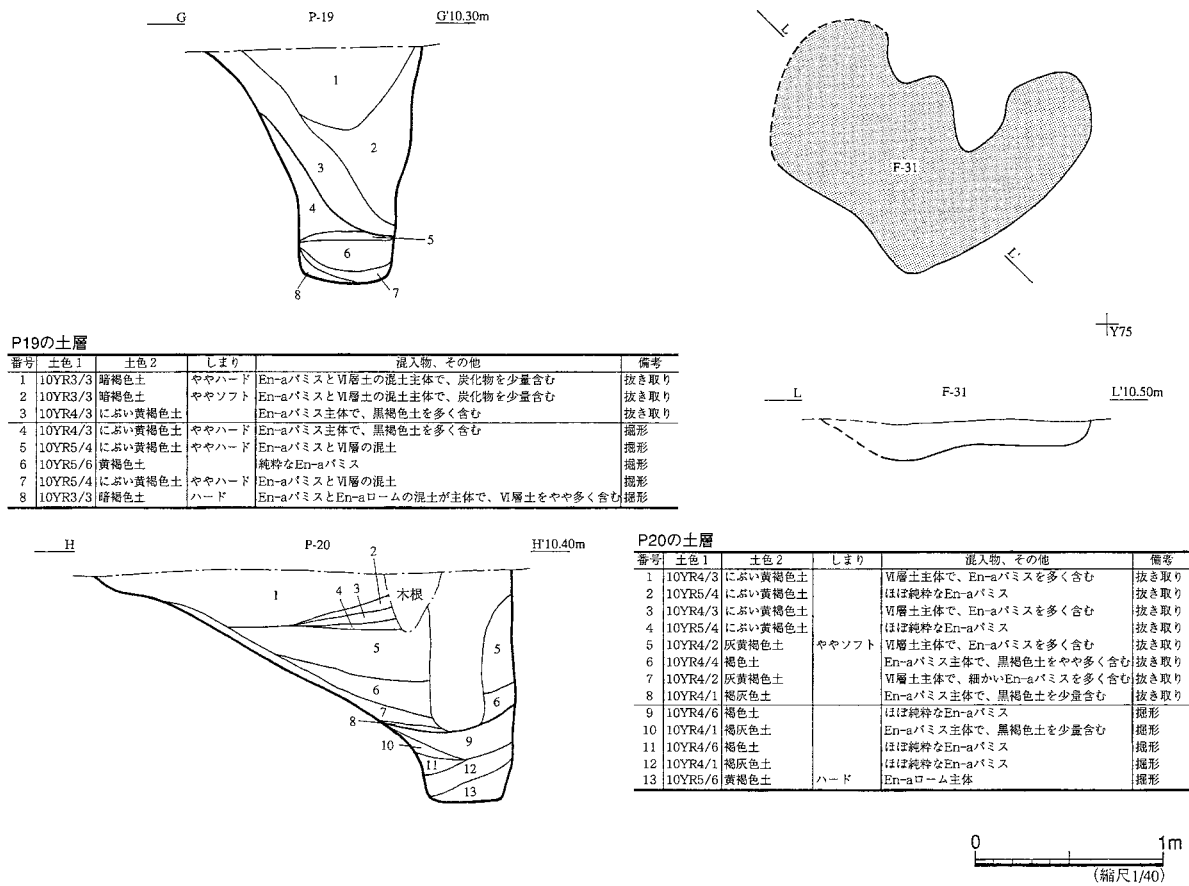


図198 建物4 (2)

炉 跡

F - 31を炉跡と判断した。

(石井淳平)

建物5

概 要

柱間距離6.73m、支柱穴内面積180.94m²の大型の建物である。直径0.6~1m、深さが0.7~1mの四本の支柱穴で構成され、東西方向がわずかに長い長方形に配列される。建物の規模と比較べ、支柱穴の規模は小さいものが多い。建物の東側にあるP - 25、26を出入り口を構成する柱穴と推定した。建物の中央よりわずかに南東に偏った位置に、SE1層で検出したF - 32、33があり、これらを炉跡と推定した。建物1~4、6、7と重複し、支柱穴であるP - 21が、建物4の支柱穴であるP - 17に切られること、同じく支柱穴であるP - 24が、建物6の支柱穴であるP - 29を切ること、出入り口を構成する

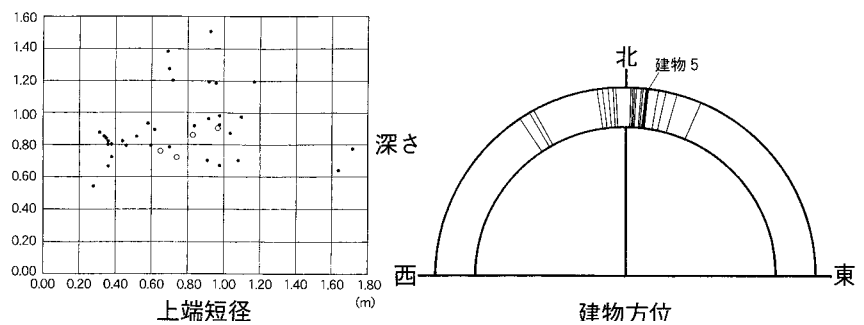
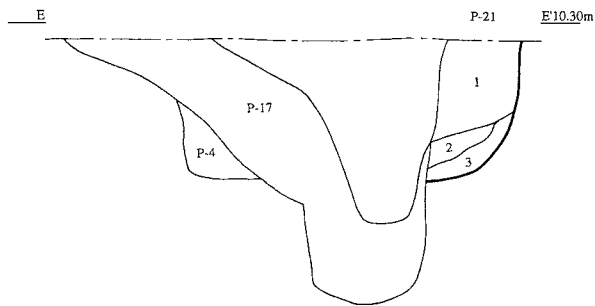
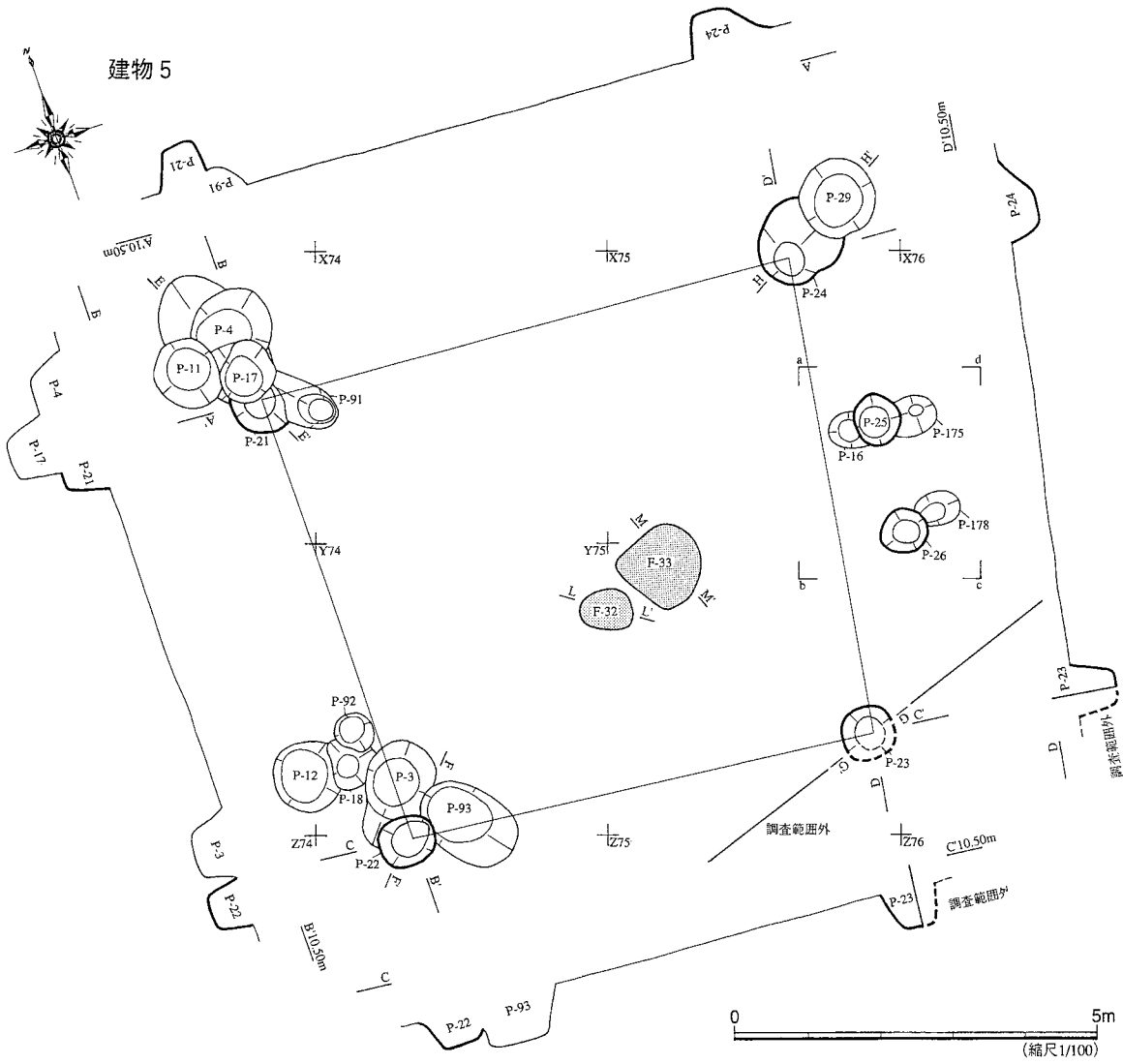
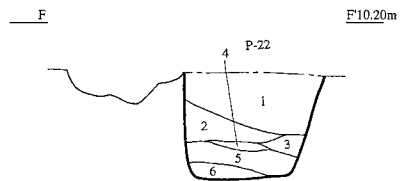


図199 建物5の主軸方位と支柱穴の規模



P21の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/3	暗褐色土		En-aバミスを多量に含む	
2	10YR2/3	黒褐色土		やや粘質、En-aバミスを少量含む	
3	10YR3/3	暗褐色土	ヤヤソフト	2-3mmの礫砂とEn-aバミスを少量含む	



P22の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/4	暗褐色土		En-aバミスを多く含む	
2	10YR3/3.5	暗褐色土	ややハード	En-aバミスを多量に含む	
3	10YR3.5/4	暗褐色土～褐色土		En-aバミスを少量含む	
4	10YR3/3	暗褐色土	ヤヤソフト	汚れたEn-aバミス主体で、暗褐色土を少量含む	
5	10YR3/3	暗褐色土	ややハード	En-aバミスをやや多く含む	
6	10YR3/3	暗褐色土	ハード	粒の粗いEn-aバミスを多量に含む	

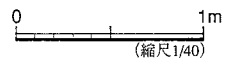
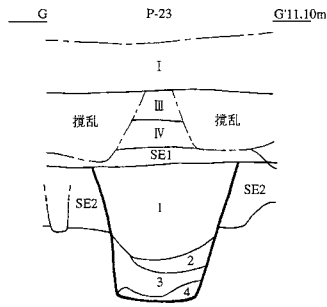
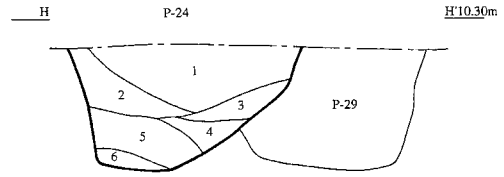


図200 建物5 (1)



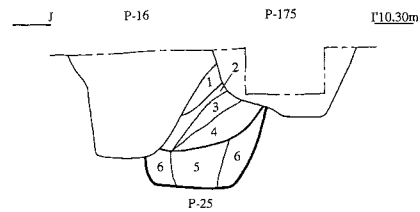
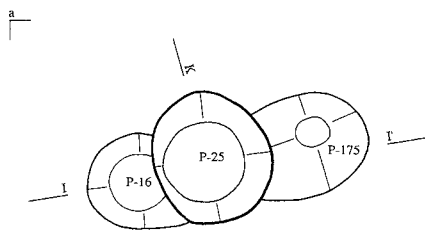
P23の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR4/6	褐色土	ややハード	En-aロームと黒色土の混土が主体で、En-aバミスを多く含む	
2	10YR3/3	暗褐色土		En-aロームと黒色土の混土で、En-aバミスをやや多く含む	
3	10YR5/6	黄褐色土		En-aバミスと褐色土の混土	
4	10YR5/8	黄褐色土	ハード	En-aローム主体	



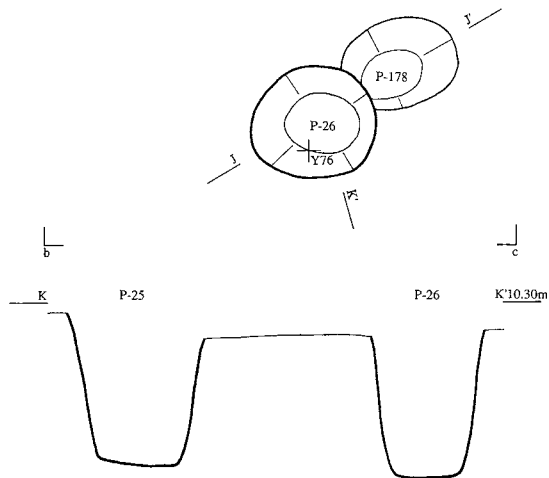
P24の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/3	黒褐色土		En-aバミスを多量に含む	
2	10YR2/1	黒色土		En-aバミスを少量含む	
3	10YR3/4	暗褐色土	ややハード	細かいEn-aバミスを多量に含む	
4	10YR4/6	褐色土	ややソフト	粒の大きいEn-aバミスを多量に含む	
5	10YR3/2	黒褐色土	ややソフト	En-aバミスを多量に含む	
6	10YR4/6	褐色土	ハード	En-aバミス主体で、黒褐色土を極少量含む	



P25の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/3	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む	抜き取り
2	10YR2/3	黒褐色土		En-aバミスを多く含む	抜き取り
3	10YR2/3	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む	抜き取り
4	10YR2/3	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む	抜き取り
5	10YR2/2	黒色土		En-aバミスを少量含む	桶形
6	10YR2/2	黒色土		En-aバミスをやや多く含む	桶形



P26の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	
2	10YR4/3	にぶい黄褐色土		En-aバミスとVI層土の混土	
3	10YR4/4	褐色土		粒の細かいEn-aバミスとVI層土の混土	
4	10YR4/4	褐色土	ややハード	粒の細かいEn-aバミスとVI層土の混土	
5	10YR5/3	にぶい黄褐色土	ハード	En-aバミス主体で、En-aローム、VI層土を少量含む	

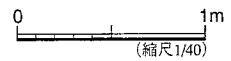
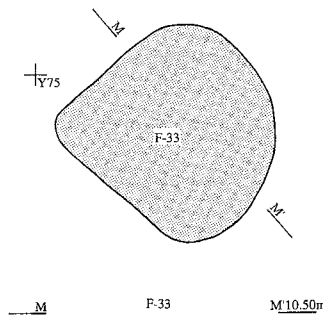
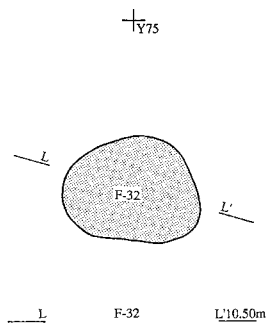


図201 建物5 (2)

P - 25が建物3の出入り口を構成するP - 16に切られることから、建物3、4より古く、建物6より新しい。

主柱穴

P - 21 他の柱穴と切り合っているため形状は判断しにくい。平面形は楕円形で、壙底はほぼ平らである。壙底と壁面の境界が明瞭ではなく、壙底付近では開き気味に立ち上がるが、壙口付近ではほぼ垂直になる。P - 17、91と切り合っており、P - 17に切られる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P - 22 平面形は円形で、壙底はほぼ平らである。やや開き気味に立ち上がる。直径、深さともに小さい。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P - 23 調査区壁にかかっており、半分しか検出していない。平面形は円形で、壙底は平らである。開き気味に立ち上がる。調査区壁にかかっている断面の観察から、SE2層を切って掘り込まれていると判断した。SE1層との切り合いは明瞭ではなかったが、SE1層に切られていると判断した。柱痕、抜き取り痕は検出していない。

P - 24 平面形は上端が東に広がる楕円形で、下端は円形である。底面はほぼ平らである。やや開き気味に立ち上がり、東側は緩やかに立ち上がる。東側の立ち上がりが、抜き取りによるものかどうかは不明で、断面からは柱痕、抜き取り痕は確認できない。P - 29を切って掘り込まれている。

出入り口

P - 25 平面形は円形で、壙底は平らである。開き気味に立ち上がる。P - 16、175に切られる。土層5、6が柱穴掘形、1～4が抜き取り痕である。

P - 26 平面形は円形で、壙底は丸みをもつ。ほぼ垂直に立ち上がり、壙口付近では開き気味になる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

壁柱穴

検出していない。

炉跡

F - 32、33を炉跡と判断した。

(石井淳平)

建物6

概要

柱間距離6.57m、主柱穴内面積172.61m²の大型の建物である。直径が1m前後、深さが0.7m～1mの主柱穴で構成される。実際に検出した主柱穴は3本で、南東側の主柱穴は調査区外に存在するものと判断した。

主柱穴は、ほぼ正方形に配

列されるものと考えている。また、直径に比べ、比較的浅い。建物の東側にあるP - 30、31を出入り口と推定した。建物の中心よりやや東寄りのSE2層中で検出したF - 44を炉跡と推定した。

建物1～5、7と重複し、主柱穴であるP - 29が建物5の主柱穴であるP - 24に切られることから、建物5より古い。先後関係のわかる、建物1～6の中では最も古い。

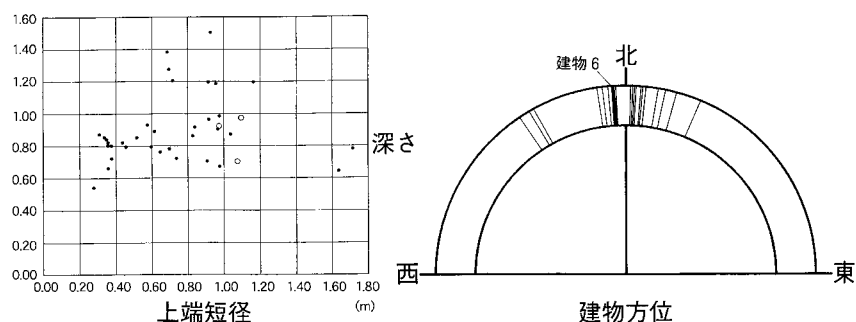
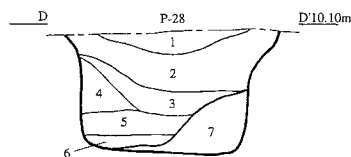
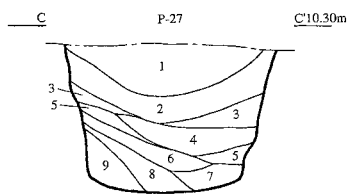
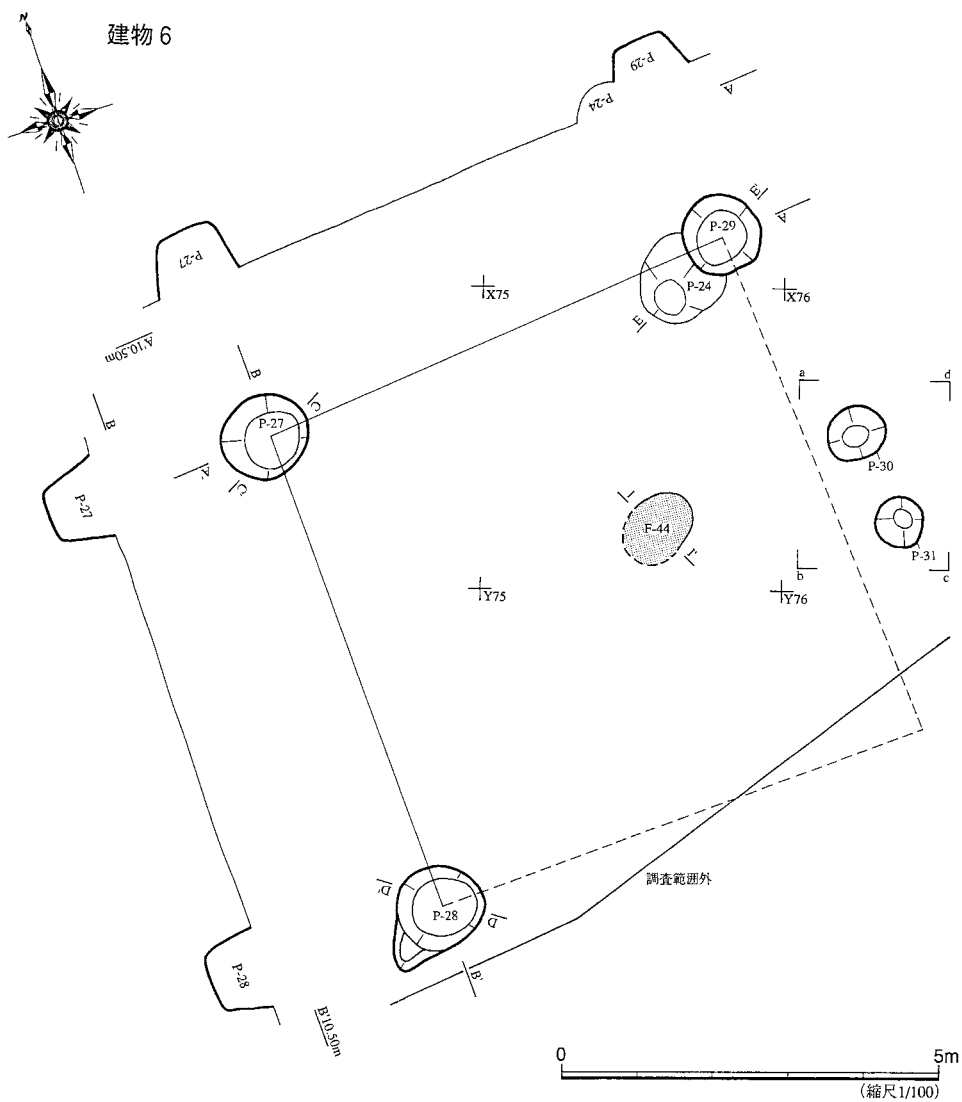


図202 建物6の主軸方位と主柱穴の規模



P27の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/4	暗褐色土		En-aバミスを多く含む	
2	10YR3/3.5	暗褐色土		En-aバミスを多量に含む	
3	10YR3/3	暗褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
4	10YR3/4	暗褐色土	ややソフト	En-aバミスを多量に含み、En-aロームを少量含む	
5	10YR4/6	褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスと暗褐色土を少量含む	
6	10YR2/3	黒褐色土		やや粘質。En-aバミスをやや多く含む	
7	10YR3.5/4	暗褐色土	ハード	En-aバミス主体で、黒褐色土を少量含む	
8	10YR3/4	暗褐色土	ややソフト	粗砂主体でEn-aバミスを少量含む	
9	10YR2/3	黒褐色土	ややソフト	極少量のEn-aバミスを含む	

P28の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/3	暗褐色土		En-aバミスをやや多く含む	抜き取り
2	10YR4/5	褐色土	ややハード	粒の細かいEn-aバミスを多量に含む	抜き取り
3	10YR3.5/4	褐色土	ややソフト	粗い砂粒主体でEn-aバミスを多く含む	抜き取り
4	10YR4/5	褐色土	ややソフト	粗い砂粒主体で粒の大きなEn-aバミスを多量に含む	抜き取り
5	10YR3.5/4	褐色土	ややハード	En-aバミスをやや多く含む	抜き取り
6	10YR3/4	暗褐色土	ややソフト	粗い砂粒主体で粒の大きなEn-aバミスを多く含む	抜き取り
7	7.5YR4/4	褐色土	ハード	汚れたEn-aバミス主体で黒褐色土を少量含む	露形

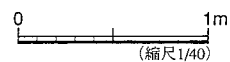


図203 建物 6 (1)

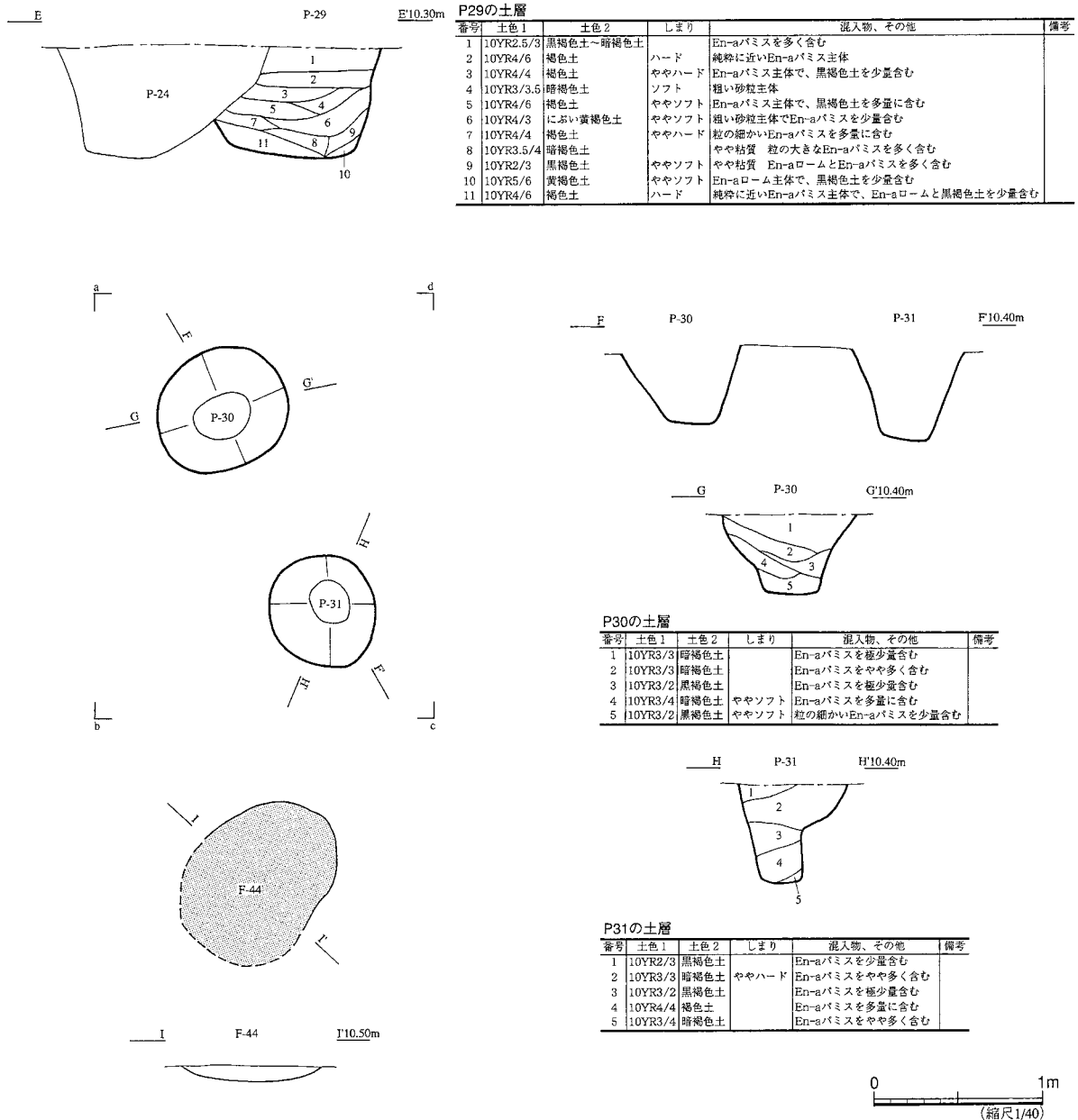


図204 建物6(2)

主柱穴

P - 27 平面形は円形で壙底はやや丸みをもつ。やや開き気味に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P - 28 平面形は円形であるが、上端が南西に張り出す。壙底は平らで、ほぼ垂直に立ち上がり、壙口付近で開き気味になる。土層7は柱穴掘形、土層1～6が抜き取り痕である。断面では確認していないが、上端の南西の張り出しは抜き取りによる攪乱であろう。

P - 29 平面形は円形で、壙底はほぼ平らである。やや開き気味に立ち上がる。P - 24に切られる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

出入り口

P - 30 平面形は円形で、壙底は平らである。開き気味に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認

できない。

P - 31 平面形は円形で、壙底はほぼ平らである。ほぼ垂直に立ち上がり、壙口付近で南西側が大きく開く。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

壁柱穴

検出していない。

炉 跡

F - 44を炉跡と判断した。

(石井淳平)

建物 7

概 要

柱間距離5.17m、主柱穴内面積107.02m²で、柱穴の規模からは中型の建物に分類できるが、建物の規模は大型の建物と中型の建物の中間に位置する。直径0.4～0.7mの四本の主柱穴で構成され、ほぼ正方形に配列

される。P - 34、35がほぼ同じ位置で切り合っており、何らかの理由で主柱の一本のみに建て替えが行われたものと判断した。P - 34がP - 35を切ることで、P - 35と他の柱穴を結んだラインがより正方形に近いことから、P - 35が本来の主柱穴で、P - 35に据えられた柱に何らかの問題が発生したため、P - 34を掘り、主柱をすぐ脇に据えなおしたものとする。建物3、5、6と重複するが、先後関係は不明である。

主柱穴

P - 32 P - 95に切られているため、上端の平面形は不明である。下端は円形で、壙底はやや丸みをもつ。やや開き気味に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P - 33 平面形は上端が楕円形で、下端が円形である。壙底付近ではほぼ垂直に立ち上がり、壙口付近から開き気味になる。壙底はほぼ平らである。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P - 34 平面形は円形で、壙底は平らである。やや開き気味に立ち上がる。P - 35を切る。土層6、7が柱穴掘形、土層1～5が抜き取り痕である。

P - 35 平面形は円形で、壙底は平らである。やや開き気味に立ち上がる。P - 34に切られる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P - 36 平面形は円形で、壙底はほぼ平らである。ほぼ垂直に立ち上がり、底面から約1/3の深さで、南側が凹形に開きながら立ち上がる。土層5が柱穴掘形、土層1～4が抜き取り痕である。

出入口口

検出していない。

壁柱穴

検出していない。

炉 跡

検出していない。

(石井淳平)

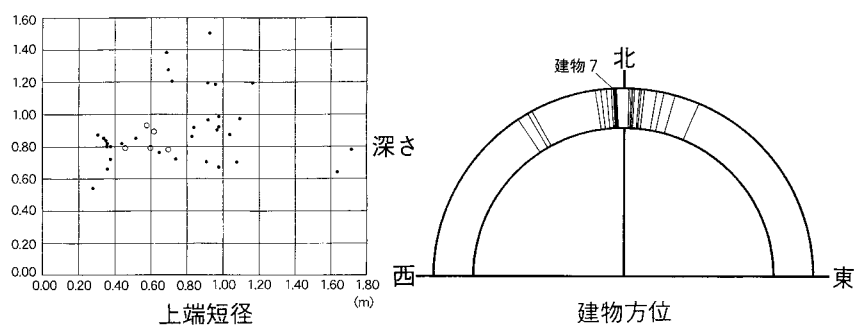
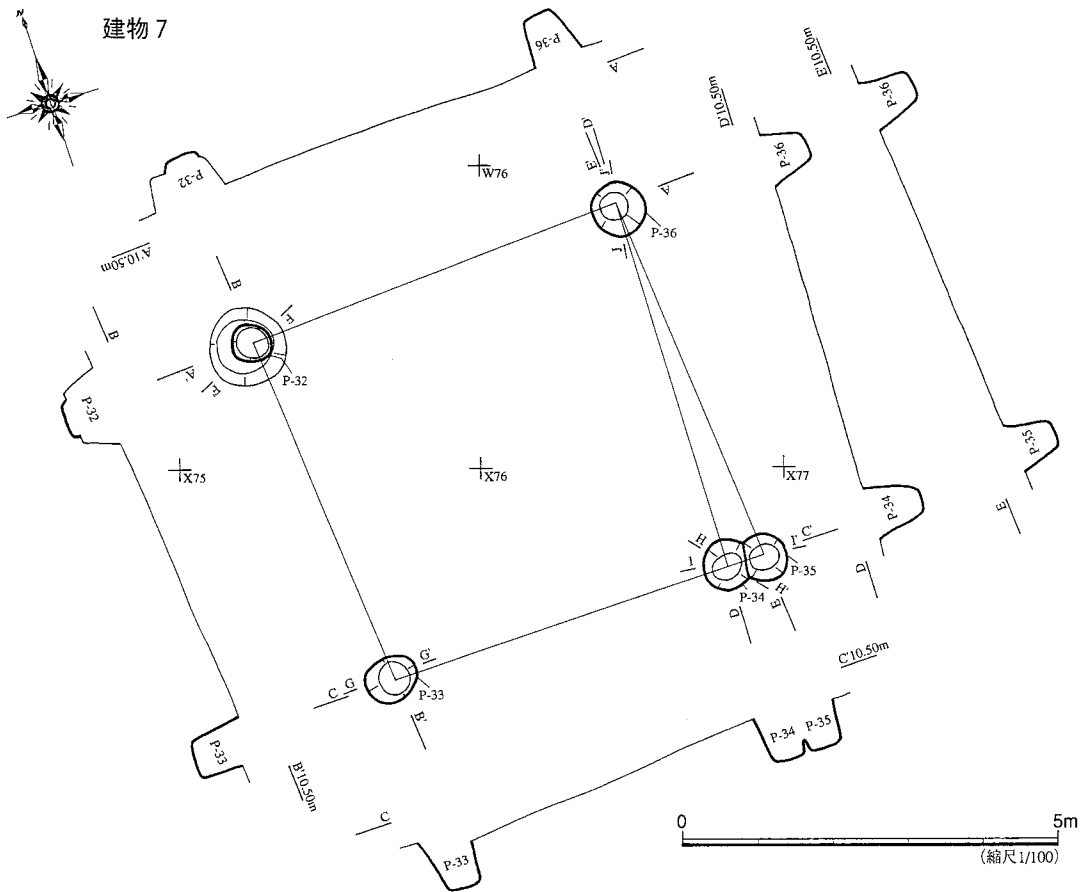
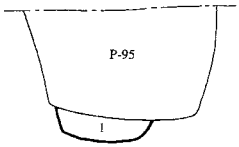


図205 建物7の主軸方位と主柱穴の規模



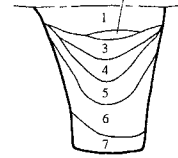
P32の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/3	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	



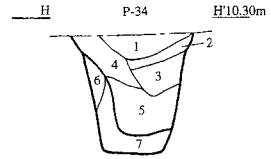
P33の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/3	暗褐色土	ややハード	VI層とEn-aロームの混土主体でEn-aバミスを多く含む	
2	7.5YR3/3	暗褐色土		VI層、En-aローム主体でEn-aバミスを多く含む、焼土を少量含む	
3	10YR3/2	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
4	7.5YR3/3	暗褐色土		VI層とEn-aロームの混土主体で、En-aバミスを多く含む、焼土を少量含む	
5	10YR3/3	暗褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
6	10YR3/4	暗褐色土	ややハード	En-aバミスを多量に含む	
7	10YR2/3	黒褐色土	ややソフト		



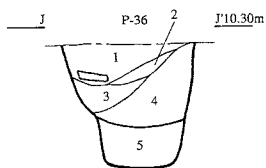
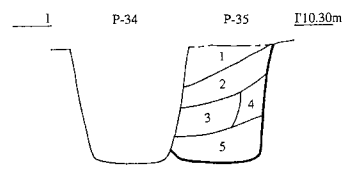
P34の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/1	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	抜き取り
2	10YR3/3	暗褐色土		En-aバミスを少量含む	抜き取り
3	10YR3/2	黒褐色土		En-aバミスを多量に含む	抜き取り
4	10YR3/2	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む	抜き取り
5	10YR3/4	暗褐色土		En-aバミスをやや多く含む	抜き取り
6	10YR2/2	黒褐色土	ややソフト	En-aバミスをやや多く含む	掘形
7	10YR2/3	黒褐色土	ややソフト	En-aバミスを主体で黒褐色土を少量含む	掘形



P35の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/3	黒褐色土		En-aバミスを多く含む	
2	10YR4.5/6	褐色土	ややソフト	En-aバミスを主体で暗褐色土を多く含む	
3	10YR2/2.5	黒褐色土	ソフト	En-aバミスを少量含む	
4	10YR4/6	褐色土	ややソフト	En-aローム主体でEn-aバミスを少量含む	
5	10YR4/6	褐色土	ハード	En-aバミスを主体で黒褐色土を少量含む	



P36の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/1	黒褐色土		VI層主体で、En-aバミスを多く含む	抜き取り
2	10YR5/6	黄褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む	抜き取り
3	10YR3/3	暗褐色土		VI層主体で、En-aバミスを多く含む	抜き取り
4	10YR4/4	褐色土	ソフト	En-aバミスを主体でEn-aロームの混土主体	抜き取り
5	10YR3/2	黒褐色土	ソフト	En-aバミスを主体でVI層土の混土主体	掘形

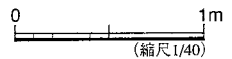


図206 建物7

建物 8

概要

柱間距離3.88m、主柱穴内面積59.85m²、壁柱穴内面積63.62m²の中型の建物である。直径が0.4m前後で、深さが0.8m前後の四本の主柱穴がほぼ正方形に配列される。柱穴の直径に較べ深いことが特徴である。

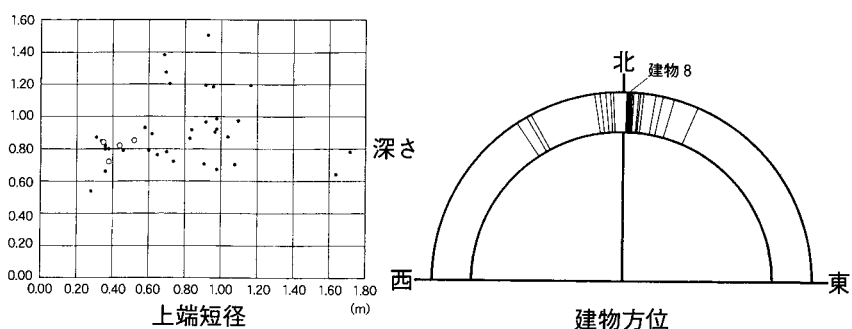


図207 建物 8 の主軸方位と主柱穴の規模

建物の東側にある P - 41、42 を出入り口を構成する柱穴と推定した。壁柱穴と同じ線上に位置する。建物の外周を直径約 9 m の円形に壁柱穴がめぐる。壁柱穴は南側がとぎれているように見えるが、これは壁柱穴が存在しないのではなく、建物 8 の南側では小柱穴が密集しているため、建物 8 に帰属する小柱穴を特定できなかったことによる。他の建物とは重複しないが、建物 1 ~ 6 とは非常に近接しているため、これらの建物と同時に存在した可能性は低いと考える。

主柱穴

P - 37 平面形は円形で、やや開き気味に立ち上がる。壙底は平らである。

P - 38 平面形は円形で、壙底はやや丸みをもつ。ほぼ垂直に立ち上がる。土層 3 が柱穴掘形、土層 2 が柱痕、土層 1 が抜き取り痕の可能性があると考えた。柱を抜き取る際にある程度掘り込んでから柱を切断し、抜き取ったものと理解した。

P - 39 平面形は上端が楕円形、下端が円形で、壙底はやや丸みをもつ。ほぼ垂直に立ち上がり、壙口付近で開き気味になる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P - 40 平面形は円形で、壙底は平らである。ほぼ垂直に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

出入り口

P - 41 平面形は円形で、壙底はほぼ平らである。開き気味に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P - 42 平面形は円形で、壙底はほぼ平らである。壙底付近ではほぼ垂直に立ち上がり、壙口付近で開き気味になる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

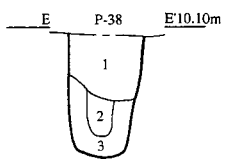
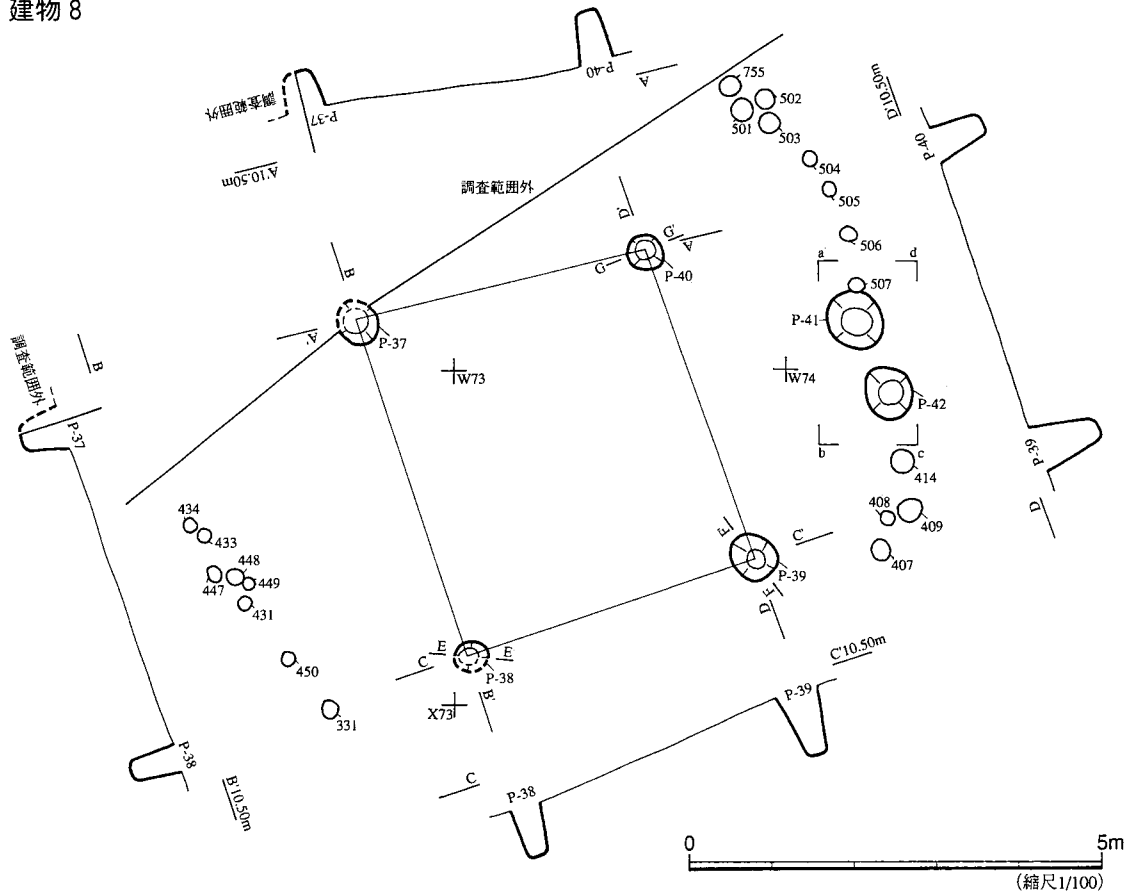
壁柱穴

20カ所の小柱穴を壁柱穴と判断した。

炉 跡

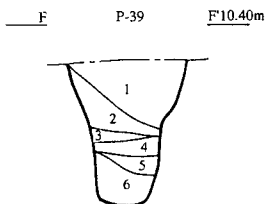
検出していない。

(石井淳平)



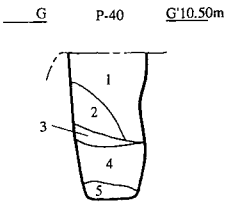
P38の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/3	暗褐色土		En-aバミスを多く含む	抜き取り？
2	10YR3.5/4	暗褐色土	ソフト		柱痕？
3	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ややソフト	En-aバミスを少量含む	



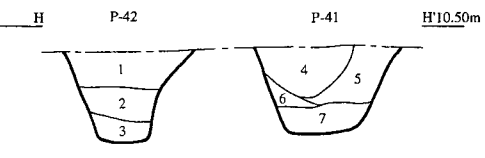
P39の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/4	暗褐色土		En-aバミスを多く含む	
2	10YR3.5/5	暗褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
3	10YR3.5/4	暗褐色～褐色土	ややソフト	粗砂主体で、En-aバミスをやや多く含む	
4	10YR4.5/4	褐色からにぶい黄褐色土	ややハード	粗砂主体で、En-aバミスを多く含む	
5	10YR5/4	にぶい黄褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、En-aローム、黒褐色土を少量含む	
6	10YR5/8	黄褐色土	ややハード	En-aローム主体で、粒の大きいEn-aバミスをやや多く含む	



P40の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/3	暗褐色土		VI層土主体で、En-aバミスを多く含む	
2	10YR3/4	暗褐色土		VI層土主体で、En-aバミスを多量に含む	
3	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	
4	10YR3/4	暗褐色土		VI層土主体で、En-aバミスを多量に含む	
5	10YR4/4	褐色土	ハード	VI層土主体	



P41、42の土層

選掲番号	番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
	P42 1	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ややソフト	En-aロームとEn-aバミスを多く含む	
	P42 2	10YR3/4	暗褐色土		En-aバミスを多く含む	
	P42 3	10YR4/4	褐色土	ややハード	En-aロームと粒の大きいEn-aバミスを多く含む	
	P41 4	10YR2/3	黒褐色土		En-aバミスを多く含む	
	P41 5	10YR4/3	にぶい黄褐色土		En-aロームとEn-aバミスを多量に含む	
	P41 6	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ややハード	En-aロームとEn-aバミスをやや多く含む	
	P41 7	10YR4/3	にぶい黄褐色土		En-aバミスを少量含む	

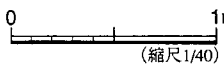


図208 建物 8

建物 9

概要

柱間距離3.49m、主柱穴内面積48.79m²の中型の建物である。直径が0.3~0.4m、深さが0.6~0.8mの主柱穴で構成される。実際に検出した主柱穴は3本で、北西側の主柱穴は調査区外に存在するものと判断した。

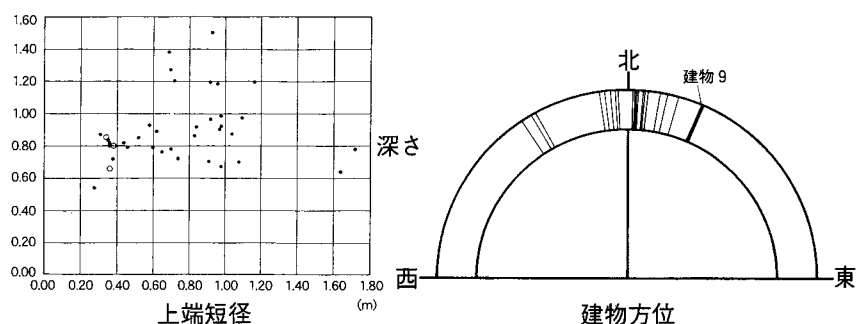


図209 建物 9 の主軸方位と主柱穴の規模

ほぼ正方形に配列されるものと考えている。主柱穴は直径と比べ、深いことに特徴がある。建物の規模や主柱穴の規模は建物 8、10と似た傾向を示す。建物の方位は、他の建物が真北~南のラインとほぼ平行であることと比較し、やや東に振れる。建物の東側にある P - 46、47、48、49 を出入り口を構成する柱穴と推定した。建物の東よりに SE 2 層で F - 36 を検出し、これを炉跡と推定した。建物の外周を直径約 9.2m の円形に壁柱穴がめぐる。建物 10 と重複する。

主柱穴

P - 43 平面形は円形で、ほぼ垂直に立ち上がる。壙底は平らである。

P - 44 平面形は円形で、壙底は平らである。ほぼ垂直に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P - 45 平面形は上端が楕円形で、下端が円形である。壙底は平らで、ほぼ垂直に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

出入り口

P - 46 平面形は楕円形で、壙底はほぼ平らである。壙底は東側が浅い。ほぼ垂直に立ち上がる。P - 47 とともに出入り口の片側を構成する。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P - 47 平面形は楕円形で、壙底はほぼ平らである。東側はオーバーハングし、その他の壁面はやや開き気味に立ち上がる。P - 46 とともに出入り口の片側を構成する。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P - 48 平面形は楕円形で、壙底はほぼ平らである。壙底は東側が浅い。やや開き気味に立ち上がる。P - 49 とともに出入り口の片側を構成する。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

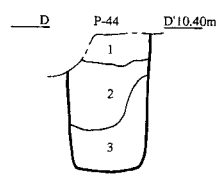
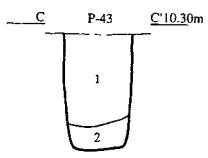
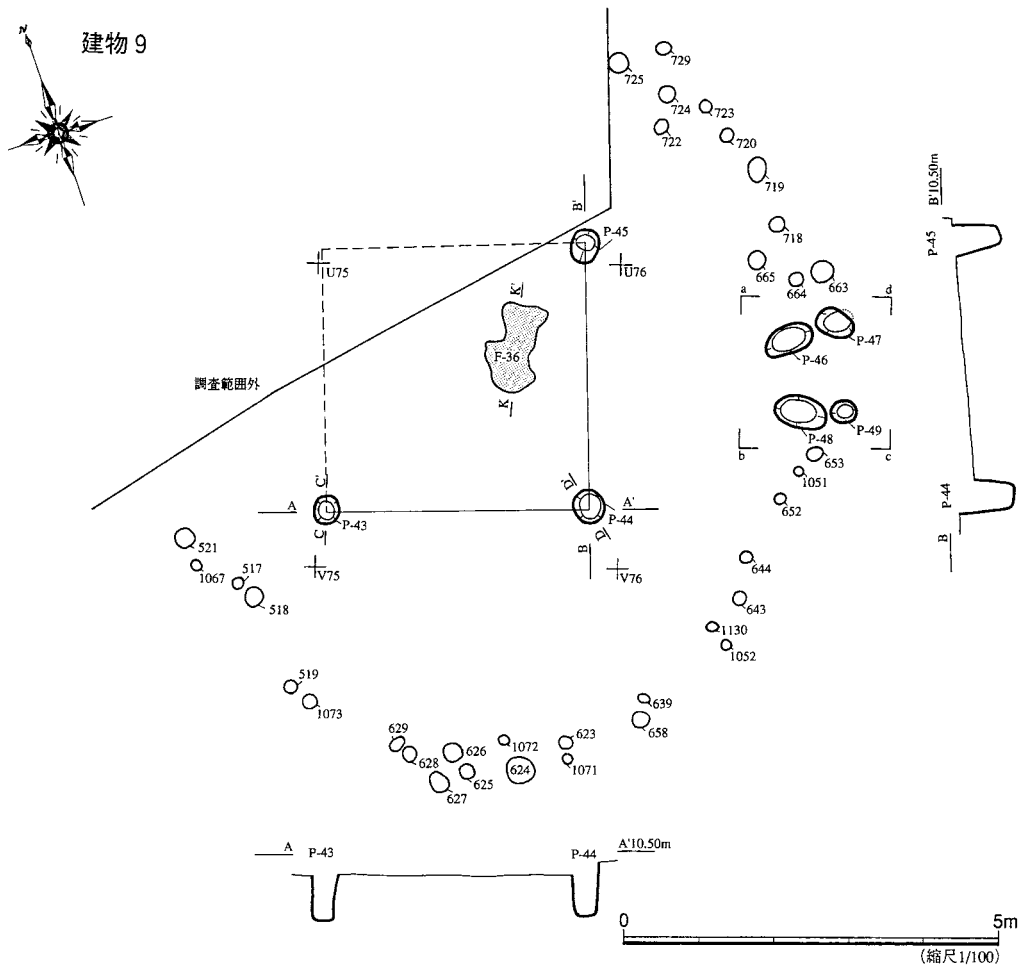
P - 49 平面形は円形で、壙底はほぼ平らである。ほぼ垂直に立ち上がる、P - 48 とともに出入り口の片側を構成する。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

壁柱穴

35カ所の小柱穴を壁柱穴と判断した。壁柱穴は一重ではなく、二重にめぐる可能性がある。

炉跡

F - 36 を炉跡と判断した。建物の規模に比べて、焼土の範囲が大きいこと、形状がいびつであることから、複数の焼土を一つの焼土と認識した可能性がある。(石井淳平)



P43の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/3	黒褐色土		En-a/バミスを含む	
2	7.5YR2/2	黒褐色土			

P44の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	7.5YR2/2	黒褐色土		En-a/バミスを含む	
2	10YR3/4	暗褐色土		En-a/バミスを含む	
3	7.5YR3/2	黒褐色土		En-a/バミスを多量に含む	

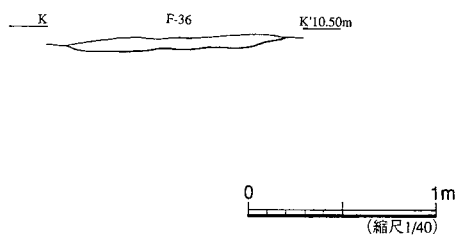
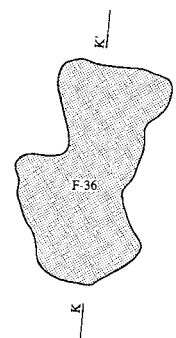
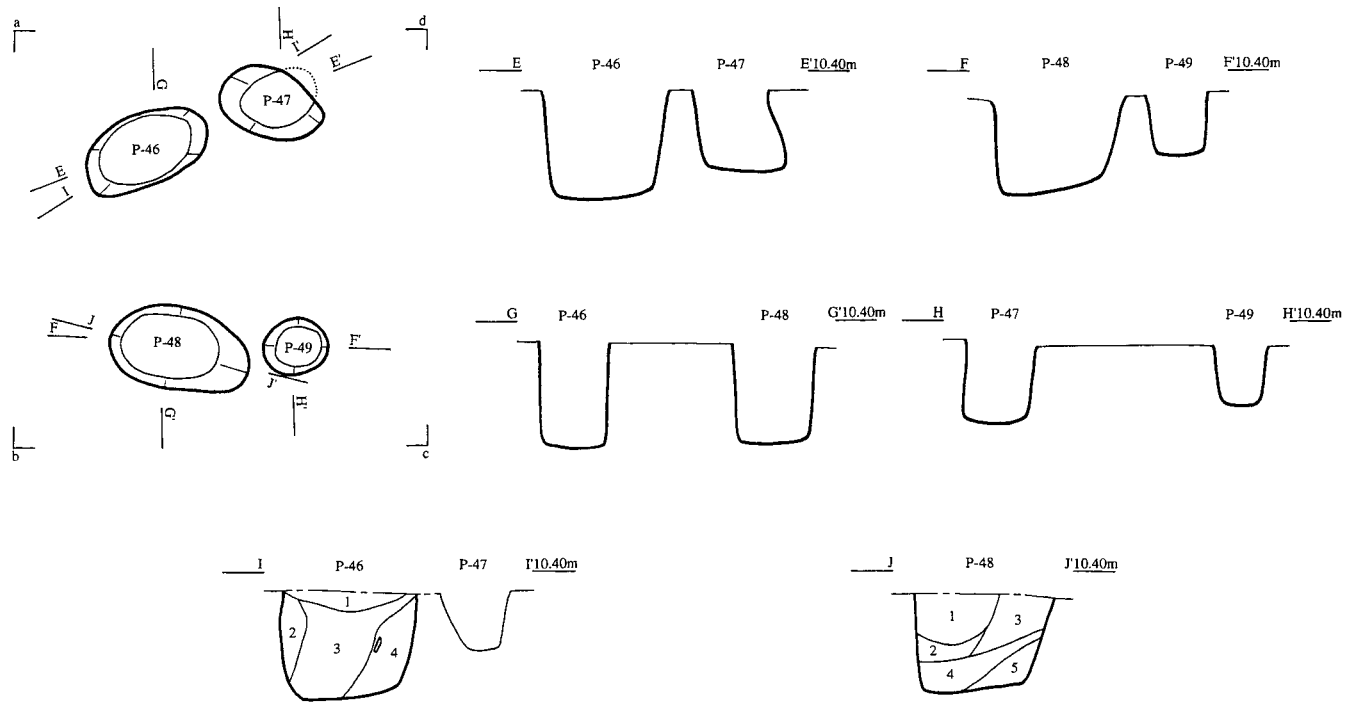


図210 建物9 (1)



P46の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/1	黒褐色土		N8土主体	
2	10YR3/2	黒褐色土	ソフト	N10とN5の混土主体	
3	10YR2/3	黒褐色土		N0とN8の混土主体	
4	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ソフト	N10主体で、En-aバミスを少量含む	

P48の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/2	黒褐色土	ややハード	N10とN8の混土主体	
2	10YR4/2	灰黄褐色土		N10とN8の混土主体でEn-aバミスを多く含む	
3	10YR4/3	にぶい黄褐色土		N10主体で、En-aバミスを多く含む	
4	10YR4/1	褐灰色	ややハード	N10主体で、En-aバミスを多く含む	
5	10YR4/3	にぶい黄褐色		N10主体で、En-aバミスを多く含む	

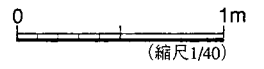


図211 建物9 (2)

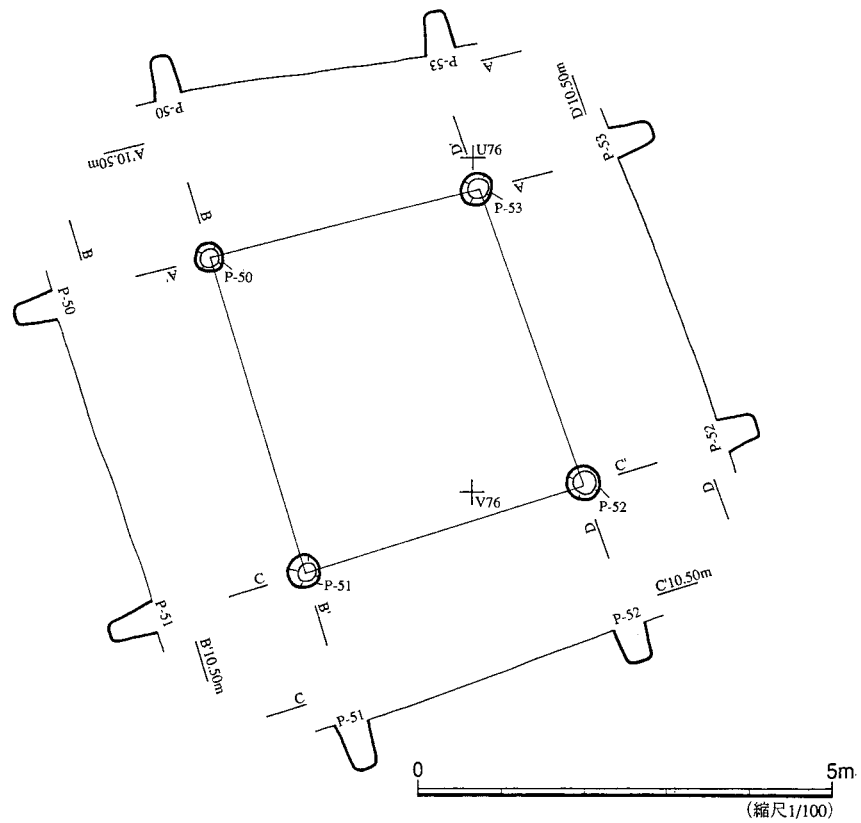
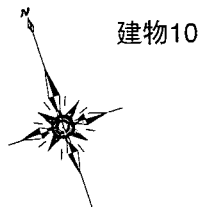


図212 建物10

建物10

概要

柱間距離3.66m、主柱穴内面積53.26m²の中型の建物である。直径0.3~0.4m、深さ0.8m前後の四本の主柱穴が南北方向に長い方に配列される。主柱穴のうち、P-52は他の柱穴より浅く、約0.5mしかない。

建物9と重複する。また、主柱穴は全て断面図を作成していない。

主柱穴

P-50 平面形は円形で、ほぼ垂直に立ち上がる。墳底はほぼ平らである。

P-51 平面形は円形で、ほぼ垂直に立ち上がる。墳底はほぼ平らである

P-52 平面形は円形で、ほぼ垂直に立ち上がる。墳底はほぼ平らである。他の主柱穴より、目立って浅い。

P-53 平面形は円形で、ほぼ垂直に立ち上がる。墳底はほぼ平らである。

出入口

検出していない。

壁柱穴

検出していない。

炉跡

検出していない。

(石井淳平)

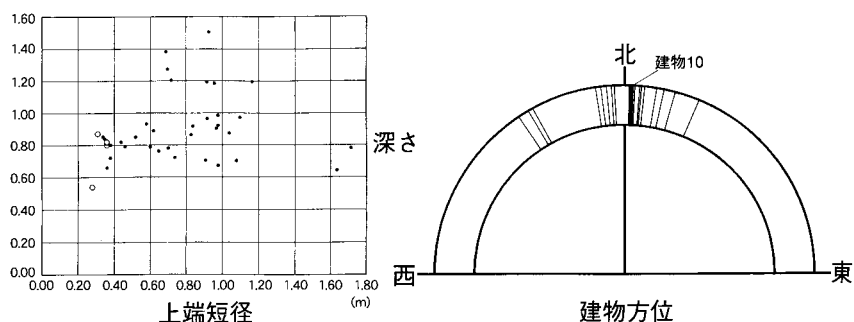


図213 建物10の主軸方位と主柱穴の規模

建物11

概要

柱間距離2.27m、主柱穴内面積20.56m²の小型の建物である。直径が0.2m前後、深さが0.6mを若干下回る四本の主柱穴が、南北に長い方に配列される。今回の調査で検出した全ての建物の中でも、主柱穴の規模がもっとも小さい建物の一つである。また、主柱穴は全て断面図を作成していない。

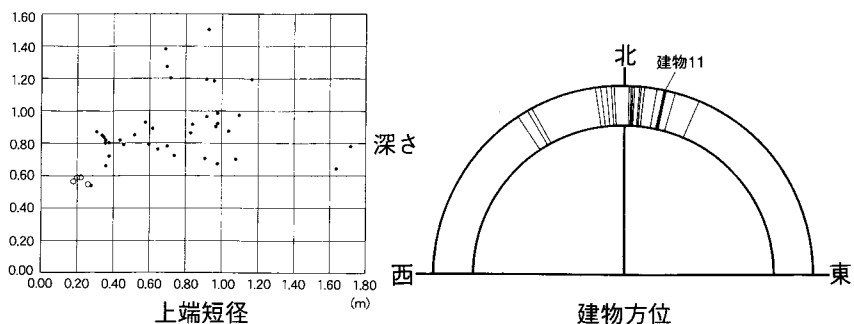


図214 建物11の主軸方位と主柱穴の規模

主柱穴

P-54 平面形は円形で、北側はオーバーハングし、その他はほぼ垂直に立ち上がる。墳底はほぼ平らである。

P-55 平面形は円形で、北西側はオーバーハングし、その他はほぼ垂直に立ち上がる。墳底はほぼ平らである。

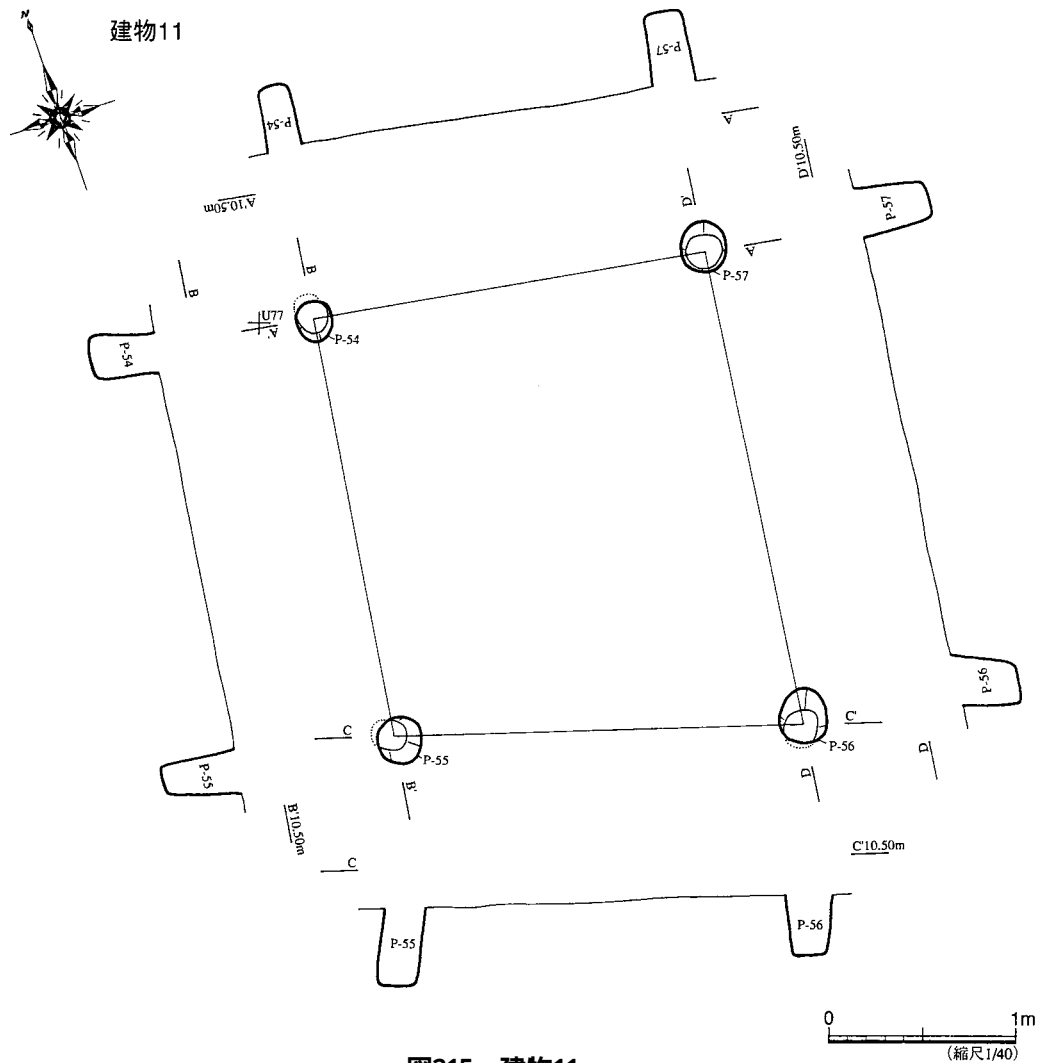


図215 建物11

P - 56 平面形は上端が楕円形で、下端は円形である。南西側はオーバーハングし、その他はほぼ垂直に立ち上がる。壙底はほぼ平らである

P - 57 平面形は円形で、ほぼ垂直に立ち上がる。壙底はほぼ平らである

出入口

検出していない。

壁柱穴

検出していない。

炉 跡

検出していない。

(石井淳平)

建物12

概要

柱間距離2.19m、主柱穴内面積19.10m²の小型の建物である。直径が0.3~0.4m、深さが0.4~0.6mの四本の主柱穴がほぼ正方形に配列される。主柱穴の直径に比べ、浅いものが多い。

また、主柱穴の深さにはば

らつきがある。建物13と重複する。また、主柱穴は全て断面図を作成していない。

主柱穴

P - 58 平面形は円形で、やや開き気味に立ち上がる。壙底はほぼ平らである。

P - 59 平面形は円形で、やや開き気味に立ち上がる。壙底はほぼ平らである

P - 60 平面形は円形で、ほぼ垂直に立ち上がる。壙底はほぼ平らである。

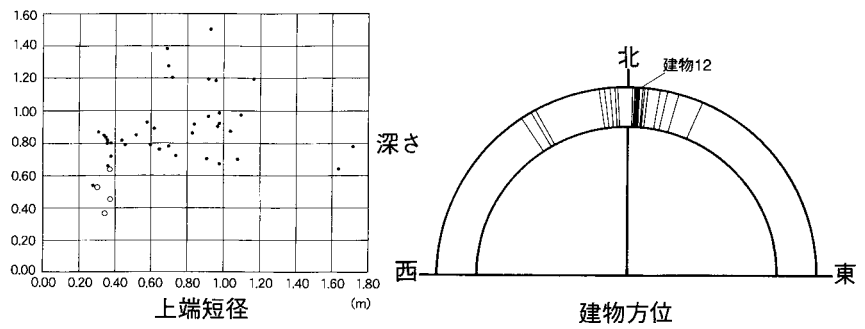


図216 建物12の主軸方位と主柱穴の規模

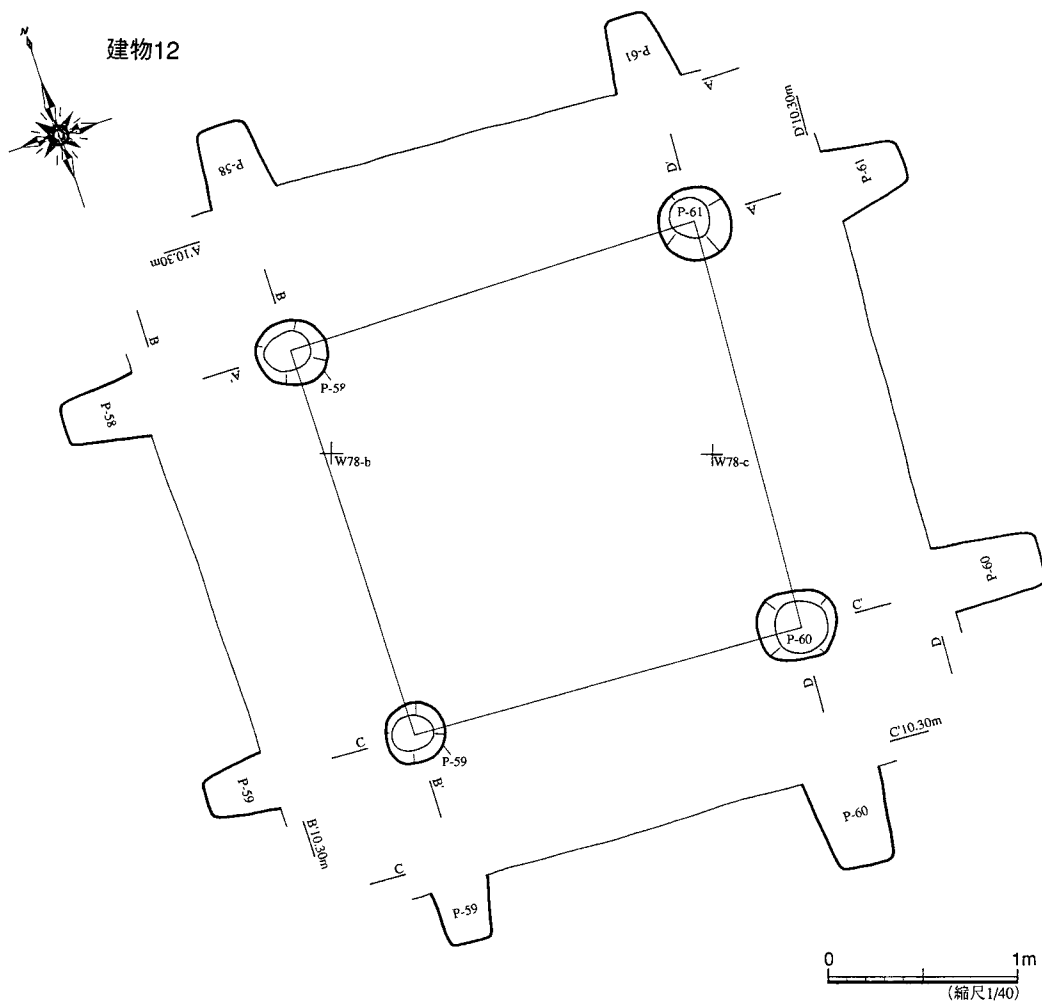


図217 建物12

P - 61 平面形は円形で、やや開き気味に立ち上がる。壙底はほぼ平らである

出入口口

検出していない。

壁柱穴

検出していない。

炉 跡

検出していない。

(石井淳平)

建物13

概 要

柱間距離2.40m、主柱穴内面積22.99m²の小型の建物である。直径0.4~0.5m、深さ0.8~1mの四本の主柱穴が東西方向にやや長い方形に配列される。建物の規模と較べ、主柱穴の規模が大きいことに特徴がある。

建物の方位は他の建物と比較し、大きく西へ振れる。

同じく方位が西に振れる建物15、17とともに一連の建物群を構成するものと考えられる。建物12と重複する。

主柱穴

P - 62 平面形は円形で、ほぼ垂直に立ち上がる。壙底は平らである。他の主柱穴と比較して浅い。

P - 63 平面形は円形で、壙底は平らである。やや開き気味に立ち上がる。覆土の中位から炭化材を検出した。丸太を輪切りにしたような状態で、木口面が上方を向いている。炭化した柱材かとも考えたが、断面では上方、下方ともに柱の痕跡を確認できなかった。また、検出面が覆土の中位であることから、炭化した柱材の底面が残存したものとも考えにくい。この炭化材の機能・用途については不明である。同様の炭化材は1998年度のキウス4遺跡Q地区の柱穴からも検出されており、同じく柱穴の覆土の中位で検出されている。

P - 64 平面形は上端が楕円形で、下端が円形である。ほぼ垂直に立ち上がる。壙底は平らである。

P - 65 平面形は円形で、ほぼ垂直に立ち上がる。壙底は平らである。

出入口口

検出していない。

壁柱穴

検出していない。

炉 跡

検出していない。

(石井淳平)

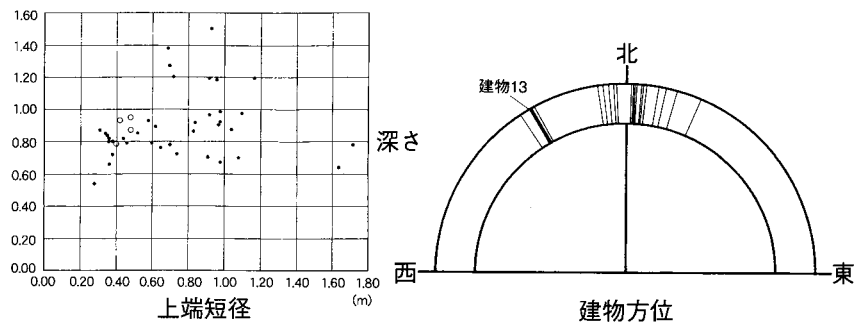
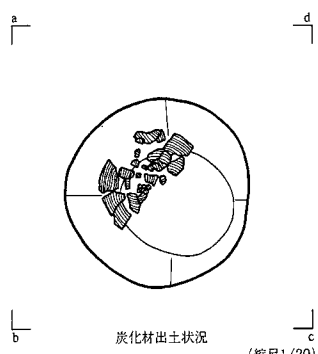
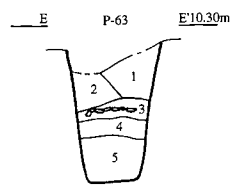
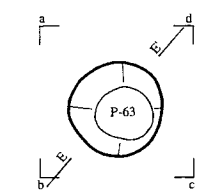
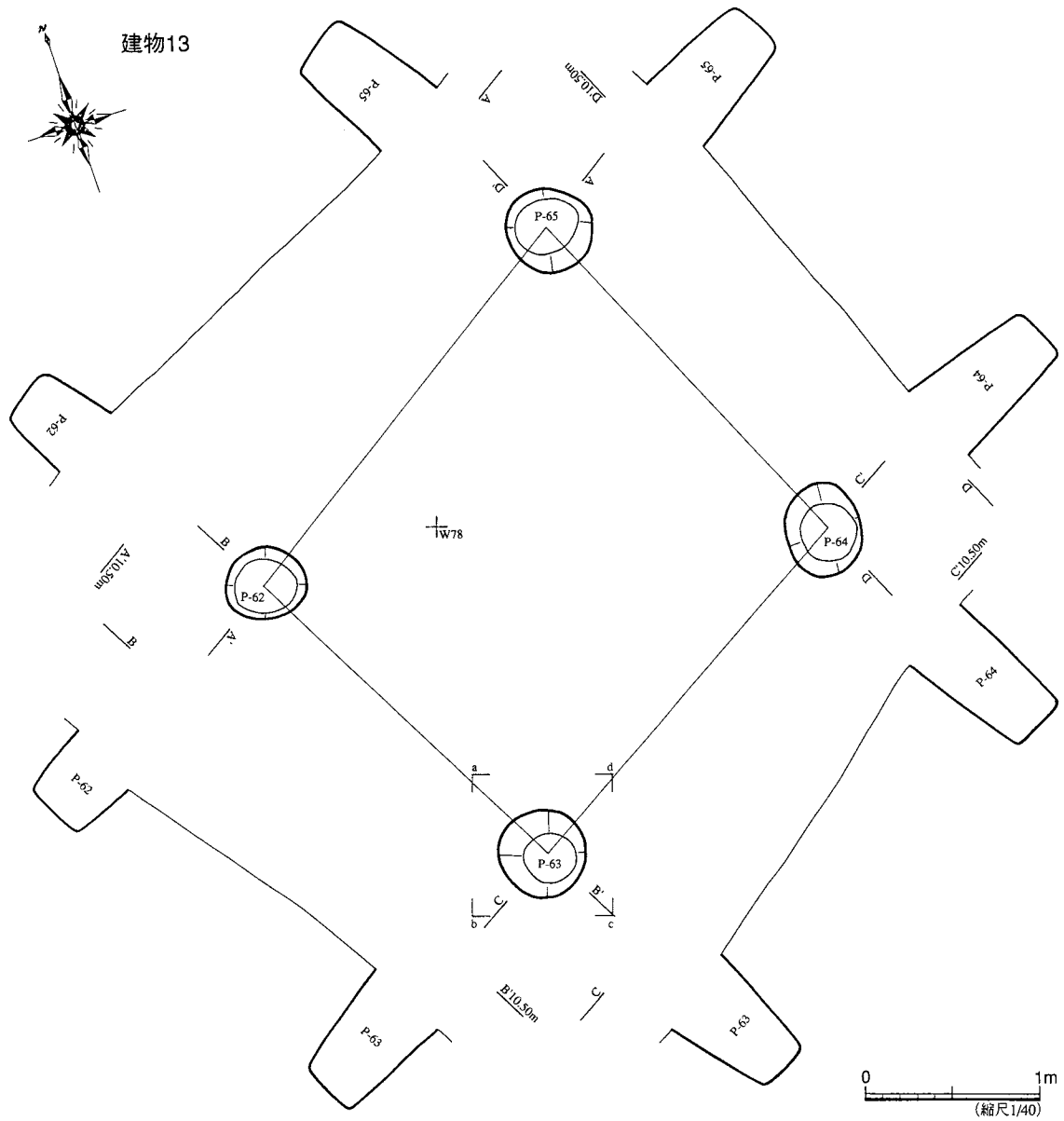


図218 建物13の主軸方位と主柱穴の規模



P63の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3.5/4	暗褐色~褐色土	ソフト	En-aバミスを多量に含む	
2	10YR3.5/4	暗褐色~褐色土		粒の細かいEn-aバミスを多量に含む	
3	10YR4/6	褐色土	ややソフト	やや粘質 板状の炭化材を層中に含む	
4	10YR4/6	褐色土		En-aバミスを少量含む	
5	10YR4/6	褐色土	ややハード	En-aバミス主体でEn-aルームのブロックを少量含む	

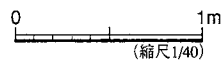


図219 建物13

建物14

概要

柱間距離2.62m、主柱穴内面積27.31m²の小型の建物である。直径が0.4~0.5m、深さが0.8~1.1mの四本の主柱穴がほぼ正方形に配列される。建物の規模と比べ、主柱穴の規模が大きいことが特徴である。

主柱穴

P - 66 平面形はいびつな楕円形で、やや開き気味に立ち上がる。壙底は平らである。

P - 67 平面形は上端が西に広がる楕円形で、下端は円形である。壙底は平らで、ほぼ垂直に立ち上がる。西壁は覆土中位で大きく開きながら立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P - 68 平面形は円形で、壙底はやや丸味をもつ。壙底付近ではほぼ垂直に立ち上がり、壙口付近はやや開き気味となる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P - 69 平面形は円形で、壙底は平らである。壙底付近ではほぼ垂直に立ち上がり、壙口付近はやや開き気味となる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

壁柱穴

検出していない。

炉跡

検出していない。

(石井淳平)

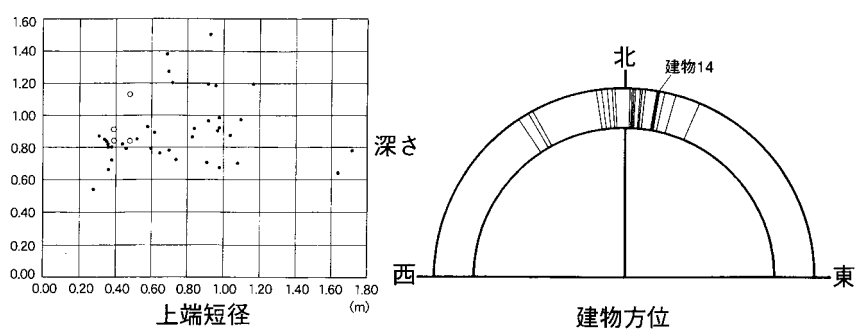
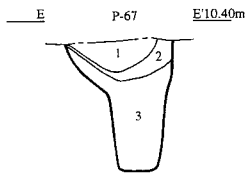
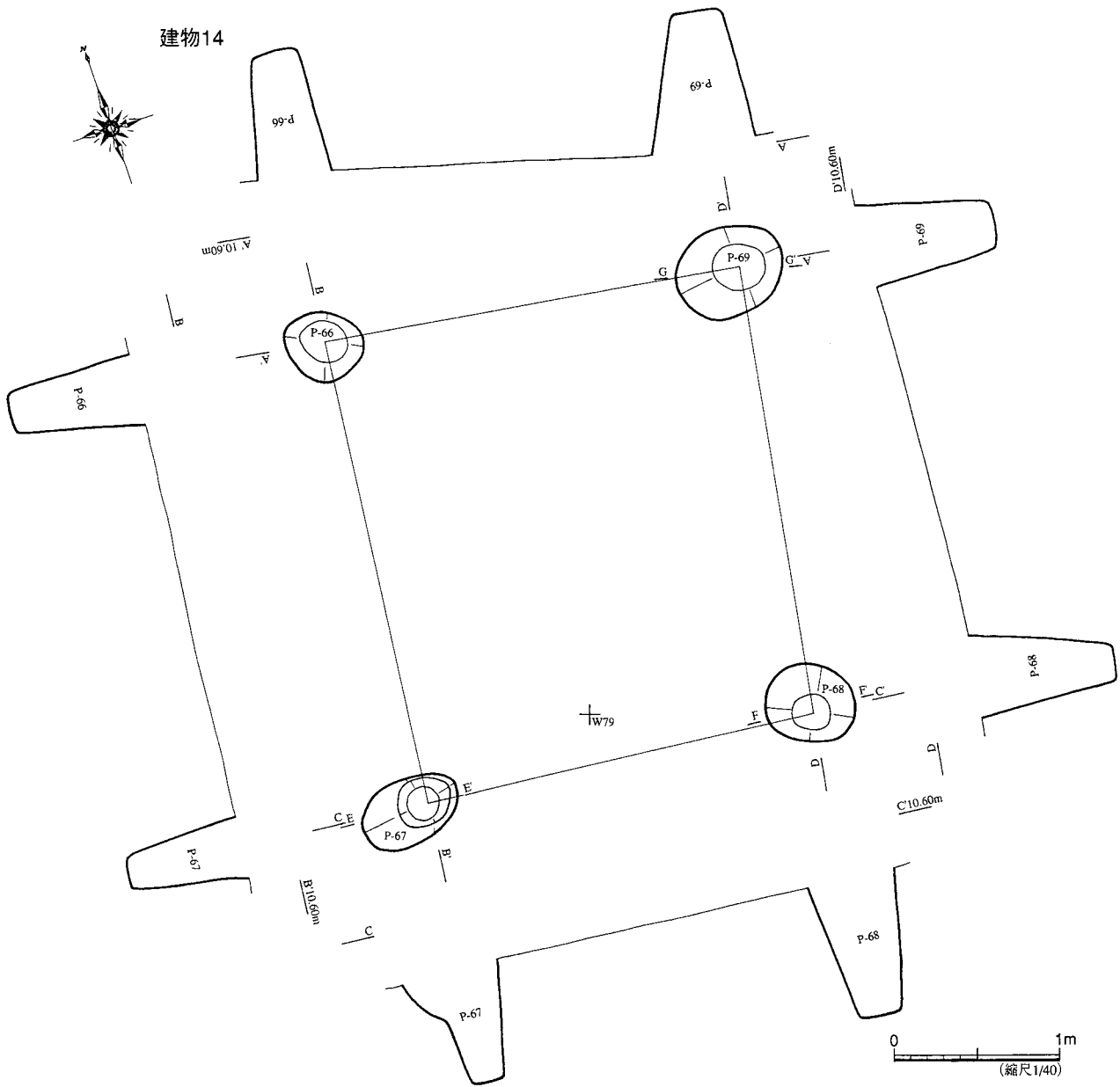
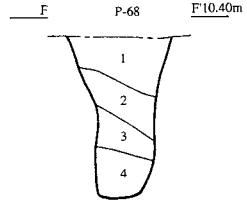


図220 建物14の主軸方位と主柱穴の規模



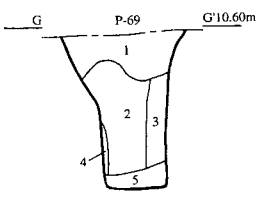
P67の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/1	黒褐色土	ややハード	En-aバミスをやや多く含む、Ta-cバミスをやや多く含む	木根?
2	10YR4/4	褐色土		En-aバミスをやや多く含む VI層土の埋め戻し土	
3	10YR4/4	褐色土		En-aバミスをほとんど含まない VI層土の埋め戻し土	



P68の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR4/4	褐色土		En-aバミスをやや多く含む、炭化物を少量含む	
2	10YR4/4	褐色土		En-aバミスを多く含む	
3	10YR4/4	褐色土	ややハード	En-aバミスをやや多く含む	
4	10YR4/4	褐色土	ハード	En-aバミスを少量含む	



P69の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	7.5YR3/2	黒褐色土		En-aバミスを含む	
2	7.5YR2/3	極暗褐色土		En-aバミスを含む	
3	7.5YR4/4	褐色土		細かいEn-aバミスを多量に含む	
4	7.5YR3/4	暗褐色土		En-aバミスを多量に含む	
5	7.5YR4/6	褐色土		細かいEn-aバミスを多量に含む	



図221 建物14

建物15

概要

柱間距離2.90m、主柱穴内面積33.52m²で、建物規模からは小型の建物に分類できるが、主柱穴の規模は直径1~1.2m、深さ1.2~1.4mと全ての建物を通して最も大きい。上部構造は大型の建物と共通である可

能性が高く、小型の建物に分類することはできない。また、建物13、17と同様、他の建物と比較し、方位が大きく西へ振れることなど、特殊な建物である印象を受ける。主柱穴はほぼ正方形に配列される。同じく方位が西に振れる建物15、17とともに一連の建物群を構成するものとする。

主柱穴

P-70 平面形は上端が北西に広がるひょうたん形で、下端は円形である。壙底はほぼ平らで、壙底付近は垂直に立ち上がり、壙口付近で開き気味になる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P-71 平面形は上端が楕円形で、下端は円形である。壙底はほぼ平らで、壙底付近では垂直に立ち上がり、壙口付近で開き気味になる。土層1~5は抜き取り痕である可能性が高く、上端の北西の広がりも抜き取りに伴う攪乱の可能性が高い。

P-72 平面形は円形で、壙底はほぼ平らである。壙底の南西側が若干高くなる。壙底付近ではほぼ垂直に立ち上がり、壙口付近で開き気味になる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P-73 平面形は上端が西へ広がるいびつな楕円形で、下端は円形である。壙底は丸みをもつ。壙底付近ではほぼ垂直に立ち上がり、壙口付近で大きく開く。上端が西へ広がる平面形からは抜き取りが行われている可能性も考えられるが、断面では柱痕、抜き取り痕は確認できない。

出入口

検出していない。

壁柱穴

検出していない。

炉跡

検出していない。

(石井淳平)

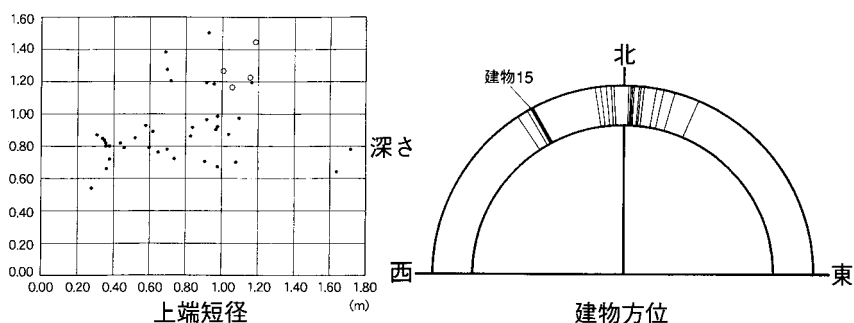
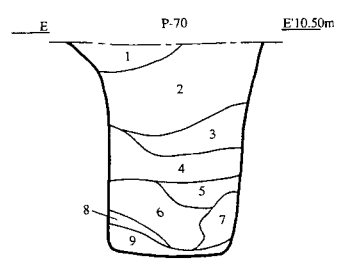
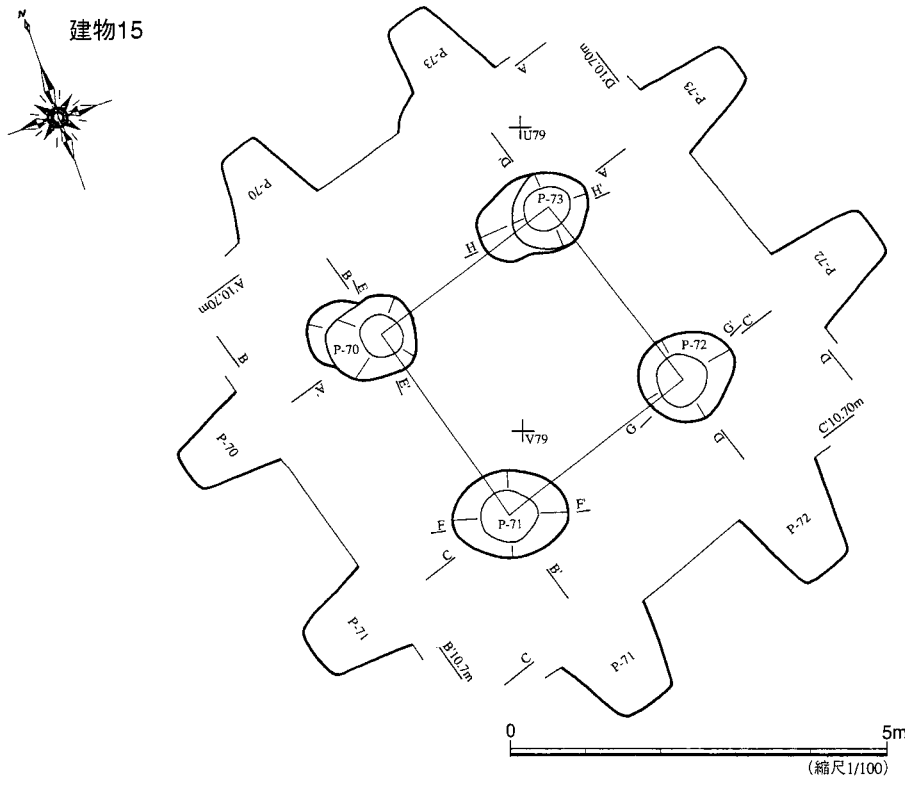
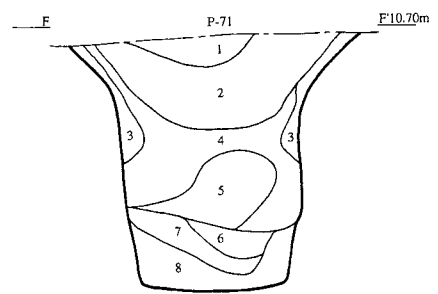


図222 建物15の主軸方位と主柱穴の規模



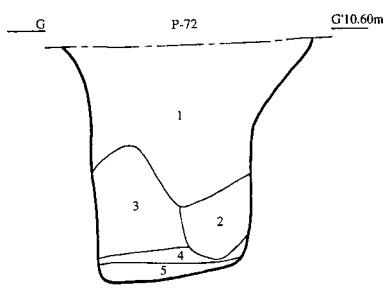
P70の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	2.5Y3/1	黒褐色		少量のEn-aバミスを含む	
2	10YR2/3	黒褐色		En-aバミスを含む	
3	7.5YR3/2	黒褐色		シルト質土 極少量のEn-aバミスを含む	
4	10YR2/3	黒褐色		En-aバミスを多く含む	
5	10YR3/4	暗褐色		シルト質土	
6	10YR3/3	暗褐色		En-aバミスを多く含む	
7	7.5YR2/2	黒褐色			
8	7.5YR2/1	黒色		粘質	
9	7.5YR5/6	明褐色		粘質	



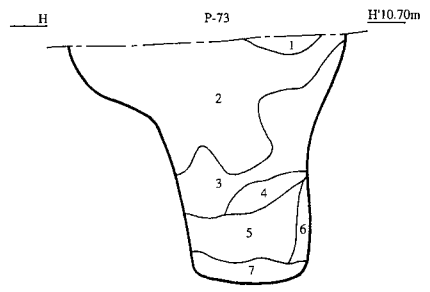
P71の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/2	暗褐色土		En-aバミスを少量含む	
2	10YR3/2	オリーブ黒色土		En-aバミスを多量に含む	
3	10YR2/3	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	
4	10YR3/1	黒褐色土		En-aバミスを多量に含む	
5	10YR3/4	暗褐色土			
6	10YR2/3	黒褐色土		粘質	
7	7.5YR3/2	黒褐色土			
8	7.5YR3/4	黒褐色土			



P72の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	7.5YR3/3	暗褐色土		En-aバミスを多く含む	
2	5Y3/1	オリーブ黒色土		細かいEn-aバミスを多く含む	
3	7.5YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	
4	10YR2/3	黒褐色土		En-aバミスを多く含む	



P73の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/1	黒褐色土		シルト質土 En-aバミスを含む	
2	10YR2/3	黒褐色土		En-aバミスを多く含む	
3	10YR3/3	黒褐色土		細かいEn-aバミスを多く含む	
4	7.5YR2/1	黒褐色土			
5	10YR2/3	暗褐色土		En-aバミスを含む	
6	7.5YR3/2	暗褐色土		細かいEn-aバミスを含む	
7	5YR3/2	明褐色土		砂質 細かいEn-aバミスを含む	

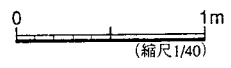


図223 建物15

建物16

概要

柱間距離2.22m、主柱穴内面積19.67m²の小型の建物である。直径0.2m前後、深さ0.4~0.6mの主柱穴で構成される。主柱穴のうち、南西側の一基はP-71と重複しているため確認できないが、主柱穴の配列は

おそらく正方形になるものと推測する。建物の中央より若干東のSE2層中でF-39を検出し、これを炉跡と推定した。建物の外周を直径約5.8mの円形に壁柱穴がめぐる。また、主柱穴は全て断面図を作成していない。

主柱穴

P-74 平面形は円形で、やや開き気味に立ち上がる。壙底は平らである。

P-75 平面形は円形で、やや開き気味に立ち上がる。壙底は平らである。

P-76 平面形は円形で、やや開き気味に立ち上がる。壙底は平らである。

出入り口

検出していない。

壁柱穴

23カ所の小柱穴を壁柱穴と判断した。壁柱穴は実際の掘り込み面よりかなり掘り下げてから検出しているので、浅い壁柱穴は検出できなかった可能性が高い。本来はもっと密に建物の周りをめぐっていたものと考えている。

炉跡

検出していない。

(石井淳平)

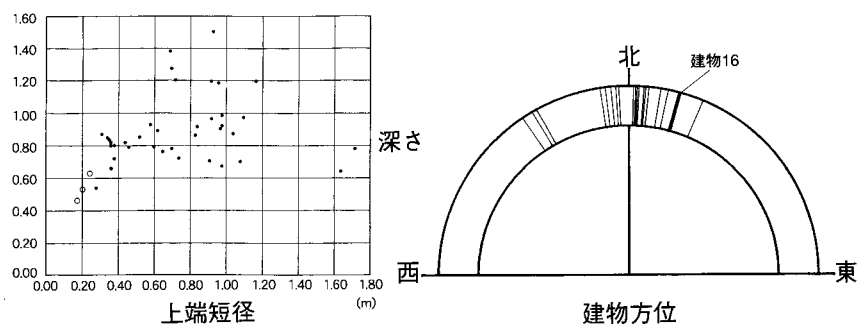


図224 建物16の主軸方位と主柱穴の規模

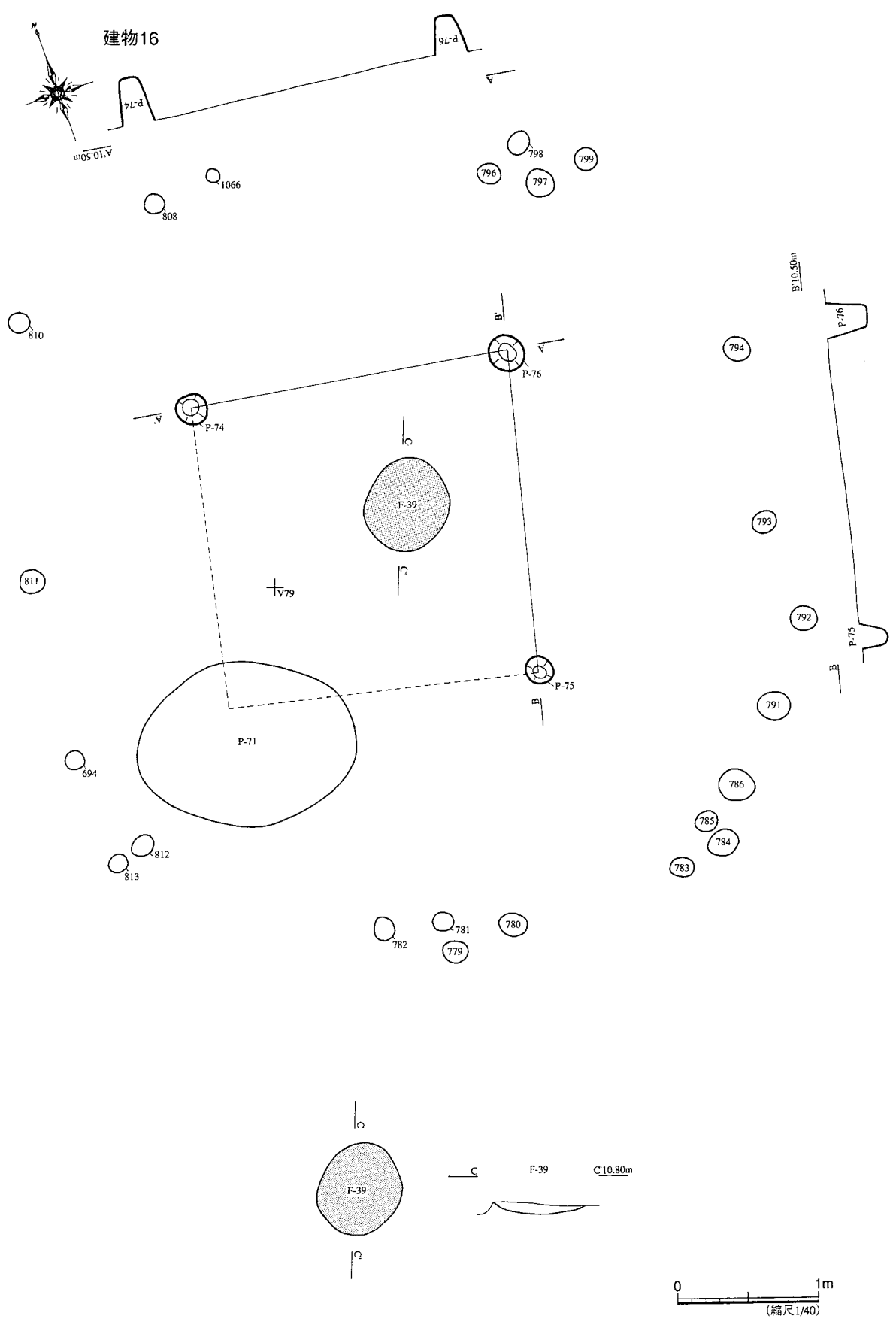


図225 建物16

建物17

概要

柱間距離2.10m、支柱穴内面積17.58㎡の小型の建物である。直径0.2~0.3mの四本の支柱穴がほぼ正方形に配列される。支柱穴は深さにばらつきがある。建物の方位は他の建物と比較し、大きく西へ振れる。同じく方位が西に振れる建物13、15とともに一連の建物群を構成するものとする。また、支柱穴は全て断面図を作成していない。

同じく方位が西に振れる建物13、15とともに一連の建物群を構成するものとする。また、支柱穴は全て断面図を作成していない。

支柱穴

P - 77 平面形は円形で、開き気味に立ち上がる。墳底は平らである。

P - 78 平面形は上端が楕円形で、下端は円形である。開き気味に立ち上がる。墳底は平らである。

P - 79 平面形は円形で、ほぼ垂直に立ち上がる。墳底は平らである。

P - 80 平面形は円形で、やや開き気味に立ち上がる。墳底は平らである。

出入口

検出していない。

壁柱穴

検出していない。

炉跡

検出していない。

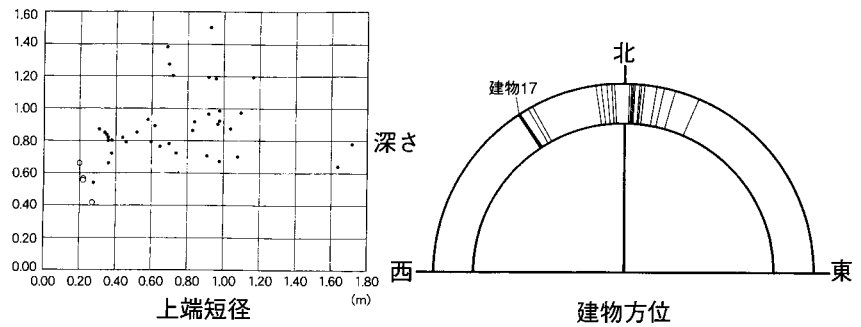


図226 建物17の主軸方位と支柱穴の規模

(石井淳平)

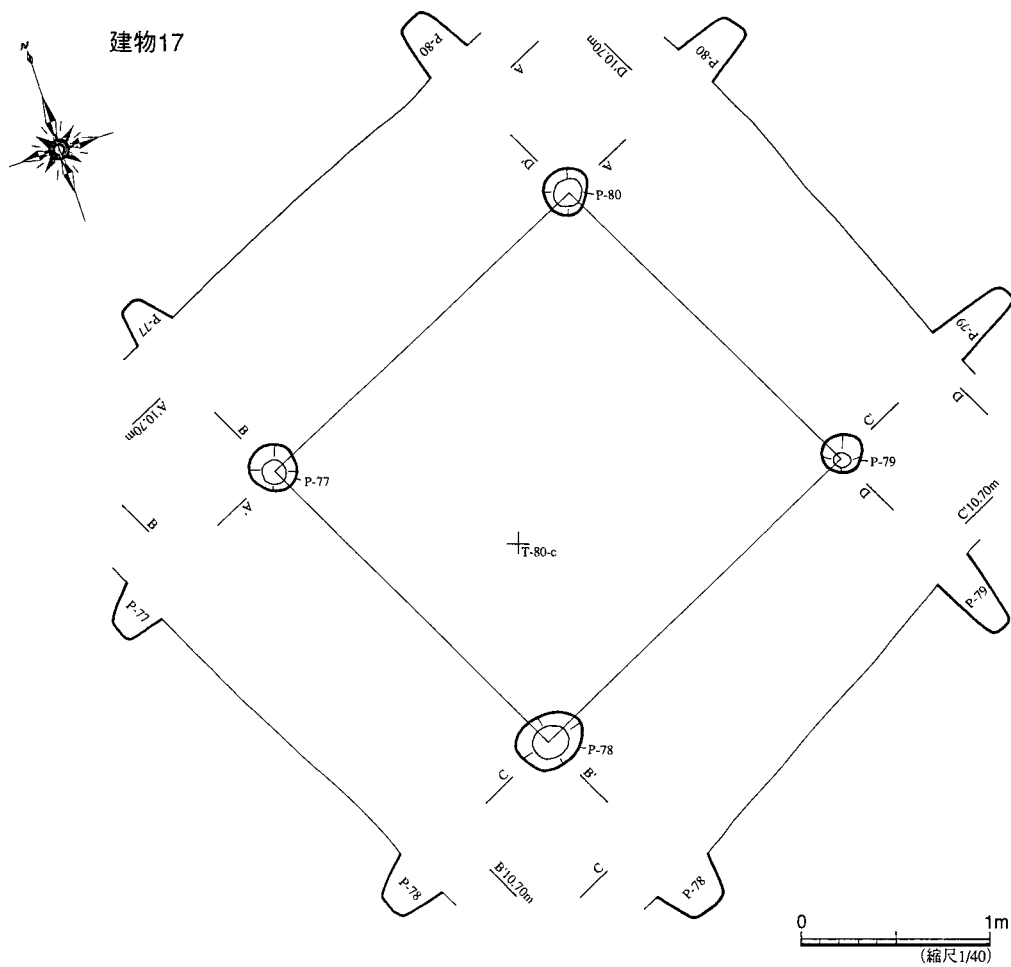


図227 建物17

建物18

概要

柱間距離2.10m、主柱穴内面積17.65m²の小型の建物である。直径0.2m前後、深さ0.6~0.8mの四本の主柱穴が東西方向にやや長い方形に配列される。また、P-83を除いて主柱穴は全て断面図を作成していない。

主柱穴

- P-81 平面形は円形で、やや開き気味に立ち上がる。墳底は平らである。
- P-82 平面形は円形で、やや開き気味に立ち上がる。墳底は平らである。
- P-83 平面形は円形で、墳底は平らである。垂直に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認でき

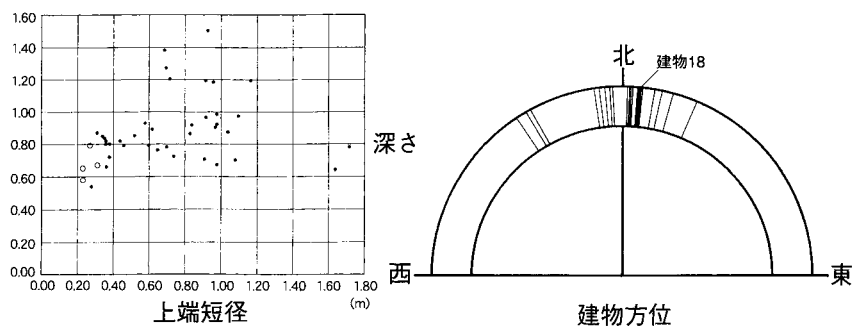


図228 建物18の主軸方位と主柱穴の規模

ない。

P - 84 平面形は円形で、やや開き気味に立ち上がる。壙底は平らである。

出入口口

検出していない。

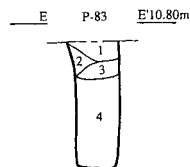
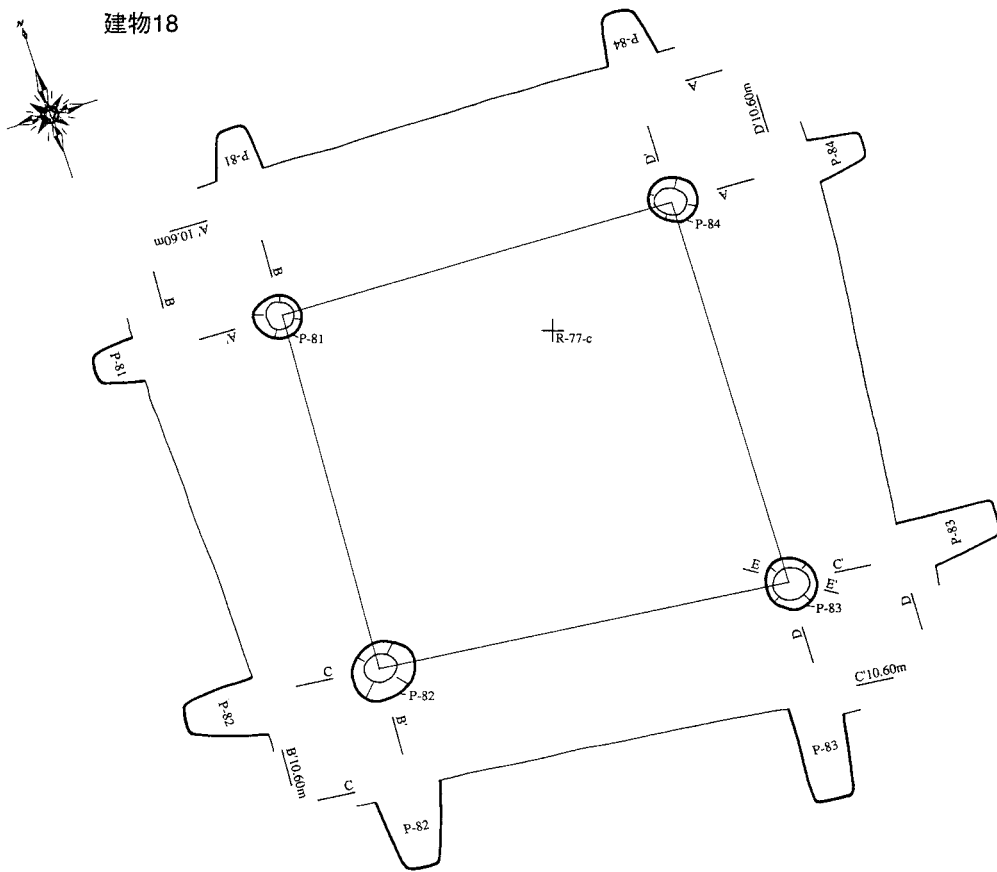
壁柱穴

検出していない。

炉 跡

検出していない。

(石井淳平)



P83の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	7.5YR2/2	黒褐色土		En-a/バミスをやや多く含む	
2	10YR4/4	褐色土		En-a/バミスをやや多く含む	
3	10YR4/3	におい黄褐色土		En-a/バミスをやや多く含む	
4	7.5YR3/2	黒褐色土		En-a/バミスをやや多く含む	

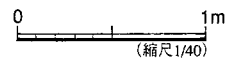


図229 建物18

建物19

概要

柱間距離2.92m、支柱穴内面積34.02m²の小型の建物である。直径0.3~0.4mの四本の支柱穴がほぼ正方形に配列される。他の建物から離れて一軒だけ確認した。方位や柱間距離は他の建物と共通することから、時期は他の建物と同じ頃である

と考える。建物の中心より東側のVb層上面で、一括土器1を検出した。複数個体の土器が折り重なって廃棄されており、二次被熱を受けている個体が多い。土器の廃棄された範囲は焼土が形成されていることから、土器に残された二次被熱痕はこの地点で被熱したものと判断した。焼土は建物の炉跡である可能性が高く、建物の炉に土器を敷き詰めた状態で火を焚いていた場合と、土器を炉の中に廃棄した場合が考えられる。廃棄された土器は残存率が半分から1/3程度で、残りの破片の多くは盛土内から出土している。

支柱穴

P - 85 平面形は円形で、開き気味に立ち上がる。墳底は平らである。

P - 86 平面形は円形で、開き気味に立ち上がる。墳底は平らである。

P - 87 平面形は円形で、開き気味に立ち上がる。墳底は平らである。

P - 88 平面形は円形で、開き気味に立ち上がる。墳底は平らである。

出入口

検出していない。

壁柱穴

検出していない。

炉跡

一括土器1の下で検出した焼土を炉跡と推定した。

一括土器

Rラインのセクションベルトを掘り下げ中に検出した。盛土14層の下層からすでに土器片が集中的に出土しており、一括土器の存在を予想していた。複数の深鉢形土器が50~60cmの範囲に折り重なって廃棄されており、多くの土器片は全体の半分から1/3程度のものが折り重なった状態で出土した。完全な形の土器が廃棄されたのではなく、半分から1/3程度の破片が廃棄されたものである。出土した土器は盛土遺構から出土した土器と接合しており、特に建物19から、3~4グリッド離れた、M70~N72付近で出土した土器片と多く接合している。土器に伴って焼土を検出しており、この焼土が建物19の炉跡の可能性が高いと判断したことから、これらの土器も建物19に伴うものと判断した。

(石井淳平)

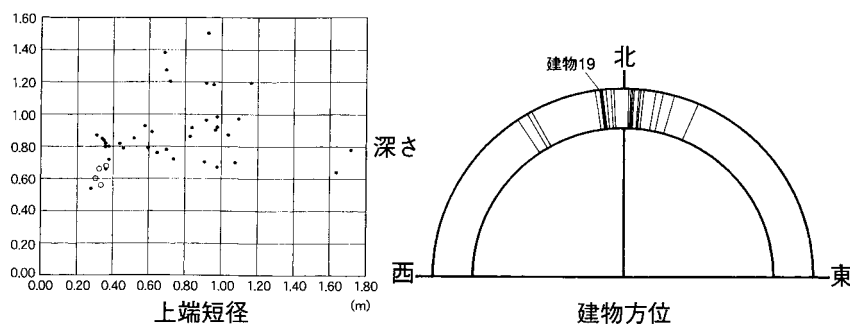


図230 建物19の主軸方位と支柱穴の規模

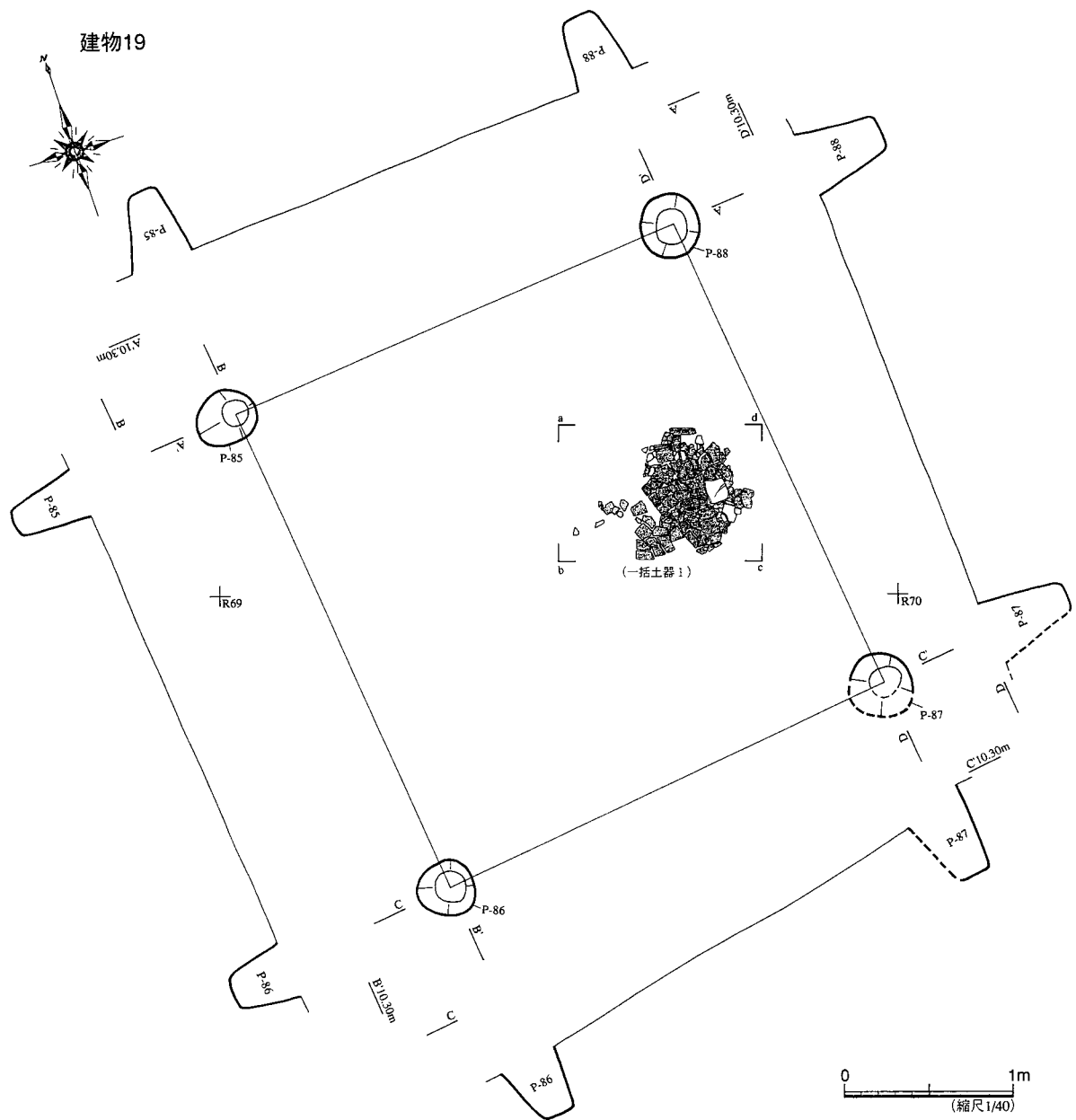


図231 建物19(1)

建物20

概要

主柱穴は検出できず、出入口と壁柱穴のみを検出した。壁柱穴の大部分は調査区外に存在し、全周の約1/3を検出した。壁柱穴の推定直径は約8.2mで、建物8、9より一回り小さい。小型～中型の建物に分類できる。建物の東側にあるP-89、90を出入口を構成する柱穴と推定した。建物21と重複する。

主柱穴

検出していない。

出入口

P-89 平面形は細長い楕円形である。

P-90 平面形は楕円形である。

壁柱穴



図232 建物19(2)

10カ所の小柱穴を壁柱穴と判断した。

炉 跡

検出していない。

(石井淳平)

建物21

概 要

主柱穴は検出できず、出入口と壁柱穴のみを検出した。壁柱穴の大部分は調査区外に存在し、全周の約 1 / 3 を検出した。壁柱穴の推定直径は約7.2m で、建物20より一回り小さく、小型の建

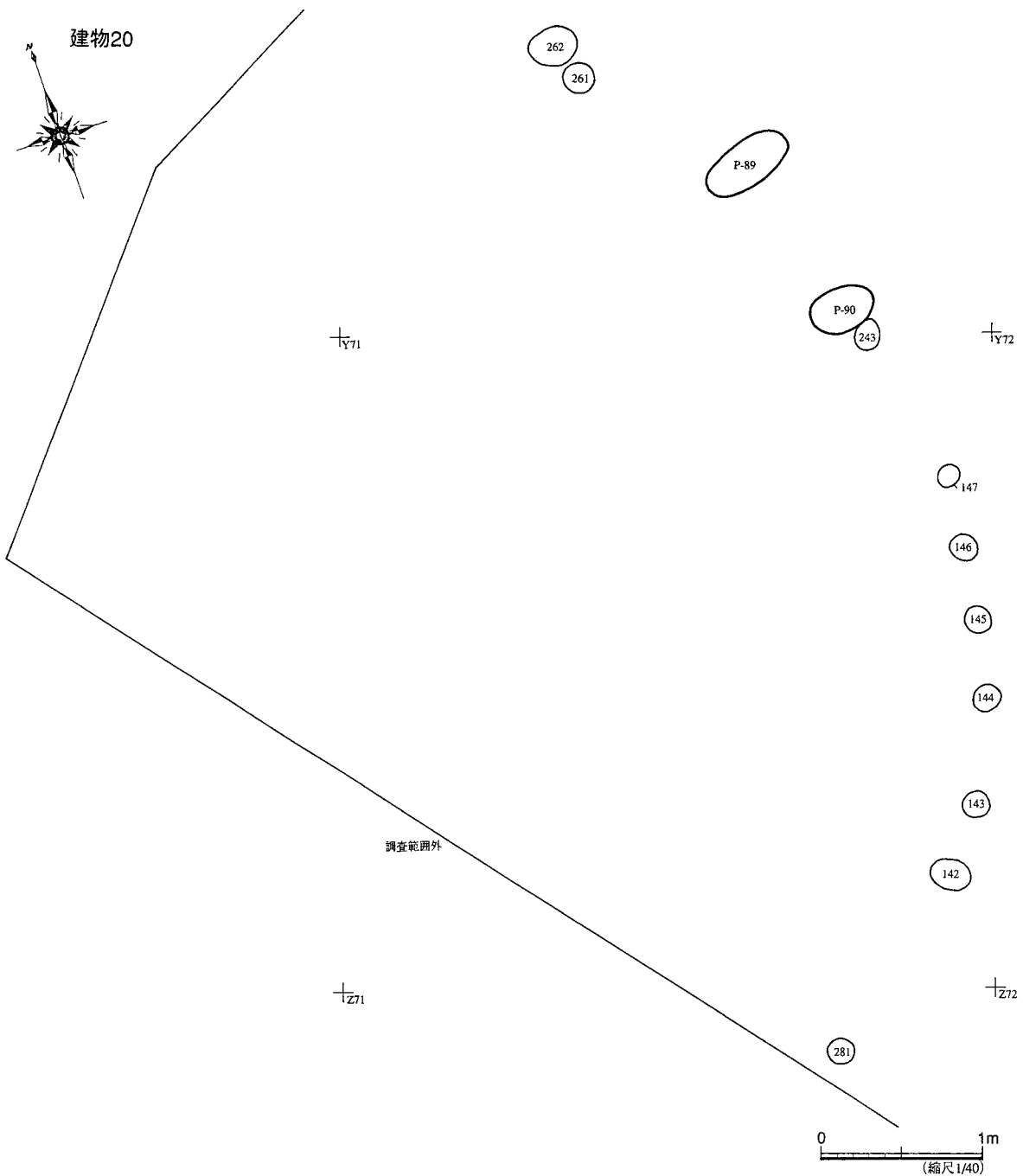


図233 建物20

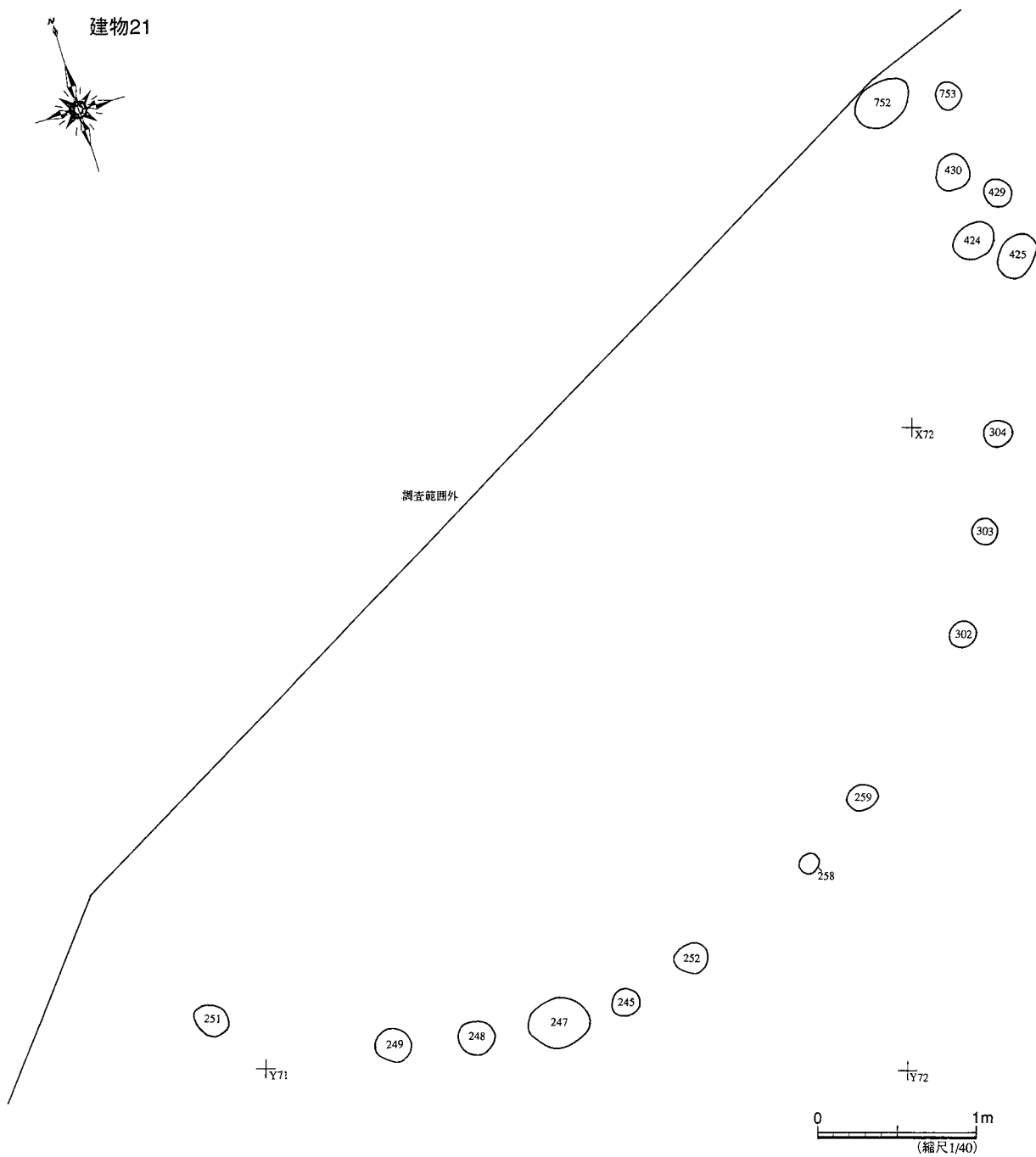


図234 建物21

物に分類できる。建物20と重複する。

主柱穴

検出していない。

出入口口

検出していない。

壁柱穴

17カ所の小柱穴を壁柱穴と判断した。

炉 跡

検出していない。

(石井淳平)

(2) 建物以外の柱穴

P - 91

平面形は上端が北西に大きく広がる楕円形で、下端の平面形は円形である。壙底はやや丸味をもち、ほぼ垂直に立ち上がる。P - 17、21と切り合っており、P - 17に切られる。土層5が柱穴掘形、土層1～4が抜き取り痕である。上端の広がりも抜き取りに伴う攪乱によるものである。

(石井淳平)

P - 92

平面形は円形で、壙底は丸みをもつ。検出時には、P - 3、12、18などのプランを一つものとして調査を開始したため、P - 92は適切な位置で、半裁する事ができなかった。P - 3、12を掘り下げる過程で、その存在に気づき、改めて半裁した。

P - 18と切り合っているが、先後関係は不明である。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

(石井淳平)

P - 93

平面形は上端がやや南東に広がる楕円形で、壙底はほぼ平らである。P - 3、22と切り合っているが、わずかしが接していないため、切り合いは不明である。土層9が柱穴掘形で、土層1～8が抜き取り痕である。

(石井淳平)

P - 94

平面形は楕円形で、壙底はほぼ平らである。埋土に多くのベンガラが含まれており、壙底付近でベンガラの魂をを検出した。遺構の性格は、周囲に出入り口を構成する柱穴が多く分布すること、P - 94の平面形が楕円形で出入り口を構成する柱穴と形状が似通っていることから、出入り口を構成する柱穴の可能性が高いと判断した。ただし、ベンガラが出土していることから、小形の墓壙や、儀礼に伴う特殊な土壌の可能性もある。

(石井淳平)

P - 95

平面形は円形で、壙底はやや丸みをもつ。建物7の主柱穴であるP - 32を切る。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

(石井淳平)

P - 96

平面形は円形で、壙底は丸みをもつ。検出面から約1/3の深さに柱の抜き取りによってできた段をもつ。土層3～5が柱穴掘形、土層1～2が抜き取り痕である。

(石井淳平)

P - 97

平面形は円形で、壙底は丸みをもつ。ほぼ垂直に立ち上がる。土層3は柱痕の可能性はある。

(石井淳平)

P - 98

平面形は楕円形で、壙底はやや丸みをもつ。開き気味に立ち上がる。下端の平面形がひょうたん

形であることから、規模のよく似た2つの柱穴が重複している可能性がある。柱痕、抜き取り痕は確認できない。
(石井淳平)

P - 99

平面形は楕円形で、壙底は平らである。ほぼ垂直に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。
(石井淳平)

P - 100

平面形は上端が南に広がる楕円形で、壙底はやや丸みをもつ。上端と下端の位置がずれていること、検出面から1/2の深さに段があることから抜き取りが行われた可能性を考えてが、断面の観察では抜き取り痕を確認できなかった。
(石井淳平)

P - 101

平面形は上端が南北に長い楕円形で、下端は円形である。土層7～9が柱穴掘形、土層1～6が抜き取り痕であると判断した。柱穴掘形は南側に大きく傾斜している。
(石井淳平)

P - 102

平面形は円形で、壙底は丸みをもつ。開き気味に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。
(石井淳平)

P - 103、104

どちらも平面形は円形で、P - 103は壙底が平らで、104は丸みをもつ。調査区壁にかかっており、半分は調査区外に存在する。P - 103はSE2層を切って掘り込まれている。図上ではSE1層がP - 103を切っているように表現したが、P - 103はSE1層中から掘り込まれている可能性もある。どちらも、柱痕、抜き取り痕は確認できない。
(石井淳平)

P - 105

平面形は円形で、上端が南東にずれる。壙底は丸みをもち、ほぼ垂直に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。
(石井淳平)

P - 106

平面形は円形で、壙底はほぼ平らである。ほぼ垂直に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。
(石井淳平)

P - 107

平面形は円形で、壙底はほぼ平らである。ほぼ垂直に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。
(石井淳平)

P - 108

平面形は円形で、上端がやや東にずれる。壙底はほぼ平らで、ほぼ垂直に立ち上がる。柱痕、抜

き取り痕は確認できない。

(石井淳平)

P - 109

平面形は円形で、壙底はやや丸みをもつ。ほぼ垂直に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

(石井淳平)

P - 110

平面形は円形で、壙底はほぼ平らである。ほぼ垂直に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

(石井淳平)

P - 111

平面形は円形で、壙底はほぼ平らである。ほぼ垂直に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

(石井淳平)

P - 112

平面形は円形で、壙底はほぼ平らである。ほぼ垂直に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

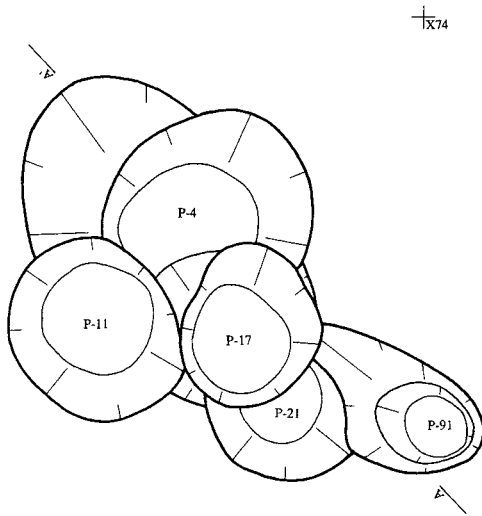
(石井淳平)

P - 113、114

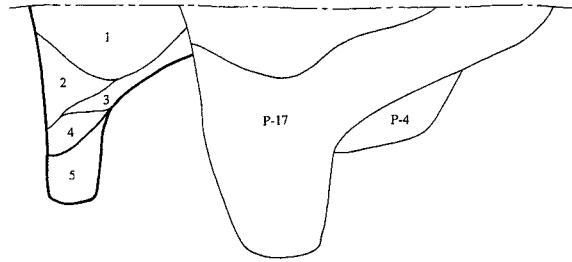
切り合っているため正確な平面形は不明であるが、おそらくどちらも円形である。壙底はやや丸みをもつ。どちらも柱痕、抜き取り痕は確認できない。

(石井淳平)

P-91



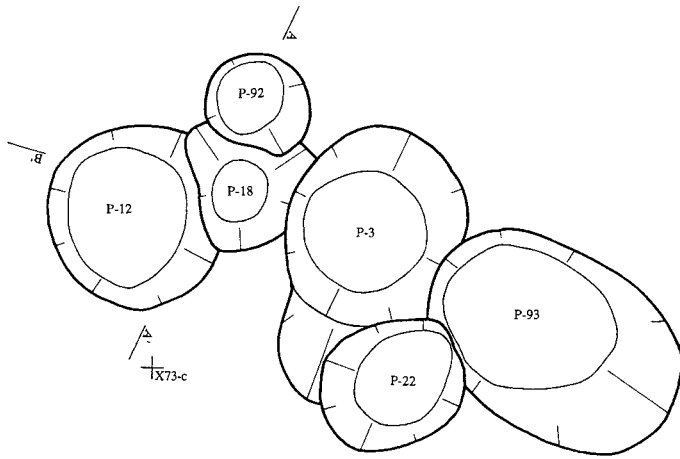
A P-91 A'10.30m



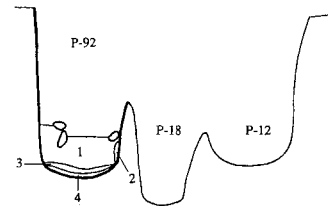
P91の土層

番号	土色	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/4		粗い砂粒主体で、粒の大きなEn-aバミスを多量に含む	抜き取り
2	10YR3/4	ソフト	粗い砂粒主体で、10mm程度の礫砂とEn-aバミスを少量含む	抜き取り
3	10YR4/4	ややハード	En-aローム主体で黒褐色土をやや多く含む	抜き取り
4	10YR4/6	ソフト	En-aローム主体で黒褐色土をやや多く含む	抜き取り
5	10YR3/3	ソフト	やや粘質	掘形

P-92



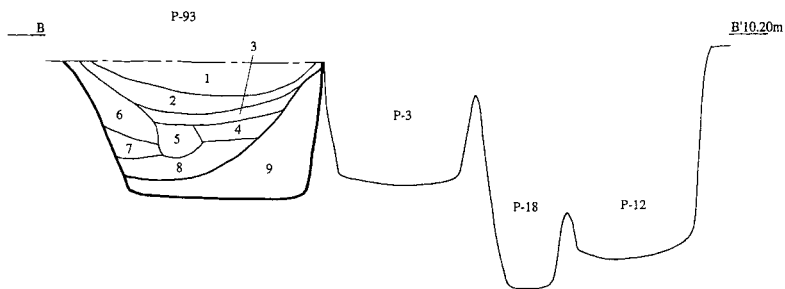
A P-92 A'10.20m



P92の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR4/2	灰黄褐色土	ややソフト	短の粗いEn-aバミスを多く含む	
2				炭化材のかたまり	
3	10YR4/6	褐色土	ハード	En-aバミスの純層	
4	10YT3/4	暗褐色土		やや粘質	

P-93



P93の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3.5/4	暗褐色土		En-aバミスをやや多く含む	抜き取り
2	10YR4/3.5	褐色土		やや粘質 En-aバミスをやや多く含む	抜き取り
3	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを極少量含む	抜き取り
4	10YR3/3.5	暗褐色土		En-aバミスを多く含む	抜き取り
5	10YR4/5	褐色土	ややソフト	粗い砂粒主体で、粒の大きなEn-aバミスを多量に含む	抜き取り
6	10YR3/3	暗褐色土	ややハード	やや粘質 En-aバミスを少量含む	抜き取り
7	10YR2/2	黒褐色土		やや粘質 En-aバミスを少量含む	抜き取り
8	10YR4/4	褐色土	ややソフト	粗の大きなEn-aバミスを多量に含む	抜き取り
9	10YR4/6	褐色土	ややハード	汚れたEn-aバミスを少量含む	掘形

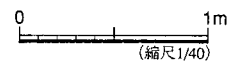
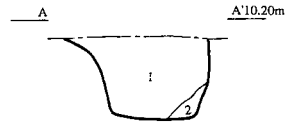
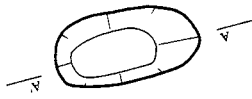


図235 柱穴(1)

P-94

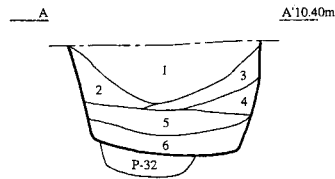
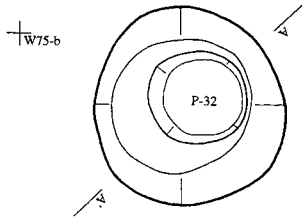


↑76

P94の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	5YR4/4	にぶい赤褐色土		En-aバミスを多く含む、赤色顔料を多量に含む	
2	2.5YR4/5	にぶい赤褐色-赤褐色土	ややソフト	赤色顔料主体	

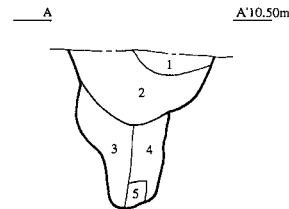
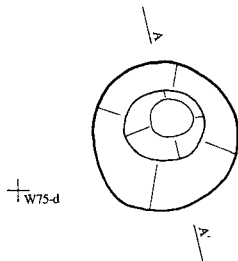
P-95



P95の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを多く含む、炭化物を少量含む	
2	10YR3.5/4	暗褐色土		やや粘質 En-aバミスを多く含む	
3	10YR4/4	褐色土	ややハード	粒の細かいEn-aバミスを多量に含む	
4	10YR4/5	褐色土		粒の細かいEn-aバミスを多く含む	
5	10YR4/4	褐色土	ややソフト	En-aバミスを多量に含む	
6	10YR3/4	暗褐色土		やや粘質 En-aバミスを多量に含む	

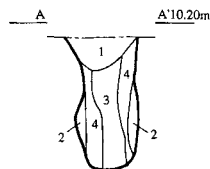
P-96



P96の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/1	黒色土		En-aバミスを少量含む	抜き取り
2	10YR2/3	黒褐色土	ややハード	En-aバミスを多量に含む	抜き取り
3	10YR3/4	暗褐色土	ソフト	En-aローム主体で、黒褐色土をやや多く含む	壁面の崩落
4	10YR3/2	黒褐色土	ソフト	保水性なし En-aバミスを少量含む	堀形
5	10YR2/1	黒色土	ソフト	粘質	柱状の可能性あり

P-97



P97の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	7.5YR2/3	極暗褐色土	ややハード	En-aバミスト炭化物を少量含む	
2	10YR3/3	暗褐色土	ややハード	En-aバミスを少量含む	
3	10YR3/3	暗褐色土	ソフト	保水性なし En-aバミスト主体で、黒褐色土を多く含む	
4	10YR3/4	暗褐色土	ややハード	En-aバミスを多量に含む	

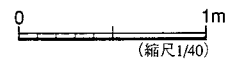
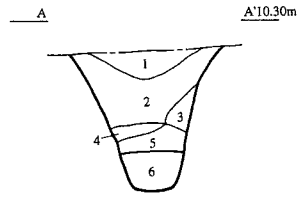
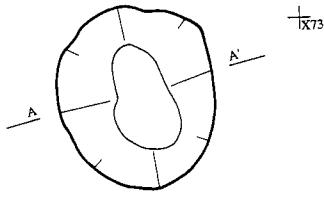


図236 柱穴(2)

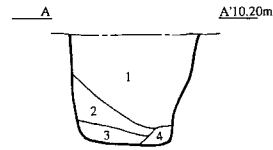
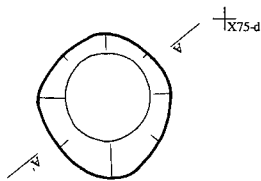
P-98



P98の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを多く含む	
2	10YR3/2	黒褐色土		En-aバミスを多く含む	
3	10YR3/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	
4	10YR2/2	黒褐色土	ややソフト	やや粘質。	
5	10YR3/4	暗褐色土		En-aバミスを多量に含む	
6	10YR4/4	褐色土	ややハード	En-aバミスを少量含む	

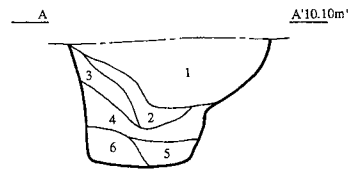
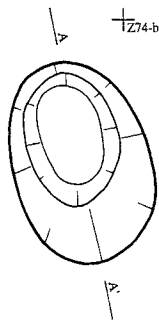
P-99



P99の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR4/3	にがい黄褐色土		粒の細かいEn-aバミスを多量に含む	
2	10YR2.5/3	黒褐色土		粒の細かいEn-aバミスを多く含む	
3	10YR3/4	暗褐色土	ややソフト	粒の粗い砂粒主体で、En-aバミスを少量含む	
4	10YR3.5/4	黒褐色土		粒の細かいEn-aバミスを多く含む	

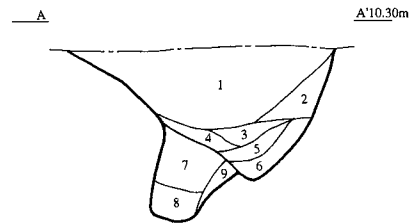
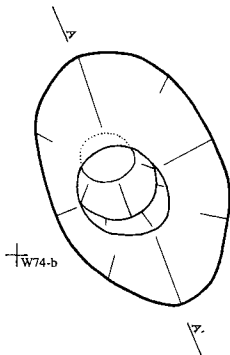
P-100



P100の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/2.5	黒褐色土		En-aバミスを多く含む	
2	10YR3/4	暗褐色土		En-aバミスを多く含む	
3	10YR3/3.5	暗褐色土		En-aバミスを少量含む	
4	10YR4/4	褐色土	やや粘質	En-aバミスを少量含む	
5	10YR4/6	褐色土	ややハード	En-aローム主体で、黒褐色土を多く含む、En-aバミスを多量に含む	
6	10YR2/2	黒褐色土	やや粘質	En-aバミスを極少量含む	

P-101



P101の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/3.5	暗褐色土	ふつう	En-aバミスを多く含む	抜き取り
2	10YR3.5/4	暗褐色～褐色土	ふつう	En-aバミスをやや多く含む	抜き取り
3	10YR3/4	暗褐色土	ややソフト	粒の細かいEn-aバミスを少量含む	抜き取り
4	10YR3.5/4	暗褐色～褐色土	ややソフト	En-aバミスをやや多く含む	抜き取り
5	10YR3.5/4	褐色土	ややソフト	En-aバミスをやや多く含む	抜き取り
6	10YR3/4	暗褐色土	ふつう	En-aバミスを多く含む	抜き取り
7	10YR4/4	褐色土	ややハード	En-aバミスを多量に含む、炭化物を少量含む	掘形
8	10YR4/6	褐色土	ハード	En-aバミスを多量に含む	掘形
9	10YR4.5/6	黒褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、黒褐色土を少量含む	掘形

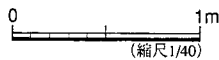
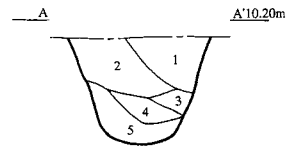
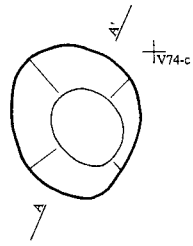


図237 柱穴(3)

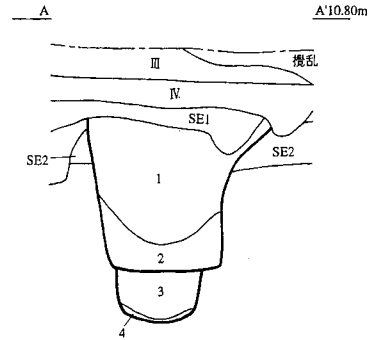
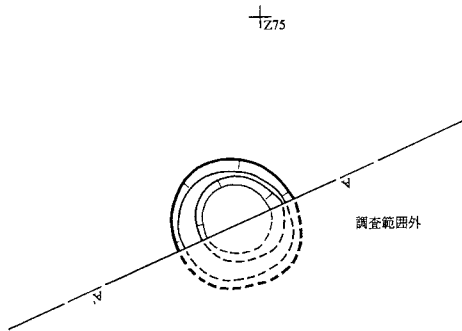
P-102



P102の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR5/3	暗褐色土		En-aバミスを多く含む	
2	10YR3/3.5	暗褐色土		細かいEn-aバミスを多く含む	
3	10YR2.5/3	黒褐色土		細かいEn-aバミスを少量	
4	10YR4/4	褐色土	ややソフト	En-aバミスを少量含む	
5	10YR3/4	暗褐色土		En-aバミスを極少量含む	

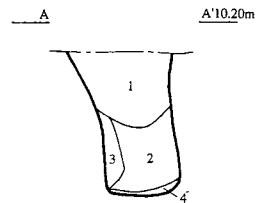
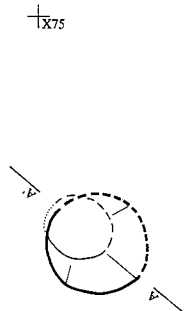
P-103 P-104



P103、104の土層

遺構番号	番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
P103	1	10YR4/4	褐色土	ややハード	En-aバミスを多く含む	
P103	2	10YR3/4	暗褐色土	ややソフト	En-aバミスを多く含む	
P104	3	10YR5/6	黄褐色土		En-aバミスを多量に含む	
P104	4	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む	

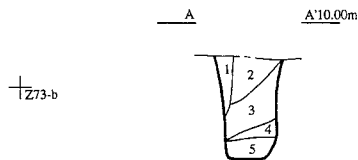
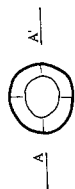
P-105



P105の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR4/2	灰黄褐色土	ややハード	En-aバミスを多量に含む	
2	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ソフト	En-aバミスを多量に含む	
3	10YR3/1	黒褐色土			木根
4	10YR4/1	褐灰色土	ややハード	En-a起源の火山ガラスを多く含む	

P-106



P106の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/4	暗褐色土	ソフト	En-aバミスを少量含む	
2	10YR2/2	黒褐色土		粒の細かいEn-aバミスを多く含む	
3	10YR4/3	にぶい黄褐色土		En-aバミスを多く含む	
4	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ややソフト	砂質。En-aバミスを極少量含む	
5	10YR4/6	褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスと焼土粒を少量含む	壁面の崩落

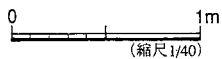
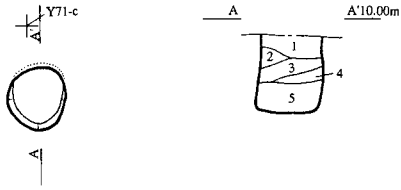


図238 柱穴(4)

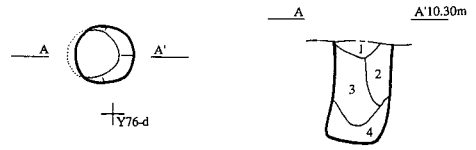
P-107



P107の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/4	暗褐色土		En-aバミスを少量含む	
2	10YR3.5/4	暗褐色から褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
3	10YR3.5/4	暗褐色から褐色土		En-aバミスを少量含む	
4	10UR3/3.5	暗褐色土		En-aバミスを多く含む	
5	10YR4/4	褐色土		En-aバミスをやや多く含む、炭化物を少量含む	

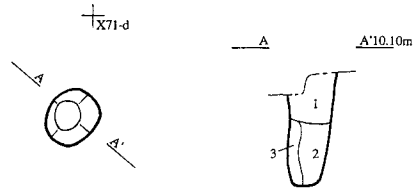
P-108



P108の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	
2	10YR3.5/4	暗褐色土	ソフト		
3	10YR3/3	暗褐色土		細かいEn-aバミスを少量含む	
4	10YR2/3	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	

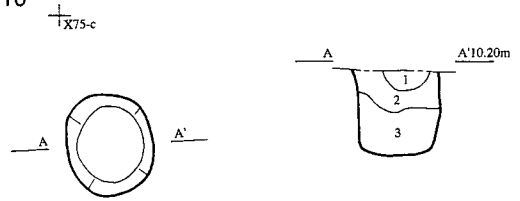
P-109



P109の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/4	暗褐色土	ソフト	En-aバミスを少量含む	
2	10YR3/3.5	暗褐色土		En-aバミスを多く含む	
3	10YR3/3.5	暗褐色土	ソフト	En-aバミスを極少量含む	

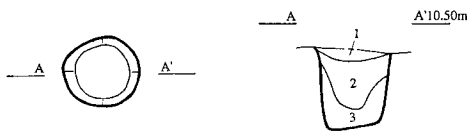
P-110



P110の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/4	暗褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
2	10YR4/4	褐色土	ややソフト	En-aバミスを主体で、黒褐色土を少量含む	
3	10YR3/4	暗褐色土		En-aバミスをやや多く含む	

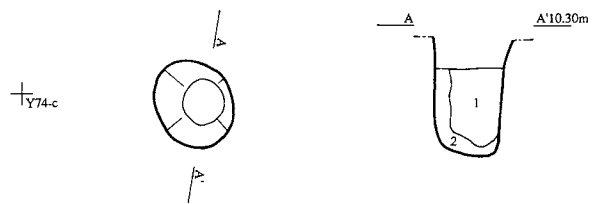
P-111



P111の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/2.5	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	
2	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミス、炭化物、焼土粒を少量含む	
3	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む	

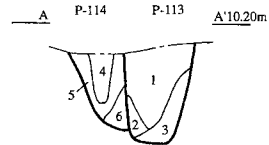
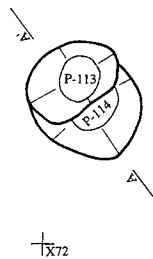
P-112



P112の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/3	黒褐色土		En-aバミスを多量に含む	
2	7.5YR4/4	褐色土	ソフト	En-aバミスを主体で、黒褐色度を極少量含む	

P-113 P-114



P113、114の土層

遺構番号	番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
P113	1	10YR3/3	暗褐色土	ややソフト	En-aバミスをやや多く含む	
P113	2	10YR4/4	褐色土		En-aバミスを主体で黒色土を含む	
P113	3	10YR3/3	暗褐色土		En-aバミスを少量含む	
P114	4	10YR4/4	褐色土	ややハード	En-aバミスを多く含む	
P114	5	10YR4/4	褐色土	ハード	En-aバミスを多量に含む	
P114	6	10YR4/6	褐色土	ややソフト	En-aバミスを主体で黒色土を少量含む	

0 1m
(縮尺1/40)

図239 柱穴(5)

表36 柱穴一覧(1)

建物番号	遺構番号	旧番号	分類	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深さ
建物 1	P 1	P 14	主柱穴	1.47	0.91	0.67	0.65	0.70
建物 1	P 2	P 2(新)	主柱穴	1.87	1.64	1.04	1.03	0.64
建物 1	P 3	P 3	主柱穴	1.50	0.98	0.66	0.66	0.67
建物 1	P 4	P 75	主柱穴	1.20	1.04	0.74	0.61	0.87
建物 1	P 5	P 64	出入り口	0.90	0.56	0.50	0.32	0.54
建物 1	P 6	P 879	出入り口	0.85	0.62	0.52	0.31	0.49
建物 2	P 7	P 15	主柱穴	1.85	1.17	0.68	0.55	1.19
建物 2	P 8	P 2(旧)	主柱穴	1.72	1.72	0.92	0.84	0.78
建物 2	P 9	P 4	主柱穴	2.46	0.84	2.03	0.68	0.92
建物 2	P 10	P 387	主柱穴	0.98	0.98	0.68	0.68	0.98
建物 3	P 11	P 9	主柱穴	1.04	0.92	0.62	0.60	1.19
建物 3	P 12	P 48	主柱穴	0.98	0.96	0.74	0.64	1.18
建物 3	P 13	P 41	主柱穴	1.60	0.98	0.48	0.42	0.92
建物 3	P 14	P 20	主柱穴	2.22	0.92	0.40	0.38	0.96
建物 3	P 15	P 52	出入り口	0.68	0.60	0.25	0.22	0.78
建物 3	P 16	P 40	出入り口	0.82	0.50	0.34	0.30	0.62
建物 4	P 17	P 76	主柱穴	1.98	0.93	0.56	0.52	1.50
建物 4	P 18	P 61	主柱穴	0.76	0.70	0.34	0.29	1.27
建物 4	P 19	P 43	主柱穴	1.78	0.69	0.44	0.38	1.38
建物 4	P 20	P 56	主柱穴	1.12	0.72	0.40	0.36	1.20
建物 5	P 21	P 77	主柱穴	0.89	0.83	0.49	0.44	0.86
建物 5	P 22	P 69	主柱穴	0.81	0.65	0.58	0.44	0.76
建物 5	P 23	P 256	主柱穴	0.76	0.74	0.44	0.42	0.72
建物 5	P 24	P 29	主柱穴	1.25	0.97	0.46	0.41	0.90
建物 5	P 25	P 50	出入り口	0.62	0.60	0.44	0.43	0.87
建物 5	P 26	P 65	出入り口	0.78	0.60	0.40	0.22	0.99
建物 6	P 27	P 31	主柱穴	1.19	1.08	0.80	0.74	0.70
建物 6	P 28	P 54	主柱穴	1.51	1.10	0.90	0.78	0.97
建物 6	P 29	P 59	主柱穴	1.10	0.98	0.72	0.66	0.92
建物 6	P 30	P 10	出入り口	0.79	0.68	0.34	0.26	0.72
建物 6	P 31	P 11	出入り口	0.64	0.63	0.26	0.22	0.81
建物 7	P 32	P 21(旧)	主柱穴	0.52	0.46	0.42	0.40	0.79
建物 7	P 33	P 44	主柱穴	0.70	0.58	0.46	0.40	0.93
建物 7	P 34	P 12	主柱穴	0.68	0.62	0.42	0.31	0.89
建物 7	P 35	P 880	主柱穴	0.66	0.60	0.43	0.36	0.79
建物 7	P 36	P 71	主柱穴	0.70	0.70	0.38	0.36	0.78
建物 8	P 37	P 754	主柱穴	0.49	0.44	0.31	0.30	0.82
建物 8	P 38	P 439	主柱穴	0.38	0.35	0.24	0.21	0.84
建物 8	P 39	P 63	主柱穴	0.59	0.52	0.24	0.22	0.85
建物 8	P 40	P 55	主柱穴	0.44	0.38	0.36	0.24	0.72
建物 8	P 41	P 23	出入り口	0.73	0.62	0.38	0.34	0.72
建物 8	P 42	P 24	出入り口	0.65	0.57	0.35	0.28	0.62
建物 8	SP 331		壁柱穴	0.22	0.18			0.31
建物 8	SP 407		壁柱穴	0.26	0.17			0.34
建物 8	SP 408		壁柱穴	0.18	0.17			0.34
建物 8	SP 409		壁柱穴	0.30	0.28			0.44
建物 8	SP 414		壁柱穴	0.30	0.27			0.46
建物 8	SP 431		壁柱穴	0.17	0.16			0.30

表37 柱穴一覧(2)

建物番号	遺構番号	旧番号	分類	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深さ
建物 8	SP 433		壁柱穴	0.18	0.16			0.22
建物 8	SP 434		壁柱穴	0.18	0.16			0.27
建物 8	SP 447		壁柱穴	0.18	0.16			0.28
建物 8	SP 448		壁柱穴	0.24	0.22			0.28
建物 8	SP 449		壁柱穴	0.16	0.14			0.28
建物 8	SP 450		壁柱穴	0.19	0.18			0.31
建物 8	SP 501		壁柱穴	0.28	0.25			0.45
建物 8	SP 502		壁柱穴	0.24	0.22			0.42
建物 8	SP 503		壁柱穴	0.27	0.24			0.36
建物 8	SP 504		壁柱穴	0.19	0.18			0.34
建物 8	SP 505		壁柱穴	0.17	0.15			0.39
建物 8	SP 506		壁柱穴	0.20	0.18			0.33
建物 8	SP 507		壁柱穴	0.21	0.18			0.35
建物 8	SP 755		壁柱穴	0.37	0.24			0.44
建物 9	P 43	P 1137	主柱穴	0.35	0.34	0.25	0.23	0.85
建物 9	P 44	P 1138	主柱穴	0.40	0.38	0.34	0.28	0.80
建物 9	P 45	P 759	主柱穴	0.46	0.36	0.25	0.24	0.66
建物 9	P 46	P 660	出入り口	0.63	0.34	0.46	0.30	0.63
建物 9	P 47	P 661	出入り口	0.51	0.32	0.39	0.30	0.59
建物 9	P 48	P 654	出入り口	0.68	0.38	0.38	0.31	0.65
建物 9	P 49	P 657	出入り口	0.30	0.25	0.24	0.18	0.41
建物 9	SP 517		壁柱穴	0.15	0.14			0.32
建物 9	SP 518		壁柱穴	0.26	0.25			0.37
建物 9	SP 519		壁柱穴	0.17	0.16			0.32
建物 9	SP 521		壁柱穴	0.26	0.24			0.45
建物 9	SP 623		壁柱穴	0.19	0.17			0.38
建物 9	SP 624		壁柱穴	0.38	0.34			0.28
建物 9	SP 625		壁柱穴	0.22	0.19			0.36
建物 9	SP 626		壁柱穴	0.27	0.24			0.45
建物 9	SP 627		壁柱穴	0.30	0.23			0.35
建物 9	SP 628		壁柱穴	0.20	0.18			0.39
建物 9	SP 629		壁柱穴	0.22	0.15			0.35
建物 9	SP 639		壁柱穴	0.16	0.13			0.32
建物 9	SP 643		壁柱穴	0.18	0.17			0.21
建物 9	SP 644		壁柱穴	0.16	0.16			0.25
建物 9	SP 652		壁柱穴	0.16	0.15			0.35
建物 9	SP 653		壁柱穴	0.22	0.17			0.42
建物 9	SP 658		壁柱穴	0.18	0.16			0.27
建物 9	SP 664		壁柱穴	0.19	0.18			0.50
建物 9	SP 665		壁柱穴	0.26	0.23			0.43
建物 9	SP 666		壁柱穴	0.20	0.18			0.38
建物 9	SP 718		壁柱穴	0.22	0.20			0.53
建物 9	SP 719		壁柱穴	0.32	0.25			0.54
建物 9	SP 720		壁柱穴	0.18	0.16			0.38
建物 9	SP 722		壁柱穴	0.20	0.18			0.39
建物 9	SP 723		壁柱穴	0.18	0.16			0.40
建物 9	SP 724		壁柱穴	0.22	0.21			0.58
建物 9	SP 725		壁柱穴	0.28	0.26			0.76

表38 柱穴一覧(3)

建物番号	遺構番号	旧番号	分類	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深さ
建物9	SP 729		壁柱穴	0.18	0.17			0.36
建物9	SP 1051		壁柱穴	0.16	0.14			0.26
建物9	SP 1052		壁柱穴	0.14	0.13			0.23
建物9	SP 1067		壁柱穴	0.13	0.12			0.35
建物9	SP 1071		壁柱穴	0.14	0.13			0.34
建物9	SP 1072		壁柱穴	0.14	0.12			0.34
建物9	SP 1073		壁柱穴	0.20	0.18			0.37
建物10	P 50	P 758	主柱穴	0.32	0.31	0.24	0.23	0.87
建物10	P 51	P 631	主柱穴	0.40	0.36	0.24	0.21	0.82
建物10	P 52	P 1129	主柱穴	0.39	0.28	0.27	0.27	0.54
建物10	P 53	P 713	主柱穴	0.40	0.36	0.25	0.23	0.80
建物11	P 54	P 819	主柱穴	0.20	0.18	0.22	0.16	0.57
建物11	P 55	P 598	主柱穴	0.25	0.22	0.19	0.15	0.59
建物11	P 56	P 815	主柱穴	0.28	0.26	0.20	0.18	0.55
建物11	P 57	P 839	主柱穴	0.21	0.20	0.20	0.17	0.59
建物12	P 58	P 678	主柱穴	0.39	0.34	0.26	0.22	0.37
建物12	P 59	P 682	主柱穴	0.34	0.30	0.24	0.19	0.53
建物12	P 60	P 688	主柱穴	0.45	0.37	0.30	0.29	0.64
建物12	P 61	P 690	主柱穴	0.40	0.37	0.23	0.21	0.46
建物13	P 62	P 677	主柱穴	0.48	0.40	0.37	0.32	0.79
建物13	P 63	P 881	主柱穴	0.50	0.48	0.29	0.28	0.95
建物13	P 64	P 564	主柱穴	0.52	0.42	0.32	0.31	0.93
建物13	P 65	P 600	主柱穴	0.50	0.48	0.37	0.30	0.87
建物14	P 66	P 563	主柱穴	0.48	0.39	0.29	0.25	0.91
建物14	P 67	P 699	主柱穴	0.62	0.39	0.21	0.19	0.84
建物14	P 68	P 775	主柱穴	0.56	0.48	0.23	0.20	1.13
建物14	P 69	P 1136	主柱穴	0.65	0.48	0.35	0.29	0.84
建物15	P 70	P 17	主柱穴	1.44	1.06	0.58	0.54	1.16
建物15	P 71	P 7	主柱穴	1.54	1.16	0.76	0.67	1.22
建物15	P 72	P 37	主柱穴	1.31	1.19	0.68	0.66	1.44
建物15	P 73	P 36	主柱穴	1.55	1.01	0.63	0.52	1.26
建物16	P 74	P 809	主柱穴	0.23	0.20	0.14	0.12	0.53
建物16	P 75	P 795	主柱穴	0.26	0.24	0.14	0.12	0.63
建物16	P 76	P 787	主柱穴	0.20	0.17	0.10	0.10	0.46
建物16	SP 694		壁柱穴	0.14	0.12			0.36
建物16	SP 779		壁柱穴	0.17	0.14			0.47
建物16	SP 780		壁柱穴	0.20	0.18			0.43
建物16	SP 781		壁柱穴	0.15	0.13			0.40
建物16	SP 782		壁柱穴	0.17	0.15			0.41
建物16	SP 783		壁柱穴	0.17	0.14			0.54
建物16	SP 784		壁柱穴	0.24	0.18			0.53
建物16	SP 785		壁柱穴	0.10	0.14			0.43
建物16	SP 786		壁柱穴	0.26	0.22			0.56
建物16	SP 791		壁柱穴	0.22	0.20			0.50
建物16	SP 792		壁柱穴	0.19	0.16			0.52
建物16	SP 793		壁柱穴	0.18	0.15			0.52
建物16	SP 794		壁柱穴	0.18	0.16			0.43
建物16	SP 796		壁柱穴	0.16	0.14			0.41

表39 柱穴一覧(4)

建物番号	遺構番号	旧番号	分類	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深さ
建物16	SP 797		壁柱穴	0.21	0.18			0.51
建物16	SP 798		壁柱穴	0.18	0.14			0.35
建物16	SP 799		壁柱穴	0.17	0.16			0.34
建物16	SP 808		壁柱穴	0.16	0.14			0.48
建物16	SP 810		壁柱穴	0.16	0.13			0.33
建物16	SP 811		壁柱穴	0.18	0.16			0.34
建物16	SP 812		壁柱穴	0.16	0.14			0.29
建物16	SP 813		壁柱穴	0.14	0.12			0.31
建物17	P 77	P 1020	主柱穴	0.25	0.22	0.14	0.12	0.56
建物17	P 78	P 843	主柱穴	0.38	0.27	0.18	0.17	0.42
建物17	P 79	P 1021	主柱穴	0.21	0.20	0.10	0.08	0.66
建物17	P 80	P 832	主柱穴	0.25	0.22	0.18	0.15	0.57
建物18	P 81	P 910	主柱穴	0.25	0.23	0.16	0.14	0.58
建物18	P 82	P 493	主柱穴	0.35	0.31	0.20	0.14	0.67
建物18	P 83	P 451	主柱穴	0.28	0.27	0.21	0.18	0.79
建物18	P 84	P 826	主柱穴	0.25	0.23	0.17	0.14	0.65
建物19	P 85	P 965	主柱穴	0.38	0.30	0.16	0.15	0.60
建物19	P 86	P 888	主柱穴	0.32	0.32	0.20	0.18	0.66
建物19	P 87	P 966	主柱穴	0.45	0.33	0.27	0.22	0.56
建物19	P 88	P 964	主柱穴	0.37	0.36	0.22	0.19	0.68
建物20	P 89	P 257	出入口口	0.37	0.26			0.40
建物20	P 90	P 242	出入口口	0.40	0.28			0.35
建物20	SP 142		壁柱穴	0.26	0.20			0.28
建物20	SP 143		壁柱穴	0.17	0.16			0.33
建物20	SP 144		壁柱穴	0.18	0.16			0.29
建物20	SP 145		壁柱穴	0.17	0.16			0.28
建物20	SP 146		壁柱穴	0.18	0.16			0.29
建物20	SP 147		壁柱穴	0.14	0.13			0.30
建物20	SP 243		壁柱穴	0.18	0.16			10.06
建物20	SP 261		壁柱穴	0.20	0.19			0.39
建物20	SP 262		壁柱穴	0.28	0.23			0.34
建物20	SP 281		壁柱穴	0.17	0.16			0.38
建物21	SP 245		壁柱穴	0.18	0.17			10.04
建物21	SP 247		壁柱穴	0.37	0.30			0.31
建物21	SP 248		壁柱穴	0.22	0.21			0.39
建物21	SP 249		壁柱穴	0.22	0.20			0.38
建物21	SP 251		壁柱穴	0.21	0.18			0.41
建物21	SP 252		壁柱穴	0.20	0.18			0.43
建物21	SP 258		壁柱穴	0.14	0.12			0.47
建物21	SP 259		壁柱穴	0.20	0.16			0.37
建物21	SP 302		壁柱穴	0.18	0.17			0.61
建物21	SP 303		壁柱穴	0.17	0.16			0.55
建物21	SP 304		壁柱穴	0.19	0.18			0.65
建物21	SP 424		壁柱穴	0.27	0.22			0.34
建物21	SP 425		壁柱穴	0.30	0.22			0.37
建物21	SP 429		壁柱穴	0.19	0.18			0.23
建物21	SP 430		壁柱穴	0.24	0.21			0.39
建物21	SP 752		壁柱穴	0.40	0.32			0.64

表40 柱穴一覧(5)

建物番号	遺構番号	旧番号	分類	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深さ
建物21	SP 753		壁柱穴	0.18	0.16			0.43
	P 91	P 26	柱穴	1.30	0.52	0.36	0.30	1.13
	P 92	P 49	柱穴	0.58	0.56	0.36	0.33	1.07
	P 93	P 46	柱穴	1.44	0.96	0.94	0.74	0.87
	P 94	P 66	出入り口	0.77	0.38	0.46	0.22	0.62
	P 95	P 21(新)	柱穴	1.04	1.00	0.74	0.70	0.66
	P 96	P 1	柱穴	0.79	0.78	0.22	0.20	0.85
	P 97	P 5	柱穴	0.42	0.40	0.18	0.16	0.62
	P 98	P 8	柱穴	0.98	0.84	0.58	0.22	0.83
	P 99	P 32	柱穴	0.78	0.70	0.48	0.46	0.52
	P 100	P 58	柱穴	1.06	0.68	0.52	0.32	0.79
	P 101	P 53	柱穴	1.41	0.92	0.29	0.26	1.13
	P 102	P 406	柱穴	0.82	0.69	0.42	0.35	0.81
	P 103	P 70(新)	柱穴	0.66	0.60	0.58	0.58	0.81
	P 104	P 70(旧)	柱穴	0.46	0.46	0.36	0.36	1.08
	P 105	P 72	柱穴	0.56	0.54	0.32	0.32	0.96
	P 106	P 97	柱穴	0.40	0.34	0.22	0.20	0.73
	P 107	P 99	柱穴	0.33	0.31	0.29	0.28	0.49
	P 108	P 226	柱穴	0.31	0.30	0.27	0.26	0.69
	P 109	P 264	柱穴	0.30	0.26	0.16	0.14	0.79
	P 110	P 272	柱穴	0.54	0.44	0.40	0.36	0.64
	P 111	P 721	柱穴	0.40	0.36	0.29	0.28	0.67
	P 112	P 1132	柱穴	0.48	0.40	0.24	0.22	0.68
	P 113	P 1134(新)	柱穴	0.48	0.38	0.24	0.21	0.66
	P 114	P 1134(旧)	柱穴	0.62	0.52	0.28	0.25	0.58

単位 = m

4 土墳墓

概要

平面形が楕円形、深さが約0.5~1.0mの土墳である。ほとんどの墓墳で、人骨や遺体の痕跡を検出できず、柱穴との区別はおもに平面形の違いによった。長幅比がおよそ1.5を越え、上端下端とも平面形が細長い楕円形であるものを墓墳と認定した。一度埋めた後に掘り返した痕跡をもつものは、柱の抜き取りが行われたものと判断し、全て柱穴に含めてある。

14基確認した土墳墓の分布域は盛土遺構の直下及び、その北側である。形状は全て楕円形であるが、長幅比はばらつきが大きい。墓墳の規模の散布図(図240)をみると短径よりも長径でばらつきが大きい。長軸方向は、北西方向を意識しているようである。頭位方向のわかるP-119、120、127は全て西~北西頭位で、周堤墓内の墓墳のそれと共通する。墓墳の長径から推測して、埋葬姿勢は伸展葬と屈葬が混在するようであるが、人骨が残存している墓墳に限られているため、埋葬姿勢を直接判断できるものは少ない。しかし、墓墳の規模は上端長径が1.60m前後で二分でき、上端長径1.60m以上が伸展葬、以下が屈葬である可能性が高い。

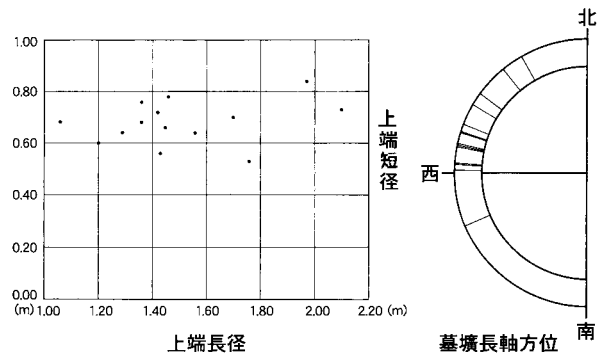


図240 土墳墓属性グラフ

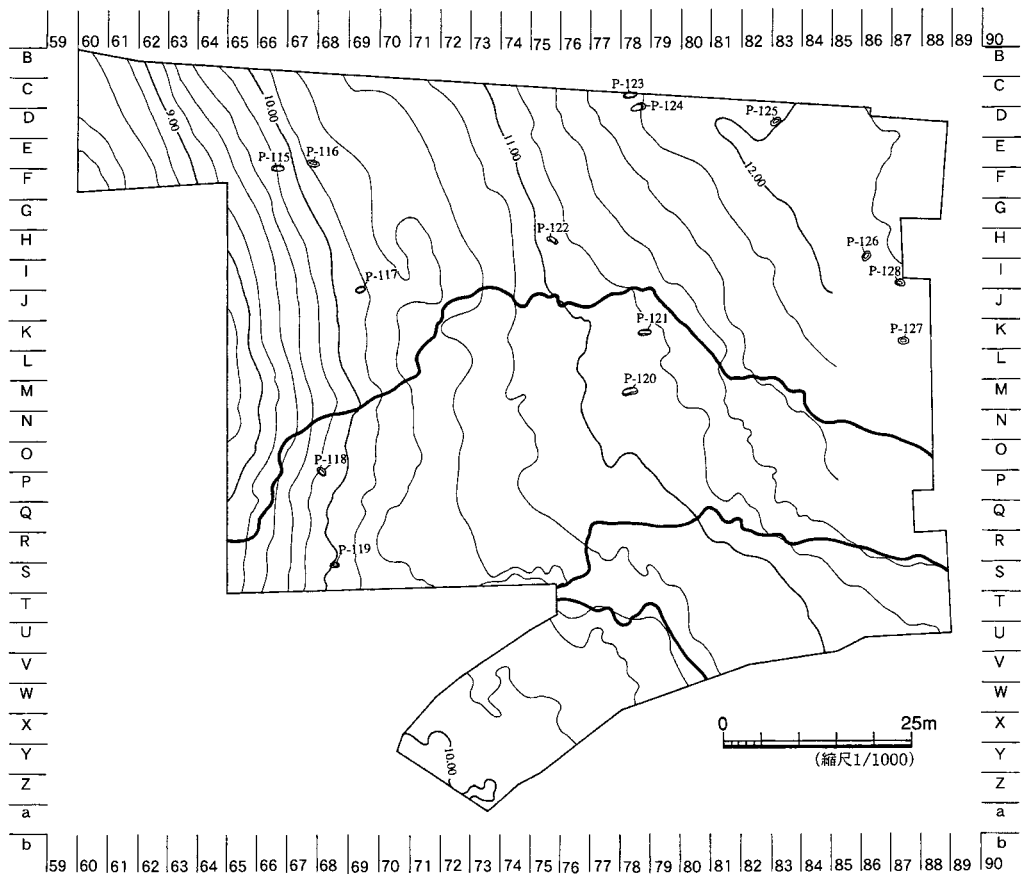


図241 土墳墓配置図

墓壇の規模、形状、頭位は周堤墓のそれと類似するが、木柱痕やベンガラなどは検出していない。また、副葬品をもつ墓もない。墓壇の配置には整然とした規則性はみられないが、P - 115と116、P - 120と121、P - 123と124のように形状、埋土などが似通った墓壇が2基つつ並ぶ場合もある。

墓壇の時期を決定できる遺物はほとんど出土しておらず、盛土遺構の直下から掘り込まれている

土壇墓一覧

表41 土壇墓一覧

遺構番号	旧番号	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深さ	長軸方向 (N E)
P 115	P 1170	1.70	0.70	1.40	0.44	0.62	68.65
P 116	P 1164	1.45	0.66	1.21	0.26	0.81	59.45
P 117	P 1157	1.20	0.60	1.38	0.49	0.95	78.95
P 118	P 806	1.36	0.76	1.19	0.37	0.77	29.95
P 119	P 805	1.06	0.68	0.76	0.34	0.99	77.45
P 120	P 1168	2.10	0.73	1.93	0.40	0.82	85.95
P 121	P 1158	1.56	0.64	1.45	0.34	0.61	72.45
P 122	P 1172	1.43	0.56	1.28	0.47	0.87	39.45
P 123	P 1199	1.76	0.53	1.54	0.37	1.43	86.45
P 124	P 1171	1.97	0.84	1.78	0.50	1.63	77.95
P 125	P 844	1.42	0.72	1.23	0.52	1.14	98.95
P 126	P 801	1.29	0.64	1.13	0.37	0.64	113.95
P 127	FP 1	1.46	0.78	1.15	0.49	1.05	73.75
P 128	FP 2	1.36	0.68	1.03	0.38	0.52	53.85

単位 = m

ことから、墓壇の構築が盛土遺構の造営を大きく遡るものではないと判断した。また、墓壇の規模や形状が周堤墓の墓壇と似ていることから、周堤墓や盛土遺構とほぼ同じ時期の縄文時代後期後葉の位置づけられると判断した。

(石井淳平)

P - 115

周辺は耕作による削平が著しく、I層除去後のVII層でプランを検出した。埋土は暗褐色土主体で、En - a パミスを多量に含む。また、ところどころに暗褐色土のブロックが混入する。埋め戻しの際に意図的に En - a パミスの混入を避けているようである。人骨、遺体の痕跡は検出していない。

P - 116

P - 115の東、約5mに位置する。P - 115同様、周辺は耕作による削平が著しく、I層除去後のVII層でプランを検出した。土層1～5は黒褐色土主体、土層6～9は暗褐色土主体、土層10～15はEn - a パミス主体である。人骨、遺体の痕跡は検出していない。

(石井淳平)

P - 117

I層除去後のV層下位で検出した。埋土は暗褐色土主体で、En - a パミスを多量に含む。下層ほど En - a パミスが混入する割合が高い。下端の長径が上端よりも大きく、長軸方向両端の立ち上がりは、オーバーハングする。人骨、遺体の痕跡は検出していない。

(石井淳平)

P - 118

盛土4層除去後のVb層上面で検出した。埋土は暗褐色土主体で、En - a パミスを多量に含む。下層ほど En - a パミスが混入する割合が高く、最下層では En - a パミスが主体となる。Vb層上面で焼かれた焼土を切って掘り込まれている。人骨、遺体の痕跡は検出していない。

(石井淳平)

P - 119

盛土4層除去後のVb層上面で検出した。埋土は上層は黒褐色土主体であるが、下層はEn - aパミスが主体となる。土層1～6層が黒褐色土主体、土層7～10がEn - aパミス主体である。壙底で遺体が腐植したと思われる粘質の暗褐色土と歯を検出した。歯は墓壙の北西側で検出し、エナメル質のみが残存していた。腐植が進んでおり、わずかに痕跡をとどめるのみで、部位を特定することはできなかった。頭位方向は北西である。下端の長径が0.76mと短く、乳幼児以外は伸展葬にすることは不可能であることから、埋葬姿勢は屈葬であろう。(石井淳平)

P - 120

盛土14層除去後のVb層上面で検出した。周辺は焼土が密集していたが、墓壙埋土の上面は被熱していない。Vb層の焼土と直接の切り合いはなく、先後関係は不明である。土層1～3、9～11がEn - aローム主体、土層4～8層が黒色土主体である。土層1～3と土層4～8層は、それぞれ混入物の少ないEn - aロームと黒色土が主体であり、埋め戻しに用いる土を意図的に選択しているようである。壙底付近で糊状の人骨を検出した。頭骨が最も残存状態が良く、顔面を北に向けている。背骨と思われる糊状の骨が南壁に沿って出土していることから、体の右側を上に向けた側臥伸展葬で埋葬されたものと考えられる。(石井淳平)

P - 121

盛土・層除去後のVb層上面で検出した。埋土上層から柱状の台石を検出した。平成5年度調査のXP - 1で検出された墓標のようなものかと考えたが、長さが短いこと、断面の観察では転倒した痕跡がないことから、墓標として墓壙の一端に立てられたものではないようである。土層1～6層はEn - aローム主体、土層7層～10層は黒褐色土主体である。P - 120と同じく埋土の上層はEn - aロームを主体とし、下層は黒褐色土主体である。埋め戻しに用いる土を意図的に選択していたようである。また、土層7層～10層の黒褐色土には、多量の土器が混入している。人骨、遺体の痕跡は検出していない。(石井淳平)

P - 122

Ⅵ層中で検出した。比較的小型の墓壙である。埋土は暗褐色～褐色土が主体で、En - aパミスを多量に含む。人骨、遺体の痕跡は検出していない。(石井淳平)

P - 123

調査区北端のⅦ層上面で検出した。付近には風倒木痕が数多く存在し、これらがP - 123と重複していたため検出が遅れた。本来はⅤ層中から掘り込まれていたものであろう。他の墓壙と比較して細長く、深い。埋土は汚れたEn - aパミスが主体で、しまりが無い。人骨、遺体の痕跡は検出していない。また、南東約2mに位置するP - 124とは長軸方向、形状、埋土の状況がよく似ており、P - 123と124は互いに対をなす墓壙である可能性が高い。(石井淳平)

P - 124

調査区北端のⅦ層上面で検出した。付近には風倒木痕が数多く存在し、これらがP - 124と重複していたため検出が遅れた。本来はⅤ層中から掘り込まれていたものであろう。他の墓壙と比較し

て細長く、深い。埋土は汚れた En - a パミスが主体で、しまりが無い。人骨、遺体の痕跡は検出していない。

また、北西約 2 m に位置する P - 123とは長軸方向、形状、埋土の状況がよく似ており、P - 123と124は互いに対をなす墓墳である可能性が高い。 (石井淳平)

P - 125

VI層を 5 cmほど掘り下げたところで検出した。埋土は汚れたパミスが主体で、しまりが無い。墳底付近で遺体が腐植したものと思われる粘質の黒色土を検出した。人骨の痕跡はない。

(石井淳平)

P - 126

VI層上面で検出した。埋土は黒褐色～暗褐色土が主体で、しまりが無い。人骨、遺体の痕跡は検出していない。 (石井淳平)

P - 127

V層を 5 cmほど掘り下げた際に確認した。埋め土は En - a パミスが混じった黒～暗褐色土が主体で、埋め方に規則性は感じられない。床面から頭蓋骨が糊状になって検出され、数本分の歯が比較的良好に残っていた。このことから、頭位は西方向で顔の向きは周堤墓の墓墳と逆に南向き（右向き）と推測される。また、骨の周囲には遺体層と考えられる黒色腐植土が確認された。

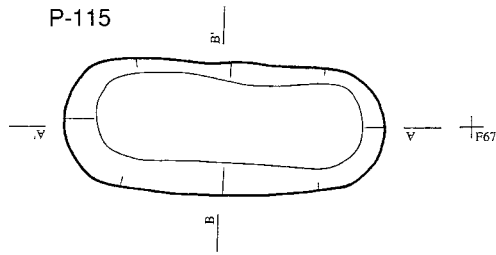
覆土 3層上面、及び床面に近い 7層から土器片が出土したが、副葬されたものではないと考えられる。 (藤原秀樹)

P - 128

近くに風倒木があったため、VI層まで掘り下げた際に確認した。埋め土は En - a パミスが混じった黒～暗褐色土が主体で、埋め方に規則性は感じられない。床面はやや赤みを帯びており、また、平坦ではなく張り出した部分もある。堆積状況や平面プランから土壇墓と推測した。

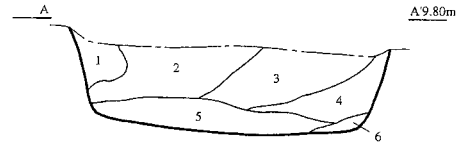
覆土 4層上面から土器片が出土したが、副葬されたものではないと考えられる。

(藤原秀樹)

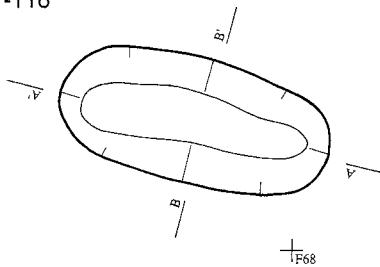


P-115の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/1 黒色土			En-aバミスを少量含む	根穴
2	10YR3/2.5 黒褐色土			En-aバミスを多量に含む	
3	10YR3/2 黒褐色土	ややハード		En-aバミスを多量に含む	
4	10YR3/4 暗褐色土	ややソフト		En-aバミス主体で、暗褐色土を多く含む	
5	10YR2/2 黒褐色土			En-aバミスをやや多く含む	
6	10YR2/3 黒褐色土	ややソフト		En-aバミスをやや多く含む	

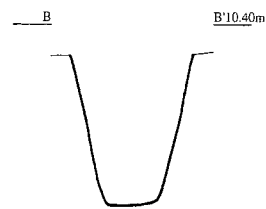
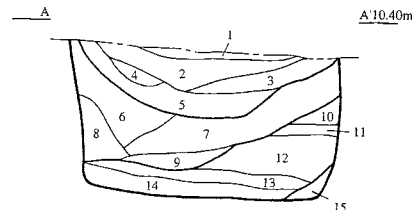


P-116

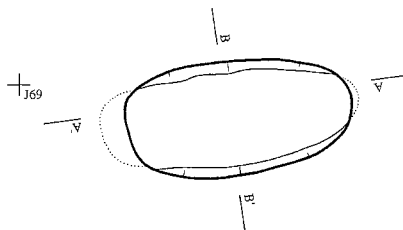


P-116の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/1 黒色土			En-aバミスを少量含む	
2	10YR2.5/3 暗褐色土			En-aローム、En-aバミスを多く含む	
3	10YR3/3 暗褐色土	ややソフト		En-aローム、En-aバミスを多量に含む	
4	7.5YR2/2 黒褐色土			粘土粒を多量に含む	
5	10YR2/2 黒褐色土			En-aバミスを少量含む	
6	10YR3/3.5 暗褐色土	ややソフト		En-aローム、En-aバミスをやや多く含む	
7	10YR3/4 暗褐色土	ややハード		En-aローム、En-aバミスを多く含む	
8	10YR3/4 暗褐色土	ややソフト		VI層土主体で、En-aバミスを少量含む	
9	10YR3/2 黒褐色土			En-aバミスをやや多く含む	
10	10YR3.5/4 褐色土	ややソフト		En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	
11	10YR2/1.5 黒色土	ややソフト		En-aバミスを少量含む	
12	10YR4/6 褐色土	ややハード		En-aバミス主体で、黒褐色土を多く含む	
13	10YR2/3 黒褐色土			やや粘質 En-aバミスを多く含む	
14	10YR4/6 褐色土	ややソフト		粒の細かいEn-aバミス主体で、暗褐色土をやや多く含む	
15	10YR3/4 暗褐色土	ソフト		細かいEn-aバミスを少量含む	

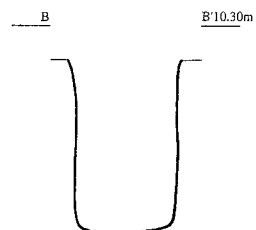
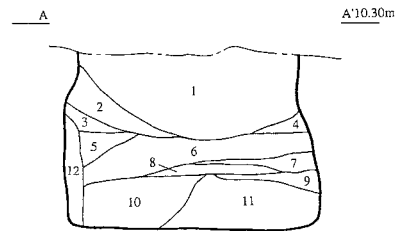


P-117



P-117の土層

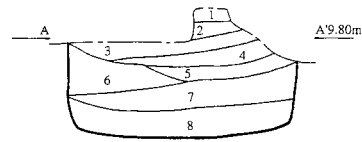
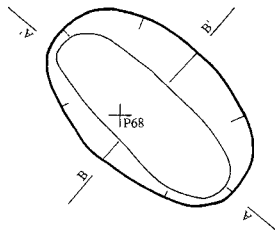
番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/3.5 暗褐色土			En-aバミスを多量に含む	
2	10YR3/4 暗褐色土	ややハード		粗砂主体で、En-aバミスを多量に含む	
3	10YR3/4 暗褐色土	ややソフト		粗砂主体で、En-aバミスを多量に含む	
4	10YR4/4 褐色土	ややハード		粗砂主体で、En-aバミスを多量に含む	
5	10YR3/4 暗褐色土	ややソフト		粗砂主体で、En-aバミスを多く含む	
6	10YR3/4 暗褐色土	ややハード		En-aバミスを多量に含む	
7	10YR5/6 黄褐色土			En-aバミス主体で、暗褐色土を少量含む	
8	10YR3/3 暗褐色土			En-aバミスを多量に含む	
9	10YR2/2 黒褐色土	ややソフト		En-aバミスをほとんど含まない 粘質	
10	10YR4/4 褐色土			粗砂主体で、En-aバミスを多量に含む	
11	10YR4/4 褐色土			汚れたEn-aバミス主体で、黒褐色から暗褐色土を少量含む	



0 1m
(縮尺 1/40)

図242 墓墳 (1)

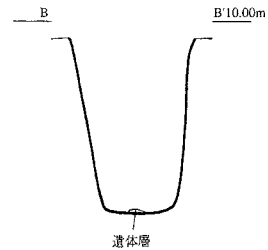
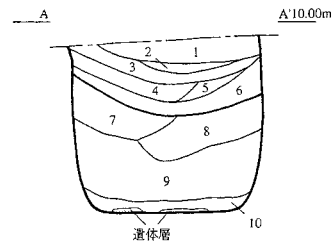
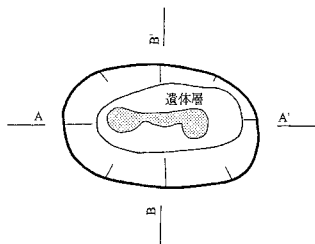
P-118



P118の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2.5/3	黒褐色土		盛り土4層。En-aバミスを極少量含む	
2	10YR2/2	黒褐色土		粒の細かいEn-aバミスを少量含む	
3	10YR2.5/3	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
4	10YR3/3.5	暗褐色土		En-aバミスを多く含む	
5	10YR2.5/3	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む、炭化物を少量含む	
6	10YR3/4	暗褐色土		En-aバミスを多く含む	
7	10YR4/4	褐色土	ややソフト	En-aバミスを多量に含む	
8	10YR3/4	暗褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、暗褐色土を多く含む	

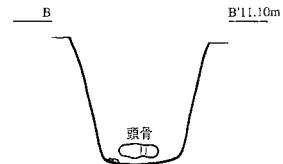
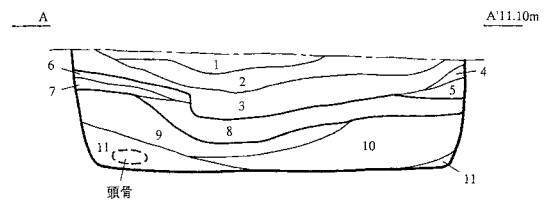
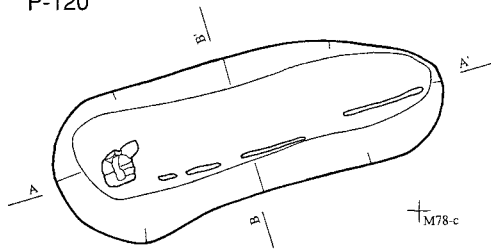
P-119



P119の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを多く含む	暗褐色土主体
2	10YR2/2.5	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む	暗褐色土主体
3	10YR2/2	黒褐色土	ややソフト	En-aバミスを多量に含む	暗褐色土主体
4	10YR3.5/4	暗褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、黒褐色土を多く含む	暗褐色土主体
5	10YR2/1	黒色土	ややソフト	粒の細かいEn-aバミスを少量含む	暗褐色土主体
6	10YR2/3	黒褐色土	ややソフト	粒の細かいEn-aバミスを多量に含む	暗褐色土主体
7	10YR4/6	褐色土	ソフト	En-aバミス主体で暗褐色土を少量含む	En-aバミス主体
8	10YR4/5	褐色土	ソフト	En-aバミス主体で、暗褐色土を少量含む	En-aバミス主体
9	10YR4/4	褐色土	ソフト	En-aバミス主体で、黒褐色土、暗褐色土を縦状に含む	En-aバミス主体
10	10YR3/4	暗褐色土	ソフト	En-aバミス主体で、暗褐色土を多く含む	En-aバミス主体

P-120



P120の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/2	黒色土		En-aバミスを少量含む、炭化物を極少量含む	En-aローム主体
2	10YR3/3.5	暗褐色土		En-aローム、En-aバミスをやや多く含む	En-aローム主体
3	10YR4/4	褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む	En-aローム主体
4	10YR2/1.5	黒色土		En-aバミスをほとんど含まない	En-aローム主体
5	10YR3/3	暗褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、暗褐色土を多く含む、En-aバミスをやや多く含む	En-aローム主体
6	10YR1.7/1	黒色土		En-aバミスを含まない	黒色土主体
7	10YR2/3	黒褐色土	ややソフト	En-aロームを多量に含む、En-aバミスを少量含む	黒色土主体
8	10YR1.7/1	黒色土	ややソフト	En-aバミスをほとんど含まない	黒色土主体
9	10YR2/2.5	黒褐色土	ややソフト	En-aロームを多く含む、En-aバミスを少量含む	En-aローム主体
10	10YR3/3	暗褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、暗褐色土を多く含む	En-aローム主体
11	10YR2/2	黒褐色土	ややソフト	やや結實 En-aバミスを含まない	En-aローム主体

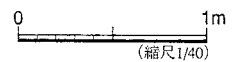
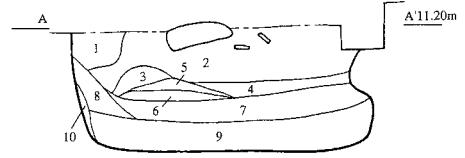
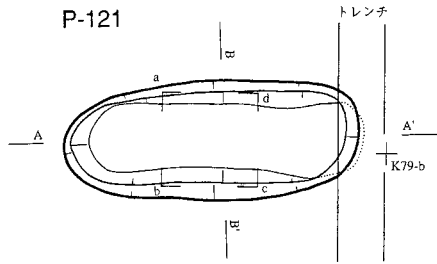
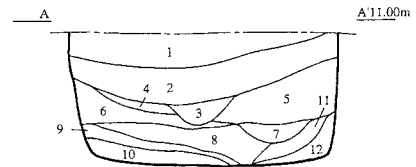
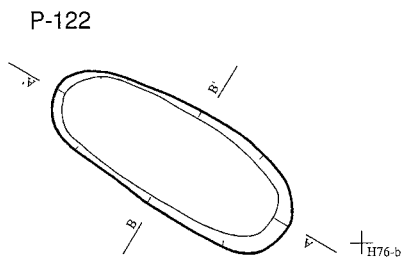
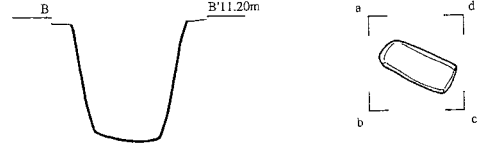


図243 墓壇 (2)



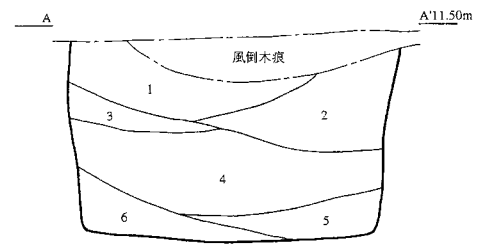
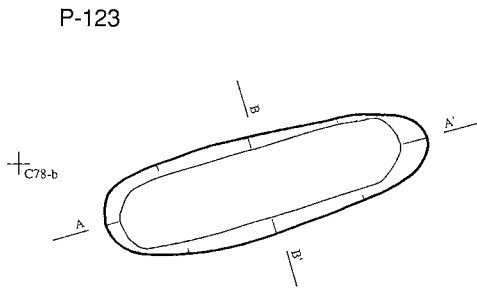
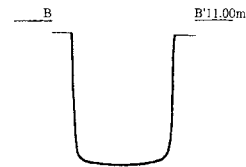
P121の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/1.5	黒褐色土		En-aバミス、炭土粒を少量含む	
2	10YR3/3	暗褐色土		V層土主体で、En-aバミスをやや多く含む、炭化物を少量含む	
3	10YR4/4	褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む	
4	10YR3/3	暗褐色土	ややソフト	En-aロームを多量に含む、En-aバミス、炭化物を少量含む	
5	10YR2/3	黒褐色土	ややソフト	En-aバミスを多く含む	
6	10YR4/4	褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む、暗褐色土を少量含む	
7	10YR2/1.5	黒褐色土		En-aバミス、炭化物を少量含む	
8	10YR2/2	黒褐色土		粒の細かいEn-aバミスを少量含む	
9	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミス、炭土粒、炭化物を少量含む	
10	10YR4/6	褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、暗褐色土を少量含む	



P122の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/2.5	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
2	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを多く含む	
3	10YR3/3	暗褐色土	ややソフト	En-aバミスを多く含む	
4	10YR4/6	褐色土	ややソフト	En-aバミス主体	
5	10YR3.5/4	暗褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、暗褐色土を多く含む	
6	10YR2/3	黒褐色土	ややソフト	En-aバミスを少量含む	
7	10YR4/6	褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスを多量に含む	
8	10YR4.5/6	褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを多量に含む	
9	10YR2/1	黒褐色土	ややソフト	やや粘質 En-aバミスをほとんど含まない	
10	10YR4/6	褐色土		En-aバミス主体でEn-aロームを多量に含む	
11	10YR4/5	褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、En-aロームと暗褐色土を多量に含む	
12	10YR3/3.5	暗褐色土	ややソフト	粒の細かいEn-aバミスを少量含む	



P123の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR4/4	褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、En-aロームを多量に含む	
2	10YR4/6	褐色土	ソフト	En-aバミス主体で、暗褐色土を少量含む	
3	10YR3.5/4	暗褐色土	ややソフト	En-aバミスを多量に含む	
4	10YR4/6	褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、En-aロームを多量に含む	
5	10YR3/3.5	暗褐色土	ややソフト	En-aバミスを多量に含む	
6	10YR3/3	暗褐色土	ソフト	粘質 保水性あり	

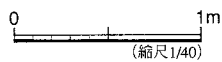
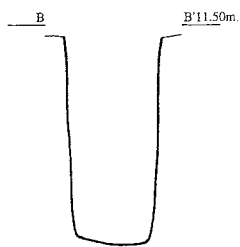
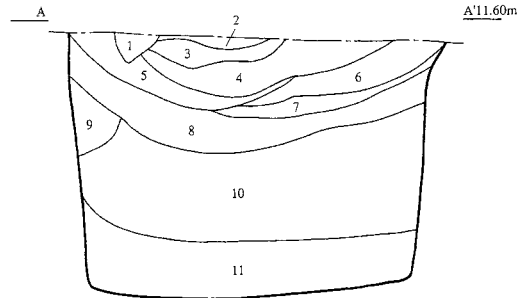
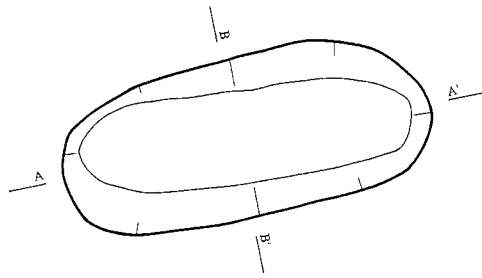


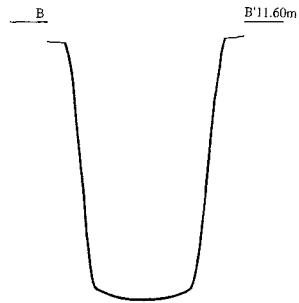
図244 墓墳 (3)

P-124

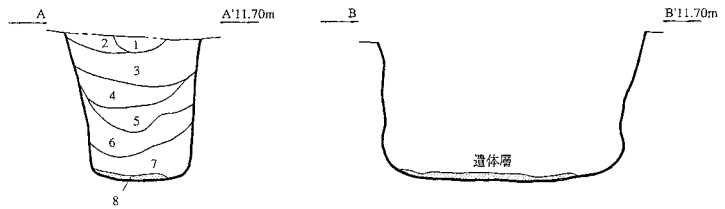
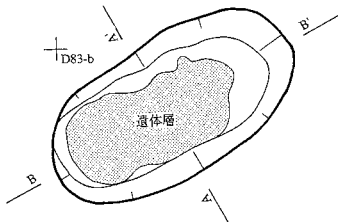


P124の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/2	黒褐色土	ソフト	粒の細かいEn-aバミスを少量含む	
2	10YR2/1	黒色土		En-aバミスを少量含む	
3	10YR4.5/6	褐色土	ややソフト	En-aバミスを主体で、黒褐色土を少量含む	
4	10YR3/3	暗褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
5	10YR3/3.5	暗褐色土	ややハード	汚れたEn-aバミスを主体で、暗褐色土を多量に含む	
6	10YR4/6	褐色土	ややソフト	En-aバミスを主体で、黒褐色土を少量含む	
7	10YR3/4	暗褐色土		汚れたEn-aバミスを多量に含む	
8	10YR3/3	暗褐色土	ややソフト	En-aバミスを多く含む	
9	10YR3/4	暗褐色土	ややハード	En-aバミスを多量に含む	
10	10YR3/4	暗褐色土	ややソフト	En-aバミスを多量に含む	
11	10YR4/4	褐色土	ソフト	En-aバミスを多量に含む	



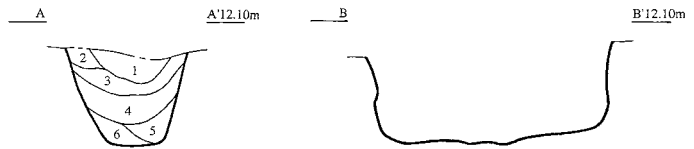
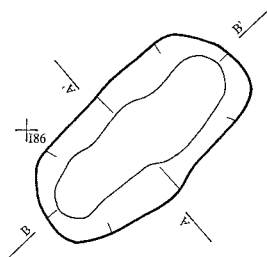
P-125



P125の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	N2/0	黒色土		En-aバミスをやや多く含む	
2	10YR3/3	暗褐色土	ややハード	En-aバミスをやや多く含む	
3	10YR4/4	褐色土	ややソフト	En-aバミスをやや多く含む	
4	10YR4/4	褐色土	ややソフト	En-aバミスを主体で、En-aロームを多量に含み、黒褐色砂を少量含む	
5	10YR4/4	褐色土	ややソフト	En-aバミスをやや多く含む	
6	10YR3/4	暗褐色土	ややソフト	粒の大きなEn-aバミスをやや多く含む	
7	10YR3/3	暗褐色土		En-aバミスを含まない	
8	10YR2/1	黒色土		粘質	遺体層

P-126



P126の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/3	黒褐色土	ややソフト		
2	10YR3.5/4	褐色～暗褐色土	ややソフト		
3	10YR3/3	黒褐色土		粒の大きなEn-aバミスを多量に含む	
4	10YR4/3.5	にぶい黄褐色～褐色土	ソフト		
5	10YR4/4	褐色土	ややハード		
6	10YR3/3	暗褐色土			

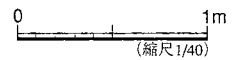
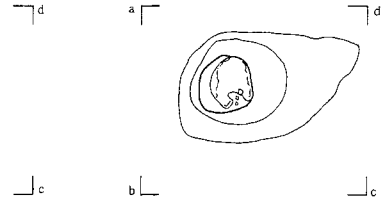
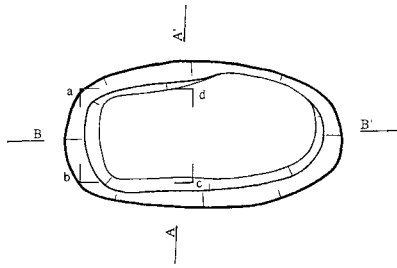
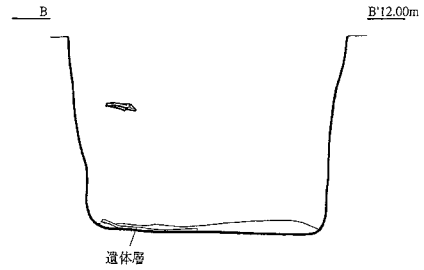
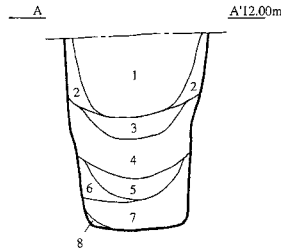


図245 墓壇 (4)

P-127



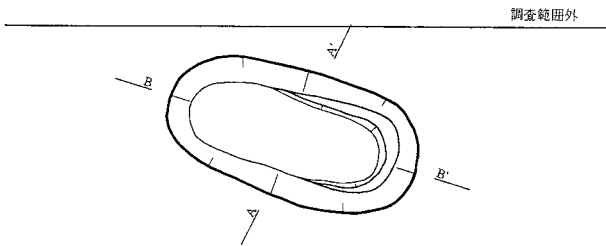
187



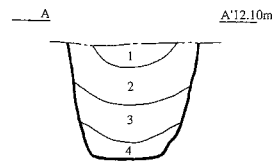
P127の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/3 暗褐色土	ぼそぼそ	シルト質	En-aパミスを含む V、VI+VII	
2	10YR3/2 黒褐色土	ぼそぼそ	シルト質	En-aパミスは1よりも少ない V、VI+VII	
3	10YR2/2 黒褐色土		シルト質	En-aパミス、炭化物を含む V+VII	
4	10YR3/2 黒褐色土	しまり弱	シルト質	En-aパミスが1よりも少ない 少量の炭化物を含む V、VII+VIII	
5	10YR4/3 にふい黄褐色土		シルト質	En-aパミスを少量含む V、VII+VIII>En-aパミス	
6	10YR3/4 暗褐色土	しまり弱	砂質	En-aパミスを含む V、VII+En-aパミス>VII	
7	10YR4/6 褐色土	しまり弱	砂質	En-aパミス主体 En-aパミス>>V、VI	
8	10YR3/3 暗褐色土	しまり弱	砂質	En-aパミス主体 En-aパミス>V、VII	

P-128



187



P128の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/1 黒色土		シルト質	En-aパミスを含む V>>VII	
2	10YR3/3 暗褐色土		シルト質	En-aパミスを含む V、VII>VIII	
3	10YR3/2 黒褐色土		シルト質	En-aパミスを含む (V>VI、VII)>VIII	
4	10YR4/4 褐色土	ぼそぼそ	シルト質	少量のEn-aパミスを含む VII>>V、VIII	

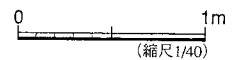


図246 墓墳 (5)

5 フラスコ状ピット

概要

調査区東側の狭い範囲から断面形がフラスコ状にオーバーハングする3基の土壌を検出した。規模は直径2 m 以上、深さ1 m 以上で、形状は円形である。断面の観察からは使用停止後しばらくの期間は放置され、その後埋め戻されていると推測した。

埋め戻しの土層からは堂林式土器の

破片が多く出土している。盛土遺構を構築する過程で、崩れかかっていたフラスコ状ピットを埋めたものとする。フラスコ状ピットの掘削から埋没までの期間は、後期後葉に形成されたと考えられるVb層上面の焼土を切って掘り込まれていること、盛土の形成に伴い埋め戻されていることから、Vb層焼土の形成以後、盛土の形成以前の比較的短期間であった可能性が高い。したがって縄文時代後期後葉の時間幅におさまるものと推測する。3基のフラスコ状ピットは等間隔を保って配列されていることから、同時に並存していたものと考えている。

フラスコ状ピットの周辺にはEn - aパミスを多量に含む黒褐色土が広がっている。当初は盛土遺構の一部と考え、N2と呼称して調査を行った。しかし、他の盛土遺構を構成する土層よりパミスの混入する割合が高いこと、パミス混じりの黒褐色土の分布範囲がフラスコ状ピットの位置と一

フラスコ状ピット一覧表

表41 フラスコ状ピット一覧

遺構番号	旧番号	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深さ
P - 129	P - 802	2.22	2.1	1.92	1.68	1.37
P - 130	P - 803	2.12	2.1	2.46	2.43	1.07
P - 131	P - 804	2.46	1.96	2.21	1.14	1.13

単位 = m



図247 フラスコ状ピット配置図

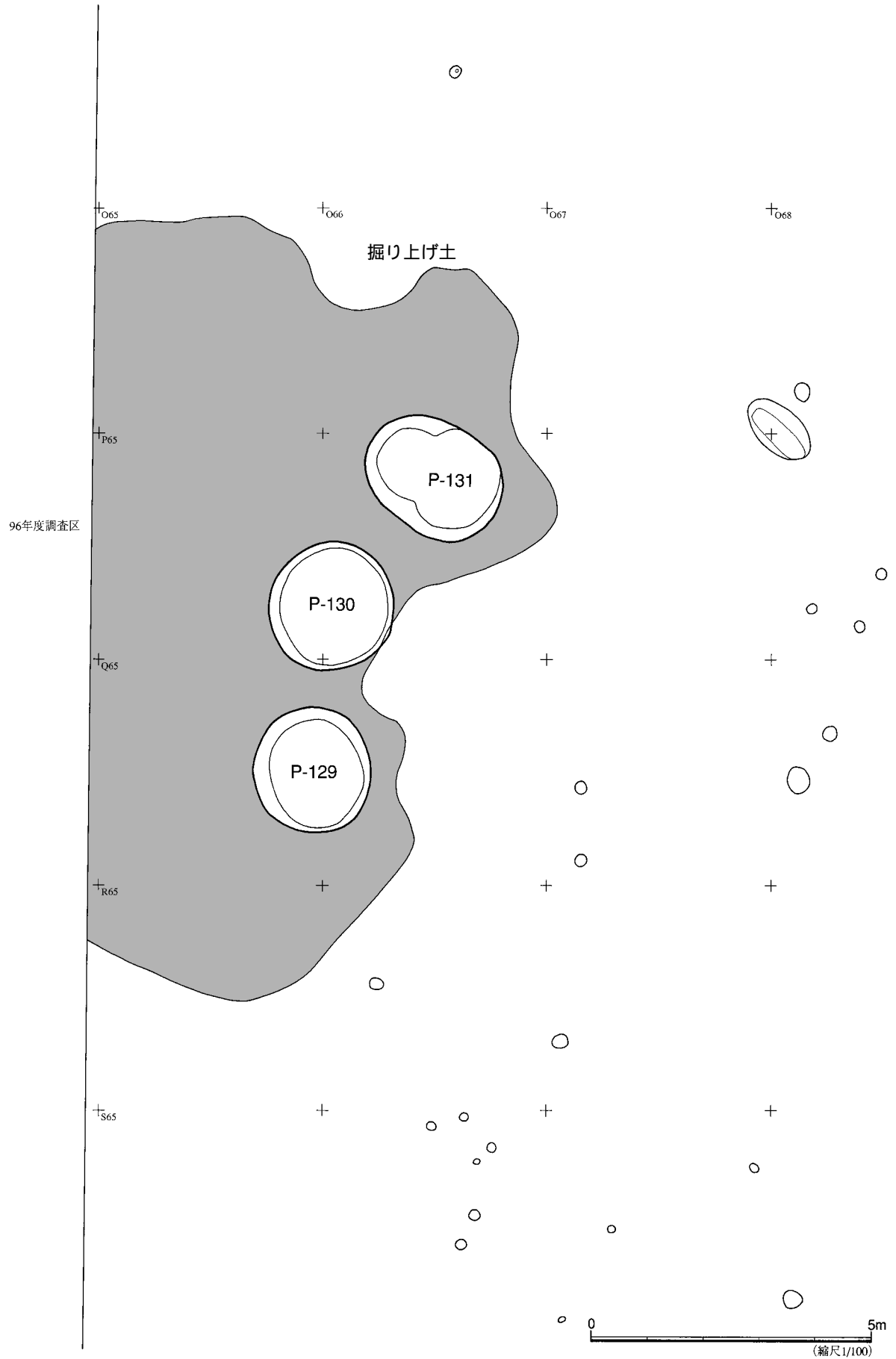


図247 フラスコ状ピット配置図

致することから、N2をフラスコ状ピットの掘り上げ土と判断した。掘り上げ土はフラスコ状ピットの東側にはほとんど広がらず、西側に広がる。平成8年度調査のL地区の発掘調査報告書ではこのパミス混じりの黒褐色土についての記録は一切ないが、調査担当者は、パミスを多量に含む黒褐色土が65ラインより西へ約1mほどの範囲に広がっていたことを記憶していた。掘り上げ土の分布が西側に偏るのは、フラスコ状ピットの掘り上げ土をより低い西側へ排土したためであろう。

(石井淳平)

P - 129

概要

平面形は円形で、墳底は平らである。他の2基のフラスコ状ピットと異なり、上端がオーバーハングしていない。土層13～24層が自然堆積層で、壁面の崩落によるEn - aパミスの堆積と、周辺から雨水などの作用により流れ込んだ黒色土が交互に堆積する。P - 130で確認したような大規模な壁面の崩落は、この断面では確認できない。徐々に壁面が崩れていったようである。土層1～12は盛土遺構の形成に伴い埋め戻された人為堆積層である。周辺の表土を用いて埋め戻しているようで、掘り上げ土に由来すると思われるEn - aパミス混じりの黒褐色土が主体を占める。また、Vb層の焼土を起源とする焼土が混入する。人為堆積層からは遺物が多く出土しており、P - 129を埋め戻しつつ盛土の形成が進んでいたことがわかる。

埋没過程

1) 壁面が最低3回にわたって崩落する(土層14、19、22)。崩落は断続的に進行し、土層14、19、22の間には黒色土(土層18、20、21)が堆積する。

2) 盛土の形成が開始され、人為的に埋め戻される(土層1～12)。(石井淳平)

P - 130

概要

平面形は円形で、墳底はやや丸みをもつ。下端はオーバーハングしている。土層16～20は汚れたEn - aパミスやロームを主体とするしまりのない均質な土である。土質が墓壇の埋土のそれとよく似ていたため、人為的に埋め戻したものと判断した。非常に中途半端な埋め戻し方であり、どのような意図があったのかは不明である。土層6～15は壁面の崩落をとまなう自然堆積層である。土層1～5は盛土遺構の形成に伴い埋め戻された人為堆積層である。P - 129と同様、掘り上げ土に由来すると思われるEn - aパミス混じりの黒褐色土で埋め戻されている。

埋没過程

1) En - aパミスを中心とする東壁の下半部分が崩れる(土層15)。

2) その結果東壁は上部が大きく張り出すこととなり、安定性を失うがしばらくは持ちこたえ、その間に周辺から流れ込んだ黒色土が堆積する(土層14)。

3) 張り出したオーバーハング部分が崩落する(土層9～13)。オーバーハング部分は、層序を保ったまま崩落しており、土層10～12はそれぞれVb層の焼土、V層、VI・VII層に対応する。

4) 小規模な壁面の崩落が繰り返される(土層6～8)。

5) 盛土の形成が開始され、人為的に埋め戻される(土層1～5)。(石井淳平)

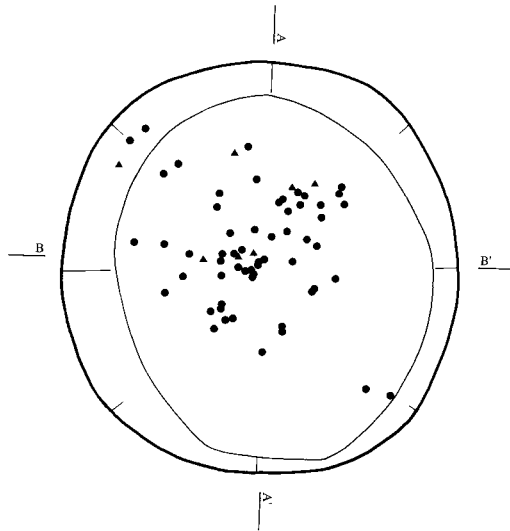
P - 131

概要

2つのフラスコ状ピットが重複しているため、平面形は楕円形に見える。長軸方向に沿って半裁したが、2つのフラスコ状ピットの間で段差はなく壙底は平らである。P - 131 (旧) はしばらく放置された後、埋め戻されている。その後、P - 131 (新) が掘り込まれる。新旧 P - 131の壙底には段差がないことから、何らかの事情で、P - 131 (旧) が機能しなくなったために、新しく P - 131 (新) を掘りなおしたものと考えている。土層24~26層が P - 131 (旧) の自然堆積層、土層20~23層がその埋め戻し、土層14~19層が壁面の崩落を含む自然堆積層、土層1~13が盛土遺構の形成に伴い埋め戻された人為堆積層である。遺物の平面分布図からもわかるとおり、P - 131 (旧) の埋め戻し土には遺物がほとんど含まれておらず、この段階では盛土遺構の形成が始まっていなかったことがわかる。

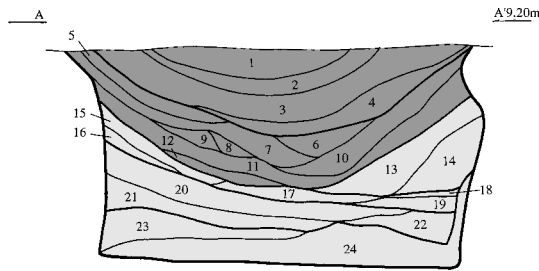
埋没過程

- 1) P - 131 (旧) が機能停止し、埋没が始まる (土層24~26)。
 - 2) P - 131 (旧) が人為的に埋め戻される (土層20~23)。
 - 3) P - 131 (新) が掘られる。
 - 4) P - 131 (新) が廃絶し、放置される。壁面が徐々に崩落 (土層14~19)。
 - 5) 南東壁が崩落 (土層13)。
 - 6) 盛土の形成が開始され、人為的に埋め戻される (土層1~12)。
- (石井淳平)



● 土器
▲ 石器

1/66



■ 埋め戻し
□ 自然堆積

P129の土層

番号	土色 1	土色 2	しまり	流入物、その他	備考
1	10YR2/1	黒色土		En-aバミスを多く含む	埋め戻し
2	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミス、炭化物を少量含む	埋め戻し
3	10YR2/2.5	黒褐色土		En-aバミス、炭化物を多量に含む	埋め戻し
4	10YR2/3	黒褐色土	ややソフト	En-aバミスを多量に含む	埋め戻し
5	10YR2/3	黒褐色土	ややソフト	粒の細かいEn-aバミスを多く含む、焼土、炭化物を少量含む	埋め戻し
6	10YR2/2.5	黒褐色土	ややソフト	焼土塊を含む	埋め戻し
7	10YR1.7/1	黒色土	ややソフト	En-aバミス、炭化物、焼土を少量含む	埋め戻し
8	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、黒褐色土を少量含む	埋め戻し
9	10YR2/3	黒褐色土	ややソフト	En-aバミス、焼土粒を少量含む	埋め戻し
10	10YR4/4	褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、黒褐色土を多く含む	埋め戻し
11	10YR1.7/1	黒色土		En-aバミス、炭化物、焼土を少量含む	埋め戻し
12	10YR5/6	黄褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、黒褐色土をやや多く含む	埋め戻し
13	10YR5/8	黄褐色土		En-aローム主体で、En-aバミス、黒褐色土を少量含む	14の崩落にともなう流れ込み
14	10YR5/6	黄褐色土	ソフト	純粋なEn-aバミス主体 やや粒が細かい	壁面の崩落
15	10YR1.7/1	黒色土	ややソフト	En-aバミス、焼土を少量含む	自然堆積
16	10YR4/6	褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、En-aロームと黒褐色土を少量含む	自然堆積
17	10YR3/3	暗褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、焼土を多く含む	自然堆積
18	10YR3/2	黒褐色土	ややソフト	En-aバミスを多量に含む	自然堆積
19	10YR4.5/6	褐色土	ソフト	純粋なEn-aバミス主体	壁面の崩落
20	10YR3/2	黒褐色土		En-aバミス、炭化物、焼土少量含む	自然堆積
21	10YR5/8	黄褐色土	ややソフト	ほぼ純粋なEn-aバミス主体で、黒褐色土をブロック状に含む	自然堆積
22	10YR5/6	黄褐色土	ソフト	純粋なEn-aバミス主体 粒がやや粗い	壁面の崩落
23	10YR2/1	黒色土		En-aバミスを少量含む	自然堆積
24	10YR4/4	褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、黒褐色土をやや多く含む	自然堆積

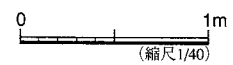


図249 フラスコ状ピット(1)

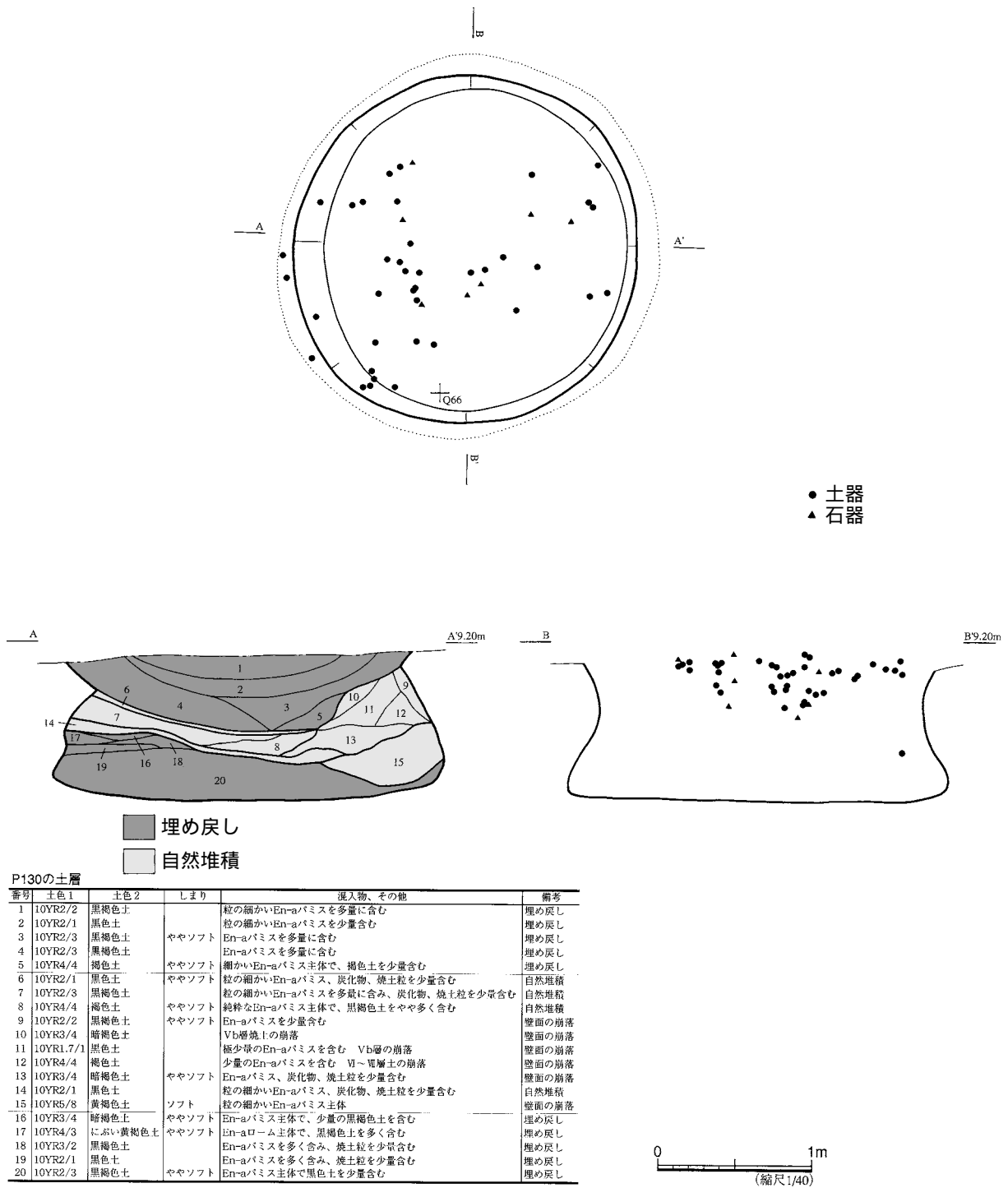
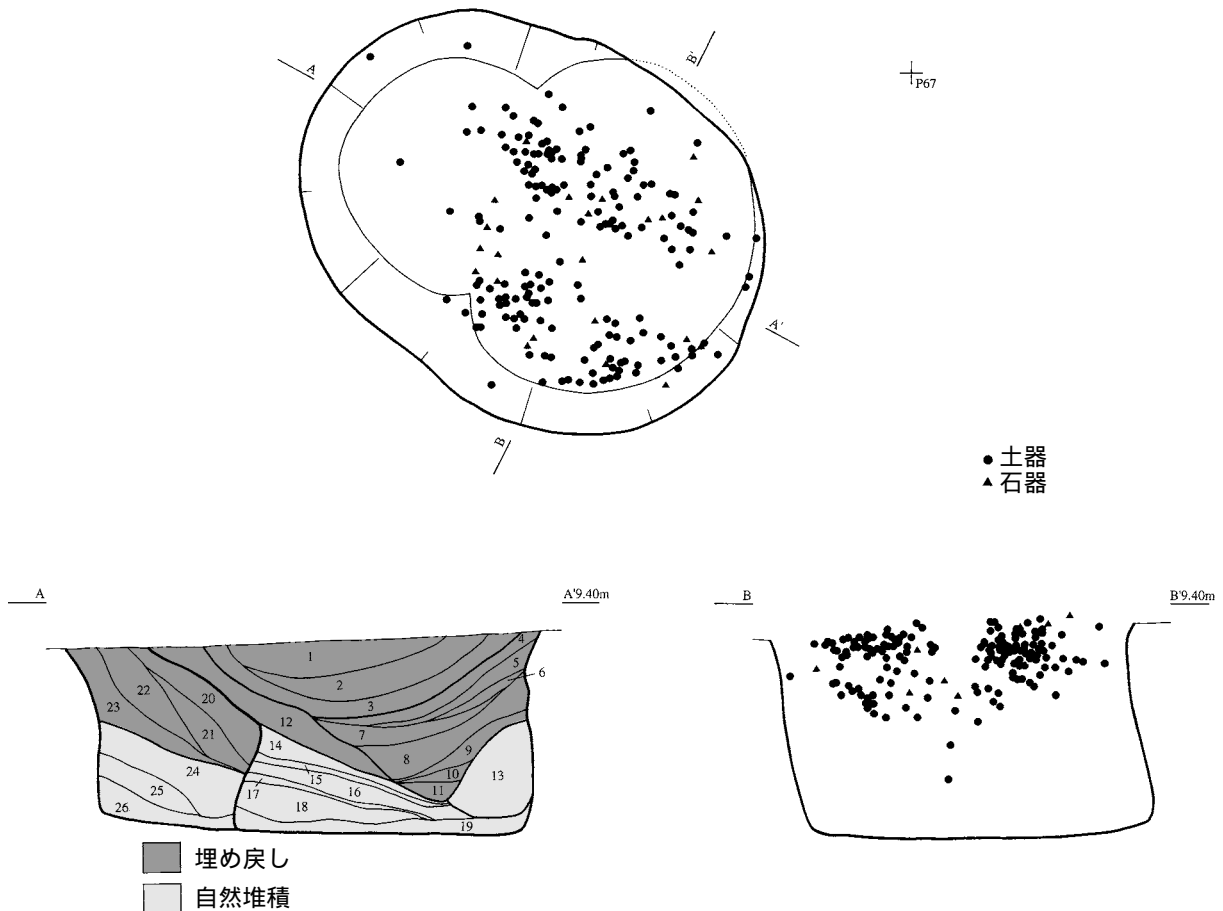


図250 フラスコ状ピット(2)

P-131



P131 (新・旧) の土層

遺構番号	番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
P131 (新)	1	10YR2/1	黒色土		En-aバミスを多く含む	埋め戻し
P131 (新)	2	10YR2/2	黒褐色土		粒の粗いEn-aバミスを多く含む	埋め戻し
P131 (新)	3	10YR2/1.5	黒色土		En-aバミスをやや多く含む	埋め戻し
P131 (新)	4	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む	埋め戻し
P131 (新)	5	10YR2/2.5	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む	埋め戻し
P131 (新)	6	10YR2/1.5	黒色土		粒の細かいEn-aバミスを少量含む	埋め戻し
P131 (新)	7	10YR3/3.5	暗褐色土	ややソフト	En-aバミスを多く含む、炭化物を少量含む	埋め戻し
P131 (新)	8	10YR2/1.5	黒色土		En-aバミスを多く含む	埋め戻し
P131 (新)	9	10YR3/4	暗褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、黒褐色土を多量に含む	En-aバミスをやや多く含む 埋め戻し
P131 (新)	10	10YR2/2	黒褐色土		やや粘質 En-aバミスをほとんど含まない	埋め戻し
P131 (新)	11	10YR4/5	褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスをほとんど含まない	埋め戻し
P131 (新)	12	10YR2.5/3	黒褐色土	ややソフト	粒の粗い砂粒が主体で、En-aバミスを少量含む	埋め戻し
P131 (新)	13	10YR4.5/6	褐色土	ソフト	ほぼ純粋なEn-aバミス主体	壁面の崩落
P131 (新)	14	10YR2/2	黒褐色土	ややソフト	En-aバミスを多量に含む	自然堆積
P131 (新)	15	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	自然堆積
P131 (新)	16	10YR3/3	暗褐色土	ややソフト	En-aバミスを多量に含む	自然堆積
P131 (新)	17	10YR2/1	黒色土		En-aバミスをほとんど含まない	自然堆積
P131 (新)	18	10YR3/2	黒褐色土	ややソフト	En-aバミスを多量に含む	自然堆積
P131 (新)	19	10YR2/2	黒褐色土	ややソフト	やや粘質 En-aバミスを多量に含む	自然堆積
P131 (旧)	20	10YR2/1.5	黒色土	ややハード	粒の細かいEn-aバミスを少量含む	埋め戻し
P131 (旧)	21	10YR4/4	褐色土	ややソフト	En-aバミスを多量に含む	埋め戻し
P131 (旧)	22	10YR2.5/3	黒褐色土		En-aバミスを多量に含む	埋め戻し
P131 (旧)	23	10YR2/2	黒褐色土	ややハード	粒の細かいEn-aバミスを少量含む、焼土を多量に含む	埋め戻し
P131 (旧)	24	10YR3/4	暗褐色土	ややソフト	En-aバミス、En-aロームを多量に含む、炭化物を少量含む	自然堆積
P131 (旧)	25	10YR2.5/3	黒褐色土	ややソフト	En-aバミスを多量に含む	自然堆積
P131 (旧)	26	10YR4/4	褐色土	ややソフト	En-aバミスを多量に含む	自然堆積

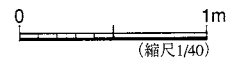


図251 フラスコ状ピット(3)

6 Vb層の焼土

盛土遺構除去後のVb層上面で多数の焼土を検出した。盛土遺構の範囲外ではVa層とVb層の区別が付けられないため、本項では盛土遺構の範囲外のV層で検出した焼土も、あわせて報告する。また、トレンチで検出した層位不明の焼土も、掲載している。これらを合わせると

表43 Vb層焼土一覧

層位	個数(カ所)			合計
	ヤキ	ステ	不明	
V層	134	2	80	216
Vb層	1111	69	378	1558
トレンチ	1	16	37	54
合計	1246	87	495	1828

焼土は1828カ所になる。盛土遺構の範囲に分布する焼土は、盛土遺構を除去した直下で検出しており、盛土遺構の構築直前に形成された可能性が高い。また、焼土の分布は盛土遺構の分布範囲とかなり一致するものの、78ライン以东では密度が激減しており、焼土の形成と盛土遺構の構築との関係は単純ではないことが予想できる。なお、盛土遺構の南半で焼土の密度が低いのは、耕作による削平で、消失したことによる。この付近のV層を掘り下げ中に、多くの焼土塊を確認しており、これらは付近のVb層に存在した焼土が、耕作により攪乱されたものと考えられる。

Vb層で検出した焼土はその場で焼かれたものが1246カ所、廃棄されたものが87カ所、不明が495カ所である。Vb層で検出した焼土の、その場で焼かれた焼土と廃棄された焼土の比率はそれぞれ、68.2%、4.8%である。盛土遺構中で検出した焼土では、それぞれ19.8%、67.9%であることと比較して、その場で焼かれた焼土の比率が非常に高い。Vb層で検出した焼土のうち、不明とした495カ所の焼土は、調査開始間もない頃に、その場で形成されたものか、廃棄されたものかの判断が付

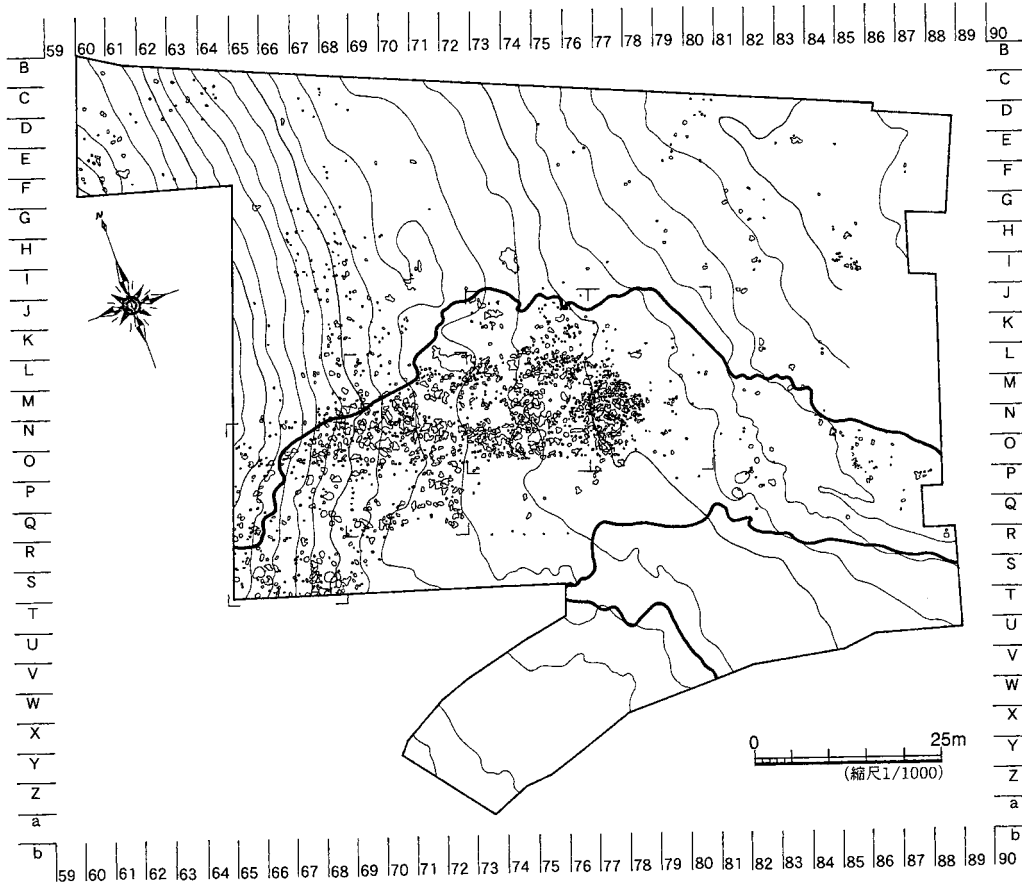


図252 Vb層の焼土配置図

けられず、判断を保留したものがほとんどであるため、これらについても、その場で焼かれたもの
が高い比率を占める可能性が高い。したがって、Vb層焼土はほとんどがその場で焼かれたもので
ある。 (石井淳平)

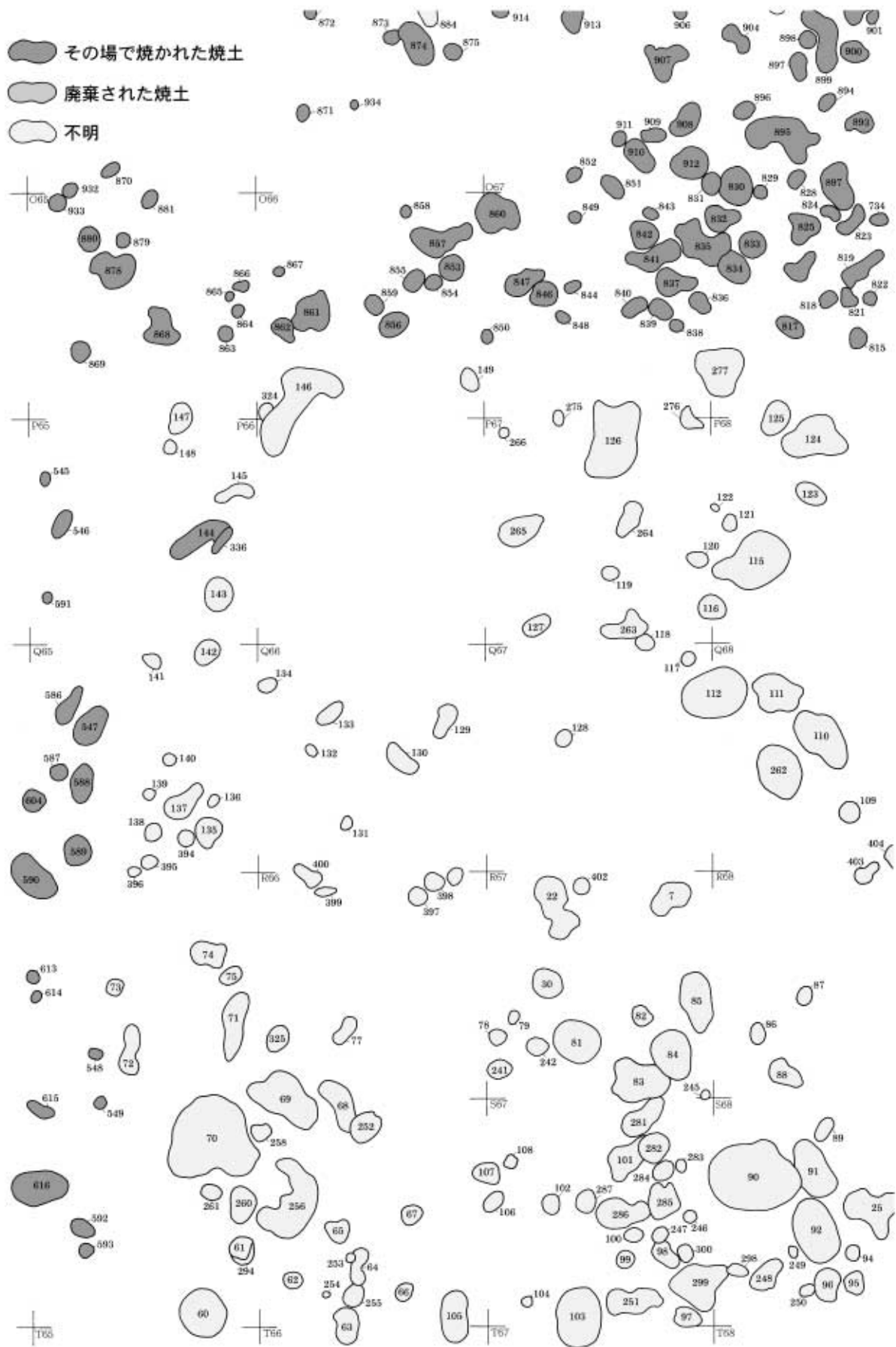


図253 Vb層焼土詳細図(1)

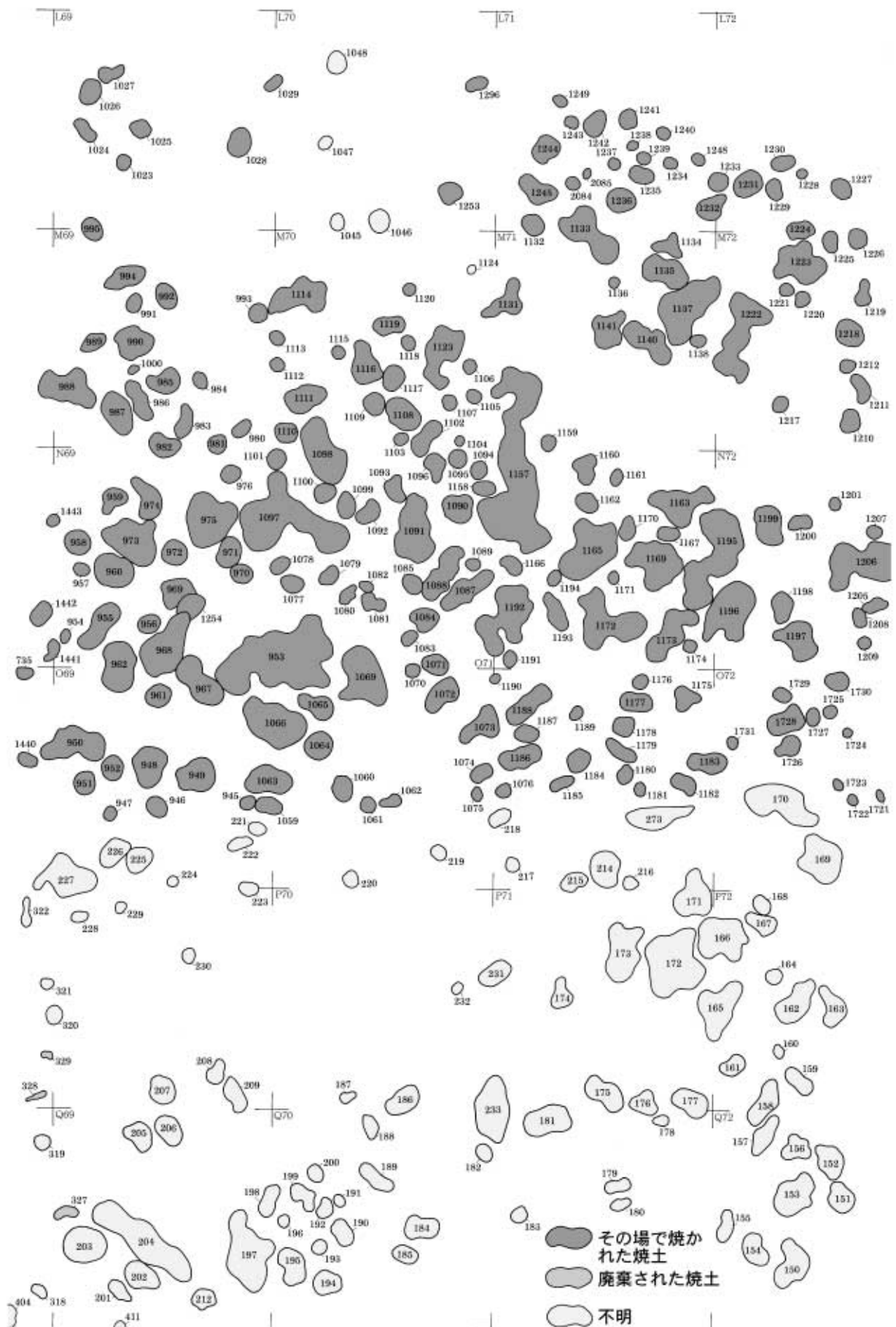


図254 Vb層焼土詳細図(2)

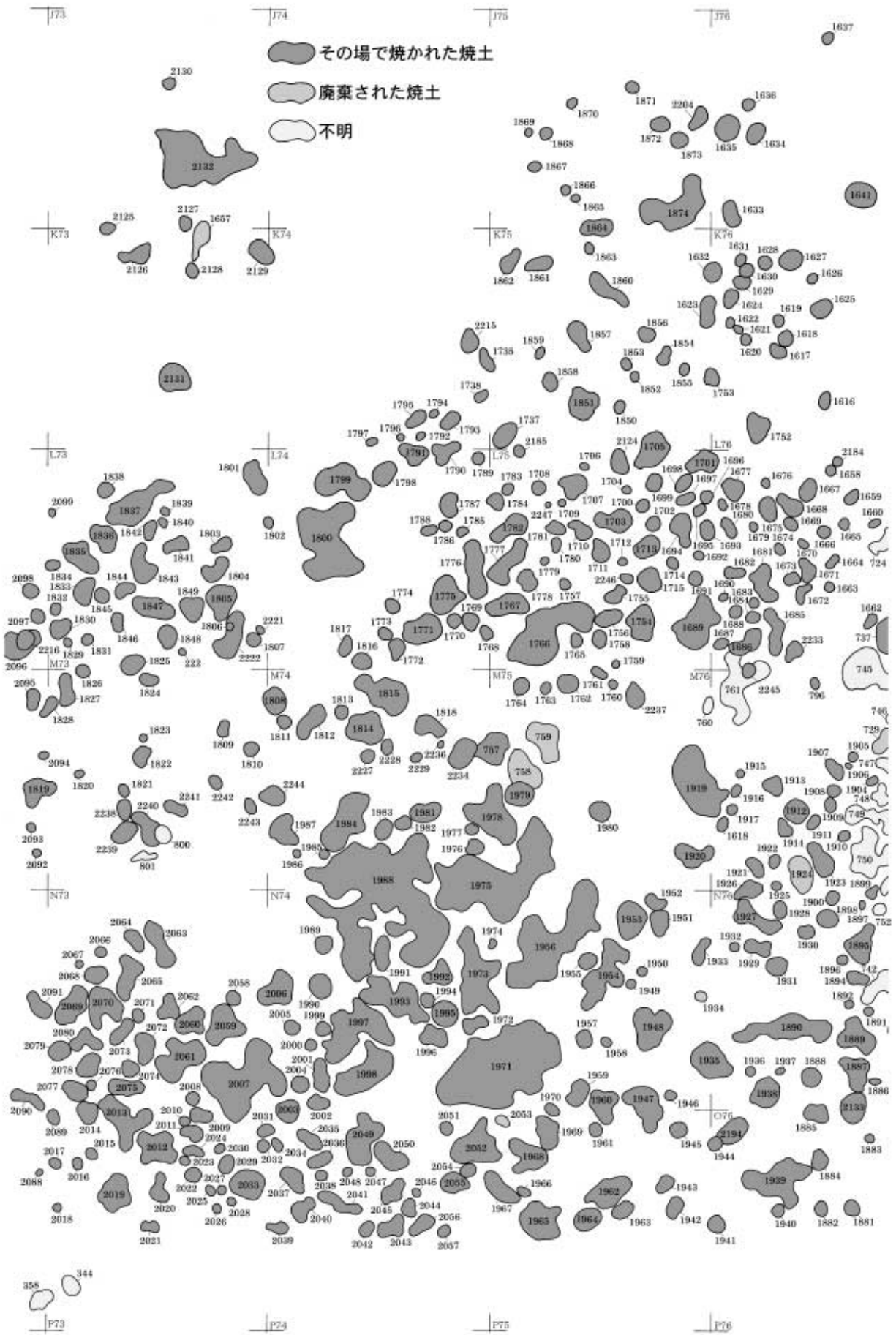


図255 Vb層焼土詳細図(3)



図256 Vb層焼土詳細図(4)

7 遺構出土の遺物

P - 1 (図188、図257、図版223)

1は沈線文が施された深鉢の口縁部片。

P - 2 (図188、図257、図版 9、図版223)

2は、図90 - 380を再び掲載した。遺構からは胴部の小片1点が出土、破片のほとんどは盛土のM - 76、77付近に集中していた。3は深鉢の口縁部、4、5は胴部片。

P - 3 (図189、図257、図版 9、図版223、図版224)

6 ~ 14は深鉢の口縁部片で、10には貼瘤文が施される。15、16は深鉢の胴部片で、16には貼瘤文が施される。17は注口土器の頸部片で、後の整理で、整地層の破片と接合し、図161 - 1576で、掲載している。この遺構で掲載した破片のうち10、16、17は本遺跡のなかでも新しい文様要素をもつ。

F - 37 (図188、図189、図191、図192、図257、図版223)

18は深鉢の底部片で、特に被熱した痕跡は無い。

P - 10 (図192、図258、図版224)

19は柱穴から出土した破片では大きなもので、破片の厚さなどからは、比較的古手の遺物と考えられる。

P - 11 (図194、図258、図版10、図版224)

20 ~ 26は深鉢の口縁部や胴部片である。22は小波状口縁の可能性はある。26の文様には充填縄文が見られ、比較的古手の破片である。

P - 12 (図194、図258、図版224)

27は深鉢の口縁部片。28は無文のミニチュア土器である。

P - 13 (図195、図258、図版224)

29、30は口縁部に沈線が施される深鉢の口縁部片。

P - 14 (図195、図258、図版224)

31は頸部を有する深鉢。32は注口の胴部片の可能性はある。文様には沈線、刺突文、磨消し文が施される。33は注口土器の頸部片。34は深鉢の底部片。

P - 15 (図195、図258、図版 9、図版224)

35は沈線の施された深鉢の胴部片。

P - 16 (図195、図259、図版 9、図版225)

36は、頸部を有する小形の深鉢片。

F - 31 (図194、図197、図198、図259、図版225)

37は口唇部にヘラ状の工具で施された刻みを有する。口唇に刻みを有する例は新しい土器に多く見られる。

P - 17 (図197、図259、図版10、図版225)

38の突瘤文から下の器面は剥離している。39は鉢形土器の口縁部。

P - 18 (図197、図259、図版225)

40、41は深鉢の口縁片。41には八の字形の刻みが施される。

P - 19 (図198、図259、図版 9、図版225)

42は深鉢の口縁部。43は頸部の無文部分の破片と考えられる。

P - 20 (図198、図259、図版11、図版225)

44の口唇は、棒状の工具で刻まれる。45は図151 - 1321 ~ 1323と同一の口縁部片である。46は深鉢の口縁部片。

P - 22 (図200、図259、図版225)

47 ~ 49、53は深鉢の口縁部片である。53の口唇部は欠損する。50 ~ 52は注口土器の胴部片で、52には注口部剥離の痕跡が残る。48、50には八の字形の刻みが施される。また、47、50には赤色顔料塗彩の痕跡が残る。

P - 24 (図201、図259、図版225)

54、55は深鉢の口縁部片。

P - 26 (図201、図259、図版225)

56は深鉢の口縁部片。57は黒曜石製の有茎の石鏃。

P - 27 (図203、図260、図版 9、図版225)

58、60は深鉢の口縁部片、59は鉢形土器の口縁部片である。58のうち遺構から出土した破片は1点で、残りは盛土の破片が接合した。同一片は、図104 - 541 ~ 543で、この個体は、大きく見て3か所に分散する状況で出土している。

P - 28 (図203、図260、図版225)

61は、頸部を有する深鉢。62は深鉢の口縁部片。

P - 30 (図204、図260、図版225)

63は深鉢の口縁部片。器面には沈線文と磨消しが施される。

P - 31 (図204、図260、図版225)

64は深鉢の口縁部片。65、66は胴部片である。66には鋸歯状の沈線が施される。

F - 44 (図203、図204、図260、図版226)

67は注口土器の口縁部片。

P - 33 (図206、図260、図版226)

68は口縁部に刻みが施される深鉢片。

P - 32 (図206、図261、図版226)

69は注口土器の口縁か、小形の頸部を有する深鉢片と考えられる。70は深鉢の胴部片、71は器面が磨かれる無文の鉢で、盛土の破片3点と接合する。

P - 39 (図208、図261、図版226)

72は深鉢の口縁部片。73は多重の山形沈線が施された深鉢の胴部片。

P - 40 (図208、図261、図版226)

74は深鉢の口縁部片。口縁の内側にも1条の沈線が施される。このような沈線は比較的古手の個体に多く見られる。

P - 41 (図208、図261、図版226)

75は注口土器の胴部と考えられる。

P - 46 (図211、図261、図版226)

76は図159 - 1472を再び掲載した。遺構からは1片出土し、残りの破片は周辺の整地層から出土している。器面には注口部剥離の痕跡が残る。

P - 48 (図211、図261、図版226)

77は深鉢の口縁部片。78は胴部片。79は黒曜石製の有茎の石鏃。

P - 51 (図212、図261、図版226)

- 80は頸部を有する小形の深鉢片と考えられる。
- P - 52 (図212、図261、図版226)
- 81は深鉢の口縁部片。
- P - 53 (図212、図261、図版226)
- 82は注口土器の胴下部片と考えられる。
- P - 60 (図217、図261、図版226)
- 84は頸部を有する深鉢の口縁部片。頸部の無文帯は、新手の土器ほど幅が広がり、口縁部の文様帯が狭く傾向が見られる。85は地紋のみが施された、丸みを帯びた深鉢片である。
- P - 63 (図219、図261、図版226)
- 83は羽状縄文が施された胴部片。
- P - 64 (図219、図262、図版226)
- 86は突瘤文を欠損する、深鉢の口縁部片。
- P - 65 (図219、図262、図版226)
- 87は口唇に棒状工具による刻みを有する。88は、図126 - 896、897と同一個体で、離れた包含層片と接合している。この個体は広く散在している。
- P - 67 (図221、図262、図版227)
- 89は深鉢の口縁部片。
- P - 70 (図223、図262、図版227)
- 90、91は深鉢の口縁部片91の口縁には2列の刻みが施される。
- P - 71 (図223、図262、図版227)
- 92は沈線が施された、深鉢の口縁部片。
- P - 72 (図223、図262、図版227)
- 93は口縁部、94は胴部片。
- P - 73 (図223、図262、図版227)
- 95は胴上部片。96は頸部の無文帯。97は砂岩の台石。
- P - 87 (図231、図262、図版227)
- 98は口縁部に3条の沈線が施される。
- P - 91 (図235、図263、図版10、図版227)
- 99は深鉢の口縁部片。
- P - 92 (図235、図263、図版227)
- 100は頸部の無文帯が広い深鉢の口縁部。
- P - 93 (図235、図263、図版227)
- 101は貼瘤文が施される頸部片。
- P - 94 (図236、図263、図版11、図版227)
- 102は口縁部に3条の沈線が施される。
- P - 97 (図236、図263、図版227)
- 103は頸部片と考えられる。
- P - 98 (図237、図263、図版227)
- 104は多重の山形沈線文が施された胴部片。
- P - 99 (図237、図263、図版227)

105は口縁部に3条の沈線が施される。

P - 101 (図237、 図263、 図版227)

106は小形の鉢。107、108は深鉢の口縁部片。109は注口土器の胴部片で、八の字形の刻みが施される。110は頸部の無文帯から口縁下位にかけての破片。

P - 102 (図238、 図263、 図版227)

111は頸部片。

P - 103 (図238、 図263、 図版227)

112は口唇に縄文が施される。

P - 105 (図238、 図263、 図版227)

113は泥岩製のすり石。扁平な円形礫の周縁を敲打した後、よく擦っている。平坦面に軽い敲打痕がある。盛土遺構の盛土5層の9～と同類製品。

P - 106 (図238、 図263、 図版227)

114は沈線が施された胴部片。

P - 111 (図239、 図263、 図版227)

115は突瘤文の上下に2条ずつ沈線が施される。。

P - 113 (図239、 図263、 図版227)

116は沈線が施される胴部片。

SP - 757 (図263、 図版227)

117は泥岩製の石斧。剥離調整の後、刃部のみを研磨により作出。(SP - 757はグリッド番号U - 74検出の柱穴であるが、建物を構成する柱穴に組み入れられず、未掲載である。)

P - 120 (図243、 図263、 図版12、 図版227)

118は胴下部片。

P - 121 (図244、 図264、 図版11、 図版228)

掲載した土器片と剥片石器は、土壌の壙底に厚く入る黒褐色土に多数含まれていた遺物から抽出したもので、その出土状況は、盛土のそれと似ていた。内容も多数の個体片が混ざった状態で、副葬された遺物とは考えにくく、埋土に盛土遺構の土が混入したものと考えられる。119～122は口縁に沈線が施された破片で、どれも別個体。123は深鉢の口縁部片。124は多重の山形沈線文が施された底部片。125は黒曜石製の石鏃。破損した有茎のものを、再加工してある。先端もまるみを帯びる。126は黒曜石製の石錐。つまみ部と錐部の区別が明瞭でない。127は土壌の検出面から出土した砂岩製の砥石。おもて面と側面の2面を使用している。

P - 125 (図245、 図264、 図版12、 図版228)

128は壙底付近の土壌から、水洗で検出したヒスイ製の玉。片側穿孔と思われるが、まっすぐに穿孔され、良く磨かれている。素材も透明度の高い、色の均一なものを使用している。ヒスイの原産地分析により、糸魚川産の原材を使用していることがわかった(VI章参照)。

P - 127 (図246、 図264、 図版13、 図版228)

129は土壌の覆土中位から出土した口縁部片。130は深鉢の底部片。

P - 128 (図246、 図264、 図版228)

131は無文の頸部片。

集石 1 (図42、 図265、 図版228)

132～153は長さ6～10cm、幅・厚さ3cm前後の自然礫である。153のみ敲打痕がある。石材はほ

とんどが、脆い凝灰岩である。その他砂岩、泥岩の礫もある。

フラスコ状ピット掘り上げ土 (図248、図265、図版229)

154は黒曜石製のスクレイパー。縦長の剥片の両側辺に刃部があり、両側とも中程にえぐりが入っている。155は泥岩製のすり石。盛土遺構の盛土5層の9～と同類製品である。

P - 129 (図249、図265、図版14、15、図版229)

遺物は覆土上位に落ち込んだもの。156、158の口縁部には刻みが施される。157は地紋のみが施される深鉢の口縁部片。159には多重の弧線文が施される。

P - 130 (図250、図265、図版14、15、図版229)

遺物は覆土上位に落ち込んだもの。160は口縁部に刻みが施される。また、突起には上から深い円形の刺突が施される。161、162は深鉢の口縁部片。163は砂岩製の砥石。砥面は2面。

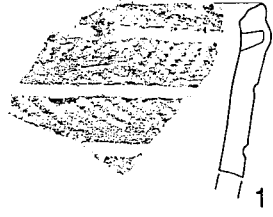
P - 131 (図251、図266、図版15、図版229)

遺物は覆土上位に落ち込んだもの。164は突起部分の破片のみが遺構こうから出土したもので、残りの破片は盛土遺構から接合している。同一個体片は図67 - 49、50で、N・O列に沿って東西に広く分布する。器面には多重の弧線文が、文様の間には1列刻みが施される。165～170は深鉢の口縁部片で、169の口縁には刻みが施される。171は注口土器の頸部片で、頸部に刻みが施される。フラスコ状ピットに落ち込む遺物は全体に古手のものである。172～174は黒曜石製の石鏃。172は有茎であったものを再加工した感がある。173は無茎。二次加工は先端と周縁のみ。下辺はえぐりが入っている。174は有茎。175は片麻岩製のすり石。卵形の礫の一部を使用。176は砂岩製の砥石。主使用面は2面。

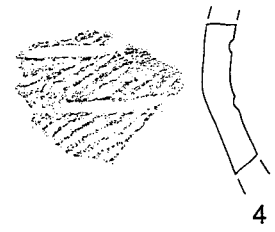
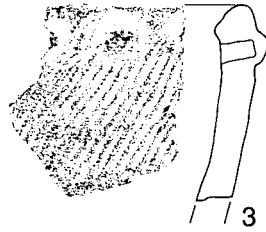
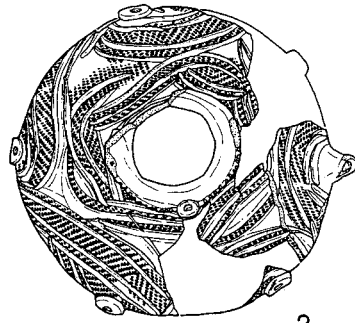
(土肥 研晶 新家 水奈)

遺構出土の遺物

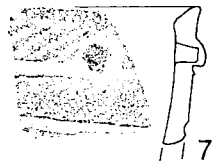
P-1 (建物1)



P-2 (建物1)

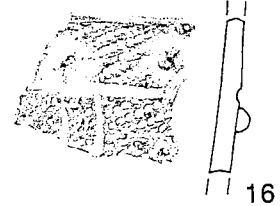
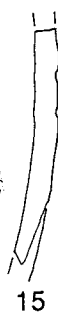
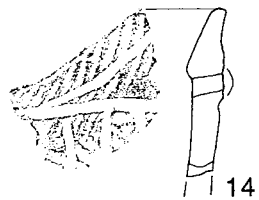
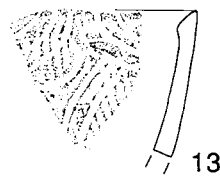
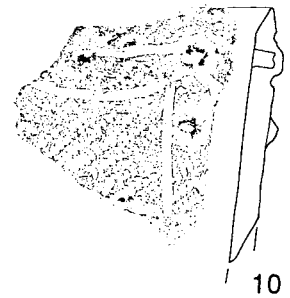
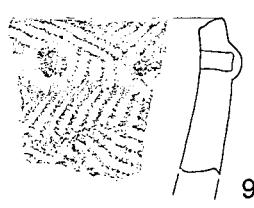
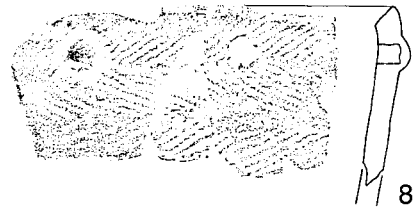


P-3 (建物1)



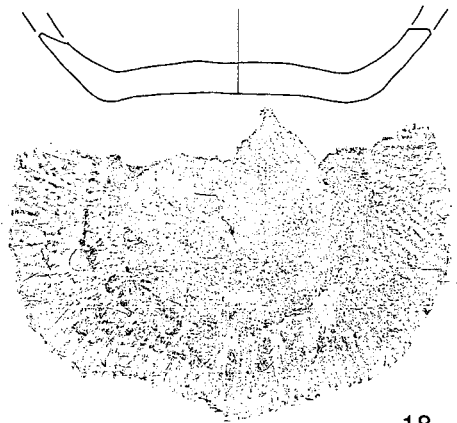
0 1:2 5cm

0 1:4 10cm



17

F-37 (建物1)



0 1:2 10cm

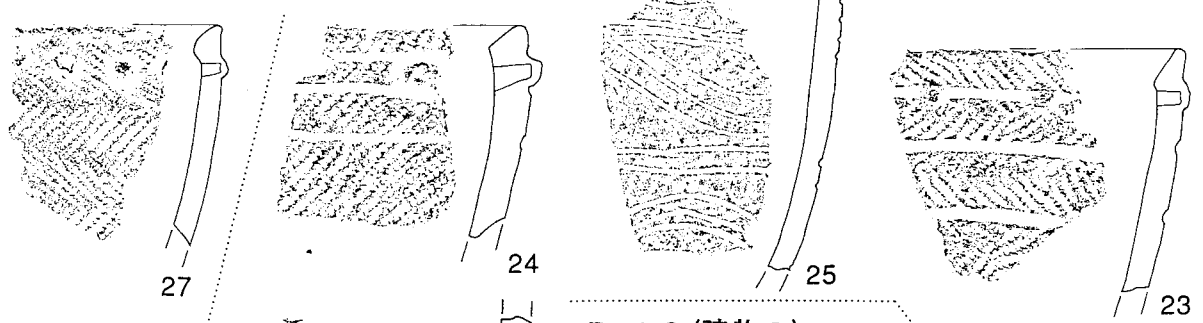
図257 遺構出土の遺物 (1) P-1~3、F-37

P-10 (建物2)

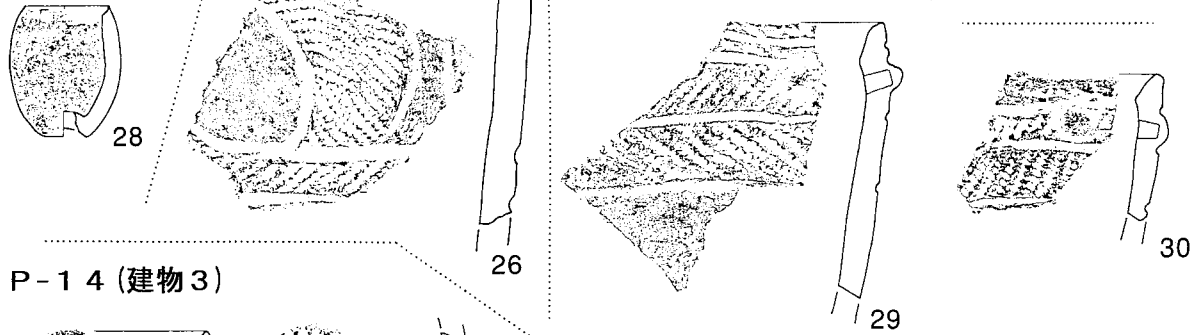
P-11 (建物3)



P-12 (建物3)

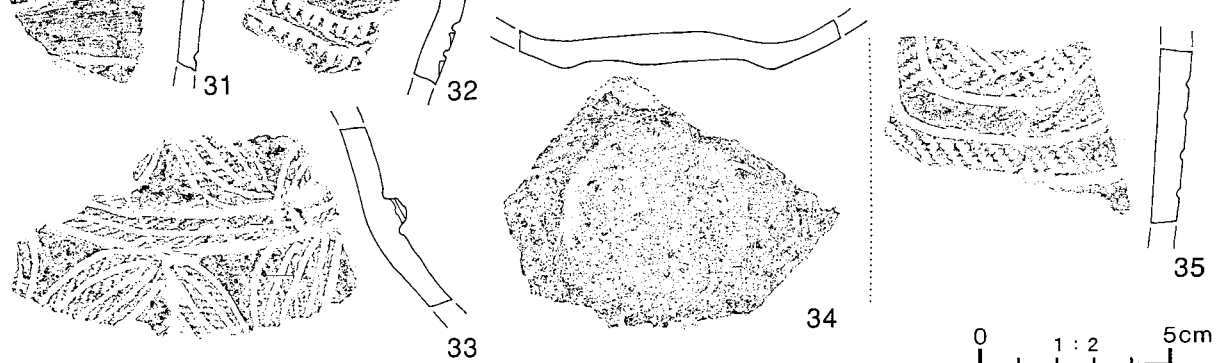


P-13 (建物3)



P-14 (建物3)

P-15 (建物3)



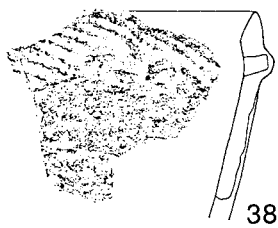
0 1:2 5cm

図258 遺構出土の遺物 (2) P-10~15

P-16 (建物3)



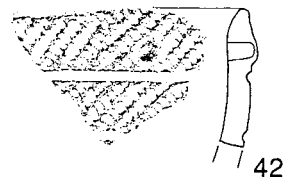
P-17 (建物4)



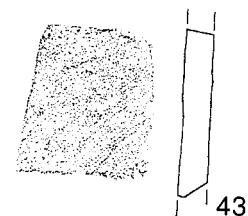
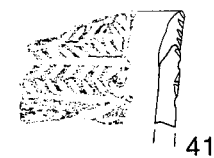
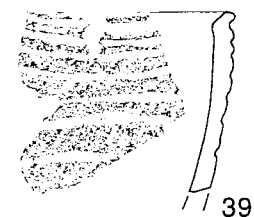
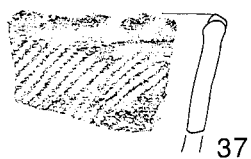
P-18 (建物4)



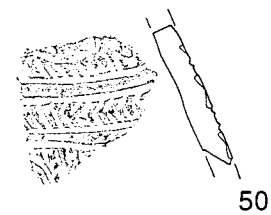
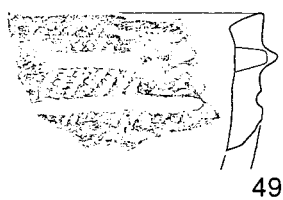
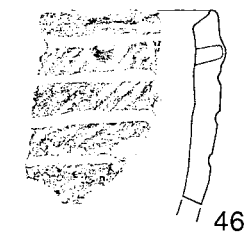
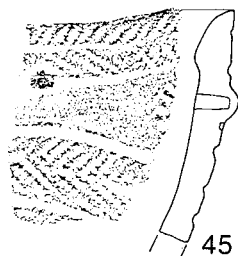
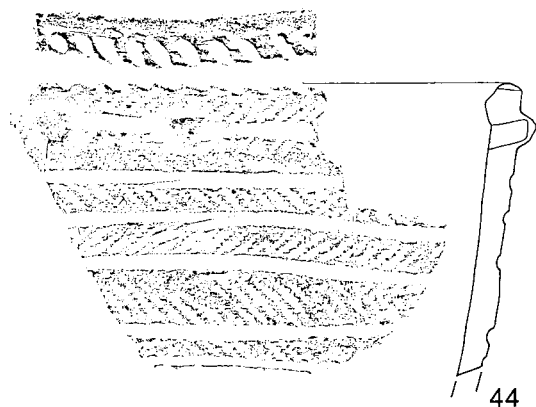
P-19 (建物4)



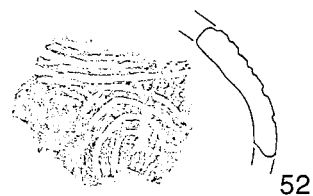
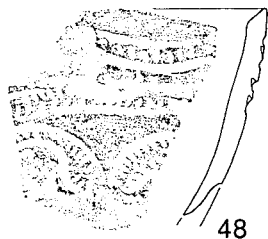
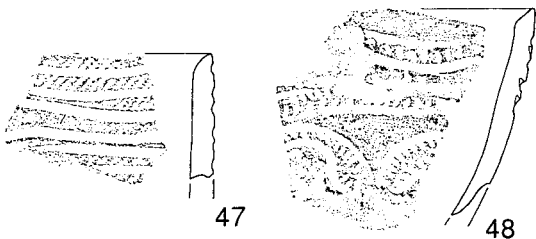
F-31 (建物3)



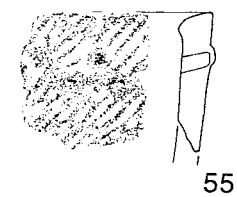
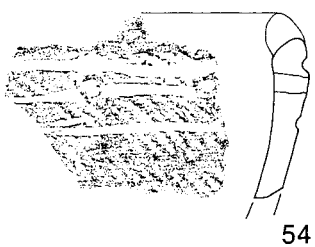
P-20 (建物4)



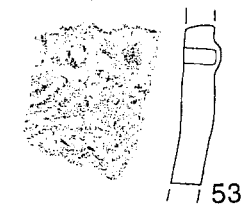
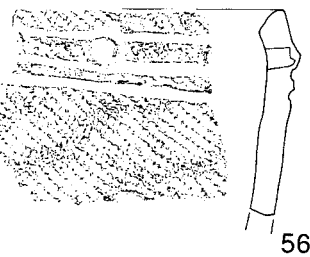
P-22 (建物5)



P-24 (建物5)



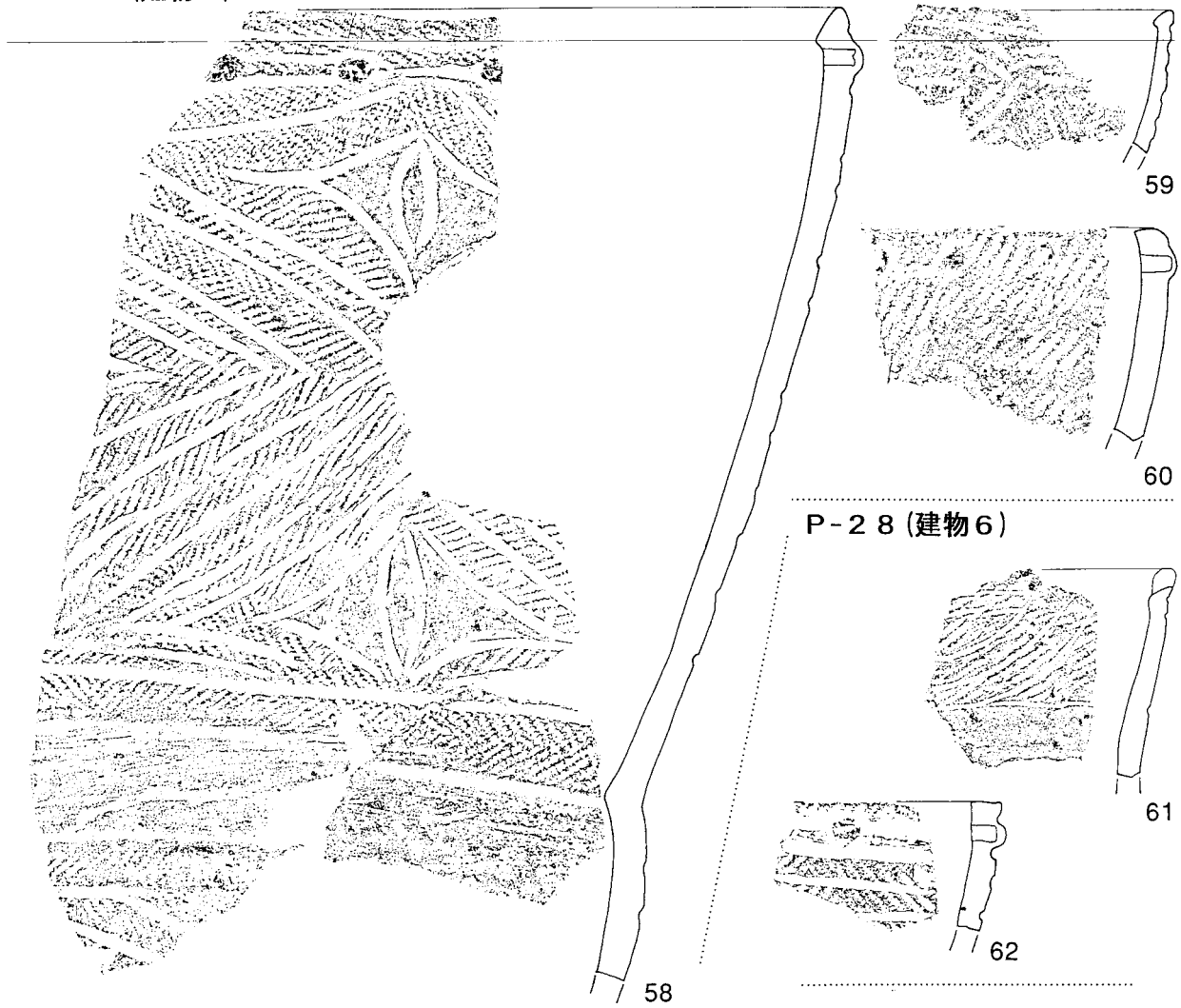
P-26 (建物5)



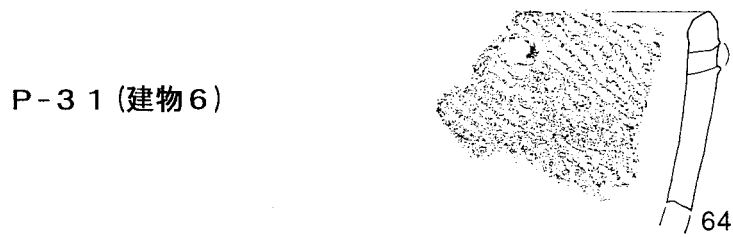
0 1 : 2 5cm

図259 遺構出土の遺物 (3) P-16~20、22、24、26、F-31

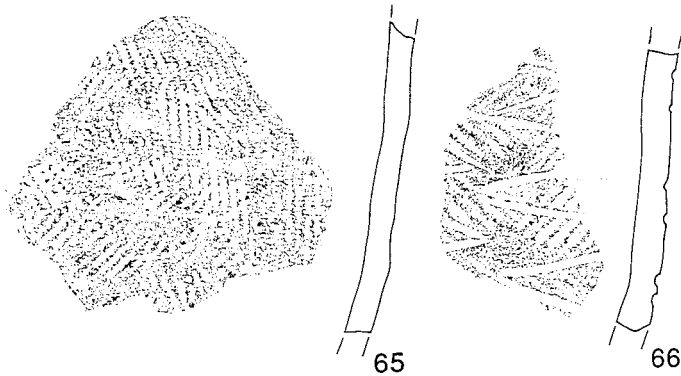
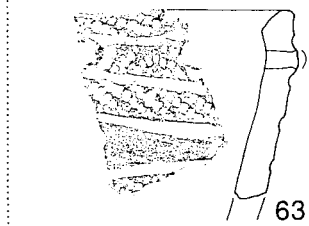
P-27 (建物6)



P-31 (建物6)

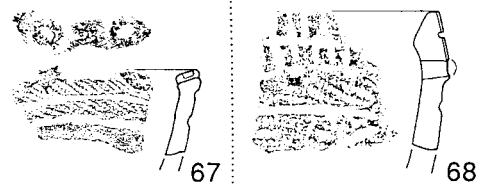


P-30 (建物6)



F-44 (建物6)

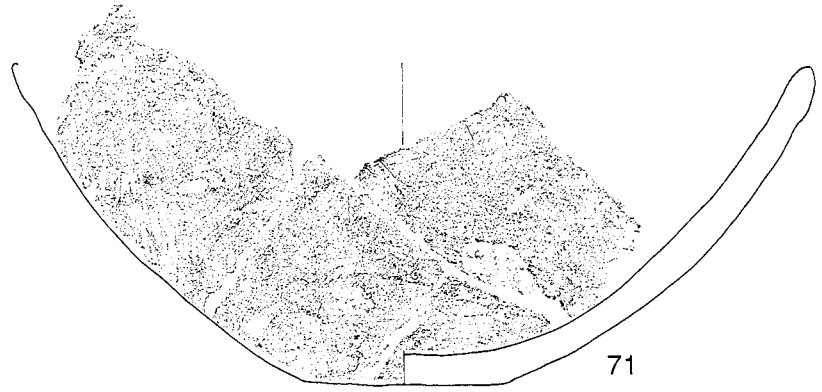
P-33 (建物7)



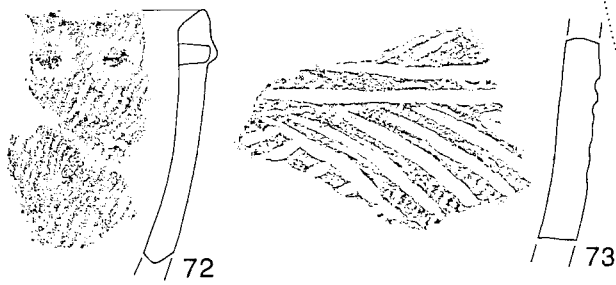
0 1:2 10cm

図260 遺構出土の遺物 (4) P-27、28、30、31、33、F-44

P-32 (建物7)

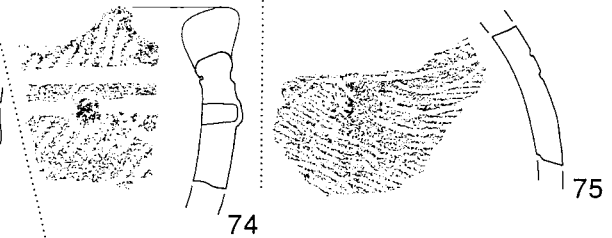


P-39 (建物8)



P-40 (建物8)

P-41 (建物8)



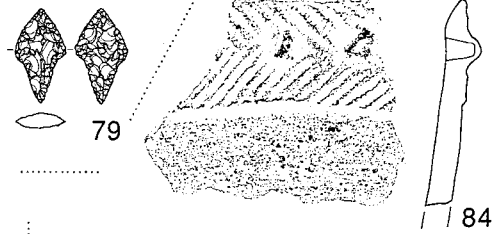
P-48 (建物9)



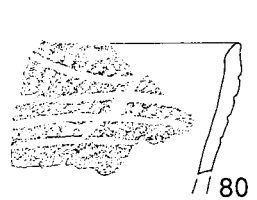
P-46 (建物9)



P-60 (建物12)



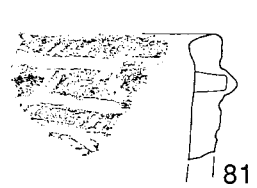
P-51 (建物10)



P-53 (建物10)



P-52 (建物10)



P-63 (建物13)

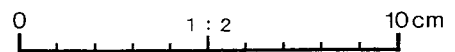
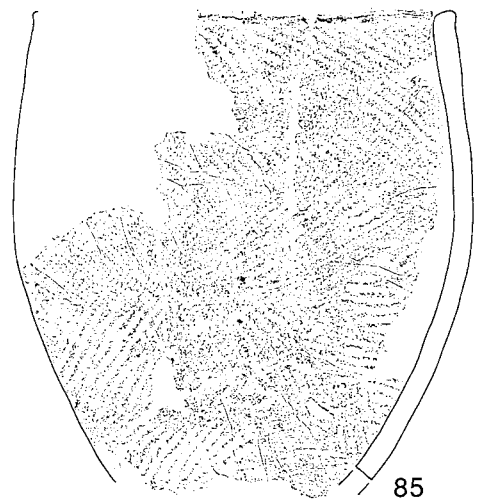
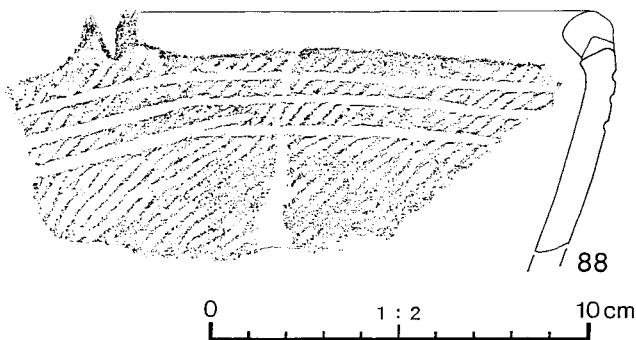
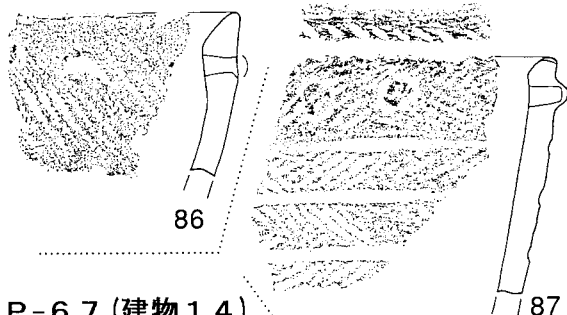


図261 遺構出土の遺物 (5) P-32、39~41、46、48、51~53、60、63

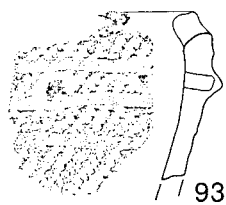
P-64 (建物13) P-65 (建物13)



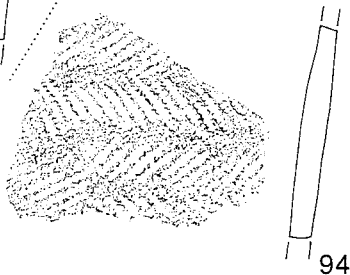
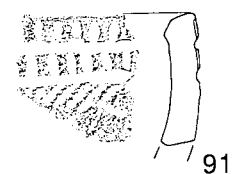
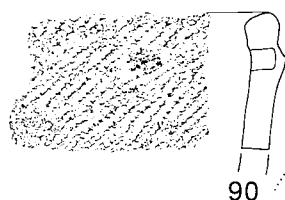
P-67 (建物14)



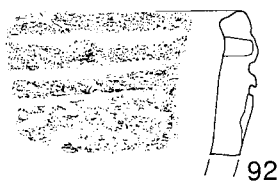
P-72 (建物15)



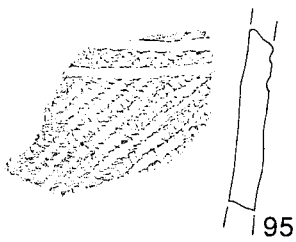
P-70 (建物15)



P-71 (建物15)



P-73 (建物15)



P-87 (建物19)

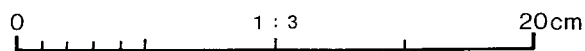
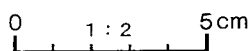
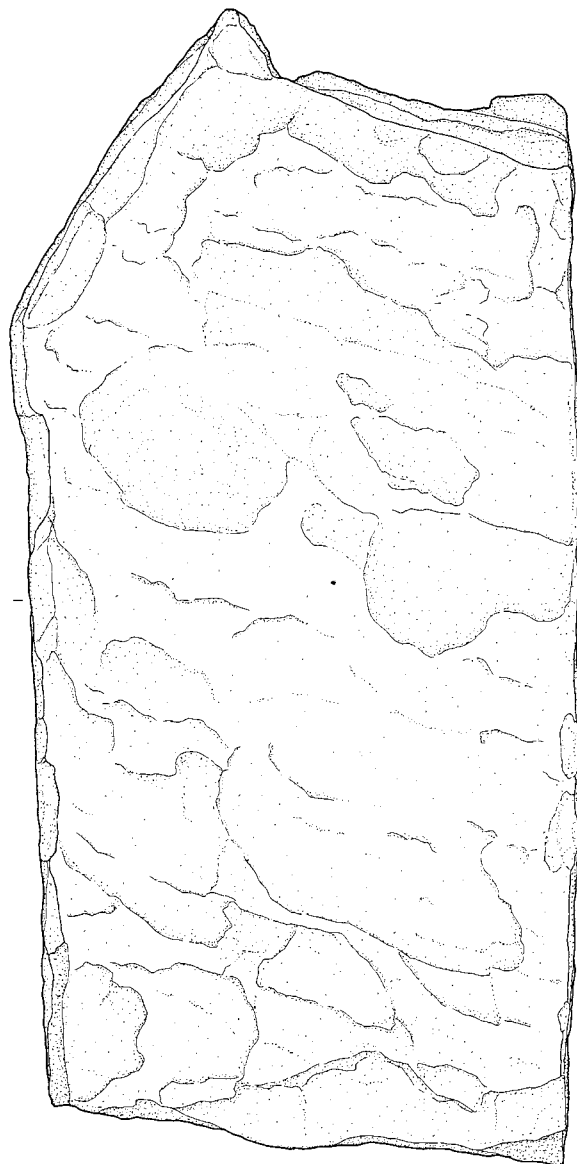
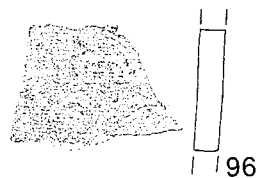
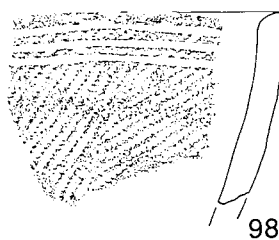


図262 遺構出土の遺物 (6) P-64、65、67、70~73、87

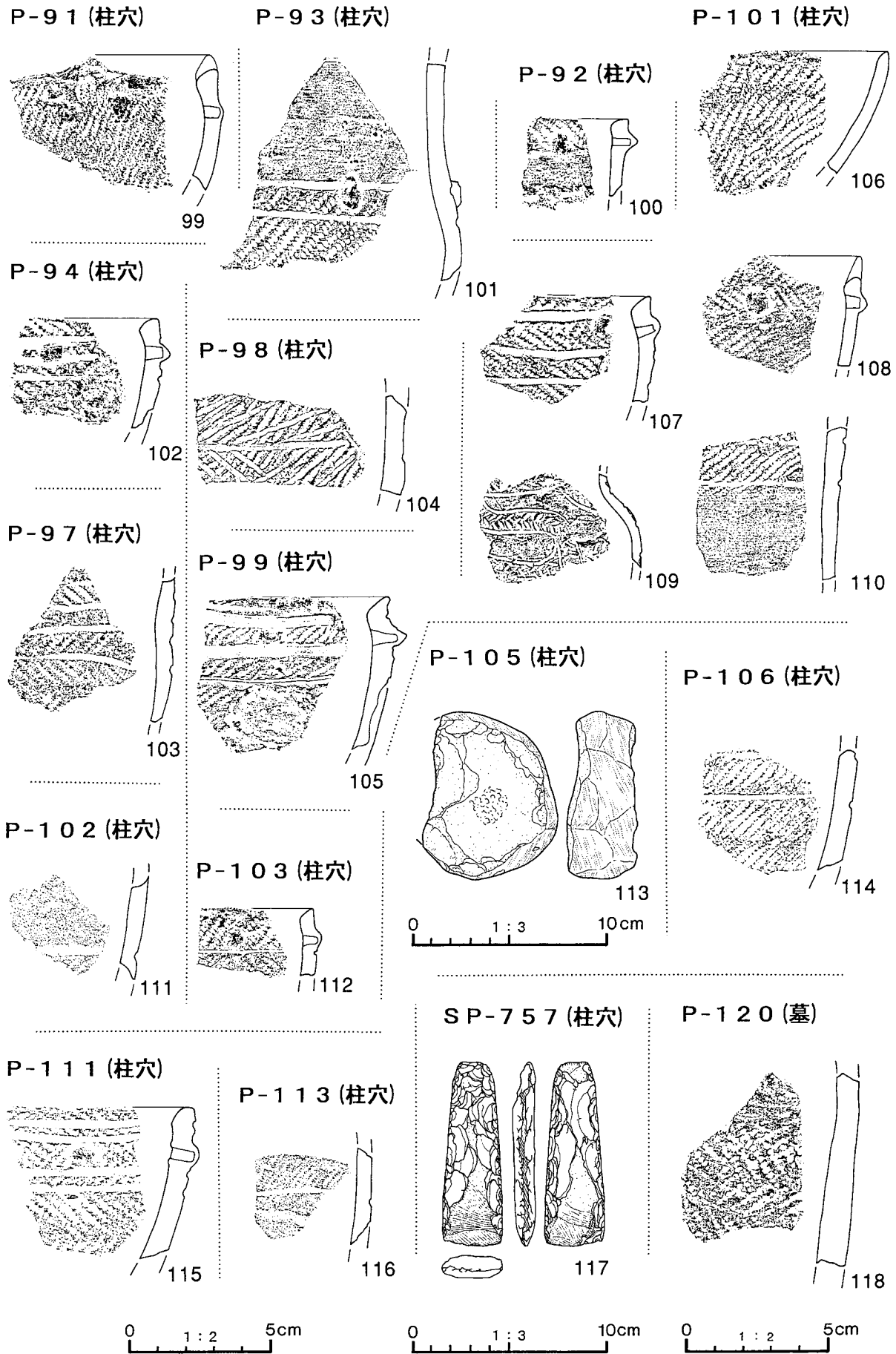
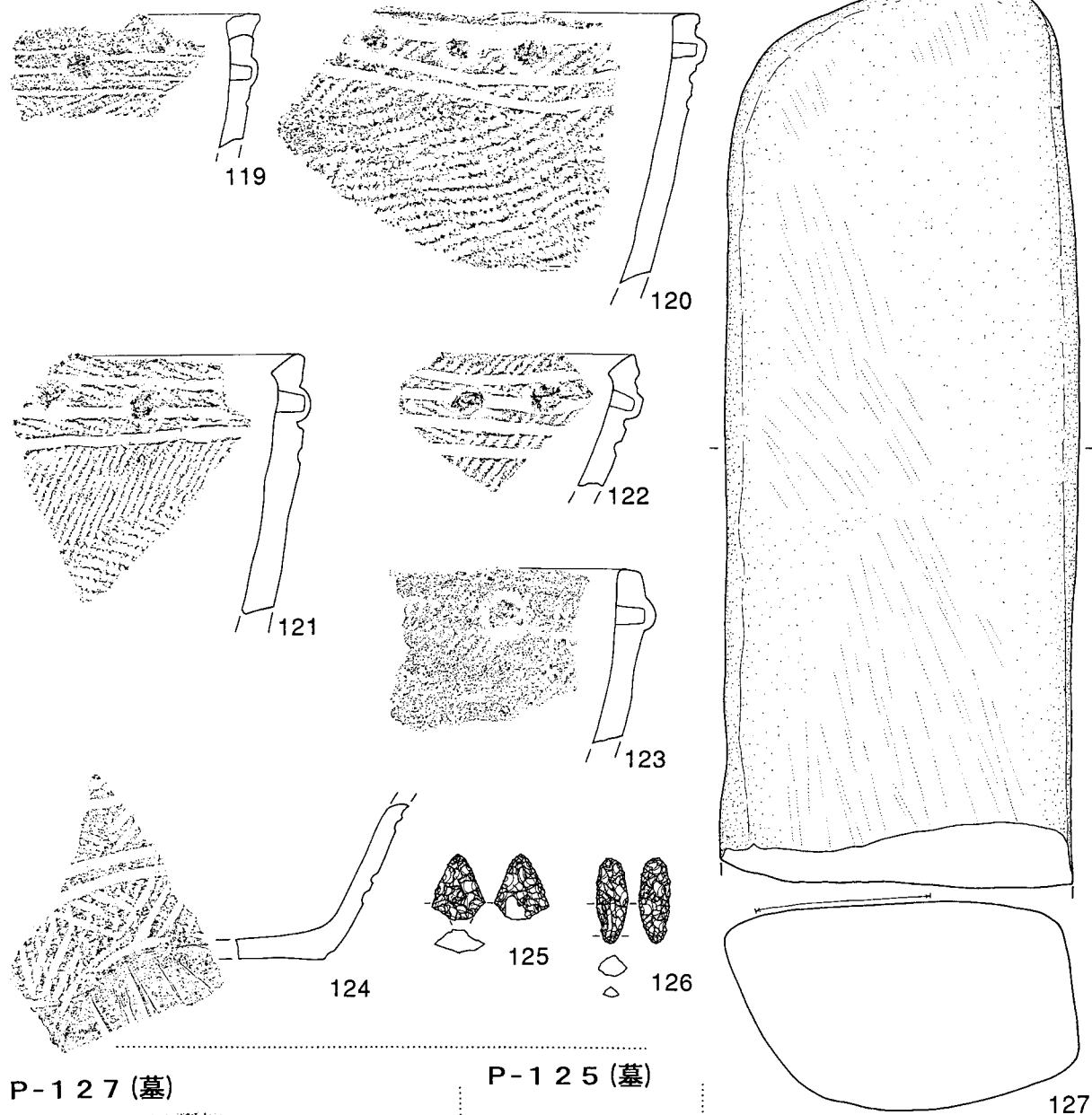
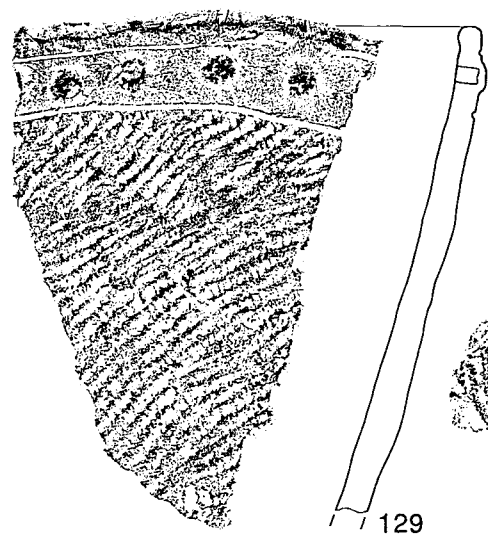


図263 遺構出土の遺物（7）P-91~94、97~99、101~103、105、106、111、113、120、SP-757

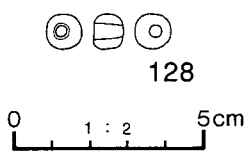
P-121 (墓)



P-127 (墓)



P-125 (墓)



P-128 (墓)

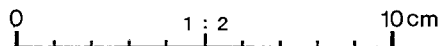
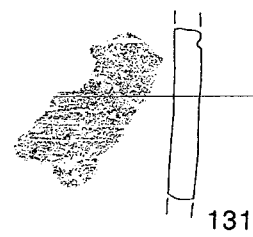
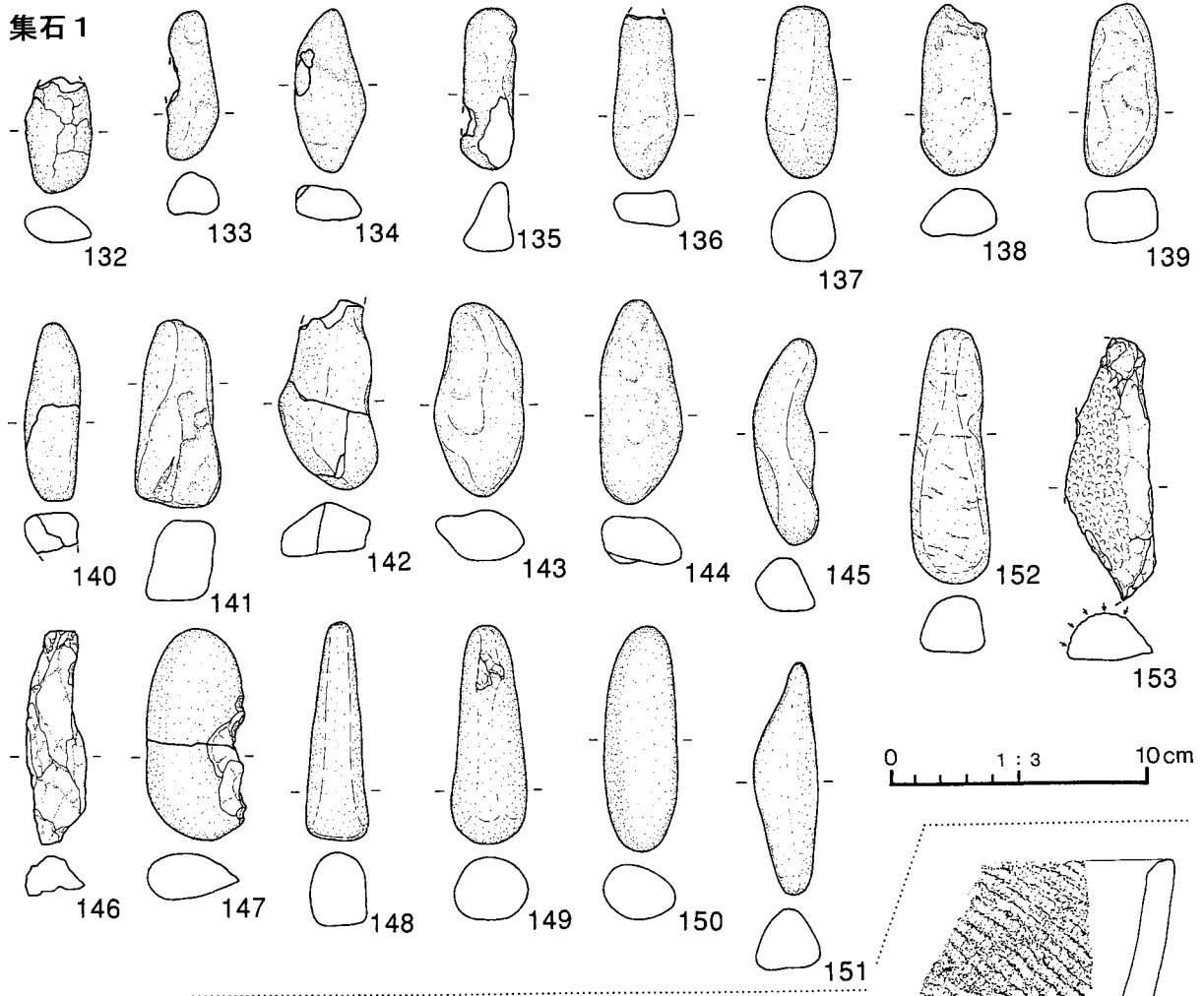
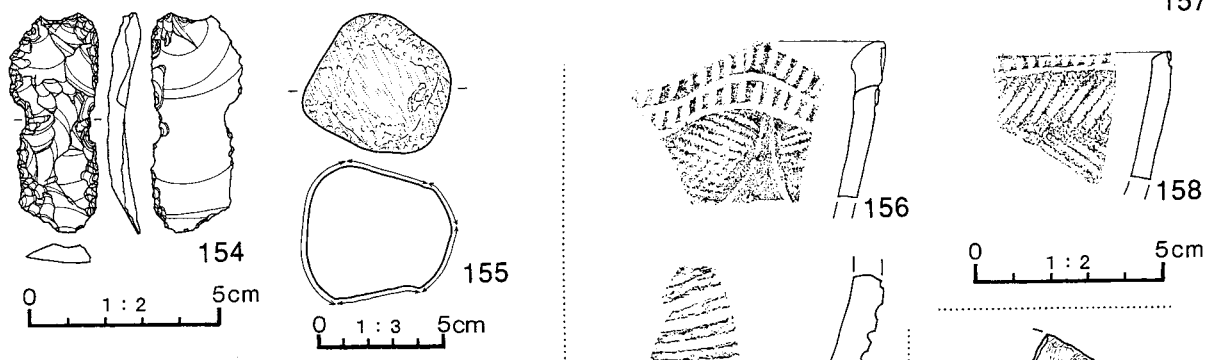


図264 遺構出土の遺物 (8) P-121、125、127、128

集石 1



フラスコ状ピット 掘り上げ土 P-129 (フラスコ状ピット)



P-130 (フラスコ状ピット)

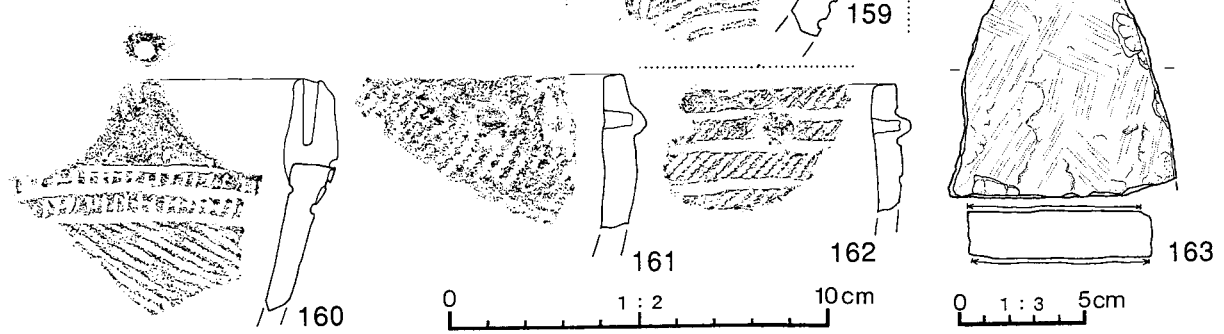


図265 遺構出土の遺物 (9) 集石 1、フラスコ状ピット掘り上げ土、P-129、130

P-131 (フラスコ状ピット)

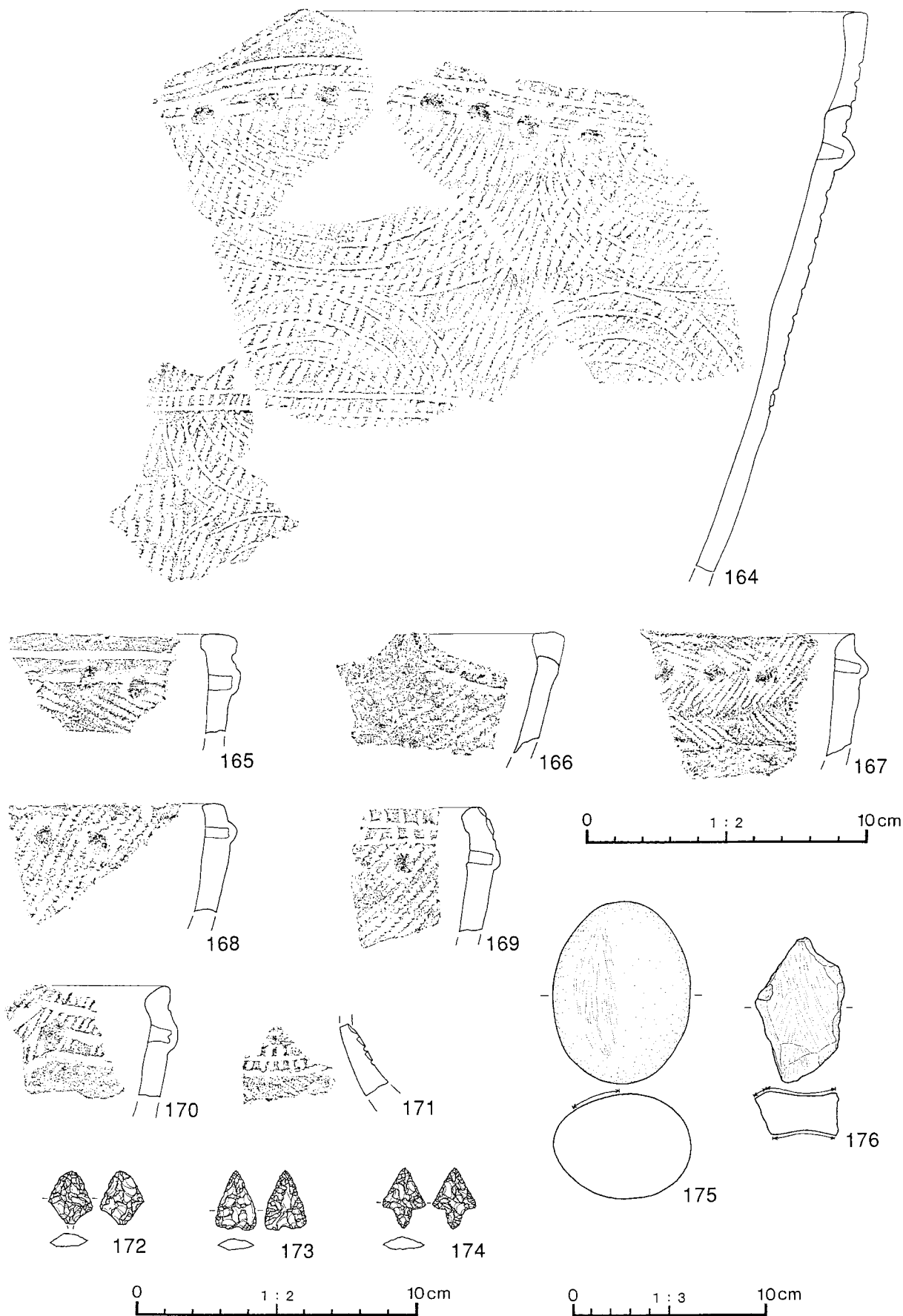


図266 遺構出土の遺物 (10) P-131

表44 遺構出土掲載石器一覧

遺構名	掲載No	層位	図No.	図版No.	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重さ(g)	石材
P - 26 (建物5)	57	覆土	図259	225	石鏃	2.2×1.7×0.4	0.97	黒曜石
P - 48 (建物9)	79	覆土	図261	226	石鏃	2.4×1.4×0.4	0.80	黒曜石
P - 73 (建物15)	97	覆土3	図262	227	台石	45.3×22.5×7.9	12100	砂岩
P - 105 (柱穴)	113	覆土	図263	227	すり石	8.9×(7.2)×3.8	343.1	泥岩
SP - 757	117	覆土	図263	227	石斧	9.8×3.2×1.2	50.10	泥岩
P - 121 (墓)	125	覆土	図264	228	石鏃	(1.9)×1.6×0.7	1.20	黒曜石
	126	覆土	図264	228	石鏃	2.5×0.9×0.7	1.30	黒曜石
	127	覆土	図264	228	砥石	39.9×15.7×9.1	9420.0	砂岩
P - 125 (墓)	128	墳底付近	図264	228	石製品(玉)	1.0×0.9×0.8	1.04	ヒスイ
集石1	132	盛土13層	図265	228	礫	(4.7)×2.7×1.5	8.91	凝灰岩
	133	盛土13層	図265	228	礫	5.9×(2.0)×1.6	14.55	凝灰岩
	134	盛土13層	図265	228	礫	6.5×2.8×1.4	14.71	凝灰岩
	135	盛土13層	図265	228	礫	6.5×2.0×2.8	48.56	砂岩
	136	盛土13層	図265	228	礫	(6.6)×2.6×1.4	19.50	凝灰岩
	137	盛土13層	図265	228	礫	6.9×2.9×2.8	83.36	砂岩
	138	盛土13層	図265	228	礫	6.9×3.0×1.9	58.00	泥岩
	139	盛土13層	図265	228	礫	7.0×2.9×2.2	35.86	凝灰岩
	140	盛土13層	図265	228	礫	7.1×2.1×1.6	43.18	泥岩
	141	盛土13層	図265	228	礫	7.5×3.4×3.2	99.79	泥岩
	142	盛土13層	図265	228	礫	(7.6)×3.6×2.1	39.83	凝灰岩
	143	盛土13層	図265	228	礫	7.7×3.5×2.1	39.79	凝灰岩
	144	盛土13層	図265	228	礫	8.2×3.3×1.9	32.30	凝灰岩
	145	盛土13層	図265	228	礫	8.3×2.4×2.1	38.62	凝灰岩
	146	盛土13層	図265	228	礫	8.5×(3.9)×1.9	78.20	凝灰岩
	147	盛土13層	図265	228	礫	8.5×2.3×1.5	31.17	凝灰岩
	148	盛土13層	図265	228	礫	8.7×2.5×2.9	84.65	砂岩
	149	盛土13層	図265	228	礫	8.8×3.0×2.5	99.18	砂岩
	150	盛土13層	図265	228	礫	9.0×2.9×2.2	76.73	砂岩
	151	盛土13層	図265	228	礫	9.3×2.6×2.5	25.34	凝灰岩
152	盛土13層	図265	228	礫	10.2×3.2×2.3	82.59	不明	
153	盛土13層	図265	228	礫	(10.5)×(3.4)×1.9	87.83	泥岩	
フラスコ状ピット	154	掘り上げ	図265	229	スクレイパー	5.8×2.3×0.9	8.03	黒曜石
	155	掘り上げ	図265	229	すり石	5.5×5.8×5.2	276.9	泥岩
P - 130	163	覆土	図265	229	砥石	11.5×9.0×2.0	296.2	砂岩
P - 131	172	覆土	図266	229	石鏃	(1.9)×1.6×0.5	1.12	黒曜石
	173	覆土	図266	229	石鏃	2.1×1.5×0.4	0.85	黒曜石
	174	覆土	図266	229	石鏃	2.1×1.5×0.5	0.86	黒曜石
	175	覆土	図266	229	すり石	9.6×7.3×5.6	627.8	片麻岩
	176	覆土	図266	229	砥石	7.7×4.7×2.6	79.34	砂岩

Ⅲ 後期前葉の遺構と遺物

概要

後期前葉とした遺構は、出土遺物が後期前葉が主体であることから判断した。比較的浅い土壌と、断面形が皿状になる竪穴遺構の2つが存在する。埋土は暗褐色土主体のものが多い。土壌の多くは用途が不明で、わずかに墓壇の可能性を想定しうるものがある。竪穴遺構としたものは、竪穴式住居の竪穴部分を構成すると思われる、浅い掘り込みである。柱穴を検出できなかったこと、炉跡となりうる焼土も、1基をのぞき検出していないことから、住居という呼称をさけた。(石井淳平)

表45 後期前葉の遺構一覧

遺構番号	旧番号	分類	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深さ
P - 132	P - 74	土坑	0.89	0.76	0.83	0.74	0.73
P - 133	P - 78	土坑	1.34	1.18	0.98	0.73	0.30
P - 134	P - 1166	土坑	0.95	0.78	0.30	0.30	1.45
P - 135	P - 1165	土坑	2.67	1.50	2.38	1.19	0.35
P - 136	P - 1159	竪穴遺構	8.25	3.65	3.50	2.32	0.44
P - 137	P - 1160	竪穴遺構	8.25	3.55	2.99	2.87	0.29
P - 138	P - 1161	竪穴遺構	5.30	3.58	4.32	2.77	0.39
P - 139	P - 1162	竪穴遺構	6.15	3.48	5.19	2.75	0.27
P - 140	P - 1175	竪穴遺構	6.74	5.32	6.15	4.29	0.44
P - 141	P - 1200	竪穴遺構	3.73	2.58	2.92	2.04	0.29

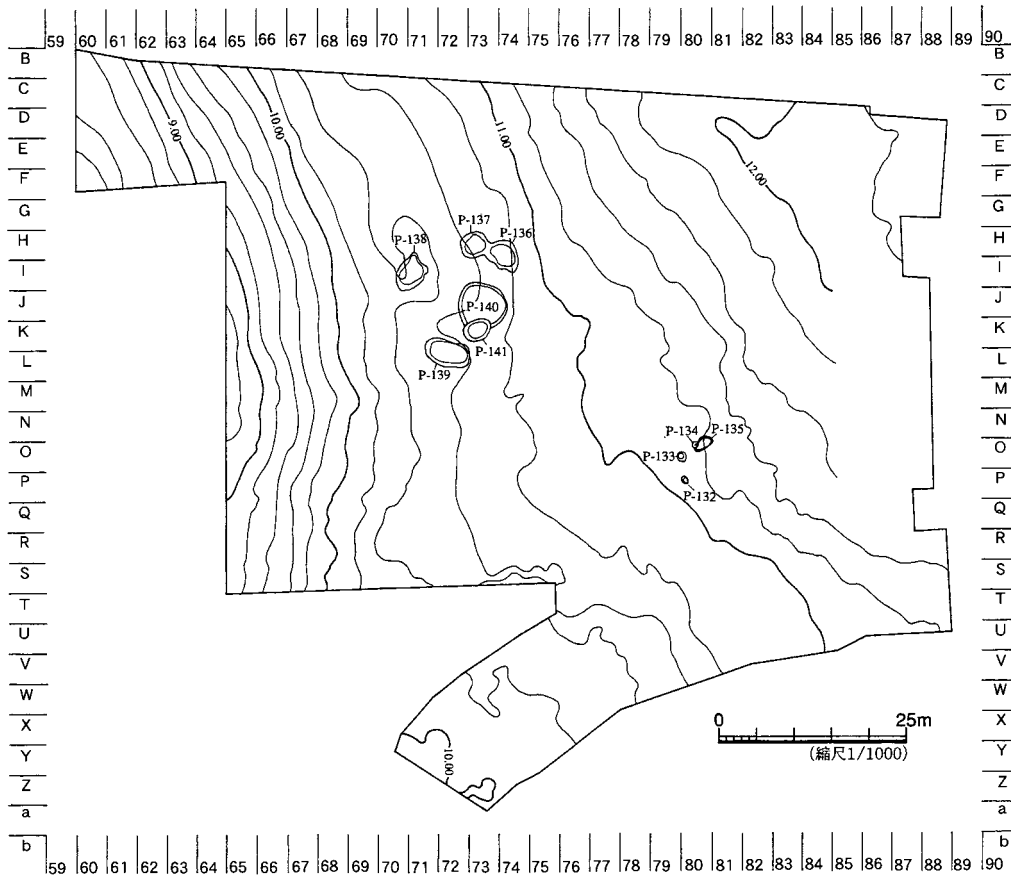


図267 後期前葉の遺構配置図

1 土壌

概要

グリッド O81を中心に4基の土壌を検出した。比較的浅いものが多い。周辺では焼土を伴うIV群 a 類の一括土器が出土しており、後期前葉に人間が活動した痕跡がある。周辺には他にも土壌が存在し、これらも後期前葉の可能性が高いと考えたが、出土遺物や遺構の形状からは、積極的に後期前葉に位置づけることはできなかった。(石井淳平)

P - 132

平面形は南北方向がやや長い楕円形で、壙底はやや丸みをもつ。北西側がオーバーハングする。埋土は En - a パミスを多く含む褐色土が主体で、埋め戻されている可能性が高い。遺構の性格として最も可能性が高いのは、墓壙であると考え。(石井淳平)

P - 133

平面形は楕円形で、壙底は丸みをもつ。開き気味に立ち上がる。埋土は En - a パミスを少量含む均質な暗褐色土で自然堆積によるものと考え。(石井淳平)

P - 134

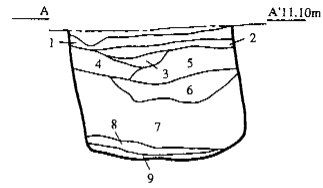
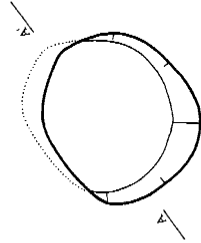
平面形は円形で、壙底はほぼ平らである。開き気味に立ち上がる。P - 135と切り合うが、P - 135の調査中に P - 134の存在に気づいたため、先後関係は不明である。埋土は En - a パミスを少量含む均質な暗褐色土で自然堆積によるものと考え。(石井淳平)

P - 135

概要

平面形は不整形な楕円形で、壙底はやや丸みをもつ。立ち上がりは明瞭ではない。後述する竪穴遺構と類似するが、規模が小さいこと、検出位置が竪穴遺構から離れていることから土壌に含めた。埋土は En - a パミスを少量含む均質な暗褐色土で自然堆積によるものと考え。(石井淳平)

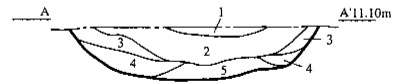
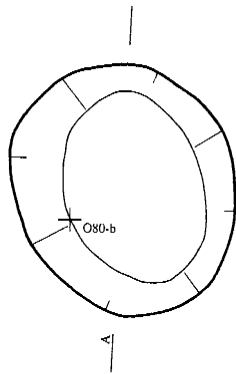
P-132 TP80



P132の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR1.7/1	黒色土		En-aバミスを少量含む	
2	7.5YR4/4	褐色土		En-aバミスを少量含む	
3	7.5YR4/4	褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
4	7.5YR2/2	黒褐色土			
5	7.5YR4/4	褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
6	7.5YR5/8	明褐色土			
7	7.5YR5/6	明褐色土		黒色土の小ブロックを少量含む	
8	7.5YR2/1	黒色土			
9	7.5YR6/6	褐色土	ハード		

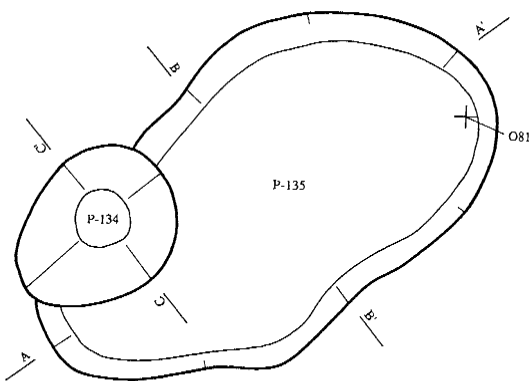
P-133



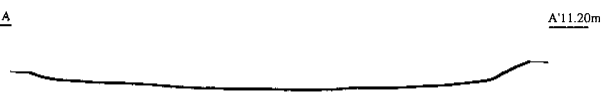
P133の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/2	黒褐色土			
2	10YR1.7/1	黒色土			
3	7.5YR2/1	黒色土			
4	7.5YR3/2	黒褐色土			
5	7.5YR4/4	褐色土			

P-134,135



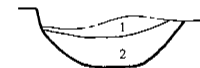
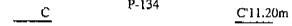
P-135



P-135



P-134



P134の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/3	暗褐色土		En-aバミスを少量含む	
2	10YR3/4	暗褐色土		En-aバミスを少量含む、焼土粒を極少量含む	



図268 土層

2 竪穴遺構

概要

G72～L74の範囲で6カ所の浅いくぼみを検出した。底面と埋土の境界が明瞭で、土層の変化が漸移的でないことから、人為的な掘り込みであると判断した。遺構の性格は規模や平面形からは竪穴式住居の可能性が高いと考えたが、床面が平坦ではなく断面が浅い皿状になることや、壁面が明瞭ではないことから、住居と断定できず「竪穴遺構」と呼称した。竪穴遺構のうち、P - 140は床面に土器をともなう焼土をもつ。これらの土器は後期前葉のタブコブ式土器で、P - 140で検出した焼土は、後期前葉の住居に検出例の多い、土器囲い炉であると判断した。したがってP - 140は竪穴式住居と判断してさしつかえないと考える。他の竪穴遺構も住居である可能性が高いが、炉跡や柱穴を検出できなかった。また、P - 140以外には、床面から時期のわかる遺物は出土していないが、規模や平面形がP - 140と類似していることから、同じ時期の遺構であると判断した。

竪穴遺構の中には埋土中に厚さ20cmを越える焼土が形成されているものがある。放置された竪穴遺構が埋没していく過程で、そのくぼみを利用して火を焚いていたもので、竪穴遺構との直接の関わりはないと判断した。
(石井淳平)

P - 136

概要

平面形は楕円形で、断面形は浅い皿状である。壙底は平坦ではなく、丸みをもつ。立ち上がりは明確ではなく、壁もはっきりしない。覆土中にF - 1213があり、この焼土を調査する過程でP - 136の存在に気づいた。出土遺物は埋土中に含まれており、床面で検出したものはない。炉跡、柱穴は検出していない。P - 137と重複しているが、切り合い関係は不明である。

F - 1213はP - 136のほぼ全面に広がり、厚みは最大で20cmを越える。2層に分層したが、これは被熱する以前の土層を反映するもので、被熱の回数を示すものではない。色調にむら無く、上層から下層に向けて赤褐色から暗褐色に徐々に変化している。一回又はごく少ない回数の焼成によって形成されたことを示していると考える。
(石井淳平)

P - 137

概要

平面形は円形もしくは角が丸い方形で、断面形は浅い皿状である。壙底は平坦ではなく丸みをもつ。立ち上がりは明確ではなく、壁もはっきりしない。炉跡、柱穴は検出していない。P - 136と重複しているが、切り合い関係は不明である。
(石井淳平)

P - 138

概要

平面形は不整形な楕円形で、断面形は浅い皿状である。壙底は平坦ではなく、丸みをもつ。立ち上がりは明確ではなく、壁もはっきりしない。炉跡、柱穴は検出していない。

埋土中でF - 1215を検出した。P - 138の南側半分に広がり、東側は耕作による攪乱で削平されている。厚みは最大で20cmを越える。2層に分層したが、被熱の回数を示すものではない。色調にむらが少なく、一回又はごく少ない回数の焼成によって形成されたことを示していると考える。

(石井淳平)

P - 139

概要

平面形は楕円形で、断面形は浅い皿状である。壙底は平坦ではなく、丸みをもつ。立ち上がりは明確ではなく、壁もはっきりしない。壙底の東西に緩い段差が存在する。炉跡、柱穴は検出していない。

埋土中でF - 1215を検出した。P - 139の南側を中心にほぼ全域に広がる。厚みは最大で20cmを越える。3層に分層したが、漸移的に変化しており、被熱の回数を示すものではない。色調にむらがなく、一回又はごく少ない回数の焼成によって形成されたことを示していると考える。

(石井淳平)

P - 140

概要

平面形は楕円形で、断面形は浅い皿状である。壙底は平坦ではなく、丸みをもつ。立ち上がりは明確ではなく、壁もはっきりしない。規模は6つ検出した竪穴遺構の中で最も大きい。P - 141に切られる。

F - 2132はP - 140が埋没する過程で形成された焼土である。他の竪穴遺構の埋土中で検出した焼土と比較し、規模が小さい。

F - 2228はP - 140の床面に形成された焼土で、P - 140に帰属する炉跡である。外周をタブコブ式土器の破片がめぐる土器囲い炉である。土器は被熱しており、非常にもろい。焼土の外周全てを土器が囲むのではなく、部分的に破片が埋設されている。住居を放棄する際に土器をある程度処分した可能性もあるが、断面では土器片を抜き取った痕跡は確認できない。

(石井淳平)

P - 141

概要

平面形は楕円形で、断面形は浅い皿状である。壙底は平坦ではなく、丸みをもつ。立ち上がりは明確ではなく、壁もはっきりしない。炉跡、柱穴は検出していない。P - 140を切る。

(石井淳平)

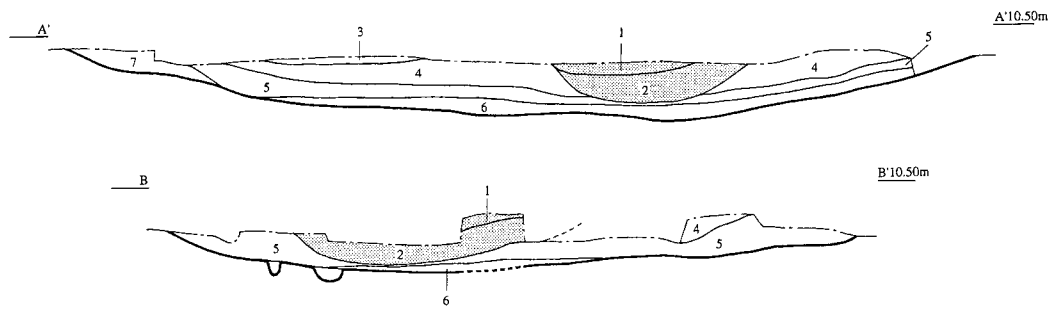
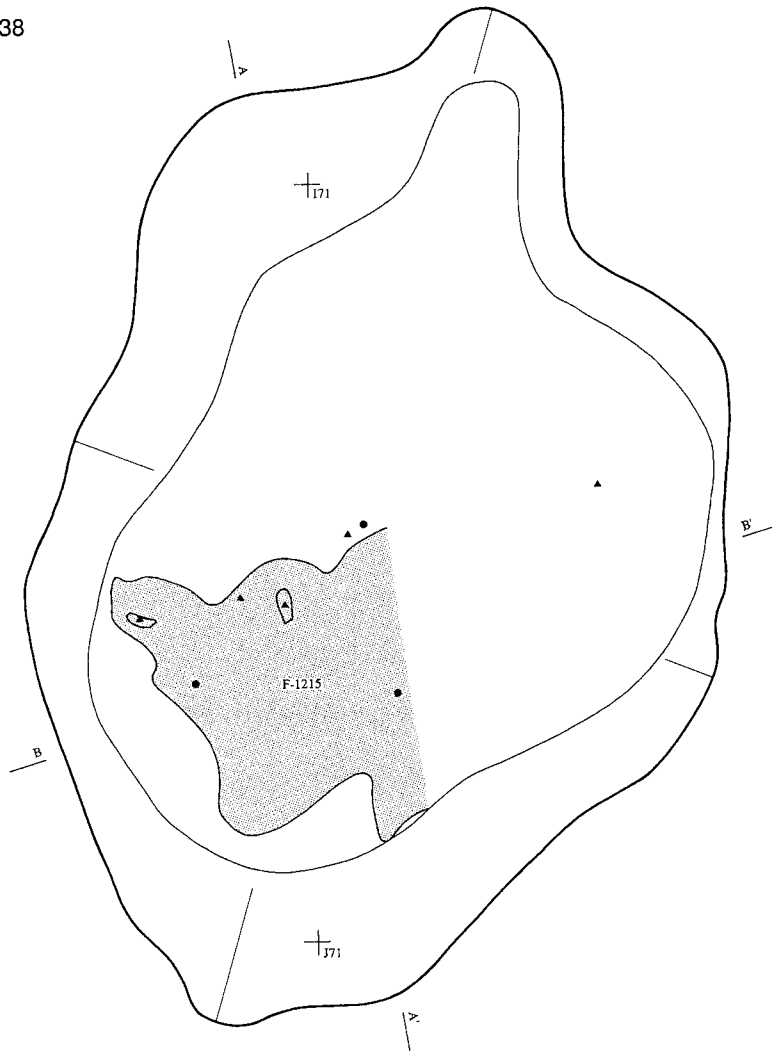
P136、137の土層

遺構番号	層号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
P-137	1	10YR2/1 黒色土			En-aミスを多く含む	
P-137	2	10YR3/2 黒褐色土			En-aミスをやや多く含む	
P-137	3	10YR3/2.5 黒褐色土	暗褐色土		En-aミスをやや多く含む	
P-136	4	10YR2/1 黒褐色土			En-aミスを多く含む	
F-1213	5	5YR4/4 じざい赤褐色土			凝結赤褐色土層	
F-1213	6	5YR3/2 暗赤褐色土			凝結したEn-aミスを多く含む	
P-136	7	10YR3/1 黒褐色土			En-aミスをやや多く含む	
P-136	8	10YR3/2 黒褐色土			En-aミスをやや多く含む	
P-136	9	10YR3/3 暗褐色土			En-aミスを主体で暗褐色土を多く含む	6と同一の層だが熱を受けていない
P-136	10	10YR4/3 に近い赤褐色土			En-aローマ主体	



図269 竪穴遺構 (1)

P-138



P138の土層

遺構番号	層号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
F-1215	1	5YR3/2	暗赤褐色土		焼土主体で、黒褐色土をやや多く含む	
F-1215	2	5YR4/4	におい赤褐色土		焼土主体で、En-aバミスを少量含む	
P-138	3	10YR2/2	黒褐色土		灰土をやや多く含む	
P-138	4	10YR4/2	灰黄褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
P-138	5	10YR2/1	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
P-138	6	10YR3/2	黒褐色土		En-aバミスを多く含む	
P-138	7	10YR3/2	黒褐色土		En-aバミスを多量に含む	

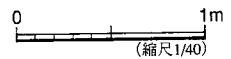
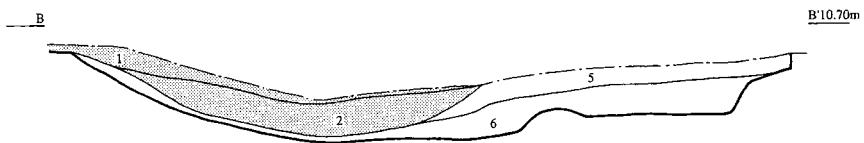
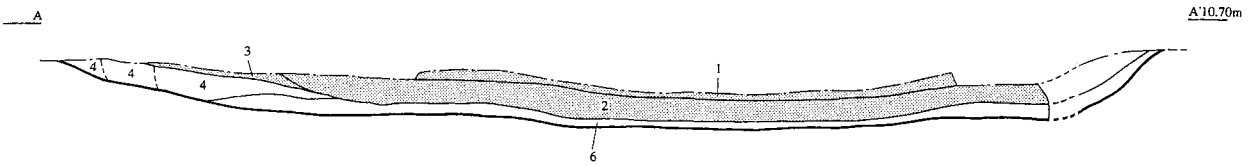
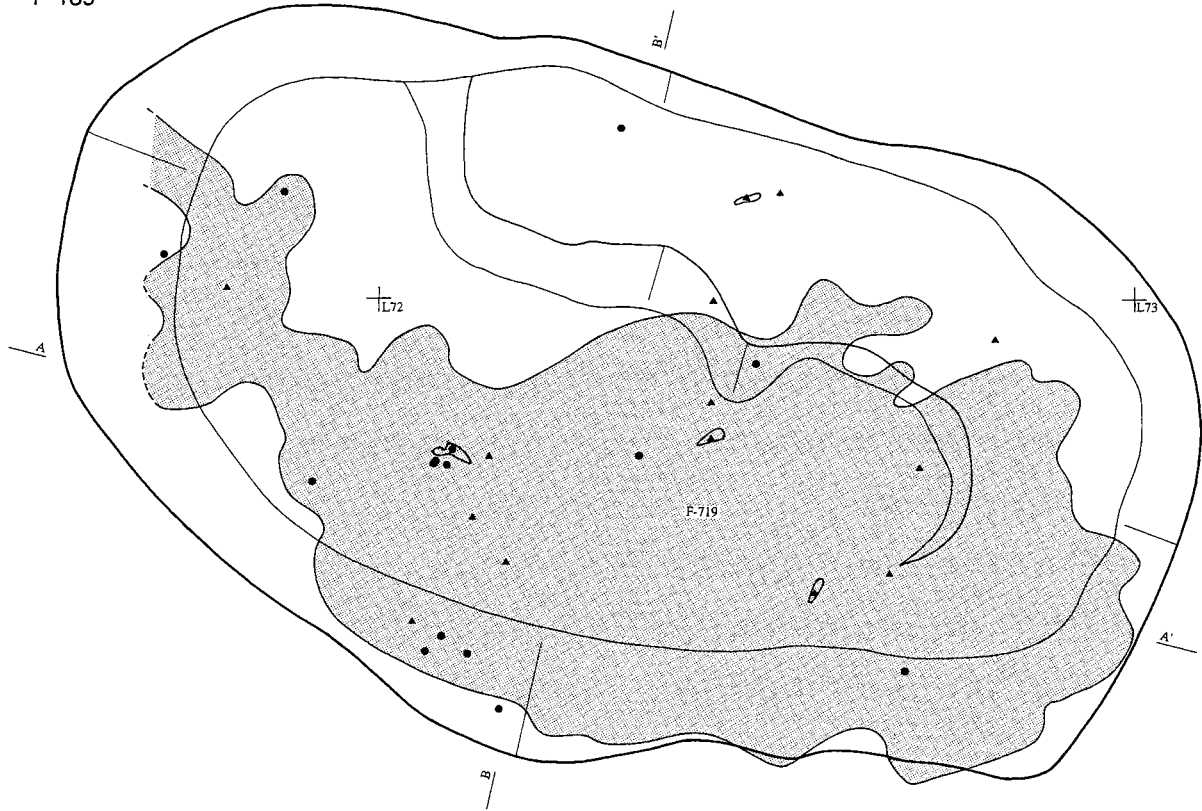


図270 竪穴遺構(2)

P-139



P139の土層

遺構番号	層番号	土色 1	土色 2	しまり	混入物、その他	備考
F-719	1	10YR2/3	黒褐色土		粘質	
F-719	2	5YR4/4	にぶい赤褐色土		En-a/バミスを少量含む	
F-719	3	7.5YR2/3	極暗褐色土			
P-139	4	10YR4/3	にぶい黄褐色土		粘質 En-a/バミスをやや多く含む	
P-139	5	7.5YR1.7/1	黒色土		粘質 En-a/バミスを多量に含む	
P-139	6	10YR1.7/1	黒色土		粘質 En-a/バミスを多量に含む	

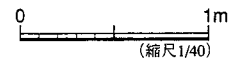


図271 竪穴遺構 (3)

P-140,141

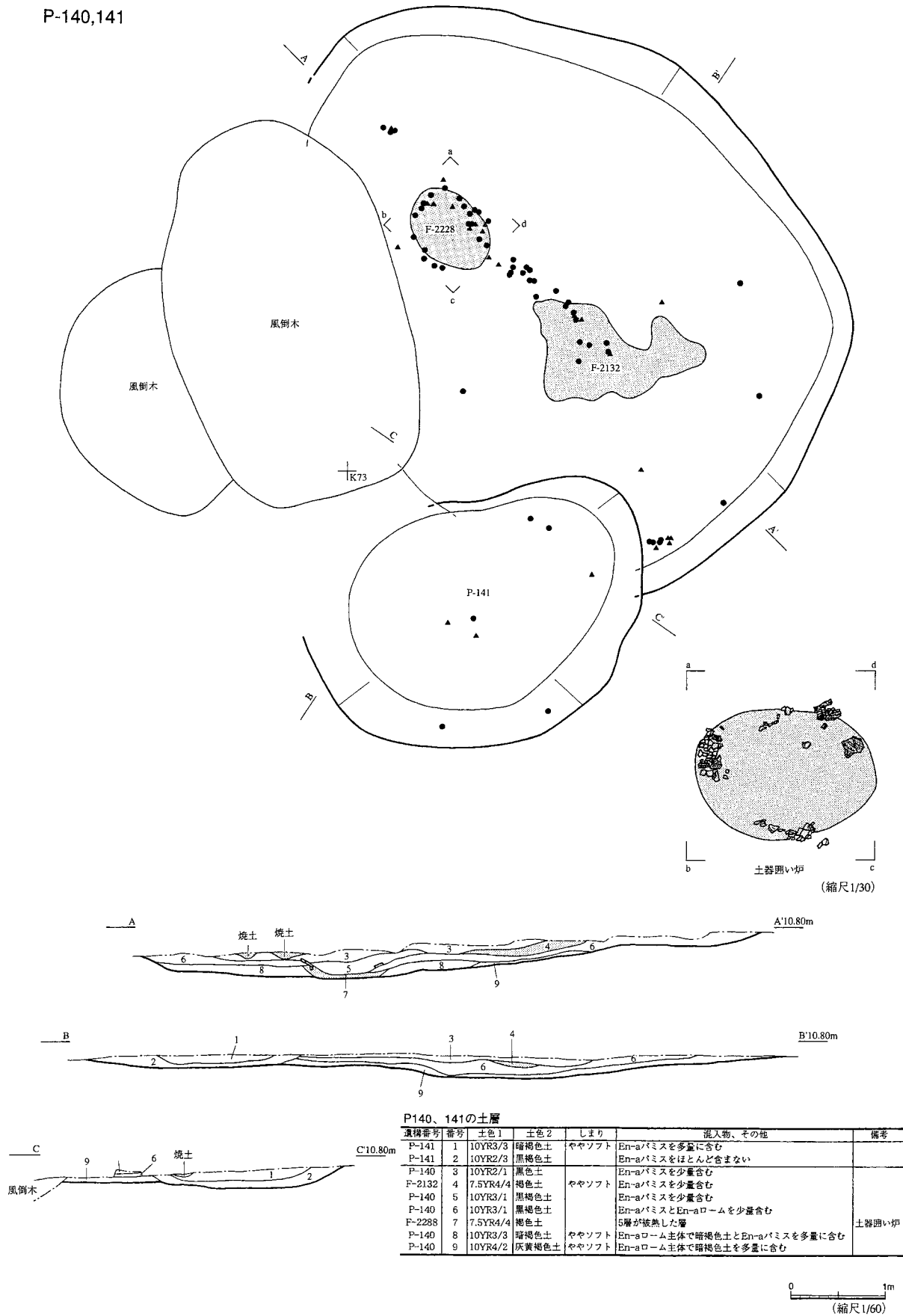


図272 竪穴遺構(4)

3 遺構出土の遺物 (図273・図274、図版230・231)

P - 132

1は深鉢の胴部片。器面にはLRの縄文が施される。胎土には多量の砂粒を含む。2はヤスリツノガイの一種、ヨコヤマツノガイ (*Fissidentalium Yokoyamai*) の殻頂部の化石である (北海道開拓記念館赤松守雄氏の鑑定による)。この種類のヤスリツノガイの化石は、2000万～500万年前の新生代新第三紀の地層から産出しており、現在でも本州～九州にかけて生息している。褐色のざらざらした縦肋のある殻表は剥がれ落ち、なめらかで光沢のある貝の内側の形だけが残っている。外殻は自然に剥がれ落ちたと考えられるが、縄文人が意図的に加工して剥がした可能性も考えられる。内部は空洞で、透明な鉱物に石化している。23は1995年の千歳市美々4遺跡の調査での類例である。縄文時代後期堂林期に相当する包含層から出土している。内部は石化して詰まっており、空洞部分はない。表面はやはりなめらかになっているが、殻表の縦肋が磨耗しきれずに若干残っている部分を確認できる。いずれにしても、ヤスリツノガイはもともと5～6cm以上はある種類で、2例とも意図的に先端部分のみを切り取って使用していたと考えられる。道内でのヨコヤマツノガイの化石の産出地は厚田村の望来海岸のみであることから、2点とも望来海岸産の化石の可能性が高く、縄文時代後期の人々の行動ルートのひとつとして、望来 - キウス・美々ルートが考えられる。

P - 133

3は口縁部片で、口唇にもRLの縄文が施される。口縁には縦長の刺突文が施される。胎土には砂粒を多量に含む。4は小形の無文土器で、口唇断面は尖る。胎土に砂粒はあまり含まれないが、その作りから後期前葉の破片と考えている。

P - 134

5の器面と口唇にはRLの縄文が施される。胎土には砂粒を多量に含み、口縁部には縦長の刺突文が施される。

P - 136

6は胴部片。器面は著しく剥離している。7は安山岩製の石皿。皿状にくぼむ使用面に、数本の溝も認められる。

P - 139

8は胴上部片で、刺突文が施される。9は胴部片。いずれの胎土にも砂粒が多く含まれる。なお、8、9は別個体である。

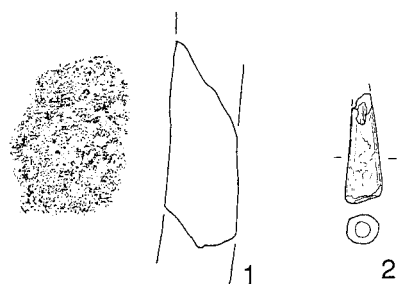
P - 140

この遺構からは、土器囲い炉が検出されたが、そこで利用された土器片は、被熱のため細かく割れた状態のものがほとんどであった。10、11は同一個体で、10は被熱している。口縁部には刺突文が施される、胎土には砂粒を多量に含む。12～14も同一個体片で12、13は口縁部片、14は胴部片である。15、16は黒曜石製の石槍。17～22は黒曜石製の有茎の石鏃。いずれも茎部と基部の区別が明瞭でない。これらの石器はすべて、その出土状況から、後期前葉のものと考えている。

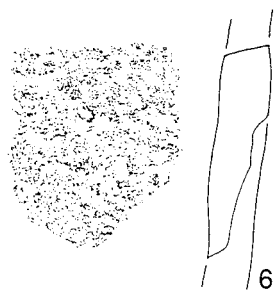
(土肥 研晶 新家 水奈)

遺構出土の遺物

P-132 (タプロブ)



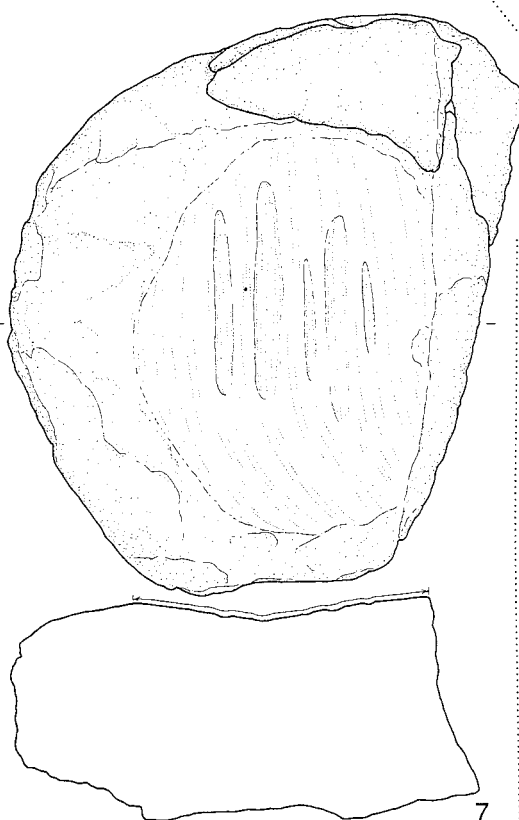
P-136 (竪穴)



P-134 (タプロブ)



P-133 (タプロブ)



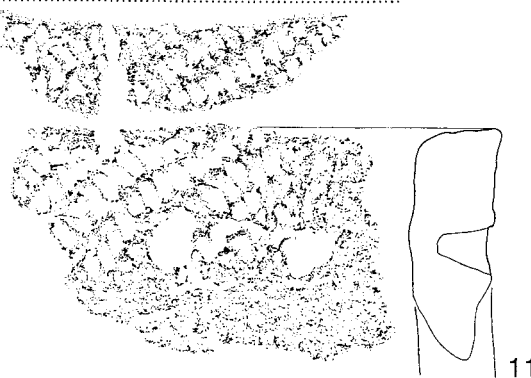
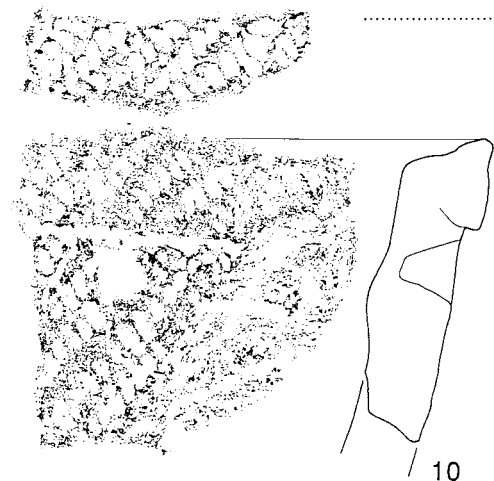
P-139 (竪穴)



0 1:2 5cm

P-140 (竪穴)

0 1:3 20cm



0 1:2 10cm

図273 遺構出土の遺物 (1)

P-140 (竖穴)

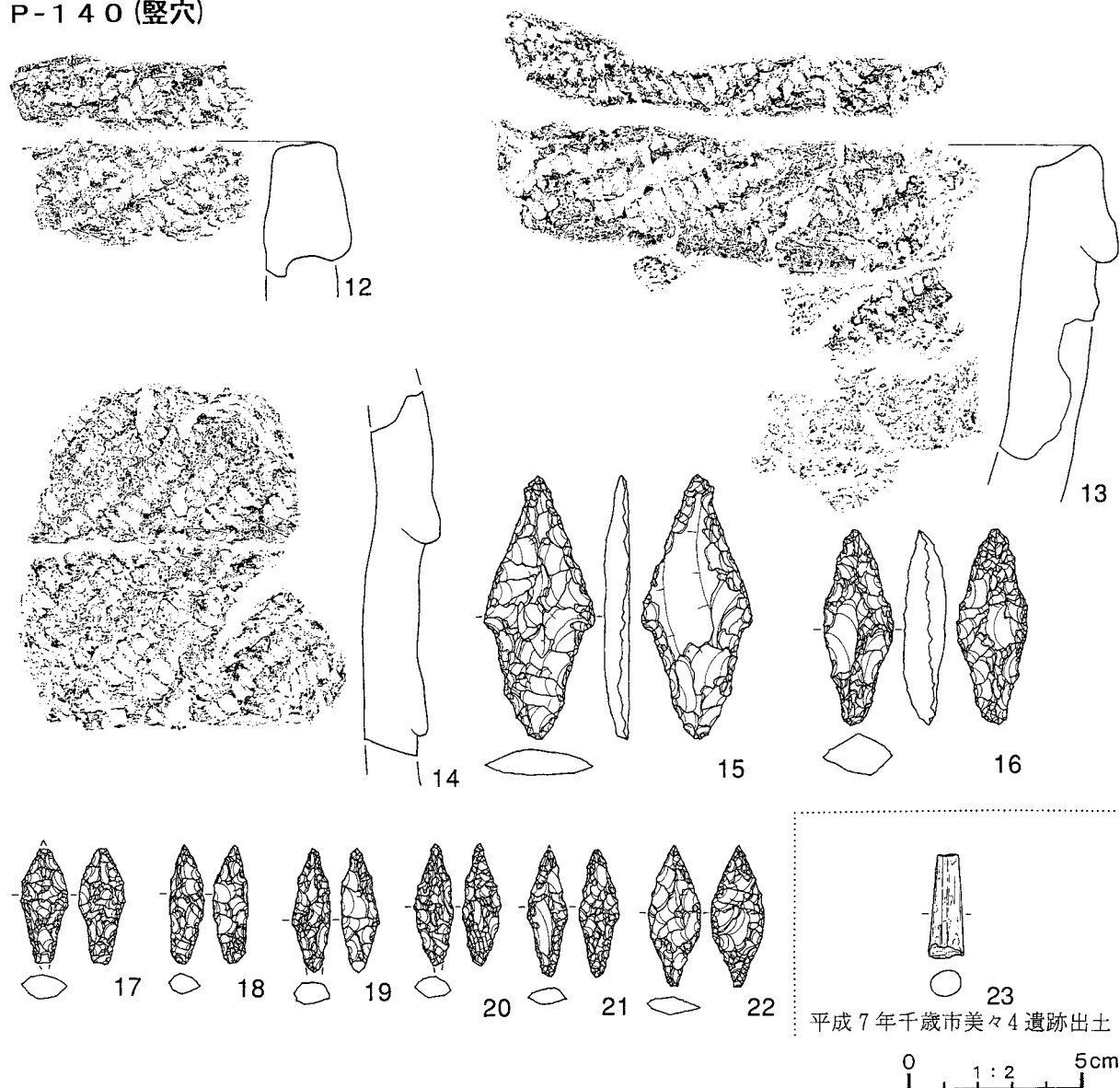


図274 遺構出土の遺物(2)

表46 遺構出土掲載石器一覧

遺構名	掲載No	層位	図No	図版No	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石材	
P-132(タブコブ)	2	覆土	図273	230	石製品	(2.9)×1.1×0.8	1.24		
P-136(竖穴)	7	覆土2	図273	230	石皿	(22.7)×(20.4)×(11.1)	3860.0	安山岩	
P-140(竖穴)	15	覆土2	図274	230	石槍またはナイフ	7.5×3.2×0.7	14.80	黒曜石	
	16	覆土2	図274	231	石槍またはナイフ	5.5×2.0×1.2	10.45	黒曜石	
	17	覆土2	図274	231	石鏃	(3.3)×1.3×0.7	2.56	黒曜石	
	18	覆土2	図274	231	石鏃	3.4×1.0×0.6	1.72	黒曜石	
	19	覆土2	図274	231	石鏃	(3.5)×1.1×0.6	1.90	黒曜石	
	20	覆土2	図274	231	石鏃	(3.5)×1.1×0.6	1.79	黒曜石	
	21	覆土2	図274	231	石鏃	(3.6)×1.2×0.5	1.59	黒曜石	
	22	覆土2	図274	231	石鏃	4.0×1.5×0.5	2.25	黒曜石	
	美々4遺跡	23	ⅡB-② トレンチ	図274	231	石製品	(3.0)×1.1×0.8	2.38	

IV その他の時期の遺構と遺物

概要

本章では、これまで掲載した、後期後葉、前葉の時期以外の遺構と遺物の報告を行う。遺構は全て所属時期が不明である。 (石井淳平)

1 時期不明の土壌

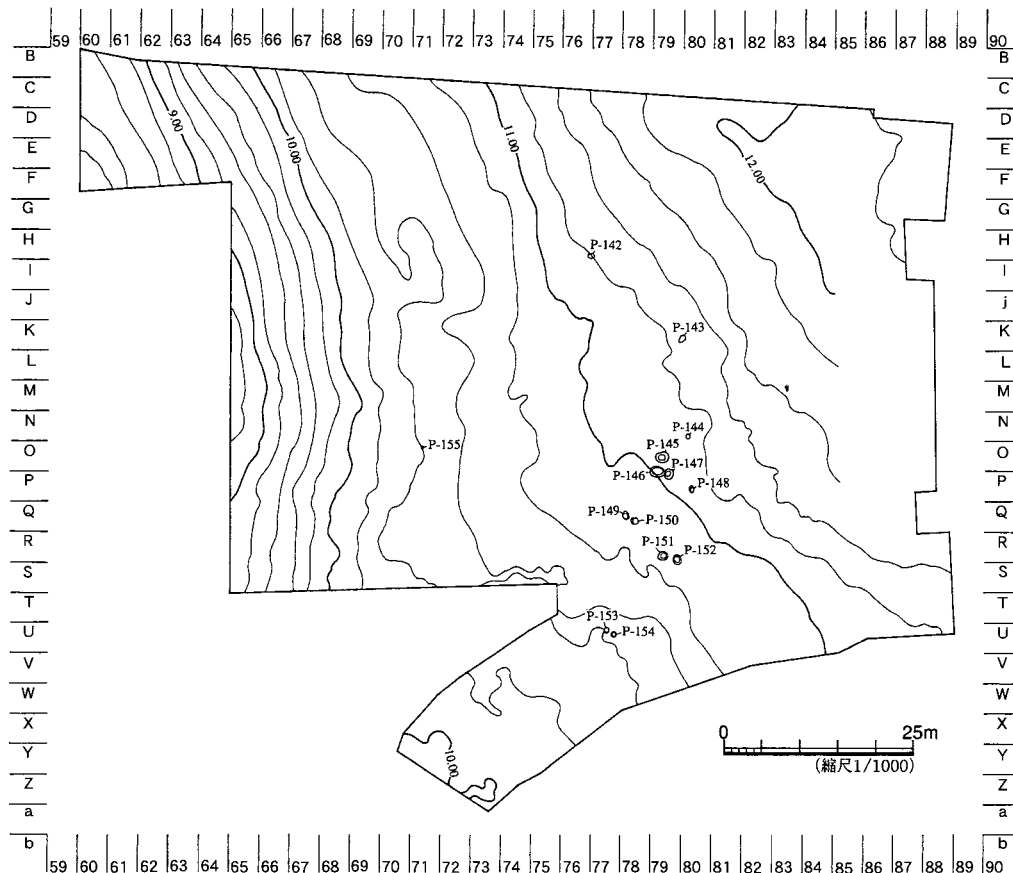


図275 時代不明の土壌配置図

P - 142

平面形は楕円形で壙底は丸い。壙底と壁面の境界が明瞭でなく、壙底から緩やかに湾曲しながら立ち上がる。土層1、2は柱穴などの別の掘り込みの可能性がある。土層3～8はEn - aロームを主体とする暗褐色～褐色土で、En - aパミスや黒褐色土を含んでおり、埋め戻しによるものとする。遺構の性格は墓壙である可能性が高いと考えている。 (石井淳平)

P - 143

平面形は楕円形で、壙底はやや丸みをもつ。ほぼ垂直に立ち上がる。埋土は下層が黒褐色土主体、

上層が En - a ロームを主体とする褐色～暗褐色土で、どちらも En - a パミスを含む。埋土は埋め戻しによるものと考えている。柱穴又は墓墳の可能性はあるが、付近に他の柱穴が見つかっていないことから、墓墳の可能性が高い。(石井淳平)

P - 144

平面形は楕円形で、墳底は平らである。開き気味に立ち上がる。土層 1～4 は盛土遺構の土で、En - a パミス、炭化物を含む。土層 5、6 は En - a パミスを含まない黒褐色土である。P - 144 が埋まりきらないうちに盛土の造営が開始され、最終的には盛土遺構の土で埋め戻されている。(石井淳平)

P - 145

平面形は楕円形で、墳底はやや丸みをもつ。開き気味に立ち上がる。浅い土壌である。埋土はⅥ、Ⅶ層土起源の暗褐色～黄褐色土が主体で、En - a パミスを少量含む。(石井淳平)

P - 146

平面形は楕円形で、墳底は平らである。開き気味に立ち上がる。浅い土壌である。埋土はⅥ、Ⅶ層土起源の暗褐色～黄褐色土が主体で、En - a パミスを少量含む。(石井淳平)

P - 147

平面形は上端が南北に広がる楕円形で、下端は円形である。墳底は平らで、ほぼ垂直に立ち上がり、墳底から検出面にむかって 1 / 4 ほどで開き気味に立ち上がる。埋土は En - a ローム起源の黄褐色土が主体となる。埋め戻しの可能性がある。(石井淳平)

P - 148

平面形は楕円形で、墳底はほぼ平らである。開き気味に立ち上がる。浅い土壌である。埋土はⅥ層とⅦ層の混土が主体の暗褐色～明褐色土で、シルト質である。(石井淳平)

P - 149

平面形は楕円形で、墳底は平らである。墳底の北側に長径約 20cm で楕円形の浅いくぼみがある。浅い土壌で、開き気味に立ち上がる。埋土は黒褐色土を主体とし、En - a パミスを少量含む。(石井淳平)

P - 150

平面形は楕円形で、墳底はほぼ平らである。墳底の北側に長径約 20cm で楕円形の浅いくぼみがある。埋土は黒褐色土と少量の En - a ロームの混土である。(石井淳平)

P - 151

平面形は楕円形で、墳底は丸い。墳底と壁面の境界は明瞭ではなく、墳底から湾曲しながら立ち上がる。埋土はⅥ層土が主体の褐色土で、En - a パミスを少量含む。P - 152 と隣接し、規模、形状、埋土の様子が似る。(石井淳平)

P - 152

平面形は楕円形で、壙底は北側が深く、西側が浅い。埋土はⅥ層土主体の黒褐色～暗褐色土で En - a パミスを少量含む。P - 151と隣接し、規模、形状、埋土の様子が似る。 (石井淳平)

P - 153

平面形は円形で、壙底は丸い。壙底と壁面の境界は明瞭ではなく、壙底から湾曲しながら立ち上がる。埋土はⅥ層土が主体で、En - a パミスを少量含む。P - 154と隣接し、規模、形状、埋土の様子が似る。 (石井淳平)

P - 154

平面形は円形で、壙底は丸い。壙底と壁面の境界は明瞭ではなく、壙底から湾曲しながら立ち上がる。埋土はⅥ層土が主体で、En - a パミスを少量含む。P - 153と隣接し、規模、形状、埋土の様子が似る。 (石井淳平)

P - 155

平面形は円形で、壙底は平らである。開き気味に立ち上がる。小型の土壙で、石皿が突き刺さるように立った状態で出土した。意図は不明であるが、人為的に石皿を埋納したものと判断した。遺構の検出面はⅥ層～Ⅶ層にかけてであるが、実際の掘り込み面はⅤb層上面、又はⅤb層中であろう。埋納当時、石皿が地面に直立した状態にあったのか、完全に埋没していたものかは判断できない。 (石井淳平)

2 遺構出土の遺物 (図279、図版231)

P - 144

出土した遺物は遺構上部に落ち込んだ盛土中に入っていたもの。1は図134 - 1031で掲載した注口土器である。頸部片の1点が、遺構上から接合しており、その他の破片は近隣グリッドの盛土から接合した。2、3は深鉢の口縁部片。4は鉢の口縁部と考えられる。

P - 148

5は後期後葉の深鉢胴部片で、沈線が施される。

P - 150

6は後期後葉の深鉢胴下部片。

P - 152

7は後期後葉の底部片。注口土器か新しい時期の深鉢片と考えられる。

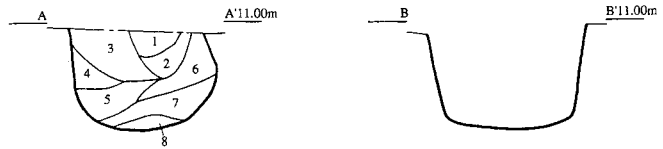
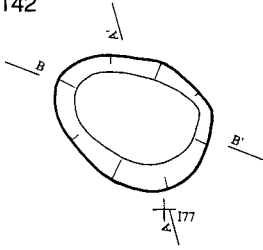
P - 154

8は後期後葉の中でも新しい時期の深鉢胴部片。

P - 155

9は安山岩製の台石である。いかり石の類か。

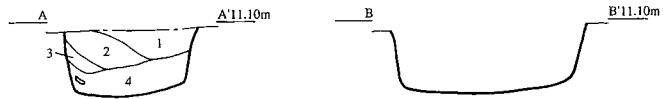
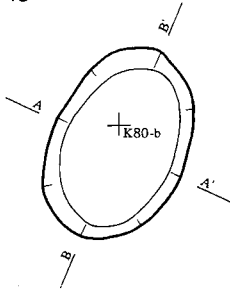
P-142



P142の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/1	黒色土		En-aバミスを少量含む	
2	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	
3	10YR3/4	暗褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む	
4	10YR4/6	褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、En-aロームを多量に含む	
5	10YR3.5/4	暗褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを多量に含む、暗褐色土を多く含む	
6	10YR4/4	褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む	
7	10YR4/4	褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを多量に含む	
8	10YR3/4	暗褐色土		En-aバミス、En-aロームを多く含む	

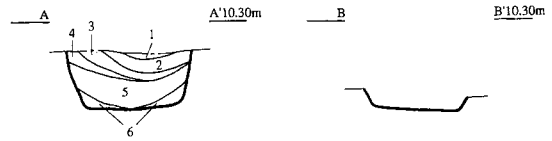
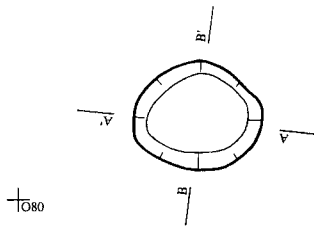
P-143



P143の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR3/3.5	暗褐色土		En-aバミスを少量含む	
2	10YR4/6	褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む	
3	10YR3.5/4	暗褐色土		En-aローム主体で、暗褐色土を多く含む、En-aバミスをやや多く含む	
4	10YR2.5/3	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	

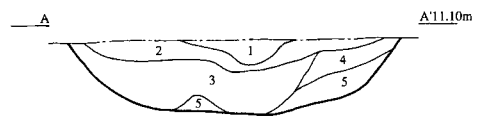
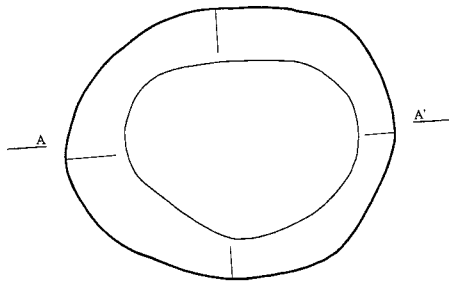
P-144



P144の土層

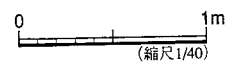
番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR1.7/1	黒色土		En-aバミスを少量含む、炭化物を多く含む	
2	10YR2/2.5	黒褐色土		En-aバミスを少量含む、炭化物を少量含む	
3	10YR2/1	黒色土		En-aバミスを少量含む	
4	10YR2/3	黒褐色土	ややソフト	V層土主体でEn-aバミスを少量含む	
5	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを含まない	
6	10YR3/3	暗褐色土	ややソフト	炭化物を極少量含む	

P-145



P145の土層

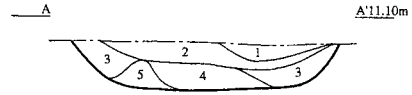
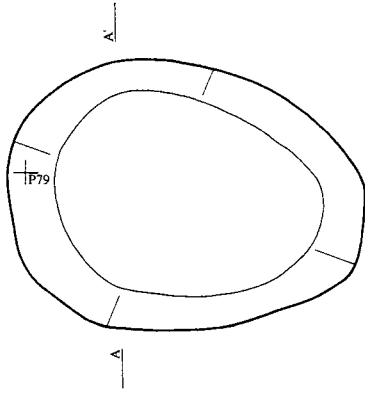
番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	2.5YR2/1	赤黒土		粘質	
2	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
3	10YR3/3	暗褐色土		En-aバミスを多量に含む	
4	7.5YR3/4	暗褐色土		シルト質	
5	7.5YR4/4	褐色土		粘質	



179

図276 土層 (1)

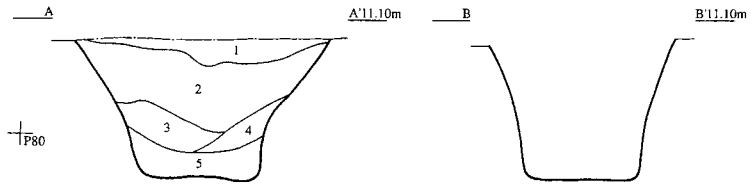
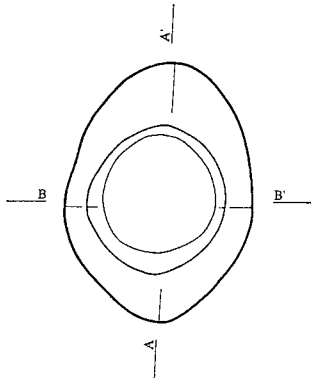
P-146



P146の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	7.5YR1.7/1	黒色土		En-aバミスをやや多く含む	
2	7.5YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	
3	7.5YR4/4	褐色土		En-aバミスを少量含む	
4	7.5YR5/8	明褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
5	7.5YR3/2	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	

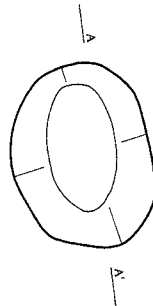
P-147



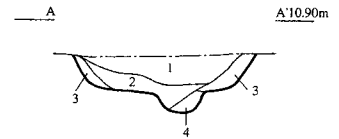
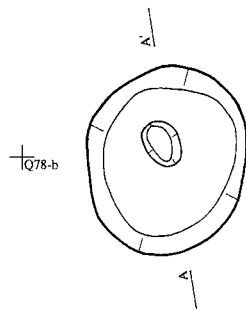
P147の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/2	黒褐色土			
2	10YR4/6	褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
3	7.5YR5/8	明褐色土		粘質	
4	7.5YR4/4	褐色土		火山灰	En-aバミスを多量に含む
5	7.5YR3/2	黒褐色土		砂質	

P-148



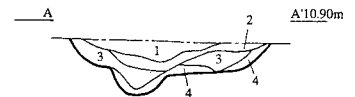
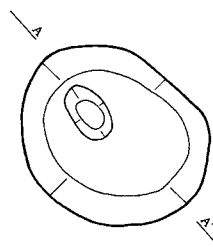
P-149



P149の土層

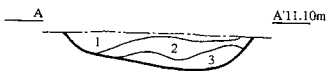
番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR1.7/1	黒色土		En-aバミスを少量含む	
2	10YR2/2	黒褐色土		シルト質	
3	10YR3/4	暗褐色土		シルト質	
4	10YR4/4	褐色土		En-aバミスをやや多く含む	

P-150



P150の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	5YR1.7/1	黒色土			
2	7.5YR2/1	黒色土			
3	10YR2/3	黒褐色土		シルト質	
4	7.5YR3/6	明褐色土		シルト質	



P148の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR1.7/1	黒色土		シルト質	
2	10YR3/3	暗褐色土		シルト質	
3	7.5YR5/6	明褐色土		シルト質	

↑Q80

↑R78-d

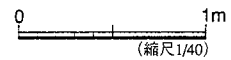
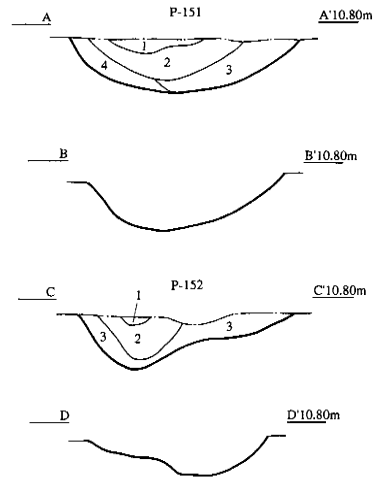
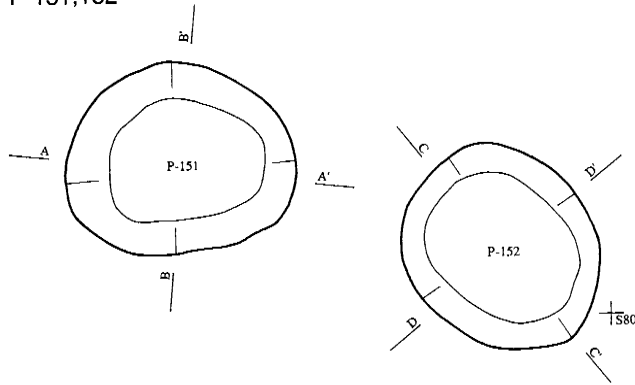


図277 土壌 (2)

P-151,152



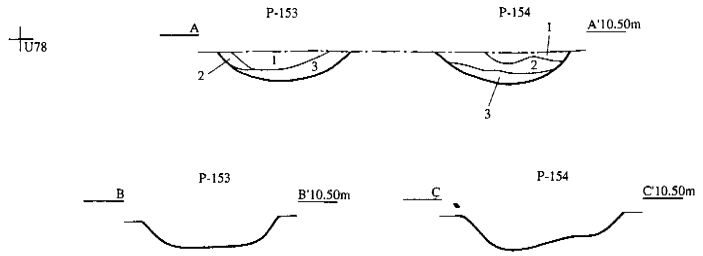
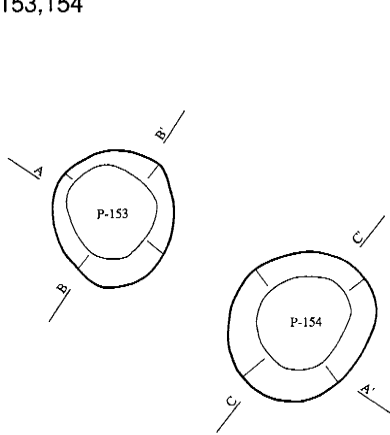
P151の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/3	黒褐色土	シルト質	En-aバミスを少量含む	
2	7.5YR4/4	褐色土	シルト質	En-aバミスをやや多く含む	
3	10YR4/6	褐色土	シルト質	En-aバミスをやや多く含む	
4	10YR4/6	褐色土	シルト質		

P152の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/3	黒褐色土	シルト質		
2	7.5YR1.7/1	黒色土	シルト質		
3	10YR3/4	暗褐色土	シルト質	En-aバミスを少量含む	

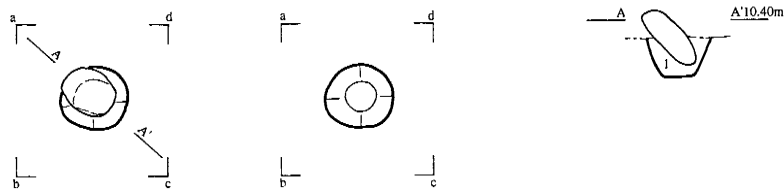
P-153,154



P153、154の土層

遺構番号	番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
P153	1	7.5YR4/4	褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
P153	2	10YR2/3	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	
P153	3	10YR3/3	暗褐色土		En-aバミスを多量に含む	
P154	4	10YR3/4	暗褐色土		En-aバミスを少量含む	
P154	5	10YR5/6	黄褐色土		En-aバミスをやや多く含む	
P154	6	10YR2/2	黒褐色土		En-aバミスを多量に含む	

P-155



P155の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR2/3	黒褐色土		En-aバミスを少量含む	

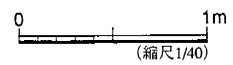


図278 土層 (3)

その他の時期の遺構一覧表

表47 その他の時期の遺構一覧表

遺構番号	旧番号	分類	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深さ
P - 142	P - 1174	土壌	0.88	0.68	0.67	0.44	0.78
P - 143	P - 1180	土壌	1.06	0.74	0.88	0.59	0.59
P - 144	P - 1163	土壌	0.69	0.58	0.52	0.42	1.43
P - 145	P - 79	土壌	1.76	1.41	1.23	0.93	0.52
P - 146	P - 81	土壌	1.89	1.40	1.42	1.02	0.33
P - 147	P - 90	土壌	1.34	0.98	0.60	0.59	0.89
P - 148	P - 82	土壌	0.97	0.73	0.68	0.36	0.41
P - 149	P - 83	土壌	0.96	0.86	0.75	0.70	0.33
P - 150	P - 84	土壌	1.05	0.88	0.79	0.62	0.25
P - 151	P - 38	土壌	1.22	0.98	0.81	0.62	0.37
P - 152	P - 39	土壌	1.14	0.92	1.02	0.66	0.43
P - 153	P - 33	土壌	0.72	0.64	0.50	0.45	0.25
P - 154	P - 34	土壌	0.81	0.74	0.52	0.45	0.27
P - 155	P - 1167	土壌	0.35	0.34	0.20	0.18	0.32
P - 156	P - 1151	□-△質埋土	0.52	0.47	0.24	0.24	2.25
P - 157	P - 1152	□-△質埋土	0.90	0.88	0.32	0.30	2.58
P - 158	P - 1089	□-△質埋土	1.04	1.02	0.67	0.64	1.82
P - 159	P - 1090	□-△質埋土	0.64	0.58	0.48	0.42	1.99
P - 160	P - 1091	□-△質埋土	0.73	0.61	0.36	0.34	2.04
P - 161	P - 1038	□-△質埋土	0.64	0.60	0.44	0.39	1.91
P - 162	P - 1037	□-△質埋土	0.64	0.58	0.43	0.40	1.92
P - 163	P - 1036	□-△質埋土	0.82	0.68	0.62	0.57	1.95
P - 164	P - 1034	□-△質埋土	0.52	0.44	0.40	0.34	1.84
P - 165	P - 1035	□-△質埋土	0.74	0.62	0.38	0.34	1.88
P - 166	P - 1092	□-△質埋土	0.52	0.46	0.34	0.30	1.74
P - 167	P - 1042	□-△質埋土	0.49	0.45	0.26	0.25	2.04
P - 168	P - 1039	□-△質埋土	0.44	0.44	0.30	0.24	1.63
P - 169	P - 1049	□-△質埋土	1.18	1.00	0.87	0.72	1.86
P - 170	P - 1002	□-△質埋土	1.09	1.09	0.42	0.32	2.02
P - 171	P - 1100	□-△質埋土	1.11	1.04	0.62	0.61	2.00
P - 172	P - 1099	□-△質埋土	0.90	0.78	0.54	0.36	2.03
P - 173	P - 1102	□-△質埋土	0.92	0.90	0.44	0.40	2.18

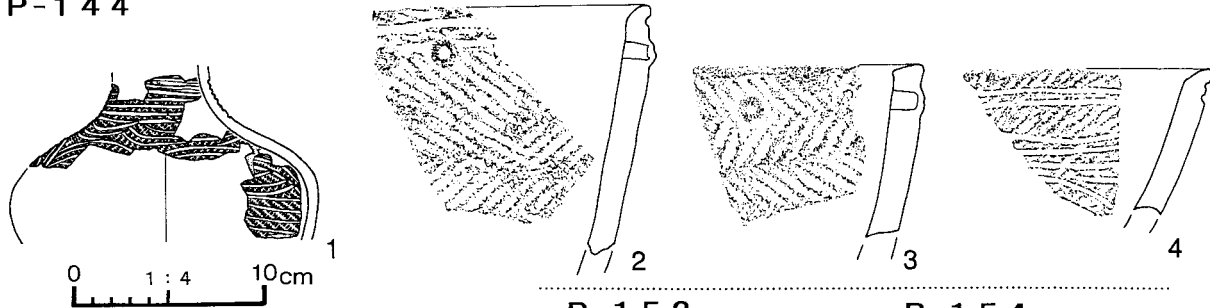
単位 = m

表48 その他の時期の遺構遺物

遺構名	掲載No	層位	図No	図版No	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石材
P - 155	9	I	図279	231	台石	36.4×24.2×10.5	1314.0	安山岩

遺構出土の遺物

P-144



P-155

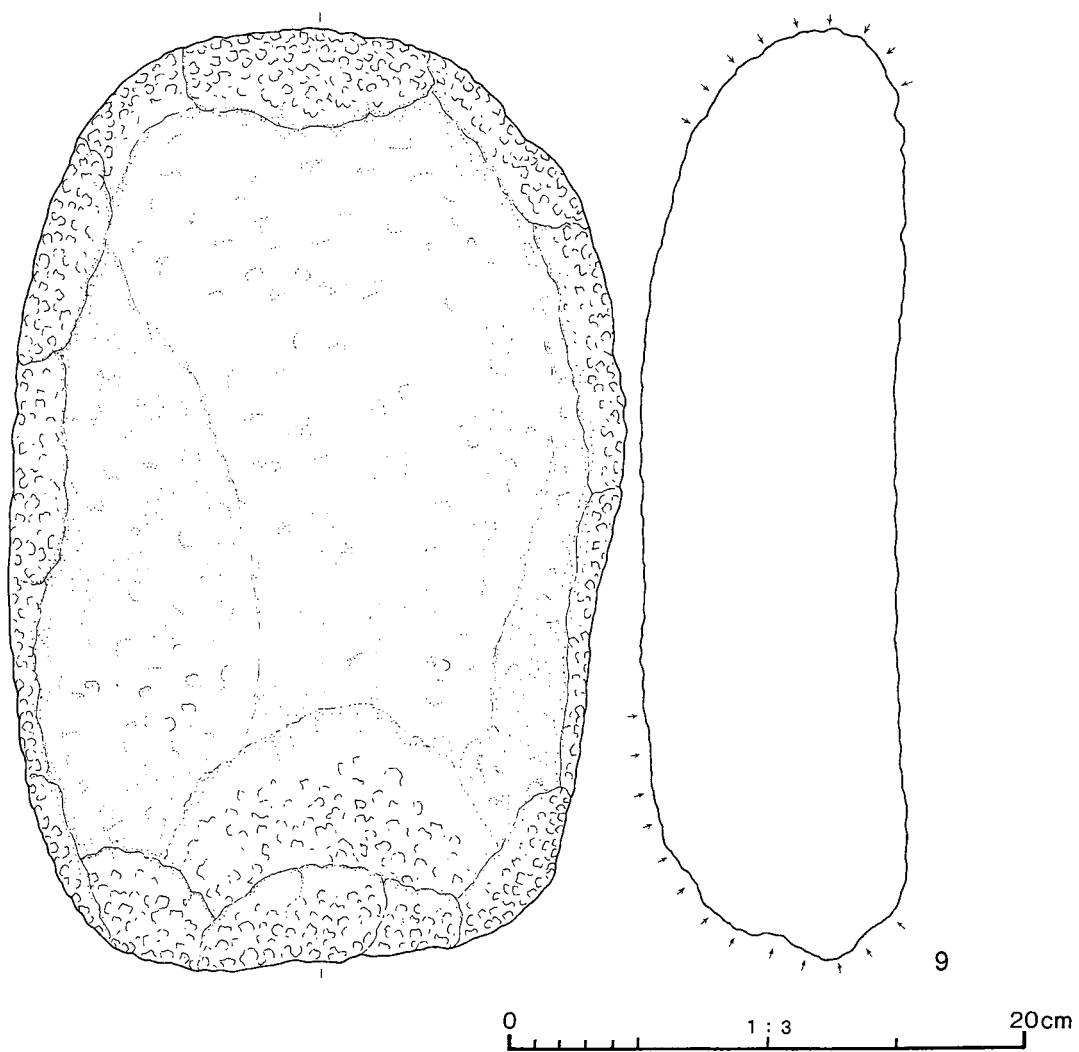


図279 遺構出土の遺物

3 ローム質埋土の土壌

概要

Ⅶ層上面で、En - a ローム主体の円形のプランを確認した。埋土に黒褐色土が全く含まれないこと、遺物が全く含まれないことから、遺構の可能性は低いと考えたが、プランを検出したものについては全て半裁して調査を行った。本稿では「土壌」と呼称するが、これらの土壌が人為的なものかどうかの検証を経ずに使用している。

これらの土壌に共通する特徴は

- 1) 埋土がⅦ層と同じ純粋な En - a ロームで構成されること
- 2) 底面がⅦ層とⅧ層の境界に一致すること
- 3) 遺物が全く出土しないこと
- 4) 配列に規則性がみられず、ランダムに分布すること

である。

上記の特徴からは、これらの土壌が人為的なものか自然のものかは判断できない。ただし、壁面が崩落したと思われる痕跡をもつ土壌があること、土層が中央がくぼむ堆積をしていることから、土壌を充填している En - a ロームは自然に堆積したものと考える。類似する土壌はキウス7遺跡、キウス4遺跡Ⅰ地区でも検出されている。キウス周辺の他の調査での検出例が少ないのは、埋土がⅦ層土主体であるため、Ⅶ層上面で終了する通常の調査では検出が難しいためと考える。これまで行われることの少なかったⅦ層上面の精査を行えば、検出例は増えるであろう。したがって、この

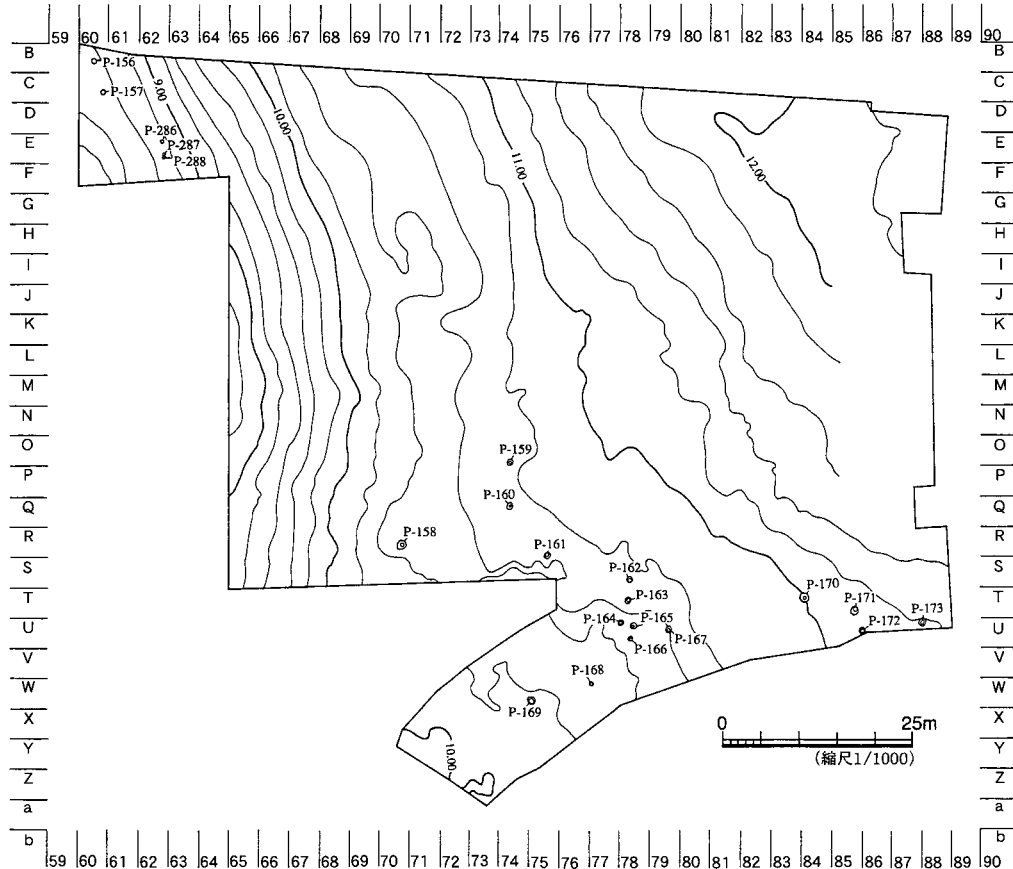


図280 ローム質埋土の遺構配置図

ような土壌は少なくともキウス周辺には普遍的に存在する可能性が高い。

なお、平成10年度 G 地区の調査では日程、排土場所の都合から調査区全体をⅧ層まで掘削できず、A2地区に続く北西の一角のみ、Ⅷ層上面まで掘り下げて調査を行った。ここで P - 157、158、286～288の5基のローム質埋土の土壌を検出した。P - 286～288は概略の平面図以外の記録を残していないため、個別の図面は掲載していない。（石井淳平）

P - 156

平面形は円形で、壙底はほぼ平らである。壙口が狭く、ほぼ垂直に立ち上がる。（石井淳平）

P - 157

平面形はほぼ円形で、西側がわずかにオーバーハングする。壙底は丸みをもち、開き気味に立ち上がる。（石井淳平）

P - 158

平面形は円形で、壙底は平らである。ほぼ垂直に立ち上がり、壙口付近で開き気味となる。土層6は En - a パミス主体で、壁面の崩落土である可能性がある。（石井淳平）

P - 159

平面形は円形で、壙底はやや丸みをもつ。やや開き気味に立ち上がり、中位で最も径が大きくなり、壙口付近でわずかにすぼむ。（石井淳平）

P - 160

平面形は楕円形で、壙底は丸みをもつ。壙底付近はすぼまりながら立ち上がり、壙口付近で開き気味になる。（石井淳平）

P - 161

平面形は円形で、壙底は平らである。ほぼ垂直に立ち上がる。土層1は外側に不自然に膨らんだ部分に En - a パミスが堆積しており、壁面の崩落土である可能性がある。（石井淳平）

P - 162

平面形は円形で、下端は南西側がオーバーハングする。壙底はほぼ平らで、垂直に立ち上がる。（石井淳平）

P - 163

平面形は円形で、下端はオーバーハングする。壙底は南側が深く、丸みをもつ。土層1、4はオーバーハング部分を充填しており、En - a パミス主体である。壁面の崩落土の可能性もある。（石井淳平）

P - 164

平面形は円形で、下端は西側がオーバーハングする。壙底は丸みをもち、ほぼ垂直に立ち上がる。

土層1はEn - aパミス主体で、En - aローム主体の土層2～4を囲むように堆積する。壁面の崩落土の可能性があると考えたが、土壌に充填されたEn - aロームの影響で土質が若干変化したものかもしれない。
(石井淳平)

P - 165

平面形は北東～南西方向がわずかに長い楕円形で、下端はやや丸みをもつ。ほぼ垂直に立ち上がり、壙口付近でわずかに開き気味になる。
(石井淳平)

P - 166

平面形は南北方向がわずかに長い楕円形で、壙底はやや丸みをもつ。ほぼ垂直に立ち上がる。
(石井淳平)

P - 167

平面形は円形で、壙底はほぼ平らである。やや開き気味に立ち上がるが、中位でいったんすぼまり、壙口付近で再び開き気味となる。
(石井淳平)

P - 168

平面形は円形で、壙底は平らである。ほぼ垂直に立ち上がり、壙口付近でわずかに開き気味となる。
(石井淳平)

P - 169

平面形は不整形な楕円形で、南北方向に長い。壙底は平らである。断面図は作成していない。
(石井淳平)

P - 170

平面形は円形で、壙底はほぼ平らである。断面図は作成していない。
(石井淳平)

P - 171

平面形は円形で、壙底は平らである。ほぼ垂直に立ち上がるが、北側が中位で内側に張り出し、南側は凹形に湾曲する。
(石井淳平)

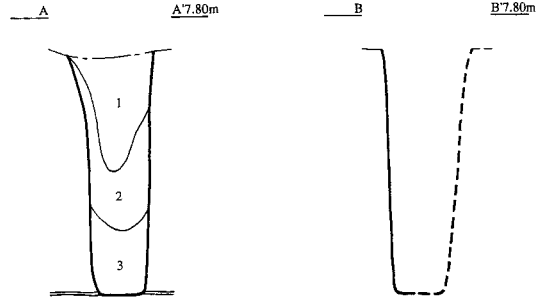
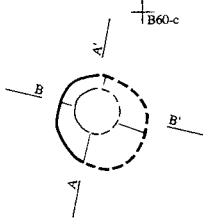
P - 172

平面形は東西がわずかに長い楕円形で、壙底はやや丸みをもつ。垂直に立ち上がり、中位以上では開きながら立ち上がる。
(石井淳平)

P - 173

平面形は円形で、壙底はやや丸みをもつ。壙底付近ではほぼ垂直に立ち上がり、上方ほど開き気味になる。特に北側が大きく開き、壁面に段差をもつ。
(石井淳平)

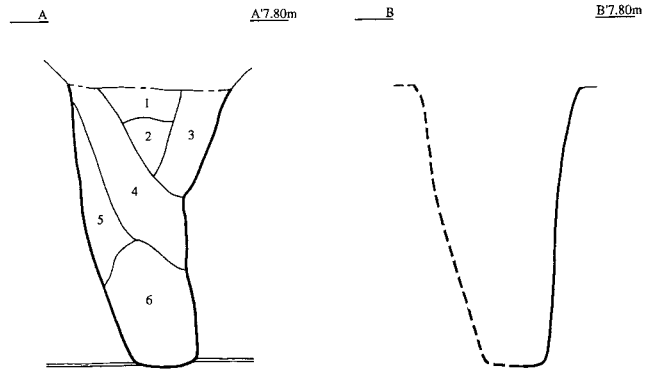
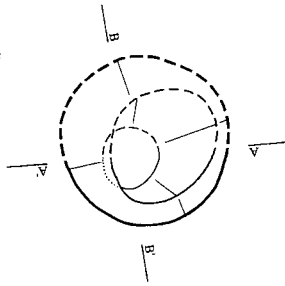
P-156



P156の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	7.5YR5/6	明褐色土		En-aローム主体で粒の粗いEn-aバミスを少量含む	
2	10YR4/6	褐色土		En-aローム主体で火山ガラスを少量含む	
3	10YR4/6	褐色土		En-aローム主体	

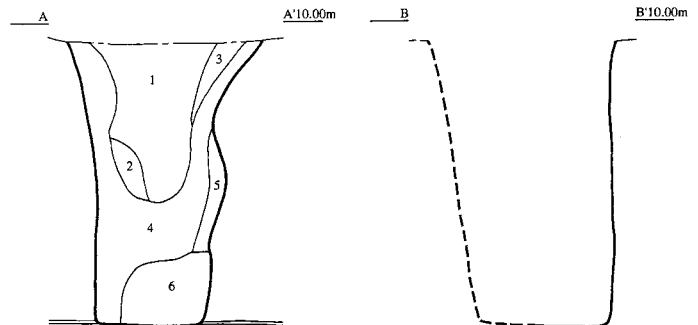
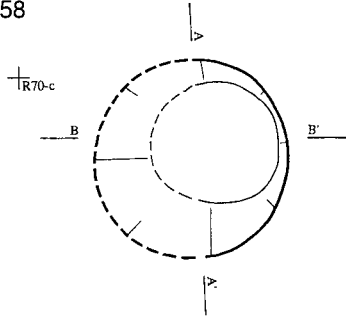
P-157



P157の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	7.5YR5/6	明褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	
2	7.5YR5/7	明褐色土		En-aローム主体	
3	10YR5/6	黄褐色土	ややハード	En-aローム主体でEn-aバミスを多量に含む	
4	7.5YR4/4	褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む	
5	10YR5/6	黄褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスを多量に含む	
6	10YR4/6	褐色土		En-aローム主体でEn-aバミスをやや多く含む	

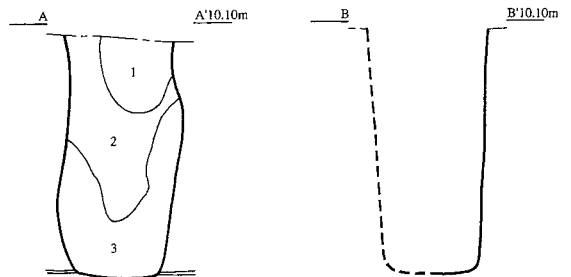
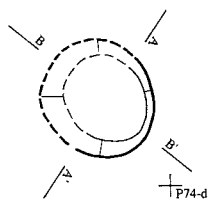
P-158



P158の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR5/8	黄褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む	
2	10YR5/6	黄褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	
3	10YR4.5/6	褐色-黄褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む	
4	10YR5/6	黄褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む	
5	10YR5/8	黄褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	
6	7.5YR4/6	褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、En-aロームと暗褐色土を少量含む	

P-159



P159の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR5/8	黄褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを多量に含む	
2	10YR4.5/6	褐色-黄褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む	
3	10YR4.5/7	褐色-黄褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む	

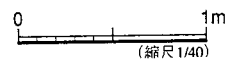
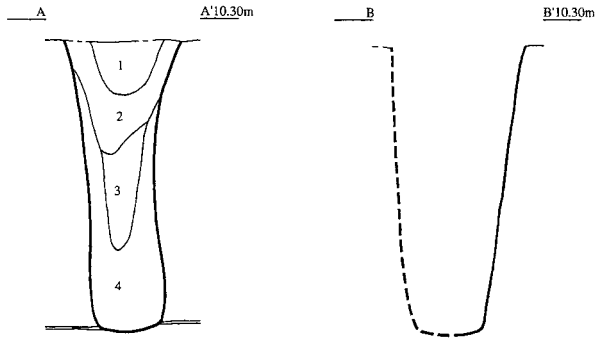
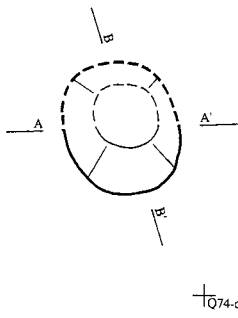


図281 ローム質埋土の遺構(1)

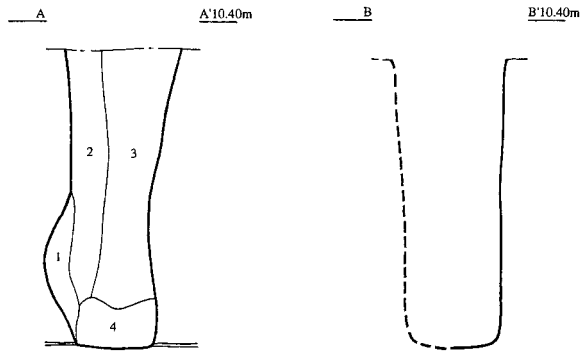
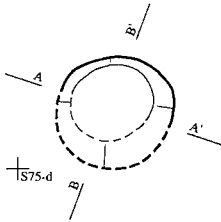
P-160



P160の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR5/8	黄褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを多量に含む	
2	10YR4.5/6	褐色～黄褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む	
3	10YR4.5/7	褐色～黄褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む	

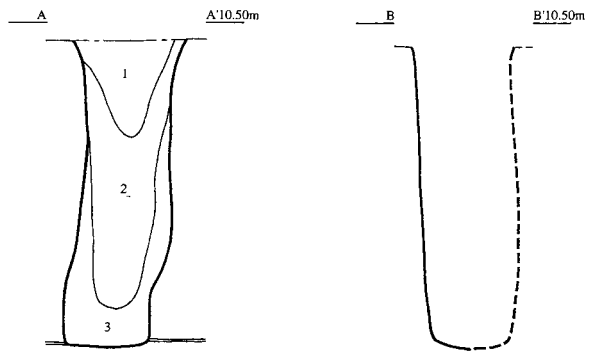
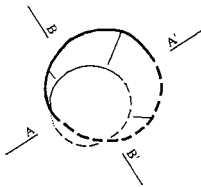
P-161



P161の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	7.5YR5/7	明褐色土	ややハード	En-aバミス主体で、En-aロームを少量含む	壁面の崩落
2	10YR5/7	黄褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスを多量に含む	
3	10YR5/8	黄褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む	
4	10YR5/6	黄褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む	

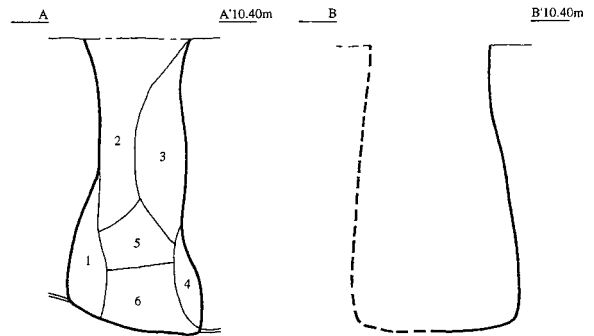
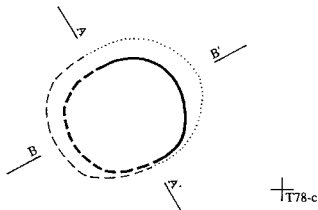
P-162



P162の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR5/6	黄褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む	
2	10YR4.5/6	褐色度から黄褐色土	ハード	En-aローム主体で、En-aバミスを多量に含む	
3	10YR5/8	黄褐色土	ソフト	En-aバミス主体で、En-aロームと暗褐色土を少量含む	周囲のEn-aバミスより赤味がかる

P-163



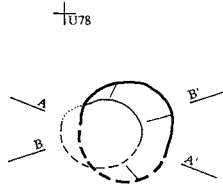
P163の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR4/6	褐色土	ソフト	En-aバミス主体で、En-aロームを少量含む	壁面の崩落
2	10YR6/6	明黄褐色土	ソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	
3	10YR5/6	黄褐色土	ソフト	En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む	
4	10YR5/4	にぶい黄褐色土	ソフト	En-aバミス主体で、En-aロームと暗褐色土を少量含む	
5	10YR5/4	にぶい黄褐色土	ソフト	En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む、暗褐色土を少量含む	
6	10YR5.5/6	黄褐色～明黄褐色土	ソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	

0 1m
(縮尺1/40)

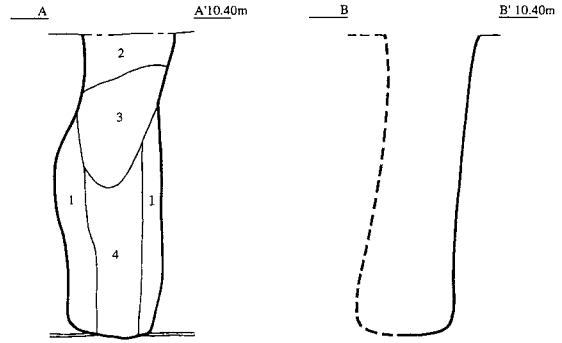
図282 ローム質埋土の遺構 (2)

P-164

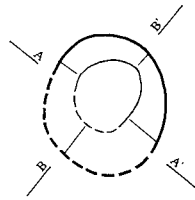


P164の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	7.5YR5.5/6	明褐色土	ややハード	En-aバミス主体	
2	10YR6/6	明黄褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	
3	10YR5.5/6	黄褐色～明黄褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	
4	2.5Y5.5/6	黄褐色～明黄褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む	



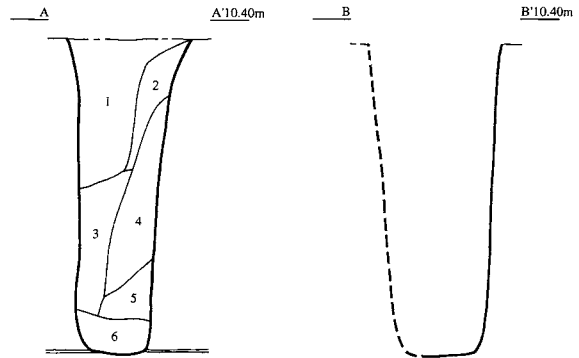
P-165



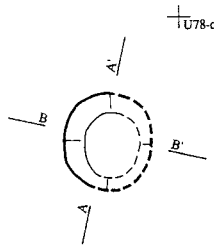
↑U78-c

P165の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	7.5YR5.5/6	明褐色～棕色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	
2	10YR5.5/6	黄褐色～明黄褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む	
3	10YR5.5/6	黄褐色～明黄褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む	
4	10YR6/6	明黄褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	
5	7.5YR5.5/6	明褐色～棕色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスを多量を含む	
6	10YR6/6	明黄褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	



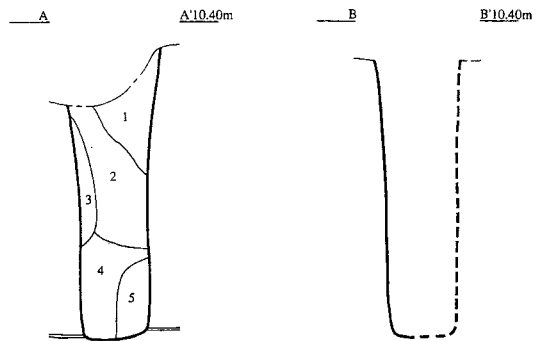
P-166



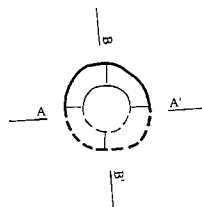
↑U78-c

P166の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR5/7	黄褐色土	ソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	
2	10YR5/7	黄褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む	
3	10YR5/8	黄褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む	
4	10YR5/7	黄褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む	
5	10YR5/8	黄褐色土	ソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを多量に含む	



P-167



↑U79-c

P167の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR5/6	黄褐色土	ソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	
2	10YR4.5/6	褐色土～黄褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む	
3	10YR5/6	黄褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む	
4	7.5YR4.5/6	褐色土～明褐色土	ややソフト	En-aバミス主体で、En-aロームを少量含む	
5	7.5YR4.5/6	褐色土～明褐色土	ソフト	En-aバミス主体で、En-aロームと暗褐色土を少量含む	

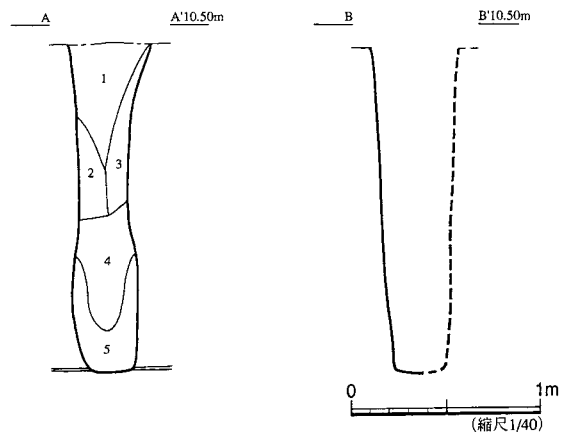
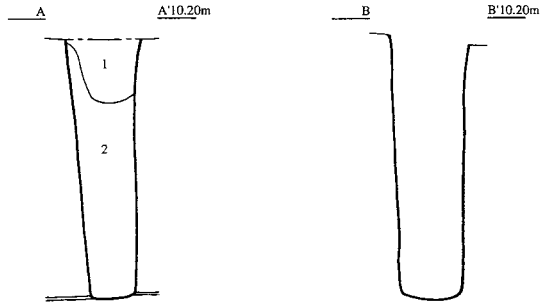
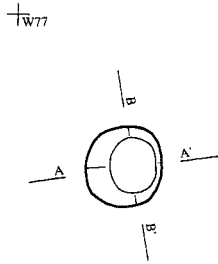


図283 ローム質埋土の遺構 (3)

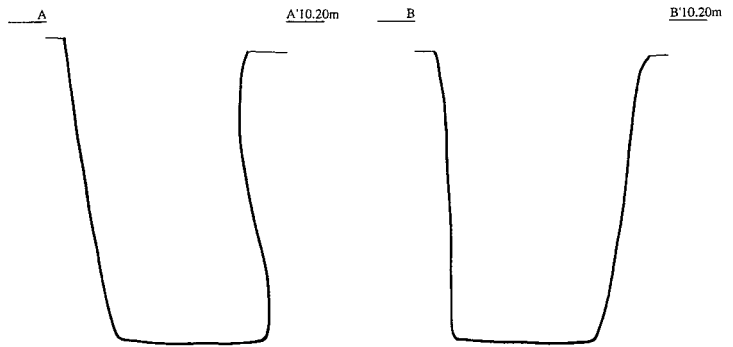
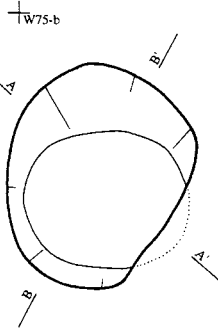
P-168



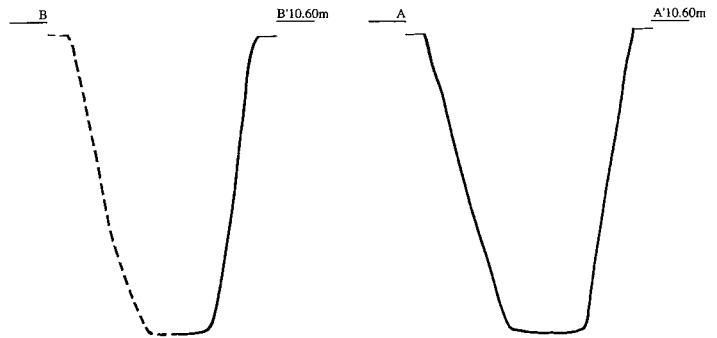
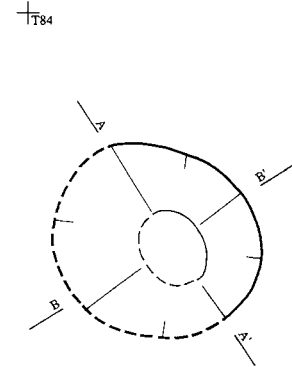
P168の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR5/7	黄褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	
2	10YR5/6	黄褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む	

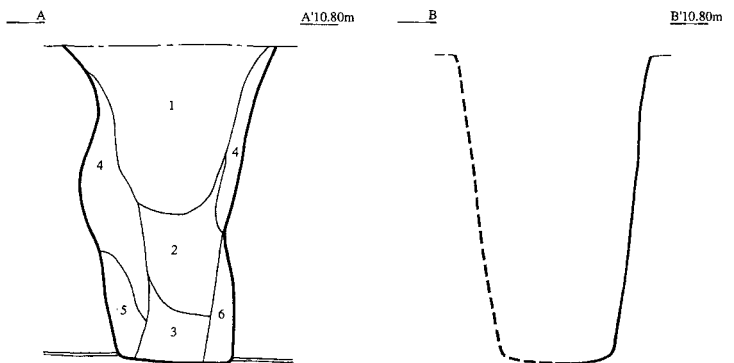
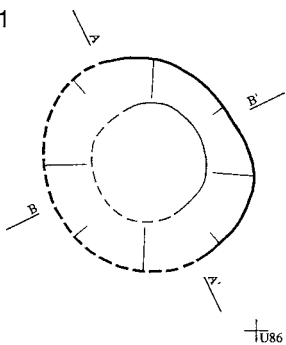
P-169



P-170



P-171



P171の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	7.5YR5/6	明褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを多く含む	
2	7.5YR4.5/6	褐色～明褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む	
3	10YR4.5/5	褐色～にぶい黄褐色～黄褐色土	ソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	
4	10YR5/6	黄褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスを多量に含む	
5	10YR4.5/6	褐色～黄褐色土	ややソフト	En-aローム主体で、En-aバミスを多量に含む	
6	10YR5/4	にぶい黄褐色土	結實	En-aローム主体	

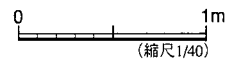
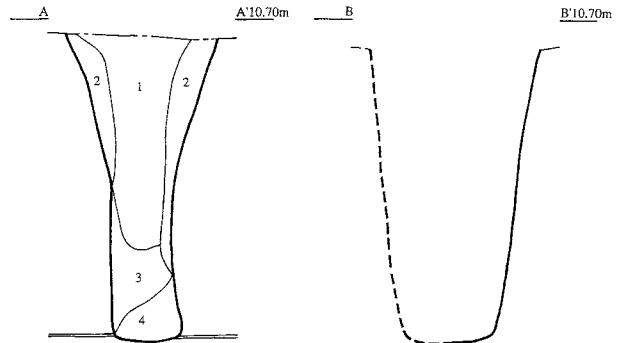
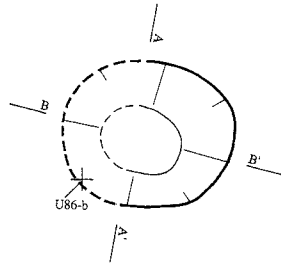


図284 ローム質埋土の遺構(4)

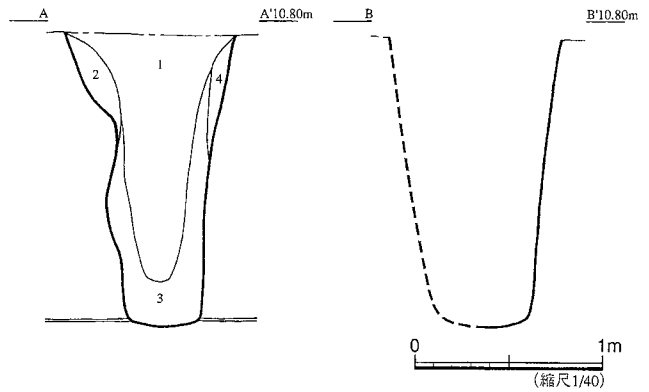
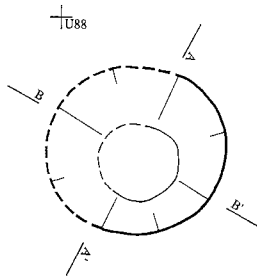
P-172



P172の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	10YR5/6	黄褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスをやや多く含む	
2	10YR5/6	黄褐色土	ハード	En-aローム主体で、En-aバミスを多量に含む	
3	10YR4.5/6	褐色～黄褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスを多量に含む	
4	10YR4.5/5	褐色～黄褐色土	ややハード	En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	

P-173



P173の土層

番号	土色1	土色2	しまり	混入物、その他	備考
1	7.5YR7/8	黄褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	
2	7.5YR6/8	明褐色土		En-aローム主体で、粒の大きいEn-aバミスを少量含む	
3	7.5YR6/8	明褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	
4	7.5YR5/6	明褐色土		En-aローム主体で、En-aバミスを少量含む	

図285 ローム質埋土の土構 (5)

4 包含層出土の遺物（その他の時期の遺物）(図286～図288、図版231～235)

この章の土器、土製品、石器は、盛土遺構や、その上下の層から出土した、後期後葉以外の時期と考えられる遺物である。土器は年代が古いものから順に掲載した。土製品、石器の時期は、出土地区やその形状から、後期後葉のものではないと考えられる。1は縄文時代早期前葉の「暁式」相当の破片と考えられる。キウス4遺跡から本時期の破片が出土したのは初めてである。近い時期の遺物では、平成9年度のD地区（北埋調報144）で出土した「物見台式」相当の破片がある。なお、暁式相当の住居趾群が、隣のキウス5遺跡A地区（北埋調報92・125）で、調査されている。胎土には、砂粒を含み、器面にはヘラなどによる調整痕が見られる。2～19は「東釧路Ⅲ式」相当の破片である。2～7は口縁部片で、縄の側面圧痕や、編紐圧痕文が見られる。口唇は平らに調整され、そこを縄で刻むものも見られる。8～17は胴部片で、13・15には粘土紐の貼付けが施される他、10・12・17には絡縄体圧痕文、12・15には縄文が施される。20～25は「東釧路Ⅳ式」相当の破片である。器面には編み紐の圧痕文、絡縄体、縄文等が施される。21の縄文の上下には、櫛歯状工具か押型文による圧痕が施されるが、詳細は不明である。22には撚りの異なる2条の縄の絡縄体で、文様が作られている。この時期の遺物は平成10年度のJ1地区（北埋調報144）で、焼土とともに破片が多数出土している。26～28は縄文時代前期の破片と考えられる。26は「花積下層式」相当、27・28は「綱文式」相当と考えられる。この時期の住居跡が、平成9年度のA1地区（北埋調報134）で調査されている。29～35は縄文時代中期の破片と考えられる。この時期29～31は「円筒土器上層式」相当の破片と考えられる。29の肥厚する口縁部には波状の貼付けが施される。32・33は「天神山式」相当の破片と考えられる。32の口縁部には、半截竹管状工具内面による押し引き文が施される。33の器面には貼付帯が施され、口唇と共に半截竹管による刻みが施される。34・35は「柏木川式」相当の破片と考えられる。34の口唇と口縁部には円形刺突文が施される。35の口縁部や胴部には、半截竹管状工具内面による押し引きが施される。36～53は後期前葉の破片である。36の胎土は他の破片と比較して砂粒が少ない。口唇にも縄文が施されるものが多く、口縁部には縄や棒状工具による刺突文が施されることが多い。45・46・50の口縁部内側にも縄文が施される。43・44は同一個体で、37と共にまとまって出土した。48は小型の鉢片である可能性もある。50は口縁部に突起状の貼付帯が縦につけられ、それに縄の圧痕が施される。51・52は胴部片53は底部片である。54は後期中葉の「手稻式」相当の破片である。55～59は擦文期の遺物である。55は甕の口縁部で、口縁には横走沈線が施される。56は坏の口縁部片で、内面は黒色。57・58は胴部片。59は底部片で、内面は八ケ目調整される。60は縄文時代中期後半～後期前葉の時期に属するスタンプ形土製品と考えられる。胎土には砂粒を含み、円形のスタンプ面は平らに調整され、柄の部分にはにぎった指の痕跡が残る。縦の長さは約14cmある大きなものである。これと類似する資料が、千歳市丸子山遺跡（千歳市教育委員会1994）や、キウス5遺跡C地区（北埋調報116）で出土している。61～63はいずれも頁岩製の石槍またはナイフで、出土地点から60のスタンプ形土製品と同時期の可能性がある。64・65は砂岩製のすり石。いわゆる「北海道式石冠」の一部。66は砂岩製のすり石で、半円形に近い横長扁平礫の長軸上の両端と使用面周辺を打ち欠いた上、1辺をすり面としている。67は安山岩製の石錘。両端に打ち欠きがある。

（土肥 研晶 新家 水奈）

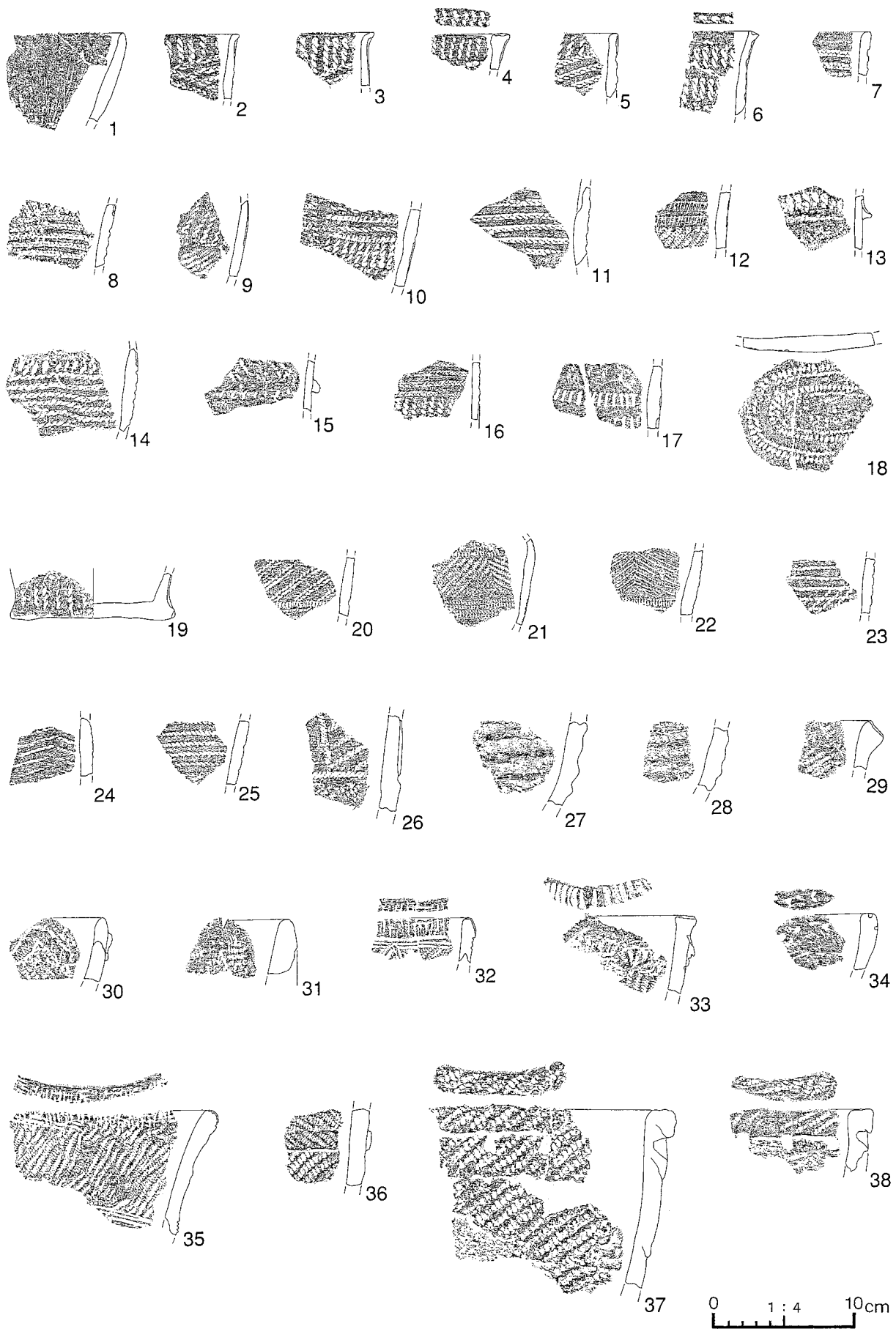


図286 包含層出土の遺物（1）（その他の時期の遺物）

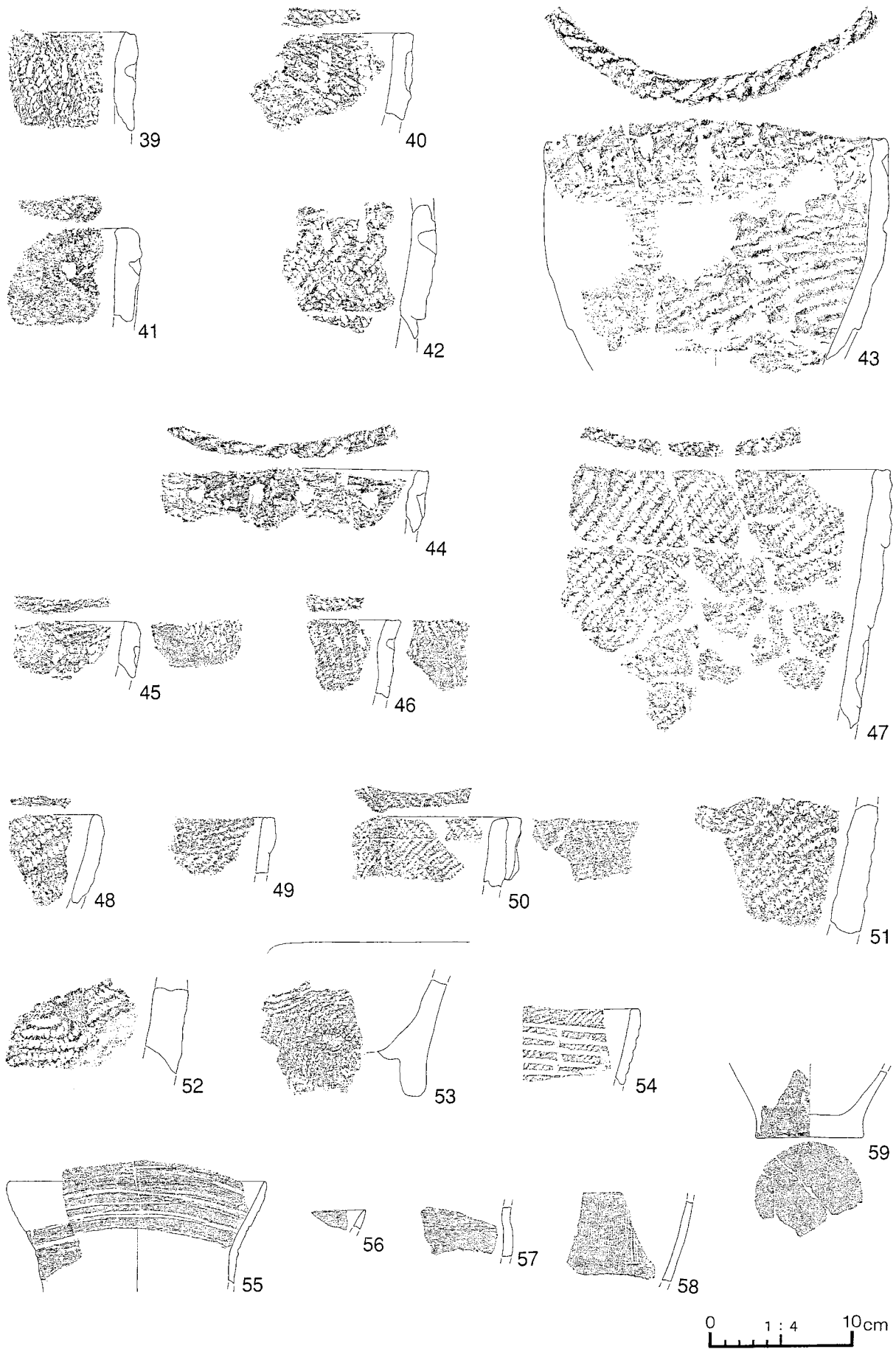


図287 包含層出土の遺物（2）

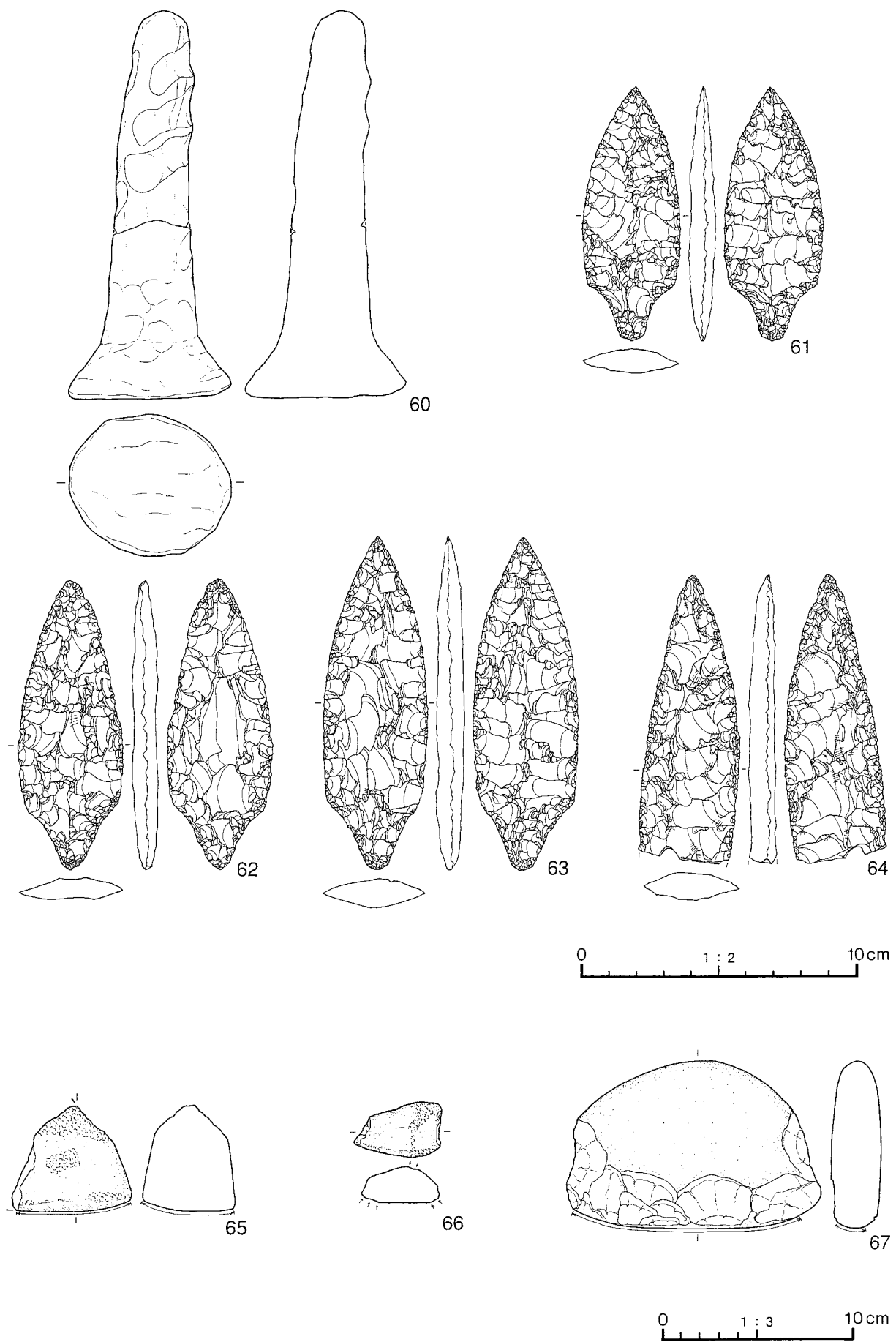


図288 包含層出土の遺物（3）

表49 出土土器一覧表

遺物No	図No	図版No	分類	層位	調査区	文様その他
1	図286	231	I a 1	N13, Vb	M 80 N 79	眺式土器に相当、胎土には砂粒を含む
2	図286	231	I b 1	N26	O 82	組紐圧痕文、短縄文
3	図286	231	I b 1	N13	O 79	口縁部に短縄文
4	図286	231	I b 1	N33	L 75	口縁・口唇に短縄文
5	図286	231	I b 1	Va	L 78	組紐圧痕文、短縄文
6	図286	231	I b 1	N13, N27	O 83 P 80	短縄文、口唇に縄端圧痕文
7	図286	231	I b 1	N 4	N 72	組紐圧痕文
8	図286	231	I b 1	N13	P 75	組紐圧痕文
9	図286	231	I b 1	Vb	M 83	縄文、短縄文
10	図286	231	I b 1	Vb	R 77	絡糸体、絡糸体圧痕文
11	図286	231	I b 1	N26, V	M 84 N 81	組紐圧痕文
12	図286	232	I b 1	Vb	P 68	縄文、絡糸体圧痕文
13	図286	232	I b 1	N 6	P 73	粘土の貼付帯、縄文、短縄文
14	図286	232	I b 1	N26	L 78	絡糸帯
15	図286	232	I b 1	V	R 86	縄文、粘土の貼付帯
16	図286	232	I b 1	N 4	M 77	短縄文、組紐圧痕文
17	図286	232	I b 1	N13	N 78	絡糸体、絡糸体圧痕文
18	図286	232	I b 1	Vb	M 71	底面に編紐圧痕文
19	図286	232	I b 1	N13, N26	L 80, O 76	短縄文、底部のヘリに刻み
20	図286	232	I b 4		R 72	絡縄体
21	図286	232	I b 4	Vb	O 67	縄文、押し引き文
22	図286	232	I b 4	V	G 78	絡縄体、編紐圧痕文
23	図286	232	I b 4	攪乱	Q 108	絡縄体
24	図286	232	I b 4	N14	Q 73	絡縄体
25	図286	232	I b 4	N 4	S 65	絡縄体
26	図286	232	II a 1	V	R 87	花積下層式
27	図286	232	II a 1	V	H 80	網文式
28	図286	232	II a 1	N 8	N 74	網文式
29	図286	232	III a	Vb	L 74	円筒上層式
30	図286	232	III a	V	I 69	円筒上層式、口縁部に粘土の貼付
31	図286	232	III b 1	N32	O 83	円筒上層式、突起部
32	図286	232	III b 1	N26	K 79	天神山式、半裁竹管内面による押し引き
33	図286	232	III b 1	N4, N14, I	M 72・73・76	天神山式、口唇部・貼付帯に刻み
34	図286	232	III b 2	V	I 76	柏木川式、口唇・口縁部に円形刺突文
35	図286	232	III b 2	N36	N 73	柏木川式、口唇部・胴部に半裁竹管内面による押し引き
36	図286	232	IV a	Vb	R 88	余市式
37	図286	233	IV a	Vb	O 81	タブコブ式、口縁部に刺突文、タガ状の胴部
38	図286	232	IV a	I	S 74	タブコブ式、口縁部に刺突文
39	図287	233	IV a	I	J 71	タブコブ式、口縁部に刺突文
40	図287	233	IV a	I	J 72	タブコブ式、口縁部に網による刺突文
41	図287	233	IV a	N14	P 81	タブコブ式、口縁部に刺突文
42	図287	233	IV a		J 73	タブコブ式、口縁部に刺突文、タガ状の胴部
43	図287	233	IV a	V, Vb	O 80・81	タブコブ式、口縁部に刺突文
44	図287	233				
45	図287	233	IV a	N 2	Q 65	タブコブ式、口縁部に網による刺突文
46	図287	234	IV a	I	J 71	タブコブ式
47	図287	234	IV a	Vb	P 80	タブコブ式、タガ状の胴部
48	図287	234	IV a	N13	Q 87	タブコブ式、縄文
49	図287	234	IV a	Vb	Q 87	タブコブ式、口縁部角形で肥厚
50	図287	234	IV a	IV, V	R 119	タブコブ式、口縁部に縦に貼付け
51	図287	234	IV a	V		タブコブ式、胴部片
52	図287	234	IV a	Vb	P 81	タブコブ式、胴部片
53	図287	234	IV a	N 5	O 77	タブコブ式、底部片
54	図287	234	IV b	95F 地区		手稲式相当
55	図287	234	VII	III, 攪乱	J 82 K 81・82	擦文式
56	図287	234	VII	I	Q 71	土師器口縁部
57	図287	234	VII	I	R 72	擦文式
58	図287	234	VII	III	K 76	擦文式
59	図287	234	VII	I, IV	I 83 Q 70・71	擦文式
60	図288	235	Vスタンプ形土製品		F 83, G 83	スタンプ面は平らで無文

表50 包含層出土の掲載石器一覧

掲載No	層位	図No.	図版No.	発掘区	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	石材
61	VI	図288	235	L 77	石槍またはナイフ	9.2×3.6×1.0	29.21	頁岩
62	トレンチ	図288	235	L 81	石槍またはナイフ	10.4×3.8×0.9	35.30	頁岩
63	V	図288	235	F 88	石槍またはナイフ	12.0×3.8×1.0	43.50	頁岩
64	盛土13層	図288	235	N 77	石槍またはナイフ	(10.4)×3.7×1.0	29.46	頁岩
65	盛土13層	図288	235	O 78	すり石	(5.7)×(6.5)×(5.7)	216.7	砂岩
66	盛土4層	図288	235	S 67	石錘	4.7×3.0×1.9	34.08	安山岩
67	盛土14層	図288	235	N 77	すり石	9.0×13.7×2.7	476.7	砂岩

V まとめ

1 遺構

今回報告を行った、平成7・9・10年度の調査では、北側盛土遺構、建物21軒、柱穴1073カ所、土壙墓14基、フラスコ状ピット3基、焼土2227カ所、竪穴遺構6基、その他の土壙57基を検出した。時期の判明している遺構のうち、竪穴遺構6基と土壙4基が縄文時代後期前葉である以外は、全て縄文時代後期後葉に属する。

盛土遺構は、平成8年度調査のL地区で検出した北側盛土遺構の東側にあたり、耕作による削平のため、残存状況はよくないものの、100万点を越える遺物が出土した。盛土遺構は上層がEn-aローム起源の黄褐色土、下層がV-VI層起源の黒褐色土で構成され、上層と下層では遺物の出土点数や出土状況が異なることが確認できた。

建物・柱穴群は盛土遺構の南側に分布する。同じく平成10年度に調査が行われたQ・R地区でも同様の建物・柱穴群が検出されており、南北の盛土遺構に挟まれた空間には、多くの住居や建物が存在していた状況が明らかになった。建物は四本の支柱穴を方形に配置するもので、直径1m前後の支柱穴をもつ大型の建物と、直径30~90cmの支柱穴に、壁柱穴や出入口を伴う中・小型の建物が存在する。Q・R地区地区も含めて、これまで調査された建物、住居跡は全て掘り込みが確認できず、平地式の建物であったと考えている。

土壙墓は盛土遺構の直下および北側で検出した。時期の判明する遺物はほとんど出土していないが、盛土遺構構築の直前に埋め戻されていること、墓壙の規模や形態が、D地区で検出された周堤墓の墓壙と類似していることなどから、縄文時代後期後葉に位置づけられると判断した。周堤墓の墓壙とは、形状や長軸方向は類似するが、墓壙の規模が若干小さいものが多い。また、埋土は周堤墓の墓壙がEn-aパミスやロームを主体とするのに対し、F・G地区で検出した土壙墓では、En-aパミスを含む黒褐色土が主体となる。

フラスコ状ピットは平成7年度調査のL地区に近い、調査区の西側で検出した。検出した3基は非常に接近した位置に構築されている。ほぼ等間隔を保っていることから、同時に存在したか、またはごく近い時期に営まれたものとする。周囲にはフラスコ状ピットの掘り上げ土と思われる、En-aパミスを含む黒褐色土が広がる。後期後葉の遺物を相当量含むため、当初は盛土遺構の一部と考えていた。この掘り上げ土はフラスコ状ピットの西側に分布しており、フラスコ状ピットの掘削で生じた掘り上げた土を、より標高の低い西側へ排土したようである。

焼土は盛土遺構中およびその直下の2227カ所で検出した。このうち、399カ所の焼土を盛土遺構中で検出した。盛土遺構の焼土に、廃棄されたものが多いのに対し、Vb層の焼土はその場で焼成されたものが多い。盛土遺構中で検出した焼土については後期後葉に形成されたことが確実であるが、盛土遺構直下のVb層で検出した焼土に関しては、年代を決定できるものはほとんどない。今回の報告ではVb層の焼土は、全て後期後葉の遺構として一括して扱ったが、Vb層の焼土の中には後期前葉の土器が出土しているものも存在し、全てが後期後葉に属するものではない。しかし、盛土遺構の範囲と焼土の分布域はかなり重複しており、両者の形成は互いに関連性があると考えられることから、Vb層の焼土のほとんどは盛土遺構の構築が始まる直前に形成され、後期後葉の時期幅におさまる可能性が高いと判断した。

なお、盛土遺構の範囲とVb層の焼土の分布域に、何らかの関連性を認めた場合、その原因として、1) 焼土、盛土遺構の少なくともいずれか一方の形成・構築が、相手の存在を意識して行われ

たため分布域が重複した、2) Vb 層の焼土は本来盛土遺構と無関係に存在したが、盛土遺構に覆われた部分のみが消失を免れた、という2つの可能性が考えられる。前者には盛土遺構の構築に伴う儀礼行為の結果として焼土が形成された場合などが考えられるが、今のところ Vb 層焼土と儀礼行為との関連を示すような遺物や検出状況は確認できない。一方で、後者に対する積極的な根拠も見いだせず、盛土遺構の範囲と Vb 層焼土の分布域の重複に人為的な要因が存在しない場合の、一つの仮説にすぎない。

竪穴遺構は調査区の中央からやや西よりの位置で6基検出した。それぞれごく近くに位置し、一部は重複している。浅い皿状のくぼみとして検出しており、住居跡を想定しながら調査を進めた。P-140では後期初頭のタブコブ式土器を用いた土器囲い炉を検出した。このような土器囲い炉は、道央部のこの時期の住居によくみられるもので、ユカンボシ E7 遺跡やオサツ14遺跡などでも検出されている。

ここまで取り上げた遺構以外に、時期・用途ともに不明な土壌が存在するが、それらの中でも特徴的なローム質埋土の土壌について、調査結果をまとめる。事実記載部分の繰り返しになるが、この土壌の特徴は、1) 埋土がⅧ層と同じ純粋な En-a ロームで構成されること、2) 底面がⅧ層とⅨ層の境界と一致すること、3) 遺物が全く出土しないこと、4) 配列に規則性がみられずランダムに分布すること、である。同様の遺構はキウス4遺跡 I 地区、キウス7遺跡でも検出されている。キウス7遺跡の調査を担当した皆川は、En-a 火山灰の降下により埋没し、立ち枯れした木の痕跡である可能性と、縄文時代早期の遺構群の一部とする見解を示し、積極的には支持していないものの、後者の可能性が高いことを指摘している(北埋調報127)。今回報告するキウス4遺跡 F・G 地区では、縄文時代早期の遺物が少ないこと、土壌の配列に規則性がみられないことなどから、縄文時代早期に属する遺構の可能性は低いと考える。また、土壌の底面が例外なくⅧ層とⅨ層の境界に一致することも、人為的な要因で形成されたものとは考えにくい。以上の理由から、ローム質埋土をもつ土壌の形成要因は自然現象による可能性が高いと考える。また、自然現象と考えた場合、地表に円形の痕跡を残す地質学的な現象は考えにくく、皆川が推測したとおり、En-a 火山灰の降下により埋没した立木の痕跡とする解釈が今のところ最も妥当性が高いと考える。(石井淳平)

2 建物・柱穴群

今年度の調査では大小合わせて1073カ所の柱穴を検出した。これらの多くは縄文時代後期後葉の建物を構成する主柱穴、壁柱穴、出入り口である。図289に出入り口であることが明らかな9カ所の柱穴を除いた、1064カ所の柱穴の上端短径と深さの度数分布図を示した。上端短径では0.3mと0.7m、深さでは0.5mと1.0mに分布の断絶がある。特に、上端短径では0.3m、深さでは0.5mで急激な変化がみられる。これは上端短径0.3m、深さ0.5mを境に壁柱穴と主柱穴が分化するためである。また、上端短径0.7m、深さ1.0mにも小さな断絶があるが、これは大型の建物の主柱穴と、中・小型の建物の主柱穴とが分化するためである。図290にすでに判明している建物の、壁柱穴と主柱穴の、上端短径と深さの散布図を示した。壁柱穴は上端短径0.3m、深さ0.5m以下に集中し、主柱穴では上端短径0.3m、深さ0.5m以上に分布することがわかる。

次に建物の規模と主柱穴の規模の関係をみるために、図291に柱間距離と主柱穴の上端短径による散布図を示した。柱間距離からみた中型の建物と小型の建物の分化は明瞭ではなく、主柱穴の上端短径にも大きな差がないことがわかる。一方、中・小型の建物と大型の建物の分化は非常に明瞭であり、主柱穴の上端短径も0.7mを境にはっきりと分化している。したがって、中・小型の建物

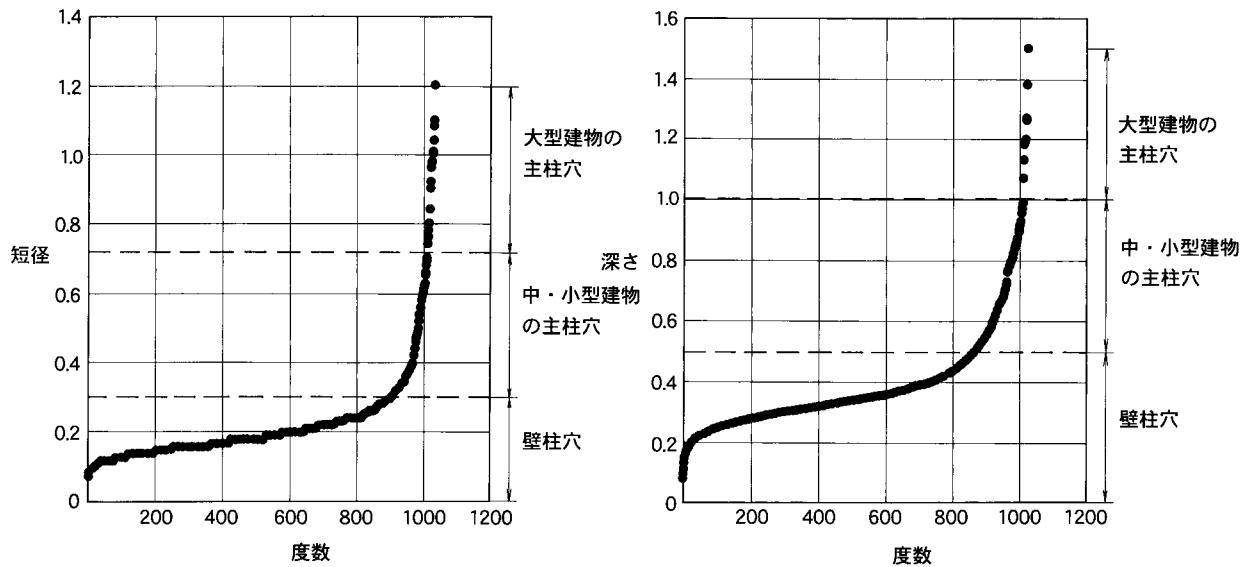


図289 柱穴の上端短径と深さの分布

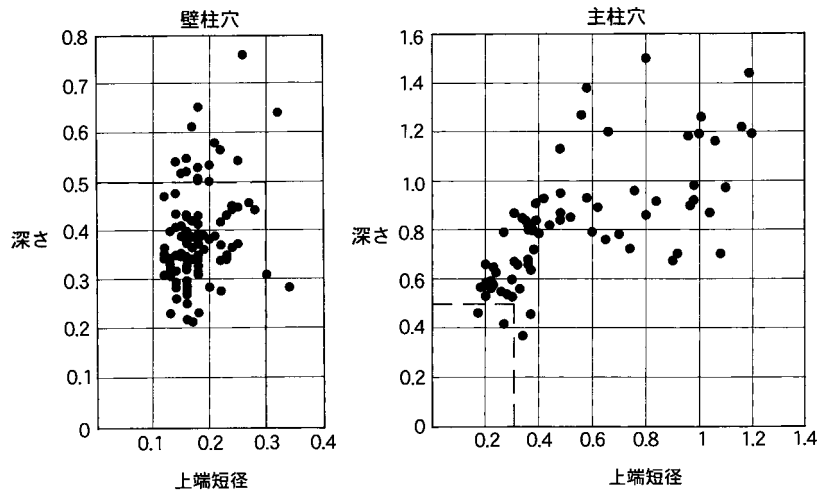


図290 主柱穴と壁柱穴の法量散歩図

と大型の建物の間には、建物の規模、主柱穴の規模ともに、大きな格差があることがわかる。主柱穴の規模は、それが支える上部構造によって決まると考えられ、中・小型の建物と大型の建物の間には、上部構造に質的な違いが存在した可能性が高いと推測する。大型の建物を構成する主柱穴には抜き取りの痕跡が見られ、さらにいくつかの柱穴が重複することから、同じ場所で何度も建て替えを繰り返したことがわかる。このことは大型の建物の選地に強い規制が存在したことをうかがわせ、大型の建物が中・小型の建物と比べて、特殊な存在であったことを裏付けるものとする。

(石井淳平)

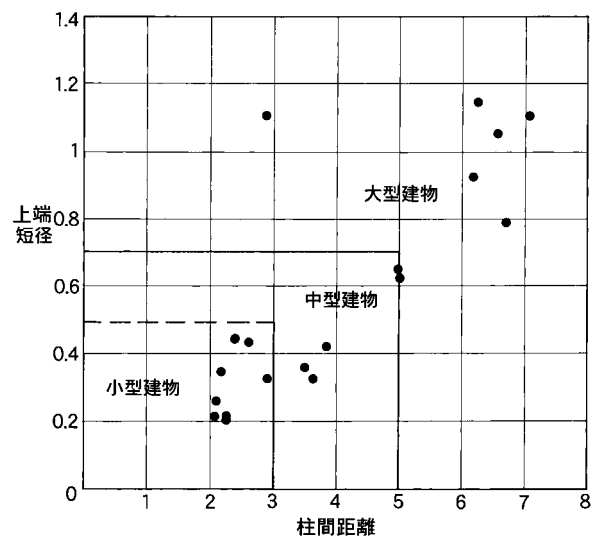


図291 柱間距離と主柱穴の規模の法量散歩図

3 出入り口をもつ建物について

今回報告する F・G 地区をはじめ、H・K・Q・R 地区も含めた南北盛土間では、多数の建物・柱穴群を検出した。これらの建物は様々な規模のものが存在するが、出入り口と思われる柱穴をもつ建物が、一定数存在する。建物に伴う出入り口と推定したものは、0.5~1.0m 程度の間隔を持つ 2 基 1 対の柱穴で、長さ 0.3~1.0m の細長いものが多い。これらの出入り口は円形にめぐる壁柱穴や四本柱の主柱穴と組合わさり、建物（以下、出入り口付き住居）を構成する。こうした出入り口付き住居は縄文時代中期末~晩期にかけて、北海道から中部・関東地方に及ぶ東日本全域に分布する。ここでは岩手県、秋田県以北の北日本の事例を集成し、時期毎の分布を示す。

出入り口付き住居の出現は中期末葉にさかのぼる。出入り口付き住居は関東・中部地方では中期末に出現する柄鏡形住居や敷石住居からの系譜が考えられているが（菅谷1995）、北海道を含めた北日本の事例の中で、柄鏡形住居、敷石住居との系譜を確認できる事例は存在せず、中期末に位置づけられる丹後谷地遺跡の第35、42号竪穴住居跡がもっとも古い事例である。

一方、出入り口付き住居の終末ははっきりとはわからないが、今回の集成では晩期中葉の大洞 C 1 式に位置づけられる右エ門次郎窪遺跡の第 3 竪穴住居跡が、もっとも新しい事例である。関東地方などでもこの時期以後住居跡の検出例が減少し、出入り口付き住居を確認できなくなることから、出入り口付き住居の終末時期はおおよそ晩期中葉と考えてよいと思う。

表51に北日本の出入り口付き住居の一覧表を示した。検出数は後期前葉から後葉にかけて増加し、晩期に入り急激に減少する。特に後期後葉に爆発的に増加しているのがわかる。一方、出入り口付

表51 出入り口付き住居検出遺跡一覧

遺跡名	所在地	中期末	後期前葉	後期中葉	後期後葉	晩期
船泊遺跡	北海道礼文町				2	
ユカンボシ E8遺跡	北海道恵庭市			1		
ユカンボシ E3遺跡	北海道恵庭市			6		
西島松15遺跡	北海道恵庭市			1		
柏木川11遺跡	北海道恵庭市			2		
キウス4遺跡	北海道千歳市					
梅川3遺跡	北海道千歳市			1		
浜松5遺跡	北海道八雲町		3			
釜谷2遺跡	北海道南茅部町				10	
新道4遺跡	北海道木古内町		1		2	
尻高(4)遺跡	青森県平舘村				4	
大石平遺跡	青森県六ヶ所村		2			
上尾駸(2)遺跡	青森県六ヶ所村		2			
神明町遺跡	青森県金木町			1		
砂沢遺跡	青森県弘前市				1	
十腰内(1)遺跡	青森県弘前市					1
丹後平遺跡	青森県八戸市		1	3		
田面木平遺跡	青森県八戸市		4			
鶏窪遺跡	青森県八戸市		1			
風張(1)遺跡	青森県八戸市				14	
丹後谷地遺跡	青森県八戸市	2	3	9	3	
右エ門次郎窪遺跡	青森県南郷村					1
吠屋敷 I a 遺跡	岩手県軽米町					1
大日向 II 遺跡	岩手県軽米町				5	
馬場野 II 遺跡	岩手県軽米町					
大湯環状列石	秋田県鹿角市		1			
検出数合計		2	18	24	41	3
遺跡数合計		1	8	8	9	3

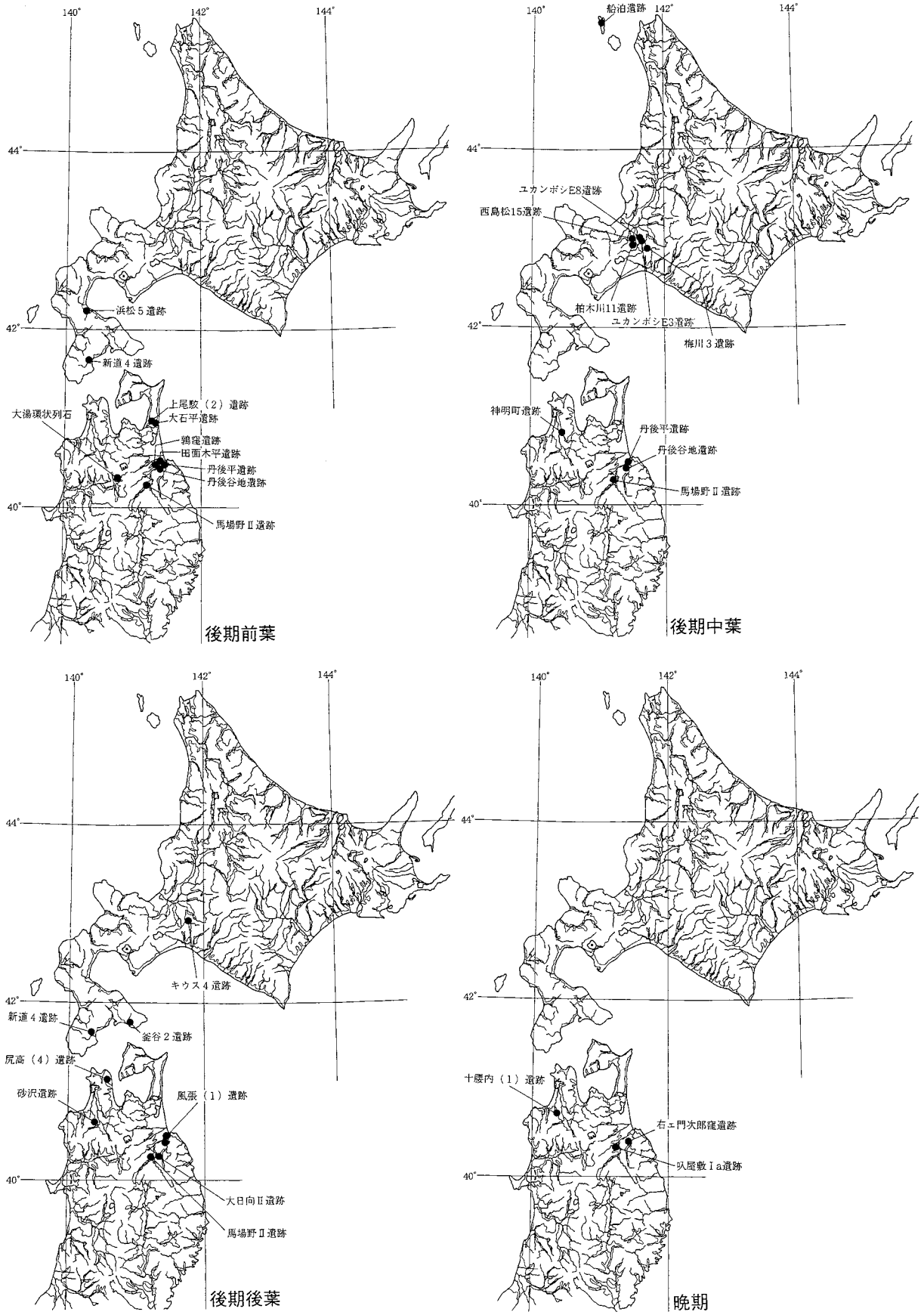


図292 出入り口付き住居時期別分布図

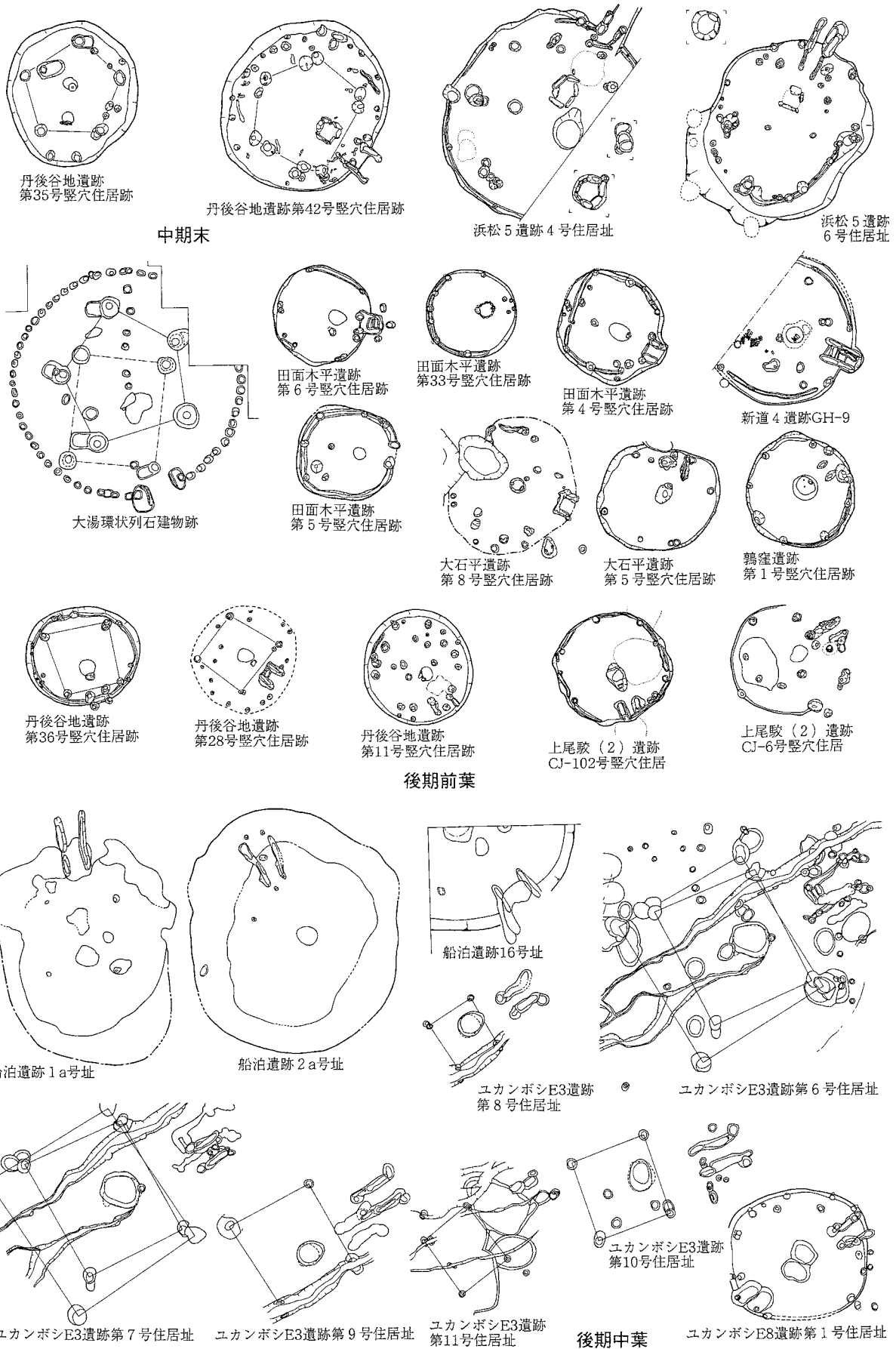
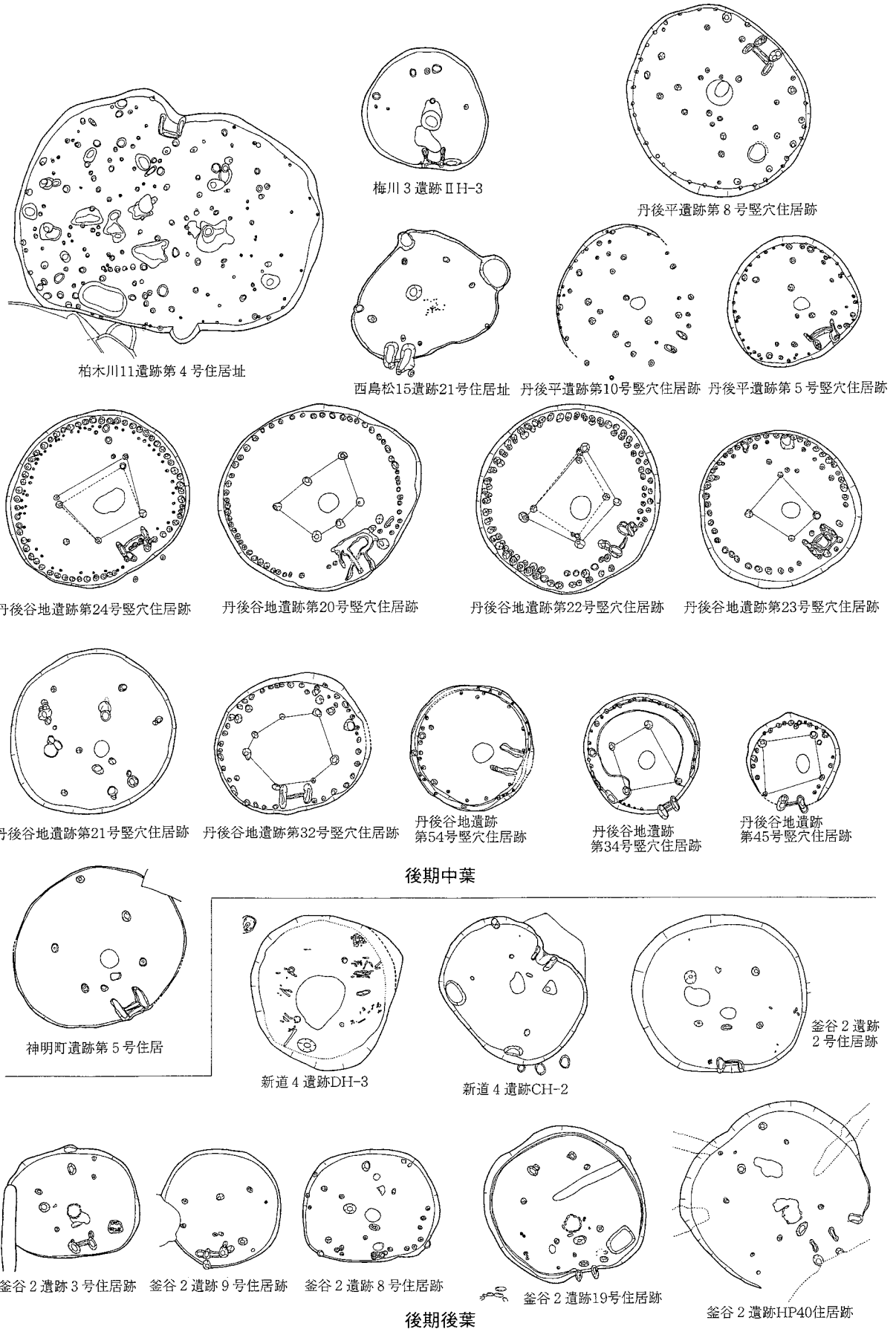


図293 出入り口付き住居(1)



後期中葉

後期後葉

図294 出入口付き住居（2）

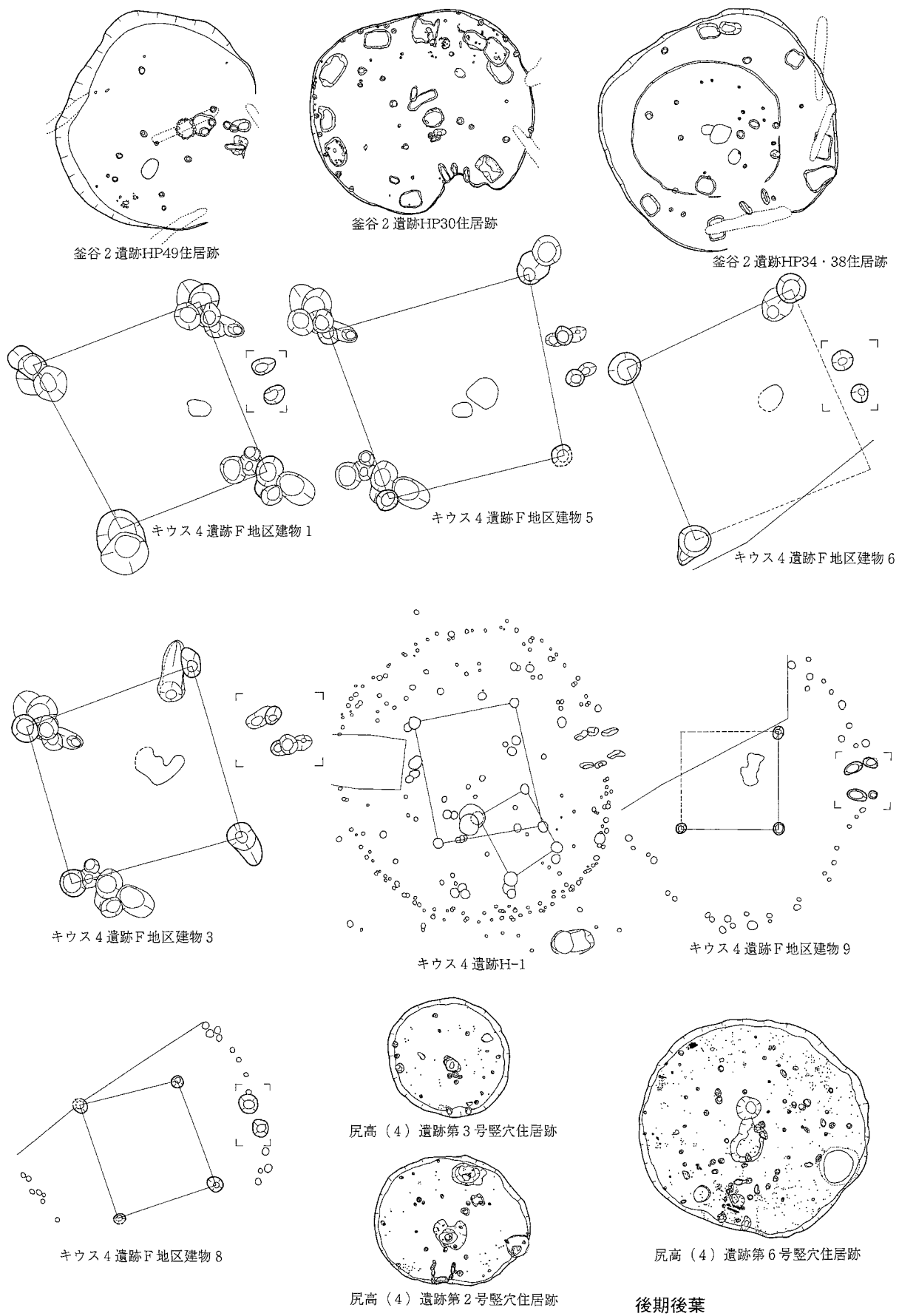


図295 出入り口付き住居 (3)

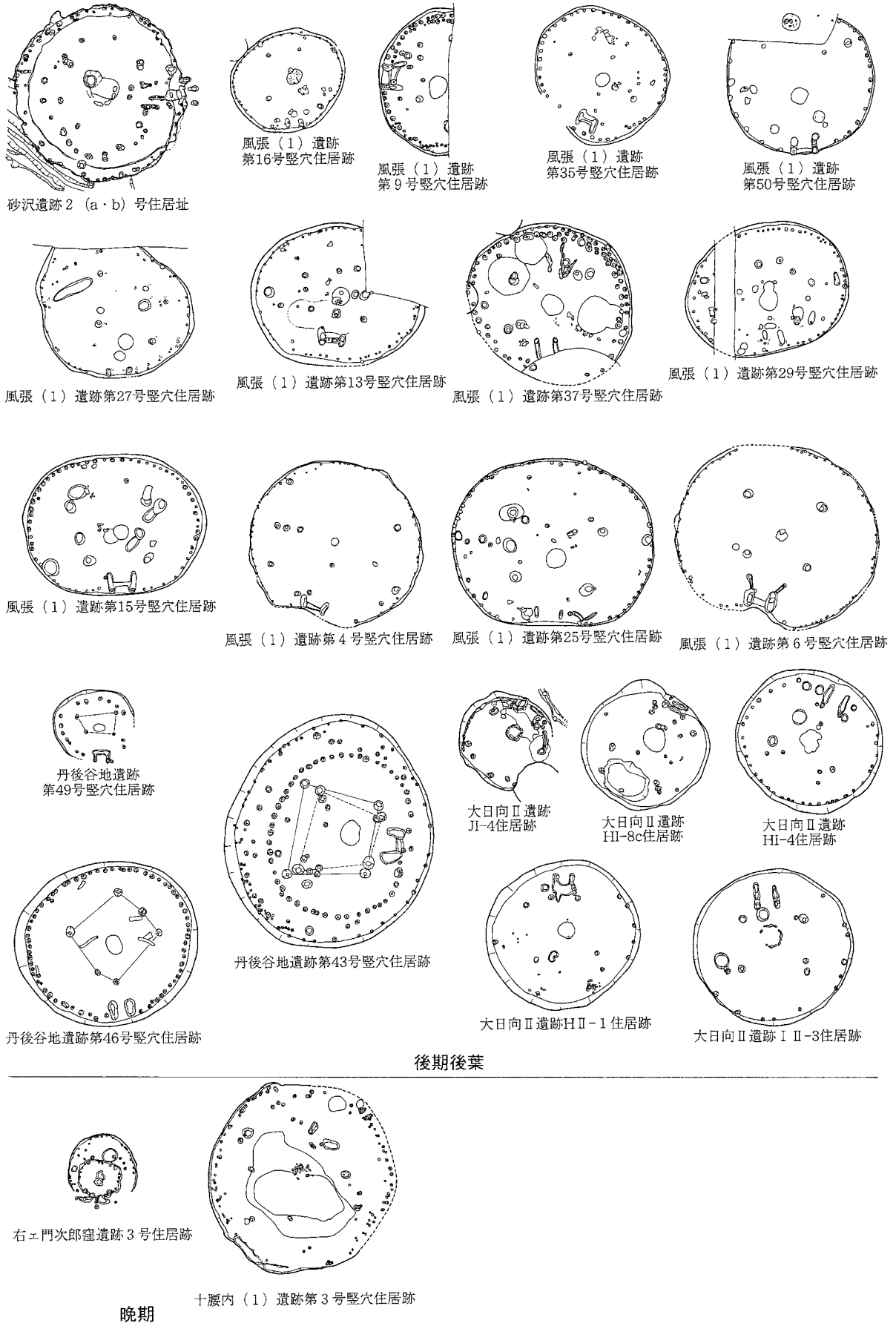


図296 出入り口付き住居 (4)

き住居を検出した遺跡数をみると、中期末と晩期初頭が少ないのは遺構数の場合と変わらないが、後期前葉から後葉にかけて、遺跡数に大きな変化はないことがわかる。これは後期後葉にはキウス4遺跡や風張遺跡などの、出入り口付き住居が多数検出された、大規模な集落遺跡が出現することが原因と考える。

出入り口付き住居の分布を、後期前葉から晩期にかけて時期別にみると（図292）後期前葉は馬淵川流域にあたる岩手県と青森県の県境、小川原湖周辺、道南に分布する。ほぼ全て太平洋側に分布しており、日本海側に位置する大湯環状列石は、今回集めた事例の中で唯一秋田県の遺跡である。中期末葉には馬淵川下流の丹後谷地遺跡でしか確認されていなかった出入り口付き住居が、道央以北を除いた北日本全域に分布するようになる。

後期中葉になると出入り口付き住居の分布は道央から、道北の礼文島まで広がる。北海道では特に千歳市、恵庭市を中心とした道央部の石狩低地帯に集中する。逆に道南ではこの時期の出入り口付き住居は検出されていない。次の後期後葉には道南にも出入り口付き住居が存在する事から、この時期に道南で出入り口付き住居が無くなるのではなく、未だ発見されていないものと理解したい。

後期後葉の出入り口付き住居は、道央ではキウス4遺跡のみとなり、道南では2遺跡で確認できる。先述したとおり、この時期はキウス4遺跡や風張遺跡などのように、出入り口付き住居が多数検出された遺跡が現れるため、検出数の増加と比較し、遺跡数は必ずしも増えていない。また、道央での出入り口付き住居の検出はキウス4遺跡のみとなるが、キウス4遺跡から南へ10数kmのところにある美沢川流域の遺跡では、美々4遺跡を中心にP字形ピットとして報告された柱穴状の土壌や、盛土遺構、周堤墓などが検出されており、キウス4遺跡と似た遺跡構造が確認できる。これらのことから、美沢川流域の遺跡にも出入り口付き住居が存在した可能性がある。

晩期では遺跡数が急激に減少し、北海道ではこの時期の出入り口付き住居は検出されていない。この時期をもって北日本の出入り口付き住居はなくなるものと考えられる。この時期以降、擦文時代まで、北海道では住居跡の検出数そのものが減少し、当時の社会システムそのものが大きな変革を遂げたのではないかと推測する。

以上、出入り口住居の分布を時代毎に概観した。出入り口付き住居の分布は、凡時代的に馬淵川流域、小川原湖周辺、石狩低地帯に集中する。馬淵川流域は特に遺跡数が多く、この地域が北日本の縄文社会における一つの拠点として機能していたものと推測する。日本海側では大湯環状列石で1例確認した以外は、東北地方、北海道ともに確認できない。後期の遺跡そのものは、北海道、東北地方の日本海側でも少なからず確認されていることから、出入り口付き住居は太平洋側を中心に分布していたと考えられる。また、太平洋側でも道南と道央の間に当たる内浦湾沿岸では、出入り口付き住居が検出されていない。内浦湾沿岸では、後期の遺跡そのものが少ないことから、キウス4遺跡をはじめとする道央部で検出されている出入り口付き住居は、道南を経ずに、馬淵川流域や小川原湖周辺の遺跡との交流を通して受容された可能性が高い。縄文時代後期には隣接地域相互の直接的な交流よりも、各地に存在する拠点的な集落を媒介とする、複雑なネットワークが機能していたのではないかと推測する。キウス4遺跡は、道南地域との直接的な交流よりも、馬淵川流域、小川原湖周辺の遺跡を媒介とする交流の中で、道央部の拠点集落としての位置づけを高めていったものと考えられる。また、このような、拠点集落を媒介として遠隔地を結ぶネットワークは、翡翠や赤彩土器などの威信材の流通とも関わるものと考えられる。（石井淳平）

4 キウス4遺跡の構造と建物の配列について

キウス4遺跡は墓域である周堤墓、捨て場としての盛土遺構、南北盛土遺構間の建物・柱穴群で構成される。図298にキウス4遺跡の全体図と、東西南北および夏至、冬至の日の出、日の入りの方位を示した。また、建物の主軸方位と、周堤墓および周堤墓外の土壌墓の長軸方向の平均値と標準偏差を示した。ストライプのトーンをかけた範囲が、標準偏差の範囲となる。また、周堤墓外の土壌墓と周堤墓の墓壇の長軸方向の平均値もそれぞれ示した。盛土遺構の長軸方向と建物群の主軸方位はほぼ平行しており、いずれも東西方向が意識されている。これに対して、周堤墓の墓壇を含む土壌墓の長軸方向はほとんどが北西-南東方向であり、建物とは異なる方位を意識していたことをうかがわせる。

周堤墓の墓壇と周堤墓外の土壌墓の長軸方向の平均値には差があるようにも見えるが、統計的に有意な差はなく ($p=0.079$)、どちらの土壌墓も同じ方位を意識した可能性が高いと推測する。

建物の方位の平均値は $N - 11.32^\circ - W$ であるが、分布をみると正規分布にはならず、 $N - 0^\circ - W$ から $N - 20^\circ - W$ まで、ほぼ同数分布し、 $N - 20^\circ - W$ より西、 $N - 0^\circ - W$ より東では急激に減少する (図297)。当初、建物の方位は、東西南北に平行するとの見通しをもっていたが、平均値の95%信頼区間は $N - 11.32^\circ - W \pm 2$ で、真北はこの範囲に含まれていない (表52)。この場合、建物の方位の平均値と真北が一致する確率は、5%以下であり、建物の方位が真北を基準とした可能性はきわめて低いといえる。したがって、建物群の方位は必ずしも絶対的な方位を基準にしたのではなく、東西南北を意識しながらも、盛土遺構など、周囲の状況に合わせて任意に決められた可能性が高い。キウス4遺跡は低湿地へと続く舌状に張り出した台地上に位置しており、遺跡の広がりもこうした地形の制約を受けているものとする。

一方、土壌墓の長軸方向は北西-南東方向である。巨大な盛土遺構やそれに規制される建物群とは異なり、土壌墓の長軸方向の決定が地形の制約によるものとは考えにくく、何らかの方位観が存在したものとする。周堤墓を含む縄文後期末の土壌墓の長軸方向に北西-南東方向が多いことは

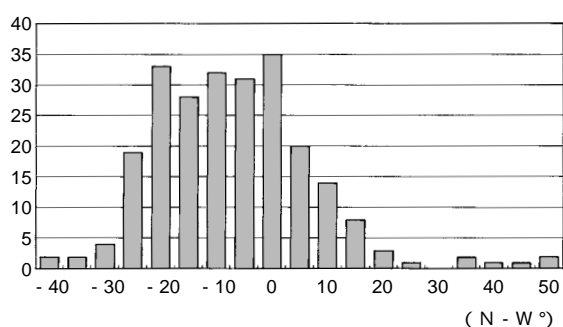


図297 建物の方位ヒストグラム

表52 建物の主軸方位 (N - W °)

平均	- 11.32
標準偏差	15.67
分散	245.58
最小	- 45
最大	75
標本数	239
信頼区間(95.0%)	- 11.32 ± 1.99

表53 周堤墓の墓壇の方位の分布

美々・美沢 (N - W °)		柏木B (N - W °)		末広 (N - W °)		全ての周堤墓 (N - W °)	
平均	45.42	平均	64.51	平均	58.36	平均	54.15
標準偏差	25.64	標準偏差	19.66	標準偏差	20.68	標準偏差	25.02
分散	657.62	分散	386.54	分散	427.67	分散	625.84
最小	0	最小	11.4	最小	10	最小	0
最大	95	最大	95.5	最大	86	最大	99
標本数	131	標本数	58	標本数	22	標本数	240
信頼区間(95.0%)	45.42 ± 4.43	信頼区間(95.0%)	65.51 ± 5.16	信頼区間(95.0%)	58.36 ± 9.16	信頼区間(95.0%)	54.15 ± 3.18

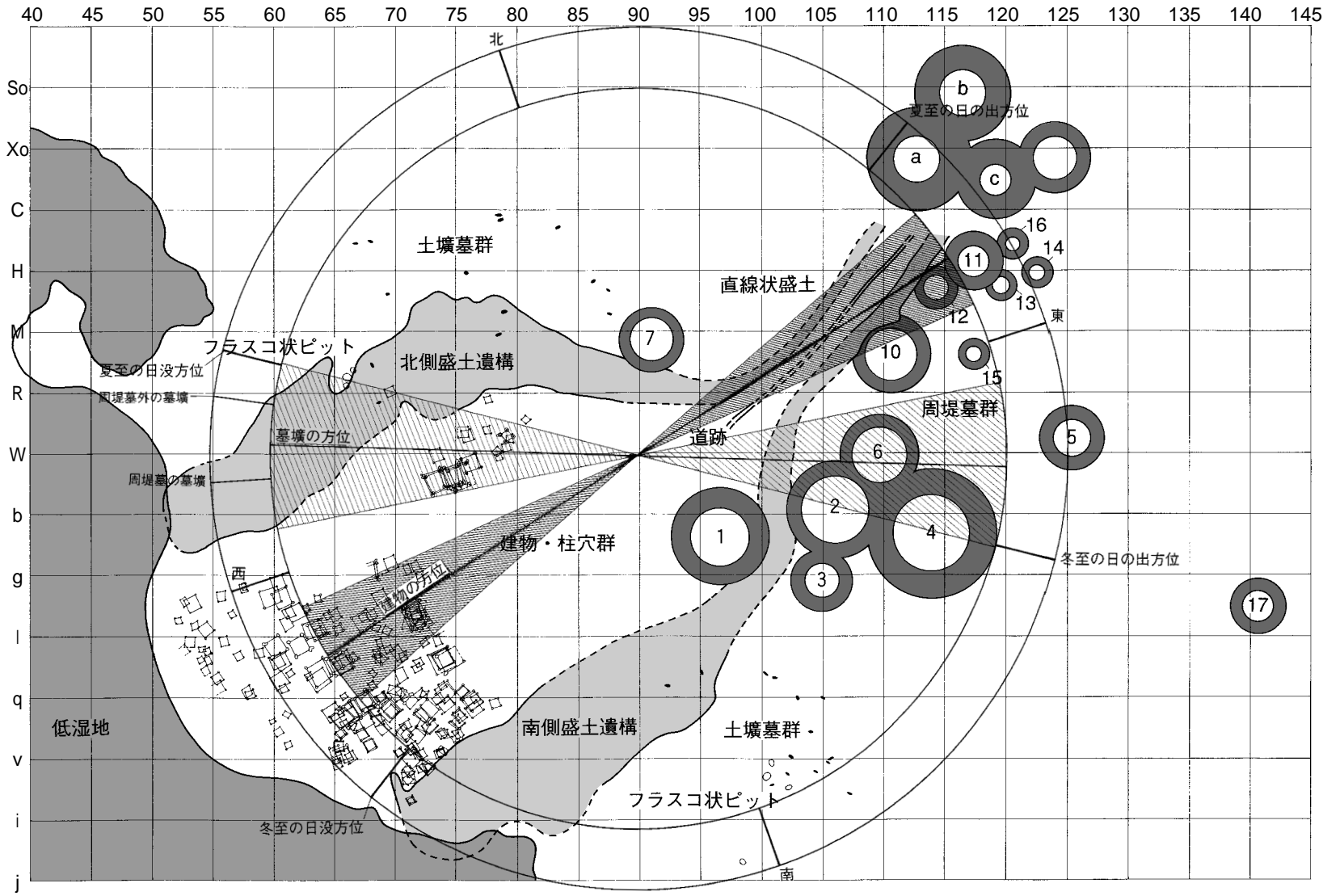


図298 キウス4遺跡集落構造

これまでも指摘されており（乾1981、藤本1971）絶対的な方位の基準が存在した可能性が高い。この場合、方位の基準となりうるものは山や木や岩など地表の目標物ではなく、太陽や月などの天体であった可能性が高い。キウス4遺跡の緯度を北緯43度とした場合、夏至の日没方位はおよそ $N - 58^{\circ} - W$ となる。キウス4遺跡の周堤墓内の墓壙を含む土壙墓の方位の平均は $N - 69.39^{\circ} - W$ となり、夏至の日没方向とは 10° 以上のずれがある。また、土壙墓の長軸方向の平均値の95%信頼区間は、 $N - 69.39^{\circ} - W \pm 6.61$ となり、夏至の日没方位を含まない。したがって、キウス4遺跡では、土壙墓の長軸方向が夏至の日没方位を基準とした可能性は低いと考えなければならない。しかし、縄文時代後期末から晩期初頭の墓壙の方位に北西 - 南東方向をとるものが多いことは事実であり、方位に対する何らかの基準が存在した可能性は非常に高いと考える。先述したように、天体の運行を基準にしているものと思われるが、単純に冬至、夏至の日没、日の出方位を基準にした

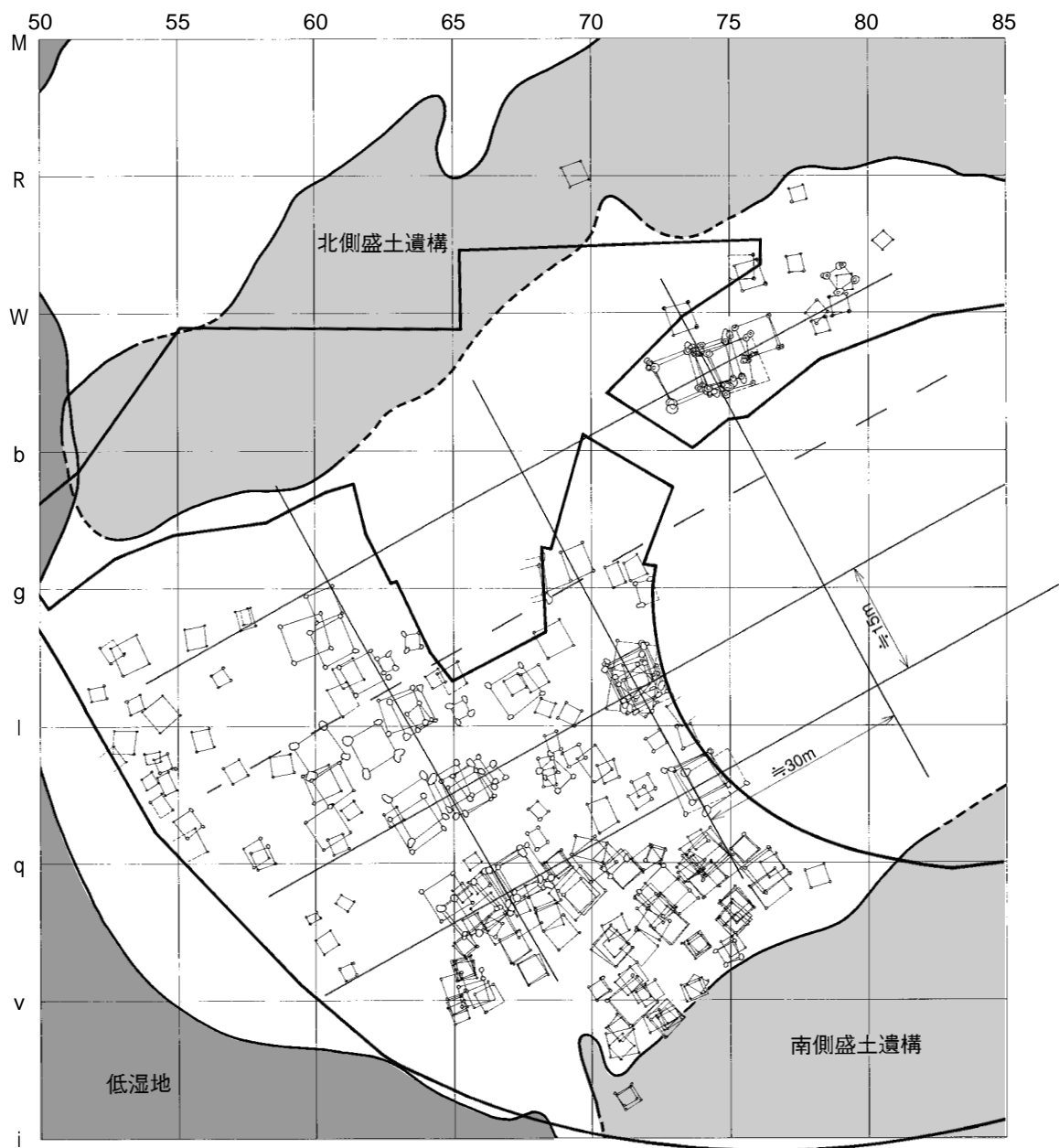


図299 建物の配列

だけではなく、季節毎の日の出、日の入りの位置や、月の運行などが方位の基準として用いられた可能性も考えられる。美々・美沢遺跡、末広遺跡、柏木B遺跡の周堤墓の墓壇でも同様の作業を試みたが、墓壇の長軸方向の平均値には遺跡毎にばらつきがあり、見通しを得ることができなかった(表53)。ただし、キウス4遺跡の土壇墓と周堤墓の墓壇、および上記の3遺跡の全ての周堤墓の墓壇の平均値はN - 54.15° - W となり、夏至の日没方位により近い値となる。

次に南北盛土遺構間で検出された建物群の配列について考察する。柱間距離5m前後で、主柱穴の直径が1mを越える大型の建物は、同じ場所で何度も建て替えを繰り返しており、選地に強い規制があったことをうかがわせる。発掘調査中から建物の分布に粗密があることは調査担当者間で意識されていたが、具体的な配列を考えるには至らなかった。整理作業が進み、全ての建物を同一図面上で比較することによって、建物の配置の規則性について考えることができた。

図299は建物群の配置図と30m×15mのメッシュを重ね合わせたものである。メッシュの方向は、建物の方位とほぼ等しいN - 9° - W に設定した。柱穴が非常に密集すること、建物の一部が調査範囲外に広がること、年度を越えて調査が行われたことなどの理由で、建物を復元しきれなかったため、グリッドの交点に建物が存在しない箇所もあるが、重複を繰り返す大型の建物の多くは、このグリッドの交点に位置する。南北盛土遺構間の広場は大型建物が規則的に配置され、その周囲に小型の建物が分布するという景観を示していたようである。また、大型の建物の間には通路が存在していたと推測するが、大型の建物の周囲には小型の建物や、その存在を示す小柱穴が多数存在するため、具体的な通路を復元することはできなかった。R地区の調査を担当した和泉田は柱穴の稀薄部分に注目し、道が存在した可能性を指摘している(北埋調報148)。

発掘された結果からは南北盛土遺構間の広場は、無数の柱穴が一面に広がり、建物群が無秩序に重複しているように見えるが、これはキウス4遺跡における活発な活動の累積結果であり、実際には整然とした秩序をもって建物が配置されていたものと考えられる。こうした秩序は建物の配置のみにとどまらず、盛土遺構や周堤墓を含むキウス4遺跡全体が一定の原理原則をふまえた上で構築されていた可能性が高いと推測する。

本稿では方位や配置といった単純で幾何学的な概念をもとにキウス4遺跡の構造を推測した。このような手法は、環状列石や大規模集落の構造を明らかにする手段として、これまで様々な遺跡で試行されており、一定の成果を上げているようである(古屋敷1996)。今回の分析によりキウス4遺跡の構造の一部は明らかにできたと思うが、墓壇の長軸方位や建物の方位については説明できない部分が多く、はっきりとした結論を導き出すことができなかった。(石井淳平)

5 土器

(1) 搬入品の土器

F、G地区からは、平成9年度に報告済のL地区、平成10年度のA1、I地区、平成11年度のD地区に引き続き微隆線をもつ、赤彩された搬入品の土器が盛土遺構から検出された。器形は注口土器と考えられる破片が多いが、その他に巻貝形土器（巻貝形土製品等の記述もあるが、ここでは片口形土器の変形と考えている）の破片や土偶片も確認されている。これらの遺物は、個体数が限られているうえ、赤彩されて目立つ遺物であるため、報告済の地区で出土した資料や、まだ整理中であるR地区の遺物と比較しやすい状況にあった。これらの資料を比較検討した結果、離れた地点で接合することや、同一個体の破片が広域に分布することが確認された。まだR地区の整理は継続中ではあるが、本地区の整理終了時点で確認された状況を記す。

《出土状況》

図300上段には南側盛土遺構（以下「南盛土」）を含む広域の範囲での接合した状況を示した。実測図の下にある数字は掲載番号で、青色の数字は土製品で掲載した番号である。93の土偶の右足片は、指の表現が施される足首から先と、未接合の胴部片が北側盛土遺構（以下「北盛土」）から出土し、残りの破片はすべて南盛土から出土した。土製品88の土偶と考えられる破片の一片が、南盛土の破片と接合したが、これはベンガラが塗布された在地のものと考えられる。337の注口土器の頸部から上の破片では、本地区から出土の破片がL地区の破片と接合し、さらに南盛土の破片が接合した。1352の巻貝形土器片は、殻頂部が南盛土から、破片下端が北盛土から出土している。

図300下段には、未接合ではあるが、同一個体と確認した3個体分の破片の分布状況を示した。ここでは、報告済のI、L地区の遺物も掲載し、報告書名を記入した。出土地点が近く煩雑なので、個体ごとのシンボルを変えた。また、図中の実線部は接合したものの、破線部は未接合の破片である。

で示した個体は、小さい破片が多数出土しているが、接合するものが少ないため、器形は不明である。赤褐色の土器地肌と、幅1/2ミリメートル以下の細い線で刻まれた文様帯が特徴となっている。で示した個体は、すでにA1地区とR地区で接合したことから、南北盛土間の接合例の一つとなったが、本地区との接合関係がないので、R地区の報告で掲載する。器形は丸い胴部に半球形が重なる瓢形の注口土器と考えられる。黄褐色の地肌と胎土から同一個体片と判断した。で示した個体は、砂粒混じりの胎土と、底部無文帯と胴部の文様帯の境に施される格子目状の細かい沈線文が特徴となっている。これらの遺物は、現時点では同一個体の確認までしか進まなかったが、R地区の整理が進めば、新たな接合関係が生ずる可能性がある。

図301には本地区から出土した搬入品と考えられる土器の出土状況を示した。で示した遺物は出土地点を測量していない遺物で、（赤丸も含む）は測点した遺物である。復元できた376は、頂部に大きな装飾が施され、口縁部が斜めの位置に付けられる瓢形の注口土器で（口縁部が上に付く注口の良好な資料が岩手県長倉I遺跡から出土している。図302-1）、337も同様の器形と考えられる。同じ器形のもは、キウス4遺跡でこの他に2例報告されている（図302-3）、376（2）の装飾部片は、体部側面に付けられる貼瘤と考えられ、類似する形の貼瘤が施された土器が、岩手県長倉I遺跡で出土している（図302-2）。ただし、この貼瘤片と本体は未接合なので、別個体の可能性もある。1458も注口土器である。注口部の先端と、斜めに付けられた口縁部の破片が無く、その形状は不明であるが、破片資料の1461と似た、刻みが施された二列の隆帯が数列巡る文様だった可能性がある。この土器の破片は、一部が割れてから被熱しており赤色顔料と割れ口に黒ずんだ変色が見られる。376、1458の注口土器は北盛土の破片だけで復元でき、出土範囲も比較的ま

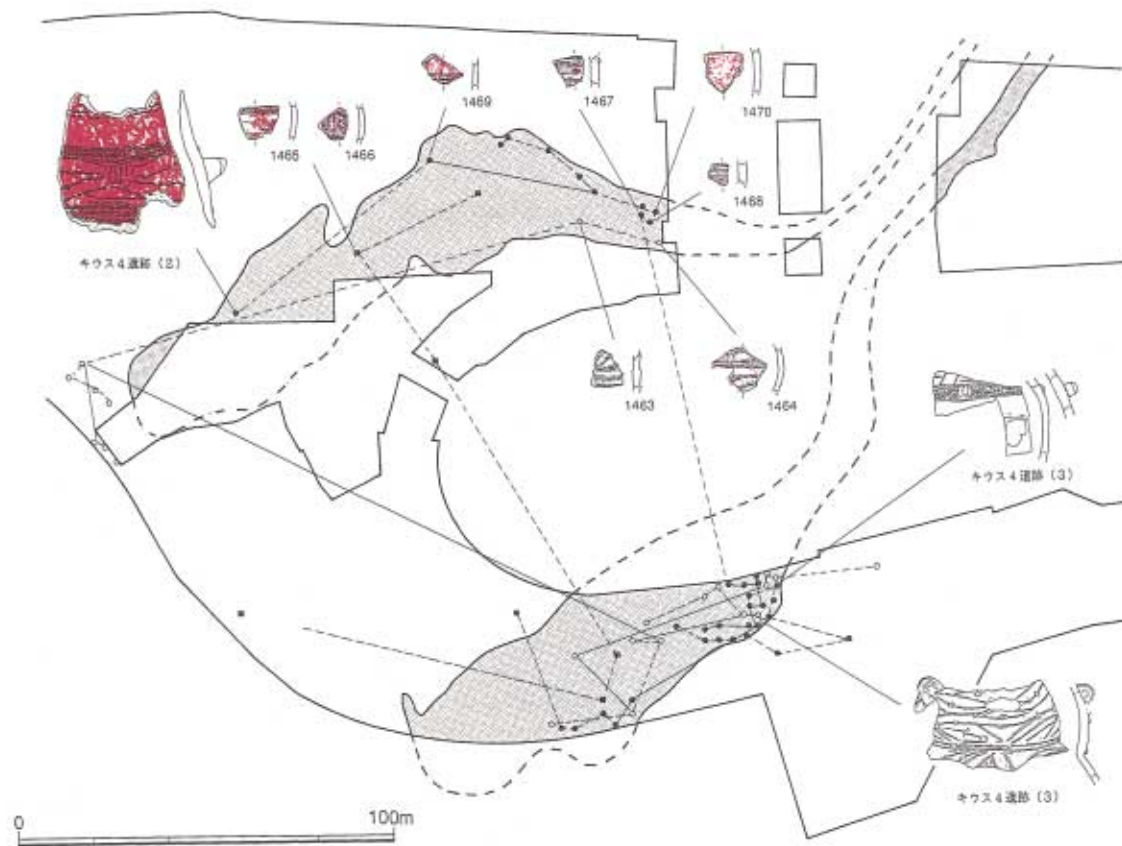


図300 南北盛土遺構間接合（出土）状況図（1）

とまっているが、個々の破片はたいへん細かく、故意に細かく碎いて廃棄している可能性がある。

《文様の特徴》

これらの赤彩された搬入品は、出土した盛土の層位や文様の特徴から、時間幅のある土器であることが考えられる。代表的な文様には、微隆線（微隆起線文、ミミズ腫状の微隆線などと表記されている文様だが、平成9年度の報告で微隆線と表現しているの、ここでは統一した表現を用いる）、貼瘤文、細かい刻みが施された隆帯がある。沈線のみや縄文の施される個体も確認されているが、個体数は少ないようである。微隆線は線の両側を沈線で区画した後へラ等で調整を加え、中央を盛り上げたもので、古手と考えられる資料には、比較的幅のある微隆線を2～3条一組の単位で用い、入組み文や弧線文を施すものが多い。新木の資料になると、微隆線が細くなり、新たに細かい刻みが施される隆帯が加わる。この隆帯の施文方法も微隆線と同様で、この上に斜めや縦の細かい刻みを施す。在地の土器の文様は、刻みが無くなる方向で変化するのに対し、搬入品は逆の変化をするようである。貼瘤文は古手では、同時期の注口土器全般に付けられる位置と同じ、体部側面や口頸部に施されるが、新木になると従来付けられる位置の貼瘤は、より大きく尖った形状に変化し、この他に文様の区画に用いられる隆帯上に多くの貼瘤が施される。この時期の資料の微隆

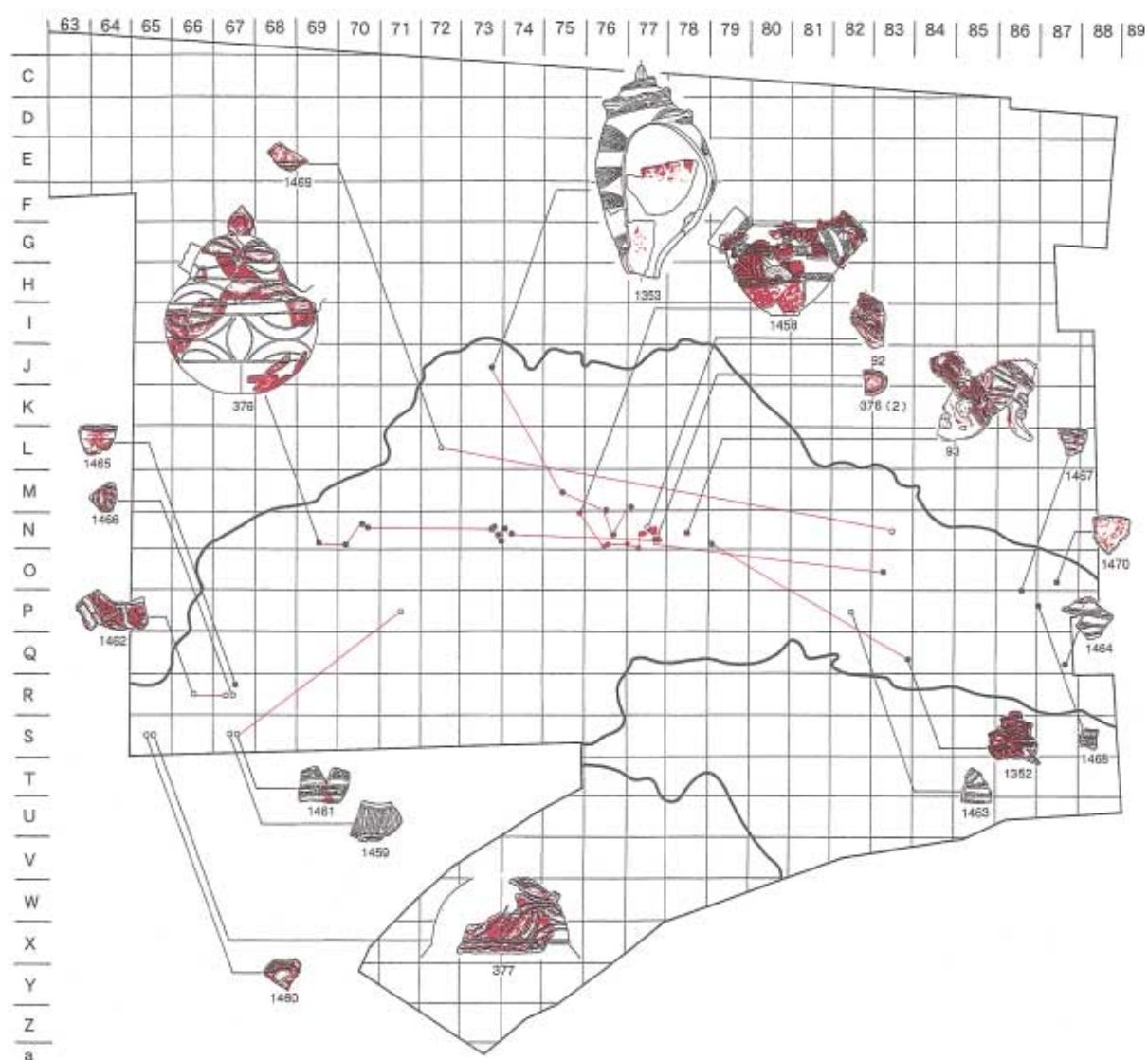


図301 F・G地区搬入品土器出土状況図

線上にも、ヘラ調整で付けられた小さな瘤が施される。刻まれた隆帯を持たない時期の資料には、微隆線上に明確な貼瘤文を施した資料がある（図302 - 2）ことから、これらの貼瘤文の簡略化されたものが、新手の資料に施されたと考えている。

《巻貝形土器》

1352、1353は巻貝形土器である。両者とも右巻で、前者は外面、後者は内外面に朱が塗られている。巻貝形土器は、北海道では初の出土例で（タカラ貝、イモ貝、アワビも巻貝の仲間で、イモ貝を利用した製品を模造した土製品、石製品は北海道でも存在する。ここで使う「巻貝」には、先にふれた3種類の貝類は含まないものとする）さらに、複数で出土した遺跡は、全国的にも新潟県上山遺跡とキウス4遺跡の2例だけである。ただし、破片から巻貝形土器を判断することは難しく、各地で出土している破片の中に潜在的に存在している可能性はある。全体の器形がわかる巻貝形土器は、重文に指定されている新潟県上山遺跡出土の土器をはじめ、宮城県岩ノ入遺跡、岩手県近内中村遺跡、岩手県中神遺跡（図302 - 4）出土の完形品に近い4例があるが、これらの数少ない資料を比較しても、上山、近内中村遺跡の土器は巻きの方向は異なるが、巻貝のイメージをそのまま形にしたものであるのに対し（ボウシュウボラ等の具体的な種に触れている報告もあるが、考古学雑誌第47巻第3号で上原甲子郎氏が述べているように巻貝の類型をイメージしたものと考えている）岩ノ入、中神遺跡の資料には、上げ底の底部が付いており（岩ノ入遺跡の資料の底部は欠損しているが、文様構成から見ても底部が付く可能性は大きい）器としての様相も色濃く残しているなどの違いが見られる。

本遺跡から出土した2例のうち殻頂部片の1352の器形は不明だが、やや強引に復元した1353には底部は無いが、2点の殻頂部の内面を比較すると、1352は注口土器の胴上部のように、外側のみの整形で作られたような粗い調整となっているのに対し、1353は丁寧に磨かれ、赤彩された痕跡がある。このことから、殻口部に当たる口縁が殻頂部に接近した構造であることと、調整する際の手が入る広さを持つことが推測された。これらの条件で復元した個体には、器としての様相が残った。貝殻の水管溝に当たる片口状の部位が先端まで残っている資料には、近内中村、中神遺跡の2例があるが、どちらも器長（殻高）の1/4～1/3程度の長さで作られており、他の資料も同様の長さがあった可能性が高い。

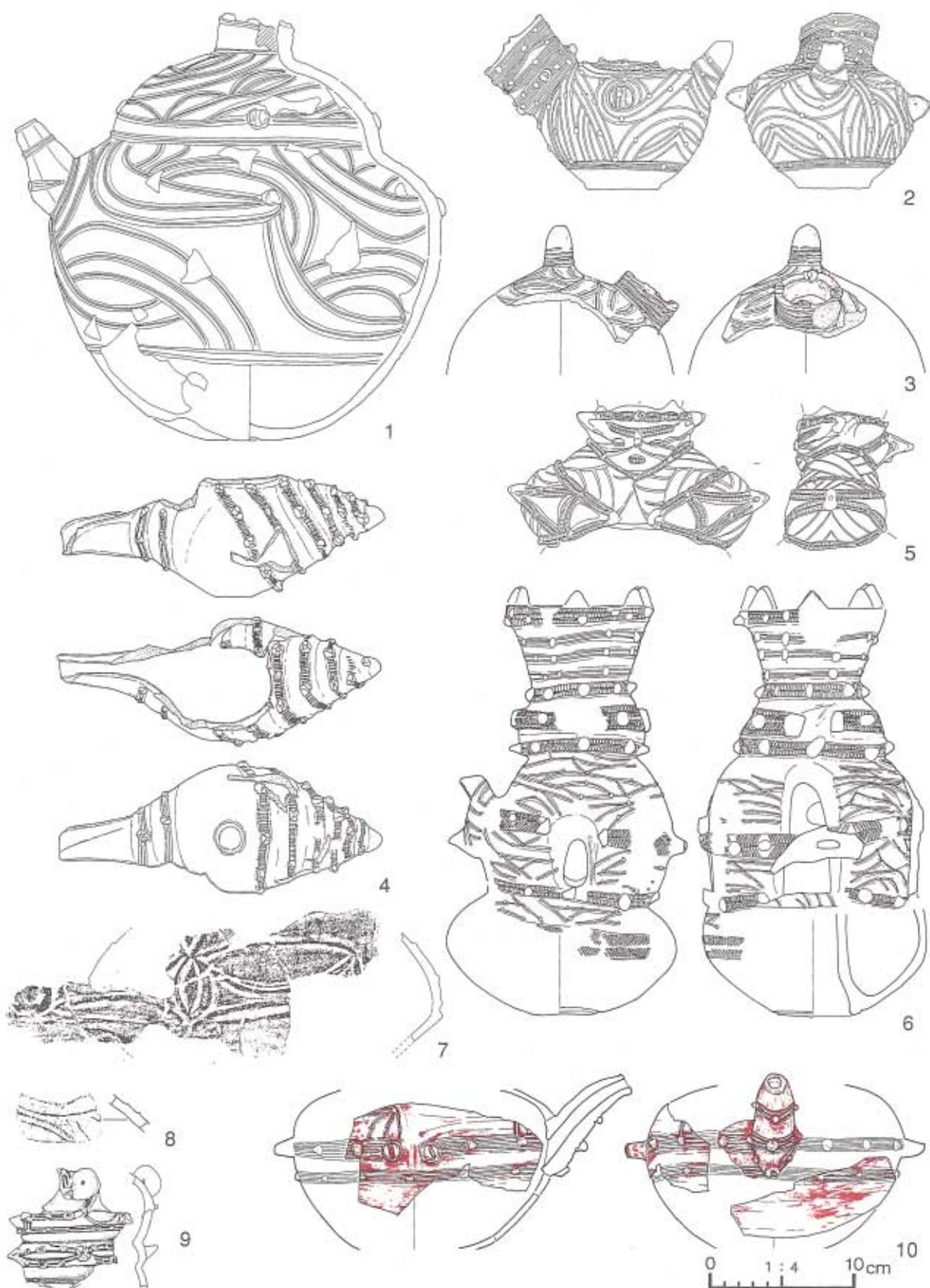
《土偶》

土製品の93に掲載した土偶の右足片は、文様の特徴から巻貝形土器などの新手の資料と同時期のものと考えられる。残存する破片は腰から下の主に右足側半分で、膝を折り中空の作りとなっている。膝頭には他の部位が接していた欠損部があることから、東北各地から出土している、腕の一部が膝に接し腰をおろした姿勢の屈折土偶（座産土偶）と考えられ、道内では初の出土例である。青森県八戸市の風張遺跡から出土した「合掌する土偶」（これは中空土偶ではない）の臀部には円形の刺突が施されるのと同様に、この土偶の臀部にも貫通孔が1か所空けられ、再生を象徴しているようである。

同様の文様を持つ土器には、山形県宮の前遺跡（図302 - 5）や、秋田県鹿爪遺跡、狐森遺跡で人面付土器が出土しているが、土偶と考えられる破片で、さらに、中空の屈折土偶の出土は全国的にも初の出土例である。

《道内での出土例》

道内で出土している赤彩された搬入品の土器は、『キウス4遺跡（2）』（北埋調報124）で阿部がふれているが、馬追丘陵の西斜面や、美沢川流域に集中している。この地域は国指定史跡キウス周



1, 2 岩手県軽米町長倉 I 遺跡 5 山形県村山市宮の前遺跡 8~10 北海道千歳市美々4 遺跡
 3 北海道千歳市キウス4 遺跡D地区 6 北海道長沼町1 2区B遺跡
 4 岩手県花泉町中神遺跡 7 北海道苫小牧市美沢 I 遺跡

図302 類例遺物実測図

堤墓群をはじめ、堂林式土器の標識遺跡である長沼町幌内堂林遺跡も含む後期後葉の遺跡が集中する地域である。具体的には、遺跡の立地条件や遺物の出土状況から盛土遺構であった可能性も考えられる長沼町12区 B 遺跡で異形環状土器（図302 - 6）が、千歳市美々4 遺跡で注口土器片、図302 - 8 ~ 10が、苫小牧市美沢1 遺跡でも注口土器と考えられる破片、図302 - 7が出土している。図302 - 10は、収蔵遺物の再整理の際に美々4 遺跡出土の遺物中で発見された未報告の注口土器で、この個体の口縁部と考えられる破片が図302 - 9である。また、この地域では、本遺跡の東側に隣接するキウス5 遺跡で加曽利 B 1 式併行の注口土器が出土しているほか、美沢川流域の遺跡群においても、具体的な説明はされていないが、同様の資料が出土しており、後期中葉から遠隔地との交流が行われていたようである。このほか、道内の最近の出土例では、平成12年の道南の八雲町野田生1 遺跡で微隆線の施された赤彩された注口土器がほぼ完形で出土した。道内の出土例はまだ地域がかぎられているが、キウス4 遺跡と同時期の遺跡調査自体が道内の他地域では少ない状況にあり、今後調査例が増えれば、道東北域にも赤彩された土器が出土する可能性は十分にあると考えられる。

《南北盛土遺構間の接合》

赤彩された土器が、故意に細かく砕かれて廃棄されている可能性があることは先にも触れたが、出土している遺物の中には、石棒や在地の土器も故意に割られた可能性があるものがあつた。特に石棒は、墓の副葬品として出土する場合は完形に近いが、本遺跡で調査された後期後葉の墓壙（周堤墓を含む）では石棒の副葬例がなく（墓壙の副葬品も全般に少ない）、石棒はすべて盛土遺構から頭部片や体部片として検出した。石棒も広域に廃棄されている可能性が高い遺物として注意していたが、今のところ離れた地区との接合関係は生じていない。一方で整理が進むにつれ南北盛土間で接合する在地の土器が確認された。現時点での接合例と同一個体片が確認されたものを図303の上下段にまとめた。なお、この図中の実線で結ばれた地点は接合例で、破線部は同一個体片の確認地点である。図中には、石器で唯一南北盛土間で接合したオロシガネ状石製品の出土地点も示した。破片ごとの具体的な接合状況は、11は破片の大部分が北盛土から出土しているが、同一個体片の1片が南盛土の破片と接合した。495は北盛土でまとまって出土した大きな口縁部片に、I 地区で報告された底部付近の破片が接合した。499では口縁部3片がすべて南盛土から出土し、未掲載の同一破片では逆に口縁部が北盛土から、下部が南盛土から出土し接合した。756は胴部片2点が南盛土から接合したほか、破片が数点出土している。北盛土の同一個体片は、東西約40メートルの範囲に散在した。761は口縁部片同士の接合で、南盛土からはこの他に複数の口縁部片が出土している。1044は注口土器の頸部片で、うち1点が南盛土から接合し、この他に数点の同一個体片が北盛土で出土している。未接合の破片では、502の口縁部片1点と194の口縁部片多数が南盛土から出土し、破片の一部は『キウス4 遺跡（3）』で報告されている。55、516はそれぞれ胴部片が、南盛土から出土している。

現時点で接合あるいは同一個体を確認している土器は、やや古手の資料で時期にまとまりがあり、赤彩された巻貝形土器や土偶が出土した層とは時期が異なる。また、在地の個体が接合した地域は南盛土では、平成9年度調査のI 地区側に集中しているほか、掲載された495の同一個体片がD 地区の直線状盛土からも確認されている（図307下段）。このことから南北盛土間で接合した在地の土器は、盛土遺構の東側に広く散布していることが予測される。接合が集中する盛土の間は、建物跡と考えられる柱穴群や、盛土下の焼土群も途切れているようで（図10参照）、集落の周りに生活廃棄などの要因で自然発生的に生じた初期の盛土遺構（この中にも廃棄儀礼的な出土をした遺物がある）もこの範囲に収まっていたと考えられる（北盛土は特に地形の制約を受けないため、建物跡や

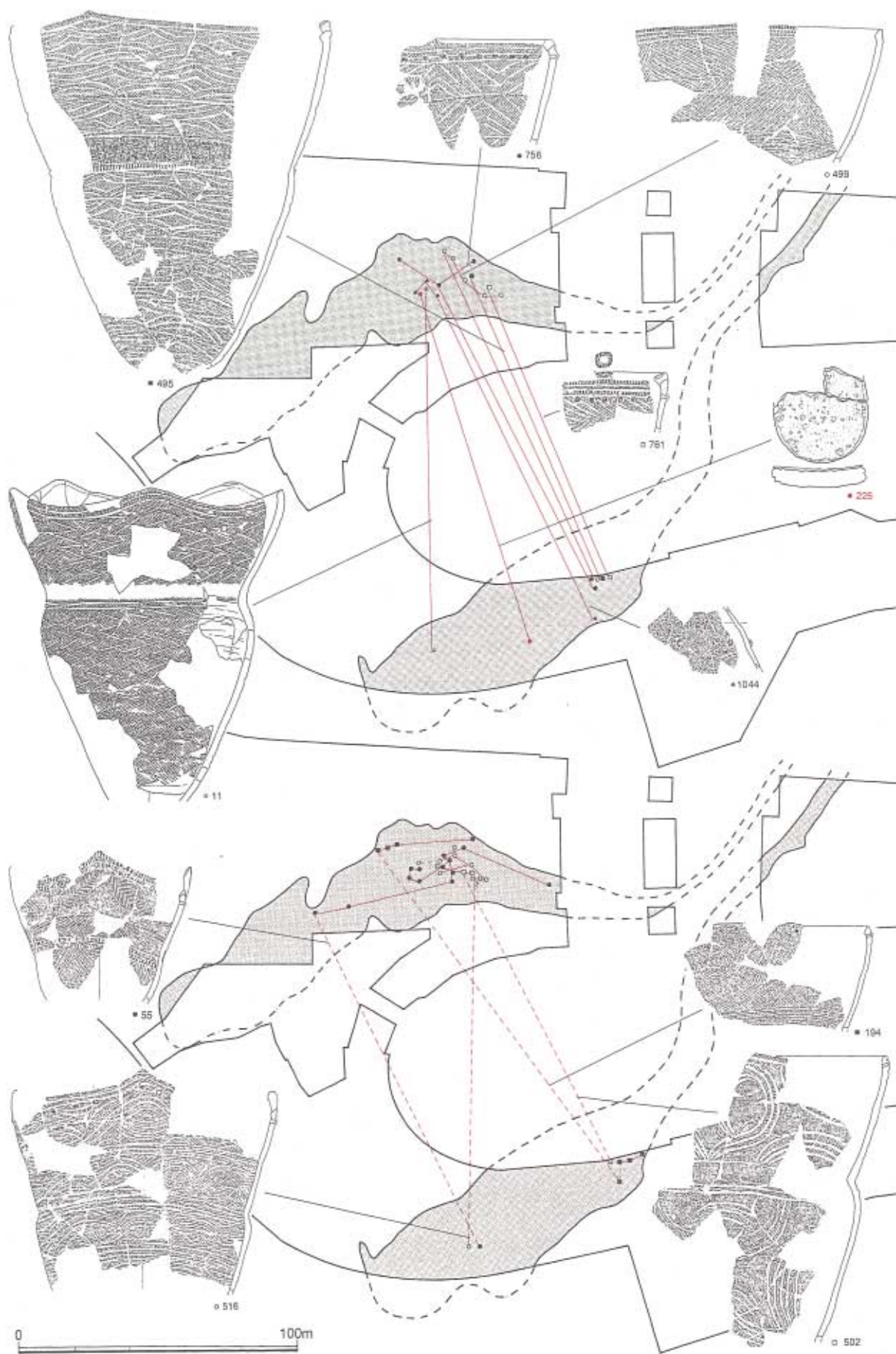


图303 南北盛土遺構間接合（出土）状況図（2）

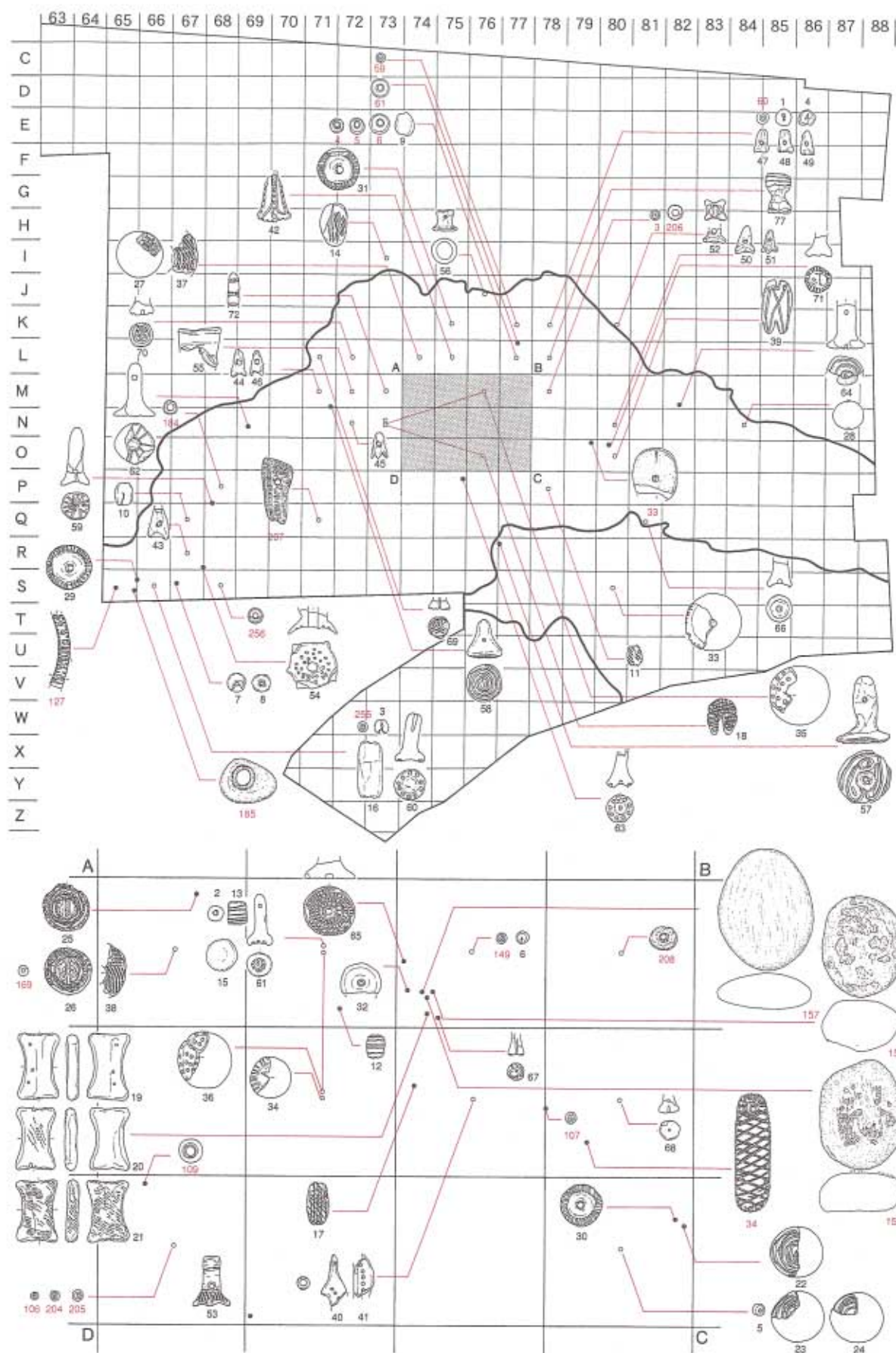


图304 F·G地区土(石)製品出土状況图

墓墳、焼土、盛土の分布域が重複する場所がある。南北接合した土器の分布は、それよりも東側に拡がり、これが盛土の形成過程の痕跡を示すものとする、これらの資料の時期に、盛土遺構は一挙に整備され、墓域（周堤墓）や道跡を含む最終的なキウス4遺跡の全体像に近づいた可能性がある。建物の集中する地域の北側の盛土は、その後祭祀的な場としての性格が強まる傾向がみられ、搬入品の巻貝形土器や土偶の南北盛土間接合例は、その活動の痕跡と考えている。これらの遺物は主に盛土の褐色土層（比較的新しい層）より出土しており、同じ層からは赤彩された注口土器の1458が出土している。この土器が出土した周辺では、土製品、石器、石製品が並んで出土するなどの特殊な出土状況が確認された。それらの出土状況は図304の上下に示した。この図中の赤番号は石器で掲載された番号を示す。土玉、垂飾品類は、同形の製品が数点まとまって出土する傾向が盛土の各所で見られる。特に ABCD で囲んだエリアでは、長径20センチ強の偏平な円礫が三角に並んで出土し（本遺跡の盛土遺構は全体に礫は少ないため20センチを超える大きさのものは目を引くサイズである）、そのすぐ脇からは、平面が鼓形の偏平な土製の垂飾品が、3点まとまって出土した（土玉・垂飾品類には3個ずつ出土する傾向が見られた）。周囲には焼土やフレイク・チップの集中出土も検出され、人々の活動の跡が見られた。この付近で出土した、赤彩土器、土製品のうち、注口土器は粉々に壊され、巻貝形土器と土偶が南盛土と接合する状況は、やはり祭祀的活動の痕跡と考える。

（2）土器の接合状況

ここでは、掲載した土器の出土状況にある程度まとめ、それらから考えられる見解を加える。扱う資料は、破片の出土地点データの多い復元個体が主となっている。

遺構と関連した重要な接合は、建物19と盛土の破片の接合例がある。建物跡から検出された土器敷きの炉に使われていた7個体の土器（一括土器1）のうち、5個体までが、北東に約15メートル離れた盛土の破片と接合した。接合状況は図305に示した（番号は掲載番号）。具体的に1、18では

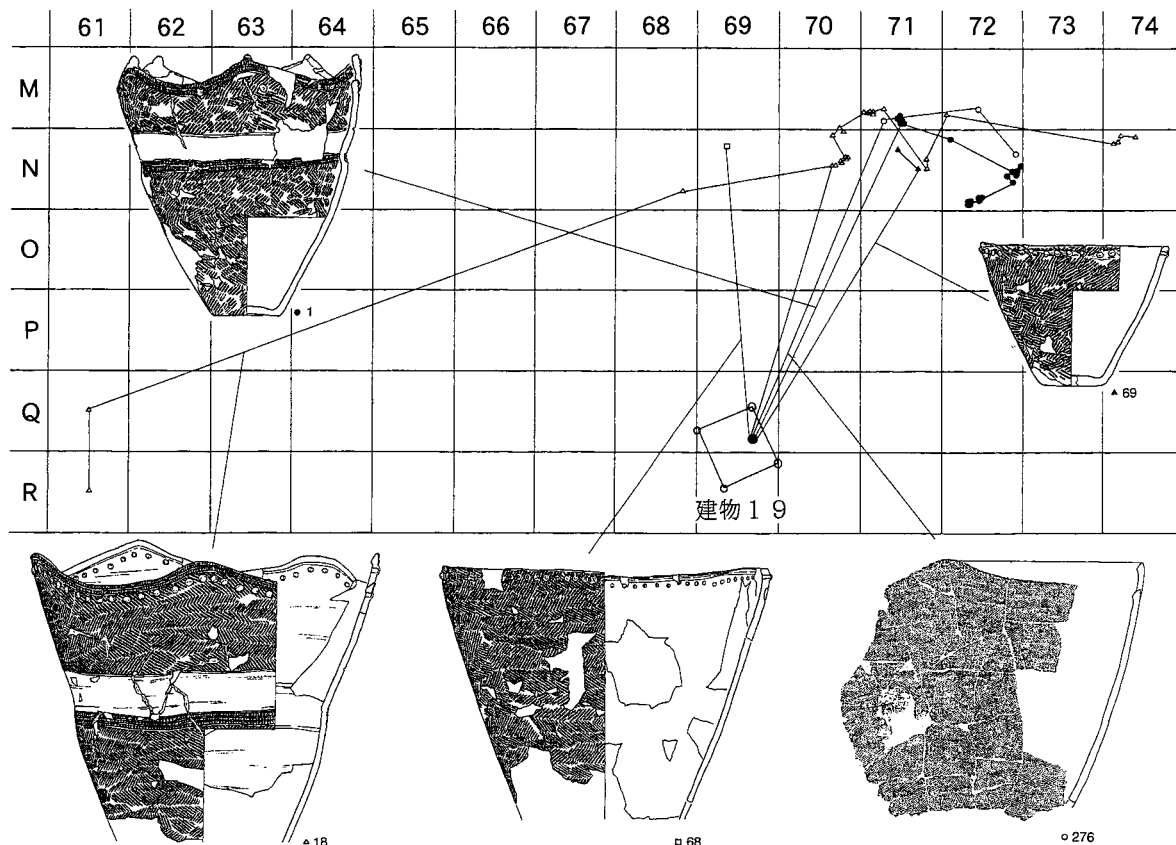


図305 接合状況図（1）

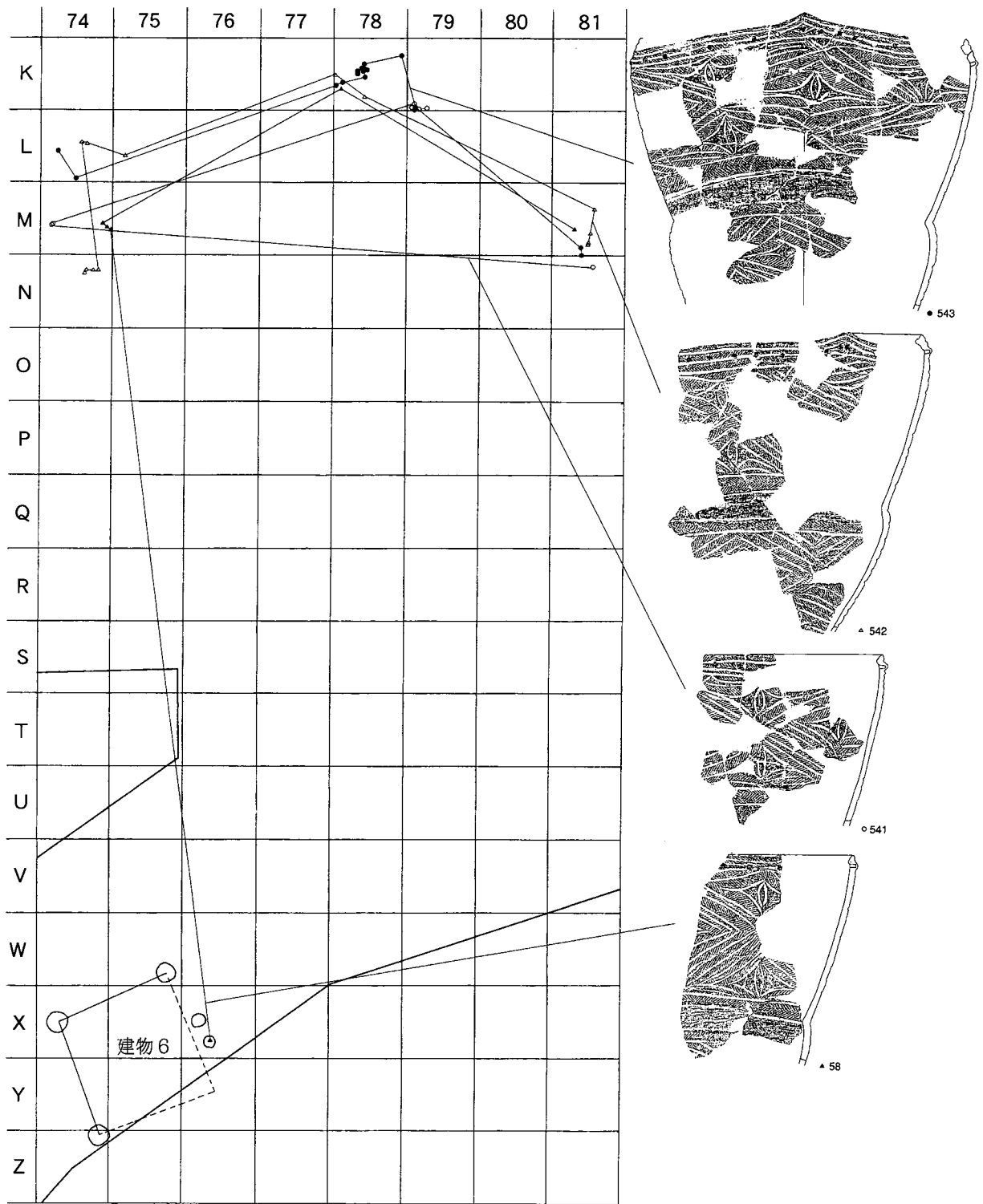


図306 接合状況図(2)

破片の大部分が盛土から出土し、炉跡からは被熱した口縁部が接合した。68、69、では敷きつめられた大きな破片である程度形になり、盛土から数点の破片が接合した。276は炉跡から大形口縁部片が出土し、これに盛土から数点接合した。図では未掲載の2個体の一つである70は炉跡から全体の約五割の破片が出土し、最後の119は口縁部1/3ほどの破片で出土した。この付近はプラウによる削平がVb~VI層まで達し、残存する盛土と一括土器1の間はほとんど遺物が無かったが(図56参照)1、18の接合例から、盛土から大きな破片を集め利用した可能性が大と考えているが、いずれにしても建物19の土器敷きの炉と最下層の盛土の一部は、ほぼ同時に存在したことが裏付けられる。このほかの遺構の遺物との接合例には、調査区の南側に集中する柱穴群の覆土の破片が盛土の遺物と接合する状況がある(図307)。柱穴群は柱が抜き取られた後、細かい遺物やパミスを多量に含む整地層(SE1、2層)で覆われており、柱穴の遺物にも整地層の遺物が混入している可能性が大きい。そのため、柱穴の遺物と、盛土の破片が接合する状況は、整地層と盛土の関係も考える必要がある。なお、図306に掲載した541~543と遺構遺物掲載番号58は同一個体の破片で、破片ごとにシンボルを変え出土地点を示した。盛土では出土地点が3か所に分散し、どの破片もそれぞれのエリアから接合することから、この個体は破片の状態でも少なくとも3か所に廃棄され、破片の出土した盛土層も時間的に差がないことが考えられる。図307には整地層と盛土間で接合した土器の出土状況を示した。図中の は、出土地点を測量していない破片を示す。どの個体も大部分の破片が盛土から出土し、細かい破片が整地層から数点接合する状況である。盛土に持ちこまれる土器には祭祀的な活動で利用されたもの、盛土上の焼土で煮炊きに利用されたもの、盛土の内側で使用された土器が破損し、廃棄されて盛土に移動したものが考えられ、このような接合状況は、廃棄時の残片が接合したと考えるのが、ごく通常かもしれない。しかし、出土している層が整地層となると、その層を成す土砂の出所も問題である。盛土遺構は、南北盛土間の土を削って形成されたと思われる。盛土の新しい層はVII層起源の土が主体となっている。このことから、盛土の内側に黒色土は無い状態まで削平は進んでいる。最終的なキウス4遺跡の姿は、建物の設営で掘られた柱穴が埋め戻されたさら地状態だったと考えられる。(今のところ自然埋没した柱穴跡が見つかっていない)また、整地層から出土する破片には、盛土の形成された期間の遺物よりも新しい資料が混じり、盛土層よりも新しい層である可能性がある。これらのことから、盛土の土砂を再利用していることも視野にいれて検討する必要があると考えている。

図308~317には、掲載した土器の出土状況を示した。個々の出土状況には、ある程度まとまっている個体(整理終了時点の結果であり、破片の無い部分は不明である)と、分散した個体があることが解った。これには、土器が盛土に持ちこまれる際の状況や、盛土の形成過程などが影響していると考えられる。

図308~311にはまとまった出土状況の土器をまとめた。破片を探せなかった場合も含まれているが、復元できた個体の多くは、結果的には狭い範囲にまとまっている例が多く見られた。中でも図311の注口土器の出土状況中 で示した個体は、完品またはその状態が潰れて出土したものである。371は、盛土の最下層より口縁部を下に向けて出土し、土器の中には土も流入していなかった。この注口土器は注口部の先端を欠くほかは破損が無く故意に逆さに置き、すぐに埋められたものと考えられる。ミニチュアの注口土器や1439の香炉に似た特殊な口縁部が付く注口土器は、多数の土器片に紛れ出土している。掲載した注口土器には口縁部の無い個体と口縁部だけの資料が目立つ。これは口縁部が破損しやすい構造であることと、廃棄に時間差があるためか、それぞれの部位が離れて散布していることを示していると考えられる。注口部は破損しやすく、その破片だけで本遺跡内で数百点

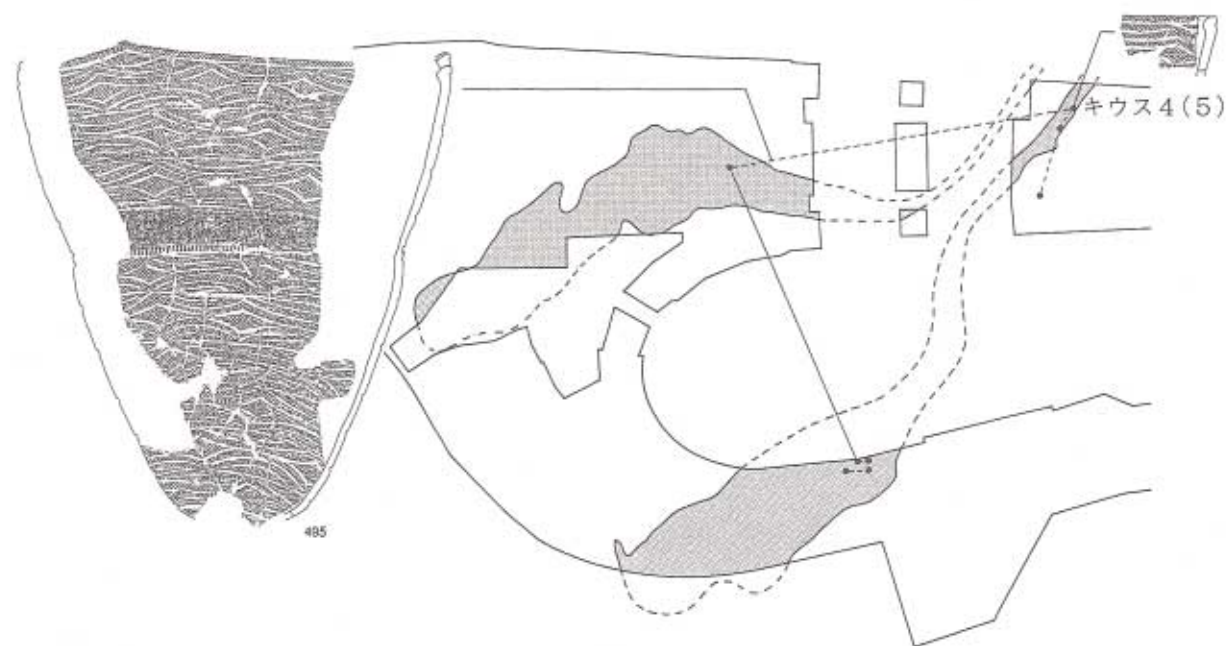
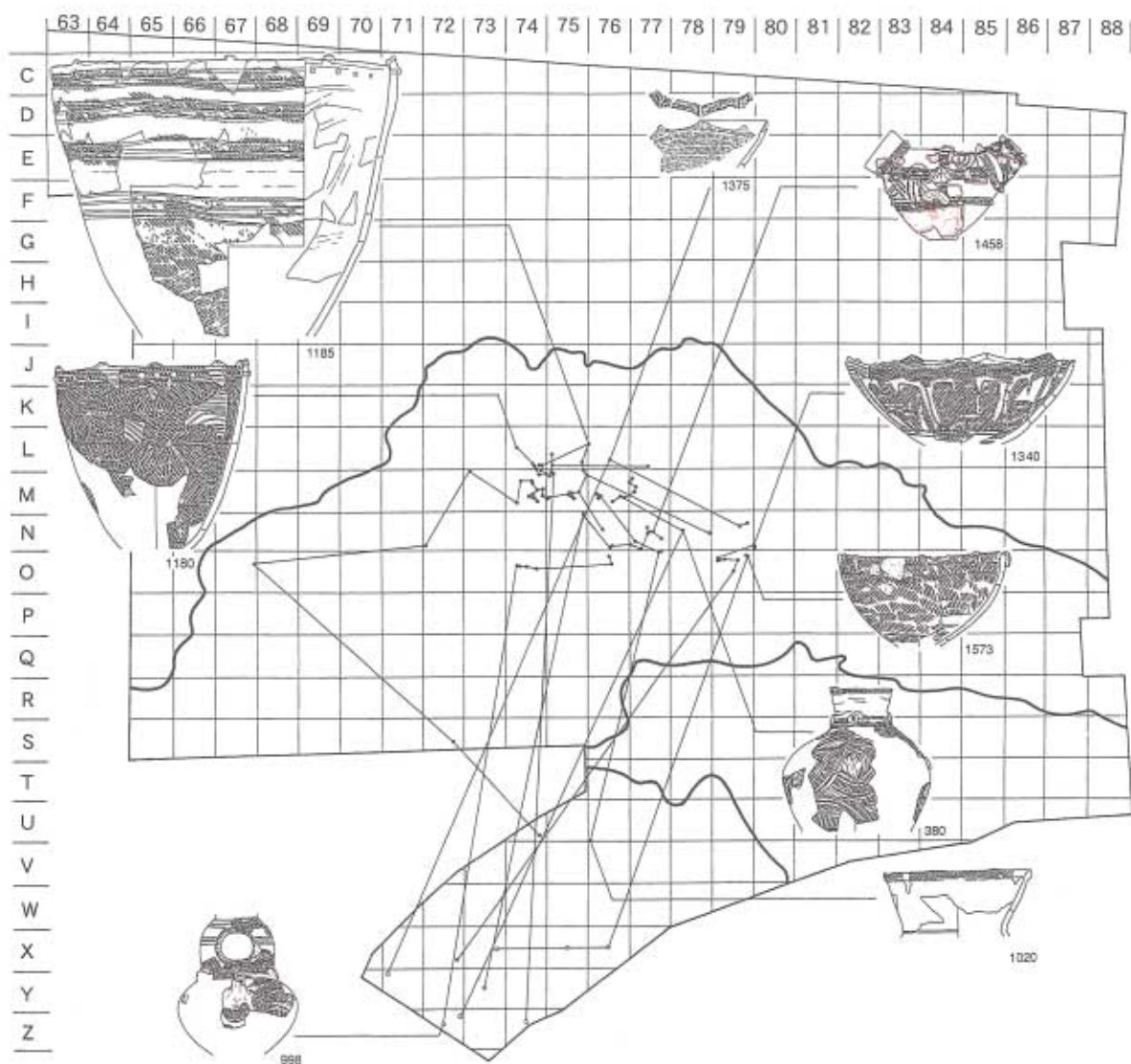


図307 接合状況図 (3)

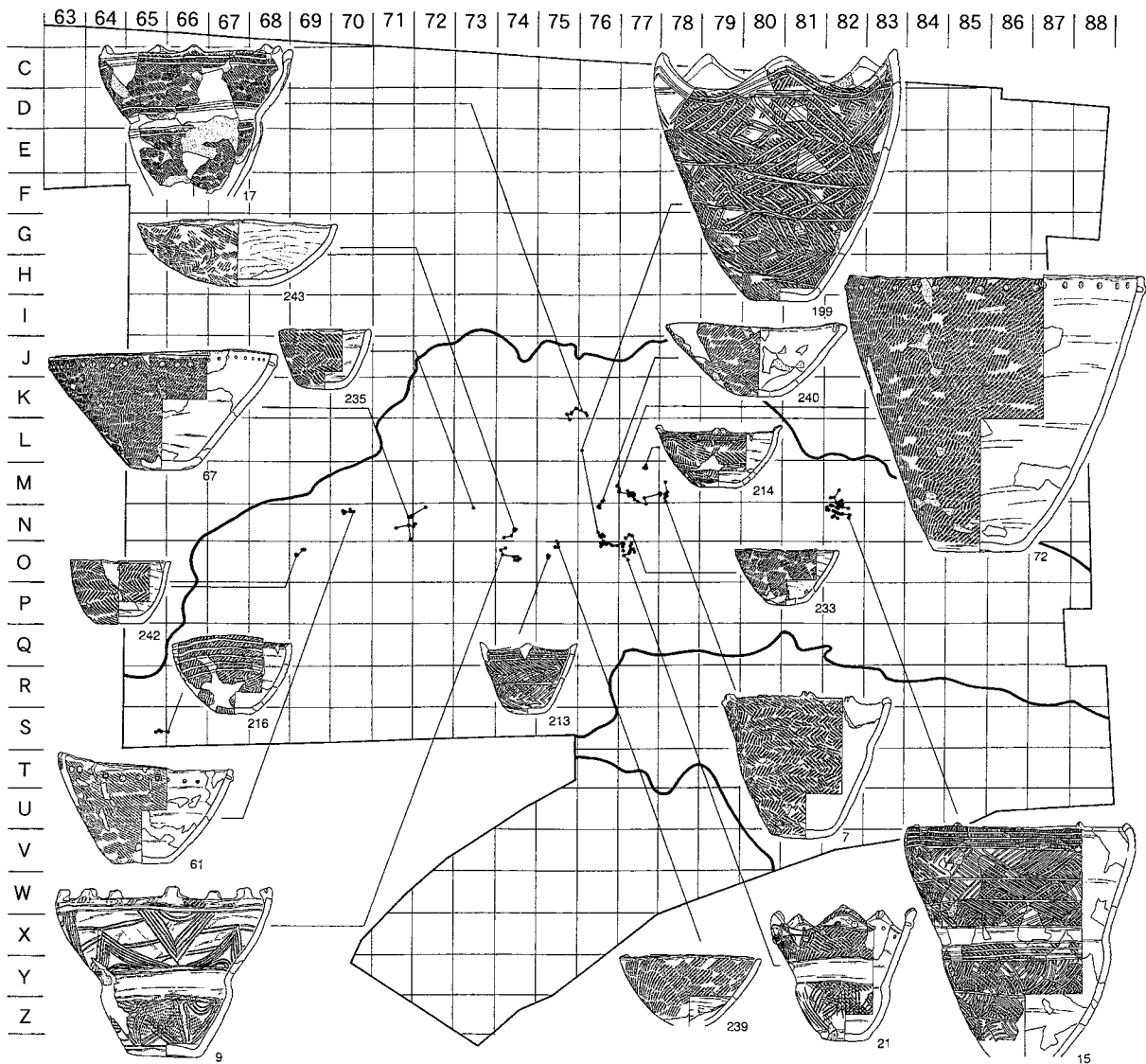


図308 接合状況図(4)

は出土しているほか、アスファルトで接着した痕跡のある破片もしばしばみられる。

図312に示した3個体は、集中して出土した大部分の破片に、はなれた地点から破片が接合した例である。この様な例は、本来土器の廃棄された場所から当時の人々の活動によって二次的に一部の破片が移動した結果だと考えている。掲載した63は底部片が約30m はなれて出土しているほか、477も底部を欠いている。底部を先に欠損したほうが、残りの胴部がつぶれやすく破片もまとまりやすいのかもしれない。

図313~316には分散して検出された個体の出土状況を示した。多量に出土した破片の中で、この様な出土状況が確認出来たものは、文様などに目立った特徴がある個体に片寄る結果となった。また、図ごとに破片の散布状況がある程度類似する資料を集め、意図的にその傾向を強調している。

図313には東西方向に破片の散布する個体を集めた。この図に掲載した個体のうち、16、22、26、62、65、454、455、457の破片はグリッド番号 M~O - 72~79の間で東西方向(グリッドは約19度

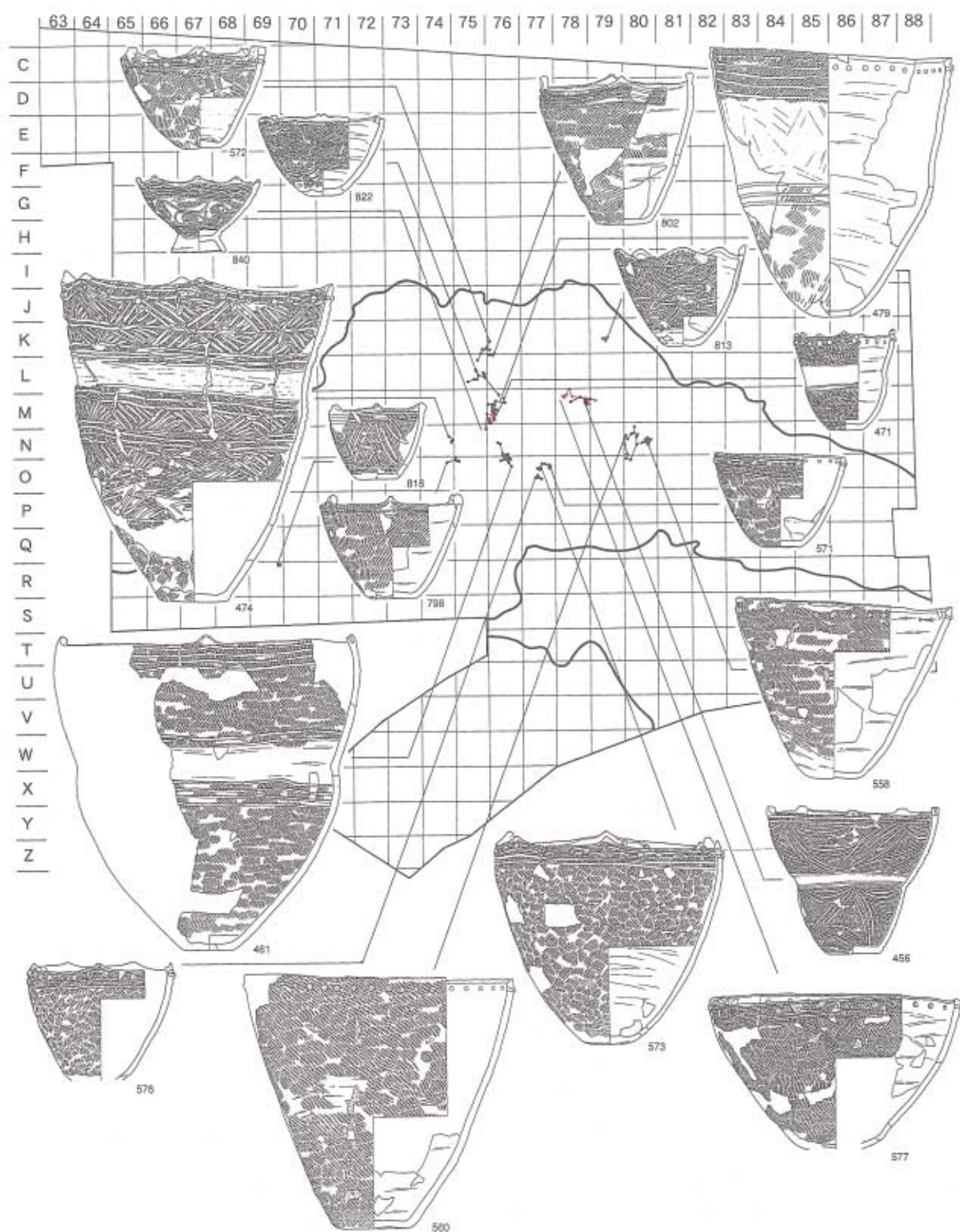


图309 接合状况图 (5)

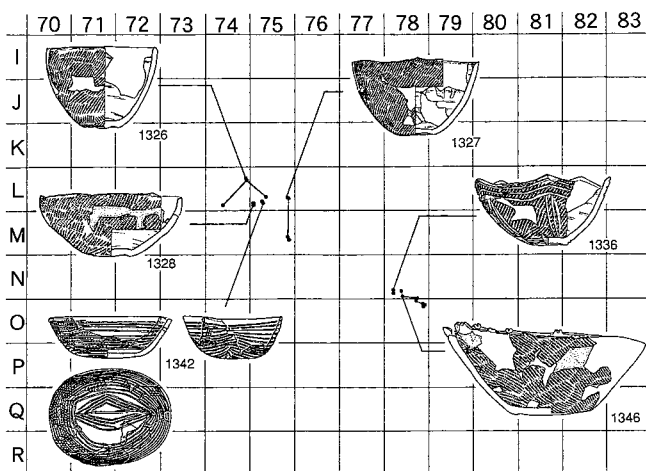
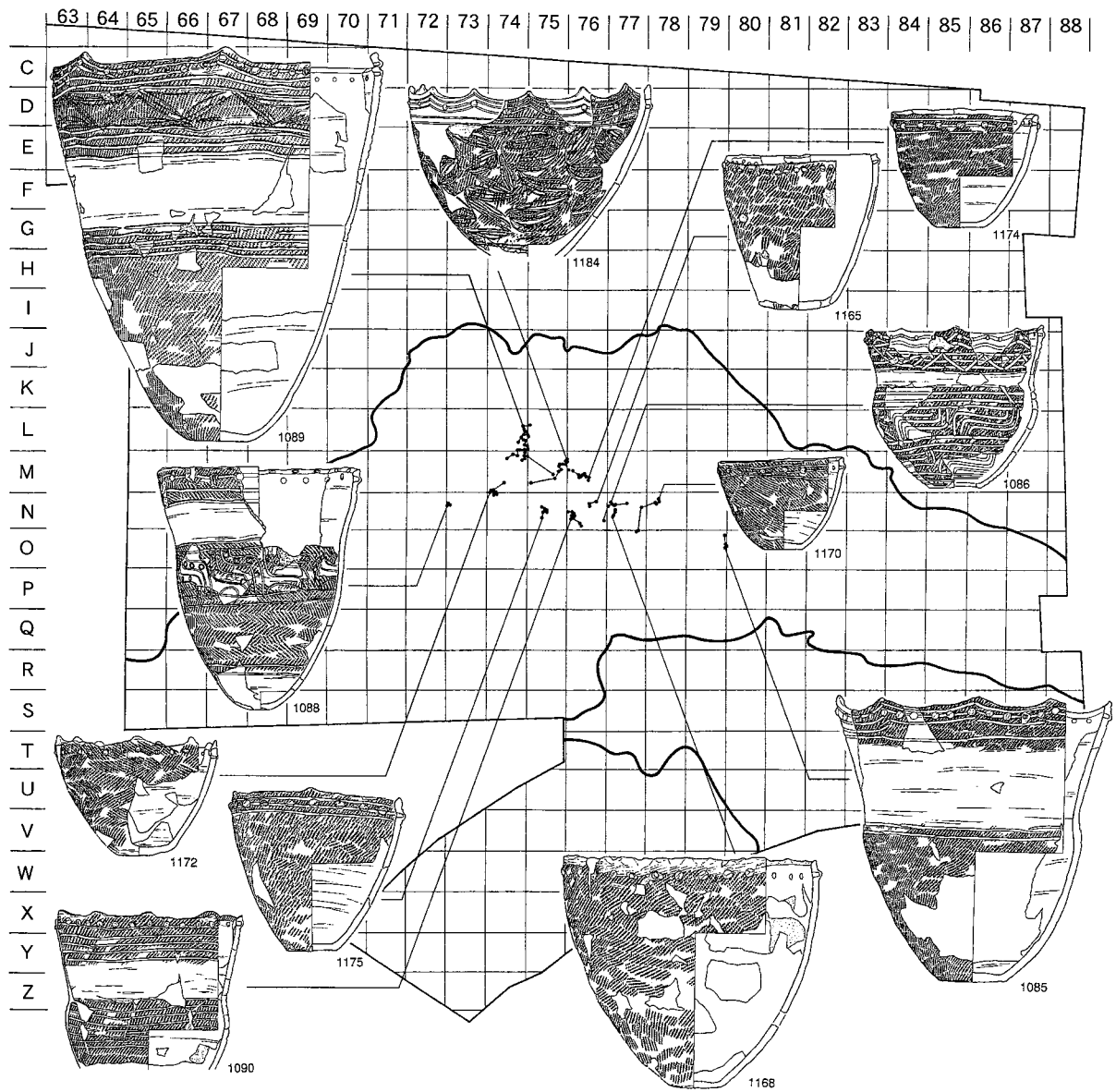


图310 接合状况图 (6)

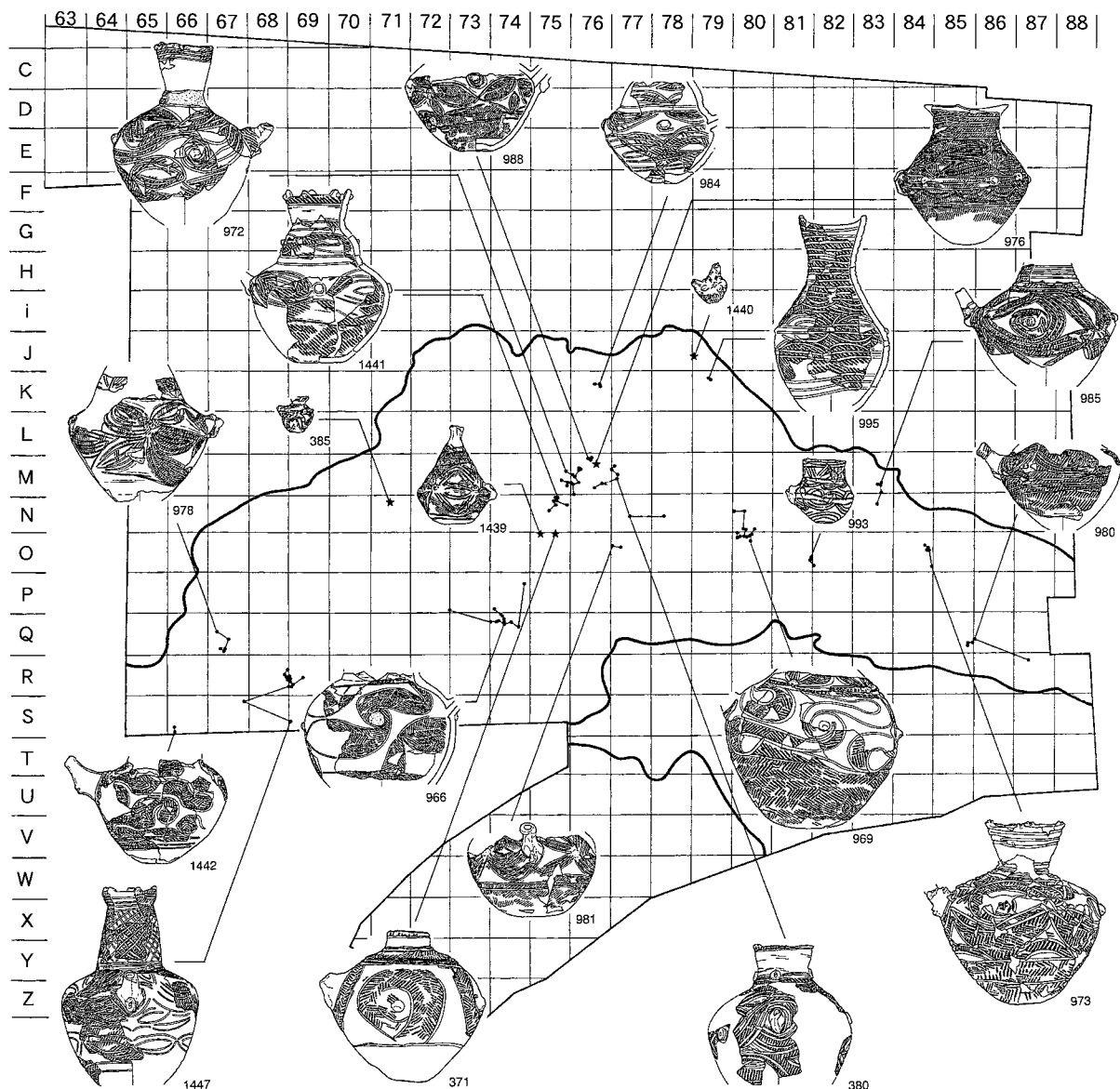


図311 接合状況図(7)

東偏する)に類似した分布をする。本文に掲載した土器の時期は異なるが、この状況は盛土の形成過程にかかわる現象と考えている。49、52は上記の破片よりやや西寄りに破片の集中がみられる。図314の上下には、破片をまき散らした様な分布をする個体を集めた。上段に掲載した5、11、198、575はグリッド番号N-77~80付近を囲みながら北西側に流れるように破片が分布する。また、前記のグリッドに集中域をもつ個体の破片も北西に流れている傾向が見られる(図315)ことから、ある時点までこの付近に盛土遺構の高まりがあり、そこから破片が流れたものか、あるいは、後にその付近が均された可能性がある。図315の上段には、南東の方向に破片が接合する個体を集めた。これらの個体は、調査区内の盛土の東側に集中し、盛土遺構の伸びる方向に沿って破片も分布する。同図下段には離れた2地点で破片が接合した例をまとめた。この様例は、調査区の中央に集まる結果となった。図316の上段には盛土の中央部と西端で接合した例を集めた。176、806、821、図314-198、注口土器の962は大きく削平された地域をまたいで接合して

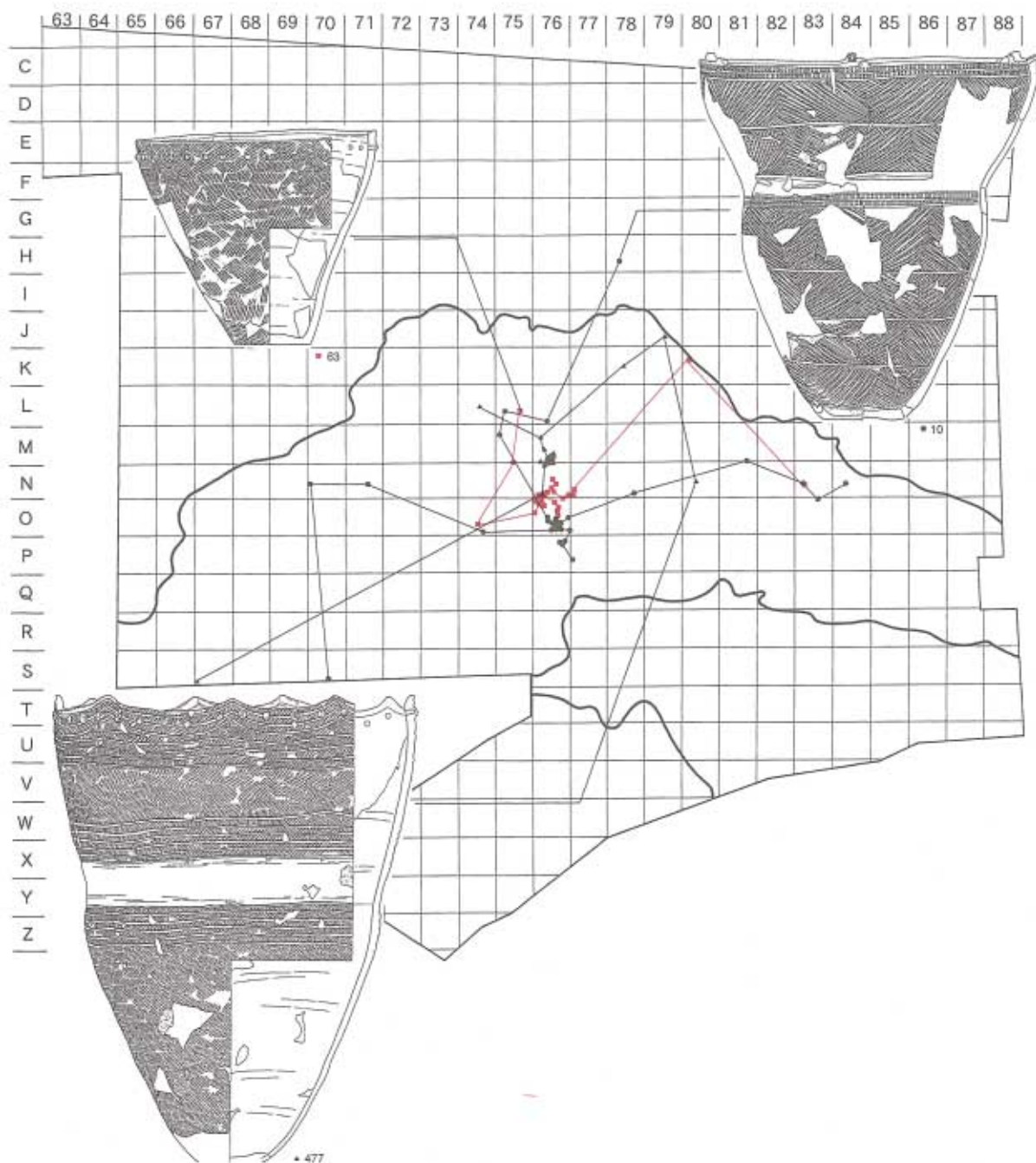


図312 接合状況図（8）

おり、本来はその地域にも破片が分布していた可能性が大である。同図下段には破片が広域で接合した注口土器を掲載した。出土した個体の破片をさらに部位別に分類すると、まとまって出土した土器には底部～口縁部片の破片の順序に秩序を保った例が多く、ある程度形を保った状態で盛土に持ちこまれ、その状態から破損した可能性が大きい。これに対し、破片が散らばった状況の土器は、細かい破片の状態を持ちこまれ、廃棄されたものや、ある程度の大きさの破片で数か所にもちこまれ、それが各地点でさらに破損した状況が考えられる。さらに、これらの破片の分布する方向が76ライン付近を境に異なり、それは盛土遺構の外形に沿う状況にも見られる。これは、盛土遺構が北に向かって徐々に拡張していった証拠の一つと見ている。

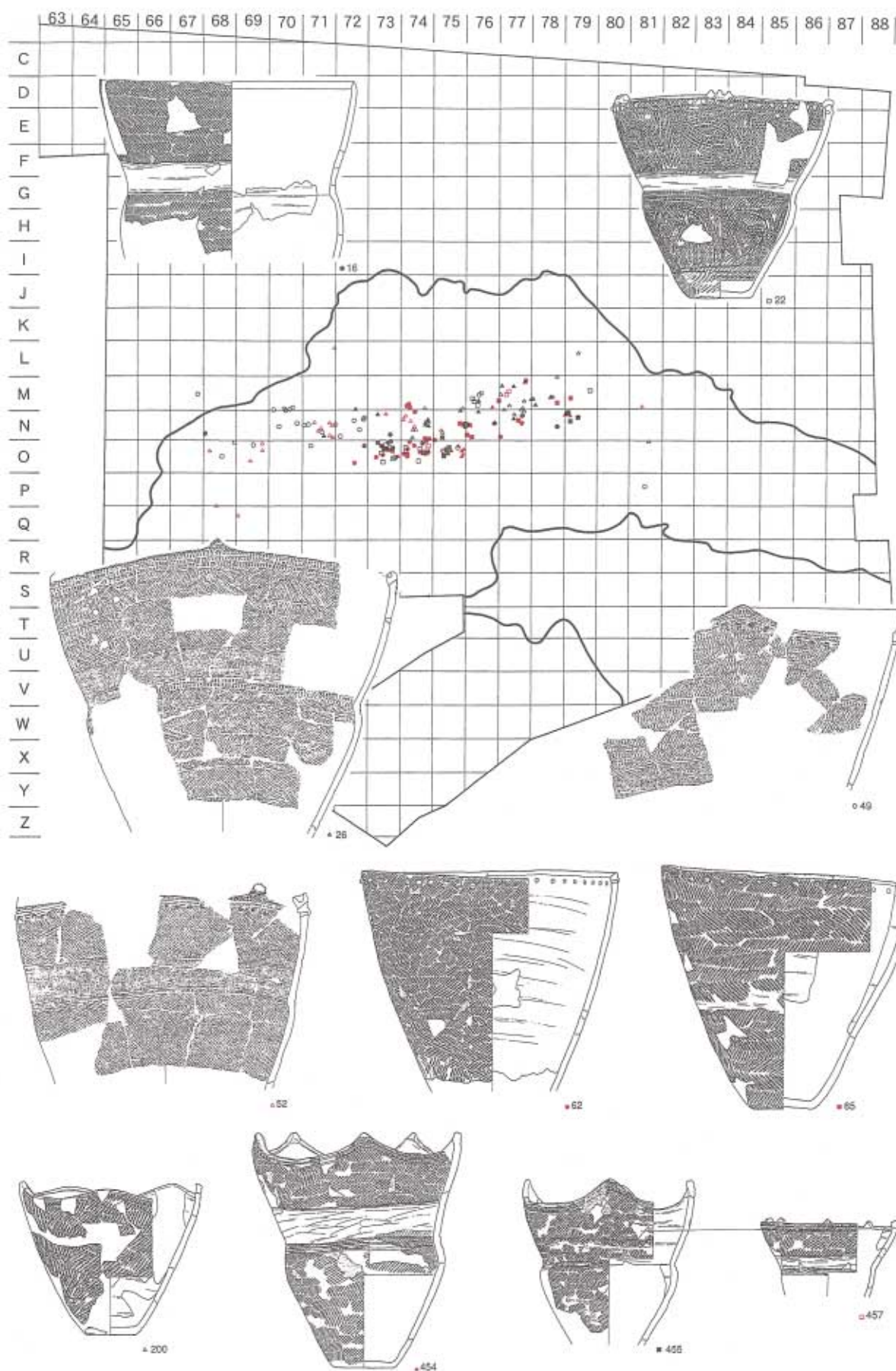


图313 接合状况图(9)

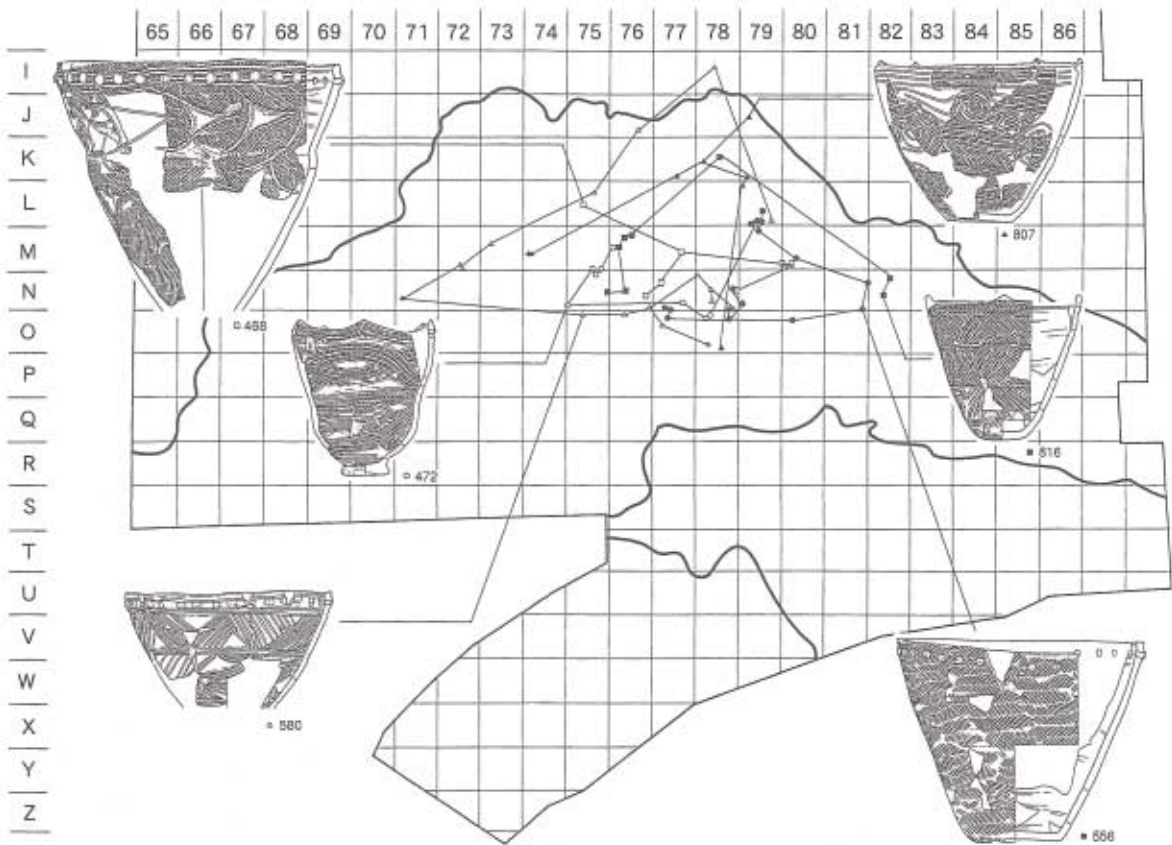
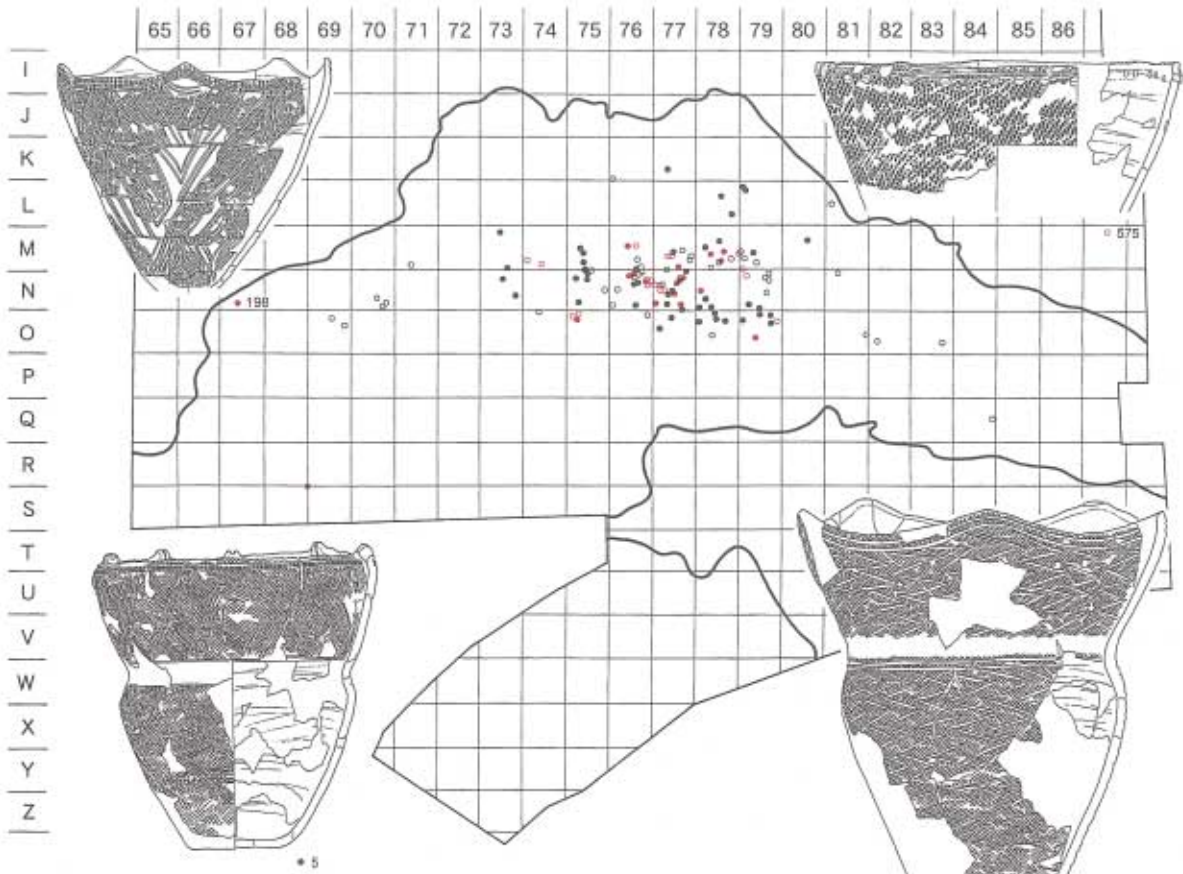


図314 接合状況図 (10)

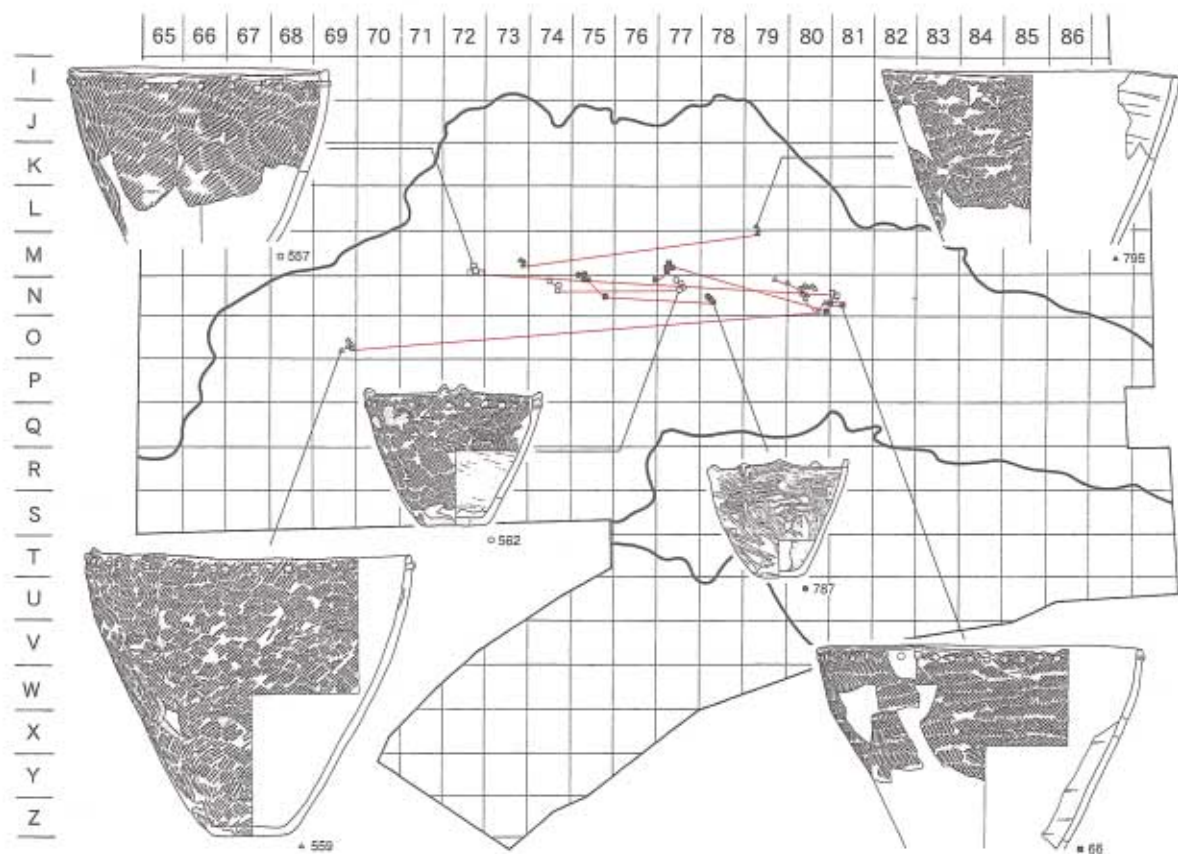
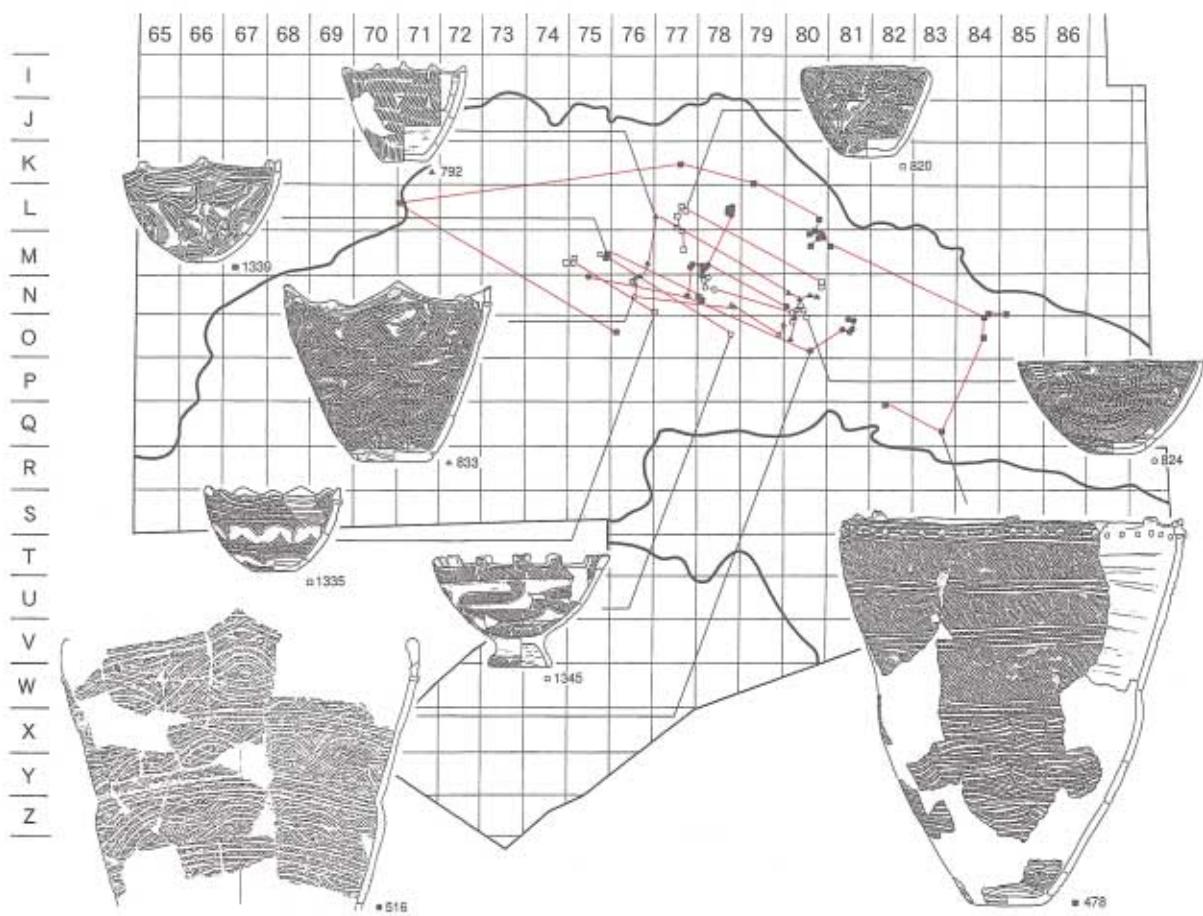


图315 接合状况图 (11)

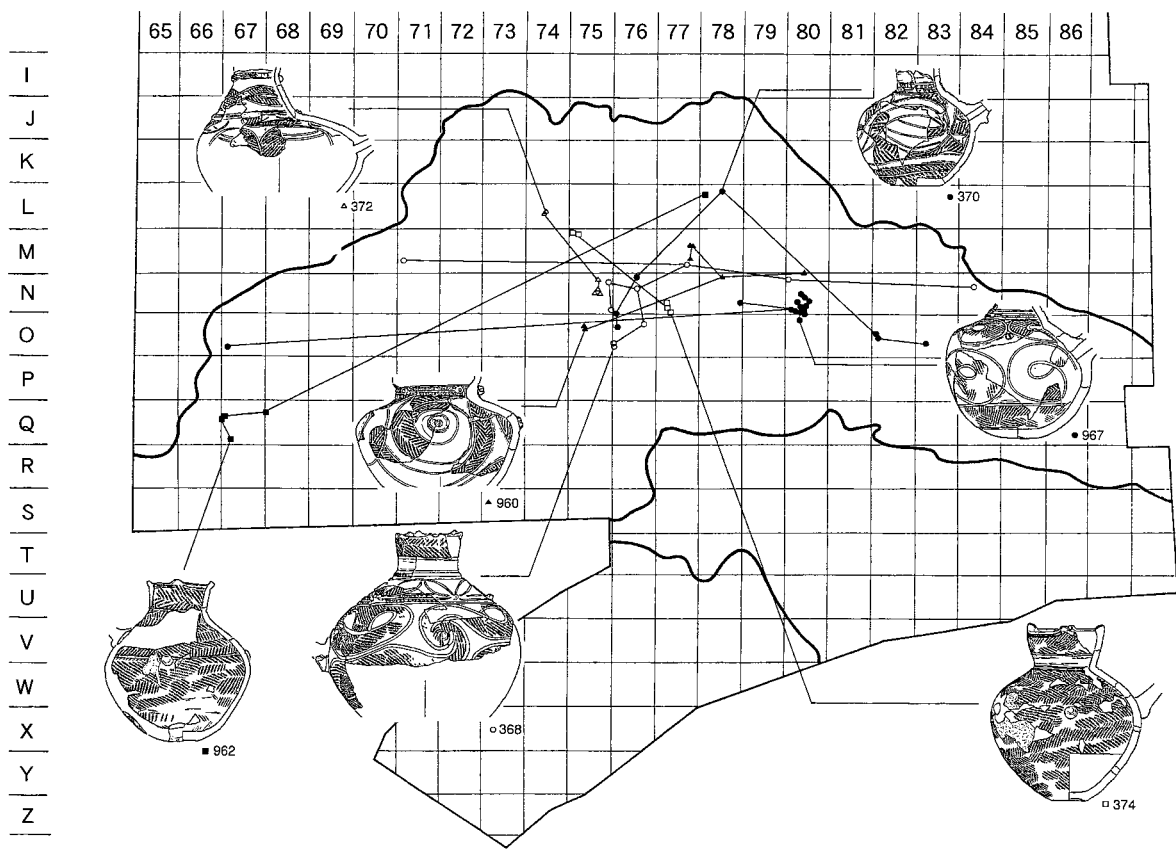
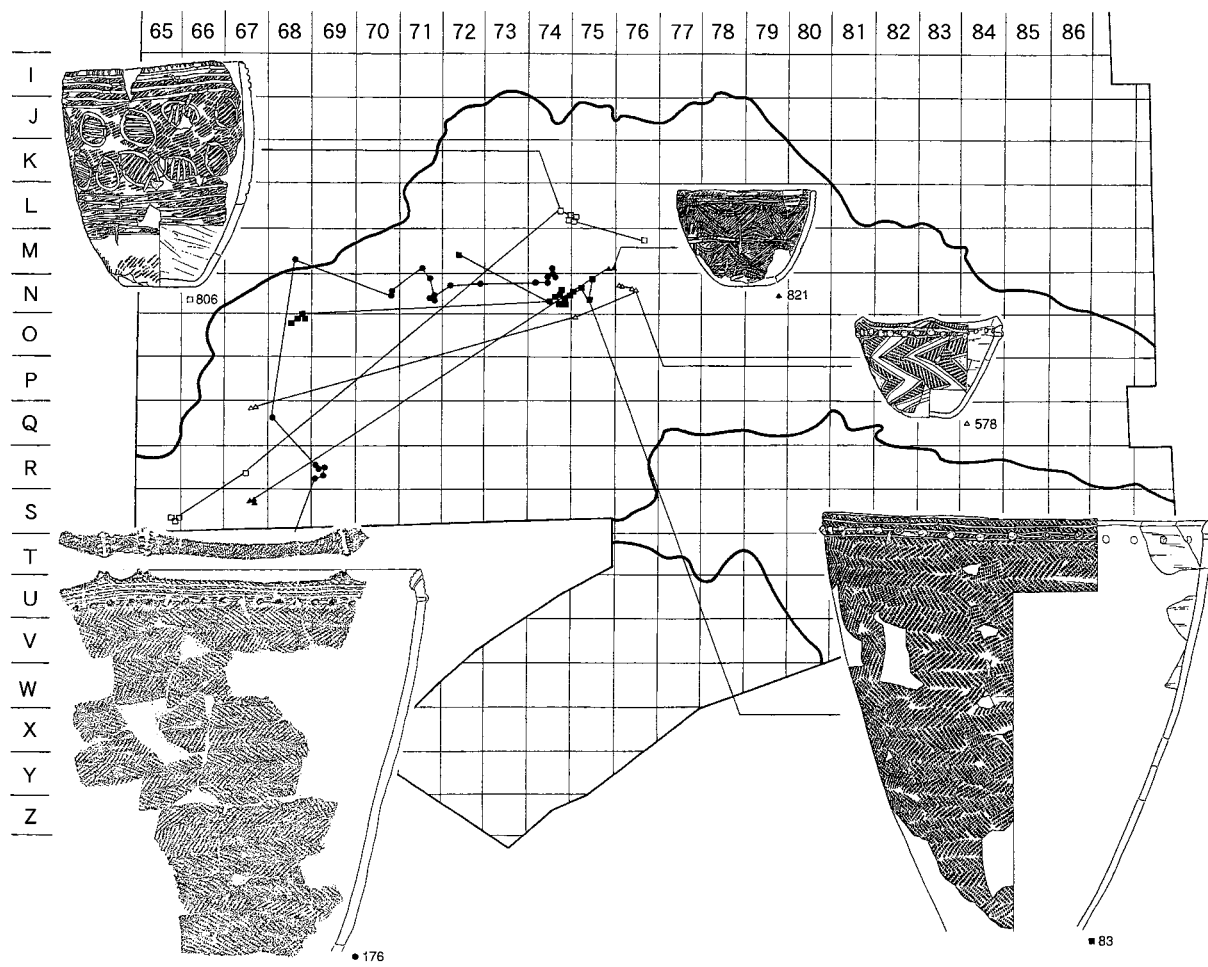


图316 接合状况图 (12)

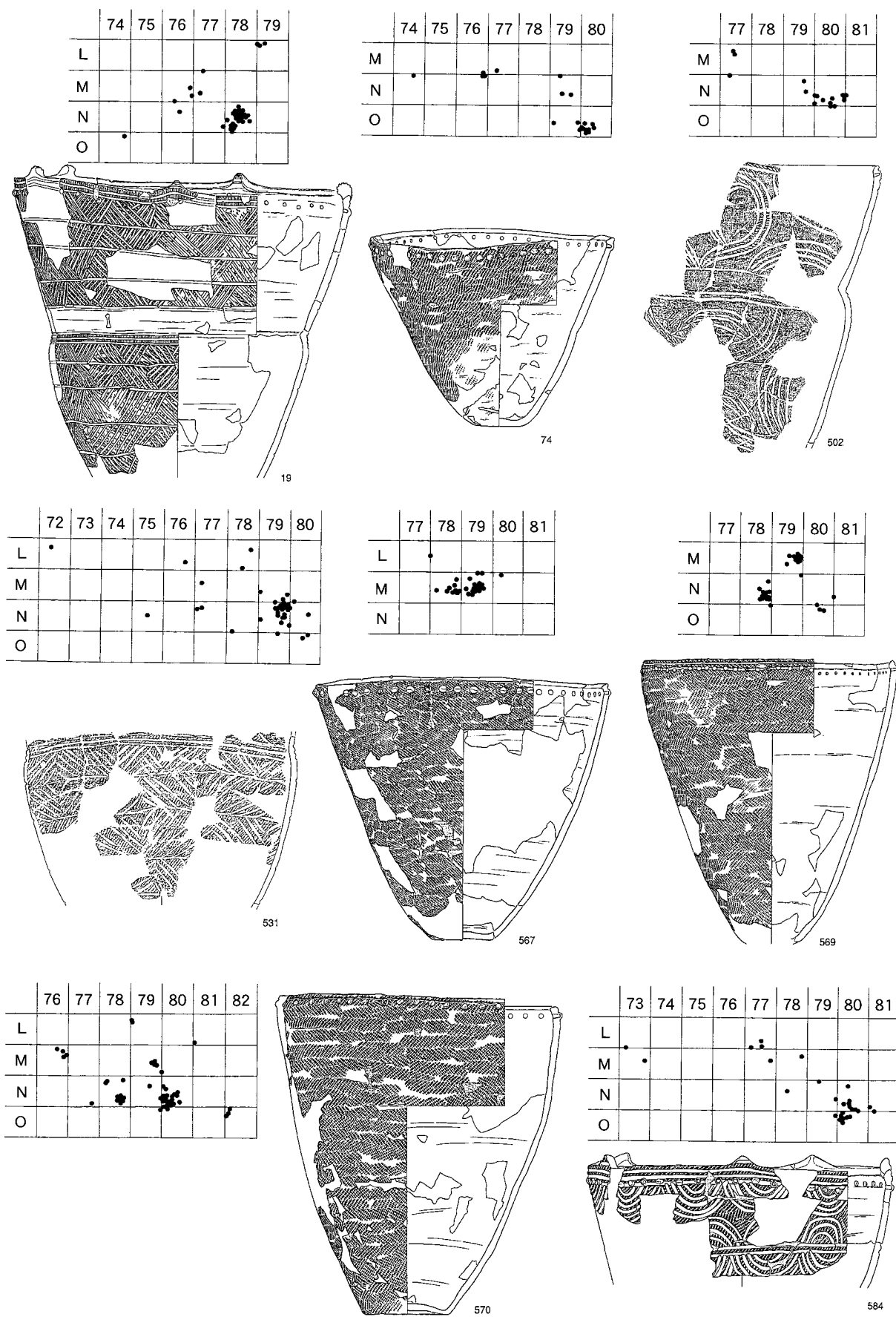


图317 接合状况图(13)

(3) 粘土ピット

土器製作に関連した遺構では、盛土から「粘土ピット」が2基検出された。遺構の規模は双方とも長径約50cm、短径約40cm、深さ約15cmの楕円形の掘込みで、それにきめの細かい均一な質の灰褐色の粘土をピット全体に詰めたものである。遺構の立地状況から貯蔵などの生業に関する遺構ではなく、盛土中に完品の土器を意図的に置くなどの儀礼的行為に類する遺構と考えられる。遺構内の粘土はそのまま土器製作が出来るほどによく練られた状態で、砂粒はまったく含まれていなかった。在地の土器にはほとんど砂粒が含まれているため、混和材は粘土とは別に採取したと見られる。では、はたしてこの粘土で本当に土器が焼けるのか、また、混和剤に砂を用いることで何か違いがあるのか、次のような方法で試してみた。まず、比較のため出土したままの粘土と、砂（市販されているマチエル材料を使用）を重量比で約1割混ぜた混土で1×1×10cmの棒状のテストピース1と8×4×0.7cmのプレート状のテストピース2をそれぞれに製作し、乾燥時、焼成後のサイズと重量の変化を計測（0.1cm未満は四捨五入）した。計測値は以下のとおりである。

サイズ		乾燥時	焼成後
テストピース1	粘土	0.9×0.9×8.8cm	0.9×0.9×8.7cm
	混土	0.9×0.9×9.1cm	0.9×0.9×9.1cm
テストピース2	粘土	6.9×3.5×0.5cm	6.8×3.4×0.5cm
	混土	7.3×3.7×0.5cm	7.2×3.6×0.5cm

重量		製作時	乾燥時	焼成後
テストピース1	粘土	21.0g	15.4g	12.9g
	混土	21.8g	17.5g	15.2g
テストピース2	粘土	34.5g	25.3g	21.1g
	混土	41.0g	33.4g	28.9g

重量の変化は、含まれていた水分の量と考えられる。また、乾燥時と焼成後の収縮率は、双方とも1%未満で、大きさや形状に特に変化は見られなかった。最も大きな変化がみられたのは、製作時から乾燥時までの間で、混土で約9%、粘土で約14%の収縮があり、さらに後者のプレート状のテストピースには形の反りも生じた。乾燥は屋内の日の当たらない場所で6月下旬に行ったもので、極端に乾燥しているわけでもない環境下でのこの様な反りの発生は、土器の乾燥時に割れを生じさせる原因になりかねない。混ぜる砂の量での差を比較するまでには至らない単純な実験だが、適量の砂をまぜることには、収縮率を低下させ、土器の生産効率を上げる効果があることが理解できた。これと同時に、混土を用いて遺跡から出土した土器の模造品を製作した。モデルとしたものは、『キウス4遺跡(5)』図II-5-3で掲載した周堤墓の周堤外側から一括で出土した注口土器と、本報告書に掲載した1439と1458である。乾燥時まで約1割が収縮するため、大きさを揃えるのは思いのほか困難であったが、焼成後の器面の質感など酷似したものができ（図版236）遺構出土の粘土は、土器製作に十分使えるものであることが解った。

(4) 編年

図318には、日本考古学協会1999年度釧路大会の資料集 に関連資料として掲載した編年図に若干の修正を加えたものである。これは千歳市、苫小牧市で報告済の資料にキウス4遺跡出土の新資料を加え、縄文時代後期後半～縄文時代晩期前葉までの土器をⅠ～Ⅶ期に分類してみたものである。Ⅶ期に区分した理由は、盛土遺構から出土した土器をⅡ～Ⅳ期の3時期に区分し、この後に貼瘤文、爪形文が施されるⅤ、Ⅵ期の2つの時期を加えた。Ⅱ～Ⅵ期の五つの時期は周堤墓が造られる期間と重なると考え、その前後の時期に相当するⅠ、Ⅵ期までを扱ったためである。周堤墓の規模の変化や新旧関係からその変遷をたどった論考(藤原 2000)で、周堤墓は五つの時期に分けられる結果が得られており、土器の分類との整合性はともかく当該期を五つの時期に分けることは、現時点では妥当であると考ええる。各時期の様相を簡単にまとめた当時の原文に補足と修正を加え下記にまとめる。なお、本地区の北側盛土遺構は主にⅡ～Ⅳ期までに形成され、Ⅴ～Ⅵ期の遺物は盛土の最上層や、盛土遺構内外の包含層 層から少量が検出されるだけであった。ただし、近隣のキウス1遺跡ではⅣ～Ⅵ 期に相当する盛土遺構が調査されている。

Ⅰ期： 鱗潤式と呼ばれる土器の新しい段階で、口縁部や、頸部の刻みが2段になり細くなる傾向が現れる時期。体部の文様は充填縄文となり、入組帯縄文などが施され、底部近くは広く磨り消される古手の文様を引き継ぐものもある。Ⅰ期に掲載した2点の深鉢は、無文の頸部を有するが、このような土器は、後期中葉の土器が層位的に出土した忍路土場遺跡(北埋調報53)でエリモB式並行の突瘤文の施されない土器群にたいして仮称した忍路A式(田口 1989)以降に出現するようで、中葉の土器の中でも新しい様相と考えられる。千歳市末広遺跡(千歳市教育委員会 1982)で検出された後期の焼土遺構SM-1、2からも突瘤文が施される個体をほとんど含まない土器群が出土している。この中には胴上部が膨らみ口縁部が花卉状に開く深鉢や、注口土器、香炉形、下部単孔土器など多様な器種を含んでいる。末広遺跡の資料には古い様相の土器も含まれているが、報告されている年代測定値からも、およそⅠ期の後期中葉末～後葉初頭の土器に相当するものと考えられる。

Ⅱ期： 口縁部や頸部の刻みが衰退し始める時期。文様では、充填縄文の入組帯縄文が沈線文化する傾向が現れ、この他に多重の山形沈線文・弧線文、縦位の鋸歯状沈線文などの在地的な文様が多く現れる。器形では、壺形土器が極端に少なくなる。キウス4遺跡の盛土はこの時期から営まれ始め、周堤墓も造られ始めると考えられる。この時期の本州からの搬入品に、微隆線の施された朱塗りの注口土器が確認されている。Ⅱ期には本文の図60～図92の資料が相当する。Ⅱ期以降、深鉢、鉢形土器の口縁部に突瘤文が施されるようになるが、充填縄文の施される個体や、頸部を有する深鉢では突瘤文の無い個体が目立つ。突瘤文の施されない土器はその後の新しい時期の資料にも混じって存在し続けるが、土器のサイズや器種ごとに施文される傾向の分化が比較的明確になることや、古手の資料には外からの突瘤文も見られることから、この時期の突瘤文は文様要素としてはまだ不安定なものだったのかもしれない。口縁部や頸部の刻みは、口縁か頸部のどちらかしか施されないもの(掲載番号5、15、22、23)や、途中までしか施されないもの(図87-321)、2条の沈線だけで刻みが施されないもの(3、9、11他)、最初に刻みを加え、それを沈線で二段に区切る施文順が逆のもの(図63-19)などが混在することから、衰退する方向にある文様要素と考えた。その他、この時期の土器には底部付近の無文帯の幅が狭くなる傾向や、壺形や土器や胴上部と口縁部

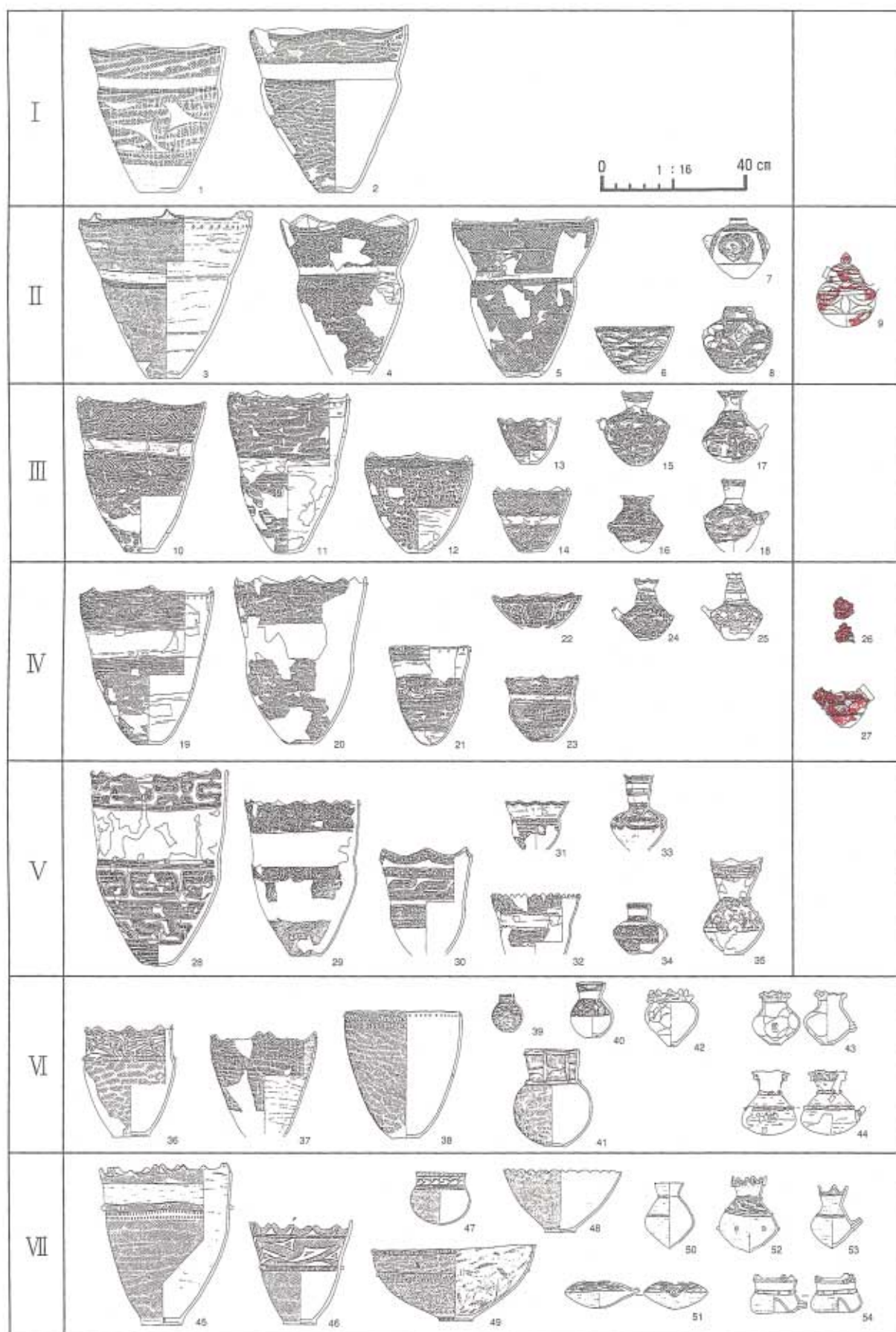


図318 後期後葉土器編年図

で括れ花卉状の口縁をもつ深鉢が衰退する傾向が見られる。

Ⅲ期： この時期には本文の図93～図135に掲載した時期の土器が相当する。掲載した土器は現地調査での分層と接合関係から、掲載数は最も多いが内容的にはまとまりに欠ける結果となった。全体の特徴としてあげられるのは、口縁部や頸部の刻みがなくなること、充填縄文の衰退と文様の沈線化、突起の数の増加、口縁部に3条以上の沈線が施される個体の増加などがある。口縁に並行する沈線と平行な沈線が同時に施される文様もこの時期の後半から現れると考えられる。突起の数はそれまでは5か所が主流だったのが増える傾向にあり、頸部の括れは突起数が5か所の個体ほど強く、数の多い個体では、緩やかな調整となる傾向がある。Ⅱ期にしばしば見られた縦位の鋸歯状沈線もこの時期でほぼなくなる。

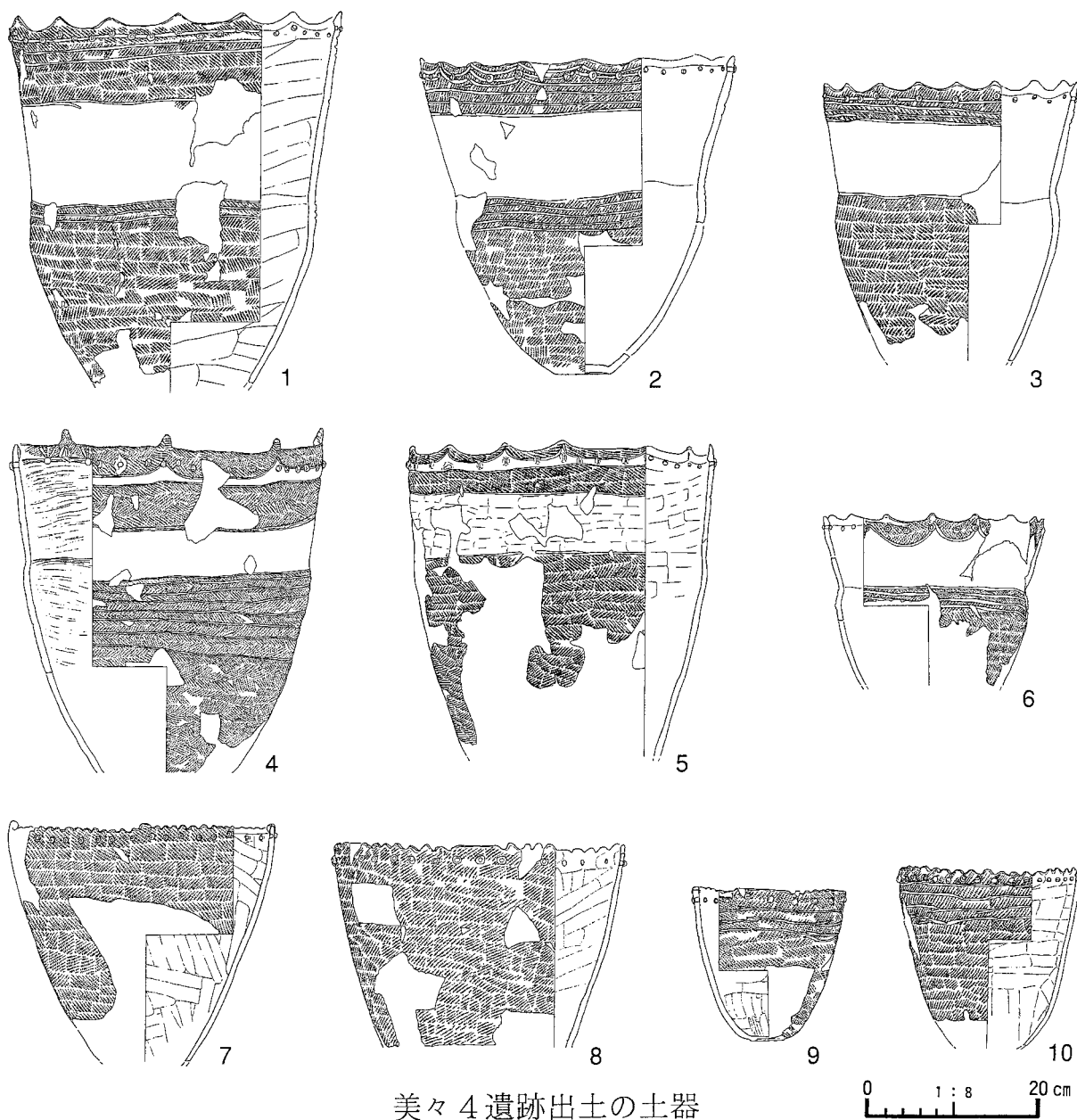
Ⅳ期： Ⅳ期には本文の図136～図160に掲載した時期の土器が相当する。掲載遺物は盛土遺構上位の著しく攪乱を受けた層から出土したもので、復元された個体は少ない。この時期の文様は多重の山形沈線文・弧線文が少なく、図59、文様模試図の15-3、15-4に示した入組帯縄文が直線的に変化した文様やクランク状の沈線が特徴的に現れる時期である。また、文様中の細かい無文部に磨消し縄文が用いられるもの(1335、1340、1345、1407、1423、1437他)個体ようになる。頸部の磨消し帯の幅は広がる傾向があり、口唇に刻みや縄文を施した個体が増える。この時期の搬入品には、微隆起線文と細かい刻みが施された隆帯をもつ朱塗りの注口や、土偶、巻貝形土器が確認されている。F・G地区の北側盛土遺構は、ほぼこの時期まで営まれる。

Ⅴ期： Ⅴ期は器面に貼瘤文の施される時期とし、F・G地区では、盛土遺構より上位の層と整地層から出土する。編年図に掲載した土器もⅣ期とⅤ期の区別を貼瘤文の有無で便宜的に分けているが、図319-1～10に掲載した千歳市美々4遺跡ⅡB-1、2、3層(北埋調報113)出土の頸部を有する貼瘤文の施されない深鉢には、無文帯の幅がさらに広くなり、突起の数も多い個体が含まれる。また、頸部の無い深鉢には、小波状の口縁をもつ個体が混じることから、Ⅳ期に示した資料よりも若干新しいⅤ期に相当する資料と考えられ、本文でⅣ期とした土器の中にも、Ⅴ期に相当する資料が若干混じるかもしれない。器形では、壺形の土器が増え、上げ底の底部も現れる。文様では指で摘んだ突瘤文も現れる。図319-7～9には突起が施されるようで、小波状口縁は突起が増えたものではなく口縁部の刻みが変化した形のものである。

Ⅵ期： 爪形文の施される時期。口縁部の突瘤文は衰退し始め、器形では、底部が小さくなる傾向がある。文様にはA状的な突起や三叉文が現れる。Ⅵ期には爪形文が施される時期の土器とし、周堤墓から出土した資料の中から新しいものを選び、それに美々4遺跡や柏原5遺跡の資料で補強した。

Ⅶ期： 周堤墓が造られなくなる時期の土器。口縁部の突瘤文は無くなり、爪形文も刻みに変化する傾向が見られる。Ⅶ期には周堤墓以降の墓壇の遺物として、美々4遺跡のマウンドを持つ墳墓出土の土器を当てはめた。

編年図掲載土器の出典 1、苫小牧市美沢2遺跡AH-1床面(美沢川流域の遺跡群Ⅱ) 2、苫小牧市美沢3遺跡包含層(北埋調報62) 3、キウス4遺跡北側盛土遺構(北埋調報124) 4



美々4遺跡出土の土器

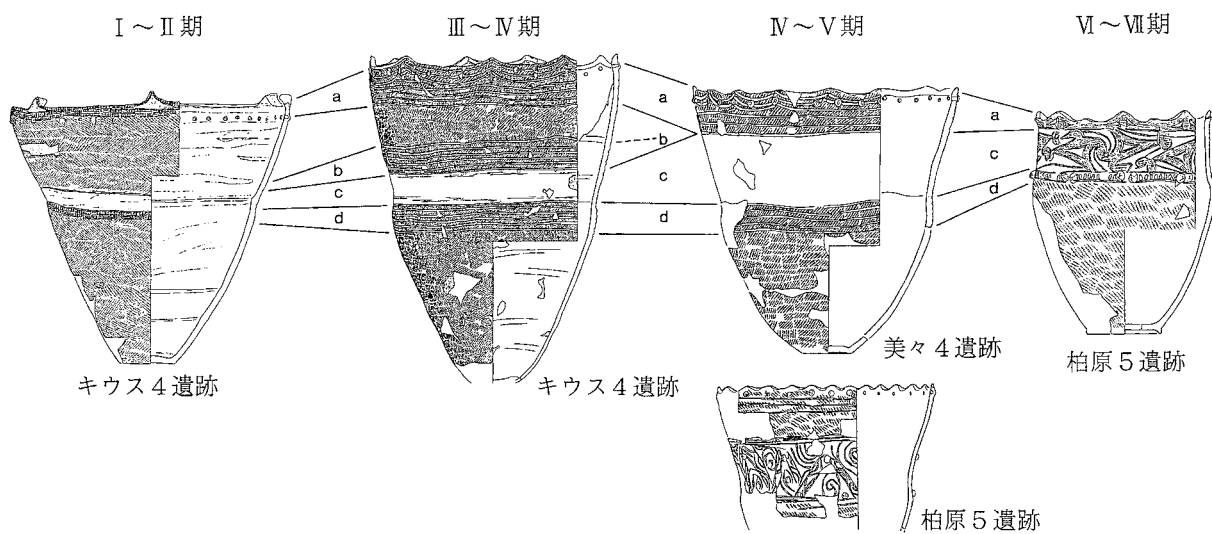


図319 美々4遺跡の土器・文様帯変遷図

~13、15~23、26、27、31、35、千歳市キウス4遺跡北側盛土遺構 14、千歳市キウス4遺跡南側直線状盛土(北埋調報144) 24、キウス4遺跡X10周堤(北埋調報144) 25、キウス4遺跡包含層(北埋調報144) 28、33千歳市美々4遺跡BS-3(北埋調報3) 29、千歳市美々4遺跡BS-4(北埋調報3) 30、37千歳市美々4遺跡包含層(北埋調報113) 32千歳市キウス5遺跡包含層(北埋調報125) 34、千歳市美々4遺跡BS-3・P-15(北埋調報3) 38~41苫小牧市美沢1遺跡JX-3・P-106(美沢川流域の遺跡群Ⅲ) 36、44苫小牧市柏原5遺跡包含層 42、43、千歳市美々4遺跡X-310(北埋調報14) 45~54千歳市美々4遺跡ⅡB層墳墓M-5(美沢川流域の遺跡群Ⅰ)

時期ごとの土器の変化には、従来指摘されてきたように器壁が古手ほど厚く、新しくなるにつれて薄くなる傾向は見られる。切出形の口唇はⅤ期ぐらいまで見られ、その断面は、新しくなるほど浅い角度になり、口唇からの幅も広くなる傾向が見られる。Ⅵ期以降はキウス4遺跡では資料が少ないが、口唇断面は、角形あるいは緩やかな切出口縁に変化するようである。また、Ⅵ期以降の頸部を有する深鉢の形状は編年図の36、45の様な頸部から上の口縁部が短い形に変化し、やがて頸部の括れも衰退するようである。頸部を有する深鉢で各時期ごとを比較したのが図319の下段である。図中aは口縁部の文様、bは頸部無文帯の上位にくる沈線文、cは無文帯、dは無文帯の下位に施される文様を表す。古手の土器は頸部無文帯下位に刻みを施す場合が多く、刻みの施されない場合でも下位の沈線の数が多いようである。中間の時期には無文帯の上下に同数程度の沈線が施され、口縁部には並行する沈線と平行沈線が現れる。前半期の口縁部の文様はaとbの間に施される。Ⅳ期以降には頸部無文帯が広がり、その上位に施される沈線bが衰退する傾向が現れる、中には無文帯cに文様を施す個体も柏原5遺跡で出土している。Ⅵ期以降はそれまでの頸部無文帯が口縁部の文様帯に置き変わる。文様の下地が無文の例が多いのも、それまでの文様帯のなごりと考えられる。

キウス4遺跡からは、後期中葉から後葉にかけての間をつなぐ口縁部や頸部に刻みを有する資料が豊富な器種とともに出土し、堂林式土器の成立時から前半までを説明するには十分な資料数がそろった。ただし、その資料の時期的な裏付けの根拠は、現場での出土層位だけではやや弱く、今後、土器などに付着する炭化物などを用いた自然科学的分析も必要と考えられる。後半の資料は本地区からの出土量が少ない上、出土する層は攪乱を受けており、編年図では他の遺跡からの資料を当てはめたため、新旧関係については、さらに弱いものとなった。また、新たに浮上した問題は、それまで言われてきた後期中葉から後葉にかけての土器形式をどの段階に当てはめるか、特に堂林式土器に関しては、その前半をどの時点からあてはめることができるか、Ⅱ期の資料にエリモB式を当てはめることが妥当なのかである。エリモB式を実見したかぎりでは、口縁部や頸部の刻みは太く、鱗潤式に突瘤文が施された印象が強かった。また、キウス4遺跡から出土した古手の資料は質、量共に過去の調査で出土した同時期の資料を上回るもので、形式を分けるのであれば、その基準は本遺跡から求めるべきだと考える。堂林式土器が設定された長沼町幌内堂林遺跡や12区B遺跡出土の資料は編年図のⅣ期以降のものと考えられる。また、近年苫小牧市の柏原5遺跡で設定された、柏原Ⅰ~Ⅵ式のうち、当該期の細分であるⅠ、Ⅱ式も、編年図のⅣ期以降の資料が多いようである。後にキウス4遺跡の中で最も多くの土器がプライマリ-な層から検出されたR地区の報告が控えており、その整理結果をふまえたうえで、粗削りではある後期後半の編年も見直す必要があると考えている。

(5) 動植物遺存体の出土状況

盛土遺構の土壌や焼土を水洗選別やフローテーションをした結果、多くの動植物遺存体が検出された。ただし、これらの遺存体の多くは小さな人工遺物を採集する目的で全ての盛土土壌を5mmメッシュで水洗選別(95年調査のF地区を除く)した折りに得られたものが多く、微細な遺存体のデータ(動物遺存体ではサケ科、コイ科、植物遺存体ではヒエ属、キク科、タデ科、ブドウ属など)に偏りが生じたことが指摘された(Ⅶ章3・4pp 465-501)。それらのことを踏まえた上で、ここでは比較的回収方法による差が生じていないと考えられるニホンジカ、イノシシ、ヒグマ、イヌ、植物遺存体ではユリ、クリ、コナラ、クルミの出土状況の概要を図320の上下にまとめてみた。図では、焼土や盛土遺構の区別無く、それらの遺存体が出土したグリッドにシンボルを載せた。この図には平成8年度に調査した隣接するL地区の盛土データもあわせて掲載した。なお、グリッドP、Q列の68~72付近は耕作による攪乱で、盛土が失われた地域である。

動物遺存体の出土状況を図56に示した遺物出土状況図と比較すると、遺物が集中して出土している地域とこれらの分布がきわめて類似しており、その状況はL地区にまで続いていることが見てとれる。種別に出土している層を確認してみたが、いずれの種も盛土の上層から下層まで、土器の時期ではⅡ期~Ⅳ期(図318参照)までの期間で出土している。出土しているエリアをみると、多数の柱穴が検出されたことから居住城と考えられるF地区南側や、土器の接合状況からある時期に一挙に整備され、生活空間のしきり的な役割をしていると考えられる80ラインより東側の盛土域ではほとんど回収されておらず、このような分布状況も復元可能な大形の破片が集中して出土した地域とほぼ一致する。これは食物として消費された動物の骨が土器(多くの場合は消耗した土器)と同様の扱いを受けていたことの現れかもしれない。

これにたいし植物遺存体の出土状況にはやや異なる傾向が見られる。まず、出土している層位を比較すると、コナラ属、クルミ属の種実はおおむね盛土遺構の全層から検出されているが、クリ属の種実には盛土の中位から上層にかけての検出例が多く、これに対してユリ科の鱗茎は盛土中位から下位にかけての検出例が多くみられ、種類により出土時期の違いがあるようである。さらに、その分布域は動物遺存体とは異なり、水洗選別をした盛土の全域に広がっているほか、ユリ科は他の植物遺存体とは異なり、居住城と考えられるF地区の南側に広がる整地層からは全く検出されない結果となった。

これらの状況から考えられることとして、まずこれらの植物遺存体は盛土中に分布する焼土などで直接焼かれたものか、廃棄された焼土や炭などに混入していたものと考えられるが、少なくとも動物遺存体とは異なる扱いであった可能性があることである。また、ユリ科の検出状況から考えられることは、クリ属やコナラ属などのように食物として持ち込まれたものではなく、本来この地域に自生していたものが、盛土の構築が進むのに伴い、その内側の黒色土とともに盛土に運ばれたものが、偶然に焼けた可能性があることである。

土器の出土状況や接合状況から、盛土の構築された時期やその後の盛土の性格に差があることを予測していたが、動植物遺存体の出土状況からもほぼ同様な結果が得られた。動物遺存体の分布域は盛土内側の柱穴群や、盛土下に広がる焼土群の分布とほぼ重なっており、盛土が形成される以前から集落が存続される期間この地域は日常的あるいは祭祀的な場として保守的に利用され続けていたと考えられ、その東側の盛土は、上部にあたらしい土砂が盛られていくが、その内容の違いからも居住域と外部とのしきり的な役割に変化が生じていないようである。また、整地層と盛土の関係では、土器の接合関係から盛土土壌の再利用の可能性があることを指摘したが、これら遺存体の出土状況からは、その可能性は薄れたものと考えられる。(土肥 研晶)

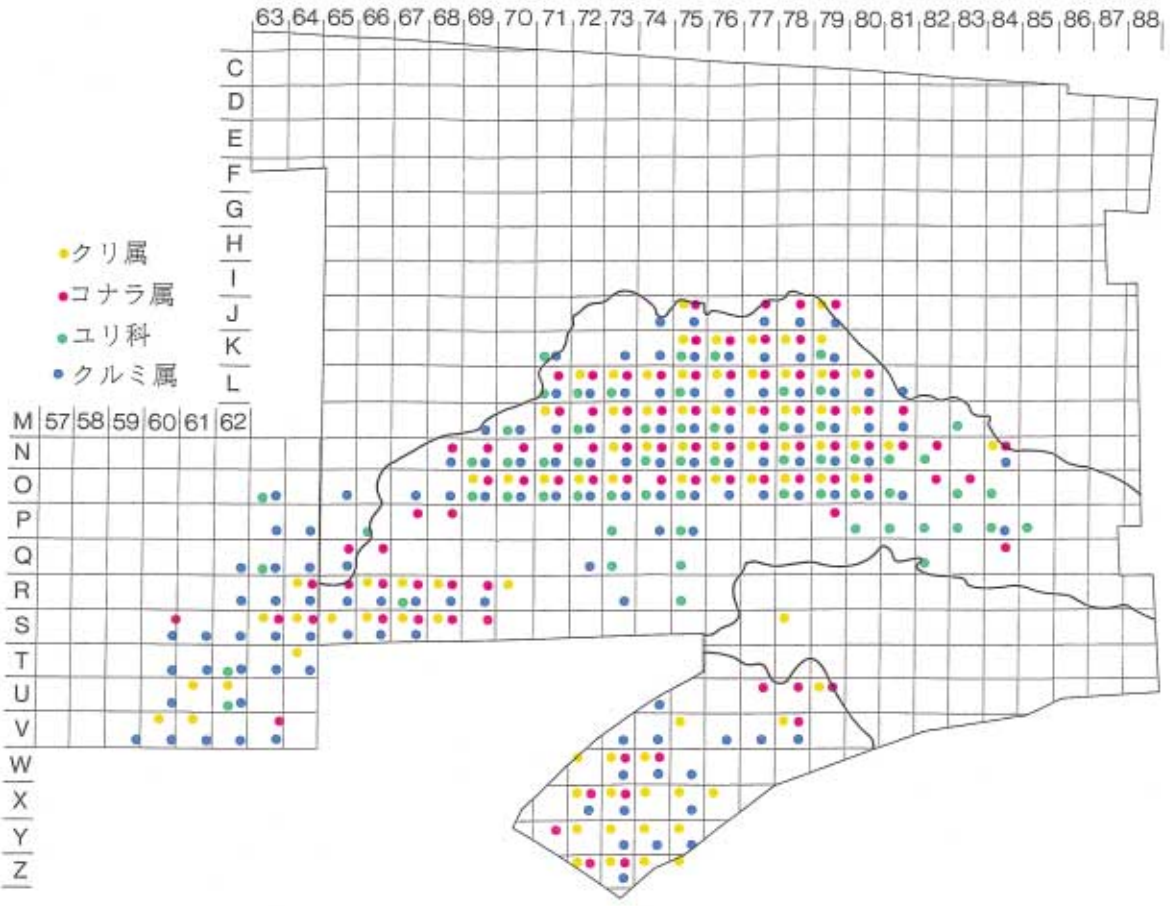
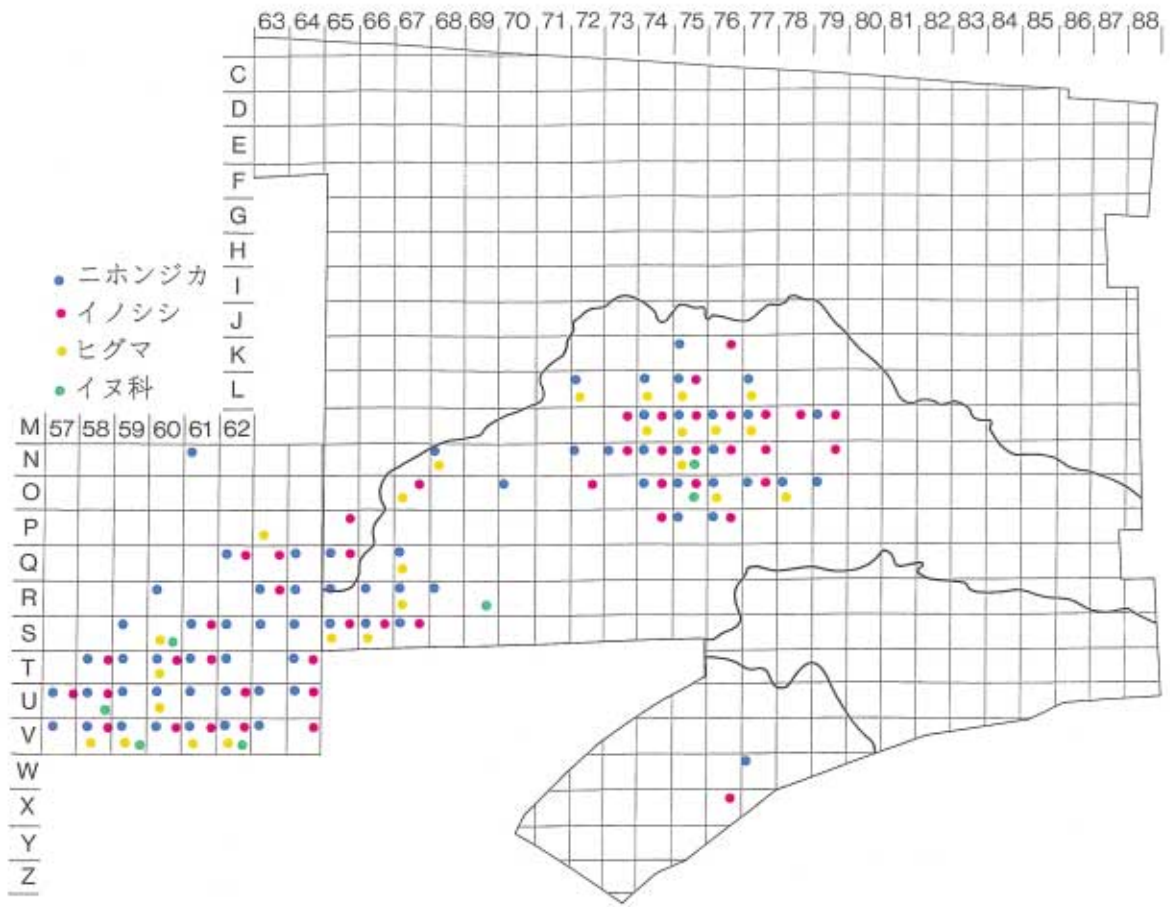


図320 動植物遠存体出土状況図

引用・参考文献

I 章に関するもの

- 石川徹 1969 「北海道千歳市キウス環状土籬外縁部墳墓について」『北海道考古学』第5輯 北海道考古学会
- 乾 芳宏・鈴木邦輝ほか 1997 「千歳川流域のチャシについて」『北海道の文化』38 北海道文化財保護協会
- 大谷敏三 1978 「「環状土籬」について」『考古学ジャーナル』No.156 ニューサイエンス社
- 河野常吉 1918 「キウスの遺跡」『北海道史附録地図』北海道庁
- 河野常吉 1924 「キウスのチャシ」『北海道史蹟名勝天然記念物調査報告書』北海道庁
- 河野常吉、宇田川洋校註 1981 『河野常吉ノート』考古篇1 北海道出版企画センター
- 空知地方史研究協議会 1977 『石狩川中流域の先史遺跡』空知文化財シリーズ第6集
- 千歳市教育委員会 1967 『千歳遺跡』
- 千歳市教育委員会 1979 『千歳市における埋蔵文化財(上)』千歳市文化財調査報告書V
- 千歳市教育委員会 1997 『キウス4遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書XXIII
- 千歳市教育委員会 1998 『キウス5遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書XXV
- 千歳市史編さん委員会 1983 『増補 千歳市史』千歳市
- 永田方正 1984 『北海道蝦夷語地名解』草風館
- 長沼町教育委員会 1967 『長沼町幌内堂林遺跡調査報告』
- 長沼町史編纂委員会 1977 『長沼町九十年史』長沼町
- 町村 勉編 1997 『幌内神社百年史』幌内神社
- 北海道開発局農業水産部 1998 『千歳地区表層地質調査報告書』北海道立地下資源調査所
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1994 『千歳市キウス4遺跡』概報
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1994 『オサットー1遺跡・キウス7遺跡』北埋調報90
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1995 『キウス5遺跡・キウス7遺跡(2)・ケネフチ8遺跡』北埋調報92
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1996 『調査年報8 平成7年度』
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1996 『キウス5遺跡(2)B地区』北埋調報104
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1996 『キウス7遺跡(3)』北埋調報105
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1997 『キウス5遺跡(3)A地区』北埋調報115
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1997 『キウス5遺跡(4)B地区・C地区』北埋調報116
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1997 『キウス7遺跡(4)』北埋調報117
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1997 『キウス4遺跡』北埋調報119
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1998 『調査年報10 平成9年度』
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1998 『キウス4遺跡(2)』北埋調報124
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1998 『キウス5遺跡(5)A-2地区』北埋調報125
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1998 『キウス5遺跡(6)B地区・C地区』北埋調報126
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1998 『キウス7遺跡(5)』北埋調報127
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1999 『調査年報11 平成10年度』
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1999 『キウス4遺跡(3)A・H・K・I地区』北埋調報134

- (財)北海道埋蔵文化財センター 1999 『キウス4遺跡(4)A2地区』北埋調報135
 (財)北海道埋蔵文化財センター 1999 『キウス5遺跡(7)・キウス7遺跡(6)』北埋調報136
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2000 『調査年報12 平成11年度』
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2000 『キウス4遺跡(5)』北埋調報144
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2000 『キウス4遺跡(6)』北埋調報148
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2001 『キウス4遺跡(7)』北埋調報152

II～IV章に関するもの(前出のものは省略)

- 加藤晋平・鶴丸俊明 1991 『図録・石器入門事典 先土器』柏書房
 鈴木道之助 1991 『図録・石器入門事典 縄文』柏書房
 町田勝則 1996 「石器の研究法」『(財)長野県埋蔵文化財センター研究論集』1 (財)長野県埋蔵文化財センター

V章に関するもの(前出のものは省略)

- 青森県教育委員会 1979 『金木町 神明町遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第58集
 青森県教育委員会 1981 『右エ門次郎窪遺跡・三合山遺跡・石ノ窪遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第69集
 青森県教育委員会 1982 『鶉窪遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第76集
 青森県教育委員会 1984 『大石平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第90集
 青森県教育委員会 1985 『尻高(4)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第89集
 青森県教育委員会 1987 『大湊近川遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第104集
 青森県教育委員会 1987 『上尾駁(2)遺跡II』青森県埋蔵文化財調査報告書第115集
 青森県教育委員会 1999 『十腰内(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第261集
 安孫子昭二 1969 「東北地方における縄文時代後期後半の土器様式」『石器時代』石器時代文化研究会
 阿部博志 1998 「宮城県出土の縄文時代の動物形土製品」『東北民俗学研究』第6号
 乾 芳宏 1981 「美沢川流域の環状土群 - 研究史と墓壇の分析を中心にして - 」『北海道考古学』第17輯
 上原甲子郎 1961 「巻貝形土製品」『考古学雑誌』第四十七巻 第三号 日本考古学会
 恵庭市教育委員会 1981 『柏木B遺跡』
 恵庭市教育委員会 1989 『ユカンボシE8遺跡』
 恵庭市教育委員会 1990 『柏木川11遺跡』
 恵庭市教育委員会 1992 『ユカンボシE3B地点』
 恵庭市教育委員会 1993 『西島松14遺跡 西島松15遺跡』
 大場利夫・渡辺兼庸 1966 「北海道爾志郡三ツ谷貝塚」『考古学雑誌』第五十一巻 第四号 日本考古学会
 小畠郁生監修 1994 ポケット図鑑『日本の化石』成美堂出版
 小菅貞男編 1994 ポケット図鑑『日本の貝』成美堂出版
 鹿角市教育委員会 1988 『大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書(4)』鹿角市文化財調査資料33
 加藤邦雄 1976 「北海道考古学講座(5)五、縄文時代後期・晩期」『北海道史研究』11 北海

道史研究会 みやま書房

河野広道 1954 「3 朱円の環状土籬」『網走道立公園知床半島学術調査報告』網走道立公園審議会

(財)岩手県埋蔵文化財センター・日本道路公団 1983 『叭屋敷 I a 遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第61集

(財)岩手県埋蔵文化財振興事業団・岩手県埋蔵文化財センター 1985 『馬場野 II 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第99集

(財)岩手県埋蔵文化財振興事業団・岩手県埋蔵文化財センター 1985 『大日向 II 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第100集

(財)岩手県文化振興事業団・埋蔵文化財センター 2000 『長倉 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第336集

(財)北海道埋蔵文化財センター 1981 『美沢川流域の遺跡群』Ⅳ 北埋調報3

(財)北海道埋蔵文化財センター 1984 『美沢川流域の遺跡群』Ⅶ 北埋調報14

(財)北海道埋蔵文化財センター 1985 『美沢川流域の遺跡群』Ⅷ 北埋調報17

(財)北海道埋蔵文化財センター 1986 『美沢川流域の遺跡群』Ⅸ 北埋調報24

(財)北海道埋蔵文化財センター 1986 『木古内町建川2・新道4遺跡』北埋調報43

(財)北海道埋蔵文化財センター 1987 『木古内町新道4遺跡』北埋調報52

(財)北海道埋蔵文化財センター 1989 『忍路土場遺跡・忍路5遺跡』北埋調報53

(財)北海道埋蔵文化財センター 1995 『オサツ2遺跡(1)・オサツ14遺跡』北埋調報96

(財)北海道埋蔵文化財センター 1997 『美沢川流域の遺跡群 X IX』北埋調報113

(財)北海道埋蔵文化財センター 1999 『ユカンボシ E7 遺跡』北埋調報132

佐藤智雄 1998 「北海道の動植物を意匠する製品」『東北民俗学研究』第6号 東北学院大学 OB 会

静内町教育委員会 1984 『御殿山遺跡とその周辺における考古学的調査』

志間泰治 1966 「貝形土器」『考古学雑誌』第五十二巻 第一号 日本考古学会

菅谷通保 1995 「竪穴住居から見た縄文時代後・晩期 - 房総半島北部(北総地域)を中心とした変化について - 」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第6集

須藤 隆 1997 「東北地方における弥生文化成立過程の研究」『歴史』第89号 東北史学会

千歳市教育委員会 1981 『末広遺跡における考古学的調査(上)』千歳市文化財調査報告書Ⅶ

千歳市教育委員会 1982 『末広遺跡における考古学的調査(下)』千歳市文化財調査報告書Ⅷ

千歳市教育委員会 1986 『梅川3遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書 X II

戸井町教育委員会 1988 『釜谷2遺跡 I』

戸井町教育委員会 1988 『釜谷2遺跡 II』

東北大学文学部考古学研究室・岩手県花泉町教育委員会 1997 『中神遺跡の調査』

栃木県竜率博物館 1990 『化石の科学』

苫小牧市教育委員会 1997 『柏原5遺跡』

長沼町教育委員会 1984 『長沼町12区 B 遺跡の発掘調査』

西澤 久 1998 「砂礫に生きる」『千歳を知る』千歳を知る会二十周年記念詩

八戸市教育委員会 1986 『丹後谷地遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第15集

八戸市教育委員会 1987 『田面木平遺跡(1)』八戸市埋蔵文化財調査報告書第20集

- 八戸市教育委員会 1988 『丹後平遺跡(2)丹後谷地遺跡(4)笹子遺跡(3)』八戸市埋蔵文化財調査報告書第27集
- 八戸市教育委員会 1991 『風張(1)遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第40集
- 八戸市教育委員会 1991 『風張(1)遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第42集
- 八戸市博物館 1997 『風張遺跡の縄文社会』
- 林 謙作 1995 『美々4式の再検討～苫小牧市柏原5遺跡の土器群～』(北海道大学大学院講義要旨)
- 日下和寿 1998 「岩手県内の動植物形土製品の集成」『東北民俗学研究』第6号
- 北海道教育委員会 1977 『美沢川流域の遺跡群』Ⅰ
- 北海道教育委員会 1978 『美沢川流域の遺跡群』Ⅱ
- 北海道教育委員会 1979 『美沢川流域の遺跡群』Ⅲ
- 高橋一樹・藤原秀樹 1999 「北海道的墓制の成立 - 周堤墓から御殿山系墓 - 」『日本考古学協会1999年度釧路大会研究発表要旨』
- 高橋 学 1998 「秋田県における動植物を意匠文とする土器・土製品」『東北民俗学研究』第6号
- 「土偶とその情報」研究会 1994 『東北・北海道の土偶Ⅰ』
- 「土偶とその情報」研究会 1996 『東北・北海道の土偶Ⅱ』
- 成田滋彦 1998 「縄文時代後期の動・植物意匠文」『東北民俗学研究』第6号
- 泰 昭繁 1998 「山形県内出土の動植物形土製品」『東北民俗学研究』第6号
- 波部忠重監修 1983 学研生物図鑑『貝 巻貝』
- 日高教育研究所 1953 『エリモ遺跡』
- 弘前市教育委員会 1990 『砂沢遺跡』
- 福田友之 1998 「青森県域出土の先史動・植物意匠遺物」『東北民俗学研究』第6号
- 藤本英夫 1971 『北の墓』
- 藤原秀樹 1999 「北海道における後期後葉から晩期初頭にかけての集団墓地について」『日本考古学協会1999年度釧路大会資料集Ⅱ・テーマ2 縄文から続縄文へ』
- 古屋敷則雄 1996 「環状土壇群・列石の方位と配置の規則性について」『動物考古学』6号
- 八雲町教育委員会 1995 『浜松5遺跡』
- 山形県埋蔵文化財センター 1995 『宮の前遺跡』
- 山口 晋 1998 「福島県内出土の動植物意匠をもつ縄文時代の遺物」『東北民俗学研究』第6号
- 吉本洋子 2000 「座産土偶」『季刊考古学』第73号
- 礼文町教育委員会 1999 『礼文町船泊遺跡発掘調査報告書』
- 渡辺 誠 2000 「人面・土偶装飾付土器の体系」『季刊考古学』第73号

Ⅵ 別表・別図

別表1 土器一覽

層位	I	I a - 1	I b - 1	I b - 2	I b - 3	I b - 4	II	II a	III	IV	IV a	IV b	IV c	V a	VI	VII	合計
I													119,088			18	119,106
III											2		7,434			13	7,449
IV			1								4		10,985			3	10,993
V			10		1	10	1	3	8		281	3	12,707	1			13,025
V a			7			1					1		19,909				19,918
V b	1	1	5			7		128	6		526		19,649				20,323
VI			1			1					1		2,321				2,324
VII													88				88
盛土34層													14,623				14,623
盛土35層													36,557				36,557
盛土5層			1								2		95,954				95,957
盛土26層			5	2		2		1			8		72,339				72,357
盛土27層											1		1,369				1,370
盛土17層													1,748				1,748
盛土28層													822				822
盛土19層						1							3,242				3,243
盛土22層													632				632
盛土13層		1	10				1				8		119,346				119,366
盛土23層													483				483
盛土33層											2		30,947				30,949
盛土36層			2					27					46,119				46,148
盛土1層						1							15,411				15,412
盛土29層													515				515
盛土14層			1			1		1			9		79,082				79,094
盛土3層			1							5			31,280				31,286
盛土30層													1,361				1,361
盛土4層			57			2		1			7		103,771				103,838
盛土31層													2,617				2,617
盛土32層													1,322				1,322
盛土37層								1					403				404
SE1層													38,357				38,357
SE2層													36,347				36,347
95年盛土1			9			7						1	1,076				1,093
95年盛土2													2				2
95年盛土3			22			25		5			7	6	1,732		6		1,803
95年盛土4											1	1	40				42
盛土層位不明			4			1	1		1				19,452				19,482
掘り上げ土 トレンチ等			2			4							5,748				5,748
遺構			9						4		4,530		5,215	30			9,788
合計	1	2	147	2	1	63	3	136	50	5	5,449	14	981,201	31	6	34	987,145

別表2 剥片石器一覧

層位	石槍・ナイフ	石鏃	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	R.U フレイク	フレイクチップ(黒曜石)	フレイクチップ(黒曜石以外)	ピース・エスキュー	石核	原石	合計
I	23	516	60	7	117	233	13,037	643		3	255	14,894
III	5	37	5	1	10	11	667	60			17	813
IV	1	37	2		13	14	756	54			23	900
V	4	82	5	2	23	34	1,015	115		2	32	1,314
Va	1	54	5		11	17	1,746	116			22	1,972
Vb	10	88	7	4	23	23	2,406	115	1	2	16	2,695
VI	4	11	1		6	3	221	8			1	255
VII		1			1	1	24					27
盛土34層		53	9	2	5	4	1,703	140			5	1,921
盛土35層	4	143	10	2	12	15	4,769	476			29	5,460
盛土5層	8	381	33	3	33	63	14,209	1,234		1	71	16,036
盛土26層	6	275	19	7	50	63	6,066	932	1		79	7,498
盛土27層	1	5	1		1	1	204	21			3	237
盛土17層		11		1		2	122	17				153
盛土28層		2			1	2	31	8				44
盛土19層		17	1			0	160	46				224
盛土22層		2				0	25	5				32
盛土13層	14	495	52	13	90	97	18,282	1,456		1	109	20,609
盛土23層		2				0	23	3				28
盛土33層	1	132	12	1	29	37	3,116	847			40	4,215
盛土36層	10	204	16	4	27	36	5,809	1,086			50	7,242
盛土1層	2	31	3		8	27	2,020	114			12	2,217
盛土29層		1				0	22	5				28
盛土14層	6	357	26	8	64	78	7,267	1,054			90	8,950
盛土3層	3	100	14	3	17	51	3,431	259			37	3,915
盛土30層	1	3	1			1	82	9				97
盛土4層	15	385	37	6	54	73	10,726	1,933			117	13,346
盛土31層		13	1			1	164	24			1	204
盛土32層		7	1	3		3	129	24			1	168
盛土37層		5	1		1	1	86	27				121
SE1層	4	126	5	3	24	20	6,299	195	3		51	6,730
SE2層	5	162	8	2	14	30	7,166	245	2		56	7,690
95年盛土1	1	7			2	10		39		4		63
95年盛土2						0						0
95年盛土3	1	3	1		5	13		64	3	3		93
95年盛土4						0		4				4
盛土層位不明	10	101	9	3	37	33	1,303	82			27	1,605
掘り上げ土		13	1		5	2	387	86			5	499
トレンチ等	4	118	10	4	25	49	3,618	497		1	50	4,376
盛土包含層合計	144	3,980	356	79	708	1,048	117,091	12,043	10	17	1,199	136,675
遺構	10	55	5	1	16	36	7,220	91	0	1	25	7,460
合計	154	4,035	361	80	724	1,084	124,311	12,134	10	18	1,224	144,135

別表3 礫石器一覧

層位	石斧	石斧 原材	すり石	石鋸	たたき 石	台石	石皿	砥石	石錘	礫	合計
I	152	5	60		217	5		128		1,153	1,720
III	6	1	5		17			6		133	168
IV	13	2	8		15	1		10		189	238
V	29		10		33			12		398	482
V a	25	1	9		18	1	1	17		290	362
V b	28		14	1	44			32		550	669
VI	2	1	2		6					88	99
VII											0
盛土34層	3		1		9			13		58	84
盛土35層	5				21	2		8		121	157
盛土5層	41		18		95	4		37		404	599
盛土26層	48	1	9		63	1		60		1,452	1,634
盛土27層	1							1		120	122
盛土17層					2			1		77	80
盛土28層	1							2		49	52
盛土19層	1		3		2			3		345	354
盛土22層					2					19	21
盛土13層	125	1	50	1	120	4	1	105	1	2,074	2,482
盛土23層					3		1	1		15	20
盛土33層	20		1		33	13	1	56		599	723
盛土36層	38		3		55	1		37		247	381
盛土1層	16	1	7		18			3		355	400
盛土29層	1		1					1		26	29
盛土14層	47	1	15		59			119		1,229	1,470
盛土3層	57		9	1	28			16		325	436
盛土30層	2				1					87	90
盛土4層	82	2	16		122	1		80	1	993	1,297
盛土31層	1		1	1	5					135	143
盛土32層	4		1					1		35	41
盛土37層	2				1			2		7	12
SE1層	4		2		21			3		1,244	1,274
SE2層	13		2		25			4		1,764	1,808
95年盛土1	3		2		5		1	3		163	177
95年盛土2											0
95年盛土3	5		1		5			5		182	198
95年盛土4										2	2
盛土層位不明	21		32		60			35		516	664
掘り上げ土 トレンチ等	1 23		2 8		5 29			3 24		129 319	140 403
盛土包含層合計	820	16	292	4	1,139	33	5	828	2	15,892	19,031
遺構	10	0	5	0	31	2	10	10	0	665	733
合計	830	16	297	4	1,170	35	15	838	2	16,557	19,764

別表4 その他の遺物一覧

層位	土製品	スタンプ 形土製品	燃成粘土 塊	石製品	石棒	擦り切り 残片	陶磁器	その他	合計	遺物総計
I			8	28		1			37	135,757
III			2	1					3	8,433
IV				2					2	12,133
V	2		1	3					6	14,827
Va			1	1					2	22,254
Vb				5					5	23,692
VI	1								1	2,679
VII									0	115
盛土34層			1	5					6	16,634
盛土35層			11	1					12	42,186
盛土5層	5	2	36	14	1				58	112,650
盛土26層			12	22		2			36	81,525
盛土27層									0	1,729
盛土17層									0	1,981
盛土28層				1					1	3,822
盛土22層									0	685
盛土13層	4		35	39		2			80	142,537
盛土23層				1					1	532
盛土33層	3	1	12	6					22	35,909
盛土36層	4		19	14					37	53,808
盛土1層				1			1		2	18,031
盛土29層									0	572
盛土14層	1	2	86	40		2			131	89,645
盛土3層			1	6					7	35,644
盛土30層									0	1,548
盛土4層		2	42	17		5			66	118,547
盛土31層						1			1	2,965
盛土32層									0	1,531
盛土37層									0	537
SE1層				5					5	46,366
SE2層			1	3		1			5	45,850
95年盛土1									0	1,333
95年盛土2									0	2
95年盛土3				1		1			2	2,096
95年盛土4									0	48
盛土層位不明	1		4	1					6	21,757
掘り上げ土 トレンチ等				1					1	6,388
			4	4					8	25,940
遺構	1	0	0	11	0	0	0	44	56	18,037
合計	22	7	276	233	1	15	1	44	599	1,151,643

別表5 遺構出土遺物一覧(1)

遺構名	土器					剥片石器											礫石器						その他				合計			
	Ib 1	III	IVa	IVc	Va	土器の小計	石槍またはナイフ	石鏃	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	R・Uフレイク	フレイク・チップ(黒曜石)	フレイク(黒曜石以外)	石核	原石(黒曜石)	剥片石器小計	石斧	たたき石	すり石	砥石	石皿・台石	礫	石器小計	土製品	石製品		その他	その他小計	
P 1				6		6							1				1						1	1					0	8
P 2・8	5			135		140		1				14					16	2	1				7	11					0	167
P 3	1			425		426	1	3			1	46	2		2		56		1			1	8	9	1			1	492	
P 4				3		3						1					1							0					0	4
P 5				12		12		1			1	10					13							0					0	25
P 7			1	17		18											0						1	1					0	19
P 9				11		11					1	4					6		1					1		1		1	19	
P 10				5		5											0							0					0	5
P 11				210		210	3	5			1	7	53	1		2	72		2				12	14				2	298	
P 12				44		44		1				4					5		1					1				0	50	
P 13				42		42					6	3	51	1		3	64	1	2				1	4				0	110	
P 14				87		87						1	25	2		1	29						18	18				0	134	
P 15				16		16			1		2	19					22							0				0	38	
P 17				20		20						5		1			6							0				0	26	
P 18				8		8		1				3					4							0				0	12	
P 19				28		28	1	3				27			1		33	1	2				2	5				0	66	
P 20				24		24					1	5					6						2	2				0	32	
P 21				2		2											0							0				0	2	
P 22				25		25						3					3							0				0	28	
P 23				1		1						1					1							0				0	2	
P 24				16		16		1				7			1		9	1	1	1			3	6			3	3	34	
P 25				4		4						0					0							0				0	4	
P 26				19		19		2			1	8	1				12						1	1				0	32	
P 27				41		41						14	1				15		1				3	4				0	60	
P 28				29		29					1	5				1	7						1	1				0	37	
P 30				5		5			1			6	1				8		2				3	5				0	18	
P 31				21		21						93	1		1		95					1	3	4				0	120	
P 32・95				11		11						4	2				6		1					1				0	18	
P 33				26		26						19					19							0				0	45	
P 34				4		4						2					2							0				0	6	
P 35				1		1						0					0							0				0	1	
P 36				0		0						0					0						1					0	1	
P 37				1		1						0					0							0				0	1	
P 38				6		6						4					4							0				0	10	
P 39				12		12						1					1						3	3				0	16	
P 40				13		13						0					0						2	2				0	15	
P 41				9		9			1			1					3						1	1		1		1	14	
P 42				1		1						0					0		1					1				0	2	
P 43				9		9						1					1							0				0	10	
P 44				4		4						3					3							0				0	7	
P 46				13		13						24					24						1	1				0	38	
P 47				2		2					1	16					17							0				0	19	
P 48				14		14		1				6					7							0				0	21	
P 51				12		12						0					0							0				0	12	
P 52				7		7					1	3	1				5		1				5	6				0	18	
P 53				5		5					1	1					2							0				0	7	

別表6 遺構出土遺物一覧(2)

遺構名	土器					剥片石器										礫石器							その他				合計					
	Ib 1	III	IVa	IVc	Va	土器の小計	石槍またはナイフ	石鏃	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	R・Uフレイク	フレイク・チップ(黒曜石)	フレイク(黒曜石以外)	石核	原石(黒曜石)	剥片石器小計	石斧	たたき石	すり石	砥石	石皿・台石	礫	礫器小計	石	土製品		石製品	その他	その他小計		
P 55				2		2											0								0					0	2	
P 56				1		1											0								0					0	1	
P 58				2		2							3				3								0					0	5	
P 60				1		1											0								0					0	1	
P 61				1		1											0								0					0	1	
P 62				1		1											0								0					0	1	
P 63				9		9							1				1								0					0	10	
P 64				15		15								1			1								0					0	16	
P 65				6		6						1	24			2	27								0					0	33	
P 66				6		6							2	1			3		1					1	2					0	11	
P 67				10		10					1		5				6		1						0					0	16	
P 68				1		1							2				2								0					0	3	
P 69				13		13							3	1			4								0					0	17	
P 70				34		34							91	9			100							1	1					0	135	
P 71				49		49							52	2			56		1					4	5					0	110	
P 72				44		44						1	110	9	1		122							13	13			3		3	182	
P 73				23		23							25				26						1	2	3			1		1	53	
P 81				1		1											0								0					0	1	
P 85				1		1											0								0					0	1	
P 88				2		2											0								0					0	2	
P 90				3		3							2	1		1	4								0					0	7	
P 91				14		14							1				1								0					0	15	
P 92	1			21		22						1	3	1			5		3	1				5	9					0	36	
P 93				18		18						1	5				6							2	2			1		1	27	
P 94				5		5							8				8								0					0	13	
P 96				10		10							4				4							3	3					0	17	
P 97				16		16							7				7							1	1					0	24	
P 98				7		7								1			1			1				4	5					0	13	
P 99				7		7										1	1								0					0	8	
P 100				5		5										0								1	1					0	6	
P 101				49		49							16				16							5	6					0	71	
P 102				34		34							1		3		6		1					1	1					0	41	
P 103-104				5		5							2				2								0					0	7	
P 105				10		10											0		1	1				2	2					0	12	
P 106				3		3							1				1								0					0	4	
P 107				4		4							1				1								0					0	5	
P 110						0							2				2								0					0	2	
P 111				1		1											0								0					0	1	
P 112				1		1											0								0					0	1	
P 113-114				24		24							11				11								0					0	35	
P 116			1			1											0								0					0	1	
P 117						0								1			1								0					0	1	
P 118				1		1											0								0					0	1	
P 120			3			3											0								0					0	8	
P 121				130		130							6	1			9							5	7					2	2	148
P 125						0											0								0			1		1	1	

別表7 遺構出土遺物一覧(3)

遺構名	土器					剥片石器										礫石器							その他				合計			
	Ib 1	III	IVa	IVc	Va	土器の小計	石槍またはナイフ	石鏃	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	R・Uフレイク	フレイク・チップ(黒曜石)	フレイク(黒曜石以外)	石核	原石(黒曜石)	剥片石器小計	石斧	たたき石	すり石	砥石	石皿・台石	礫	礫器小計	土製品	石製品		その他	その他小計	
P 127					2	2											0							0					0	2
P 128					1	1											0							0					0	1
P 129		1			57	58						4	1				5						4	4		1	3	4	71	
P 130	1				41	42						4	1				5						2	4				0	51	
P 131			1		196	197		3				10	4				17			1	2	1	14	17			13	13	244	
P 132					4	4										0								0				0	4	
P 133			21		1	22										0								0				0	22	
P 134			8			8		1								1							1	1				0	10	
P 136			1		14	15		1								1				1			8	9				0	25	
P 137						0										3								10	10			0	13	
P 138			3		2	30						2				2							2	2		1		1	40	
P 139		3			6	22					1					6		2	1					5	8			0	45	
P 140			4474		33	4507		2	6				1			19		2	1				6	7				0	4533	
P 141			8			8							1			1								0				0	9	
P 143			2		9	11										0								0			3	3	14	
P 144					29	29										12								3	3		4	4	48	
P 148					1	1										0								0				0	1	
P 149					3	3										0								1	1			0	4	
P 150					4	4										0								0				0	4	
P 151					6	6										1								1	1			0	8	
P 152					1	1										0								0				0	1	
P 153					5	5		1				2				3								1	1			0	9	
P 154					3	3					1					9								0				0	12	
P 155						0										0								1	1			0	1	
P 174					17	17										9								0				0	26	
P 175					8	8										0								0				0	8	
P 1176					2	2										1								0				0	3	
P 177					3	3										2								0				0	5	
P 178					9	9										2								0				0	11	
P 179					9	9										0								0				0	9	
P 180					5	5										6								1	1			0	12	
P 181					3	3										2								0				0	5	
P 182					4	4										0								0				0	4	
P 183					7	7										0								0				0	7	
P 185					2	2										4								1	1			0	7	
P 186					1	1										0								0				0	1	
P 187					1	1										0								0				0	1	
P 188					5	5										0								0				0	5	
P 190					9	9										1								0			1	1	11	
P 191					2	2										0								0				0	2	
P 192						0										0								1	1			0	1	
P 193					2	2										1								0				0	3	
P 195					2	2										0								0				0	2	
P 198					3	3										0								0				0	3	
P 202					6	6										0								0				0	6	
P 205					1	1										0								0				0	1	

別表8 遺構出土遺物一覧(4)

遺構名	土器					剥片石器										礫石器							その他				合計				
	Ib 1	III	IVa	IVc	Va	土器の小計	石槍またはナイフ	石鏃	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	R・Uフレイク	フレイク・チップ(黒曜石)	フレイク(黒曜石以外)	石核	原石(黒曜石)	剥片石器小計	石斧	たたき石	すり石	砥石	石皿・台石	礫	礫器小計	石	土製品		石製品	その他	その他小計	
P 207						0							1				1							0						0	1
P 211						3							1				1							0						0	4
P 214						2											0							0						0	2
P 218						3											0							0						0	3
P 224						2											0							0						0	2
P 227						0							2				2							2	2					0	4
P 235						1											0							0						0	1
P 236						2											0							0						0	2
P 238						9							1				1							0						0	10
P 246						1											0							0						0	1
P 255						1											0							0						0	1
P 256						1											0							0						0	1
P 269						2			1				1				2							2	2		1			1	7
P 270						5							1				1							0						0	6
P 271						1										1								0						0	2
P 272						13							2				2							0						0	15
P 276						3											0							1	1					0	4
P 277						3											0							0						0	3
P 285						0							1				1							0						0	1
SP 89						2							5				5							0						0	7
SP 101						1											0							1	1					0	2
SP 103						1											0							0						0	1
SP 108						0											0		1					1	1					0	1
SP 122						0											0							1	1					0	1
SP 124						1											0							0						0	1
SP 125						2						1					1							0						0	3
SP 128						5											0							0						0	5
SP 133						1											0							0						0	1
SP 142						3											0							0						0	3
SP 164						1											0							0						0	1
SP 172						0							1				1							0						0	1
SP 189						6											0							0						0	6
SP 190						1											0							0						0	1
SP 217						0							1				1							0						0	1
SP 218						1											0							0						0	1
SP 229						1											0							0						0	1
SP 237						1											0							0						0	1
SP 246						1											0							0						0	1
SP 247						0											1							0						0	1
SP 251						0											0							1	1					0	1
SP 265						2							1				1							0						0	3
SP 266						0											0							1	1					0	1
SP 267						0							1				1							0						0	1
SP 268						1											0							0						0	1
SP 270						0											2							0						0	2
SP 271						1											0							0						0	1

別表9 遺構出土遺物一覧(5)

遺構名	土器					剥片石器										礫石器							その他				合計				
	Ib 1	III	IVa	IVc	Va	土器の小計	石槍またはナイフ	石鏃	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	R・Uフレイク	フレイク・チップ(黒曜石)	フレイク(黒曜石以外)	石核	原石(黒曜石)	剥片石器小計	石斧	たたき石	すり石	砥石	石皿・台石	礫	礫器小計	石	土製品		石製品	その他	その他小計	
SP 273				1		1											0								0					0	1
SP 275				1		1											0								1					0	2
SP 276						0											1								0					0	1
SP 299				1		1							1				1									0				0	2
SP 302				1		1											0								0					0	1
SP 303				1		1											0								0					0	1
SP 312				2		2											0								0					0	2
SP 315				3		3											0								0					0	3
SP 333				1		1											0								0					0	1
SP 335				3		3											0								0					0	3
SP 336				1		1											0								0					0	1
SP 341				2		2											0								0					0	2
SP 368				4		4											0								0					0	4
SP 372				4		4							2				2								0					0	6
SP 376				3		3								1			1								0					0	4
SP 380				1		1											0								0					0	1
SP 385						0							1				1								0					0	1
SP 386						0											0								1					0	1
SP 395						0							1				1								0					0	1
SP 397				1		1											0								0					0	1
SP 400				1		1											0								0					0	1
SP 403				5		5											0								0					0	5
SP 415				3		3							1				1								0					0	4
SP 420				1		1							1				1								0					0	2
SP 438				1		1											0								0					0	1
SP 442				1		1											0								0					0	1
SP 457				1		1											0								0					0	1
SP 469				1		1											0								0					0	1
SP 490				1		1											0								0					0	1
SP 491				1		1											0								0					0	1
SP 514				4		4											0								0					0	4
SP 515				3		3											0								0					0	3
SP 518						0							1				1								0					0	1
SP 535						0							1				1								0					0	1
SP 538				1		1											0								0					0	1
SP 544				1		1											0								0					0	1
SP 546				1		1							3				3								0					0	4
SP 551						0											0								1					0	1
SP 554						0							3				3								0					0	3
SP 557				1		1											0								0					0	1
SP 559				1		1											0								0					0	1
SP 565				1		1											0								0					0	1
SP 568						0							1				1								0					0	1
SP 578				1		1											0								0					0	1
SP 580						0							1				1								0					0	1
SP 581				1		1							1				1								0					0	2

別表10 遺構出土遺物一覧(6)

遺構名	土器					剥片石器										礫石器							その他				合計			
	Ib 1	III	IVa	IVc	Va	土器の小計	石槍またはナイフ	石鏃	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	R・Uフレイク	フレイク・チップ(黒曜石)	フレイク(黒曜石以外)	石核	原石(黒曜石)	剥片石器小計	石斧	たたき石	すり石	砥石	石皿・台石	礫	礫器小計	土製品	石製品		その他	その他小計	
SP 588						0											0							1	1				0	1
SP 593						0											1								0				0	1
SP 597				1		1											0								0				0	1
SP 607				1		1											0								0				0	1
SP 641				1		1											0								0				0	1
SP 642				1		1											0								0				0	1
SP 644						0											0				1				1				0	1
SP 656				2		2											0								0				0	2
SP 666						0							1				1								0				0	1
SP 685				5		5											0								0				0	5
SP 714				1		1											0								0				0	1
SP 715				1		1							2				2								0				0	3
SP 718				1		1							1				1								0				0	2
SP 719						0							1				1								0				0	1
SP 724				4		4											0								0				0	4
SP 725				5		5											0								0				0	5
SP 752				2		2											0								0				0	2
SP 757						0											0	1							1				0	1
SP 784				1		1											0								0				0	1
SP 821				2		2											0								0				0	2
SP 847				1		1							1				1								0				0	2
SP 859				3		3											0								0				0	3
SP 861				1		1											0								0				0	1
SP 885				2		2											0								0				0	2
SP 906				1		1											0								0				0	1
SP 966				2		2											0								0				0	2
SP 992						0											0								0			1	1	1
SP 993				1		1											0								0				0	1
SP 1014				1		1											0								0				0	1
SP 1030				1		1											0								0				0	1
SP 1043				1		1											0								0				0	1
SP 1131				27		27							1				2								0				0	29
SP 1135				2		2											0								0				0	2
SP 1173						0						1	35				38								0				0	38
F 1						0							7				7								0				0	7
F 8						0							1				1								0				0	1
F 23				3		3											0								0				0	3
F 25						0											7								0				0	7
F 31				5		5						1	40		1		42								0				0	47
F 33				3		3							8				9								0				0	12
F 34						0							5				5								0				0	5
F 35						0							1				1								0				0	1
F 37				3		3							11				11								0				0	14
F 38				2		2											0								0				0	2
F 39						0							7				7								0				0	7
F 41						0							4				4								0				0	4

別表11 遺構出土遺物一覧(7)

遺構名	土器					剥片石器										礫石器						その他				合計					
	Ib 1	III	IVa	IVc	Va	土器の小計	石槍またはナイフ	石鏃	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	R・Uフレイク	フレイク・チップ(黒曜石)	フレイク(黒曜石以外)	石核	原石(黒曜石)	剥片石器小計	石斧	たたき石	すり石	砥石	石皿・台石	礫	礫器小計	石		土製品	石製品	その他	その他小計	
F 42						0											0							1	1					0	1
F 44						11							16				16							3	3					0	30
F 46						4						14					14								0				0	18	
F 47						5						2					2								0				0	7	
F 60						5						6					6							1	1				0	12	
F 61						1						0					0								0				0	1	
F 62						4						4					4								0			4	4	8	
F 65						0						2					2								0				0	2	
F 68						0						2					2								0				0	2	
F 69						1						1					0								0				0	1	
F 70						4						9					9								0				0	13	
F 72						0						1					1								0				0	1	
F 73						0						1					1								0				0	1	
F 74						0						1					1								0				0	1	
F 76						2						2					0								0				0	2	
F 78						0						1					1								0				0	1	
F 79						0						1					1								0				0	1	
F 80						0						1					1								0				0	1	
F 81						18						47			1		49								0			1	1	68	
F 82						2						5					5								0				0	7	
F 83						12						19			1		20								0			1	1	33	
F 84						14						45					45								0				0	60	
F 85						8						1					1							1	1				0	10	
F 87						0						1					1								0				0	1	
F 88						21						23					24								0				0	45	
F 89						0						1					1								0				0	1	
F 90						1						0					0								0				0	1	
F 92						0						11					11								0				0	11	
F 93						0						5					5								0				0	5	
F 94						0						2					2								0				0	2	
F 95						0						2					2								0				0	2	
F 96						0						2					2								0				0	2	
F 98						0						10					10								0				0	10	
F 101						8						11					11								0				0	19	
F 102						2						5					5								0				0	7	
F 105						17						31					31					1			1			1	1	50	
F 106						2						11			1		12								0				0	14	
F 107						0						9					9								0				0	9	
F 108						0						2					2								0				0	2	
F 110						1						6					6								0				0	7	
F 111						0						1					1								0				0	1	
F 112						1						4					4								0				0	5	
F 115						2						1					1								0				0	3	
F 116						1						5					5								0				0	6	
F 118						1						1					1								0				0	2	
F 121						0						1					1								0				0	1	

別表12 遺構出土遺物一覧(8)

遺構名	土器					剥片石器										礫石器						その他				合計					
	Ib 1	III	IVa	IVc	Va	土器の小計	石槍またはナイフ	石鏃	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	R・Uフレイク	フレイク・チップ(黒曜石)	フレイク(黒曜石以外)	石核	原石(黒曜石)	剥片石器小計	石斧	たたき石	すり石	砥石	石皿・台石	礫	礫器小計	石小計		土製品	石製品	その他	その他小計	
F 123				1		1							7				7								0					0	8
F 124						0		1					24				25								0					0	25
F 125						0							5				5								0					0	5
F 126						0							6				6								0					0	6
F 131						0		1									1								0					0	1
F 133						0							1				1								0					0	1
F 141						0							1				1								0					0	1
F 142						0							1				1								0					0	1
F 143						0							3				3								0					0	3
F 144						0							1				1								0					0	1
F 145						0							1				1								0					0	1
F 146						0							2				2								0					0	2
F 149						0							1				1								0					0	1
F 150				4		4							10				10								0					0	14
F 151						0							7				7								0					0	7
F 152						0							3				3							1	1					0	4
F 154						0							1				1								0					0	1
F 156				3		3											0								0					0	3
F 159				1		1					1						1							1	1					0	3
F 161				1		1											0								0					0	1
F 166				2		2							1				1								0					0	3
F 177				26		26							4	2			6								0					0	32
F 179						0							5				5								0					0	5
F 182						0							1				1								0					0	1
F 184						0							6				6								0					0	6
F 189				1		1											0								0					0	1
F 190						0							1				1							1	1					0	2
F 193						0							3				3								0					0	3
F 195						0							1				1								0					0	1
F 196				1		1							2				2								0					0	3
F 197				10		10											0								0					0	10
F 198						0							3				3								0					0	3
F 199				3		3											0								0					0	3
F 201						0							4				4								0					0	4
F 202						0											0	1							1					0	1
F 203						0							13				13								0					0	13
F 204				5		5							3				3								0					0	8
F 205				1		1											0								0					0	1
F 212						0							28				28								0					0	28
F 214				1		1											0								0					0	1
F 215						0							1				1								0					0	1
F 221						0							1				1								0					0	1
F 231				1		1											0								0					0	1
F 235				1		1											0								0					0	1
F 237				1		1											0							1	1					0	2
F 250						0							1				1								0					0	1

別表13 遺構出土遺物一覧(9)

遺構名	土器					剥片石器										礫石器								その他				合計		
	Ib 1	III	IVa	IVc	Va	土器の小計	石槍またはナイフ	石鏃	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	R・Uフレイク	フレイク・チップ(黒曜石)	フレイク(黒曜石以外)	石核	原石(黒曜石)	剥片石器小計	石斧	たたき石	すり石	砥石	石皿・台石	礫	礫器小計	土製品	石製品	その他		その他小計	
F 255				1		1											0							0					0	1
F 261				1		1											0							0					0	1
F 263				1		1											0							0					0	1
F 264						0											0							1	1				0	1
F 265				2		2											0							0					0	2
F 273				1		1											0							0					0	1
F 281				1		1											0							0					0	1
F 296				2		2											0							0					0	2
F 297				1		1											0							0					0	1
F 299				1		1											0							0					0	1
F 308				3		3							1			1								0					0	4
F 310				16		16						3				3								0					0	19
F 325				1		1										0								0					0	1
F 333				8		8										0								0					0	8
F 334				7		7										0								0					0	7
F 344						0						1				1								0					0	1
F 355						0						1				1								0					0	1
F 391				5		5										0								0					0	5
F 418				1		1										0								0					0	1
F 580	1					1						1				1								0					0	2
F 741						0						57				57								0					0	57
F 755						0						1				1								0					0	1
F 1134						0						7				7								0					0	7
F 1038						0						1				1								0					0	1
F 1143						0							11			11								0					0	11
F 1250						0						6				6								0					0	6
FC 1				14		14		2			1	4330	18			4351								0					0	4365
FC 2				84		84						1137				1137								0					0	1221
FC 3				13		13						52				52								1	1				0	66
一括土器 4				77		77										0								0					0	77
一括土器 5				202		202						1				1								0					0	203
一括土器 6				181		181										0								0					0	181
一括土器 7				19		19										0								0					0	19
一括土器 8				84		84										0								0					0	84
一括土器 9				672		672										0								0					0	672
一括土器 10				398		398		4		1	2	8	2		17	1	3						5	9			2	2	426	
一括土器 11				68		68										0								0					0	68
一括土器 12				348		348										0								0					0	348
集石 1				1		1										0							45	45				1	1	47
集石 2				25		25						9	7		1	17							412	412					0	454
合計	9	4	4530	5215	30	9788	10	55	5	1	16	36	7220	91	1	25	7460	10	31	5	10	12	665	733	1	11	44	56	18037	

別表14 出土土器重量一覧(1)

	包含層	盛土1層	盛土3層	盛土4層	盛土5層	盛土13層	盛土14層	盛土17層	盛土19層	盛土22層	盛土23層	盛土26層	盛土27層	盛土28層	盛土29層	盛土30層	盛土31層	盛土32層	盛土33層	盛土34層	盛土35層	盛土36層	盛土37層	SE1層	SE2層	堀り上げ土	その他	95F地区	合計
B 61	23																												23
B 62	36																												36
B 65	6																												6
C 60	120																												120
C 61	79																												79
C 62	247																												247
C 63	53																												53
C 64	39																												39
C 66	7																												7
C 67	17																												17
C 69	26																												26
C 75	19																												19
C 79	31																												31
C 80	8																												8
C 81	20																												20
C 83	10																												10
D 60	81																												81
D 61	302																												302
D 62	195																												195
D 63	105																												105
D 64	77																												77
D 65	13																												13
D 66	18																												18
D 68	73																												73
D 69	32																												32
D 74	17																												17
D 76	21																												21
D 77	62																												62
D 78	48																												48
D 79	43																												43
D 80	105																												105
D 81	32																												32
D 82	124																												124
D 83	684																												684
D 84	470																												470
D 85	52																												52
D 86	45																												45
E 60	503																												503
E 61	252																												252
E 62	161																												161
E 63	127																												127
E 69	47																												47
E 70	22																												22
E 71	17																												17
E 72	34																												34
E 74	36																												36
E 75	107																												107
E 77	72																												72
E 78	112																												112
E 79	10																												10
E 80	16																												16
E 81	286																												286
E 82	53																												53
E 83	285																												285
E 84																											10		10
E 85	35																												35
E 86	19																												19
E 88	34																												34
F 60	181																												181
F 61	112																												112
F 62	34																												34
F 68	8																												8
F 69	11																												11
F 70	12																												12
F 75	148																												148
F 77	360																												360
F 78	41																												41
F 79	78																												78
F 80	30																												30

単位 = g

別表15 出土土器重量一覧(2)

	包含層	盛土1層	盛土3層	盛土4層	盛土5層	盛土13層	盛土14層	盛土17層	盛土19層	盛土22層	盛土23層	盛土26層	盛土27層	盛土28層	盛土29層	盛土30層	盛土31層	盛土32層	盛土33層	盛土34層	盛土35層	盛土36層	盛土37層	SE1層	SE2層	堀り上げ土	その他	95F地区	合計		
F 81	50																												50		
F 83	65																													65	
F 84	95																													95	
F 85	35																													35	
F 86	38																													38	
F 87	18																													18	
F 97	24																													24	
G 66	54																													54	
G 67	20																													20	
G 68	68																													68	
G 69	57																													57	
G 72	18																													18	
G 73	31																													31	
G 74	86																													86	
G 75	359																													359	
G 76	385																													385	
G 77	259																													259	
G 78	693																													693	
G 79	65																													65	
G 80	293																													293	
G 81	115																													115	
G 82	134																													134	
G 83	69																													69	
G 84	564																													564	
G 85	1 268																													1 268	
G 86	51																													51	
G 87	51																													51	
G 88	38																													38	
G 98	107																													107	
H 66	40																													40	
H 67	52																													52	
H 68	151																													151	
H 69	139																													139	
H 70	26																													26	
H 71	92																													92	
H 72	28																													28	
H 73	258																													258	
H 74	533																				754		624				22			1 911	
H 75	403																													403	
H 76	426																													426	
H 77	659																													659	
H 78	443																													443	
H 79	336																													336	
H 80	472																													472	
H 81	66																													66	
H 82	79																											45		111	
H 83	224																													224	
H 84	433																													433	
H 85	851																													851	
H 86	656																													656	
H 87	43																													43	
I 129	76																													76	
I 66	20																													20	
I 67	100																													100	
I 68	47																													47	
I 69	136																													136	
I 70																															
I 71	105																											57		57	
I 72	75																										8			113	
I 73	76																													75	
I 74	686																													686	
I 75	630																													630	
I 76	1 684																													1 684	
I 77	2 090																													2 090	
I 78	2 806																													2 806	
I 79	4 707																													4 707	
I 80	756																													756	
I 81	55																													55	
I 82	252																													252	

単位 = g

別表16 出土土器重量一覧(3)

	包含層	盛土1層	盛土3層	盛土4層	盛土5層	盛土13層	盛土14層	盛土17層	盛土19層	盛土22層	盛土23層	盛土26層	盛土27層	盛土28層	盛土29層	盛土30層	盛土31層	盛土32層	盛土33層	盛土34層	盛土35層	盛土36層	盛土37層	SE1層	SE2層	掘り上げ土	その他	95F地区	合計			
I 83	119																												119			
I 84	223																													223		
I 85	138																													138		
I 86	131																													131		
J 66	312																													312		
J 68	188																										73			261		
J 69	199																													199		
J 70	229																													229		
J 72	386											12										17								443		
J 73	2,048																						659				28			2,801		
J 74	640				95							9											35							779		
J 75	3,530			3,249																											6,779	
J 76	5,437											2,517															507			8,461		
J 77	6,451											5,040								56										11,547		
J 78	4,323											9,722								67										14,112		
J 79	9,451											3,777																970		14,198		
J 80	1,547																														1,547	
J 81	770																											12		782		
J 82	393																														393	
J 83	221																														221	
J 84	202																														202	
K 65	241																														241	
K 66	707																														707	
K 67	196																														196	
K 68	279																											68			347	
K 69	689																											11			700	
K 70	1,033																														1,033	
K 71	1,509			3,500																				7			117				5,133	
K 72	572			3,400																				23			750				4,745	
K 73	1,067																						65								1,132	
K 74	5,265			375			62					36										1,746	69			314				7,867		
K 75	4,250			4,441	3,139		1,014					355								3,750	10,656	1,531								29,136		
K 76	5,828				6,620		748					6,283			9					2,998	1,508	1,150					3,210			28,354		
K 77	6,216				16		27					15,445							20	3,000										24,724		
K 78	11,596				16							27,243								2,723										41,578		
K 79	10,681			241			23					17,850								486								1,915		31,196		
K 80	4,601											2,767																			7,368	
K 81	533																														533	
K 82	568																															568
K 83	2,397																															2,397
K 84	427																															427
K 85	45																															45
K 89	309																															309
L 65	5,845																											47			5,892	
L 70	826				681							771																			2,278	
L 71	10,986				13,550							12															334				24,882	
L 72	325				27,261							43																			30,033	
L 73	5,659				7,950							12																				15,468
L 74	4,772				5,699		5,046					16																				40,286
L 75	3,729				415	4,500	5,634													198	608	23,947									74,452	
L 76	8,117					19,918	77	4,250				2,900								7,932	3,160	22,247	23,100				3,735				49,830	
L 77	5,593					4,707	6,528					11,634								6,618	1,759	1,434	57				4,700				36,929	
L 78	6,739						1,169					18,315								2,457	4,700	6					1,304				31,566	
L 79	3,608						36					11,765			11					5	5,338										17,540	
L 80	4,780											8,133									1,580										12,913	
L 81	2,781											864																				4,123
L 82	2,539											211																				2,750
L 83	3,327																															3,327
L 84	1,071											26																				1,097
L 85	24																															24
M 65	377																															377
M 66	888																															888
M 67	1,945																															1,986
M 68	7,297																											41				7,445
M 69	3,352																															3,695
M 70	3,944											20																				9,694
M 71	4,914																															15,951
M 72	4,844																															22,078
M 73	2,525					21,596	153	8				380											10				2,420				32,526	
																							6,464				1,400					

単位 = g

別表17 出土土器重量一覧(4)

	包含層	盛土1層	盛土3層	盛土4層	盛土5層	盛土13層	盛土14層	盛土17層	盛土19層	盛土22層	盛土23層	盛土26層	盛土27層	盛土28層	盛土29層	盛土30層	盛土31層	盛土32層	盛土33層	盛土34層	盛土35層	盛土36層	盛土37層	SE1層	SE2層	掘り上げ土	その他	95F地区	合計			
M 74	4 162			455	40	44	9 785												151	397	33 849						5 886	54 769				
M 75	10 300			64	9 309	340	12 733					9							6 137	1 800	28 272	28 938					9 750	107 652				
M 76	7 628			36	14 091	175	12 441					37							24 251		1 433	31					9 914	70 037				
M 77	7 373				13 012	3 440	17 375												12 712	801							4 704	59 417				
M 78	5 004			8	4 724	3 330	5 909					14 285							66	5 224	39	15					843	39 447				
M 79	2 723				458	3 965	68					7 607															2 022	20 666				
M 80	3 668				72	2 975						10 729									313							17 757				
M 81	4 319					373						10 689	670														3 828	19 879				
M 82	2 745											17 735																443	20 923			
M 83	5 764	176										6 960															4 480	17 380				
M 84	2 940											257																3 197				
N 65	827																											827				
N 66	2 401																											2 401				
N 67	6 842			693			11																					28	7 574			
N 68	8 415			11 843																							1 579	21 837				
N 69	4 677			18 171																								22 848				
N 70	3 141			22 193	18	9																						25 361				
N 71	3 838			21 319	53																							25 210				
N 72	5 798			13 484																								973	20 255			
N 73	11 201			7 104	178	29	3 003																7 382				17	28 914				
N 74	10 046			1 100		2 100	14 772													156	751	10 905					39 830					
N 75	12 248			41	2 135	27 528	12 462													7 580	20 628	19 350					4 130	106 102				
N 76	19 177			33	29 356	42 818	10 510													15 263	8 331	29					9 991	135 475				
N 77	8 729			36 036	11 422	15 608														14 674	15	49					4 001	90 567				
N 78	4 455		23	28 510	19 995	4 084						268							105	4 057	10	46					5 650	67 203				
N 79	2 803			24	19 810	9 974	10					310									486						3 850	37 267				
N 80	1 078			8 854	15 440							1 803											30					171	27 376			
N 81	1 648				2 601	363			10			8 876											80				4 169	17 747				
N 82	1 588				1 767							9 586																1 587	16 905			
N 83	962				19				63		35	12 250															5 346	18 934				
N 84	2 732											5 610																795	9 137			
N 85	503										524	672																1 699				
O 63																												0				
O 65	2 344																											988	3 332			
O 66	3 903	28		674																							779	5 384				
O 67	2 843	2 033		11 742																									16 618			
O 68	5 974			11 565																								399	2 818			
O 69	5 614			11 410																									20 756			
O 70	5 963			9 609		49	157																						15 778			
O 71	6 312			4 904	22	53	356																					57	11 704			
O 72	9 037			1 535	43	112	2 576																					803	14 106			
O 73	9 956					5 133	3 283																						18 372			
O 74	9 723					23 416	9 856																						42 995			
O 75	21 015		20		77	32 347	10 309														4 177	1 473	204				20	69 642				
O 76	9 688				8 329	32 774	8 079																					10 328	74 546			
O 77	8 512		1 112	764	13 392	30 655	8 579														4 841	85	422				101	66 931				
O 78	5 370				11 805	17 864															3 816							637	35 676			
O 79	4 318				14 670	11 517						82																2 189	32 776			
O 80	4 312				8 767	15 305						164																4 052	32 730			
O 81	2 624				257	7 405						1 718					80											7 245	19 383			
O 82	1 054				618	1 442						1 954	983															1 671	9 017			
O 83	516					28				32		3 678	1 300	213		104												52	7 078			
O 84	1 273										55	6 825	556	432		112												1 181	10 434			
O 85	202									38		1 663	112																2 015			
O 87												196																193	389			
P 60	95																											95				
P 65	7 403	38																											13 185			
P 66	4 521	944		71	572		26																					5 694	50			
P 67	6 421	7 039	610	2 190			1 354																				3 593	9 727				
P 68	5 126	274	104	1 552																									17 614			
P 69	5 767		10	368																									978	8 034		
P 70	10 121			1 468		72	29																					6 297	12 442			
P 71	14 198			19			709																					2 833	14 523			
P 72	650						924	2 012																					14 926			
P 73	8 062						4 469	520																				2 009	5 595			
P 74	11 292						20 723	3 996																					13 051			
P 75	14 103						10 822	2 461																					36 011			
P 76	8 372				1 691	7 720	2 786					17																	27 403			
P 77	6 385			537	2 647	10 892	2 714																					8 882	29 451			
																													23 175			

単位 = g

別表18 出土土器重量一覧(5)

	包含層	盛土1層	盛土3層	盛土4層	盛土5層	盛土13層	盛土14層	盛土17層	盛土19層	盛土22層	盛土23層	盛土26層	盛土27層	盛土28層	盛土29層	盛土30層	盛土31層	盛土32層	盛土33層	盛土34層	盛土35層	盛土36層	盛土37層	SE1層	SE2層	堀り上げ土	その他	95F地区	合計			
P 78	5 730				329	6 450																						115	12 624			
P 79	1 936					5 349																							7 285	9 687		
P 80	2 821					5 236						23		25		23												1 559	9 956			
P 81	2 593					3 804			282								373											1 374	8 306			
P 82	1 407						6		118			1 272	1 005	177		393	2 459		95								1 658	5 520				
P 83	199																3 148											723	1 454			
P 84	1 048											559	332	1 528	108	1 137	85											1 454	312			
P 85	67					47							166	271	443	460												95	312			
P 86	61														93	63												164	491			
P 87	102							5							25	195												6 643	12 954			
Q 65	6 079	206			26																					6 643		52	10 462			
Q 66	2 887	4 886	565	1 528																						544			25 422			
Q 67	5 908	5 131	11 227	3 136	20																								16 689			
Q 68	10 923	58	1 605	1 725																									14 174			
Q 69	13 018			963																									18 672			
Q 70	18 408			156																									15 241			
Q 71	13 832																												10 424			
Q 72	4 665					124					10																		9 943			
Q 73	6 240					2 305	868																						13 372			
Q 74	9 049					2 959	1 338																		530			26	16 963			
Q 75	9 490			16		1 574	4 331																						10 347			
Q 76	5 760					1 263	1 876																						18	8 077		
Q 77	5 833					832	1 394																						97	3 621		
Q 78	2 931		172			421																							2 227	3 033		
Q 79	1 919					308																							621	2 227		
Q 80	1 597		48			708																					59		3 033	15		
Q 81	4 024					441											256												15	4 835		
Q 82	2 166							267	1 222								612												414	4 681		
Q 83	1 178							139	2 138				39				24												1 335	5 610		
Q 84	1 121							1 049	2 222			20					14	2 010									15		28	6 479		
Q 85	591							240	1 599		911				83	40	464												525	4 453		
Q 86	635					22		48	2 276		1 115				135	698													1 414	6 343		
Q 87	396							35	213	189					385	672													2 001	3 891		
R 61																														0		
R 65	8 047	2 046	2 856	7 909			106																						818	4 432	26 214	
R 66	8 182	4 659	11 744	9 087			209																							5 396	39 277	
R 67	9 683	544	14 447	4 250																										5 978	36 228	
R 68	9 595		6 338	749																						1 326			7 207	23 905		
R 69	13 853		1 117	9 396		36	50																			16			5 035	29 487		
R 70	12 199						813																						5 615	21 716		
R 71	3 955			1 065			2 097																							2 633	9 750	
R 72	3 624		13				2 586																							2 740	8 963	
R 73	3 712						3 548																							1 628	8 975	
R 74	4 920						2 189																							1 714	8 823	
R 75	6 385						3 131																							3 105	12 621	
R 76	3 367		89	2 986			1 966																							1 819	10 227	
R 77	2 376			32																										830	3 238	
R 78	4 758			64																										547	5 369	
R 79	1 952						118																							287	2 371	
R 80	960																													143	1 103	
R 81	1 635																													70	1 705	
R 82	1 066							44																							1 110	
R 83	1 724							36																						93	1 853	
R 84	1 104							482																							1 586	
R 85	1 501							258	58								36														1 853	
R 86	1 915							1 696	1 720		212																			86	5 629	
R 87	1 457							1 496	1 992	1 831	255																			272	7 323	
R 88	160		20					407	72	1 053					8															1 758	3 458	
S 65	14 220	7 265	3 897	24 241			584																							189	50 396	
S 66	16 999	6 999	24 474	10 782																										198	59 452	
S 67	13 888	280	27 324	8 614																											3 458	
S 68	6 605	35	7 034	2 124																											1 758	7 323
S 69	9 833		633	6 050																											1 758	3 458
S 70	6 720			365																										4 149	19 947	
S 71	3 433						75																								16 516	
S 72	3 333																														7 160	
S 73	3 252	15																													4 260	
S 74	5 264																														5 904	
S 75	5 000	21																													7 086	
																															9 001	9 001
																																5 759

単位 = g

別表19 出土土器重量一覧(6)

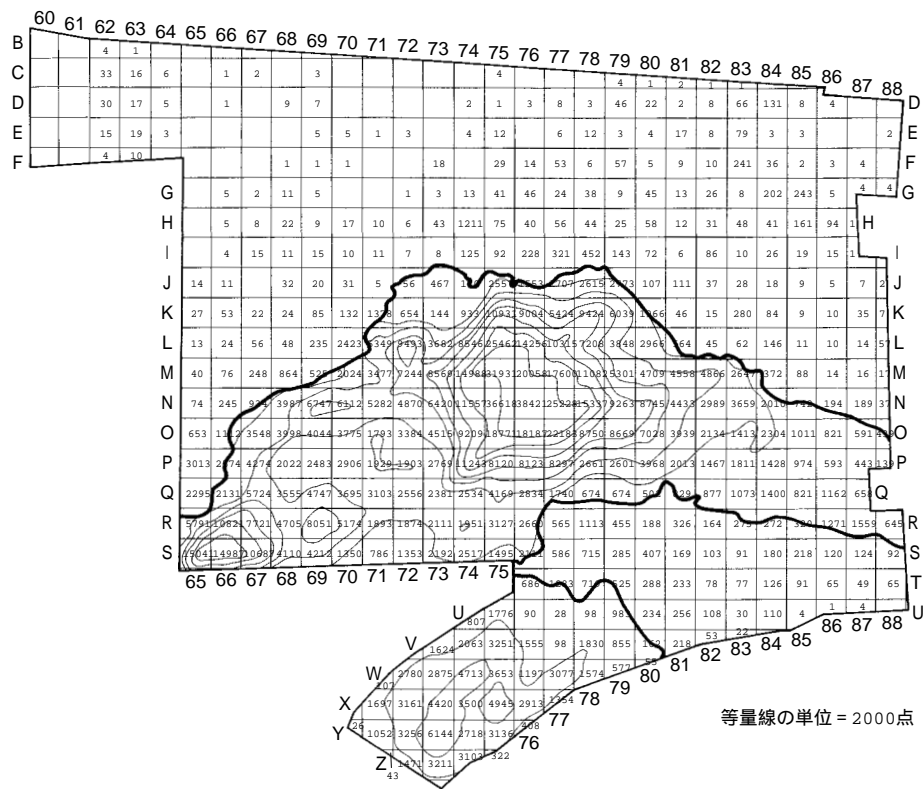
	包含層	盛土1層	盛土3層	盛土4層	盛土5層	盛土13層	盛土14層	盛土17層	盛土19層	盛土22層	盛土23層	盛土26層	盛土27層	盛土28層	盛土29層	盛土30層	盛土31層	盛土32層	盛土33層	盛土34層	盛土35層	盛土36層	盛土37層	SE1層	SE2層	堀り上げ土	その他	95F地区	合計
S 76	4 988		17				877																		38				5 920
S 77	2 875																											11	2 886
S 78	2 643																								21		30		2 694
S 79	1 223																								38		11		1 272
S 80	1 497																										25		1 522
S 81	971																												971
S 82	1 027																												1 027
S 83	643																												643
S 84	821							10																					831
S 85	1 019																												1 019
S 86	930																												930
S 87	150																												150
S 88	743																												743
S 89	597									137																			734
T 62																													0
T 65			171	277																									448
T 66			81	43																									124
T 75	43																								35				78
T 76	2 665																								50				2 754
T 77	2 831																									1 470	22		4 301
T 78	1 376																									988			2 364
T 79	1 407																									190			1 597
T 80	1 714																												1 714
T 81	1 417																												1 417
T 82	542																												542
T 83	473																												473
T 84	612																												612
T 85	524																												524
T 86	420																												420
T 87	373																												373
T 88	676																												676
U 74	768																								1 622	995		227	3 612
U 75	1 259																								1 602	815		443	4 119
U 76	848																								1 165	986		77	3 076
U 77	847																								750	2 032			3 629
U 78	950																								1 319	3 363		40	5 672
U 79	1 188																									1 978		31	3 197
U 80	1 516																											58	1 574
U 81	1 830																												1 830
U 82	789																												789
U 83	43																												272
U 84	636																												636
U 85	307																												307
U 86	197																												197
U 87	393																												393
U 88	295																											8	303
V 71																													47
V 72	59						29																				18		403
V 73	1 029																								52	292			292
V 74	1 294																								863	938		295	3 125
V 75	1 171																								2 662	2 270			6 226
V 76	663																								1 943	2 482		127	5 723
V 77	1 051																								1 683	826			3 172
V 78	947																								3 029	4 110			8 190
V 79	617																								1 658	2 896		34	5 535
V 80	818																								260	1 623			2 500
V 81	838																								57	449		13	1 337
V 82	321																												1 209
V 83	132																												321
W 71	80																												132
W 72	1 137																								202	34			316
W 73	1 137																								1 856	2 197		372	5 562
W 74	1 324																								1 468	4 197			6 802
W 75	802																								3 508	3 941			8 773
W 76	317																								2 373	3 002			6 177
W 77	432																								537	562		200	1 616
W 78	551																								2 071	1 765			4 268
W 79	275																								1 067	1 058		300	3 005
W 80	240																								72	988		66	1 401
																												108	348

単位 = g

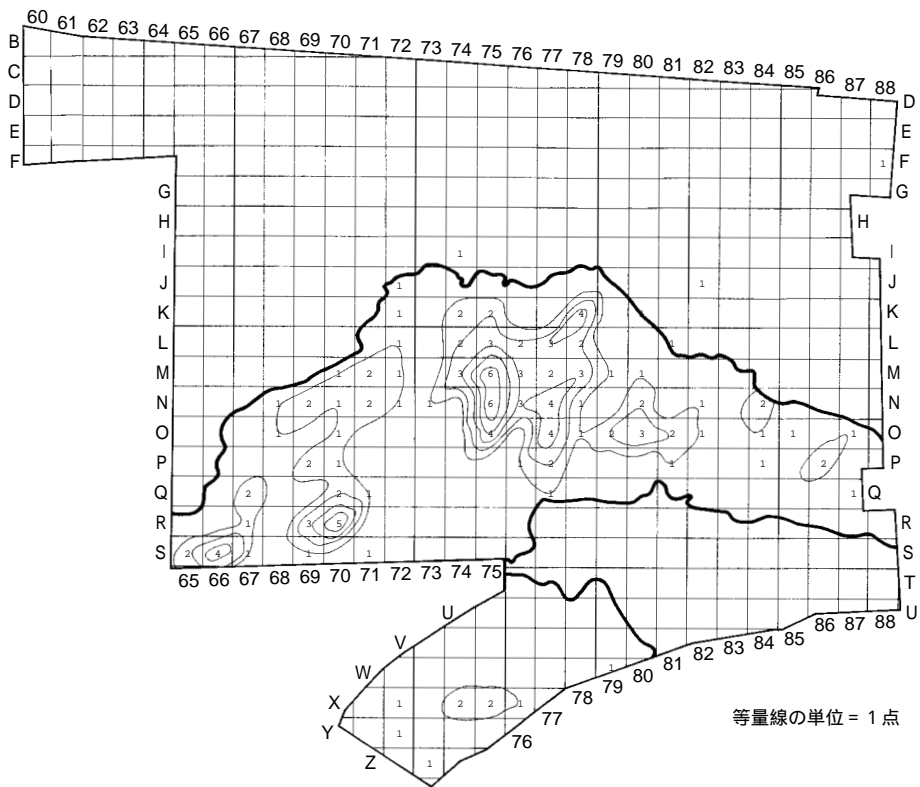
別表20 出土土器重量一覧(7)

	包含層	盛土1層	盛土3層	盛土4層	盛土5層	盛土13層	盛土14層	盛土17層	盛土19層	盛土22層	盛土23層	盛土26層	盛土27層	盛土28層	盛土29層	盛土30層	盛土31層	盛土32層	盛土33層	盛土34層	盛土35層	盛土36層	盛土37層	SE1層	SE2層	堀り上げ土	その他	95F地区	合計	
W 84	199																												199	
X 70	52																								28	25			105	
X 71	1 274																							1 810	664		210		3 958	
X 72	823																							2 263	2 668		45		5 799	
X 73	1 837																							3 461	6 115				11 413	
X 74	1 829																							2 867	1 731		284		6 711	
X 75	1 003																							3 019	4 346		566		8 934	
X 76	598																							826	1 337				2 761	
X 77	105																							925	397		151		1 578	
Y 70	166																												166	
Y 71	1 025																							651	586				2 262	
Y 72	1 356																							3 227	2 109				6 692	
Y 73	2 469																							3 512	5 977				11 958	
Y 74	1 064																							3 168	1 106		89		5 427	
Y 75	908																							2 565	2 666		712		6 851	
Y 76																								226	309		47		582	
Z 71	137																								70				207	
Z 72	800																							1 115	1 009		141		3 065	
Z 73	1 578																							3 526	2 335		730		8 169	
Z 74	1 055																							2 042	3 091		580		6 768	
Z 75	48																							197	224				469	
a 72																								11			194		205	
a 73																									81		50		131	
a 74																									10				10	
不明	9 907																											16 078	22 928	48 913
合計	1 053 787	42 677	115 822	379 115	268 393	414 184	247 513	6 212	14 154	3 210	3 107	271 876	5 320	2 646	1 300	3 935	10 280	5 308	110 805	47 244	97 872	161 299	1 335	67 343	85 517	19 532	262 469	22 928	3 725 183	

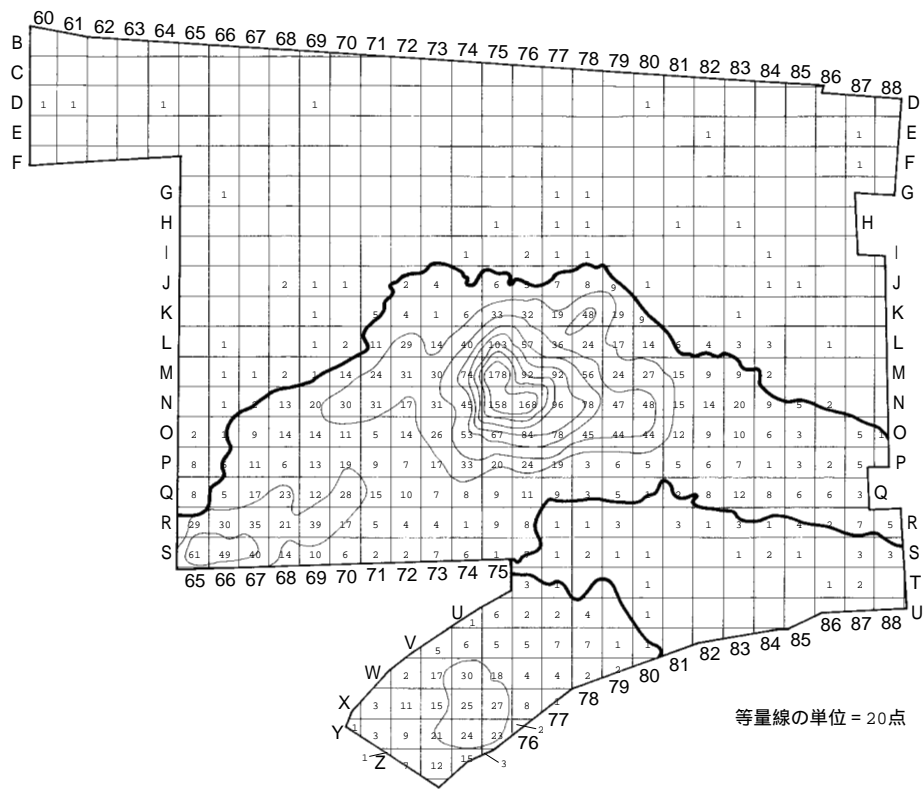
単位 = g



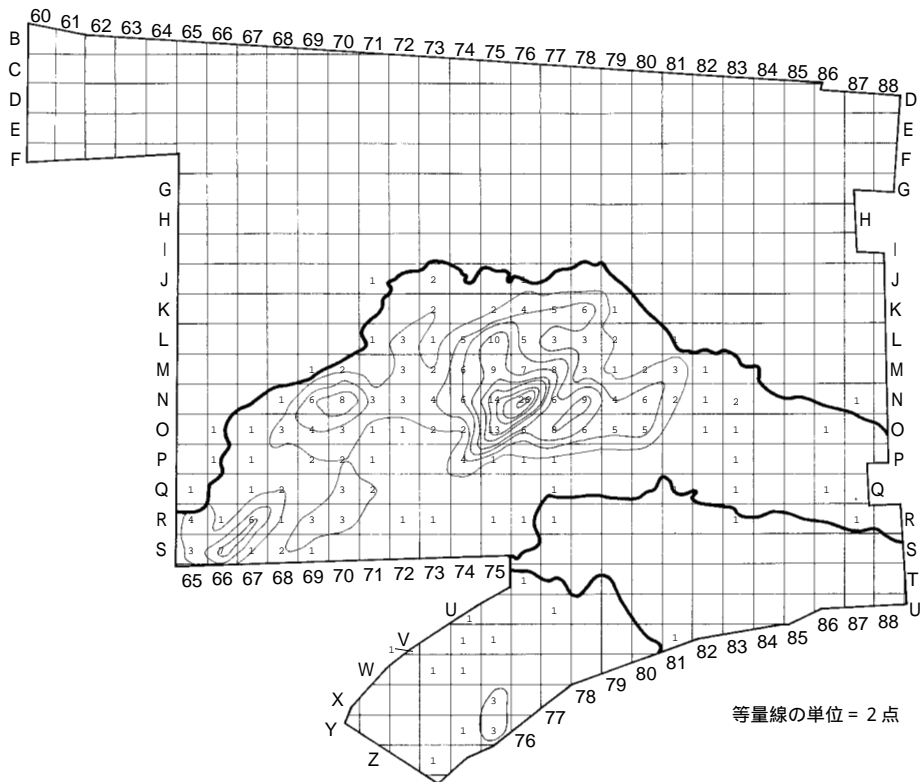
別図1 IV群C類土器出土分布図



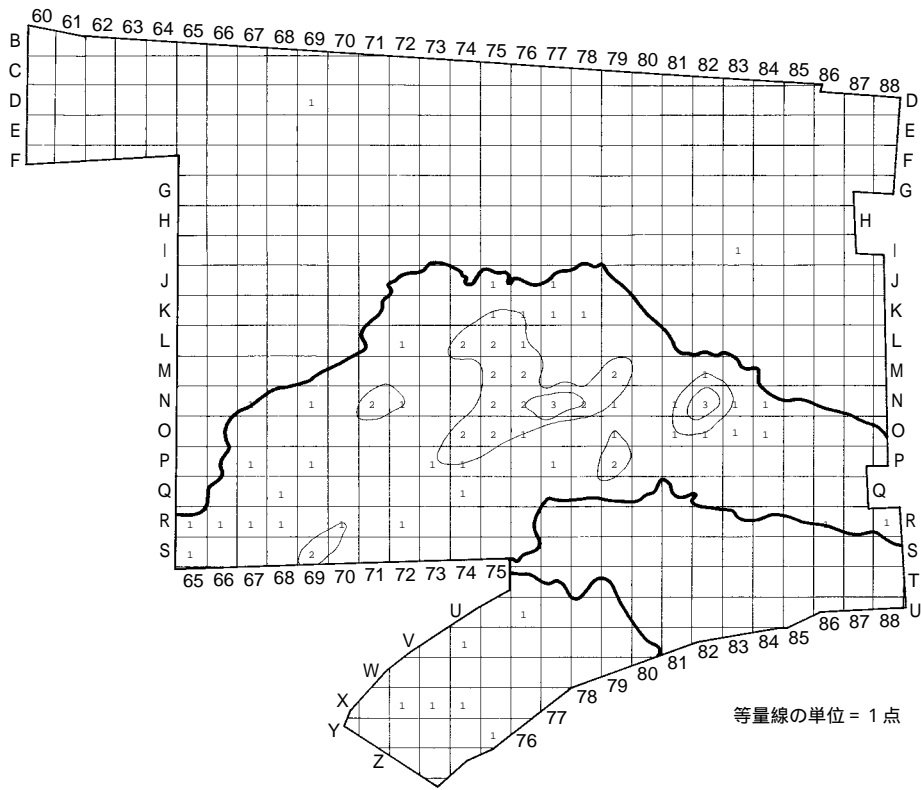
別図2 石槍またはナイフ出土分布図



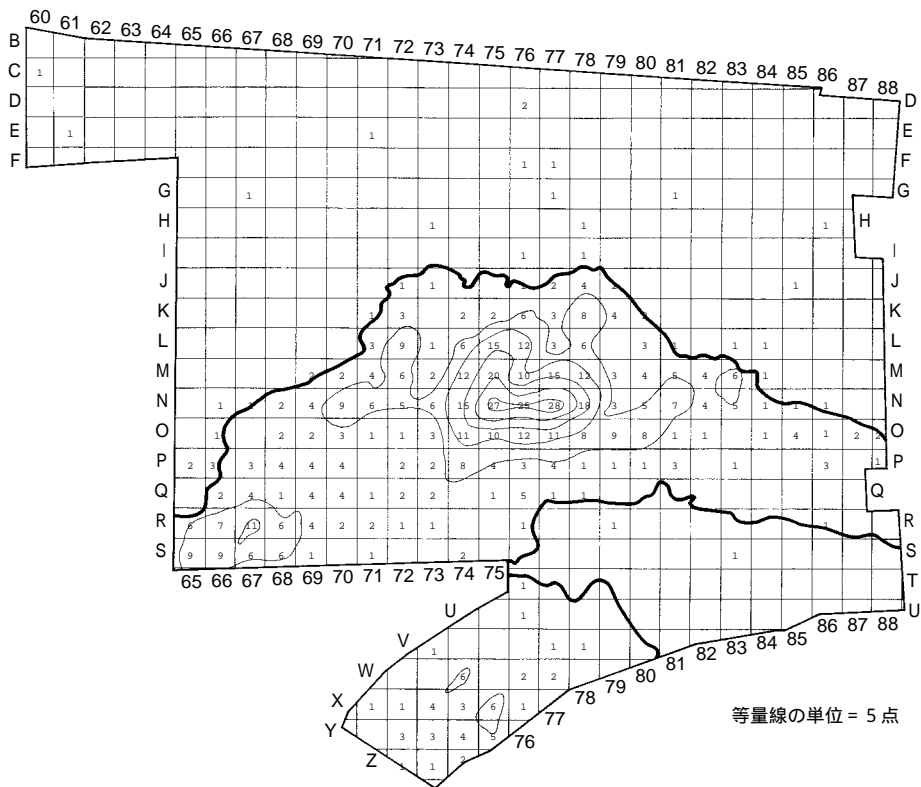
別図3 石鏃出土分布図



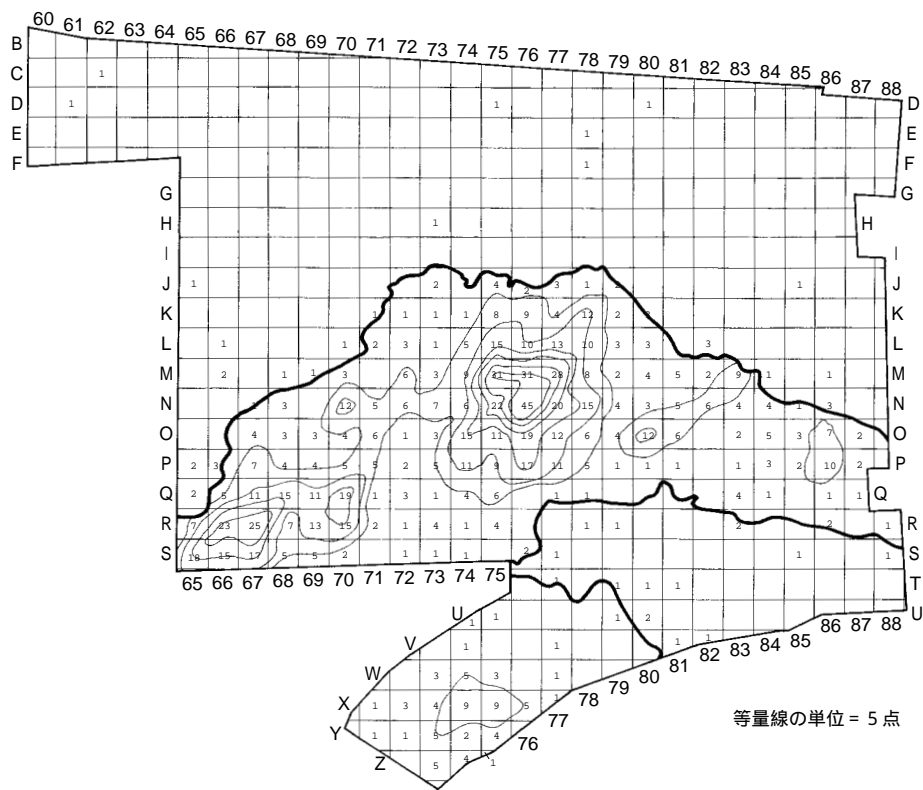
別図4 石鏃出土分布図



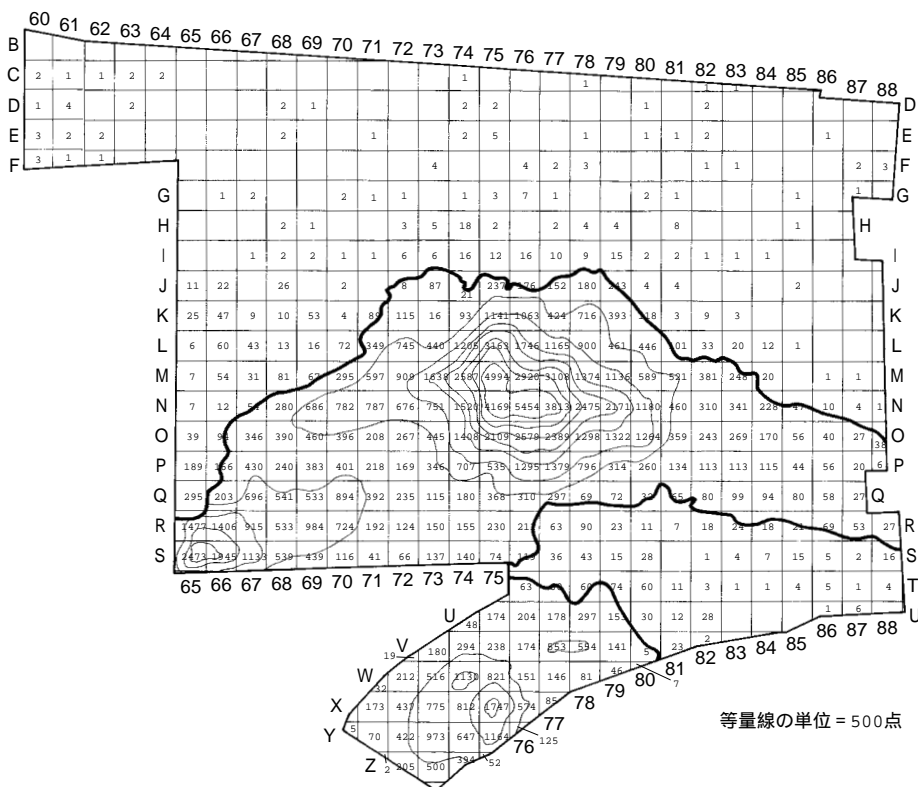
別図5 つまみ付ナイフ出土分布図



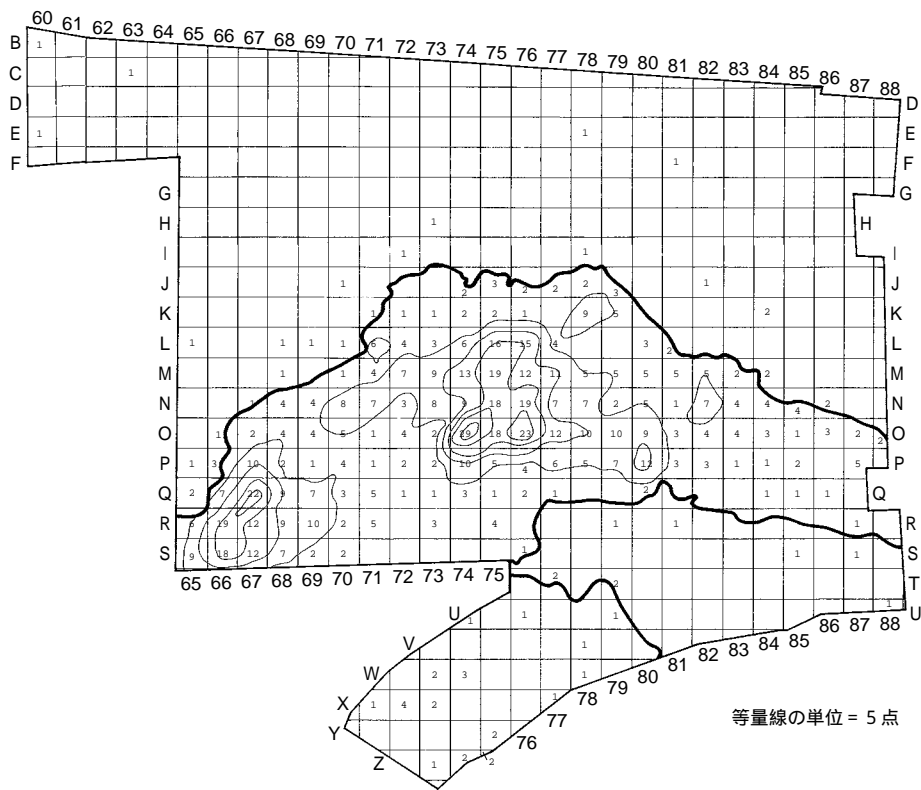
別図6 スクレイパー出土分布図



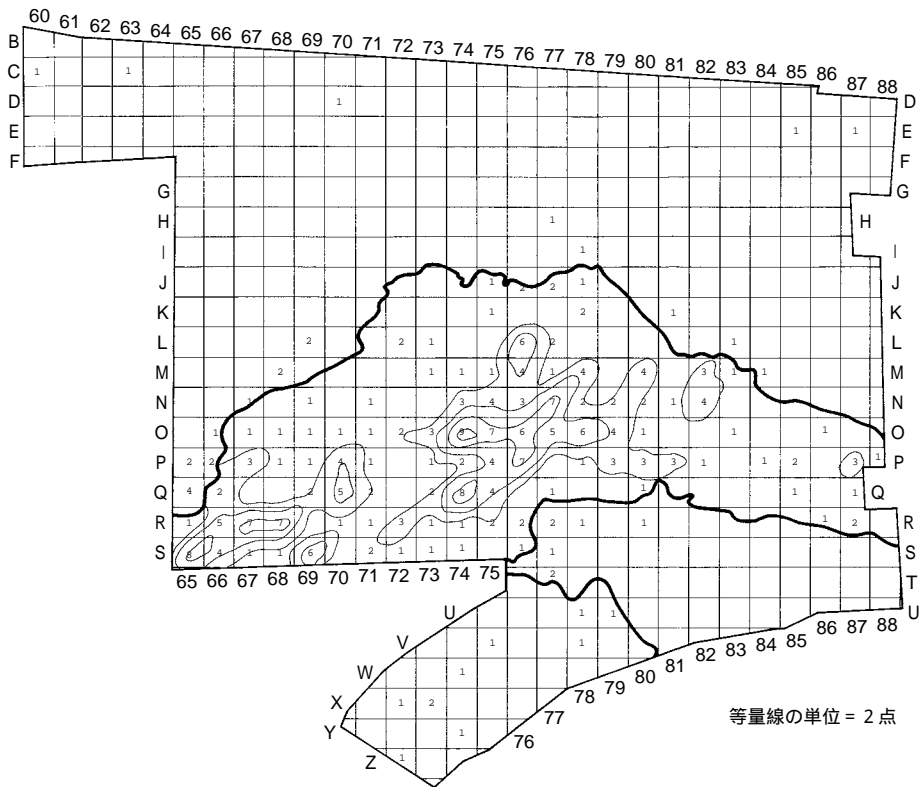
別図7 R・Uフレイク出土分布図



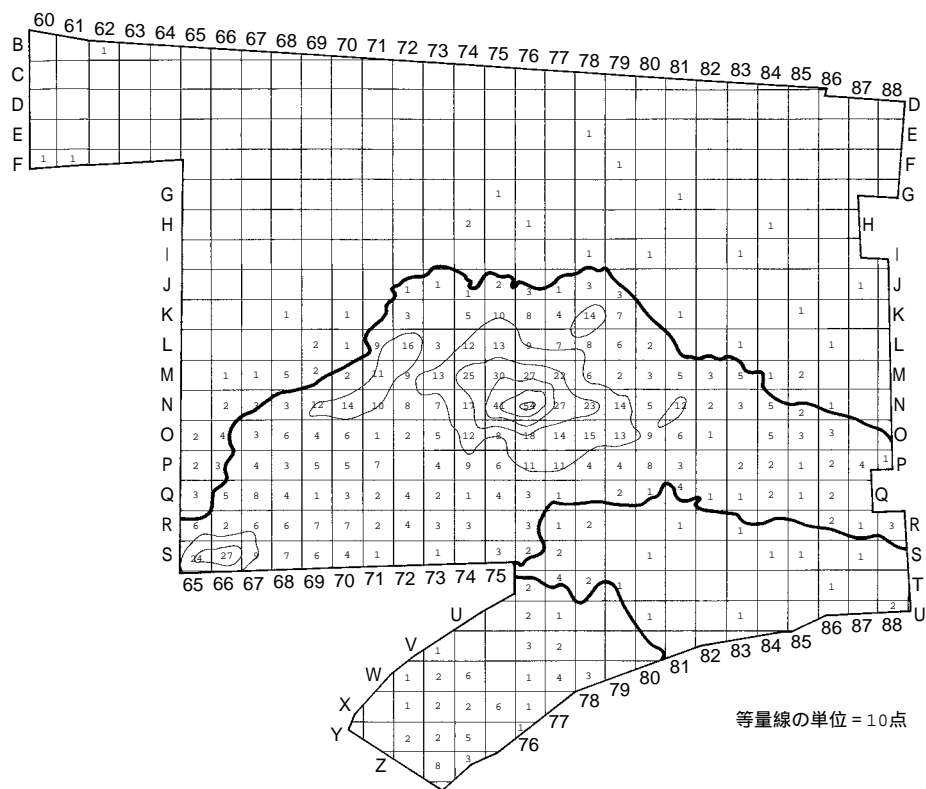
別図8 フレイク類出土分布図



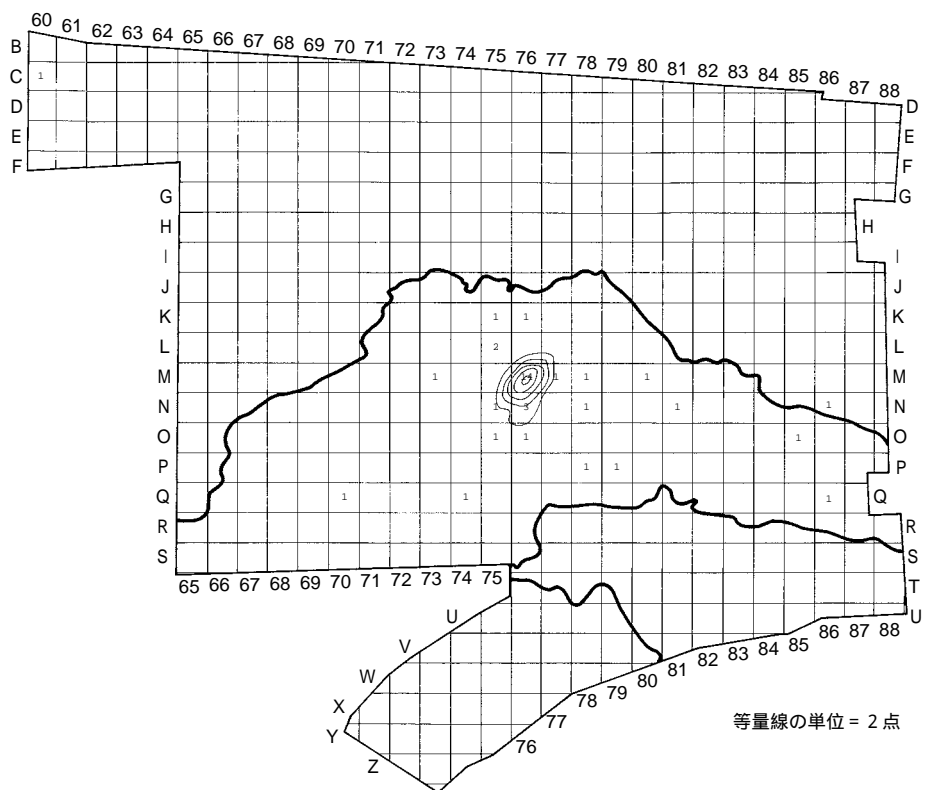
別図9 石斧出土分布図



別図10 すり石出土分布図



別図11 たたき石出土分布図



別図12 石皿・台石出土分布図

Ⅶ 自然科学的分析

1 放射性炭素年代測定結果

(株)地球科学研究所

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

(1) 報告内容の説明

^{14}C age (y BP) : ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した年代。半減期として5568年を用いた。

補正 ^{14}C age : 補正 ^{14}C 年代値

(y BP) 試料の炭素安定同位体比($^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}$)を測定して試料の炭素の同位体分別を知り $^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$ の測定値に補正值を加えた上で、算出した年代。

$\delta^{13}\text{C}$ (permil) : 試料の測定 $^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$ 比を補正するための $^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}$ 比。

この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏(‰)で表現する。

$$\delta^{13}\text{C} (\text{‰}) = \frac{(^{13}\text{C} / ^{12}\text{C})[\text{試料}] - (^{13}\text{C} / ^{12}\text{C})[\text{標準}]}{(^{13}\text{C} / ^{12}\text{C})[\text{標準}]} \times 1000$$

ここで、 $^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}$ [標準] = 0.0112372である。

暦年代 : 過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。(Stuiver et al., 1993; Vogel et al., 1993; Talma and Vogel, 1993)

ただし、この補正は約10,000yBPより古い試料には適用できない

測定方法などに関するデータ

測定方法 AMS : 加速器質量分析

Radiometric : 液体シンチレーションカウンタによる β -線計数法

処理・調製・その他 : 試料の前処理、調製などの情報

前処理 acid - alkali - acid : 酸 - アルカリ - 酸洗浄

acid washes : 酸洗浄

acid etch : 酸によるエッチング

調製、その他

Bulk - Low Carbon Material : 低濃度有機物処理

Bone Collagen Extraction : 骨、歯などのコラーゲン抽出

Cellulose Extraction : 木材のセルロース抽出

Extended Counting : Radiometricによる測定の際、測定時間を延長する

graphite : AMS測定の際、最終的に試料を石墨に調製する

benzene : Radiometricによる測定の際、最終的に試料をベンゼンに調製する

分析機関 : BETA ANALYTIC INC.

4985SW74Court, Miami, FL 33155, U.S.A.

(2) 測定結果

測定番号	試料名	試料種	^{14}C age (y BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (permil)	補正 ^{14}C 暦年代 (y BP)
採取地点 Q - 85区 Vb 層①					
Beta - 113923 KS 4 B 1 charred materia 1 3400 ± 60 - 27 .1 3370 ± 60 交点 BC1660					
2SIGMA BC1765 ~ 1510					
95%probability					
1SIGMA BC1730 ~ 1590 BC1580 ~ 1540					
68%probability					
整理番号 7314	測定方法	Radiometric	処理・調製・その他 acid - alkali - acid bebzene		
採取地点 P - 84区 Vb 層②					
Beta - 113924 KS 4 B 2 charred materia 1 3220 ± 60 - 25 .63210 ± 60 交点 BC1450					
2SIGMA BC1615 ~ 1385					
95%probability					
1SIGMA BC1520 ~ 1415					
68%probability					
整理番号 7315	測定方法	Radiometric	処理・調製・その他 acid - alkali - acid bebzene		
採取地点 N - 83区 盛土26層③					
Beta - 113925KS 4 B 3 charred materia13210 ± 40 ≒ 25 .73200 ± 40 交点 BC1440					
2SIGMA BC1525 ~ 1400					
95%probability					
1SIGMA BC1505 ~ 1420					
68%probability					
整理番号 7316	測定方法	Radiometric	処理・調製・その他 acid - alkali - acid bebzene		
採取地点 O - 80区 盛土13層④					
Beta - 113926 KS 4 B 4 charred materia13290 ± 50 ≒ 28 33240 ± 50 交点 BC1505					
2SIGMA BC1620 ~ 1410					
95%probability					
1SIGMA BC1530 ~ 1435					
68%probability					
整理番号 7317	測定方法	Radiometric	処理・調製・その他 acid - alkali - acid bebzene		

2 キウス4遺跡 F・G 地区出土玉類の産地分析

藁科哲男 (京都大学原子炉実験所)

はじめに

一般的に、玉類の鑑定は肉眼観察で岩石の種類を決定する。そして、それが真実のように思われているのが実態である。それぞれの岩石の命名定義に従って岩石名を決定するが、非破壊で命名定義を求めるには限界があり、命名の主定義の結晶構造、屈折率などを正確には求められない。そこで若干の傷を覚悟して硬度、光沢感、比重、結晶性、主成分組成などを求めることになる。石製玉類の原材料としては、硬玉、滑石、軟玉(角閃石)、蛇紋岩、結晶片岩、碧玉などが推測される。しかし原石名が決定されたのみでは考古学の資料としては不完全で、どこの産地の原石が使用されているかの産地分析が行われて初めて、考古学に寄与できる資料となる。

遺跡から出土する勾玉、管玉など玉類の産地分析というのは、玉類がどこの玉造遺跡で加工されたかを調査するのではない。何か所があるヒスイ(硬玉、軟玉)や碧玉の原産地のうち、どこの原産地の原石を使用しているかを明らかにするのが産地分析である。

日本の玉類の原産地がどこかについては、糸魚川市でヒスイが発見されるまでは中国、雲南、ビルマ説が主であったが、発見後は、専ら国内説である。分析方法としては、岩石学的方法¹⁾および非破壊の蛍光 X 線分析で行う元素比法^{2,3,4)}による分析が報告されている。また、碧玉製管玉の系統的な産地分析研究として、蛍光 X 線分析法と電子スピン共鳴法を併用し、産地分析をより正確に行った例⁵⁾が報告されている。

玉類の原石の産地を明らかにすることは、考古学上重要な意味をもっている。石鏃などの石器と

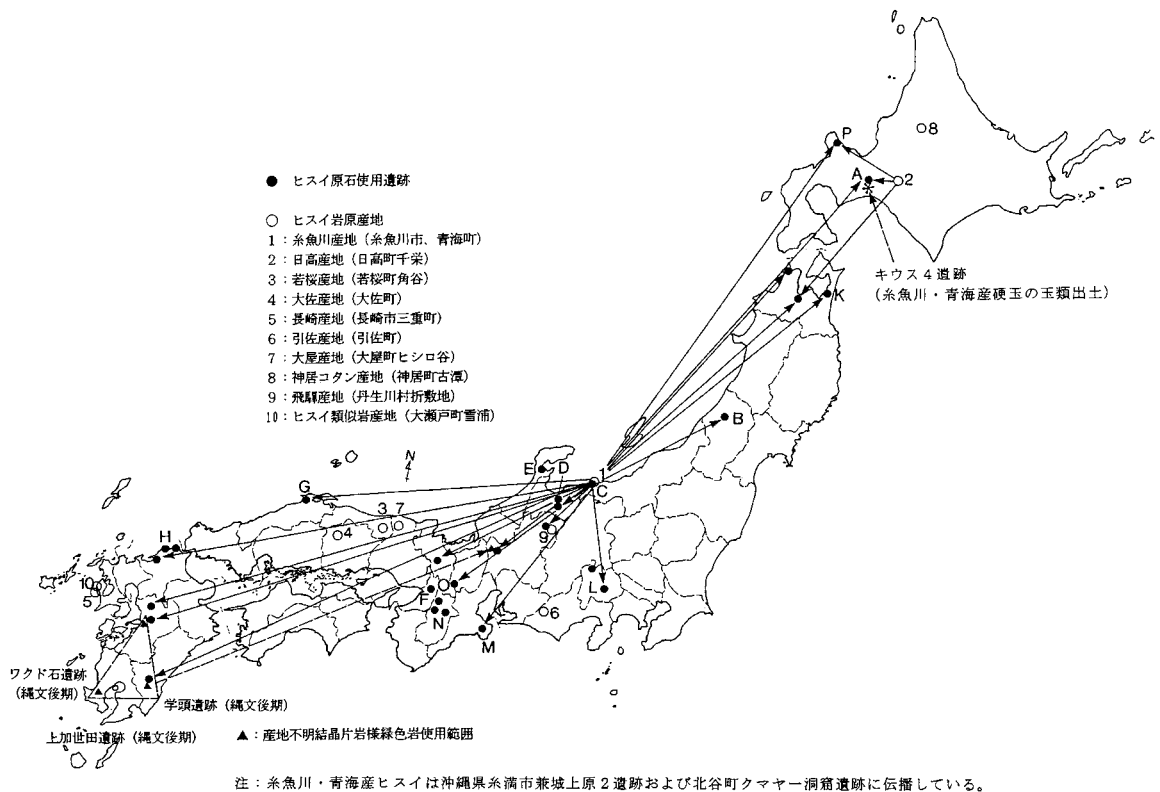


図1 ヒスイ原産地およびヒスイ製玉類の原材使用分布圏

玉類などの石製品はそれぞれ使用目的が異なるため、それぞれの産地分析で得られた結果の意味も異なる。

(1) 石器は生活必需品であるため、石器の原材産地推定で明らかになる、遺跡から石材原産地までの距離、活動範囲は、生活上必要な生活圏と考えられる。

(2) 玉類は古代人が生きるために必ずしも必要なものではない。勾玉、管玉は権力の象徴、御守り、お祭・占いの道具、アクセサリとして、精神的な面に重要な作用を与えられられる。従って、玉類の産地分析で明らかになるヒスイ製玉類の原石の分布範囲は、権力の象徴としての玉類であれば、権力圏を表しているかもしれない。御守りやお祭・占いの道具であれば、同じような習慣を持つ文化圏が考えられる。このように、玉類の原産地分析から、石器の原材産地分析では得られない貴重な結果を考古学の分野に提供することができる。

今回分析を行った玉類は千歳市キウス4遺跡F・G地区出土の30点で、表1に調査区、層位、分類名を示す。

非破壊での産地分析の方法と手段

原産地推定の第一歩は、原産地間を区別する、人間で言えば指紋のような、その原産地だけにしかない指標を見つけることである。その指標は鉱物組成の組合わせ、比重の違い、原石に含有されている元素組成の違いなどにより、原産地同士を区別できるものでなければならない。個々の原産地の指紋が明らかになれば、遺跡から出土する遺物の指紋をそれらと比較し、指紋の一致する原産地が、遺物に使用されている原石の原産地であると判定する。

ヒスイ、碧玉製勾玉、大珠、玉などは、国宝、重要文化財級のものが多く、非破壊で産地分析が行なえる方法でなければ発展しない。そこで石器の原材産地分析で成功している⁴⁾蛍光X線法を用いて、玉類に含有されている元素を分析する。この方法は、遺跡から出土した大珠、勾玉、管玉などを水洗いして、試料ホルダーに置くだけの、完全な非破壊の産地分析である。

ヒスイ製玉類は蛍光X線分析法で元素の種類と含有量を求めた後、試料の形や大きさの違いによる影響を打ち消すために、分析された元素同士で含有量の比を測り、この元素比の値を原産地を区別する指紋とする。また、碧玉製玉類はESR法を併用する。これは試料を全く破壊することなく、碧玉に含有されている常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用する方法である⁵⁾。

ヒスイの原産地

分析したヒスイ原石は、日本国内産では(1)新潟県糸魚川市と、それに隣接する同県西頸城郡青海町から産出する糸魚川産、(2)軟玉ヒスイと言われる北海道沙流郡日高町千栄の日高産(6)、(3)鳥取県八頭郡若桜町角谷の若桜産、(4)岡山県阿哲郡大佐町の大佐産、(5)長崎県長崎市三重町の長崎産であり、さらに(6)西黒田ヒスイと呼ばれている静岡県引佐郡引佐町の引佐産の原石、(7)兵庫県養父郡大屋町からの原石、(8)北海道旭川市神居町の神居コタン産、(9)岐阜県大野郡丹生川村の飛驒産原石。また、肉眼的にヒスイに類似した原石で玉類等の原材になったのではないかと考えられる(10)長崎県西彼杵郡大瀬戸町雪浦からの原石である。国内産のヒスイ原産地は、これでほぼつくされていると思われる。これら原石の原産地を図1に示す。これに加えて外国産として、ミャンマー産の硬玉と台湾産軟玉および韓国、春川産軟玉などのヒスイの分析も行われている。

ヒスイ試料の蛍光 X 線分析

ヒスイの主成分元素はナトリウム (Na)、アルミニウム (Al)、珪素 (Si) などの軽元素 7) で、次いで比較的含有量の多いカルシウム (Ca)、鉄 (Fe)、ストロンチウム (Sr) である。また、ヒスイに微量含有されている、カリウム (K)、チタニウム (Ti)、クロム (Cr)、マンガン (Mn)、ルビジウム (Rb)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr)、ニオブウム (Nb)、バリウム (Ba)、ランタニウム (La)、セリウム (Ce) の各元素も分析した。主成分の珪素など軽元素の分析を行わないときには、励起線源の X 線が試料によって散乱したピ - クを観測する。そのピークの大きさは主に試料の分析面積に比例するので、含有元素と同じく産地分析の指標として利用できる。Na 元素はヒスイ岩を構成するヒスイ輝石に含有される重要な元素で、出土した遺物が硬玉か否かを判定するには直接ヒスイ輝石を観測すればよい。しかし、ヒスイ輝石を非破壊で検出できる方法が確立されるまでは、蛍光 X 線分析で Na 元素を分析し、間接的にヒスイ輝石の存在を推測する方法にたよる他ないのではなからうか。

各原産地の原石のなかで、確実に Na 元素の含有が確認されるヒスイ産地は糸魚川、大屋、若桜、大佐、神居コタン、長崎の各原産地の原石で、これらは硬玉に属すると思われる。Na 元素の含有量が分析誤差範囲の産地は日高、引佐、飛驒の各産地の原石である。糸魚川産原石のうち緑色系の硬玉に肉眼的に最も似た原石を産出する産地は、他の硬玉産地よりも後述する日高、飛驒、引佐の原石に見られる。これら各原産地の原石は同じ産地の原石であっても、原石ごとに元素の含有量には異同がある。したがって、一つの原産地について多数の原石を分析し、各元素の含有量の変動の範囲を求めて、その産地の原石の特徴としなければならない。各原産地の原石の他の特徴を以下に記述する。

若桜産のヒスイ原石は Sr のピ - クが Fe のピ - クに比べて相当大きく、また Zr の隣に非常に小さな Nb のピ - クが見られ、Ba のピ - クも大きい。糸魚川産では見られない La、Ce のピ - クも観測されている。この Ce のピ - クは大佐産と長崎産ヒスイ原石のスペクトルにも見られ、これら Ce を含有する原石の産地は、糸魚川の産地と区別するとき有効な判定基準になる。

長崎産ヒスイは、Ti の含有量が多く、Y のピ - クが見られるのが特徴である。

日高産、引佐産、飛驒産ヒスイ原石は、Ca ピークに比べて Ti と K、また Fe ピークに比べて Sr などのピ - クが小さいのが特徴で、糸魚川産のものと区別するときの判断基準になる。

春川軟玉原石は、優白色の工芸加工性に優れた原石で、軟玉であるが、古代では勾玉などの原材料となった可能性も考えられることから分析を行った。この原石には、Sr、Zr のピークが全く見られないため、糸魚川産などの Sr、Zr を含有する原石と容易に区別できる。

また、長崎県雪浦のヒスイ類似岩もヒスイの代替品として勾玉、大珠などの原材料に使用されている可能性が考えられるため、分析を行った。この岩石は比重が 2.91 と小さく、比重により他の産地のものと区別できる。また、砒素 (As) のピークが見られる個体が多いのも特徴である。

糸魚川産のヒスイは、白色系が多いが、緑色系の半透明の良質のもの、青色系、コバルト系、およびこれらの色が白地に縞となって入っているものなど様々である。分析した糸魚川産原石の比重を調べると、硬玉の 3.20 ~ 3.40 の範囲のものと、3.20 に達しない軟玉に分類される原石がある。

分析した若桜産、大佐産の原石には、半透明の緑色のものはないが、全体が淡青緑がかかった乳白色のような原石が多い。大屋産も乳白色のものが多い。分析した大佐産、大屋産の原石では比重が 3.20 に達したものはなく、これらの原石は比重からは軟玉に分類される。しかし、ヒスイ輝石の含有量が少ない硬玉とも考えられる。分析できた長崎産のヒスイ原石は 3 個のみであるが、良質のも

のである。このうち1個は濃い緑色、他の2個は淡い緑色で、少々ガラス質である。日高産ヒスイの原石は肉眼観察では比較的糸魚川産のヒスイに似ている。ミャンマー産のヒスイ原石は、質、種類とも糸魚川産のヒスイ原石と同じものが見られ、肉眼で両産地の原石を区別することは不可能と考えられる。分析した台湾産のヒスイは軟玉に属するもので、暗緑色のガラス質の原石である。

これら各原産地の原石の分析結果から各産地を区別する判断基準を引き出し、産地分析の指標とする。

ヒスイ原産地の判別基準

原石産地の判定を行なうときの判断基準は原石の分析データから引き出すが、分析個数が少ないため、必ずしもその原産地の特徴を十分に反映したと言えない産地もある。表2-1、2に各原産地ごとの原石の比重と元素比量をまとめた。元素比量の数値は、分析した原石の中での最小値と最大値の範囲を示し、その原産地の判定基準(1)とした(表2-1)。ヒスイで比重が3.19未満の軽い原石は、硬玉ヒスイではない可能性があるが、糸魚川産の原石で比重が3.19未満のものも分析を行った。大佐産のヒスイは比重が3.17未満であった。したがって、遺物の比重が3.30以上を示す場合は判定基準(1)により大佐産のヒスイでないと言える。日高産、引佐産の両ヒスイではSr/Feの比の値が小さく、糸魚川産と区別する判定基準(1)になる。表2-2の判定基準(2)ではCr、Mn、Rb、Y、Nb、Ba、La、Ceの各元素の蛍光X線ピクが観測できた個体数を%で示した。例えば、遺物を分析してBaのピクが観測されなかったとき、その遺物は若桜、大佐、長崎産のヒスイではないといえる。

図2はヒスイ原石のSr/Feの比の値とZr/Srの比の値の分布範囲を各原産地ごとにまとめて示したものである。は糸魚川産のヒスイで、分布の範囲を実線で囲み、この枠内に遺物の測定点が入れば糸魚川産の原石である可能性が高いと判断する。はミャンマー産のヒスイの分布で、その範囲を短い破線で囲む。糸魚川の実線の範囲とミャンマーの破線の範囲の大部分は重なり、両者は区別できないが、ミャンマーと糸魚川が区別される部分がSr/Feの値(横軸)2.50以上の範囲で見られる。この範囲の中に遺物の測定点が入れば、糸魚川産である可能性の方が高いと考えられる。は大佐産、は若桜産、は大屋産のヒスイの分布を示している。糸魚川と大佐、若桜、大屋のヒスイが重なる部分に遺物の測定点が入った場合、これら複数の原産地を考えなければならない。しかしこの遺物にBaの蛍光X線スペクトルのピクが見られなかった場合、表2-2の判定基準(2)に従えば糸魚川産または大屋産のヒスイであると判定でき、その遺物の比重が3.20以上であれば大屋産ではなく、糸魚川産と推定される。は長崎産ヒスイの分布で、独立した分布の範囲を持っており、他の産地のヒスイと容易に区別できる。台湾産の軟玉はグラフの左下に外れる。印の日高産および*印の引佐産ヒスイの分布の一部が糸魚川産と重なり、区別されない範囲がみられる。しかし、Ca/Si比とSr/Fe比を指標とすることにより(図3)、糸魚川産ヒスイは日高産および引佐産の両ヒスイと区別することができる。各原産地の原石についてNa/Si比とMg/Si比の分布を示すことにより(図4)、遺物がどこの原産地の分布内に帰属するか、硬玉か軟玉かの判別の手段の一つになると考えられる。

キウス4遺跡F・G地区出土の玉類の分析結果

これら玉類の比重は3.0以上(アルキメデス法)のものは硬玉の可能性の範囲に入り、分析番号64203~64206、64208、64215~64218の9個の玉はヒスイと判定した。これらが硬玉ヒスイであれ

ば蛍光 X 線スペクトル (図11~14、16、23~26) には硬玉の主成分の一つの Na 元素が観測されるが、今回分析した玉は小さく、また表面風化も比較的進んでいることから、分析精度が悪かった。Na、Mg の元素について10時間連続分析したが、痕跡程度で、十分なカウント数を得ることができなかつた。痕跡をピークとするにはさらに10倍、100時間以上分析しなければならない。分析できた含有元素の結果を表3に示した。これらヒスイ製玉類の原産地を明確にするために、分析値を各原産地の原石の元素比量 Sr/Fe 対 Zr/Sr の分布範囲と比較すると、全ての丸玉は糸魚川産の範囲に入る。分析番号64205、64218は若桜、大屋、大佐産の、64206、64215は日高産原石の範囲にも入り、それぞれの原石産地のヒスイである可能性を示す (図5)。また Sr/Fe 対 Ca/Si では分析番号64203、64206、64208、64216の玉は糸魚川産の範囲に入るが、64205は糸魚川、若桜の重なる範囲に、64218はさらに大佐の範囲にも重なっている。分析番号64204、64215、64217はどこの原石範囲にも入らなかった。硬玉の風化が進行すると Ca/Si 比が大きくなる傾向にあり、本来糸魚川産の範囲に入っていたものが風化のために範囲外に出たと推測される (図6)。今回 Na、Mg 元素の分析ができなかつたため、図4の Na/Si 対 Mg/Si を用いた判定ができず、比重のみで玉がヒスイの可能性を示す判断をすることになる。しかし、これら玉類の直径は11 以下で ESR 分析が可能な大きさなので、ESR 分析を試み、結果を図10に示した。糸魚川・青海産硬玉ヒスイ原石の ESR 分析結果を図7、若桜、大佐、大屋、神居コタン産の硬玉ヒスイは図8に、また日高、飛、引佐産の軟玉ヒスイの分析結果を図9に示した。ESR 信号での硬玉と軟玉の違いは、硬玉原石は0~30mT (ミリテスラー) の零磁場付近で ESR 共鳴がみられ、軟玉原石には観測されない点である。そこで、遺物の零磁場共鳴とスペクトル全体の比較から原石産地を推測した。ESR の信号は試料全体から得られるため、風化で新しく ESR 信号が生成、消滅しない限り、風化の影響は受けない。図10の玉類の ESR 信号とヒスイ原石の信号を比較すると、分析番号64219、64220は零磁場共鳴がない (硬玉でない) が、他の玉類の信号には、零磁場共鳴がみられ硬玉と推測される。玉類原材の産地については、ESR 信号が大屋、大佐と大きく異なり、大屋、大佐産の可能性はないと推測され、糸魚川・青海産硬玉に非常に似ていて、これら玉類の原石産地を糸魚川産としても ESR 分析の結果と矛盾しない。しかし若桜、神居コタン産にも信号の基本的な形が似ていることから、ESR 信号からは若桜、神居コタン産の可能性も考慮し、さらに分析個数を増やしてから ESR 信号での分類を考える。今回の ESR 信号での判定結果は、糸魚川産硬玉と若桜、神居コタン産の可能性も考慮したものを表4の ESR 判定の欄に記し、さらに蛍光 X 線分析の結果を加えて、総合判定の欄に原石産地を示した。

ヒスイ以外の玉類の蛍光 X 線分析スペクトルを図11~40の中に示し、元素比の分析値および比重結果を表5に示した。これら玉類の中で Mg/Si の比が大きい、マグネシウムが主成分の岩石は透角閃石、陽起石など軟玉の可能性が推測されるが、今回分析した遺物では比重が軟玉に達するものが見られない。多くの玉類は比重と成分から、超塩基性岩に由来する蛇紋石か、非常に柔らかい滑石の玉類と推測される。分析番号64207は Mg 元素の分析精度が悪く岩石判定に入れられないが、砒素を含み比重も軽く、他の玉類と異なる組成である。64227、64228、64229には Rb、Sr、Y、Zr が含有され、他の超塩基性岩の玉類と異なる。ヒスイ (硬玉、軟玉) 以外の玉類の石材産地は原石産地が不明のものが多く産地が特定できないが、非破壊の元素分析でも岩石名を特定する場合の誤判定を避ける非常に貴重な資料となるため、組成分析はできる限り実行することが大切である。定形試料用の逐次元素分析法の結果は、精密分析値の様に計算されるが、いくら分析者が正確な分析を強調しても、試料が少しでも動くと分析値が大きく変動するため、元素間ピ - クの相対的な高さ

の関係すら不確実になるのが実態であり、不定形の非破壊分析には同時多元素分析法でなければならない。同時多元素分析では原理的に変動の影響が少ないのが特徴である。岩石名決定には最低条件として組成分析結果との整合性を考慮すべきと思われる。

結 論

今回分析したキウス4遺跡F・G地点出土の縄文時代後期の比重が3.0以上の玉9個の中で、ESR分析と蛍光X線分析の結果が糸魚川・青海産硬玉と矛盾しない結果を示す玉類は遺物番号1、3～6、14、16の6個で、これらは糸魚川産ヒスイの使用が確認された。また、ESR分析では糸魚川・青海産に同定され、風化の影響で蛍光X線分析の判定で糸魚川に同定できなかった玉類については風化の影響が解明されるまで判定は保留する。また、蛇紋岩か滑石と思われる玉類については、多数の同種の岩石製の玉類のデータが蓄積された段階で新たな考古学資料になると思われる。

糸魚川産ヒスイが縄文時代後期に使用されている遺跡は、本遺跡以外に抜粋して示すと、北海道千歳市美々遺跡から青森県大石平遺跡、岩手県大日遺跡、山梨県石堂遺跡、岐阜県西田遺跡、愛知県白石遺跡、三重県森添遺跡、大分県二反田遺跡、熊本県ワクド石遺跡、宮崎県学頭遺跡まで日本全国におよび、これらの遺跡では糸魚川産ヒスイが尊重される共通の基盤があったと思われる。糸魚川産地から遠くなるにしたがって、希少価値が増すと予想され、本遺跡がヒスイの玉類を入手できる力（経済力）が大きかったことが推測される（図1）。

参考文献

- 1) 茅原一也1964「長者ヶ原遺跡産のヒスイ（翡翠）について（概報）」『長者ヶ原』新潟県糸魚川市教育委員会 pp.63 - 73
- 2) 藁科哲男・東村武信1987「ヒスイの産地分析」『富山市考古資料館紀要』6 pp.1 - 18
- 3) 藁科哲男・東村武信1990「奈良県内遺跡出土のヒスイ製玉類の産地分析」檀原考古学研究所紀要『考古学論攷』14pp.95 - 109
- 4) 藁科哲男・東村武信1983「石器原材の産地分析」『考古学と自然科学』16pp.59 - 89
- 5) Tetsuo Warashina1992'Alloction of Jasper Archeological Implements By Means of ESR and XRF.' *Journal of Archaeological Science*19pp.357 - 373
- 6) 番場猛夫1967「北海道日高産軟玉ヒスイ」『調査研究報告会講演要旨録』No.18pp.11 - 15
- 7) 河野義礼1939「本邦における翡翠の新産出及び其化学的性質」『岩石礦物鉱床学雑誌』22pp.195 - 201

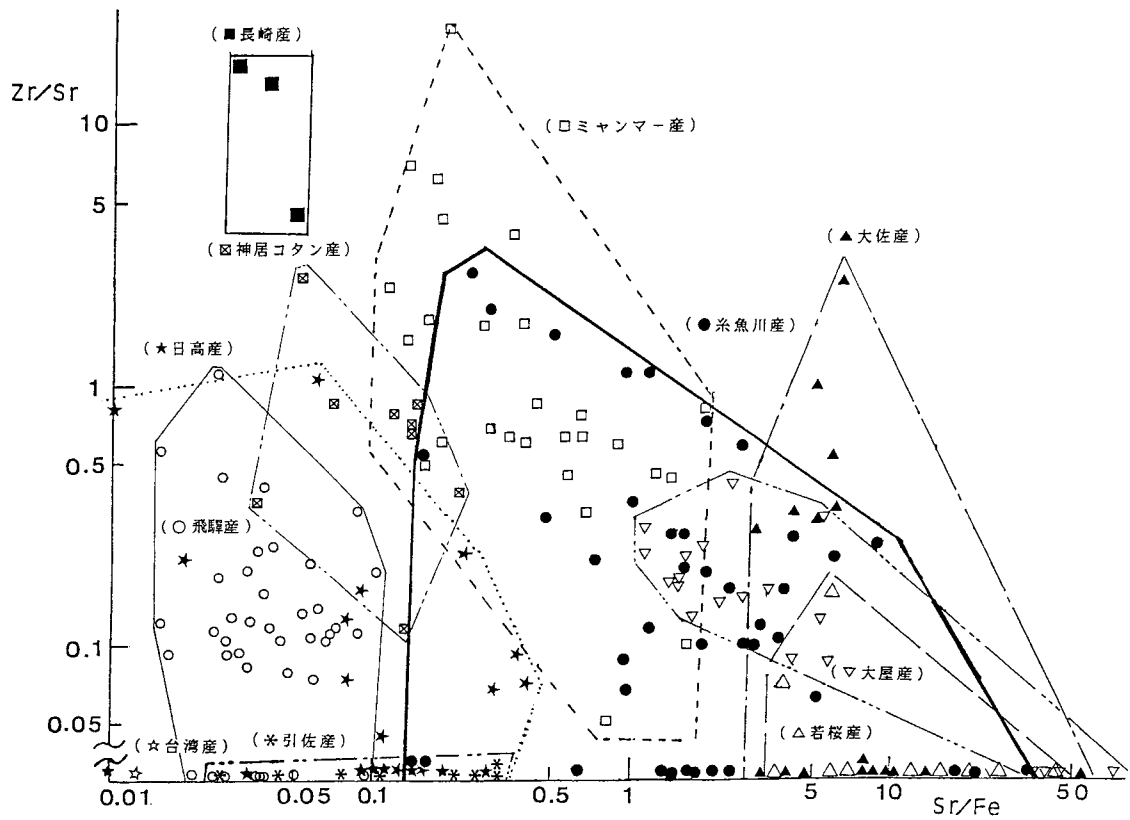


図2 ヒスイ原石の元素比值 Zr/Sr 対 Sr/Fe の分布および分布圏

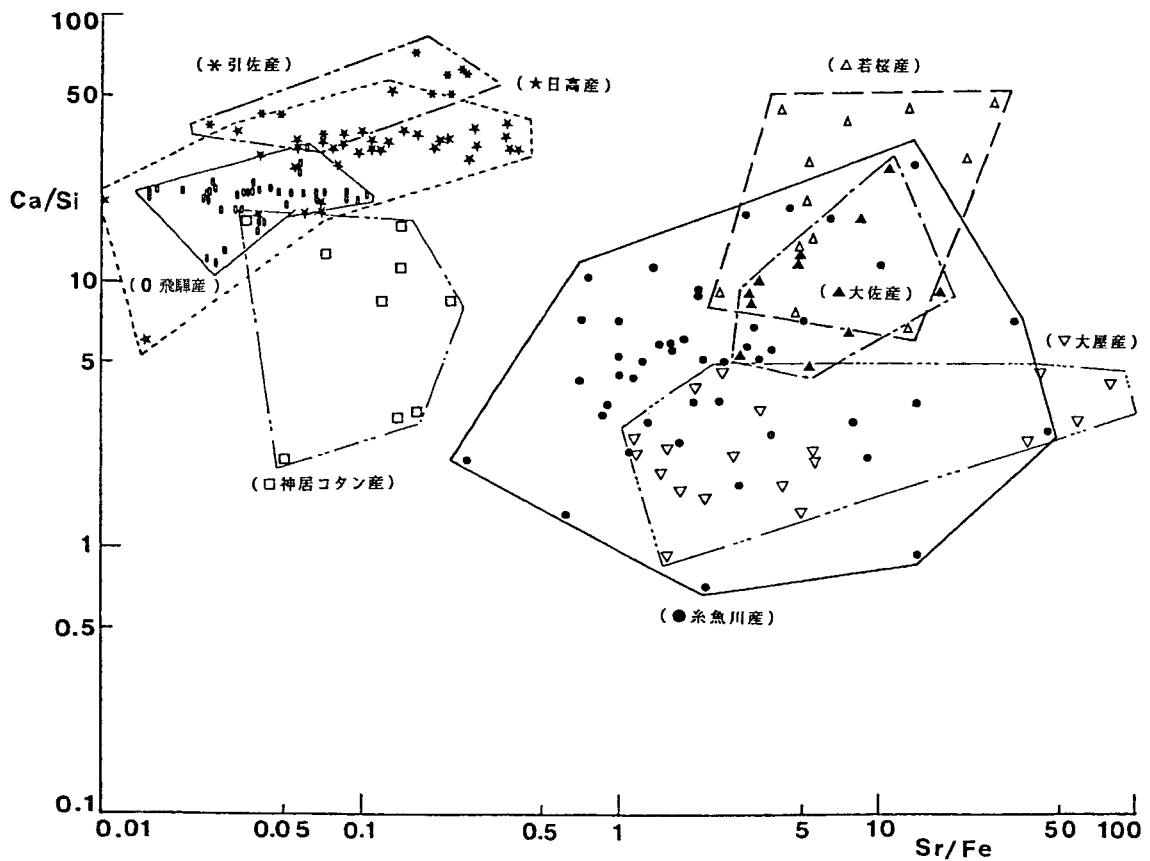


図3 ヒスイ原石の元素比值 Ca/Si 対 Sr/Fe の分布および分布圏

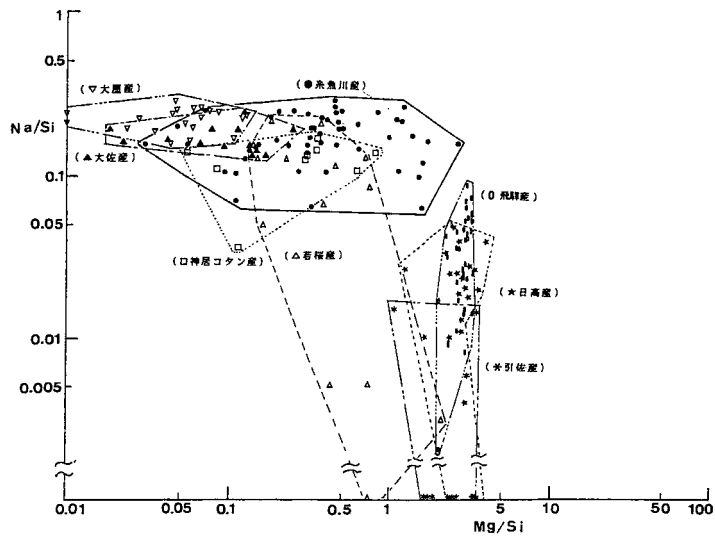


図4 ヒスイ原石の元素比值 Na/Si 対 Mg/Si の分布および分布圏

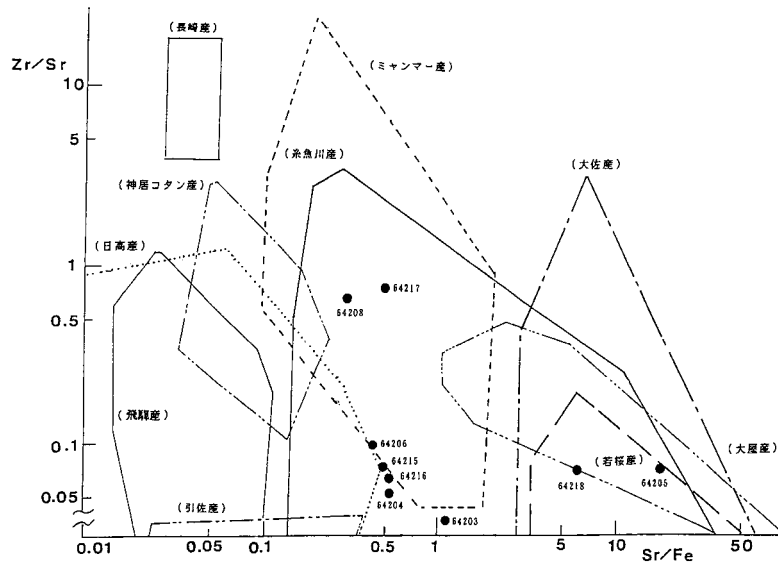


図5 キウス4遺跡F・G地区出土玉類の元素比值 Zr/Sr 対 Sr/Fe の分布

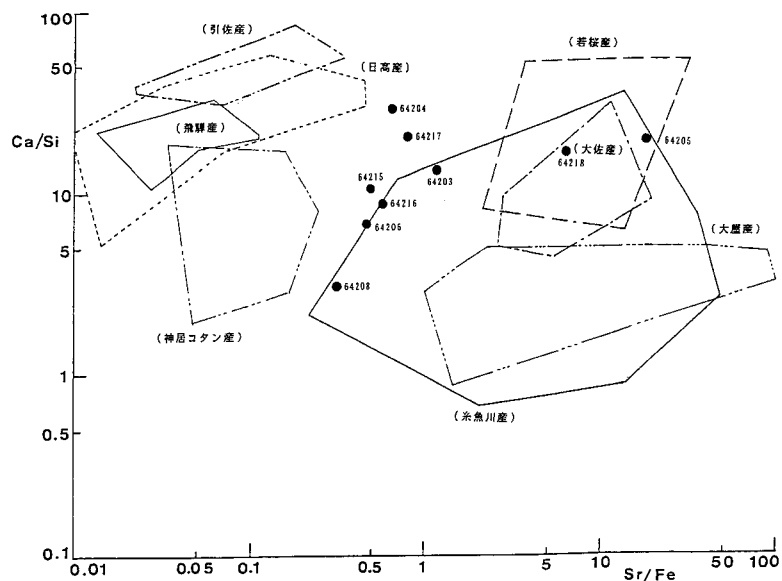


図6 キウス遺跡F・G地区出土玉類の元素比值 Ca/Si 対 Sr/Fe の分布

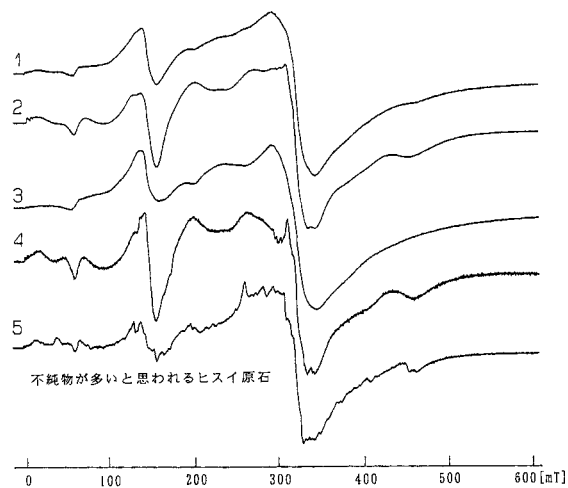


図7 糸魚川・青海産ヒスイ原石のESRスペクトル

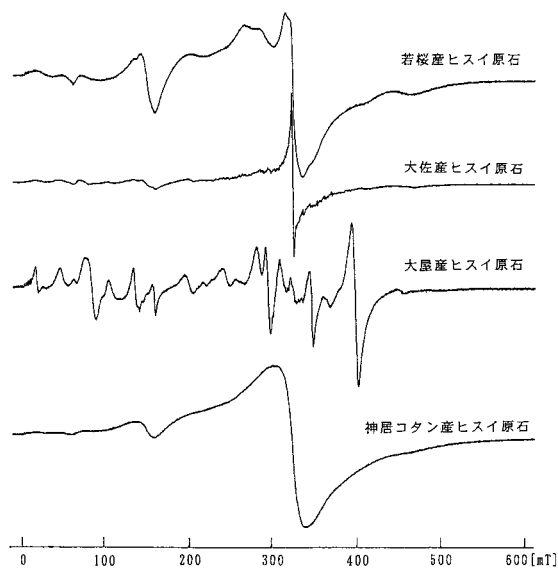


図8 ヒスイ原石のESRスペクトル(1)

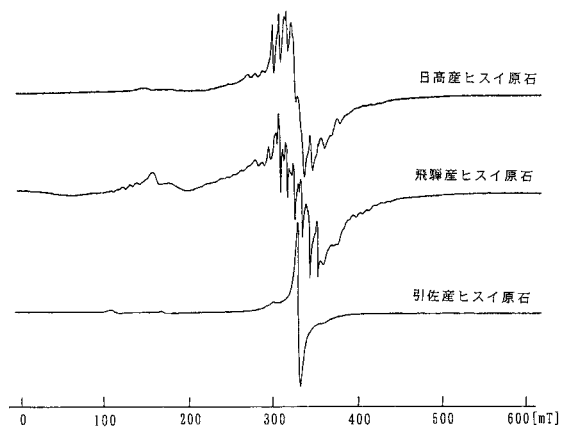


図9 ヒスイ原石のESRスペクトル(2)

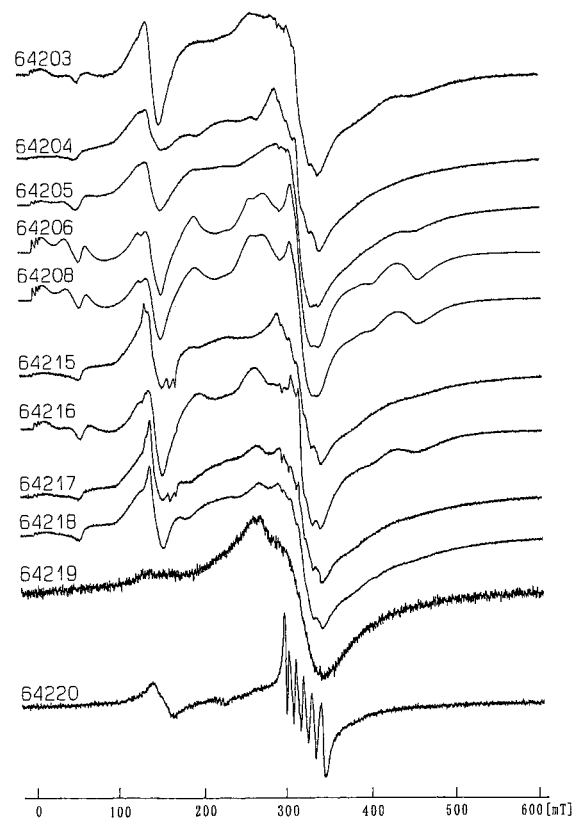


図10 キウス4遺跡F・G地区出土玉類のESRスペクトル

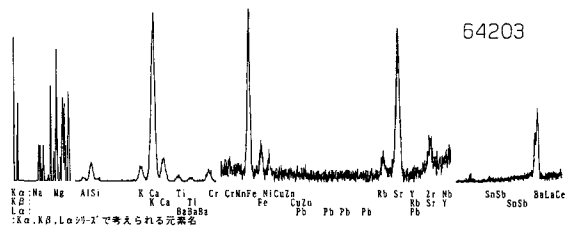


図 1 1 キウス4遺跡F・G地点出土玉-1(64203)の蛍光X線スペクトル

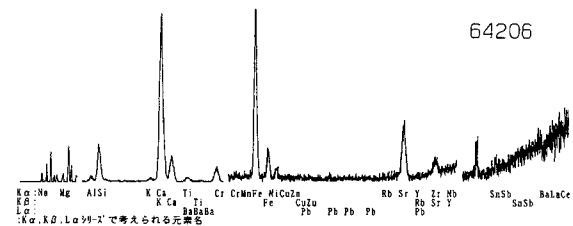


図 1 4 キウス4遺跡F・G地点出土玉-4(64206)の蛍光X線スペクトル

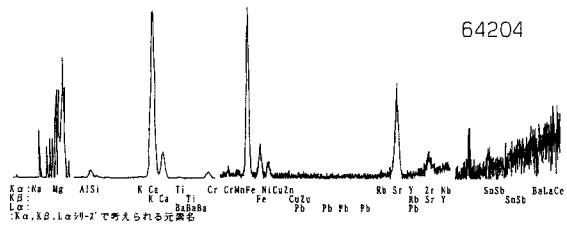


図 1 2 キウス4遺跡F・G地点出土玉-2(64204)の蛍光X線スペクトル

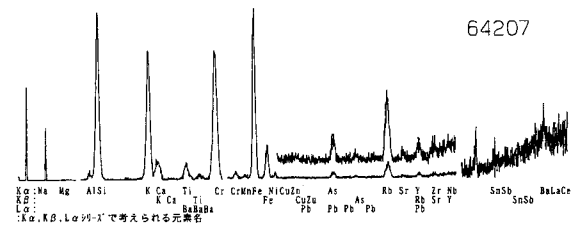


図 1 5 キウス4遺跡F・G地点出土玉-5(64207)の蛍光X線スペクトル

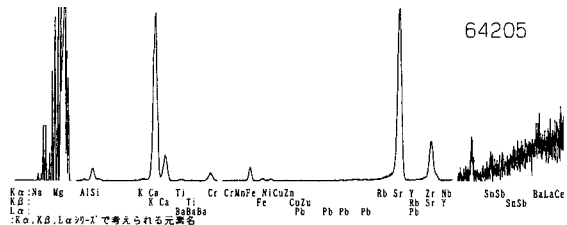


図 1 3 キウス4遺跡F・G地点出土玉-3(64205)の蛍光X線スペクトル

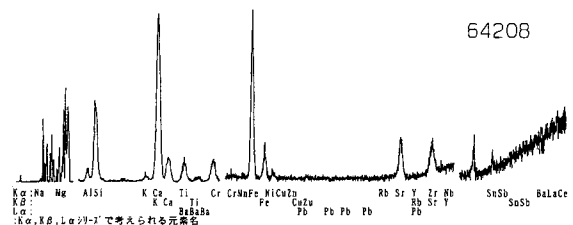


図 1 6 キウス4遺跡F・G地点出土玉-6(64208)の蛍光X線スペクトル

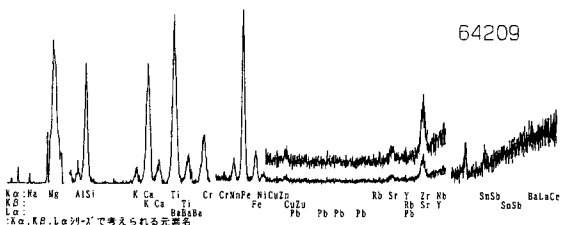


図 1 7 キウス4遺跡F・G地点出土玉-7(64209)の蛍光X線スペクトル

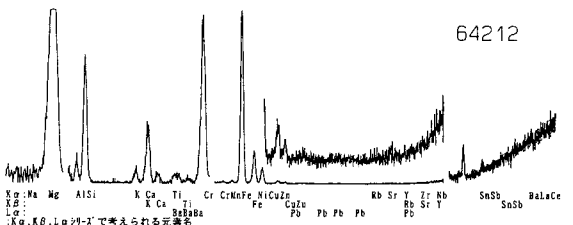


図 2 0 キウス4遺跡F・G地点出土玉-10(64212)の蛍光X線スペクトル

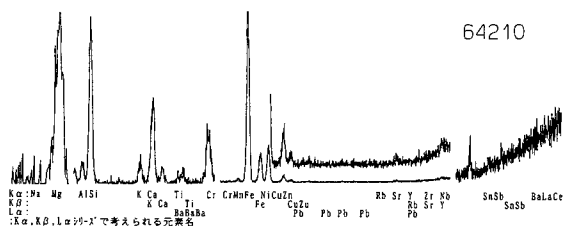


図 1 8 キウス4遺跡F・G地点出土玉-8(64210)の蛍光X線スペクトル

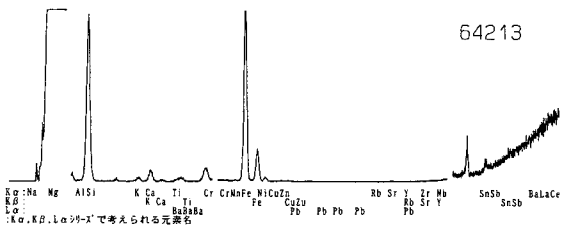


図 2 1 キウス4遺跡F・G地点出土玉-11(64213)の蛍光X線スペクトル

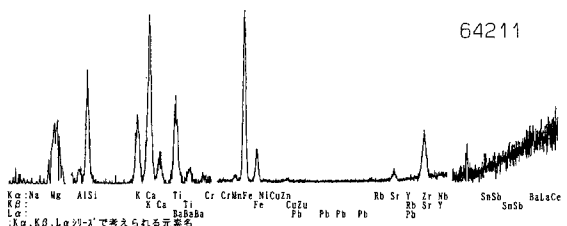


図 1 9 キウス4遺跡F・G地点出土玉-9(64211)の蛍光X線スペクトル

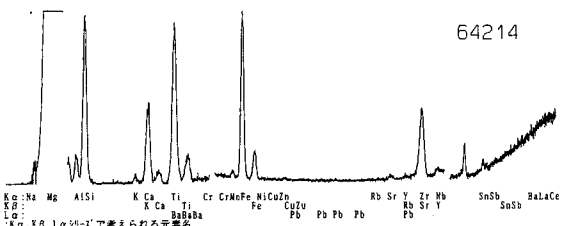


図 2 2 キウス4遺跡F・G地点出土垂飾玉-12(64214)の蛍光X線スペクトル

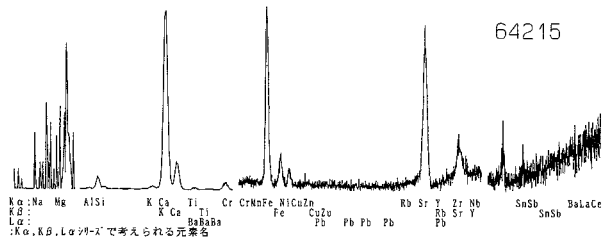


図 2 3 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土玉-13 (64215) の蛍光 X 線スペクトル

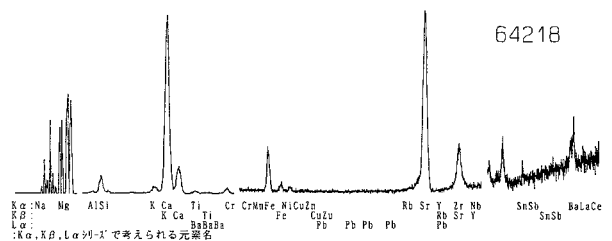


図 2 6 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土玉-16 (64218) の蛍光 X 線スペクトル

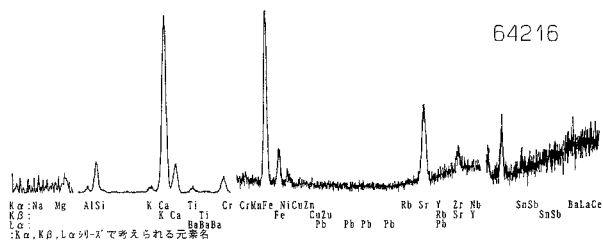


図 2 4 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土玉-14 (64216) の蛍光 X 線スペクトル

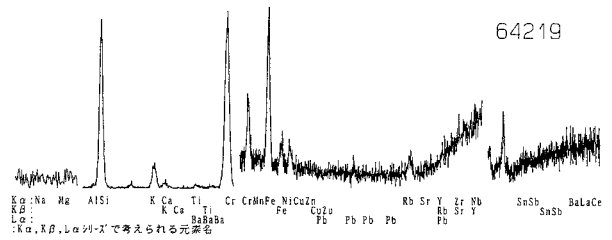


図 2 7 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土玉-17 (64219) の蛍光 X 線スペクトル

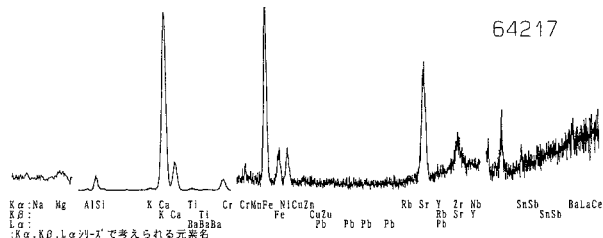


図 2 5 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土玉-15 (64217) の蛍光 X 線スペクトル

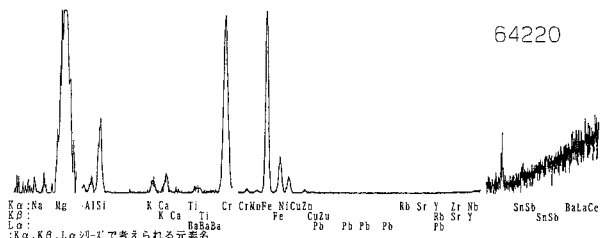


図 2 8 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土玉-18 (64220) の蛍光 X 線スペクトル

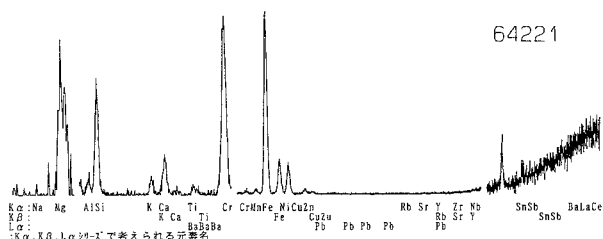


図 2 9 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土玉-19 (64221) の蛍光 X 線スペクトル

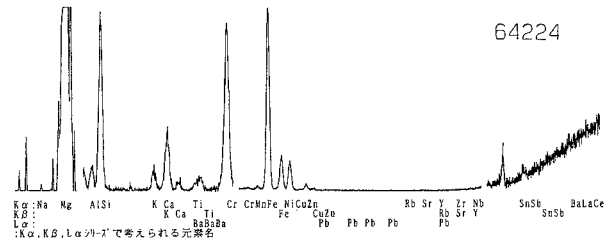


図 3 2 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土玉-22 (64224) の蛍光 X 線スペクトル

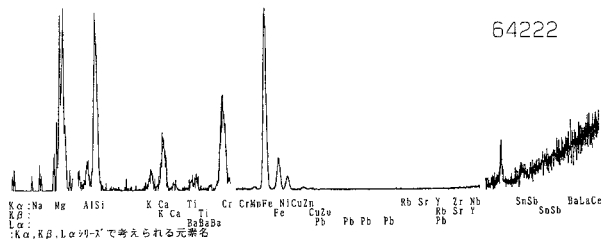


図 3 0 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土玉-20 (64222) の蛍光 X 線スペクトル

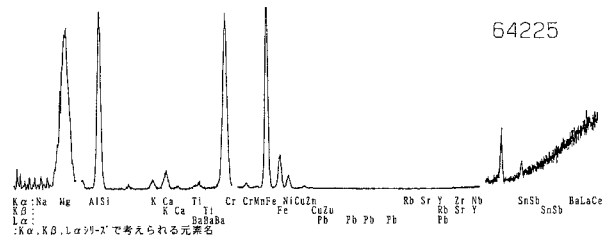


図 3 3 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土垂飾玉-23 (64225) の蛍光 X 線スペクトル

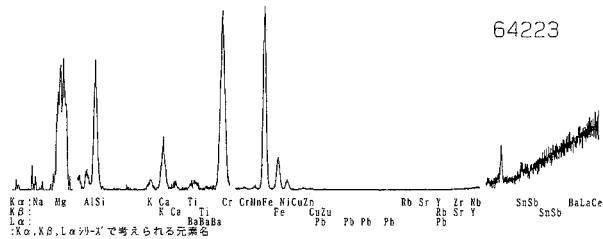


図 3 1 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土玉-21 (64223) の蛍光 X 線スペクトル

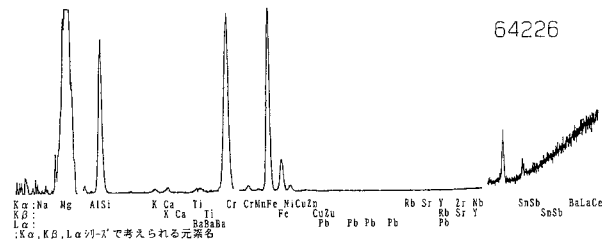


図 3 4 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土垂飾玉-24 (64226) の蛍光 X 線スペクトル

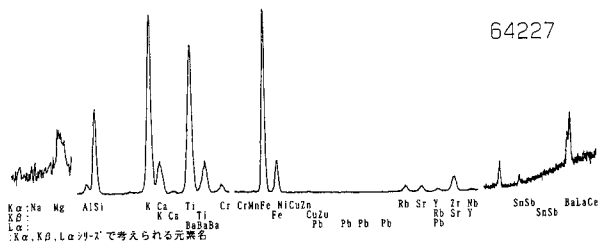


図 3 5 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土垂飾玉-25(64227)の蛍光 X 線スペクトル

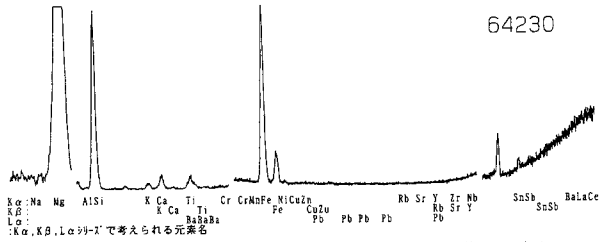


図 3 8 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土土石-28(64230)の蛍光 X 線スペクトル

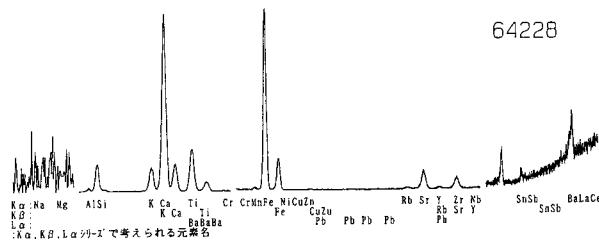


図 3 6 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土垂飾玉-26(64228)の蛍光 X 線スペクトル

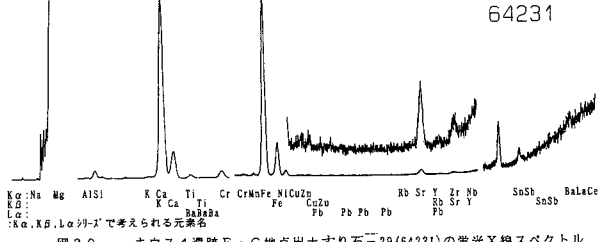


図 3 9 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土すり石-29(64231)の蛍光 X 線スペクトル

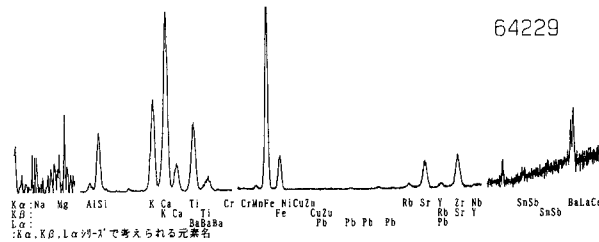


図 3 7 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土垂飾玉-27(64229)の蛍光 X 線スペクトル

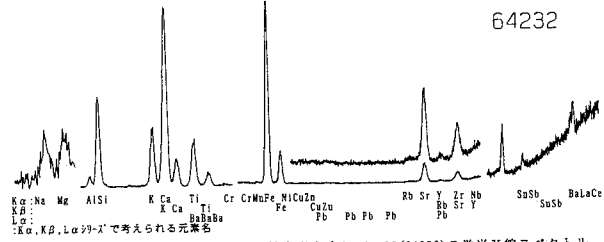


図 4 0 キウス 4 遺跡 F・G 地点出土すり石-30(64232)の蛍光 X 線スペクトル

表 1 キウス 4 遺跡 F・G 地区出土玉・石器類一覧

分析番号	資料番号	調査区遺構名	層位	分類	本文中図番号	備考
64203	1	O-74	N13	玉	図I-00-106	
64204	2	O-74	N14	玉	図I-00-204	
64205	3	M-74	N36	玉	図I-00-189	土層表層により検出
64206	4	N-76	N13	玉	図I-00-107	
64207	5	K-78	N26	玉	図I-00-60	土層表層により検出
64208	6	P-125	壊底	玉	図I-00-128	土層表層により検出
64209	7	P-68	N3	玉	図I-00-184	
64210	8	L-77	N34	玉	図I-00-4	土層表層により検出
64211	9	S-68	N4	玉	図I-00-256	
64212	10	M-78	N14	玉	図I-00-206	土層表層により検出
64213	11	O-74	N13	玉	図I-00-109	
64214	12	P-70	I	垂飾	図I-00-66	
64215	13	K-77	N26	玉	図I-00-59	土層表層により検出
64216	14	M-78	N34	玉	図I-00-3	土層表層により検出
64217	15	S-66	N4	玉	図I-00-255	
64218	16	M-76	N33	玉	図I-00-149	土層表層により検出
64219	17	O-74	N14	玉	図I-00-205	土層表層により検出
64220	18	N-76	N13	玉	図I-00-108	土層表層により検出
64221	19	K-77	Va	玉	図I-00-65	
64222	20	L-77	N34	玉	図I-00-5	土層表層により検出
64223	21	L-77	N26	玉	図I-00-61	
64224	22	L-77	N34	玉	図I-00-6	
64225	23	Q-71	N14	垂飾	図I-00-207	
64226	24	J-75	I	垂飾	図I-00-67	
64227	25	O-79	N5	垂飾	図I-00-33	
64228	26	S-65	N3	垂飾	図I-00-185	
64229	27	M-77	N14	垂飾	図I-00-208	土層表層により検出
64230	28	Q-68	I	石製品	図I-00-68	
64231	29	M-74	N36	すり石	図I-00-184	
64232	30	X-73	SE2	すり石	図I-00-287	

表 2-1 ヒスイ製遺物の原石産地の判定基準 (1)

原産地名	分析個数	蛍光 X 線法による元素比の範囲					
		比重	K/Ca	Ti/Ca	Sr/Fe	Zr/Sr	Ca/Si
糸魚川産	41	3.00~3.35	0.01~0.17	0.01~0.56	0.15~30	0.00~2.94	0.72~27.6
若桜産	12	3.12~3.29	0.01~0.91	0.03~0.59	3.45~47	0.00~0.25	4.33~48.4
大佐産	20	2.85~3.17	0.01~0.07	0.00~1.01	3.18~61	0.00~12.4	3.47~28.6
長崎産	3	3.16~3.23	0.01~0.14	0.17~0.33	0.02~0.06	4.30~16.0	
日高産	22	2.98~3.29	0.00~0.01	0.00~0.02	0.00~0.37	0.00~0.063	5.92~51.6
引佐産	8	3.15~3.36	0.04~0.04	0.00~0.03	0.03~0.33	0.00~0.018	36.3~65.9
大屋産	18	2.96~3.19	0.03~0.08	0.04~0.16	1.08~79	0.02~0.48	0.95~4.81
神居コタン産	9	2.95~3.19	0.02~0.49	0.09~0.17	0.04~0.22	0.12~0.85	2.22~17.3
飛騨産	40	2.85~3.15	0.01~0.04	0.00~0.00	0.02~0.10	0.00~1.24	12.7~28.5
ミャンマー産	26	3.15~3.36	0.02~0.14	0.01~0.26	0.09~2.5	0.01~2.0	
台湾産	1	3.00	0.003	ND	ND	ND	ND

ND: 検出限界以下の濃度

表 2-2 ヒスイ製遺物の原石産地の判定基準 (2)

原産地名	蛍光 X 線法による分析元素 (各元素が確認できた個体数の百分率)							
	Cr	Mn	Rb	Y	Nb	Ba	La	Ce
糸魚川産	26%	6%	20%	ND	13%	33%	ND	ND
若桜産	ND	ND	16%	ND	100%	100%	67%	67%
大佐産	ND	ND	44%	ND	33%	100%	67%	67%
長崎産	ND	ND	ND	100%	100%	100%	100%	100%
日高産	tr	tr	ND	ND	ND	tr	ND	ND
引佐産	88%	75%	ND	ND	ND	ND	ND	ND
大屋産	tr	ND	31%	ND	6%	90%	100%	100%
神居コタン産	ND	100%	22%	100%	ND	55%	ND	ND
飛騨産	100%	100%	ND	ND	ND	ND	ND	ND
ミャンマー産	13%	4%	ND	ND	ND	35%	ND	ND
台湾産	tr	tr	ND	ND	ND	ND	ND	ND

ND: 検出限界以下 tr: 検出確認

表3 キウス4 遺跡 F・G 地区出土のヒスイ製玉類の元素分析値と比量の結果

遺物番号	分析番号	元素分析値の比量																試料比量	試料重量	
		Na/Si	Mg/Si	Al/Si	K/Ca	Ca/Si	Ti/Ca	Cr/Fe	Mn/Fe	Ni/Fe	Sr/Fe	Zr/Sr	Nb/Sr	Ba/Sr	La/Sr	Ce/Sr	Rb/Sr			Y/Sr
玉-1	64203	---	---	0.11	0.09	13.130	0.02	0.036	0.015	0.036	1.157	0.038	0.02	12.94	0.08	0.17	0.11	0.01	3.078	0.14008
玉-2	64204	---	---	0.05	0.01	29.476	0.01	0.034	0.019	0.076	0.648	0.065	0.01	0.18	0.16	0.22	0.01	0.01	3.266	0.21632
玉-3	64205	---	---	0.07	0.01	19.000	0.01	0.028	0.007	0.108	18.128	0.076	0.00	0.03	0.01	0.01	0.01	0.00	3.198	0.29536
玉-4	64206	---	---	0.08	0.02	6.738	0.03	0.014	0.010	0.045	0.434	0.101	0.01	0.00	0.54	0.18	0.03	0.02	3.320	0.58616
玉-6	64208	---	---	0.10	0.03	3.038	0.12	0.011	0.009	0.034	0.306	0.679	0.03	0.23	0.46	1.03	0.02	0.01	3.290	1.03807
玉-13	64215	---	---	0.11	0.03	10.428	0.02	0.015	0.010	0.073	0.490	0.078	0.01	0.43	0.04	0.12	0.03	0.01	3.223	0.27091
玉-14	64216	---	---	0.11	0.03	8.535	0.03	0.030	0.013	0.052	0.558	0.064	0.02	0.44	0.07	0.09	0.03	0.02	3.171	0.26393
玉-15	64217	---	---	0.08	0.01	20.069	0.01	0.052	0.009	0.155	0.794	0.015	0.02	0.36	0.03	0.12	0.01	0.02	3.143	0.37051
玉-16	64218	---	---	0.08	0.04	16.376	0.01	0.024	0.010	0.095	6.333	0.073	0.00	0.36	0.00	0.01	0.01	0.00	3.160	0.31922
JG-1a)		0.027	0.076	0.08	1.32	3.056	0.291	0.001	0.022	0.000	0.367	0.766	0.05	5.33	0.12	0.31	0.77	0.15		

a) 標準試料、Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T., Takeda, E. (1974). 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol. 8 175-192.

表4 キウス4 遺跡 F・G 地区出土のヒスイ製玉類の原産地分析結果

遺物番号	分析番号	各分類基準による判定					総合判定
		図5判定	図6判定	ESR判定	比重&基準(2)	Ni/Fe判定*	
玉-1	64203	IT	IT	IT, WK, KM	IT, WK, OS, OY, KM		糸魚川産
玉-2	64204	IT		IT, WK, KM	IT, IN, HK		糸魚川産
玉-3	64205	IT, WK, OY, OS	IT, WK	IT, WK, KM	IT, IN, HK		糸魚川産
玉-4	64206	IT, HK	IT	IT, WK, KM	IT, IN, HK		糸魚川産
玉-6	64208	IT	IT	IT, WK, KM	IT, IN, HK		糸魚川産
玉-13	64215	IT, HK		IT, WK, KM	IT, IN, HK		糸魚川産
玉-14	64216	IT	IT	IT, WK, KM	IT, IN, HK, HD, OY, KM		糸魚川産
玉-15	64217	IT		IT, WK, KM	IT, IN, HK, HD, OY, KM		糸魚川産
玉-16	64218	IT, WK, OY, OS	IT, WK, OS	IT, WK, KM	IT, IN, HK, HD, OY, KM		糸魚川産

IT: 糸魚川 WK: 若桜 OS: 大佐 NG: 長崎 HK: 日高 IN: 引佐 OY: 大屋

KM: 神居コタン HD: 飛騨

a) Ni/Fe比は日高産地および飛騨産地と同時に帰属された遺物の分類指標

(飛騨産原石、4 2個の平均値±標準偏差) Ni/Fe=0.091±0.030

(日高産原石、1 4個の平均値±標準偏差) Ni/Fe=0.065±0.028

表5-1 キウス4 遺跡 F・G 地区出土玉類の元素比および比重の分析結果

遺物番号	分析番号	元素比																	
		Na/Si	Mg/Si	Al/Si	K/Si	Ca/Si	Ti/Si	Cr/Fe	Mn/Fe	Ni/Fe	Rb/Fe	Sr/Fe	Y/Fe	Zr/Fe	Nb/Fe	Ba/Zr	Ba/Sr	La/Sr	Ce/Sr
玉-5	64207	---	---	0.018	1.103	0.041	0.139	0.053	0.011	0.034	0.111	0.011	0.003	0.012	0.006	4.969	3.577	0.580	0.781
玉-7	64209	0.000	26.604	0.087	0.142	1.592	2.251	0.011	0.112	0.026	0.006	0.035	0.004	0.146	0.008	0.106	0.723	0.516	0.100
玉-8	64210	0.319	16.702	0.086	0.187	0.714	0.035	0.003	0.019	0.208	0.002	0.008	0.001	0.002	0.007	0.000	0.000	0.285	0.990
玉-9	64211	0.000	---	0.094	0.954	2.329	1.186	0.000	0.034	0.003	0.003	0.061	0.003	0.352	0.023	0.146	0.702	0.638	0.779
玉-10	64212	---	18.194	0.108	0.124	0.631	0.071	0.007	0.013	0.070	0.001	0.005	0.001	0.002	0.002	4.065	5.942	0.334	0.602
玉-11	64213	---	3.502	0.003	0.033	0.091	0.015	0.001	0.006	0.021	0.000	0.002	0.001	0.000	0.000	7.135	3.890	0.212	0.099
垂飾12	64214	---	8.216	0.112	0.048	0.674	1.387	0.000	0.040	0.004	0.003	0.027	0.008	0.537	0.033	0.262	9.537	0.402	0.992
玉-17	64219	---	0.380	0.002	0.194	0.011	0.019	0.466	0.009	0.152	0.161	0.049	0.000	0.039	0.069	---	11.064	0.077	0.675
玉-18	64220	0.082	10.541	0.097	0.190	0.283	0.063	0.015	0.009	0.079	0.002	0.002	0.001	0.003	0.001	0.000	0.000	0.661	0.808
玉-19	64221	0.000	10.280	0.096	0.184	0.436	0.046	0.015	0.020	0.133	0.002	0.004	0.001	0.003	0.003	0.000	0.000	0.250	0.410
玉-20	64222	0.000	---	0.075	0.121	0.408	0.044	0.003	0.012	0.066	0.001	0.003	0.003	0.001	0.002	0.000	0.000	0.680	0.148
玉-21	64223	1.835	51.416	0.102	0.113	0.534	0.049	0.008	0.014	0.048	0.001	0.002	0.001	0.002	0.001	---	3.864	0.113	0.515
玉-22	64224	0.258	23.209	0.087	0.158	0.481	0.062	0.007	0.018	0.149	0.002	0.004	0.001	0.001	0.001	0.397	0.614	0.703	0.044
垂飾23	64225	0.042	3.457	0.006	0.054	0.113	0.019	0.014	0.005	0.064	0.001	0.003	0.001	0.002	0.003	---	1.781	0.804	0.386
垂飾24	64226	0.000	4.663	0.003	0.025	0.028	0.022	0.017	0.005	0.027	0.001	0.001	0.001	0.000	0.000	---	3.336	0.686	分0.780
垂飾25	64227	0.000	0.213	0.086	2.988	0.220	2.747	0.001	0.006	0.001	0.039	0.036	0.006	0.102	0.006	3.615	12.138	0.369	0.776
垂飾26	64228	0.000	0.000	0.092	1.266	9.422	2.371	0.000	0.014	0.000	0.010	0.122	0.011	0.061	0.001	5.800	2.889	0.110	0.248
垂飾27	64229	0.000	0.000	0.105	2.177	4.585	1.794	0.000	0.020	0.000	0.024	0.184	0.023	0.205	0.004	2.306	2.489	0.101	0.128
28	64230	0.031	4.463	0.007	0.043	0.095	0.094	0.000	0.002	0.008	0.002	0.003	0.002	0.003	0.002	0.000	0.000	0.269	0.364
29	64231	0.035	3.540	0.119	0.348	34.851	0.636	0.006	0.010	0.027	0.001	0.035	0.002	0.004	0.001	10.342	1.257	0.511	0.086
30	64232	0.082	0.117	0.088	0.901	2.930	0.758	0.000	0.007	0.001	0.007	0.134	0.009	0.045	0.001	7.334	2.623	0.187	0.286
JG-1a)		0.006	0.110	0.073	4.047	3.046	0.898	0.001	0.023	0.001	0.270	0.360	0.062	0.268	0.029	7.432	5.522	0.234	0.232

表5-2 キウス4 遺跡 F・G 地区出土玉類の元素比および比重の分析結果

遺物番号	分析番号	元素比																遺物重量	比重	
		K/Fe	K/Ca	Ca/K	Ca/Fe	Ti/K	Ti/Fe	Ti/Ca	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr			Nb/Sr
玉-5	64207	0.040	27.051	0.037	0.002	0.126	0.007	3.412	84.884	9.380	0.899	0.225	0.519	94.383	10.430	0.250	1.112	0.577	0.37550	2.362
玉-7	64209	0.003	0.089	11.194	0.022	15.826	0.034	1.414	6.828	0.041	0.240	0.024	0.052	28.402	0.172	0.100	4.159	0.218	0.69795	2.568
玉-8	64210	0.001	0.234	4.281	0.003	0.212	0.000	0.050	519.914	0.965	3.965	0.773	3.508	131.123	0.243	0.195	0.252	0.885	0.67294	2.627
玉-9	64211	0.007	0.410	2.440	0.016	1.243	0.010	0.509	2.845	0.008	0.172	0.007	0.065	16.501	0.047	0.041	5.801	0.378	0.87748	2.547
玉-10	64212	0.000	0.197	5.072	0.002	0.574	0.000	0.113	915.155	1.201	4.152	0.476	1.871	220.432	0.289	0.115	0.241	0.451	1.72130	2.650
玉-11	64213	0.000	0.359	2.786	0.001	0.467	0.000	0.168	---	2.244	10.028	4.313	2.751	567.818	0.224	0.430	0.100	0.274	7.68844	2.788
垂飾12	64214	0.001	0.071	14.141	0.007	29.084	0.017	2.057	1.861	0.005	0.050	0.015	0.061	37.470	0.105	0.295	20.131	1.237	16.05887	2.622
玉-17	64219	0.046	17.669	0.057	0.007	0.099	0.007	1.746	25.323	4.089	1.235	0.000	1.737	20.508	3.311	0.000	0.810	1.407	0.22460	2.565
玉-18	64220	0.001	0.672	1.489	0.001	0.333	0.000	0.224	300.405	0.583	0.724	0.406	0.256	414.787	0.805	0.561	1.381	0.354	0.51699	2.660
玉-19	64221	0.001	0.375	2.665	0.002	0.281	0.001	0.106	380.201	0.619	1.392	0.423	0.957	273.210	0.445	0.304	0.719	0.688	0.77108	2.599
玉-20	64222	0.000	0.295	3.385	0.001	0.363	0.000	0.107	---	0.897	3.474	2.956	1.595	298.661	0.258	0.851	0.288	0.459	0.85872	2.627
玉-21	64223	0.000	0.211	4.729	0.001	0.433	0.000	0.092	556.782	0.333	0.848	0.419	0.565	656.867	0.383	0.495	1.180	0.667	1.73059	2.630
玉-22	64224	0.000	0.329	3.040	0.002	0.392	0.000	0.129	933.750	1.669	3.853	1.214	1.316	242.317	0.433	0.315	0.260	0.341	2.44570	2.623
垂飾23	64225	0.000	0.484	2.068	0.001	0.343	0.000	0.166	515.211	0.443	1.405	0.443	1.541	366.657	0.315	0.315	0.712	1.097	15.56177	2.796
垂飾24	64226	0.000	0.894	1.118	0.000	0.881	0.000	0.788	---	2.179	1.632	1.081	0.581	---	1.335	0.662	0.613	0.356	10.60175	2.827
垂飾25	64227	0.016	13.573	0.074	0.001	0.919	0.014	12.478	8.808	0.387	0.357	0.055	0.057	27.452	1.083	0.153	2.799	0.161	7.00110	2.629
垂飾26	64228	0.009	0.134	7.440	0.070	1.872	0.017	0.252	16.308	0.160	1.998	0.172	0.023	8.163	0.080	0.086				



図41 キウス4遺跡F・G地区出土分析試料

3 北海道キウス4遺跡(D・F・G地区)から出土した縄文時代の炭化植物種子

吉崎昌一・椿坂恭代

1) 遺跡と調査の概要

遺跡の名称 : キウス4遺跡 D・F・G地区 (A-03-92)

遺跡の所在 : 北海道千歳市中央208-2ほか

調査の機関 : 財団法人北海道埋蔵文化財センター

調査担当者 : 高橋和樹ほか

調査期間 : 平成9年(1997年)5月6日~10月28日

平成10年(1998年)5月6日~10月28日

遺跡の立地 : 千歳市の北東約8km, 馬追丘陵の西側に広がる緩斜面の標高4~19mに位置している。この緩斜面は、キウス川によって浸食縦断され、その末端はオルイカ川に接している。

遺跡の年代・検出遺構 :

D地区 ; 縄文時代後期後葉の周堤墓、直線状盛土、道跡、土壌、焼土跡が検出された。

F地区 ; 盛土遺構、焼土群、貯蔵穴、墓壇、柱穴、小ピットが検出されている。縄文時代早期から晩期に渡る遺物が検出されたが、縄文時代後期後葉の堂林式に相当するものが最も多い。

G地区 ; 縄文時代後期後葉の堂林式土器の時期に相当するものが主体の盛土遺構、焼土、墓壇、柱穴、竪穴状遺構が検出されている。

2) 扱った資料

分析資料として扱った炭化植物は、縄文時代後期後葉のD地区、F地区、G地区の各遺構から土壌を採取しフローテーション法と水洗選別法で処理し、第一次選別を経て送付されてきた。これらの資料について実体顕微鏡と走査型電子顕微鏡で観察並びに撮影を行った。検出された植物種子の計測表及び出土表は表1に示しておいた。

3) 各地区から検出された種子

コナラ属 *Quercus* L. (図版1-1~11、2-12~19)

柱穴、N盛土、盛土遺構の焼土とその周辺から総量397.51g出土している。資料はすべて果皮が取り除かれた子葉部分である。半割の状態約70片、その他は細片で検出されている。比較的保存状態の良い資料を計測し観察を行った。図版1・2の資料11~19の子葉は長楕円形の形態で、コナラ、ミズナラの形態に近い。資料5~10に示す子葉は球形または長楕円形状球形で、カシワに近い形態を示す。1~4の子葉は小型で、ミズナラ、コナラ、カシワのいずれの形態にも該当するであろう。検出された資料が子葉部分だけだと炭化による変形などに利用される分類の指標情報が少なくなり、種までの分類は困難である。しかし、総体的に見てコナラ・ミズナラであった可能性が強い。おそらく、当時の遺跡周辺にはミズナラ *Quercus crispula* Blume.、コナラ *Quercus serrata* Murray.、カシワ *Quercus dentata* Thunb. の分布が見られたのであろう。参考までに現生のミズナラ子葉(自然乾燥処理)1個の重さは約1.7g、カシワで約1.6gである。

クリ属 *Castanea* Mill. (図版3-20~27)

柱穴、N 盛土とその周辺から総量104.38g 出土している。扁円形で長さより幅が広く、一側が膨れ、縦に溝状の皺がある。いずれも果皮が取り除かれた子葉部分が検出されている。保存状態の良いものは10片ほどで、ほとんどが細片の状態出土した。現生のクリ子葉（自然乾燥処理）1個の重さ約6.0g である。計測値は表3に示す。

ユリ科 LILIACEAE （図版4 - 28~32）

墓（G区）貯蔵穴の覆土、N 盛土遺構とその周辺から鱗茎の部分が22.45g 検出されている。完形の資料は少量であった。鱗茎は、やや円形もの（図版4 - 28・29）広卵形（図版4 - 30・31・32）の形態を示すものと、その基部部分の形態の相違から、大まかに2種類に分類することができる。大きさは大小様々である。手元にある現生資料で、鱗茎の基部部分の形態の違いなどを中心に観察を行ってみた。しかしながら、現生の比較資料が少なく、鱗茎そのものの個体差が大きいため、種の特定はできなかった。円形の形態を示す鱗茎にはノビル *Allium grayi* Regel、ヒメニラ *Allium monanthum* Maxim. などがある。他に広卵形の鱗茎を持つキバナノアマナ属 *Gagea* Salisb. などが知られるが、詳細は不明。出土量を個数に換算すると総量で159個、（円形タイプが67個、広卵形タイプは92個）となる。図示した資料28：長さ7.57mm、幅8.43mm（N 盛土 N - 75、N14から出土）。29：長さ8.48mm、幅8.43mm（N 盛土 N - 72、Vb から出土）。30：長さ11.19mm、幅10.89mm（N 盛土 P - 82、Vb から出土）。31：長さ11.95mm、幅9.05mm 破損、（N 盛土 P - 82、N27から出土）。32：長さ14.84mm、幅12.65mm。（N 盛土 O - 81、N13から出土）

ブドウ科 VITIDACEAE （図版4 - 33：F84 - 焼土 Vb から出土）

F84の焼土 Vb から1粒出土。種子は倒卵形、背面には不明瞭な倒へら形の凹みがある。腹面の中線は稜をなし、その両側は長楕円形の相対する凹みがあり、ブドウ属 *Vitis* L. の特徴を持つ。エビズル *Vitis ficifolia* Bunge、ツタ *Parthenocissus tricuspidata* Planch. などの種子も形態が類似するが、分布域などから判断するとヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat. の可能性が高い。図示した資料は長さ4.1mm、幅3.3mm 厚さ2.5mm。

キハダ属 *Phellodendron* Rupr. （図版4 - 34：G区 - N 盛土35から出土）

N 盛土、N35から果実の破片が1片出土。破損のため計測はできなかった。

ヒシ属 *Trapa* L.（図版4 - 35：N 盛土 N80、N5、36：J79、N26、37：K78、N26から出土）

N 盛土遺構から核果の破片3片出土。核果の特徴である鋭い刺部分は破損していたが、その一部が検出された。いずれも破片のため計測は不可能であった。ヒシは沼沢地に生える1年生草本である。子葉は多肉でゆでて食用にされる。

モクレン属 *Magnolia* L. （図版4 - 38：R107 - III層から出土）

R107 - III層から未炭化（酸化した状態）で1粒出土。所属時期不明。種子は横楕円形で、背面に浅く細い縦溝がある。腹面の正中線の上に幅広の浅い縦溝があり、ホオノキ *Magnolia hypoleuca* Sieb.et Zucc. の特徴を持つ。図示した資料は長さ9.6mm、幅9.4mm。

クルミ属 *Juglans* L. （図版4 - 39：N 盛土 M75 - N36から出土）

墓以外の各遺構から破片（外果皮）で総量190.82g 出土している。III層及びI層・攪乱からは未炭化（酸化した状態）で検出されている。内果皮のいくつかに残存している表面模様の特徴から、オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. であろう。参考までに現生オニグルミ（自然乾燥）1個の重量は平均で約6.5g である。

ヒエ属 *Echinochloa* Beauv. （図版5 - 40：F - 105焼土 Vb から出土）

F - 105焼土 Vb から2粒、F - 161焼土 Vb から1粒、合計3粒出土。いずれも穎果（穎を取り除

いた)の状態出土している。種子はやや胴部が膨らみ栽培型に近い形態を示す。図示した資料は、長さ1.55mm、幅1.05mm、厚さ0.7mm。

キク科 COMPOSITAE (図版5 - 41 : F - 83焼土Vbから出土)

焼土Vb層、F - 741の焼土から976粒出土している。キク科の種子は、種類が多く今のところ詳細な分類は困難である。出土した種子を観察すると、ヨモギ属 *Artemisia* L. に類似している。ヨモギ瘦果の場合、加熱されると表面の薄い果皮が破れて種子がでてくる。出土した資料は、おそらく加熱により薄い果皮が焼けて消失し、種子だけが残ったものであろう。図示した資料は計測値：長さ1.7mm、幅0.6mm。

タデ属 *Polygonum* L. (図版5 - 42 : 周堤墓内の墓 (GP - 1013) 西柱3層から出土)

GP - 1013 (墓)、焼土Vb層から合計87粒出土。瘦果ほとんどが三稜の形態を持つが、扁平の形態を示すものも若干あった。タデ属の仲間は、同じような形態を示す種子が多い。資料の保存状態がよほど良好でない限り形態からだけでは種類を特定するのは困難である。図示した資料は、長さ1.5mm、幅1.3mm。

不明種子1 (図版5 - 43 : F - 105 焼土Vbから出土)

F - 105・106・107・741の焼土Vb層から合計25粒出土している。資料はやや球形で表面に網状の組織構造を持つが、その一部分に穴があいている。形態から見て、これがはたして植物種子と言えるのかどうか判断しかねる。この種のものについて情報があれば御教示願いたい。図示した資料は長さ1.5mm、幅1.2mm。

不明堅果、不明種子2については資料の保存状態が悪いため同定できなかった資料である。

4) 若干のコメント

(A) フローテーション法と水洗選別法の差

今回の分析ではいくつかの問題が残った。第一に注目されるのは、この遺跡から得られた種子のサンプリングに2種類の相違する手法が用いられたことである。つまり、フローテーション法と水洗選別法とである。前者は土壌中に含まれている種子類を水面に浮上させて0.425ミリメッシュのスクリーンで採取するが、後者は水中の5ミリメッシュのスクリーン中で土壌を攪拌して土砂を流し去り、その残渣から種子を選び出す手法である。次に、両手法によって採集された種子標本に差が見られるかどうか検討しよう。

表1で、P - 37を除く資料No. 8、資料No. 9~78、集石2 - 盛土を除く資料121以外の大部分の土壌は水洗選別法で植物種子が検出されている。これら手法の相違に基づいて検出された種子を見てみると、フローテーション法が採用された標本からは、ヒエ属 *Echinochloa*、キク科 COMPOSITAE、タデ科 POLYGONACEAE、ブドウ属 *Vitis* L. が抽出されているが、水洗選別法が採用された標本からはこうした小型の種子が全く抽出されていない。この結果を見る限り、種子抽出の結果にきわめて大きな偏りが生じていることがわかる。キウス4遺跡の今回の発掘調査では、盛土を形成している土壌を大量に運び、土器や石製品などの人工遺物を採集する目的で水洗選別が用いられ予期された成果が得られていた。しかし、小型の植物種子は殆ど得られなかった、と言う結果となった。おそらくかなりの量の小型種子は、スクリーンの目から流れ出たのであろう。こうした2種類のサンプリング法に見られた標本の差は、栽培植物や環境復元のためには大きな影響となるのではないだろうか。たしかに、マンパワーと調査時間の関係で、全ての土壌にフローテーション法による作業を実施する事は困難である。こうした問題を解決するためには、新しいシステムを開発

する必要があるように思う。現在の状況では、他の多くの遺跡調査で普遍的に採用されているこうした水洗選別作業による結論が、縄文文化を理解する上に誤解を生むことを懸念したい。

(B) コナラ属 *Quercus* L. について

北海道でドングリと俗称されるのはコナラ属 *Quercus* L. の堅果である。その仲間では北海道に分布しているものはミズナラ *Quercus crispula* Blume)、コナラ *Quercus serrata* Murray)、カシワ *Quercus dentata* Thunb.) の3種類であるが、しかしながら殻斗がともなわない出土炭化種子の子葉だけでは、これらを分類するのが、きわめて難しい。堅果の粒形や大きさだけで分類できそうにも見えるが、成育地によって変異が激しいらしく、ここでは属レベルの分類で止めておいた。山田によれば明瞭なコナラは石狩低地帯にまでしか知られていない、と言う(山田:1990)。キウス遺跡 Q 地区の植物種子の報告でも述べたとおり、アイヌ民族の説話に残されたドングリは、主としてカシワ *Quercus dentata* Thunb.) でありミズナラ *Quercus crispula* Bl.) が僅か、コナラ *Quercus serrata* Thunb.) と断定できる資料はないらしい。この点に関してはキウス遺跡 Q 地区の植物種子の報告に詳しく述べておいたので参照されたい(吉崎・椿坂:2001)。ただし、最近の DNA レベルの研究によれば、コナラ属 *Quercus* L. の分類が可能になったらしい(鈴木三男, 佐藤洋一郎氏からの情報による)。

(C) ヒシの出土に関連して

アイヌ語ではペカンベとよばれ、結実期の秋に舟を出して採集、これをゆでて乾燥し保存用にしていた。食べる際には皮をむきサヨ(お粥)にブクサ(ギョウジャンニク)の乾燥貯蔵した葉などともにいれたという。また、ゆでて乾燥した栗と同様にそのまま食べた例も多い。筆者はイオマンテ(クマ送りの儀式)の際に祭壇に供物にされた例を目撃している。こうした例でもわかるように、ヒシはアイヌ民族の食糧源として重要であった。特に北海道東部には、ヒシに関する説話がよく残っている。例えば釧路管内塘路湖周辺のコタン(村)で古くから行われていたペカンベカムイノミ(ペカンベの神に対する感謝の儀礼)が有名である(白老民族文化伝承保存財団編1964)。

(D) キク科 COMPOSITAE ヨモギの出土

ヨモギはアイヌ名でノヤといい、アイヌ民族の中では、食用、薬用あるいは儀礼用に利用されていた(白老民族文化伝承保存財団編1964)。アイヌ民族では若い葉を採集、シト(団子や餅)の中に入れて食用にしていた。乾燥保存したのも同様である。そのほか疫病神を払うためのタクサ(手草)や儀礼的な矢柄などに使用されている。

(E) ヒエ属 *Echinochloa* について

総計で3粒検出されている。図版5-40に図示したように丸く太っている。栽培されたものである可能性が高い。出土数が少ないのは、水洗選別の際のスクリーンのメッシュが粗すぎ、抽出できなかったからではないだろうか。残念である。

引用文献

- 1964: 白老民族文化伝承保存財団編 アイヌと植物(食用編)アイヌと自然シリーズ第2集 31p.
アイヌ民族博物館, 北海道白老
- 1990: 八千代遺跡から出土した堅果と果実「帯広・八千代 A 遺跡」49-57帯広市埋蔵文化財調査報告 第8冊 帯広市教育委員会
- 2001: キウス4遺跡 Q 地区から出土した縄文時代の植物種子「キウス4遺跡(7)」北埋調報152
北海道埋蔵文化財センター

表1 キウス4遺跡(D・F・G地区)炭化植物出土表

■ 未炭化(酸化した状態) H9種子

NO.	遺構名	調査区	地区	層位	時期	コリ科 (g)	クリ属 (g)	コナラ属 (g)	クルミ属 (g)	ヒシ属 (g)	キハダ属 (g)	モクレン属 (g)	不明堅果 (g)	ヒエ属 (粒)	キク科 (粒)	タデ科 (粒)	ブドウ科 (粒)	不明1 (粒)	不明2 (粒)
1	GP-1013	N-10	D	墓 西柱3層	縄文後期														
2	LP-2	S-113	D	墓 床	縄文後期											24			
	LP-2		D	墓 遺体部・茶	縄文後期														
3	LP-3	S-113	D	墓 遺体部①黒	縄文後期														
	LP-3		D	墓 遺体部②黒	縄文後期														
	LP-3		D	墓 遺体部④黒	縄文後期														
	LP-3		D	墓 遺体部⑤黒	縄文後期														
	LP-3		D	墓 遺体部⑥黒	縄文後期														
	LP-3		D	墓 遺体部⑦黒	縄文後期													1	
	LP-3		D	墓 遺体部⑧黒	縄文後期														
	LP-3		D	墓 遺体部②黒褐	縄文後期														
	LP-3		D	墓 遺体部⑥黒褐	縄文後期														
	LP-3		D	墓 遺体部⑦黒褐	縄文後期														
	LP-3		D	墓 遺体部⑧黒褐	縄文後期														
4	LP-7	R-110	D	墓 床	縄文後期														
	LP-7		D	墓 遺体部①茶	縄文後期														
	LP-7		D	墓 遺体部④茶	縄文後期														
	LP-7		D	墓 遺体部⑧暗褐	縄文後期														
5	LP-8	R-110	D	墓 遺体部③茶	縄文後期														
6	LP-11	R-110	D	墓 遺体部③茶	縄文後期														
7	LP-12	S-110	D	墓 遺体部①頭部骨	縄文後期														
	LP-12		D	墓 遺体部②頭部骨	縄文後期														
	LP-12		D	墓 遺体部③身体骨	縄文後期														
	LP-12		D	墓 遺体部④身体骨	縄文後期														
	LP-12		D	墓 西柱2層・25cm	縄文後期														
	LP-12		D	墓 西柱3層・5cm	縄文後期														
	LP-12		D	墓 西柱3層・30cm	縄文後期														
	LP-12		D	墓 遺体部・黒褐	縄文後期														
8	P-7	V-78	F	柱穴 覆土3・東	縄文後期			0.64											
	P-7		F	柱穴 覆土4・東	縄文後期			2.61											
	P-7		F	柱穴 覆土7	縄文後期			0.06											
	P-9	X-73	F	柱穴 覆土	縄文後期	0.57		0.44											
	P-37	U-79	F	柱穴 覆土(上)	縄文後期			1.31											
	P-37		F	柱穴 覆土3	縄文後期			2.91											
	P-191	Y-74	F	柱穴 覆土	縄文後期				0.05										
9	P-804	P-66	F	貯蔵穴 覆土	縄文後期	0.22										1			
	Fc-1	M-76	F	フレーク・チップ集中	縄文後期														
10	F-6	R-67	F	焼土 トレンチ	縄文後期										1				
11	F-15	R-66	F	焼土 トレンチ	縄文後期														
12	F-23	O-80	F	焼土 トレンチ	縄文後期											1			
13	F-68	S-66	F	焼土 Vb	縄文後期											1			
14	F-70	S-65	F	焼土 Vb	縄文後期										6				
15	F-71	R-65	F	焼土 Vb	縄文後期														
16	F-72	R-65	F	焼土 Vb	縄文後期										1			1	
18	F-74	R-65	F	焼土 Vb	縄文後期														
19	F-81	R-67	F	焼土 Vb	縄文後期										24	1			
20	F-82	R-67	F	焼土 Vb	縄文後期										23				
21	F-83	R-67	F	焼土 Vb	縄文後期										117	3			
22	F-84	R-67	F	焼土 Vb	縄文後期										496	4	1	16	
23	F-85	R-67	F	焼土 Vb	縄文後期										48			7	
24	F-86	R-68	F	焼土 Vb	縄文後期														3
25	F-87	R-68	F	焼土 Vb	縄文後期										3				
26	F-88	R-68	F	焼土 Vb	縄文後期										53	13			
27	F-89	S-68	F	焼土 Vb	縄文後期										3				
28	F-90	S-68	F	焼土 Vb	縄文後期										1				6
29	F-91	S-68	F	焼土 Vb	縄文後期										1				1
30	F-92	S-68	F	焼土 Vb	縄文後期										5				1
31	F-93	S-68	F	焼土 Vb	縄文後期										1				
32	F-95	S-68	F	焼土 Vb	縄文後期										1				2
33	F-98	S-67	F	焼土 Vb	縄文後期										1	1			
34	F-101	S-67	F	焼土 Vb	縄文後期										4				
35	F-102	S-67	F	焼土 Vb	縄文後期										3				
36	F-103	S-67	F	焼土 Vb	縄文後期										2				
37	F-105	S-66	F	焼土 Vb	縄文後期										2				
38	F-106	S-67	F	焼土 Vb	縄文後期										2				
39	F-107	S-67	F	焼土 Vb	縄文後期										14			7	
40	F-108	S-67	F	焼土 Vb	縄文後期										6			3	1
41	F-108	S-67	F	焼土 Vb	縄文後期										6			1	
42	F-112	Q-68	F	焼土 Vb	縄文後期										2				
43	F-116	P-68	F	焼土 Vb	縄文後期										2				
44	F-123	P-68	F	焼土 Vb	縄文後期										2				46
45	F-124	P-68	F	焼土 Vb	縄文後期										4				48
46	F-125	O-68	F	焼土 Vb	縄文後期														21
47	F-126	P-67	F	焼土 Vb	縄文後期										7				
48	F-127	P-67	F	焼土 Vb	縄文後期										10				
49	F-128	Q-67	F	焼土 Vb	縄文後期										2				
50	F-129	Q-66	F	焼土 Vb	縄文後期										28				
51	F-130	Q-66	F	焼土 Vb	縄文後期										6				
52	F-133	Q-66	F	焼土 Vb	縄文後期										4				2
53	F-135	Q-65	F	焼土 Vb	縄文後期														2
54	F-141	Q-65	F	焼土 Vb	縄文後期														4
54	F-142	Q-65	F	焼土 Vb	縄文後期														1

H9種子

NO.	遺構名	調査区	地区	層位	時期	ユリ科 (g)	クリ属 (g)	コナラ属 (g)	クミ属 (g)	ヒシ属 (g)	キハダ属 (g)	モクレン属 (g)	不明堅果 (g)	ヒエ属 (粒)	キク科 (粒)	タデ科 (粒)	ブドウ科 (粒)	不明1 (粒)	不明2 (粒)
55	F-143	P-65	F	焼土 Vb	縄文後期														7
56	F-144	P-65	F	焼土 Vb	縄文後期											1			6
57	F-150	Q-72	F	焼土 Vb	縄文後期											6			5
58	F-151	Q-72	F	焼土 Vb	縄文後期									1	2				18
59	F-153	Q-72	F	焼土 Vb	縄文後期														4
60	F-155	Q-72	F	焼土 Vb	縄文後期									1	3				19
61	F-159	P-72	F	焼土 Vb	縄文後期														4
62	F-161	P-72	F	焼土 Vb	縄文後期								1						5
63	F-162	P-72	F	焼土 Vb	縄文後期									2					
65	F-166	P-72	F	焼土 Vb	縄文後期											1			
66	F-210	P-72	F	焼土 Vb	縄文後期											2			1
67	F-244	R-67	F	焼土 Vb	縄文後期	0.08													
68	F-266	P-67	F	焼土 Vb	縄文後期										1				3
69	F-288	O-77	F	焼土 Vb	縄文後期											3			1
70	F-343	Q-85	F	焼土 トレンチ	縄文後期														1
71	F-358	O-72	F	焼土 Vb	縄文後期	0.07													
72	F-359	P-82	F	焼土 Vb	縄文後期											1			
73	F-365	P-83	F	焼土 トレンチ	縄文後期											2			
74	F-367	P-83	F	焼土 トレンチ	縄文後期											1			
75	F-386	Q-87	F	焼土 トレンチ	縄文後期											6			
76	F-388	N-83	F	N盛土 N26	縄文後期											1			
77	F-391	N-84	F	N盛土 N25	縄文後期											2			
78	F-802	M-68	F	焼土 Vb	縄文後期											2			
79	N盛土	M-81	F	MT	縄文後期								1.81						
	N盛土	M-83	F	N26	縄文後期	0.33													
80	N盛土	O-80	F	N13	縄文後期				0.1										
	N盛土	N-82	F	N13	縄文後期	0.11													
	N盛土	N-82	F	N32	縄文後期			0.21											
	N盛土	N-84	F	N26	縄文後期				0.09										
81	N盛土	O-69	F	N4	縄文後期	0.26	0.05												
82	N盛土	O-73	F	N14	縄文後期	0.09													
	N盛土	O-74	F	N13	縄文後期	0.05		0.33											
	N盛土	O-75	F	N13	縄文後期	0.47													
83	N盛土	O-75	F	N14	縄文後期	0.05													
	N盛土	O-78	F	N13	縄文後期	0.69		0.26											
	N盛土	O-79	F	N13	縄文後期	0.23			0.01				0.07						
	N盛土	O-80	F	N13	縄文後期	1.52													
	N盛土	O-80	F	N30	縄文後期	0.2													
84	N盛土	O-81	F	N13	縄文後期	1.04													
85	N盛土	O-82	F	N13	縄文後期			0.11											
86	N盛土	O-82	F	N32	縄文後期								0.66						
87	N盛土	O-83	F	N26	縄文後期			0.19											
	N盛土	O-83	F	N32	縄文後期	0.09							0.11						
	N盛土	O-84	F	N26	縄文後期	0.24							0.05						
	N盛土	P-67	F	N3	縄文後期			0.1											
	N盛土	P-68	F	N4	縄文後期			0.02											
88	N盛土	P-73	F	N13	縄文後期	0.34													
	N盛土	P-74	F	N14	縄文後期				0.09				0.09						
	N盛土	P-75	F	N13	縄文後期				0.71										
89	N盛土	P-75	F	N14	縄文後期	2.36							0.06						
		P-77	F	I層・攪乱	?				0.85										
	N盛土	P-79	F	N13	縄文後期			0.05											
90	N盛土	P-80	F	N13	縄文後期	0.18													
		P-81	F	Vb層	縄文後期	0.16													
	N盛土	P-81	F	N31	縄文後期	0.19													
91		P-82	F	Vb層	縄文後期	0.95													
92	N盛土	P-82	F	N27	縄文後期	0.39													
93	N盛土	P-82	F	N31	縄文後期	0.29													
	N盛土	P-83	F	N26	縄文後期	0.18													
	N盛土	P-83	F	N30	縄文後期	0.1													
94	N盛土	P-83	F	N31	縄文後期	0.96													
	N盛土	P-84	F	N27	縄文後期				0.06										
95	N盛土	P-84	F	N30	縄文後期	0.12													
96	N盛土	P-85	F	N30	縄文後期	0.08							0.06						
97	N盛土	P-86	F	N30	縄文後期								0.04						
	N盛土	Q-65	F	N1	縄文後期			0.73	0.46										
	N盛土	Q-66	F	N3	縄文後期			0.47					0.29						
	N盛土	Q-72	F	N13	縄文後期				0.03										
98	N盛土	Q-73	F	N14	縄文後期	0.06													
99	N盛土	Q-75	F	N14	縄文後期	0.22													
100	N盛土	Q-77	F	N13	縄文後期								0.07						
	N盛土	Q-82	F	N31	縄文後期	0.14													
	N盛土	Q-84	F	N19	縄文後期			0.1											
101	N盛土	Q-84	F	N29	縄文後期														
102	N盛土	Q-86	F	N19	縄文後期								0.03						
	N盛土	R-65	F	N1	縄文後期			0.04											
	N盛土	R-65	F	N4	縄文後期				0.06										
	N盛土	R-66	F	N1	縄文後期		0.14	0.2											
	N盛土	N-84	F	N3	縄文後期	0.54	0.09												
103	N盛土	R-67	F	N3	縄文後期	3.27	2.86	0.4											
	N盛土	R-68	F	N3	縄文後期	0.07	1.18	0.19											

H9・H10種子

NO.	遺構名	調査区	地区	層位	時期	ユリ科 (g)	クリ属 (g)	コナラ属 (g)	クルミ属 (g)	ヒシ属 (g)	キハダ属 (g)	モクレン属 (g)	不明堅果 (g)	ヒエ属 (粒)	キク科 (粒)	タデ科 (粒)	ブドウ科 (粒)	不明1 (粒)	不明2 (粒)	
104	N盛土	R-69	F	N4	縄文後期			0.12	0.06											
	N盛土	R-70	F	N4	縄文後期		0.1													
	N盛土	R-73	F	N14	縄文後期				0.03											
105	N盛土	R-75	F	N14	縄文後期	0.31														
106	N盛土	R-82	F	N31	縄文後期								0.11							
		R-107	F	Ⅲ層	?							0.08								
		R-110	F	I層・攪乱	?				2.79											
	N盛土	S-65	F	N1	縄文後期				0.07											
	N盛土	S-65	F	N4	縄文後期		0.19		0.11											
	N盛土	S-65	F	N14	縄文後期				0.18											
107	N盛土	S-66	F	N1	縄文後期		0.12	0.5	0.62											
	N盛土	S-66	F	N3	縄文後期			0.26	0.12				0.11							
	N盛土	S-67	F	N1	縄文後期				0.04											
108	N盛土	S-67	F	N3	縄文後期		9.66	7.99	0.89											
	N盛土	S-68	F	N1	縄文後期		0.07													
	N盛土	S-68	F	N3	縄文後期		0.88		2.32											
	N盛土	S-68	F	N4	縄文後期				0.18											
109	N盛土	S-69	F	N3	縄文後期			0.24												
		S-78	F	Va層	縄文後期		0.03													
	N盛土	U-74	F	N10	縄文後期				0.01											
	N盛土	U-77	F	N8	縄文後期			0.06					0.03							
	N盛土	U-77	F	N10	縄文後期			0.34												
	N盛土	U-78	F	N10	縄文後期			0.86												
	N盛土	U-79	F	N10	縄文後期		0.09	0.04												
	N盛土	V-73	F	N10	縄文後期				0.39											
	N盛土	V-74	F	N8	縄文後期				0.05											
	N盛土	V-74	F	N10	縄文後期				0.02											
	110	N盛土	V-75	F	N10	縄文後期		0.12												
		N盛土	V-76	F	N8	縄文後期				0.04										
N盛土		V-77	F	N10	縄文後期				0.06											
N盛土		V-78	F	N8	縄文後期				0.03											
N盛土		V-78	F	N10	縄文後期			0.05	0.09											
N盛土		W-72	F	N10	縄文後期		0.04													
111		N盛土	W-73	F	N8	縄文後期	0.24	0.2	0.05											
112		N盛土	W-73	F	N10	縄文後期	1.69	0.44	0.06											
			W-74	F	Ⅲ層	?		0.1	0.07											
		N盛土	W-74	F	N8	縄文後期		0.1	0.03					0.03						
	N盛土	W-74	F	N10	縄文後期			0.37												
	N盛土	W-75	F	N10	縄文後期				0.04											
	N盛土	W-78	F	N10	縄文後期		0.08													
113	N盛土	X-72	F	N8	縄文後期			0.07												
	N盛土	X-72	F	N10	縄文後期		0.74	0.51	0.16											
	N盛土	X-73	F	N8	縄文後期		1.53	0.66	0.29											
114	N盛土	X-73	F	N10	縄文後期		0.68													
	N盛土	X-74	F	N8	縄文後期		0.32													
	N盛土	X-75	F	N8	縄文後期		0.07													
115	N盛土	X-75	F	N10	縄文後期		0.19	0.06												
116	N盛土	X-76	F	N10	縄文後期		0.38													
117	N盛土	Y-71	F	N8	縄文後期			0.03												
118	N盛土	Y-72	F	N8	縄文後期		0.09													
	N盛土	Y-73	F	N10	縄文後期		0.17		0.09											
	N盛土	Y-74	F	N8	縄文後期		0.08													
	N盛土	Y-75	F	N8	縄文後期		0.22		0.12											
119	N盛土	Z-72	F	N10	縄文後期		0.86	0.21												
	N盛土	Z-73	F	N8	縄文後期		0.23	0.04												
	N盛土	Z-73	F	N10	縄文後期		0.3		0.07											
	N盛土	Z-74	F	N8	縄文後期		0.25													
	N盛土	Z-74	F	N10	縄文後期		0.03													
	N盛土	Z-75	F	N10	縄文後期		0.04													
120	P-1168	M-78	G	墓 覆土	縄文後期	0.09														
	P-1168		G	墓 覆土	縄文後期	0.3														
121	F-741	M-94	G	焼土(N14)	縄文後期										22	2			28	
	F-755	M-75	G	焼土(N5)	縄文後期				1.74											
	集石2	M-76	G	N33	縄文後期				0.13											
		E-63	G	I層・攪乱	?	0.37														
	N盛土	J-74	G	N37	縄文後期				0.21											
122	N盛土	J-75	G	N4	縄文後期		0.1	0.12	0.21											
	N盛土	J-77	G	N26	縄文後期			0.11	0.31											
		J-78	G	Ⅲ層	?				1.99											
	N盛土	J-78	G	N26	縄文後期			0.97	1.12											
123	N盛土	J-79	G	N26	縄文後期		0.09	0.11	0.48	0.02										
124	N盛土	K-71	G	N4	縄文後期	0.39			0.03											
	N盛土	K-73	G	N37	縄文後期				0.23											
	N盛土	K-74	G	N37	縄文後期				0.05											
	N盛土	K-75	G	N4	縄文後期			0.51	0.49											
	N盛土	K-75	G	N5	縄文後期		0.22	0.36	0.15											
	N盛土	K-75	G	N14	縄文後期	0.13														
	N盛土	K-75	G	N34	縄文後期			0.11	0.17											
	N盛土	K-75	G	N35	縄文後期		0.46	0.43	0.6		0.06									
	125	N盛土	K-76	G	N5	縄文後期		0.8	1.24	0.61										
126	N盛土	K-76	G	N14	縄文後期	0.06														

H9
H10

H10種子

NO.	遺構名	調査区	地区	層位	時期	ユリ科 (g)	クリ属 (g)	コナラ属 (g)	クマシ属 (g)	ヒシ属 (g)	キハダ属 (g)	モクレン属 (g)	不明堅果 (g)	ヒエ属 (粒)	キク科 (粒)	タデ科 (粒)	ブドウ科 (粒)	不明1 (粒)	不明2 (粒)	
127	N盛土	K-76	G	N26	縄文後期	0.04	0.37	0.28	0.15											
	N盛土	K-76	G	N34	縄文後期			0.14												
	N盛土	K-76	G	N35	縄文後期				0.18											
	N盛土	K-77	G	N26	縄文後期		0.83	0.24	2.32											
128	N盛土	K-77	G	N34	縄文後期				0.05				0.02							
	N盛土	K-78	G	N26	縄文後期		2.05	0.81	10.4	0.02										
	N盛土	K-78	G	N34	縄文後期		0.26		0.22											
		K-79	G	VI層	?				0.04											
	N盛土	K-79	G	N4	縄文後期	0.07	0.04		0.3											
	N盛土	K-79	G	N26	縄文後期	0.1	1.47		3.44											
	N盛土	K-79	G	N34	縄文後期				0.06											
	N盛土	L-71	G	N4	縄文後期	0.07		0.17	0.29					0.17						
	N盛土	L-72	G	N4	縄文後期	0.15	0.93	0.42	1.7					0.14						
	129	N盛土	L-73	G	N4	縄文後期	0.12	0.14	0.16	0.3										
N盛土		L-73	G	N36	縄文後期			0.38	0.1											
N盛土		L-74	G	N14	縄文後期			1.12	0.87											
N盛土		L-74	G	N34	縄文後期			0.08												
N盛土		L-74	G	N35	縄文後期		0.41	0.36	0.01											
N盛土		L-74	G	N36	縄文後期		2.82	66.77	6.62											
		L-74	G	I層・攪乱	?				3.07											
N盛土		L-75	G	N4	縄文後期				0.15											
N盛土		L-75	G	N5	縄文後期		1.38	0.79	1.16					0.16						
N盛土		L-75	G	N14	縄文後期	0.17		0.04	3.73											
N盛土		L-75	G	N33	縄文後期		0.23	0.92	6.92											
N盛土		L-75	G	N34	縄文後期			0.15	0.05											
N盛土		L-75	G	N35	縄文後期		6.01	2.62	1.65											
130		N盛土	L-75	G	N36	縄文後期		1.54	5	1.97				2.05						
131		N盛土	L-76	G	N5	縄文後期		4.28	2.75	1.37										
		N盛土	L-76	G	N14	縄文後期			2.04	0.37										
	N盛土	L-76	G	N26	縄文後期		0.15	0.31	0.13				0.03							
	N盛土	L-76	G	N33	縄文後期		0.72	0.81	0.46											
	N盛土	L-76	G	N34	縄文後期			0.04												
	N盛土	L-76	G	N35	縄文後期			0.09	0.04											
	N盛土	L-77	G	N5	縄文後期		0.37	0.11	0.16											
	N盛土	L-77	G	N14	縄文後期			0.04	0.07											
	N盛土	L-77	G	N26	縄文後期		0.19		1.42					0.13						
	N盛土	L-77	G	N33	縄文後期			2.59												
	N盛土	L-77	G	N34	縄文後期			0.07	0.06											
	N盛土	L-78	G	N14	縄文後期	0.03														
	N盛土	L-78	G	N26	縄文後期		0.37	0.33	2.34											
	N盛土	L-78	G	N34	縄文後期				0.09											
	N盛土	L-79	G	N26	縄文後期	0.1	0.1	0.07	2.69											
	132	N盛土	L-80	G	N26	縄文後期		4.44	0.2	0.19				0.11						
N盛土		L-81	G	N26	縄文後期				0.09											
N盛土		M-69	G	N4	縄文後期				0.25											
		M-70	G	I層・攪乱	?				0.14											
133	N盛土	M-70	G	N4	縄文後期	0.09			0.65											
	N盛土	M-71	G	N4	縄文後期		0.08	0.42	1.2				0.61							
134	N盛土	M-72	G	N4	縄文後期	0.38		0.44	3.57											
	N盛土	M-73	G	N4	縄文後期			0.56	0.17											
	N盛土	M-73	G	N36	縄文後期		0.28	0.75	0.35				0.42							
	N盛土	M-74	G	N4	縄文後期		0.21	0.19												
135	N盛土	M-74	G	N14	縄文後期	1.14	0.12	0.91	0.8											
	N盛土	M-74	G	N36	縄文後期	0.09	16.6	38.6	4.53											
	N盛土	M-75	G	N5	縄文後期		0.68	2.07	0.29											
	N盛土	M-75	G	N14	縄文後期	0.34		0.61	14.07											
	N盛土	M-75	G	N33	縄文後期		0.29	12.62	0.39											
	N盛土	M-75	G	N35	縄文後期		0.15	2.91	1.31											
	N盛土	M-75	G	N36	縄文後期		2.03	9.61	2.23											
		M-76	G	I層・攪乱	?			0.09												
	N盛土	M-76	G	N5	縄文後期		3.28	15.93	0.57											
	N盛土	M-76	G	N14	縄文後期	0.15	0.12	0.2	1.28				1.34							
136	N盛土	M-76	G	N33	縄文後期			8.61	0.7											
	N盛土	M-77	G	N4	縄文後期			0.43	0.25											
	N盛土	M-77	G	N5	縄文後期		0.41	12.5	0.5											
	N盛土	M-77	G	N13	縄文後期		0.79	7.75	1.33											
	N盛土	M-77	G	N14	縄文後期		0.23	1.19	1.45											
	N盛土	M-77	G	N33	縄文後期		0.26	11.6	2.5											
	N盛土	M-77	G	N34	縄文後期				0.04											
	N盛土	M-78	G	N5	縄文後期		0.24	3.17	0.15											
	N盛土	M-78	G	N13	縄文後期			0.13	0.15											
	N盛土	M-78	G	N14	縄文後期			0.06	0.98											
	N盛土	M-78	G	N26	縄文後期		0.68	1.8	2.42											
	N盛土	M-78	G	N34	縄文後期			0.21	0.17											
	N盛土	M-79	G	N13	縄文後期		0.05	0.09	0.11											
	137	N盛土	M-79	G	N26	縄文後期	0.18		0.48	1.06				0.11						
		N盛土	M-79	G	N34	縄文後期	0.06		0.1											
		N盛土	M-80	G	N13	縄文後期		0.09	0.09	0.08										
N盛土		M-80	G	N26	縄文後期		0.36		1.08											
N盛土		M-80	G	N34	縄文後期				0.03											
N盛土		M-81	G	N13	縄文後期			0.66	0.63											

H10種子

NO.	遺構名	調査区	地区	層位	時期	ユリ科 (g)	クリ属 (g)	コナラ属 (g)	クルミ属 (g)	ヒシ属 (g)	キハダ属 (g)	モクレン属 (g)	不明堅果 (g)	ヒエ属 (粒)	キク科 (粒)	タデ科 (粒)	ブドウ科 (粒)	不明1 (粒)	不明2 (粒)	
	N盛土	M-81	G	N26	縄文後期			0.37												
	N盛土	N-67	G	N4	縄文後期								0.15							
	N盛土	N-68	G	N4	縄文後期			0.12	0.1											
	N盛土	N-69	G	N4	縄文後期	0.27		1.44	3.82											
138	N盛土	N-70	G	N4	縄文後期	0.12		1.72	2.6				0.11							
	N盛土	N-71	G	N4	縄文後期	0.14		0.49	0.89											
139	N盛土	N-72	G	Vb層	?	0.11														
	N盛土	N-72	G	N4	縄文後期	0.15		0.75	0.53											
	N盛土	N-73	G	N4	縄文後期		0.05		0.11											
	N盛土	N-73	G	N14	縄文後期		0.19	0.14	0.43											
	N盛土	N-73	G	N36	縄文後期		0.66	0.96	0.47											
	N盛土	N-74	G	N4	縄文後期			0.51	0.29											
	N盛土	N-74	G	N13	縄文後期				1.13	0.32										
	N盛土	N-74	G	N14	縄文後期	0.67	0.11	1.13	0.92											
140	N盛土	N-74	G	N36	縄文後期		0.57	1.58	0.61											
	N盛土	N-75	G	N13	縄文後期			0.58	2.68											
	N盛土	N-75	G	N14	縄文後期	0.21	0.07	11.37	0.86											
	N盛土	N-75	G	N33	縄文後期		0.43	0.39	0.53											
	N盛土	N-75	G	N35	縄文後期		0.23	0.5	2.78											
	N盛土	N-75	G	N36	縄文後期		0.05	0.79	2.42											
	N盛土	N-76	G	I層・攪乱	?				0.46											
	N盛土	N-76	G	N5	縄文後期		1.16	7.31	2.73											
	N盛土	N-76	G	N13	縄文後期		0.75	9.05	8.65					0.14						
	N盛土	N-76	G	N14	縄文後期	0.63	0.27	0.45	2.55					0.73						
	141	N盛土	N-76	G	N33	縄文後期			3.03	1.17										
N盛土		N-76	G	N35	縄文後期		0.26	0.6	0.42											
N盛土		N-77	G	N5	縄文後期		2.26	7.89	1.39											
N盛土		N-77	G	N13	縄文後期			0.85	0.53											
N盛土		N-77	G	N14	縄文後期			0.33	0.61											
N盛土		N-77	G	N33	縄文後期			3.53												
N盛土		N-78	G	N5	縄文後期		2.2	21.15	0.42											
N盛土		N-78	G	N13	縄文後期	0.11		1.13	0.56											
142	N盛土	N-78	G	N14	縄文後期	0.06		0.04	0.33				0.04							
	N盛土	N-78	G	N34	縄文後期			1.04	0.12											
143	N盛土	N-79	G	N5	縄文後期		0.54	2.99	0.1											
144	N盛土	N-79	G	N13	縄文後期	0.47	0.19	0.21	2.09				0.09							
145	N盛土	N-80	G	N5	縄文後期		0.8	1.51	0.63	0.02										
	N盛土	N-80	G	N13	縄文後期	0.34	0.12	0.21	5.02				0.02							
	N盛土	N-80	G	N26	縄文後期				0.08											
	N盛土	N-81	G	N13	縄文後期	0.14			0.13											
	N盛土	N-81	G	N26	縄文後期		0.2		0.28											
	N盛土	N-81	G	N31	縄文後期	0.08		0.05												
	N盛土	O-65	G	N2	縄文後期				0.13											
	N盛土	O-67	G	N4	縄文後期				0.2				0.03							
	N盛土	O-68	G	N4	縄文後期				0.06											
	N盛土	O-69	G	N4	縄文後期	0.17		0.06	0.42											
	N盛土	O-70	G	N4	縄文後期	0.06	0.31	0.14	0.22											
N盛土	O-71	G	N4	縄文後期	0.08	0.08	0.29	0.22												
N盛土	O-72	G	N4	縄文後期	0.06	0.08	0.16													
146	N盛土	O-73	G	N13	縄文後期	0.1														
	N盛土	O-73	G	N14	縄文後期	0.18	0.17	0.25	0.24											
	N盛土	O-74	G	N15	縄文後期			0.19	1.58											
	N盛土	O-74	G	N14	縄文後期			0.97	0.6											
	N盛土	O-75	G	N13	縄文後期			6.02	2.18											
147	N盛土	O-75	G	N14	縄文後期	0.67	0.26	8.44	0.29											
	N盛土	O-75	G	N35	縄文後期			0.72	0.23											
	N盛土	O-76	G	N5	縄文後期		0.17	0.36	0.06											
	N盛土	O-76	G	N13	縄文後期			1.23	0.69											
	N盛土	O-76	G	N14	縄文後期			0.12	1.35											
	N盛土	O-76	G	N33	縄文後期				0.53											
	N盛土	O-76	G	べルト	縄文後期			0.12												
	N盛土	O-77	G	N5	縄文後期		1.1	2.19	1.21											
148	N盛土	O-77	G	N13	縄文後期		4.86	8.17	1.98											
	N盛土	O-77	G	N14	縄文後期		0.05	0.17	0.67				0.28							
	N盛土	O-77	G	N33	縄文後期		1.92	4.87	1.86				0.06							
	N盛土	O-78	G	N5	縄文後期		0.05	14.76	1.45											
149	N盛土	O-78	G	N13	縄文後期	0.03	1.13	1.14	1.1			0.05								
150	N盛土	O-79	G	N5	縄文後期		0.15	1.6	0.57											
	N盛土	O-79	G	N13	縄文後期			0.06	0.72											
	N盛土	O-80	G	N5	縄文後期		0.87	0.71	0.22											
	N盛土	O-80	G	N13	縄文後期	0.1		0.17	1.62											
	N盛土	O-81	G	N13	縄文後期				0.2											
	N盛土	O-81	G	N31	縄文後期	0.12														
	g-153	G	VI層	?				0.12												
	h-136	G	III層	?				2.2												
	排土	G		?			0.39	0.09												

22 45 104 38 397 51 190 82 0.06 0.06 0.08 10.61 3 976 87 1 64 212

表2 コナラ属子葉計測
キウス4遺跡

No.	L(mm)	W(mm)	資料NO・調査区名		図版番号
1	11.34	10.12	NO.108	S67 N3	
2	14.18	13.19	NO.108	S68 N3	
3	11.87	10.56	NO.112	X72 N10	図版1-8
4	15.14	10.14	NO.129-①	L75 N35	図版2-18
5	14.08	11.63	NO.129-②	L75 N35	
6	14.38	9.92	NO.129-①	L74 N36	図版2-17
7	14.93	12.82	NO.129-②	L74 N36	図版1-11
8	14.43	10.46	NO.129-③	L74 N36	図版2-14
9	15.02	10.87	NO.129-④	L74 N36	図版2-15
10	13.36	9.94	NO.129-⑤	L74 N36	
11	13.71	10.98	NO.129-⑥	L74 N36	
12	13.01	10.48	NO.129-⑦	L74 N36	図版1-10
13	12.05	10.16	NO.129-⑧	L74 N36	
14	11.26	11.47	NO.129-⑨	L74 N36	図版1-5
15	16.93	8.97	NO.133	M71 N4	図版2-19
16	9.19	9.13	NO.134	M73 N36	図版1-3
17	15.82	10.77	NO.135-①	M74 N36	
18	14.72	8.64	NO.135-②	M74 N36	
19	15.2	10.46	NO.135-③	M74 N36	
20	13.39	10.44	NO.135-④	M74 N36	
21	12.06	12.32	NO.136-①	M77 N13	
22	11.51	10.97	NO.136-②	M77 N13	図版1-7
23	13.36	12.06	NO.136-③	M77 N13	
24	11.37	12.18	NO.136-①	M77 N33	図版1-9
25	13.02	10.04	NO.136-②	M77 N33	
26	11.95	11.06	NO.136	M77 N5	
27	12.89	10.96	NO.140-①	M74 N14	
28	15.42	8.5	NO.140-②	M74 N14	
29	12.14	9.02	NO.140-③	M74 N14	
30	12.93	9.46	NO.140-④	M74 N14	
31	13.35	9.33	NO.141-①	N78 N5	
32	14.52	11.8	NO.141-②	N78 N5	
33	15.84	10.99	NO.141-③	N78 N5	
34	13.92	9.73	NO.141-④	N78 N5	
35	13.96	10.41	NO.141-⑤	N78 N5	
36	14.46	11.57	NO.141-⑥	N78 N5	
37	13.54	10.53	NO.141-①	N77 N5	図版2-13
38	11.44	10.16	NO.141-②	N77 N5	
39	11.69	8.45	NO.141-③	N77 N5	
40	15.84	9.78	NO.146-①	O75 N13	
41	11.18	10.09	NO.146-②	O75 N13	図版1-6
42	9.68	8.48	NO.146-③	O75 N13	図版1-4
43	11.55	8.16	NO.146	O74 N14	
44	14.48	9.01	NO.147-①	O75 N14	
45	12.76	9.13	NO.147-②	O75 N14	図版2-12
46	8.63	7.16	NO.147-③	O75 N14	図版1-1
47	9.62	8.03	NO.147-④	O75 N14	図版1-2
48	15.38	10.76	NO.148-①	O77 N13	図版2-16
49	13.75	9.82	NO.148-②	O77 N13	
50	14.76	10.43	NO.148	O78 N5	
平均	13.22	10.23			
分散	3.4	1.57			
標準偏差	1.86	1.27			

表3 クリ属子葉計測

キウス4遺跡

No.	L(mm)	W(mm)	資料NO・調査区名		図版番号
1	14.15	12.03	NO .108	S67 ,N 3	図版 3 - 25
2	12.97	13.14	NO .129 - ①	L74 ,N36	図版 3 - 24
3	10.16	8.36	NO .129 - ②	L74 ,N36	図版 3 - 20
4	11.12	14.72	NO .128 - ①	K79 ,N26	図版 3 - 27
5	10.29	10.61	NO .128 - ②	K79 ,N26	図版 3 - 21
6	13.54	14.27	NO .141	K78 ,N 5	図版 3 - 26
7	12.38	13.57	NO .148 - ①	O77 ,N13	図版 3 - 22
8	12.05	11.62	NO .148 - ②	O77 ,N13	
9	11.54	12.81	NO .150	O80 ,N 5	図版 3 - 23
平均	12.02	12.35			
分散	1.71	3.47			
標準偏差	1.39	1.98			

図版 1 出土コナラ属子葉



1. (計測資料 No 46 - ③)



2. (No 47 - ④)



3. (No .16)



4. (No 42 - ③)



5. (No .14 - ⑨)



6. (No 41 - ②)



7. (No 22 - ②)



8. (No 3)



9. (No 24 - ①)



10. (No .12 - ⑦)



11. (No 7 - ②)



12 . (No 45 - ②)



13 . (No 37 - ①)



14 . (No 8 - ③)



15 . (No 9 - ④)



16 . (No 48 - ①)



17 . (No 6 - ①)

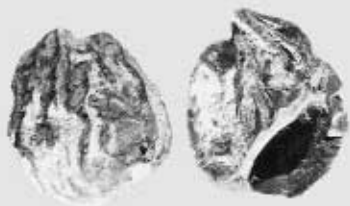


18 . (No 4 - ①)



19 . (No .15)

図版3 出土クリ属子葉



20.(計測資料No 3)



26.(No 6)



21.(No 5)



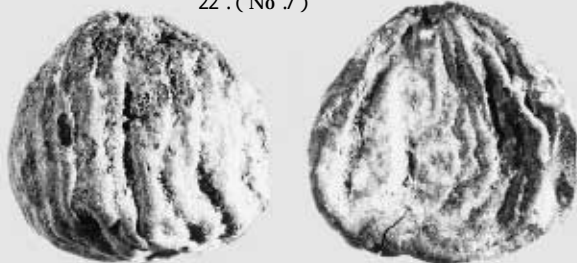
27.(No 4)



22.(No 7)



24.(No 2)



23.(No 9)



25.(No 1)



28 ユリ科



29 ユリ科



30 ユリ科



31 ユリ科



32 ユリ科



33 .ブドウ科



34 .キハダ属果实



35 .ヒシ属



36 .ヒシ属



37 .ヒシ属

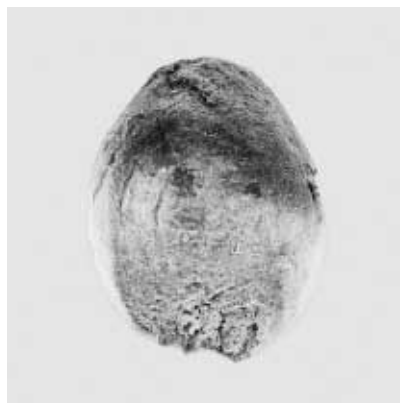


38 .モクレン属



39 .クルミ属

図版 5



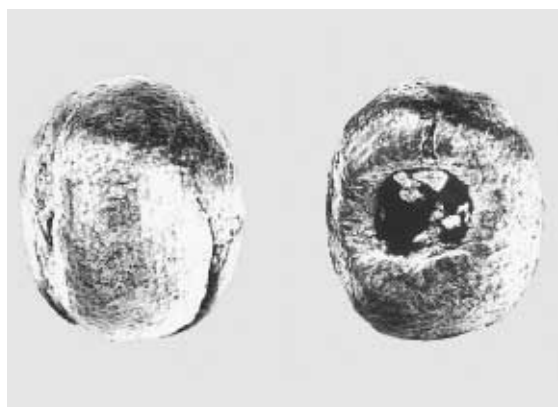
40 .ヒ工属



41 .キク科



42 .タデ属



43 不明

4 千歳市キウス4遺跡 D・F・G 地区出土動物遺存体

高橋 理 / 千歳サケのふるさと館
太子夕佳 / 札幌国際大学大学院

遺跡と調査の概要

- 遺跡の名称 : キウス4遺跡 D・F・G 地区 (A-03-92)
遺跡の所在 : 北海道千歳市中央1190-3 ほか
調査の機関 : 財団法人北海道埋蔵文化財センター
調査担当者 : 高橋和樹ほか
調査期間 : 平成9年(1997年)5月6日~10月28日
平成10年(1998年)5月6日~10月28日
遺跡の立地 : 千歳市の北東約8km, 馬追丘陵の西側に広がる緩斜面の標高4~19mに位置している。この緩斜面は、キウス川によって浸食縦断され、その末端はオリイカ川に接している。
遺跡の年代・検出遺構 :

- D地区; 縄文時代後期後葉の周堤墓、直線状盛土、道跡、土壌、焼土跡が検出された。
F地区; 盛土遺構、焼土群、貯蔵穴、墓壇、柱穴、小ピットが検出されている。縄文時代早期から晩期にわたる遺物が検出されたが、縄文時代後期後葉の堂林式に相当するものが最も多い。
G地区; 縄文時代後期後葉の堂林式土器の時期に相当するものが主体の盛土遺構、焼土、墓壇、柱穴、竪穴状遺構が検出されている。

はじめに

千歳市北部に所在するキウス遺跡群は、北海道高速横断道路およびそれに付帯する建設工事とともに事前調査としてここ数年にわたって広域な調査が行われてきた。

平成9年および10年にはキウス4遺跡のD・F・G地区の調査が行われ、縄文時代後期の焼土遺構、土壌覆土等より多量の動物遺存体が検出された。これらの動物遺存体はフロテーションプロセスや水洗選別によって回収されたものである。遺跡分析の機会を与えられた第2調査課高橋和樹氏およびスタッフの方々に心より御礼申し上げます。

動物遺存体

出土・回収された動物遺存体はつぎのとおりである。また各遺構、包含層の出土状況は表1 (PP 486-501) を参照されたい。

軟骨魚綱 Chondrichthyes

ネズミザメ科 Lamnidae

ホホジロザメ *Carcharodon carcharias*

硬骨魚綱 Osteichthyes

サケ科 Salmonidae

コイ科 Cyprinidae

ウグイ属 *Triborodon* sp.

鳥綱 Aves

哺乳綱 Mammalia

イヌ科 Canidae

クマ科 Ursidae

ヒグマ *Ursus arctos*

シカ科 Cervidae

ニホンジカ *Cervus nippon*

イノシシ科 Suidae

イノシシ *Sus scrofa leucomystax*

海棲哺乳類 Marine Mammal

これらの動物遺存体はすべて火を強く受けており、白色化・細片化・変形・収縮が著しい。同定にいたらなかった遺存体が少なくないが、ニホンジカが多数をしめていることから、それらの多くもニホンジカ遺存体に帰属する可能性は高い。またイノシシは哺乳類ではニホンジカにつぐ出土数であった。これらイノシシ遺存体は大型の成獣に帰属するものが少なくない。

魚類ではサケが最も多かったが、椎骨に比較して歯の出土が際だって少ない。キウス4遺跡出土のサケ遺存体については、以前の調査においても遺構間や出土部位・量に偏在が認められたことがあり、その解釈を試みたことがあった。しかし今回の遺物については、サンプリング土壌の処理方法によって遺構間のデータ比較ができない可能性が生じている。出土種子の分析においてもこの指摘がなされている（吉崎・椿坂 2001、pp 465 - 468）。これについては後述する。

考察

平成9・10年度のキウス4遺跡D・F・G地区の調査によって、縄文時代後期の多くの動物遺存体が検出された。それらの多くがニホンジカ *Cervus nippon*、ヒグマ *Ursus arctos*、イノシシ *Sus scrofa leucomystax*、を主体とする哺乳類という結果が得られた。特に北盛土遺構を形成する土壌では、膨大なサンプリング量にもかかわらず哺乳類のみが出土した。これに対して焼土遺構からは、哺乳類に混じって細かいサケ科魚類の遺存体が少なからずみついている。またそのすべてが椎骨であり、出土部位に著しい偏りを看することができる。やや保存状態がよい椎骨片から判断して、サケ科魚類の多くはサケ属 *Oncorhynchus* のサケ（シロザケ） *Oncorhynchus keta* あるいはサクラマス *Oncorhynchus masou masou* であつたらしい（以後「サケ」と表記する）。

既述したように、サケの出土が椎骨に偏る場合のあることは以前の分析において指摘してきたところであり（高橋・太子 1998、高橋 1999、高橋 2000など）、その背景にこの魚種に対する保存処理の存在や、ヒエ属 *Echinochloa* 種子の出土状況も考慮して、その目的としての儀礼を推定したことがあった。少なくとも焼土遺構内において、今回も出土部位が椎骨（および鱗）に大きく偏っており、焼土遺構が既に保存処理されたサケを消費する場であった可能性をあらためて指摘することができる。また吉崎・椿坂の種子分析によれば、焼土遺構(105・161)よりヒエ属 *Echinochloa* 種子が3点出土しているという（吉崎・椿坂前出 pp 465 - 468）。この文脈からいえば、何らかの儀礼の結果として焼土が形成されたと推定することもできよう。

イノシシ *Sus scrofa leucomystax* は F・G 地区においてシカに次ぐ出土数を示した。かねてより、北海道の縄文遺跡のイノシシの出土例が増えていることや成獣がむしろ多いことを指摘してきた（高橋・太子前出、高橋前出）。しかし、イノシシが北海道において独自に個体群を維持し、さらに群サイズを大きくしていったことをトレースすることはできない。北海道の特に冬季における自然環境がそれを許容しなかったことが第一の要因であろう。したがって、

1. イノシシは需要に応じてその都度本州地域から搬入されていた。
2. イノシシは何らかの形でヒトの「庇護」下であり、その「消費」が達成されるまでの時間は、(ごく短い) 複数世代にわたった。

という二つの仮説を設定することができる。

筆者らはこれまで島嶼から出土する縄文イノシシのデータ収集を行ってきた。正式報告はこれからであるが、例えば伊豆諸島のイノシシは明らかに本州のニホンイノシシの系統であるにもかかわらず、形態に著しい小型化を指摘することができた（山崎・遠藤・高橋・菅原2000）。そのメカニズムの詳細は明らかでないが、「島嶼隔離効果」のストレスが「島嶼化」という形態の小型化を生み出すことが知られている。しかし、北海道の縄文イノシシには現在までのところ小型化を認めることができず、本州地域の同期のイノシシとのあいだにサイズの違いが見いだせない。この事実は、北海道においては小型化が現象する前の段階で（=ごく短い複数世代にわたって）イノシシが消費されていたことを示すものかもしれない。

一方で縄文イノシシは、道南から噴火湾沿岸、石狩低地帯中南部、上川・空知・日高・十勝・釧路という広汎な地域の遺跡より見つかっており、その事実を第一仮説だけで説明することも困難である。したがって現段階では第二仮説を考えておきたい。

ところで、最近まで北海道へのイノシシの移入がはじまったのは縄文時代後期前半とされてきた。筆者がイノシシを実見してきた遺跡も後期前半から晩期末であった。しかし、平成12年に調査された白老町虎杖浜2遺跡において、縄文時代前期円筒下層 a 式期を主体とする時期の盛土遺構や焼土遺構よりイノシシが出土していたことがわかった（高橋・太子 2001『白老町虎杖浜2遺跡』in press）。これによって、北海道へのイノシシの移入の開始は、従来考えられてきた時期を大幅にさかのぼることとなった。今後その要因や対象地域などを究明していかなくてはならないだろう。

若干の提言

サンプルの処理方法の違いが、遺物データにどのように影響するのかについて若干提言したい。

土壌サンプルの処理プロセスをみると、焼土サンプルについてはフローテーション作業による 0.42mm メッシュを使用した遺物回収を行っている一方、盛土を形成する土壌サンプルについては 5mm メッシュによる水洗選別のみを行っていたことがわかった。既述したように、サケは盛土遺構からはまったくみつからず、焼土遺構のみから出土していた。少なくとも筆者が分析を依頼された資料についてはそのように判断された。しかし、サケの破損した微細な骨片は長さや直径が 2～3mm のサイズがほとんどであり、5mm のメッシュサイズによる水洗選別では、それらのほとんどが流失してしまった可能性が否定できない。

問題点はサケが本来盛土にあったのか、なかったのかの判断が不可能となってしまったことである。かつて分析した盛土にはサケが含まれていたケースと含まれていないケースの双方があり、それぞれにその意味を考えることができた。遺跡・遺構のより正確な解釈に近づくためには、作業段階の人為的なバイアスは可能な限り排除されなければならない。時間と労力には限界があるが、省

力化・効率化の優先がデータの解釈に大きな誤謬をもたらす危険性を内包することを強く認識しなければならない。

引用文献

高橋 理・太子夕佳 (1988)「千歳市キウス4遺跡出土動物遺存体」
『千歳市 キウス4遺跡(2)』 pp 345 - 356

高橋 理 (1999)「千歳市キウス4遺跡 A・H・K 地区出土動物遺存体」
『千歳市キウス4遺跡(3)』 pp 505 - 513

高橋 理 (2000)「千歳市キウス4遺跡 R 地区出土動物遺存体」
『千歳市キウス4遺跡(6)』 pp 349 - 352

高橋 理・太子夕佳 (2001)「白老町虎杖浜2遺跡出土動物遺存体」
『白老町虎杖浜2遺跡』(in press)

山崎京美・遠藤秀紀・高橋 理・菅原弘樹 (2000)
『伊豆諸島出土縄文イノシシの特徴』
第54回 日本人類学会抄録集 p 33

吉崎昌一・椿坂恭代 (2001)「北海道キウス4遺跡(D・F・G地区)から出土した縄文時代の炭化植物種子」『千歳市キウス4遺跡(8)』 pp 465 - 480

付記

今回の分析にともなって掲載した動物遺存体写真の現像については、北海道大学埋蔵文化財調査室の椿坂恭代氏より暗室提供などの便宜をはかっていただいた。ここに記して心より御礼申し上げます。

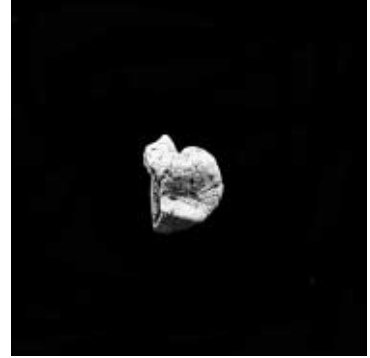
図版1 キウス4遺跡D・F・G地区出土動物遺存体



1 サケ科魚類 椎骨(破片)



2 ニホンジカ 第1手根骨



3 ニホンジカ 果骨



4 ニホンジカ
第2 or 5 指趾 末節骨



5 ヒグマ 中節骨



6 ヒグマ 末節骨



7 イノシシ 上腕骨



8 イノシシ 尺側手根骨



9 イノシシ
第2 or 5 中手・中足骨



10 イノシシ 距骨



骨針

キウス4遺跡D・F・G地区出土動物遺存体(平成9年度調査)

No.	遺構名	調査区名	層位	動物遺存体						
				種名	部位	出土部位	数量	重量	備考	
1	X 10	N 113	Vb層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	18	0.71	被熱	
				不明	部位不明	fr.		0.58	被熱	
2	P 804	P 66	覆土	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	0.47	被熱	
				不明	部位不明	fr.		0.01	被熱	
3	P 992	R 69	覆土	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.28	被熱	
				不明	部位不明	fr.		0.02	被熱	
4	F 1	R 69	覆土1層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	25	0.67	被熱	
				サケ科 Salmonidae non det.	椎骨	fr.	4	0.01	被熱	
			覆土2層	サケ科 Salmonidae non det.	鱭棘 他	fr.	3	0.02	被熱	
				サケ科 Salmonidae non det.	椎骨	fr.	87	0.45	被熱	
			覆土3層	サケ科 Salmonidae non det.	鱭棘 他	fr.	17	0.08	被熱	
				サケ科 Salmonidae non det.	鱭棘 他	fr.	270	0.08	被熱	
				魚綱 Osteichthyes ? spp.	部位不明	fr.	2	0.01 >	被熱	
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	155	3.87	被熱	
				小型哺乳綱 Mammalia sp.	橈骨?	fr.	1	0.01	被熱なし	
				哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.04	被熱	
			不明 sp.	部位不明	fr.	1	0.01	被熱		
5	F 2	R 69	覆土1層	サケ科 Salmonidae spp.	椎骨	fr.	2	0.01 >	被熱	
				小型イヌ科 Canidae sp.	下顎骨歯槽部	fr.	1	0.14	被熱	
				哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.02	被熱	
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	7	0.13	被熱	
				不明 non det.	部位不明	fr.	3	0.03	被熱	
6	F 8	Q 68	焼土	哺乳綱 Mammalia ? sp.	部位不明	fr.	1	0.01	被熱	
7	F 12	R 68	焼土	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	0.12	被熱	
8	F 60	S 65	焼土	サケ科 Salmonidae non det.	椎骨	fr.	5	0.01 >	被熱	
				サケ科 Salmonidae non det.	椎骨	fr.	5	0.01 >	被熱	
				魚綱 Osteichthyes non det.	鱭棘?	fr.	2	0.01 >	被熱	
				魚綱 Osteichthyes non det.	部位不明	fr.	5	0.02	被熱	
				不明 non det.	部位不明	fr.	10	0.07	被熱	
9	F 62	S 66	焼土	サケ科 Salmonidae sp.	椎骨	fr.	1	0.01 >	被熱	
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	0.05	被熱	
10	F 70	S 65	焼土	哺乳綱 Mammalia ? sp.	部位不明	fr.	1	0.02	被熱	
11	F 78	R 67	焼土	サケ科 Salmonidae sp.	椎骨	fr.	2	0.01	被熱	
				不明 spp.	部位不明	fr.	2	0.01	被熱	
12	F 79	R 67	焼土	サケ科 Salmonidae sp.	椎骨	fr.	1	0.01 >	被熱	
				不明 spp.	部位不明	fr.	2	0.01 >	被熱	
13	F 81	R 67	Vb層	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.09	被熱	
14	F 81	R 67	焼土	サケ科 Salmonidae non det.	椎骨	fr.	6	0.02	被熱	
				魚綱 Osteichthyes sp.	椎骨?	fr.	1	0.01 >	被熱	
				魚綱 Osteichthyes spp.	椎骨	fr.	2	0.01 >	被熱	
				魚綱 Osteichthyes spp.	部位不明	fr.	2	0.01	被熱	
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	24	0.61	被熱	
15	F 83	R 67	Vb層	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.54	被熱	
16	F 83	R 67	焼土	サケ科 Salmonidae non det.	椎骨	fr.	10	0.01	被熱	
				哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.02	被熱	
				不明 non det.	部位不明	fr.	6	0.02	被熱	
17	F 84	R 67	焼土	サケ科 Salmonidae non det.	椎骨	fr.	16	0.05	被熱	

No.	遺構名	調査区名	層位	動物遺存体					
				種名	部位	出土部位	数量	重量	備考
18	F 88	R 68	焼土	魚綱 Osteichthyes sp.	部位不明	fr.	1	0.01 >	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	50	1.4	被熱
19	F 91	S 68	焼土	サケ科 Salmonidae non det.	椎骨	fr.	12	0.05	被熱
				サケ科 Salmonidae ? sp.	歯	fr.	1	0.01 >	被熱
20	F 98	S 67	焼土	不明 non det.	部位不明	fr.	23	0.17	被熱
				サケ科 Salmonidae sp.	椎骨	fr.	1	0.01 >	被熱
21	F 101	S 67	焼土	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.08	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.	1	0.15	被熱
22	F 102	S 67	焼土	サケ科 Salmonidae non det.	椎骨	fr.	4	0.01	被熱
				哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.11	被熱
23	F 105	S 66	Vb層	不明 non det.	部位不明	fr.	5	0.01	被熱
				サケ科 Salmonidae non det.	椎骨	fr.	3	0.01	被熱
24	F 105	S 66	焼土	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ?	末節骨 ?	遠位先端 ?	1	0.21	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	0.14	被熱
25	F 106	S 67	焼土	不明 non det.	部位不明	fr.	18	0.09	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	113	2.45	被熱
26	F 107	S 67	焼土	不明 non det.	部位不明	fr.	9	0.05	被熱
				サケ科 Salmonidae non det.	椎骨	fr.	10	0.03	被熱
27	F 108	S 67	焼土	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	8	1.64	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.	105	0.81	被熱
28	F 112	Q 68	焼土	サケ科 Salmonidae spp.	椎骨	fr.	2	0.01 >	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.	3	0.16	被熱
29	F 143	P 65	焼土	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	6	0.01	被熱
				イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	上腕骨 遠位滑車	fr.	2	0.01 >	被熱
30	F 177	P 71	焼土	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	1	5.87	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.	4	0.88	被熱
31	F 197	Q 69	焼土	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	2	0.05	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.	2	0.03	被熱
32	F 203	Q 69	焼土	サケ科 Salmonidae non det.	椎骨	fr.	4	0.01	被熱
				不明 sp.	部位不明	fr.	14	0.02	被熱
33	F 204	Q 69	焼土	サケ科 Salmonidae sp.	椎骨	fr.	1	0.01 >	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.	3	0.01	被熱
34	F 207	P 69	焼土	サケ科 Salmonidae sp.	椎骨	fr.	1	0.01 >	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.	4	0.01	被熱
35	F 212	Q 69	焼土	サケ科 Salmonidae non det.	椎骨	fr.	6	0.02	被熱
				コイ科 Cyprinidae sp.	第一頸椎	完形	1	0.01	被熱
36	F 244	R 67	焼土	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.03	被熱
				不明 sp.	部位不明	fr.	1	0.01 >	被熱
37	F 334	R 69	焼土	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	2	0.04	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.	3	0.32	被熱
38	F 371	P 84	焼土	サケ科 Salmonidae sp.	椎骨	fr.	1	0.01 >	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.	4	0.01	被熱
39	F 409	R 69	焼土	サケ科 Salmonidae non det.	椎骨	fr.	1	0.01 >	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.	311	0.87	被熱

No.	遺構名	調査区名	層位	動物遺存体					
				種名	部位	出土部位	数量	重量	備考
				サケ科 Salmonidae non det.	部位不明	fr.	307	0.69	被熱
				哺乳綱 Mammalia sp.	中手 or 中足骨	近位端	1	0.08	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	311	9.83	被熱
40		J 81	V層	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.33	被熱 他に微細片
41	N 盛土	M 81	N27	哺乳綱 Mammalia ? spp.	部位不明	fr.	2	0.22	被熱
42	N 盛土	M 82	N26	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.45	被熱
43	N 盛土	N 81	N26	不明 spp.	部位不明	fr.	2	0.06	被熱
44	N 盛土	N 81	N26	哺乳綱 Mammalia ? sp.	部位不明	fr.	1	0.13	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.	16	0.41	被熱
45	N 盛土	N 81	N26	不明 non det.	部位不明	fr.	109	2.36	被熱
46	N 盛土	O 65	N 2	哺乳綱 Mammalia ? spp.	部位不明	fr.	3	0.48	被熱
47	N 盛土	O 66	N 2	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	11	1	被熱
48	N 盛土	O 67	N 1	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.21	被熱
49	N 盛土	O 68	N 1	不明 spp.	部位不明	fr.	2	0.07	被熱
50	N 盛土	O 68	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	5	0.56	被熱
51		O 68	トレンチ	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	5	1.89	被熱
52	N 盛土	O 69	N 4	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.24	被熱
53	N 盛土	O 69	N 4	不明 non det.	部位不明	fr.	8	0.26	被熱
54	N 盛土	O 70	N 4	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.53	被熱
				不明 spp.	部位不明	fr.	2	0.1	被熱
55	N 盛土	O 71	N14	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	1.07	被熱
				不明 spp.	部位不明	fr.	2	0.47	被熱
56	N 盛土	O 73	N13	不明 non det.	部位不明	fr.	7	0.14	被熱
57	N 盛土	O 73	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	6	1.24	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.	15	0.12	被熱
58	N 盛土	O 73	N14	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	5	0.84	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.	5	0.26	被熱
59	N 盛土	O 74	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	4	1.13	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.	16	1.35	被熱
60	N 盛土	O 74	N13	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.54	被熱
				不明 sp.	部位不明	fr.	1	0.57	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ?	中節骨? 遠位端	fr.	1	0.19	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.	8	1.38	被熱
61	N 盛土	O 74	N13	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i> ?	中節・末節骨? 近位端	fr.	1	0.57	被熱
				哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.43	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	52	11.49	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.		0.13	被熱
62	N 盛土	O 74	N14	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.44	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.	73	2.1	被熱
63		O 75	I層	不明 sp.	部位不明	fr.	1	0.02	被熱
64		O 75		イヌ科 Canidae ? sp.	膝蓋骨	ほぼ完形	1	0.28	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	69	7.52	被熱
65	N 盛土	O 75	N13	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	1.21	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	37	6.66	被熱
				不明 non det.	部位不明	fr.	1	0.07	被熱
66	N 盛土	O 75	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	69	9.07	被熱
67	N 盛土	O 75	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	1.16	被熱
				哺乳綱 Mammalia sp.	基節・中節骨 遠位端	fr.	1	0.89	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	7	1.1	被熱

No.	遺構名	調査区名	層位	動物遺存体					
				種名	部位	出土部位	数量	重量	備考
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	37	4.42	被熱
				哺乳綱 Mammalia sp.	種子骨	完形	1	0.2	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	8	1.48	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	10	5.26	被熱
68	N 盛土	O 75	N14	哺乳綱 Mammalia ? non det.	部位不明	fr.	13	2.28	被熱他に微細片
69		O 76	Va層	不明 sp.	部位不明	fr.	1	0.04	被熱
70	N 盛土	O 76	N 5	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ?	距骨 足根骨関節滑車? 内側?	fr.	1	1.41	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	41	5.08	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	10	1.73	被熱他に微細片
71	N 盛土	O 76	N 5	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ?	距骨 足根骨関節滑車? 外側?	fr.	1	1.1	被熱
				哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.67	被熱
72	N 盛土	O 76	N13	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	果骨	fr.	1	1.13	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第2 or 5 指趾 末節骨	完形	1	0.27	被熱
				哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	59	10.56	被熱
73	N 盛土	O 76	N13	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第2 or 5 指趾 中節骨	完形	1	0.66	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	54	6.78	被熱
74	N 盛土	O 76	N14	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.17	被熱
75	N 盛土	O 77	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	4	0.88	被熱
76	N 盛土	O 77	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	42	4.17	被熱 他に微細片
77	N 盛土	O 77	N14	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.1	被熱
78	N 盛土	O 78	N 5	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.18	被熱
79	N 盛土	O 78	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	4	0.51	被熱
80	N 盛土	O 78	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	13	3	被熱
81	N 盛土	O 79	N 5	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.08	被熱
82	N 盛土	O 79	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	0.73	被熱
83	N 盛土	O 80	N 5	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	6	0.06	被熱
84	N 盛土	O 80	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	43	3.42	被熱
85	N 盛土	O 80	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	26	1.6	被熱
86	N 盛土	O 81	N13	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.7	被熱
87	N 盛土	O 81	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	9	0.8	被熱
88	N 盛土	O 81	MT	不明 non det.	部位不明	微細片		0.22	被熱
89	N 盛土	O 82	N32	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.16	被熱
90	N 盛土	P 65	N 1	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.13	被熱
91	N 盛土	P 65	N 2	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	63	7.89	被熱
92	N 盛土	P 66	N 1	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.07	被熱
93	N 盛土	P 66	N 2	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	35	2.62	被熱
94	N 盛土	P 66	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	5	0.42	被熱
95	N 盛土	P 67	N 1	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	18	2.54	被熱
96		P 67	Vb層	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.04	被熱
97	N 盛土	P 68	N 1	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	10	0.74	被熱
98	N 盛土	P 68	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	18	2.38	被熱
99	N 盛土	P 68	N 抗	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	9	0.36	被熱
100	N 盛土	P 69	N 4	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.14	被熱
101		P 70	I・攪乱	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	15	5.64	被熱
102	N 盛土	P 70	N 4	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.23	被熱
103	N 盛土	P 71	N 4	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.14	被熱
104	N 盛土	P 71	N14	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.31	被熱
105	N 盛土	P 72	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	13	1.54	被熱
106	N 盛土	P 72	N14	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	5	0.79	被熱
107		P 72	Vb層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	9	0.1	被熱

No.	遺構名	調査区名	層位	動物遺存体					
				種名	部位	出土部位	数量	重量	備考
108		P 73	V a 層	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.04	被熱
109	N 盛土	P 73	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	4	0.39	被熱
110	N 盛土	P 73	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	14	2.66	被熱
111	N 盛土	P 73	N14	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.43	被熱
112	N 盛土	P 74	N13	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	基節骨	遠位(頭)一部	1	0.38	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	11	1.75	被熱
113	N 盛土	P 74	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	5	1.74	被熱
114	N 盛土	P 74	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	24	3.29	被熱
115	N 盛土	P 74	N14	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	11	1.47	被熱
116		P 74	V b 層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	26	0.31	被熱
117	N 盛土	P 75	N13	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第1手根骨 左	ほぼ完形	1	0.6	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	6	0.61	被熱
118	N 盛土	P 75	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	22	3.45	被熱
119	N 盛土	P 75	N14	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	13	1.22	被熱
120		P 76	V a 層	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.14	被熱
121	N 盛土	P 76	N 5	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中手・中足骨	遠位滑車一部	1	0.29	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	23	3.14	被熱
122	N 盛土	P 76	N13	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第2 or 5 指趾 末節骨	完形	1	0.52	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	12	2.3	被熱
123	N 盛土	P 76	N13	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	尺側手根骨 左	fr.	1	0.56	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第2 or 5 指趾 中節骨	ほぼ完形	1	0.53	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	27	1.9	被熱
124	N 盛土	P 76	N14	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	4	0.84	被熱
125	N 盛土	P 77	N 5	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	41	6.75	被熱
126	N 盛土	P 78	N 3	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	19	3.25	被熱
127	N 盛土	P 79	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	13	2.31	被熱
128	N 盛土	P 83	N31	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.41	被熱
129	N 盛土	Q 65	N 1	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	種子骨	完形	1	0.41	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	5	0.44	被熱
130	N 盛土	Q 65	N 2	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ?	中節骨	近位端?	1	0.48	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	16	1.65	被熱
131	N 盛土	Q 66	N 1	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	5	0.74	被熱
132	N 盛土	Q 66	N 3	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	8	0.32	被熱
133	N 盛土	Q 66	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	4	0.16	被熱
134	N 盛土	Q 67	N 1	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中手・中足骨?	滑車一部?	1	0.84	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	22	2.84	被熱
135	N 盛土	Q 67	N 1	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ?	中手・中足骨?	滑車一部?	1	0.27	被熱
				哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.08	被熱
136	N 盛土	Q 67	N 3	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	82	9.21	被熱
137	N 盛土	Q 67	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	7	0.71	被熱
138		Q 67	V b 層	ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	中節骨	ほぼ完形	1	1.76	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	7	0.32	被熱
139	N 盛土	Q 68	N 1	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.05	被熱
140	N 盛土	Q 68	N 3	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	0.19	被熱
141	N 盛土	Q 68	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	37	4.62	被熱
142		Q 69	I 層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	43	1.89	被熱
143	N 盛土	Q 69	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	15	0.34	被熱
144	N 盛土	Q 69	N 4	哺乳綱 Mammalia sp.	種子骨?	fr.	1	0.38	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	17	0.84	被熱

他に微細片

No.	遺構名	調査区名	層位	動物遺存体					
				種名	部位	出土部位	数量	重量	備考
145	N 盛土	Q 69	N14	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	12	1.35	被熱
146		Q 70	I 層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	67	9.39	被熱
147	N 盛土	Q 70	N14	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.43	被熱
148	N 盛土	Q 71	N14	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	0.13	被熱
149		Q 71	Vb 層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	11	0.76	被熱
150		Q 71	VI 層	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.48	被熱
151	N 盛土	Q 72	N14	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	0.59	被熱
152		Q 75	Va 層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	0.36	被熱
153	N 盛土	Q 75	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	0.62	被熱
154	N 盛土	Q 79	N13	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.07	被熱
155		Q 80	Va 層	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.11	被熱
156	N 盛土	R 60	N 3	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.28	被熱
157	N 盛土	R 65	N 1	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	20	1.92	被熱
158	N 盛土	R 65	N 2	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.51	被熱
159	N 盛土	R 65	N 3	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	56	9.6	被熱
160	N 盛土	R 65	N 4	哺乳綱 Mammalia sp.	中節・基節骨?	遠位(頭)一部	1	0.25	被熱
				哺乳綱 Mammalia sp.	種子骨	完形	1	0.42	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	種子骨	完形	1	0.62	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	踵骨 右	果骨関節面	1	1.12	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	踵骨 右	中心第四趾根骨関節面	1	0.77	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	100	12.48	被熱
161	N 盛土	R 65	N14	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	8	2.05	被熱
162		R 66	I 層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	9	3.2	被熱
163	N 盛土	R 66	N 1	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	120	16.84	被熱
164	N 盛土	R 66	N 3	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	果骨 左	踵骨関節面周辺	1	1	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第 2 or 5 指趾 末節骨	近位(底)一部	1	0.23	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	404	56.65	被熱
165	N 盛土	R 66	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	261	49.99	被熱
166		R 67	I 層	ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	種子骨	ほぼ完形	1	0.95	被熱
				哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.35	被熱
167	N 盛土	R 67	N 1	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	膝蓋骨 右?	fr.	1	0.85	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	11	1.24	被熱
168	N 盛土	R 67	N 3	骨器	骨針	fr.	2	0.26	被熱
				ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	手根骨?	fr.	1	2.05	被熱
				ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	手根骨?	fr.	1	1.69	被熱
				哺乳綱 Mammalia sp.	種子骨	ほぼ完形	1	0.28	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	198	34.65	被熱
				コイ科 Cyprinidae?	頰椎	ほぼ完形	1	0.05	被熱
169	N 盛土	R 67	N 4	サケ科 Salmonidae sp.	顎骨	歯 1 点および歯槽	1	0.05	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	142	21.49	被熱
170	N 盛土	R 67	MT	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	9	1.97	被熱
171		R 67	Vb 層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	14	1.76	被熱
172		R 68	I 層	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.6	被熱
173	N 盛土	R 69	N 3	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	59	8.68	被熱
174	N 盛土	R 68	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	22	3.64	被熱
175	N 盛土	R 68	N13	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中手・中足骨	背側縦溝一部	1	0.28	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	32	4.53	被熱
176		R 69	I 層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	5	1.51	被熱
177	N 盛土	R 69	N 3	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	31	3.13	被熱

No.	遺構名	調査区名	層位	動物遺存体						
				種名	部位	出土部位	数量	重量	備考	
178	N 盛土	R 69	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	48	5.4	被熱	
179	N 盛土	R 69	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	30	3.85	被熱	
180		R 69	トレンチ	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	17	1.03	被熱	
181		R 69	Vb 層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	20	0.56	被熱	
182		R 70	I 層	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.92	被熱	
183	N 盛土	R 70	N 4	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.32	被熱	
184	N 盛土	R 70	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	4	0.42	被熱	
185	N 盛土	R 70	MT	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	11	0.73	被熱	
186	N 盛土	R 71	N14	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.18	被熱	
187	N 盛土	R 73	N10	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	16	0.12	被熱	
188		R 76	Va 層	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.05	被熱	
189	N 盛土	S 60	N 4	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.48	被熱	
190		S 65	I 層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	123	12.18	被熱	
191	N 盛土	S 65	N 1	二ホンジカ <i>Cervus nippon</i>	種子骨	完形	2	1.14	被熱	
				哺乳綱 Mammalia sp.	種子骨	ほぼ完形	1	0.4	被熱	
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	207	31.22	被熱	
192	N 盛土	S 65	N 3	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	142	22.22	被熱	
193	N 盛土	S 65	N 4	二ホンジカ <i>Cervus nippon</i>	基節骨	近位(底)	1	2.13	被熱	
				二ホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中節骨	ほぼ完形	1	4.47	被熱	
				二ホンジカ <i>Cervus nippon</i>	種子骨	完形	1	0.47	被熱	
				二ホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第2 or 5 指趾 末節骨	完形	1	0.48	被熱	
				二ホンジカ <i>Cervus nippon</i>	上腕骨	遠位滑車一部	2	2.47	被熱	
				二ホンジカ <i>Cervus nippon</i>	種子骨	ほぼ完形	1	0.23	被熱	
				二ホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第2・3 手根骨 左	fr.	1	0.66	被熱	
				二ホンジカ <i>Cervus nippon</i>	基節骨	遠位(頭)一部	1	0.55	被熱	
				二ホンジカ <i>Cervus nippon</i>	基節骨	近位(底)一部	1	0.54	被熱	
				二ホンジカ <i>Cervus nippon</i>	末節骨	fr.	1	0.55	被熱	
				イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	中節骨	遊離近位関節面	1	0.2	被熱	
				イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	種子骨	完形	1	0.48	被熱	
				イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	尾椎	近位端	1	0.8	被熱	
				ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	末節骨	遠位端	1	0.27	被熱	
				ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	中節骨	近位(底)一部	1	0.61	被熱	
				ヒグマ <i>Ursus arctos?</i>	末節骨?	近位(底)一部?	1	0.24	被熱	
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	567	94.29	被熱	
194	N 盛土	S 65	N14	二ホンジカ <i>Cervus nippon</i>	基節骨	近位(底)一部	1	0.65	被熱	
				二ホンジカ <i>Cervus nippon</i>	基節骨	遠位(頭)一部	1	0.8	被熱	
				二ホンジカ <i>Cervus nippon</i>	末節骨	近位(底)一部	1	0.36	被熱	
				二ホンジカ <i>Cervus nippon</i>	末節骨	ほぼ完形	1	2.09	被熱	
				イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	基節骨	近位(底)一部	1	1.18	被熱	
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	43	6.36	被熱	
195		S 65	Vb 層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	35	1.82	被熱	
196		S 66	I 層	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.35	被熱	
197	N 盛土	S 66	N 1	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	中手・中足骨	遠位滑車一部	1	0.98	被熱	
				イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax?</i>	末節骨	骨体一部	1	0.96	被熱	
				ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	末節骨	先端一部	1	0.55	被熱	
				哺乳綱 Mammalia sp.	下顎? 齒槽	齒槽一部	1	0.11	被熱	
				哺乳綱 Mammalia sp.	下顎? 齒槽	齒槽一部	1	0.4	被熱	
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	66	26.1	被熱	
198	N 盛土	S 66	N 3	二ホンジカ <i>Cervus nippon</i>	膝蓋骨	fr.	1	3.68	被熱	

同一個体

No.	遺構名	調査区名	層位	動物遺存体					
				種名	部位	出土部位	数量	重量	備考
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中足骨	背側一部	1	0.86	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ?	膝蓋骨	fr.	1	3.28	被熱
				ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	中節骨	近位(底)一部	1	0.25	被熱
				ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	基節骨	遠位(頭)	1	0.67	被熱
				イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i> ?	中手・中足骨	遠位滑車一部	1	0.4	被熱
				イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	踵骨 右	第4足根骨関節面周辺	1	1.9	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	608	99.96	被熱
199	N 盛土	S 66	N 4	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	膝蓋骨 左	fr.	1	0.96	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	517	80.42	被熱
200	N 盛土	S 66	N14	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	5	0.82	被熱
201		S 66	Vb層	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	8	0.93	被熱
202		S 67	Vb層	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	52	3.13	被熱
203	N 盛土	S 67	N 1	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	10	1.1	被熱
204	N 盛土	S 67	N 3	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第2・3足根骨 右	ほぼ完形	1	0.81	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	角	fr.	1	0.71	被熱
				イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	踵骨 左	第4足根骨関節面周辺	1	1.42	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	395	58.61	被熱
205	N 盛土	S 67	N 4	コイ科 <i>Cyprinidae</i> ウグイ属 <i>Triborodon</i> sp.	椎骨	完形	1	0.03	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	膝蓋骨 右	fr.	1	0.56	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中手・中足骨	遠位滑車一部	1	0.28	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	181	25.81	被熱
206		S 67	Vb層	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中足骨	近位端一部	1	0.47	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	30	7.6	被熱
207		S 68	I層	哺乳綱 <i>Mammalia spp.</i>	部位不明	fr.	2	0.53	被熱
208	N 盛土	S 68	N 3	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	18	2.31	被熱
209	N 盛土	S 69	N 3	哺乳綱 <i>Mammalia spp.</i>	部位不明	fr.	2	0.22	被熱
210	N 盛土	S 69	N 4	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	4	1.26	被熱
211	N 盛土	S 69	N 4	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	10	1	被熱
212	N 盛土	S 72	N14	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	7	0.99	被熱
213		S 77	V層	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i>	部位不明	fr.	1	0.62	被熱
214	N 盛土	U 74	N 8	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i>	部位不明	fr.	1	0.11	被熱
215	N 盛土	U 76	N 8	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i>	部位不明	fr.	1	0.85	被熱
216	N 盛土	U 79	N10	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i>	部位不明	fr.	1	0.07	被熱
217	N 盛土	V 78	N10	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i>	部位不明	fr.	1	0.23	被熱
218	N 盛土	W 74	N 8	哺乳綱 <i>Mammalia spp.</i>	部位不明	fr.	2	0.4	被熱
219	N 盛土	W 75	N10	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i>	部位不明	fr.	1	0.06	被熱
220	N 盛土	W 76	N10	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i>	部位不明	fr.	1	0.2	被熱
221	N 盛土	W 77	N 8	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第2・3手根骨 左	fr.	1	0.73	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	脛骨	遠位端一部	1	1.87	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	132	20.28	被熱
222	N 盛土	X 73	N10	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	4	0.76	被熱
223	N 盛土	X 75	N 8	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	13	0.63	被熱
224	N 盛土	X 76	N 8	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	中手・中足骨	遠位滑車	1	0.97	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	10	1.71	被熱
225	N 盛土	X 76	N10	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i>	部位不明	fr.	1	0.29	被熱
226	N 盛土	Y 74	N10	哺乳綱 <i>Mammalia spp.</i>	部位不明	fr.	2	0.09	被熱
227		?	?	哺乳綱 <i>Mammalia spp.</i>	部位不明	fr.	2	0.42	被熱
228	N 盛土	?	N 1	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	14	3.65	被熱
229	N 盛土	?	?	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i>	部位不明	fr.	1	0.1	被熱

キウス4遺跡D・F・G地区出土動物遺存体(平成10年度調査)

No.	遺構名	調査区名	層位	動物遺存体						
				種名	部位	出土部位	数量	重量	備考	
1	F 741	M 74	焼土	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	94	2.23	被熱	
2	F 755	M 75	焼土	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	18	0.15	被熱	
3	F 1038	N 74	焼土	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	34	0.51	被熱	
4	F 1143	N 75	N36	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.18	被熱	
5	F 1250	N 75	覆土1層	サケ科 Salmonidae non det.	椎骨	fr.	28	0.09	被熱	
				サケ科 Salmonidae sp.	脱落歯		1	0.01 >	被熱	
				サケ科 Salmonidae non det.	部位不明	細片	76	0.15	被熱	
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	51	1.05	被熱	
6	P 1158	N 80	覆土	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	6	0.06	被熱	
7		E 60	V層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	20	0.75	被熱 他に微細片	
8		I 78	トレンチ	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.25	被熱	
9	N 盛土	J 76	N26	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	0.22	被熱	
10	N 盛土	J 77	N26	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.21	被熱	
11	N 盛土	K 71	N 4	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.14	被熱	
12	N 盛土	K 72	N 4	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.1	被熱	
13	N 盛土	K 73	N37	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.23	被熱	
14		K 75	III層	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	距骨 左	中心第四足根骨関節滑車内	1	1.5	被熱	
15	N 盛土	K 75	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	倒	7	1.26	被熱	
16	N 盛土	K 75	N 5	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	29	5.49	被熱	
17	N 盛土	K 75	N14	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	0.63	被熱	
18	N 盛土	K 75	N34	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	4	0.69	被熱	
19	N 盛土	K 75	N35	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	61	10.16	被熱	
20	N 盛土	K 76	トレンチ	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	12	1.18	被熱	
21	N 盛土	K 76	N 5	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	34	9.23	被熱	
22	N 盛土	K 76	N14	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax?</i>	第二中手骨	近位端?	1	0.08	被熱	
				哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.08	被熱	
23	N 盛土	K 76	N26	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	8	1	被熱	
24	N 盛土	K 76	N34	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	0.28	被熱	
25	N 盛土	K 76	N35	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	12	1.98	被熱	
26	N 盛土	K 77	N26	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.16	被熱	
27	N 盛土	K 78	N26	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.22	被熱	
28	N 盛土	L 71	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	4	0.48	被熱	
29	N 盛土	L 72	N 4	ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	基節骨	遠位(頭)	1	0.8	被熱	
				ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	基節骨	遠位から骨幹	1	1.74	被熱	
				ニホンジカ <i>Cervus nippon?</i>	末節骨	近位端	1	0.68	被熱	
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	212	37.56	被熱	
30		L 73	I層	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.03	被熱	
31	N 盛土	L 73	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	67	11.82	被熱	
32	N 盛土	L 73	N36	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	0.49	被熱	
33	N 盛土	L 74	N 4	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.14	被熱	
34	N 盛土	L 74	N14	骨器	骨針	fr.	1	0.08	被熱	
				ヒグマ <i>Ursus arctos?</i>	中手・中足骨?	遠位滑車?	1	0.01	被熱	
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	77	12.29	被熱	
35	N 盛土	L 74	N34	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.12	被熱	
36	N 盛土	L 74	N35	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	6	0.65	被熱	
37	N 盛土	L 74	N36	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	末節骨	遠位端	1	0.41	被熱	

No.	遺構名	調査区名	層位	動物遺存体					
				種名	部位	出土部位	数量	重量	備考
				ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	中節骨	近位(底)一部	2	0.42	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	138	17.7	被熱
38		L 75	トレンチ	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	34	6.35	被熱
39	N 盛土	L 75	N 4	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	4	0.81	被熱
40	N 盛土	L 75	N 5	海棲哺乳類 <i>Marine Mammal sp.</i>	前頭骨 左	眼窩口周辺	1	0.59	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	49	7.06	被熱
41	N 盛土	L 75	N14	ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	中節骨	近位(底)一部	1	0.36	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	121	20.91	被熱
42	N 盛土	L 75	N33	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	踵骨 右	中心第四足根骨関節面	1	2.55	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	顎骨	歯槽一部	3	1.84	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i>	肩甲骨	肩甲骨	1	1.04	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	210	36.38	被熱
43	N 盛土	L 75	N34	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	13	2.41	被熱
44	N 盛土	L 75	N35	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	踵骨一部	fr.	1	0.51	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	踵骨 左	中心第四足根骨関節面	1	0.55	被熱
				イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	中手・中足骨	遠位滑車	4	1.76	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	297	54.24	被熱
45	N 盛土	L 75	N36	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	膝蓋骨 左?	fr.	12	5.22	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	種子骨	完形	1	0.5	被熱
				ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	中節骨 or 基節骨	遠位 or 近位	1	0.66	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	270	51.25	被熱
46		L 76	トレンチ	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	46	3.05	被熱
47	N 盛土	L 76	N 5	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	133	26.35	被熱
48	N 盛土	L 76	N14	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	27	4.65	被熱
49	N 盛土	L 76	N26	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	44	8.82	被熱
50	N 盛土	L 76	N33	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	41	6.37	被熱
51	N 盛土	L 76	N34	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	7	1.17	被熱
52	N 盛土	L 76	N35	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	26	5.01	被熱
53	N 盛土	L 77	N 5	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	8	2.45	被熱
54	N 盛土	L 77	N14	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	種子骨	ほぼ完形	1	0.45	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	43	8.87	被熱
55	N 盛土	L 77	N26	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	16	3.56	被熱
56	N 盛土	L 77	N33	ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	中節骨	遠位(頭)一部	1	0.36	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	19	2.84	被熱
57	N 盛土	L 77	N34	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	5	0.74	被熱
58	N 盛土	L 78	N14	哺乳綱 <i>Mammalia spp.</i>	部位不明	fr.	2	0.43	被熱
59	N 盛土	L 78	N26	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	12	2.96	被熱
60	N 盛土	L 78	N34	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	3	1.03	被熱
61	N 盛土	L 80	N26	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	3	0.31	被熱
62	N 盛土	M 70	N 4	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	15	2.19	被熱
63	N 盛土	M 71	N 4	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	14	3.77	被熱
64	N 盛土	M 72	N 4	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	143	22	被熱
65		M 73	トレンチ	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	10	2.63	被熱
66		M 73	Vb層	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i>	部位不明	fr.	1	0.74	被熱
67	N 盛土	M 73	N 4	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	307	46.83	被熱
68	N 盛土	M 73	N36	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	距骨 右	脛骨関節面周辺	1	1.82	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	44	9.73	被熱
69		M 74	トレンチ	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	6	1.95	被熱
70		M 74	Vb層	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i>	部位不明	fr.	1	0.32	被熱

No.	遺構名	調査区名	層位	動物遺存体					
				種名	部位	出土部位	数量	重量	備考
71	N 盛土	M 74	N 4	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	4	1.25	被熱
72	N 盛土	M 74	N14	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	中手・中足骨	遠位端	1	0.66	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	222	35.06	被熱
73	N 盛土	M 74	N36	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中足骨	背側一部	1	0.6	被熱
				ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	中節骨	近位(底)一部	1	0.17	被熱
				哺乳綱 Mammalia sp.	種子骨	ほぼ完形	1	0.33	被熱
				骨器	骨針	fr.	1	0.12	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	377	60.68	被熱
74		M 75	I 層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	13	4.78	被熱
75		M 75	トレンチ	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	末節骨	骨幹	1	0.87	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	49	15.48	被熱
76	N 盛土	M 75	N 5	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	第2 or 5 指趾 基節骨	遊離近位端	1	0.28	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中足骨	背側一部	1	1.01	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	192	50.29	被熱
77	N 盛土	M 75	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	1.41	被熱
78	N 盛土	M 75	N14	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	橈側手根骨	fr.	1	0.77	被熱
				イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i> ?	前頭骨 左	眼窩口周辺	1	1.72	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	軸椎	歯突起	1	1.5	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中足骨	背側一部	1	0.61	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	445	73.18	被熱
79	N 盛土	M 75	N33	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	脛骨 左	遠位内果一部	1	2.66	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中手骨	背側一部	1	0.42	被熱
				哺乳綱 Mammalia sp.	肋骨	骨幹一部	1	1.19	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	75	10.54	被熱
80	N 盛土	M 75	N35	ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	末節骨	近位端から骨幹	1	1.58	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	踵骨 左	果骨関節部	1	0.62	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	踵骨 左	中心第四足根骨関節部	1	0.52	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	上腕骨 左 or 右 ?	遠位滑車外側	1	1.2	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	軸椎	歯突起一部	1	0.67	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	果骨 左	遠位滑車一部	1	0.39	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中手・中足骨	遠位滑車一部	1	0.52	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	踵骨 左	果骨関節部	1	0.9	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中手・中足骨	遠位滑車	1	0.48	被熱
				イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	中手・中足骨	遠位滑車	1	0.48	被熱
				哺乳綱 Mammalia sp.	橈側手根骨 右	fr.	1	0.89	被熱
				哺乳綱 Mammalia sp.	下顎骨	下顎体一部	1	2.32	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	1013	197.98	被熱
81	N 盛土	M 75	N36	哺乳綱 Mammalia sp.	椎骨	前関節突起	1	1	被熱
				ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	中節骨	近位(底)一部	1	0.4	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第1手根骨 左	ほぼ完形	1	0.66	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	653	94.55	被熱
82		M 76	I 層	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	末節骨	近位端	1	0.66	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	6	1.27	被熱
83		M 76	トレンチ	鳥綱 Aves sp.	部位不明	fr.	1	0.17	被熱
				哺乳綱 Mammalia sp.	顎骨	齒槽一部	1	0.21	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	70	5.25	被熱
84	N 盛土	M 76	N 5	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	橈骨 右	遠位端一部	1	0.58	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中手・中足骨	遠位滑車一部	1	0.63	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	437	73.67	被熱
85	N 盛土	M 76	N14	哺乳綱 Mammalia sp.	中節・基節骨	遠位(頭)一部	1	0.25	被熱

No.	遺構名	調査区名	層位	動物遺存体					
				種名	部位	出土部位	数量	重量	備考
86	N 盛土	M 76	N33	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	145	26.04	被熱
				ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	中手・中足骨	遠位滑車	1	0.86	被熱
				イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i> ?	第2中足骨	近位端	1	0.42	被熱
87	N 盛土	M 76	N35	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	27	5.89	被熱
88	N 盛土	M 76	N36	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	0.32	被熱
89		M 77	トレンチ	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	51	3.48	被熱
90	N 盛土	M 77	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	7	1.11	被熱
91	N 盛土	M 77	N 5	ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	基節骨	近位(底)一部	1	2.29	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	67	13.58	被熱
92	N 盛土	M 77	N13	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中足骨	背側一部	1	0.26	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	70	8.87	被熱
93	N 盛土	M 77	N14	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	踵骨 左	果骨関節部一部	1	1.78	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	78	15.43	被熱
94	N 盛土	M 77	N33	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	7	1.42	被熱
95	N 盛土	M 77	N34	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	2	0.53	被熱
96	N 盛土	M 78	N 5	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	8	1.41	被熱
97	N 盛土	M 78	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	19	3.38	被熱
98	N 盛土	M 78	N14	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	基節骨	遠位(頭)一部から骨幹	1	0.31	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	35	6.04	被熱
99	N 盛土	M 78	N26	哺乳綱 Mammalia sp.	種子骨	fr.	1	0.38	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	16	3.35	被熱
100	N 盛土	M 78	N34	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	7	0.86	被熱
101	N 盛土	M 79	N 5	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.82	被熱
102	N 盛土	M 79	N13	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.49	被熱
103	N 盛土	M 79	N26	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	末節骨	fr.	5	2.21	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第2 or 5 指趾 末節骨	完形	1	0.4	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中手・中足骨	遠位滑車一部	1	0.36	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	種子骨	完形	1	0.76	被熱
				イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	基節骨	遠位から骨幹	1	0.13	被熱
哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	204	30.5	被熱	骨端遊離欠損			
104	N 盛土	M 79	N34	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	8	0.93	被熱
105	N 盛土	M 80	N13	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.17	被熱
106	N 盛土	M 81	N26	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.13	被熱
107	N 盛土	M 81	N26	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	3.1	被熱
108	N 盛土	N 68	N 4	ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	末節骨	遠位端から骨幹	1	0.58	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中足骨	背側一部	1	0.61	被熱
				哺乳綱 Mammalia sp.	種子骨	fr.	1	0.36	被熱
哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	21	4.22	被熱				
109	N 盛土	N 69	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	45	9.14	被熱
110	N 盛土	N 70	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	67	10.42	被熱
111	N 盛土	N 71	N 4	小型哺乳綱 Mammalia sp.	下顎骨	齒槽一部	1	0.12	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	66	13.02	被熱
112		N 72	トレンチ	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	5	1.85	被熱
113	N 盛土	N 72	N 4	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中足骨	背側一部	1	0.31	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	70	14.33	被熱
114	N 盛土	N 73	N 4	ホホジロザメ <i>Carcharodon carcharias</i> ?	齒	齒冠破片	7	0.2	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	膝蓋骨 左	膝蓋骨前面一部	1	2.89	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第2 or 5 指趾 末節骨	fr.	1	0.75	被熱

No.	遺構名	調査区名	層位	動物遺存体					
				種名	部位	出土部位	数量	重量	備考
115	N 盛土	N 73	N14	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	第2中足骨	近位端	1	0.54	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	92	14.57	被熱
116	N 盛土	N 73	N36	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ?	第四手根骨? 右?	fr.	1	1.39	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	31	15.99	被熱
117	N 盛土	N 74	I 層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	126	16.57	被熱
118	N 盛土	N 74	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	3	0.08	被熱
119	N 盛土	N 74	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	21	3.71	被熱
120	N 盛土	N 74	N14	コイ科 Cyprinidae ウグイ属 <i>Triborodon</i> sp.	頰椎	fr.	1	0.06	被熱
				イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	踵骨 左	脛骨関節滑車 内側一部	1	0.85	被熱
121	N 盛土	N 74	N36	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	踵骨 右	果骨関節部一部	1	1.22	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	膝蓋骨 右	膝蓋骨前面一部	1	2.55	被熱
122	N 75	I 層	トレンチ	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	311	54.64	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第2 or 5 指趾 末節骨	fr.	1	0.34	被熱
123	N 75	I 層	トレンチ	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第2・3 足根骨 右?	fr.	1	0.95	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	75	13.35	被熱
124	N 盛土	N 75	N13	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.48	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中足骨	背側一部	1	0.66	被熱
125	N 盛土	N 75	N14	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	33	5.04	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	尺骨	滑車切痕一部	1	0.36	被熱
126	N 盛土	N 75	N33	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	橈骨手根骨 右	fr.	1	0.65	被熱
				哺乳綱 Mammalia sp.	椎骨	関節突起	1	1.67	被熱
127	N 盛土	N 75	N35	イヌ科 Canidae sp.	中手・中足骨	遠位滑車	1	0.12	被熱
				イヌ科 Canidae sp.	中節骨	完形	1	0.06	被熱
128	N 盛土	N 75	N36	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	579	104.07	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中手・中足骨	遠位滑車一部	1	0.44	被熱
129	N 76	トレンチ	V 層	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	距骨	脛骨関節滑車内側	1	0.68	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第2 or 5 指趾 末節骨	完形	1	0.27	被熱
130	N 76	V 層	トレンチ	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第2・3 手根骨	fr.	1	0.5	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	下顎骨 左	舌側第三後臼歯齒槽	1	1.98	被熱
131	N 盛土	N 76	N 5	ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	中手・中足骨	遠位滑車	1	1.29	被熱
				哺乳綱 Mammalia sp.	種子骨	fr.	1	0.24	被熱
132	N 盛土	N 76	N 5	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	477	73.7	被熱
				鳥綱 Aves sp.	尺骨	近位端	1	0.14	被熱
133	N 盛土	N 75	N33	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	踵骨 右	中心第四足根骨	1	1.26	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	膝蓋骨 右?	膝蓋骨尖	1	0.76	被熱
134	N 盛土	N 75	N35	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	225	36.82	被熱
				イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i> ?	中節骨?	近位(底)	1	0.86	被熱
135	N 盛土	N 75	N35	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i> ?	中手・中足骨?	遠位滑車?	1	0.52	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中手・中足骨	遠位滑車一部	1	0.23	被熱
136	N 盛土	N 75	N36	哺乳綱 Mammalia sp.	顎骨	齒槽一部	1	0.53	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	429	74.41	被熱
137	N 盛土	N 75	N36	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	基節骨	近位(底)一部	1	0.39	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	369	42.39	被熱
138	N 盛土	N 76	V 層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	21	1.44	被熱
139	N 盛土	N 76	N 5	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	4	0.06	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中手骨	背側一部	1		
140	N 盛土	N 76	N 5	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中足骨	背側一部	1	0.71	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第2・3 手根骨 右	fr.	1	0.51	被熱

No.	遺構名	調査区名	層位	動物遺存体					
				種名	部位	出土部位	数量	重量	備考
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> 哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	距骨 脛骨 左 部位不明	中心第四足根骨内側 内果ヒラメ筋線部 fr.	1 1 346	0.47 1.7 69.26	被熱 被熱 被熱
132	N 盛土	N 76	N13	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i> ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> 哺乳綱 <i>Mammalia spp.</i> 哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	尺側手根骨 右 中手骨 中手骨 種子骨 部位不明	背側一部 底側一部 fr.	1 1 1 2 533	0.7 3.54 0.76 0.88 85.15	被熱 被熱 被熱 被熱 被熱
133	N 盛土	N 76	N14	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> 哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i> 哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	軸椎 橈骨手根骨 右 肩甲骨 部位不明	歯突起 肩甲骨窩 fr.	1 1 1 578	1.35 0.97 0.94 32.3	被熱 被熱 被熱 被熱
134	N 盛土	N 76	N33	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> 哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	中手・中足骨 中足骨 部位不明	遠位滑車一部 背側一部 fr.	1 1 209	0.71 0.42 37.17	被熱 被熱 被熱
135	N 盛土	N 76	N35	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> 哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i> 哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	中手骨 下顎骨 部位不明	底側一部 下顎頭一部 fr.	1 1 139	0.47 0.35 28.57	被熱 被熱 被熱
136		N 77	トレンチ	哺乳綱 <i>Mammalia spp.</i>	部位不明	fr.	2	0.68	被熱
137	N 盛土	N 77	N 5	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i> 哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	種子骨 部位不明	fr.	1 154	0.22 25.11	被熱 被熱
138	N 盛土	N 77	N13	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	22	2.38	被熱
139	N 盛土	N 77	N14	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	292	34.88	被熱
140	N 盛土	N 77	N33	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i> 哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	第2 or 5 中手・中足骨 部位不明	遊離遠位端 fr.	1 22	0.5 3.94	被熱 被熱
141		N 78	トレンチ	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	3	1.11	被熱
142	N 盛土	N 78	N 5	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i> 哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	種子骨 部位不明	fr.	1 74	0.09 12.1	被熱 被熱
143	N 盛土	N 78	N13	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	77	16	被熱
144	N 盛土	N 78	N14	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	62	2.28	被熱
145	N 盛土	N 78	N13	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	9	1.57	被熱
146	N 盛土	N 78	N14	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	78	12.27	被熱
147	N 盛土	N 78	N34	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	9	1.52	被熱
148	N 盛土	N 79	N 5	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	20	3.02	被熱
149	N 盛土	N 79	N13	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i> 哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	第2 or 5 指趾 中節骨 部位不明	完形 fr.	1 fr.	0.38 4.58	被熱 被熱
150	N 盛土	N 79	N26	哺乳綱 <i>Mammalia spp.</i>	部位不明	fr.	2	1.24	被熱
151	N 盛土	N 80	N 5	哺乳綱 <i>Mammalia spp.</i>	部位不明	fr.	2	0.42	被熱
152	N 盛土	N 80	N13	哺乳綱 <i>Mammalia spp.</i>	部位不明	fr.	81	15.46	被熱
153	N 盛土	N 80	N26	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i>	部位不明	fr.	1	0.24	被熱
154	N 盛土	N 81	N13	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	3	0.26	被熱
155	N 盛土	N 81	N26	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	3	0.67	被熱
156	N 盛土	O 67	N 4	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i> ヒグマ <i>Ursus arctos</i> ? 哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	第2 or 5 指趾 中節骨 基節骨 ? 部位不明	完形 遠位(頭) ? fr.	1 1 4	0.54 0.67 1.56	被熱 被熱 被熱
157		O 68	I 層	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i>	部位不明	fr.	1	0.18	被熱
158	N 盛土	O 68	N 4	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i> 哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	種子骨 部位不明	fr.	1 19	0.14 3.73	被熱 被熱
159		O 69	V b 層	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i>	部位不明	fr.	1	0.59	被熱

No.	遺構名	調査区名	層位	動物遺存体					
				種名	部位	出土部位	数量	重量	備考
160	N 盛土	O 69	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	40	6.32	被熱
161		O 70	I 層	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.57	被熱
162	N 盛土	O 70	N 4	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	第2・3 手根骨 左	fr.	1	0.94	被熱
				哺乳綱 Mammalia sp.	種子骨		1	0.37	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	26	6.91	被熱
163	N 盛土	O 71	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	9	1.35	被熱
164		O 72	I 層	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	軸椎	齒突起尖	1	0.74	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	9	31.5	被熱
165	N 盛土	O 72	N 4	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	11	1.76	被熱
166	N 盛土	O 72	N14	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.23	被熱
167		O 73	I 層	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	5	2.2	被熱
168	N 盛土	O 73	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	4	0.89	被熱
169	N 盛土	O 73	N14	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	10	1.89	被熱
170		O 74	I 層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	18	2.77	被熱
171	N 盛土	O 74	N13	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	中手・中足骨	遠位滑車一部	1	1.47	被熱
				哺乳綱 Mammalia sp.	基節骨?	近位(底)?	1	0.86	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	117	23.67	被熱
172	N 盛土	O 74	N14	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	第2 or 5 指趾 中節骨	遊離近位端	1	0.14	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	50	8.23	被熱
173		O 75	I 層	哺乳綱 Mammalia spp.	部位不明	fr.	2	0.38	被熱
174	N 盛土	O 75	N13	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	中手・中足骨	遠位滑車一部	1	0.58	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ?	踵骨	脛骨関節部内側一部	1	1.04	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	199	35.11	被熱
175	N 盛土	O 75	N14	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	47	10.03	被熱
176	N 盛土	O 75	N33	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	25	2.68	被熱
177	N 盛土	O 75	N35	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	32	5.85	被熱
178		O 76	I 層	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	6	1.04	被熱
179		O 76	ベルト	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.11	被熱
180	N 盛土	O 76	N 5	ヒグマ <i>Ursus arctos</i> ?	中節骨	遠位(頭)一部	1	0.14	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ?	踵骨	脛骨関節部内側一部	1	1.26	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	14	3.61	被熱
181	N 盛土	O 76	N13	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	188	30.44	被熱
182	N 盛土	O 76	N14	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	果骨 右		1	0.99	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	59	11.28	被熱
183	N 盛土	O 76	N33	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	18	2.68	被熱
184	N 盛土	O 77	N 5	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	13	2.97	被熱
185	N 盛土	O 77	N13	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i> ?	踵骨	脛骨関節部内側一部	2	2.07	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	56	10.78	被熱
186	N 盛土	O 77	N14	イノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	第2 中足骨 右?	近位端	1	0.34	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	踵骨 左	踵骨隆起一部	1	0.79	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	65	11.72	被熱
187	N 盛土	O 77	N33	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	24	4.87	被熱
188	N 盛土	O 78	N 5	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	18	2.06	被熱
189	N 盛土	O 78	N13	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	果骨 右		1	0.58	被熱
				ヒグマ <i>Ursus arctos</i>	中節骨		5	0.99	被熱
				哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	75	9.27	被熱
190	N 盛土	O 78	N14	哺乳綱 Mammalia sp.	部位不明	fr.	1	0.28	被熱
191		O 79	トレンチ	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	44	4.94	被熱
192	N 盛土	O 79	N 5	哺乳綱 Mammalia non det.	部位不明	fr.	33	3.24	被熱

No.	遺構名	調査区名	層位	動物遺存体					
				種名	部位	出土部位	数量	重量	備考
193	N 盛土	O 79	N13	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	角	fr.	1	0.6	被熱
				ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>	膝蓋骨	fr.	9	3.69	被熱
				哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	84	10.82	被熱
194	N 盛土	O 80	N 5	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	7	1.09	被熱
195	N 盛土	O 80	N13	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	65	8.86	被熱
196	N 盛土	O 81	N 5	哺乳綱 <i>Mammalia sp.</i>	部位不明	fr.	1	0.34	被熱
197	N 盛土	O 81	N13	哺乳綱 <i>Mammalia spp.</i>	部位不明	fr.	2	0.17	被熱
198		排土	?	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	31	1.24	被熱
199		排土	?	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i>	部位不明	fr.	5	3.85	被熱

5 北海道キウス4遺跡F地区出土アスファルトの成分分析

小笠原 正明 / 北海道大学高等教育機能開発総合センター

はじめに

アスファルトは石鏃や土器に付着して出土することが多く、時には塊で出土することもある。縄文時代には接着剤として重要な役割を果たしていた¹⁾。石油起源の有機物の混合物で、産地は東日本の日本海沿岸にある石油鉱床地帯に限られるため、その他の地域で見つかるものはこれらの原産地から持ち込まれたものということになる。複雑な化学組成のため、定量的な分析が可能となったのはごく最近のことで、パラフィン成分のマスペクトルのZ数解析法を開発してからである²⁾。今回その手法を用いて、キウス4遺跡F地区出土のアスファルト塊6点の分析を行った。

実験

各試料につき、少量をとって元素分析を行った。別に約0.6gずつとり、ベンゼン-メタノール混合溶媒に溶かした。ろ過後、液の溶媒部分を減圧蒸留で除き、n-ヘキサンに溶かした。ろ過により不溶分のアスファルテンを除き、減圧蒸留で溶媒を除き、残ったオイル分をHPLCによりパラフィン成分(Fr-P)、1芳香環成分(Fr-M)、2芳香環成分(Fr-D)、極性成分(Fr-PP)に分割した。このうちパラフィン成分について、FI-MS質量分析計によりマスペクトルを得た。

結果と考察

元素分析の結果を表1に示した。C原子数に対するH原子数の比が1を超えているのがアスファルトの特徴とされるが、いずれの試料についても矛盾しない結果が得られた。

マスペクトルの一つを、図1に示した。縦軸がスペクトル強度、横軸が分子量を示している。他の試料のマスペクトルも同様の形状で、分子量400付近にピークが存在し、その前後に広がっており、過去に報告されたアスファルトの場合とよく似ている。スペクトル強度をパラフィン環の数を示すZ数ごとに分割し、 $Z = -6$ (4環)と $Z = -8$ (5環)のスペクトル強度の比をR値として表2に示した。現在分析を終えている2ヶ所の産地の試料との隔たりを示す相対偏差も同表に示した。相対偏差は、試料のR値から産地のR値の平均を引いて標準偏差で割った値で、絶対値が3以上ならば実質的に異なるとみなしてよい。

試料のR値が0.611~0.777と幅広く、相対偏差を見る限り秋田県か新潟県どちらか一方の産地からのみもたらされたものではないことがわかる。現状では北海道の産地についてデータがないため、はっきりとしたことはいえないが、複数の産地からもたらされたと考えるのが妥当である。

謝辞

この研究にご協力いただいた北海道埋蔵文化財センター、北海道大学機器分析センターおよび同大学院工学研究科の宮尾晃氏に感謝します。

参考文献

- 1) 我孫子昭二(1986)「アスファルト」『縄文文化の研究』8:205-222頁、雄山閣
- 2) 小笠原正明(1999)「縄文時代の交易 アスファルトがたどった道」『化学』9月号:28-30頁

表 1 : 各試料の元素分析結果

試料名	図No	図版No	C (%)	H (%)	N (%)	S (%)	H原子数/C原子数
工19553	図168 - 116	図版206	78.19	8.82	1.20	0.72	1.35
工19609	-	-	69.42	7.78	0.98	0.83	1.34
グリッド一括	図168 - 118	図版206	80.38	9.01	1.21	0.77	1.35
工14102	図168 - 119	-	75.41	8.62	1.26	0.77	1.37
工20792	図168 - 117	-	82.93	8.60	1.46	0.71	1.24
工20139	-	-	58.30	6.83	1.04	0.49	1.41

表 2 : 各試料及び産地の R 値と相対偏差

原産地名、遺跡及び試料番号	掲載番号		R 値	相対偏差	
	図No	図版No		新潟県新津市産 試料からの値	秋田県二ツ井産 試料からの値
秋田県二ツ井駒形地区	-	-	0.632 ± 0.036	- 3.386	
新潟県新津市大入地区	-	-	0.837 ± 0.060		5.275
キウス4 遺跡工19553 (No.1)	図168 - 116	図版206	0.648	- 3.121	0.446
同 工19553 (No.2)	図168 - 116	図版206	0.622	- 3.554	- 0.272
同 工19609	-	-	0.777	- 0.986	3.990
同 (グリッド一括)	図168 - 118	図版206	0.678	- 2.624	1.271
同 工14102	図168 - 119	-	0.611	- 3.730	- 0.565
同 工20792	図168 - 117	-	0.731	- 1.754	2.715
同 工20139	-	-	0.641	- 3.237	0.254

網かけ部分は相対偏差 3 以上。

相対偏差は 3 以上ならその産地ではない確立 99.7% 以上。

工19553については大きな塊が 2 つあったのでそれぞれについて分析した。

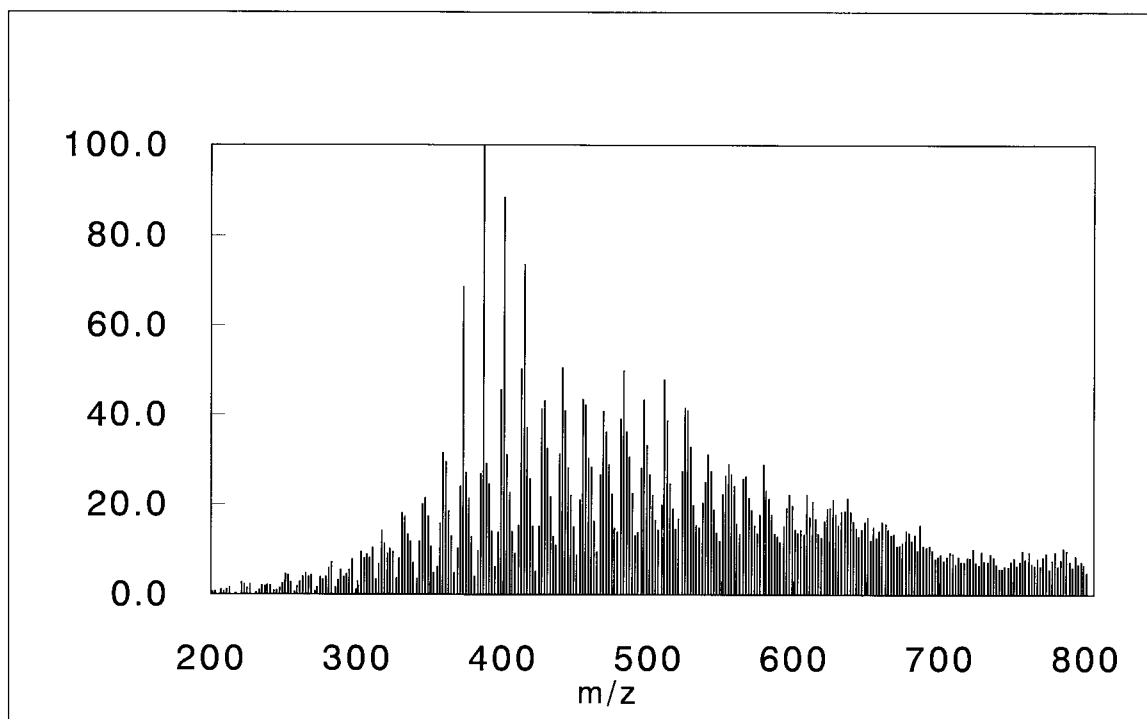


図 1 : キウス4 遺跡 工19609の FI マススペクトル

報告書抄録

ふりがな	きうすよんいせき							
書名	キウス4遺跡(8)							
副書名	北海道横断自動車道(千歳~夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第157集							
編著者名	高橋和樹・藤原秀樹・谷島由貴・土肥研晶・中山昭大・新家水奈・石井淳平							
編集機関	財団法人 北海道埋蔵文化センター							
所在地	〒069 0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL011 386 3231							
発行年月日	西暦 2001年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きうすよんいせき キウス4遺跡	ほっかいどう 北海道 ちとせし 千歳市 ちゅうおう 中央 208 2 他	01224	A 03 92	42° 52 48	141° 42 45	19950904 ~ 19951025 19970506 ~ 19971028 19980506 ~ 19981028	364m ² 3,620m ² 3690m ²	高速道路 建設工事 に伴う事 前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な構造	主な遺物		特記事項		
キウス4遺跡	集落跡	縄文時代 後期	土壙墓 焼土 建物跡 盛土遺構	縄文土器 後期後葉 石器 石鏃 石槍またはナイフ つまみ付きナイフ スクレイパー 石錐 石斧 砥石 たたき石 すり石 土製品 土偶 スタンプ形土製品 土玉・垂飾類 石製品 アスファルト付着 痕ある小礫		盛土遺構の多量の遺物 大型建物群		

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第157集

千歳市 キウス4遺跡(8)

- 北海道横断自動車道(千歳~夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書 -
第1分冊

平成12年3月31日

編集 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒069 0832 江別市西野幌685番地1

T E L (011) 386 3231

印刷 中西印刷株式会社

〒007 0823 札幌市東区東雁来3条1丁目1番34号

T E L (011) 781 7501